

2025
経営学部

SYLLABUS
シラバス

— 授業の内容と計画 —

明 治 大 学

経営学部シラバス

シラバスとは？

シラバス（Syllabus）とは、皆さんが本学部で学習を進めるに当たり、自主的な履修計画の参考として作成しているものです。

この冊子には、本年度に開講する経営学部設置科目の授業の概要・到達目標、授業内容及び成績評価の方法等を記載しています。

皆さんは、この冊子をよく読み、どのような科目を受講するか検討し、履修科目を決定することになります。

本学部の教育目標は、「グローバル経営人材」と「価値創造人材」の育成です。そのために教室内での授業だけではなく、実践・実習教育にも力を入れています。「卒業に必要な単位数」は「経営学部便覧」に記載しているとおりですが、定められた単位を修得するだけではなく、自分の目標・目的を定め、それに沿った学習を心がけてください。

多角的にものごとを見る眼を養い、時代の趨勢を読み解き、自分の人生を切り開くきっかけを掴んでください。

記載項目の説明

科目ナンバー			
科目名 「メディア授業科目」においては、科目名の最後に〔M〕が付きます。			担当者名
単位数	履修開始年次	開講期	開講キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉学問分野や学習項目などを統括的に記載しています。 〈到達目標〉科目を習得することによって学生が身につけることができる知識や素養技術を記載しています。			
2. 授業内容 各回の授業内容を記載しています。			
3. 履修上の注意 履修する上での心構えや注意事項、授業の進め方、語学検定試験スコア条件、前提履修及び同時履修が望ましい科目、他に履修することが望ましい科目等の情報を記載しています。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習や復習についての情報、読んでおくべきテキストなどを記載しています。			
5. 教科書 著者名・書名・出版社の情報を記載しています。			
6. 参考書 書籍・文献リストを記載しています。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 試験やレポート等の課題に対するフィードバックの方法について記載しています。			
8. 成績評価の方法 成績評価基準及び方法について記載しています。			
9. その他 履修上必要な学生への情報を記載しています。			

【経営学部ディプロマ・ポリシー】

2021年4月1日改正

目指すべき人材像

明治大学経営学部は、高度経済成長を目前に控えた1953年に、経営教育の必要性という時代の要請に応え、私学最初の経営学部として創設されました。以来、常に社会を牽引する経営人材を輩出してきました。現在の教育理念は、「グローバル経営人材」と「価値創造人材」の育成です。複眼的視点をもって、ローカルからグローバル、営利から非営利にわたる幅広い経営課題を発見・解決し、新しいビジネス環境の開拓から、日常業務の価値を見いだすことに至るまで、組織体をリードできる「個」の強い人材を養成していきます。

経営学科は、予測が難しい環境のなかでも、革新と創造により、企業をはじめとする経営主体の価値向上を探求できる人材を育成します。

会計学科は、会計というグローバルビジネス言語を用いて組織体の社会的価値を創造・評価することができる人材を育成します。

公共経営学科は、行政組織や公共サービスを担う組織を通して、社会課題を発見・解決できる人材を育成します。

具体的到達目標

経営学部では国内から国際社会まで幅広く活躍できる人材育成のため、以下の能力の獲得を目標にします。

- (1) 高い倫理観とリーダーシップ
- (2) 歴史的・地理的・文化的背景や多様な人間の特性を理解して協働する能力
- (3) 英語・会計・ICTスキル
- (4) 経営に関する理論・知識を理解し、実践する能力
- (5) 多様な環境において課題を発見し、解決する能力

経営学科到達目標

- (6) 経営に関わる諸理論の理解を踏まえ、経営主体・経営資源・経営環境に関する具体的知識・データに基づいて経営課題を発見・分析する能力
- (7) 経営主体・経営資源・経営環境に関してその多様性と普遍的構造を、歴史・地理・文化など多様な視点から理解し、企業の社会的使命の達成と経営課題の解決に向けて主体的・組織的に構想・実践する能力

会計学科到達目標

- (6) 会計の専門用語とデータを適正に用いて、組織体とその事業活動にかかわる人々との円滑なコミュニケーションを図る能力
- (7) 組織体の状況や活動を会計データにもとづいて可視化し、その社会的価値の創造や評価を主導する能力

公共経営学科到達目標

- (6) ローカルからグローバルにわたる社会課題を調査・分析し、営利・非営利、官民を含めた多様な主体の協働による解決策を提示する能力
- (7) 社会課題の解決に有効な公共サービスのマネジメントを理解する能力

3 学科とも、教養科目、外国語科目、学部必修科目、学科専門科目、基礎専門科目、体育実技科目などを履修し、本学学則に定める期間内に在学し、かつ卒業要件単位数を満たした者に学士（経営学）の学位を授与します。

【経営学部カリキュラム・ポリシー】

2023年4月1日改正

教育課程の編成理念

経営学部では「グローバル経営人材」と「価値創造人材」の育成という教育目標を実現するために、知識と体験を有機的に組み合わせることで、多様なビジネス環境に対応できる人材や豊かな人間性を育む教育課程を編成します。

教育課程の構成

教育課程は、教養科目、外国語科目、学部必修科目、学科専門科目、基礎専門科目、体育実技科目などにより構成しています。

1・2年次には広い視野とアカデミック・リテラシーを育成するために、教養分野とリテラシー教育を充実させています。学科には2年次より所属し、専門分野を学びます。1年次には、学部必修科目として、春学期に経営に関する学修を進めるための第一歩となる経営総論を配置し、そして、秋学期に各学科名を冠した経営学、会計学、公共経営学を配置することで、学科選択に資するとともに、各学科での学修を進めるための基礎力を養います。さらに、グローバル経営人材の育成のために英語スキルと英語による専門科目を組み合わせたGREAT (Global Resources English Applied Track)、価値創造人材育成のために課題発見・解決能力を高めるフューチャースキル講座（アクティブラーニング）、公認会計士や税理士資格の取得を目指すトラックなど、主体的・能動的に学べる科目やトラックを配置し、インパクトの高い初年次教育を行います。

また、フィールドスタディやグローバル・サービ斯拉ーニング等による体験学習も4年間を通して履修できるようにして、多様な価値観と実践力を養います。

学部教育の中心的な役割を果たす演習は2年次秋学期からの2年半タイプと3年次からの2年タイプを設置しています。授業で学修したことを活用して、調査研究、プレゼンテーションや論文作成など、総合的な能力を養います。

経営学科は、経営理論、経営管理論、経営組織論、企業論、経営科学、人事労務、経営史に関する科目群を設置しています。

会計学科は、世界に通用する会計および経営に関する知識・スキルを環境・社会・ガバナンスの視点から体系的に修得できる科目群を設置しています。

公共経営学科は、行政経営や、国際協力・スポーツ・健康・福祉などの公共サービスのマネジメントを修得できる科目群を設置しています。

教育課程の特長

(1) 1年次に学部学科教育の内容を理解して、2年次から学科に所属します。

- (2) 学科間の垣根は低く、他学科の講義や演習を履修できるなど、ゆるやかな学科制を採用することで、複眼的思考に優れた人材の育成を図ります。
- (3) 教養教育から各学科の専門教育まで、多様な演習教育を実践しています。
- (4) G R E A Tや学部独自の段階的留学・海外体験プログラムを用意して、国際化を推進しています。
- (5) 机上における知識だけでなく、体験から学ぶことを重視し、フィールドスタディや経営総合講義、グローバル・サービスラーニングなどの科目を設置しています。
- (6) 公認会計士や税理士資格の取得を目指す学生をサポートするトラックを設置しています。
- (7) T O E I CやT O E F Lの学内実施や日商簿記検定の団体受験など、資格取得を推進しています。
- (8) 短期留学プログラム I B P (International Business Program、アメリカ) 及び I S I B M (International Summer Institute of Business Management、カナダ) を実施しています。
- (9) カナダのビクトリア大学とのデュアルディグリー・プログラムを行っています。

—互いの人権を尊重し、ハラスメントのない学部に向けて—

新入生の皆さん、在校生の皆さん、入学・進級を果たされ、それぞれの新しい生活に向け決意を新たにしていることでしょう。

さて皆さんは明治大学の建学の精神を知っていますか。「権利自由」、「独立自治」です。これらは大学の基本姿勢を表現したものです。本学で学び、本学で働いているすべての人々がお互いに「人格を認め合い」、「個人として尊重される」ことは建学の精神の神髄です。言い換えれば、相手の人格を傷つける行為、蔑む行為、すなわちハラスメント行為は、学ぶ権利を奪うことになり、建学の精神を蝕むことです。こうした観点から、明治大学ではあらゆる形の人権侵害とハラスメント行為とは無縁なキャンパスをめざしています。

しかしこの実現は、「言うは易く行ふは難し」の言葉通り、簡単ではありません。学生と教員、職員と教員、学生同士、教員同士、職員同士、多様で複雑な人間関係のなかで知らず知らずのうちに相手を傷つけてしまうことがあるのです。とても残念なことです。経営学部もハラスメントと無縁ではありませんでした。教授会はその度に、目を覆うことなく、正面から受け止め、真剣に議論し、必要な対応をするなど毅然たる姿勢をとってきました。特にこの数年間は多くの時間を割いて議論を重ねてきましたし、研修会ももちました。もちろんまだ万全ではありません。しかし、われわれはあらゆる種類のハラスメントを許さないこと、被害者の立場にたって議論を重ねること、そして被害者の救済のために必要な措置をとること、これまで重視してきたこのような三つの態度を、今後とも、いやこれまで以上に堅持していきたいと考えています。

経営学部の学生の皆さん、皆さんは自分の能力を高めるために日々勉学に励んでいることでしょう。しかし同時に、自立した人間として、社会のルールを守り、互いの人権を尊重し、ハラスメントを「しない、させない、許さない」姿勢が求められています。安心して学ぶことができる快適な環境を形成・維持・発展させるために、以下のように行動して下さい。

1. 学期初めにキャンパス・ハラスメント対策委員会編『ハラスメントのないキャンパスへ』を配布しますので、ぜひ読んで下さい。
2. 互いの人権を認め合い、ハラスメントを「しない、させない、許さない」姿勢を持つだけでなく、第三者としてハラスメントに遭遇したら、見て見ぬふりはしないで下さい。
3. ハラスメントに遭遇したら、ハラスメント対策室や学生相談室、教員、事務室などに速やかに相談して下さい。

明治大学2025年度学年暦

春 学 期		4 月 1 日 (火) ~ 9 月 1 9 日 (金)
入 学 式		4 月 7 日 (月)
学 習 指 導		4 月 1 日 (火) ~ 4 月 9 日 (水)
授 業 期 間		4 月 1 0 日 (木) ~ 7 月 2 2 日 (火)
	前半集中開講科目 (S 1) ※	4 月 1 0 日 (木) ~ 6 月 3 日 (火)
	後半集中開講科目 (S 2) ※	6 月 4 日 (水) ~ 7 月 2 2 日 (火)
臨時休業(休講)日		5 月 1 日 (木) ・ 5 月 2 日 (金)
休日授業実施日①		4 月 2 9 日 (火) [昭 和 の 日]
休日授業実施日②		7 月 2 1 日 (月) [海 の 日]
補 講 日 ①	※土曜日の通常時限を利用	5 月 2 4 日 (土) ・ 5 月 3 1 日 (土)
補 講 日 ②	※土曜日の通常時限を利用	7 月 1 2 日 (土) ・ 7 月 1 9 日 (土)
定 期 試 験	※予備日を含む	7 月 2 3 日 (水) ~ 7 月 3 1 日 (木)
夏 季 休 業		8 月 1 日 (金) ~ 9 月 1 9 日 (金)
秋 季 卒 業 式		9 月 1 9 日 (金)
秋 学 期		9 月 2 0 日 (土) ~ 3 月 3 1 日 (火)
秋 季 入 学 式		9 月 1 9 日 (金)
学 習 指 導		9 月 1 8 日 (木)
授 業 期 間		9 月 2 0 日 (土) ~ 1 月 2 3 日 (金)
	前半集中開講科目 (F 1) ※	9 月 2 0 日 (土) ~ 1 1 月 1 4 日 (金)
	後半集中開講科目 (F 2) ※	1 1 月 1 5 日 (土) ~ 1 月 2 3 日 (金)
休日授業実施日①		9 月 2 3 日 (火) [秋 分 の 日]
休日授業実施日②		1 0 月 1 3 日 (月) [スポーツの日]
休日授業実施日③		1 1 月 2 4 日 (月) [振 替 休 日]
補 講 日 ①	※土曜日の通常時限を利用	1 0 月 1 8 日 (土) ・ 1 0 月 2 5 日 (土)
補 講 日 ②	※全日補講のみ実施	1 月 2 2 日 (木)
補 講 日 ③	※全日補講のみ実施	1 月 2 3 日 (金)
大 学 祭 週 間	※当該期間中は全日休講	1 0 月 2 9 日 (水) ~ 1 1 月 4 日 (火)
明 大 祭		1 1 月 1 日 (土) ~ 1 1 月 3 日 (月)
生 明 祭		1 1 月 1 日 (土) ~ 1 1 月 3 日 (月)
創 立 記 念 祝 日		1 1 月 1 日 (土)
臨時休業(休講)日		1 2 月 2 3 日 (火) ・ 1 2 月 2 4 日 (水)
冬 季 休 業		1 2 月 2 5 日 (木) ~ 1 月 7 日 (水)
創 立 記 念 日		1 月 1 7 日 (土)
定 期 試 験	※予備日を含む	1 月 2 4 日 (土) ~ 2 月 3 日 (火)
春 季 休 業		2 月 4 日 (水) ~ 3 月 3 1 日 (火)
卒 業 式		3 月 2 6 日 (木)

※各学期の前半集中・後半集中開講科目の利用は、一部の授業で7週完結授業を導入する学部に限る。
 ※大学祭週間中の授業休講措置は全キャンパスに適用する。ただし、大学院、専門職大学院において大学祭週間に授業を実施する場合がある。

明治大学2025年度学年暦

全キャンパス共通

【 春 学 期 】

曜日	日	月	火	水	木	金	土
4			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			
5					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
6	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					
7			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
8						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
9		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	

前半集中開講科目【S1】

後半集中開講科目【S2】

前半集中開講科目【F1】

後半集中開講科目【F2】

授業回数

14 14 14 14 14 14

学習指導日

休日

休日授業実施日

定期試験日(予備日を含む)

大学祭週間

※大学祭週間中は全キャンパス休講

【 秋 学 期 】

曜日	日	月	火	水	木	金	土
9							20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				
10				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	
11							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
12							
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			
1					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
2	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
3	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

授業回数

14 14 14 14 14 14

臨時休業(休講)日

土曜通常時限使用補講日

完全補講日(秋学期のみ)

明大祭: 11月1日(土)~11月3日(月)

生明祭: 11月1日(土)~11月3日(月)

経営学部シラバス（2025年度版）目次

シラバスとは？	1
経営学部ディプロマ・ポリシー	2
経営学部カリキュラム・ポリシー	3
—互いの人権を尊重し、ハラスメントのない学部に向けて—	4
学年暦	5
目次	7
I 授業科目一覧	9
II 講義内容	19
1. 学部必修科目	21
2. 教養科目	27
3. 外国語科目	91
4. 体育実技科目	179
5. 実習関連科目	183
6. ICTリテラシー科目	197
7. 演習科目	199
8. 全学共通総合講座	201
9. 経営学科	
会計学科 基礎専門科目	203
公共経営学科	
10. 経営学科専門科目	265
11. 会計学科専門科目	319
12. 公共経営学科専門科目	349
13. 教職専門科目	377
14. カリキュラムの変更について	391
15. カリキュラムマップ	393
授業科目名索引	405

I 授業科目一覽

経営学部授業科目一覧

科目区分	科目名（正式名称）	科目名（英文科目名称）	英語授業 単位数	履修開始年次	本年度開講なし	特記事項
学部必修科目	経営総論	Principles of Business Administration	併設	2	1	2021年度以降入学者
	経営学	Business Management	●	2	1	2021年度以降入学者
	会計学	Accounting	●	2	1	2021年度以降入学者
	公共経営学	Public Management		2	1	2021年度以降入学者
	近代経済学 A	Modern Economics A	併設	2	1	
	近代経済学 B	Modern Economics B	併設	2	1	
教養科目	言語思想 A	Language and Thought A		2	1	
	言語思想 B	Language and Thought B		2	1	
	社会思想／Social Thought	Social Thought	●	2	1	※ 使用言語により科目名称が異なる ※2025年度は日本語使用科目は開講なし
	宗教思想／Religious Thought	Religious Thought	●	2	1	※ 使用言語により科目名称が異なる ※2025年度は英語使用科目は開講なし
	倫理思想 A	Ethical Thought A		2	1	
	倫理思想 B	Ethical Thought B		2	1	
	哲学基礎論	Basic Philosophy		2	3	
	哲学	Philosophy		2	3	
	数学 A	Mathematics A		2	1	
	数学 B	Mathematics B		2	1	
	統計学 A	Statistics A		2	1	
	統計学 B	Statistics B		2	1	
	生物学 A	Biology A		2	1	
	生物学 B	Biology B		2	1	
	物理学 A	Physics A		2	1	
	物理学 B	Physics B		2	1	
	化学 A	Chemistry A		2	1	
	化学 B	Chemistry B		2	1	
	自然科学思想史 A	History of Natural Scientific Thought A		2	1	
	自然科学思想史 B	History of Natural Scientific Thought B		2	1	
	自然人類学	Physical Anthropology		2	1	●
	文化人類学	Cultural Anthropology		2	1	
	生理学 A	Physiology A		2	1	
	生理学 B	Physiology B		2	1	
	健康科学 A	Health Science A		2	1	
	健康科学 B	Health Science B		2	1	
	スポーツ・レジャー・レクリエーション論	Theory of Sports, Leisure and Recreation		2	1	
	現代社会とスポーツ	Modern Society and Sports		2	1	
	トレーニングの科学	Science of Exercise Training		2	1	
	レポート・論文作成法	Academic Writing		2	1	
	言語表現論	Theory of Language Expression		2	1	
	手話コミュニケーション（初級）Ⅰ	Elementary Sign Language Communication I		1	1	
	手話コミュニケーション（初級）Ⅱ	Elementary Sign Language Communication II		1	1	
	手話コミュニケーション（中級）Ⅰ	Intermediate Sign Language Communication I		1	1	●
	手話コミュニケーション（中級）Ⅱ	Intermediate Sign Language Communication II		1	1	●
	外国文学（英米）	Foreign Literature(British and American)	●	2	1	
	外国文学（ドイツ）	Foreign Literature(German)		2	1	
	外国文学（フランス）	Foreign Literature(French)		2	1	
	外国文学（中国）	Foreign Literature(Chinese)		2	1	●
	日本語論 A	Japanese Linguistics A		2	1	
	日本語論 B	Japanese Linguistics B		2	1	
	日本文学 A	Japanese Literature A		2	1	
	日本文学 B	Japanese Literature B		2	1	
	日本文学（現代）	Japanese Literature(Contemporary)		2	3	
	西洋史（総論）	European History(General)		2	1	
	西洋史（各論）	European History(Special Studies)		2	1	
	法学 A	Law A		2	1	
	法学 B	Law B		2	1	
	地理学 A	Geography A		2	1	
	地理学 B	Geography B		2	1	
	政治学 A	Political Science A		2	1	
	政治学 B	Political Science B		2	1	

科目区分	科目名（正式名称）	科目名（英文科目名称）	メディア授業科目	英語授業	単位数	履修開始年次	本年度開講なし	特記事項
教養科目	社会学 A	Sociology A	併設		2	1		
	社会学 B	Sociology B	併設		2	1		
	Global Issues A	Global Issues A		●	2	1		
	Global Issues B	Global Issues B		●	2	1		
	Global Issues C	Global Issues C		●	2	2		
	Global Issues D	Global Issues D		●	2	2		
	心理学	Psychology	●		2	1		
	教養演習 A	Liberal Arts Seminar A			2	1		
	教養演習 B	Liberal Arts Seminar B			2	1		
	外国語教養演習 A /Liberal Arts Seminar in Foreign Languages A	Liberal Arts Seminar in Foreign Languages A		●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
	外国語教養演習 B /Liberal Arts Seminar in Foreign Languages B	Liberal Arts Seminar in Foreign Languages B		●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
	外国語教養演習 C //Liberal Arts Seminar in Foreign Languages C	Liberal Arts Seminar in Foreign Languages C		●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
	外国語教養演習 D //Liberal Arts Seminar in Foreign Languages D	Liberal Arts Seminar in Foreign Languages D		●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
外国語科目	日本事情	Japanese Culture & Society (for international students)		●	2	1		原則として、外国人留学生のみ履修可
	経営総合講義 A	Introduction to Business Management A			2	1		
	経営総合講義 B	Introduction to Business Management B			2	1		
	英語（初級） A	Elementary English A			1	1		①【コミュニケーション英語】 ②【国際教養英語】 ①【GREAT:English for Business Studies I A】 ②【GREAT:Academic Reading and Writing A】
	英語（初級） B	Elementary English B	併設		1	1		①【コミュニケーション英語】 ②【国際教養英語】 ①【GREAT:English for Business Studies I B】 ②【GREAT:Academic Reading and Writing B】
	英語（中級） A	Intermediate English A	併設		1	2		【EM Comprehensive English】 ③【GREAT:English for Business Studies II A】 ④【GREAT:Academic Writing II A】
	英語（中級） B	Intermediate English B	併設		1	2		【EM Comprehensive English】 ③【GREAT:English for Business Studies II B】 ④【GREAT:Academic Writing II B】
	ドイツ語（初級） I	Elementary German I	併設		1	1		a・b
	ドイツ語（初級） II	Elementary German II	併設		1	1		a・b
	ドイツ語（中級） A	Intermediate German A			1	2		指定クラス・選択クラス
	ドイツ語（中級） B	Intermediate German B			1	2		指定クラス・選択クラス
	フランス語（初級） I	Elementary French I			1	1		a・b
	フランス語（初級） II	Elementary French II			1	1		a・b
	フランス語（中級） A	Intermediate French A			1	2		指定クラス・選択クラス
	フランス語（中級） B	Intermediate French B			1	2		指定クラス・選択クラス
	中国語（初級） I	Elementary Chinese I			1	1		a・b
	中国語（初級） II	Elementary Chinese II			1	1		a・b
	中国語（中級） A	Intermediate Chinese A	併設		1	2		指定クラス・選択クラス
	中国語（中級） B	Intermediate Chinese B	併設		1	2		指定クラス・選択クラス
	ロシア語（初級） I	Elementary Russian I			1	1		
	ロシア語（初級） II	Elementary Russian II			1	1		
	ロシア語（中級） A	Intermediate Russian A			1	2		
	ロシア語（中級） B	Intermediate Russian B			1	2		
	韓国語（初級） I	Elementary Korean I			1	1		
	韓国語（初級） II	Elementary Korean II			1	1		
	韓国語（中級） A	Intermediate Korean A			1	2		
	韓国語（中級） B	Intermediate Korean B			1	2		
	日本語（作文・読解） I	Japanese(Composition and Reading) I			1	1		外国人留学生のみ履修可
	日本語（作文・読解） II	Japanese(Composition and Reading) II			1	1		外国人留学生のみ履修可
	日本語（速読・精読） A	Japanese(Rapid Reading and Careful Reading) A			1	2		外国人留学生のみ履修可
	日本語（速読・精読） B	Japanese(Rapid Reading and Careful Reading) B			1	2		外国人留学生のみ履修可
	TOEFL Reading	TOEFL Reading		●	1	1		
	TOEFL Listening	TOEFL Listening		●	1	1		
	TOEFL Speaking	TOEFL Speaking		●	1	1		
	TOEFL Writing	TOEFL Writing		●	1	1		
	TOEFL Preparation A	TOEFL Preparation A		●	1	1		
	TOEFL Preparation B	TOEFL Preparation B		●	1	1		
	English Exam A	English Exam A		●	1	1		

科目区分	科目名（正式名称）	科目名（英文科目名称）	メディア授業科目	英語授業	単位数	履修開始年次	本年度開講なし	特記事項
外国語科目	English Exam B	English Exam B		●	1	1		
	Genres of Writing	Genres of Writing		●	1	1		
	Speech and Debate	Speech & Debate		●	1	1		
	英語スペシャルスタディ A	Special English Study A	●		1	1		
	英語スペシャルスタディ B	Special English Study B	●		1	1		
	英語表現論	English Expression			1	1		
	英語コミュニケーション初級 A	Elementary English Communication A			1	1		
	英語コミュニケーション初級 B	Elementary English Communication B			1	1		
	英語コミュニケーション中級 A	Intermediate English Communication A			1	1		
	英語コミュニケーション中級 B	Intermediate English Communication B			1	1		
	英語コミュニケーション上級 A	Advanced English Communication A			1	1		
	英語コミュニケーション上級 B	Advanced English Communication B			1	1		
	ドイツ語コミュニケーション初級 A	Elementary German Communication A			1	1		
	ドイツ語コミュニケーション初級 B	Elementary German Communication B			1	1		
	ドイツ語コミュニケーション中級 A	Intermediate German Communication A			1	1		
	ドイツ語コミュニケーション中級 B	Intermediate German Communication B			1	1		
	ドイツ語コミュニケーション上級 A	Advanced German Communication A			1	1		
	ドイツ語コミュニケーション上級 B	Advanced German Communication B			1	1		
	フランス語コミュニケーション初級 A	Elementary French Communication A			1	1		
	フランス語コミュニケーション初級 B	Elementary French Communication B			1	1		
	フランス語コミュニケーション中級 A	Intermediate French Communication A			1	1		
	フランス語コミュニケーション中級 B	Intermediate French Communication B			1	1		
	フランス語コミュニケーション上級 A	Advanced French Communication A			1	1		
	フランス語コミュニケーション上級 B	Advanced French Communication B			1	1		
	中国語コミュニケーション初級 A	Elementary Chinese Communication A			1	1		
	中国語コミュニケーション初級 B	Elementary Chinese Communication B			1	1		
	中国語コミュニケーション中級 A	Intermediate Chinese Communication A			1	1		
	中国語コミュニケーション中級 B	Intermediate Chinese Communication B			1	1		
	中国語コミュニケーション上級 A	Advanced Chinese Communication A			1	1		
	中国語コミュニケーション上級 B	Advanced Chinese Communication B			1	1		
	International Business Program (語学研修) A	International Business Program (Language Training) A		●	1	1		International Business Program (実習) A とセット履修
	International Business Program (語学研修) B	International Business Program (Language Training) B		●	1	1		International Business Program (実習) B とセット履修
体育実技科目	体育実技 A	Physical Education A			1	1		
	体育実技 B	Physical Education B			1	1		
	選択体育実技 A	Physical Education Elective A			1	2		
	選択体育実技 B	Physical Education Elective B			1	2		
	学外選択体育実技 A	Outdoor Elective Physical Education A			1	2		
	学外選択体育実技 B	Outdoor Elective Physical Education B			1	2		
実習関連科目	International Business Program (実習) A	International Business Program (Practical) A		●	2	1		International Business Program (語学研修) A とセット履修
	International Business Program (実習) B	International Business Program (Practical) B		●	2	1		International Business Program (語学研修) B とセット履修
	グローバル・サービスラーニング A	Global Service Learning A			2	1		
	グローバル・サービスラーニング B	Global Service Learning B			2	1		
	リサーチ・リテラシー A	Research Literacy A	●		2	1		
	リサーチ・リテラシー B	Research Literacy B			2	1	●	
	フィールドスタディ A	Field Study A			2	1		
	フィールドスタディ B	Field Study B			2	1		
	フィールドスタディ C	Field Study C			2	2		
	フィールドスタディ D	Field Study D			2	2		
	D I G I T 入門演習 I	DIGIT Introductory Seminar I			2	1		
	D I G I T 入門演習 II	DIGIT Introductory Seminar II			2	1		
	D I G I T 実践演習	DIGIT Practical Seminar			2	3		
ICTリテラシー科目	I C T ベーシック	ICT Basic Course	併設		2	1		
	I C T 統計解析入門	ICT Statistical Analysis (Beginner)	併設		2	1		
	I C T 統計解析応用	ICT Statistical Analysis (Applied)	併設		2	1		
	I C T データベース入門	ICT Database (Beginner)	併設		2	1		
	I C T データベース応用	ICT Database (Applied)	併設		2	1		
	I C T 画像編集入門	ICT Image Editing (Beginner)	併設		2	1		
	I C T 画像編集応用	ICT Image Editing (Applied)	併設		2	1		
	I C T 動画編集入門	ICT Video Editing (Beginner)	併設		2	1		
	I C T 動画編集応用	ICT Video Editing (Applied)			2	1		
	I C T 音楽編集入門	ICT Music Editing (Beginner)			2	1		

科目区分	科目名（正式名称）	科目名（英文科目名称）	メディア授業科目	英語授業	単位数	履修開始年次	本年度開講なし	特記事項
ICTリテラシー科目	ICT音楽編集応用	ICT Music Editing (Beginner)			2	1		
	ICTプログラミング入門	ICT Programming (Beginner)	併設		2	1		
	ICTプログラミング応用	ICT Programming (Applied)	併設		2	1		
	ICT Web ページ作成	ICT Web Page Creation	併設		2	1		
	ICT e ラーニングデザイン入門	ICT e-Learning Design (Beginner)			2	1		
	ICT e ラーニングデザイン応用	ICT e-Learning Design (Applied)			2	1		
	ICTプレゼンテーション	ICT Presentation	併設		2	1		
演習科目	演習Ⅰ	SeminarⅠ			2	2		
	演習ⅡA	SeminarⅡA			2	3		
	演習ⅡB	SeminarⅡB			2	3		
	演習ⅢA	SeminarⅢA			2	4		
	演習ⅢB	SeminarⅢB			2	4		
全学共通総合講座	全学共通総合講座A	Interdepartmental Lecture A	併設		2	1		
	全学共通総合講座B	Interdepartmental Lecture B	併設		2	1		
	全学共通総合講座C	Interdepartmental Lecture C	併設		2	1		
	全学共通総合講座D	Interdepartmental Lecture D	併設		2	1		
各学基礎専門科目	簿記論Ⅰ	BookkeepingⅠ	併設		2	1		①2021年度以降入学者：学科基礎専門科目 ②2020年度以前入学者：学部必修科目
	簿記論Ⅱ	BookkeepingⅡ	併設		2	1		①2021年度以降入学者：学科基礎専門科目 ②2020年度以前入学者：学部必修科目
	簿記技能	Bookkeeping Skills			1	1		2021年度以降入学者
	Business Presentation A	Business Presentation A		●	2	3		①2021年度以降入学者：学科基礎専門科目 ②2020年度以前入学者：外国語専門科目
	Business Presentation B	Business Presentation B		●	2	3		①2021年度以降入学者：学科基礎専門科目 ②2020年度以前入学者：外国語専門科目
	ビジネス英語A/Business English A	Business English A		●	2	3		①2021年度以降入学者：学科基礎専門科目 ②2020年度以前入学者：外国語専門科目 使用言語により科目名称が異なる
	ビジネス英語B/Business English B	Business English B		●	2	3		①2021年度以降入学者：学科基礎専門科目 ②2020年度以前入学者：外国語専門科目 使用言語により科目名称が異なる
	Fundamentals of Management A	Fundamentals of Management A		●	2	2		
	Fundamentals of Management B	Fundamentals of Management B		●	2	2		
	Fundamentals of Management C	Fundamentals of Management C		●	2	2		
	Fundamentals of Management D	Fundamentals of Management D		●	2	2		
	Transcultural Business Communication A	Transcultural Business Communication A		●	2	2		
	Transcultural Business Communication B	Transcultural Business Communication B		●	2	2	●	
	Strategic Business Communication A	Strategic Business Communication A		●	2	2		
	Strategic Business Communication B	Strategic Business Communication B		●	2	2		
	経済原論A	Principles of Economics A			2	1		
	経済原論B	Principles of Economics B			2	1		
	ビジネス・エコノミクスA	Business Economics A	●		2	3		
	ビジネス・エコノミクスB	Business Economics B	●		2	3		
	Japanese Economy	Japanese Economy		●	2	1		
	経済史A	Economic History A			2	1		
	経済史B	Economic History B			2	1		
	日本経済史A	Japanese Economic History A			2	1		
	日本経済史B	Japanese Economic History B			2	1		
	経営史A	Business History A			2	1		
	経営史B	Business History B			2	1		
	経営統計学A	Business Statistics A			2	3		
	経営統計学B	Business Statistics B			2	3		
	経営基礎数学A	Basic Mathematics for Management A			2	1		
	経営基礎数学B	Basic Mathematics for Management B			2	1		
	社会調査法	Social Research			2	1		
	経営社会学	Managerial Sociology	●		2	3		
	経営心理学	Managerial Psychology A	●		2	2		
	産業生理学A	Industrial Physiology A			2	3		
	産業生理学B	Industrial Physiology B			2	3		
	経営と環境A	Business Management and the Environment A			2	3		
	経営と環境B	Business Management and the Environment B			2	3		
	経済地理学A	Economic Geography A			2	3		
	経済地理学B	Economic Geography B			2	3		
	マーケティング基礎論	Basic Marketing			2	2		

科目区分	科目名（正式名称）	科目名（英文科目名称）	メディア授業科目	英語授業	単位数	履修開始年次	本年度開講なし	特記事項
各 学 科 基 礎 専 門 科 目	企業の社会的責任論/Corporate Social Responsibility	Corporate Social Responsibility		●	2	3		使用言語により科目名称が異なる
	情報化社会論 A	Information Society A			2	1		
	情報化社会論 B	Information Society B			2	1		
	ネット・ビジネス論 A/ Internet Business A	Internet Business A		●	2	3		使用言語により科目名称が異なる
	ネット・ビジネス論 B/ Internet Business B	Internet Business B		●	2	3		使用言語により科目名称が異なる
	コンテンツ・ビジネス論 A/ Contents Business A	Contents Business A		●	2	3		使用言語により科目名称が異なる
	コンテンツ・ビジネス論 B/ Contents Business B	Contents Business B		●	2	3		使用言語により科目名称が異なる
	戦略経営情報システム論	Strategic Management Information Systems			2	3	●	
	ビジネス法	Business Law			2	1		
	会社法 A	Corporate Law A			2	3		
	会社法 B	Corporate Law B			2	3		
	手形法・小切手法	Bills and Notes Law and Cheques Law			2	3		
	財産法	Property Law			2	3		
	税法	Tax Law			2	3		
	労働法	Labor Law			2	3		
	イギリス文化論	British Culture			2	3		
	アメリカ文化論/American Culture	American Culture		●	2	3	●	使用言語により科目名称が異なる
	ドイツ文化論	German Culture			2	3	●	
	中国文化論	Chinese Culture			2	3		
	東南アジア文化論	Southeast Asian Culture			2	3	●	
	東欧文化論	East European Culture			2	3	●	
	フランス文化論	French Culture			2	3	●	
	海外経営事情 A	Foreign Business Affairs A			2	1		
	海外経営事情 B	Foreign Business Affairs B			2	1		
	海外経営事情 C	Foreign Business Affairs C			2	1		
	海外経営事情 D	Foreign Business Affairs D			2	1		
	経営文献研究 A	Studies in Business Literature A			2	3		
	経営文献研究 B	Studies in Business Literature B			2	3		
	基礎専門演習 A/Core Subjects Seminar A	Core Subjects Seminar A		●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
	基礎専門演習 B/Core Subjects Seminar B	Core Subjects Seminar B		●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
	基礎専門演習 C/Core Subjects Seminar C	Core Subjects Seminar C		●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
	基礎専門演習 D/Core Subjects Seminar D	Core Subjects Seminar D		●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
	基礎専門特別講義 A/ Core Subjects Special Lectures A	Core Subjects Special Lectures A		●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
	基礎専門特別講義 B/ Core Subjects Special Lectures B	Core Subjects Special Lectures B	●	●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
	基礎専門特別講義 C/ Core Subjects Special Lectures C	Core Subjects Special Lectures C		●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
	基礎専門特別講義 D/ Core Subjects Special Lectures D	Core Subjects Special Lectures D	●	●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
経 営 学 科 専 門 科 目	企業論 A	Corporation Theory A			2	2		①2021年度以降入学者：学科専門科目 ②2020年度以前入学者：学科必修科目
	企業論 B	Corporation Theory B			2	2		①2021年度以降入学者：学科専門科目 ②2020年度以前入学者：学科必修科目
	経営管理論 A	Management Theory A	併設		2	2		①2021年度以降入学者：学科専門科目 ②2020年度以前入学者：学科必修科目
	経営管理論 B	Management Theory B	併設		2	2		①2021年度以降入学者：学科専門科目 ②2020年度以前入学者：学科必修科目
	経営哲学 A	Management Philosophy A			2	3		
	経営哲学 B	Management Philosophy B			2	3		
	経営戦略論 A	Management Strategy A			2	3		経営学科・会計学科共同設置
	経営戦略論 B	Management Strategy B			2	3		経営学科・会計学科共同設置
	Innovation Strategy in Japan A	Innovation Strategy in Japan A		●	2	3		
	Innovation Strategy in Japan B	Innovation Strategy in Japan B		●	2	3		
	イノベーション・マネジメント A	Innovation Management A			2	3		
	イノベーション・マネジメント B	Innovation Management B			2	3		
	イノベーション・システム A	Innovation System A			2	3	●	
	イノベーション・システム B	Innovation System B			2	3	●	
	マーケティング・マネジメント A	Marketing Management A			2	3		
	マーケティング・マネジメント B	Marketing Management B			2	3		

科目区分	科目名（正式名称）	科目名（英文科目名称）	メディア授業科目	英語授業	単位数	履修開始年次	本年度開講なし	特記事項
経営学専門科目	グローバル・マーケティング論 A	Global Marketing A			2	3		
	グローバル・マーケティング論 B	Global Marketing B			2	3		
	Strategic Marketing A	Strategic Marketing A		●	2	3		
	Strategic Marketing B	Strategic Marketing B		●	2	3		
	雇用関係論	Employment Relations			2	3		
	労使関係論	Industrial Relations			2	3		
	企業内教育論	In-firm Training			2	3		
	能力開発論	Human Resource Development			2	3		
	中小企業論	Small and Medium-sized Businesses			2	3		経営学科・公共経営学科共同設置
	ベンチャービジネス論	Start-up Enterprise			2	3		経営学科・公共経営学科共同設置
	スタートアップ企業論 A	Startup Enterprise A			2	3	●	
	スタートアップ企業論 B	Startup Enterprise B			2	3	●	
	経営学史 A	History of Management Theories A			2	3		
	経営学史 B	History of Management Theories B			2	3		
	国際経営論 A /International Management A	International Management A		●	2	3		経営学科・会計学科共同設置 使用言語により科目名称が異なる
	国際経営論 B /International Management B	International Management B		●	2	3		経営学科・会計学科共同設置 使用言語により科目名称が異なる
	経営組織論	Organizational Theory			2	3		
	組織行動論	Organizational Behavior			2	3		
	財務管理論	Financial Management			2	3		経営学科・会計学科共同設置
	現代コーポレートファイナンス論	Modern Corporate Finance			2	3		経営学科・会計学科共同設置
	生産管理論 A	Production Management A			2	3	●	
	生産管理論 B	Production Management B			2	3	●	
	人事労務管理論 A	Human Resource Management A			2	3		
	人事労務管理論 B	Human Resource Management B			2	3		
	ナレッジ・マネジメント論	Knowledge Management	●		2	3		
	経営技術論	Technology Management			2	3		
	技術戦略論	Technology Strategy			2	3		
	Strategic Analysis of Japanese Companies A	Strategic Analysis of Japanese Companies A		●	2	3	●	経営学科・会計学科共同設置
	Strategic Analysis of Japanese Companies B	Strategic Analysis of Japanese Companies B		●	2	3	●	経営学科・会計学科共同設置
	経営情報論	Information System in Management			2	3	●	
	リスクマネジメント論	Risk Management			2	3	●	
	経営文化論 A	Business Culture A			2	3		
	経営文化論 B	Business Culture B			2	3		
	国際経営史 A	History of International Business A			2	3		
	国際経営史 B	History of International Business B			2	3		
	日本経営論 A	Japanese Management A			2	3		
	日本経営論 B	Japanese Management B			2	3		
	日本経営史	Japanese Business History			2	3		
	日本企業者史	Japanese Entrepreneurial History			2	3		
	Comparative Business Management A	Comparative Business Management A		●	2	3	●	
	Comparative Business Management B	Comparative Business Management B		●	2	3	●	
	比較経営論（アメリカ）A	Comparative Management(America) A			2	3		経営学科・会計学科共同設置
	比較経営論（アメリカ）B	Comparative Management(America) B			2	3		経営学科・会計学科共同設置
	比較経営論（西欧）A	Comparative Management(Western Europe) A			2	3		
	比較経営論（西欧）B	Comparative Management(Western Europe) B			2	3		
	比較経営論（ロシア・東欧）A	Comparative Management(Russia and Eastern Europe) A			2	3		
	比較経営論（ロシア・東欧）B	Comparative Management(Russia and Eastern Europe) B			2	3		
	比較経営論（中国）A	Comparative Management(China) A			2	3		
	比較経営論（中国）B	Comparative Management(China) B			2	3		
	Transcultural Management A	Transcultural Management A		●	2	3		
	Transcultural Management B	Transcultural Management B		●	2	3		
	経営学外国書講読 A	Business Management Reading in Foreign Languages A		●	2	3		①2021年度以降入学者：経営学科専門科目 ②2020年度以前入学者：外国語専門科目
	経営学外国書講読 B	Business Management Reading in Foreign Languages B		●	2	3		①2021年度以降入学者：経営学科専門科目 ②2020年度以前入学者：外国語専門科目
	経営学特別講義 A /Special Lectures on Business Management A	Special Lectures on Business Management A		●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
	経営学特別講義 B /Special Lectures on Business Management B	Special Lectures on Business Management B		●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
	経営学特別講義 C /Special Lectures on Business Management C	Special Lectures on Business Management C		●	2	3		使用言語により科目名称が異なる
	経営学特別講義 D /Special Lectures on Business Management D	Special Lectures on Business Management D		●	2	3		使用言語により科目名称が異なる

科目区分	科目名（正式名称）	科目名（英文科目名称）	メディア授業科目	英語授業	単位数	履修開始年次	本年度開講なし	特記事項
経営学専門科目	Information Ethics A (GSBA)	Information Ethics A (GSBA)	●	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	Information Ethics B (GSBA)	Information Ethics B (GSBA)	●	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	Information Science A (GSBA)	Information Science A (GSBA)	●	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	Information Science B (GSBA)	Information Science B (GSBA)	●	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	E Commerce A (GSBA)	E Commerce A (GSBA)	●	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	E Commerce B (GSBA)	E Commerce B (GSBA)	●	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	The Future of E Business A (GSBA)	The Future of E Business A (GSBA)	●	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	The Future of E Business B (GSBA)	The Future of E Business B (GSBA)	●	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	Organizational Behavior A (GSBA)	Organizational Behavior A (GSBA)	●	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	Organizational Behavior B (GSBA)	Organizational Behavior B (GSBA)	●	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	Strategic Management A (GSBA)	Strategic Management A (GSBA)	●	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	Strategic Management B (GSBA)	Strategic Management B (GSBA)	●	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	Transnational Management A (GSBA)	Transnational Management A (GSBA)		●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	Transnational Management B (GSBA)	Transnational Management B (GSBA)		●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	Human Resource Management A (GSBA)	Human Resource Management A (GSBA)	●	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Human Resource Management B (GSBA)	Human Resource Management B (GSBA)	●	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	Family Business A (GSBA)	Family Business A (GSBA)	●	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	Family Business B (GSBA)	Family Business B (GSBA)	●	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	International Marketing A (GSBA)	International Marketing A (GSBA)	●	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	International Marketing B (GSBA)	International Marketing B (GSBA)	●	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	Service Marketing A (GSBA)	Service Marketing A (GSBA)	●	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	Service Marketing B (GSBA)	Service Marketing B (GSBA)	●	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	Corporate Finance A (GSBA)	Corporate Finance A (GSBA)	●	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Corporate Finance B (GSBA)	Corporate Finance B (GSBA)	●	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Investments A (GSBA)	Investments A (GSBA)		●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Investments B (GSBA)	Investments B (GSBA)		●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
会計学専門科目	財務会計総論 A	Introduction to Financial Accounting A			2	2		①2021年度以降入学者：会計学科専門科目 ②2020年度以前入学者：学科必修科目
	財務会計総論 B	Introduction to Financial Accounting B			2	2		①2021年度以降入学者：会計学科専門科目 ②2020年度以前入学者：学科必修科目
	管理会計総論 A	Introduction to Management Accounting A	●		2	2		①2021年度以降入学者：会計学科専門科目 ②2020年度以前入学者：学科必修科目
	管理会計総論 B	Introduction to Management Accounting B	●		2	2		①2021年度以降入学者：会計学科専門科目 ②2020年度以前入学者：学科必修科目
	中級簿記論	Intermediate Bookkeeping			2	2		
	上級簿記論	Advanced Bookkeeping			2	2		
	財務諸表論 A	Theory of Financial Statements A			2	3		
	財務諸表論 B	Theory of Financial Statements B			2	3		
	現代会計基準論 A	Accounting Standards A			2	3		
	現代会計基準論 B	Accounting Standards B			2	3		
	監査論 A	Auditing A			2	3		
	監査論 B	Auditing B			2	3		
	国際財務報告論 A	International Financial Reporting Theory A			2	3		
	国際財務報告論 B	International Financial Reporting Theory B			2	3		
	英文会計	Accounting in English			2	3	●	
	Basic Accounting A	Basic Accounting A		●	2	1		
	Basic Accounting B	Basic Accounting B		●	2	1		
	Financial Accounting A	Financial Accounting A		●	2	3		
	Financial Accounting B	Financial Accounting B		●	2	3		
	原価計算論 I	Cost Accounting I	併設		2	1		
	原価計算論 II	Cost Accounting II	併設		2	1		
	原価管理論 A	Cost Management A			2	3		
	原価管理論 B	Cost Management B			2	3		
	マネジメント・コントロール A	Management Control A			2	3	●	
	マネジメント・コントロール B	Management Control B			2	3	●	
	Management Accounting A	Management Accounting A	●	●	2	3		
	Management Accounting B	Management Accounting B	●	●	2	3		
	経営分析論 A	Financial Statement Analysis A			2	3	●	
	経営分析論 B	Financial Statement Analysis B			2	3	●	
	会計情報システム論 A	Accounting Information Systems A			2	3	●	
	会計情報システム論 B	Accounting Information Systems B			2	3	●	
	環境会計論 A	Environmental Accounting A			2	3		
	環境会計論 B	Environmental Accounting B			2	3		
	税務会計論 A	Accounting for Taxation A			2	3		
	税務会計論 B	Accounting for Taxation B			2	3		

科目区分	科目名（正式名称）	科目名（英文科目名称）	メディア授業科目	英語授業	単位数	履修開始年次	本年度開講なし	特記事項
会計学専攻科目	公会計論	Public Accounting			2	3		会計学科・公共経営学科共同設置
	NPO会計論	NPO Accounting			2	3		会計学科・公共経営学科共同設置
	会計史A	Accounting History A			2	3		
	会計史B	Accounting History B			2	3		
	法人税法A	Corporation Tax Act A			2	3		
	法人税法B	Corporation Tax Act B			2	3		
	会計学外国語講読A	Accounting Reading in Foreign Languages A		●	2	3		①2021年度以降入学者：会計学科専門科目 ②2020年度以前入学者：外国語専門科目
	会計学外国語講読B	Accounting Reading in Foreign Languages B		●	2	3		①2021年度以降入学者：会計学科専門科目 ②2020年度以前入学者：外国語専門科目
	会計プロセミナーA	Professional Seminar on Accounting A			2	1		
	会計プロセミナーB	Professional Seminar on Accounting B			2	1	●	
	会計プロセミナーC	Professional Seminar on Accounting C	●		2	1		
	会計プロセミナーD	Professional Seminar on Accounting D			2	1	●	
	会計学特別講義A	Special Lectures on Accounting A			2	1		
	会計学特別講義B	Special Lectures on Accounting B			2	1	●	
	会計学特別講義C	Special Lectures on Accounting C			2	1	●	
	会計学特別講義D	Special Lectures on Accounting D			2	1		
	経営戦略論A	Management Strategy A			2	3		経営学科・会計学科共同設置
	経営戦略論B	Management Strategy B			2	3		経営学科・会計学科共同設置
	国際経営論A / International Management A	International Management A		●	2	3		経営学科・会計学科共同設置 使用言語により科目名称が異なる
	国際経営論B / International Management B	International Management B		●	2	3		経営学科・会計学科共同設置 使用言語により科目名称が異なる
	財務管理論	Financial Management			2	3		経営学科・会計学科共同設置
	現代コーポレートファイナンス論	Modern Corporate Finance			2	3		経営学科・会計学科共同設置
	Strategic Analysis of Japanese Companies A	Strategic Analysis of Japanese Companies A		●	2	3	●	経営学科・会計学科共同設置
	Strategic Analysis of Japanese Companies B	Strategic Analysis of Japanese Companies B		●	2	3	●	経営学科・会計学科共同設置
	比較経営論（アメリカ）A	Comparative Management(America) A			2	3		経営学科・会計学科共同設置
	比較経営論（アメリカ）B	Comparative Management(America) B			2	3		経営学科・会計学科共同設置
	Corporate Finance A（GSBA）	Corporate Finance A（GSBA）	●	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Corporate Finance B（GSBA）	Corporate Finance B（GSBA）	●	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Investments A（GSBA）	Investments A（GSBA）		●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Investments B（GSBA）	Investments B（GSBA）		●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Advanced Financial Accounting A（GSBA）	Advanced Financial Accounting A（GSBA）	●	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	Advanced Financial Accounting B（GSBA）	Advanced Financial Accounting B（GSBA）	●	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	Financial Statement Analysis A（GSBA）	Financial Statement Analysis A（GSBA）	●	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	Financial Statement Analysis B（GSBA）	Financial Statement Analysis B（GSBA）	●	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
公共経営学専攻科目	行政経営論	Administrative Management			2	2		
	行政経営戦略論	Administrative Strategy			2	3		
	Introduction to Public Management	Introduction to Public Management		●	2	3		
	Social Impact Investment	Social Impact Investment		●	2	3	●	
	Business for Social Impact	Business for Social Impact		●	2	3	●	
	公共思想論	Public Philosophy			2	2		
	公共歴史論	History of the Public			2	2		
	公共表現行為論	Representation of Publicness			2	2		
	生活文化論	Life Culture			2	2		
	地域公共論	Regional Management and Society			2	2		
	情報公共論	Information Technology and Public Sector			2	2	●	
	現代健康論	Health and Disease			2	2		
	住まいと仕事の地理学	Geography on Housing and Work			2	2		
	公共セクター経済論	Public Sector Economics			2	3		
	公共マーケティング論	Public Sector Marketing			2	3		
	社会会計論	Social Accounting			2	3		
	非営利組織論	Nonprofit Organization			2	3	●	
	社会的企業論	Social Enterprise			2	3		
	中小企業論	Small and Medium-sized Businesses			2	3		経営学科・公共経営学科共同設置
	ベンチャービジネス論	Start-up Enterprise			2	3		経営学科・公共経営学科共同設置
	NPO経営戦略論	NPO Management Strategy			2	3		
	ソーシャル・ファイナンス論	Social Finance			2	3		
	サステナブル投資論	Sustainable Investment			2	3	●	
	NPO会計論	NPO Accounting			2	3		会計学科・公共経営学科共同設置
	協同組合学	Cooperative Associations			4	3		
	公益事業論	Public Utilities			2	3		
	公共ガバナンス論A	Public Governance A			2	3		

科目区分	科目名（正式名称）	科目名（英文科目名称）	メディア授業科目	英語授業	単位数	履修開始年次	本年度開講なし	特記事項
公共経営学科専門科目	公共ガバナンス論 B	Public Governance B			2	3		
	行政評価論	Public Sector Evaluation			2	3	●	
	自治体財政分析論	Local Government Financial Analysis			2	3	●	
	地方財政論	Local Government Finance			4	3		
	地域活性化論（講義）A	Community Development (Lecture) A			2	2		地域活性化論（実習）Aとセット履修
	地域活性化論（講義）B	Community Development (Lecture) B			2	2		地域活性化論（実習）Bとセット履修
	地域活性化論（実習）A	Community Development (Practical) A			2	2		地域活性化論（講義）Aとセット履修
	地域活性化論（実習）B	Community Development (Practical) B			2	2		地域活性化論（講義）Bとセット履修
	公共交通と地域社会	Public Transportation and Communities			2	3		
	観光事業論 A	Tourism Industry A			2	3		
	観光事業論 B	Tourism Industry B			2	3		
	ツーリズム・マネジメント A / Tourism Management A	Tourism Management A		●	2	2		使用言語により科目名称が異なる
	ツーリズム・マネジメント B / Tourism Management B	Tourism Management B		●	2	2		使用言語により科目名称が異なる
	公会計論	Public Accounting			2	3		会計学科・公共経営学科共同設置
	国際開発論/International Development	International Development		●	2	3		使用言語により科目名称が異なる
	国際協力 N G O 論	NGO's International Cooperation			2	3		
	ライフスタイル・マネジメント論	Life-style Management			2	3		
	福祉マネジメント論	Welfare Management			2	3		
	医療マネジメント論	Medical Management			2	3		
	自治体マネジメント論	Local Government Management			2	3		
	スポーツ・マネジメント論	Sports Management			2	3		
	スポーツマーケティング論	Sports Marketing			2	3		
	アウトドア組織マネジメント論	Outdoor Organization Management			2	3		
	公共経営学外国語講読 A	Public Management Reading in Foreign Languages A		●	2	3		①2021年度以降入学者：公共経営学科専門科目 ②2020年度以前入学者：外国語専門科目
	公共経営学外国語講読 B	Public Management Reading in Foreign Languages B		●	2	3		①2021年度以降入学者：公共経営学科専門科目 ②2020年度以前入学者：外国語専門科目
	公共経営学特別講義 A	Special Lectures on Public Management A			2	1	●	
	公共経営学特別講義 B	Special Lectures on Public Management B			2	1	●	
	公共経営学特別講義 C	Special Lectures on Public Management C			2	1	●	
	公共経営学特別講義 D	Special Lectures on Public Management D			2	1		
教職専門科目	日本史概論	Introduction to Japanese History			2	1		教職課程履修者対象
	東洋史概論	Introduction to Eastern History			2	1		教職課程履修者対象
	西洋史概論	Introduction to Western History			2	1		教職課程履修者対象
	地誌学概論	Introduction to Topography			2	1		教職課程履修者対象
	人文地理学概論	Introduction to Human Geography			2	1		教職課程履修者対象
	自然地理学概論	Introduction to Physical Geography			2	1		教職課程履修者対象
	法律学概論	Introduction to Law			2	1		教職課程履修者対象
	哲学概論	Introduction to Philosophy			2	1		教職課程履修者対象
	倫理学概論	Introduction to Ethics			2	1		教職課程履修者対象
	職業指導	Vocational Guidance			2	1		教職課程履修者対象
	日本国憲法	The Constitution of Japan			2	1		教職課程履修者対象

II 講義内容

1 学部必修科目

科目ナンバー：(BA)MAN191J			
経営総論（統一）			
早川佐知子・鳥居陽介・森田広大			
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 経営学・公共経営学・会計学を初めて学ぶ学生に、それぞれの学科領域の基礎的な事項を体系的に概説し、入門的な学習をスタートさせる。 【到達目標】 秋学期の経営学・公共経営学・会計学の学習へと進むための基礎的な知識と学習方法を習得する。			
2. 授業内容 各分野の授業内容は、以下の通りです。クラスによって学習の順番が異なるため、第1回授業で確認すること。 【各分野の授業内容】 経営①経営と企業 経営②革新（イノベーション）と経営戦略 経営③管理（マネジメント） 経営④組織 公共経営①公共経営学の基礎 公共経営②ウェルフェア・ミックス 公共経営③多様なセクターの連携・協働 公共経営④多様な公共経営の分野 会計①会計との歴史 会計②会計とマネジメント 会計③会計とディスクロージャー 会計④会計とファイナンス 【授業計画】 第1回 イントロダクション 第2回～5回 各分野の授業（クラス別） 第6回～9回 各分野の授業（クラス別） 第10回～第13回 各分野の授業（クラス別） 第14回 まとめ 【学習順】 クラスA：経営分野→公共経営分野→会計分野 クラスB：会計分野→経営分野→公共経営分野 クラスC：公共経営分野→会計分野→経営分野			
3. 履修上の注意 この科目は1年生春学期の学部必修科目です。3つの対面クラス（対面授業科目）と1つのオンラインクラス（メディア授業科目）に分かれており、全ての対面クラスの1年生は受講するクラスがあらかじめ指定されています。メディア授業科目の対象者は、再履修学生です。 【質問・相談について】 各クラスには、各分野の授業を担当する授業担当教員と、最終的に成績評価を行うクラス担当教員がいますが、授業内容に関する質問はもちろん、病欠や忌引きなど個別に相談をしたい場合、基本的には授業担当教員に行ってください。 対面クラスでは教室にて直接受け付けます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習を行う必要はありません。毎回の授業に参加し、そこで示される資料を確認しながら授業後に復習し、内容の理解・定着・向上に努めてください。			
5. 教科書 教科書はありません。経営学部教員が作成したオリジナルの教材を用いて授業を進めます。			
6. 参考書 各回の授業で、必要に応じて参考書を示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 対面クラスで出題される課題については、授業内に解説いたします。			
8. 成績評価の方法 各分野33点満点（会計分野は34点満点）の定期試験100%で評価します。 ＊対面クラスにおいては、分野ごとに定期試験受験の前提となる課題を出題する場合がありますので、各分野の教員の説明をしっかりと確認すること。 ＊対面クラスの定期試験は対面形式で実施します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN196J			
経営総論〔M〕 【特設】			
石塚史樹・早川佐知子・平屋伸洋			
2 単位	1 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 経営学・公共経営学・会計学を初めて学ぶ学生に、それぞれの学科領域の基礎的な事項を体系的に概説し、入門的な学習をスタートさせる。 【到達目標】 秋学期の経営学・公共経営学・会計学の学習へと進むための基礎的な知識と学習方法を習得する。			
2. 授業内容 各分野の授業内容は、以下の通りです。クラスによって学習の順番が異なるため、第1回授業で確認すること。 オンラインクラス（メディア授業科目）は14回全てをオンデマンド型で実施します。 【各分野の授業内容】 経営①経営と企業 経営②革新（イノベーション）と経営戦略 経営③管理（マネジメント） 経営④組織 公共経営①公共経営学の基礎 公共経営②ウェルフェア・ミックス 公共経営③多様なセクターの連携・協働 公共経営④多様な公共経営の分野 会計①会計との歴史 会計②会計とマネジメント 会計③会計とディスクロージャー 会計④会計とファイナンス 【授業計画】 第1回 イントロダクション〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回～5回 各分野の授業（クラス別）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回～9回 各分野の授業（クラス別）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回～第13回 各分野の授業（クラス別）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 【学習順】 経営分野→公共経営分野→会計分野			
3. 履修上の注意 この科目は1年生春学期の学部必修科目です。 メディア授業科目の対象者は、再履修学生です。これらの学生への毎回の授業資料は、火曜日1限を目途にアップいたしますので、そちらを確認してください。 【質問・相談について】 各クラスには、各分野の授業を担当する授業担当教員と、最終的に成績評価を行うクラス担当教員がいますが、授業内容に関する質問はもちろん、病欠や忌引きなど個別に相談をしたい場合、基本的には授業担当教員に行ってください。 オンラインクラスではOh-olMeijiの「アンケート」機能を用いて受け付けます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習を行う必要はありません。毎回の授業に参加し、そこで示される資料を確認しながら授業後に復習し、内容の理解・定着・向上に努めてください。			
5. 教科書 教科書はありません。経営学部教員が作成したオリジナルの教材を用いて授業を進めます。			
6. 参考書 各回の授業で、必要に応じて参考書を示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 オンラインクラスで出題される課題については、Oh-olMeiji上に採点結果を掲示する予定です。			
8. 成績評価の方法 オンラインクラス：各分野で出題される動画に関するクイズやリアクションペーパー等の提出やオンライン試験（経営分野33%、公共経営分野33%、会計分野34%）で評価します。 ＊オンラインクラスでの動画に関するクイズやリアクションペーパーは、分野によって出題方法や成績評価対象とするかどうかなど、対応が異なる場合がありますので、各分野担当教員からの説明をしっかりと確認すること。 ＊オンラインクラスの定期試験はオンラインにて実施します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN191J			
経営学（統一） 【2021年度以降入学者対象】			
石塚史樹・宮田憲一・古川裕康・趙トウ基			
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 経営学という学問領域は、多様なテーマ領域から構成されていますが、それらは、企業の内部について主に学んでいく経営管理論系と、社会などの外部と企業との関係を中心に考えていく企業論系に大きく分けられます。経営管理論系とは、経営者が企業や組織をどのように運営していったらいいのかに関わる学問領域です。具体的には、マーケティングや生産管理、人事労務管理、組織行動、財務管理、経営戦略、経営組織などの領域から成り立っています。一方、企業論系とは、経営者や企業が社会において果たす役割に関わる学問領域です。例えば、法律と会社形態、コーポレート・ガバナンス、企業家論、ベンチャー企業や中小企業論、経営史、国際経営、労使関係やCSRといった領域から成り立っています。 この講義では、春学期の初歩的な経営学の学習をふまえて、2年生以降の専門的な学習に向けて、経営学の主要テーマに関する基礎的な知識を学びます。具体的には、「経営総論」3パートのうちの「経営」パートで学んだ、4つの大きなテーマである「経営と企業」、「革新と戦略」、「管理「組織」を、それぞれ3回に分けて、事例を用いながら、関連する専門領域の基本的な理論や考え方とともに深く理解していきます。 【到達目標】 ☐ 企業や組織を運営・管理するための体系、および関連する理論と実践課題を理解し、基本的な概念を用いて企業経営や企業活動について論理的に説明することができる。 ☐ 各専門領域の基本概念や理論と具体的な事例との関係を理解し、具体と抽象を行き来する思考力を養う。 ☐ 2年生以降のゼミや専門科目を履修するための基本的な知識を身につけ、様々なテーマからなる経営学という学問領域の中で、自分が興味・関心をもつ専門領域をみつける。			
2. 授業内容 【イントロダクション】 第01回：序論と「経営と企業」〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ☐ 経営総論の復習、授業全体の目的と概要について解説します。 【テーマ1：会社と企業】 第02回：企業の性格と種類〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ☐ 企業形態（会社の種類）や、そのなかでも代表的な株式会社の特徴について学ぶとともに、「所有と経営」、コーポレート・ガバナンスの基本について解説します。 第03回：世界と日本の企業〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ☐ まず、世界の大企業を紹介したうえで、そのなかでの日本の大企業の位置づけを確認します。そのうえで、なぜ企業は大きくなるのか、また進化する中小企業の特徴などについて学びます。 【テーマ2：イノベーションと戦略】 第04回：経営革新〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ☐ 企業が進化する際の必要条件というべき革新（イノベーション）の概念や基本的理論を事例とともに学びます。 第05回：経営戦略〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ☐ 企業が競争優位を獲得するうえで必要な経営戦略について、戦略の体系、戦略の策定・実行の過程、戦略のタイプなどについて学びます。 第06回：マーケティング〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ☐ 市場（消費者）を強く意識した戦略というべきマーケティングについて、その定義、4Pなどの基本的考え方を身近な事例を通じて学びます。 【テーマ3：モノづくりのマネジメント】 第07回：モノづくりのマネジメント〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ☐ 質の良いモノを効率的につくるためには、合理的なマネジメントの手法が必要になります。また、漸次、その手法を向上させてゆく継続的な営みも必要です。そうしたモノづくりの手法に関して学びます。 第08回：人事労務管理〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ☐ 企業の社会的役割を実際に担っているのは、人間です。そのヒトのマネジメントである人事労務管理の歴史や目的について学びます。 第09回：モチベーションと創造性の発揮〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ☐ ヒトが創造的な営みに向かうには、その変革の必要性なども含めてまなびます。 ☐ ヒトが配置される組織がいかにして成立するのかという根本的な問題から、組織の定義、組織づくりの原則などについて学びます。 第12回：経営組織の構造と変革〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ☐ 組織と外部環境、組織の諸形態、組織変革とその事例などについて説明し、発展的組織のあり方を考えるための基礎を学びます。 【企業の新たな課題（テーマ）の3回目授業】 第13回：企業と社会〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ☐ 社会的存在としての企業は、自ら関連する社会的問題をどのように捉え取り組んできたのか、またその存在感を増す機関投資家とその行動の変化などについて学びます。 【経営学の総括】 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：「経営学への扉」をひらく：1年生で学んだこと、2年生から学ぶこと ☐ 授業全体の総括と経営学部の関連専門科目を紹介します。 ※最新の研究動向をふまえて一部講義内容を変更する場合があります。			
3. 履修上の注意 ・この講義は、メディア授業科目として開講されます。授業はすべて、講義動画をOh-o! Meijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行います。授業動画は毎週水曜日にOh-o!Meijiシステムを通じて配信し、当該学期の1月末日まで視聴を可能とする予定です（配信曜日を変更する場合は事前にお知らせします）。 ・毎回の授業動画に対する課題や試験等を通じて出席や理解度確認を行い、意見交換の場としてOh-o!Meijiクラスウェブのディスカッション機能、教員への質問・相談窓口としてクラスウェブのアンケート機能を活用する予定です。詳細については、プロシラパスの補足」などを適宜お知らせします。 ・この講義は学部必修科目です。あらかじめ指定されたクラスでの受講となりますが、シラバス、講義内容、成績評価などはすべて同一となります。 ・初回の講義に必ず出席（視聴）して、詳しく授業内容や受講のルール、質問方法等について確認してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：・事前に配布される講義資料に必ず目を通して授業に臨んで下さい。 ・補足資料がある場合は、必ず資料を確認してから授業を視聴してください。 ・翌授業回の内容が、企業経営における位置や、それまでの授業内容との関係について考えてみて下さい。 復習：・授業後に講義資料やノートをもとに復習してください。 ・理解が不十分な点は、授業動画を再度視聴するなどして授業内容の理解定着・向上に努めてください。 ・不明な部分があれば所定の方法で質問してください。 ・データベース（日経テレコン等）を使って、授業内容に関連する新聞雑誌記事やニュースを探してみてください。			
5. 教科書 教科書はありません。オリジナルの教材を用いて授業を進めます。			
6. 参考書 『経営学への扉 〔第5版〕』明治大学経営学研究会編（白桃書房）2015年。 『考える経営学』中川晃一ほか著（有斐閣）2021年。 その他参考書については、各回に必要なに応じて紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 オンラインテスト、課題レポート、試験などを合算して総合的に評価します。詳細は、秋学期開始の際に「シラパスの補足」でお知らせします。			
9. その他 ・本講義ではOh-o! Meijiシステムを頻繁に利用するので、都度クラスウェブを確認するようにしてください。 ・なお、本講義の発展的な科目は、2年次に履修できる経営管理論A・Bおよび企業論A・Bになります。			

科目ナンバー：(BA)ACC191J			
会計学（統一） 【2021年度以降入学者対象】			
石津寿恵・千葉貴律・大槻晴海・長野史麻・森光高大・浅野千鶴			
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 この授業では、組織体の経営において会計が果たす役割についての知見を広めるために、会計の二大領域である管理会計と財務会計における特徴的な分野をより具体的に学びます。 管理会計は、組織内部の経営者や管理者、さらには従業員が、組織内外の状況の把握、経営や業務上の問題に対処する判断、経営戦略や経営計画の立案、業務の遂行、業績の把握と評価を行う際に必要とする情報を提供することを目的とする会計の領域です。また、財務会計は、組織外部の利害関係者（投資家、債権者、取引先、国や地方公共団体など）が、組織体の経営状況や活動内容を知るために必要な情報を開示し提供することを目的とする会計の領域です。 この授業は会計学の入門として、これら2つの領域に関わる基礎的な知識とスキルを、代表的な事例を題材とした講義と演習によって、理論的かつ実践的に学修します。 〈到達目標〉 この授業での到達目標は、次の4つです。 (1) 管理会計と財務会計の役割や特徴を理解し、それぞれの領域における基本概念を説明することができる。 (2) 財務諸表や統合報告書などの報告書の役割や特徴、関係を理解し、組織体の状況に関する基本的な情報を読み取ることができる。 (3) 会計情報を用いた基本的な分析方法を理解し、組織体の現状や問題点を明らかにすることができる。 (4) 組織体の経営における財務管理、意思決定、業績評価、情報開示について理解し、それらに会計情報を活用することの有効性を説明することができる。			
2. 授業内容 この授業は毎週水曜日午前9時に授業動画が配信されるメディア授業（オンデマンド配信型）で行われます。 第1回 イントロダクション（9月24日（水）09：00配信） 確認テストの受け方、成績評価の方法など、授業の進め方を詳しく説明します。必ず視聴してください。 第2回 コストビヘイビアと収益性分析（1） 原価とは何か／オペレーティング・レバレッジの収益性への影響 第3回 コストビヘイビアと収益性分析（2） コストビヘイビアによる原価の分類／オペレーティング・レバレッジを活用した戦略の立案 第4回 商品開発と会計（1） 商品企画から生産準備までにおける管理会計の役割と手法 第5回 商品開発と会計（2） 初步的なVE（価値工学）の実践と原価企画の活用方法 第6回 意思決定と管理会計（1） 経営活動における様々な意思決定／業務的意思決定 第7回 意思決定と管理会計（2） 長期的な意思決定と資金管理 第8回 制度的ディスクロージャー（1） 意思決定有用性と受託責任の表明／会社法と金商法の情報開示の仕組み 第9回 制度的ディスクロージャー（2） 有価証券報告書の入手方法・情報内容／財務諸表の構成と分析方法 第10回 非制度的ディスクロージャー（1） 企業の情報開示における非財務情報の重要性／環境報告書、CSR報告書、統合報告書の内容 第11回 非制度的ディスクロージャー（2） 統合報告書等の入手方法・情報内容／統合報告書等の構成と分析・活用方法 第12回 非営利組織のディスクロージャー（1） 非営利組織における情報開示の意義・必要性／非営利組織の活動内容・経営状況など 第13回 非営利組織のディスクロージャー（2） 非営利組織の事業報告等の入手方法・情報内容／事業報告等の構成と分析・活用方法 第14回 まとめ			
3. 履修上の注意 授業はすべてオンデマンド型で実施します。授業動画は毎週水曜日の午前9：00に配信されます。履修生は各自、オンライン授業を受講するための環境を整えてください。 動画の配信日時：毎週水曜日午前9時 確認テストの回答期限：翌週月曜日午前6時 授業に関する質問・問合せ・トラブルなどは、授業用のメールアドレス（「授業資料」や「シラパスの補足」で開示）に連絡をしてください。 詳細については、初回の授業ならびにクラスウェブの「シラパスの補足」で説明します。 初回授業動画は成績評価に関する細かな注意事項を説明しますので、第1回目が配信された週に必ず視聴してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習を行う必要はありません。各回の授業動画を視聴した後に確認テストに取り組み、授業内容の理解の定着および向上に努めてください。			
5. 教科書 教科書はありません。オリジナルの教材を用いて授業を進めます。			
6. 参考書 各回の授業で、必要に応じて参考書を示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Oh-o!Meijiクラスウェブを通じてフィードバックを行います。			
9. その他 9月24日（水）に配信される第1回の授業動画を配信された週に必ず視聴してください。			

科目ナンバー：(BA)ACC191J			
公共経営学（統一） 【2021年度以降入学者対象】			
菊地端夫・小関隆志・石渡幹夫・久保善慎・武藤桂一			
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：私たちの社会は、気候変動や災害、貧困や飢餓、国際紛争など、深刻な問題を数多く抱え、いずれも早急な対応が求められています。他方、これらの社会問題の解決をすべて政府や国際機関に委ねることは困難であり、民間の企業や非営利組織、地域社会といった社会の構成メンバーがみんなで連携・協働しながら、よりよい社会を築くために前進していかななくてはなりません。公共経営学は、個別の企業の利益や発展というよりも、社会全体の利益や発展のためのマネジメントを研究する学問分野です。こうした公共経営学の考え方は、公務、非営利組織、営利企業、いずれの分野でも幅広く役立ちます。 この講義では、春学期の「経営総論」で紹介した、公共経営学に関する内容を少し深めて、公共経営学の基礎的な概念・理論を整理するとともに、講義の後半では各論として、いくつかの分野（スポーツ、医療・福祉、地域活性化、国際協力）に即して、公共経営学の具体像を見ていきます。 到達目標：公共経営学の基礎的な概念・理論を理解するとともに、公共経営学の考え方に即して、社会問題の解決に向けて考察し、議論することができる。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション：授業進行・成績評価方法の説明、「経営総論」の復習など 第2回 公共性と公共経営：公共性・公共経営とは何か、公共経営学の基本的な考え方 第3回 社会課題と解決の方法論：公共経営学による社会課題へのアプローチの方法 第4回 民間営利セクター：企業がどのように社会責任を果たし、社会貢献を行うか 第5回 民間非営利セクター：非営利組織や協同組合などの特徴、社会的役割、課題 第6回 公的セクター（1）：行政機関による経営の特徴、守備範囲、多様性、地方自治 第7回 公的セクター（2）：公務員制度、行政への市民参加、行政への監視・情報公開 第8回 官民連携のマネジメント：行政機関と企業、非営利組織との多様な連携のあり方 第9回 地域活性化：地域の課題と、活性化のために社会的企業に期待される役割 第10回 少子高齢化：子育て世帯支援、婚姻制度、養子縁組制度、移民問題など 第11回 公共交通：人口減少社会で地域住民の足を守り、交通体系を維持するには 第12回 スポーツのマネジメント：スポーツ組織におけるマネジメントの必要性和機能 第13回 医療・福祉のマネジメント：医療・福祉制度の持続可能な運営のあり方 第14回 国際開発／まとめ：途上国が抱える諸課題と、開発援助、各主体の取り組み			
3. 履修上の注意 この講義は1年生秋学期の学部必修科目であり、学科選択の参考にするとともに、今後の公共経営学科専門科目につなげるための導入部と位置づけられています。 後半にはグループ・ディスカッションがありますので、積極的に授業に参加してください。 この講義は6つのコマに分かれており、各コマの担当教員はそれぞれ異なりますが、シラバスは共通で、講義内容や成績評価などはすべて同一です。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業後に資料を振り返り、不明な部分があれば質問してください。また、次の回の内容について資料や参考書に目を通しておいてください。			
5. 教科書 講義の際に資料を配布します。			
6. 参考書 毎回の講義の際に指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o Meijiシステムを利用してフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 定期試験（52%）、レポート（30%）、グループ・ディスカッション（18%）の合計で成績評価します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ECN111J			
近代経済学A（統一）			
三上真寛・鶴田靖人・栗田健一・山下裕歩			
2単位	1年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この授業は、初めて経済学を学ぶ経営学部生を対象として、経営学や現実の経営実践を理解するために必要なミクロ経済学の基礎を解説する。ミクロ経済学は、市場価格を参照する個々の家計や企業の行動から、市場において需要と供給が均衡し、希少資源が効率的に配分されるメカニズムと、それが市場全体にもたらす厚生を分析する学問分野である。この授業では、特に企業経営との関連が深い、消費者の効用、企業の利潤と費用構造、市場における競争などの事項に重きをおきながら、市場の失敗についても解説する。 〈到達目標〉 ミクロ経済学が前提とする個人観、家計（消費者）と企業（生産者）の行動様式、価格メカニズムとしての市場像などを中心に、ミクロ経済学の基本的な視座と概念を修得し、経営との関連において経済現象を理解・説明できるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 ミクロ経済学における以下の理論的事項を学修する。ただし、現実の経済事象や経営との関連を併せて説明するため、学修の流れや補足事項は担当教員が変更することがある。 第1回 ミクロ経済学の対象と方法 第2回 市場メカニズムと需要・供給 第3回 家計の行動と需要曲線 第4回 企業の行動と供給曲線 第5回 短期・長期の概念と費用構造 第6回 部分均衡と資源配分 第7回 無差別曲線と予算制約線 第8回 代替効果と所得効果 第9回 等産出量曲線と等費用曲線 第10回 総収入曲線と総費用曲線 第11回 一般均衡と資源配分 第12回 比較優位と国際分業 第13回 独占と独占的競争 第14回 市場の失敗			
3. 履修上の注意 ミクロ経済学は個々の経済主体の行動から市場全体の秩序を考える分野であるので、その理解には知識や思考の体系的な積み上げが不可欠である。授業には毎回必ず出席すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の授業内容を十分に復習して次の授業に臨むこと。			
5. 教科書 担当者から指示する。			
6. 参考書 担当者から指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内において、適宜、レポート課題または小テスト等に関するフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 定期試験（50%）、レポート課題または小テスト等（50%）により、上記目標の達成度を総合的に評価する。			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA)ECN111J			
近代経済学B（統一）			
三上真寛・鶴田靖人・栗田健一・山下裕歩			
2単位	1年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この授業は初めて経済学を学ぶ経営学部生を対象として、経営学や現実の経営実践を理解するために必要なマクロ経済学の基礎を解説する。マクロ経済学は、生産、所得、消費、投資、政府支出、輸出入、貨幣量、利子率、物価、失業率などの経済変数の関係によって、一国全体の経済状況を分析する学問分野である。この授業では、特に企業経営との関連が深い、企業部門と家計部門を結ぶマクロ経済循環、セイ法則と有効需要原理、政府による財政金融政策などの事項に重きをおきながら、経済政策の限界についても解説する。 〈到達目標〉 マクロ経済循環における家計・企業・政府・海外部門の関係、財・貨幣・労働市場の需給、経済政策の目的と手段などを中心に、マクロ経済学の基本的な視座と概念を修得し、経営との関連において経済現象を理解・説明できるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 マクロ経済学における以下の理論的事項を学修する。ただし、現実の経済事象や経営との関連を併せて説明するため、学修の流れや補足事項は担当教員が変更することがある。 第1回 マクロ経済学の対象と方法 第2回 国民経済計算とマクロ経済循環 第3回 財・サービス市場における需要と供給 第4回 有効需要原理と乗数メカニズム 第5回 貨幣市場における需要と供給 第6回 信用創造と乗数メカニズム 第7回 IS-LM分析 第8回 財政金融政策 第9回 労働市場における需要と供給 第10回 AD-AS分析 第11回 物価水準 第12回 国際収支と為替レート 第13回 経済成長 第14回 経済政策の有効性			
3. 履修上の注意 マクロ経済学は様々な経済変数の関係から一国全体の経済状況を考える分野であるので、その理解には知識や思考の体系的な積み上げが不可欠である。授業には毎回必ず出席すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の授業内容を十分に復習して次の授業に臨むこと。			
5. 教科書 担当者から指示する。			
6. 参考書 担当者から指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内において、適宜、レポート課題または小テスト等に関するフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 定期試験（50%）、レポート課題または小テスト等（50%）により、上記目標の達成度を総合的に評価する。			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA)ECN116J			
近代経済学A〔M〕			三上真寛
2単位	1年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 ※これは再履修者等を対象とする特設クラスのシラバスです。 <概要> この授業は、初めて経済学を学ぶ経営学部生を対象として、経営学や現実の経営実践を理解するために必要なミクロ経済学の基礎を解説する。ミクロ経済学は、市場価格を参照する個々の家計や企業の行動から、市場において需要と供給が均衡し、希少資源が効率的に配分されるメカニズムと、それが市場全体にもたらす厚生を分析する学問分野である。この授業では、特に企業経営との関連が深い、消費者の効用、企業の利潤と費用構造、市場における競争などの事項に重きをおきながら、市場の失敗についても解説する。 <到達目標> ミクロ経済学が前提とする個人観、家計（消費者）と企業（生産者）の行動様式、価格メカニズムとしての市場像などを中心に、ミクロ経済学の基本的な視座と概念を修得し、経営との関連において経済現象を理解・説明できるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 ミクロ経済学における以下の理論的事項を学修する。ただし、現実の経済事象や経営との関連を併せて説明するため、学修の流れや補足事項は担当教員が変更することがある。 第1回 ミクロ経済学の対象と方法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回 市場メカニズムと需要・供給〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 家計の行動と需要曲線〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 企業の行動と供給曲線〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 短期・長期の概念と費用構造〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 部分均衡と資源配分〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 無差別曲線と予算制約線〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回 代替効果と所得効果〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 等産出量曲線と等費用曲線〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回 総収入曲線と総費用曲線〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 一般均衡と資源配分〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 比較優位と国際分業〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回 独占と独占的競争〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 市場の失敗〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 この講義はメディア授業科目として開講され、授業はすべて、授業動画をOh-olMeijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行う。授業動画は授業実施日（水曜日とする）の前日までに公開し、当該学期中の視聴を可能とする。なお、授業動画についてウェブ上での課題提出を求め、受講および理解度の確認を行う。また、クラスウェブを活用して履修者からの質問や意見を共有し、意見交換を促す。教員への質問・相談窓口のリンクをクラスウェブに掲載する。 ミクロ経済学は個々の経済主体の行動から市場全体の秩序を考える分野であるので、その理解には知識や思考の体系的な積み上げが不可欠である。授業は毎回必ず受講すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の授業内容を十分に復習して次の授業に臨むこと。			
5. 教科書 『ミクロ経済学：基礎へのアプローチ』三上真寛著（学文社）、2020年。			
6. 参考書 『市場競争のためのビジネス・エコノミクス』三上真寛著（学文社）、2022年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブを活用して、適宜、レポート課題または小テスト等に関するフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 オンライン試験（50%）、レポート課題または小テスト等（50%）により、上記目標の達成度を総合的に評価する。 ※対面形式での試験は行わない。			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA)ECN116J			
近代経済学B〔M〕			三上真寛
2単位	1年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 ※これは再履修者等を対象とする特設クラスのシラバスです。 <概要> この授業は、初めて経済学を学ぶ経営学部生を対象として、経営学や現実の経営実践を理解するために必要なマクロ経済学の基礎を解説する。マクロ経済学は、生産、所得、消費、投資、政府支出、輸出入、貨幣量、利子率、物価、失業率などの経済変数の関係によって、一国全体の経済状況を分析する学問分野である。この授業では、特に企業経営との関連が深い、企業部門と家計部門を結ぶマクロ経済循環、セイ法則と有効需要原理、政府による財政金融政策などの事項に重きをおきながら、経済政策の限界についても解説する。 <到達目標> マクロ経済循環における家計・企業・政府・海外部門の関係、財・貨幣・労働市場の需給、経済政策の目的と手段などを中心に、マクロ経済学の基本的な視座と概念を修得し、経営との関連において経済現象を理解・説明できるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 マクロ経済学における以下の理論的事項を学修する。ただし、現実の経済事象や経営との関連を併せて説明するため、学修の流れや補足事項は担当教員が変更することがある。 第1回 マクロ経済学の対象と方法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回 国民経済計算とマクロ経済循環〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 財・サービス市場における需要と供給〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 有効需要原理と乗数メカニズム〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 貨幣市場における需要と供給〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 信用創造と乗数メカニズム〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 IS-LM分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回 財政金融政策〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 労働市場における需要と供給〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回 AD-AS分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 物価水準〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 国際収支と為替レート〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回 経済成長〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 経済政策の有効性〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 この講義はメディア授業科目として開講され、授業はすべて、授業動画をOh-olMeijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行う。授業動画は授業実施日（水曜日とする）の前日までに公開し、当該学期中の視聴を可能とする。なお、授業動画についてウェブ上での課題提出を求め、受講および理解度の確認を行う。また、クラスウェブを活用して履修者からの質問や意見を共有し、意見交換を促す。教員への質問・相談窓口のリンクをクラスウェブに掲載する。 ミクロ経済学は個々の経済主体の行動から市場全体の秩序を考える分野であるので、その理解には知識や思考の体系的な積み上げが不可欠である。授業は毎回必ず受講すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の授業内容を十分に復習して次の授業に臨むこと。			
5. 教科書 『マクロ経済学：基礎へのアプローチ』三上真寛著（学文社）、2020年。			
6. 参考書 『景気把握のためのビジネス・エコノミクス』三上真寛著（学文社）、2022年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブを活用して、適宜、レポート課題または小テスト等に関するフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 オンライン試験（50%）、レポート課題または小テスト等（50%）により、上記目標の達成度を総合的に評価する。 ※対面形式での試験は行わない。			
9. その他 特になし。			

2 教養科目

科目ナンバー：(BA)PHL111J			
言語思想A			岡 部 英 男
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 言語思想Aでは、言語は事物を正確に表現するのか、恣意的な設定に基づくにすぎないのか、という古くからの問題意識の下に、言語の本性と働きについて唱えられた古代・中世・近世の言語思想を中心に考察する。一方はプラトンの自然主義的言語観と、後の計算言語・コンピュータ言語へと至る聖書のアダムと言語という考えであり、他方はアリストテレスの規約主義的言語観である。だがいずれも、言葉は事物や観念の代わり・代用品であるという前提（言語代用説）を共有しており、そうした言語代用説を考察することが目的である。 <到達目標> 言語思想と、それに流れ込むさまざまな考え（アイデア論、神と人間の関係、社会観など）との関係を理解し、言語の社会性について理解を深める。			
2. 授業内容 第1回（前半）：言語思想の歴史の概略、および一年間の予定 第1回（後半）～2回：プラトンの「クラテュロス」（名前の正しさ、慣習説・自然本性説・真理を模倣するものとしての言語） 第3～4回：聖書のアダムと言語（言語の誕生の神話としてのアダム の命名、言語の起源と分化、「バベルの塔」の物語の意味） 第5～6回：アリストテレスの言語慣習説（合理的思考の基礎としての言葉、論理学、世界と心と言語の関係、名前と指示対象との関係を安定させるものとしての慣習、例外としてのメタファー） 第7回：アダムと言語とその問題群（完全言語の探求）、デカルト（言語と理性、記憶の補助手段としての言語） 第8～9回：ホップズ（符号と記号、計算の道具としての言語、記憶とコミュニケーション、思考の計算の一般化としての社会契約・ゲーム理論） 第10～11回：ライブニッツ（記号の必要性、普遍言語とコンピュータ言語、人間の思考のアルファベット、盲目的思考、普遍記号法） 第12回：キャクストン（国語の成立） 第13～14回：ポール・ロワイヤル文法（言語に先立つ思考、それを表現する一般文法、言語合理主義、チョムスキーのデカルト派言語学） まとめ			
3. 履修上の注意 お話しする内容は日本語の文献にはほとんど書かれていないものも多いので、ノートをとることが重要です。特別外国語の知識は必要ありません。私語を控え、まじめに授業に取り組むことが重要です。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 この授業では、予習よりも復習に重点を置いて学習してほしい。毎回配布するプリントを読み返し、ノートを整理事務すること。Oh-Meijiで毎回配信する授業資料を読み返すこと。また、新しい気になる言葉があったら書き留めるなど、言葉への関心をつねに持っていること。			
5. 教科書 教科書はとくに用いませんが、ほぼ毎回プリントを配布します。			
6. 参考書 参考書は、必要があればその都度指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストを実施した次の授業で、設問と答えについて解説する。			
8. 成績評価の方法 試験の成績（70％）と出席・小テスト（30％）。小テスト（1回6点）は5回予定。授業にまじめに取り組まなければ、出席しただけでは、小テストはできません。小テストを遅れて提出することも可能ですが減点します（1ヶ月以内は2点減点、それ以降は3点減点）。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)PHL111J			
言語思想B			岡 部 英 男
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 言語思想Bでは、言語思想Aに続いて、近代・現代の言語思想を中心に考察する。出発点は17世紀のロックが唱えた観念の記号という言語観であり、それを見たあと、ロックの提出した言語の不完全性の問題をどのように解決するかという18世紀の課題をたどる。そして、ダーウィンの進化論を受容して科学になろうとした十九世紀の言語思想を概観し、ソシュールの構造言語学がもたらしたギリシア以来の根本前提（言語代用説）の崩壊を考察する。最後に、ソシュールの個人を超えた言語構造という発想と多くの共通性をもつウィトゲンシュタインの言語ゲームという発想について考察する。 <到達目標> 言語思想と、それに流れ込むさまざまな考え（哲学思想、進化論など）との関係を理解し、言語の社会性について理解を深めること。具体的には、言葉はモノや観念のたんなる代用品ではなく、貨幣によく似た交換のためのツール・システムであることの理解が、授業の目標である。			
2. 授業内容 第1～2回：ロック（観念の記号としての言語、事物と観念と言葉の関係、言語の不完全性としての恣意性・私秘性、救済策） 第3～4回：コンディヤック（言語と認識の起源、自然的記号と人工的記号、他者への共感、原初的な自然語・身振り言語からの類推によって生じる人工語） 第5～6回：ホーン・トゥック（観念の数と言葉の数、必要語と短縮語、思弁的学問から経験科学への移行、語源研究の意味） 第7～8回：フンボルト（言語の二側面＝内的言語感覚と音声、民族の言語、言語の役割、言語と思考の関係、言語の四類型、言語の優劣） 第9～10回：19世紀の言語思想・ミュラー（言語変化の説明、ダーウィンの進化論と言語思想、自然選択説の長所と短所） 第11～12回：ソシュールの構造言語学（言語記号＝シニフィアンとシニフィエ、言語構造・ラングとパロール、共時的と通時的、言語における価値としての連辞関係と連合関係、交換、言語代用説の破壊） 第13～14回：ウィトゲンシュタインの言語思想（ピクチャー・セオリー、言語ゲーム、幻想と治療） まとめ			
3. 履修上の注意 お話しする内容は日本語の文献にはほとんど書かれていないものも多いので、ノートをとることが重要です。特別外国語の知識は必要ありません。私語を控え、まじめに授業に取り組むことが重要です。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 この授業では、予習よりも復習に重点を置いてほしい。毎回配布するプリントを読み返し、ノートを整理事務すること。Oh-Meijiで毎回配信する授業資料を読み返すこと。また、新しい気になる言葉があったら書き留めるなど、言葉への関心をつねに持っていること。			
5. 教科書 教科書はとくに用いませんが、ほぼ毎回プリントを配布します。			
6. 参考書 参考書は、必要があればその都度指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストを実施した次の授業で、設問と答えについて解説する。			
8. 成績評価の方法 試験の成績（70％）と出席・小テスト（30％）。小テスト（1回6点）は5回予定。授業にまじめに取り組まなければ、出席しただけでは、小テストはできません。小テストを遅れて提出することも可能ですが減点します（1ヶ月以内は2点減点、それ以降は3点減点）。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)PHL111E			
Social Thought		枝 村 祥 平	
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <Course Summary> Many distinguished philosophers have explored ways to understand society and conceptualized ideal forms of human communities. This course offers an opportunity to study their ideas and analyze real-world issues in today's society. <Objective> To develop a foundational understanding of social thought and gain a fresh perspective on interpreting the contemporary world.			
2. 授業内容 Part 1 : Guidance Part 2 : Democracy (Ancient times to modern times) Part 3 : Democracy (After the 19 century) Part 4 : Anarchism Part 5 : Conservatism Part 6 : Family Part 7 : Education Part 8 : Freedom of Expression and the Media Part 9 : Welfare Part 10: Sharing Part 11: Punishment Part 12: Separation of Church and State Part 13: State, Civilization and Prosperity Part 14: Cosmopolitanism			
3. 履修上の注意 I will require a reaction paper for each session, making class attendance essential.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 To prepare for classes, please read the materials provided electronically.			
5. 教科書 Textbooks will not be used; I will provide the necessary class materials as electronic files			
6. 参考書 I will introduce it during the lecture.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 I will provide feedback on reaction papers if necessary			
8. 成績評価の方法 *Reaction Paper 3 x 14 = 42% *Final Exam 58% *Extra credits			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)PHL111J			
倫理思想A		宇田川 尚 人	
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 科学技術の進歩は「倫理」にどのような影響を与えるのだろうか？ この問いに対して、この授業では、主に応用倫理学の立場から、生命倫理、環境倫理、情報倫理、そして全く新しい「脳神経倫理」からのアプローチを紹介してみたい。 医療現場において加速度的に進化する技術。急激な悪化が懸念される地球環境問題。そしてメディアの中で度々なく氾濫する情報としての知識。こうした状況のもとで崩れゆく古い価値観に直面し、今、倫理学はその本質的な見直しを迫られている。時代や状況に依存することのない人間本来の生き方と、先端技術や経済機構が突き付ける極めて「時代的」な問題状況の狭間で、何が今見直され、新たに問われ、基礎付けられなければならないのか？ この授業では、こうした問題に対する様々なアプローチを整理しつつ分かり易く解説し、各自が自ら考えるための素材と知識を提供してゆきたいと考えている。 〈到達目標〉 この授業で学習した倫理的視点に基づき、今日の世界で起こっている様々な問題のいずれに対しても、自分なりの見解を持てるようになること。			
2. 授業内容 以下は暫定案であり、変更する可能性がある。（＊を参照のこと） 1. 情報倫理の諸問題 ― フェイクニュースの時代、「いいね」（評価）を必死で求めて、本当の自己を失ってゆく人々 2. 何が「本当」なのか？ ― 主観的「現実」と客観的「事実」の間で 3. ネットの中で、SNSで、増殖する「バーチャルな私」― 非本来的自己 4. 「現実」を侵食するバーチャリアリティと「現実」を拡張するアドバンストリアリティ― 5. それでも、バーチャル化され得ないものとして最後に残る「私」のアイデンティティ―と「責任」 6. 生命倫理の諸問題 安楽死と尊厳死の差異 7. 「人格」はどこに？ パーソン論と生物学的ヒト論の対立 8. 脳科学と倫理 ― 再生医療と脳科学の衝撃 ― 9. Enhanced Bodyがもたらす新たな可能性と倫理 10. スマートドラッグによる「記憶」の改竄と「心」の在処 11. 脳科学の解明によって消し去られる「自由」意志 「それでも私は・・・」と叫ぶ脳あるいはゴーストのささやき 13. AIと倫理 14. 私」をめぐる諸問題のコアとしての「人格」概念 ＊ 生命倫理の諸問題（6～7）の取り扱いをやめ、生成AIと倫理に関する解説を拡充する可能性がある。 また本年度は環境倫理学は取り扱わない			
3. 履修上の注意 倫理思想AとBは、（それぞれ単独でも履修可能ではあるが、）内容的には相補関係にある。このため、基本的には双方を履修することを前提とした講義内容になっている。また通常は、基礎倫理学から応用倫理学へという流れが一般的と思われるが、本講義では敢えて、具体的に分かり易い「応用倫理学」の諸問題の解説（倫理思想A）から出発し、その後に、それらの根底にある倫理の基礎づけという哲学的問題（倫理思想B）に取り組んでゆくというスタンスを取っている。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 配付資料はざっと読んだだけではわからないかもしれない。それでも必ず目を通し、 1）自分の理解が正しいか自信のない箇所や、 2）理解できていないと思われる箇所をあらかじめチェックしておくこと。また、 3）配付資料には書かれていないが授業内で理解の為に「重要」と説明された「概念」や「キーワード」は必ずメモを取り、 4）それらの「論理関係」を手掛かりとして、もう一度配布資料を復習の際に読み込むこと。			
5. 教科書 教科書は使用しない。 プリントを必要に応じて、Web（Oh-o! Meiji）上にUPする。 紙媒体で授業中に配布する場合もある。			
6. 参考書 参考文献は授業の中で紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の課題に対するフィードバック（質問への回答、間違いの指摘、優秀な考察例の紹介等）は、原則として翌週の授業内で行う。学期末レポートの返却は希望者に対してのみ行う。			
8. 成績評価の方法 毎回の課題の（Oh-Meiji上への）提出（40%）と学期末のレポートか試験（60%）で総合的に成績を評価する。 試験かレポートかは学生の希望も考慮するが、受講者人数が80人以上になった場合は試験になる可能性が高い。 3分の2以上の授業への参加と課題の提出を学期末レポート提出および期末試験受験の最低条件とする。 ＊ 毎回の課題提出は単なる出席調査ではないので、書かれた内容の理解度、適切な質問等の度合いに応じて、－2～＋2点の間で平常点として加点してゆく。 ＊ レポートまたは試験いずれでも50点以下は不合格とする。			
9. その他 倫理思想Aに関しては、過去に受講希望者が多くプレゼンテーションに適切な教室を使用することが出来なかったことがあった。 また人数が多くなると毎回の課題のFeed Backに時間を取られる為、講義の進行に影響をきたす可能性もある。 そこで人数制限はしないが、安易な気持ちで受講する学生がいないように、今年度も採点基準を倫理思想Bより厳しくする。 （当たり前のことだが、このことは、毎回の課題を全て提出し学期末のレポートか試験を受けたとしても、理解度が一定の水準のレベルに達していなければ、不合格となることを意味する。） 本気でこの学問を学びたいと思う学生の受講を歓迎する。			

科目ナンバー：(BA)PHL111J			
倫理思想B		宇田川 尚 人	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 悪とは何か？ 倫理とは何か？ 自由とは何か？ これらの問いに対する倫理学者・哲学者の答えの内には、基調底音として一貫して変わらぬ部分と、その時代ごとの価値観により彩られた（いわば主旋律としての）展開部分とが常に混在する。音楽を奏でる時その両者のハーモニーが求められるように、倫理を語るときにも常にこの両者の関係を見失わないようにする必要がある。 この様な観点から、この講義では、近代から現代に至る倫理思想（および哲学・心理学）の多様な流れを解説し、同時にそこに一つの問いが問われ続けていることを明らかにしたい。それは、（たとえ絶対的真理が存在しなくても、いやそれだからこそ？）人は（＝そう、あなたは）この時代と自らの現実をどう生きるかという問いに常に貫かれているという考え方であり、さらには、迷いの中であるいは困難と挫折を経験することを通してしか、人は人間的に成長しないのではないか？ という問いである。 そもそも、現代社会において思想史を学ぶことは、多様化する情報と価値の海の中た中で、自らの来し方・行く先を指し示す〈羅針盤〉のひとつを手に入れることを意味する。 テクノロジーのフラット化や世界のグローバリズム志向、それらに対置され孤立化する個人のアイデンティ・ティクライシス、リアリティなき自分探しゲーム等。現代日本および世界が抱える様々な社会現象の光と影、それらすべてを貫いて、あらゆる時代から、哲学および倫理思想は、常に「人間とは何か」という問いを発し続ける。 〈到達目標〉 講義で紹介される思想の有効射程距離を検証するという＜思考訓練＞を通して、各自が現実の具体的な状況の中で「自己」と「社会」との関係を論理的に分析し考察する能力、いわば現実分析の＜コツ＞を身につけること。			
2. 授業内容 1. 悪とは「何かが欠けている」ことなのか？（善の欠如、思いやりの欠如、自制心の欠如、知識の欠如？） 2. カント ― 自由と倫理 3. 悪はすべての人の心の内に？ ― 良心と悪 4. 根源悪とは何か？ 5. 悪への自由と人格の自己実現への自由 6. 人格形成論と機械仕掛けのマリオネット（思考停止する人々＝SNS時代の「情報に流され自分でものを考えない人々」） 7. フロイト ― 無意識と倫理 8. エス・自我・超自我 ― 無意識の欲動って何？ 9. 偶然と環境が欲動を縫いあわせ人格を作る？ カント vs フロイト 10. 後期タナトス論（自己破壊衝動と攻撃性）が突きつける倫理への課題（何故人はネット社会でより攻撃的になるのか？） 11. レヴィナス ― 他者と倫理 12. 他者理解の限界と（人には解ってもらえない）私の心の「内部性」との非対称性 13. 「同」の暴力と倫理 ― ネット社会における「同調圧力」と「承認欲求」から全体主義的な暴力（戦争）まで― 14. 逆説的な「他者の為に」と私のアイデンティティ―			
3. 履修上の注意 倫理思想AとBは、（それぞれ単独でも履修可能ではあるが、）内容的には相補関係にある。このため、基本的には双方を履修することを前提とした講義内容になっている。また通常は、基礎倫理学から応用倫理学へという流れが一般的と思われるが、本講義では敢えて、具体的に分かり易い「応用倫理学」の諸問題の解説（倫理思想A）から出発し、その後に、それらの根底にある倫理の基礎づけという哲学的問題（倫理思想B）に取り組んでゆくというスタンスを取っている。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 配付資料はざっと読んだだけではわからないかもしれない。それでも必ず目を通し、 1）自分の理解が正しいか自信のない箇所や、 2）理解できていないと思われる箇所をあらかじめチェックしておくこと。また、 3）配付資料には書かれていないが授業内で理解の為に「重要」と説明された「概念」や「キーワード」は必ずメモを取り、 4）それらの「論理関係」を手掛かりとして、もう一度配布資料を復習の際に読み込むこと。			
5. 教科書 教科書は使用しない。 プリントを必要に応じて、Web（Oh-o! Meiji）上にUPする。 紙媒体で授業中に配布する場合もある。			
6. 参考書 岩波新書 中島義道「悪について」 三笠書房 鈴木 晶「世界一わかりやすいフロイト教授の精神分析の本」 勁草書房 佐藤義之「レヴィナスの倫理」 その他の参考文献は授業の中で紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の課題に対するフィードバック（質問への回答、間違いの指摘、優秀な考察例の紹介等）は、原則として翌週の授業内で行う。学期末レポートの返却は希望者に対してのみ行う。			
8. 成績評価の方法 毎回の課題の（Oh-Meiji上への）提出（40%）と学期末のレポートか試験（60%）で総合的に成績を評価する。 試験かレポートかは学生の希望も尊重するが、受講者人数が70人以上になった場合は試験になる可能性が高い。 3分の2以上の授業への参加と課題の提出を学期末レポート提出および期末試験受験の最低条件とする。 ＊ 毎回の課題提出は単なる出席調査ではないので、書かれた内容の理解度、適切な質問等の度合いに応じて、－2～＋2点の間で平常点として加点または減点してゆく。			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA)PHL111J			
宗教思想			枝村 祥平
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 現代日本において、宗教はマイナーなものと思われるかもしれませんが。深入りしている人はいるけどそんなに多いわけじゃないし胡散臭い新興宗教が多いんじゃないか、と思う人もいるでしょう。しかし、宗教は依然として世界の多くの人々の心を動かしています。それだけでなく、日本には宗教の長い伝統があり、私たちの心に消し去ることのできない大きな影響を残しています。宗教を学ぶことは、国際化への重要な一歩であるとともに、私たち自身を知る手がかりをも与えてくれると言えるでしょう。 <到達目標> 1. キリスト教、イスラム教、ヒンドゥー教などを学ぶことを通じて、これらの宗教が信じられている国々とそこに住む人々を知る手がかりを得る。 2. 神道や仏教を学ぶことにより、日本における長い宗教の伝統を知り、それが今にどうつながっているかを知る。 3. 様々な宗教の共通点を模索し、現代人が持ちうる宗教心とは何かを考えるようになる。			
2. 授業内容 第1回：ガイダンス 宗教をなぜ学ぶのかについて考える。 第2回：世界観 宗教が私たちの世界観をどう形成してきたかをみる。 第3回：儀礼と社会形成 宗教における儀礼を具体的にみていき、それらが社会形成にまで関わることをみる。 第4回：戒律 宗教がどのような戒律（守るべきルール）を示してきたか、それらが私たちにどう影響を与えているかを考える。 第5回：神秘体験 宗教者たちが語るところの神秘的な体験や、それを重視する考え方（神秘主義）について学ぶ。 第6回：神道I 日本に古くからある神道を概観する。 第7回：神道II 国学者たちの思想と神仏習合について学ぶ。 第8回：仏教I 仏教を概観し、原始仏教がどんなものだったかをみる。 第9回：仏教II 日本で盛んな大乘仏教を、空や菩薩といった概念を手がかりに学ぶ。 第10回：ヒンドゥー教 インドで盛んであり仏教とも関わりが深いヒンドゥー教を学ぶ。 第11回：キリスト教I キリスト教を、ユダヤ教とともに歴史をさかのぼって概観し、イエスの教えを学ぶ。 第12回：キリスト教II カトリック教会とプロテスタントについて学ぶ。 第13回：イスラム教I キリスト教と並び多数の信者を世界中にもつイスラム教を学ぶ。 第14回：イスラム教II 『コーラン』が他宗教をどう評価しているか、スンニ派とシーア派の違いは何かなどを学ぶ。			
3. 履修上の注意 リアクションペーパーが講義各回にあるので、出席は重要です。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 電子媒体なりで配布した資料に、速読でいいので目を通しておいってください。			
5. 教科書 使用しません。資料は必要に応じ電子データを配布します。			
6. 参考書 講義中に適宜紹介していきます。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーを読んだ結果得た所見を、総括的に講義にてお話しします。			
8. 成績評価の方法 ・リアクションペーパー 3x 14 = 42% ・期末テスト 58% ・ボーナスポイント課題あり			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)PHL311J			
哲学基礎論			枝村 祥平
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 哲学は、新しい人間観・世界観を生み出そうとする知の営みであり、古代より現代まで続いています。前期では古代ギリシアでよく論じられ、かつ現代でも重要な基礎的問題を扱います。 <到達目標> 1. 善、幸福、快楽などについて考えることで、個人として生きる指針の手がかりを得る。 2. 政治参加や社会制度などの意義を考え、社会人として生きる指針を模索する。 3. 宗教、教育、芸術を哲学的視点から考える。			
2. 授業内容 第1回：ガイダンス 講義の概要を伝える 第2回：善く生きるI プラトンの著作を手がかりに、ソクラテスが考えたところの吟味を続ける生き方を学ぶ。 第3回：善く生きるII アリストテレスを手がかりに、幸福と快楽の概念を学ぶ。 第4回：善く生きるIII 快楽だけが善いものだとする考え方とその問題点を学ぶ。 第5回：善く生きるIV 人生や歴史にストーリーを見出す物語論と、それを超えようとする哲学を学ぶ。 第6回：社会人・市民として生きるI 形式的な道徳と、そうでない道徳を対比して学ぶ。 第7回：社会人・市民として生きるII アリストテレス、ロックなどを通じて政治参加の意義について考える。 第8回：社会人・市民として生きるIII プラトン、ロールズなどを通じて理想的な社会制度について考える。 第9回：社会人・市民として生きるIV 自然法思想と法実証主義について学ぶ。 第10回：哲学と宗教I 哲学者たちが宇宙全体をどう理解してきたかを学ぶ。 第11回：哲学と宗教II トマス・アクィナス、スピノザなどを通じ、人格神論と汎神論を学ぶ。 第12回：哲学と宗教III 仏典における「宗教」をreligionと対比しながら学ぶ。 第13回：哲学と教育 厳格な教育と自由にさせる教育、及びそれらの長所・短所を考える。 第14回：哲学と芸術 プラトン、ライプニッツ、カントなどの美学を学ぶ。			
3. 履修上の注意 リアクションペーパーがあるので、出席は重要です。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 電子媒体なりで配布した資料に、速読でいいので目を通しておいってください。			
5. 教科書 使用しません。資料は必要に応じ電子データを配布します。			
6. 参考書 講義中に適宜紹介していきます。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーを読んだ結果得た所見を、総括的に講義にてお話しします。			
8. 成績評価の方法 ・リアクションペーパー 3 x 14 = 42% ・期末テスト 58% ・ボーナスポイント課題あり			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)PHL311J			
哲学			枝村 祥平
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 哲学は、新しい人間観・世界観を生み出そうとする知の営みであり、古代より現代まで続いています。後期では近代ヨーロッパから現代まで論じられ続けている重要な問題を扱います。17世紀に自然科学は大きく発達し、それに伴い科学はどの程度正確な知識をもたらすのか、そもそも知識とは何かが問われました。また国家が肥大化するにつれ、改めて社会や国家のあり方が模索され、国々が織り成す歴史がどのようなものかが問われたりもしました。このクラスを科学技術が発達し複雑化した世の中にいる私たちが生きる指針を得るきっかけにしたいと思います。 〈到達目標〉 1. 私たちの知識がどのような根拠をもっているのかを考え、意見や学説などを批判的に捉えることができるようになる。 2. 私たち自身について考えをめぐらせることで、自分自身ひいては人間についてより深い理解を得る。 3. 現代大変発達している自然科学を、その根拠に遡って考える。 4. ダイナミックに動いている歴史について、哲学的視点から考える。			
2. 授業内容 第1回：ガイダンス 講義の概要を伝える 第2回：認識論Ⅰ デカルトによる懐疑など、近代認識論の重要事項を学ぶ。 第3回：認識論Ⅱ 真理の基礎付け説と整合説を通じて、現代のあるべき認識論を探る。 第4回：自分とは？Ⅰ デカルト、ヒューム、カントなどを通じて、近代の自我論を学ぶ。 第5回：自分とは？Ⅱ ライブニッツやフロイトなどを通じ、無意識の領域について考える。 第6回：自分とは？Ⅲ 現代の心の哲学を手掛かりに心身問題について考える。 第7回：哲学と科学Ⅰ 科学を捉える上で重要な二つの立場（科学的事実論と現象主義）を学ぶ。 第8回：哲学と科学Ⅱ クーンを手掛かりに、科学の歴史的な発展について考察する。 第9回：哲学と科学Ⅲ ハイデッガーなどを手掛かりに、科学に対する批判的視点を学ぶ。 第10回：哲学と科学Ⅳ ニーチェ、フーコーの思想、及び彼らの影響を受けた社会構成主義を学ぶ。 第11回：哲学と歴史Ⅰ ヘーゲルを手がかりに、歴史や哲学史の流れのつかみ方を考える。 第12回：哲学と歴史Ⅱ マルクスやフクヤマを通じて、経済に着目した歴史哲学を学ぶ。 第13回：哲学と歴史Ⅲ 戦時中の日本人哲学者による歴史哲学を学ぶ。 第14回：哲学と歴史Ⅳ 戦後の日本人による歴史哲学を学ぶ。			
3. 履修上の注意 リアクションペーパーが講義各回にあるので、出席は重要です。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 電子媒体などで配布した資料に、速読でいいので目を通しておいってください。			
5. 教科書 使用しません。資料は必要に応じ電子データを配布します。			
6. 参考書 講義中に適宜紹介していきます。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーを読んだ結果得た所見を、総括的に講義にてお話しします。			
8. 成績評価の方法 ・リアクションペーパー 3 x 14 = 42% ・期末テスト 58% ・ボーナスポイント課題あり			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAT151J			
数学A			高澤陽太朗
2単位	1年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 経営・経済学の理論を学ぶ際に必要な数学の基礎的な部分を、経営・経済学上の例を通して学ぶ。数学Bと比較して、数学Aでは特に論理や数学の基礎的な用語の定義を扱う。 <到達目標> 経営学やその他周辺分野で登場する数学的内容を自分で調べて理解できるようにするための土台を形成することを目標とする。			
2. 授業内容 1. イントロダクション 2. 集合 3. 命題 4. 述語 5. 集合・直積 6. 2変数以上の述語 7. 妥当な論証 8. 証明の練習1 9. 証明の練習2 10. 写像1 11. 写像2 12. 写像3 13. 数列1 14. 数列2			
3. 履修上の注意 数学の初歩から学ぶため、高校数学の理解度が低くても問題はない。ただし、毎回課題があるためそれをこなす必要があることに注意。また、高校数学の「数学A」で習う内容とは無関係であることに注意。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習の必要はないが、復習として各回の演習課題に取り組むこと。			
5. 教科書 『論理と集合から始める数学の基礎』嘉田勝（日本評論社）			
6. 参考書 特になし。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各課題の解答解説は次の回に行う。			
8. 成績評価の方法 各回の講義内に行うアクティビティ 30% + 各回に出題される講義後の小レポート 70% 期限締切後のレポート提出は原則評価しないことに注意。 4回以上の欠席者は成績評価対象外になります。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAT151J			
数学B			高澤陽太朗
2単位	1年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 経営・経済学の理論を学ぶ際に必要な数学の基礎的な部分を、経営・経済学上の例を通して学ぶ。数学Aと比較して、数学Bでは特に経済・経営で必要な必要最小限の数学のツールを学ぶ。 <到達目標> 経営学やその他周辺分野で登場する数学的内容を自分で調べて理解できるようにするための土台を形成することを目標とする。			
2. 授業内容 1. イントロダクションと1章前半 2. 1章後半 3. 2章 4. 3章 指数と対数 5. 3章 指数と対数 6. 4章 指数・対数と貯蓄 7. 4章 指数・対数と貯蓄 8. 5章 1変数の微分と利潤最大化 前半 9. 5章 1変数の微分と利潤最大化 後半 10. 6章 ベクトルと予算制約 11. 6章 ベクトルと予算制約（+多変数関数） 12. 最適化問題と線形計画法 13. 回帰分析 14. まとめ			
3. 履修上の注意 数学Aを受講していることが望ましいが、数学Aの内容とは独立しており、数学の初歩から学ぶため高校数学の理解度が低くても問題はない。ただし、毎回課題があるためそれをこなす必要があることに注意。また、高校数学の「数学B」で習う内容とは無関係であることに注意。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習の必要はないが、復習として各回の演習課題に取り組むこと。			
5. 教科書 『経済学で出る数学 高校数学からきちんと攻める』尾山大輔・安田洋佑著（日本評論社）			
6. 参考書 特になし。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各課題のフィードバックは次の回に行う。			
8. 成績評価の方法 各回の講義内に行うアクティビティ 30% + 各回に出題される講義後の小レポート 70% 期限締切後のレポート提出は原則評価しないことに注意。 4回以上の欠席者は成績評価対象外になります。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAT151J			
数学A			船越正太
2単位	1年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 経営・経済の理論を学ぶ際に、基礎的な数学の知識は理解を深める上で必要不可欠なものであることはいまでもない。本講義では、高校での数学とは一味異なり、損益分岐点や線形計画問題を始めとして、経営や経済の問題への応用を重視しながら、文系でもこれからの時代に対応して数値化されたデータを扱う数学的な手法に慣れてもらうことを目指す。 <到達目標> 様々な具体的な例題や演習を通して、経営・経済の理論に必要な数学の基本的な知識や考え方を学ぶことを目標とする。			
2. 授業内容 第1回：損益分岐点 第2回：ドル・コスト平均法 第3回：2次関数 第4回：指数関数 第5回：対数関数 第6回：微分係数と導関数 第7回：導関数の計算 第8回：いろいろな関数の導関数 第9回：微分法のまとめ 第10回：経済学での微分 第11回：数列 第12回：漸化式 第13回：関数の増減と極値問題 第14回：総合演習 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。			
3. 履修上の注意 中学高校数学と、大学における発展的な数学を文系数学の立場から見通しよく整理して講義する。数学は理論を積み上げていく教科なので、一度遅刻、欠席するとまったく理解出来なくなることがある。熱意を持って受講することを希望する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習については、教科書の次回講義予定の章をよく読んで、分からない箇所をまとめておく。復習については、講義のあったその日のうちに基本公式などの重要事項について十分に復習するとともに、理解できなかった点を整理し、質問の準備をすること。講義で出題した例題と演習問題は、解答を見ずに再度自分で解いて見ること。想定学修時間：1回の授業につき、予習・復習それぞれ2時間程度。			
5. 教科書 『例題と演習で学ぶ 文系のための数学入門 第4版』藤本佳久著（学術図書出版社）2017年			
6. 参考書 以下の参考書も自習用に推薦する。 『経済学のための数学の基礎15講』小林幹著（新世社）2018年 『改訂版 経済学で出る数学 高校数学からきちんと攻める』尾山大輔・安田洋祐著（日本評論社）2013年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 演習課題の解答解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。			
8. 成績評価の方法 定期試験（60％）と平常点（40％）により評価する。出席が授業回数の3分の2に満たない者は単位の認定を受けることができない。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAT151J			
数学B			船越正太
2単位	1年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 経営・経済の理論を学ぶ際に、基礎的な数学の知識は理解を深める上で必要不可欠なものであることはいまでもない。本講義では、高校での数学とは一味異なり、損益分岐点や線形計画問題を始めとして、経営や経済の問題への応用を重視しながら、文系でもこれからの時代に対応して数値化されたデータを扱う数学的な手法に慣れてもらうことを目指す。 <到達目標> 様々な具体的な例題や演習を通して、経営・経済の理論に必要な数学の基本的な知識や考え方を学ぶことを目標とする。			
2. 授業内容 第1回：行列の定義と加法・減法・実数倍 第2回：行列の乗法 第3回：行列の乗法の性質 第4回：1次変換 第5回：逆行列 第6回：連立1次方程式と行列 第7回：掃き出し法 第8回：掃き出し法による逆行列の求め方 第9回：2次および3次の行列式 第10回：行列式の展開 第11回：行列式の性質 第12回：逆行列の公式とクラメル公式 第13回：産業連関問題 第14回：総合演習 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。			
3. 履修上の注意 中学高校数学と、大学における発展的な数学を文系数学の立場から見通しよく整理して講義する。数学は理論を積み上げていく教科なので、一度遅刻、欠席するとまったく理解出来なくなることがある。熱意を持って受講することを希望する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習については、教科書の次回講義予定の章をよく読んで、分からない箇所をまとめておく。復習については、講義のあったその日のうちに基本公式などの重要事項について十分に復習するとともに、理解できなかった点を整理し、質問の準備をすること。講義で出題した例題と演習問題は、解答を見ずに再度自分で解いて見ること。想定学修時間：1回の授業につき、予習・復習それぞれ2時間程度。			
5. 教科書 『例題と演習で学ぶ 文系のための数学入門 第4版』藤本佳久著（学術図書出版社）2017年			
6. 参考書 以下の参考書も自習用に推薦する。 『経済数学15講』小林幹・吉田博之著（新世社）2020年 『改訂版 経済学で出る数学 高校数学からきちんと攻める』尾山大輔・安田洋祐著（日本評論社）2013年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 演習課題の解答解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。			
8. 成績評価の方法 定期試験（60％）と平常点（40％）により評価する。出席が授業回数の3分の2に満たない者は単位の認定を受けることができない。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)STA111J			
統計学A			鶴田 靖人
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 現代では、IT技術の進歩により、データを分析することで有益な知見を効率的に獲得できるようになった。そのため、データ分析を適切に行うための知識は重要である。授業の前半では「データのまとめ方」の方法を学びながら統計的な考え方を身に着ける。後半では、確率論の基礎を学びランダムに発生する現象を説明できるようになることを目指す。多くの統計手法が「確率論を応用してデータの背後にある本質的な構造を推測する」ことを目的としている。そのため、確率論は、統計学Bで学ぶ統計的推論の基礎知識となっている。 <到達目標> 1. データが持つ特徴を記述統計量と呼ばれる指標を用いて要約しデータの特徴を説明できる。 2. 相関関係を理解し回帰分析手法を身に着けることで、複数のデータの関係性を明らかにできる。 3. 確率論の基礎を理解しランダムな現象を説明することができる。			
2. 授業内容 第1回 統計学とは何か？、度数分布表、ヒストグラム 第2回 データの位置の指標（1）代表値、算術平均、幾何平均、調和平均 第3回 データの散らばりの指標（1）範囲、分散 第4回 データの散らばりの指標（2）標準化変量、変異係数 第5回 相関関係 相関係数 第6回 回帰分析（1）最小2乗法 第7回 回帰分析（2）決定係数 第8回 確率とは何か？ 第9回 確率の基礎 加法定理、条件つき確率、乗法定理 第10回 ベイズの定理 第11回 確率変数と確率分布 第12回 2変数の確率分布 第13回 離散分布、二項分布、ポワソン分布 第14回 連続分布、正規分布			
3. 履修上の注意 毎回の演習問題では、計算問題を出题するので電卓を必ず持つてくること。電卓は四則演算、%、平方根の計算ができるものが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、毎回、教科書の該当部分を読み、専門用語の意味を確認した上で自分なりの疑問点、問題点を整理すること。 復習として、講義資料を読み直して講義内容を整理するとともに講義中に出題した計算問題や教科書の章末の練習問題を自分で解いてみること。			
5. 教科書 『基本統計学 第5版』宮川公男（有斐閣）			
6. 参考書 なし			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meijiを利用してフィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 期末試験（60%）、課題（40%）			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)STA111J			
統計学B			鶴田 靖人
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 統計学Bでは、統計学Aで学んだ確率論などの基礎知識をもとに、統計的推論の基礎的な内容を身に着けることを目指す。統計的推論は、「確率論を応用してデータの背後にある本質的な構造を推測する」ことを目的としている。しかし、実際のデータ分析では、入手できるデータは全体のデータの一部分しかないのである。しかしながら、統計的推論を用いることで、全体の平均値を推測したり、仮説の妥当性を検証したりすることが可能となる。 <到達目標> 1. 確率の考え方を使って、データ全体（母集団）から一部（標本）をランダムに抽出する標本調査の仕組みを説明できる。 2. 標本から母集団の性質を推測する統計的推論（推定、検定）を正しく使用し、自分が立てた仮説の妥当性を検証できる。 3. 回帰分析の統計的な性質を理解した上で回帰係数の統計的推論を行うことができる。			
2. 授業内容 第1回 標本分布（1）母集団と標本 標本統計量 第2回 標本分布（2）大数の法則、中心極限定理 第3回 標本分布（3）χ^2分布、t分布 第4回 区間推定（1）比率の区間推定 第5回 区間推定（2）平均の区間推定 第6回 区間推定（3）分散の区間推定、標本の大きさの決め方 第7回 点推定 不偏性、最尤推定法 第8回 仮説検定（1）比率の仮説検定 第9回 仮説検定（2）平均の仮説検定 第10回 仮説検定（3）分散の仮説検定、分割表の仮説検定 第11回 仮説検定（4）平均値の差の検定（PC演習） 第12回 回帰の推測統計理論（1）回帰係数の標本分布 第13回 回帰の推測統計理論（2）回帰係数の区間推定と仮説検定（PC演習） 第14回 回帰の推測統計理論（3）重回帰分析、自由度調整（PC演習）			
3. 履修上の注意 毎回の演習問題では、計算問題を出题するので電卓を必ず持つてくること。電卓は四則演算、%、平方根の計算ができるものが望ましい。一部の授業ではEXCELなどを用いたデータ分析の演習を行う。該当回ではPCを持参すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、毎回、教科書の該当部分を読み、専門用語の意味を確認した上で自分なりの疑問点、問題点を整理すること。 復習として、講義資料を読み直して講義内容を整理するとともに講義中に出題した計算問題や教科書の章末の練習問題を自分で解いてみること。			
5. 教科書 『基本統計学 第5版』宮川公男（有斐閣）			
6. 参考書 なし			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meijiを利用してフィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 期末試験（60%）、課題（40%）			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)CBI111J			
生物学A			福原 敏行
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 現代社会は、ウイルス、遺伝子組換え食品、クローン生物、iPS細胞など「生物学」に関する話題で満ちており、「生物学」に関する基礎的な知識は欠かすことは出来ません。生物学Aでは、「生物学」の基礎となる細胞の構造や機能、細胞の機能を担う遺伝子(DNA, RNA)やタンパク質の構造やはたらきを学習し、「生物学」に関するさまざまな話題を理解するための基礎知識を得ます。 生物の基本単位である細胞の構造と機能を理解し、細胞機能になう遺伝子とタンパク質のはたらきに関する基礎的用語を理解することができることを到達目標とします。			
2. 授業内容 第1回 生物（生命）とは 第2回 生命の分子 第3回 細胞の構造 第4回 細胞の機能 第5回 細胞呼吸・光合成 第6回 生体膜と膜輸送 第7回 中間試験 第8回 遺伝・遺伝子・染色体・細胞分裂 第9回 DNAの構造・複製 第10回 遺伝子発現 第11回 遺伝子発現調節 第12回 遺伝子工学・バイオテクノロジー 第13回 PCR検査 第14回 期末試験			
3. 履修上の注意 高校の「基礎生物学」の知識を前提として講義を行います。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 高校の「基礎生物学」や参考書などで自習・復習してください。			
5. 教科書 特に定めません			
6. 参考書 『エッセンシャル・キャンベル生物学』池内昌彦・伊藤元己・著 本春樹 監訳（丸善）。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 講義毎のレポート課題 50% 中間試験 25% 期末試験 25%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)CBI111J			
生物学B			福原 敏行
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 生物学Bでは、生物学Aで学習した基礎知識をもとに、バイオテクノロジー、ウイルス、ゲノム、遺伝子クローニング、遺伝子組換え植物、クローン生物、iPS細胞、RNA干渉などの生物学に関係する最新の話題をとりあげ、生物学的な見方・考え方を紹介します。 身近な生命現象や生物学関連技術に関する話題を理解し、自らの意見を述べることを到達目標とします。			
2. 授業内容 第1回 講義の概要 バイオテクノロジーとは 第2回 食品とバイオテクノロジー 第3回 酵素反応、触媒、医薬品 第4回 感染症治療薬 第5回 ウイルス、新型コロナウイルス 第6回 ウイルス病治療薬、ワクチン、抗体 第7回 中間試験 第8回 農業、品種改良 第9回 遺伝子発現制御、ホメオティック変異 第10回 分化全能性、iPS細胞、クローン生物 第11回 遺伝子組換え生物 第12回 遺伝子組換え植物 第13回 ゲノム トランスポゾン 第14回 期末試験			
3. 履修上の注意 高校の「基礎生物学」の知識を前提として講義を行います。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 高校の「基礎生物学」や参考書などで自習・復習してください。			
5. 教科書 特に定めません			
6. 参考書 『カラー図解 E U R O 版 バイオテクノロジーの教科書（上）・（下）』小林達彦 監修（講談社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 講義毎のレポート 50% 中間試験 25% 期末試験 25%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)BPH171J			
物理学A		奥 出 信 一 郎	
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この世は物質、熱、光、音、電気満ちており、それらが連鎖と絡み合って複雑な現象が起きています。実はこれらは全て例外なく10個にも満たない基本的な物理法則に従って生起しているのです。これらの物理法則はいずれも簡潔で美しい数式で表現されています。近年、計算機の性能が飛躍的に向上したため、これらの基本的な数式に基づいて、相当複雑な現象であっても数理的な計算機シミュレーションで理論的に再現できるようになってきました。今まさに産業界ではこの数理科学が大々的に活用されはじめています。特に今、生物学と物理学が地続きになつており、将来的には新しいビジネスモデルが生まれてくるかもしれません。 〈達成目標〉 この様な状況を鳥瞰的に見る能力をつけるために、物理学の基礎を小学校の算数から出発して説明していきます。			
2. 授業内容 第1講 新幹線が東京を出て、新橋、品川、武蔵小杉・・・通過していくとしましょう。何人かで手分けして各地点で通過時刻を時計で測り、隣接する2地点の間の距離を地図で調べ、各区間を通ずるのにかかった時間を後で集計すれば、区間平均速度(区間距離÷区間通過時間)が計算できます。通過順に平均速度を並べると、平均速度が次第に増加していく(＝加速度)ことも分かります。これが「差分」の考え方です。差分の区間を際限なく細かくしたのが微分です。方眼紙を使ってデカルト座標を理解しよう。微分の公式を、小学生の算数を用いて導き出そう。力、速度、加速度、質量、作用と反作用、力のつりあい、を理解しよう。 第3講 一定の短い時間区切り、 Δt 、の間の平均速度を、 v_t 、とすると、 Δt 秒の間に進んだ距離、 Δx_t 、は、 $\Delta x_t = v_t \cdot \Delta t$ で与えられます。0秒からT秒までの間の、 Δx_t 、たちを足し合わせると、0秒からT秒までの間に進んだ距離、 X が得られます。 Δt を無限に小さくして Δx_t を足し合わせる事を、積分と言います。 第5講 コンピュータープログラミング 第6講 高校の数学 exp 第7講 高校の数学 sin cos 第8講 重りをつけたバネの振動 単振動 第9、10講 熱力学1、2 熱エネルギーと運動エネルギー。石炭を燃やす蒸気機関や、ガソリンを燃やす自動車のエンジンは、熱エネルギーを運動エネルギーに変換する熱機関です。産業革命が起きた時、突極の熱機関を目指す努力の中から、熱力学が生まれました。熱は高温から低温に流れる・気体は高圧から低圧に流れる・・・これがエントロピー増大の法則です。エントロピー増大の法則を、簡潔な数式で表現してみよう。 第11講 電荷を帯びた物体を二つ並べると、それらの物体の間に力が働きます(クーロン力)。「電場が時間変化するとその周りに磁場が発生する(これは基本的な物理法則の一つです)。このようにして生じた磁場が時間変化するとその周りに電場が発生する(これも基本的な物理法則の一つです)。その電場が変化すると・・・」このように電場と磁場の時間変化が際限なく互いが互いの原因となって連鎖と連鎖し、空間中を進んでエネルギーを運んでいくのが電磁波です。電磁気学に親しもう。以上の現象は、sin cos を用いるとエレガントな数式で表現できます。 第12講 ニュートン力学の限界： 原子核の周りを電子が回っていると言われて良いのでしょうか(世界に先駆けた長岡半太郎モデル。オランダ人のボーアの理論)? 原子の理解を阻んだ、電磁気学とニュートンの力学のパラドックス。製鉄所の溶鉱炉の中の温度測定のために現場で考案された経験則を、ボルツマンの法則を用いてドイツ人のプランクが完璧に説明した。プランクの大胆仮説によって誕生し、シュレディンガーの波動関数(これも基本的な物理法則の一つです)で定式化された量子力学が、電磁気学とニュートンの力学の間のパラドックスを解決。ここまで理解すると、地球温暖化現象のメカニズムが物理で明瞭に分かります。 第13講 量子力学の基礎方程式であるシュレディンガー方程式を、サイン・コサイン・タンジェント・指数関数を用いて表現してみよう。 第14講 気体の性質を剛体球でシミュレーションしよう。エネルギー単位をサイコロの目に見立ててモデルを作ると、熱力学の公式を、エレガントな数式で表現できます。これが、統計力学 第15講 地球温暖化と、それを解決するための最先端テクノロジー			
3. 履修上の注意 小学生の算数レベルから始めて、順番に、物理学の基礎を解説していくので、極力、リアル対面授業を、欠席しないように頑張って毎回出席してください。出席点をつけます。学習の補助(予習・復習)のためのオンデマンドビデオを準備する予定ですが、基本的にはオンデマンドビデオのみによる学習は、出席にはカウントしません。但し、部活の試合等々でどうしても出席できない場合は、その旨を事前に奥出までメールしていただければ基本的に出席にカウントします、アップしたオンデマンドビデオを抜かさずすべて見て下さい。 質問等々ある方は、以下のメールアドレスまでメールしてください。 okude.tokyokaiyoudaigaku@gmail.com 授業中の質問、メールによる質問は大歓迎。			
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 予習は必要ありません。気になったところがあれば、講義が終わったら、講義ノート、オンデマンドビデオに目を通しましょう。質問歓迎。			
5. 教科書 udemyのビデオ教材 「麻衣と一緒に Excel VBA プログラミング教室」 当分の間 https://www.udemy.com/course/excel-vba-m/learn/lecture/27126272?overview から無料登録できて、無料登録後は自由に無料で視聴できるようになります。 (うまく無料登録できない場合は okude.tokyokaiyoudaigaku@gmail.com までメールをください)			
6. 参考書 『楽しい高校物理』Kindle版 (Amazon) 電子ブック。 奥出 信一郎(著)、村松 真砂子(イラスト) 『物理学I (ニュートン力学) 中学・高校・大学・社会人一貫教育 (UDEMY 動画教材)』 奥出 信一郎(著)、宮下夏子・村松 真砂子(イラスト)			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 トータルの成績 ＝期末試験の成績 + 毎回の小テストの成績累計 + 出席点 ただし、足し算が100点を越えた場合は、上限100点とします。 学期末の試験で90%決めます。 出席点は1講義で1点とし、累計をとります 必要に応じて、基本的には各講義の後に、小テストを実施(各回、5問、5点満点)します。小テストの各回の成績の累計は学期末の試験に加算します。 追試が必要な場合は、追試を行いません。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)BPH171J			
物理学B		奥 出 信 一 郎	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 真空管、電子回路、ラジオ、トランジスタ、レーザー、LED、光通信、スーパーコンピュータ、インターネットなど、産業界における物理学の活用事例をいくつか紹介するとともに、それらが、どうして産業界を激変させ力を持っていたのかを、作動原理に遡って簡単に紹介します。ここで、物理学Aの講義で学んだ物理学の知識があれば、作動原理がサクサク理解できます。また、昨今の、化学と物理学の融合、生物学と物理学の融合の動向と基礎研究の最先端の事例を簡単に紹介して、将来新技術が出現する可能性の一端をご紹介します。もちろん、現時点では物理学は万能ではありません。塩の塩からさを理解するには実際に舐めてみるしかありません。数式をいくら脱んでも塩からさは実感できません。これが現代物理学で扱いきれていない最たるものです。現代物理学の限界と、これからありうる展望を述べます。物理Aで学んだ物理数学が、どのように、就職後の仕事に役立つかのケースを想定して、実例をあげて解説します。 〈達成目標〉 過去における新技術の出現と、その時の、企業経営者の苦悩と興奮が、物理学の知識によって、よりリアルに理解できるようになる事を目指します。また、将来の新技術出現に注意を払う事が可能となる、最低限の技術的素養を身につける事を目指します。物理Aで習った物理数学が、就職後の仕事で役立つ可能性が高いケースを紹介。			
2. 授業内容 第1講 金融工学 第2講 カイ二乗法とニューラルネットワーク 第3講 電子回路、真空管、ラジオ、レーダー。電子計算機。第二次世界大戦の勝敗を分けたエレクトロニクス技術。 第4講 レーザー開発物語。白熱灯、蛍光灯。1960年：レーザー物語：え？コヒーレント光？何に使うの？ 第5講 技術革新と事業構造改革。過去の事例報告 第6講 風雲の日本の半導体産業とその凋落 第7講 スーパーコンピュータを用いた光合成メカニズムの理論研究 第8講 スーパーコンピュータの産業利用。最先端のハイテク新素材開発競争の最先端事情 第9講 基礎的な計測技術。シンクロトロン・ラディエーションとspring 8。核磁気共鳴とNMR。赤外分光。超高感度質量分析はか。 第10講 物理学的手法の経営への応用(経営工学) 1 QC七つ道具と散布図 第11講 物理学的手法の経営への応用(経営工学) 2 相関と重回帰分析 第12講 物理学的手法の経営への応用(経営工学) 3 数学的手法を用いた生産計画の最適化 第13講 物理学的手法の経営への応用(経営工学) 4 モンテカルロシミュレーションを用いた在庫管理 第14講 音の物理学。各地の風鈴の音を、フーリエ変換法を用いて解析 第15講 a試験 b講義全体の振り返りと試験の正答解説			
3. 履修上の注意 物理学Bは自己完結していて、予備知識は必要とはしませんが、物理学Aを履修している、物理学Bの講義が何倍にも楽しくなります。是非物理学Aをも受講しておいてください。 物理学Bでは、主に、産業界で物理学が用いられている具体事例を中心に解説します。出席点をつけます。学習の補助(予習・復習)のためのオンデマンドビデオを準備する予定ですが、基本的にはオンデマンドビデオのみによる学習は、出席にはカウントしません。但し、部活の試合等々でどうしても出席できない場合は、その旨を事前に奥出までメールしていただければ基本的に出席にカウントします、アップしたオンデマンドビデオを抜かさずすべて見て下さい。 質問等々ある方は、以下のメールアドレスまでメールしてください。 okude.tokyokaiyoudaigaku@gmail.com 授業中の質問、メールによる質問は大歓迎。			
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 予習は必要ありません。気になったところがあれば、講義が終わったら、講義ノート、オンデマンドビデオに目を通しましょう。質問歓迎。			
5. 教科書 指定しません。			
6. 参考書 『楽しい高校物理』Kindle版 (Amazon) 電子ブック。 奥出 信一郎(著)、村松 真砂子(イラスト) 『物理学I (ニュートン力学) 中学・高校・大学・社会人一貫教育 (UDEMY 動画教材)』 奥出 信一郎(著)、宮下夏子・村松 真砂子(イラスト)			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 トータルの成績 ＝期末試験の成績 + 毎回の小テストの成績累計 + 出席点 ただし、足し算が100点を越えた場合は、上限100点とします。 学期末の試験で90%決めます。 出席点は1講義で1点とし、累計をとります 必要に応じて、基本的には各講義の後に、小テストを実施(各回、5問、5点満点)します。小テストの各回の成績の累計は学期末の試験に加算します。 追試が必要な場合は、追試を行いません。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)BCH191J			
化学A			久 富 木 志 郎
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 【概要】化学Aでは、化学の基礎となる原子や分子の構造やそれらの性質について学ぶ。講義全体を3つに分割し、最初の4回の講義では、原子と分子について学ぶ、続く中盤の5回では化学結合について、さらに、最後の5回では無機物質について学ぶ。 【到達目標】化学Aでは中学や高校で学んだ、原子や分子に関する内容に立脚し、化学の概念についてさらに詳細な知識を習得する。具体的には次の3点を目標とする。 I. 原子の構造や元素の性質を説明できる。 II. 分子を構成する化学結合の様式について説明できる。 III. 無機物質の構造について説明ができる。 上記内容の理解により、これらと経済との結びつき、例えば放射能汚染問題や新素材開発に関するコストの問題の解決につながる広い視野を、履修学生が手に入れる一助とする。			
2. 授業内容 第1回：原子と分子（1）aのみ：化学とは 第2回：原子と分子（2）元素：原子・分子 第3回：原子と分子（3）原子量・分子量：元素の周期表 第4回：原子と分子（4）原子の電子構造：放射性元素 第5回：化学結合（1）イオン結合：共有結合 第6回：化学結合（2）分子の構造 第7回：化学結合（3）分子間力① 第8回：化学結合（4）分子間力② 第9回：化学結合（5）金属結合 第10回：無機物質（1）元素の分類：非金属単体 第11回：無機物質（2）非金属の水酸化物と酸化物：金属単体 第12回：無機物質（3）金属の化合物 第13回：無機物質（4）錯イオン 第14回：無機物質（5）金属イオンの定性分析			
3. 履修上の注意 教科書に基づいて講義を実施する。他に必要な資料はOh-olMeijiに配布する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各講義回の単元を履修した後、内容理解のため、演習の解答に取組む。講義の前後で、教科書の演習の解法の予習・復習をしておくことが望ましい。			
5. 教科書 『一般化学（四訂版）』著 長島・富田、(裳華房)			
6. 参考書 『Catch UP 大学の化学講義 -高校化学とのかけはし（改訂版）』著 杉森・富田、(裳華房)			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各講義回の次の回に、前回出題分の課題の解説を行う。			
8. 成績評価の方法 中間・期末テスト(30%)、各章終了時のレポート(30%)、各章単元に関する小テスト(30%)、受講態度(10%)を合計し成績とする。レポートは、化学に関連した経済についてのトピックを出題する。			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA)BCH191J			
化学B			久 富 木 志 郎
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 【概要】化学Bでは、物質の状態や化学反応および有機化合物について履修する。最初の5回の講義では、物質の状態である、気体、液体、固体の性質について学ぶ。続く5回では、化学反応について学び、さらに最後の4回では有機化学の基礎について理解する。 【到達目標】化学Bでは、中学あるいは高校で学んだ、物質や化学反応に関する内容に立脚し、化学の概念についてさらに詳細な知識を習得する。具体的には次の3点を最終目標とする。 I. 有機化合物の構造について説明できる。 II. 物質の状態や性質について説明できる。 III. 化学反応速度や化学平衡について説明できる。 上の内容を理解することで、これらと経済との結びつき、例えば環境汚染や再生可能エネルギー問題解決につながる広い視野を、履修学生が手に入れる一助とする。			
2. 授業内容 第1回：有機化学の基礎（1）有機化合物 第2回：有機化学の基礎（2）有機化合物の化学式 第3回：有機化学の基礎（3）異性体 第4回：有機化学の基礎（4）有機反応 第5回：物質の状態（1）物質の状態：気体 第6回：物質の状態（2）液体・溶液 第7回：物質の状態（3）希薄溶液の性質 第8回：物質の状態（4）コロイド 第9回：物質の状態（5）固体 第10回：化学反応（1）反応速度 第11回：化学反応（2）化学変化とエネルギー 第12回：化学反応（3）化学平衡 第13回：化学反応（4）酸・塩基反応 第14回：化学反応（5）酸化還元反応			
3. 履修上の注意 教科書に基づいて講義を実施する。他に必要な資料はOh-olMeijiに配布する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各講義回の単元を履修した後、内容理解のため、演習の解答に取組む。講義の前後で、教科書の演習の解法の予習・復習をしておくことが望ましい。			
5. 教科書 『一般化学（四訂版）』著 長島・富田、(裳華房)			
6. 参考書 『Catch UP 大学の化学講義 -高校化学とのかけはし（改訂版）』著 杉森・富田、(裳華房)			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各講義回の次の回に、前回出題分の課題の解説を行う。			
8. 成績評価の方法 中間・期末テスト(30%)、各章終了時のレポート(30%)、各章単元に関する小テスト(30%)、受講態度(10%)を合計し成績とする。レポートは、化学に関連した経済についてのトピックを出題する。			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA)PHL151J			
自然科学思想史A		河村 豊	
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 自然科学の活動は、市民生活や企業経営、国家政策にとって、ますます大きな影響を果す存在になっている。自然を探究することで手に入れた成果物は、ときには、人々に常識を越える知識を提供することで思想的転換をもたらし、成果の一部を応用することにより新規の生産技術や軍事技術も生み出してきた。さらに近年では、「イノベーション」を目的とした研究開発に大規模な予算・資源を投入するだけでなく、企業戦略や国家政策の重要な対象として、科学研究が取り扱われるようになっており、世界の各企業や各国が研究開発をめぐって激しく競い合う事態を生み出している。また市民レベルにも影響を及ぼしている。こうした事態を背景に、「科学」についての知識としては、自然法則や実験手法などの内部特徴を学ぶに止まらず、科学の社会的機能を冷静に分析することから強く求められるようになっている。それゆえ、科学を戦略的に考える経営者、政策的に考える政府官僚の立場からだけでなく、自然科学の影響を受ける人々の立場、利用者の立場、支援者の立場からも、冷静に分析することが求められている。この講義では、「自然科学思想」について、科学の思想的側面も含め、さらに科学の経済的、政治的、社会的、工学的側面などにも触れながら、歴史的に「科学」を分析していく予定である。〔到達目標〕 「自然科学思想史A」では、歴史的分析の時代範囲としては、古代から18世紀までの時代を取扱い、その時代に自然科学の活動を担った人材層や、サポートをした社会階層、影響を受けた社会階層、さらに、科学的活動に対して抑制的に対応した社会階層にも注意を向けることにする。こうした歴史的分析によって、科学的活動に関わる、神話、宗教、思想的役割、あるいは知識を手にすることの政治的権威、実用的動機などを、具体的に明らかにしてみたい。自然科学研究の進展には、探求者・研究者の個人的な知的好奇心や天賦の才能が不可欠ではあるが、自然科学の歴史は天才の歴史のみでは語れず、彼らを取り巻く社会環境に大きく依存している。資料や遺物を利用した歴史的調査から見えてくることは、自然科学の歴史が、文化史という一領域に制限できないほどの多様な社会活動の一つであることを確認したい。分析方法としては、「後知恵の誤謬」、「正当化の圧力」を避けるなど、歴史学手法の基礎を学ぶことも含む。			
2. 授業内容 ※授業すべてで期末試験は対面授業で行う。ただし、第1回目から中間試験を設定し、この回のみ教室に来ることなく、設定された期間内にOh-olMeijiシステム上で行われる。 第1回：講義概要について説明〔対面授業〕 講義方法など。科学に関わる現状・科学技術、研究開発、科学技術政策、科学の推進者など 第2回：科学と技術の起源〔対面授業〕 最古の技術、経験的知識、自然認識と技術知、わざと手段、自然観の起源など 第3回：古代文明の科学・技術〔対面授業〕 権力者と知識独占、神話的自然観、ヒッタイトと製鉄学など 第4回：古代ギリシャの科学〔対面授業〕 脱神話的自然観、タレス、ピタゴラス、プラトン、アリストテレスなど 第5回：古代ギリシャ・ローマの科学〔対面授業〕 アレクサンドリア、ムセイオム、アルクメデス、ローマ科学、エピクロス学派 第6回：アラビア語の科学〔対面授業〕 ペルシャ科学、イスラム教、バグダード、智慧の館、医学、幾何学など 第7回：中間試験〔メディア授業（オンデマンド型）〕 教室に来ることなく、所定の期間内にOh-olMeiji上で受講・解答提出 第8回：西欧・スロ科学〔対面授業〕 ブラウ、十字軍、12世紀ルネサンス、修道院、大学、仮言的論証など 第9回：イタリア・ルネサンスと科学〔対面授業〕 フィレンツェ公会議、ヒューマニスト、高級職人、ダ・ビンチなど 第10回：スロ科学改革派〔対面授業〕 コペルニクス、天動説、地動説、科学と宗教、ケプラーなど 第11回：科学革命（1）〔対面授業〕 ガリレイ、アリストテレス自然科学、実験と観察、地動説、宗教裁判など 第12回：科学革命（2）〔対面授業〕 F・ベーコン、ニュートン、帰納法、演繹法、力学的自然観、科学制度など 第13回：18世紀啓蒙主義と科学革命〔対面授業〕 科学革命がもたらした社会的影響、ニュートンとフランス啓蒙主義、『百科全書』 第14回：期末試験〔対面授業〕 対面による期末試験			
3. 履修上の注意 ①毎回の講義ごとにリアクション課題やクイズに答えてもらいます。課題は、50字程度の論述で、授業終了時に出席カードとともに回収します。 ②第1回目に中間試験を設定し、こちらは、教室に来ることなく所定の期間内で、Oh-olMeiji上のこの科目の「クラスウェブ」に掲載される中間試験問題に解答してもらいます。試験範囲は第1回から第6回までの予定。 ③最終授業日に実施する期末試験は、教室での対面形式となる予定。試験範囲は第1回から第13回までの予定。 ④講義には、教科書その他、毎回の講義で利用する投影資料の縮小版を「クラスウェブ」に掲載する予定。授業に併せてダウンロードし、授業で利用することがもっとも効果的な受講方法となります。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の講義に利用する資料は、「クラスウェブ」に掲載されるので、それを事前にダウンロードしておくことが、事前準備の作業となります。期末試験では、紙媒体資料の持ち込みは許可する予定ですが、電子機器の持ち込みは許可されません。したがって、資料のダウンロードは、紙媒体で行い、それを講義中に持ち込み、その用紙をノートとして使用する。あるいはノートと併用するだけでなく、それを、試験時に持ち込むことができます。また、不明な点があった場合には、出席カードの裏を利用するなどして、質問をしてください（質問歓迎）。次の講義前に解説するよう努力します。その他に、講義後に自分で調べなどして、不明点を無くするようにしてください。			
5. 教科書 今年度より以下の教科書を利用する 河村豊、小長谷大介、山崎文徳編著『未来を考えるための科学史・技術史入門』北樹出版			
6. 参考書 講義でプロジェクトに利用するPPT資料は簡易PDF版にして、Oh-olMeijiのクラスウェブに掲載する予定。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に提出をお願いする「リアクション課題」、および中間試験については、それにかかわる情報を、当該科目のクラスウェブ上に掲載する予定である。 1. 「課題」については、次の回の講義にて解答例および採点基準について解説します。回収した用紙は返却をしませんので、自己採点のためには、「課題」提出前に、スマフォの撮影機能を利用して保存などの工夫をしてください。 2. 公欠扱いが認められた場合は、該当回の「課題」を後から提出することができます。 3. 「中間試験」については、Web型式で実施する。こちらも、個別には採点結果を返却しません。試験終了後に、解答例および採点基準を「クラスウェブ」にて公開するので、それを利用して、自己採点を行っていただきます。公開する試験終了後の情報には、解答例および採点基準に加えて、全体の成績結果分布などの情報も追加する予定です。			
8. 成績評価の方法 講義で実施するリアクション課題（出席票を利用する予定）に対して合計20％、Web型式の中間試験で30％、期末試験を50％として、評価する。			
9. その他 この講義は対面授業で実施するが、同時にOh-olMeiji上の「クラスウェブ」も活用する。上記に説明しているように、授業で利用する資料、提出してもらう課題等、中間試験、期末試験などに関わる資料などは、印刷物および配布せず、すべてデジタルデータでWebに掲載する。したがって、事前にデータをダウンロードするなどして、紙媒体にプリントするか、あるいは電子機器を授業中に持ち込むこともできます。対面形式での授業中には、毎回出題される課題に対応するために、教科書その他、デジタル資料の参照と講義の聴講の両方をおこなっていただきたい。			

科目ナンバー：(BA)PHL151J			
自然科学思想史B		河村 豊	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 自然科学の活動は現代社会の中で大きくその役割を変貌させた。「自然科学思想史A」で論じたように、古代科学や近代科学は、その科学的活動によって入手できた自然法則や自然観によって人々の常識に変更を加え、思想的転換をもたらした。さらに最新の工芸技術や生産技術、軍事技術を生み出してきた。19世紀以降では、「科学技術」（科学依存型技術：Science based Technology）が登場することで、科学と社会との関わりは、宗教・哲学・思想との関連性よりも、技術・経済・政治との関連性を強めてきた。その大きな原因は、18世紀末から登場した「ペーコンの科学」にある。近代科学までは主として、天文学、力学、数学、医学、植物学、地理学などが、公認された自然科学部門であった（「ニュートンの科学」と呼んでおく）。こうした近代科学は、植民地経営で世界に進出し始めた西欧においては、国家経営の手段でもあった。それに比べて、「ペーコンの科学」は、静電気、磁気、熱、光、液体、気体などを改良された実験装置（摩擦起電機、方位磁石、熱機関、温度計、レンズ、真空ポンプなど）を利用した物理諸科学となる知識であり、電気通信や漂白工程などへの応用が容易な知識であった。本格的な科学応用技術の時代が訪れることになった。この変化を理解した人々は、科学に対する態度を大きく変化させることになる。応用のために基礎研究を推進しようとする「科学イデオロギー」という現象も発生する。19世紀以降の「自然科学思想史」は、こうした技術的な関わりを軸にして、「科学と社会」から「科学技術と社会」という関係を生み出され、21世紀へと変化していく。この講義では、19世紀から21世紀までの科学および科学技術の歴史を扱うことになる。〔到達目標〕 「自然科学思想史B」では、技術を介した科学を中心に、科学の社会的活動を扱う。そのためには、18世紀の「産業革命」における科学と技術の関係を理解することから始める。17世紀の近代科学は18世紀の産業革命に小さく影響しか与えなかった点を確認してもらう。科学応用技術の誕生を扱った18世紀末の「ペーコンの科学」がどのようなものか。その後展開する「古典物理学」などがどのように発展していくか。科学の内部的な特徴が変化するだけでなく、社会に実験室や研究所が設置され、新たに「Scientist（科学者）」という名称が登場することにも注目する。さらに、企業による基礎研究の取り込み、国家による基礎研究の支援体制の構築などが、国家間の経済競争や軍事競争、戦争などを背景に進展する。こうした社会背景を考慮することで、現代科学の展開を理解することを目指す。毎回の講義を通して、科学についての「技術化」、「専門化」、「職業化」、「産業化」、「制度化」、「ナショナル化」、「軍事化」、「政治化」、「巨大化」、「政策化」、「軍民両用化」などの現象を理解するようになりたい。			
2. 授業内容 ※授業すべてで期末試験は対面授業で行う。ただし、第6回目に中間試験を設定し、この回のみ、教室に来ることなく、設定された期間内にOh-olMeijiシステム上で行われる。 第1回：イギリス産業革命と科学〔対面授業〕 イントロ。産業革命の起源と近代科学、マニュファクチュア、道具から機械へ、発達した機械 第2回：産業革命期の科学〔対面授業〕 イギリスとフランス、シビル・エンジニア、エコル・ポリテクニク、ラブラス物理学 第3回：第二次科学革命〔対面授業〕 応用可能な物理学、ガルバーニ、ボルタ、多様な現象の発見、古典物理学の誕生 第4回：科学依存型技術の登場〔対面授業〕 科学技術の登場。化学応用と酸アルカリ工業、物理応用と電信工業 第5回：19世紀ドットの科学技術〔対面授業〕 科学大国への道、T・H、実験研究、ジューメンズ社、国際電信、帝國物理工学研究所 第6回：中間試験〔メディア授業（オンデマンド型）〕 対面では行わない。所定の期間内にOh-olMeiji上で受講・解答提出 第5回目までの授業内容を振り返る。中間試験問題出題。設定した期間内に受験すること。 第7回：19世紀アメリカの科学技術（1）〔対面授業〕 発明大國の形成、アメリカン・システム、エジソン社、電気照明、エジソン・システム 第8回：19世紀アメリカの科学技術（2）〔対面授業〕 電気利用の拡大、技術競争、技術更新、エジソンの失敗、企業内研究所設立 第9回：20世紀初頭イギリスの科学技術〔対面授業〕 マルコーニ社、船舶無線、国際無線、通信主権、イギリスの通信政策、無線と戦争 第10回：第一次世界大戦と科学技術〔対面授業〕 科学者と戦争、新兵器、実用電子管、電子管の規格化、航空機用無線電話 第11回：第二次大戦と科学技術（1）〔対面授業〕 新兵器開発の国家プロジェクト、物理学者の兵器開発動員の必然性、電波兵器、核兵器 第12回：第二次大戦と科学技術（2）〔対面授業〕 日本における戦争と科学技術 第13回：冷戦期の科学技術〔対面授業〕 軍産学複合体、アメリカとソビエト、核軍拡と科学、ベトナム戦争と電子戦争、 第14回：期末試験〔対面授業〕 対面型式で実施。			
3. 履修上の注意 「自然科学思想史A」の単位取得が望ましい。 ①毎回の講義ごとにリアクション課題を出題し、出席カードとともに回収する予定。 ②第6回目に中間試験を設定し、こちらは、教室に来ることなく所定の期間内にOh-olMeiji上のこの科目の「クラスウェブ」に掲載される解説等をもとに、Web上で解答を提出する。 ③最終授業日に実施する期末試験は、教室での対面形式となる。 ④この講義では「自然科学思想史A」で利用した教科書を利用する。 ⑤講義で利用する投影資料については、簡易的PDF版にして、「クラスウェブ」に掲載する。授業開始前までにダウンロードしておくことが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の講義で扱った「課題」については、採点作業を行うが、受講者への返却は行わない。課題の解答および採点基準については、自己採点ができるように、次の回の授業で公表する。したがって、受講生は、課題の提出時に、スマフォの撮影機能で保存して、自己採点することが望ましい。また、「課題」は、中間試験や期末試験で何らかの形で利用する予定であるので、見直しができるように準備しておくことを推奨する。 また、講義内容については、不明に思ふことを残さずに必ず努力が大切である。それゆえ、小さな疑問が残っているならば、毎回の「課題」提出時に利用する用紙に、質問やコメントを書くなどして、教員に個別について知らせるようにしていただきたい（質問歓迎）。次回以降の講義でなるべき返答をするように心がけます。			
5. 教科書 今年度より以下の教科書を利用する 河村豊、小長谷大介、山崎文徳編著『未来を考えるための科学史・技術史入門』北樹出版			
6. 参考書 講義で利用する（1）講義用参考資料、（2）講義用PPT資料（配布は文字のみ）については、Oh-ol MeijiのクラスウェブにPDFやWordデータで掲載する。教室での資料配付は行わないので、授業前ダウンロードし、授業に持ち込むようにしてください。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に提出をお願いする「課題」、および中間試験については、それにかかわる情報を、当該科目のクラスウェブ上に掲載する予定である。 1. 「課題」については、その問題をクラスウェブにならから形で再録する予定である。また、解答および採点基準は、次の回の講義にて解説するようによる。回収した「課題」は返却はしないが、次の講義にて自己採点ができるので、「課題」提出前に、スマフォの撮影機能で保存しておくことをお勧めする。 2. 「中間試験」については、非対面、クラスウェブ上で実施する。 （1）試験実施にかかわる情報、（2）試験問題および加減する情報、（3）試験後における解答例、全体の成績結果分布などの情報、についてを、同ウェブに掲載する予定である。 3. 「期末試験」については、対面、講義室で実施する。			
8. 成績評価の方法 講義で実施するリアクション課題（出席票を利用する予定）に対して合計20％、中間試験で30％、期末試験を50％として、評価する。			
9. その他 この講義は対面授業で実施するが、同時にOh-olMeiji上の「クラスウェブ」も活用する。上記に説明しているように、授業で利用する資料、提出してもらう課題等、中間試験、期末試験などに関わる資料などは、印刷物および配布せず、すべてデジタルデータでWebに掲載する。したがって、事前にデータをダウンロードするなどして、電子機器を授業中に持ち込むことを推奨する。対面形式での授業中には、毎回出題される課題に対応するために、デジタル資料の参照と講義の聴講の両方をおこなっていただきたい。			

科目ナンバー：(BA) ANT111J			
文化人類学			岡庭義行
2単位	1年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 本講は、文化人類学の歴史と理論に関する体系的理解を深めるとともに、事例の分析や解釈を通して、人類学的思考を身につけることを目的としています。 <到達目標> 事例分析に基づき文化人類学の歴史と理論について説明することができる。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：文化とはなにか 第2回：文化人類学の考え方 第3回：フィールドワークの課題と展望 第4回：進化主義の功罪 第5回：理論と方法（1）機能主義 第6回：理論と方法（2）文化相対主義 第7回：理論と方法（3）構造主義 第8回：ポスト構造主義の諸相 第9回：事例研究（1）儀礼・象徴・権力 第10回：事例研究（2）信仰と世界観 第11回：事例研究（3）来訪神と両義性 第12回：事例研究（4）多様化する性と家族 第13回：事例研究（5）魂のゆくえ（Dualism） 第14回：まとめと総括：省察する人類学			
3. 履修上の注意 関連する講義を併行して履修することが望ましい。 講義課題と資料がある場合は、Oh-o! Meiji を通して配布する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義中に指示する次回の論点整理と準備学習、及び振り返りと課題省察を行う（各30分程度）。			
5. 教科書 特に使用しない。適宜、講義資料を配布する。			
6. 参考書 ・『文化人類学の思考法』松村圭一郎他（世界思想社） ・『文化人類学（第4版）』波平恵美子（医学書院） ※その他、各講義テーマに基づき適宜紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出課題については、適宜、Oh-o! Meiji を通して、関連資料を付して全体講評を行います。			
8. 成績評価の方法 レポート課題（60%）、小レポート（30%）、授業への参加状況（10%）			
9. その他 文化の多様性に基づく社会の発展と構造に対する人類学的な思考領域に関心をもって受講してください。			

科目ナンバー：(BA) ANT111J			
文化人類学			岡庭義行
2単位	1年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 本講は、文化人類学の理論と方法論を学び、個別の民族誌を分析し解釈するとともに、その成果と展望について構造的理解を深めることを目的としています。 <到達目標> 文化人類学の理論と方法を用いて、さまざまな事例を解釈し説明することができる。			
2. 授業内容 第1回：異文化理解のまなざし 第2回：人類学的思考 第3回：人間の営為と暗黙知の次元 第4回：参与観察と「主観」の問題 第5回：民族の視座：ディアスポラとリゾーム 第6回：状況学習理論と文化の身体化 第7回：ツーリズムと文化の真正性 第8回：近代世界システムと脱社会科学 第9回：事例研究（1）境界理論とタブーの原理 第10回：事例研究（2）神話とトリックスター 第11回：事例研究（3）仮面とアレゴリー 第12回：事例研究（4）文化帝国主義 第13回：事例研究（5）エスノセントリズム 第14回：まとめと総括：公共の人類学			
3. 履修上の注意 関連する講義を併行して履修することが望ましい。 講義課題と資料がある場合は Oh-o! Meiji を通して配布する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義中に指示する次回の論点整理と準備学習、及び振り返りと課題省察を行う（各30分程度）。			
5. 教科書 特に使用しない。適宜、講義資料を配布する。			
6. 参考書 ・『詳論文化人類学』桑山敬巳他（ミネルヴァ書房） ・『共感へのアプローチ』渥美一弥（春風社） ※その他、各講義テーマに基づき適宜紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出課題については、適宜、Oh-o! Meiji を通して、関連資料を付して全体講評を行います。			
8. 成績評価の方法 レポート課題（60%）、小レポート（30%）、授業への参加状況（10%）			
9. その他 人類学的フィールドワークの世界に積極的な関心をもって受講してください。			

科目ナンバー：(BA)BBI141J			
生理学A			一之瀬 真 志
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 私たちの体には生きていくために必要な様々な機能が備わっています。自分の体についての知識を身につけることは健康な生活をおくために非常に重要です。生理学Aでは、まず生理学について概説し、その後、体液と血液、循環、呼吸、体温調節について解説します。また、これらの生理機能が運動時にどのように調節されているのかについても論じます。 〈到達目標〉 生体の各組織・臓器の機能を学び、さらに生体諸器官が協調して生体機能の維持・調節に関与していることを理解することを目的とします。			
2. 授業内容 第1回 aのみ：イントロダクション 第2回 生理学概論 第3回 体液と血液 1〔人体の水分量とその組成〕 第4回 体液と血液 2〔血液細胞の働き〕 第5回 循環 1〔心臓の構造と働き〕 第6回 循環 2〔心臓の働きを調節するしくみ〕 第7回 循環 3〔血管の構造と機能〕 第8回 循環 4〔血管系による血流量調節のしくみ〕 第9回 循環器疾患 1〔心疾患、脳血管疾患〕 第10回 循環器疾患 2〔動脈硬化、高血圧〕 第11回 呼吸 1〔呼吸器系の構造と呼吸のしくみ〕 第12回 呼吸 2〔呼吸の調節、組織での酸素の取り込み〕 第13回 体温 1〔ヒトの体温、体温調節のしくみ、発汗のしくみと汗の働き〕 第14回 体温 2〔熱中症が起こるしくみと予防策〕			
3. 履修上の注意 内容については基本的な事項から説明しますが、解剖学や化学などの専門用語も含まれます。 生理学AとBは独立した内容で構成していますが、生理学Aを履修した後に、生理学Bを履修することでより理解が深まります。A、Bの順番で履修することを推奨します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第1回イントロダクションにおいて授業予定が示されるので、各授業の前に参考図書や配布資料などを用いて予習してください。授業後には配布資料などの該当箇所を振り返り復習をし、不明な点があれば授業で質問してください。			
5. 教科書 教科書は特に定めません。授業中に資料を配布します。			
6. 参考書 シンプル生理学（貴邑富久子 他、南江堂）、 新訂 目でみるからだのメカニズム（境章 著、医学書院） 標準生理学（本郷利憲 他、医学書院）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間中に小テストやレポート等を課す場合には、課題提出締め切り後にOh!-Meijiを通じて解説を配信します。			
8. 成績評価の方法 平常点（20％）と期末試験（80％）により評価します。			
9. その他 本講義では、生体機能を日常生活との関連を踏まえながら分かり易く解説します。この講義を通して、「生命現象のしくみ」の面白さを感じてもらうとともに、健やかに生きるための知識を獲得してもらいたいと思います。			

科目ナンバー：(BA)BBI141J			
生理学B			一之瀬 真 志
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 私たちの体には生きていくために必要な様々な機能が備わっています。自分の体についての知識を身につけることは健康な生活をおくために非常に重要です。生理学Bでは、骨、筋肉、神経、内分泌、エネルギー代謝について解説します。また、これらの生理機能と運動の関連についても論じます。さらに、環境がいかに生理機能に影響を及ぼすかを、宇宙環境での生体機能の変化から解説します。最後に老化が生理機能におよぼす影響についても解説します。 〈到達目標〉 各組織・臓器の機能を学ぶとともに、生体諸器官が協調して生体機能の維持・調節に関与していることを理解することを目的とします。			
2. 授業内容 第1回 aのみ：イントロダクション 第2回 骨 1〔骨格、骨の働き〕 第3回 骨 2〔骨粗しょう症が起こるしくみと予防策〕 第4回 筋肉 1〔筋の分類、骨格筋の構造と収縮のしくみ〕 第5回 筋肉 2〔筋線維タイプ、筋力を調節するしくみ〕 第6回 神経 1〔神経系の区分、大脳の構造と働き〕 第7回 神経 2〔間脳、小脳、脳幹、脊髄の構造と働き、脳死〕 第8回 神経 3〔末梢神経系の構造と働き、神経伝達のしくみ〕 第9回 内分泌 1〔内分泌腺とホルモン〕 第10回 内分泌 2〔性ホルモン〕 第11回 エネルギー代謝 1〔食物のエネルギー、基礎代謝〕 第12回 エネルギー代謝 2〔活動時の代謝、肥満の原因と対策〕 第13回 宇宙環境での生理学〔微小重力環境が生体機能に及ぼす影響〕 第14回 生理機能の老化〔加齢の影響、運動トレーニングによる老化予防〕			
3. 履修上の注意 内容については基本的な事項から説明しますが、解剖学や化学などの専門用語も含まれます。 生理学AとBは独立した内容で構成していますが、生理学Aを履修した後に、生理学Bを履修することでより理解が深まります。A、Bの順番で履修することを推奨します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第1回イントロダクションにおいて授業予定が示されるので、各授業の前に参考図書や配布資料などを用いて予習してください。授業後には配布資料などの該当箇所を振り返り復習をし、不明な点があれば授業で質問してください。			
5. 教科書 教科書は特に定めません。授業中に資料を配布します。			
6. 参考書 シンプル生理学（貴邑富久子 他、南江堂）、 新訂 目でみるからだのメカニズム（境章 著、医学書院） 標準生理学（本郷利憲 他、医学書院）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間中に小テストやレポート等を課す場合には、課題提出締め切り後にOh!-Meijiを通じて解説を配信します。			
8. 成績評価の方法 平常点（20％）と期末試験（80％）により評価します。			
9. その他 本講義では、生体機能を日常生活との関連を踏まえながら分かり易く解説します。この講義を通して、「生命現象のしくみ」の面白さを感じてもらうとともに、健やかに生きるための知識を獲得してもらいたいと思います。			

科目ナンバー：(BA)HES131J			
健康科学A			鈴井正敏
2単位	1年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 現代の生活環境はたいへん便利になっています。しかし、文明社会ではその便利な生活自体が健康に対するリスクとなっていることを気づく必要があります。自分の健康は自分で守るものであり、より高いレベルに努力して作り上げることが健やかな人生を送る原動力になります。健康科学Aではとくに青年期のライフスタイルに関係する身近なテーマ（アルコール、タバコ、ドラッグ、ストレス、性感染症）を取り上げて解説します。また、最初に2019年からパンデミックとなった新型コロナウイルスについても説明します。悪習慣マネジメントでは大学の時期に習慣が形成されやすい飲酒や喫煙について、その生理作用から疾病に至る過程を、他のドラッグ（依存薬物＝麻薬）の作用を含めて解説します。ストレス マネジメントでは、社会におけるストレスの発生からコーピング、ストレスの生理作用について説明します。性感染症では日本や世界ではやっている性感染症について解説し、性行動の問題について考えていきます。 これらの内容から現代の日常生活のなかに存在するヘルスリスクを理解することを到達目標とします。			
2. 授業内容 第1回：授業のイントロダクション 第2回：新型コロナウイルス（COVID-19） 第3回：新型コロナウイルス（免疫と運動） 第4回：悪習慣マネジメント（アルコールハラスメント） 第5回：悪習慣マネジメント（アルコールの急性作用） 第6回：悪習慣マネジメント（アルコールの慢性作用） 第7回：悪習慣マネジメント（たばこと社会） 第8回：悪習慣マネジメント（たばこの生理作用） 第9回：悪習慣マネジメント（たばこと疾病） 第10回：悪習慣マネジメント（依存とドラッグ） 第11回：ストレス マネジメント（ストレス） 第12回：ストレス マネジメント（ストレス・マネジメント） 第13回：性感染症・HIV/エイズ（性感染症） 第14回：性感染症・HIV/エイズ（HIV/エイズ）			
3. 履修上の注意 内容については基本的な事項から説明しますが、医学、生物学、化学、生理学、心理学などの理系科目の専門用語も含まれます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o! Meijiに資料をアップしますので、授業前にダウンロードしてください。 ニュースや新聞で取り上げられた健康関連の話題に注意を払ってください。専門用語は重要ですので、分からないところは質問したり、調べたりして理解するようにしてください。			
5. 教科書 使用しません。Oh-o! Meijiに資料をアップします。			
6. 参考書 とくに定めません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の開始時やテーマの終了後にクイズを行い、内容について解説します。			
8. 成績評価の方法 定期試験（100％）により評価します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)HES131J			
健康科学B			鈴井正敏
2単位	1年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 健康を支える3大要素である運動、栄養、休養について論じます。健康を単に病気との関係で考えるのではなく、人生を豊かにする要因として、積極的に作り出していくパワーは何であるのかを考えていきます。 運動では競技スポーツと健康を維持・促進する運動の違いを運動の質および量から解説します。また、運動不足と生活習慣病との関連を論じます。栄養ではこれまで明治大学で行ってきた食事調査の結果をもとに食事量、糖・脂肪・蛋白の栄養素バランス（PFCバランス）について解説します。さらに、肥満やそれに関連する疾患、ダイエットの問題を論じます。休養ではオンとオフ、疲労、睡眠についてその内容と機能などを解説します。授業のまとめとして、現代社会における健康の考え方について解説します。自分自身についてウェルビーイングやウェルネス、持続可能な健康、豊かな人生とは何かを考える機会にしてください。 これらの内容から現代の日常生活のなかに存在するヘルスリスクと健康の意味を理解することを到達目標とします。			
2. 授業内容 第1回：授業のイントロダクション、運動（運動とは何か） 第2回：運動（運動不足の影響） 第3回：運動（有酸素運動と無酸素運動） 第4回：運動（適度な運動とは何か） 第5回：栄養（摂取カロリーとPFCバランス） 第6回：栄養（肥満） 第7回：栄養（栄養と疾病） 第8回：栄養（ウエイトコントロール） 第9回：休養（休養の概念） 第10回：休養（疲労とは何か） 第11回：休養（睡眠） 第12回：新しい健康の概念（健康を取り巻く環境） 第13回：新しい健康の概念（病気と健康） 第14回：新しい健康の概念（ウェルネス）			
3. 履修上の注意 内容については基本的な事項から説明しますが、医学、生物学、化学、生理学、心理学などの理系科目の専門用語も含まれます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o! Meijiに資料をアップしますので、授業前にダウンロードしてください。 ニュースや新聞で取り上げられた健康関連の話題に注意を払ってください。専門用語は重要ですので、分からないところは質問したり、調べたりして理解するようにしてください。			
5. 教科書 使用しません。Oh-o! Meijiに資料をアップします。			
6. 参考書 とくに定めません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の開始時やテーマの終了後にクイズを行い、内容について解説します。			
8. 成績評価の方法 定期試験（100％）により評価します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)HES191J			
スポーツ・レジャー・レクリエーション論			吉松 梓
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 本授業は、現代社会におけるスポーツ・レジャー・レクリエーションの意義と役割について理解することを目的とする。このため、主に前半はスポーツを「する」視点から、子ども時代から生涯にわたって、また多様な個人がどのようにスポーツ・レジャー・レクリエーションに関わっているのかについて学ぶ。後半では、スポーツを「支える」立場として考えるべき点について具体的に理解する。そして最後に、地域、自然環境などの社会的な課題に視野を広げ、スポーツ・レジャー・レクリエーションが貢献できることについて事例を通して考えを深める。 <到達目標> 1. スポーツ・レジャー・レクリエーションの概念を説明できる。 2. ライフステージや多様な個人にとってのスポーツ・レジャー・レクリエーションの意義と、その支援に必要なソフトスキルを理解できる。 3. 社会におけるスポーツ・レジャー・レクリエーションの価値について自分の言葉で論述できる。			
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2回 スポーツ・レジャー・レクリエーションとは？ 第3回 スポーツの推進と基本計画 第4回 子どもとスポーツ1（心身の発達と遊び） 第5回 子どもとスポーツ2（体力と運動部活動） 第6回 生涯スポーツ1（健康・体力とスポーツ実施） 第7回 生涯スポーツ2（心の健康とスポーツ・セラピー） 第8回 アダプテッドスポーツ（障がい者スポーツからインクルーシブスポーツへ） 第9回 スポーツ・レクリエーションのリスクマネジメント 第10回 スポーツとインテグリティ（不正や暴力の根絶に向けて） 第11回 地域とスポーツ・レジャー・レクリエーション 第12回 自然とスポーツ・レジャー・レクリエーション 第13回 格差とスポーツ・レジャー・レクリエーション 第14回 aのみ：全体のまとめ			
3. 履修上の注意 ペアワークやグループディスカッションなど、インタラクティブな手法も用いて授業を展開する。積極的な姿勢で参加すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の授業で小テストを行う。授業で配付する資料の予習・復習をすること。また授業の中でスポーツ・レジャー・レクリエーションに関する最近の動向を取り上げるので、新聞やニュースなどを日頃から確認することが望ましい。			
5. 教科書 特定の教科書は使用しない。毎回の授業で資料を配付する。			
6. 参考書 『教養としてのスポーツ科学』早稲田大学スポーツ科学学術院編（大修館書店）2011. 『レクリエーション支援の基礎』日本レクリエーション協会（日本レクリエーション協会）2007. 『よくわかるスポーツ文化論』井上俊，菊幸一（ミネルヴァ書房）2020.ほか			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業の冒頭に、小テストの解説、リアクションシートの講評を行う。			
8. 成績評価の方法 毎回の授業のリアクションシート（24%）と小テスト（36%）、試験（40%）を総合的に評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)HES111J			
現代社会とスポーツ			田中 充洋
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 人類が長い歴史の中で作り上げてきたスポーツ文化について多角的に解説していく。 <到達目標> 現代社会におけるスポーツの持つ役割や社会への影響、技術としてのスポーツと個人の関わり、若者文化としてのスペクテイタースポーツ等について理解する。			
2. 授業内容 この授業は以下のような内容で進行する。 第1回 イン트로ダクション 第2回 オリンピックと身体観 第3回 近代スポーツの誕生（フットボールを中心に） 第4回 スポーツと心 第5回 スポーツと技術 第6回 スポーツと体力 第7回 スポーツと倫理（ドーピング問題など） 第8回 スポーツボランティア 第9回 スポーツ文化（学生スポーツを中心に） 第10回 スポーツとメディア 第11回 スポーツツーリズム構想 第12回 スポーツフォーオール 第13回 スポーツ時事問題 第14回 a：試験 b：講義全体の振り返り			
3. 履修上の注意 授業には必ず出席し、意見交換の際には積極的に発言すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第1回目で講義予定を指示するが、TV/新聞やスポーツ関連雑誌で現状を把握しておく事が望ましい。 また、授業で配布する資料を振り返り、不明な部分があれば授業で質問すること。			
5. 教科書 特定のテキストは使用せず、毎回資料を配付して授業を進めます。			
6. 参考書 ホイジンガ著「ホモ・ルーデンス」中公文庫 アリストテレス著「ニコマコス倫理学」岩波文庫			
7. 課題に対するフィードバックの方法 次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案、レポート等を紹介する。			
8. 成績評価の方法 期末試験（80%）を実施します。また、授業への貢献度（10%）に加え、その時々話題となるスポーツ問題に関するミニレポート（10%）を総合的に評価します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)HES121J			
トレーニングの科学			一之瀬 真志
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 健康の維持・増進や運動パフォーマンスの向上には運動トレーニングの実施は欠かせません。本講義では、運動生理学を背景としたトレーニングについての科学的基礎、トレーニングに対する生体反応と適応、さらに、トレーニングの種類や具体的なトレーニング内容の決定方法、計画の建て方、効果の評価方法について解説します。 〈到達目標〉 安全で効果的な運動トレーニングを行うために必要となる科学的知識を身につけることを目的とします。			
2. 授業内容 第1回 aのみ：運動トレーニングの概念と目的 第2回 骨格筋の収縮と筋力の調節 第3回 レジスタンストレーニングに対する生体反応・適応 第4回 レジスタンストレーニングプログラムの計画法 第5回 運動とエネルギー代謝 1 第6回 運動とエネルギー代謝 2 第7回 運動と呼吸 第8回 運動と循環 第9回 持久性トレーニングに対する生体反応・適応 第10回 持久性トレーニングプログラムの計画法 1 第11回 持久性トレーニングプログラムの計画法 2 第12回 高地トレーニング 第13回 運動と体温調節 第14回 トレーニングと栄養摂取			
3. 履修上の注意 内容については基本的な事項から説明しますが、生理学や化学などの専門用語も含まれます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第1回の授業において授業予定が示されるので、各授業の前に参考図書や配布資料などを用いて予習してください。授業後には配布資料などの該当箇所を振り返り復習をし、不明な点があれば授業で質問してください。			
5. 教科書 教科書は特に定めません。授業中に資料を配布します。			
6. 参考書 運動生理学（池上晴夫，朝倉書店） 運動生理学概論（浅野勝巳，杏林書院） 運動生理学20講（勝田茂，朝倉書店） Physiology of Sports and Exercise（Wilmore JH et al, Human Kinetics） Exercise Physiology（McArdle WD et al, Lippincott Williams & Wilkins）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間中に小テストやレポート等を課す場合には、課題提出締め切り後にOh!-Meijiを通じて解説を配信します。			
8. 成績評価の方法 平常点（20％）と期末試験（80％）により評価します。			
9. その他 自分の身体の機能に興味がある人，体力・運動能力を高めたい人，スポーツが好きな人，普段あまり運動をしてないけれど運動を始めたいと思っている人，などには特に受講を勧めます。運動トレーニングを行ったことがない人でも理解できる講義内容です。			

科目ナンバー：(BA)ACD191J			
レポート・論文作成法 【全体概要】			
2 単位	1 年次		和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマの設定の仕方や議論の組み立て方、論文形式の文章の書き方など、論文作成法を学びながら、実際に一本のオリジナルな論文を仕上げていきます。このことによって、レポートの書き方も修得できます。 できるだけ多くの学生が、1年生のうちに履修することが望ましい科目です。			
2. 授業内容 各担当教員のシラバスを参照してください。			
3. 履修上の注意 1年次で履修することが望ましい。ただし、本授業は1クラスあたり25名の受講人数制限があります。そのため、第1回目授業までに受講者の選考を行います。詳細は「経営学部履修の手引」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各担当教員のシラバスを参照してください。			
5. 教科書			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各担当教員のシラバスを参照してください。			
8. 成績評価の方法 演習形式の授業ですから、発表や討論への積極的な参加、課題提出などが求められます。それらの平常点50％と最後に提出する論文50％の総合で評価します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ACD191J			
レポート・論文作成法		畑 中 基 紀	
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ 論文やレポートの作成には論理的思考力が必要です。これは、文章の論理を正確に読み取ること、また、明快な論理によって構成された文章を書くことの訓練によってつちかわれる、論証を適切におこなう能力と言い換えることができます。そうした力を養うための、いわば頭のトレーニングに加えて、テーマの絞り込み方から参考文献リストの作り方を、発表・討論の方法の習得も視野に入れながら、段階的に、また細密に教授します。 ＜到達目標＞ 4年次に提出する卒業論文制作への基礎づくりとして、論理的文章を書くための基本的な考え方、資料収集法、論文作成法を理解し、実践する方法を学ぶことを目標とします。			
2. 授業内容 主として以下の内容を学びながら実際に論文を作成していきます。 ①テーマを決める 論文を書くうえで最も重要なのは、何をどう書くかというテーマの決め方です。図書館やインターネットを効率よく利用してみずからの問題意識を喚起しつつ論文のテーマを絞り込んでいきます。 ②アウトラインを考える テーマ決定の過程であつめた情報の山を、問い→論証→結論という流れに構成してアウトライン、つまり論文のおおまかな設計図をつくる方法を学びます。 ③資料の収集から執筆へ アウトラインにしたがって、必要な資料や参考文献を集め、執筆の材料となるノート（メモ）を作っていきます。この作業の結果、アウトラインを再検討することになるでしょう。その後、たまったノート（メモ）を最終的なアウトラインに合わせて構成していきます。これで自然に下書きができていきます。 ④引用のマナーと方法 レポートや論文を正しく書くためには、高校までに身につけてしまった感覚と意識を大きく変えなければならない点がいくつかあります。その中でもっとも重要なのが、参考文献等、他人が書いた文章の中の情報の取り扱い方です。これには世界共通のルールとマナーがありますので、それをしっかり学ばなければなりません。 ⑤論理的な文章を書くためのトレーニング 上記の内容と並行して学んでいきます。第一歩は、論理的な文章を正確に読むことから。 ⑥口頭発表のしかた、聴き方 ゼミなどで行う口頭発表の準備過程は、上記4あたりまでは、論文作成と共通します。その後の準備の仕方とプレゼンテーションの方法、そして、他人のプレゼンテーションの聴き方について。 第1回 イントロダクション（この授業で学ぶこと） 第2回 論文作成の手順 第3回 事実を説明する 第4回 書き言葉の力を鍛えるⅠ／論文のテーマを決めるⅠ 第5回 論文のテーマを決めるⅡ 第6回 書き言葉の力を鍛えるⅡ 第7回 論文のテーマを決めるⅢ 第8回 パラグラフについての理解を深める 第9回 オリジナリティをつくりだすために 第10回 論理的な文章を書くためにⅠ～論拠 第11回 論理的な文章を書くためにⅡ～批判 第12回 引用のきまり 第13回 執筆と仕上げ 第14回 プレゼンテーションの準備と実際 なお、状況により内容は変更することがあります。			
3. 履修上の注意 1年次で履修することが望ましい。ただし、本授業は1クラスあたり25名の受講人数制限があります。そのため、第1回目授業までに受講者の選考を行います。詳細は「経営学部履修の手引」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回教室で指示する課題や調査などを確実にこなすこと。			
5. 教科書 プリントを使用します。			
6. 参考書 清水幾太郎『論文の書き方』（岩波新書、1959）、澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫、1977）、教室で多数紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 主として教室で。必要に応じてOh-ol Meijiでも。			
8. 成績評価の方法 演習形式の授業ですから、発表や討論への積極的な参加、課題提出などが求められます。それらの平常点50％と最後に提出する論文50％の総合で評価します。			
9. その他 授業の進行の詳細は、最初の授業で説明します。また、参考文献の戦略的な検索法などを学ぶための、図書館のシステムを利用した実習も行う予定です。			

科目ナンバー：(BA)ACD191J			
レポート・論文作成法			森田 直 美
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 論文やレポートの作成には論理的思考力が必要です。これは、文章の論理を正確に読み取ること、また、明快な論理によって構成された文章を書くことの訓練によってつちかわれる、論証を適切におこなう能力と言い換えることができます。そうした力を養うための、いわば頭のトレーニングに加えて、テーマの絞り込み方から参考文献リストの作り方までを、発表・討論の方法の習得も視野に入れながら、段階的に、また綿密に教授します。 <到達目標> 4年次に提出する卒業論文制作への基礎づくりとして、論理的文章を書くための基本的な考え方、資料収集法、論文作成法を理解し、実践する方法を学ぶことを目標とします。			
2. 授業内容 第1回：アカデミック・ライティングについて 第2回：学術的文章にふさわしい語彙・文体について 第3回：コメントカード（リアクションペーパー）の書き方 第4回：ジャパンナレッジを使う 第5回：多角的に考える 第6回：先行研究を活用する意義とは 第7回：インターネットリテラシーについて 第8回：官公庁が提供するデータを読み解く 第9回：研究機関が提供するデータを読み解く 第10回：学術論文を読み解く 第11回：期末課題の解説、および受講生各自でテーマを考える 第12回：受講生各自の期末課題テーマ発表と総評 第13回：期末課題の執筆と添削 第14回：a:半期のまとめ			
3. 履修上の注意 1年次に履修することが望ましい。ただし、本授業は1クラスあたり25名の受講人数制限があります。そのため、第1回目授業までに受講者の選考を行います。詳細は「経営学部履修の手引」を参照してください。 ※ 森田の担当する「レポート論文作成法」は、毎回PCを使用し課題文章を作成します。wordの基本的な操作技術が必要であることを了承の上、履修登録してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回教室で指示する課題や調査などを確実にこなすこと。			
5. 教科書 クラスウェブを通じて授業資料を配信します。			
6. 参考書 石黒圭『論文・レポートの基本』（日本実業出版社、2012年） 井下千以子『思考を鍛えるレポート論文作成法 第3版』（慶應義塾大学出版会、2019年） 購入の必要はありませんが、大学でのレポート執筆に役立つ書籍です。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回提出する課題に対して、次回授業で総評を伝えるか、Oh-o！Meijiのクラスウェブを通して個別にコメントします。			
8. 成績評価の方法 演習形式の授業ですから、発表や討論への積極的な参加、課題提出などが求められます。それらの平常点50%と最後に提出する論文50%の総合で評価します。			
9. その他 授業の進行の詳細は最初の授業で説明します。必ず第1回の授業に出席して下さい。 毎回、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。 授業に出席しても、指定した課題を提出しなかった場合は欠席扱いとなります。 履修登録修正期間に登録を変更して本授業を履修すると決めた場合も、それまでの回は欠席扱いとなります。 時間的な余裕があれば、参考文献の検索法などを学ぶために図書館での実習も行う予定です。			

科目ナンバー：(BA)ACD191J			
レポート・論文作成法			岡崎 直 也
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 論文やレポートの作成には論理的思考力が必要です。これは、文章の論理を正確に読み取ること、また、明快な論理によって構成された文章を書くことの訓練によってつちかわれる、論証を適切におこなう能力と言い換えることができます。そうした力を養うための、いわば頭のトレーニングに加えて、テーマの絞り込み方から参考文献リストの作り方までを、発表・討論の方法の習得も視野に入れながら、段階的に、また綿密に教授します。 <到達目標> 4年次に提出する卒業論文制作への基礎づくりとして、論理的文章を書くための基本的な考え方、資料収集法、論文作成法を理解し、実践する方法を学ぶことを目標とします。			
2. 授業内容 単なる事実の羅列や他人の説の要約は論文とはいえません。具体的に根拠を挙げて論理的に仮説を検証する研究論文の書き方の基礎を学びます。 テーマの選定、文献・資料の収集と整理、仮説とアウトラインの設定、口頭発表と質疑応答、論文作成、という一連の作業を受講生に課し、文章の構成、論証の方法、句読点・記号のルール、引用・注のマナー、推敲の注意点などを順次講義する予定です。 第1講 イントロダクション・自己紹介 第2講 テーマの決め方・文献の整理法 第3講 図書館ツアー〔資料収集法の習得〕 第4講 各自のテーマの発表と討論① 第5講 各自のテーマの発表と討論② 第6講 論文の書き方① 第7講 論文の書き方② 第8講 論文要旨〔1200字〕の発表と討論① 第9講 論文要旨〔1200字〕の発表と討論② 第10講 論文要旨〔1200字〕の発表と討論③ 第11講 論文要旨〔1200字〕の発表と討論④ 第12講 論文要旨〔1200字〕の発表と討論⑤ 第13講 論文要旨〔1200字〕の発表と討論⑥ 第14講 論文〔8000～10000字〕提出と講評 ※上記はあくまでも予定であり、授業の進行によっては変更があります。			
3. 履修上の注意 1年次に履修することが望ましい。ただし、本授業は1クラスあたり25名の受講人数制限があります。そのため、第1回目授業までに受講者の選考を行います。詳細は「経営学部履修の手引」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回教室で指示する課題や調査などを確実にこなすこと。			
5. 教科書 プリントを使用します。			
6. 参考書 澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫、1977） 戸田山和久『論文の教室—レポートから卒論まで』最新版（日本放送出版協会、2022）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 基本的には授業時にコメントしますが、ポータルレポート・フィードバック欄も使用します。			
8. 成績評価の方法 演習形式の授業ですから、発表や討論への積極的な参加、課題提出などが求められます。それらの平常点50%と最後に提出する論文50%の総合で評価します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ACD191J			
レポート・論文作成法			高橋雄生
2単位	1年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 論文やレポートの作成には論理的思考力が必要です。これは、文章の論理を正確に読み取ること、また、明快な論理によって構成された文章を書くことの訓練によってつちかわれる、論証を適切におこなう能力と言い換えることができます。そうした力を養うための、いわば頭のトレーニングに加えて、テーマの絞り込み方から参考文献リストの作り方までを、発表・討論の方法の習得も視野に入れながら、段階的に、また綿密に教授します。 〈到達目標〉 4年次に提出する卒業論文制作への基礎づくりとして、論理的文章を書くための基本的な考え方、資料収集法、論文作成法を理解し、実践する方法を学ぶことを目標とします。			
2. 授業内容 第1回 ロジカルシンキング 第2回 作文と論文の違い・論文の発想法 第3回 テーマの決め方(1) 第4回 テーマの決め方(2) テーマを3つぐらい考え提出 第5回 テーマの決定 第6回 資料の収集・整理・分析(1) 第7回 資料の収集・整理・分析(2) 第8回 資料の収集・整理・分析(3) 参考文献1冊目要約提出 第9回 論文作成法(1) 第10回 論文作成法(2) 第11回 論文作成法(3) 第12回 目次の完成 第13回 プレゼンテーション(1) 第14回 プレゼンテーション(2)			
3. 履修上の注意 1年次で履修することが望ましい。ただし、本授業は1クラスあたり25名の受講人数制限があります。そのため、第1回目授業までに受講者の選考を行います。詳細は「経営学部履修の手引」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回教室で指示する課題や調査などを確実にこなすこと。			
5. 教科書 プリントを使用します。			
6. 参考書 澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫、1977） ウンベルト・エコ『論文作法』（而立書房、1991） 神永正博『統計思考力』（日経ビジネス人文庫、2013）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題の提出、フィードバックは、Oh-o! Meijiを活用します。			
8. 成績評価の方法 演習形式の授業ですから、発表や討論への積極的な参加、課題提出などが求められます。それらの平常点50%と最後に提出する論文50%の総合で評価します。			
9. その他 授業の進行の詳細は、最初の授業で説明します。また、参考文献の戦略的な検索法などを学ぶための、図書館での実習も時間が取れば行う予定です。 原則対面授業です。 万が一休講した時は、補講をせずに、オンラインで配信します。 プリントの配布やレポートの提出は、Oh-o! Meijiを活用します。			

科目ナンバー：(BA)ACD191J			
レポート・論文作成法			田原加奈子
2単位	1年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 論文やレポートの作成には論理的思考力が必要です。これは、文章の論理を正確に読み取ること、また、明快な論理によって構成された文章を書くことの訓練によってつちかわれる、論証を適切におこなう能力と言い換えることができます。そうした力を養うための、いわば頭のトレーニングに加えて、テーマの絞り込み方から参考文献リストの作り方までを、発表・討論の方法の習得も視野に入れながら、段階的に、また綿密に教授します。 〈到達目標〉 4年次に提出する卒業論文制作への基礎づくりとして、論理的文章を書くための基本的な考え方、資料収集法、論文作成法を理解し、実践する方法を学ぶことを目標とします。			
2. 授業内容 本授業では、いくつかのテーマで短い文章（300～1000字程度）を執筆することと、最終的に各自の関心に基づいた小論文（8000字程度）を執筆することを成果とする。執筆した物に対するディスカッションを行うことで、書く技術のブラッシュアップを重ねる。随時示されたテーマに基づいて文章を執筆し、事前提出（Oh-o! Meijiを利用予定）のうえ、授業に臨むこと。 第1回 論文・レポートとは何か 第2回 小構造・パラグラフ 第3、4回 トピックセンテンス、サポーティングセンテンス、コンクルーディングセンテンス 第5、6回 ものの調べ方 第7回 〈問い〉の立て方 第8回 アウトラインの作成 第9回 図表の入れ方 第10回 文献記載の方法 第11回 要旨のつくり方 第12回 論文の確認事項 第13回 論文の検討 第14回 口頭発表			
3. 履修上の注意 1年次で履修することが望ましい。ただし、本授業は1クラスあたり25名の受講人数制限があります。そのため、第1回目授業までに受講者の選考を行います。詳細は「経営学部履修の手引」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 示されたテーマに対して文章を執筆し、提出する（予習） 授業内でのディスカッションを通して見えてきたブラッシュアップすべき点を、次の文章執筆に反映させる（復習）			
5. 教科書 特に定めない			
6. 参考書 『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』安部 朋世、橋本修、福岡 健伸（三省堂） 『大学一年生の文章作法（岩波テキストブックスα）』山本 幸司（岩波書店） 『基礎からわかる 論文の書き方（講談社現代新書）』小熊 英二（講談社） 『留学生のためのここが大切文章表現のルール』石黒圭・筒井千絵（スリーエーネットワーク）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内でそれぞれの執筆物に対するディスカッションを行うとともに、Oh-o! Meijiを利用したフィードバック（全体／個人）を予定している。			
8. 成績評価の方法 演習形式の授業ですから、発表や討論への積極的な参加、課題提出などが求められます。それらの平常点50%と最後に提出する論文50%の総合で評価します。			
9. その他 初回に具体的な進行方法を説明する。執筆したものを授業内で共有し、ディスカッションを行うため、提出期限は厳守すること。出席日数が足りていても、文章の提出およびディスカッションへの参加がなければ評価に値しない。			

科目ナンバー：(BA)ACD191J			
レポート・論文作成法			堂 野 前 彰 子
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 論文やレポートの作成には論理的思考力が必要です。これは、文章の論理を正確に読み取ること、また、明快な論理によって構成された文章を書くことの訓練によってつちかわれる、論証を適切におこなう能力と言い換えることができます。そうした力を養うための、いわば頭のトレーニングに加えて、テーマの絞り込み方から参考文献リストの作り方までを、発表・討論の方法の習得も視野に入れながら、段階的に、また綿密に教授します。 〈到達目標〉 4年次に提出する卒業論文制作への基礎づくりとして、論理的文章を書くための基本的な考え方、資料収集法、論文作成法を理解し、実践する方法を学ぶことを目標とします。			
2. 授業内容 〈授業内容〉 この授業で学ぶのは、論文の型、資料の収集方法、柔らかな思考の三つです。その基礎となる、自分なりのものの見方を確立することを目指します。 また、毎回授業を始める前に、『天野祐吉のCM天気図傑作選』（朝日新聞出版）のコラムなどを取りあげ、そこでなされている表現の工夫やテーマの捉え方、アプローチの仕方について考えたり、話題となった事柄について討論したりするなど、「書く」ための準備運動を行います。 〈授業予定〉 第1回 論文とは 第2回 テーマと問題意識 第3回 論文の型 第4回 図書館ガイダンスと共通課題レポートの提出 第5回 資料の収集と論文のロジック 第6回 注と参考文献 第7回 アンケートの方法 第8回 論文の構成 第9回 レジュメ作成の方法 第10回 効果的なプレゼンテーション（TED視聴） 第11回 レジュメ発表① 第12回 レジュメ発表② 第13回 レジュメ発表③とと自由課題レポートの提出 第14回 論文作成の方法のまとめ ※優れた自由課題レポートは『蒼樹』20号（2025年度版）に掲載する予定です。			
3. 履修上の注意 1年次で履修することが望ましい。ただし、本授業は1クラスあたり25名の受講人数制限があります。そのため、第1回目授業までに受講者の選考を行います。詳細は「経営学部履修の手引」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 レポートを作成するにあたり、段階的に課題を課します。課題をこなして授業に臨むようにしてください。			
5. 教科書 プリントを使用します。			
6. 参考書 居駒永幸・畑中基紀・斎藤静隆・永野宏志編『レポート論文のStart Line』			
7. 課題に対するフィードバックの方法 この授業では、共通課題レポートと自由課題レポートの二つのレポート提出を課しています。どちらも添削して個別に返却します。それ以外の課題に関しては、授業内で口頭発表していただき、その場でコメントします。			
8. 成績評価の方法 演習形式の授業ですから、発表や討論への積極的な参加、課題提出などが求められます。それらの平常点50％と最後に提出する論文50％の総合で評価します。			
9. その他 論文には型があります。文章を書くことが苦手でも、その型さえ学べば論文らしくなります。しかし、それだけではよい論文とは言えません。自らが深く思考して、はじめて文章になります。この授業では、そのような独自の視点を持てるよう、自分の感想を持つことから始めます、			

科目ナンバー：(BA)ACD191J			
レポート・論文作成法			永 野 宏 志
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 論文やレポートの作成には論理的思考力が必要です。これは、文章の論理を正確に読み取ること、また、明快な論理によって構成された文章を書くことの訓練によってつちかわれる、論証を適切におこなう能力と言い換えることができます。そうした力を養うための、いわば頭のトレーニングに加えて、テーマの絞り込み方から参考文献リストの作り方までを、発表・討論の方法の習得も視野に入れながら、段階的に、また綿密に教授します。 〈到達目標〉 4年次に提出する卒業論文制作への基礎づくりとして、論理的文章を書くための基本的な考え方、資料収集法、論文作成法を理解し、実践する方法を学ぶことを目標とします。			
2. 授業内容 インターネットやマスメディアに浸透する身近な物語から始めて、レポート論文の物語的部分と非物語的部分を区別し、各自がレポート作成に向かえるように、分析力(パターンを見出す)、発想力(各パターンを関係づける)、記述力(他人を説得するように書く)、さらに日々変容するIT社会への基本的な対応力と批判力を身につけるのが本授業の目標です。 第1回：物語の流行がある【テーマ】不透明な時代に流行する群像劇的な物語パターンの紹介『鬼滅の刃』と『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』の共通点と異なる点を考えます。 第2回 物語の流行には背景がある【テーマ】ゼロ年代から流行するタイムリープ物語パターンの紹介 『君の名は。』『時をかける少女』の似ている点と違う点を、現代の歴史背景と重ねて検討します。 第3回：物語には定番がある【テーマ】古代から変わらない物語パターンの確認『スターウォーズ』と『ロード・オブ・ザ・リング』の似ている点と異なる点を考察します。 第4回：音楽と物語【テーマ】1.感覚記憶:ゼロ年代のMVからイベントと物語の繋がり3パターン抽出 物語消費の方法/ケツメイシ『さくら』、椎名林檎『ギブス』、平井堅『瞳を閉じて』と現代の曲の違いを検討します。 第5回：写真と物語【テーマ】2.短期記憶:写真から物語パターンを引き出す方法の紹介モノクロ写真、カラー写真、ブリクラ、インスタが作る物語の違いと、クリエイターの情報操作の方法を確認します。 第6回：映画と物語【テーマ】3.長期記憶:未来を回想する物語が作れない理由の検討過去に縛るマスメディア/泣かせる映画『ニューシネマ・パラダイス』の2つのバージョンを比較します。 第7回：コンピュータと物語【テーマ】過去データで不可能な未来予測のためのラインの引き方の紹介 AIが人間を超える〈シンギュラリティ〉に対抗する方法/Apple社の10年後を予測してみます。 第8回：現在と過去と物語【テーマ】日常のモノに住み着く過去の物語を無意識の行為から抽出 私たちが「割り箸」というモノを使う行為から、宗教的な情報操作を受ける私たちを再発見します。 第9回：現在と未来の物語【テーマ】フェイクニュースと都市伝説から信じられる部分を抽出9.11を検討した映画『9.11の虚構』の仮説のウソ/ホントの判定を、背理法を使って試みます。 第10回：現在とあなたの今と物語【テーマ】ディズニー映画『ファンタジア』から考える色彩論 色彩が人に及ぼす錯覚も含めた効果を検討し、私たちが今何を見せられているのかを考えます。 第11回：学生自身による最終レポート作成プランのプレゼンテーション(1) 第12回：学生自身による最終レポート作成プランのプレゼンテーション(2) 第13回：学生自身による最終レポート作成プランのプレゼンテーション(3) 第14回：学生自身による最終レポート作成プランのプレゼンテーション(4) (第11～14回の冒頭で論文のフォーマットや作成の際の注意点を4回に分けて説明し、併せてレポート・サンプルを配布します。)			
3. 履修上の注意 1年次で履修することが望ましい。ただし、本授業は1クラスあたり25名の受講人数制限があります。そのため、第1回目授業までに受講者の選考を行います。詳細は「経営学部履修の手引」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習: 毎回の授業でマンダラチャートを配布して埋めていただくので、そこに書いたキーワードを覚えてマンダラのように動かしてください。 復習: 毎回の授業中に書いたマンダラチャートは回収するので、授業で書いたキーワードを書き出しリストアップして保存しておいてください。 (※マンダラチャートとは、思いついた言葉からマンダラ状に言葉をリンクさせてキーワードを作り出すマインドマップの一種です。)			
5. 教科書 特になし(毎回の授業時に文献や映像を提示します。)			
6. 参考書 小河原誠『読み書きの技法』(ちくま新書)、クリストファー・ボグラー&デイビッド・マッケナ『物語の法則』(ASCII)、大塚英志『ストーリーメーカー』・同『キャラクターメーカー』(2冊ともSB新書)、ナシーム・ニコラス・タレブ『ブラック・スワン』(上・下 ダイアモンド社)、フィリップ・E・テトロック&ダン・ガードナー『超予測力』(ハヤカワノンフィクション文庫)、鈴木宏昭『教養としての認知科学』(東京大学出版局)			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回配布するマンダラチャートを回収して評価し、次の回の授業冒頭に返却して全体の講評をします。			
8. 成績評価の方法 演習形式の授業ですから、発表や討論への積極的な参加、課題提出などが求められます。それらの平常点50％と最後に提出する論文50％の総合で評価します。			
9. その他 この授業の応用編として、同じ教員の言語表現論（秋学期）が用意してあります。インターネットやAIの進化をめぐる言語環境の詳細を知りたい意欲ある学生を歓迎します。			

科目ナンバー：(BA)LIN191J			
言語表現論 【全体概要】			
2 単位	1 年次		和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 「言語表現論」の全クラスに共通する基本的な概要・到達目標は下記のとおりです。 本講義は6クラス設置され、担当教員により授業内容等は異なっていますので、詳細は各教員のシラバスを参照してください。 〈概要〉 多様な形式の言語表現を知ること、私たちの文化における表現の意義と可能性について考察しましょう。みなさんの人生のあらゆる場面はコミュニケーションという行為によって成立していて、そこには必ず表現（表現すること/表現を読み取ること）が介在しています。したがって、表現の力を知り、養うことは、たんに学問の基礎としての力のみならず、人生のさまざまな局面で物事を適切に理解し対処するための力を身につけることでもあるのです。 〈到達目標〉 表現に対して自覚的になることの重要性を理解すること。			
2. 授業内容 各担当教員のシラバスを参照してください。			
3. 履修上の注意			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各担当教員のシラバスを参照してください。			
5. 教科書			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各担当教員のシラバスを参照してください。			
8. 成績評価の方法 各担当教員のシラバスを参照してください。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LIN191J			
言語表現論			畑 中 基 紀
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 書き言葉で伝える、をテーマに実践的に学んでいきます。スポーツや芸能と同じように、文章表現にも基本の型というべきものがあります。この型をしっかりと身につけることが、伝わる表現の技術を習得する秘訣です。この授業では文書による表現の型をいくつか学びながら、同時に、「説明する」「おわびをする」ということを中心に説得の本質について考えていきます。このため、実際に文章を読む、また書く練習をいくつかこなしながら学習することになります。 〈到達目標〉 上記の「型」を理解し、状況に応じて適切な文章表現ができるようになること。			
2. 授業内容 第1回 インTRODakShION 第2回 敬語表現のルールとコツ 第3回 書簡文（手紙）の型を知る 第4回 書簡文の型を崩す 第5回 書簡文の実例 第6回 説明文の落とし穴 第7回 説明におけるfoolproof 第8回 説明の技術Ⅰ 第9回 説明の技術Ⅱ 第10回 説明の技術Ⅲ 第11回 説得力を生むロジック 第12回 〈お詫び〉の成立条件 第13回 釈明と心理 第14回 まとめ （内容は適宜、入れ換えや変更を行うことがあります）			
3. 履修上の注意 講義形式の授業で、人数制限はありません。ただし、演習形式の「レポート・論文作成法」とともに、できるだけ1年次で履修することが望ましい科目です。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ふだんに触れる文章の構成や表現方法を意識することで、言葉に対する感覚を研ぎすますようにしてください。また授業中に配付する資料の該当箇所を振り返り、不明な部分があれば授業で質問してください。すること。次の回の内容についての参考書を提示する場合は、あらかじめ目を通しておくこと。			
5. 教科書 プリントを使用します。			
6. 参考書 藤沢晃治『「分かりやすい表現」の技術』2020.1、文響社。その他、教室で紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 教室で、またはOh-o! Meijiを利用して。			
8. 成績評価の方法 授業期間内の課題を含む平常点3割、期末レポート7割。			
9. その他 与えられた課題は必ず提出してください。			

科目ナンバー：(BA)LIN191J			
言語表現論			森田直美
2単位	1年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 語彙や表現力を充実させるためには、さまざまな時代・ジャンル・階層の文学に触れることが有効です。本授業では、平安時代の主要な作品（古今集、伊勢物語、枕草子、源氏物語）を取り上げて講義します。単なる印象批評的な読みにとどまらず、表現的特徴、文学史における位置づけ、時代背景などについても言及します。 さらに、本授業で扱う作品は、文学として読み継がれるだけでなく、後代の美術・工芸・服飾・和菓子といった周辺文化にも多彩な影響を与えてきました。文学と周辺文化の間にうかがえる強い連関性は、他国には類例が乏しく、日本独自の表現とすることができます。これらについても、定期的に講義内容に取り入れます。 〈到達目標〉 ① 平安時代の主要作品について、その概要や表現的特徴、文学史における位置などについて理解できる。 ② 古典文学と周辺文化の連関について理解し、自分の言葉で説明できる。			
2. 授業内容 概ね以下の内容で進めるが、進行に応じて順序や内容を変更する可能性があります。 第1回：a.ガイダンス 第2回：平安時代の文学概観、および文学と周辺文化の連関について 第3回：古今集（1） 第4回：古今集（2） 第5回：古今和歌集をモチーフとした美術・工芸・服飾 第6回：伊勢物語（1） 第7回：伊勢物語（2） 第8回：伊勢物語をモチーフとした美術・工芸・服飾 第9回：枕草子 第10回：後代における清少納言・紫式部のイメージ形成 第11回：源氏物語（1） 第12回：源氏物語（2） 第13回：源氏物語をモチーフとした美術・工芸・服飾 第14回：期末テスト			
3. 履修上の注意 (1) 講義形式で、人数制限はありません。ただし、演習形式の「レポート・論文作成法」とともに、できるだけ1年次で履修することが望ましい科目です。 (2) 講義形式ですが、適宜受講生の意見や感想を求めます。また、毎回授業時にワークシートの執筆を課します。 (3) 適宜グループディスカッションやワークショップを実施する可能性があります。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回の予習：次回扱う作品について、入門書などで下調べしておく。 各回の復習：講義内容で理解できなかった点を復習する。			
5. 教科書 特に指定しません。 必要に応じてプリントを配布します。			
6. 参考書 秋山虔、三好行雄著『原色 新日本文学史 増補版』2016年、文英堂 森田直美『平安朝文学と色彩・染織・意匠』2022年、新典社 購入の必要はありませんが、授業を理解する上で有益な書籍です。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業時に、前回のワークシートの総評をする。			
8. 成績評価の方法 授業への参加態度（ワークシートの内容を含む）50％、期末テスト（持ち込み可）50％を目安として総合的に評価する。			
9. その他 - 授業中の私語・居眠り・遅刻・途中退出・携帯電話やスマートフォン等の使用、その他授業環境を悪くする行為は厳に慎むこと。 - 迷惑行為が目に見える場合は氏名を確認した上で退室してもらい、その回は欠席扱いとする。 30分以上の遅刻は欠席扱いとする。 - ワークシート未提出の場合は欠席扱いとする。 - 履修登録確定前に他の授業を履修し、その後に本授業に登録した場合も、それまでの回は欠席扱いとする。 - 半期の3分の1を超えて欠席した場合（遅刻は3分の1欠席扱い）、成績評価の対象としない（T評価）。			

科目ナンバー：(BA)LIN191J			
言語表現論			岡崎直也
2単位	1年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 混迷を深める現代、私たちは人間関係の稀薄化に起因する様々な問題を抱えている。人と人との〈あいだ〉を思考や行動の原点として〈以心伝心〉を尊び、その功罪を問われた日本人の在りようも変容を遂げた。形骸化したそれが相手への過度の依存として残るなかで、現代日本人はコミュニケーションの危機に喘がなければならない。本講義では、こうした状況を踏まえて実用的文章の習熟に努める一方、芸術的文章の文体分析によって日本語の奥行きを見据え、その〈こころ〉に触れる。 〈到達目標〉 日本語表現の常識を修得し、文章の読解力・表現力を養うものとする。			
2. 授業内容 第1～2回 日本語と日本文化 第3～4回 敬語のマナー 第5～6回 日本語の語順 第7～8回 句読点と記号 第9～10回 手紙の書き方 第11～12回 視点の位置 第13～14回 文体とリズム 演習一慣用句・故事成語・ことわざ・四字熟語・同音異義語・同訓異義語・紛らわしい言葉の使い分け ※上記はあくまでも予定であり、授業の進行によっては変更がある。			
3. 履修上の注意 人数制限はない。ただし、演習形式の「レポート・論文作成法」とともに、できるだけ1年次で履修する。私語厳禁。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義形式の授業ではあるが、短い文章を多く書いてもらうため宿題などもある。			
5. 教科書 特に使用しない。プリントを配付する。			
6. 参考書 居駒 永幸・ほか『レポート論文のStart Line』おうふう。 本多 勝一『日本語の作文技術』朝日文庫。 三浦つとむ『日本語はどういう言語か』講談社学術文庫。 佐藤 信夫『レトリック感覚』講談社学術文庫。 佐藤 信夫『レトリック認識』講談社学術文庫。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 受講者数が多い場合、優れた指摘や問題提起をしたレポートに授業でコメントする予定			
8. 成績評価の方法 期末試験〔50％〕期間内の課題を主とする平常点〔50％〕			
9. その他 与えられた課題は必ず提出すること。			

科目ナンバー：(BA)LIN191J			
言語表現論			高橋雄生
2単位	1年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 近代・現代の随筆・日記等を鑑賞し、それらの文章の構成や表現の分析を通して、すぐれた文章とは何かという問題を考察する。 <到達目標> 本授業の目的は、名文に触れるだけでなく、自分の言葉で、自分自身の問題意識や思考したことを、誰にでもわかるように書く、すなわち「自己表現の探究」というところにあります。			
2. 授業内容 1回 文章論の書き手 2回 谷崎潤一郎「文章読本」 3回 三島由紀夫「文章読本」 4回 丸谷才一「文章読本」 5回 中村明「名文」井上ひさし「説明文の伝達度」 6回 森鷗外「独逸日記」 7回 阿部次郎「三太郎の日記」大宅壮一「大宅壮一日記」 8回 宮柊二「青春日記」寿岳章子「過ぎたれど去らぬ日々」 9回 文章論に関するレポートの講評 10回 大庭みな子「幸福な結婚」(随筆) 11回 大宅歩「詩と反逆と死」 12回 高野悦子「二十歳の原点」 13回 赤木智弘『丸山真実』をひっぱたきたい 14回 小林秀雄「信じることと知ること」(随筆)			
3. 履修上の注意 講義形式の授業で、人数制限はありません。レポート・論文作成法の授業とともに、1年次で履修することが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回講義時に問題提起するので、自ら考え調べてほしい。予習よりも復習に重点をおいて学習してほしい。講義で取り上げる作品の著者について、あらかじめ調べておくこと。			
5. 教科書 プリントを授業時に随時配布する。			
6. 参考書 特になし。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートの提出やフィードバックは、Oh-o! Meijiを活用します。			
8. 成績評価の方法 平常点20%。1000字程度のレポートを4回で60%。300字程度のレポート2回で20%。			
9. その他 与えられた課題は必ず提出すること。 原則対面授業です。 万が一休講した時は、補講をせずに、オンラインで配信します。 プリントの配布やレポートの提出は、Oh-o! Meijiを活用します。			

科目ナンバー：(BA)LIN191J			
言語表現論			堂野前彰子
2単位	1年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 世界のグローバル化が進んだ今日、国際語としての英語やその他外国語の使用の機会が増えていますが、世界認識や自立した思考には母語である日本語の使用能力の向上が必要です。日本語の適切な活用を可能にするために、この授業では言語表現や日本語の特徴について学びます。表記による違いが文章にどのような印象を与えるのか、表現においてどのような工夫がなされているのかなど、言語表現の多様性や可能性、またそのような言葉と国家の関係について、文学作品や広告の表現を例として考えます。 <到達目標> 言葉とは世界解釈であり、認識のものであるという前提を理解し、社会に向け効果的に自己を発信できる言語表現を習得することを目指します。			
2. 授業内容 <授業予定> 第1回 言葉とは何か—言語学的な視点から ・TED Conference「初めて言えた時」(デブ・ロイ)を視聴。 第2回 言葉の意味—言葉の二重構造 ・丸山圭三郎『言葉とは何か』を中心に。 第3回 言葉の解体—みうらじゅん ・「最後の講義」(NHK番組)を視聴。 第4回 日本語の特徴1—擬声語・擬態語と掛詞 ・石川九楊『万葉仮名で読む『万葉集』』・『ひらがなの世界』から。 第5回 ことばと国家1—母語と母国語 ・小説『最後の授業』と『朗読者』から。 第6回 ことばと国家2—ユダヤ人とイデッシュ ・映画『家へかえろう』を視聴。 第7回 日本語の特徴2—四つの表記とその特徴 ・広告のキャッチコピーやマザー・グースの詩を例に。 第8回 日本語の特徴3—近代国家と翻訳語 ・柳父彰『翻訳語成立事情』から。 第9回 文章を書く工夫 ・谷崎潤一郎『文章読本』を参考に。 第10回 日本語の特徴5—小説の手法・詩の言葉 ・「彼」という視点と「私」小説。 第11回 「なる」の思想・「はじ」の文化 ・『古事記』や『万葉集』を例として。 第12回 文字とデザイン—本の装丁 ・TED Conference「デザイン万歳」(チップ・キッド)を視聴。 第13回 広告の言葉—クリエイティブ・シンキング ・天野祐吉編『CREATORS TALK』から。 第14回 言葉とは何か再考—映画『婚約者の友人』から ・映画『婚約者の友人』を視聴。			
3. 履修上の注意 講義形式の授業で、人数制限はありません。ただし、演習形式の「レポート・論文作成法」とともに、できるだけ1年次で履修することが望ましい科目です。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 紹介した本や配布したプリントなどに目を通してください。また、授業の内容を自分の言葉でまとめるようにしてください。			
5. 教科書 教科書は使用しません。授業レジュメを毎回Oh-o!Meijiにアップします。			
6. 参考書 丸山圭三郎『言葉とは何か』(夏目書房) 今井むつみ『ことばと思考』(岩波新書) 石川九楊『万葉仮名で読む『万葉集』』 石川九柳『ひらがなの世界—文字が生む美意識』(岩波新書) 田中克彦『ことばと国家』(岩波新書) 柳父章『翻訳語成立事情』(岩波新書) 和田誠『ことばの波止場』(中公文庫) 谷崎潤一郎『文章読本』(中公文庫) 天野祐吉編『CREATORS TALK』(青幻社)			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内容を理解しているか確認するために、3回程度、簡単な質問をします。期限内にOh-o!Meijiのアンケートへ回答してください。皆さんからの回答については、その次の授業時に取り上げます。			
8. 成績評価の方法 成績は、平常点：30%と期末レポート（試験代替）：70%によって評価します。			
9. その他 日常生活では、言葉とは何か、深く考えることはありませんが、この世界は全て「言葉」によって表現することができます。そのようにとても便利なものが「言葉」です。一方、言葉に表現できないことはこの世界に存在していないとみなされることがあります。便利なようで不便な「言葉」について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。			

科目ナンバー：(BA)LIN191J			
言語表現論		永野 宏 志	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 ※この授業は2022年度「日本文学B」の内容をIT時代の言語表現に重点化したものです。よって、2022年度「日本文学B」をすでに受講した方は内容がほぼ重複していますので、あらかじめご了承ください。 〔概要〕 この授業では「言語表現」をコンピュータに関わる範囲にまで拡張します。また、コンピュータ、スマホ、ゲーム機、VR装置等によって日々情報が伝達される「インターネットメディア」の言語システムを主な対象とします。インターネットメディアは企業や国家だけでなく、各個人が発信し、コミュニケーション可能な双方向的なメディアです。一方で、双方向的なやりとりによって各自のデータは企業や国家に管理され、加工を施しながらも売買され、未来を予測するコンピュータの計算力によってユーザー各々の興味趣向すら企業に方向づけられて、管理する側に膨大な利益をもたらす格差構造を作り出しました。加えて、コンピュータを紹介することで、突然のクラッシュによる危機や遠隔操作による犯罪（サイバー攻撃）も日々生み出しています。本授業では、人々の未来まで先取りするこのメディアを疑似体験しつつその未来も予想するために、近未来的な物語の中に身をおくという手順で進みます。扱う作品は、私たちの現在の延長として未来を描いた伊藤計劃のSFです。SF世界の登場人物の視点からVR体験的に、インターネットが生み出すサイバー空間（脳中心）と現実空間（身体中心）の間起こる諸問題を検討する予定です。 〔到達目標〕 人間の知性をコンピュータの知性を超えるとカーツワイルが予測したような技術的特異点（別名シンギュラリティ問題）が想定されると、人間の仕事が減り、労働や消費という考え方も変わってきます。この例はコンピュータが予測機械として私たちの未来に関わるようになってきていることを示しています。また、私たちが自由に開かれた未来を想像しづらくなっているのは、手元にあるスマホや机の上のPCが未来を先取りしてしまうからです。それゆえこの授業の目標は、私たちの身体がインターネットに接続されている点をしっかりと自覚し、自分の未来を自分で予測し行動するインセンティブを日々の生活に与えることです。			
2. 授業内容 【第1回】伊藤計劃紹介：本授業で取り扱う『虐殺器官』『ハーモニー』『屍者の帝国』の一部を紹介して、伊藤計劃SFの特徴を概説します。キーワード＝〈道具から環境へ、IT、BT、シンギュラリティ、ネットワーク〉 【第2回】伊藤計劃以前：インターネットの普及とともに出現したサイバーパンクSFの物語の特徴を、映画化された作品映像を紹介しながら検討します。キーワード＝〈サイバーパンク、インターネット、マンマシン・システム、人間至上主義〉 【第3回】『虐殺器官』①：作品の序盤を紹介しながら、新しい主人公と古い物語パターンによって現実と地続きの未来が描かれる点を検討します。キーワード＝〈物語パターン、サブジェクトからエージェントへ、データ至上主義〉 【第4回】『虐殺器官』②：作品の中盤を紹介しながら、ゲームの世界に設定された作品が、SF的未来によって私たちの現実を映し出す点を検討します。キーワード＝〈ナノ化する技術、ゲーム的世界、プレイヤーとキャラクター、生成文法〉 【第5回】『虐殺器官』③：作品の終盤を紹介しながら、「虐殺の文法」がどの程度まで私たちの現実にも部分的に浸透しているのか、という点を検討します。キーワード＝〈二項コード、利己的遺伝子、利他主義、プロパガンダ・モデル〉 【第6回】（ブレイク1）IT社会におけるプログラマとハッカーの共通項をハッカー映画の二重性格の主人公から分析し、実際の事件のドキュメンタリーでハッキングの規模の大きさについて考察します。キーワード＝〈コメディ、英雄物語、超監視社会、二重人格的生活〉 【第7回】『ハーモニー』①：作品の序盤を紹介しながら、この作品の主人公と管理社会が成り立つために必要な現在の技術とそのSF的な進化の形態について検討します。キーワード＝〈監視社会から管理社会へ、リソース、ビッグデータ〉 【第8回】『ハーモニー』②：作品の中盤を紹介しながら、この未来社会のシステムの理論的ベースについて検討し、理論にある盲点とシステムの脆弱性を取り出します。キーワード＝〈トップダウンIT社会の3層、脆弱性、双曲割引〉 【第9回】『ハーモニー』③：作品の終盤を紹介しながら、AIが語り手の世界の外側の世界を取り出し、外側の世界も含めたクライマックス後の世界を予想します。キーワード＝〈意識、プログラムの入り方者、イマジン型AIの限界〉 【第10回】（ブレイク2）コンピュータシミュレーションが主役となった日本初の近未来SF『日本沈没』（1973）を分析し、未来予測のシミュレートに溺れる日常から距離を取るいくつかの方法を検討します。キーワード＝シミュレーション、オープンデータ、ブラックスワン 【第11回】『屍者の帝国』①：アニメ版と小説版の違いを指摘しながら、19世紀という舞台設定の物語と「屍者」というキャラクターの特徴を検討します。キーワード＝〈エージェント＋リソース＝ゾンビ、スチームパンク、心身二元論、データ〉 【第12回】『屍者の帝国』②：アニメ版と小説版の違いを指摘しながら、「計算者」というキャラクターに託されたトランスヒューマニズムを検討します。キーワード＝〈ロボット、アンドロイド、トランスヒューマニズム、不死の理論〉 【第13回】『屍者の帝国』③：アニメ版と小説版の違いを指摘しながら、ザ・ワンの主張とフライデーの言葉からデータ至上主義の批判を取り出す。キーワード＝〈複雑系、多様性、物語の直線性、相転移〉 【第14回】フランクシュタインの末裔たち：インターネット環境を含むITの歴史をAI開発とSFの歴史から辿り、インターネットが可能にするAI搭載のロボットと共生やメタバース化する私たちの近未来を予想してみます。キーワード＝〈有機的知性、無機的知性、問題解決、感情〉			
3. 履修上の注意 コンピュータに関する基礎知識（ITパスポート）資格程度）を習得し、認知科学の基礎知識が必要な場合が多くあります。 また、対面授業の場合、居眠り、私語、スマホいじりのような幼時からのTV視聴の習慣にとどまっている旧時代に属する受講者はその場で退場していただくので、心して受講するようお願いします。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：毎時間紹介する文献や動画の情報はあらかじめ目を通しておいてください。また毎回の授業でマンダラチャートを配布して埋めていただくので、そこに書いたキーワードを覚えてマンダラのように動かしてください。 復習：毎回の授業中に書いたマンダラチャートは回収するので、授業で書いたキーワードを書き出しリストアップして保存しておいてください。 （※「マンダラチャート」とは、思いついた言葉からマンダラ状に言葉をリンクさせて発想力を高め、キーワードを自分で探し出すためのマインドマップの一種です。）			
5. 教科書 伊藤計劃『虐殺器官』（ハヤカワ文庫）、同『ハーモニー』（同）、伊藤計劃・円城塔『屍者の帝国』（河出文庫）			
6. 参考書 参考文献：レイ・カーツワイル『シンギュラリティは近い』（NHK出版）、ユヴァル・ノア・ハラリ『ホモ・デウス』（上・下巻 河出書房新社）、ニック・ボストロム『スーパーインテリジェンス』（日本経済新聞出版社）、P・W・シンガー「戦争請負会社」（NHK出版）、ステイブン・ビンカー『言語を生み出す本能』（NHKブックス）、リチャード・ドーキンス『利己的な遺伝子』（紀伊国屋書店）、ノーム・チョムスキー『メディアとプロパガンダ』（青土社）、テッド・チャン『あなたの人生の物語』（ハヤカワ文庫）、マイケル・S・ガザニガ『脳のなかの倫理』（紀伊国屋書店）、ジョージ・エインズリー『誘惑される意志』（NTT出版）、金子邦彦『カオスが紡ぐ夢の中で』（ハヤカワ文庫NF）、スヴェトラナ・セミョノヴァ『フョードロ伝』（水声社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回配布した「マンダラチャート」を印刷したシートを回収し、次の回の授業冒頭で一括して講評し、傾向分析、問題点、修正すべき点を指摘します。			
8. 成績評価の方法 a. 毎回マンダラチャートを配布するので授業中に記入していただき、そこに記した単語をもとに、授業終盤に質問を出します。最後の10分程度の時間でそれに回答していただいて出席扱いとします。（70%） b. 学期末に最終レポート（3000字以上）を出題します。（30%）			
9. その他 基礎編として同じ教員のレポート論文作成法があり、この授業は応用編としてIT方面に特化して設定されています。が、レポートを受講済みでなくてもITに関する基礎知識（ITパスポート資格程度）があれば、受講は可能です。			

科目ナンバー：(BA)LIN191J			
手話コミュニケーション（初級）Ⅰ			吉川あゆみ 鈴木なぎ
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> テレビや映画等で手話を取り上げられることが増え、街の中でも手話を使う人を見かけるようになり、「手話」がより身近なものとして認識されつつあります。ここでは、バイト先や街の中でろう者と会った時にとっさに使える手話を身につけると共に、異文化とは何か、聴覚障がい者はどんな生活をしているか等のさまざまな視点から理解を深め、共生の道を模索していきます。 <到達目標> 手話コミュニケーション初級Ⅰ～Ⅱを通して、手話での「簡単な自己紹介ができる」「一対一での簡単なやりとりができる」ことをめざします。			
2. 授業内容 <手話実技> 第1回 導入 第2回 アイコンタクト、挨拶、名前の表現 第3回 形の表現、数字、指文字 第4回 年齢、ライフステージ 第5回 家族構成 第6回 月日、誕生日 第7回 一日の生活 第8回 学部、学科 第9回 都道府県名、出身地 第10回 地名、住所 第11回 交通手段、通学方法 第12回 店先での会話 第13回 ゲスト交流会 第14回 春学期内容の確認と解説 ＊手話では視覚ゲームやDVD学習、ゲスト交流会等を随時取り入れる。 <講義> 第1回 聞こえない人に伝えてみよう 第2回 コミュニケーション方法を考える 第3回 聞こえない人とのコミュニケーション 第4回 手話とはどういう言語か 第5回 様々な聴覚障がい者、ろう文化 第6回 聞こえのしくみ 第7回 音のない生活を想像する 第8回 聴覚障がい者の日常生活 第9回 福祉機器・福祉制度 第10回 災害時の聴覚障がい者 第11回 聴覚障がい者の高等教育 第12回 ノートテイク体験 第13回 ゲスト交流会 第14回 春学期筆記試験 ＊講義では実技、映像、ディスカッションを取り入れながら進める。			
3. 履修上の注意 ＊手話を全く知らない方を対象としたカリキュラムとなっています。 ＊定員を超えた場合は抽選が行なわれます。周知されている期日に合わせて申し込みと登録手続きをしてください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ＊1分程度の手話動画を見て暗記する（シャドーイング）宿題が課されることがあります。 ＊授業の進度によっては自分の手話動画を自撮りしてLINE等で送る場合もあります。			
5. 教科書 ＊教科書は使用しません。主として講義で配布する資料、レジュメを用います。			
6. 参考書 ＊岡典江・赤堀仁美『日本手話のしくみ練習帳DVD付』大修館書店 ＊全国手話通訳問題研究会『新・手話通訳がわかる本』2010（中央法規）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 ＊レポート提出後、Oh-o! Meiji 経由でコメントします。			
8. 成績評価の方法 ＊平常点80％＋レポート10％＋春学期内容の確認10％ ＊レポートの提出と確認テストの受験は必須です。			
9. その他 ＊ろう者と聴者の二人の講師によってすすめます。おもにろう講師からは手話を、おもに聴講師からは聴覚障がい者の生活や聴覚障がい学生の支援について学びます。 ＊身の回りの表現や店先での会話を講師との対話やペアワーク・グループワークを通して身につけていきます。 ＊毎回の出席と積極的な授業参加が、一年後の手話スキルを左右することを念頭においてください。			

科目ナンバー：(BA)LIN191J			
手話コミュニケーション（初級）Ⅱ			吉川あゆみ 鈴木なぎ
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> テレビや映画等で手話を取り上げられることが増え、街の中でも手話を使う人を見かけるようになり、「手話」がより身近なものとして認識されつつあります。ここでは、バイト先や街の中でろう者と会った時にとっさに使える手話を身につけると共に、異文化とは何か、聴覚障がい者はどんな生活をしているか等のさまざまな視点から理解を深め、共生の道を模索していきます。 <到達目標> 手話コミュニケーション初級Ⅰ～Ⅱを通して、手話での「簡単な自己紹介ができる」「一対一での簡単なやりとりができる」ことをめざします。			
2. 授業内容 <手話実技> 第1回 夏休み報告 第2回 校内めぐり 第3回 店名、店頭の会話 第4回 校内案内 第5回 街案内 第6回 教科、科目 第7回 食べ物 第8回 趣味、特技 第9回 職業、アルバイト 第10回 天気 第11回 自由会話発表 第12回 読み取り学習 第13回 ゲスト交流会 第14回 秋学期の内容確認 ＊視覚ゲームやDVD学習、手話交流会等を随時取り入れる。 <講義> 第1回 ろう運動（ろう団体、人権） 第2回 ろう運動（法改正） 第3回 ろう教育の歴史 第4回 聴覚障がい児の教育 第5回 教育環境、家族関係を考える 第6回 手話での学校教育 第7回 聴覚障がい者の就労 第8回 高齢ろうあ者 第9回 盲ろう者 第10回 障害者権利条約と国内法 第11回 教育まとめ 第12回 手話通訳 第13回 ゲスト交流会 第14回 秋学期筆記試験 ＊実技、映像、ディスカッションを取り入れながら進める。			
3. 履修上の注意 ＊手話コミュニケーションⅠを履修した方及び同等の手話力を持つ方を対象としたクラスです。 ＊定員を超えた場合は抽選が行なわれます。周知されている期日に合わせて申し込みと登録手続きをしてください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ＊1分程度の手話動画を見て暗記する（シャドーイング）宿題が課されることがあります。 ＊授業の進度によっては自分の手話動画を自撮りしてLINE等で送る場合もあります。			
5. 教科書 ＊教科書は使用しません。主として講義で配布する資料、レジュメを用います。			
6. 参考書 ＊岡典江・赤堀仁美『日本手話のしくみ練習帳DVD付』大修館書店 ＊全国手話通訳問題研究会『新・手話通訳がわかる本』2010（中央法規）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 ＊レポート提出後、Oh-o! Meiji 経由でコメントします。			
8. 成績評価の方法 ＊平常点80％＋レポート10％＋秋学期内容の確認10％ ＊レポートの提出と確認テストの受験は必須です。			
9. その他 ＊ろう者と聴者の二人の講師によってすすめます。おもにろう講師からは手話を、おもに聴講師からは聴覚障がい者の生活や聴覚障がい学生の支援について学びます。 ＊身の回りの表現や店先での会話を講師との対話やペアワーク・グループワークを通して身につけていきます。 ＊毎回の出席と積極的な授業参加が、一年後の手話スキルを左右することを念頭においてください。			

科目ナンバー：(BA)LIT126J			
外国文学（英米）〔M〕			辻 昌 宏
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 メディア授業です。 〈授業の概要〉 英詩の世界の概観を展望する。 シェイクスピアから19世紀、20世紀にいたる代表的な詩人の作品を理解する。 また、作者の感情の吐露を中心とする抒情詩だけが詩なのではなく、叙事詩や社交的性格をもった詩、遊び心のある詩の存在を知る 〈到達目標〉 英語で書かれた詩は、どこが散文と違うのかを理解する。 英詩の韻律を理解する。 古い英語の文法や言い回しの基礎を学ぶ。 英詩の基本的な構造やジャンル、レトリックを知り味わう。 詩のスタイル（文体・様式）とそれが書かれた時代の政治・経済・文化との関係を考察できるようにする。			
2. 授業内容 メディア授業です。 第1回 英詩とは何だろう？ 韻律とは何か？ 第2回 シェイクスピアの時代の詩(1) 第3回 シェイクスピアの時代の詩(2) 第4回 シェイクスピアの時代の詩(3) 第5回 形而上詩人とバロック(1) 第6回 形而上詩人とバロック(2) 第7回 17世紀の詩 第8回 18世紀の詩(1) 第9回 18世紀の詩(2) 第10回 ロマン主義の詩(1) 第11回 ロマン主義の詩(2) 第12回 20世紀の詩(1) 第13回 20世紀の詩(2) 第14回 まとめ			
3. 履修上の注意 メディア授業であることに注意してください。 オンデマンドを中心にして第一回と試験時はリアルタイム配信をします。 リアルタイム配信となるのは、 第一回の4月10日と期末試験（日時は後日発表）のみです。 それ以外はオンデマンド形式の授業となります。必ず、動画を最初から最後まで観て、理解し、小テストに答えるようにしてください。動画を最初から最後まで見て、小テストに答えることではじめて出席とみなされます。ちなみに、パノプトには、皆さんが動画を見た時間が記録されます。 日本と異なる文化圏で書かれた詩は、美意識や認識方法が異なっていることがある。 詩を読んだり、内容の説明を聞いて感じる違和感や、もやもやとした感じを大切に、なぜそういう違和感を感じるのかを考えてみるようにしてほしい。 言い回しや、レトリックに関しても、好奇心を全開にして、吸収するようにしてください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 詩人に関する伝記的情報を調べる。17世紀や18世紀の英語の文法や語法に留意し、押韻や詩のリズムに気をつけながら、学習した詩の音読をする。			
5. 教科書 適宜Oh-meijiを通じてプリントを配布する			
6. 参考書 授業中指定する			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 動画視聴と小テスト70%、Oh!-Meiji のディスカッションを利用して質問や意見及び感想の表明10%、期末試験（リアルタイム配信で実施）20%の組み合わせにより評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LIT131J			
外国文学（ドイツ）			竹内 拓 史
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 ドイツ語圏の文学を参考にしながら、戦後のドイツが抱える問題について考察する授業です。 2012年にドイツのノーベル文学賞受賞者ギュンター・グラスが、イスラエル政府から入国禁止措置を受けました。 その理由は、彼がある一編の詩を発表したからという一見ささいな理由なのですが、この背景には第二次世界大戦後のドイツが抱える大きな問題が透けて見えます。この授業では、グラスをはじめとしたドイツ知識人（特に作家）の言論や文学作品とドイツの戦後史を併せて見てみることで、ドイツが戦後長らく抱えてきた諸問題についてドイツ知識人がどのように立ち向かってきたのか、もしくは立ち向かってこなかったのかを考察します。 同時に、それらの問題に対してみなさんならどう考え、どう立ち向かうのか、もしくは立ち向かわないのかを議論してもらいたいと思います。というも、そちらの問題の一端は私たち日本人にとっても極めてアクチュアルなものであり、ドイツの抱える問題を考察することは、日本が戦後抱えてきた（そしていまだに抱えている）問題を考えるきっかけにもなるからです。 〈到達目標〉 戦後のドイツと日本が抱える問題について、文学や歴史を参考にしながら考察し議論する知識と知力を身につける。			
2. 授業内容 第一回：「語られねばならぬこと」とギュンター・グラス（1） 第二回：ドイツの歴史概説（1） 第三回：ドイツの歴史概説（2） 第四回：ナチスによるユダヤ人迫害 第五回：イスラエルとイラン、ドイツの関係 第六回：「語られねばならぬこと」とギュンター・グラス（2） 第七回：マルティン・ヴァルザーのイスラエル批判 第八回：ヴァルザーのイスラエル批判に対する批判 第九回：アウシュビッツ以後に、詩を書くこと 第十回：パウル・ツェランの詩と詩論について（1） 第十一回：パウル・ツェランの詩と詩論について（2） 第十二回：映画『朗読者』鑑賞 第十三回：『朗読者』から考える戦後の問題（1） 第十四回：『朗読者』から考える戦後の問題（2）			
3. 履修上の注意 ドイツ語ができる必要はありません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 参加者には、授業中適宜各々の見解をグループで議論してもらいます。授業に「参加」できるように、事前に授業内容について調べて授業に来てください。			
5. 教科書 資料を授業時に渡します。			
6. 参考書 適宜授業中に指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 参加者には毎授業ごとに、授業に関する質問を二つ以上書いて提出してもらいます。次回の授業の冒頭で、それらの質問に対して回答します。			
8. 成績評価の方法 授業への参加及び毎授業ごとの質問の提出42%、レポート58%の予定です。授業の進行具合によって若干変更となる場合があります。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LIT131J			
外国文学（フランス）		折方のぞみ	
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 フランス文学とひとことで言っても、作家がどの程度「フランス人」であるのかということは実は自明ではありません。「フランス革命の父」と言われたルソーはジュネーヴ出身で、「他の誰とも違う自分」について語りました。ノーベル文学賞作家であるカミュはアルジェリアで生まれ育ち、自身のフランス性とアルジェリア性の間で揺れ動きました。授業では18世紀から20世紀までの主要作品を紹介しながら、フランス的アイデンティティの多様性から「他者との共存」というテーマにまで話を広げて考察していきます。 私たちは今「グローバル化」の進む世界に直面していると言われています。けれども、真の意味での「グローバル」とは一体なんなのでしょうか。フランス文学における自己と他者の発見を学ぶことを通して、こういった現代的な問題をも考察出来るようになることが到達目標です。			
2. 授業内容 おおまかなスケジュールは以下の通りですが、受講生の顔ぶれや興味によって柔軟に展開します。 随時映像資料の視聴も取り入れる予定です。 —自己と他者の狭間で：フランスをめぐるアイデンティティ問題を考える— 第1回：導入 第2～4回：18世紀 ナショナルアイデンティティと自己：「私」の発見 第5～7回：19世紀 職業作家の誕生：「凡庸な自分」からの逃走 第8～10回：20世紀 ルーツの多様性と他者との共存：重層的なアイデンティティを持つ「私」 第11～13回：ジャーナリズムと文学 第14回：まとめ、学期末テスト			
3. 履修上の注意 授業理解を兼ねたリアクションペーパーの提出が求められます。講義ベースですが、随時関連動画視聴と授業内での感想提出も行う予定です。 動画視聴時に欠席した場合の特別配慮は出席停止を求められる感染症による欠席時のみです。 出席せずに単位を取得することは出来ないのので気をつけること。 また、授業中にPCなどの電子機器を使うことは禁止します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 特に予備知識は必要ありません。フランス語力なども不要です。ただ、授業内容をきちんと理解するためにも、次の回に扱う作品についておおまかな知識確認の予習をしてから授業に参加することが望ましいです。			
5. 教科書 特に使用しません。			
6. 参考書 特に指定しません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 ・平常点（出席、授業参加、リアペなどの提出物）50% ・履修人数や顔ぶれによって変わりますが、配布資料と自筆ノート持ち込みでの記述式の学期末試験を予定しています。 50% 上記の割合については目安です。			
9. その他 文学的なフィクションの中にこそ普遍的な真理が見出されるとはよく言われることです。過去の作品からフランスという国のあり方を学ぶことで、現代フランス社会の特徴とそれが抱える問題にまで視野を広げられることでしょう。あまり難しく考えず、実際に作品の文章に触れることを通して、みなさんがそれぞれに、自分なりの「発見」をしてくれたらと思っています。			

科目ナンバー：(BA)LIN131J			
日本語論A			戸村佳代
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 日本語を学ぶ外国人が増加している現在、たとえ日本語の専門家でなくとも、「日本語の性質」や「日本語の使い方」について質問されることは珍しいことではない。この講義では、現代日本語の音声と語彙を中心に、歴史的経緯を概観したり、外国語（主に英語）との比較をしながら、普段何気なく使っている日本語の音声や語彙に対する関心を深め、その特性を理解することを目指す。 <到達目標> 1) 現代日本語の調音（発音のしかた）について理解する。 2) 日本語のアクセント・イントネーションの特徴を理解する。 3) 基本的な語彙分析の方法を理解する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：「ヲ」は「o」？ それとも「wo」？ — 日本人の音の捉え方/発音の地域差 第3回：「母音」と「子音」って何が違うの？ — 母音を決定する三つの要素 第4回：「pudding」は「プリン」！、「water」は「ワーラー」！？ — 子音を区別する要素 第5回：昔の「母」は「papa」だった！ — 音声変化/音声面からみた濁点の機能 第6回：「母」の行方……：「papa」は元気に生きている — 日本語の中の“新しい”音と表記、カタカナ言葉 第7回：日本語の話は“機関銃”！？ — 「ン」の発音/拍（モーラ） 第8回：い〜ち〜・に〜い〜・さ〜ん〜、……この「い」は何？ — フット 第9回：「カレシ」はいるのに「カレシ」はいない……。 — アクセントとイントネーション/平板化、半疑問 第10回：三色の虹？ オレンジ色のネコ！ — 認識と語彙/文化と語彙の関係/語彙の体系的性 第11回：「rice」は「ライス」？ — 意味素性分析/共起関係/語義 第12回：方言出身の「ウザッタイ」 — 現代日本語の語彙/若者言葉/他 第14回：まとめ ※「経営学部ゲスト講座」として、外部から講師を招いて授業を実施する予定である。			
3. 履修上の注意 原則として、授業時に取り組むワークシートと授業後のリアクションペーパーの提出を必須とする。 これらの提出にはOh-o! MeijiまたはSugukiku、MS-Forms、Slido等のWeb回答システムを利用する。 ■授業にはノートPC、タブレット、スマートフォンなど、Webフォームに解答できる機器を持参すること。 ■MeijiMailの「多要素認証」の設定を行うこと。（設定マニュアル：https://www.meiji.ac.jp/isc/mm-mfa/） ■欠席が5回以上の場合には期末試験を受けることができない。 ■リアクションペーパーの提出が5回未満の場合は不合格となる可能性が高い。 ■病気・怪我などやむを得ない理由により欠席・遅刻した場合（ワークシート未提出）、指定の「欠席等理由届」を提出すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 学生が提出した「リアクションペーパー」（Oh-o!Meijiの「アンケート」機能を利用）の内容を反映して、授業の始めに、前回授業の復習を行う。 1 回前の授業資料を必ず持参し、復習しておくこと。			
5. 教科書 授業時に毎回資料を配付する。			
6. 参考書 伊坂淳一（2016）『新ここからはじまる日本語学』ひつじ書房 ￥1,944 ※購入は必須ではないが、授業時に該当する項目のページを提示する） その他、授業時に適宜指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 「リアクションペーパー」（Oh-o!Meijiの「アンケート」機能を利用）の内容を反映して、授業の始めに、前回授業の復習を行う。 個別の質問には「アンケート」のフィードバック機能を利用して回答する。			
8. 成績評価の方法 (1) 学期末に行う試験（70％） (2) 平常点（30％） ※授業で取り組むワークシート、リアクションペーパーの内容などを平常点とする。 ※ワークシートの提出により出席を確認する。 ※5回以上欠席した者（ワークシート未提出が5回以上）は期末試験を受けられない。 ※リアクションペーパーの提出が5回未満の場合には不合格となる可能性が高い。			
9. その他 ○授業予定は、授業の進行に合わせて変更する場合がある。 ○学期中に外部講師による「特別講義（ゲスト講座）」を1回入れる予定である。			

科目ナンバー：(BA)LIN131J			
日本語論B			戸村佳代
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> この講義では、現代日本語の文の構成、文の構造と意味との関わり、日本人のコミュニケーションの特徴などについて言語学的見地からの分析を行う。また、「日本語の乱れ」として話題になる各種の言語現象などの身近なテーマを取り上げ、言語使用に対する学生の関心を喚起する。 <到達目標> 1) 現代日本語の文の構造とその特性について理解する。 2) テンス、アスペクト、ボイス等の観点から、日本語の文と意味の特徴を理解する。 3) 言語の変化について、客観的な分析を行う。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：日本語って“ヤバイ”？ — ことばの“ゆれ”と“変化”？ 第3回：「コタエラレル」？「コタエレル」？「コタエラレル」？ — ことばの“ゆれ”と“変化”？ ※ら抜き言葉、サ入れ言葉、レ足す言葉/予測できる変化/他 第4回：日本語には「主語」がない？ — 日本語の文の基本構造/述語と補語 第5回：「私は山田です。」——いえいえ、「私が山田です。」 — 「ハ」と「ガ」の使い分け 第6回：「WA！！」——文学を文法しちゃう！ — 「ハ」の本質 第7回：「*彼は田中さんといっしょに結婚しました」——！？ — 助詞の機能 第8回：「今、行くよ〜お」——“現在”ではない“今” — テンス：「ル」形と「タ」形 第9回：「日本に来る/来た時に、兄が空港に来てくれた」 — 「タ」の本質 / “過去”ではない「タ」 — 「一万円からでよかったでしょう」か 第10回：「結婚している」の二つの意味 — アスペクト：「テイル」の意味と機能 第11回：「彼はパーティに来ていました」 v.s. “He was coming to the party”——ア リバイ成立はどっち？ — アスペクト：英語との比較/動詞の4分類 第12回：「日本語にあって英語にない受動態」って、な〜んだ？ — ボイス（態）：直接受身・間接受身/迷惑の受け身 第13回：「こちら、一万円からのお預かりになります」……?? — 自動詞・他動詞/ナル表現 V.S. スル表現 第14回：まとめ ※「経営学部ゲスト講座」として、外部から講師を招いて授業を実施する可能性がある。			
3. 履修上の注意 原則として、授業時に取り組むワークシートと授業後のリアクションペーパーの提出を必須とする。 Oh-o! MeijiまたはSugukiku、MS-Forms、Slido等のWebによる回答システムを利用してクイズや出席確認を行う。 ■授業にはノートPC、タブレット、スマートフォンなど、Webフォームに解答できる機器を持参すること。 ■MeijiMailの「多要素認証」の設定を行うこと。（設定マニュアル：https://www.meiji.ac.jp/isc/mm-mfa/） ■欠席（＝ワークシート未提出）が5回以上の場合には期末試験を受けることができない。 ■リアクションペーパーの提出が5回未満の場合は不合格となる可能性が高い。 ■病気・怪我などやむを得ない理由により欠席・遅刻した場合（ワークシート未提出）、指定の「欠席等理由届」を提出すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 学生が提出した「リアクションペーパー」の内容を反映して、授業の始めに、前回授業の復習を行う。 1 回前の授業資料を必ず持参し、復習しておくこと。			
5. 教科書 授業時に毎回資料を配付する。			
6. 参考書 ○伊坂淳一（2016）『新ここからはじまる日本語学』ひつじ書房 ￥1,944 ※購入は必須ではないが、授業時に該当する項目のページを提示する） ○森山卓郎『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房 ￥2,400 ○原沢伊都夫『日本人のための日本語文法入門』講談社現代新書 ￥799 その他、授業時に適宜指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 「リアクションペーパー」（Oh-o!Meijiの「アンケート」機能を利用）の内容を反映して、授業の始めに、前回授業の復習を行う。 個別の質問には「アンケート」のフィードバック機能を利用して回答する。			
8. 成績評価の方法 (1) 学期末に行う試験（70％） (2) 平常点（30％） ※授業で取り組むワークシート、リアクションペーパーの内容などを平常点とする。 ※ワークシートの提出により出席を確認する。 ※5回以上欠席した者は期末試験を受けられない。 ※リアクションペーパーの提出が5回未満の場合には不合格となる可能性が高い。			
9. その他 ○授業予定は、授業の進行に合わせて変更する場合がある。 ○学期中に外部講師による「特別講義（ゲスト講座）」を1回入れる可能性がある。			

科目ナンバー：(BA)LIT111J			
日本文学 A／B 【全体概要】			
2 単位	1 年次		和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標			
「日本文学 A・B」の全クラスに共通する基本的な概要・到達目標は下記のとおりです。			
本講義は A・B それぞれ 3 クラス設置され、担当教員により授業内容等は異なっていますので、詳細は各担当教員のシラバスを参照してください。			
〈概要〉			
日本文学を学ぶ目的は、日本人の思想や精神世界、あるいは心の営みを深く理解するところにあります。日本文学から日本の伝統的なものの見方や考え方、あるいは人間の生き方や美意識を探っていきます。それは文学言語を通して日本文化を知り、日本人のアイデンティティを探究することにつながります。日本文学についての知識や教養をもつことは、文学表現に対する感性を養い、私たちの生き方を考えることにもなります。			
〈到達目標〉			
日本文学とその表現の力、また、そこに表れた心と思想について理解を深めること。			
2. 授業内容			
各担当教員のシラバスを参照してください。			
3. 履修上の注意			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
各担当教員のシラバスを参照してください。			
5. 教科書			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
各担当教員のシラバスを参照してください。			
8. 成績評価の方法			
各担当教員のシラバスを参照してください。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LIT111J			
日本文学 A		森田直美	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 本授業の目的は、『小倉百人一首』の講読を通して、日本独自の美意識・価値観や日本語表現の多彩さを学ぶことです。 現代でもかるたなどで親しまれている『小倉百人一首』は、日本の文化・文学を代表する作品のひとつです。本授業では、各回に個別のテーマを設け、『小倉百人一首』の収載和歌を講読します。単なる印象批評的な鑑賞にとどまらず、技巧の特徴や表現的效果等についても解説を加えます。 和歌は言葉による日本の遺産であり、世界的に見ても非常に独自性の強い詩歌です。三十一文字という制約の中で練り上げられた作品群を通して、日本文学特有の表現や発想について知見を広げる機会としてください。 〈到達目標〉 ①和歌文学の基礎知識（修辞や文法・語法など）を理解する。 ②日本文学史における『小倉百人一首』の位置づけを理解する。 ③講読した和歌の内容、および技巧や表現の特徴について、自分の言葉で説明できる。			
2. 授業内容 概ね以下の内容を進めますが、各回のテーマを入れ替える可能性があります。 第1回：ガイダンス、和歌とはなにか 第2回：奈良時代から鎌倉初期までの和歌史概観、および『小倉百人一首』の位置づけについて 第3回：『小倉百人一首』の“はじめ”と“おわり”（天智天皇 持統天皇 後鳥羽院 順徳院） 第4回：時間を表現する方法（柿本人麻呂 伊勢）、および古代における「旅」（安倍仲麻呂 小野篁） 第5回：「見立て」の歌（凡河内躬恒 文屋朝康 春道列樹 能因法師） 第6回：「ハレ」の歌（壬生忠見、平兼盛） 第7回：序詞について（藤原実方 壬生忠見） 第8回：「寄物陳思」の歌（陽成院 崇徳院） 第9回：「正述心緒」の歌（藤原義孝 藤原道雅 儀同三司母） 第10回：宮廷女房たちの歌（清少納言 紫式部 伊勢大輔） 第11回：掛詞について（小野小町 源宗于 在原行平） 第12回：「本歌取り」「物語取り」の歌（式子内親王 藤原定家） 第13回：和歌から読み取る“理想的な出家僧の姿”（喜撰法師 大僧正行尊 良運法師） 第14回：a：期末テスト			
3. 履修上の注意 毎回授業時にワークシートを執筆してもらいます。その内容は成績評価に反映されます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第1回を迎えるまでの事前学習として、藤原定家と『小倉百人一首』について、高校の教科書や入門書などで基礎的事項を学んでおくこと。 各回の予習：次回扱う箇所のテキストを下読みし、作者や語句などを辞書や入門書で調べておく。 各回の復習：ノートやプリントを整理し直し、不明な箇所は教員に質問するなどして明らかにする。			
5. 教科書 谷知子『百人一首（全）』（角川ソフィア文庫 ビギナーズクラシックス日本の古典、2010年） 必ず購入し、毎回持参すること。			
6. 参考書 有吉保『百人一首全訳注』（講談社学術文庫、1983年） 鈴木日出男『百人一首』（ちくま文庫、1990年） 渡辺泰明編著『和歌のルール』（笠間書院、2014年） 購入する必要はありませんが、『小倉百人一首』をより深く理解するために有益な著書です。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回提出されるワークシートへの総評を、次回授業の冒頭で伝えます。			
8. 成績評価の方法 授業への参加態度（毎回提出するワークシートの内容を含む）50％、期末テスト（持ち込み可）50％ 上記を目安として総合的に評価します。			
9. その他 - 授業中の私語・居眠り・遅刻・途中退出・携帯電話やスマートフォン等の使用、その他授業環境を悪くする行為は厳に慎むこと。 - 迷惑行為が目に見える場合は氏名を確認した上で退室していただき、その回は欠席扱いとします。 - 授業に出席してもワークシートが未提出の場合、その回は欠席扱いとします。 30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 - 履修登録期間前に他の授業を履修し、その後に本授業の履修を決めた場合にも、それまでの回は欠席扱いとなります。 - 半期の3分の1を超えて欠席した場合（遅刻は3分の1欠席扱い）、成績評価の対象としません（T評価）。			

科目ナンバー：(BA)LIT111J			
日本文学A			高橋雄生
2単位	1年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 人は何故に自己表出を為すのだろうか。その深部に多少なりとも近づくこと、それが、本講義の第一のねらいである。 具体的な作品としては、平安時代の日記文学である「和泉式部日記」を取り上げるが、あわせて、平安時代の文学に対する理解を深める。これが、第二のねらいである。 <到達目標> 日本の古典文学を学ぶことで、日本文化全般にわたる教養の一端を身につけることを目標とする。			
2. 授業内容 第1回 平安女流文学概説 第2～3回 漢文日記から日記文学へ。 第4回 私家集から日記文学へ。 第5回 歌物語と日記文学。 第6回 日記文学の本質。 第7回 「土佐日記」の形成、日記文学の始発としての意義。 第8回 「和泉式部日記」か「和泉式部物語」か 第9～10回 超越的視点。「和泉式部日記」と「蜻蛉日記」を比較。 第11～12回 「和泉式部日記」の和歌。 第13～14回 たった二人の世の中。			
3. 履修上の注意 毎回講義時に問題を提起するので、講義内容を踏まえ、自ら考え、自ら調べてみるという姿勢が望ましい。その成果を、4回課す、1000字程度のレポートで発揮してもらいたい。定期試験は課さない。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の現代語訳はあらかじめ必ず読んでおくこと。			
5. 教科書 『和泉式部日記』近藤みゆき 角川ソフィア文庫			
6. 参考書 『中古日本文学史』 木村正中編 （有斐閣双書）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meijiを利用します。			
8. 成績評価の方法 レポート1回20点。4回のレポートを課すので、合計80点。授業への参加度20点。合計100点満点で評価する。			
9. その他 古典文法や古語の知識がなくても、講義内容は十分理解できるので、安心して履修してください。 原則、対面授業です。 万が一休講した時は、補講をせずに、オンラインで配信します。 レポートの提出やプリントの配布はOh-o!Meijiを活用します。			

科目ナンバー：(BA)LIT111J			
日本文学A			田原加奈子
2単位	1年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 和歌を中心に古典文学を扱い、千年前の言葉や表現、感性について学ぶ。具体的には、和歌のはじまりから平安時代を中心に、和歌を含むテキストを読み解いていく。和歌は千年昔から現代に至るまでさまざまな形で影響を及ぼしている。身近なものとして実感することで、今まで何気なく見ていた日常を、和歌を通して見つめることで多彩な世界として見えてくることに気が付いてほしい。日本文化に生き、理解し、発信していくために、日本文学に面白さを見出し、今後の人生をより豊かに生きる基盤を築くことを目的とする。 <到達目標> 古典和歌についての基礎的な知識を備え、三十一文字の和歌と向き合い、自分自身の経験値として日本文学を読解できるようになる。			
2. 授業内容 第1回 古典和歌とは何か 第2回 和歌をよむために（1）くずし字 第3回 和歌をよむために（2）和歌のはじまり 第4回 『伊勢物語』（1）失恋記念日の過ごし方 第5回 『伊勢物語』（2）友達とセンチメンタルジャーニー 第6回 『伊勢物語』（3）一番好きなのはキミだ！ 第7回 勅撰集の和歌（1）『枕草子』（1）まあるくって、ちっちゃくて！ 第8回 勅撰集の和歌（2）『枕草子』（2）隆家様の骨自慢 第9回 勅撰集の和歌（3）『枕草子』（3）台風之余韻 第10回 勅撰集の和歌（4）『源氏物語』（1）正妻VS愛人 第11回 勅撰集の和歌（5）『源氏物語』（2）身の毛もよだつモノノケの怪奇 第12回 私撰集の和歌（6）『源氏物語』（3）巻き起こる嵐の中でぶくは… 第14回 総括			
3. 履修上の注意 毎回授業前および授業後の課題を出す。その成果を授業内で共有しながら、和歌・古典文学を読み解くことを深めていく。提出の有無はもちろん、内容も成績評価の対象。中間および期末レポートあり。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業前課題：事前に示された課題（くずし字あるいは和歌の読解）に取り組み、その解答を提出する 授業後の課題：当日の授業を経て、新たな気づきや疑問、自己の経験と結びつくことなどを基本として、取り扱った和歌に関する自分なりの読解を記録する（300～500字程度）。			
5. 教科書 特に定めない			
6. 参考書 『和歌とは何か』 渡部泰明（岩波新書） 『和歌文学の基礎知識』 谷知子（角川選書） 『和歌のタイムライン』 和歌文学会出版企画委員会（三弥井書店） 『学びを深めるヒントシリーズ 伊勢物語』 早稲田久喜の会編 『学びを深めるヒントシリーズ 枕草子』 早稲田久喜の会編			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出後の授業で共有し、受講者全員で理解を深めるための一助とする。中間、期末レポートには個別にコメントを付けて返却する。			
8. 成績評価の方法 授業への取り組み、前後の課題50％ 中間、期末レポート50％			
9. その他 授業中の私語、途中入退室、携帯・スマホの操作は認めない（検索等の指示があった場合のみ可）。事情がある場合は事前に相談のこと。			

科目ナンバー：(BA)LIT111J			
日本文学B			畑 中 基 紀
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 たんに文学を「読む」だけではなく、そのときに私たちがどう「解釈」を行っているかを考えます。そのうえで、「批評」という行為について学ぶことで、言葉を読む感覚と書く感覚を研ぎすましていくことが、この授業の目的です。 私たちは、ページ上に並ぶ文字記号から、いったいどのようにして作品世界のイメージを頭のなかにつくりあげているのでしょうか。さらにはそこに、私たちの日々の経験と同じような日常生活が描かれていると感じたりできるのはなぜでしょうか。このような疑問を基本テーマに、文学テキストが表現する意味について考えていきます。ストーリーの構築だけでなく、日常性の表象、あるいは「意味」そのものが生成される「しくみ」を分析することによって、読むこと、解釈すること、そして批評することについて、さまざまな作品を読み、また時には映像を分析的に観たり、音に耳を傾けたりしながら考えてみましょう。 〈到達目標〉 皆さん自身が批評を書くことを試みることで、今後、文学以外のあらゆる対象についても、つまり、世の中のあれこれを批判的に捉えて判断できるための基礎づくりとなることが最終目標です。			
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2回 身近な言葉の文学性 第3回 身近な言葉とレトリック 第4回 文学の言語と音楽性 第5回 音楽と言語のただならぬ関係 第6回 声とイメージ 第7回 感覚表現の力 第8回 形式と解釈 第9回 解釈の試み 第10回 意味としての身体 第11回 対立が意味を生成する 第12回 解釈から批評へ 第13回 批評の参考例を分析するⅠ 第14回 批評の参考例Ⅱ (状況により変更、入れ替えを行うこともあります)			
3. 履修上の注意 「当たり前だ」と思っていることの裏側にある〈しくみ〉をねばり強く追究し発見する喜びを感じることのできる、知的好奇心のある人に向いています。なお、作家や文学史に関する知識は、図書館等で調べれば簡単に得られるものですので、この授業では重視しません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の他にも、いくつかの作品を取り扱いますが、それらはプリントで配布します。どちらも熟読しておくこと。また、他にも教室で紹介する文献（関連する作品や参考書）を読み、不明な部分があれば授業で質問すること。次の回の内容についての参考書を提示する場合は、あらかじめ目を通しておくこと。			
5. 教科書 夏目漱石『坊っちゃん』、『門』。どちらも新潮文庫。この他にはプリントを使用します。			
6. 参考書 川本茂雄『ことばとイメージ』岩波新書、他には教室で適宜指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 教室で、またはOh-o! Meijiを利用して。			
8. 成績評価の方法 期末レポート（70％）＋平常点（30％。授業時間内に、その日の内容に関連した小さな課題を提示して小論文を書いていただくなど、受講者自身が考える機会を設けながら進めていく予定です）			
9. その他 事前に夏目漱石の『それから』も読み、さらに森田芳光監督の映画「それから」を観ておくことが望ましい。			

科目ナンバー：(BA)LIT111J			
日本文学B			岡 崎 直 也
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 急激な科学の進歩と社会の合理化とによって精神を蝕まれ、国家間の対立や世界的な大恐慌などの危機を経験した人々は〈現実〉に不信を抱き、既成の価値観は転倒した。ために客観小説を支える文学観も崩壊し、二十世紀文学は〈小説とは何か〉という問いを私たちに鋭く突きつけることになる。本講義では、そうした状況下で関東大震災の衝撃をも受けて出発した昭和文学の様々な表現を短編小説の具体的な読解のなかで検討したい。 〈到達目標〉 昭和文学が探究した現代的問題を考察し、私たちの生きる時代を問い直す。合わせて文学の精読のトレーニングで、多角的思考を養うものとする。			
2. 授業内容 講読形式の授業を想定しているが、授業時にも受講者に意見を求める。 第1～2回 明治・大正文学から昭和文学へ 第3～4回 横光利一「蠅」 第5～6回 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」 第7～8回 梶井基次郎「闇の絵巻」 第9～11回 堀 辰雄「聖家族」 第12～14回 太宰 治「ヴィヨンの妻」 ＊上記はあくまでも予定であり、授業の進行によっては変更がある。			
3. 履修上の注意 各作品ごとの授業時レポートの提出を忘れてはならない。期末レポートを課すこともある。また、授業中の私語は一切許可しない。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 受講者は作品の予習に努め、常に問題意識をもって授業に臨まなければならない。			
5. 教科書 基本的にはプリントを配付する予定である。他に文庫本などを使用する場合もある。			
6. 参考書 奥野健男『日本文学史—近代から現代へ—』（中央公論新社・新書）、デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社）、廣野由美子『批評理論入門—「フランケンシュタイン」解剖講義』（中央公論新社・新書）、日本近代文学会〔編〕『ハンドブック 日本近代文学研究の方法』（ひつじ書房）、三好行雄・ほか〔編〕『日本現代文学大事典』（明治書院）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 受講者数が多い場合は、優れた指摘や問題提起をしたレポートに対して授業時にコメントする予定			
8. 成績評価の方法 授業時レポートや質疑応答などの授業への取り組み方〔100％〕。ただし期末レポートを課す場合もある。その場合は期末レポート〔50％〕、授業時レポートや質疑応答などの授業への取り組み方〔50％〕。			
9. その他 受講生の自由で活発な発言を何よりも期待する。			

科目ナンバー：(BA)LIT111J			
日本文学B		永野宏志	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この授業では、AIと融合し、マンマシン・システムと化した私たち(スマホ脳・ゲーム脳)を解放するフィクションの使い方を学びます。人間の意識と言語から作られたサイバースペースでは、無意識や潜在意識の場であるフィジカルスペースが切り捨てられようとしています。意識が操作可能な合理性に沿って、目的意識を持って問題解決へ向けて日々短期的なタスクをこなすフラットなIT社会では、物語も敵味方に分断して勝者敗者に格差化するゲームの物語に集約されてしまいます。一方、私たちが生きるために培ってきた他の多くの物語は深層意識の中に封じ込められています。そこで本授業では、フィジカルスペースを思い起こすことができる非フラットの世界を描いたいくつかの作品(スタジオ・ジブリ、宮澤賢治、夏目漱石などの作品)を辿りながら、私たちの身体が属する凸凹の物語世界が各自の足元に潜んでいる意識の深層を、「とんりの異世界」としてさまよってみようと思います。 〈到達目標〉 フラットなIT社会に凸凹の道や坂を作ることがこの授業のテーマです。つまり、子どもになって走り、転び、寝転ぶ身体を新たに作り、四角ばった都市を山や海に変えるフィクションを入口にして、神話や童話や昔話にある身体と環境が生み出す潜在意識の次元を受講者各自の身体によって体感しながらサイバースペースとバランスをとっていく。これらが本授業の目標です。			
2. 授業内容 第1回<対面型>イントロダクション ファンタジー世界に同調する親しさと不気味さについて 宮崎駿監督『となりのトトロ』を中心に、キャラクターとその舞台となる凸凹空間が私たちの身体と感情に及ぼすある特徴的な作用について考えます。 第2回<対面型> ファンタジー世界の異質さ・多様さの表現について 宮崎駿監督『もののけ姫』を中心に、多種多様な部族からなるトーテムズム神話世界を一元化する強大なシャーマニズムの権力との関係を人類学の領域から考えます。 第3回<対面型> ファンタジー世界に描かれるトップダウン体制を作る垂直・水平空間 宮崎駿監督『千と千尋の神隠し』を中心に、千尋が迷い込む湯屋の空間を垂直・水平空間としてイメージし、凸凹空間と異なり、下層の欲望を一元的に制御するシャーマンを上層に置くトップダウン体制として捉えます。 第4回<対面型> 脳から区別された意識と無意識の区別から、身体も含めた意識の表層と深層へ ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』と宮沢賢治『注文の多い料理店』比較しながら、意識の表層(言葉遊び)と深層(オノマトペ)の表現の違いについて考えます。 第5回<対面型> 冥界巡りの物語としての『銀河鉄道の夜』(1) 出発・冒険・帰還の物語構造を異界への旅として捉え、宮澤賢治『銀河鉄道の夜』の前半部分を物語による深層への旅として、同じ物語構造を持つ古代の英雄物語や昔話と比較しつつ考えます。 第6回<対面型> 表層の科学と深層の宗教の対話としての『銀河鉄道の夜』(2) 宮澤賢治『銀河鉄道の夜』の中盤部分を、死をモチーフとした冥界巡りの見地から、近代的な科学の表層から宗教の深層へ移行する過程として辿ります。 第7回<対面型> 近代的なデウス・エクス・マキナの結末としての『銀河鉄道の夜』(3) 『銀河鉄道の夜』の終盤部分を意識の深層の深層の探究から「夢オチ」によって目覚める物語と解釈しながら、その深層にトーテムズム的な自然と人間との厳しい関係を『グスコープドリの伝記』冒頭から考えます。 第8回<対面型> ファンタジー空間論(1) ユング元型論から見た子供の身体になるディズニールランド ファンタジーのキャラクターたちを、ユング『元型論』の影(双子)としてのや永遠の少年/少女等に見立て、意識の深層に降りて再生する場としてディズニールランドを捉え直します。 第9回<対面型> ファンタジー空間論(2) 見上げ、目を回し、笑い、怖がり、価値を転倒させるサーカス サーカス空間をテーマパークのモデルとしてだけでなく、おとなの身体中に子供の身体を作るという観点から、新たな体制を作る革命の政治のモデルとして捉え直します。 第10回<対面型> 人間が猫になるコメディ世界としての『吾輩は猫である』(1) 『神経衰弱』になった大学講師が自己治癒しようとして書き始めたデビュー作で、なぜ猫になって見上げる立場になり、平坦な都市空間を凸凹化しながら自分の分身である苦沙弥先生を罵倒するのという点を『猫』序盤から考えます。 第11回<対面型> 笑いを生み出す「双子」的設定とその臨床的な関係『吾輩は猫である』(2) 『猫』中盤をファンタジーにおける「双子」的設定のやや複雑なバージョンとして考えると、笑いはどうやって生み出されるのか、という点を。猫と苦沙弥先生との関係の逆転や循環という古来からのユームアの作り方から考えます。 第12回<対面型> 巨大になったり縮小したりして作者と読者を癒す『吾輩は猫である』(3) 身体を大きく(苦沙弥先生)、小さく(猫)変えながら作品世界を凸凹化して笑いを生み出す様を、『ガリヴァー旅行記』と比較し、『猫』終盤が次第に作者の心の治癒へ向かう様子を辿ります。 第13回<対面型> 子どもの身体をなくした平面的なゲーム空間が作り出す意識とテクノロジーの狂気 夢野久作『ドグラ・マグラ』を例に、電子的なメディアが作り出す身体のないゲームの空間が無限のリセットを繰り返すと狂気を生み出す点を私たちの現在から考えます。 第14回<対面型> 建築空間と身体とのかかわりゲーム・スマホ脳を身体から作り変える。 脳中心の平坦なIT空間の中に身体中心の凸凹なテーマパーク空間を作る実験として、岡本太郎の太陽の塔や荒川修作→マドリシ・ギンズ『養老天命反転地』を紹介し、身体を建築することについて考えます。			
3. 履修上の注意 各自の発想力をつけていただくために、毎回「マンダラチャート」を印刷したシートを授業冒頭に配布します。そこにある81語を埋める空欄を全てを埋めていただいた上で、授業終盤に出題する質問に81語の中からキーワードを3つ選んで回答していただいたシートを提出して出席とします。それゆえ、自分のペースで授業終了時まで全てに埋められる時間配分を考えながら、授業に臨んでください。 (※マンダラチャートとは、思いついた言葉からマンダラ状に言葉をクリックさせて自分のキーワードを自分で作って遊び出すためのマインドマップの一種です。)			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：事前学習/毎回の授業でマンダラチャートを配布して理めているので、そこに書いたキーワードを覚えてマンダラのように動かしてください。 復習：毎回の授業中に書いたマンダラチャートは回収するので、授業で書いたキーワードを書き出しリストアップして保存しておいてください。			
5. 教科書 特になし（必要な文献や映像データはそのつど授業内で提示します。）			
6. 参考書 切通理作『宮崎駿の<世界>』（ちくま文庫）、ジョーゼフ・キャンベル『千の顔をもつ英雄』（上・下、ハヤカワノンフィクション文庫）、クロード・レヴィーストローズ『今日のトーデミズム』（みすず書房）、ミルチャ・エリアーデ『シャーマニズム』（上・下、ちくま学芸文庫）、ビュール・クラストル『国家に抗する社会』（青土社）、山北篤『フナリオのためのファンタジー事典』（SB Creative）、河合隼雄『物語とふしぎ』（岩波現代文庫）、C.G.ユング『元型論』（紀伊国屋書店）、ミハイル・バフチン『フランソワ・ラブラーの作品と中世・ルネサンスの民衆文化』（水声社）、赤坂憲雄『岡本太郎の見た日本』（岩波現代文庫）、荒川修作+小林康夫『幽霊の真理』（水声社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回回収した「マンダラチャート」の講評を次の回の授業冒頭で一括して行い、傾向分析と問題点や修正点の指摘をします。			
8. 成績評価の方法 a. 毎回マンダラチャートを配布するので授業中に記入していただき、そこに記した単語をもとに、授業終盤に質問を出します。最後の10分程度の時間でそれに回答していただいで出席扱いとします。(70%) b. 学期末に創作的な記述試験を行います。(30%)			
9. その他 宮澤賢治、夏目漱石、夢野久作の作品は「青空文庫」にオープンデータ化されていますので、以下のURLを参照してください。 ・宮澤賢治『銀河鉄道の夜』（青空文庫） https://www.aozora.gr.jp/cards/000081/files/43737_19215.html ・宮澤賢治『注文の多い料理店』（青空文庫） https://www.aozora.gr.jp/cards/000081/files/43754_17659.html ・夏目漱石『吾輩は猫である』（青空文庫） https://www.aozora.gr.jp/cards/000148/files/789_14547.html ・夢野久作『ドグラ・マグラ』（青空文庫） https://www.aozora.gr.jp/cards/000096/files/2093_28841.html			

科目ナンバー：(BA)LIT311J			
日本文学（現代）		岡崎直也	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 『ノルウェーの森』によって国民的なベストセラー作家となり、海外においても日本を代表する小説家となった村上春樹は、常に時代の変遷に敏感に感受し、文体や方法を変革してきた。本講義では、現代の〈喪失〉をナイーブに描いて二つの物語を交響させる出発期の村上春樹文学の代表作を具体的な分析のなかで鑑賞する。 〈到達目標〉 私たちが生きる社会や文化の問題を同時代の作品の精読によって考察し、合わせて多角的思考を養うものとする。			
2. 授業内容 第1～3回 現代日本文学史と村上春樹 第4回 『風の歌を聴け』 1 第5回 『風の歌を聴け』 2 第6回 『風の歌を聴け』 3 第7回 『風の歌を聴け』 4 第8回 『風の歌を聴け』 5 第9回 『風の歌を聴け』 6 第10回 『1973年のピンボール』 1 第11回 『1973年のピンボール』 2 第12回 『1973年のピンボール』 3 第13回 『1973年のピンボール』 4 第14回 『1973年のピンボール』 5 ＊上記はあくまでも予定であり、授業の進行によっては変更がある。			
3. 履修上の注意 期末試験を受験するほか、授業時小レポートを忘れずに提出しなければならない。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 受講者は作品の予習に努め、常に問題意識をもって授業に臨まなければならない。			
5. 教科書 村上春樹『風の歌を聴け』（講談社文庫）、村上春樹『1973年のピンボール』（講談社文庫）			
6. 参考書 村上春樹研究会〔編〕『村上春樹作品研究事典』増補版（鼎書房）、柘植光彦〔編〕『村上春樹—テーマ・装置・キャラクター—』『国文学解釈と鑑賞』別冊（至文堂）、栗坪良樹・柘植光彦〔編〕『村上春樹スタディーズ』01（若草書房）、加藤典洋『村上春樹イエローページ』1（幻冬社文庫）、廣野由美子『批評理論入門—「フランケンシュタイン」解剖講義』（中央公論新社・新書）、デイヴィッド・ロジック『小説の技巧』（白水社）、日本近代文学会〔編〕『ハンドブック 日本近代文学研究の方法』（ひつじ書房）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 履修者数が多い場合は、優れた指摘をしたレポートに対してポータルレポート・フィードバック欄に記入したり、授業時にコメントしたりする予定。			
8. 成績評価の方法 学期末試験〔50％〕・授業時小レポートや質疑応答などの授業への取り組み方〔50％〕			
9. その他 受講生の自由で活発な発言を何よりも期待する。			

科目ナンバー：(BA)HIS131J			
西洋史（総論）			薩摩秀登
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 主に近代以降のヨーロッパ史の流れをたどりながら、近代的な社会の形成について理解を深める。宗教も含めたヨーロッパ特有の文明をもとに、絶対主義時代に主権国家の概念が徐々に姿を現し、また近代的な産業社会や国家体制が形成されて、それがしだいに世界各地へも波及していったと通常は考えられている。しかし近・現代の民主主義社会においては、逆に階層間の格差は拡大し、少数者が排除されるなどの問題が生じており、地域間・国家間の紛争も多発している。近代社会とは人類の歴史の中でどのように位置づけられるのか、西洋史を題材に考察する。 <到達目標> 歴史的視点から現代世界について考察する能力を身につける。			
2. 授業内容 近世から現代まで、ほぼ時代順に、毎回一つずつテーマをとりあげる。現在我々が当然のごとく用いている「国民」や「国家」という概念が、近代の歴史的状況の中で生み出されていく過程、近代市民社会の中で生じた特有の問題、そして人々がこれにどのように対処していったかなどが全体を通したテーマとなる。 第1回 歴史研究の課題 第2回 ヨーロッパ史における宗教と社会1 ―キリスト教社会とは何か― 第3回 ヨーロッパ史における宗教と社会2 ―教会と国家の関係をめぐる― 第4回 「公的な国家権力」の形成過程 ―ヨーロッパにおける君主権― 第5回 議会を作るという発想 ―ヨーロッパ社会と身分制― 第6回 近代社会が求める人間像 ―啓蒙と規律― 第7回 国家が軍隊を備えるまで 第8回 フランス革命 ―どのような転換だったのか― 第9回 「自由・平等の国民社会」はありうるか 第10回 「自由・平等の市民社会」と性差 第11回 近代社会とナショナリズム 第12回 移動する人々への視線 ―近代社会と移民― 第13回 補論① 文明としてのイスラーム 第14回 補論② ジェンダーと歴史学			
3. 履修上の注意 「世界史探求」程度の予備知識があることが望ましいが、そうでない人の受講も歓迎する。大学入学までに世界史を詳しく学んでこなかった人には、参考文献などで事前に学習しておくことを勧める。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業でとりあげられるのはいずれも現代社会と深くかかわるテーマである。普段から国際問題や社会問題に関する情報に注目し、理解を深めておくことが重要である。			
5. 教科書 教科書は使用しない。			
6. 参考書 長谷川輝夫、大久保桂子、土肥恒之『ヨーロッパ近世の開花』（世界の歴史17）、中央公論社、2009年 五十嵐武士、福井憲彦『アメリカとフランスの革命』（世界の歴史21）、中央公論社、2008年 谷川稔、北原敦、鈴木健夫『近代ヨーロッパの情熱と苦悩』（世界の歴史22）、中央公論社、2009年 木村靖二、柴宜弘、長沼秀世『世界大戦と現代文化の開幕』（世界の歴史26）、中央公論社、2009年 服部良久他編『新しく学ぶ西洋の歴史』、ミネルヴァ書房、2016年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 その次の回の授業において行う。			
8. 成績評価の方法 授業で出される課題：70% 期末試験あるいは期末レポート：30%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)HIS131J			
西洋史（各論）			薩摩秀登
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 「都市からみたヨーロッパ史」をテーマに、各時代、各地域ごとの典型的な都市をとりあげながら、ヨーロッパの社会や文化の展開に光をあてていく。都市は多様な人びとが集まって生活する場であり、多くの機能が集中している。そこでは、都市に特有の公共的な課題に対応しつつ、それぞれの時代に適応した新しい制度や、生活のあり方が模索されてきた。さらに都市の建築や空間の構造には、それぞれの時代の政治、社会、文化が反映されている。実際にヨーロッパの歴史が展開した場を個別事例としてとりあげることで、その時代の具体的な様相を明らかにする。 <到達目標> 文書史料、都市構造や建築などさまざまな題材を通して、人々がたどってきた歴史を考察する能力を身につける。			
2. 授業内容 ヨーロッパの都市にかかわる主要なテーマを毎回取り上げ、その考察にふさわしい都市に焦点をあてて論じていく。 第1回 総論：ヨーロッパ史のなかの都市 第2回 ローマ帝国時代 ―古代の都市生活を維持したもの― 第3回 古代から中世へ ―生活や心性の変化を読み取る― 第4回 中世都市の形成 ―都市の中に近代が生み出された？― 第5回 前近代の都市における生活保障システム ―兄弟団という組織― 第6回 儀礼・紛争・コミュニケーション ―都市の祝祭を事例として― 第7回 自治都市と大学 ―「ヨーロッパ近代の学問」が生まれた場― 第8回 首都の都市計画 ―政治都市パリ、宗教都市ローマ― 第9回 自治都市から自治体へ ―パリの住民生活からみた絶対王政― 第10回 宮廷・軍事・バロック ―絶対王政時代の都市― 第11回 「警察」誕生以前 ―都市の安全をどう守るか― 第12回 余暇と都市空間 ―「都市における快適さ」にみる近代― 第13回 補論：イスラーム圏の歴史に見る都市 ―イスラーム世界の形成と都市― 第14回 補論：イスラーム圏の歴史にみる都市 ―寄進制度について―			
3. 履修上の注意 「世界史探求」程度の予備知識があることが望ましいが、そうでない人の受講も歓迎する。大学入学までに世界史を詳しく学んでこなかった人には、参考文献などで事前に学習しておくことを勧める。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業でとりあげられるのはいずれも現代にも通じるテーマである。普段から国際問題や社会問題に関する情報に注目し、理解を深めておくことが重要である。			
5. 教科書 教科書は使用しない。			
6. 参考書 桜井万里子、本村凌二『ギリシアとローマ』（世界の歴史5）、中央公論社、2010年 佐藤彰一、池上俊一『西ヨーロッパ世界の形成』（世界の歴史10）、中央公論社、2008年 長谷川輝夫、大久保桂子、土肥恒之『ヨーロッパ近世の開花』（世界の歴史17）、中央公論社、2009年 谷川稔、北原敦、鈴木健夫『近代ヨーロッパの情熱と苦悩』（世界の歴史22）、中央公論社、2009年 服部良久他編『新しく学ぶ西洋の歴史』、ミネルヴァ書房、2016年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 その次の回の授業において行う。			
8. 成績評価の方法 授業で出される課題：70% 期末試験あるいは期末レポート：30%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAW111J			
法学A		尾 棹 司	
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、主に法学の初学者を対象に、法学の基本的な事項について講義を行います。 我々が生活する現代社会は、様々な利益を有する様々な人々によって作られる共同体であるため、ときにそれぞれの人の利益が対立し、法的な紛争が生じます。このような法的紛争を解決するためには、「そこで対立している利益とは何か」、「その対立を解消するためにどのような方法があり得るか」を整理し、説得的な解決方法を提示する能力を身につける必要があります。したがって、①法学の基本的な知識の習得に加え、②具体的な事例を与えられた際、習得した知識に基づいて事例を分析し、解決策を論理的に導けるようになること（論理的思考力）、そして、③その解決策を説得的な形で他者に説明できるようになること（法的コミュニケーション能力）を本講義の到達目標として掲げます。 本講義では、「犯罪」とそれを規律するための法律である刑法の学習からスタートします。「犯罪」や「刑罰」とは何かを確認し、犯罪認定論の各段階に従って検討を進めていきます。その後、民法の学習に移ります。民法は我々の日常生活の広い範囲に適用される法律ですが、本講義では、他者との取引関係にフォーカスする形で議論を確認していきたいと思います。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション——法とは何か？—— 第2回：刑法とは何か？——刑法の基本原理—— 第3回：刑法の機能——刑法の機能—— 第4回：構成要件について 第5回：違法性について 第6回：責任について 第7回：刑法のまとめ 第8回：民法とは何か？——民法の基本概念—— 第9回：財産法 第10回：家族法 第11回：日常取引と法①——消費者の保護について—— 第12回：日常取引と法②——事業者間での取引—— 第13回：民法のまとめ 第14回：法学Aの総復習 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。			
3. 履修上の注意 【講義の進め方】 教員が各回のレジュメを用意し、講義を行います。レジュメは各回の講義前にWeb上にアップする予定です。参加者は、講義中にレジュメを参照できるようにした上で参加して下さい。（予め印刷をして準備する、PCやタブレットにダウンロードするなど、いずれでも構いません。） 各回の講義で取り扱う内容は上記の通りですが、あくまでも予定であり、講義の進行状況や参加者の理解度によって内容を変更する場合があります。変更する場合は、教員が事前にアナウンスします。 講義内容に関する質問は、基本的に講義前又は講義後の時間で対応します。 【注意事項】 参加者が集中して学習できるように、講義中の私語は慎んで下さい。また、水分補給は認めますが、食事は禁止します。 ＊「法学B」も併せて履修することが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習の方法】 各回の講義に参加する前に、教科書の該当箇所に目を通した上で、理解が難しかった箇所についてマーカー等でチェックをして下さい。講義の際は、チェックした箇所について教員の解説を聞いた上で、改めて当該箇所の理解ができたか、確認ができるように準備をしておきましょう。 【復習の方法】 講義で使用したレジュメを参照しながら講義内容の復習を行って下さい。とくに、講義内で取り扱った事例については、①その事例の争点は何か、②その争点を解決するための考え方はどのようなものがあったかを整理するなどして、よく確認をするようにしてください。 その後、③「その事例について、自分はどのように解決すべきであるかと考えるか」という課題を設定し、自分の主張とその根拠をまとめておくようにして下さい。			
5. 教科書 『エッセンシャル法学〔第7版〕』大谷實編著（成文堂、2019年）			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義内で課題等があった場合には、リアクションペーパーを使用して回答してもらいます。その後、全体の講評を講義時間内に行います。 また、講義内容に関する質問については、基本的に、講義開始前、終了後の時間を利用して受け付けます。その他の方法については、講義内でアナウンスします。			
8. 成績評価の方法 期末試験（80％）と中間レポート（20％）で評価します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAW111J			
法学B		尾 棹 司	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、主に法学の初学者を対象に、法学の基本的な事項について講義を行います。 我々が生活する現代社会は、様々な利益を有する様々な人々によって作られる共同体であるため、ときにそれぞれの人の利益が対立し、法的な紛争が生じます。このような法的紛争を解決するためには、「そこで対立している利益とは何か」、「その対立を解消するためにどのような方法があり得るか」を整理し、説得的な解決方法を提示する能力を身につける必要があります。したがって、①法学の基本的な知識の習得に加え、②具体的な事例を与えられた際、習得した知識に基づいて事例を分析し、解決策を論理的に導けるようになること（論理的思考力）、そして、③その解決策を説得的な形で他者に説明できるようになること（法的コミュニケーション能力）を本講義の到達目標として掲げます。 本講義では、憲法の基本原則や基本的人権の内容、そして統治機構について学習します。「日本国憲法」では、人が生まれながらにして持っている重要な権利が規定されています。それぞれの人権規定がどのような内容を持ち、どのような理由から規定されたのかを確認し、それらの規定の意味合いを具体的な事例との関係で理解できるよう解説を行います。その後、立法権、行政権、そして司法権といった国家権力の各内容について学習します。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション——憲法とは何か？—— 第2回：日本国憲法の基本原則 第3回：基本的人権総論 第4回：人権の保障の射程 第5回：幸福追求権 第6回：法の下での平等 第7回：内面的自由権 第8回：外面的自由権 第9回：経済的自由権 第10回：社会権 第11回：国会 第12回：内閣 第13回：裁判所 第14回：法学Bの総復習 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。			
3. 履修上の注意 【講義の進め方】 教員が各回のレジュメを用意し、講義を行います。レジュメは各回の講義前にWeb上にアップする予定です。参加者は、講義中にレジュメを参照できるようにした上で参加して下さい。（予め印刷をして準備する、PCやタブレットにダウンロードするなど、いずれでも構いません。） 各回の講義で取り扱う内容は上記の通りですが、あくまでも予定であり、講義の進行状況や参加者の理解度によって内容を変更する場合があります。変更する場合は、教員が事前にアナウンスします。 講義内容に関する質問は、基本的に講義前又は講義後の時間で対応します。 【注意事項】 参加者が集中して学習できるように、講義中の私語は慎んで下さい。また、水分補給は認めますが、食事は禁止します。 ＊「法学A」も併せて履修することが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習の方法】 各回の講義に参加する前に、教科書の該当箇所に目を通した上で、理解が難しかった箇所についてマーカー等でチェックをして下さい。講義の際は、チェックした箇所について教員の解説を聞いた上で、改めて当該箇所の理解ができたか、確認ができるように準備をしておきましょう。 【復習の方法】 講義で使用したレジュメを参照しながら講義内容の復習を行って下さい。とくに、講義内で取り扱った事例については、①その事例の争点は何か、②その争点を解決するための考え方はどのようなものがあったかを整理するなどして、よく確認をするようにしてください。 その後、③「その事例について、自分はどのように解決すべきであるかと考えるか」という課題を設定し、自分の主張とその根拠をまとめておくようにして下さい。			
5. 教科書 『エッセンシャル法学〔第7版〕』大谷實編著（成文堂、2019年）			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義内で課題等があった場合には、リアクションペーパーを使用して回答してもらいます。その後、全体の講評を講義時間内に行います。 また、講義内容に関する質問については、基本的に、講義開始前、終了後の時間を利用して受け付けます。その他の方法については、講義内でアナウンスします。			
8. 成績評価の方法 期末試験（80％）と中間レポート（20％）で評価します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) GEO111J			
地理学A			中澤 高 志
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> この講義では、人文地理学の基礎を学びます。 <到達目標> 地理学とは、地表で起きている現象を記述し、なぜそれが、そこに、そのようなかたちで起きているのかを説明する学問です。地理学はとても懐の深い学問ですが、自然現象を対象とする自然地理学と、人間活動を対象とする人文地理学に大きく分けられます。この講義では、地図、人口、都市に特に焦点を当てて、人文地理学の基礎を学びます。			
2. 授業内容 第1講 インTRODakション：地理学とは 第2講 地図（一般図）について（対面授業） 第3講 地図（主題図）について（対面授業） 第4講 人口統計と人口地理学〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5講 国内人口移動の地理学（対面授業） 第6講 国際人口移動の地理学（対面授業） 第7講 都市化研究（対面授業） 第8講 都市内部構造のモデル（対面授業） 第9講 メンタルマップと空間的行動（対面授業） 第11講 住宅市場とゲートキーパー（対面授業） 第12講 産業の経済地理学（1）（対面授業） 第13講 産業の経済地理学（2）（対面授業） 第14講 a：試験，b：解説（対面授業）			
3. 履修上の注意 パワーポイント、板書と配布資料に基づいて、講義を進めます。高校で地理A・Bを受講した経験があるかないかは、この講義の理解度にはほとんど関係しないでしょう。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <準備学習> 私が担当する地理学関連の講義の中では、最初にこの講義を受講することが望ましいです。この講義を履修した後に、地理学B、経済地理学A、経済地理学Bの順に履修するとよいでしょう。余力があれば、他学部で開講されている地理学関連科目も受講してみてください。 <復習> 毎回配布されるプリントをもとに、ノートをまとめて復習すると理解が深まります。			
5. 教科書 特に指定しません。			
6. 参考書 特に指定しません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義の中で行います。			
8. 成績評価の方法 レポート3回×20点（800字程度）＋最終レポート40点。			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA) GEO111J			
地理学B			中澤 高 志
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 地理学とは、地表で起きている現象を記述し、なぜそれが、そこに、そのようなかたちで起きているのかを説明する学問です。この定義からもわかるように、地理学はとても懐の深い学問ですが、自然現象を対象とする自然地理学と、人間活動を対象とする人文地理学に大きく分けられます。この講義では、人文地理学の研究対象の中でも、都市社会地理学という分野を中心に講義します。 現実の都市においては、都市空間の拡大や縮小、土地利用や景観の変化が常に起こっています。こうした都市の形態的变化を単にそのまま記述するだけでなく、それを社会の変化と関連づけて説明し、理解することが都市社会地理学の目標です。 この分野については、ノックスとピンチによる『都市社会地理学』という優れた教科書がありますが、地理学の基礎的な知識がない経営学部生には少々難しすぎます。それに、欧米の都市を前提として書かれているため、日本の実情にそぐわない部分もあります。そこで、『ベーシック 都市社会地理学』を教科書として、講義を進めます。この本は、金沢大学の神谷浩夫教授が、ノックスとピンチの教科書の日本版を創るという意気込みで執筆したものです。			
2. 授業内容 第1講 都市社会地理学とは 第2講 都市の成長と人口移動 第3講 労働の都市空間 第4講 社会的二極化の社会地図 第5講 流通の発展と商業空間の変容 第6講 ジェンダーとセクシュアリティの都市空間 第7講 高齢化と医療・福祉 第8講 安全・安心のまちづくり 第9講 都市のガバナンス 第10講 都市の文化 第11講 東アジア型福祉国家 第12講 住まいと仕事の地理学へ① 第13講 住まいと仕事の地理学へ② 第14講 a：試験，b：解説			
3. 履修上の注意 教科書と補助資料に基づいて、講義を進めます。高校で地理A・Bを受講した経験があるかないかは、この講義の理解度にはほとんど関係しないでしょう。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <準備学習> 地理学に興味を持った方は、経済地理学A,Bも受講してください。余力があれば、他学部で開講されている地理学関連科目も受講してみてください。 <復習> 新聞や新書などを積極的に読み、そこから得た情報を講義の内容と関連付けるようにすると、理解が深まります。			
5. 教科書 神谷浩夫2018.『ベーシック 都市社会地理学』ナカニシヤ出版。			
6. 参考書 特に指定しません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義の中で行います。			
8. 成績評価の方法 レポート3回（800字程度）×20点＋最終レポート40点。			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA)POL111J			
政治学A		鎌 江 一 平	
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 「授業概要」 この授業では、昨今の政治情勢に触れつつ 簡単すぎず難しすぎない解説で現代政治と政治学の基礎を学習していく。政治が自分とは関係のない遠い世界の出来事ではなく、自分の生活や将来に密接に係わっていることを、そして政治学はそれをわかりやすく・見やすくするための学問であると感じるのをこの授業の目的としている。 「到達目標」 上記概要を前提とし、具体的に以下3つを感じてもらうことを授業の到達目標とする。 ① 知らなかった「ある事実」を知った。 ② 「ある事実」に対して、一定の見方ができるようになった。 ③ 「ある事実」に対して、これまでとは別の見方ができるようになった。 Course Summary The course is designed to provide students with a basic understanding of contemporary politics and political science while touching on recent international affairs with explanations that are neither too simple nor too difficult. This course aims to help students realize that politics is not an event in the distant world that has nothing to do with us. Instead, it is closely related to our lives and future, and political science is a study to make it easier to understand actual political events. Course Objective The course aims to achieve three specific goals based on the above summary. (1) Learning a "certain fact" one did not know before. (2) To be able to see "a certain fact" in a certain way. (3) To be able to see "a certain fact" in a different way.			
2. 授業内容 第1回目 イントロダクション（オリエンテーション／政治学とは） 第2回目 政治参加と選挙－投票行動学について 第3回目 政治の担い手－政治家とは？ 第4回目 政治の担い手－官僚とは？ 第5回目 世界と政治－台湾問題 第6回目 国際政治の見方 第7回目 世界と政治－イスラエル・パレスチナ問題 第8回目 政治とマス・メディア 第9回目 内閣と総理大臣－政治リーダーシップのあり方 第10回目 日本の政党政治（戦前） 第11回目 日本の政党政治（戦後） 第12回目 日本の国家戦略（戦前） 第13回目 日本の国家戦略（戦後） 第14回目 総括－政治とデモクラシー			
3. 履修上の注意 履修するにあたり、前提となる知識の有無を問わない。（ただし、高等学校の現代社会、倫理、政治・経済での学習内容を理解しているのはプラスとなる。）何よりも、この授業をきっかけにして、政治・社会全般への関心を深めて欲しい。 なお、日を指定せずランダムな授業日に当日の受講者の数に応じてリアクション・ペーパーを配布する。私語厳禁。PC・スマホの使用は原則授業範囲内での使用に限る。（詳細は、「成績評価の方法」「その他」を参照）			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で具体的な予習・復習事項を指導する。			
5. 教科書 必要に応じて適宜紹介する。			
6. 参考書 必要に応じて適宜紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題についてのフィードバックは、授業時もしくはOh-o!Meijiを通じて行う。			
8. 成績評価の方法 ・授業への貢献度（70%）、期末レポート（30%）で評価する。60%以上の得点は単位の取得を認める。 ・授業への貢献（70%）：出席、課題提出（リアクション・ペーパー） 授業への貢献度は、全授業14回の内ランダムな回に実施するリアクションペーパーの提出をもって査定する。 リアクション・ペーパーは、 ①授業内容を要約し、 ②それを踏まえた上での自分の意見・感想をバランスよく記述したものとなること。 （授業の内容を押さえずに自分の独善的関心や意見・表明を書くものはNG） 課題提出用紙は、講義開始後約30分後に配布。それ以降の用紙は遅刻扱い。 用紙8-9割程度埋める、行間は詰める、文字の大きさは常識の範囲内 ・期末レポート（30%）：期末にA4用紙2枚程度を提出。課題は追って通知。			
9. その他 1. 社会の構成員として一人の行為を全員が実施すれば社会自体が成り立たなくなることはやらないということはこの授業の大前提とする。 2. そもそも大学とは、教員が提供する講義、教員と学生との対話を通じて学びを得る空間である。この学ぶ空間は、教員・学生が一緒に作り上げなければならない、どちらか一方の努力だけでは成り立たない。 3. 上記1.／2. の主旨に基づき、授業中はマナーを守り、以下学びの空間を害する行動は厳に慎むこと。 （1）私語 （2）PC・スマホ・携帯・タブレットの授業目的以外での使用 （3）その他授業中に不要あるいは授業の妨げになると思われる行為 場合によっては減点あるいは退室・その後受講を認めないなどの措置を取ることがある。 4. 出席なくして授業内容、政治学に関する理解と単位認定は不可能に近い。この場合の出席とは、単に座って話を聞くだけでなく、「見る」「聞く」のインプットを基に「思考」し、「書く」「言う」で積極的にアウトプットすることを指す。したがって、求められた場合に発言すること、リアクション・ペーパーに記述することで授業に貢献しなければならない。			

科目ナンバー：(BA)POL111J			
政治学B		鎌 江 一 平	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 「授業概要」 この授業では、昨今の国際情勢に触れつつ切り口を秩序と正義とし、簡単すぎず難しすぎない解説で現代国際政治を中心に政治学の基礎を学習していく。国際政治が自分とは関係のない遠い世界の出来事ではなく、自分の生活や将来に密接に係わっていることを、そして政治学はそれをわかりやすく・見やすくするための学問であると感じるのをこの授業の目的としている。 「到達目標」 上記概要を前提とし、具体的に以下3つを感じてもらうことを授業の到達目標とする。 ① 知らなかった「ある事実」を知った。 ② ある事実」に対して、一定の見方ができるようになった。 ③ 「ある事実」に対して、これまでとは別の見方ができるようになった。 Course Summary In this course, students will learn the basics of political science, focusing on contemporary international politics, with a perspective on order and justice while touching on recent international affairs with explanations that are neither too simple nor too difficult. This course aims to help students realize that international politics is not an event in the distant world that has nothing to do with us. Instead, it is closely related to our lives and future, and political science is a study to make it easier to understand actual international events. Course Objective The course aims to achieve three specific goals based on the above summary. (1) Learning a "certain fact" one did not know before. (2) To be able to see "a certain fact" in a certain way. (3) To be able to see "a certain fact" in a different way.			
2. 授業内容 第1回目 イントロダクション 第2回目 秩序と政治（1） 第3回目 秩序と政治（2） 第4回目 秩序と政治（3） 第5回目 秩序と政治（4） 第6回目 正義と政治（1） 第7回目 正義と政治（2） 第8回目 正義と政治（3） 第9回目 正義と政治（4） 第10回目 世界と政治（1） 第11回目 世界と政治（2） 第12回目 世界と政治（3） 第13回目 世界と政治（4） 第14回目 総括			
3. 履修上の注意 履修するにあたり、政治学Aの内容を把握していることが望ましい。（ただし、高等学校の現代社会、倫理、政治・経済での学習内容を理解しているのはプラスとなる。）何よりも、この授業をきっかけにして、国際政治・グローバルな社会事象全般への関心を深めて欲しい。 なお、日を指定せずランダムな授業日に当日の受講者の数に応じてリアクション・ペーパーを配布する。私語厳禁。PC・スマホの使用は原則授業範囲内での使用に限る。（詳細は、「成績評価の方法」「その他」を参照）			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で具体的な予習・復習事項を指導する。			
5. 教科書 必要に応じて適宜紹介する。			
6. 参考書 必要に応じて適宜紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題についてのフィードバックは、授業時もしくはOh-o!Meijiを通じて行う。			
8. 成績評価の方法 ・授業への貢献度（70%）、期末レポート（30%）で評価する。60%以上の得点は単位の取得を認める。 ・授業への貢献（70%）：出席、課題提出（リアクション・ペーパー） 授業への貢献度は、全授業14回の内ランダムな回に実施するリアクションペーパーの提出をもって査定する。 リアクション・ペーパーは、 ①授業内容を要約し、 ②それを踏まえた上での自分の意見・感想をバランスよく記述したものとなること。 （授業の内容を押さえずに自分の独善的関心や意見・表明を書くものはNG） 課題提出用紙は、講義開始後約30分後に配布。それ以降の用紙は遅刻扱い。 用紙8-9割程度埋める、行間は詰める、文字の大きさは常識の範囲内 ・期末レポート（30%）：期末にA4用紙2枚程度を提出。課題は追って通知。			
9. その他 1. 社会の構成員として一人の行為を全員が実施すれば社会自体が成り立たなくなることはやらないということはこの授業の大前提とする。 2. そもそも大学とは、教員が提供する講義、教員と学生との対話を通じて学びを得る空間である。この学ぶ空間は、教員・学生が一緒に作り上げなければならない、どちらか一方の努力だけでは成り立たない。 3. 上記1.／2. の主旨に基づき、授業中はマナーを守り、以下学びの空間を害する行動は厳に慎むこと。 （1）私語 （2）PC・スマホ・携帯・タブレットの授業目的以外での使用 （3）その他授業中に不要あるいは授業の妨げになると思われる行為 場合によっては減点あるいは退室・その後受講を認めないなどの措置を取ることがある。 4. 出席なくして授業内容、国際政治学に関する理解と単位認定は不可能に近い。この場合の出席とは、単に座って話を聞くだけでなく、「見る」「聞く」のインプットを基に「思考」し、「書く」「言う」で積極的にアウトプットすることを指す。したがって、求められた場合に発言すること、リアクション・ペーパーに記述することで授業に貢献しなければならない。			

科目ナンバー：(BA)SOC111J			
社会学A		山下 充	
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 あなたは現代社会に生きていて、自信を持って「現代はこんな時代だ」、「今の社会はこうなっている」と言うことができるでしょうか。これから現代で数十年生きていく者として、どんな備えをすれば良いか、何を基準にどう判断しながら生きていけば良いかを、自分の言葉で、しっかりとした根拠にもとづいてはっきりと言えるでしょうか。社会学は近代という激動の時代、つまり「常に変化し続ける世の中」が誕生した19世紀に構想されました。変化は人々に多くの利益をもたらします。そして同時に、耐えがたい混乱をも人々にもたらします。近代のこの特徴に注目し、それを正面から考える学問が社会学です。 社会学の知見は、みなさんに生きる上で重要な指針を提供します。もちろん、人によっては社会学の知見があまり参考にならないと感じるかも知れません。しかし、多くの人にとっては「現代社会はこんな仕組みでできあがっている」という知識は、複雑で変化の激しい近代社会を賢明に生きる上で大きなプラスとなるはずです。 〈到達目標〉 授業で学ぶ個々の領域ごとに、現代の社会がこのような仕組みで動いている、ということを理解できるように設計しています。この授業を受けることで、家族や友人の間で起きていること、メディアやインターネットで伝えられていること、身の回りで起きていることが「こういうことだったのか」とはっきり見えてくるような授業にしたいと思います。			
2. 授業内容 【授業内容】 第1回 イントロダクション、対面・メディア授業の違い、授業の評価方法と授業課題課題、社会学は社会をどう理解するか、科学としての社会学 ——家族—— 第2回 家族のイメージ、家族形態の多様性、複婚家族（一夫多妻制）、恋愛結婚の普及 第3回 恋愛結婚で配偶者はどう選ばれるか、婚姻を左右する条件とは、文化資本が結婚への影響 第4回 社会階層による愛好文化の違い、文化資本がもたらす学歴の不等、結婚の恋愛化と離婚の増加 第5回 再婚の増加、LGBTと同性婚の社会的承認、価値観の対立、結婚の形が多様になる社会的理由 ——逸脱—— 第6回 逸脱と犯罪の違い、国によって異なる規範（ルール）、マーソンの逸脱論、逸脱者への社会的評価の転換 第7回 犯罪の「必要性」、社会的規範の力、社会が逸脱者をつくりだす、規範をつくる人々 第8回 ホワイトカラーの犯罪、逸脱を管理する時代、犯罪抑止政策の問題点、社会にとって逸脱とは何か ——社会化—— 第9回 なぜ子どもを研究するのか、なぜ子どもを「かわいい」と感じるか、ヒトの発達の特徴、ピアジェの発達段階理論、社会化と教育の必要性 第10回 相手の気持ちは本当に分かるのか、ミードの社会的自己概念、人間が社会性を持つ仕組み 第11回 社会学が考えるアイデンティティとは何か、他者にとってのアイデンティティ、アイデンティティとヘイトクライム ——リスク社会と対立の時代—— 第12回 なぜリスク社会を考えるのか、現代の新しい危険性、新しい感染症、地球温暖化、リスクをめぐる社会的対立 第13回 トラUMP現象、ポピュリズムとは何か、ポピュリストとカリスマ、ポピュリズムを支持する社会変動と人々の意識 ——まとめ—— 第14回 現代社会を生きる（第14回はメディア授業で実施、対面授業はなし）			
3. 履修上の注意 社会学ABの授業は、「対面授業」と「メディア授業」では、学ぶテーマは同じですが、学び方、事例、評価の方法などが異なりますので、対面授業を履修予定の方は、対面授業の初回に参加するようにお願い致します。社会学Aの対面授業では、メディア授業形式でおこなう第7回、第14回以外では動画の配信はありません。4月以降にOh!-Meiji で対面授業とメディア授業の違いについて詳しく案内致します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh!-Meijiで配付予定の授業ノート・資料で必要な復習をおこなってください。			
5. 教科書 教科書の指定はありません。授業回ごとに授業ノートと回の内容に必要な資料を提供します。			
6. 参考書 アンソニーギデンズ『社会学』而立書房。社会学のなかで最も定評があり、また、内容的に非常にバランスがとれた教科書です。邦訳は最新版ではありませんが、授業では英語版の最新の内容を含めて講義します。購入は必要ありません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meijiおよび授業ノートを通して行います。			
8. 成績評価の方法 毎回出題する理解度確認テスト（半期合計48点）と、毎回の授業内容に関する記述式課題（13回分を52点換算）としますので、この授業は定期試験はおこないません。【なお、Oh-o! Meijiのテスト機能などを通して、テスト・記述課題の方式を授業開始までに変更することがあります。Oh-o! Meijiの初回授業を確認してください。定期試験をおこなわないことについては、変更はありません。】			
9. その他 課題に対する履修者の回答を、匿名で翌回の授業ノートに掲載することで、授業内容をさらに深めていきます。課題は毎回ありますが、取り組みやすさを重視し、内容理解を促進できるものとします。			

科目ナンバー：(BA)SOC111J			
社会学B		山下 充	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 あなたは現代社会に生きていて、自信を持って「現代はこんな時代だ」、「今の社会はこうなっている」と言うことができるでしょうか。これから現代で数十年生きていく者として、どんな備えをすれば良いか、何を基準にどう判断しながら生きていけば良いかを、自分の言葉で、しっかりとした根拠にもとづいてはっきりと言えるでしょうか。社会学は近代という激動の時代、つまり「常に変化し続ける世の中」が誕生した19世紀に構想されました。変化は人々に多くの利益をもたらします。そして同時に、耐えがたい混乱をも人々にもたらします。近代のこの特徴に注目し、それを正面から考える学問が社会学です。 社会学の知見は、みなさんに生きる上で重要な指針を提供します。もちろん、人によっては社会学の知見があまり参考にならないと感じるかも知れません。しかし、多くの人にとっては「現代社会はこんな仕組みでできあがっている」という知識は、複雑で変化の激しい近代社会を賢明に生きる上で大きなプラスとなるはずです。 〈到達目標〉 授業で学ぶ個々の領域ごとに、現代の社会がこのような仕組みで動いている、ということを理解できるように設計しています。この授業を受けることで、家族や友人の間で起きていること、メディアやインターネットで伝えられていること、身の回りで起きていることが「こういうことだったのか」とはっきり見えてくるような授業にしたいと思います。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション、対面・メディア授業の違い、授業の評価方法と授業課題課題、秋学期の大きな4つのテーマについて、社会の変化を捉えるには ——社会的相互行為—— 第2回 相互行為とコミュニケーション、コミュニケーションの基本構造、コミュニケーションの不安定性 第3回 相互行為の連鎖、ゴフマンのドラマツルギー論、 第4回 現代社会と社会的役割、役割葛藤、役割距離、記憶喪失した者は相互行為を理解できるか ——携帯電話・インターネット—— 第5回 なぜ携帯が不可欠になったのか、音声コミュニケーションの特徴、固定電話の変化と携帯への進化、 第6回 インターネットで気分が落ち込む、インターネット依存、SNSとライフスタイル 第7回 インターネット依存を回避するには、CMC（コンピュータを介したコミュニケーション）の特徴、なぜ炎上が起きるのか、インターネットとプライバシー ——マスメディア—— 第8回 マスメディア論はなぜ政治を扱うのか、メディアの権力とは、マスメディアとナチス政権 第9回 マスメディアよりも影響力のあるものとは、限定効果説について、 第10回 マスメディアと世論、アクティブオーディエンス、ひとはなぜフェイクニュースを信じるのか ——現代社会論—— 第11回 社会の変化はどのように捉えるのか、社会変動とは、ダニエルベルの脱工業化社会論 第12回 リッツアのマクドナルド化理論、「客を働かせる」、サービス産業におけるテイラー・フォード主義とは 第13回 量で質を代替するとは、なぜ毎年同じような映画がヒットしているのか、マクドナルド化は世界をどのように変えているのか、 ——まとめ—— 第14回 現代社会を生きる、秋学期で学んだ事（第14回はメディア授業で実施。対面授業はなし。）			
3. 履修上の注意 社会学の授業は、「対面授業」と「メディア授業」では、学ぶテーマは同じですが、学び方、事例、評価の方法などが異なりますので、対面授業を履修予定の方は、対面授業の初回に参加するようにお願い致します。社会学Bの対面授業では、メディア授業形式でおこなう第14回以外では動画の配信はありません。 対面・オンデマンド授業のどちらも課題提出は全てパソコンを使用してOh!-Meijiを通じて提出していただきます。スマートフォンを使用すること、またブラウザの「戻るボタン」を使用することで、Oh!-Meijiへの課題提出にエラーが生じる場合がありますが、公平性の観点から提出期限を過ぎた提出は一切認めておりません。毎回課題がありますので、評価の対象となる課題提出の方法を十分理解した上で履修するようにしてください。提出期限に余裕をもって提出するようお願いいたします。詳細は初回授業で示します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh!-Meijiで配付予定の授業ノート・資料で必要な復習をおこなってください。			
5. 教科書 教科書の指定はありません。授業回ごとに授業ノートと回の内容に必要な資料を提供します。			
6. 参考書 アンソニーギデンズ『社会学』而立書房。社会学のなかで最も定評があり、また、内容的に非常にバランスがとれた教科書です。邦訳は最新版ではありませんが、授業では英語版の最新の内容を含めて講義します。購入は必要ありません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meijiおよび授業ノートを通して行います。			
8. 成績評価の方法 毎回出題する理解度確認テスト（半期合計48点）と、毎回の授業内容に関する記述式課題（13回分を52点換算）としますので、この授業は定期試験はおこないません。【なお、Oh-o! Meijiのテスト機能などを通して、テスト・記述課題の方式を授業開始までに変更することがあります。Oh-o! Meijiの初回授業を確認してください。定期試験をおこなわないことについては、変更はありません。】			
9. その他 課題に対する履修者の回答を、匿名で翌回の授業ノートに掲載することで、授業内容をさらに深めていきます。課題は毎回ありますが、取り組みやすさを重視し、内容理解を促進できるものとします。			

科目ナンバー：(BA)SOC116J			
社会学A〔M〕 【メディア授業科目クラス】		山下 充	
2 単位	1 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 <概要> あなたは現代社会に生きていて、自信を持って「現代はこんな時代だ」、「今の社会はこうなっている」と言うことができるでしょうか。これから現代で数十年生きていく者として、どんな備えをすれば良いか、何を基準にどう判断しながら生きていけば良いかを、自分の言葉で、しっかりとした根拠にもとづいてはっきりと言えるでしょうか。社会学は近代という激動の時代、つまり「常に変化し続ける世の中」が誕生した19世紀に構想されました。変化は人々に多くの利益をもたらします。そして同時に、耐えがたい混乱をも人々にもたらします。近代のこの特徴に注目し、それを正面から考える学問が社会学です。 社会学の知見は、みなさんに生きる上で重要な指針を提供します。もちろん、人によっては社会学の知見があまり参考にならないと感じるかも知れません。しかし、多くの人にとっては「現代社会はこんな仕組みでできあがっている」という知識は、複雑で変化の激しい近代社会を賢明に生きる上で大きなプラスとなるはずです。 <到達目標> 授業で学ぶ個々の領域ごとに、現代の社会がこのような仕組みで動いている、ということを理解できるように設計しています。この授業を受けることで、家族や友人の間で起きていること、メディアやインターネットで伝えられていること、身の回りで起きていることが「こういうことだったのか」とはっきり見えてくるような授業にしたいと思います。			
2. 授業内容 全回メディア授業（オンデマンド）で実施 第1回 イントロダクション、対面・メディア授業の違い、授業の評価方法と授業課題課題、社会学は社会をどう理解するか、科学としての社会学 ――家族―― 第2回 家族のイメージ、家族形態の多様性、複婚家族（一夫多妻制）、恋愛結婚の普及 第3回 恋愛結婚で配偶者はどう選ばれるか、婚姻を左右する条件とは、文化資本が結婚への影響 第4回 社会階層による愛好文化の違い、文化資本がもたらす学歴の不平等、結婚の恋愛化と離婚の増加 第5回 再婚の増加、LGBTと同性婚の社会的承認、価値観の対立、結婚の形が多様になる社会的理由 ――逸脱―― 第6回 逸脱と犯罪の違い、国によって異なる規範（ルール）、マーソンの逸脱論、逸脱者への社会的評価の転換 第7回 犯罪の「必要性」、社会的規範の力、社会が逸脱者をつくりだす、規範をつくる人々 第8回 ホワイトカラーの犯罪、逸脱を管理する時代、犯罪抑止政策の問題点、社会にとって逸脱とは何か ――社会化―― 第9回 なぜ子どもを研究するのか、なぜ子どもを「かわいい」と感じるか、ヒトの発達の特徴、ピアジェの発達段階理論、社会化と教育の必要性 第10回 相手の気持ちは本当に分かるのか、ミードの社会的自己概念、人間が社会性を持つ仕組み 第11回 社会学が考えるアイデンティティとは何か、他者にとってのアイデンティティ、アイデンティティとヘイトクライム ――リスク社会と対立の時代―― 第12回 なぜリスク社会を考えるのか、現代の新しい危険性、新しい感染症、地球温暖化、リスクをめぐる社会的対立 第13回 トランプ現象、ポピュリズムとは何か、ポピュリストとカリスマ、ポピュリズムを支持する社会変動と人々の意識 ――まとめ―― 第14回 現代社会を生きる			
3. 履修上の注意 授業動画配信は原則として授業の週の木曜日の午前11：00までに行う予定です。対面・オンデマンド授業のどちらも課題提出は全てパソコンを使用してOh!-Meijiを通じて提出していただきます。スマートフォンを使用すること、またブラウザの「戻るボタン」を使用することで、Oh!-Meijiへの課題提出にエラーが生じる場合がありますが、公平性の観点から提出期限を過ぎた提出は一切認めておりません。毎回課題がありますので、評価の対象となる課題提出の方法を十分理解した上で履修するようにしてください。提出期限に余裕をもって提出するようお願いいたします。詳細は初回授業で示します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh!-Meijiで配付予定の授業ノート・資料で必要な復習をおこなってください。			
5. 教科書 教科書の指定はありません。授業回ごとに授業ノートと回の内容に必要な資料を提供します。			
6. 参考書 アンソニーギデンズ『社会学』而立書房。社会学のなかで最も定評があり、また、内容的に非常にバランスのとれた教科書です。邦訳は最新版ではありませんが、授業では英語版の最新の内容を含めて講義します。購入の必要はありません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meijiおよび授業ノートを通して行います。			
8. 成績評価の方法 毎回2題程度出題する理解度確認テスト（1問2点で半期合計48点）と、毎回の授業内容に関する記述式課題（13回分を52点換算）としますので、この授業は定期試験はおこないません。【なお、Oh-o! Meijiのテスト機能などを通して、テスト・記述課題の方式を授業開始までに変更することがあります。Oh-o! Meijiの初回授業を確認してください。定期試験をおこなわないことについては、変更はありません。】			
9. その他 課題に対する履修者の回答を、匿名で翌回の授業ノートに掲載することで、授業内容をさらに深めていきます。課題は毎回ありますが、取り組みやすさを重視し、内容理解を促進できるものとします。			

科目ナンバー：(BA)SOC116J			
社会学B〔M〕 【メディア授業科目クラス】		山下 充	
2 単位	1 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 <概要> あなたは現代社会に生きていて、自信を持って「現代はこんな時代だ」、「今の社会はこうなっている」と言うことができるでしょうか。これから現代で数十年生きていく者として、どんな備えをすれば良いか、何を基準にどう判断しながら生きていけば良いかを、自分の言葉で、しっかりとした根拠にもとづいてはっきりと言えるでしょうか。社会学は近代という激動の時代、つまり「常に変化し続ける世の中」が誕生した19世紀に構想されました。変化は人々に多くの利益をもたらします。そして同時に、耐えがたい混乱をも人々にもたらします。近代のこの特徴に注目し、それを正面から考える学問が社会学です。 社会学の知見は、みなさんに生きる上で重要な指針を提供します。もちろん、人によっては社会学の知見があまり参考にならないと感じるかも知れません。しかし、多くの人にとっては「現代社会はこんな仕組みでできあがっている」という知識は、複雑で変化の激しい近代社会を賢明に生きる上で大きなプラスとなるはずです。 <到達目標> 授業で学ぶ個々の領域ごとに、現代の社会がこのような仕組みで動いている、ということを理解できるように設計しています。この授業を受けることで、家族や友人の間で起きていること、メディアやインターネットで伝えられていること、身の回りで起きていることが「こういうことだったのか」とはっきり見えてくるような授業にしたいと思います。			
2. 授業内容 全回メディア授業（オンデマンド型）で実施 第1回 イントロダクション、対面・メディア授業の違い、授業の評価方法と授業課題課題、秋学期の大きな4つのテーマについて、社会の変化を捉えるには ――社会的相互行為―― 第2回 相互行為とコミュニケーション、コミュニケーションの基本構造、コミュニケーションの不安定性 第3回 相互行為の連鎖、ゴフマンのドラマツルギー論、 第4回 現代社会と社会的役割、役割葛藤、役割距離、記憶喪失した者は相互行為を理解できるか ――携帯電話・インターネット―― 第5回 なぜ携帯が不可欠になったのか、音声コミュニケーションの特徴、固定電話の変化と携帯への進化、 第6回 インターネットで気分が落ち込む、インターネット依存、SNSとライフスタイル 第7回 インターネット依存を回避するには、CMC（コンピュータを介したコミュニケーション）の特徴、なぜ炎上が起きるのか、インターネットとプライバシー ――マスメディア―― 第8回 マスメディア論はなぜ政治を扱うのか、メディアの権力とは、マスメディアとナチス政権 第9回 マスメディアよりも影響力のあるものとは、限定効果説について、 第10回 マスメディアと世論、アクティブオーディエンス、ひとはなぜフェイクニュースを信じるのか ――現代社会論―― 第11回 社会の変化はどのように捉えるのか、社会変動とは、ダニエルベルの脱工業化社会論 第12回 リッツアのマクドナルド化理論、「客を働かせる」、サービス産業におけるテイラー・フォード主義とは 第13回 量で質を代替するとは、なぜ毎年同じような映画がヒットしているのか、マクドナルド化は世界をどのように変えているのか、 ――まとめ―― 第14回 現代社会を生きる、秋学期で学んだ事			
3. 履修上の注意 社会学の授業は、「対面授業」と「メディア授業」では、学ぶテーマは同じですが、学び方、事例、評価の方法などが異なります。授業動画配信は原則として授業の週の木曜日の午前11：00までに行う予定です。 対面・オンデマンド授業のどちらも課題提出は全てパソコンを使用してOh!-Meijiを通じて提出していただきます。スマートフォンを使用すること、またブラウザの「戻るボタン」を使用することで、Oh!-Meijiへの課題提出にエラーが生じる場合がありますが、公平性の観点から提出期限を過ぎた提出は一切認めておりません。毎回課題がありますので、評価の対象となる課題提出の方法を十分理解した上で履修するようにしてください。提出期限に余裕をもって提出するようお願いいたします。詳細は初回授業で示します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh!-Meijiで配付予定の授業ノート・資料で必要な復習をおこなってください。			
5. 教科書 教科書の指定はありません。授業回ごとに授業ノートと回の内容に必要な資料を提供します。			
6. 参考書 アンソニーギデンズ『社会学』而立書房。社会学のなかで最も定評があり、また、内容的に非常にバランスのとれた教科書です。邦訳は最新版ではありませんが、授業では英語版の最新の内容を含めて講義します。購入は必要ありません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meijiおよび授業ノートを通して行います。			
8. 成績評価の方法 毎回2題程度出題する理解度確認テスト（1問2点で半期合計48点）と、毎回の授業内容に関する記述式課題（13回分を52点換算）としますので、この授業は定期試験はおこないません。【なお、Oh-o! Meijiのテスト機能などを通して、テスト・記述課題の方式を授業開始までに変更することがあります。Oh-o! Meijiの初回授業を確認してください。定期試験をおこなわないことについては、変更はありません。】			
9. その他 課題に対する履修者の回答を、匿名で翌回の授業ノートに掲載することで、授業内容をさらに深めていきます。課題は毎回ありますが、取り組みやすさを重視し、内容理解を促進できるものとします。			

科目ナンバー：(BA)SOC191E			
Global Issues A			バーニング, ジョージ
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Outline English has become a language of global communication. At the university level we will use English to look at some important issues on the global level. Global Issues A aims to develop students' English ability while introducing issues in the world today and encouraging further exploration. Learning how to discuss topics effectively will also be a goal for this course. Students will learn from the teacher as well as from each other. Objectives To develop a detailed awareness of global issues To be able to discuss global issues in English To become familiar with and practice a range of reading skills To acquire key vocabulary associated with global issues To be able to participate effectively in an in group presentation To be able to present in front of a class on important issues			
2. 授業内容 Part 1: Introduction / needs survey / reading skills Part 2: Not your typical 9-to-5 job Part 3: Job interview types Part 4: Female virus writer packs punch Part 5: Into the heart of a family in Casablanca Part 6: Travel for good Part 7: A Kenyan safari Part 8: Midterm presentation on travel Part 9: An interview with J.K. Rowling Part 10: Emotional intelligence Part 11: Left brains and right brains Part 12: The vanishing hitchhikers Part 13: Final mystery presentations Part 14: Final mystery presentations			
3. 履修上の注意 Be able to discuss issues in English			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students will read textbook articles. Students will do vocabulary exercises. Students will make a summary of some readings. Students will prepare for two presentations.			
5. 教科書 Active Skills for Reading 4 by Neil J. Anderson (Heinle Cengage Learning/ National Geographic)			
6. 参考書 Have a good English English or Japanese English dictionary (including electronic dictionary).			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Teacher will provide feedback to students in class.			
8. 成績評価の方法 Evaluation will be made up of the following: Homework from textbook (15%) Quizzes/ summaries (10%) Active daily participation (25%) Midterm presentation (25%) Final presentation (25%)			
9. その他 This class will be taught in English. Students will be expected to do about one hour of homework each week on average.			

科目ナンバー：(BA)SOC191E			
Global Issues B			バーニング, ジョージ
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Outline English has become a language of global communication. At the university level we will use English to look at some important issues on the global level. Global Issues A aims to develop students' English ability while introducing issues in the world today and encouraging further exploration. Learning how to discuss topics effectively will also be a goal for this course. Students will learn from the teacher as well as from each other. Objectives To develop a detailed awareness of global issues To be able to discuss global issues in English To become familiar with and practice a range of reading skills To acquire key vocabulary associated with global issues To be able to participate effectively in an in group presentation To be able to present in front of a class on important issues			
2. 授業内容 Part 1: Introduction / needs survey / The Mediterranean Diet (homework) Part 2: Healthy living (3 exceptional longevity areas) Part 3: Genetically modified food Part 4: Beyond Planet Earth/ Solar storms Part 5: Star struck (Astronomy) Part 6: Language and Life / The exodus of languages Part 7: Life with the Tarahumaras Part 8: Midterm presentation on endangered languages Part 9: Unearthing the Past (archaeology) / The Search for Cleopatra Part 10: Wildlife Conservation (zoology) / The race to rescue koalas Part 11: Rhino wars Part 12: Living on the edge (zoology/ ecology) Part 13: Final endangered animal presentations Part 14: Final endangered animal presentations			
3. 履修上の注意 Be able to discuss issues in English.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students will read textbook articles. Students will do vocabulary exercises. Students will make a summary of some readings. Students will prepare for two presentations.			
5. 教科書 Active Skills for Reading 4 by Neil J. Anderson (Heinle Cengage Learning/ National Geographic)			
6. 参考書 Have a good English English or Japanese English dictionary (including electronic dictionary).			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Teacher will provide feedback to students in class.			
8. 成績評価の方法 Evaluation will be made up of the following: Homework from textbook (15%) Quizzes/ summaries (10%) Active daily participation (25%) Midterm presentation (25%) Final presentation (25%)			
9. その他 This class will be taught in English. Students will be expected to do about one hour of homework each week on average.			

科目ナンバー：(BA)SOC191E			
Global Issues A 【GREAT】			デュプリス, ジョン
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 The aim of this course is to give you practice in using English to examine academic issues. This course will focus on Global Issues. Global Issues A will introduce students to international organizations, specific interests, and some of the issues affecting the world. After completing this course you should be able to: • understand the major functions of international organizations • gain knowledge of how these organizations work with nations and affect the world • take part in discussions on global issues			
2. 授業内容 Week 1 : What are global issues? Week 2 : The United Nations and its role in the world Week 3 : Topics within the United Nations Week 4 : Maintaining peace: armaments and the balance of power Week 5 : Maintaining peace: the importance of justice; international organizations Week 6 : Human rights; women's rights Week 7 : Human rights: children's rights Week 8 : Deep dive into current topic Week 9 : Mock debate/comparison presentation of current controversial issue Week 10 : The environment as a global issue Week 11 : The environment as a global issue continued Week 12 : Deep dive into group project Week 13 : Poster Presentations Week 14 : Course Review+Exam			
3. 履修上の注意 Registration Requirements: This course is a required course for students on the Global Resources English Applied Track (GREAT). GREAT will only be available to students with adequate English test scores. International exchange students may also apply to attend this course.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please have a good learner dictionary—this may be either electronic or paper-based.			
5. 教科書 None			
6. 参考書 Handouts, the Internet, O-oh Meiji! system			
7. 課題に対するフィードバックの方法 The final exam will be held on the last day of classes. All papers will be submitted on Oh-o! Meiji system.			
8. 成績評価の方法 Grading and Evaluation Attendance and class participation: 30% Homework 15%In-class quizzes 15%Final presentation and written report 40% (NOTE: More than 3 unexcused absences will result in a fail (3 lates=1 absence))			
9. その他 This course aims to help you use English more fluently and to engage in academic discussions. The issues are issues that affect us all and ones that we all need to talk about.			

科目ナンバー：(BA)SOC191E			
Global Issues B 【GREAT】			デュプリス, ジョン
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 The aim of this course is to give you practice in using English to examine academic issues. This course will focus on Global Issues around trade and commerce building upon what was learned in the spring semester. Global Issues B will introduce students to the world of business and global exchange as a global issue. After completing this course you should be able to: • understand the major functions of trade and commerce in the world • gain knowledge of how trade affects nations and the world • take part in discussions on global issues			
2. 授業内容 Week 1 : Review of Global Issues topics discussed in spring semester Week 2 : Trade and commerce overview Week 3 : The role of global business Week 4 : Free trade and tariffs Week 5 : Trade topic deep dive Week 6 : Mock debate on a controversial current global topic around trade and commerce Week 7 : The environment and trade (part 1) Week 8 : The environment and trade (part 2) Week 9 : Mid-term quiz and introduction to transportation in global trade Week 10 : Global issues around shipping of goods Week 11 : The role of energy in trade and commerce Week 12 : Deep dive into poster project Week 13 : Poster Presentations Week 14 : Course Review+Exam			
3. 履修上の注意 Registration Requirements: This course is a required course for students on the Global Resources English Applied Track (GREAT). GREAT will only be available to students with adequate English test scores. International exchange students may also apply to attend this course. Preparation and Review			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please have a good learner dictionary—this may be either electronic or paper-based. You will also need to have access to a computer regularly to watch lectures and short videos on subject to be covered.			
5. 教科書 none			
6. 参考書 Handouts, the Internet, O-oh Meiji! system			
7. 課題に対するフィードバックの方法 The final exam will be held on the last day and the final presentation will be held on the second to last class. Papers will be submitted on Oh-o! Meiji system.			
8. 成績評価の方法 Attendance and class participation: 30% Homework 15%In-class quizzes 15%Final presentation and written report 40% (NOTE: More than 3 unexcused absences will result in a fail (3 lates=1 absence))			
9. その他 This course aims to help you use English more fluently and to engage in academic discussions. The issues are issues that affect us all and ones that we all need to talk about.			

科目ナンバー：(BA)S0C191E			
Global Issues A 【GREAT】			モロー、ロバート J
2単位	1年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <summary> In this course we will focus on discussing, researching and critically understanding various global issues facing the world and the role of different global organizations in dealing with them in the 21st century. Students will be able to choose issues to research global issues such as poverty, gender, health, education, human rights, environmental, as well as issues connected to labor. Students will research and share information about various issues in class discussions, and will create blogs individually, and websites as a group project, based on the information that they have researched. <objectives> In this course, students will gain knowledge of important global issues while at the same time develop and practice specific English skills, such as listening, writing, and discussion. The course will assist students in developing their vocabulary for talking about global issues, as well as various academic skills including note-taking, pair and small group discussion, and presentation skills. In addition, it is a goal of this course to help students develop their research skills, and critical thinking skills.			
2. 授業内容 Week 1. Introduction to the course focusing on topics and expectations. Week 2. Watching videos and discussing global issue topics. Choosing a global issue to research. Week 3. Weekly discussions and in-class notes. Begin group research project #1: background information Week 4. Weekly discussions and in-class notes. Continue research project #1: Details on where and who is affected Week 5. Weekly discussions and in-class notes. Continue research project #1: Details on organizations that are helping Week 6. Mid-term test, based on weekly discussions, and notes taken in class. Discussing research and outlining for research project # 1 Week 7. Presentation and peer review of research project # 1 Week 8. Weekly discussions and in-class notes. Begin group research project #2. Initial mind-mapping and group discussions. Begin researching background information. Week 9. Weekly discussions. Continue research project 2: Details on where and who is affected Week 10. Weekly discussions. Continue research project 2: Details on who is helping Week 11. Weekly discussions. Continue research project 2: Details local issues connected to the project Week 12. Sharing project information. Working on outlines for project #2 Week 13. Peer review of group projects and discussions Week 14. a. Final Test b. Course Wrap-up			
3. 履修上の注意 This course is a required course for students on the Global Resources English Applied Track (GREAT). Non-GREAT students cannot take this course. International exchange students may also apply to attend this course.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Each week you will be assigned homework for reading, writing, or looking for information outside of class. Before and after classes, review what you have learned. Prepare notes reflecting what you researched. You will need an A4 size notebook for this class to prepare notes, which will enable you to join group/class discussions. You will need to spend at least one hour for the review of the class and to prepare the assigned homework every week. Each week, you will have discussions with other students, based on the information you have read for homework.			
5. 教科書 There is no textbook. Materials will be provided as handouts during class or links on Oh-o! Meiji. You should keep a file for handouts and all the other study materials for this course.			
6. 参考書 None			
7. 課題に対するフィードバックの方法 The midterm exam will be held in week-6, and the explanation will also be held on the same day. The final exam will be held on the last day of classes, and the explanation will also be held on the same day. Student papers, notes, outlines, and other materials worked on will be handed in through Oh-o Meiji. General comments on assignments will be published on the Oh-o! Meiji system.			
8. 成績評価の方法 Class Participation, discussions, reflection writing, and worksheets 30% Project #1 research notes and presentation 25% Project #2 research notes and presentation 25% Midterm test 10% Final test 10%			
9. その他 None			

科目ナンバー：(BA)SOC191E			
Global Issues B 【GREAT】			モロー、ロバート J
2単位	1年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <summary> In this course we will continue building students' research, presentation, and discussion skills as we focus on critically understanding the various global issues facing the world and the role of business and various global organizations in dealing with them in the 21st century. Global issue topics that students may research and discuss include: climate change, war and terrorism, gender issues, health, education, human rights, and global issues connected to business. Students will research and share information about issues in class discussions, and will give presentations based on the information that they have researched. <objectives> In addition to the research projects the students will work on, class time will be used to continue to develop and practice specific English skills, such as listening, writing and discussion, using a variety of sources dealing with global issue topics. The course will help students develop their vocabulary for talking about global issues, as well as improve various academic skills including note-taking, pair and small group discussion and presentation. In addition, activities will be included that help to develop students' critical thinking skills.			
2. 授業内容 Week 1. Introduction to the course focusing on topics and expectations, first discussions on global issues Week 2. Watching videos and discussing global issue topics. Choosing a global issue to research. Week 3. Weekly discussions and in-class notes. Begin group research project 1: background information Week 4. Weekly discussions and in-class notes. Continue research project 1: Details on where and who is affected Week 5. Weekly discussions and in-class notes. Continue research project 1: Details on organizations that are helping Week 6. Mid-term test, based on weekly discussions, and notes taken in class. Discussing research and outlining and practice for the presentation Week 7. Group presentations and discussions Week 8. Weekly discussions and in-class notes. Begin individual research project #2. Initial mind-mapping and group discussions. Begin researching background information. Week 9. Weekly discussions. Continue research project 2: Details on where and who is affected Week 10. Weekly discussions. Continue research project 2: Details on who is helping Week 11. Weekly discussions. Continue research project 2: Details about local issues Week 12. Sharing project information. Working on outlines for project #2 Week 13. Peer review and discussions about project #2 Week 14. a. Final Test b. Course Wrap-up			
3. 履修上の注意 This course is a required course for students on the Global Resources English Applied Track (GREAT). Non-GREAT students cannot take this course. International exchange students may also apply to attend this course.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Each week you will be assigned homework for reading, writing, or looking for information outside of class. Before and after classes, review what you have learned. Prepare notes reflecting what you researched. You will need an A4 size notebook for this class to prepare notes, which will enable you to join group/class discussions. You will need to spend at least one hour for the review of the class and to prepare the assigned homework every week. Each week, you will have discussions with other students, based on the information you have read for homework.			
5. 教科書 There is no textbook. Materials will be provided as handouts during class or links on Oh-o! Meiji. You should keep a file for handouts and all the other study materials for this course.			
6. 参考書 None			
7. 課題に対するフィードバックの方法 The midterm exam will be held in week-6, and the explanation will also be held on the same day. The final exam will be held on the last day of classes, and the explanation will also be held on the same day. Student papers, notes, outlines, and other materials worked on will be handed in through Oh-o Meiji. General comments on assignments will be published on the Oh-o! Meiji system.			
8. 成績評価の方法 Class Participation, discussions, reflection writing, and worksheets 30% Project #1 research notes and presentation 25% Project #2 research notes and presentation 25% Midterm test 10% Final test 10%			
9. その他 None			

科目ナンバー：(BA)SOC191E			
Global Issues A 【GREAT】			ウォッシュ、イアン
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course outline Global Issues is an advanced-level English course that focuses on our increasingly globalised world. The course is designed to enhance students' understanding of major issues and trends associated with globalisation. It also raises awareness of how events and experiences at the local level affect those on a global level and vice versa. Ultimately, this course hopes to bring its students to a higher level of consciousness and responsibility as citizens of a global world. Learning objectives One objective is to familiarise students with key global issues through English by completing relevant reading and listening assignments inside and outside of class. Another goal is to enable students to critically formulate and express their own thoughts in English through collaborative tasks and activities.			
2. 授業内容 Part 1: Introduction and course outline. Part 2: Article and discussion (Gender) Part 3: Student article share (Gender) Part 4: Documentary and fluency-building (Gender) Part 5: Student article share (Gender) Part 6: Article and discussion (Crime) Part 7: Student article share (Crime) Part 8: Documentary and fluency-building (Crime) Part 9: Student article share (Crime) Part 10: Article and discussion (Food Ethics) Part 11: Student article share (Food Ethics) Part 12: Documentary and fluency-building (Food Ethics) Part 13: Student article share (Food Ethics) Part 14: Review and discussion			
3. 履修上の注意 Who is this course for? Global Issues A is a mandatory course for 1st year students in the GREAT (Global Resources English Applied Track) program in the School of Business Administration, based at Izumi campus. The typical Global Issues A student has recently entered university and their English language level is around the intermediate level. Exchange students and other students from higher grades (2nd, 3rd year) with more advanced levels of English language ability are welcome to take the course. Having a culturally diverse classroom can be beneficial to the global nature of the course. This works best when they can support the English education of regular GREAT students and offer insights on topics from their own cultural perspective. Students from outside the GREAT program are expected to adapt to the pace and level of the GREAT students, who are the primary users of this Global Issues A course.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Overview of activities • Reading assignments using authentic texts • Multi-media listening activities using authentic broadcasts • Summarising and reporting in oral and written forms • Mini-presentations • Group discussions • Fluency-building • Collaborative learning tasks			
5. 教科書 No textbook			
6. 参考書 No textbook			
7. 課題に対するフィードバックの方法 On lecture slides			
8. 成績評価の方法 • Active participation: 30% • Classwork and homework (mini-presentations, discussions, reflection papers, etc): 40% • Student article share worksheets: 30%			
9. その他 Homework policy Being absent from class is not a valid excuse for not completing homework assignments. Even if you are absent, you are expected to come fully prepared for the next class with the necessary materials. Failure to do this may result in penalties for participation. Homework submitted late will not be graded or marked.			

科目ナンバー：(BA)SOC191E			
Global Issues B 【GREAT】			ウォッシュ、イアン
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course outline Global Issues is an advanced-level English course that focuses on our increasingly globalised world. The course is designed to enhance students' understanding of major issues and trends associated with globalisation. It also raises awareness of how events and experiences at the local level affect those on a global level and vice versa. Ultimately, this course hopes to bring its students to a higher level of consciousness and responsibility as citizens of a global world. Learning objectives One objective is to familiarise students with key global issues through English by completing relevant reading and listening assignments inside and outside of class. Another goal is to enable students to critically formulate and express their own thoughts in English through collaborative tasks and activities.			
2. 授業内容 Part 1: Introduction and course outline. Part 2: Article and discussion (Migration) Part 3: Student article share (Migration) Part 4: Documentary and fluency-building (Migration) Part 5: Student article share (Migration) Part 6: Article and discussion (Public health) Part 7: Student article share (Public health) Part 8: Documentary and fluency-building (Public health) Part 9: Student article share (Public health) Part 10: Article and discussion (Celebrity) Part 11: Student article share (Celebrity) Part 12: Documentary and fluency-building (Celebrity) Part 13: Student article share (Celebrity) Part 14: Review and discussion			
3. 履修上の注意 Who is this course for? Global Issues B is a mandatory course for 1st year students in the GREAT (Global Resources English Applied Track) program in the School of Business Administration, based at Izumi campus. The typical Global Issues B student has recently entered university and their English language level is around the intermediate level. The majority of students took Global Issues A in the spring semester and this course builds on the skills development last semester. Exchange students from higher grades (2nd, 3rd year) with more advanced levels of English language ability are welcome to take the course. Having a culturally diverse classroom can be beneficial to the global nature of the course. This works best when they can support the English education of regular GREAT students and offer insights on topics from their own cultural perspective. Students from outside the GREAT program are expected to adapt to the pace and level of the GREAT students, who are the primary users of this Global Issues B course. A degree of patience will be required for this to work.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Overview of activities • Reading assignments using authentic texts • Multi-media listening activities using authentic broadcasts • Summarising and reporting in oral and written forms • Mini-presentations • Group discussions • Fluency-building • Collaborative learning tasks			
5. 教科書 No textbook			
6. 参考書 No textbook			
7. 課題に対するフィードバックの方法 On lecture slides			
8. 成績評価の方法 • Active participation: 30% • Classwork and homework (e.g. mini-presentations, discussions, reflection papers): 40% • Student article share worksheets: 30%			
9. その他 Homework policy Being absent from class is not a valid excuse for not completing homework assignments. Even if you are absent, you are expected to come fully prepared for the next class with the necessary materials. Failure to do this may result in penalties for participation. Homework submitted late will not be graded or marked.			

科目ナンバー：(BA)SOC191E			
Global Issues C			ウォッシュュ,イアン
2 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course title Introduction to International Cooperation and Development: Approaches and Actors Course outline This course introduces students to the multidisciplinary field of international development. The course allows students to explore a range of critical debates and discussions connected to doing development and tackling poverty in less prosperous parts of the world, and is divided into two parts. The first part of the course focuses on theories and approaches by examining how the understanding of development has evolved from the colonial period up to contemporary theories of what constitutes a developed society. Part two looks at key actors in the field of development including the state, national development agencies, global financial institutions. In addition to the acquisition of content knowledge, students will develop their English academic communication skills in the following areas: listening comprehension; notetaking skills; critical thinking, discussion, intensive and extensive reading, summary writing, research, and presentation. Learning objectives One objective is to familiarise students of business with the field of development studies by exploring competing theoretical approaches and a range of different stakeholders. Another goal is to further develop academic communication skills necessary to engage fully in courses in which English is the language of instruction.			
2. 授業内容 Part 1: Course introduction. What is development? Part 2: Theory 1: Colonialism and imperialism 1 Part 3: Theory 1: Colonialism and imperialism 2 Part 4: Theory 2: Modernisation and developmentalism 1 Part 5: Theory 2: Modernisation and developmentalism 2 Part 6: Theory 3: Dependency and underdevelopment 1 Part 7: Theory 3: Dependency and underdevelopment 2 Part 8: Actors 1: The state 1 Part 9: Actors 1: The state 2 Part 10: Actors 2: National development agencies 1 Part 11: Actors 2: National development agencies 2 Part 12: Actors 3: International financial institutions 1 Part 13: Actors 3: International financial institutions 2 Part 14: Final presentations			
3. 履修上の注意 Who is this course for? Global Issues C is primarily for 2nd, 3rd and 4th year students in the GREAT (Global Resources English Applied Track) program in the School of Business Administration. Students should have, at the very least, successfully completed courses in the 1st year of the GREAT program. Their English ability should be around the intermediate to upper-intermediate level. Exchange students and other 2nd/3rd/4th grade students at the university are welcome to take the course provided their English level is equal to or higher than that of students in the GREAT program. This course is also suitable for advanced level users of English.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Advice to students • Pre-read the chapter of the textbook before the lecture. Listen to the lectures carefully and take notes effectively. • Preparation for reflection and discussion lessons is key. Beforehand make sure you do the following: - o Do any required pre-readings - o Complete all parts of the Preparation Worksheets for homework - o When researching your answers to questions, consider the credibility of your sources. Newspaper articles, book chapters and journal articles provide better quality material than blogs and webpages with no identifiable author. - o Optional: Do additional reading around concepts and key thinkers covered in the lecture • Use reflection and discussion lessons as an opportunity to make sense of and internalise the material from the lectures and pre-readings. Continually refer your lecture notes, research notes and pre-readings during discussions. • Be patient and respectful of others when discussing challenging ideas. • After class, review the ideas covered in your discussions. Return to your pre-readings and lecture notes to clarify points raised during the reflection and discussion sessions. Demands of the course Global Issues C is a challenging course and therefore students are expected to spend at least 3 - 4 hours on homework per week to fully prepare for each lesson.			
5. 教科書 Haslam, P. A., Schafer, J. & Beaudet, P. (2021). Introduction to International Development: Approaches, Actors, Issues, and Practice. Oxford: Oxford University Press. ISBN: 0199036438			
6. 参考書 Recommended supplementary reading • Desai, V. & Potter, R. B. (2014) The Companion to Development Studies. Third Edition. London: Routledge <i>An essential one-stop reference book for undergraduate students of international development.</i> • Sachs, W. (2010) The Development Dictionary: A Guide to Knowledge as Power. London: Zed Books. <i>A collection of critical essays reviewing key concepts in development studies.</i> • Jefferson, P. N. (2018) Poverty: A Very Short Introduction. Oxford: Oxford University Press. <i>This is a brief and clearly written introductory text on poverty and the poor.</i> • Goldin, I. (2018) Development: A Very Short Introduction. Oxford: Oxford University Press. <i>A succinct but surprisingly broad introduction to international development.</i>			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 • Active participation: 30% • Classwork and homework (Preparation worksheets, classroom discussions, etc): 50% • Final presentation: 20%			
9. その他 Homework policy Being absent from class is not a valid excuse for failing to complete homework assignments. Even if you are absent from class, you are expected to come fully prepared for the next class with the necessary materials. Failure to do this may result in penalties for participation. Homework submitted late will not be graded.			

科目ナンバー：(BA)SOC191E			
Global Issues D			ウォッシュュ,イアン
2 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course title Introduction to International Cooperation and Development: Themes and Issues Course outline This course continues on from Global Issues C to introduce a range of fundamental themes and issues in the field of international development. The course focuses on understanding complex development problems by drawing on the knowledge gained about key theories, concepts and actors. We will explore a number of key themes in international development, looking at questions around how free trade, health and conflict impact on the development of poorer countries. In the second half of the course, students will conduct case study research on one of the themes covered, culminating in a final presentation providing a detailed analysis of the case. In addition to the acquisition of content knowledge, students will develop their English academic communication skills in the following areas: listening comprehension; notetaking skills; critical thinking, discussion, intensive and extensive reading, summary writing, research, and presentation. Learning objectives One objective is to enable students to apply theoretical approaches to challenging themes in field of development and examine the roles different stakeholders play in addressing these issues. Another goal is to further develop academic communication skills necessary to engage fully in courses in which English is the language of instruction.			
2. 授業内容 Part 1: Course introduction. Review of approaches and actors Part 2: Free trade and fair trade 1 Part 3: Free trade and fair trade 2 Part 4: Health and development 1 Part 5: Health and development 2 Part 6: Conflict, security and development 1 Part 7: Conflict, security and development 2 Part 8: Refugees and development policy and practice 1 Part 9: Refugees and development policy and practice 2 Part 10: Case study research Part 11: Case study research Part 12: Case study research Part 13: Final presentations Part 14: Final presentations			
3. 履修上の注意 Who is this course for? This course is primarily for 2nd, 3rd and 4th year students in the GREAT (Global Resources English Applied Track) program in the School of Business Administration. The intended user of the course completed Global Issues C (Introduction to International Cooperation and Development: Approaches and Actors) in the spring semester. Students should have, at the very least, successfully completed courses in the 1st year of the GREAT program. Their English ability should be around the intermediate to upper-intermediate level. Exchange students and other 2nd/3rd/4th grade students at the university are welcome to take the course provided their English level is equal to or higher than that of students in the GREAT program. This course is also suitable for advanced level users of English.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Advice to students • Pre-read the chapter of the textbook before the lecture. Listen to the lectures carefully and take notes effectively. • Preparation for reflection and discussion lessons is key. Beforehand make sure you do the following: - o Do any required pre-readings - o Complete all parts of the Preparation Worksheets for homework - o When researching your answers to questions, consider the credibility of your sources. Newspaper articles, book chapters and journal articles provide better quality material than blogs and webpages with no identifiable author. - o Optional: Do additional reading around concepts and key thinkers covered in the lecture • Use reflection and discussion lessons as an opportunity to make sense of and internalise the material from the lectures and pre-readings. Continually refer your lecture notes, research notes and pre-readings during discussions. • Be patient and respectful of others when discussing challenging ideas. • After class, review the ideas covered in your discussions. Return to your pre-readings and lecture notes to clarify points raised during the reflection and discussion sessions. Demands of the course Global Issues D is a challenging course and therefore students are expected to spend at least 3 - 4 hours on homework per week to fully prepare for each lesson.			
5. 教科書 Haslam, P. A., Schafer, J. & Beaudet, P. (2021). Introduction to International Development: Approaches, Actors, Issues, and Practice. Oxford: Oxford University Press. ISBN: 0199036438			
6. 参考書 Recommended supplementary reading • Desai, V. & Potter, R. B. (2014) The Companion to Development Studies. Third Edition. London: Routledge <i>An essential one-stop reference book for undergraduate students of international development.</i> • Sachs, W. (2010) The Development Dictionary: A Guide to Knowledge as Power. London: Zed Books. <i>A collection of critical essays reviewing key concepts in development studies.</i> • Jefferson, P. N. (2018) Poverty: A Very Short Introduction. Oxford: Oxford University Press. <i>This is a brief and clearly written introductory text on poverty and the poor.</i> • Goldin, I. (2018) Development: A Very Short Introduction. Oxford: Oxford University Press. <i>A succinct but surprisingly broad introduction to international development.</i>			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 • Active participation: 30% • Classwork and homework (Preparation worksheets, classroom discussions, etc): 40% • Final presentation: 30%			
9. その他 Homework policy Being absent from class is not a valid excuse for failing to complete homework assignments. Even if you are absent from class, you are expected to come fully prepared for the next class with the necessary materials. Failure to do this may result in penalties for participation. Homework submitted late will not be graded.			

科目ナンバー：(BA)PSY196J			
心理学〔M〕			中西 晶
2 単位	1 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 心理学は、現在『こころの科学』として多方面に展開している。その一方であまりにもポピュラーになりすぎため、基礎的な知識を持たないままに理解したつもりになっている場合も多い。 そこで本講義では、現代の心理学におけるさまざまな議論を紹介し、心理学とはなにかについて正しい理解を得ることを目的とした講義を行い、できるだけ身近な事例や実験なども交えながら授業を進める。 <到達目標> 前半は主として『こころと適応』という観点から心理学の基本を紹介する。本講義を通して、人間、とくに自分自身を知る機会とし、豊かな学生生活を送るきっかけとなることを期待したい。後半では、主として『こころのメカニズム』について考える。身近な事例や簡単な実験も紹介しながら、認知、学習、対人的相互作用、社会現象などを心理学的見地から解説する。個人の内的過程から全体社会の構成まで一貫した目で見る視点を養いたい。また、近年進歩の著しい脳科学の成果が心理学に与えた影響も理解する。			
2. 授業内容 主として、以下のようなテーマで講義する。進捗等により若干前後することがある。 全回メディア授業（オンデマンド型）で実施する。 第1回：心理学を学ぶということ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回：心理学の歴史と方法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：発達とライフサイクル〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：動機付けと情動〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：性格と知能〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：メンタルヘルスとカウンセリング〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：中間まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回：感覚と知覚〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：記憶のしくみ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：学習と思考〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：脳と心の関係〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：人間社会と人間心理〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：経営学と心理学〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：全体まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 フルオンデマンドで実施するので、十分な情報通信環境を準備すること。 授業資料・課題は毎週金曜日にOh-o!Meijiにアップする。 Oh-o!Meijiに提出された毎回のワークの結果は、個人情報削除して、次回以降の授業で提示する場合がある。 経営心理学や社会学及び経営社会学、文化人類学、産業生理学等、人間に関する講義もあわせて学ぶとより理解が深まるだろう。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 特に必要としないが、日常生活において常に問題意識を持ち、情報を探索・収集して、自分なりの考えをまとめていく姿勢が求められる。			
5. 教科書 長谷川寿一他著、『はじめて出会う心理学（第3版）』、有斐閣アルマ、2020年			
6. 参考書 日本心理学会「心理学ミュージアム」(https://psychmuseum.jp)			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meijiに提出された毎回のワークの結果は、個人情報削除してとりまとめ、次回以降の授業で総合的なコメントする。 個別の質問・相談にはアンケート機能を利用する。 最終の全体を通した理解度確認テストにおいては、小テスト機能において解答や解説を行う。			
8. 成績評価の方法 毎回の授業に応じたワークの成果（Oh-O!Meijiのアンケート機能を使用予定）各回5点×13回＝65点 最終回での全体の理解度確認テスト（Oh-O!Meijiの小テスト機能を使用予定）35点 合計100点満点で評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)PSY196J			
心理学〔M〕			中西 晶
2 単位	1 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 心理学は、現在『こころの科学』として多方面に展開している。その一方であまりにもポピュラーになりすぎため、基礎的な知識を持たないままに理解したつもりになっている場合も多い。 そこで本講義では、現代の心理学におけるさまざまな議論を紹介し、心理学とはなにかについて正しい理解を得ることを目的とした講義を行い、できるだけ身近な事例や実験なども交えながら授業を進める。 <到達目標> 前半は主として『こころと適応』という観点から心理学の基本を紹介する。本講義を通して、人間、とくに自分自身を知る機会とし、豊かな学生生活を送るきっかけとなることを期待したい。後半では、主として『こころのメカニズム』について考える。身近な事例や簡単な実験も紹介しながら、認知、学習、対人的相互作用、社会現象などを心理学的見地から解説する。個人の内的過程から全体社会の構成まで一貫した目で見る視点を養いたい。また、近年進歩の著しい脳科学の成果が心理学に与えた影響も理解する。			
2. 授業内容 主として、以下のようなテーマで講義する。進捗等により若干前後することがある。 全回メディア授業（オンデマンド型）で実施する。 第1回：心理学を学ぶということ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回：心理学の歴史と方法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：発達とライフサイクル〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：動機付けと情動〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：性格と知能〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：メンタルヘルスとカウンセリング〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：中間まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回：感覚と知覚〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：記憶のしくみ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：学習と思考〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：脳と心の関係〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：人間社会と人間心理〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：経営学と心理学〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：全体まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 フルオンデマンドで実施するので、十分な情報通信環境を準備すること。 授業資料・課題は毎週金曜日にOh-o!Meijiにアップする。 Oh-o!Meijiに提出された毎回のワークの結果は、個人情報削除して、次回以降の授業で提示する場合がある。 経営心理学や社会学及び経営社会学、文化人類学、産業生理学等、人間に関する講義もあわせて学ぶとより理解が深まるだろう。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 特に必要としないが、日常生活において常に問題意識を持ち、情報を探索・収集して、自分なりの考えをまとめていく姿勢が求められる。			
5. 教科書 長谷川寿一他著、『はじめて出会う心理学（第3版）』、有斐閣アルマ、2020年			
6. 参考書 日本心理学会「心理学ミュージアム」(https://psychmuseum.jp)			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meijiに提出された毎回のワークの結果は、個人情報削除してとりまとめ、次回以降の授業で総合的なコメントする。 個別の質問・相談にはアンケート機能を利用する。 最終の全体を通した理解度確認テストにおいては、小テスト機能において解答や解説を行う。			
8. 成績評価の方法 毎回の授業に応じたワークの成果（Oh-O!Meijiのアンケート機能を使用予定）各回5点×13回＝65点 最終回での全体の理解度確認テスト（Oh-O!Meijiの小テスト機能を使用予定）35点 合計100点満点で評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)IND112J			
教養演習 A			一之瀬 真 志
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：スポーツ生理学 〈概要〉 この演習では運動に対する身体の反応を実験・測定を通して学びます。運動時の生体反応は、個人の運動能力やフィットネスレベル、健康状態などと密接に関係しています。自分の身体に関する知識を客観的指標の測定と分析により身につけていきます。 〈到達目標〉 運動に対する生体反応とそのしくみについての基礎的知識を身につけるとともに、測定データを読み解き、考察し、議論するために必要な論理的思考力を高めることを目的とします。			
2. 授業内容 第1回 aのみ：イントロダクション 第2回～3回 運動時の循環調節のしくみ 第4回～5回 安静時および運動時の血圧、心拍数の測定実習 第6～7回 血圧、心拍数のデータ解析 第8回 運動時の呼吸調節のしくみ 第9回 運動時のエネルギー代謝のしくみ 第10～11回 安静時および運動時の呼吸反応、酸素摂取量の測定 第12～13回 呼吸反応、酸素摂取量のデータ解析 第14回 測定データの発表、まとめ			
3. 履修上の注意 データの分析にはエクセルを使用します。また、発表にはパワーポイントを用います。エクセルとパワーポイントの使い方は基本から解説しますので、使ったことのない人でも大丈夫です。測定を行うため、履修希望者が多い場合は抽選となります。履修人数に応じた測定の内容を変える場合があります。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第1回イントロダクションにおいて授業予定が示されるので、各授業の前に参考図書や配布資料などを用いて予習してください。授業後には配布資料などの該当箇所を振り返り復習をし、不明な点があれば授業で質問してください。			
5. 教科書 教科書は特に定めません。授業中に資料を配布します。			
6. 参考書 運動生理学（池上晴夫，朝倉書店） 運動生理学概論（浅野勝巳，杏林書院） 運動生理学20講（勝田 茂，朝倉書店） Physiology of Sports and Exercise (Wilmore JH et al, Human Kinetics) Exercise Physiology (McArdle WD et al, Lippincott Williams & Wilkins)			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間中に小テストやレポート等を課す場合には、課題提出締め切り後にOh!-Meijiを通じて解説を配信します。			
8. 成績評価の方法 平常点（30％），発表（15％），討論への参加（25％），レポート（30％）。			
9. その他 自分の身体の機能に興味がある人，体力・運動能力を高めたい人，スポーツが好きな人，普段あまり運動をしてないけれど運動を始めたいと思っている人，などには特に受講を勧めます。 ※履修希望者は第1回の授業に必ず出席してください。			

科目ナンバー：(BA)IND112J			
教養演習 A			宇野 毅
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：現代イギリスと日本 〈概要〉 比較的情報量が少ないイギリスの社会や文化にスポットライトを当てて、日本が開国・明治維新以来お手本としてきたイギリスという国を、オールラウンドに考察してみる。アメリカ（コーヒー）よりもイギリス（紅茶）に関心のある学生向けの授業である。 イギリスは、2020年12月31日にEU離脱を完了し、2022年9月8日には在位70年のエリザベス女王が崩御して時代が変わったが、そのような現代イギリス社会を中心に考察して行きたい。 〈到達目標〉 春学期の前半は、教科書やレジュメを基にイギリスに関する基本的な講義を、後半は、受講生が関心を持つイギリスに関するテーマについて、各自が簡単なプレゼンテーションの練習を行なう予定である。怪しいネット情報ではなく、書籍にあたってもらいたい。			
2. 授業内容 第01回 イントロダクション イギリス概説（1） 第02回 イギリス概説（2） 第03回 イギリス概説（3） 第04回 イギリス概説（4） 第05回 イギリス概説（5） 第06回 イギリス概説（6） 第07回 イギリス概説（7） 第08回 プレゼンテーション（1） 第09回 プレゼンテーション（2） 第10回 プレゼンテーション（3） 第11回 プレゼンテーション（4） 第12回 プレゼンテーション（5） 第13回 プレゼンテーション（6） 第14回 プレゼンテーション（7）& まとめ 上記予定は、状況によっては変更されることがあり得る。			
3. 履修上の注意 履修条件は、(アメリカではなく！ここが重要ポイント) イギリスに強い興味や関心があること。演習科目であるから、授業にはきちんと出席することが最低限の条件である。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 プレゼンテーションに於いては、ウェブの情報（オフィシャル・サイト）を参考にすることは良いが、コピー＆ペーストは不可である。たくさん書籍を読んでもらいたい。			
5. 教科書 詳細は、授業開始時に教場で紹介する。			
6. 参考書 教場にて指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 平常点（50％）・授業への参加や貢献度・レポート等（計50％）による総合評価。ペーパー試験は行なわない予定である。			
9. その他 海外渡航経験者のある諸君や留学生が受講すると、より一層多文化に触れることができ、充実しそうな予感がする。 ※履修希望者は、第1回目授業に必ず出席すること。			

科目ナンバー：(BA)IND112J			
教養演習 A			金子 敦子
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：ビジネス・コミュニケーション グローバル人材に求められるビジネス・コミュニケーションの理論を学び、実践する。グループで調査を行い、プレゼンテーションを行う。 目標 ビジネス・コミュニケーションの原則と理論を説明できる。 グループで調査を行い、視覚資料を用いて効果的な口頭発表を行う。 協働的・協力的で柔軟な学習態度を示す。 主要成果物 学生によるプレゼンテーション動画：ビデオ録画を行い、視覚資料やレポートとともに提出する。			
2. 授業内容 第1回 (4/16) ビジネス・コミュニケーションの原則：信頼の確立 Establishing Credibility 第2回 (4/23) 一対一のコミュニケーションと関係構築；事前測定 Interpersonal Communication and EQ 第3回 (4/30) チームコミュニケーションと意思決定 Team Communication 第4回 (5/7) プレゼンテーションとデータ視覚化 Presentation and Data Visualization 第5回 (5/14) 振り返り；質問紙調査プロジェクト：グループ編成とテーマ決定 Reflection; Project Kick-off 第6回 (5/21) モデルケース：一次データと二次データ Model Case: Primary Data and Secondary Data 第7回 (5/28) 調査プロポーザル提出；学生によるプレゼンテーション Student Presentations 第8回 (6/4) 質問紙調査の実施 Data Collection 第9回 (6/11) データの種類と分析方法 Data Analysis 第10回 (6/18) データ分析（1） 度数分布 Data Analysis 第11回 (6/25) データ分析（2） 相関関係 Data Analysis 第12回 (7/2) 考察と結論 Discussion and Conclusion 第13回 (7/9) 調査報告：学生によるプレゼンテーション Student Presentations 第14回 (7/15) 学生によるプレゼンテーション；事後測定 Student Presentations; Reflection 質問紙調査トピック例： 日本人学生の世界への関心ー海外旅行を通して 学生の職業観ー仕事に何を求めるか			
3. 履修上の注意			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎週、授業中の議論の準備と授業の振り返りをOho! Meijiのディスカッションで共有してください。 Students are expected to read before each class the parts of the textbook and prepare for class discussions. As a review of the session, post your reflection to Oho! Meiji discussion.			
5. 教科書			
6. 参考書 Peter Cardon. (2024). Business Communication: Developing Leaders for a Networked World 5th Edition. McGraw Hill 三浦香苗・岡澤孝雄・深澤のぞみ・ヒルマン小林恭子(2006) 最初の一步から始める日本語学習者と日本人学生のためのアカデミックプレゼンテーション入門 ひつじ書房			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji のディスカッションおよび授業内にフィードバックを行う。 Provide feedback through Oh-o! Meiji (LMS) discussions as well as in-class discussions.			
8. 成績評価の方法 レポート・プレゼンテーション（2） 40%; 課題・小テスト 40%; 授業貢献: 20% 出席：14回の授業のうち、3回を超える欠席がある場合、単位取得はできない。遅刻は3回で欠席1回とする。			
9. その他 授業言語は主に日本語で、英語を併用する。データ分析には主にExcelを使用する。留学生および留学を検討中の学生の履修を歓迎する。			

科目ナンバー：(BA)IND112J			
教養演習 A			薩摩 秀 登
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：英語で日本史を読む 〈概要〉 英語による日本史の概説書を読む。どのような地域の歴史もそれぞれ固有の言語世界で展開しており、日本史を日本語以外で語るのは難しい。しかし、異なる言語で捉えてみることで、日本史に固有の概念や事象について、新たなコンテキストで理解し、新たな発見に結びつくこともある。授業では、英文で読むことにより、日本語との意味の違いなどを考えながら、日本史についての理解を深めていく。 この授業では、古代から中世にかけての歴史を対象とする。 〈到達目標〉 英文の正確な読解力を身につける。 そのうえで、英語で読むことにより、広い視野から日本史を捉える力を身につける。			
2. 授業内容 テキストとしては、主にR.H.P. Mason & J.G. Caiger, A History of Japan、およびJohn Whitney Hall, Japan, From Prehistory to Modern Timesを予定しており、主に古代から中世をとりあげる。 第1回 授業の概要説明 第2回 国家成立期 国の統一過程 第3回 国家成立期 統一政権 第4回 国家成立期 奈良時代（政治） 第5回 国家成立期 奈良時代（文化・社会） 第6回 平安時代 初期の政治 第7回 平安時代 政治の展開 第8回 平安時代 社会・文化 第9回 武士階層の成立 第10回 武家政権の成立 第11回 鎌倉時代の社会・文化 第12回 室町政権 第13回 室町時代の政治 第14回 室町時代の社会・文化 必要に応じて、適宜、小テストを実施する。			
3. 履修上の注意 テーマは日本史であるが、必ずしも日本史の詳しい知識が要求されるわけではない。 歴史に関するスタンダードな英文を読んでみたいと思う人、これまで日本史をあまり勉強してこなかったがここで理解を深めてみたいと思う人、あるいは広く歴史全体に関心のある人なども歓迎する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストをしっかりと予習し、いつでも訳せるようにしておくこと。背景となる事柄についても調べてくれることが望ましい。			
5. 教科書			
6. 参考書 宮地正人編『日本史』山川出版社、2008年 五味文彦、島海靖編『もういちど読む山川日本史』山川出版社、2009年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 通常の授業において行う。			
8. 成績評価の方法 平常点（授業に対する態度）100% 小テストを実施した場合は、30%を小テストにあてる。			
9. その他 ※履修希望者は、第1回目授業に必ず出席すること。			

科目ナンバー：(BA)IND112J			
教養演習 A			鈴井正敏
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：自分のエネルギー消費能力を測ろう 人間は個人によって持っているエンジンの大きさが異なります。エンジンの大きさはエネルギー（カロリー）の消費能力であり、それは酸素の摂取能力から計算することができます。この授業では自分がどのくらいのエネルギー（カロリー）消費能力があるか、またどのくらい脂肪消費能力があるのかを実験により調べます。 実験では各自の最大酸素摂取量を測定します。その結果から、エネルギー（カロリー）の最大消費能力、心拍数に対応したカロリー消費量、脂肪燃焼能力と脂肪燃焼に適した運動強度、トレーニングの目的別運動強度を推定します。実験で得られた測定結果は表計算ソフト エクセル用いて解析します。また、データのまとめはパワーポイントで行います。エクセルとパワーポイントは基本から解説しますので、使ったことがない人でも大丈夫です。 自分の体力プロフィールを理解するとともに、トレーニングやダイエットに最適な運動強度を判断できるようになることが到達目標です。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：最大酸素摂取量の意味 第3回：人体のエネルギー代謝 第4回：測定手順と準備 第5回：最大酸素摂取量の測定 第7回：データ解析（最大酸素摂取量の決定） 第8回：データ解析（乳酸の蓄積ポイントの決定） 第9回：データ解析（心拍数とカロリー） 第10回：データ解析（脂肪消費能力） 第11回：食事調査（一日のカロリー摂取） 第12回：エネルギー出納 第13回：パワーポイント（データの表し方） 第14回：パワーポイント（まとめ）			
3. 履修上の注意 実験を行うので、WEBによる事前受付となります。 実験は最大努力で行う自転車運動です。身体負担があることを理解してください。実験前は体調管理に注意してください。 実験後、データ処理の授業は大学のPCを使用しますが、課題も出しますので、PCの所持を前提としています。 データ解析以降では毎回の授業の終わりにデータファイルをレポートとしてOh-o! Meijiにアップします。 欠席すると測定や調査ができなかったり、データ解析の内容が分からなくなるので、注意してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 トレーニングやダイエットなど、得られたデータが自分にどのように役立てられるのか考えてください。 データ解析はやり方だけでなく、解析によって得られた結果の意味を理解してください。			
5. 教科書 使用しません。			
6. 参考書 とくに定めません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業のなかで課題や問題点については常にディスカッションを行うとともに解説します。			
8. 成績評価の方法 授業への貢献度（60%）、レポート（40%）により評価します。			
9. その他 履修希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。 本授業は、受講人数制限があるため、履修に際しては、WEBによる事前受付を実施します。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照してください。			

科目ナンバー：(BA)IND112J			
教養演習 A			田中充洋
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：ラグビーフットボール文化論 <概要> ラグビーフットボールは、12世紀から17世紀、国家・地方官憲の度重なる禁止令に屈せず、英国国民の情熱によって継承されてきた。そして、それは、パブリックスクールの教育政策とイギリスの植民地政策とともに世界中に普及していった。とりわけオーストラリア・ニュージーランド・南アフリカでは、その国民性や風土に合致し、現在最もラグビーの盛んな大国として世界に知られている。 そこで、この講義ではラグビーボールに触れながら、そのゲームの基本的な構造やルールを学ぶ。さらに、南半球のプロラグビーを中心に、各国の強化システム・コーチング・PR活動などを検証する。 <到達目標> ラグビーフットボールのルールと基本スキルを学ぶ。また、世界各国のラグビー事情を紐解きながら現地の文化を理解する。			
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション b：フットボールの発展史（ラグビーフットボールの誕生と世界展開） 第2回：ラグビーゲームを学ぶ1（ルール解説1：これだけは知っておきたいルール） 第3回：ラグビーゲームを学ぶ2（ルール解説2：更にラグビーを楽しむ為のルール） 第4回：ラグビーゲームを学ぶ3（実技1：個人スキルa） 第5回：ラグビーゲームを学ぶ4（実技2：個人スキルb） 第6回：ラグビーゲームを学ぶ4（実技3：ユニットスキルとゲーム） 第7回：世界のラグビー事情1 オーストラリア：アボリジニ文化、学校体育、AIS、リーグ&オーズルールズ 第8回：世界のラグビー事情2 ニュージーランドのラグビー：マオリ文化、オールブラックス 第9回：世界のラグビー事情3 南アフリカのラグビー：アパルトヘイト、スプリングボクス 第10回：世界のラグビー事情4 北半球のラグビー：6 Nations、ラグビーユニオン 第11回：世界のラグビー事情5 日本のラグビー（TOP LEAGUE、大学、高校、ジュニア、7s） 第12回：世界のラグビー事情6 2019年/2023年ラグビーWCの検証と今後の展望 第13回：世界のラグビー事情7 ラグビーの精神（ノーサイド・キャプテンシーなど） 第14回 a：ラグビーゲームを学ぶ5（実技4：7人制） b：まとめと振り返り			
3. 履修上の注意 ラグビーフットボールに興味を持つ学生対象 ※履修希望者は、第1回目授業に必ず出席すること。（希望者多数の場合、第1回目授業内での抽選となります。）			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業では、タックルやスクラムなどのコンタクトは行いません。ただし、タッチなど簡易ルールによるゲーム（実技）を予定しています。 ボールゲームができる程度の準備（体力・服装）をしておくこと。			
5. 教科書 随時資料を提示します。			
6. 参考書 2023年度ルールブック			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業終了後、全体的な講評、模範例などを紹介する。			
8. 成績評価の方法 平常点（出席状況、授業への貢献度：80%）と、数回行われるミニレポート（20%）により評価します。			
9. その他 ※履修希望者は、第1回目授業に必ず出席すること。			

科目ナンバー：(BA)IND112J			
教養演習 A			辻 昌 宏
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：チェスティとヘンデルのオペラ 〈概要〉 チェスティとヘンデルのオペラについて、ストーリーや楽曲の特色、リブレット（台本）の特徴について考える。オペラ・セリアの特徴を実際の作品に即して考える。 〈到達目標〉 チェスティやヘンデルの生きた時代を理解した上で、代表的オペラについて歌手や演出、楽曲について理解を深める			
2. 授業内容 作品ごとに、文学として、演劇として、音楽として、多面的に作品を解析し理解を深めていく。またジュリオ・チェーザレ（ユリウス・カエサル）に関しては、歴史的・伝記的事実を確認していく。 参加者は、作品について作曲家の伝記的情報、台本および台本作家の伝記的情報、楽曲としての特徴などについて発表してもらう。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第7回 チェスティ『ラ・ドーリ』 第8回～第13回 ヘンデル『ジュリオ・チェーザレ』 第14回 まとめ			
3. 履修上の注意 〈履修上の注意〉 応募者多数の場合は、第一回の授業時に簡単な選抜試験を実施します。 言うまでもないことですが、私語は厳禁です。DVDやBlu-rayを視聴する際には集中して画面を見て、音楽を聴き、歌手の演技や演出に注目して視聴すること。視聴した内容に関してリアクションペーパーに書いてもらうことがあります。 チェスティに関しては、日本語文献・サイトが乏しいので、英語文献・サイトを調べる必要がある場合があります。英語文献・サイトにも積極的に取り組むことが大事です。 質問や意見表明は大歓迎ですので、手をあげて、積極的に質問し、意見を述べましょう。 〈準備学習〉 オペラについて関心を持ち、あらずだけでなく、画面を注意深く観て、どんな台詞や歌詞にどんな音楽がついているかを注意深く聴くこと。また、演出や舞台装置、歌手の演技にも注意を払うこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 当該オペラのストーリーをインターネットや音楽辞典を用いて確認しておくこと。 作曲家、リブレッティスタ（台本家）について、ウィキペディアや音楽辞典で調べておくこと。			
5. 教科書 プリント配布			
6. 参考書 三ヶ尻正著『ヘンデルが駆け抜けた時代』（春秋社） 三澤寿喜著『ヘンデル』（音楽之友社） クリストファー・ホグウッド著『ヘンデル』（東京書籍）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh!Meiji の機能を利用してコメントを付す。			
8. 成績評価の方法 学期末の試験35％、リアクション・ペーパー（複数回）35％、質問や意見表明など積極的な授業態度30％			
9. その他 授業・成績評価の方法などについての詳細な説明は、最初の授業でおこなう。 ※履修希望者は、第1回目授業に必ず出席すること。			

科目ナンバー：(BA)IND112J			
教養演習 A			畑 一 成
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：欧州の諸課題を哲学的に考察する 〈授業の概要〉 EUは5億人弱の人口を抱えながらも、高い教育水準を保ち、様々なイノベーションを生むとともに、世界の政治・経済のルール作りに対して北米に匹敵するほどの影響力を持っている。その欧州のイノベーションやルール作りには、哲学的思考が必須とされている。哲学は、個々の事例の中から「普遍性」を見いだす営みである。その哲学が見いだした普遍性を基にして、欧州は全世界に向けてビジネスや政治・経済の大きな枠組みを作り出している。本授業では、欧州の諸課題を考察しながら、ルール作りを主導する哲学的方法論の獲得を目指す。 〈授業の方法〉 反転授業：履修者はテーマについて予め調査し、それを次回の授業時に発表する。その発表を基に他の履修者と討論する。授業後ミニレポートを提出する。 〈到達目標〉 「哲学する」ことを身につける：問いの立て方（課題発見能力）、対話の技法（論理的表現力）、分析と総合の手法（批判的思考能力）を習得する。			
2. 授業内容 第1回 授業の概要と方法、成績評価の説明 第2回 気候変動の科学 第3回 欧州における環境運動の諸相 第4回 欧州グリーンディール 第5回 2022年ロシアのウクライナ侵略：エネルギー危機 第6回 2022年ロシアのウクライナ侵略：外交の転換 第7回 EU一般データ保護規則（GDPR） 第8回 デジタル市場法（DMA）とデジタルサービス法（DSA） 第9回 EU AI規則案（AI Act） 第10回 COVID-19における倫理的諸問題 第11回 BioNTechによるCOVID-19のワクチン開発 第12回 ジェンダー平等戦略2020-2025 第13回 移民問題：統合と包摂に関するEU行動計画（2021-2027） 第14回 a. 試験 b. 解説と講評			
3. 履修上の注意 反転授業で実施される。履修者自身が調査し、レポートをまとめ、プレゼンテーションをし、ディスカッションをする。履修者は能動的、かつ自律して授業に取り組む必要がある。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表者は次回授業のテーマについて調査し、発表の資料を作成する。授業後、履修者はミニレポートを提出する。			
5. 教科書 特に指定しない。			
6. 参考書 『ハンドブックヨーロッパ外交史』岩間陽子、君塚直隆、細谷雄一（編著者）、ミネルヴァ書房、2022年 『EU ルールメイカーとしての復権』金子寿太郎、日本経済新聞出版、2021年 『EU [第4版]: 欧州統合の現在』鷺江義勝（編著者）、創元社、2020年 『見えない世界を可視化する「哲学地図」―「ポスト真実」時代を読み解く10章』河本英夫、稲垣諭（編著者）、学芸みらい社、2021年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 発表は授業中に講評する。ミニレポートは次回の授業冒頭で講評する。第14回のbモジュールで、試験の正答解説と講評を行う。			
8. 成績評価の方法 期末試験：50％（「到達目標」の記載内容を測る試験を行う） 授業への参加：50％（授業時の発表やグループワーク、ミニレポートの参加度と達成度を測る） ※授業への参加状況や態度によって減点する場合がある。 ※授業を3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)IND112J			
教養演習 A			松野 裕
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：調査・研究の基礎（多様な調査・研究方法の学習） 〈概要〉 ・調査や研究のための知識・情報の収集・分析の方法の学習。 〈到達目標〉 ・調査や研究のための知識・情報の収集・分析の方法の基礎を獲得すること。			
2. 授業内容 第1講 インTRODakション。 第2講 新聞記事通時検索。 第3講 新聞記事四紙比較。 第4講 学術論文検索要約。 第5講 歴史的事実の文献による確認。 第6講 時系列データ分析。 第7講 2 集団の比較。 第8講 クロスセクションデータ。散布図の作成。 第9講 生成AIの活用。 第10講 実験。 第11講 アンケート調査。 第12講 現地調査。 第13講 聞き取り調査。 第14講 まとめ。			
3. 履修上の注意 ・新しいことに挑戦したい、と思っている人向きと思われる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・宿題があるので、丁寧に取り組むことを要する。			
5. 教科書 特になし。			
6. 参考書 特になし。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業で課題を発表する時等にコメントする。			
8. 成績評価の方法 ほぼ100%の出席を単位取得の前提とする。 課題の提出状況の状況90%，その他の活動状況10%，の割合で成績を評価する。			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA)IND112J			
教養演習 A			吉松 梓
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：ネイチャー・ベースド・カウンセリング（自然・他者・自己とのつながりを取り戻す） 〈概要〉 都市化・情報化が進む現代社会において、人と自然とのつながりは減少している。実際に先進国の成人では、1日の95%を屋内で過ごしているというデータもある。このような自然と人との断絶は、不安や肥満など心身の問題の増加と関連していると言われている。一方で自然の中で過ごすことは、うつ症状の軽減や精神的な疲労からの回復など、人の心身の健康やwell-beingに貢献することが明らかにされている。そこで本授業は、自然を感じるプログラム、ロゲイニング、プロジェクト・アドベンチャー、和泉キャンパス自然体験マップづくり、などのキャンパス周辺で実施できる自然体験活動を展開し、自然・他者・自己とのつながりを取り戻すことねらいとする。 〈到達目標〉 1.グループでの活動を通して、自己理解・他者理解を深めることができる。 2.地域の自然の特性を理解し、自然環境に配慮した行動をすることができる。 3.体験から得た学びの意義をふりかえり、言語的・視覚的な情報で伝えることができる。			
2. 授業内容 第1回 INTRODUCTION／描画法 第2回 アイスブレイク／グループづくり 第3回 自然を感じるプログラム1（導入） 第4回 自然を感じるプログラム2（展開） 第5回 自然を感じるプログラム3（発展） 第6回 ロゲイニング1（地図とコンパス） 第7回 ロゲイニング2（地域探索） 第8回 ロゲイニング3（地域発見） 第9回 プロジェクト・アドベンチャー1（コミュニケーション） 第10回 プロジェクト・アドベンチャー2（イニシアティブ） 第11回 和泉キャンパス自然体験マップづくり1（素材集め） 第12回 和泉キャンパス自然体験マップづくり2（制作） 第13回 和泉キャンパス自然体験マップづくり3（発表） 第14回 全体ふりかえり／描画法			
3. 履修上の注意 毎回の授業は、体験的な内容となるため運動に適した服装と靴を準備すること。グループワークを中心に実施するため、主体的・協働的な姿勢で参加すること。 ※履修希望者は第1回目授業に必ず出席すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 日頃から自分の心身の状態に気を配り、身近な自然に気づく視点を持つこと。			
5. 教科書 特定の教科書は使用しない。			
6. 参考書 『野外教育学の探究』土方圭・張本文昭編（杏林書院）2024. 『Outdoor Therapies』Nevin J. Harper and Will W. Dobud（Routledge）2021.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業の冒頭に、ふりかえりシートのコメンをフィードバックする。			
8. 成績評価の方法 授業への貢献度（55%），ふりかえりシート（30%），期末レポート（15%）を総合的に評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)IND112J			
教養演習 A			高 巖
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：『日本航空の破綻と再生』を読む 1. 授業の概要・到達目標 <概要> 高他著の『日本航空の破綻と再生』は本格的な経営図書であるが、企業分析力をつけるための格好の図書でもある。それゆえ、同書を使い、企業組織を見る力をつけていく。 <到達目標> 2010年にJALは破綻し、僅か2年半後の2012年に再上場された。同書では、その破綻と再生の過程を、モノ、カネ、ヒト、経営哲学という観点から詳細に分析している。それゆえ、歴史的な事実に照らし合わせながら、分析手法を学び、さらには、組織はどのように経営資源を配分し、どのような風土（経営哲学）を構築すべきなのかも学ぶ。本演習で目指すところは、履修学生一人ひとりが、企業を分析する力を身につけることである。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 講師による解説 第3回 学生による報告 解説と講義 第4回 学生による報告 解説と講義 第5回 学生による報告 解説と講義 第6回 学生による報告 解説と講義 第7回 学生による報告 解説と講義 第8回 学生による報告 解説と講義 第9回 学生による報告 解説と講義 第10回 学生による報告 解説と講義 第11回 学生による報告 解説と講義 第12回 学生による報告 解説と講義 第13回 学生による報告 解説と講義 第14回 学生による報告 解説と講義			
3. 履修上の注意 企業を分析する力をつけたいと真剣に考えている学生であること			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 担当学生は、該当箇所に関するレジュメを作成し発表を行う。 授業参加者は報告該当箇所を精読しておくこと。			
5. 教科書 高巖他著『日本航空の破綻と再生』ミネルヴァ書房, 3800円（＋税）			
6. 参考書 授業時に指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各学生が行うに発表に対し、授業中にコメントする。			
8. 成績評価の方法 評価は以下の2点を合計して行う。 発表の点数（50点）と出席点（50点）。			
9. その他 履修希望者は、初回オリエンテーションに必ず出席すること。			

科目ナンバー：(BA)IND112J			
教養演習 A			山下佳江
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 *This course will be given in English only. この授業は英語で行われます。テーマは「ディスカッション」です。 This course aims to equip students with discussion skills in English. The discussion topics will be selected from various fields and students will work on one topic every week. The first half of the weeks will be based on more familiar topics: food, movies, vacations, travel, sleeping, and habits. For the second half, students will deal with topics that may need some preparations before the class such as socials and danger. Occasionally, students will be asked to write a reaction report or present their ideas at the end of the class. No exams will be given.			
2. 授業内容 Week 1 Introduction Week 2 Orientation, Food Week 3 Movies Week 4 Vacations Week 5 Travel Week 6 Sleeping (Zzz) Week 7 Habits Week 8 Socials Week 9 Image Week 10 Danger Week 11 Google Week 12 You Week 13 News Week 14 Review			
3. 履修上の注意			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 For some of the topics, students need to prepare before the class. Also, students will occasionally write a short report as homework.			
5. 教科書 Discussions, Volume 2: An AZ resource book of short texts and questions for ESL/EFL courses By Adrian Wallwork with James Lawson. SEFL publishing ISIBM: 9781093490152			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be given through grades or comments, or both.			
8. 成績評価の方法 Attendance and class work 80 Reports 20 *There will be no quizzes or exams.			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)IND112J			
教養演習B			宇野 毅
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 大学入学以前に、日本史や世界史のどちらか、もしくは両方を学んだ筈ではあるが、その内容は必ずしも充分ではないように思われる。受験問題を解くための学習であったからであろう。 本講座では、日・欧・米等の主として20世紀の歴史を俯瞰する。 <History repeats itself.> という諺があるが、歴史は少なくとも100年は遡らなければならないであろう。例えば、パレスチナとガザの戦争に関しては、日本での解説は戦後（1948年；つまりイギリスの委任統治終了時）からが一般的であるが、少なくとも、第一次世界大戦前後までは遡る必要がある。第5次中東戦争にならないことを祈るばかりである。やはり、200～300年は遡らないと、現在に通じる真実が見えてこないこともある。 担当者が意図していることを授業を通して感じ取ってもらいたいものである。			
2. 授業内容 第01回 イントロダクション 映像の世紀（1）20世紀の幕開け 第02回 映像の世紀（2）大量殺戮の完成 第03回 映像の世紀（3）それはマンハッタンから始まった 第04回 映像の世紀（4）ヒトラーの野望 第05回 映像の世紀（5）世界は地獄を見た 第06回 映像の世紀（6）独立の旗の下に 世界は地獄を見た 第07回 映像の世紀（7）勝者の世界分割 第08回 映像の世紀（8）恐怖の中の平和 第09回 映像の世紀（9）ベトナムの衝撃 第10回 映像の世紀（10）民族の悲劇、果てしなく 第11回 映像の世紀（11）J A P A N 第12回 映像の世紀 バタフライエフェクト チャーチルVSヒトラー（予定） 第13回 映像の世紀 バタフライエフェクト 地球破壊 人類百年の罪と罰（予定） 第14回 まとめ 上記予定は、状況によっては変更されることがあり得る。			
3. 履修上の注意 ペーパー試験は行なわないが、何回かのレポート課題がある。締切を厳守して必ず提出のこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回の歴史について、図書館等での学習により、自ら理解を深めることが求められる。			
5. 教科書 教場にて指示する。			
6. 参考書 特になし。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 授業出席（50％）とレポート（50％）を総合的に勘案して評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)IND112J			
教養演習B			薩摩 秀登
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：英語で日本史を読む <概要> 英語による日本史の概説書を読む。どのような地域の歴史もそれぞれ固有の言語世界で展開しており、日本史を日本語以外で語るのは難しい。しかし、異なる言語で捉えてみることで、日本史に固有の概念や事象について、新たなコンテキストで理解し、新たな発見に結びつくこともある。授業では、英文で読むことにより、日本語との意味の違いなどを考えながら、日本史についての理解を深めていく。 この授業では、近世・近代から現代にかけての歴史を対象とする。 <到達目標> 英文の正確な読解力を身につける。 英語で読むことにより、広い視野から日本史を捉える力を身につける。			
2. 授業内容 テキストとしては、主にR.H.P. Mason & J.G. Caiger, A History of Japan、およびJohn Whitney Hall, Japan, From Prehistory to Modern Timesを予定しており、主に近世から現代をとりあげる。 第1回 幕藩体制成立期の政治 第2回 幕藩体制成立期の社会 第3回 近世の政治 第4回 近世の社会 第5回 近世の文化 第6回 幕末・維新期の政治 第7回 幕末・維新期の社会 第8回 明治初期の政治 第9回 明治維新と近代化過程 第10回 明治期の社会 第11回 明治期の文化 第12回 第一次大戦後の政治 第13回 第一次大戦後の社会・文化 第14回 昭和初期 必要に応じて、適宜、小テストを実施する。			
3. 履修上の注意 テーマは日本史であるが、必ずしも日本史の詳しい知識が要求されるわけではない。 歴史に関するスタンダードな英文を読んでみたいと思う人、これまで日本史をあまり勉強してこなかったがここで理解を深めてみたいと思う人、あるいは広く歴史全体に関心のある人なども歓迎する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストをしっかり予習し、いつでも訳せるようにしておくこと。背景となることがらについても、調べてくれることが望ましい。			
5. 教科書 教科書は使用しない。			
6. 参考書 宮地正人編『日本史』山川出版社、2008年 五味文彦、島海靖編『もういちど読む山川日本史』山川出版社、2009年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 通常の授業において行う。			
8. 成績評価の方法 平常点（授業に対する態度）100％ 小テストを実施した場合は、30％を小テストにあてる。			
9. その他 ※履修希望者は、春学期「教養演習A」の第1回目授業に必ず出席すること。			

科目ナンバー：(BA)IND112J			
教養演習B			辻 昌 宏
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：バロック・オペラ 《授業の概要》 A.スカルラッチェ、ペルゴレージ、その他の作曲家のオペラをDVDを用いて観ながら、バロック・オペラの特徴について各自が調べ発表する。 《到達目標》 バロック時代のオペラの概要を知り、オペラという音楽劇の慣習、約束事を理解し、作品や上演を味わう際の勘所を知る。			
2. 授業内容 第1回 バロック・オペラについて 第2回 スカルラッチェ1 第3回 スカルラッチェ2 第4回 スカルラッチェ3 第5回 スカルラッチェ4 第6回 スカルラッチェ5 第7回 ペルゴレージ1 第8回 ペルゴレージ2 第9回 ペルゴレージ3 第10回 ペルゴレージ4 第11回 ペルゴレージ5 第12回 ペルゴレージ6 第13回 ヴィヴァルディその他のバロック・オペラ 第14回 まとめ 上記の予定が、進度の関係で多少変更になることもある。			
3. 履修上の注意 授業中にDVDをかける時間には、音楽、演出、歌詞に最大限の注意を払って観ること。 履修希望者は4月の水曜日1時限第一回の授業に必ず出席してください。 応募者多数の場合は、4月の水曜日1時限第一回の授業時に簡単な選抜試験を実施します。 発表に際しては、必ず書籍や信頼できるサイトを参照すること。ブログやAIを補助的に利用することは差し支えないが、その記述に含まれる固有名詞その他の誤りがないかのチェックは発表者の自己責任であり、二重、三重にチェックすること。 A. スカルラッチェやペルゴレージに関する日本語文献・サイトは乏しいので、発表などで英語文献・サイトに取り組む必要がある場合が少なくない。必要な情報を入手するために、英語文献・サイトを利用することは大事なことです。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 バロック・オペラおよびオペラ・セリアについて、書籍、音楽辞典やインターネットを通じて各自調べること。インターネットでは、日本語のサイトだけでなく、英語のサイトも積極的に活用すること。英語のサイトを指定して読んでもらうことがあります。インターネットのみに頼らず、積極的に図書館を利用し、書籍を参照すること。			
5. 教科書 プリント配布。			
6. 参考書 カーティス・プライス『西洋の音楽と社会（3）』（音楽之友社） ジョージ・J・ビューロー『西洋の音楽と社会（4）』（音楽之友社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh!Meijiの機能を利用して、コメントを付す。			
8. 成績評価の方法 授業での発表30%、リアクションペーパー40%、学期末試験30%割。 発表に関しては、必ず書籍を参照し、補助的にインターネットを参照すること。			
9. その他 ※履修希望者は、第1回目授業に必ず出席すること。			

科目ナンバー：(BA)IND112J			
教養演習B			真 継 左 和 子
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：アカデミックリスニングとノートテイキング 《概要》 In this class, students will view authentic lectures using digital materials, take notes on the lecture content, and use their notes for discussion and other activities. The topics from the textbook are arranged into units that match up with core academic content areas such as sociology, linguistics, business, psychology, public health and so forth. Simultaneously, students will review and improve presentation skills, leading to a formal presentation as the final evaluation. 《到達目標》 The purpose of this class is to develop students' academic language skills in the following areas: listening, note-taking, discussion, and presentation skills. Students explore a variety of topics derived from academic lecture content, building their note-taking and academic discussion skills, and later review how to construct and give a formal presentation.			
2. 授業内容 第1回：Introduction to the course 第2回：Unit 1 Sociology: Names 第3回：Unit 1 & quiz 第4回：Unit 2 Linguistics: Global English 第5回：Unit 2 & quiz 第6回：Unit 4 Business: Success in the global economy/mini-presentation 1 第7回：Unit 4 & quiz 第8回：Unit 7 Social psychology: Sports fans 第9回：Unit 7 & quiz 第10回：Unit 9 Public health: Global epidemic/mini-presentation 2 第11回：Unit 9 & quiz 第12回：Unit 10 Urban planning: 21st century cities 第13回：Unit 10 & quiz/(mini-presentation 3) 第14回：Final presentations			
3. 履修上の注意 Active participation is required. Train delay slips (遅延証明) indicating a delay of only a few minutes will not be accepted. Missing 4 or more classes will automatically result in a failure of the course (except for reasons of family emergency and infections such as covid-19/flu). Tardy (遅刻) : up to 30 minutes, 3 tardies=1 absence. If you wish to take this class, you MUST come to the first lesson.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 For each unit, we will have discussions related to the topic. Therefore, it is essential that you learn about the topics and develop your own opinions.			
5. 教科書 『Contemporary Topics 2: Academic listening and note-taking skills. (4th ed.)』by Ellen Kisslinger & Michael Rost. (Pearson Longman) You must buy a new textbook above. Used textbooks/photocopying are not allowed in this class.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be given for each in-class presentation. Students will receive part scores as well as written comments.			
8. 成績評価の方法 Class participation (30%) Quizzes, homework, and mini-presentations (40%) Final Presentation (30%)			
9. その他 The class will be conducted mainly in English. Students who wish to study overseas have been taking this class to prepare themselves to study in a foreign country. Having a TOEIC score of at least 550 is probably necessary to take this class.			

科目ナンバー：(BA)IND112J			
教養演習B			松野 裕
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：調査・研究の基礎の活用（多様な調査・研究方法を用いた論文の作成） 〈概要〉 ・特定のテーマを決め、各種の知識・情報の収集・分析方法を用いて調査・研究を行う。 〈到達目標〉 ・特定のテーマについて短い論文を作成する。			
2. 授業内容 第1講 イン트로ダクション 第2～13講 各自が研究テーマを決め、各種文献（新聞、雑誌、書籍等）の検索や読解、時系列データの分析、クロスセクションデータの分析、アンケート調査、現地調査、聞き取り調査、などの方法を用いて、調査・研究を行ない、短い論文にまとめる。 第14講 まとめ			
3. 履修上の注意 ・教養演習Aとあわせて履修することが望ましい。（ただし、必須ではなく、調査・研究の方法論についての指導は適宜行われる。） ・調査・研究というものをやってみよう、と思っている人向きである。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・実際に自らが興味をもつテーマについて授業外で調べたり、考えたり、書いたり、することが求められる。			
5. 教科書 特になし。			
6. 参考書 特になし。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業で課題を発表する時等にコメントする。			
8. 成績評価の方法 ほぼ100%の出席を単位取得の前提とする。 課題の提出状況の状況90%，その他の活動状況10%，の割合で成績を評価する。			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA)IND112J			
教養演習B			高 巖
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：『AIビジネスの基礎と倫理的課題』を読む 1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 高・清水著の『AIビジネスの基礎と倫理的課題』を使い、AIに関する基本的な事項を学ぶとともに、その実装に関わるビジネス上の問題も理解する。これらと併せ、巨大デジタルプラットフォーマーが抱える倫理的課題を整理し、新たなビジネス上のニッチを探る。 〈到達目標〉 ビジネスの現場において利用されるAIツールとはどのようなものか、どのような目的で導入するのか、また組織に導入するにあたり注意すべき点は何かなど、経営学を学ぶものが知っておくべき基本を学ぶ。			
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2回 講師による解説 第3回 講師による解説 第4回 学生による報告 解説と講義 第5回 学生による報告 解説と講義 第6回 学生による報告 解説と講義 第7回 学生による報告 解説と講義 第8回 学生による報告 解説と講義 第9回 学生による報告 解説と講義 第10回 学生による報告 解説と講義 第11回 学生による報告 解説と講義 第12回 学生による報告 解説と講義 第13回 学生による報告 解説と講義 第14回 学生による報告 解説と講義			
3. 履修上の注意 AIツールやAIビジネスについて強い関心を持っていること			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 担当学生は、該当箇所に関するレジュメを作成し発表を行う。 授業参加者は報告該当箇所を精読しておくこと。			
5. 教科書 高 巖・清水千弘著の『AIビジネスの基礎と倫理的課題』モラルジョー道徳教育財団、2022年、2530円（税込）			
6. 参考書 授業時に指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各学生が行うに発表に対し、授業中にコメントする			
8. 成績評価の方法 評価は以下の2点を合計して行う。 発表の点数（50点）と出席点（50点）。			
9. その他 履修希望者は、初回オリエンテーションに必ず出席すること			

科目ナンバー：(BA)IND112E			
Liberal Arts Seminar in Foreign Languages A 統一			
KIERNAN, PATRICK・DUPLICE, JOHN・MOREAU, ROBERT・BERNINGER, GEROGE			
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course Summary This course aims to provide students with guidance on how to develop effective study habits and to effectively approach study at university. It includes time management skills and strategies and techniques needed to accomplish core academic tasks. The style of the class will also help to prepare students for English discussion-based classes as it will be taught in English and include pair-work, group work and informal feedback presentations. Students will also write a CV (Curriculum Vitae) and a personal statement which will become the basis for their first-year portfolio in the fall. In addition, students will have practice in notetaking and in listening to academic English. Toward the end of the semester, there will be a separate English lecture given by a guest speaker. Students will attend, take notes, and write up a summary and response. During Week 13 students will give a presentation to the class. There will be mid-term and final tests. Objectives By the end of this course students should be able to: (1) communicate effectively with a partner or in group discussion (2) give an in-class individual presentation on a prepared topic (3) write a CV and personal statement in English (4) understand effective strategies and be able to manage study at university effectively (5) be able to put study strategies into practice			
2. 授業内容 Week1 Introduction, Part A Self-efficacy: Managing your Success as a Student, Chapter 1 Success as a student: Take charge of your success Week2 Chapter 1 Success as a student Week3 Chapter 2 Gaining the most from your course: Engage, Enjoy, Excel Week4 Chapter 2 Gaining the most from your course: Engage, Enjoy, Excel Week5 Chapter 3 Employability and preparing for your future Week6 Chapter 3 Employability and preparing for your future Week7 Chapter 4 Successful study: Intelligence, strategy and personalized learning Week8 Mid-term listening test, Chapter 4 Successful study: Intelligence, strategy and personalized learning Week9 Chapter 5 The CREAM strategy for learning Week10 Chapter 5 The CREAM strategy for learning Week11 Chapter 6 Time management as a student Week12 Chapter 6 Time management as a student, Chapter 7 Managing stress and well-being Week13 Individual presentation Week14 a. Review b. Final Test			
3. 履修上の注意 This is a required course for GREAT (Global Resources English Applied Track) students. (GREAT1年次必修科目です。GREAT対象者以外の学生は履修できません。)			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 A copy of the textbook should be purchased from the university bookstore and brought to every class. Students should prepare for all classes by reviewing the content of the previous class and previewing the material in the next part of the textbook. Any supplementary materials provided during class or through Oh-o! Meiji should also be previewed and reviewed to maximize learning. In addition, specific preparation or review tasks will be announced during class and/or on Oh-o! Meiji.			
5. 教科書 The Study Skills Handbook, 5th Edition, by Stella Cottrell, Macmillan Study Skills			
6. 参考書 Reference to other recommended study materials or sources will be given during class and/or posted on Oh-o! Meiji. You should keep a file of digital and/or paper copies of all materials.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 The specific method of feedback may vary according to the teacher and assignment but will generally be either in class or through Oh-o! Meiji. All written assignments will receive written feedback. For presentations, students will submit the visuals and teachers will provide written comments to each student.			
8. 成績評価の方法 Class participation: 30% CV and personal statement: 15% MSBA Lecture summary/response: 10% MT Test 5% Presentation 15% Final Test: 25% S=90-100%; A=80-89%; B=70-79%; C=60-69% F= less than 60% T= absent from course			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)IND112E			
Liberal Arts Seminar in Foreign Languages B 統一			
KIERNAN, PATRICK・DUPLICE, JOHN・MOREAU, ROBERT・BERNINGER, GEROGE			
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course Summary This course aims to provide students with guidance on how to develop effective study habits and to effectively approach study at university. It includes time management skills and strategies and techniques needed to accomplish core academic tasks. The style of the class will also help to prepare students for English discussion-based classes as it will be taught in English and include pair-work, group work and informal feedback presentations. At the beginning of the semester, there will be a listening test. Students will create a portfolio that includes an updated CV, a personal statement, and future prospects. In addition, students will have practice in notetaking and in listening to academic English. Toward the end of the semester, there will be a separate English lecture given by a guest speaker. Students will attend, take notes, and write up a summary and response. During Week 13 students will give a presentation to the class. There will be mid-term and final tests. Objectives By the end of this course students should be able to: (1) manage and communicate effectively in group discussions (2) work effectively with a group (3) present with confidence either individually or as part of a group (4) prepare a professional style portfolio (at a student level) (5) understand the principles of cultural competence and ability to put them into practice (6) take and make effective notes (7) understand and be able to apply critical thinking skills			
2. 授業内容 Week1 Introduction Chapter 7 Managing Stress and well-being Week2 After-summer listening test, Chapter 7 managing Stress and well-being Week3 Chapter 8 Working with others: Collaborative study Week4 Chapter 8 Working with others: Collaborative study Week5 Chapter 9 Developing cultural competence: Learning in diverse and international contexts Week6 Chapter 9 Developing cultural competence: Learning in diverse and international contexts Week7 Chapter 10 Effective reading and note-making Week8 Mid-term test, Chapter 10 Effective reading and note-making Week9 Chapter 10 Effective reading and note-making, Chapter 11 Researching and managing information for study Week10 Chapter 11 Researching and managing information for study Week11 Chapter 12 Critical thinking Week12 Chapter 12 Critical thinking Week13 Group presentation Week14 a. Review b. Final Test			
3. 履修上の注意 This is a required course for GREAT (Global Resources English Applied Track) students. (GREAT1年次必修科目です。GREAT対象者以外の学生は履修できません。)			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 A copy of the textbook should be purchased from the university bookstore and brought to every class. Students should prepare for all classes by reviewing the content of the previous class and previewing the material in the next part of the textbook. Any supplementary materials provided during class or through Oh-o! Meiji should also be previewed and reviewed to maximize learning. In addition, specific preparation or review tasks will be announced during class and/or on Oh-o! Meiji.			
5. 教科書 The Study Skills Handbook, 5th edition, by Stella Cottrell, Macmillan Study Skills			
6. 参考書 Reference to other recommended study materials or sources will be given during class and/or posted on Oh-o! Meiji. You should keep a file of digital and/or paper copies of all materials.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 The specific method of feedback may vary according to the teacher and assignment but will generally be either in class or through Oh-o! Meiji. All written assignments will receive written feedback. For presentations, students will submit the visuals and teachers will provide written comments to each student.			
8. 成績評価の方法 Attendance & Class participation: 30% MSBA English lecture summary & response: 10% 1st year-Portfolio: 15% Group presentation: 15% Mid-term test (incl. listening test): 10% Final test (incl. listening test): 20% S=90-100%; A=80-89%; B=70-79%; C=60-69% F= less than 60% T= absent from course			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)IND112E			
Liberal Arts Seminar in Foreign Languages C			枝 村 祥 平
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 THEME: What's The Good Thing To Do? This course aims to provide students with opportunities to discuss specific cases from real or fiction stories and form their own views based on their values. It includes presentations by students to introduce stories they want others to consider and evaluate. These stories may be taken from their own experiences, but they can also be picked from novels, cartoons, movies, animations, and others. Original fiction stories are welcome. Students will also write reaction papers after sessions.			
2. 授業内容 Week 1 Introduction to the Course Week 2 Personal Stories with Relatives and Friends I Week 3 Personal Stories with Relatives and Friends II Week 4 Personal Stories with Relatives and Friends III Week 5 Personal Stories within Communities I Week 6 Personal Stories within Communities II Week 7 Personal Stories within Communities III Week 8 Stories of the Current Politics I Week 9 Stories of the Current Politics II Week10 Stories of the Current Politics III Week11 Stories of Historical Figures I Week12 Stories of Historical Figures II Week13 Stories of Historical Figures III Week14 Review			
3. 履修上の注意 All classes will be conducted in English and will be highly interactive. Students are expected to be prepared to discuss their beliefs and feelings about sensitive topics with others in the class. Reading, writing, and speaking in English inside and outside the classroom are highly recommended.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students will be asked to pre-read the materials that the presenters provided in Oh-o! Meiji.			
5. 教科書 Resources will be provided as pdf files in Oh-o! Meiji.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback for reaction papers will be provided in sessions.			
8. 成績評価の方法 Attendance & Class participation 42 Reaction Paper 28 Individual Presentation 30 100			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)IND112E			
Liberal Arts Seminar in Foreign Languages D			枝 村 祥 平
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 THEME: Introduction to Philosophy This course aims to provide students with opportunities to read and discuss philosophical texts. It includes presentations by students to explain and interpret the contents of philosophical texts. Students will choose philosophical materials that they would like to read, and we are going to cover them in Week 12 and 14. Students will also write reaction papers after sessions.			
2. 授業内容 Week 1 Introduction to the Course Week 2 Apology and Crito (Plato) Week 3 Republic I (Plato) Week 4 Republic II (Plato) Week 5 Nicomachean Ethics I (Aristotle) Week 6 Nicomachean Ethics II (Aristotle) Week 7 Discourse on the Method (Descartes) Week 8 Meditations (Descartes) Week 9 Thus Spoke Zarathustra (Nietzsche) Week10 Anarchy, State, and Utopia (Nozick) Week11 Mind: A Brief Introduction (Searle) Week12 Selected Text I Week13 Selected Text II Week14 Review			
3. 履修上の注意 All classes will be conducted in English and will be highly interactive. Students are expected to be prepared to discuss their beliefs and feelings about sensitive topics with others in the class. Reading, writing, and speaking in English inside and outside the classroom are highly recommended.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students will be asked to pre-read the assigned texts and the materials that the presenters provided in Oh-o! Meiji.			
5. 教科書 Resources will be provided as pdf files in Oh-o! Meiji.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback for reaction papers will be provided in sessions.			
8. 成績評価の方法 Attendance & Class participation 42 Reaction Paper 28 Individual Presentation 30 100			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)IND112E			
Liberal Arts Seminar in Foreign Languages C			永井 裕久
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course is designed for students in the GREAT program. With future career planning in mind, students will learn the subject in English about strategic learning methods that foster self-understanding. Active learning—"Learning by Doing"—is at the core of this class, so students are expected to proactively engage in discussions, group work, and projects conducted in English			
2. 授業内容 1. How to approach this course in preparation for becoming a future global leader 2. Self-Esteem: Identify your unique talents and values to effectively achieve personal goals 3. Self-Improvement (vision, resources, channels) 4. Explore careers that align with your personality (MBTI) 5. Apply critical thinking skills to creatively solve problems 6. Communication strategies to convey your message effectively 7. Conflict management for productive problem-solving 8. Interim feedback session 9. Working with others 10. Meeting essentials 11. Study your role model 12. Design your own "Company ME" 13. Presentation of "Company ME" 14. Conclusion and future visions			
3. 履修上の注意 Students must use spoken and written English throughout the course. A TOEFL iBT score of at least 60 is recommended for successful completion.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Reading and other assignments will be announced in class. Assignments should be submitted to the designated sections on Oh-o! Meiji.			
5. 教科書 No textbook is required. Lecture materials will be uploaded on Oh-o! Meiji or distributed in class.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 The first half of the course progress will be reviewed during the feedback session in Week 8. Feedback on other activities and exercises will be handed out or posted via Oh-o! Meiji.			
8. 成績評価の方法 Active participation in class discussions and activities: 80% Presentation of company "ME": 20%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)IND112E			
Liberal Arts Seminar in Foreign Languages D			永井 裕久
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Global SDGs Challenges This course is designed for students to acquire fundamental knowledge about SDGs activities for future global sustainability leaders. It composed of a. understanding the basics of SDGs and b. learning techniques of researching, analyzing, and presentations on the group project Rather than lecture-style, the course is centered around activities such as exercises and group work, making active participation and engagement essential. Objectives of the Course • Understand own characteristics and aptitudes toward sustainable management. • Develop competence in collecting, analyzing, and presenting information. • Acquire communication and team building skills to deal with SDGs challenges.			
2. 授業内容 1. Orientation and Icebreaking 2. The concept of SDGs and its purpose. 3. SDGs and YOU: Reflecting on personal connections to SDGs 4. Searching for MU's SDG resources on campus. 5. Presenting the result of research findings. 6. Framework of the Triple Bottom Line 7. Competency in Sustainable Management 8. Sustainability Management in Japan 9. Sustainability Management in the US 10. Sustainability Management in the UK 11. Sustainability Management in Global Companies 12. Lego Serious Play 1: Skill Building & SDGs Activities 13. Lego Serious Play 2: 3 factors and 3 connectors in global company 14. Final Presentation			
3. 履修上の注意 Students must use spoken and written English throughout the course. A TOEFL iBT score of at least 60 is recommended for successful completion.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Reading and other assignments will be announced in class. Assignments should be submitted to the designated sections on Oh-o! Meiji.			
5. 教科書 No textbook is required. Lecture materials will be uploaded on Oh-o! Meiji or distributed in class.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback on other activities and exercises will be handed out or posted via Oh-o! Meiji.			
8. 成績評価の方法 Active participation in class discussions and activities: 80% Final presentation: 20%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)IND111J			
日本事情			森 永 由 紀
	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 本授業では留学生を対象に、日本事情を自然環境や公害問題の面から講義する。 あわせて受講生は、自国の自然や環境問題について日本と比較しながら紹介する。 到達目標は、日本の自然を理解すると共に日本の自然の楽しみ方を知り、かつ自然災害や環境問題から身を守る方法を学ぶ。また、日本の公害経験を学び、自国でそれらを役立てる方法を模索する。			
2. 授業内容 第1回 1. はじめに 1) なぜ日本の自然や公害経験を学ぶのか 第2回 2. 日本の自然の特徴 第3回 1) 地震 第4回 2) 「3.11」 第5回 3) 原発事故 第6回 4) 水害・雪害 第7回 5) 火山噴火 第8回 3. 防災対策 1) ハザードマップと日常の備え 第9回 2) 「釜石の奇跡」 第10回 4. 日本の公害 1) アスベスト 第11回 2) 足尾鉍毒事件 第12回 3) 水俣病 第13回 5. 日本の自然と文化（和食と日本の自然など） 第14回 6. まとめ			
3. 履修上の注意 留学生が対象である。 授業内容はあくまでも予定であり、進捗状況などによって変更になることがある。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 なし			
5. 教科書 適宜紹介する。			
6. 参考書 毎回の出欠および授業への参加度（30%）、課題やレポート（70%）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義が1～2回、対面ではなくオンデマンドになる可能性がある。その場合は事前にアナウンスをする。			
8. 成績評価の方法			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)IND111J			
日本事情			兼 子 歩
	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 この授業は、留学生およびこれから留学を希望している学生（こちらは政治経済学部に限る）を対象としています。日本の歴史や文化から政治や経済にいたるまで、日本に関するさまざまなテーマについて、政治経済学部ならではの多彩な講師陣によって展開されます。留学生にとっては、日本に関する多様な知識を得る機会となるとともに、海外留学を希望する一般の学生にとっても、留学先で日本を紹介するために有用な知識の獲得につながることでしょう。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション（兼子 歩） 第2回 高校国語教科書の「定番」・「小説の神様」志賀直哉『城の崎にて』を読む（富澤成寛） 第3回 日本の伝統遊戯を学ぶ（後藤光将） 第4回 日本のゲーム業界について（ヨーク、ジェームズ） 第5回 日本語の丁寧表現に対する社会言語学的な視点（ジョージ、ジョニー E） 第6回 世界における日本の世論と選挙（加藤言人） 第7回 日本の政治制度―衆院総選挙のしくみを中心に―（西川伸一） 第8回 日本の外交（川嶋周一） 第9回 日本のジャーナリズム、マス・メディア（水野剛也） 第10回 日本の財政（倉地真太郎） 第11回 日本の農村（藤本横彦） 第12回 日本の人口と家族（中島満大） 第13回 日本の老舗と地域産業（奥山雅之） 第14回 日本の中小企業の経営特質（森下 正）			
3. 履修上の注意 定員は100名で、上記のように留学生と留学を希望する学生のための授業なので、次のような履修条件が設定されています。留学生は、春学期に履修登録を行う場合、優先的に登録されます。一般の学生は秋学期の抽選期間にエントリーを行うことができます。ただし「留学を希望する学生」を対象としているため、一般の学生は、短期留学派遣最低基準のTOEICスコア550点以上を取得している必要があります。なお、留学生でも、秋学期に登録を行う場合には、一般の学生と同様の期間と条件になりますので注意してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予めOh-o! Meijiを通じて予習課題が指定された場合は、必ず予習を行ってください。また回によっては意見の発表や、グループワークが課される場合もあるので、そのような場合には積極的に参加するように心がけてください。復習課題が課される場合も同様に、丹念に復習を行い、提出課題がある場合には必ず期限内に提出するようにしてください。			
5. 教科書 特になし。			
6. 参考書 授業中に適宜紹介の予定。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題等の講評をOh-o! Meiji等で行う。			
8. 成績評価の方法 各授業後に課題が課せられます。授業中にリアクションペーパーを記入し授業終了時に提出する場合や指定期限までにOh-o! Meijiシステム等で提出する場合があります。各回のリアクションペーパーが担当教員によって採点され、最終的に集計された結果が期末評価となります。			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA)IND111J			
日本事情			倉石 信乃
	1 年次	春学期	生田キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 本授業では、現代日本人の意識や思考とどこかでつながりを持つ、「伝統」について考える。そのための素材として、また日本について知るための基礎的な教養として身に付けておくべき無形文化財をまず概観する。具体的には、能・歌舞伎・文楽といった舞台芸術・エンターテインメントである。各芸能の形式に共通する演劇の要素となるものをまず確認する。 その上で、実写映画、アニメ映画、実写とアニメ両方を含むテレビドラマへと展開した「時代劇」を授業の中で鑑賞し、それぞれの感想をクラス内で発表することとする。 感想ノートに4回程度提出してもらい、最終日にまとめの感想を提出する。 受講生のひとりひとりが日本の伝統文化の基礎的な知識を身に付けることが、本授業の到達目標となる。			
2. 授業内容 [第1回] イントロダクション [第2・3回] 能と狂言 [第4・5回] 文楽 [第6・7回] 歌舞伎 [第8～10回] 時代劇（アニメ） [第10～13回] 時代劇（実写） [第14回] まとめ：全体のふりかえり			
3. 履修上の注意 本授業で扱う映像資料の日本語は、現代日本ではあまり使われていないものがあり、通常の日本人にとってもいわば「翻訳」が必要なものである。しかし視覚的にはそれぞれがエンターテインメントとして本来創作された劇なので、文字解説などを手がかりにしながら、楽しんで見てもらうことが何より大事である。積極的な授業参加を心掛けてほしい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本授業では事前に文字資料を読んで、鑑賞する曲・演目の内容を把握しておくこと。			
5. 教科書 特に指定しません。			
6. 参考書 授業内で紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出を求める感想ノートの余白に、質問事項などを記すこと。感想ノートは返却しないので、必ずコピーをとっておくこと。質問等についての回答はOh-o! Meijiにアップするか、次の授業内で行う。			
8. 成績評価の方法 授業参加の態度・感想ノート（4回程度）80%、まとめの感想ノート20%、合計100%を満点とする。 注意事項：「感想ノート」の作成に際し、生成AI（ChatGPT、Bingチャット等）を利用を禁じる。 また、WEB等にある文献から引用・参照を行う場合は、引用・参照部分を明示し、自身の「感想」に係わる記述と分けて記述すること。拙くとも、自分自身の見解を書くことが求められているのであり、そちらの方を積極的に評価する。また文章の「量」も多ければそれだけ、高評価となりうる。 以上			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)IND111J			
日本事情			加原 奈穂子
	1 年次	秋学期	生田キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 この講義では、日本を知るうえで重要であるとともに、留学生の皆さんにとって比較的身近な言語やコミュニケーション、ジェンダーなどの話題を取り上げます。 まず、日本語の方言の多様性や方言をめぐる社会状況、外来語、先住民族の言語などを見ていくことを通して、単一文化の国として扱われがちな日本の多様性に目を向けていきます。次に、コミュニケーションにおける非言語的要素の働きやコミュニケーションにおける文化差の問題を扱います。最後に、ジェンダーの視点を切り口として、教育、労働、結婚、家族といった身近な話題から日本の社会について考えていきます。			
2. 授業内容 [第1回] 言語の多様性と危機言語 [第2回] 言語と方言 [第3～4回] 沖縄のことばと文化 [第5～6回] アイヌ民族とアイヌ語 [第7回] 言語の変化と外来語 [第8回] 言語と社会 [第9～10回] コミュニケーションと文化 [第11回] ジェンダーと労働 [第12～13回] 結婚と家族をめぐる [第14回] 期末試験			
3. 履修上の注意			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で配布する資料を読むとともに、関連する文献などをご自身で積極的に調べてみてください。不明な点などがあれば、ぜひ授業の際に質問をしてください。			
5. 教科書 幅広い領域にわたる話題を扱うため、特定の教科書は使用いたしません。各回、授業のレジュメを配布いたします。			
6. 参考書 各回、関連の参考文献を紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各回、授業中にフィードバックを行います。			
8. 成績評価の方法 平常点（講義への出席と授業態度、毎回の授業で提出するコメントシートの考察など）60%と期末試験40%。 ＊単位取得には授業回数の3分の2以上出席し、且つ期末試験の成績を総合して合格と判断されることが必要です。			
9. その他 講義の進め方は受講生の関心に応じて多少変更することがあります。			

科目ナンバー：(BA)MAN191J			
経営総合講義A 【フューチャースキル講座】			高木 俊雄
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> (1) 主体性を身につける, (2) 社会に興味を持つ, (3) 社会で求められる力を理解する。この授業は, 以上の3点を目的として, 企業の方々と経営学部教員によって行なわれます。授業で扱う課題は, 協力企業(2社を予定)の現場で取り組まれている実際の課題です。みなさんは「リアルな企業事例」と格闘することを通して, 社会で求められている能力と, 自分の現在の力とのギャップを理解できるはずです。 なお, この授業は, グループワークを基本としています。これは大学や企業において, さまざまな課題に取り組む基本的なスタイルです。グループワークを通して, コミュニケーション能力を培って下さい。 <到達目標> (1) 主体性を身につける, (2) 社会に興味を持つ, (3) 社会で求められる力を理解する。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション(講座の目的)とマインドセット 第2回 将来企業で働くことをFuture Skillsとして意識した大学生としての学び方 (学生時代に身に付けたい考え方, グループワークとグループ分け) 第3回 企業テーマへの取り組み方 (目的の確認, 計画化, 研究成果の整理, プレゼン) 第4回 テーマA (No.1) 企業Aのゲストスピーカーからのヒアリング 第5回 テーマA (No.2) グループワーク(研究テーマの設定) 第6回 テーマA (No.3) 企業Aのゲストスピーカーとのディスカッション 研究成果の中間発表とゲストスピーカーとのディスカッション 第7回 テーマA (No.4) グループワーク(研究成果発表準備) 第8回 テーマA (No.5) 研究成果の発表と企業Aのゲストスピーカーからの講評 テーマAの発表を踏まえて, テーマBに向けてのリセット 第10回 テーマB (No.1) 企業Bのゲストスピーカーからのヒアリング 第11回 テーマB (No.2) グループワーク(研究テーマの設定) 第12回 テーマB (No.3) 企業Bのゲストスピーカーとのディスカッション 研究成果の中間発表とゲストスピーカーとのディスカッション 第13回 テーマB (No.4) グループワーク(研究成果発表準備) 第14回 テーマB (No.5) 研究成果の発表と企業Bのゲストスピーカーからの講評			
3. 履修上の注意 連続性のあるテーマをグループで扱うので, 前回までの授業の理解が不可欠です。 問題意識を持って, 積極的に授業に参加し, 不明確な点は授業中にしっかり確認すると共に, 十分な復習や事前準備を心がけることが重要です。			
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 個人ごと, ならびに, グループワークのグループごとに, 復習と事前準備をマネジメントしてもらいます。			
5. 教科書 毎回講義資料を配布します。教科書は特に指定しません。 指定のテキストを初回授業時に頒布するほか, 随時講義資料を配布します。			
6. 参考書 必要に応じて指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 実践形式の授業であることから, 日々の授業への取り組みを重視し, 授業内でのディスカッション等での成果やレポートをもとに評価します。授業への取り組み・参加40点, 報告内容30点, レポート30点。			
9. その他 この科目は内容により1年次のみ履修を認めます。 この講義の定員は1クラス36名とします。授業では, 6人×6グループを編成して進行します。 履修方法等については, 新入生ガイダンス期間に行う「経営総合講義A(フューチャースキル講座)」の説明会でwebでの履修登録方法について説明します。応募者多数の場合, 抽選となります。			

科目ナンバー：(BA)MAN191J			
経営総合講義A 【フューチャースキル講座】			高木 俊雄
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> (1) 主体性を身につける, (2) 社会に興味を持つ, (3) 社会で求められる力を理解する。この授業は, 以上の3点を目的として, 企業の方々と経営学部教員によって行なわれます。授業で扱う課題は, 協力企業(2社を予定)の現場で取り組まれている実際の課題です。みなさんは「リアルな企業事例」と格闘することを通して, 社会で求められている能力と, 自分の現在の力とのギャップを理解できるはずです。 なお, この授業は, グループワークを基本としています。これは大学や企業において, さまざまな課題に取り組む基本的なスタイルです。グループワークを通して, コミュニケーション能力を培って下さい。 <到達目標> (1) 主体性を身につける, (2) 社会に興味を持つ, (3) 社会で求められる力を理解する。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション(講座の目的)とマインドセット 第2回 将来企業で働くことをFuture Skillsとして意識した大学生としての学び方 (学生時代に身に付けたい考え方, グループワークとグループ分け) 第3回 企業テーマへの取り組み方 (目的の確認, 計画化, 研究成果の整理, プレゼン) 第4回 テーマA (No.1) 企業Aのゲストスピーカーからのヒアリング 第5回 テーマA (No.2) グループワーク(研究テーマの設定) 第6回 テーマA (No.3) 企業Aのゲストスピーカーとのディスカッション 研究成果の中間発表とゲストスピーカーとのディスカッション 第7回 テーマA (No.4) グループワーク(研究成果発表準備) 第8回 テーマA (No.5) 研究成果の発表と企業Aのゲストスピーカーからの講評 テーマAの発表を踏まえて, テーマBに向けてのリセット 第10回 テーマB (No.1) 企業Bのゲストスピーカーからのヒアリング 第11回 テーマB (No.2) グループワーク(研究テーマの設定) 第12回 テーマB (No.3) 企業Bのゲストスピーカーとのディスカッション 研究成果の中間発表とゲストスピーカーとのディスカッション 第13回 テーマB (No.4) グループワーク(研究成果発表準備) 第14回 テーマB (No.5) 研究成果の発表と企業Bのゲストスピーカーからの講評			
3. 履修上の注意 連続性のあるテーマをグループで扱うので, 前回までの授業の理解が不可欠です。 問題意識を持って, 積極的に授業に参加し, 不明確な点は授業中にしっかり確認すると共に, 十分な復習や事前準備を心がけることが重要です。			
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 個人ごと, ならびに, グループワークのグループごとに, 復習と事前準備をマネジメントしてもらいます。			
5. 教科書 毎回講義資料を配布します。教科書は特に指定しません。 指定のテキストを初回授業時に頒布するほか, 随時講義資料を配布します。			
6. 参考書 必要に応じて指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 実践形式の授業であることから, 日々の授業への取り組みを重視し, 授業内でのディスカッション等での成果やレポートをもとに評価します。授業への取り組み・参加40点, 報告内容30点, レポート30点。			
9. その他 この科目は内容により1年次のみ履修を認めます。 この講義の定員は1クラス36名とします。授業では, 6人×6グループを編成して進行します。 履修方法等については, 新入生ガイダンス期間に行う「経営総合講義A(フューチャースキル講座)」の説明会でwebでの履修登録方法について説明します。			

科目ナンバー：(BA)MAN191J			
経営総合講義A 【フューチャースキル講座】			鈴村美代子
2単位	1年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 (1) 主体性を身につける、(2) 社会に興味を持ち、社会を知る、(3) 現状の力を認識し、社会で求められる力を理解し、これからの学びを構築する。以上の3点を目的として、企業の方々と経営学部教員によって行われます。授業で扱う課題は、協力企業（2社を予定）の現場で取り組まれている実際の課題です。みなさんは「リアルな企業事例」と格闘することを通して、社会で求められている能力と、自分の現在の力とのギャップを理解できるはずです。 なお、この授業は、グループワークを基本としています。これは大学や企業において、さまざまな課題に取り組む基本的なスタイルです。グループワークを通して、コミュニケーション能力も培って下さい。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション（講座の目的）とマインドセット 第2回 将来企業で働くことを意識した大学生としての学び方（学生時代に身に付けたい考え方、グループワークとグループ分け、課題への取り組み方） 第3回 （テーマA）企業Aのゲストスピーカーからのヒアリング 第4回 （テーマA）グループワーク（研究テーマの設定） 第5回 （テーマA）研究成果の中間発表と企業Aのゲストスピーカーとのディスカッション 第6回 （テーマA）グループワーク（研究成果発表準備） 第7回 （テーマA）研究成果の発表と企業Aのゲストスピーカーからの講評 第8回 テーマAの発表を踏まえて、テーマBに向けてのリセット 第9回 （テーマB）企業Bのゲストスピーカーからのヒアリング 第10回 （テーマB）グループワーク（研究テーマの設定） 第11回 （テーマB）研究成果の中間発表と企業Bのゲストスピーカーとのディスカッション 第12回 （テーマB）グループワーク（研究成果発表準備） 第13回 （テーマB）研究成果の発表と企業Bのゲストスピーカーからの講評 第14回 本授業のまとめ（振り返りを含め、今後の学びへの気づきを図る） ※なお、支援企業との日程調整を理由として、上記の授業計画は若干の変更が入る予定があります。			
3. 履修上の注意 連続性のあるテーマをグループで扱うので、前回までの授業の理解が不可欠です。 問題意識を持って積極的に授業へ参加し、不明確な点は授業中にしっかり確認するように心がけてください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 この授業は、グループワークを円滑に進めるための十分な復習や事前準備が不可欠です。			
5. 教科書 初回の授業次に、必要に応じて指示します。また、随時講義資料を配布します。			
6. 参考書 必要に応じて指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meijiクラスウェブを通じてフィードバックを行います。			
8. 成績評価の方法 実践形式の授業であることから、日々の授業への取り組みを重視し、授業内でのディスカッション等での成果やレポートをもとに評価します。授業への取り組み・チームへの貢献度40点、報告内容30点、レポート30点。			
9. その他 1年次のみ、履修を認めます。 この講義の定員は、1クラス30名程度とします。 履修方法等については、新入生ガイダンス期間に行う「経営総合講義A」の説明会でwebでの履修登録方法について説明します。応募者多数の場合、抽選となります。			

科目ナンバー：(BA)MAN191J			
経営総合講義B 【フューチャースキル講座】			高木 俊雄
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 現在、企業活動を展開している協力企業1社と学生の自発的・主体的なグループワーク、講師のファシリテーションを基本とする授業科目である。授業で扱うテーマは、協力企業の現場で実際に発生している重要課題であり、そうした企業のリアルな事例の問題解決に対する挑戦を通して、実社会で求められている能力と自分の現在の力とのギャップを理解し、ギャップの克服を目指してもらう。 同時に、経営組織における様々な問題解決に取り組むための基本的な取り組み方法であるグループワークを通して、コミュニケーション能力（企業との質疑応答や講師とのメールのやり取り等のコミュニケーションを含む）、情報収集能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力を学習・強化していく。企業のゲストスピーカーからの課題提示とヒアリング、多面的な情報収集、各グループでのディスカッション、自主的な調査・フィールドワーク等を行い、最終的に協力企業に対して研究成果のプレゼンテーションを行い、企業からの評価を受ける。本講義は、以下の4点を到達目標とする。 (1) グループワークや協力企業とのやり取りを通じて、主体性と協調性を身につける。 (2) 現実の企業活動を実験することによって、社会に対する知識・関与を深める。 (3) 以上の諸活動を通じて、社会で実際に求められる様々な能力・スキルを理解する。 (4) グループで問題解決に取り組む成果を出したという成功体験をメンバー間で共有する。 ※必要に応じて、マーケティング、マネジメントの必要知識、管理会計の基本的知識、業界情報、アンケートを始めとする調査技法等、問題解決のフレームワークや必要情報を示唆・提供するが、与えられるのではなく自ら自発的・主体的に掴み取っていく姿勢が求められる。			
2. 授業内容 第1回 授業イントロダクション（講座の目的、内容、進め方、マインドセット）と将来企業で働くことをFuture Skillsとして意識した大学生としての学び方（学生時代に身につけたい考え方、グループ分けと最初のグループワーク）の説明と共有 第2回 グループワークに必要な基本的知識・スキル（マーケティング、経営学、調査手法等）の習得 第3回 企業テーマへの取り組み方の理解（目的の確認、計画化、研究成果の整理、プレゼン） 第4回 [1]企業のゲストスピーカーからの課題提示と質疑応答 第5回 [2]グループワーク（アイデア出し、方向性の共有） 第6回 [3]グループワーク（情報収集、中間報告の準備、簡易リハーサル） 第7回 [4]企業に対する研究成果の中間報告とゲストスピーカーの評価・ディスカッション 第8回 [5]グループワーク（中間報告の反省と方向性のリセット） 第9回 [6]グループワーク（最終報告の準備1） 第10回 [7]グループワーク（最終報告の準備2） 第11回 [8]グループワーク（最終報告の準備3） 第12回 [9]グループワーク（最終調整とリハーサル） 第13回 [10]企業に対する最終報告とゲストスピーカーのコメント、順位発表 第14回 [11]授業の総括（反省と今後の展望） ※進捗状況によって各回の内容・順番の微調整を行うことがある。 ※第4回、第7回、第13回は協力企業が参加する予定。			
3. 履修上の注意 連続性のあるテーマをグループで扱うので、前回までの授業内容の理解が不可欠であり、受け身ではなく自ら主体的に授業に参加するスタンスが求められる。原則として、欠席・遅刻は許可しないので、全回出席できる条件と意志が求められる（病気、事故、弔事等正当な理由がある場合の欠席・遅刻は配慮する）。 授業中のグループワークが基本となるが、授業時間外の作業やフィールドワーク、メンバーとのコミュニケーション等が不可欠である。授業時間外は、必ずしも全メンバーが参加できるわけではないので、チーム内での合意と調整が必要になる。 各チーム（履修者数によってチーム数は変動）は5名～6名で構成し、リーダーを一人選出する。リーダーはチーム内の調整を行うとともに、ファイルのやり取りや企業とのコミュニケーションを先頭に立てて実行する。メンバーもリーダー任せにはせず、自らもリーダーであるという自覚を持ち、積極的・自発的にチームの運営に協力してもらいたい。 納期厳守等、ビジネス上必要不可欠なルール・マナーを遵守すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 必要に応じて提供される情報の内容で、特にグループワークに資すると思われる部分には必ず目を通しておくこと。また、グループワークに資すると思われる知識・情報に関しては、可能な限り積極的・多面的に収集・整理しておくこと。 「Oh明治」の「授業お知らせ管理」で授業内容のアナウンスをするので、履修期間中必ず目を通しておくこと。			
5. 教科書 教科書は使用しない。必要に応じて資料や情報を提供するが、学生の主体的・自発的な情報収集を重視する。			
6. 参考書 必要に応じて授業中に指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終報告の内容・評価に対するフィードバックは、第一義的には最終報告時に協力企業の担当者が行う。それをふまえて、中間報告終了時、最終報告終了時および最終授業で講師がフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 試験は実施しない。授業への参加度30％、授業への貢献度20％、最終報告内容50％。			
9. その他 この科目は1年次生及び2年次生のみ履修を認める。定員は1クラス約36名、授業は5～6人×5～6グループの編成で進行する。 中間報告や最終報告にあたっては、グループとして授業時間以外の作業時間が不可欠であり、講師とのメールを通じてのコミュニケーションが求められる。			

科目ナンバー：(BA)MAN191J			
経営総合講義B 【フューチャースキル講座】			高木 俊雄
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 現在、企業活動を展開している協力企業1社と学生の自発的・主体的なグループワーク、講師のファシリテーションを基本とする授業科目である。授業で扱うテーマは、協力企業の現場で実際に発生している重要課題であり、そうした企業のリアルな事例の問題解決に対する挑戦を通して、実社会で求められている能力と自分の現在の力とのギャップを理解し、ギャップの克服を目指してもらう。 同時に、経営組織における様々な問題解決に取り組むための基本的な取り組み方法であるグループワークを通して、コミュニケーション能力（企業との質疑応答や講師とのメールのやり取り等のコミュニケーションを含む）、情報収集能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力を学習・強化していく。企業のゲストスピーカーからの課題提示とヒアリング、多面的な情報収集、各グループでのディスカッション、自主的な調査・フィールドワーク等を行い、最終的に協力企業に対して研究成果のプレゼンテーションを行い、企業からの評価を受ける。本講義は、以下の4点を到達目標とする。 (1) グループワークや協力企業とのやり取りを通じて、主体性と協調性を身につける。 (2) 現実の企業活動を実験することによって、社会に対する知識・関与を深める。 (3) 以上の諸活動を通じて、社会で実際に求められる様々な能力・スキルを理解する。 (4) グループで問題解決に取り組む成果を出したという成功体験をメンバー間で共有する。 ※必要に応じて、マーケティング、マネジメントの必要知識、管理会計の基本的知識、業界情報、アンケートを始めとする調査技法等、問題解決のフレームワークや必要情報を示唆・提供するが、与えられるのではなく自ら自発的・主体的に掴み取っていく姿勢が求められる。			
2. 授業内容 第1回 授業イントロダクション（講座の目的、内容、進め方、マインドセット）と将来企業で働くことをFuture Skillsとして意識した大学生としての学び方（学生時代に身につけたい考え方、グループ分けと最初のグループワーク）の説明と共有 第2回 グループワークに必要な基本的知識・スキル（マーケティング、経営学、調査手法等）の習得 第3回 企業テーマへの取り組み方の理解（目的の確認、計画化、研究成果の整理、プレゼン） 第4回 [1]企業のゲストスピーカーからの課題提示と質疑応答 第5回 [2]グループワーク（アイデア出し、方向性の共有） 第6回 [3]グループワーク（情報収集、中間報告の準備、簡易リハーサル） 第7回 [4]企業に対する研究成果の中間報告とゲストスピーカーの評価・ディスカッション 第8回 [5]グループワーク（中間報告の反省と方向性のリセット） 第9回 [6]グループワーク（最終報告の準備1） 第10回 [7]グループワーク（最終報告の準備2） 第11回 [8]グループワーク（最終報告の準備3） 第12回 [9]グループワーク（最終調整とリハーサル） 第13回 [10]企業に対する最終報告とゲストスピーカーのコメント、順位発表 第14回 [11]授業の総括（反省と今後の展望） ※進捗状況によって各回の内容・順番の微調整を行うことがある。 ※第4回、第7回、第13回は協力企業が参加する予定。			
3. 履修上の注意 連続性のあるテーマをグループで扱うので、前回までの授業内容の理解が不可欠であり、受け身ではなく自ら主体的に授業に参加するスタンスが求められる。原則として、欠席・遅刻は許可しないので、全回出席できる条件と意志が求められる（病気、事故、弔事等正当な理由がある場合の欠席・遅刻は配慮する）。 授業中のグループワークが基本となるが、授業時間外の作業やフィールドワーク、メンバーとのコミュニケーション等が不可欠である。授業時間外は、必ずしも全メンバーが参加できるわけではないので、チーム内での合意と調整が必要になる。 各チーム（履修者数によってチーム数は変動）は5名～6名で構成し、リーダーを一人選出する。リーダーはチーム内の調整を行うとともに、ファイルのやり取りや企業とのコミュニケーションを先頭に立てて実行する。メンバーもリーダー任せにはせず、自らもリーダーであるという自覚を持ち、積極的・自発的にチームの運営に協力してもらいたい。 納期厳守等、ビジネス上必要不可欠なルール・マナーを遵守すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 必要に応じて提供される情報の内容で、特にグループワークに資すると思われる部分には必ず目を通しておくこと。また、グループワークに資すると思われる知識・情報に関しては、可能な限り積極的・多面的に収集・整理しておくこと。 「Oh明治」の「授業お知らせ管理」で授業内容のアナウンスをするので、履修期間中必ず目を通しておくこと。			
5. 教科書 教科書は使用しない。必要に応じて資料や情報を提供するが、学生の主体的・自発的な情報収集を重視する。			
6. 参考書 必要に応じて授業中に指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終報告の内容・評価に対するフィードバックは、第一義的には最終報告時に協力企業の担当者が行う。それをふまえて、中間報告終了時、最終報告終了時および最終授業で講師がフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 試験は実施しない。授業への参加度30％、授業への貢献度20％、最終報告内容50％。			
9. その他 この科目は1年次生及び2年次生のみ履修を認める。定員は1クラス約36名、授業は5～6人×5～6グループの編成で進行する。 中間報告や最終報告にあたっては、グループとして授業時間以外の作業時間が不可欠であり、講師とのメールを通じてのコミュニケーションが求められる。			

3 外国語科目

科目ナンバー：(BA)LAN111J			
英語（初級）A（統一） 通常クラスE1			
アズィーズ、ハキム・ヴァジラサーン、アンディ・スティープス、サイモン・ニシリアス、マシュー・バーニング、ジョージ・ハウエル、ブライアン・マーカー、ジェイソン・リッター、エリック・リンズクーグ、アレン			
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 新入生必修の英語コミュニケーションクラス。リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングをコミュニケーションに学べる英語のテキストを使用し、基本的に英語で授業を行う。しかし、必要に応じて日本語を使用することもある。コミュニケーション活動を可能にし、学生一人一人に最大限の注意を払うため、クラスの人数は30人程度までの少人数制とする。そのため、学生は授業中に積極的に行動することが求められます。授業はコミュニケーション英語教育行われ、生徒は教室や宿題で様々な方法で英語を使う。4技能コースなので、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングが含まれる。ただし、ペアワークやグループワークを通して、ディスカッションやプレゼンテーションを含むスピーキングの機会を優先する。 授業の目標 本授業を受講することにより、以下のことができるようになる： (1) すべて英語で行われる授業に積極的に参加できる。 (2) 読む、書く、話す、聴くといったコミュニケーションにおける英語の使い方に慣れている。 (3) 個人的な話題や身近な話題について、短い会話に参加するための英語に慣れている。 (4) 準備した短いプレゼンテーションを英語で行うことができる。 (5) 身近な話題について英語で書かれた中級レベルの資料を読み、理解することができる。 (6) Eメールなどの文章によるコミュニケーションができる。 また、将来、グローバルな組織で働くために必要な英語力を身につけるために、将来、英語で行われる授業や短期留学で英語を使うための基礎を養う可能性を持っていること。			
2. 授業内容 このコースでは、英語で書かれた教科書を使用し、文化的なトピック、時事問題、グローバルな問題、ビジネスのトピックなど、個人的かつ一般的なトピックを扱います。講師は、教科書の内容を補足するために、インターネットを利用したリーディングやリスニング、プリント（サマリーライティング付き）を使用することがあります。また、リーディングを基に口頭でのレポートやプレゼンテーション、クラス内でのディスカッションを行います。Eメールライティングのセッションも含まれる。副教材として、Eメールライティング、TOEIC、その他の英語資格試験の教材を使用することもある。授業概要に記載されたスケジュールに従い、毎週教科書・副教材の新しい部分を取り上げます。また、前回の復習や次週の予告も行います。 具体的な授業内容は、授業中に紹介されるか、または授業担当教員が提供するシラバスの補足に記入されます。			
3. 履修上の注意 GREATプログラム受講生を除く新入生全員の必修科目です。履修クラスは、事務局が運営するシステムに従い、指定されたクラスに振り分けられるか、または空いているクラスから選択することができます。新入生オリエンテーションの際に、クラス選択・割り当てのシステムを紹介します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 すべての授業において、前回の授業内容を復習し、教科書の次のパートの内容を予習しておくことが望ましい。授業中やOh-o! Meijiを通して提供される補助教材も、予習・復習を行い、学習効果を最大限に高めるようにする。また、予習や復習のための具体的な課題は、授業中やOh-o! Meijiで発表し、シラバスの補足に記載する。			
5. 教科書 教科書は、シラバスの補足および初回の授業で担当教員が紹介し、大学の書店で購入できる。すべての学生は、指定された教科書を一冊購入する必要がある。			
6. 参考書 その他の推奨される学習資料や情報源は、授業中に提供されるか、またはOh-o! Meijiに掲載される。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 フィードバックの具体的な方法は、担当教員や課題によって異なりますが、通常、授業中またはOh-o! Meijiを通じて行われ、シラバスの補足に記載されます。			
8. 成績評価の方法 学期中の課題に割り当てられる具体的な割合は、シラバスの補足、最初の授業中に発表されるか、または最初の授業中に配布されるプリントに示される。典型的なパターンは以下の通りである： 授業への参加度 40 宿題 30 プレゼンテーション／特別課題 30			
9. その他 すべての生徒は時間厳守で登校し、すべての授業に出席しなければなりません。病気やその他のやむを得ない事情による欠席は、可能な限り教師に直接連絡し、その証拠を提出すること。ただし、やむを得ない遅刻や欠席であっても、全体的な成績に影響する場合があります。			

科目ナンバー：(BA)LAN111J			
英語（初級）B（統一） 通常クラスE1			
アズィーズ、ハキム・ヴァジラサーン、アンディ・スティープス、サイモン・ニシリアス、マシュー・バーニング、ジョージ・ハウエル、ブライアン・マーカー、ジェイソン・リッター、エリック・リンズクーグ、アレン			
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 新入生必修の英語コミュニケーションクラス。初級英語Aのスキルを発展させ、より高い自信と習熟度を身につける。リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングをコミュニケーションに学べるようデザインされた英語のテキストを使用し、基本的に英語で授業を行う。低レベルのクラスでは日本語を使用することもあります。コミュニケーション活動を可能にし、学生一人ひとりに最大限の注意を払うため、クラスの人数は通常30人程度までの少人数制とする。そのため、学生は授業中に積極的に行動することが求められます。授業はコミュニケーションなアプローチで行われ、生徒は教室や宿題で様々な方法で英語を使います。4技能コースなので、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングが含まれる。ただし、ペアワークやグループワークを通して、ディスカッションやプレゼンテーションを含むスピーキングの機会を優先する。 授業の目標 本授業を受講することにより、以下のことができるようになる： (1) 全て英語で行われる授業に自信を持って積極的に参加できる。 (2) 読む、書く、話す、聞くなどのコミュニケーションに自信を持って英語を使うことができる。 (3) 日常会話に参加するために、個人的で身近な話題について自信を持って英語を使うことができる。 (4) 準備した短いプレゼンテーションを英語で行うことができる。 (5) 様々なトピックについて英語で書かれた中級レベルの本格的な教材を読み、理解することができる。 (6) Eメールなどの文章を通して、明確なコミュニケーションができる。 また、将来、グローバルな組織で働くために必要な英語力を身につけるため、将来、英語で行われる授業や短期留学で英語を使うための基礎を身につける。			
2. 授業内容 このコースでは、英語で書かれた教科書を使用し、文化的なトピック、時事問題、グローバルな問題、ビジネスのトピックなど、個人的かつ一般的なトピックを扱います。講師は、教科書の内容を補足するために、インターネットを利用したリーディングやリスニング、プリント（サマリーライティング付き）を使用することがあります。また、リーディングを基に口頭でのレポートやプレゼンテーション、クラス内でのディスカッションを行います。Eメールライティングのセッションも含まれる。副教材として、Eメールライティング、TOEIC、その他の英語資格試験の教材を使用することもある。授業概要に記載されたスケジュールに従い、毎週教科書・副教材の新しい部分を取り上げます。また、前回の復習や次週の予告も行います。 具体的な授業内容は、授業中に紹介されるか、または授業担当教員が提供するシラバスの補足に記入されます。			
3. 履修上の注意 GREATプログラム受講生を除く新入生全員の必修科目です。履修クラスは、事務局が運営するシステムに従い、指定されたクラスに振り分けられるか、または空いているクラスから選択することができます。新入生オリエンテーションの際に、クラス選択・割り当てのシステムを紹介します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 すべての授業において、前回の授業内容を復習し、教科書の次のパートの内容を予習しておくことが望ましい。授業中やOh-o! Meijiを通して提供される補助教材も、予習・復習を行い、学習効果を最大限に高めるようにする。また、予習や復習のための具体的な課題は、授業中やOh-o! Meijiで発表し、シラバスの補足に記載する。			
5. 教科書 教科書は、シラバスの補足および初回の授業で担当教員が紹介し、大学の書店で購入できる。すべての学生は、指定された教科書を一冊購入する必要がある。			
6. 参考書 その他の推奨教材や情報源については、授業中またはOh-o! Meijiに掲載します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 フィードバックの具体的な方法は、担当教員や課題によって異なりますが、通常、授業中またはOh-o! Meijiを通じて行われ、シラバスの補足に記載されます。			
8. 成績評価の方法 学期中の課題に割り当てられる具体的な割合は、初回の授業中に発表され、初回授業中に配布されるプリントに示される。典型的なパターンは以下の通りである： 授業への参加度 40 宿題 30 プレゼンテーション／特別課題 30			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN111J			
英語（初級）A（統一） 通常クラスE2			
石塚あおい・岩崎永一・生越秀子・河内山晶子・佐藤文子・廣瀬絵美・廣田美玲・古川恵美・松野亜希子・山高美和・吉田えりか・若月麻美			
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 「概要」 大学入学までに学習した英語をもとに、4技能 (Listening, Speaking, Reading, Writing)を満遍なく発達させることを目標とする。具体的には、テキストや動画、映画等その他教材を利用しながら英語を読む・聞く、その内容を正確に理解・まとめる・発表することを扱う。卒業後を踏まえて、TOEIC対策も兼ねてビジネスや日常で使うフレーズや単語の学習、academic Englishも適宜扱う。ペアワークやグループワークを通して、学生同士積極的に英語を使う。 「到達目標」 テキスト等教材の内容を正確に理解する。 自分の考えを口頭で、もしくは書いて発表する。 クラスの内容とレベルに沿った語彙を習得し、自信を持って使う。 状況や内容に応じたフレーズや単語に注意して聞き取る。 他者の考えを尊重しつつ、適切に自分の意見を表現する。			
2. 授業内容 授業の詳細（教科書を含む）は、シラバスの補足を参照すること。			
3. 履修上の注意 初回の授業でオリエンテーションを実施予定。よって履修希望者は必ず出席すること。 単位取得のための欠席回数、遅刻の扱い等の詳細は担当教員の指示に従うこと。 辞書等は担当教員の指示に従うこと。 連絡事項等の確認のため、定期的にOh-o! Meijiをチェックすること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 担当教員の指示に従うこと。			
5. 教科書 担当教員の指示に従うこと。 教科書を購入しなければいけない場合は、早めにキャンパス指定の教科書販売場所にて購入すること（販売期間が終了した後は通常返品される）。教科書を購入せず、クラスメートの教科書をコピーしたり、写真を撮影して利用する等の行為は固く禁止する。			
6. 参考書 担当教員の説明を聞くこと。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 担当教員の説明を聞くこと。			
8. 成績評価の方法 担当教員の説明を聞くこと。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN111J			
英語（初級）B（統一） 通常クラスE2			
石塚あおい・岩崎永一・生越秀子・河内山晶子・佐藤文子・廣瀬絵美・廣田美玲・古川恵美・松野亜希子・山高美和・吉田えりか・若月麻美			
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 「概要」 秋学期も引き続き、4技能 (Listening, Speaking, Reading, Writing)を満遍なく発達させることを目標とする。具体的には、テキストや動画、映画等その他教材を利用しながら英語を読む・聞く、その内容を正確に理解・まとめる・発表することを扱う。卒業後を踏まえて、TOEIC対策も兼ねてビジネスや日常で使うフレーズや単語の学習、academic Englishも適宜扱う。ペアワークやグループワークを通して、学生同士積極的に英語を使う。 「到達目標」 テキスト等教材の内容を正確に理解する。 自分の考えを口頭で、もしくは書いて発表する。 クラスの内容とレベルに沿った語彙を習得し、自信を持って使う。 状況や内容に応じたフレーズや単語に注意して聞き取る。 他者の考えを尊重しつつ、適切に自分の意見を表現する。			
2. 授業内容 授業の詳細（教科書を含む）は、シラバスの補足を参照すること。			
3. 履修上の注意 初回の授業でオリエンテーションを実施予定。よって履修希望者は必ず出席すること。 単位取得のための欠席回数、遅刻の扱い等の詳細は担当教員の指示に従うこと。 辞書等は担当教員の指示に従うこと。 連絡事項等の確認のため、定期的にOh-o Meiji!をチェックすること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 担当教員の指示に従うこと。			
5. 教科書 担当教員の指示に従うこと。 教科書を購入しなければいけない場合は、早めにキャンパス指定の教科書販売場所にて購入すること（販売期間が終了した後は通常返品される）。教科書を購入せず、クラスメートの教科書をコピーしたり、写真を撮影して利用する等の行為は固く禁止する。			
6. 参考書 担当教員の説明を聞くこと。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 担当教員の説明を聞くこと。			
8. 成績評価の方法 担当教員の説明を聞くこと。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN111J			
英語（初級） A 【E1 コミュニケーション英語】 (TOEIC300点程度対象者クラス)		河内山 晶子	
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course deals with all the four skills (listening, speaking, reading, writing) necessary in order to become an effective communicator in English. Especially, the aspect of oral English is emphasized in this course. Integrating the four skills using appropriate textbook chosen by the instructor, students will become accustomed to using English as means of obtaining information (through listening and reading) and communicating their thoughts (through discussion and writing). Instructors may supplement the textbook material with Internet reading or handouts (with summary writing) for extra reading and also using the reading as a basis for oral reports and presentations of in class discussion. <概要> 英語コミュニケーション（特に会話）の優れたお手本は、名作映画のシナリオにちりばめられており、心に残る英語のフレーズは、名曲の中に豊かに謳いあげられています。映画と歌という「英語表現の宝庫」を活用して、「心豊かな英語学習」をしていきます。名作を教材化したものを使っていく予定です。長く誰にも愛され続けてきた「オズの魔法使い」、映画史上興行成績トップの「風と共に去りぬ」、日本人が平成30年間で最も印象深い洋画としてあげている「タイタニック」等といった作品において、まず全体像をとらえた上で、クライマックスシーンにおける登場人物の発話を深く掘り下げます。十分な理解がなされた上で、表情豊かに発話して、表現を身につけます。さらにそれを活用して自分自身の気持ちも表するという創造性も発揮していただきます。本授業が目指すのは、4技能のバランスのとれた学習を通しての「コミュニケーション力の鍛錬」です。 さらに本授業では、映画や歌の活用だけに終わらず、ネットで入手できる無尽蔵の情報を自ら選んで収集する「多読多聴」も取り入れます。今後の国際社会ではネット上の膨大な情報から必要なものを選び、そのポイントを押さえて大意を把握する力が求められます。授業では、学んだ映画や歌に関連する分野はもちろんですが、皆さん各々にとっての「本場に知りたいこと」をトピックにして調べていただく機会を提供します。意欲的に読み、聞き、それを参考に自分で考えたことを、お互いにシェアしましょう。この楽しい体験を積み重ねることを通して、「英語を楽しむ態度を身につけて、英語を更に好きになる」ことが、国際的視野での生涯にわたる自己教育の土台となることです。 ◆なお、シラバス欄に示しているのは、開講前に考案した「予定」であり、実際の授業では、履修の状況や履修者の意向等の様々な点から鑑みて、内容や進度が、建設的な意味で変更されることがありますのでご了承ください。 <到達目標> ・英語学習への関心・意欲が高まる ・名作に触れて聴解力・読解力が高まる ・発話練習で身に着けた英語表現で自身を表現でき、自身の見解も表現できる ・関心あることについて情報を収集し理解して自分の見解が言え、相互で意見交換できる			
2. 授業内容 1 回目：オリエンテーション（英語力、学習方法について考える。受講方法の説明など） 2 回目：作品 1 の全体的把握 クライマックスシーン（1）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 3 回目：クライマックスシーン（2）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 クライマックスシーン（3）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 4 回目：クライマックスシーン（4）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 クライマックスシーン（5）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 5 回目：内容の十分な理解をふまえたテーマの探求： ①様々な意見（教員や友人）を受け止め、よく理解する ②自分自身でネットリサーチして考察を深めそれをシェアしあう 6 回目：内容理解を踏まえたテーマの探求：前回の続き 7 回目：作品 2 の全体的把握 クライマックスシーン（1）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 8 回目：クライマックスシーン（2）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 クライマックスシーン（3）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 9 回目：クライマックスシーン（4）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 クライマックスシーン（5）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 10 回目：内容理解を踏まえたテーマの探求： ①10回目：様々な意見（教員や友人）を受け止め、よく理解する ②自分自身でネットリサーチして考察を深めそれをシェアしあう 11 回目：内容理解を踏まえたテーマの探求：前回の続き 12 回目：作品 3 の全体的把握 クライマックスシーン（1）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 13 回目：内容理解を踏まえたテーマの探求： ①10回目：様々な意見（教員や友人）を受け止め、よく理解する ②自分自身でネットリサーチして考察を深めそれをシェアしあう 14 回目：評価のための課題・活動 15 回目：これからの英語学習に向けての議論			
3. 履修上の注意 初回にオリエンテーション（重要）をしますので必ず出席して下さい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <事前> 映像を視聴し、教材で指定された映像の部分の聴き取り課題に取り組み <事後> 教室で深めた理解をもとに表情豊かにセリフを反復して英語表現を身につけるとともに、自分に関心の高いテーマに関する必要な情報を収集して多読多聴し大意を掴んだうえで、自分の見解を述べ合う。			
5. 教科書 初回に指示します。			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 試験 50% 平常点（小テスト・課題提出を含む）50%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN111J			
英語（初級） B 【E1 コミュニケーション英語】 (TOEIC300点程度対象者クラス)		河内山 晶子	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course deals with all the four skills (listening, speaking, reading, writing) necessary in order to become an effective communicator in English. Especially, the aspect of oral English is emphasized in this course. Integrating the four skills using appropriate textbook chosen by the instructor, students will become accustomed to using English as means of obtaining information (through listening and reading) and communicating their thoughts (through discussion and writing). Instructors may supplement the textbook material with Internet reading or handouts (with summary writing) for extra reading and also using the reading as a basis for oral reports and presentations of in class discussion. <概要> 英語コミュニケーション（特に会話）の優れたお手本は、名作映画のシナリオにちりばめられており、心に残る英語のフレーズは、名曲の中に豊かに謳いあげられています。映画と歌という「英語表現の宝庫」を活用して、「心豊かな英語学習」をしていきます。名作を教材化したものを使っていく予定です。長く誰にも愛され続けてきた「オズの魔法使い」、映画史上興行成績トップの「風と共に去りぬ」、日本人が平成30年間で最も印象深い洋画としてあげている「タイタニック」等といった作品において、まず全体像をとらえた上で、クライマックスシーンにおける登場人物の発話を深く掘り下げます。十分な理解がなされた上で、表情豊かに発話して、表現を身につけます。さらにそれを活用して自分自身の気持ちも表するという創造性も発揮していただきます。本授業が目指すのは、4技能のバランスのとれた学習を通しての「コミュニケーション力の鍛錬」です。 さらに本授業では、映画や歌の活用だけに終わらず、ネットで入手できる無尽蔵の情報を自ら選んで収集する「多読多聴」も取り入れます。今後の国際社会ではネット上の膨大な情報から必要なものを選び、そのポイントを押さえて大意を把握する力が求められます。授業では、学んだ映画や歌に関連する分野はもちろんですが、皆さん各々にとっての「本場に知りたいこと」をトピックにして調べていただく機会を提供します。意欲的に読み、聞き、それを参考に自分で考えたことを、お互いにシェアしましょう。この楽しい体験を積み重ねることを通して、「英語を楽しむ態度を身につけて、英語を更に好きになる」ことが、国際的視野での生涯にわたる自己教育の土台となることです。 ◆なお、シラバス欄に示しているのは、開講前に考案した「予定」であり、実際の授業では、履修の状況や履修者の意向等の様々な点から鑑みて、内容や進度が、建設的な意味で変更されることがありますのでご了承ください。 <到達目標> ・英語学習への関心・意欲が高まる ・名作に触れて聴解力・読解力が高まる ・発話練習で身に着けた英語表現で自身を表現でき、自身の見解も表現できる ・関心あることについて情報を収集し理解して自分の見解が言え、相互で意見交換できる			
2. 授業内容 1 回目：オリエンテーション（英語力、学習方法について考える。受講方法の説明など） 2 回目：作品 1 の全体的把握 クライマックスシーン（1）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 3 回目：クライマックスシーン（2）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 クライマックスシーン（3）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 4 回目：クライマックスシーン（4）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 クライマックスシーン（5）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 5 回目：内容の十分な理解をふまえたテーマの探求： ①様々な意見（教員や友人）を受け止め、よく理解する ②自分自身でネットリサーチして考察を深めそれをシェアしあう 6 回目：内容理解を踏まえたテーマの探求：前回の続き 7 回目：作品 2 の全体的把握 クライマックスシーン（1）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 8 回目：クライマックスシーン（2）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 クライマックスシーン（3）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 9 回目：クライマックスシーン（4）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 クライマックスシーン（5）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 10 回目：内容理解を踏まえたテーマの探求： ①10回目：様々な意見（教員や友人）を受け止め、よく理解する ②自分自身でネットリサーチして考察を深めそれをシェアしあう 11 回目：内容理解を踏まえたテーマの探求：前回の続き 12 回目：作品 3 の全体的把握 クライマックスシーン（1）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 13 回目：内容理解を踏まえたテーマの探求： ①10回目：様々な意見（教員や友人）を受け止め、よく理解する ②自分自身でネットリサーチして考察を深めそれをシェアしあう 14 回目：評価のための課題・活動 15 回目：これからの英語学習に向けての議論			
3. 履修上の注意 初回にオリエンテーション（重要）をしますので必ず出席して下さい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <事前> 映像を視聴し、教材で指定された映像の部分の聴き取り課題に取り組み <事後> 教室で深めた理解をもとに表情豊かにセリフを反復して英語表現を身につけるとともに、自分に関心の高いテーマに関する必要な情報を収集して多読多聴し大意を掴んだうえで、自分の見解を述べ合う。			
5. 教科書 初回に指示します。			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 試験 50% 平常点（小テスト・課題提出を含む）50%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN111J			
英語（初級）A 【E1 コミュニケーション英語】 (TOEIC300点程度対象者クラス)			宮 下 い づ み
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course deals with all the four skills (listening, speaking, reading, writing) necessary in order to become an effective communicator in English. Especially, the aspect of oral English is emphasized in this course. Integrating the four skills using appropriate textbooks chosen by the instructor, students will become accustomed to using English as means of obtaining information (through listening and reading) and communicating their thoughts (through discussion and writing). Instructors may supplement the textbook material with Internet reading or handouts (with summary writing) for extra reading and also using the reading as a basis for oral reports and presentations of in class discussion.			
2. 授業内容 Week 1. Introduction, Warm-up Week 2. Making a call/ Successful writing Week 3. Opening a call Week 4. Taking messages / Organizing information Week 5. Communication difficulties Week 6. Making appointments / The business letter-layout Week 7. a. Mid-term exam b. Closing a call Week 8. Cross-cultural tips / Correspondence phrases Week 9. What makes a good presentation? Week 10. Signaling / Model letters Week 11. Visual aids Week 12. Body language / Writing clearly Week 13. Closing a presentation Week 14. a. Final exam b. Review			
3. 履修上の注意 英語①A Communication のクラスから 1 つ選び、WEB登録すること。 【重要】 TOEICスコア300点程度の学生を対象としているクラスです。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students should review and be prepared to discuss weekly topics before coming to class.			
5. 教科書 『Communicating in Business English』(Compass Publishing) Second Edition Student Book 1 978-1640156227			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Active participation: 20, Written assignments:10, Presentation: 20, Mid-term exam 25, Final exam: 35			
9. その他 This will be an active class. Please feel free to ask questions after the class. To enhance your fluency, extensive reading is highly recommended.			

科目ナンバー：(BA)LAN111J			
英語（初級）B 【E1 コミュニケーション英語】 (TOEIC300点程度対象者クラス)			宮 下 い づ み
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course deals with all the four skills (listening, speaking, reading, writing) necessary in order to become an effective communicator in English. Especially, the aspect of oral English is emphasized in this course. Integrating the four skills using appropriate textbooks chosen by the instructor, students will become accustomed to using English as means of obtaining information (through listening and reading) and communicating their thoughts (through discussion and writing). Instructors may supplement the textbook material with Internet reading or handouts (with summary writing) for extra reading and also using the reading as a basis for oral reports and presentations of in class discussion.			
2. 授業内容 Week 1. Introduction, warm-up Week 2. Meetings: key terms Week 3. Opening a meeting / The business report-layout Week 4. Controlling Week 5. Asking questions / Connecting words Week 6. Problem-solving meetings Week 7. a. Mid-term exam b. Vocabulary building Week 8. Golden rules / E-mail Week 9. First meetings Week 10. Talking about jobs / The perfect resume Week 11. Talking about interests and sport Week 12. Talking about movies and sage shows / Punctuation Week 13. Talking about business environment Week 14. Final exam b. Review			
3. 履修上の注意 英語①A Communication のクラスから 1 つ選び、WEB登録すること。 【重要】 TOEICスコア300点程度の学生を対象としているクラスです。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students should review and be prepared to discuss weekly topics before coming to class.			
5. 教科書 『Communicating in Business English』(Compass Publishing)			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Active participation: 10, Written assignments:15, Presentation: 15, Mid-term exam:25, Final exam 35			
9. その他 This will be an active class. Please feel free to ask questions after the class. To enhance your fluency, extensive reading is highly recommended.			

科目ナンバー：(BA)LAN111J			
英語（初級）A 【E2 国際教養英語】 (TOEIC300点程度対象者クラス)		岩 崎 永 一	
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 教科書を読んだり, DVD教材が付いている場合はDVDを見て, 英問英答等で内容確認をする。 (2) 本文の内容をエクササイズや和訳を通じて確認する。 (3) ヴォキャブラリー練習を行う。 (4) また, 教科書以外のアップデートな記事等を用いるのにネットを利用することがある。 〈到達目標〉 教科書の内容を適切な速度で読んで理解できる。クラスのレベルにあった自然な速さの英語を聴いて意味が把握できる。詳細は第一回目の授業で説明する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：Unit 1 William's Notting Hill & 'She' 第3回：Unit 2 Surreal, But Nice 第4回：Unit 3 A Goddess Is A Movie Star 第5回：Unit 4 Birthday Party 第6回：Unit 5 A Date With Anna 第7回：Unit 6 She's Gone 第8回：Unit 7 She's Back 第9回：Unit 8 Rude Awakening — Ain't No Sunshine 第10回：Unit 9 Like me Again 第11回：Unit 10 The Right Decision — The Meaning of My Life Is She 第12回：総復習およびSummary Writing, Comments, Discussion (1) 第13回：総復習およびSummary Writing, Comments, Discussion (2) 第14回 a：まとめ b：試験 ※上記の一部は教科書の目次を転載			
3. 履修上の注意 映画総合教材の教科書（松柏社）を用いて、リスニングの練習を通じて自然な英語の音に慣れることと英国の文化を学ぶことを主な目的とします。そのため、前期と後期で合計2冊の教科書を使用することにご留意ください。教科書についている映画のスク립トの全文音読や（もし可能でしたら）ペアーやグループ等での簡単なディスカッションも行いますので、積極的に参加してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回のユニットの語彙を各自の必要に応じて確認しておいてください。また、小テストの前には教科書の既習事項の確認の勉強をして頂きます。			
5. 教科書 映画総合教材『ノッティング・ヒルの恋人』（新装版）松柏社 旧版ではなく、新装版ですので、注意してください。			
6. 参考書 各自の使いやすい各種の辞書（英和・英英）を毎回持参してください。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 ○小テストの結果を踏まえて解説致します。 ○Oh!Meijiの掲示板で教科書の内容についての質問に回答致します。			
8. 成績評価の方法 ①期末試験（語彙とリスニングを主とした基礎的問題）50% ②参加 25% ③授業内小テスト 25% ※期末試験は基礎的な問題が多く、普段からきちんと行っていれば心配ありません。			
9. その他 毎回、主な内容やストーリーリーをキャッチする練習をします。その後、細部の情報を聴き取る練習や部分的なディクテーションを行います。毎回の継続的な参加により英語力を高めてください。また、この授業を通じて膨大なインプット量の確保・口語表現の拡充を目指してください。			

科目ナンバー：(BA)LAN111J			
英語（初級）B 【E2 国際教養英語】 (TOEIC300点程度対象者クラス)		岩 崎 永 一	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 教科書を読んだり, DVD教材が付いている場合はDVDを見て, 英問英答等で内容確認をする。 (2) 本文の内容をエクササイズや和訳を通じて確認する。 (3) ヴォキャブラリー練習を行う。 (4) また, 教科書以外のアップデートな記事等を用いるのにネットを利用することがある。 〈到達目標〉 教科書の内容を適切な速度で読んで理解できる。クラスのレベルにあった自然な速さの英語を聴いて意味が把握できる。詳細は第一回目の授業で説明する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：Unit 1 ふたりの男子 第3回：Unit 2 ウィルSPATに入会 第4回：Unit 3 支えが要るんだ 第5回：Unit 4 ウィルとマーカスの奇妙な友情 第6回：Unit 5 マーカスを変身させよう 第7回：Unit 6 初めての本物のクリスマス 第8回：Unit 7 ふたりが同時に恋をした 第9回：Unit 8 「ウソ」と「半端なホント」と「ホントのホント」 第10回：Unit 9 お母さんへの贈り物 第11回：Unit 10 人は孤島ではない 第12回：総復習およびSummary Writing, Comments, Discussion (1) 第13回：総復習およびSummary Writing, Comments, Discussion (2) 第14回 a：まとめ b：試験 ※上記の一部は教科書の目次を転載			
3. 履修上の注意 映画総合教材の教科書（松柏社）を用いて、リスニングの練習を通じて自然な英語の音に慣れることと英国の文化を学ぶことを主な目的とします。そのため、前期と後期で合計2冊の教科書を使用することにご留意ください。教科書についている映画のスク립トの全文音読や（もし可能でしたら）ペアーやグループ等での簡単なディスカッションも行いますので、積極的に参加してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回のユニットの語彙を各自の必要に応じて確認しておいてください。また、小テストの前には教科書の既習事項の確認の勉強をして頂きます。			
5. 教科書 映画総合教材『アバウト・ア・ボーイ』松柏社			
6. 参考書 各自の使いやすい各種の辞書（英和・英英）を毎回持参してください。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 ○小テストの結果を踏まえて解説致します。 ○Oh!Meijiの掲示板で教科書の内容についての質問に回答致します。			
8. 成績評価の方法 ①期末試験（語彙とリスニングを主とした基礎的問題）50% ②参加 25% ③授業内小テスト 25% ※期末試験は基礎的な問題が多く、普段からきちんと行っていれば心配ありません。			
9. その他 毎回、主な内容やストーリーリーをキャッチする練習をします。その後、細部の情報を聴き取る練習や部分的なディクテーションを行います。毎回の継続的な参加により英語力を高めてください。また、この授業を通じて膨大なインプット量の確保・口語表現の拡充を目指してください。			

科目ナンバー：(BA)LAN111J			
英語（初級）A 【E2 国際教養英語】 (TOEIC300点程度対象者クラス)		廣田 美 玲	
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 アメリカの学生向けニュース番組CNN Student Newsをもとに作られた教科書を用いて以下のことを行う。 (1) ニュースを理解するための重要な単語を学ぶ。それらの単語を使い、短文を作る。 (2) DVDを使用し、ニュースのスクリプトを作成する。 (3) ニュースに関する正誤問題を解き、内容を確認する。 (4) ニュースの要約を作成する。 (5) ニューストピックに関するグループプレゼンテーションをする。 〈到達目標〉 ＊ニュースに使われる語彙を増やす。 ＊時事的な事柄について英語で理解、表現できるようにする。 ＊正しい英語の発音を身に付ける。 ＊グループプレゼンテーションを通し、プレゼンテーション力やコミュニケーション力を高める。			
2. 授業内容 第1回：オリエンテーション，教科書説明など。 第2回：Unit 1 AI in Education 第3回：Unit 2 Multitasking 第4回：Unit 3 To Nap or Not to Nap? 第5回：Unit 4 Domino's Pizza Car 第6回：Unit 5 What is Flag Football 第7回：Unit 6 Chief UNO Player 第8回：グループプレゼンテーション説明・準備 第9回：グループプレゼンテーション（1） 第10回：Unit 7 Basketball Superstar 第11回：グループプレゼンテーション説明・準備 第12回：グループプレゼンテーション（2） 第13回：Unit 8 Creating Eco-Accessories 第14回：春学期のまとめ / 期末試験			
3. 履修上の注意 TOEICスコア300点程度の学生を対象としているクラスですので、設定レベルに注意して受講して下さい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 (予習) 小テストに向けて単語を覚えてくること。授業で指定された部分を読んでくること。 (復習) 授業で扱った箇所を再読し、疑問点を明らかにすること。			
5. 教科書 Sekido, Fuyuhiko, et al. <i>CNN 10 Vol.13—Student News—</i> . Asahi Press: Tokyo, 2025.			
6. 参考書 授業時に適宜紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて授業中に行います。			
8. 成績評価の方法 グループ・プレゼンテーション30%，期末試験60%，小テスト10％で評価します。			
9. その他 授業総数の3分の2以上の出席がないと、試験を受ける資格がありません。また遅刻3回で欠席1回のカウントになります。出席管理は厳しく行います。教科書は必ず購入し、授業に臨んでください。 質問は授業後かメールにて受け付けます。メールアドレスは授業時にお知らせします。			

科目ナンバー：(BA)LAN111J			
英語（初級）B 【E2 国際教養英語】 (TOEIC300点程度対象者クラス)		廣田 美 玲	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 アメリカの学生向けニュース番組CNN Student Newsをもとに作られた教科書を用いて以下のことを行う。 (1) ニュースを理解するための重要な単語を学ぶ。それらの単語を使い、短文を作る。 (2) DVDを使用し、ニュースのスクリプトを作成する。 (3) ニュースに関する正誤問題を解き、内容を確認する。 (4) ニュースの要約を作成する。 (5) ニューストピックに関するグループプレゼンテーションをする。 〈到達目標〉 ＊ニュースに使われる語彙を増やす。 ＊時事的な事柄について英語で理解、表現できるようにする。 ＊正しい英語の発音を身に付ける。 ＊グループプレゼンテーションを通し、プレゼンテーション力やコミュニケーション力を高める。			
2. 授業内容 第1回：オリエンテーション，教科書説明など。 第2回：Unit 9 Secret Education for Women 第3回：Unit 10 Drones at the Beach 第4回：Unit 11 Flying High School 第5回：Unit 12 From TikTok to the Art Gallery 第6回：Unit 13 Blue Zones 第7回：Unit 14 Fenway Farms 第8回：グループプレゼンテーション説明・準備 第9回：グループプレゼンテーション（1） 第10回：Unit 15 Recycling is Important 第11回：グループプレゼンテーション説明・準備 第12回：グループプレゼンテーション（2） 第13回：News about Women's Rights in CNN (P.55) 第14回：秋学期のまとめ / 期末試験			
3. 履修上の注意 TOEICスコア300点程度の学生を対象としているクラスですので、設定レベルに注意して受講して下さい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 (予習) 小テストに向けて単語を覚えてくること。授業で指定された部分を読んでくること。 (復習) 授業で扱った箇所を再読し、疑問点を明らかにすること。			
5. 教科書 Sekido, Fuyuhiko, et al. <i>CNN 10 Vol.13—Student News—</i> . Asahi Press: Tokyo, 2025.			
6. 参考書 授業時に適宜紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて授業中に行います。			
8. 成績評価の方法 グループ・プレゼンテーション30%，期末試験60%，小テスト10％で評価します。			
9. その他 授業総数の3分の2以上の出席がないと、試験を受ける資格がありません。また遅刻3回で欠席1回のカウントになります。出席管理は厳しく行います。教科書は必ず購入し、授業に臨んでください。 質問は授業後かメールにて受け付けます。メールアドレスは授業時にお知らせします。			

科目ナンバー：(BA)LAN111J			
英語（初級）A（統一） 【GREAT:English for Business Studies(EBS) IA】			
金子敦子・デュプリス, ジョン・神藤理恵・ マーカー, ジェイソン・リンズクーグ, アレン			
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course aims to equip the student with English skills and the basic knowledge needed to understand and discuss the key business and economics concepts. In EBS 1A, the student will learn the basic concepts of and vocabulary needed for such areas as management in general, work and motivation, company structures, cross-cultural management, recruitment, women in business and various sectors of the economy. The student will be able to understand the key concepts of and discuss basic issues in these areas in English.			
2. 授業内容 Week 1 : Introduction; 1. Management in general (1) Week 2 : 1. Management in general (2) Week 3 : 2. Work and motivation (1) Week 4 : 2. Work and motivation (2) Week 5 : 3. Company structure (1) Week 6 : 3. Company structure (2) Week 7 : Reports and presentations (1) (A company you would like to work for) Week 8 : 4. Managing across cultures (1) Week 9 : 4. Managing across cultures (2) Week 10 : 5. Recruitment Week 11 : 6. Women in business Week 12 : Reports and presentations (2) (management and diversity) Week 13 : 7. The different sectors of business Week 14 : Review and final exam			
3. 履修上の注意 This is a required course for GREAT (Global Resources English Applied Track) Students.(GREAT 1年次必修科目です。GREAT対象以外の学生は履修できません。)			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 You are expected to read before each class the parts of the textbook assigned by your instructor and do relevant exercises. As a review of the class, read aloud the parts you learned in your class to reinforce your understanding and internalize the vocabulary you learned. Each week you may be given a quiz or assigned homework.			
5. 教科書 Ian MacKenzie. English for Business Studies 3rd Edition. Cambridge University Press.			
6. 参考書 Other references and resources will be provided as handouts during class or links on Oh-o! Meiji. You should keep a file for handouts.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Provide feedback through Oh-o! Meiji (LMS) discussions as well as in-class discussions.			
8. 成績評価の方法 Assignments and quizzes: 40%; reports and presentations: 20%; final exam: 20%; class participation: 20% More than 3 absences will result in a fail (3 late = 1 absence; late means arrival within 30 minutes from the start of the class).			
9. その他 This course aims to develop your English proficiency which will assist you in business studies and business careers. Do your best and make this experience truly rewarding. The class will be taught in English.			

科目ナンバー：(BA)LAN111J			
英語（初級）B（統一） 【GREAT:English for Business Studies(EBS) IB】			
金子敦子・デュプリス, ジョン・神藤理恵・ マーカー, ジェイソン・リンズクーグ, アレン			
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course aims to equip the student with English skills and the basic knowledge needed to understand and discuss the key business and economics concepts. In EBS 1B, the student will learn the basic concepts and vocabulary needed for such areas as production, logistics, product quality, products, marketing and advertising. The student will be able to understand the key concepts of and discuss basic issues in these areas in English.			
2. 授業内容 Week 1 : Introduction; 8 Production (1) Week 2 : 8 Production (2) Week 3 : 9 Logistics (1) Week 4 : 9 Logistics (2) Week 5 : Reports and presentations (1) (global supply chain risks) Week 6 : 10 Quality (1) Week 7 : 10 Quality (2) Week 8 : 11 Products (1) Week 9 : 11 Products (2) Week 10 : 12 Marketing (1) Week 11 : 12 Marketing (2) Week 12 : Reports and presentations (2) (a product concept and a marketing plan) Week 13 : 13 Advertising Week 14 : Review and final test			
3. 履修上の注意 This is a required course for GREAT (Global Resources English Applied Track) Students.(GREAT 1年次必修科目です。GREAT対象以外の学生は履修できません。)			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 You are expected to read before each class the parts of the textbook assigned by your instructor and do relevant exercises. As a review of the class, read aloud the parts you learned in your class to reinforce your understanding and internalize the vocabulary you learned. Each week you may be given a quiz or assigned homework.			
5. 教科書 Ian MacKenzie. English for Business Studies 3rd Edition. Cambridge University Press.			
6. 参考書 Other references and resources will be provided as handouts during class or links on Oh-o! Meiji. You should keep a file for handouts.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Provide feedback through Oh-o! Meiji (LMS) discussions as well as in-class discussions.			
8. 成績評価の方法 Assignments and quizzes: 40%; reports and presentations: 20%; final exam: 20%; class participation: 20% More than 3 absences will result in a fail (3 late = 1 absence; late means arrival within 30 minutes from the start of the class).			
9. その他 This course aims to develop your English proficiency which will assist you in business studies and business careers. Do your best and make this experience truly rewarding. The class will be taught in English.			

科目ナンバー：(BA)LAN111J			
英語（初級） A（統一） 【GREAT:Academic Reading and Writing A】			
山下佳江・真継左和子・デュプリス, ジョン・モロー, ロバート			
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts. Emphasis will be placed on building academic vocabulary and comprehension skills. Objectives: ● To develop a strategic approach to reading ● To acquire good reading habits and skills ● To build confidence in reading university-level texts ● To build solid vocabulary for academic purposes			
2. 授業内容 Week 1 Introduction, Part 2 Vocabulary Building, Unit 1 Learning New Vocabulary from Your Reading Week 2 Unit 2 Inferring Meaning from Context Week 3 Unit 3 Word Parts Week 4 Unit 4 Phrases Week 5 Part 3 Comprehension skills, Unit 1 Scanning and Previewing Week 6 Unit 2 Making Inferences and Predictions Week 7 Mid-term test Week 8 Unit 3 Paragraphs: Structure and Reference Week 9 Unit 4 Identifying Patterns Week 10 Unit 5 Reading for Study Week 11 Writing summaries Week 12 Unit 7 Skimming Week 13 Part 1, Unit 3 Books for extensive reading Week 14 a. Review b.Final test			
3. 履修上の注意 1) This is a required course for GREAT (Global Resources English Applied Track) students. (GREAT1年次必修科目です。GREAT対象者以外の学生は履修できません。)			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 For this course, you will need a copy of the textbook (purchased) and have access to English-English dictionaries. Before and after classes, review what you have learned. You are expected to submit all the assignments on the due dates and take the mid-term and final exams on the exam dates. You will need to spend at least one hour for the review of the class and preparing the assigned homework every week.			
5. 教科書 Advanced Reading Power 4, by Linda Jeffries and Beatrice S. Mikulecky, Pearson			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be provided through grades or comments, or both.			
8. 成績評価の方法 Attendance & Class participation 20 Vocabulary notebook 20 Mid-term test 30 Final test 30			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN111J			
英語（初級） B（統一） 【GREAT:Academic Reading and Writing B】			
山下佳江・真継左和子・デュプリス, ジョン・モロー, ロバート			
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標			
This first-year academic writing course focuses on essay organization and sentence structure. For essay organization, unity and coherence, and citation will be introduced and practiced along with model paragraphs. For sentence structure, students will learn basic sentence types and parallelism. Prior to this course, students will do a summer-break book report (oral and written) and review elements of paragraph structure. Toward the end of the term, they will write an essay of five or more paragraphs. When appropriate, students will watch videos before the class, and their understanding will be checked at the beginning of the class. 【Guidelines for students taking Media Classes that include Zoom live】 To ensure that all participants can benefit from Media Classes it is important to have a suitable environment for taking classes. You must ensure the following conditions for participating in these classes: 1) A reliable computer or tablet with a stable connection to the internet: Smartphones are not suitable due to limited functionality. The computer must include a camera and microphone. 2) Suitable software for the class: an updated version of Zoom besides common software such as Word and PowerPoint. 3) A quiet workspace free from interruptions: This should be a private room in your home or a classroom on campus designated for taking online classes. When you take Zoom classes in a classroom, you must ensure that you keep a certain distance from other students so that your voice and other students' voices will not interfere with each other. In addition to the above requirements, please keep in mind the following points: ●During Media Classes, you will, in principle, need to have your camera always turned on. ●Particularly if you are taking writing classes, you will need to be able to type at a reasonable speed. An effective way to improve your typing speed is to use free online courses (such as https://www.typingclub.com) that teach you how to type.			
2. 授業内容			
Week 1 Introduction, ★Book report Part I: Writing a Paragraph, Chapter 1 Paragraph structure [Media-based class (Real-time Delivery)]			
Week 2 Part I: Writing a Paragraph, Chapter 1 Paragraph structure [Media-based class (Real-time Delivery)]			
Week 3 Chapter 1 Paragraph structure [Media-based class (Real-time Delivery)]			
Week 4 Part I: Writing a Paragraph, Chapter 2 Unity and Coherence [Media-based class (Real-time Delivery)]			
Week 5 Chapter 2 Unity and Coherence [Media-based class (Real-time Delivery)]			
Week 6 Chapter 2 Unity and Coherence [Media-based class (Real-time Delivery)]			
Week 7 Chapter 3 Using Outside Sources [Media-based class (Real-time Delivery)]			
Week 8 Chapter 3 Using Outside Sources [Media-based class (Real-time Delivery)]			
Week 9 Chapter 3 Using Outside Sources [Media-based class (Real-time Delivery)]			
Week 10 Part II: Writing an Essay, Chapter 4 From Paragraph to Essay [Media-based class (Real-time Delivery)]			
Week 11 Chapter 4 From Paragraph to Essay [Media-based class (Real-time Delivery)]			
Week 12 Chapter 4 From Paragraph to Essay [Media-based class (Real-time Delivery)]			
Week 13 Chapter 4 From Paragraph to Essay [Media-based class (Real-time Delivery)]			
Week 14 Review [Media-based class (Real-time Delivery)]			
3. 履修上の注意			
(1) This is a required course for GREAT (Global Resources English Applied Track) students. (GREAT1年次必修科目です。GREAT対象者以外の学生は履修できません。) (2) This is a Media-based course (「メディア授業科目」) and for the entire 14 weeks, the class will be conducted fully online through Zoom live streaming. Students will need a suitable computer, laptop, or tablet equipped with both a camera and microphone to participate via Zoom in the communicative English-based learning class.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
For this course, you will need a copy of the textbook (purchased). Before and after classes, review what you have learned. You are expected to submit all the assignments by the due dates. You will need to spend at least one hour out of class each week for review and for doing any assigned homework.			
5. 教科書			
Longman Academic Writing Series Level 4: Essays, by Alice Oshima & Ann Hogue, Pearson, ISBN: 978-0136838630			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
Feedback will be provided through grades or comments, or both.			
8. 成績評価の方法			
Attendance & Class participation 20 Summer-break book report 15 Writing assignments (10x3) & other work 35 Essay (5 Outline+25 Essay) 30 100			
※There will be no face-to-face quizzes or tests			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） A 【EM Comprehensive English】			宇野 毅
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 教科書のイギリスに関する英文の文化的な内容理解が中心となる。 英文の背後にある社会的な事象の理解に努める。 <到達目標> 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、特に、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。 簡単な単語の本当の意味も解説する予定である。 真面目に努力すれば、特に、読解力の向上が見込まれる。			
2. 授業内容 第01回 イントロダクション Chapter 1. Insulting the Neighbours; Britain and Europe 前半 第02回 Chapter 1. Insulting the Neighbours; Britain and Europe 後半 第03回 Chapter 2. The Memories of Empire 前半 第04回 Chapter 2. The Memories of Empire 後半 第05回 Chapter 3. Who are the British? 前半 第06回 Chapter 3. Who are the British? 後半 第07回 Chapter 4. British Business and the Strange Case of Doctor Death 前半 第08回 Chapter 4. British Business and the Strange Case of Doctor Death 後半 第09回 Chapter 5. The Salaryman 前半 第10回 Chapter 5. The Salaryman 後半 第11回 Chapter 6. The Worship of the Individual 前半 第12回 Chapter 6. The Worship of the Individual 後半 第13回 Chapter 7. The Battle for the Schools 前半 第14回 Chapter 7. The Battle for the Schools 後半 まとめ & 試験 上記予定は、状況によっては変更される場合があり得る。			
3. 履修上の注意 【前期と後期を合わせて共に履修することを強く推奨】 予習をしないで授業に出席することは認めないので、必ず次の範囲を予習のこと。 出席は極めて重要である。授業参加が重視されるので、辞書持参でよく準備した上できちんと出席し、授業には積極的に参加すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前の週の教科内容を復習し、次の準備をすること。特に、教科書の単語の意味をよく調べた上で授業に参加すること。			
5. 教科書 <i>The View from the Brits</i> （金星堂） 『生まれ変わるイギリス』（金星堂）			
6. 参考書 学習英和辞書および英英辞書。電子辞書でもよいので必ず授業に持ってくる。 参考書は教場で指示する			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 テスト：60%、平常点：40%を基準に、総合的に判断して評価する。 詳細は、第1回目の授業で説明する。			
9. その他 授業出席ではなく授業参加を重視するので、きちんと出席すること。			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） B 【EM Comprehensive English】			宇野 毅
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 教科書のイギリスに関する英文の文化的な内容理解が中心となる。 英文の背後にある社会的な事象の理解に努める。 <到達目標> 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、特に、読解能力に重点をおきつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。 簡単な単語の本当の意味も解説する予定である。 真面目に努力すれば、特に、読解力の向上が見込まれる。			
2. 授業内容 第01回 Chapter 8. Is British Politics Based on Cricket? 前半 第02回 Chapter 8. Is British Politics Based on Cricket? 後半 第03回 Chapter 9. Changing Fashions 前半 第04回 Chapter 9. Changing Fashions 後半 第05回 Chapter 10. The Changing Media 前半 第06回 Chapter 10. The Changing Media 後半 第07回 Chapter 11. The British Discover Food 前半 第08回 Chapter 11. The British Discover Food 後半 第09回 Chapter 12. Cars with Personality 前半 第10回 Chapter 12. Cars with Personality 後半 第11回 Chapter 13. The love Affair with Gardens 前半 第12回 Chapter 13. The love Affair with Gardens 後半 第13回 Chapter 14. The Battle for the Countryside 前半 第14回 Chapter 14. The Battle for the Countryside 後半 まとめ & 試験 上記予定は、状況によっては変更される場合があり得る。			
3. 履修上の注意 【前期と後期を合わせて共に履修することを強く推奨】 予習をしないで授業に出席することは認めないので、必ず次の範囲を予習のこと。 出席は極めて重要である。授業参加が重視されるので、辞書持参でよく準備した上できちんと出席し、授業には積極的に参加すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前の週の教科内容を復習し、次の準備をすること。			
5. 教科書 <i>The View from the Brits</i> （金星堂） 『生まれ変わるイギリス』（金星堂）			
6. 参考書 学習英和辞書および英英辞書。電子辞書でもよいので必ず授業に持ってくる。 参考書は教場で指示する			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 テスト：60%、平常点：40%を基準に、総合的に判断して評価する。 詳細は、第1回目の授業で説明する。			
9. その他 授業出席ではなく授業参加を重視するので、きちんと出席すること。			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） A 【EM Comprehensive English】			荒井 貴 和
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course is a comprehensive 4 skill-based English course which aims to further develop students' English knowledge and skills through using the appropriate textbook and through integrating the skills of listening, speaking, reading and writing. Depending on the instructor, certain aspects of language may be more focused than others. For both obtaining information (through listening and reading) and communicating thoughts (through discussion and writing), supplemental material with Internet reading or prints (with summary writing) may be used.			
2. 授業内容 Week 1. 授業の紹介、ウォーム・アップ、学習のヒントと目標設定、スピーチの作り方 Week 2. 自己紹介スピーチ(1)、グループ活動 Week 3. 自己紹介スピーチ(2) Week 4. テキスト Unit 1: Sociology—Are first impressions accurate?: introduction, listening skills Week 5. Unit 1 Sociology: note-taking, vocabulary, listening skills Week 6. Unit 1 Sociology: critical thinking, work with the video, presentation skills Week 7. Unit 2 Nutritional Science — Why do we change the foods we eat?: introduction, listening skills Week 8. Unit 2 Nutritional Science: note-taking, vocabulary, listening skills Week 9. Unit 2 Nutritional Science: critical thinking, work with the video, presentation skills Week 10. Unit 4 Marketing — How does advertising affect our behavior?: introduction, listening skills Week 11. Unit 4 Marketing: note-taking, vocabulary, listening skills, presentation skills Week 12. プレゼンテーション：Individual Presentations (1): speech and interview test Week 13. プレゼンテーション：Individual Presentations (2): speech and interview test Week 14. プレゼンテーション：Individual Presentations (3): speech and interview test、プレゼンテーションのフィードバック、全体の振り返りとまとめ、online assignment			
3. 履修上の注意 授業は原則として英語で進めます。ペアやグループで積極的に英語を使ってコミュニケーションすることが毎回の授業で求められます。学期初めに短いスピーチを、学期最後に授業で学んだことを活用してプレゼンテーションをしてもらいます。また、教科書に付随するオンラインの課題に各自で取り組むこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で活用する語彙や必要な内容をあらかじめ予習してください（具体的に指示します）。授業で学んだことを振り返って、オンライン課題を利用して復習してください。			
5. 教科書 Q: Skills for Success 3rd Edition: Level 3: Listening & Speaking Student Book with IQ Online Practice (by Miles Craven, Kristin Sherman and Larry Zwier, Oxford University Press)			
6. 参考書 なし			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に提出する課題はコメントやフィードバックを書いて基本的に次の授業で返却します。 オンライン課題についてはオンラインでのフィードバックになります。			
8. 成績評価の方法 ペア・グループ活動を含む授業への積極的参加 30% 個々の課題や提出物 35% スピーチ、プレゼンテーションと評価 35%			
9. その他 授業にはテキスト（教科書）が必要です。必ずオンラインのアクセスコードがついた教科書を入手しておくこと。英和・和英辞書を準備してください。受講者数や状況によって授業の進行に変更が生じる可能性があります。 ＊なお原則として授業中にスマートフォンやタブレット、PCなどは利用できません。			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） B 【EM Comprehensive English】			荒井 貴 和
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course is a comprehensive 4 skill-based English course which aims to further develop students' English knowledge and skills through using the appropriate textbook and through integrating the skills of listening, speaking, reading and writing. Depending on the instructor, certain aspects of language may be more focused than others. For both obtaining information (through listening and reading) and communicating thoughts (through discussion and writing), supplemental material with Internet reading or prints (with summary writing) may be used.			
2. 授業内容 Week 1. 授業の紹介、ウォーム・アップ、学習のヒントと目標設定 Week 2. スピーチ(1)（夏期休暇の振り返りと秋学期予定について）、グループ活動 Week 3. スピーチ(2) Week 4. テキスト Unit 5 Behavioral Science — Does taking risks change our lives?: introduction, listening skills Week 5. Unit 5 Behavioral Science: note-taking, vocabulary, listening skills Week 6. Unit 5 Behavioral Science: critical thinking, work with the video, presentation skills Week 7. Unit 7 Economics — Can money buy happiness?: introduction, listening skills Week 8. Unit 7 Economics: note-taking, vocabulary, listening skills Week 9. Unit 7 Economics: critical thinking, work with the video, presentation skills Week 10. Unit 8 Behavioral Science — What can we learn from success and failure?: introduction, listening skills Week 11. Unit 8 Behavioral Science: critical thinking, work with the video, presentation skills Week 12. プレゼンテーション：Individual Presentations (1): speech and interview test Week 13. プレゼンテーション：Individual Presentations (2): speech and interview test Week 14. プレゼンテーション：Individual Presentations (3): speech and interview test、プレゼンテーションのフィードバック、全体の振り返りとまとめ、online assignment			
3. 履修上の注意 授業は原則として英語で進めます。ペアやグループで積極的に英語を使ってコミュニケーションすることが毎回の授業で求められます。学期初めに短いスピーチを、学期最後に授業で学んだことを活用してプレゼンテーションをもらいます。また、教科書に付随するオンラインの課題に各自で取り組むこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で活用する語彙や必要な内容をあらかじめ予習してください（具体的に指示します）。授業で学んだことを振り返って、オンライン課題を利用して復習してください。			
5. 教科書 Q: Skills for Success 3rd Edition: Level 3: Listening & Speaking Student Book with IQ Online Practice (by Miles Craven, Kristin Sherman and Larry Zwier, Oxford University Press)			
6. 参考書 なし			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に提出する課題はコメントやフィードバックを書いて基本的に次の授業で返却します。 オンライン課題についてはオンラインでのフィードバックになります。			
8. 成績評価の方法 ペア・グループ活動を含む授業への積極的参加 30% 個々の課題や提出物 35% スピーチ、プレゼンテーションと評価 35%			
9. その他 授業にはテキスト（教科書）が必要です。必ずオンラインのアクセスコードがついた教科書を入手しておくこと。英和・和英辞書を準備してください。受講者数や状況によって授業の進行に変更が生じる可能性があります。 ＊なお原則として授業中にスマートフォンやタブレット、PCなどは利用できません。			

科目ナンバー：(BA)LAN211J			
英語（中級）A 【EM Comprehensive English】			石井千春
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 英米のポップスを教材とし、リスニング、イデオム、英語と日本語の表現の違いを学ぶ。 短い英文を読解する。			
2. 授業内容 第一講：ガイダンス 第二講～第十三講：各ユニットを二コマで終える予定。 第十四講：試験			
3. 履修上の注意 最初の授業から連続して三回欠席した学生は履修できない。体育会系の学生も同一基準で評価する。 授業中の課題を集中して行ってほしい。辞書は必ず持参する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の要点をつかんで、次週に生かしてほしい。			
5. 教科書 Learn English through Jazz and Pops (金星堂 2300円)			
6. 参考書 プリント教材			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 授業集中度を三割、試験を七割。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN211J			
英語（中級）B 【EM Comprehensive English】			石井千春
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 英米のポップスを教材とし、リスニング、イデオム、英語と日本語の表現の違いを学ぶ。 短い英文を読解する。			
2. 授業内容 第一講：ガイダンス 第二講～第十三講：各ユニットを二コマで終える予定。 第十四講：試験			
3. 履修上の注意 最初の授業から連続して三回欠席した学生は履修できない。体育会系の学生も同一基準で評価する。 授業中の課題を集中して行ってほしい。辞書は必ず持参する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の要点をつかんで、次週に生かしてほしい。			
5. 教科書 Learn English through Jazz and Pops (金星堂 2300円)			
6. 参考書 プリント教材			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 授業集中度を三割、試験を七割。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN211J			
英語（中級）A 【EM Comprehensive English】			石井千春
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 春学期水曜日3限の授業内容です。 カーペンターズの歌を教材とし、リスニング、イデオム、英語と日本語の表現の違いなどを学ぶ。			
2. 授業内容 第1回：a：イントロダクション b：Lesson 1 第2～13回：各レッスンごとに進む。 第14回：a：まとめ b：試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。			
3. 履修上の注意 最初の授業から連続して三回欠席した者は履修できない。体育会の学生も同一基準で評価する。 授業中、テキストの設問を解く、歌詞を翻訳するなどの課題を集中して行ってほしい。辞書を持ってくること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に集中して学習することを最も希望する。			
5. 教科書 The Carpenters 22Hits (成美堂出版 1700円)			
6. 参考書 プリント			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 授業集中度と小テストを平常点として三割、試験を七割。			
9. その他 ＊当科目は履修定員が設けられる場合があるので、履修方法は新年度配布の履修関連資料で確認すること。			

科目ナンバー：(BA)LAN211J			
英語（中級）B 【EM Comprehensive English】			石井千春
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 秋学期水曜日3限の授業内容です。 カーペンターズの歌を教材とし、リスニング、イデオム、英語と日本語の表現の違いなどを学ぶ。			
2. 授業内容 第1回：a：イントロダクション b：Lesson 10 第2～13回：各レッスンごとに進む。 第14回：a：まとめ b：試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。			
3. 履修上の注意 最初の授業から連続して三回欠席した者は履修できない。体育会の学生も同一基準で評価する。 授業中、テキストの設問を解く、歌詞を翻訳するなどの課題を集中して行ってほしい。辞書を持ってくること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に集中して学習することを最も希望する。			
5. 教科書 The Carpenters 22Hits (成美堂出版 1700円)			
6. 参考書 プリント			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 授業集中度と小テストを平常点として三割、試験を七割。			
9. その他 ＊当科目は履修定員が設けられる場合があるので、履修方法は新年度配布の履修関連資料で確認すること。			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） A 【EM Comprehensive English】			石 塚 あ お い
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 <到達目標> 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 Week 1 : Introduction Week 2 : Part 1: Unit 1 / New Vocabulary in Your Reading Part 2: Unit 1 / Making Good Use of the Dictionary Part 4: Reading Faster Week 3 : Part 1: Unit 1 / New Vocabulary in Your Reading Part 2: Unit 1 / Making Good Use of the Dictionary Part 4: Reading Faster Week 4 : Part 1: Unit 2 / Fiction and Nonfiction Part 2: Unit 3 / Guessing Meaning from Context Part 4: Reading Faster Week 5 : Part 1: Unit 2: Fiction and Nonfiction Part 2: Unit 3 / Guessing Meaning from Context Part 4: Reading Faster Week 6 : Part 2: Unit 3 / Guessing Meaning from Context Part 4: Reading Faster Week 7 : Part 2: Unit 3 / Guessing Meaning from Context Part 4: Reading Faster Week 8 : Mid-term Exam / Side Reader Week 9 : Part 2: Unit 4 / Word Parts Part 4: Reading Faster Week 10 : Part 2: Unit 4 / Word Parts Part 4: Reading Faster Week 11 : Part 2: Unit 4 / Word Parts Part 4: Reading Faster Week 12 : Part 2: Unit 5 / Collocations Part 4: Reading Faster Week 13 : Part 2: Unit 5 / Collocations Part 4: Reading Faster Week 14 : a. Final Exam ; b. Review			
3. 履修上の注意 この授業はリーディングに重点を置き、母国語の本を読むように英書を読みこなすことを目標としています。一般的なリーディングの授業とはかなり異なり、テキストの理解に至るまでのリーディング・プロセスに焦点を当てた内容で、速読・多読の要素が含まれます。 使用する教科書のレベルは TOEIC 500～600 程度。また、指定したサイドリーダーを1冊読んで頂き、どの程度内容を理解しているかをみる記述式テストを実施します。 様々なスキルを身につけるためには、春・秋学期ともに受講して頂くのが望ましいと思います。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 練習問題で間違った箇所は必ず見直し、不明な点や納得できない点があれば次回の授業で質問すること。			
5. 教科書 <i>More Reading Power 3</i> , 3rd ed. (Pearson) One Title from <i>Pearson English Readers</i> (Pearson)			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 毎回、授業の初めに Timed Reading を実施します（10点満点の全10回）。この合計点の20%と、サイドリーダーの記述式テスト25%、教科書の復習テスト35%、そして授業貢献度20%の割合で最終評価をします。			
9. その他 春学期受講者へ：Week 2 から教科書（ <i>More Reading Power 3</i> , 3rd ed.）を使用しますので、それまでに各自購入しておいて下さい。			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） B 【EM Comprehensive English】			石 塚 あ お い
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 <到達目標> 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 Week 1 : Introduction Week 2 : Part 3: Unit 1 / Scanning and Previewing; Unit 2 / Making Inferences Part 4: Reading Faster Week 3 : Part 3: Unit 1 / Scanning and Previewing; Unit 2 / Making Inferences Part 4: Reading Faster Week 4 : Part 3: Unit 1 / Scanning and Previewing; Unit 2 / Making Inferences Part 4: Reading Faster Week 5 : Part 3: Unit 1 / Scanning and Previewing; Unit 2 / Making Inferences Part 4: Reading Faster Week 6 : Part 3: Unit 3 / Understanding Paragraphs; Unit 4 / Identifying the Pattern Part 4: Reading Faster Week 7 : Part 3: Unit 3 / Understanding Paragraphs; Unit 4 / Identifying the Pattern Part 4: Reading Faster Week 8 : Mid-term Exam / Side Reader Week 9 : Part 3: Unit 3 / Understanding Paragraphs; Unit 4 / Identifying the Pattern Part 4: Reading Faster Week 10 : Part 3: Unit 5 / Reading Longer Passages; Unit 6 / Skimming Part 4: Reading Faster Week 11 : Part 3: Unit 5 / Reading Longer Passages; Unit 6 / Skimming Part 4: Reading Faster Week 12 : Part 3: Unit 5 / Reading Longer Passages; Unit 6 / Skimming Part 4: Reading Faster Week 13 : Part 3: Unit 5 / Reading Longer Passages; Unit 6 / Skimming Part 4: Reading Faster Week 14 : a. Final Exam ; b. Review			
3. 履修上の注意 この授業はリーディングに重点を置き、母国語の本を読むように英書を読みこなすことを目標としています。一般的なリーディングの授業とはかなり異なり、テキストの理解に至るまでのリーディング・プロセスに焦点を当てた内容で、速読・多読の要素が含まれます。 使用する教科書のレベルは TOEIC 500～600 程度。また、指定したサイドリーダーを1冊読んで頂き、どの程度内容を理解しているかをみる記述式テストを実施します。 様々なスキルを身につけるためには、春・秋学期ともに受講して頂くのが望ましいと思います。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 練習問題で間違った箇所は必ず見直し、不明な点や納得できない点があれば次回の授業で質問すること。			
5. 教科書 <i>More Reading Power 3</i> , 3rd ed. (Pearson) One Title from <i>Pearson English Readers</i> (Pearson)			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 毎回、授業の初めに Timed Reading を実施します（10点満点の全10回）。この合計点の20%と、サイドリーダーの記述式テスト25%、教科書の復習テスト35%、そして授業貢献度20%の割合で最終評価をします。			
9. その他 秋学期のみの受講者へ： Week 2 から教科書（ <i>More Reading Power 3</i> ）を使用しますので、それまでに各自必ず購入しておいて下さい。			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） A 【EM Comprehensive English】		岩 崎 永 一	
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 <到達目標> 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：Chapter 1 The Country of Diversity（指定教科書に負っています。以下、同様。）、英国研究入門 第3回：Chapter 2 England, Wales, Scotland, and Northern Ireland, 英国の成り立ち 第4回：Chapter 4 The Birth of Cultural Studies in the UK, 文化研究の意義 第5回：Chapter 5 The Languages of the UK, 言語・英語の多様性 第6回：Chapter 6 The Development of Journalism in the UK, ジャーナリズムの役割・本質 第7回：Chapter 7 The Vessel of Worldwide Art and Culture, Chapter 4 の文化研究を引き継ぎ、英国の文化の研究 第8回：Chapter 9 The History of British Democracy, 民主主義がいかに勝ち取られたという根本的理解 第9回：Chapter 10 The British Debate about the Economy, アダム・スミスおよびケインズの経済思想 第10回：Chapter 11 The Development of the Natural Sciences, 自然科学と思想の関わり 第11回：Chapter 12 The Country of Satire, 民主主義における風刺の役割と意義 第12回：Chapter 13 Nature and British People, 英国の人々の自然観 第13回：Chapter 14 Education (Cambridge and Oxford) ケンブリッジ大学とオックスフォード大学の教育制度とその卓越性・素晴らしさから学べること 第14回 a：試験 b：まとめ ※上記の一部は教科書の目次を転載致しております。			
3. 履修上の注意 英国研究（Area Studies）の授業となります。優れた英国研究の教科書を用いて、英国の文化・社会・芸術等を読み解いていきます。内容の大まかな理解を確認・促進するTrue or Falseの問題、内容の詳細を確認する問題、さらに、要約問題等を用いて理解力を確認した後、その他の内容を深める、あるいは、知識事項を練習するための補足的な活動も行っています。読解においては、できるだけ辞書に頼らず大まかな内容をつかむ訓練や特定の詳細の情報をキャッチする訓練も行います。同時に、辞書を丁寧に引く練習もして頂き、語彙の確認も丁寧にいきます。教科書本文の全文音読や（もし可能でしたら）ペアやグループ等での簡単なディスカッションも行いますので、積極的に参加してください。前期と後期で2冊の教科書を使用することにご留意ください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回のユニットの語彙を各自の必要に応じて確認しておいてください。また、小テストの前には教科書の既習事項の確認の勉強をして頂きます。復習として教科書のスクリプトの音読をお勧めします。			
5. 教科書 Aspects of British Culture Academic Approaches 『真実のイギリス 文化、社会、芸術そして科学』 （原田範行 / Andrew Houwen / 森田彰 著，金星堂）			
6. 参考書 各自の使いやすい各種の辞書（英和・英英）を毎回持参してください。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 ○小テストの結果を踏まえて解説致します。 ○Oh!Meijiの掲示板で教科書の内容についての質問に回答致します。			
8. 成績評価の方法 ①期末試験 50% ②参加 25% ③授業内小テスト 25%			
9. その他 毎回の継続的な参加により英語力を高めてください。また、この授業を通じて英国の文化・社会・歴史に対する理解を深め、また、深い洞察力・思考力を養ってください。			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） B 【EM Comprehensive English】		岩 崎 永 一	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 <到達目標> 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：教科書 Week 1 Prologue—Wedding 1 第3回：教科書 Week 2 Reception 第4回：教科書 Week 3 After the reception 第5回：教科書 Week 4 Wedding 2 第6回：教科書 Week 5 Reception 第7回：教科書 Week 6 A day off 第8回：教科書 Week 7 Wedding 3 第9回：教科書 Week 8 Funeral 第10回：教科書 Week 9 Wedding 4 (1) 第11回：教科書 Week 10 Wedding 4 (2) —Epilogue 第12回：復習とSummary Writing, Opinion Paragraph / Essay, Discussion 第13回：復習とコミュニケーション理論概説等 第14回 a：まとめ b：試験 ※上記の一部は教科書の目次を転載致しております。			
3. 履修上の注意 映画総合教材の教科書（松柏社）を用いて、後期はリーディング重視の総合学習を行います。ストーリーを理解する力、文脈を正確に理解する力、そして、多くのidiomに触れて知識を拡充することを目的とします。そのため、前期と後期で2冊の教科書を使用することにご留意ください。毎回、単語と慣用表現等の確認も丁寧にいきます。教科書についている映画のスクリプトの全文音読も行いますので、積極的に参加してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回のユニットの語彙を各自の必要に応じて確認しておいてください。また、小テストの前には教科書の既習事項の確認の勉強をして頂きます。復習として教科書のスクリプトの音読をお勧めします。			
5. 教科書 総合英語教材「フォー・ウェディング」松柏社			
6. 参考書 各自の使いやすい各種の辞書（英和・英英）を毎回持参してください。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 ①期末試験 50% ②参加 25% ③授業内小テスト 25%			
9. その他 毎回の継続的な参加によりインプット量を増し、英語力を高めてください。また、この授業を通じて膨大なインプット量の確保・口語表現の拡充を目指してください。			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） A 【EM Comprehensive English】			大塚 あゆみ
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 <到達目標> 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション, 1A Profiles 第2回：1B Life maps 第3回：1C What next? 第4回：1D English in action 第5回：2A What happened? 第6回：2B Memories 第7回：2C Culture shock 第8回：2D English in action 第9回：3A Bucket lists 第10回：4A The internet generation 第11回：4C Favorite films 第12回：5A How does it look? 第13回：5C Eating well 第14回 a：講義全体のふりかえりとまとめ b：試験			
3. 履修上の注意 ・紙媒体でも電子辞書でもよいので必ず辞書を授業に持ってくること。 ・その他は授業中に指定する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前の週の教科内容を復習し、不明な部分があれば授業で質問すること。 次の回の内容に目を通し、準備をすること。リスニングは授業内で行うので、文法問題、単語についての予習を1時間すること。			
5. 教科書 『ROADMAP B1』 Heather Jones, Monica Berlis (Pearson)			
6. 参考書 授業中に指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題は、Oh-o! Meiji の「課題フォーム」にて提出された課題を採点し、コメントと解説を添付する。			
8. 成績評価の方法 授業への参加度、平常点60％、期末試験40％で評価する。			
9. その他 授業参加を重視するので必ず出席すること。やむを得ず欠席する場合は教員に連絡し、その指示に従って課題等の埋め合わせをすること。			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） B 【EM Comprehensive English】			大塚 あゆみ
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 <到達目標> 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション, 6A Life without... 第2回：6B A difficult choice 第3回：6C Take action! 第4回：6D English in action 第5回：7A New skills 第6回：7B Life events 第7回：7C Trip of a lifetime 第8回：7D English in action 第9回：8A Changong rules 第10回：8C Natural world 第11回：9A Shopping 第12回：10A Education 第13回：10C What's in a job? 第14回 a：講義全体のふりかえりとまとめ b：試験			
3. 履修上の注意 ・紙媒体でも電子辞書でもよいので必ず辞書を授業に持ってくること。 ・その他は授業中に指定する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前の週の教科内容を復習し、不明な部分があれば授業で質問すること。 次の回の内容に目を通し、準備をすること。リスニングは授業内で行うので、文法問題、単語についての予習を1時間すること。			
5. 教科書 『ROADMAP B1』 Heather Jones, Monica Berlis (Pearson)			
6. 参考書 授業中に指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題は、Oh-o! Meiji の「課題フォーム」にて提出された課題を採点し、コメントと解説を添付する。			
8. 成績評価の方法 授業への参加度、平常点60％、期末試験40％で評価する。			
9. その他 授業参加を重視するので必ず出席すること。やむを得ず欠席する場合は教員に連絡し、その指示に従って課題等の埋め合わせをすること。			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） A 【EM Comprehensive English】		生 越 秀 子	
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この授業はTOEIC Listening Test対策の問題演習を通じて、リスニングスキルの向上とTOEIC Listening Testのスコアを集中的に伸ばすことを意図します。 TOEICテストの素材は、実際の日常生活やビジネス場面で用いられる生の英語で、学生の皆さんが今後英語圏で生活したりビジネスで英語を使用する時のベースとなる基本的な文法・語法・語彙をしっかりと学ぶのに適しています。授業では問題演習を中心に進めますが、指定されたテキスト音源を課外でシャドーイング練習することにより、リスニングとスピーキングの基礎を身に付けることができます。 〈到達目標〉 TOEIC Listening Testで用いられる会話やトークをリアルタイムで理解する力を身に付け、スピーキング力の土台を培うこと、及びTOEIC Listening Testで目標スコアを獲得することが、本講座の到達目標です。			
2. 授業内容 第1回 Introduction, Practice Test Practice Testは今期の目標設定のための現有得点力を測るテストです。受講希望者は必ず受けてください 第2回 Lesson 1 (Part 1対策) 第3回 Lesson 2 (Part 2対策) ① 第4回 Lesson 2 ② 第5回 Lesson 2 ③ 第6回 Lesson 2 ④ + Lesson 3 (Part 3対策) ① 第7回 Lesson 3 ② 第8回 Lesson 3 ③ 第9回 Lesson 3 ④ 第10回 Lesson 3 ⑤ + Lesson 4 (Part 4対策) ① 第11回 Lesson 4 ② 第12回 Lesson 4 ③ 第13回 Lesson 4 ④ 第14回 期末試験 ※上記は実際の進行によって前後することがあります。			
3. 履修上の注意 1限の授業ということもあり、TOEIC Listeningテストのスコア対策に真剣に取り組める方のみ受講してください。 また、以下をよく読んで理解したうえで受講してください。 1. テキスト購入後、お知らせするウェブサイトにからmp3音源を全てダウンロードしてください(無料)。 2. 基本的に毎週指定範囲の問題をすべて予習してきてください。 (詳しい毎週の学習範囲は第1回授業時に配布、及びクラスウェブ授業資料にアップします) 3. 授業はみなさんの予習を前提として、問題の解答を皆さんに答えていただきながら、解説を行っています。 4. テストスコアアップの秘訣は、自分が間違えた問題を「なぜ・何を間違えたか」、1問1問誤答分析することです。間違えた問題はすべて誤答分析してください。そのうち1問だけ、毎週クラスウェブのDiscussionに投稿していただきます。 5. リスニング問題の英文スクリプトは全て授業時に配布します。 6. テキストは全て英語で書かれており、それなりにチャレンジングな内容です。また、市販のTOEIC参考書や問題集と異なり、このテキストには解答や解説は付いていません。解答は授業内で全て確認してください。著作権上、解答の配布は行えませんので、注意してください。 *やむをえず欠席した方は、翌週教員に申し出て、欠席した授業時に配布されたスクリプトを受け取って解答を確認してください。 7. 欠席4回で単位取得不可能。遅刻(30分まで)3回で欠席1回にカウントします。 遅延証明書は3回まで受け付けますが、4回目以降は、通常の遅刻としてカウントします。 教科書を持参しない場合や授業に積極的に参加していない場合は、欠席扱いになりますので注意してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習: 基本的に毎週指定範囲の問題をすべて予習してきてください。 (詳しい毎週の学習範囲は第1回授業時に配布、及びクラスウェブ授業資料にアップします) 復習: 1. 授業で解答を確認しつつ間違えた問題はすべて誤答分析を行ってください。 2. Lesson 1～Lesson 2の音源は、毎週の授業で配布されるスクリプトを活用しながら、リピーティング練習を行ってください。 3. Lesson 3～Lesson 4の音源は、毎週の授業で配布されるスクリプトを活用しながら、シャドーイング練習を行ってください。 課題: 復習1の誤答分析の一部(1問)をディスカッションに投稿してください。			
5. 教科書 Complete Guide to the TOEIC TEST 4th edition (Cengage Learning社) ISBN 978 1337396530 *このテキストには今期に使用しないリーディングパートが半分以上含まれています。(同教員による同講座B[秋学期]で使用します) *また解答・解説はテキストに付いていません。			
6. 参考書 TOEIC L&Rテストこの1冊で650点(コスモピア) ISBN 978-4-86454-107-7 TOEIC L&Rテストこの1冊で750点(コスモピア) ISBN 978-4-86454-137-4 以上2冊は教員の著書ですが、授業では使用しませんが必ずしも購入する必要はありません。日本語で各パートの特徴や対策を知りたい方はご覧ください。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブのDiscussionに投稿された誤答分析については、適宜授業中にフィードバックします。			
8. 成績評価の方法 平常点61% (授業参加度、課題提出、スコアレポート等) テスト39% (ただし、第1回のPractice Testは成績に算入しません。Practice Testは今期の目標設定のための現有得点力を測るテストです。受講希望者は必ず受けてください)			
9. その他 教員は、出版社勤務経験があり、現在も英語教材の企画制作、英検・TOEIC関連の通信講座やアプリの開発、参考書の執筆などに携わっています。プライベートでは、フットボールが好きで主にイングランドのプレミアリーグを見ています。			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） B 【EM Comprehensive English】		生 越 秀 子	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この授業はTOEIC Reading Test対策の問題演習を通じて、リーディングスキルの向上とTOEIC Reading Testのスコアを集中的に伸ばすことを意図します。 TOEIC Reading Testでは、基本的な文法・語彙、そして実際の日常生活やビジネス場面で用いられる記事や広告、メール、チャット、ビジネスレターなどを素材とする読解力が試されます。授業では問題演習を中心に進めますが、指定されたニュースサイトの記事などを読む練習を課外に行うことで、読解力の基礎を培います。 〈到達目標〉 TOEIC Reading Testで用いられる文書を正確に速く理解する能力及び基本的な文法・語彙力を伸長すること、そしてTOEIC Reading Testで目標スコアを獲得することが、本講座の到達目標です。			
2. 授業内容 第1回 Introduction, Practice Test Practice Testは今期の目標設定のための現有得点力を測るテストです。受講希望者は履修が決定してなくても、必ず受けてください 第2回 Lesson 5 (Part 5対策) ① 第3回 Lesson 5 ② 第4回 Lesson 5 ③ 第5回 Lesson 5 ④ 第6回 Lesson 5 ⑤ 第7回 Lesson 6 (Part 6対策) ① 第8回 Lesson 6 ② 第9回 Lesson 7 (Part 7対策) ① 第10回 Lesson 7 ② 第11回 Lesson 7 ③ 第12回 Lesson 7 ④ 第13回 Lesson 7 ⑤ 第14回 期末試験 ※上記は実際の進行によって前後することがあります。			
3. 履修上の注意 1限の授業ということもあり、TOEIC Readingテストのスコア対策に真剣に取り組める方のみ受講してください。 また、以下をよく読んで理解したうえで受講してください。 1. 基本的に毎週指定範囲の問題をすべて予習してきてください。 (詳しい毎週の学習範囲は第1回授業時に配布、及びクラスウェブ授業資料にアップします) 2. 授業はみなさんの予習を前提として、問題の解答を皆さんに答えていただきながら、解説を行っています。 3. テストスコアアップの秘訣は、自分が間違えた問題を「なぜ・何を間違えたか」、1問1問誤答分析することです。間違えた問題はすべて誤答分析してください。そのうち1問だけ、毎週クラスウェブのDiscussionに投稿していただきます。 4. テキストは全て英語で書かれており、それなりにチャレンジングな内容です。また、市販のTOEIC参考書や問題集と異なり、このテキストには解答や解説は付いていません。解答は授業内で全て確認してください。著作権上、解答配布は行えませんので、注意してください。 *やむをえず欠席した方は、翌週教員に申し出て、欠席した授業時に配布されたスクリプトを受け取って解答を確認してください。 5. 欠席4回で単位取得不可能。遅刻(30分まで)3回で欠席1回にカウントします。 遅延証明書は3回まで受け付けますが、4回目以降は、通常の遅刻としてカウントします。 教科書を持参しない場合や授業に積極的に参加していない場合は、欠席扱いになりますので注意してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習: 基本的に毎週の学習範囲のうち指定問題をすべて予習してきてください。 (詳しい毎週の学習範囲は第1回授業時に配布、及びクラスウェブ授業資料にアップします) また、語彙力を増強するために、重要語句の例文作成を行うことが随時求められます(課題としての提出は必要なし) 復習: 1. 授業で解答を確認しつつ間違えた問題はすべて誤答分析を行ってください。 課題: 復習1の誤答分析の一部(1問)をディスカッションに投稿してください。			
5. 教科書 Complete Guide to the TOEIC TEST 4th edition (Cengage Learning社) ISBN 978 1337396530 ※テキストには今期に使用しないリスニングパートも含まれています。(同教員による同講座A[春学期]でリスニングパートを使用します) *また解答・解説はテキストに付いていません。			
6. 参考書 TOEIC L&Rテストこの1冊で650点(コスモピア) ISBN 978-4-86454-107-7 TOEIC L&Rテストこの1冊で750点(コスモピア) ISBN 978-4-86454-137-4 以上2冊は教員の著書ですが、授業では使用しませんが必ずしも購入する必要はありません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブのDiscussionに投稿された誤答分析については、適宜授業中にフィードバックします。			
8. 成績評価の方法 平常点65% (授業参加度、課題提出、小テスト、スコアレポート等) テスト35% (ただし、第1回のPractice Testは成績に算入しません。Practice Testは今期の目標設定のための現有得点力を測るテストです。受講希望者は必ず受けてください)			
9. その他 教員は、出版社勤務経験があり、現在も英語教材の企画制作、英検・TOEIC関連の通信講座やアプリの開発、参考書の執筆などに携わっています。プライベートでは、フットボールが好きで主にイングランドのプレミアリーグを見えています。			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） A 【EM Comprehensive English】			押 上 玲 奈
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 <到達目標> 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：Unit 9 What are you doing? 第3回：Unit 9 第4回：Unit 9 第5回：Presentation 第6回：Unit 7 Food 第7回：Unit 7 第8回：Unit 7 第9回：Feedback 第10回：Presentation 第11回：Unit 8 In the neighborhood 第12回：Unit 8 第13回：Feedback 第14回：Final presentation			
3. 履修上の注意 教科書・辞書（電子辞書可）・配布物は必ず毎回持参すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回ある簡単な復習課題はOh-o ! Meiji上もしくはメールにてすべて提出し、フィードバックコメントに応じて再提出等を行う事。その他、学期に3回ほどのお出しする課題については、一度提出し返却された後、Feedbackを参考にしっかりと修正を行い、Presentationのための準備を十分に行う事。			
5. 教科書 Jack C. Richards, and David Bohlke "Four Corners" 2nd edition, Level 1, Split B, Cambridge University Press and Assessment.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 原則的にOh-o ! Meiji上、必要に応じてメールでいたします。			
8. 成績評価の方法 出席（30％）〈単位修得には80％以上の出席を必要とする〉：平常点（30％）〈授業への貢献度〉：課題（40％）（特にpresentationを伴う3つの課題は全ての提出が必須）			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） B 【EM Comprehensive English】			押 上 玲 奈
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 <到達目標> 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：Unit 8 Fun in the city 第3回：Unit 8 第4回：Unit 8 第5回：Presentation 第6回：Unit 9 People 第7回：Unit 9 第8回：Unit 9 第9回：Feedback 第10回：Presentation 第11回：Unit 10 In a restaurant 第12回：Unit 10 第13回：Feedback 第14回：Final presentation			
3. 履修上の注意 教科書・辞書（電子辞書可）・配布物は必ず毎回持参すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回ある簡単な復習課題はOh-o ! Meiji上もしくはメールにてすべて提出し、フィードバックコメントに応じて再提出等を行う事。その他、学期に3回ほどのお出しする課題については、一度提出し返却された後、Feedbackを参考にしっかりと修正を行い、Presentationのための準備を十分に行う事。			
5. 教科書 Jack C. Richards, and David Bohlke "Four Corners" 2nd edition, Level 2, Split B, Cambridge University Press and Assessment.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 原則的にOh-o ! Meiji上、必要に応じてメールでいたします。			
8. 成績評価の方法 出席（30％）〈単位修得には80％以上の出席を必要とする〉：平常点（30％）〈授業への貢献度〉：課題（40％）（特にpresentationを伴う3つの課題は全ての提出が必須）			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） A 【EM Comprehensive English】		熊倉 麻名	
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 a. テキストブック以外の学習 (1) プレゼンテーションを行う (2) 質疑・応答を行う (3) 評価を書く b. テキスト学習：各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 〈到達目標〉 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第1回：a:英語でインタビュー① b. 英文履歴書 第2回：a:英語でインタビュー② b. 応募の手紙 第3回：a:グループ発表① b. 1. 目的を告げる 第4回：a:グループ発表② b. 2. 初対面 第5回：a:グループ発表③ b. 3. 名刺を渡す 第6回：a:最終プレゼン説明 b. 4. 電話 第7回：a:最終プレゼンとQ&A b. 5. 電話トラブル 第8回：a:最終プレゼンとQ&A b. 6. 空港で 第9回：a:最終プレゼンとQ&A b. 7. 依頼 第10回：a:最終プレゼンとQ&A b. 8. 伝言 第11回：a:最終プレゼンとQ&A b. 9. 問い合わせ 第12回：a:最終プレゼンとQ&A b. 10. アポをとる 第13回：a: プレゼンの振り返り b: テキスト学習振り返り 第14回：筆記試験、試験の振り返り 注) 1. a. プレゼンの学習（主に授業前半） b. テキスト学習（主に授業後半） 2. 履修生の人数や事情により、日程が前後または変更される可能性があります。			
3. 履修上の注意 1. 感染症対策のための大学の指針に沿って授業を行います。（大学からの指示等により、授業内容・スケジュールを多少変更する場合があります。） 2. 授業では辞書が必要です。 3. 火曜日2, 3, 4 限は同じ授業のため複数履修は出来ません。ご注意ください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ＜主に授業時間の前半＞ a-1: Writingは書く力を伸ばすために自分自身で進め、チェックを受けたら推敲して復習しましょう。 a-2: より良いプレゼンを目指して、発表前に原稿とパワポのスライドを使って自分自身でリハーサルを行いましょう。 終了後はクラスメートからのメッセージカードを読みながら反省点を確認しましょう。 ＜主に授業時間の後半＞ b: テキスト学習では予習と復習によってビジネス定型文を習得しましょう。			
5. 教科書 English for Business Communication (和名：『ビジネスコミュニケーション』) 南雲堂			
6. 参考書 準備・購入不要 (授業に必要な参考資料については、適宜、授業内で配布またはOh-o ! Meijiのお知らせや授業資料に出します。)			
7. 課題に対するフィードバックの方法 1. 提出物への教員書き込みによるフィードバック。 2. メールでのフィードバック（原稿やパワーポイントスライドの修正依頼と修正、修正後のやり取り）。 3. 発表後の振り返り（学生記入）に対するフィードバック。			
8. 成績評価の方法 a. プレゼン（原稿＆パワポ・発表・Q&A、評価表記載）50% b. テキスト学習（授業貢献、筆記試験）50%			
9. その他 諸処の事情によりスケジュールは変更されることがあります。			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） B 【EM Comprehensive English】		熊倉 麻名	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 a. テキストブック以外の学習 (1) プレゼンテーションを行う (2) 質疑・応答を行う (3) 評価を書く b. テキスト学習：各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 〈到達目標〉 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第1回：a:英語でインタビュー b. 慶弔文① 第2回：a:英語でインタビュー b. 慶弔文② 第3回：a:プレゼン概要説明、トピック選択 b. 11 要求 第4回：a:英語でアンケート&回答 b. 12 詫げる 第5回：a:英語でアンケート&回答 b. 13 アポをとる 第6回：a:英語でアンケート&回答 b. 14 不在の知らせ 第7回：a:英語でアンケート&回答 b. 15 確認 第8回：a:最終プレゼンとQ&A b. 16 添付 第9回：a:最終プレゼンとQ&A b. 17 求人 第10回：a:最終プレゼンとQ&A b. 18 提案 第11回：a:最終プレゼンとQ&A b. 19 異動 第12回：a:最終プレゼンとQ&A b. 20 お別れ 第13回：a: プレゼンの振り返り b: テキスト学習まとめ 第14回：b. 期末筆記試験と試験の振り返り 注) a. 主に授業の前半にプレゼン学習を行います。 b. 主に授業の後半にテキスト学習（ビジネスコミュニケーション）を行います。			
3. 履修上の注意 1. 感染症対策：大学の指針に沿って授業を行います。その際には、授業内容・スケジュールを多少変更する場合があります。 2. 授業では辞書が必要です。 3. 火曜日2, 3, 4 限は同じ授業のため、復習履修は出来ませんのでご注意ください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ＜主に授業の前半＞ a-1: プレゼンのためのWritingは書く力を伸ばすために自分自身で進め、チェックを受けたら推敲して復習しましょう。 a-2: より良いプレゼンを目指して、発表前に原稿とパワポのスライドを使って自分自身でリハーサルを行いましょう。 プレゼン終了後は自己採点をしましょう。クラスメートからの評価&メッセージカードを読みながら反省点を確認しましょう。 ＜主に授業の後半＞ b: テキスト学習は予習と復習によってビジネス定型文を習得しましょう。			
5. 教科書 English for Business Communication 和名：『ビジネスコミュニケーション』(南雲堂)			
6. 参考書 不要 (授業で必要な参考資料は授業中に配布、またはOh-o ! Meijiのお知らせや授業資料に出します。)			
7. 課題に対するフィードバックの方法 1. 提出物への教員書き込みによるフィードバック。 2. メールでのフィードバック（原稿やパワーポイントスライドの修正依頼と修正、修正後のやり取り）。 3. 発表後の振り返り（学生記入）に対するフィードバック。			
8. 成績評価の方法 a. Writing/Presentation（原稿＆パワポ作成・発表、質疑応答、評価表記入）50% b. テキスト学習（授業貢献、筆記試験）50%			
9. その他 諸処の事情によりスケジュールは変更されることがあります。			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） A 【EM Comprehensive English】			小池 知之
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 <到達目標> 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第1回：英文readingへのイントロダクション 機能語、内容語を中心に 第2回：分詞構文とReading 第3回：単文構造と節について 第4回：重文構造と等位接続し 第5回：副文構造と従属接続し 第6回：主語と同格構造 第7回：関係詞節と速読 第8回：副詞節と速読 第9回：名詞節の注意点 第10回：形容詞節の注意点 第11回：readingとwritingの相関性 1 第12回：readingとwritingの相関性 2 第13回：readingとlisteningの相関性 第14回a：試験 b：講義のふりかえりと試験の解説			
3. 履修上の注意 基本英文法の構築が多方済んでいることが望まれる。また指定教科書がJapanTimes紙よりの引用なので英文自体はnaitiveによるnaitive対象の物になり高度であるので日頃より多方面にわたる英文を読んでいることが望まれる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 指定してある教科書の予習においては構文構造の確認に重点をおいて、また復習においては構文の再構築に基づく速読を意識して行って欲しい。readingを日常の習慣にしてもらいたい。			
5. 教科書 Amazing Japan Christopher Valvona 朝日出版社			
6. 参考書 英語で話す日本経済 講談社			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 隔週で演習を課しレポート提出を求める。これらを20％、授業への貢献度10％、期末試験を70％で評価する。			
9. その他 質問等は毎授業時ないで即座にして欲しい。			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） B 【EM Comprehensive English】			小池 知之
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 <到達目標> 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第1回：writingへのイントロダクション 5文型を中心に 第2回：機能語とwriting 第3回：内容語とwriting 第4回：節と句の違いとwriting 第5回：名詞節とwriting 第6回：副詞節とwriting 第7回：形容詞節とwriting 第8回：topic sentenceの書き方 第9回：support sentenceの書き方 第10回：conclusionの書き方 第11回：パラグラフとエッセイ 1 第12回：パラグラフとエッセイ 2 第13回：writingにおける誤りの例 第14回 a：試験 b：講義のふりかえりと試験の解説			
3. 履修上の注意 基本英文法の構築が多方済んでいることが望まれる。また指定教科書がJapanTimes紙よりの引用なので英文自体はnaitiveによるnaitive対象の物になり高度であるので日頃より多方面にわたる英文を読んでいることが望まれる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 指定してある教科書の予習においては構文構造の確認に重点をおいて、また復習においては構文の再構築に基づく速読を意識して行って欲しい。readingを日常の習慣にしてもらいたい。			
5. 教科書 Amazing Japan Christopher Valvona 朝日出版社			
6. 参考書 英語で話す日本経済 講談社			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 隔週で演習を課しレポート提出を求める。これらを20％、授業への貢献度10％、期末試験を70％で評価する。			
9. その他 質問等は毎授業時ないで即座にして欲しい。			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） A 【EM Comprehensive English】			相馬 美明
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <授業の概要> 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 <到達目標> 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 文学作品の購読を基軸に、映画を使った会話のディクテーション、音楽のリスニング、笑い話の書き取り（T or F）などなど、様々な形で英語を楽しみながら学んでいく。 このコースは、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。 第1回：イントロダクション，年間計画，諸注意など 第2回：Kwaidan 1, Exercise 1 PART A, Film 1 第3回：Film 1-2, Your Song, Questions 第4回：Kwaidan 2, Exercise 2 PART B, Film 3 第5回：Kwaidan 3, Exercise 3 PART C, Film 3-4 第6回：Film 4-5, Top of the world, Questions 第7回：Kwaidan 4, Exercise 4 PART A, Film 5-6 第8回：Kwaidan 5, Exercise 5 PART B, Film 7 第9回：Exercise 6 PART C, Film 8, レポート内容説明，指示 第10回：Kwaidan 6, Exercise 7 PART A, The sound of silence, Film 8-9 第11回：Kwaidan 7, Exercise 8 PART B, Film 9 第12回：Kwaidan 8, Exercise 9 PART C, Film 9-10 第13回：Exercise PART A-C, まとめ 第14回 a：期末試験 b：正答解説			
3. 履修上の注意 リスニング・スピーキングの上達には毎日の練習が必要である。授業中の練習に加えて教室外でも練習を行うことを心がける。指示された課題は必ずこなし、予習も必須である。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内で学習した表現の反復練習のみならず、授業外では英語でニュースを聞いたり、また字幕なしで映画を見るなど、普段の生活においても意識的に英語に触れ、関心を深めてもらいたい。またそのことを通じ、自信をつけてもらいたいと考える。			
5. 教科書 教科書は特に指定せず、毎回プリントを使用する。			
6. 参考書 必要に応じ適宜、紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 できうる限り授業内においてフィードバックしたいと考える。あるいは必要に応じOh-o!Meijiに掲載、対応したい。			
8. 成績評価の方法 平常点（20%）：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。 学期末試験（60%）：必ず受験すること。 レポート（10%）：授業中に指示する内容にそって提出すること。 プレゼンテーション（10%）：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） B 【EM Comprehensive English】			相馬 美明
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <授業の概要> 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 <到達目標> 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 文学作品の購読を基軸に、映画を使った会話のディクテーション、音楽のリスニング、笑い話の書き取り（T or F）などなど、様々な形で英語を楽しみながら学んでいく。 このコースは、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。 第1回：秋学期予定確認，Exercise 13 PART A, Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone 第2回：Story 9, Exercise 14 PART B, Excellent power of memory, Film 1 第3回：Story 10, Exercise 16 PART C, Coin changer, Film 1 第4回：Story 11, Exercise 17 PART A, Diplomacy, Film 1-2 第5回：Exercise 18 PART B, プレゼンテーションについて指示，説明 第6回：Story 12, Exercise 19 PART C, Film 2, She's got a way. 第7回：Story 13, Exercise 20 PART A, Film 2-3 第8回：Exercise 21 PART B, Film 3, The Story of O-TEI 第9回：Exercise 22 PART C, Film 3-4 第10回：Exercise PART A-C まとめ，力だめし 第11回：プレゼンテーション [1] 第12回：プレゼンテーション [2] 第13回：プレゼンテーション [3] 第14回 a：期末試験 b：正答解説			
3. 履修上の注意 リスニング・スピーキングの上達には毎日の練習が必要である。授業中の練習に加えて教室外でも練習を行うことを心がける。指示された課題は必ずこなし、予習も必須である。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内で学習した表現の反復練習のみならず、授業外では英語でニュースを聞いたり、また字幕なしで映画を見るなど、普段の生活においても意識的に英語に触れ、関心を深めてもらいたい。またそのことを通じ、自信をつけてもらいたいと考える。			
5. 教科書 教科書は特に指定せず、毎回プリントを使用する。			
6. 参考書 必要に応じ適宜、紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 できうる限り授業内においてフィードバックしたいと考える。あるいは必要に応じOh-o!Meijiに掲載、対応したい。			
8. 成績評価の方法 平常点（20%）：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。 学期末試験（60%）：必ず受験すること。 レポート（10%）：授業中に指示する内容にそって提出すること。 プレゼンテーション（10%）：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN211J			
英語（中級）A 【EM Comprehensive English】			高梨絵梨沙
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 〈到達目標〉 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第1回：春学期ガイダンス、ショートスピーチ 第2回：Unit 1 ① 第3回：Unit 1 ② 第4回：Unit 1 ③ 第5回：Unit 3 ① 第6回：Unit 3 ② 第7回：Unit 3 ③ 第8回：Unit 4 ① 第9回：Unit 4 ② 第10回：Unit 4 ③、英語プレゼンテーション 第11回：Unit 4 ④ 第12回：Unit 5 ① 第13回：Unit 5 ② 第14回 a：試験 b：春学期のまとめ			
3. 履修上の注意 授業参加を重視するので、必ず出席し、クラスのアクティビティに積極的に参加すること。 ※火曜日4時限 高梨担当の「英語(中級)A」は、この授業と同内容の授業となります。(毎回の授業で学習するテキストの範囲も同じです。)その為、3、4時限2時間続けて両方履修することはできません。3時限もしくは4時限どちらかの履修をお願いします。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前の週に指示する課題を中心に、次回の準備をすること。			
5. 教科書 『Roadmap B1 Students' Book & Interactive eBook with digital resources & mobile app』Pearson (Monica Berlis, Heather Jones著、2024年)			
6. 参考書 英和(和英)辞書、および英々辞書。電子辞書でもよいので必ず毎回授業に持参すること。 (教室でスマートフォンを辞書の代わりに使用するのは不可とします。))			
7. 課題に対するフィードバックの方法 ○プレゼンテーション原稿等の提出物は、教員が書き込みをし、授業時に返却を行います。 ○授業中に行う小テストに関しては採点后、授業時に返却、解説を行います。			
8. 成績評価の方法 平常点：60%、定期テスト：40% 詳細は、第一回目の授業で説明する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN211J			
英語（中級）B 【EM Comprehensive English】			高梨絵梨沙
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 〈到達目標〉 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第1回：秋学期ガイダンス、ショートスピーチ 第2回：Unit 6 ① 第3回：Unit 6 ② 第4回：Unit 6 ③ 第5回：Unit 7 ① 第6回：Unit 7 ② 第7回：Unit 7 ③ 第8回：Unit 7 ④、英語プレゼンテーション 第9回：Unit 8 ① 第10回：Unit 8 ② 第11回：Unit 8 ③ 第12回：Unit 10 ① 第13回：Unit 10 ② 第14回 a：試験 b：秋学期のまとめ			
3. 履修上の注意 授業参加を重視するので、必ず出席し、クラスのアクティビティに積極的に参加すること。 ※火曜日4時限 高梨担当の「英語(中級)B」はこの授業と同内容の授業となります。(毎回の授業で学習するテキストの範囲も同じです。)その為、3、4時限2時間続けて両方履修することはできません。3時限もしくは4時限どちらかの履修をお願いします。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前の週に指示する課題を中心に、次回の準備をすること。			
5. 教科書 『Roadmap B1 Students' Book & Interactive eBook with digital resources & mobile app』Pearson (Monica Berlis, Heather Jones著、2024年)			
6. 参考書 英和(和英)辞書および英々辞書。電子辞書でもよいので必ず毎回授業に持参すること。 (教室でスマートフォンを辞書の代わりに使用するのは不可とします。))			
7. 課題に対するフィードバックの方法 ○プレゼンテーション原稿等の提出物は、教員が書き込みをし、授業時に返却を行います。 ○授業中に行う小テストに関しては採点后、授業時に返却、解説を行います。			
8. 成績評価の方法 平常点：60%、定期テスト：40% 詳細は、第一回目の授業で説明する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） A 【EM Comprehensive English】		戸 田 博 之	
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 皆さんは「金融」という言葉を聞いて何を思い浮かべますか？例えば皆さんの持っている普通預金、クレジットカード、そしてスマホに入っている電子マネー。また学生ローンや奨学金といった制度を利用して大学に通っている人もいます。さらには株式、債券、不動産、仮想通貨などというものに興味を持っている人もいます。これらはすべて金融商品と呼ばれるものです。これらを提供する業界を金融業界といいます。その中には銀行、証券会社、保険会社、クレジットカード会社などがあります。これらに共通する「金融」のエッセンスはなんなのでしょう？この講座では、英語で提供されている金融に関する情報・資料を教材として、金融とは何か、金融と皆さんはどう関わっているのか、そして金融商品という商品を買者として購入する際に、賢い買い方・使い方をするために身につけておくべき知識の獲得を目指します。併せて、英語で金融を理解する、英語で金融概念を伝える力をつけることを目指します。 〈Overview〉 What comes to mind when you hear the word "finance"? Perhaps you think of your savings account, credit cards, or electronic money stored on your smartphone. Some of you may be attending university with the help of student loans or scholarships. Others might be interested in stocks, bonds, real estate, or cryptocurrencies. All of these are referred to as financial products. The industry that provides these products is called the financial industry, which includes banks, securities firms, insurance companies, and credit card companies. But what is the essence of "finance" that ties all of these together? In this course, using materials and resources related to finance that are available in English, we will explore what finance is, how it connects to you, and the knowledge you need to become a wise consumer when purchasing or using financial products. Additionally, the course aims to develop your ability to understand finance in English and communicate financial concepts in English. 〈到達目標〉 1. ファイナンスの本質的な意味、その社会における役割、そして私たちとのつながりを説明することができる。 2. 賢い消費者としてお金を扱うために必要なファイナンスの基本的な知識（金融リテラシー）を説明することができる。 3. 上記を英語で説明することができる。 〈Learning Objectives〉 1. Be able to explain the essential meaning of finance, its role in society, and its connection to us. 2. Be able to explain the basic knowledge of finance (financial literacy) necessary to manage money as a wise consumer. 3. Be able to explain the above concepts in English.			
2. 授業内容 Week 1 Course orientation（コースガイダンス） Economic Trend 景気 Week 2 Economic Trend 景気 Week 3 Interest Rate 金利 Week 4 Interest Rate 金利 Week 5 Government Bonds 国債 Week 6 Government Bonds 国債 Week 7 Mid-term Exam 中間テスト Week 8 Currency Exchange 為替 Week 9 Currency Exchange 為替 Week 10 Financial Business 金融機関 Week 11 Financial Business 金融機関 Week 12 The Central Bank 中央銀行 Week 13 The Central Bank 中央銀行 Week 14 Final Exam 期末テスト			
3. 履修上の注意 講師が国際金融に長年携わってきた経験を踏まえて、春学期は企業がその活動をする上でどのようにお金を扱っているか、また、個人とお金はどのように関わっているかという2つの側面から、「英語で金融を学ぶ」をモットーにコースの運営を行う。この期には、英語で金融に関する基礎的知識を整理しながら獲得して行くことを目指す。 秋学期には、春学期で身につけた金融の切り口を踏まえて、現在の企業経営環境を捉える観点から、ケーススタディ方式でホット 이슈を多く採り上げ、ディスカッションの材料とする。いわば、「英語で企業経営の課題を探る」ことを目指す。 半期履修の場合も通年履修の場合も、積極的に授業内容を吸収し、授業に参加することが求められるので、欠席は極力しないよう努力して欲しい。 Building on the instructor's extensive experience in international finance, this course is structured around the theme of "learning finance in English." The spring semester will focus on two aspects: how companies manage money in their operations and how individuals interact with money. The goal is to acquire a broad understanding of finance in English while organizing and expanding knowledge on the subject. In the fall semester, building on the financial perspectives developed in the spring, the course will shift to examining the current corporate management environment. Using a case study approach, the focus will be on exploring hot issues and using them as material for discussions. The aim will be to "explore corporate management challenges in English." Whether students take the course for one semester or the entire academic year, they are expected to absorb the course content and participate in class actively. Efforts should be made to minimize absences as much as possible.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予め読解課題を指定するので、授業に出席する前に読み、疑問点を整理して来ること。また、その疑問を授業の場で実際に質問の形で講師および他の学生に投げかける姿勢で臨んで欲しい。（ただし、事前読解の時間が取れない場合でも、予習をしていないことで気後れして欠席することはせず、授業にはしっかり出席し、その場での議論に積極的に参加して欲しい） 適宜範囲を指定して小テストを行うので、しっかり準備して臨むこと。中間テストと期末テストを実施する。 Reading assignments will be specified in advance, so read them before class and organize any questions or areas of confusion. Students are encouraged to actively participate by posing these questions to the instructor and other classmates during the lessons. (However, even if you are unable to set aside time for pre-reading, do not let the lack of preparation prevent you from attending class. Instead, make an effort to attend and engage actively in the discussions.) Short quizzes will be administered as needed on specific sections, so prepare thoroughly for these. Midterm and final exams will also be conducted.			
5. 教科書 First Time Economics Learning about Money and Finance in English 総合英語で学ぶ 大学生のための経済とお金のきほん 戸田博之 / Charles LeBeau 著 金星堂			
6. 参考書 適宜指示する。インターネット上の映像など、オーディオビジュアル教材を事前の視聴なども随時指示する。Instructions will be given as necessary. Students may also be directed to watch audiovisual materials, such as videos available online, in advance.			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 出席および授業への参画・貢献（毎回の課題として「振り返りシート」を提出。特に質問の多さを高く評価する）：20% 小テスト、宿題：20% 中間テスト：30% 期末テスト：30% Grading Breakdown: Attendance and Participation/Contribution (including submission of a "Reflection Sheet" for each class; active questioning is especially highly evaluated): 20% Quizzes and Homework: 20% Midterm Exam: 30% Final Exam: 30%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） B 【EM Comprehensive English】		戸 田 博 之	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 皆さんは「金融」という言葉を聞いて何を思い浮かべますか？例えば皆さんの持っている普通預金、クレジットカード、そしてスマホに入っている電子マネー。また学生ローンや奨学金といった制度を利用して大学に通っている人もいます。さらには株式、債券、不動産、仮想通貨などというものに興味を持っている人もいます。これらはすべて金融商品と呼ばれるものです。これらを提供する業界を金融業界といいます。その中には銀行、証券会社、保険会社、クレジットカード会社などがあります。これらに共通する「金融」のエッセンスはなんなのでしょう？この講座では、英語で提供されている金融に関する情報・資料を教材として、金融とは何か、金融と皆さんはどう関わっているのか、そして金融商品という商品を買者として購入する際に、賢い買い方・使い方をするために身につけておくべき知識の獲得を目指します。併せて、英語で金融を理解する、英語で金融概念を伝える力をつけることを目指します。 〈Overview〉 What comes to mind when you hear the word "finance"? Perhaps you think of your savings account, credit cards, or electronic money stored on your smartphone. Some of you may be attending university with the help of student loans or scholarships. Others might be interested in stocks, bonds, real estate, or cryptocurrencies. All of these are referred to as financial products. The industry that provides these products is called the financial industry, which includes banks, securities firms, insurance companies, and credit card companies. But what is the essence of "finance" that ties all of these together? In this course, using materials and resources related to finance that are available in English, we will explore what finance is, how it connects to you, and the knowledge you need to become a wise consumer when purchasing or using financial products. Additionally, the course aims to develop your ability to understand finance in English and communicate financial concepts in English. 〈到達目標〉 1. ファイナンスの本質的な意味、その社会における役割、そして私たちとのつながりを説明することができる。 2. 賢い消費者としてお金を扱うために必要なファイナンスの基本的な知識（金融リテラシー）を説明することができる。 3. 上記を英語で説明することができる。 〈Learning Objectives〉 1. Be able to explain the essential meaning of finance, its role in society, and its connection to us. 2. Be able to explain the basic knowledge of finance (financial literacy) necessary to manage money as a wise consumer. 3. Be able to explain the above concepts in English.			
2. 授業内容 Week 1 Course orientation（コースガイダンス） Foreign Trade 貿易 Week 2 Foreign Trade 貿易 Week 3 Japanese Industry 日本の産業 Week 4 Japanese Industry 日本の産業 Week 5 Starting a Business 起業と就職 Week 6 Starting a Business 起業と就職 Week 7 Mid-term Exam 中間テスト Week 8 Social Security 社会保険 Week 9 Social Security 社会保険 Week 10 Declining Birthrate and Aging Population 少子高齢化と経済 Week 11 Declining Birthrate and Aging Population 少子高齢化と経済 Week 12 Stock Investment 株式投資 Week 13 Stock Investment 株式投資 Week 14 Final Exam 期末テスト			
3. 履修上の注意 本科日は受講人数に制限があり、履修に際しては事前登録が必要となるので、「経営学部履修の手引き」を参照すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予め読解課題を指定するので、授業に出席する前に読み、疑問点を整理して来ること。また、その疑問を授業の場で実際に質問の形で講師および他の学生に投げかける姿勢で臨んで欲しい。（ただし、事前読解の時間が取れない場合でも、予習をしていないことで気後れして欠席することはせず、授業にはしっかり出席し、その場での議論に積極的に参加して欲しい） 適宜範囲を指定して小テストを行うので、しっかり準備して臨むこと。中間テストと期末テストを実施する。 Reading assignments will be specified in advance, so read them before class and organize any questions or areas of confusion. Students are encouraged to actively participate by posing these questions to the instructor and other classmates during the lessons. (However, even if you are unable to set aside time for pre-reading, do not let the lack of preparation prevent you from attending class. Instead, make an effort to attend and engage actively in the discussions.) Short quizzes will be administered as needed on specific sections, so prepare thoroughly for these. Midterm and final exams will also be conducted.			
5. 教科書 First Time Economics Learning about Money and Finance in English 総合英語で学ぶ 大学生のための経済とお金のきほん 戸田博之 / Charles LeBeau 著 金星堂			
6. 参考書 適宜指示する。インターネット上の映像など、オーディオビジュアル教材を事前の視聴なども随時指示する。Instructions will be given as necessary. Students may also be directed to watch audiovisual materials, such as videos available online, in advance.			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 出席および授業への参画・貢献（毎回の課題として「振り返りシート」を提出。特に質問の多さを高く評価する）：20% 小テスト、宿題：20% 中間テスト：30% 期末テスト：30% Grading Breakdown: Attendance and Participation/Contribution (including submission of a "Reflection Sheet" for each class; active questioning is especially highly evaluated): 20% Quizzes and Homework: 20% Midterm Exam: 30% Final Exam: 30%			
9. その他 講師が国際金融に長年携わってきた経験を踏まえて、春学期は企業がその活動をする上でどのようにお金を扱っているか、また、個人とお金はどうに関わっているかという2つの側面から、「英語で金融を学ぶ」をモットーにコースの運営を行う。この期には、英語で金融に関する基礎的知識を整理しながら獲得して行くことを目指す。 秋学期には、春学期で身につけた金融の切り口を踏まえて、現在の企業経営環境を捉える観点から、ケーススタディ方式でホット 이슈を多く採り上げ、ディスカッションの材料とする。いわば、「英語で企業経営の課題を探る」ことを目指す。 半期履修の場合も通年履修の場合も、積極的に授業内容を吸収し、授業に参加することが求められるので、欠席は極力しないよう努力して欲しい。 Building on the instructor's extensive experience in international finance, this course is structured around the theme of "learning finance in English." The spring semester will focus on two aspects: how companies manage money in their operations and how individuals interact with money. The goal is to acquire a broad understanding of finance in English while organizing and expanding knowledge on the subject. In the fall semester, building on the financial perspectives developed in the spring, the course will shift to examining the current corporate management environment. Using a case study approach, the focus will be on exploring hot issues and using them as material for discussions. The aim will be to "explore corporate management challenges in English." Whether students take the course for one semester or the entire academic year, they are expected to absorb the course content and participate in class actively. Efforts should be made to minimize absences as much as possible.			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） A 【EM Comprehensive English】			中村美 帆 子
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 <到達目標> 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：Voice 2 (Bringing Medicine to the African Backcountry) 1 第3回：Voice 2-2 第4回：Voice 4 (The Matcha Business: A Maverick Spirit) 1 第5回：Voice 4-2 第6回：小テスト1, まとめ 第7回：Voice 5 (French Refugee Integration) 1 第8回：Voice 5-2 第9回：Voice 6 (The Power of Biologging) 1 第10回：Voice 6-2 第11回：小テスト2, まとめ 第12回：Voice 7 (Farming Is the Future) 1 第13回：Voice 7-2 第14回：a. 試験, b. まとめ			
3. 履修上の注意 1. NHKの英語インタビュー番組を収録した教科書から5つのvoiceを選んで使用する。 2. 毎回の授業には、必ず辞書を持参すること（英和、和英）。 3. 5回以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻・早退は3回で1回の欠席とみなす。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：単語や表現を辞書で調べ、練習問題を解く（1時間）。 復習：内容や語彙を確認し、小テストと試験に備える（1時間）。			
5. 教科書 『Inspiring Voices: 15 Interviews from NHK Direct Talk / NHK Direct Talk 世界を変える声を聞く』, Megumi Kobayashi他著（金星堂） ※大学の書店で必ず購入すること。			
6. 参考書 資料を適宜配布する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストの解答・解説は、授業内に直接またはOh-o!Meijiを通じて示す。			
8. 成績評価の方法 期末試験50％, 小テスト30％, 授業への参加度20％			
9. その他 連絡先：最初の講義で示す。			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） B 【EM Comprehensive English】			中村美 帆 子
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 <到達目標> 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：Voice 9 (Helping the Socially Vulnerable) 1 第3回：Voice 9-2 第4回：Voice 10 (The Danish Recipe for Happiness) 1 第5回：Voice 10-2 第6回：小テスト1, まとめ 第7回：Voice 11 (Knitting the Future by Hand) 1 第8回：Voice 11-2 第9回：Voice 12 (Towards a Zero-Waste Future) 1 第10回：Voice 12-2 第11回：小テスト2, まとめ 第12回：Voice 13 (The Healing Power of Dogs) 1 第13回：Voice 13-2 第14回：a. 試験, b. まとめ			
3. 履修上の注意 1. NHKの英語インタビュー番組を収録した教科書から5つのvoiceを選んで使用する。 2. 毎回の授業には、必ず辞書を持参すること（英和、和英）。 3. 5回以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻・早退は3回で1回の欠席とみなす。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：単語や表現を辞書で調べ、練習問題を解く（1時間）。 復習：内容や語彙を確認し、小テストと試験に備える（1時間）。			
5. 教科書 『Inspiring Voices: 15 Interviews from NHK Direct Talk / NHK Direct Talk 世界を変える声を聞く』, Megumi Kobayashi他著（金星堂） ※大学の書店で必ず購入すること。			
6. 参考書 資料を適宜配布する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストの解答・解説は、授業内に直接またはOh-o!Meijiを通じて示す。			
8. 成績評価の方法 期末試験50％, 小テスト30％, 授業への参加度20％			
9. その他 連絡先：最初の講義で示す。			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） A 【EM Comprehensive English】		バーニンガー, ジョージ	
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Outline English has become a language of global communication. At the university level we will use English to look at some important issues on the global level. Global Issues A aims to develop students' English ability while introducing issues in the world today and encouraging further exploration. Learning how to discuss topics effectively will also be a goal for this course. Students will learn from the teacher as well as from each other. Objectives To develop a detailed awareness of global issues To be able to discuss global issues in English To become familiar with and practice a range of reading skills To acquire key vocabulary associated with global issues To be able to participate effectively in an in group presentation To be able to present in front of a class on important issues			
2. 授業内容 Part 1: Introduction/ Friendships Part 2: Family harmony extra Part 3: Special qualifications Part 4: Spending money Part 5: Ways of succeeding Part 6: Good habits Part 7: Special topic Part 8: Midterm in group on an important issue Part 9: For the sake of the children Part 10: Cult influence Part 11: A new change. Part 12: Special current event Part 13: Special current event. Part 14: Final issue presentations to the class			
3. 履修上の注意 Be able to discuss difficult social issues in English.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students will read textbook dialogues. Students will learn vocabulary. Students will express their opinions and use requests for clarification, requests for confirmation and other conversation tools. Students will prepare for presentations.			
5. 教科書 Impact Issues 2 (3rd. Ed.) by Richard Day, Joseph Schauls and Junko Yamanaka (Longman Publisher)			
6. 参考書 Bring a good English English or Japanese English dictionary (including electronic dictionary).			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Teacher will provide feedback directly to students.			
8. 成績評価の方法 Evaluation will be made up of the following: Homework from textbook (20%) Active daily participation (30%) Midterm presentation (25%) Final presentation (25%)			
9. その他 This class will be taught in English. Students will be expected to do about 45-60 min. of homework each week.			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） B 【EM Comprehensive English】		バーニンガー, ジョージ	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Outline English has become a language of global communication. At the university level we will use English to look at some important issues on the global level. Global Issues A aims to develop students' English ability while introducing issues in the world today and encouraging further exploration. Learning how to discuss topics effectively will also be a goal for this course. Students will learn from the teacher as well as from each other. Objectives To develop a detailed awareness of global issues To be able to discuss global issues in English To become familiar with and practice a range of reading skills To acquire key vocabulary associated with global issues To be able to participate effectively in an in group presentation To be able to present in front of a class on important issues			
2. 授業内容 Course Contents Part 1: Introduction / needs survey / useful class expressions Part 2: Why learn English (Why learn any 2nd language) Part 3: Forever single Part 4: What's for dinner ? Part 5: Last chance Part 6: Take the money and run Part 7: Traffic jam Part 8: Midterm in group on an important issue Part 9: For the sake of the children Part 10: Family harmony Part 11: Family values Part 12: Taking care of mother Part 13: A reward or a bribe ? Part 14: Final issue presentations to the class			
3. 履修上の注意 Be able to discuss difficult social issues in English.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students will read textbook dialogues. Students will learn vocabulary. Students will express their opinions and use requests for clarification, requests for confirmation and other conversation tools. Students will prepare for presentations.			
5. 教科書 Impact Issues 2 (3rd. Ed.) by Richard Day, Joseph Schauls and Junko Yamanaka (Longman Publisher)			
6. 参考書 Bring a good English English or Japanese English dictionary (including electronic dictionary).			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Teacher will provide feedback to students directly.			
8. 成績評価の方法 Evaluation will be made up of the following: Homework from textbook (20%) Active daily participation (30%) Midterm presentation (25%) Final presentation (25%)			
9. その他 This class will be taught in English. Students will be expected to do about 45-60 min. of homework each week.			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） A 【EM Comprehensive English】			廣瀬 絵美
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 「授業の概要」 本科目は、基本的な語彙力の習得と文法や文構造の理解を深め、実践的な英語運用能力向上の素地となる基礎固めを確実に行う。教材は TOEIC の試験問題を積極的に取り入れ、英語・資格試験に対応できる実践力を養成する。 「到達目標」 1. 英語コミュニケーション力の基礎となる語彙や文法を理解し、使うことができる。 2. 身近な話題から社会問題やビジネスに関連した内容の英語を聞いて理解できる。 3. 自分自身や身近な話題について英語で表現できる。 4. TOEIC 等の英語試験対策を考慮しながら、発展的な英語表現を学び理解できる。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：TOEIC Listening and Reading (Restaurant) 第3回：TOEIC Listening and Reading (Restaurant) 第4回：TOEIC Listening and Reading (Sightseeing) 第5回：TOEIC Listening and Reading (Sightseeing) 第6回：TOEIC Listening and Reading (Business/ Technology) 第7回：TOEIC Listening and Reading (Business/ Technology) 第8回：TOEIC Listening and Reading (Hotel) 第9回：TOEIC Listening and Reading (Hotel) 第10回：TOEIC Listening and Reading (Shopping) 第11回：TOEIC Listening and Reading (Shopping) 第13回：TOEIC Listening and Reading (Transportation) 第14回：まとめ			
3. 履修上の注意 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 この授業は、予習・復習各30時間の計90時間の学修を必要とする。 「準備学習」 （予習）リーディング教材を前もって読み、わからない単語は調べておくこと。TOEIC などの英語資格関連の教材を解いてみる。 （復習）間違えた箇所を確認し、語彙ノートを作成、暗記に努める。リスニングの会話スクリプトは音声ファイルを参考に音読練習をする。			
5. 教科書 ① 著者：角山照彦他 ② 書名：コミュニケーションスキルが身に付く TOEIC® L&R TEST <上級編> A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC® L&R TEST Book 3: Advanced ③ 発行元：成美堂 ④ ISBN：9784791972913			
6. 参考書 『キクタンTOEIC (R) L&Rテスト SCORE 800』一杉武史（アルク出版）			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 提出課題 20%、授業への貢献度 20%、定期試験 60%			
9. その他 授業前後に相談を受け付けます。			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） B 【EM Comprehensive English】			廣瀬 絵美
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 「授業の概要」 本科目は、基本的な語彙力の習得と文法や文構造の理解を深め、実践的な英語運用能力向上の素地となる基礎固めを確実に行う。教材は TOEIC の試験問題を積極的に取り入れ、英語・資格試験に対応できる実践力を養成する。 「到達目標」 1. 英語コミュニケーション力の基礎となる語彙や文法を理解し、使うことができる。 2. 身近な話題から社会問題やビジネスに関連した内容の英語を聞いて理解できる。 3. 自分自身や身近な話題について英語で表現できる。 4. TOEIC 等の英語試験対策を考慮しながら、発展的な英語表現を学び理解できる。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：TOEIC Listening and Reading (Travel) 第3回：TOEIC Listening and Reading (Travel) 第4回：TOEIC Listening and Reading (Housing) 第5回：TOEIC Listening and Reading (Housing) 第6回：TOEIC Listening and Reading (Entertainment) 第7回：TOEIC Listening and Reading (Entertainment) 第8回：TOEIC Listening and Reading (Hobby) 第9回：TOEIC Listening and Reading (Education) 第10回：TOEIC Listening and Reading (Sports) 第11回：TOEIC Listening and Reading (Hospital) 第13回：TOEIC Listening and Reading (Employment) 第14回 まとめ			
3. 履修上の注意 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 この授業は、予習・復習各30時間の計90時間の学修を必要とする。 「準備学習」 （予習）リーディング教材を前もって読み、わからない単語は調べておくこと。TOEIC などの英語資格関連の教材を解いてみる。 （復習）間違えた箇所を確認し、語彙ノートを作成、暗記に努める。リスニングの会話スクリプトは音声ファイルを参考に音読練習をする。			
5. 教科書 ① 著者：角山照彦他 ② 書名：コミュニケーションスキルが身に付く TOEIC® L&R TEST <上級編> A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC® L&R TEST Book 3: Advanced ③ 発行元：成美堂 ④ ISBN：9784791972913			
6. 参考書 『キクタンTOEIC (R) L&Rテスト SCORE 800』一杉武史（アルク出版）			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 提出課題 20%、授業への貢献度 20%、定期試験 60%			
9. その他 授業前後に相談を受け付けます。			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） A 【EM Comprehensive English】			古川 恵美
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> この授業では、TED Talksを扱う教科書を使用してユニットごとのテーマに沿って英語の4技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）をバランスよく鍛えます。各ユニットのテーマに沿って、語彙の練習、ディクテーションを含むリスニングの練習、リーディング、および文法事項の確認を行ったあとに、実際のTED Talksの映像を見て内容や表現法について分析します。 それぞれの学習過程において適宜ペアワークやグループワークを行うことで、学習内容の理解を深めたり、自分なりの意見を交換し合う機会を設けます。また、各ユニットが終了するごとに小テストを行って学習内容の定着を確認します。 教科書は <i>Perspectives</i> シリーズのLevel 3を使用しますが、クラス全体の理解度に合わせてスピードや扱う範囲を変更する場合があります。 <到達目標> - 自然な速さの英語を聞いて内容やメッセージを聞き取るとともに、英語の発音やイントネーションの特徴に対する理解を深める - 適切な速さでリーディングを行い、必要な情報を読み取る - テーマに関連した語彙や文法事項を身につける - 英語のプレゼンテーションにおける話し手の工夫を分析し、優れたプレゼンテーションスキルを学ぶ - 各ユニットで提起される社会や文化に関するテーマについて考察し、自分なりに考えたことを人に伝える - ペアワークやグループワークを通して多様な価値観や観点を共有し、学習内容に対する理解の幅を広げる			
2. 授業内容 第1回：Introduction 第2回：Unit 1 Travel, Trust, and Tourism ① 第3回：Unit 1 Travel, Trust, and Tourism ② 第4回：Unit 1 Travel, Trust, and Tourism ③ 第5回：Unit 1 Travel, Trust, and Tourism ④ 第6回：Unit 2 The Business of Technology ① 第7回：Unit 2 The Business of Technology ② 第8回：Unit 2 The Business of Technology ③ 第9回：Unit 2 The Business of Technology ④ 第10回：Unit 3 Faster, Higher, Stronger ① 第11回：Unit 3 Faster, Higher, Stronger ② 第12回：Unit 3 Faster, Higher, Stronger ③ 第13回：Unit 3 Faster, Higher, Stronger ④ 第14回：Review ※上記予定は進捗具合などにより変更される場合があります。			
3. 履修上の注意 - 世界の人々が優れたアイディアを発信するTED Talksの映像を扱った教科書を使用します。第2回目以降の授業には、必ず教科書を手元に準備して参加してください。 - 授業活動（提出物・発表・ペアワーク・グループワーク等）への積極的な取り組みを重視します。授業には毎回出席してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <事前学習> - 指定された予習範囲に取り組み、疑問点や分からない点を明確にしてから授業に参加してください。 <事後学習> - 授業で扱った範囲を復習し、小テストに備えましょう。 - 授業で配布するプリントやクラスウェブで提示される課題に取り組み、期限を守って提出してください。			
5. 教科書 『Perspectives 3: Student Book with Online Workbook』（Cengage）			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出物に対する全体講評は適宜授業時に行います。 小テストについては返却後に正解をお知らせするとともに必要に応じて解説を行います。			
8. 成績評価の方法 平常点(授業への参加・貢献度) 30%，課題(提出物・発表) 30%，小テスト 30%，学期末レポート 10%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） B 【EM Comprehensive English】			古川 恵美
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> この授業では、TED Talksを扱う教科書を使用してユニットごとのテーマに沿って英語の4技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）をバランスよく鍛えます。各ユニットのテーマに沿って、語彙の練習、ディクテーションを含むリスニングの練習、リーディング、および文法事項の確認を行ったあとに、実際のTED Talksの映像を見て内容や表現法について分析します。 それぞれの学習過程において適宜ペアワークやグループワークを行うことで、学習内容の理解を深めたり、自分なりの意見を交換し合う機会を設けます。また、各ユニットが終了するごとに小テストを行って学習内容の定着を確認します。 教科書は <i>Perspectives</i> シリーズのLevel 3を使用しますが、クラス全体の理解度に合わせてスピードや扱う範囲を変更する場合があります。 <到達目標> - 自然な速さの英語を聞いて内容やメッセージを聞き取るとともに、英語の発音やイントネーションの特徴に対する理解を深める - 適切な速さでリーディングを行い、必要な情報を読み取る - テーマに関連した語彙や文法事項を身につける - 英語のプレゼンテーションにおける話し手の工夫を分析し、優れたプレゼンテーションスキルを学ぶ - 各ユニットで提起される社会や文化に関するテーマについて考察し、自分なりに考えたことを人に伝える - ペアワークやグループワークを通して多様な価値観や観点を共有し、学習内容に対する理解の幅を広げる			
2. 授業内容 第1回：Introduction 第2回：Unit 4 Cultural Transformation ① 第3回：Unit 4 Cultural Transformation ② 第4回：Unit 4 Cultural Transformation ③ 第5回：Unit 4 Cultural Transformation ④ 第6回：Unit 5 It's Not Rocket Science ① 第7回：Unit 5 It's Not Rocket Science ② 第8回：Unit 5 It's Not Rocket Science ③ 第9回：Unit 5 It's Not Rocket Science ④ 第10回：Unit 6 Adapt to Survive ① 第11回：Unit 6 Adapt to Survive ② 第12回：Unit 6 Adapt to Survive ③ 第13回：Unit 6 Adapt to Survive ④ 第14回：Review ※上記予定は進捗具合などにより変更される場合があります。			
3. 履修上の注意 - 世界の人々が優れたアイディアを発信するTED Talksの映像を扱った教科書を使用します。第2回目以降の授業には、必ず教科書を手元に準備して参加してください。 - 授業活動（提出物・発表・ペアワーク・グループワーク等）への積極的な取り組みを重視します。授業には毎回出席してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <事前学習> - 指定された予習範囲に取り組み、疑問点や分からない点を明確にしてから授業に参加してください。 <事後学習> - 授業で扱った範囲を復習し、小テストに備えましょう。 - 授業で配布するプリントやクラスウェブで提示される課題に取り組み、期限を守って提出してください。			
5. 教科書 『Perspectives 3: Student Book with Online Workbook』（Cengage）			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出物に対する全体講評は適宜授業時に行います。 小テストについては返却後に正解をお知らせするとともに必要に応じて解説を行います。			
8. 成績評価の方法 平常点(授業への参加・貢献度) 30%，課題(提出物・発表) 30%，小テスト 30%，学期末レポート 10%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） A 【EM Comprehensive English】			吉田 え り か
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 〈到達目標〉 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（授業の進行方法、成績評価方法、教科書、注意事項等の説明、座席指定、自己紹介） 第2回：Unit 1 Art Therapy Part 1 Reading and Vocabulary Building 第3回：Unit 1 Art Therapy Part 2 Word parts, Grammar, Listening 第4回：Unit 2 From Sci-Fi to Reality Part 1 Reading and Vocabulary Building 第5回：Unit 2 From Sci-Fi to Reality Part 2 Word parts, Grammar, Listening 第6回：Unit 3 Exporting Labor Part 1 Reading and Vocabulary Building 第7回：Unit 3 Exporting Labor Part 2 Word parts, Grammar, Listening 第8回：Unit 4 Celebrating the Earth Part 1 Reading and Vocabulary Building 第9回：Unit 5 Virtual Lives Part 1 Reading and Vocabulary Building 第10回：Unit 5 Virtual Lives Part 2 Word parts, Grammar, Listening 第11回：Unit 6 Kidults Part 1 Reading and Vocabulary Building 第12回：Unit 7 Genetically Modified Foods Part 1 Reading and Vocabulary Building 第13回：Unit 7 Genetically Modified Foods Part 2 Word parts, Grammar, Listening 第14回：a：試験 b：講義全体のふりかえりと試験の解説			
3. 履修上の注意 予習は必須で、予習がしてあることを前提として授業は進みます。テキストは文化・科学・ビジネス・政治などに関するトピックを扱っています。様々なトピックの英文読解を通じて、読解力の向上・新しい知識の獲得・批判的思考力を養うべく、積極的に授業に参加してください。また、テキストにあるTOEIC形式のリスニング・リーディング問題練習で、TOEICのスコアUpを目指します。 Unit が終わったところでVocabulary Quizを行いますので、しっかり復習して語彙力向上を目指してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習（予習）は、①テキストの単語問題Vocabulary Warm-upを解く②本文を、辞書・注なしで読んで大体的内容を把握する③知らない単語を辞書で調べ、Notesで確認して精読する④内容把握問題を解くことです。 （復習）は、①内容を理解したうえでよく音読すること②小テストに向けて学んだ単語や表現を覚えることです。			
5. 教科書 Andrew E. Bennett, <i>Reading Fusion 2 Second edition</i> 南雲堂 ISBN978-4-523-17973-3 2640円			
6. 参考書 特にありませんが、英和辞書や英英辞書は必ず必要です。詳細は最初の授業で説明します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 期末試験60%、小テスト20%、授業中の取り組み（毎回十分に予習を行って授業に臨み、授業中は熱心に取り組み発表できること）20%を合計して評価する。4分の3以上の出席が単位取得の必須条件です。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） B 【EM Comprehensive English】			吉田 え り か
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 〈到達目標〉 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（授業の進行方法、成績評価方法、教科書、注意事項等の説明、座席指定、自己紹介） 第2回：Unit 8 Empires of the Stars Part 1 Reading and Vocabulary Building 第3回：Unit 8 Empires of the Stars Part 2 Word parts, Grammar, Listening 第4回：Unit 9 Destination: Mars Part 1 Reading and Vocabulary Building 第5回：Unit 9 Destination: Mars Part 2 Word parts, Grammar, Listening 第6回：Unit 10 Cross-Cultural Friendships Part 1 Reading and Vocabulary Building 第7回：Unit 11 Muscle Memory Part 1 Reading and Vocabulary Building 第8回：Unit 11 Muscle Memory Part 2 Word parts, Grammar, Listening 第9回：Unit 12 Maritime Piracy Part 1 Reading and Vocabulary Building 第10回：Unit 13 The Science of Love Part 1 Reading and Vocabulary Building 第11回：Unit 13 The Science of Love Part 2 Word parts, Grammar, Listening 第12回：Unit 15 A World Currency? Part 1 Reading and Vocabulary Building 第13回：Unit 15 A World Currency? Part 2 Word parts, Grammar, Listening 第14回 a：試験 b：講義全体の振り返りと試験の解説			
3. 履修上の注意 予習は必須で、予習がしてあることを前提として授業は進みます。テキストは文化・科学・ビジネス・政治などに関するトピックを扱っています。様々なトピックの英文読解を通じて、読解力の向上・新しい知識の獲得・批判的思考力を養うべく、積極的に授業に参加してください。また、テキストにあるTOEIC形式のリスニング・リーディング問題練習で、TOEICのスコアUpを目指します。 Unit が終わったところでVocabulary Quizを行いますので、しっかり復習して語彙力向上を目指してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習（予習）は、①テキストの単語問題Vocabulary Warm-upを解く②本文を、辞書・注なしで読んで大体的内容を把握する③知らない単語を辞書で調べ、Notesで確認して精読する④内容把握問題を解くことです。 （復習）は、①内容を理解したうえでよく音読すること②小テストに向けて学んだ単語や表現を覚えることです。			
5. 教科書 Andrew E. Bennett, <i>Reading Fusion 2 Second Edition</i> 南雲堂 ISBN978-4-523-17973-3 2640円			
6. 参考書 特にありませんが、英和辞書や英英辞書は必ず必要です。詳細は最初の授業で説明します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 期末試験60%、小テスト20%、授業中の取り組み（毎回十分に予習を行って授業に臨み、授業中は熱心に取り組み発表できること）20%を合計して評価する。4分の3以上の出席が単位取得の必須条件です。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） A 【EM Comprehensive English】		依 田 里 花	
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 <到達目標> 「書く・読む・聞く・話す」の4技能をバランスよく総合的に力をつけることが目標です。 課題になる原書購読と並行して、授業では映像を使い場面を描写するNarrative Writingを中心に力をつけていきます。 周りと比べることなく、「今の自分の力をどれだけ伸ばせるか」という点も各自の到達目標になります。 <概要> 授業では、原書の英文テキストと並行して、映像の場面を描写する "Narrative Writing" に焦点を当てます。 授業外の課題として、毎週、原書テキストの音読・録音課題があります。			
2. 授業内容 第1回 a: Introduction b: Scene 1 第2回: Scene 1 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第3回: Scene 1 & 2 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第4回: Scene 2 & 3 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第5回: Scene 3 & 4 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第6回: Scene 4 & 5 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第7回: Scene 5 & 6 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第8回: Scene 6 & 7 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第9回: Scene 7 & 8 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第10回: Scene 8 & 9 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第11回: Scene 9 & 10 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第12回: Scene 10 & 11 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第13回: ファイル提出/試験準備 第14回 a: まとめ b: 試験 *このシラバスは受講生と相談の上、変更されることがあります。			
3. 履修上の注意 毎週、授業外の課題も多い内容です。覚悟の上、ぜひ履修してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【Listening & Speaking】 ・授業で扱った場面をテキストで確認（4頁前後）：音読練習・シャドーイング→録音→Oh-o! Meiji「レポート」に提出 (授業外) ・授業で完成させたワークシートの英文を音読練習・録音 → Oh-o! Meiji「レポート」に提出 (授業内) 【Reading】 ・テキストの確認：授業で扱う場面がテキストではどのように描かれているのかを確認する 【Writing】 ・授業時に配布されるワークシート。欠席した場合は、Oh-o! Meiji「授業内容・資料」から自分でダウンロード・印刷して次の授業までに仕上げて持参のこと。＊やらないと評価はつきません			
5. 教科書 "Harry Potter and the Philosopher's Stone" (英語・ペーパーバック) J.K. Rowling (著) 2014/9/1 ＊2025年度はシリーズ第1巻です ＊版が多様なので大学の書店での購入をお勧めします。 ＊春学期は前半部分を、秋学期は後半部分を扱います（春・秋別内容です） ＊登録情報 出版社: Bloomsbury Childrens Books (2014/9/1) 発売日: 2014/9/1 言語: 英語 (ペーパーバック): 352ページ ISBN-10 : 9781408855652 ISBN-13 : 978-1408855652			
6. 参考書 翻訳『ハリー・ポッターと賢者の石』松岡佑子訳 静山社			
7. 課題に対するフィードバックの方法 1. 録音課題：授業内でコメント 2. ワークシート：毎授業時にチェック → 各自、各場面ごとにファイル → 定期試験前に全てのプリントを提出			
8. 成績評価の方法 ・70%：授業への取り組み、課題、毎時間の提出物（内容・質を重視） ・30%：学期末試験（S→90%以上、A→80%以上、B→70%以上、C→60%以上） 【注意】 単位取得には、授業数の1/ 3 回までの欠席（遅刻3回で1欠席。遅延証明書は2回まで有効）が条件となります。			
9. その他 Enjoy yourself with Harry and his friends!			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級） B 【EM Comprehensive English】		依 田 里 花	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 <到達目標> 「書く・読む・聞く・話す」の4技能をバランスよく総合的に力をつけることが目標です。 課題になる原書購読と並行して、授業では映像を使い場面を描写するNarrative Writingを中心に力をつけていきます。 周りと比べることなく、「今の自分の力をどれだけ伸ばせるか」という点も各自の到達目標になります。 <概要> 授業では、原書の英文テキストと並行して、映像の場面を描写する "Narrative Writing" に焦点を当てます。 授業外の課題として、毎週、原書テキストの音読・録音課題があります。			
2. 授業内容 第1回 a: Introduction b: Scene 1 第2回: Scene 1 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第3回: Scene 1 & 2 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第4回: Scene 2 & 3 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第5回: Scene 3 & 4 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第6回: Scene 4 & 5 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第7回: Scene 5 & 6 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第8回: Scene 6 & 7 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第9回: Scene 7 & 8 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第10回: Scene 8 & 9 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第11回: Scene 9 & 10 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第12回: Scene 10 & 11 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第13回: ファイル提出/試験準備 第14回 a: まとめ b: 試験 *このシラバスは受講生と相談の上、変更されることがあります。			
3. 履修上の注意 毎週、授業外の課題も多い内容です。覚悟の上、ぜひ履修してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【Listening & Speaking】 ・授業で扱った場面をテキストで確認（4頁前後）：音読練習・シャドーイング→録音→Oh-o! Meiji「レポート」に提出 (授業外) ・授業で完成させたワークシートの英文を音読練習・録音 → Oh-o! Meiji「レポート」に提出 (授業内) 【Reading】 ・テキストの確認：授業で扱う場面がテキストではどのように描かれているのかを確認する 【Writing】 ・授業時に配布されるワークシート。欠席した場合は、Oh-o! Meiji「授業内容・資料」から自分でダウンロード・印刷して次の授業までに仕上げて持参のこと。＊やらないと評価はつきません			
5. 教科書 "Harry Potter and the Philosopher's Stone" (英語・ペーパーバック) J.K. Rowling (著) 2014/9/1 ＊2025年度はシリーズ第1巻です ＊版が多様なので大学の書店での購入をお勧めします。 ＊春学期は前半部分を、秋学期は後半部分を扱います（春・秋別内容です） ＊登録情報 出版社: Bloomsbury Childrens Books (2014/9/1) 発売日: 2014/9/1 言語: 英語 (ペーパーバック): 352ページ ISBN-10 : 9781408855652 ISBN-13 : 978-1408855652			
6. 参考書 翻訳『ハリー・ポッターと賢者の石』松岡佑子訳 静山社			
7. 課題に対するフィードバックの方法 1. 録音課題：授業内でコメント 2. ワークシート：毎授業時にチェック → 各自、各場面ごとにファイル → 定期試験前に全てのプリントを提出			
8. 成績評価の方法 ・70%：授業への取り組み、課題、毎時間の提出物（内容・質を重視） ・30%：学期末試験（S→90%以上、A→80%以上、B→70%以上、C→60%以上） 【注意】 単位取得には、授業数の1/ 3 回までの欠席（遅刻3回で1欠席。遅延証明書は2回まで有効）が条件となります。			
9. その他 Enjoy yourself with Harry and his friends!			

科目ナンバー：(BA)LAN211J			
英語（中級）A（統一） 【GREAT:English for Business Studies (EBS) II A】			
デュプリス, ジョン・マーカー, ジェイソン・宮田 理奈子			
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course aims to equip the student with English skills and the basic knowledge needed for understanding and discussing the key concepts in business and economics. In EBS II A, the student will learn the basic concepts and vocabulary needed for such areas as banking, venture capital financing, bonds, stocks, accounting and financial statements, and market structure and competition. The student will be able to understand the key concepts of and discuss basic issues in these areas in English.			
2. 授業内容 Week 1 : Introduction; Banking (1) Week 2 : Banking (2) Week 3 : Venture capital (1) Week 4 : Venture capital (2) Week 5 : Bonds Week 6 : Reports and presentations (1) Week 7 : Stocks and shares (1) Week 8 : Stocks and shares (2) Week 9 : Accounting and financial statements (1) Week 10 : Accounting and financial statements (2) Week 11 : Market structure and competition (1) Week 12 : Reports and presentations (2) Week 13 : Market structure and competition (2) Week 14 : Review and final test			
3. 履修上の注意 This is a required course for GREAT (Global Resources English Applied Track) Students.(GREAT 2年次必修科目です。GREAT対象以外の学生は履修できません。)			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 You are expected to read before each class the parts of the textbook assigned by your instructor and do relevant exercises. As a review of the class, read aloud the parts you learned in your class to reinforce your understanding and internalize the vocabulary you learned. Each week you may be given a quiz or assigned homework.			
5. 教科書 Ian MacKenzie. English for Business Studies 3rd Edition. Cambridge University Press.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Provide feedback through Oh-o! Meiji (LMS) discussions as well as in-class discussions.			
8. 成績評価の方法 Class participation: 20%; reports and presentations: 20%; exam: 20%; assignments and quizzes 40%. More than 3 absences will result in a fail (3 late = 1 absence; late means arrival within 30 minutes from the start of the class).			
9. その他 This course aims to develop your English proficiency which will assist you in business studies and business careers. Do your best and make this experience truly rewarding. The class will be taught in English.			

科目ナンバー：(BA)LAN211J			
英語（中級）B（統一） 【GREAT:English for Business Studies (EBS) II B】			
デュプリス, ジョン・マーカー, ジェイソン・宮田理奈子			
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course aims to equip the student with English skills and the basic knowledge needed for understanding and discussing the key concepts in business and economics. In EBS II B, the student will learn the basic concepts of and vocabulary needed for such areas as government and taxation, the business cycle, corporate social responsibility, exchange rates, international trade, and economics and ecology. The student will be able to understand the key concepts of and discuss basic issues in these areas in English.			
2. 授業内容 Week 1 : Introduction; 22 Government and taxation (1) Week 2 : 22 Government and taxation (2) Week 3 : 23 The business cycle (1) Week 4 : 23 The business cycle (2) Week 5 : 24 Corporate social responsibility Week 6 : Reports and presentations (1) Week 7 : 25 Efficiency and employment Week 8 : 5 Recruitment; 2nd-year portfolio Week 9 : 26 Exchange rates Week 10 : 27 International trade Week 11 : 28 Economics and ecology (1) Week 12 : Reports and presentations (2) Week 13 : 28 Economics and ecology (2) Week 14 : Review and final test			
3. 履修上の注意 This is a required course for GREAT (Global Resources English Applied Track) Students.(GREAT 2年次必修科目です。GREAT対象以外の学生は履修できません。)			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 You are expected to read before each class the parts of the textbook assigned by your instructor and do relevant exercises. As a review of the class, read aloud the parts you learned in your class to reinforce your understanding and internalize the vocabulary you learned. Each week you may be given a quiz or assigned homework.			
5. 教科書 Ian MacKenzie. English for Business Studies. 3rd Edition. Cambridge University Press.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Provide feedback through Oh-o! Meiji (LMS) discussions as well as in-class discussions.			
8. 成績評価の方法 Class participation: 20%; reports and presentations: 10%; 2nd year portfolio: 10%; assignments quizzes 40%; exam 20%. More than 3 absences will result in a fail (3 late = 1 absence; late means arrival within 30 minutes from the start of the class).			
9. その他 This course aims to develop your English proficiency which will assist you in business studies and business careers. Do your best and make this experience truly rewarding. The class will be taught in English.			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級）A（統一） 【GREAT:Academic Writing II A】			
山下佳江・真継左和子・モロー，ロバート・ヴォーン，ロバート			
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 In Academic Writing II A, students will learn to write three different essay types: cause/effect essays, comparison/contrast essays, and argumentative essays. Through writing those essays, students will also review and practice APA citations that they learned in Academic Writing I. Students will use an Essay Organizer to create an outline for each essay. The essay outline will be evaluated (5 out of 25 or 30%). Students can start drafting based on the outline after it is checked by the teacher. Peer review sessions will be given at least once for each essay written. Students must submit their assignments in the paragraph format before the deadline. No late homework will be accepted. There will be no exams. 【Guidelines for students taking Media Classes that include Zoom live】 To ensure that all participants can benefit from Media Classes it is important to have a suitable environment for taking classes. You must ensure the following conditions: 1) A reliable computer or tablet with a stable connection to the internet: Smartphones are not suitable due to limited functionality. The computer must include a camera and microphone. 2) Suitable software for the class: an updated version of Zoom besides common software such as Word and PowerPoint. 3) A quiet workspace free from interruptions: This should be a private room in your home or a classroom on campus designated for taking online classes. When you take Zoom classes in a classroom, you must ensure that you keep a certain distance from other students to prevent howling effects. In addition to the above requirements, please keep in mind the following points: ●During Media Classes, you will, in principle, need to have your camera always turned on. ●Particularly if you are taking writing classes, you will need to be able to type at a reasonable speed.			
2. 授業内容 WEEK 1: Introduction, Review of Academic Writing I [Media-based class (Real-time Delivery)] WEEK 2: Chapter 6 Cause / Effect Essays [Media-based class (Real-time Delivery)] WEEK 3: Chapter 6 Cause / Effect Essays [Media-based class (Real-time Delivery)] WEEK 4: Chapter 6 Cause / Effect Essays [Media-based class (Real-time Delivery)] WEEK 5: Chapter 6 Cause / Effect Essays [Media-based class (Real-time Delivery)] WEEK 6: Chapter 7 Comparison / Contrast Essays [Media-based class (Real-time Delivery)] WEEK 7: Chapter 7 Comparison / Contrast Essays [Media-based class (Real-time Delivery)] WEEK 8: Chapter 7 Comparison / Contrast Essays [Media-based class (Real-time Delivery)] WEEK 9: Chapter 7 Comparison / Contrast Essays [Media-based class (Real-time Delivery)] WEEK 10: Chapter 8 Argumentative Essays [Media-based class (Real-time Delivery)] WEEK 11: Chapter 8 Argumentative Essays [Media-based class (Real-time Delivery)] WEEK 12: Chapter 8 Argumentative Essays [Media-based class (Real-time Delivery)] WEEK 13: Chapter 8 Argumentative Essays [Media-based class (Real-time Delivery)] WEEK 14: Chapter 8 Argumentative Essays [Media-based class (Real-time Delivery)]			
3. 履修上の注意 (1) This is a required course for GREAT (Global Resources English Applied Track) students. (GREAT2年次必修科目です。GREAT対象者以外の学生は履修できません。) (2) This is a Media-based course (「メディア授業科目」) and for the entire 14 weeks, the class will be conducted fully online through Zoom live streaming. Students will need a suitable computer, laptop, or tablet equipped with both a camera and microphone to participate via Zoom in the communicative English-based learning class.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
5. 教科書 Longman Academic Writing Series Level 4, Fifth edition, Essays By Alice Oshima & Ann Hogue, Pearson, ISBN: 978-0136838630			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be given through grades or comments, or both.			
8. 成績評価の方法 Class participation 20% Essay 1 (5+20) 25% Essay 2 (5+20) 25% Essay 3 (5+25) 30%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN211J			
英語（中級）B（統一） 【GREAT:Academic Writing II B】			
山下佳江・真継左和子・モロー，ロバート・ヴォーン，ロバート			
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Academic Writing II B builds on the academic writing skills developed in Academic IIA. Whereas Academic Writing IIA required students to write multiple papers, this course will focus on preparing one fully developed academic paper focusing on a topic introduced in their previous business and intercultural classes taught in English. Questions and suggested resources will be provided by the teachers of the relevant courses. The incremental process of the paper is important and at each stage, students' work will be evaluated. The development of the paper will be done through interactive activities, such as pair work and group discussion, and extensive writing skills practice. APA Style should be used. By the end of this course students will develop academic writing and research skills which are necessary for producing a short research paper in English. 【Guidelines for students taking Media Classes that include Zoom live】 To ensure that all participants can benefit from Media Classes it is important to have a suitable environment for taking classes. You must ensure the following conditions: 1) A reliable computer or tablet with a stable connection to the internet: Smartphones are not suitable due to limited functionality. The computer must include a camera and microphone. 2) Suitable software for the class: an updated version of Zoom besides common software such as Word and PowerPoint. 3) A quiet workspace free from interruptions: This should be a private room in your home or a classroom on campus designated for taking online classes. When you take Zoom classes in a classroom, you must ensure that you keep a certain distance from other students to prevent howling effects. In addition to the above requirements, please keep in mind the following points: ●During Media Classes, you will, in principle, need to have your camera always turned on. ●Particularly if you are taking writing classes, you will need to be able to type at a reasonable speed.			
2. 授業内容 Week 1 Introduction, Unit 1 Preparing to write, Parts1&2 [Media-based class (Real-time Delivery)] Week 2 Part 3 Doing research ※Research list due [Media-based class (Real-time Delivery)] Week 3 Part 4 Planning the essay [Media-based class (Real-time Delivery)] Week 4 Unit 2 Essay Paragraphs, Part 1 Introductory paragraphs ※Outline due [Media-based class (Real-time Delivery)] Week 5 Part 2 Body paragraphs [Media-based class (Real-time Delivery)] Week 6 Part 3 Logical fallacies ※Introduction due [Media-based class (Real-time Delivery)] Week 7 Part 4 Concluding paragraphs [Media-based class (Real-time Delivery)] Week 8 Unit 3 Using and Citing Sources, Part 1 Evaluating sources ※Body paragraphs due [Media-based class (Real-time Delivery)] Week 9 Part 2 Integrating source information ※Concluding paragraph due [Media-based class (Real-time Delivery)] Week 10 Part 3 Citing sources [Media-based class (Real-time Delivery)] Week 11 Part 4 Using reporting verbs and phrases ※First complete draft due [Media-based class (Real-time Delivery)] Week 12 Unit 4 Accuracy and Clarity, Part 1 Hedging and intensifying Part 2 Academic sentence styles [Media-based class (Real-time Delivery)] Week 13 Part 3 Editing ※Abstract due [Media-based class (Real-time Delivery)] Week 14 Review ※Final draft due [Media-based class (Real-time Delivery)]			
3. 履修上の注意 (1) This is a required course for GREAT (Global Resources English Applied Track) students. (GREAT2年次必修科目です。GREAT対象者以外の学生は履修できません。) (2) This is a Media-based course (「メディア授業科目」) and for the entire 14 weeks, the class will be conducted fully online through Zoom live streaming. Students will need a suitable computer, laptop, or tablet equipped with both a camera and microphone to participate via Zoom in the communicative English-based learning class.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
5. 教科書 Cambridge Academic Writing Skills Student's Book 3, by Peter Chin, Samuel Reid, Sean Wray, & Yoko Yamazaki, Cambridge University Press, ISBN: 978-1-10761193-1			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be provided through grades or comments, or both.			
8. 成績評価の方法 Attendance & participation (20), Research list (5), Outline (5), Introduction (5), Body paragraphs (15), Conclusion (5), First draft (15), Final draft (30) ※There will be no face-to-face quizzes or exams.			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN121J			
ドイツ語（初級）Ⅰa（統一）			竹内拓史・赤池，エルフリーデ
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> ドイツ語を初めて学ぶ人を対象に，ネイティブの教員により，「聞く・話す・読む・書く」こと全般について，ドイツ語の入門的な運用能力を養成します。 <到達目標> ドイツ語の音や響きに慣れ，独検5級程度の運用能力を身につける。			
2. 授業内容 教科書に沿って，おおむね以下のテーマについて練習します。 第1回：挨拶，自己紹介 第2回：ヨーロッパの国と言語 第3回：電話する 第4回：他人の紹介 第5回：家族 第6回：数字 第7回：聴く練習 第8回：はがきを書く 第9回：食習慣 第10回：食品と値段 第11回：買い物する 第12回：レストランで注文する 第13回：聴く練習 第14回 a: まとめ b: 試験 (以上のスケジュールは，授業の進度によって変更されることもあります。)			
3. 履修上の注意 指定されたクラスで受講すること。この単位を落とすと，秋学期の初級Ⅱaを受講できなくなるので注意してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 担当教員の指示に従い，予習・復習を行うこと。			
5. 教科書 担当教員が指示します。			
6. 参考書 参考書，問題集などは担当教員が必要に応じて指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 平常点（授業への参加度，課題の発表，小テストなど）40%，定期試験60%を予定しています（進捗等によって変更の可能性がありますので，各担当教員からの説明をよく聞いてください）。			
9. その他 「選択外国語」の項目に記載されている「ドイツ語コミュニケーション」の授業についても参照して，ぜひ参加を検討してみてください。			

科目ナンバー：(BA)LAN121J			
ドイツ語（初級）Ⅱa（統一）			竹内拓史・赤池，エルフリーデ
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 春学期開講の「ドイツ語（初級）Ⅰa」を引きつぎ，ネイティブの教員により，「聞く・話す・読む・書く」こと全般について，ドイツ語の実践的な運用能力を養成します。 <到達目標> ドイツ語でのやりとりに慣れ，独検4級程度（もしくは国際検定試験「スタートドイツ語1（SD1）」の準備を開始できる程度）の運用能力を身につける。			
2. 授業内容 教科書に沿って，おおむね以下のテーマについて練習します。 第1回：挨拶 第2回：住まいについて 第3回：家具 第4回：住まいの広告 第5回：テキストを読む 第6回：聴く練習 第7回：一日の経過 第8回：時刻 第9回：一週間のスケジュール 第10回：約束する 第11回：聴く練習 第12回：趣味 第13回：メールを書く 第14回 a: まとめ b: 試験 この他に，国際検定試験「スタートドイツ語1（SD1）」の「聞く」「話す」に対応する内容も扱います。 また以上のスケジュールは，授業の進度によって変更されることもあります。			
3. 履修上の注意 指定されたクラスで受講すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 担当教員の指示に従い，予習・復習を行うこと。			
5. 教科書 担当教員が指示します。			
6. 参考書 参考書，問題集などは担当教員が必要に応じて指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 平常点（授業への参加度，課題の発表，小テストなど）40%，定期試験60%の予定です（進捗等によって変更の可能性がありますので，各担当教員からの説明をよく聞いてください）。			
9. その他 「選択外国語」の項目に記載されている「ドイツ語コミュニケーション」の授業についても参照し，ぜひ参加を検討してみてください。			

科目ナンバー：(BA)LAN121J			
ドイツ語（初級）Ⅰb（統一）			
竹内拓史・畑一成・大類京子・松島渉			
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 ドイツ語をもう一度初歩から学ぶ人を対象に、各クラスの担当教員が選んだ教科書を使って、初級文法の基礎とその運用を学びます。 〈到達目標〉 ドイツ語初級文法の土台となる最も基本的な知識を身につけることを目標とします。			
2. 授業内容 各担当教員が選んだ教科書に沿って、おおむね以下の文法事項を学習します。 第1回：イントロダクション 第2回：発音の規則 第3回：動詞の現在人称変化（1）規則動詞 第4回：名詞の性・数・格、定冠詞・不定冠詞の格変化 第5回：動詞の現在人称変化（2）不規則動詞 第6回：前置詞 第7回：定冠詞類の格変化 第8回：不定冠詞類の格変化 第9回：分離動詞・非分離動詞 第10回：人称代名詞、命令形 第11回：話法の助動詞、未来形 第12回：接続詞、副文 第13回：春学期の復習 第14回：a：まとめ b：期末試験 [ただし以上のスケジュールは、各クラスの教科書や授業の進度によって変更する場合があります。]			
3. 履修上の注意 指定されたクラスで受講すること。 この単位を落とすと、秋学期の初級Ⅱbを履修できなくなりますので注意してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各担当教員の指示に従い、予習・復習を行ってください。			
5. 教科書 各担当教員が指示する教科書を使用します。			
6. 参考書 辞書については初回の授業で紹介します。その他の参考書についても各担当教員が必要に応じて指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 平常点（授業への参加等）30%、中間試験30%、期末試験40%を予定しています（各クラスの進度等により、若干変更となる場合がありますので、担当教員の説明をよく聞いてください）。			
9. その他 「選択外国語」の項目に記載されている「ドイツ語コミュニケーション」の授業についてもぜひ参加を検討してください。			

科目ナンバー：(BA)LAN121J			
ドイツ語（初級）Ⅱb（統一）			
竹内拓史・畑一成・大類京子・松島渉			
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 春学期開講の「ドイツ語（初級）Ⅰb」を引きつぎ、初級文法の主要部分とその運用を学びます。 〈到達目標〉 ドイツ語初級文法の基本的知識の大部分を身につける。			
2. 授業内容 各担当教員が選んだ教科書に沿って、おおむね以下の文法事項を学習します。 第1回：春学期の復習 第2回：非人称動詞、再帰代名詞・再帰動詞 第3回：形容詞の用法、格変化、名詞化 第4回：zu不定詞（句）〔メディア授業〕 第5回：動詞の3基本形、過去形 第6回：現在完了形 第7回：過去完了形 第8回：形容詞・副詞の比較表現 第9回：指示代名詞、関係代名詞（1）定関係代名詞 第10回：関係代名詞（2）不定関係代名詞、関係副詞 第11回：受動態（1）現在形 第12回：受動態（2）過去形、現在完了形、状態受動 第13回：秋学期の復習 第14回：a：まとめ b：期末試験 [ただし以上のスケジュールは、各クラスの教科書や授業の進度等によって変更となる場合があります。]			
3. 履修上の注意 指定されたクラスで受講すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 まずはドイツ語に慣れることを主眼とした春学期のⅠbとは異なり、このⅡbでは授業のスピードが速くなるので、予習と宿題を欠かさずおこなってください。			
5. 教科書 春学期に各担当教員が選んだ教科書を引き続き使用します。			
6. 参考書 参考書は各担当教員が必要に応じて指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 平常点（授業への参加等）30%、中間試験30%、期末試験40%を予定しています（各クラスの進度等により若干変更になる場合がありますので、担当教員の説明をよく聞いてください）。			
9. その他 「選択外国語」の項目に記載されている「ドイツ語コミュニケーション」の授業についてもぜひ参加を検討してみてください。			

科目ナンバー：(BA)LAN221J			
ドイツ語（中級）A 指定（統一） 【指定クラス】			
竹内拓史・畑一成・大類京子・小松真帆			
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 2 学期程度のドイツ語既修者を対象に、各クラスの担当教員が選んだ教科書に沿って中級レベルのテキストを扱い、それを通して初級文法の復習をし、その定着を図ります。 〈到達目標〉 秋学期開講の「ドイツ語（中級）B 指定クラス」とあわせ、ドイツ語初級文法の全般的知識を身につけ、それらを運用することができるようになる。			
2. 授業内容 各クラスの担当教員が選んだ教科書によってテーマは異なりますが、そのテーマのテキストを使って、一年次に学んだ初級文法のうちまだ十分に定着していないと思われる項目を復習します。（なお「接続法」はどのクラスも一年次には学習していませんので、この授業で初めて扱います。） 復習する文法事項やその順序も教科書によって多少違いがありますが、おおむね以下のような項目を取り上げます。 第1回～第4回 1年時の復習 第5回・第6回 過去形 第7回 中間試験 第8回～第10回 形容詞の用法 第11回・第12回 比較級と最上級 第13回 春学期の復習 第14回 a まとめ b 期末試験 （各クラスの教科書や進度等によって上記スケジュールは変更になる可能性があります）			
3. 履修上の注意 指定されたクラスで受講すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各担当教員の指示に従い、予習・復習を行うこと。			
5. 教科書 各担当教員が指示します。			
6. 参考書 担当教員が必要に応じて指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 平常点（授業への参加度）30％、小テストや中間・期末試験70％の予定です（各クラスの進度等によって変更の可能性がありますので、各担当教員からの説明をよく聞いてください）。			
9. その他 「選択外国語」の項目に記載されている「ドイツ語コミュニケーション」の授業についても参照し、ぜひ参加を検討してみてください。			

科目ナンバー：(BA)LAN221J			
ドイツ語（中級）B 指定（統一） 【指定クラス】			
竹内拓史・畑一成・大類京子・小松真帆			
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 2 学期程度のドイツ語既修者を対象に、各クラスの担当教員が選んだ教科書に沿って中級レベルのテキストを扱い、それを通して初級文法の復習をし、その定着を図ります。 〈到達目標〉 春学期開講の「ドイツ語（中級）A 指定クラス」とあわせ、ドイツ語初級文法の全般的知識を身につけ、それらを運用することができるようになる。			
2. 授業内容 各クラスの担当教員が選んだ教科書によってテーマは異なりますが、そのテーマのテキストを使って、一年次に学んだ初級文法のうちまだ十分に定着していないと思われる項目を復習します。（なお「接続法」はどのクラスも一年次には学習していませんので、この授業で初めて扱います。） 復習する文法事項やその順序も教科書によって多少違いがありますが、おおむね以下のような項目を取り上げます。 第1回・第2回 春学期の復習 第3回・第4回 接続法 第5回・第6回 関係副詞 第7回・第8回 受動態 第9回・第10回 形容詞の用法 第11回・第12回 zu不定詞 第13回 秋学期の復習 第14回 a まとめ b 期末試験 （各クラスの教科書や進度等によって蒸気スケジュールは変更になる可能性があります）			
3. 履修上の注意 指定されたクラスで受講すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各担当教員の指示に従い、予習・復習を行うこと。			
5. 教科書 各担当教員が指示します。			
6. 参考書 担当教員が必要に応じて指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 平常点（授業への参加度）30％、小テストや中間・期末試験70％の予定です（各クラスの進度等によって変更の可能性がありますので、各担当教員からの説明をよく聞いてください）。			
9. その他 「選択外国語」の項目に記載されている「ドイツ語コミュニケーション」の授業についても参照し、ぜひ参加を検討してみてください。			

科目ナンバー：(BA) LAN221J			
ドイツ語（中級） A 【選択クラス】			畑 一 成
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 「ドイツ語（中級）A」には「指定クラス」と「選択クラス」があるが、「指定クラス」で初級文法の学習を完結させるのに対して、この「選択クラス」では、受講者各自の関心に従い、6つの異なるテーマのクラスのなかから1つを選択して受講する。既習の文法事項を応用し、中級レベルのドイツ語教材に取り組むと共に、適宜ドイツのニュース等を紹介し、ドイツ語圏の社会や文化についての理解も深める。 【到達目標】 中級レベルのドイツ語を理解することができる。ドイツ語圏の社会や文化について、ある程度の知識と持続的な関心を有する。			
2. 授業内容 EUは世界の政治・経済のルール作りにおいて主導的な役割を果たしている。そのEUがどのようなルール作りをしようとしているのかを分析できるようになるため、EUで最大であるドイツ語圏の政治、経済、研究の動向をリサーチする技能と語学力を習得する。本年度は自動車やデジタル関連のテキストを読解する予定。 第1回 授業方法や評価基準の説明。ドイツ語圏の情報リサーチするときに必要となる知識と方法論を概説。 第2回 政府系機関から情報を取得する仕方を学び、官報等の文章を読解する。 第3～5回 官報の読解を進めながら、各文章の文法を再確認する。 第6回 ドイツ語圏の代表的な研究機関を知り、その機関紙等を読解する。 第7～9回 機関紙を読み進めながら、学術的な文章の読み解き方を理解し、各文章の文法を再確認する。 第10回 ドイツ語圏の主要メディアを知り、いくつかの記事を読解する。 第11～13回 記事を読み進めながら、様々な省略表現やレトリック等の特徴的な文章表現を学ぶ。 第14回 a. 試験 b. 正答解説			
3. 履修上の注意 本授業は1クラスあたりの受講人数制限がある。そのため、履修に際しては事前登録が必要である。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照のこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・授業後、読解した文章の意味や文法を再確認する。 ・次回の授業で読む文章を自力で翻訳し、文法的に説明できるように予習する。			
5. 教科書 特定の教科書は使用しない。読解する文章は講師が用意する。手元にある文法書と辞書を毎授業持参すること。			
6. 参考書 『ドイツ語学への誘い』河崎靖（現代書館） 『ハンドブックヨーロッパ外交史』岩間陽子、君塚直隆、細谷雄一（ミネルヴァ書房）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 第14回のbモジュールで、試験の正答解説と講評を行う。			
8. 成績評価の方法 期末試験：60%（「到達目標」の記載内容を測る試験を行う） 授業への参加：40%（課題や発表、グループワーク等の参加度や達成度を測る） ※授業への参加状況や態度によって減点する場合がある。 ※授業を3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。			
9. その他 ・格や品詞等の文法を一語一語確認しながら読み進める「精読」のスタイルをとる。意識が得意なAI翻訳とは相性が悪く、学習者のドイツ語能力を歪めてしまうため、機械翻訳を使用しないこと。 ・実践的なリサーチを通じてドイツ語能力の向上を目指す。リサーチをするためには、広い視野が必要であり、普段から気になることを調べる習慣を身に着けることが望ましい。			

科目ナンバー：(BA) LAN221J			
ドイツ語（中級） B 【選択クラス】			畑 一 成
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 「ドイツ語（中級）A」には「指定クラス」と「選択クラス」があるが、「指定クラス」で初級文法の学習を完結させるのに対して、この「選択クラス」では、受講者各自の関心に従い、6つの異なるテーマのクラスのなかから1つを選択して受講する。既習の文法事項を応用し、中級レベルのドイツ語教材に取り組むと共に、適宜ドイツのニュース等を紹介し、ドイツ語圏の社会や文化についての理解も深める。 【到達目標】 中級レベルのドイツ語を理解することができる。ドイツ語圏の社会や文化について、ある程度の知識と持続的な関心を有する。			
2. 授業内容 EUは世界の政治・経済のルール作りにおいて主導的な役割を果たしている。そのEUがどのようなルール作りをしようとしているのかを分析できるようになるため、EUで最大であるドイツ語圏の政治、経済、研究の動向をリサーチする技能と語学力を習得する。本年度は自動車やデジタル関連のテキストを読解する予定。 第1回 授業方法や評価基準の説明。ドイツ語圏の情報リサーチするときに必要となる知識と方法論を概説。 第2回 政府系機関から情報を取得する仕方を学び、官報等の文章を読解する。 第3～5回 官報の読解を進めながら、各文章の文法を再確認する。 第6回 ドイツ語圏の代表的な研究機関を知り、その機関紙等を読解する。 第7～9回 機関紙を読み進めながら、学術的な文章の読み解き方を理解し、各文章の文法を再確認する。 第10回 ドイツ語圏の主要メディアを知り、いくつかの記事を読解する。 第11～13回 記事を読み進めながら、様々な省略表現やレトリック等の特徴的な文章表現を学ぶ。 第14回 a. 試験 b. 正答解説			
3. 履修上の注意 本授業は1クラスあたりの受講人数制限がある。そのため、履修に際しては事前登録が必要である。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照のこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・授業後、読解した文章の意味や文法を再確認する。 ・次回の授業で読む文章を自力で翻訳し、文法的に説明できるように予習する。			
5. 教科書 特定の教科書は使用しない。読解する文章は講師が用意する。手持ちの文法書と辞書を毎授業持参すること。			
6. 参考書 『ドイツ語学への誘い』河崎靖（現代書館） 『ハンドブックヨーロッパ外交史』岩間陽子、君塚直隆、細谷雄一（ミネルヴァ書房）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 第14回のbモジュールで、試験の正答解説と講評を行う。			
8. 成績評価の方法 期末試験：60%（「到達目標」の記載内容を測る試験を行う） 授業への参加：40%（課題や発表、グループワーク等の参加度や達成度を測る） ※授業への参加状況や態度によって減点する場合がある。 ※授業を3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。			
9. その他 ・格や品詞等の文法を一語一語確認しながら読み進める「精読」のスタイルをとる。意識が得意なAI翻訳とは相性が悪く、学習者のドイツ語能力を歪めてしまうため、機械翻訳を使用しないこと。 ・実践的なリサーチを通じてドイツ語能力の向上を目指す。リサーチをするためには、広い視野が必要であり、普段から気になることを調べる習慣を身に着けることが望ましい。			

科目ナンバー：(BA) LAN221J			
ドイツ語（中級） A 【選択クラス】			赤 池 マ リ ア
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 「ドイツ語（中級）A」には「指定クラス」と「選択クラス」があるが、「指定クラス」で初級文法の学習を完結させるのに対して、この「選択クラス」では、受講者各自の関心に従い、6つの異なるテーマのクラスのなかから1つを選択して受講する。既習の文法事項を応用し、中級レベルのドイツ語教材に取り組むと共に、ドイツ語圏の社会や文化についての理解を深める。 <到達目標> 中級レベルのドイツ語を理解することができる。ドイツ語圏の社会や文化について、ある程度の知識と持続的な関心を有する。			
2. 授業内容 この授業ではドイツ語の検定試験の準備をします。すでに一年間ドイツ語を学習した学生がこのクラスに参加ができます。 日常のさまざまなシチュエーションにおける「聞く」「読む」「話す」「書く」を練習します。その際さらに、試験のための語彙や言い回し、文法も学んでいきます。授業の中心となるのは、ペアワークやグループでの作業における「聞くこと」と「話すこと」の練習です。 教科書を使い、以下のテーマについて練習したいと思います。 第1回：イントロダクション、自己紹介 第2回：ストーリーを聴く、対話練習 第3回：職業と仕事について 第4回：語彙を覚えるためのゲーム 第5回：国と言語、プロフィールを書く 第6回：対話練習、手紙を書く 第7回：住まいについて、好みを表現する 第8回：ストーリーを聴く、対話練習 第9回：日常用品、テキストを読む 第10回：職場の環境 第11回：ストーリーを聴く、対話練習 第12回：メールを読む、語彙練習 第13回：まとめ 第14回：レポート提出			
3. 履修上の注意 積極的にパートナー又グループワークに参加することが必要です。 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため履修に際しては事前登録が必要です。詳細は「経営学部履修の手引き」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習することによってなおさら上達することができます。			
5. 教科書 “Menschen A 1.1 Kursbuch” Hueber 978-3-19-361901-3			
6. 参考書 なし			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 テスト：60% レポート：40%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN221J			
ドイツ語（中級） B 【選択クラス】			赤 池 マ リ ア
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 秋学期開講の「ドイツ語（中級）B（選択クラス）」では、春学期開講の「ドイツ語（中級）A（選択クラス）」で受講者各自が選択したのと同じテーマのクラスを、原則として受講する。初級文法全般を応用し、中級レベルのドイツ語教材に取り組むと共に、ドイツ語圏の社会や文化についての理解をいっそう深める。 <到達目標> 中級レベルのドイツ語を理解することができる。ドイツ語圏の社会や文化について、春学期以上の知識と持続的な関心を有する。			
2. 授業内容 この授業ではドイツ語の検定試験の準備をします。すでに一年間ドイツ語を学習した学生がこのクラスに参加ができます。 日常のさまざまなシチュエーションにおける「聞く」「読む」「話す」「書く」を練習します。その際さらに、試験のための語彙や言い回し、文法も学んでいきます。授業の中心となるのは、ペアワークやグループでの作業における「聞くこと」と「話すこと」の練習です。 教科書を使い、以下のテーマについて練習したいと思います。 第1回：イントロダクション、自己紹介 第2回：趣味、自由時間の過ごし方 第3回：ストーリーを聴く、対話練習 第4回：約束する、メールを書く 第5回：時刻、対話練習 第6回：ドイツの食習慣 第7回：メニューを読む、週末の予定 第8回：駅での語彙練習 第9回：色々な対話の聴く・話す練習 第10回：日常のアクチヴィチについて 第11回：スケジュールを話す 第12回：映画を観る 第13回：まとめ 第14回：レポート提出			
3. 履修上の注意 積極的にパートナー又グループワークに参加することが必要です。 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため履修に際しては事前登録が必要です。詳細は「経営学部履修の手引き」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習することによってなおさら上達することができます。			
5. 教科書 Menschen A 1.1. Kursbuch Hueber出版社 ISBN: 978-3-19-361901-3			
6. 参考書 なし			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 テスト 60% レポート：40%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN221J			
ドイツ語（中級） A 【選択クラス】			大 類 京 子
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 「ドイツ語（中級）A」には「指定クラス」と「選択クラス」があるが、「指定クラス」で初級文法の学習を完了させるのに対して、この「選択クラス」では、受講者各自の関心に従い、6つの異なるテーマのクラスのなかから1つを選択して受講する。既習の文法事項を応用し、中級レベルのドイツ語教材に取り組むと共に、ドイツ語圏の社会や文化についての理解を深める。 <到達目標> 中級レベルのドイツ語を理解することができ、ドイツ語圏の社会や文化について、ある程度の知識と持続的な関心を有する。「ヨーロッパ級数参照枠」のA 1レベルの修了試験「Start Detusch1」に対応できるドイツ語運用能力を身につける。			
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション b：自己紹介 第2回 Kennenlernen（人と知り合う）（1） 第3回 Freizeit（自由時間）（1） 第4回 Freizeit（自由時間）（2） 第5回 Freizeit（自由時間）（3） 第6回 Tagesablauf（一日の行動）（1） 第7回 Tagesablauf（一日の行動）（2） 第8回 Tagesablauf（一日の行動）（3） 第9回 Wohnen（住まい）（1） 第10回 Wohnen（住まい）（2） 第11回 Essen und Trinken（食事）（1） 第12回 Essen und Trinken（食事）（2） 第13回 Essen und Trinken（食事）（3） 第14回 a：まとめ b：試験 [上記のスケジュールは、場合によっては変更されることもあり得ます。]			
3. 履修上の注意 本授業は1クラスあたりの受講人数制限がある。そのため、履修に際しては事前登録が必要である。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照のこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 指定された箇所の予習をすること。また授業内で単語テストがあるため、地道かつ継続的な努力が求められる。			
5. 教科書 藤原三枝子/ 桂木 忍 / 本河裕子/ 野村幸宏/ Anja Poller/ Rita Toussaint 著 『スタート! 1 ノイ コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』 三修社 ＊こちらは、2025年初版のA4版の教科書です。同じようなタイトルの姉妹教科書があるので、間違えないよう気をつけてください。			
6. 参考書 授業内で指示したインターネット上のサイトを適宜利用すること。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で解答や補足について言及します。場合によっては、クラスウェブの掲示板等を使うこともあります。			
8. 成績評価の方法 【平常点40：学期末試験60】 平常点は、課題や授業参加態度・貢献度、単語テスト、ヒアリング小テスト、模擬テストなどによります。 欠席・遅刻、辞書不携帯は、授業参加態度への評価に大きく影響します。 <u>遅刻・欠席が一定回数を超えた場合、平常点分は評価の対象となりません。</u> SD 1の受験は義務ではありませんが、受験そのもので平常点への「加点」があります。 また、SD1の点数を、学期末試験の代替物とすることも可能です。 その際は、SD1の獲得点数を学期末試験に対応する点数に補正して換算します。			
9. その他 この授業は、検定試験「スタートドイツ語1」対応のクラスです。「スタートドイツ語1」は、欧州評議会が定めた語学力評価基準の最初のレベル、A 1レベルを証明する検定試験です。その資格は日本国内を対象とした独検とは異なり、ヨーロッパをはじめ世界中で通用します。「世界統一基準の資格試験」といわれると敷居が高い印象があるかもしれませんが、その心配はありません。試験の内容や形式、必要語彙は、ドイツの日常や身近な話題にふれた親近感の持てるものです。1年次に学習した初級文法の知識、表現力があれば十分合格できる試験ですから、積極的に挑戦してみることをお勧めします。			

科目ナンバー：(BA) LAN221J			
ドイツ語（中級） B 【選択クラス】			大 類 京 子
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 「ドイツ語（中級）A」には「指定クラス」と「選択クラス」があるが、「指定クラス」で初級文法の学習を完了させるのに対して、この「選択クラス」では、受講者各自の関心に従い、6つの異なるテーマのクラスのなかから1つを選択して受講する。既習の文法事項を応用し、中級レベルのドイツ語教材に取り組むと共に、ドイツ語圏の社会や文化についての理解を深める。 <到達目標> 中級レベルのドイツ語を理解することができ、ドイツ語圏の社会や文化について、ある程度の知識と持続的な関心を有する。「ヨーロッパ級数参照枠」のA 1レベルの修了試験「Start Detusch1」に対応できるドイツ語運用能力を身につける。			
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション b：Einkaufen（買い物）（1） 第2回 Einkaufen（買い物）（2） 第3回 Einkaufen（買い物）（3） 第4回 Familie（家族）（1） 第5回 Familie（家族）（2） 第6回 Reisen（旅行）（1） 第7回 Reisen（旅行）（2） 第8回 In der Stadt（街角で）（1） 第9回 In der Stadt（街角で）（2） 第10回 スタートドイツ語1 模擬練習（1） 第11回 スタートドイツ語1 模擬練習（2） 第12回 ドイツ文化に触れる（1） 第13回 ドイツ文化に触れる（2） 第14回 a：まとめ b：試験 [上記のスケジュールは、スタートドイツ語の試験実施日によって、多少変更があります。]			
3. 履修上の注意 本授業は1クラスあたりの受講人数制限がある。そのため、履修に際しては事前登録が必要である。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照のこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 指定された箇所の予習をすること。特に語彙は、授業中に行われる課題に大きく関係するため、各自必ず調べて授業に臨むこと。			
5. 教科書 藤原三枝子/ 桂木 忍 / 本河裕子/ 野村幸宏/ Anja Poller/ Rita Toussaint 著 『スタート! 1 ノイ コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』 三修社 ＊この教科書は2025年初版のA4サイズのもので、同じようなタイトルの姉妹教科書があるので、間違えないよう気をつけてください。			
6. 参考書 授業内で指示したインターネット上のサイトを適宜利用すること。 <u>12月からの授業では、辞書を必ず携帯すること。</u>			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で解答や補足について言及します。場合によっては、クラスウェブの掲示板等を使うこともあります。			
8. 成績評価の方法 【平常点40：学期末試験：60】 平常点は、課題や授業参加態度・貢献度、単語テスト、ヒアリング小テスト、模擬テストなどによります。 欠席・遅刻、辞書不携帯は、授業参加態度への評価に大きく影響します。 <u>遅刻・欠席が一定回数を超えた場合、平常点分は評価の対象となりません。</u> SD 1の受験は義務ではありませんが、受験そのもので平常点への「加点」があります。 また、SD1の点数を、学期末試験の代替物とすることも可能です。 その際は、SD1の獲得点数を学期末試験に対応する点数に補正して換算します。			
9. その他 ゲーティンスティチュートで行われる「スタートドイツ語」の試験日程や申し込みに関しては、春学期にO-meijiにて情報が公開されます。希望者はそのお知らせに従って、各自申し込み手続きを行って下さい。 申し込みの際の払込の証明になる原本や助成金の振込先に指定する口座の通帳コピーなどは、助成金申請時に必要です。 大学への助成金の申請締め切りが、合格発表より前のことがあります。その際の対応の仕方も、春学期に大学から発表される情報のページや、O-meiji内の経営学部の助成金に関する記事を参考にして下さい。 秋学期のみの受講生の方は、春学期からの積み重ねがないため、試験に必要な語彙や練習が不足している状態でスタートドイツ語1と同じ形式の学期末試験を受けることになるため、受講に関しても試験勉強に関しても、いっそうの努力が必要になります。受講が決まったら、春学期分の単語リスト等をお渡ししますので、申し出て下さい。			

科目ナンバー：(BA) LAN221J			
ドイツ語（中級） A 【選択クラス】			小 松 真 帆
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 本授業では、「ドイツの歴史」について書かれた教科書を使用して、初級文法の知識を確認しながらドイツ語のテキストを読み進めます。現在のドイツならびにドイツ語圏について学ぶうえで、その歴史的な歩みを知ることは不可欠です。 積極的に取り組むことによって中級レベルのドイツ語能力を身につけ、ドイツ語圏の社会や文化についての関心を広げることが目標です。			
2. 授業内容 第1回：導入（テキストの読み方） 第2回：第1課（民族とキリスト教） 第3回：第2課（帝国と教会） 第4回：第3課（中世） 第5回：第4課（宗教改革） 第6回：第5課（反宗教改革） 第7回：第5課（絶対主義） 第8回：第6課（近代国家の成立） 第9回：第7課（3月革命） 第10回：第7課（ドイツ統一） 第11回：第8課（第一次世界大戦） 第12回：第9課（ヴァイマル共和国） 第13回：第9課（戦間期） 第14回：まとめテストと解説、春学期の復習			
3. 履修上の注意 ・辞書は毎回必ず持参すること。辞書を持参しない場合には出席と認められません。 ・授業回数の3分の1以上を欠席した場合は原則として期末試験を受けることができません（単位取得できません）。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・あくまでも「ドイツ語のテキスト」を読む授業なので、初級ドイツ語の知識をひとつひとつ確認しながら予習に取り組むこと。 ・テキストのドイツ語に取り組むさいには、単語の意味を調べるだけでなく、自分の力で日本語の文章に移し替えてみることに。 ・取り上げられている都市、音楽家、楽曲についてよく調べることに。 ・分からないところがあれば、その都度質問してください。			
5. 教科書 松本嘉久・編『ツェットル・ドイツの歴史と現在（Erich Zettl: Deutschland in Geschichte und Gegenwart. Ein Überblick.）』（郁文堂）			
6. 参考書 ドイツ語圏の歴史についての書籍一般			
7. 課題に対するフィードバックの方法 ・課題については授業内もしくはポータル経由で講評を行う。 ・テスト・試験については試験後に解答・解説を行う。			
8. 成績評価の方法 ・授業への参加度・予習：3割、小テスト・授業内課題：3割、まとめテスト・課題：4割 ・出席は予習を前提とし、その他にも随時レポートやリアクションペーパーを指示します。			
9. その他 特になし			

科目ナンバー：(BA) LAN221J			
ドイツ語（中級） B 【選択クラス】			小 松 真 帆
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 本授業では、「ドイツの歴史」について書かれた教科書を使用して、初級文法の知識を確認しながらドイツ語のテキストを読み進めます。現在のドイツならびにドイツ語圏について学ぶうえで、その歴史的な歩みを知ることは不可欠です。 積極的に取り組むことによって中級レベルのドイツ語能力を身につけ、ドイツ語圏の社会や文化についての関心を広げることが目標です。			
2. 授業内容 第1回：第10課（国民社会主義） 第2回：第10課（第二次世界大戦） 第3回：第11課（戦後の復興） 第4回：第11課（東西分裂） 第5回：第12課（BRDの国家体制） 第6回：第13課（DDRの国家体制） 第7回：第14課（冷戦のはざままで） 第8回：第15課（東西の歩み寄り） 第9回：第16課（東西ドイツの経済） 第10回：第17課（東西ドイツの社会） 第11回：第18課（ドイツ再統一） 第12回：補足（メルケル政権） 第13回：補足（欧州難民危機とその後） 第14回：まとめテストと解説、秋学期の復習			
3. 履修上の注意 ・辞書は毎回必ず持参すること。辞書を持参しない場合には出席と認められません。 ・授業回数の3分の1以上を欠席した場合は原則として期末試験を受けることができません（単位取得できません）。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・あくまでも「ドイツ語のテキスト」を読む授業なので、初級ドイツ語の知識をひとつひとつ確認しながら予習に取り組むこと。 ・テキストのドイツ語に取り組むさいには、単語の意味を調べるだけでなく、自分の力で日本語の文章に移し替えてみることに。 ・取り上げられている都市、音楽家、楽曲についてよく調べることに。 ・分からないところがあれば、その都度質問してください。			
5. 教科書 松本嘉久・編『ツェットル・ドイツの歴史と現在（Erich Zettl: Deutschland in Geschichte und Gegenwart. Ein Überblick.）』（郁文堂）			
6. 参考書 ドイツ語圏の歴史についての書籍一般			
7. 課題に対するフィードバックの方法 ・課題については授業内もしくはポータル経由で講評を行う。 ・テスト・試験については試験後に解答・解説を行う。			
8. 成績評価の方法 ・授業への参加度・予習：3割、小テスト・授業内課題：3割、まとめテスト・課題：4割 ・出席は予習を前提とし、その他にも随時レポートやリアクションペーパーを指示します。			
9. その他 特になし			

科目ナンバー：(BA) LAN221J			
ドイツ語（中級）A 【選択クラス】			松島 渉
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 概要 「ドイツ語（中級）A」には「指定クラス」と「選択クラス」があるが、「指定クラス」で初級文法の学習を完結させるのに対して、この「選択クラス」では、受講者各自の関心に従い、6つの異なるテーマのクラスのなかから1つを選択して受講する。既習の文法事項を応用し、中級レベルのドイツ語教材に取り組むと共に、ドイツ語圏の社会や文化についての理解を深める。 到達目標 中級レベルのドイツ語を理解することができる。ドイツ語圏の社会や文化について、ある程度の知識と持続的な関心を有する。			
2. 授業内容 本授業では、和訳、作文練習を通して既習の文法事項を捉えなおし、よりいっそうの理解を深める。教科書に従い授業を進めるが、受講者の学習レベルに応じて変更する可能性がある。辞書必携。 第1回 導入、既習事項の確認 第2回 主語と定動詞、動詞の位置 第3回 自己紹介の文（1） 第4回 ドイツ語らしい語順 第5回 自己紹介の文（2） 第6回 否定文 第7回 好き嫌いを言う 第8回 冠詞の使い方 第9回 身体の調子を伝える 第10回 情報の流れを考える 第11回 過去の事を書く 第12回 空間の位置関係の表し方 第13回 道案内の表現 第14回 a：試験 b：解説			
3. 履修上の注意 本授業は1クラスあたりの受講人数制限がある。そのため、履修に際しては事前登録が必要である。詳細は「経営学部履修の手引」を参照のこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、予習範囲を指定し、課題を与えるのでやってくる。初級で学んだことは既習事項として扱うので、自学自習を怠らないこと。一年次に使用した基礎文法教科書を見直すこと。			
5. 教科書 清野智明『ドイツ語を書いてみよう！』[改訂版] 白水社、2016年			
6. 参考書 1年次に使用した文法の教科書を参考にすること。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出課題は添削して返却する。			
8. 成績評価の方法 平常点50点、期末試験50点。 平常点とは出席のみで得られるものではない。事前に指定された問題をやっていなかったり、指名されて問題を答える際に思考の跡がないなどが減点の対象である。期間中作文課題を提出する機会がある。課題提出の有無、その内容も平常点に含まれる。			
9. その他 何か一定の内容を外国語の文章で伝えるとき、それは一通りであるとは限らない。文法のルールや定型を覚えることは大事だが、ただ作文の模範解答を暗記するだけということにならないよう注意すること。 昨今人工知能の発達等により機械翻訳の精度が飛躍的に上がっているが、機械翻訳を通したものをただ書き写したとしてもそれはあなたの学習ではない。仮に機械翻訳を使うとしても、それが使用者の能力向上に役立てられないのならば外国語学習において意味は薄い。テクノロジーとの付き合い方をよく考えること。			

科目ナンバー：(BA) LAN221J			
ドイツ語（中級）B 【選択クラス】			松島 渉
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 概要 秋学期開講の「ドイツ語（中級）B（選択クラス）」では、春学期開講の「ドイツ語（中級）A（選択クラス）」で受講者各自が選択したのと同じテーマのクラスを、原則として受講する。初級文法全般を応用し、中級レベルのドイツ語教材に取り組むと共に、ドイツ語圏の社会や文化についての理解をいっそう深める。 到達目標 中級レベルのドイツ語を理解することができる。ドイツ語圏の社会や文化について、春学期以上の知識と持続的な関心を有する。			
2. 授業内容 春学期に引き続き、和訳、作文を通して文法事項の理解を深め、より高度なドイツ語の文章を理解、作文できるようにする。最終的には短文だけでなく、ある程度まとまった文章を理解、作文できるようになるよう努力が求められる。以下の予定に従い授業を進めるが、受講者の学習レベルに応じて変更する可能性がある。辞書必携。 第1回 前置詞を使いこなす 第2回 時間に関する表現、予定を伝える 第3回 視点の取り方 第4回 時刻の言い方、一日の生活を表現する 第5回 人と物の表し方 第6回 自分の意見を述べる 第7回 話法でニュアンスを付け加える 第8回 いつ何をするか（複合的な表現） 第9回 名詞化する 第10回 論理的な文章を書く 第11回 ドイツ語らしい論理展開を心がける 第12回 論理展開のある文で意見を述べる 第13回 既習事項を使った作文練習 第14回 a：試験 b：解説			
3. 履修上の注意 本授業は1クラスあたりの受講人数制限がある。そのため、履修に際しては事前登録が必要である。詳細は「経営学部履修の手引」を参照のこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、予習範囲を指定し、課題を与えるのでやってくる。初級で学んだことは既習事項として扱うので、自学自習を怠らないこと。Aで学んだ内容も既習事項とみなすのでBから受講する学生は努力すること。			
5. 教科書 清野智明『ドイツ語を書いてみよう！』[改訂版] 白水社、2016年			
6. 参考書 指定クラスで使用している文法の教科書を参考にすること。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出課題は添削して返却する			
8. 成績評価の方法 平常点50点、期末試験50点。 平常点とは出席のみで得られるものではない。事前に指定された問題をやっていなかったり、指名された問題を答える際に思考の跡が見られない場合は減点の対象になる。期間中2回ほど作文課題を提出する機会がある。課題提出の有無、その内容も平常点に含まれる。			
9. その他 何か一定の内容を外国語の文章で伝えるとき、それは一通りであるとは限らない。文法のルールや定型を覚えることは大事だが、ただ作文の模範解答を暗記するだけということにならないよう注意すること。 昨今人工知能の発達等により機械翻訳の精度が飛躍的に上がっているが、機械翻訳を通したものをただ書き写したとしてもそれはあなたの学習ではない。仮に機械翻訳を使うとしても、それが使用者の能力向上に役立てられないのならば外国語学習において意味は薄い。テクノロジーとの付き合い方をよく考えること。			

科目ナンバー：(BA)LAN131J			
フランス語（初級）Ⅰa（統一） 【コミュニケーション】			
折方のぞみ・佐々木匠・中村美緒・南玲子			
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この授業は「聞く、話す、読む、書く」こと全般について、初歩的なフランス語の運用能力を習得することを目的とする授業です。「フランス語（初級）Ⅰ（b）」と対をなしています。この授業では、ひとまず日本語のことは忘れ、フランス語の「音」や「響き」に慣れることに重点をおいています。つまり、文字中心というよりは音声中心の学習であり、説明よりは練習中心の学習内容となっています。学習を通してフランス語を直感的に身につけることを特にめざしています。 〈到達目標〉 この科目が修了した時点でフランス語検定 5 級に合格できる程度の語学力を身につけることが到達目標です。			
2. 授業内容 大体の進路と内容は以下の通り。 第 1－4 回 自分について、人について話す 1) インTRODakション 2) 自分、相手、第三者の名前、住む町 3) 名前、住む町、年令、職業、勤務地、国籍、電話番号 4) 好き嫌い、自己紹介 第 5－9 回 生活のしかた、時間の使い方について話す 1) 時刻、自分の 1 日の生活 2) 自分、相手、第三者の 1 日の生活 3) 自分、相手、第三者の 1 週間の生活 4) 昨日したこと、先週したこと（1） 5) 昨日したこと、先週したこと（2） 第 10－13 回 空間的に位置付けながら話す 1) 身近な物、人の位置関係 2) 人について話す 3) 道順、日常の移動 4) 提案、助言の仕方 第 14 回 （a）まとめ （b）試験			
3. 履修上の注意 入学手続きでみなさんが各自希望した外国語選択に基づいて学籍クラスで指定されているので、指定されたクラスの授業を履修すること。春学期に実施される「フランス語（初級）Ⅰ」が不合格の学生は秋学期、同一曜日同一時間に開講の「フランス語（初級）Ⅱ」が履修できないので注意すること。 また、フランス語で受験した学生、フランス語既習者には「特別フランス語」のクラスを設置しています。 「特別フランス語」の履修を希望する者は、初回授業時に担当教員に申し出ること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の予習、復習は必ず行うこと。特に次の回の範囲の意味内容は辞書などを使ってきちんと調べてノートなどに各自書き出してから授業にのぞむこと。			
5. 教科書 『アクティヴ 1』白水社			
6. 参考書 参考書は特に指定しません。辞書などについては授業の際に指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて添削、模範解答提示など。			
8. 成績評価の方法 平常点（40％）と期末試験（60％）を目安とします。 課題、小テスト、中間テストなどの含め方については教員によって割合が変動する可能性があります。			
9. その他 辞書を一冊必ず毎回授業に持参すること（スマートフォンアプリについては担当教員に相談のこと）。			

科目ナンバー：(BA)LAN131J			
フランス語（初級）Ⅱa（統一） 【コミュニケーション】			
折方のぞみ・佐々木匠・中村美緒・南玲子			
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 「フランス語（初級）Ⅰ（a）」に続く科目で、基礎文法の習得を目的とする「フランス語（初級）Ⅱ（b）」と対をなす授業です。入門的な段階を脱して実践的なフランス語の運用能力全般の養成をめざします。 〈到達目標〉 この科目を修了した時点でフランス語検定 4 級に合格できる程度のフランス語力を身につけることが到達目標です。			
2. 授業内容 大体の進路と内容は以下の通り。 第 1－2 回 空間的に位置付けながら話す 1) 春学期の復習 2) 地域と天候、天気 第 3－6 回 これまでにしたことを話す 1) これまでに住んだところ、以前と今 2) 過去にしたこと 3) 過去の出来事とその背景（1） 4) 過去の出来事とその背景（2） 第 7－9 回 描写する、好き嫌いを言う、欲しいものを言う 1) 人、物を描写する 2) 好き嫌い、理由 3) 欲しいもの 第 10－13 回 頼む、誘う、伝える 1) 頼む、許可を求める 2) 誘う 3) 人の発言を伝える 4) 手紙を書く 第 14 回 （a）まとめ （b）試験			
3. 履修上の注意 「フランス語（初級）Ⅰ（a）」に合格していない者はこの科目は履修できないので注意すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の予習、復習は必ず行うこと。特に次の回の範囲の意味内容は辞書などを使ってきちんと調べてノートなどに各自書き出してから授業にのぞむこと。			
5. 教科書 『アクティヴ 1』白水社			
6. 参考書 特に指定しません。必要に応じて、授業の際に随時紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて添削、模範解答提示など。			
8. 成績評価の方法 平常点（40％）と期末試験（60％）を目安とします。 課題、小テスト、中間テストなどの含め方については教員によって割合が変動する可能性があります。			
9. その他 辞書を一冊必ず毎回授業に持参すること（スマートフォンアプリについては担当教員に相談すること）。			

科目ナンバー：(BA)LAN131J			
フランス語（初級）Ⅰb（統一） 【文法】			
荒原由紀子・加藤三和・永倉千夏子・南玲子			
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> この授業はとくにフランス語の基本的な文法を学びながら初歩的なフランス語の運用能力を習得することを目的とする授業です。「フランス語（初級）Ⅰ（a）」と対をなしています。この授業では、実際に話され書かれる生きたフランス語について、文法的知識を習得し、練習問題を通してフランス語を直感的に身につけることを特にめざしています。 <到達目標> この科目が修了した時点でフランス語検定5級に合格できる程度の語学力を身につけることが到達目標です。			
2. 授業内容 大体の進路と内容は以下の通り。 第1－5回 入門文法と文字についての知識 1) イントロダクション 2) フランス語のアルファベットについて 3) 発音について 4) 名詞の性と数（1） 5) 名詞の性と数（2） 第6－10回 フランス語の文の仕組み 1) 主語と代名詞について。 2) 動詞について（1） 3) 動詞について（2） 4) 動詞について（3） 5) 動詞について（4） 第11－13回 副詞と形容詞とその形 1) 形容詞の形 2) 副詞 3) 比較級、最上級 第14回 (a) まとめ (b) 試験			
3. 履修上の注意 入学手続きでみなさんが各自希望した外国語選択に基づいて学籍クラスで指定されているので、指定されたクラスの授業を履修すること。春学期に実施される「フランス語（初級）Ⅰ」が不合格の学生は秋学期、同一曜日同一時間に開講の「フランス語（初級）Ⅱ」が履修できないので注意すること。 また、フランス語で受験した学生、フランス語既習者には「特別フランス語」のクラスを設置しています。 「特別フランス語」の履修を希望する者は、初回授業時に担当教員に申し出ること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の予習、復習は必ず行うこと。特に次の回の範囲の意味内容は辞書などを使ってきちんと調べてノートなどに各自書き出してから授業にのぞむこと。			
5. 教科書 『<ブティ> シェリーとフランス語』 三修社			
6. 参考書 参考書は特に指定しません。辞書などについては授業の際に指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて添削、模範解答提示など。			
8. 成績評価の方法 平常点（40％）と期末試験（60％）を目安とします。 課題、小テスト、中間テストなどの含め方については教員によって割合が変動する可能性があります。			
9. その他 辞書を一冊必ず毎回授業に持参すること（スマートフォンアプリの使用については担当教員に相談のこと）。			

科目ナンバー：(BA)LAN131J			
フランス語（初級）Ⅱb（統一） 【文法】			
荒原由紀子・加藤三和・永倉千夏子・南玲子			
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> この授業は「フランス語（初級）Ⅰ（b）」に続く授業で、「フランス語（初級）Ⅰ（b）」が履修できていない学生は履修できません。引き続きフランス語の基本的な文法を学びながら初歩的なフランス語の運用能力を習得することを目的とする授業です。「フランス語（初級）Ⅱ（a）」と対をなしています。この授業では、実際に話され書かれる生きたフランス語について、文法的知識を習得し、練習問題を通してフランス語を直感的に身につけることを特にめざしています。 <到達目標> この科目が修了した時点でフランス語検定4級に合格できる程度の語学力を身につけることが到達目標です。			
2. 授業内容 大体の進路と内容は以下の通り。 第1－6回 代名動詞・過去時制の使い分け 1) 春学期の復習 2) 代名動詞 3) 複合過去形（1） 4) 複合過去形（2） 5) 半過去形（1） 6) 半過去形（2） 第7－9回 前置詞と代名詞 1) 前置詞 2) 代名詞（1） 3) 代名詞（2） 第10－13回 その他の時制、受動的表現など 1) 未来形 2) 非人称表現・受動態 3) 条件法 第14回 (a) まとめ (b) 試験			
3. 履修上の注意 入学手続きでみなさんが各自希望した外国語選択に基づいて学籍クラスで指定されているので、指定されたクラスの授業を履修すること。春学期に実施される「フランス語（初級）Ⅰ」が不合格の学生は秋学期、同一曜日同一時間に開講の「フランス語（初級）Ⅱ」が履修できないので注意すること。 また、フランス語で受験した学生、フランス語既習者には「特別フランス語」のクラスを設置しています。 「特別フランス語」の履修を希望する者は、初回授業時に担当教員に申し出ること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の予習、復習は必ず行うこと。特に次の回の範囲の意味内容は辞書などを使ってきちんと調べてノートなどに各自書き出してから授業にのぞむこと。			
5. 教科書 『<ブティ> シェリーとフランス語』 三修社			
6. 参考書 参考書は特に指定しません。辞書などについては授業の際に指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて添削、模範解答提示など。			
8. 成績評価の方法 平常点（40％）と期末試験（60％）を目安とします。 課題、小テスト、中間テストなどの含め方については教員によって割合が変動する可能性があります。			
9. その他 辞書を一冊必ず毎回授業に持参すること（スマートフォンアプリの使用については担当教員に相談のこと）。			

科目ナンバー：(BA)LAN231J			
フランス語（中級）A 指定（統一） 【習熟度別指定クラス】			
加藤三和・中村美緒・ベルテ、ディディエ・レット、フランソワ			
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 「フランス語（初級）」での学習の成果を受けて、各自の習熟度別に設定されたクラスで総合的にフランス語を学ぶ「指定クラス」と、自分の関心、目的に見合ったテーマを選択する「選択クラス」を受講します。「指定クラス」は1年次の「初級」の成績にしたがって2段階に分けられています。基本的に1年次で習得した内容を前提として、その習熟度に合わせて「話す」「聞く」「読む」「書く」を総合的に学習する「総合フランス語」クラスになっています。 〈到達目標〉 この科目（A/B）を修了した時点でフランス語検定3級に合格できる程度のフランス語力を身につけることが到達目標です。			
2. 授業内容 進路と内容は以下のとおり。 1) 第1課 2) 第1課 3) 第2課 4) 第2課 5) 第3課 6) 第3課 7) 第4課 8) 第4課 9) 第5課 10) 第5課 11) 第6課 12) 第6課 13) 復習、ふりかえり 14) (a) まとめ (b) 試験			
3. 履修上の注意 履修手続きにあたっては掲示に注意すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の予習、復習は必ず行うこと。特に次の回の範囲の意味内容は辞書などを使ってきちんと調べてノートなどに各自書き出してから授業にのぞむこと。			
5. 教科書 教科書は担当講師によって異なります。 学年初めの掲示に注意してください。			
6. 参考書 参考書は特に指定しません。必要に応じて随時紹介していきます。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて添削、模範解答提示など。			
8. 成績評価の方法 平常点（40％）と期末試験（60％）を目安とします。 課題、小テスト、中間テストなどの含め方については教員によって割合が変動する可能性があります。			
9. その他 辞書を一冊必ず毎回授業に持参すること（スマートフォンアプリ使用については担当教員に相談のこと）。 一年次の文法教科書もあると便利です。			

科目ナンバー：(BA)LAN231J			
フランス語（中級）B 指定（統一） 【習熟度別指定クラス】			
加藤三和・中村美緒・ベルテ、ディディエ・レット、フランソワ			
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 「フランス語（中級）A」に続いて、総合的にフランス語を学ぶ「指定クラス」と、前期に選択した「選択クラス」を受講します。「指定クラス」は同水準の複数の教科書をクラスごとに使用し、総合的なフランス語力の向上をめざします。 〈到達目標〉 この科目（A/B）を修了した時点でフランス語検定3級に合格できる程度のフランス語力を身につけることが到達目標です。			
2. 授業内容 「指定クラス」は基本的に前期の内容を継続して履修、「話す」「聞く」「読む」「書く」をさらに総合的に学習し、とくに文法の知識の習得とコミュニケーション能力の展開を目指します。 大体的内容は以下のとおり。 1) 第7課 2) 第7課 3) 第8課 4) 第8課 5) 第9課 6) 第9課 7) 第10課 8) 第10課 9) 第11課 10) 第11課 11) 第12課 12) 第12課 13) 復習、ふりかえり 14) (a) まとめ (b) 試験			
3. 履修上の注意 履修手続きにあたっては掲示に注意すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の予習、復習は必ず行うこと。特に次の回の範囲の意味内容は辞書などを使ってきちんと調べてノートなどに各自書き出してから授業にのぞむこと。			
5. 教科書 教科書は担当講師によって異なります。 基本的には「フランス語（中級）A」で使用した教科書を使用しますが、そうでない場合もあるので担当講師の指示に従ってください。			
6. 参考書 参考書は特に指定しません。必要に応じて随時紹介していきます。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて添削、模範解答提示など。			
8. 成績評価の方法 平常点（40％）と期末試験（60％）を目安とします。 課題、小テスト、中間テストなどの含め方については教員によって割合が変動する可能性があります。			
9. その他 辞書を一冊必ず毎回授業に持参すること（スマートフォン使用については担当教員に相談のこと）。 一年次の文法教科書もあると便利です。			

科目ナンバー：(BA)LAN231J			
フランス語（中級）A 【選択クラス】			折方のぞみ
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 初級フランス語に続く選択必修の授業です。選択クラスではテーマ別に以下のコースを設置しています。各自の興味や学習目的に従って、「時事フランス語」、「映像と音で学ぶフランス語」、「フランスに行くためのフランス語」、「フランス語を知るためのフランス語」、「フランスを知るためのフランス語」から選択します。本講義はそのなかで「映像と音で学ぶフランス語」をテーマにしてフランス語を学びます。フランスの社会や文化に関する短い文章とその音声教材をベースに内容理解力と聞き取り能力を強化し、関連映像やその他の音声素材の視聴を通して表現力を強化します。 <到達目標> 実用的なフランス語の運用能力の養成を目的とします。具体的には、実用フランス語技能検定試験の4級に合格する程度の力の習得。			
2. 授業内容 この選択授業のテーマは「映像と音で学ぶフランス語」です。フランス社会を多様な角度から切り取る簡単な文章とその音声教材をきっかけとして異文化を学びつつ、そこで使われている文法や表現を自ら「使える」ようにトレーニングしていきます。教科書だけでなく、関連するテーマやホットトピックに関するフランスのニュース番組や映画などのコンテンツ、そしてフランス語の歌なども積極的に副教材として取り入れ、楽しみながらフランス語を学び、実力をつけることを目指します。中間発表として自分自身の関心のあるテーマのフランス語での短い発表を行うなど、アウトプットの機会もあります。聞き取り・書き取りを意識したトレーニングも行いますので、仏検などの資格取得を考えている学生にも適しています。 春学期のおおまかなスケジュールは以下の通りです。 第1回 復習、発音、オリエンテーション 第2～3回 unite 1 第4～5回 unite 2 第6～7回 unite 3 （このあたりで中間発表会を行います） 第8～9回 unite 4 第10～11回 unite 5 第12～13回 unite 6 第14回 a：試験 b：まとめ・振り返り			
3. 履修上の注意 平常点は授業に「出席」すれば自動的につくものではありません。きちんと授業に「参加」しているかどうかを重視します。 各自辞書を必ず一冊準備し、授業にも持参すること。 （電子辞書可。スマートフォンアプリの場合は授業内の使用については許可された時間以外は不可。） 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は「経営学部履修の手引き」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 この授業では自宅学習にも重点を置いています。特に復習はしっかりと行うようにしましょう。宿題は必ず自分で言い提出すること。一年次の文法の復習もおきましょう。			
5. 教科書 『シヴィ・ラング』 中里まき子、ミシェル・サガス著、駿河台出版社。			
6. 参考書 特に指定しませんが、二年次の教科書の文法説明は網羅的ではないので、一年生の文法の教科書など、初級文法を網羅しているものを一冊準備しておくとういでしょう。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて添削や模範解答提示による指導			
8. 成績評価の方法 ・平常点（出席、授業参加）30% 授業への出席は大前提となります。3回以上の欠席をした者には単位を与えません（公欠や病欠は日付入り証明書があれば考慮）。その上で、教室での発言や発表など積極的に授業に参加する姿勢が評価対象となります。 ・小テスト 20% ・中間発表 10%（受講人数によりますが、各自が調べた課題コンテンツの発表を予定） ・学期末試験 40% （上記は目安で総合的に評価されます。）			
9. その他 映像や音を使って視聴覚的にフランス語を学びながら、フランスについての知識も得られる授業です。語学学習はスポーツのトレーニングと同様で、「楽しんで上達」することは難しいですが「楽しみながら上達」出来る授業にしたいと思っています。			

科目ナンバー：(BA)LAN231J			
フランス語（中級）B 【選択クラス】			折方のぞみ
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 初級フランス語に続く選択必修の授業です。選択クラスではテーマ別に以下のコースを設置しています。各自の興味や学習目的に従って、「時事フランス語」、「映像と音で学ぶフランス語」、「フランスに行くためのフランス語」、「フランス語を知るためのフランス語」、「フランスを知るためのフランス語」から選択します。本講義はそのなかで「映像と音で学ぶフランス語」をテーマにしてフランス語を学びます。フランスの社会や文化に関する短い文章とその音声教材をベースに内容理解力と聞き取り能力を強化し、関連映像やその他の音声素材の視聴を通して表現力を強化します。 <到達目標> 実用的なフランス語の運用能力の養成を目的とします。具体的には、実用フランス語技能検定試験の3級に合格する程度の力の習得。			
2. 授業内容 この選択授業のテーマは「映像と音で学ぶフランス語」です。フランス社会を多様な角度から切り取る簡単な文章とその音声教材をきっかけとして異文化を学びつつ、そこで使われている文法や表現を自ら「使える」ようにトレーニングしていきます。教科書だけでなく、関連するテーマやホットトピックに関するフランスのニュース番組や映画などのコンテンツ、そしてフランス語の歌なども積極的に副教材として取り入れ、楽しみながらフランス語を学び、実力をつけることを目指します。中間発表ではフランス語で自分の興味のあるテーマについて短い発表を行い、アウトプット力を高めます。聞き取り・書き取りを意識したトレーニングも行いますので、仏検などの資格取得を考えている学生にも適しています。 秋学期のおおまかなスケジュールは以下の通りです。 第1～2回 unite 7 第3～4回 unite 8 第5～6回 unite 9 第7～8回 unite 10 （このあたりで中間発表会） 第9～10回 unite 11 第11～12回 unite 11～12 第13回 unite 12 第14回 a：試験 b：まとめ・振り返り			
3. 履修上の注意 平常点は授業に「出席」すれば自動的につくものではありません。きちんと授業に「参加」しているかどうかを重視します。 各自辞書を必ず一冊準備し、授業にも持参すること。 （電子辞書可。スマートフォンアプリの場合は授業内の使用については許可された時間以外は不可。） 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は「経営学部履修の手引き」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 この授業では自宅学習にも重点を置いています。特に復習はしっかりと行うようにしましょう。宿題は必ず自分で言い提出すること。一年次の文法の復習もおきましょう。			
5. 教科書 『シヴィ・ラング』 中里まき子、ミシェル・サガス著、駿河台出版社。			
6. 参考書 特に指定しませんが、二年次の教科書の文法説明は網羅的ではないので、一年生の文法の教科書など、初級文法を網羅しているものを一冊準備しておくとういでしょう。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて添削や模範解答の提示			
8. 成績評価の方法 ・平常点（出席、授業参加）30% 授業への出席は大前提となります。3回以上の欠席をした者には単位を与えません（公欠や病欠は日付入り証明書があれば考慮）。その上で、教室での発言や発表など積極的に授業に参加する姿勢が評価対象となります。 ・小テスト 20% ・中間テスト 10%（受講人数によりますが、各自が調べた課題コンテンツの発表を予定） ・学期末試験 40% （上記は目安で総合的に評価されます。）			
9. その他 映像や音を使って視聴覚的にフランス語を学びながら、フランスについての知識も得られる授業です。語学学習はスポーツのトレーニングと同様で、「楽しんで上達」することは難しいですが「楽しみながら上達」出来る授業にしたいと思っています。			

科目ナンバー：(BA) LAN231J			
フランス語（中級） A 【選択クラス】			佐々木匠
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 初級フランス語に続く選択必修の授業です。選択クラスではテーマ別に以下のコースを設置しています。各自の興味や学習目的に従って、「時事フランス語」、「映像と音で学ぶフランス語」、「フランスに行くためのフランス語」、「フランス語を知るためのフランス語」、「フランスを知るためのフランス語」から選択します。本講義はそのなかで「フランスを知るためのフランス語」をテーマにしてフランス語を学びます。比較的やさしいフランス語で書かれ、それでいて読み応えのある文章を、初級の授業で学んだことを総合的に用いながら読む練習をしていきます。構文を取り、意味を理解するとともに、文法の復習、語彙の習得、聞き取りの訓練、発音の矯正などにも時間の許す限り目配せをします。使用する教科書は毎年様々な興味深いトピックスを扱っています。社会、経済、文化、教育など、フランスとフランス語圏の事柄について広く多様な視点から取り上げているので、読解を通じて理解を深めていきましょう。 <到達目標> 実用的なフランス語の運用能力の養成を目的とします。具体的には、実用フランス語技能検定試験の4級に合格する程度の力の習得。			
2. 授業内容 初回に授業に関する簡単な説明を行い、2回目の授業からは2週で教科書の1つの課を終わらせるペースで学習を進めていきます。あくまで目安ではありますが、1週目に本文の精読の前半を行い、2週目に本文の精読の後半と付属の練習問題に取り組みます。その際、聞き取りや発音の練習も並行して行います。また、適宜、文法を復習し、重要な学習項目の解説もします。 第1回：学習方法の説明など 第2回：第1課本文「ボルドーのカヌレ」 第3回：第1課本文の続きと練習問題 第4回：第2課本文「セーヌ河岸のブキニスト」 第5回：第2課本文の続きと練習問題 第6回：第3課本文「ジュスティヌ・トリエ監督『落下の解剖学』」 第7回：第3課本文の続きと練習問題 第8回：第4課本文「新しいパカロレア」 第9回：第4課本文の続きと練習問題 第10回：第5課本文「利用者の口コミ評価サイト」 第11回：第5課本文の続きと練習問題 第12回：第6課本文「ミラン・クンデラ」 第13回：第6課本文の続きと練習問題 第14回：a：全体のまとめ b：試験			
3. 履修上の注意 まとまった文章を読む練習は、初級から中級へと語学力をステップアップさせるためにとても有効な学習方法の一つです。ですが、それは、辞書とどれだけ仲良くなれるかにかかっています。必ず電子辞書か紙の仏和辞典を手に入れて、授業にも持参してください。学期末の試験でも辞書の使用を認めようと考えています（スマホは基本的にはその限りではありません）。また文法事項の復習、確認などのために、初級の授業で使用したフランス語の教科書もおおいに役立ててください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習は必須です。というより、予習なしではおそらくまったく歯が立ちません。丁寧に辞書を引き、予習でわからなかった箇所や説明が必要な箇所がある場合には、授業中に積極的に質問してください。また、試験の直前にあわてることがないように、各回の復習も行いましょう。一夜漬けではきっと無理ですよ。			
5. 教科書 『Hirondelle 2025 時事フランス語2025年度版』石井洋二郎、野崎夏生、ジョルジュ・ヴェスィエール（朝日出版社）			
6. 参考書 辞書と一年生で使った教科書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 教場で添削指導を行います。			
8. 成績評価の方法 当然ですが出席は大前提です。 期末試験の点数（60%）と、授業への積極的な参加、授業態度、提出課題など（40%）を合わせて評価します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN231J			
フランス語（中級） B 【選択クラス】			佐々木匠
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 初級フランス語に続く選択必修の授業です。選択クラスではテーマ別に以下のコースを設置しています。各自の興味や学習目的に従って、「時事フランス語」、「映像と音で学ぶフランス語」、「フランスに行くためのフランス語」、「フランス語を知るためのフランス語」、「フランスを知るためのフランス語」から選択します。本講義はそのなかで「フランスを知るためのフランス語」をテーマにしてフランス語を学びます。比較的やさしいフランス語で書かれ、それでいて読み応えのある文章を、初級の授業で学んだことを総合的に用いながら読む練習をしていきます。構文を取り、意味を理解するとともに、文法の復習、語彙の習得、聞き取りの訓練、発音の矯正などにも時間の許す限り目配せをします。使用する教科書は毎年様々な興味深いトピックスを扱っています。社会、経済、文化、教育など、フランスとフランス語圏の事柄について広く多様な視点から取り上げているので、読解を通じて理解を深めていきましょう。 <到達目標> 実用的なフランス語の運用能力の養成を目的とします。具体的には、実用フランス語技能検定試験の4級に合格する程度の力の習得。			
2. 授業内容 初回に授業に関する簡単な説明を行い、2回目の授業からは2週で教科書の1つの課を終わらせるペースで学習を進めていきます。あくまで目安ではありますが、1週目に本文の精読の前半を行い、2週目に本文の精読の後半と付属の練習問題に取り組みます。その際、聞き取りや発音の練習も並行して行います。また、適宜、文法を復習し、重要な学習項目の解説もします。 第1回：学習方法の説明など 第2回：第7課本文「フランスの夜行列車の復活」 第3回：第7課本文の続きと練習問題 第4回：第8課本文「フレンチ・タッチ」 第5回：第8課本文の続きと練習問題 第6回：第9課本文「ケイジャン——ルイジアナのフランス語話者たち」 第7回：第9課本文の続きと練習問題 第8回：第10課本文「ジュール・ジャンセン」 第9回：第10課本文の続きと練習問題 第10回：第11課本文「憲法に書き込まれた中絶権——象徴的なできごと」 第11回：第11課本文の続きと練習問題 第12回：第12課本文「アングレーム国際漫画祭」 第13回：第12課本文の続きと練習問題 第14回：a：全体のまとめ b：試験			
3. 履修上の注意 まとまった文章を読む練習は、初級から中級へと語学力をステップアップさせるためにとても有効な学習方法の一つです。ですが、それは、辞書とどれだけ仲良くなれるかにかかっています。必ず電子辞書か紙の仏和辞典を手に入れて、授業にも持参してください。学期末の試験でも辞書の使用を認めようと考えています（スマホは基本的にはその限りではありません）。また文法事項の復習、確認などのために、初級の授業で使用したフランス語の教科書もおおいに役立ててください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習は必須です。というより、予習なしではおそらくまったく歯が立ちません。丁寧に辞書を引き、予習でわからなかった箇所や説明が必要な箇所がある場合には、授業中に積極的に質問してください。また、試験の直前にあわてることがないように、各回の復習も行いましょう。一夜漬けではきっと無理ですよ。			
5. 教科書 『Hirondelle 2025 時事フランス語2025年度版』石井洋二郎、野崎夏生、ジョルジュ・ヴェスィエール（朝日出版社）			
6. 参考書 辞書と一年生で使った教科書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 教場で添削指導を行います。			
8. 成績評価の方法 当然ですが出席は大前提です。 期末試験の点数（60%）と、授業への積極的な参加、授業態度、提出課題など（40%）を合わせて評価します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN231J			
フランス語（中級） A 【選択クラス】		荒 原 由 紀 子	
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 初級フランス語に続く選択必修の授業です。選択クラスではテーマ別に以下のコースを設置しています。各自の興味や学習目的に従って、「時事フランス語」「映像と音で学ぶフランス語」「フランスに行くためのフランス語」「フランス語を知るためのフランス語」「フランスを知るためのフランス語」から選択します。本講義はそのなかで「フランスに行くためのフランス語」をテーマにしてフランス語を学びます。文法や口頭表現能力を中心に復習しつつ、平易なフランス語を読み、書き、聞き、話す実用的な能力を総合的に身につけることを目指します。 <到達目標> 実用的なフランス語の運用能力の養成を目的とします。具体的には、実用フランス語技能検定試験の4級に合格する程度の力の習得。			
2. 授業内容 この選択授業のテーマは、「フランスに行くためのフランス語」です。海外の国や地域へ旅に出るには、どんな知識が必要でしょうか。この授業では、フランス語圏に行って少しでもフランス語を使ってみたいという人の実用的なフランス語能力をさらに伸ばし、また主として現代のフランスの生活習慣や社会の仕組みについての基礎的な知識を身につけることを目指します。 使用する教科書は、フランスの社会や文化をさまざまなトピック別に紹介した1ページのテキスト（たとえば第1課は「フランスにおけるスポーツ」）、そしてその文章に基づいた課題（発音や文法の練習問題：合計3ページ）という構成になっています。各課を2回の授業で学習するというペースを目安に、授業を進めていきたいと思えます。 また、授業では毎回小テストを実施するとともに（文法・語彙など）、1学期につき数回、フランスの社会や文化の特定のテーマに関するレポートを出題します。 1. イントロダクション：授業の紹介 2. 第1課・テキスト 3. 第1課・課題 4. 第2課・テキスト 5. 第2課・課題 6. 第3課・テキスト 7. 第3課・課題 8. 第4課・テキスト 9. 第4課・課題 10. 第5課・テキスト 11. 第5課・課題 12. 第6課・テキスト 13. 第6課・課題 14. a：まとめ b：試験			
3. 履修上の注意 各自辞書を必ず一冊準備し、毎回の授業に持参してください（電子辞書可、スマートフォンは不可）。 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は「経営学部履修の手引き」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 外国語能力を習得するためには、授業外の学習が不可欠です。教科書の予習・復習を各自必ず行ってください。それを前提として授業を進めます。			
5. 教科書 リリアンヌ・ラタンジオ、澤田直『ヴレマン？文法を深めながら発見するフランス14章（第2版）』、三修社。			
6. 参考書 1年次に使用した教科書、特にフランス語初級（文法）の教科書を必要に応じて参照してください。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回教室で実施する小テストを採点し、コメントをつけて返却します。レポートなどの提出物についても、同様です。クラスウェブ上の提出物については、コメント欄でフィードバックします。			
8. 成績評価の方法 成績評価の基準は、平常点（40％）と学期末の試験（60％）を目安とします。平常点は具体的には、授業への参加状況（教室内での発言・発表）、毎回の小テスト、レポートや課題などの提出物を評価の対象とします。「出席」するだけでは平常点は付きませんので、注意してください。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN231J			
フランス語（中級） B 【選択クラス】		荒 原 由 紀 子	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 初級フランス語に続く選択必修の授業です。選択クラスではテーマ別に以下のコースを設置しています。各自の興味や学習目的に従って、「時事フランス語」「映像と音で学ぶフランス語」「フランスに行くためのフランス語」「フランス語を知るためのフランス語」「フランスを知るためのフランス語」から選択します。本講義はそのなかで「フランスに行くためのフランス語」をテーマにしてフランス語を学びます。文法や口頭表現能力を中心に復習しつつ、平易なフランス語を読み、書き、聞き、話す実用的な能力を総合的に身につけることを目指します。 <到達目標> 実用的なフランス語の運用能力の養成を目的とします。具体的には、実用フランス語技能検定試験の3級に合格する程度の力の習得。			
2. 授業内容 この選択授業のテーマは、「フランスに行くためのフランス語」です。海外の国や地域へ旅に出るには、どんな知識が必要でしょうか。この授業では、フランス語圏に行って少しでもフランス語を使ってみたいという人の実用的なフランス語能力をさらに伸ばし、また主として現代のフランスの生活習慣や社会の仕組みについての基礎的な知識を身につけることを目指します。 使用する教科書は、フランスの社会や文化をさまざまなトピック別に紹介した1ページのテキスト（たとえば第1課は「フランスにおけるスポーツ」）、そしてその文章に基づいた課題（発音や文法の練習問題：合計3ページ）という構成になっています。各課を2回の授業で学習するというペースを目安に、授業を進めていきたいと思えます。 また、授業では毎回小テストを実施するとともに（文法・語彙など）、1学期につき数回、フランスの社会や文化の特定のテーマに関するレポートを出題します。 1. 春学期の復習 2. 第7課・テキスト 3. 第7課・課題 4. 第8課・テキスト 5. 第8課・課題 6. 第9課・テキスト 7. 第9課・課題 8. 第10課・テキスト 9. 第10課・課題 10. 第11課・テキスト 11. 第11課・課題 12. 第12課・テキスト 13. 第12課・課題 14. a：まとめ b：試験			
3. 履修上の注意 各自辞書を必ず一冊準備し、毎回の授業に持参してください（電子辞書可、スマートフォンは不可）。 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は「経営学部履修の手引き」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 外国語能力を習得するためには、授業外の学習が不可欠です。教科書の予習・復習を各自必ず行ってください。それを前提として授業を進めます。			
5. 教科書 リリアンヌ・ラタンジオ、澤田直『ヴレマン？文法を深めながら発見するフランス14章（第2版）』、三修社。			
6. 参考書 1年次に使用した教科書、特にフランス語初級（文法）の教科書を必要に応じて参照してください。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回教室で実施する小テストを採点し、コメントをつけて返却します。レポートなどの提出物についても、同様です。クラスウェブ上の提出物については、コメント欄でフィードバックします。			
8. 成績評価の方法 成績評価の基準は、平常点（40％）と学期末の試験（60％）を目安とします。平常点は具体的には、授業への参加状況（教室内での発言・発表）、毎回の小テスト、レポートや課題などの提出物を評価の対象とします。「出席」するだけでは平常点は付きませんので、注意してください。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN231J			
フランス語（中級）A 【選択クラス】			加藤 三 和
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 【概要】 初級フランス語に続く選択必修の授業です。選択クラスではテーマ別に以下のコースを設置しています。各自の興味や学習目的に従って、「時事フランス語」、「映像と音で学ぶフランス語」、「フランスに行くためのフランス語」、「フランス語を知るためのフランス語」「フランスを知るためのフランス語」から選択します。本講義はそのなかで「フランス語を知るためのフランス語」をテーマにしてフランス語を学びます。フランスの社会や文化に関する短い文章とその音声教材をベースに内容理解力と聞き取り能力を強化し、関連映像やその他の音声素材の視聴を通して表現力を強化します。 【目標】 実用的なフランス語の運用能力の養成を目的とします。具体的には、実用フランス語技能検定試験の4級に合格する程度の力の習得。			
2. 授業内容 第1回：これまでの復習と力試し 第2回：Fromages 1 第3回：Fromages 2 第4回：Vins et Eaux 1 第5回：Vins et Eaux 2 第6回：La Concierge 1 第7回：La Concierge 2 第8回：Jeanne d'Arc 1 第9回：Jeanne d'Arc 2 第10回：Astérix et Obélix 1 第11回：Astérix et Obélix 2 第12回：Marianne 1 第13回：Marianne 2 第14回：まとめのテスト			
3. 履修上の注意 教科書・辞書（紙または電子辞書）を毎回必ず自習すること			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の授業時にはテキストの語彙・初出の表現をあらかじめ調べ、予習して臨むこと			
5. 教科書 『Clés pour la France フランスを読み解く鍵 第2巻 改訂版』、Denis C. Meyer、アシェット・ジャポン、2022年 (ISBN: 9784991017254)			
6. 参考書 特に指定しないが文法書を一冊用意しておくことが望ましい			
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終授業日に期末試験を実施し、学内LMSにてフィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 課題・小テスト30%、期末試験70%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN231J			
フランス語（中級）B 【選択クラス】			加藤 三 和
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 【概要】 初級フランス語に続く選択必修の授業です。選択クラスではテーマ別に以下のコースを設置しています。各自の興味や学習目的に従って、「時事フランス語」、「映像と音で学ぶフランス語」、「フランスに行くためのフランス語」、「フランス語を知るためのフランス語」「フランスを知るためのフランス語」から選択します。本講義はそのなかで「フランス語を知るためのフランス語」をテーマにしてフランス語を学びます。フランスの社会や文化に関する短い文章とその音声教材をベースに内容理解力と聞き取り能力を強化し、関連映像やその他の音声素材の視聴を通して表現力を強化します。 【目標】 実用的なフランス語の運用能力の養成を目的とします。具体的には、実用フランス語技能検定試験の3級に合格する程度の力の習得。			
2. 授業内容 第1回：前期の復習 第2回：Yves Saint Laurent 1 第3回：Yves Saint Laurent 2 第4回：Amélie Poulin 1 第5回：Amélie Poulin 2 第6回：Tour Eiffel 1 第7回：Tour Eiffel 2 第8回：Vuitton 1 第9回：Vuitton 2 第10回：Tour de France 1 第11回：Tour de France 2 第12回：Rentrée 1 第13回：Rentrée 2 第14回：まとめのテスト			
3. 履修上の注意 毎回の授業時には教科書・辞書（紙または電子辞書）を持参すること 携帯電話の翻訳機能の使用は認めない			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次の授業時までに進出の語彙・表現を調べて予習しておくこと。			
5. 教科書 『Clés pour la France フランスを読み解く鍵 第2巻 改訂版』、Denis C. Meyer、アシェット・ジャポン、2022年 (ISBN: 9784991017254)			
6. 参考書 特に指定しない			
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終授業時に期末試験を行い、学内LMSにてフィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 課題・小テスト30%、最終テスト70%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN231J			
フランス語（中級）A 【選択クラス】		南 玲 子	
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 初級フランス語に続く選択必修の授業です。選択クラスではテーマ別に以下のコースを設置しています。各自の興味や学習目的に従って、「時事フランス語」、「映像と音で学ぶフランス語」、「フランスに行くためのフランス語」、「フランス語を知るためのフランス語」「フランスを知るためのフランス語」から選択します。本講義はそのなかで「時事フランス語」をテーマにしてフランス語を学びます。教科書を中心に資料を正確に読み取る練習を行い、フランス語の上達を目指すとともに現代世界を生きる人としての知見を広げることを目指します。 〈到達目標〉 実用的なフランス語の運用能力の養成を目的とします。具体的には、実用フランス語技能検定試験の4級に合格する程度の力の習得。			
2. 授業内容 時事問題を論じたフランス語の文章の読解を通して、フランスおよびフランス語圏の現在に触れる授業です。フランスの風習、フランス語圏の現在、スポーツ、文化など多様なテーマを、教科書のなかから厳選して扱います。教科書以外にも、新聞・雑誌、音楽、映像、ウェブсайтといった各種資料を活用しながら折々のニュースや文化・社会事情を紹介し、フランス（語圏）を身近に感じる機会を提供します。フランス語で生きた情報を読み取る楽しさを味わいましょう。 教科書の各課は、テキスト（2ページ）と文法問題＋読解問題（2ページ）の合計4ページから成り立っています。授業の始めは、単純な例文を読んだりテーマに関連した練習問題を解いたりしながら、章ごとにクローズアップされる文法事項を確認します。その後テキストに移り、単語、熟語から文章の構造まで丁寧に解説したうえで和訳をしていきます。 教科書に関しては、原則として、以下のような内容で授業を進める予定です。 第1回 イントロダクション・フランスの現在 / 基本動詞の復習 第2～3回 復活祭の卵 / 複合過去・半過去 第4～5回 ニューカレドニアの住民投票 / 関係代名詞 第6～7回 ローランギャロス / 人称代名詞と中性代名詞le / 中性代名詞enと人称代名詞le/la/les 第8～9回 5月1日のすずらん / 中性代名詞と人称代名詞lui/leur・受動態 第10～11回 マリでの人質解放 / 中性代名詞yとlui/leur・受動態 第12～13回 カンヌ映画祭 / 現在分詞・ジェロンディフ 第14回 a：学期末試験 b：講義全体のふりかえりと試験解説			
3. 履修上の注意 本授業には1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は「経営学部履修の手引き」を参照してください。 履修者には、フランス語の（長めの）文章から情報を得ることに興味・意欲を持っていただきたいと思います。もしフランス語が（まだ）得意でなくても、授業や課題に前向きに取り組めるのであれば問題ありません。ただし主語・動詞を正確に見つけて文章を読み取る力をつけられるように、授業では読解にかける時間が必然的に長くなります。そのための集中力を保つことが望まれます。 時事情報に関しては、初級の授業とはちがって多少特殊な語彙が出てくるため、次の授業のための語彙プリントを配布し、予習・復習をしやすいくします。自分で仏和辞典を引いて単語を調べる習慣をつけましょう。（スマートフォンを使ったネット辞書閲覧は不可。信頼のおける電子辞書・アプリは可。）			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 フランス語初級で習った文法事項を復習しておきましょう。 毎回の授業後には、課題を通してその回に学んだ事項を復習するとともに、次回読む箇所の単語チェックをしておいてください。各課の読解問題については、クラスウェブの「授業資料」に解答例を公開するので自習に活用してください。 また普段から、フランス（語圏）を扱ったニュースを読んだり視聴したりするように心がけましょう。			
5. 教科書 『アンフォ vol.6—フランス語でニュースを読む—』 井上美穂, Florence Yoko SUDRE著（駿河台出版社）			
6. 参考書 必修（フランス語初級、中級）の授業の文法教科書を適宜参照してください。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 原則として、課題は授業中に紙で提出します。それにコメントをつけ、その次の授業で返却します。			
8. 成績評価の方法 平常点4割、学期末試験6割を目安とします。正当な理由が証明できない遅刻や欠席は平常点から減点します。もちろん教室に「いる」だけでは「出席」とは見なされません。受講者には、きちんと準備をし、主体的に授業に参加することが望まれます。 平常点の評価対象に含まれるのは、授業への参加状況、毎日出される課題の完程度（期限内提出を含む）、教室で参照した資料についての感想・意見等です。			
9. その他 フランスおよびフランス語圏の現在に敏感になることは、「日本語や英語をベースに発信されている情報とは別の切り口から世界を知る」練習にもなります。フランス語というフィルターを通して世界を見ると、自分が当たり前だと思っていた価値観を問い直すことができるからです。こうした経験は、知的活動や異文化体験の積みかさねによって広い視野を獲得していく際に大変役に立ちます。本授業はフランス語の上達を目指すものですが、同時に貴重な知的経験にもなることを願っています。			

科目ナンバー：(BA) LAN231J			
フランス語（中級）B 【選択クラス】		南 玲 子	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 初級フランス語に続く選択必修の授業です。選択クラスではテーマ別に以下のコースを設置しています。各自の興味や学習目的に従って、「時事フランス語」、「映像と音で学ぶフランス語」、「フランスに行くためのフランス語」、「フランス語を知るためのフランス語」「フランスを知るためのフランス語」から選択します。本講義はそのなかで「時事フランス語」をテーマにしてフランス語を学びます。教科書を中心に資料を正確に読み取る練習を行い、フランス語の上達を目指すとともに現代世界を生きる人としての知見を広げることを目指します。 〈到達目標〉 実用的なフランス語の運用能力の養成を目的とします。具体的には、実用フランス語技能検定試験の3級に合格する程度の力の習得。			
2. 授業内容 時事問題を論じたフランス語の文章の読解を通して、フランスおよびフランス語圏の現在に触れる授業です。 食文化、スペインとの国境地域、ボランティア活動、季節の話題、そしてコロナウィルス感染対策など多様なテーマを、教科書のなかから厳選して扱います。教科書以外にも、新聞・雑誌、音楽、映像、ウェブсайтといった各種資料を活用しながら折々のニュースや文化・社会事情を紹介し、フランス（語圏）を身近に感じる機会を提供します。フランス語で生きた情報を読み取る楽しさを味わいましょう。 教科書の各課は、テキスト（2ページ）と文法問題＋読解問題（2ページ）の合計4ページから成り立っています。授業の始めは、単純な例文を読んだりテーマに関連した練習問題を解いたりしながら、章ごとにクローズアップされる文法事項を確認します。その後テキストに移り、単語、熟語から文章の構造まで丁寧に解説したうえで和訳をしていきます。 教科書に関しては、原則として、以下のような内容で授業を進める予定です。 第1～3回 ボンボン / 条件法現在 第4～5回 イギリスが持つ漁業権 / 直説法大過去、条件法過去 第6～7回 食品ロスとの闘い / 単純未来、近接未来、前未来 第8～9回 カタルーニャ / 指示代名詞 第10～11回 クリスマスマーケット / 代名詞の語順 第12～13回 新型コロナウイルス / フランスにおける「共生」とは 第14回 a：学期末試験 b：講義全体のふりかえりと試験解説			
3. 履修上の注意 本授業には1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は「経営学部履修の手引き」を参照してください。 履修者には、フランス語の（長めの）文章から情報を得ることに興味・意欲を持っていただきたいと思います。もしフランス語が（まだ）得意でなくても、授業や課題に前向きに取り組めるのであれば問題ありません。ただし主語・動詞を正確に見つけて文章を読み取る力をつけられるように、授業では読解にかける時間が必然的に長くなります。そのための集中力を保つことが望まれます。 時事情報に関しては、初級の授業とはちがって多少特殊な語彙が出てくるため、次の授業のための語彙プリントを配布し、予習・復習をしやすいくします。自分で仏和辞典を引いて単語を調べる習慣をつけましょう。（スマートフォンを使ったネット辞書閲覧は不可。信頼のおける電子辞書・アプリは可。）			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 フランス語初級と中級の前半までに習った文法事項を復習しておきましょう。 毎回の授業後には、課題を通してその回に学んだ事項を復習するとともに、次回読む箇所の単語チェックをしておいてください。各課の読解問題については、クラスウェブの「授業資料」に解答例を公開するので自習に活用してください。 また普段から、フランス（語圏）を扱ったニュースを読んだり視聴したりするように意識しましょう。			
5. 教科書 『アンフォ vol.6—フランス語でニュースを読む—』 井上美穂, Florence Yoko SUDRE著（駿河台出版社）			
6. 参考書 必修（フランス語初級、中級）の授業の文法教科書を適宜参照してください。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 原則として、課題は授業中に紙で提出します。それにコメントをつけ、その次の授業で返却します。			
8. 成績評価の方法 平常点4割、学期末試験6割を目安とします。正当な理由が証明できない遅刻や欠席は平常点から減点します。もちろん教室に「いる」だけでは「出席」とは見なされません。受講者には、きちんと準備をし、主体的に授業に参加することが望まれます。 平常点の評価対象に含まれるのは、授業への参加状況、毎日出される課題の完程度（期限内提出を含む）、教室で参照した資料についての感想・意見等です。			
9. その他 フランスおよびフランス語圏の現在に敏感になることは、「日本語や英語をベースに発信されている情報とは別の切り口から世界を知る」練習にもなります。フランス語というフィルターを通して世界を見ると、自分が当たり前だと思っていた価値観を問い直すことができるからです。こうした経験は、知的活動や異文化体験の積みかさねによって広い視野を獲得していく際に大変役に立ちます。本授業はフランス語の上達を目指しますが、同時に貴重な知的経験にもなることを願っています。			

科目ナンバー：(BA)LAN161J			
中国語（初級）Ⅰa（統一） 【文法・読解】			
福満正博・野田寛達・石野智大・工藤早恵・ 小林光考・蔡娟・笹倉一広・高橋美千子・費燕			
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 中国語未習の1年次の学生に中国語の初級レベルの教育を行う。 発音のしかた、中国語の音節構造、ピンインの読み方・書き方、初級レベルの短い文の読解、文法事項、簡体字の習得をめざす。 <到達目標> 中国語を正しく発音できる、ピンインを正しく読め、書ける、初級レベルの短文を中国語らしく音読でき、読解できる、文法項目を理解する、簡体字を認識できて書けることを目標とする。			
2. 授業内容 1 年次春学期の授業は、1 コマ100分×約14週で、おおよそ約23時間の学習時間となる。この時間で中国語の発音のしかた、文字表記のシステム、約500語の単語、基本的な文法事項について学ぶ。やさしいあいさつに始まり、有用な日常会話ができ、基礎的な文が読める能力を養成することをめざし、中国語（初級）Ⅰ（a）は、文法事項の理解と運用、読解力の養成に重点をおく。 （1） 第一段階（4・5月）：中国語の発音のシステムを説明し、正しい発音の習得をめざす。漢字の読み方を記すローマ字の綴り方・読み方を説明し、正しく読めて書けるようする。さまざまなあいさつ、自己紹介のしかた、中国・日本の人名・地名を中国語でどう言うかを学ぶ。“是”述語文、“有”述語文、動詞述語文について基本・応用を解説する。 （2） 第二段階（6・7月）：中国語の基本構造である各種のフレーズについて学ぶ。動詞と目的語、形容詞述語文、量詞、助動詞、および各種の疑問文について基本と応用を解説し、理解力を養成する。 両段階を通じ、発音の習得、ピンイン（＝ローマ字表記）の習熟、簡体字、ヒアリングとスピーキングの反復練習、単語力の増強をはかる。また辞典や参考書の活用法についても説明する。			
3. 履修上の注意 必修科目なので単位修得は必須義務である。一定回数以上の出席が必要である。実力を養成するために積極的な授業への参加が求められる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の前に教科書付属の音源を活用して発音練習をする。本文篇に入ってから辞典を活用して課文および文法要点の例文の意味を調べておく。練習問題の答えをノートに書いておく。			
5. 教科書 詳細は、明大サポートで公開される一覧表を参照のこと			
6. 参考書 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は：『中日辞典第2版』小学館または『中日辞典第3版』講談社 ネットの「Weblio中日辞典」は、便利である。 また「オンラインで使える中国語音節表」など、ネット上には便利な参考資料がある。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 時に課題を提示し、提出物に対して添削やコメントを行う。			
8. 成績評価の方法 基本的には、春学期最終授業時に実施される筆記試験の点数により成績評価を行う。その他、随時発音テスト・小テストが行われる。比率は筆記試験80%、発音・小テストが20%。欠席・遅刻は減点の対象になり得る。出席点はない。授業出席が前提である。年度により成績の評価方法は異なる可能性があるため、詳細は授業内で説明する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN161J			
中国語（初級）Ⅱa（統一） 【文法・読解】			
福満正博・野田寛達・石野智大・工藤早恵・ 小林光考・蔡娟・笹倉一広・高橋美千子・費燕			
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 中国語未習の1年次の学生に中国語の初級レベルの教育を行う。 発音のしかた、中国語の音節構造、ピンインの読み方・書き方、初級レベルの短い文の読解、文法事項、簡体字の習得をめざす。 <到達目標> 中国語を正しく発音できる、ピンインを正しく読め、書ける、初級レベルの短文を中国語らしく音読でき、読解できる、文法項目を理解する、簡体字を認識できて書けることを目標とする。			
2. 授業内容 1 年次秋学期の授業は、1 コマ100分×約14週で、おおよそ約23時間の学習時間となる。この時間で中国語の発音のしかた、文字表記のシステム、約500語の単語、基本的な文法事項について学ぶ。やさしいあいさつに始まり、有用な日常会話ができ、基礎的な文が読める能力を養成することをめざし、中国語（初級）Ⅰ（a）は、文法事項の理解と運用、読解力の養成に重点をおく。 （1） 第一段階（9・10・11月）：中国語の重要な文法事項の中でも日本人学習者にとって難度の高いアスペクト、補語について説明し、これらを含む基本的な中国語を理解できる能力の養成をめざす。 （2） 第二段階（12・1月）：受け身文、使役文、処置文、比較文の基礎を説明し、内容のある文章を正確に理解できる力を養成する。 両段階を通じ、発音の習得、ピンイン（＝ローマ字表記）および簡体字の習熟、ヒアリングとスピーキングの反復練習、単語力の増強を行う。両段階を通じ、発音の習得、ピンイン（＝ローマ字表記）の習熟、簡体字、ヒアリングとスピーキングの反復練習、単語力の増強をはかる。			
3. 履修上の注意 必修科目なので単位修得は必須義務である。一定回数以上の出席が必要である。実力を養成するために積極的な授業への参加が求められる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の前に教科書付属の音源を活用して発音練習をする。本文篇に入ってから辞典を活用して課文および文法要点の例文の意味を調べておく。練習問題の答えをノートに書いておく。			
5. 教科書 詳細は、明大サポートで公開される一覧表を参照のこと			
6. 参考書 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は：『中日辞典第2版』小学館または『中日辞典第3版』講談社 を推奨する。 ネットの「Weblio中日辞典」は、便利である。 また「オンラインで使える中国語音節表」など、ネット上には便利な参考資料がある。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 時に課題を提示し、提出物に対して添削やコメントを行う。			
8. 成績評価の方法 基本的には、秋学期最終授業時に実施される筆記試験の点数により成績評価を行う。その他、随時発音テスト・小テストが行われる。比率は筆記試験80%、発音・小テストが20%。欠席・遅刻は減点の対象になり得る。出席点はない。授業出席が前提である。評価方法は年により異なることがある。詳細は授業内で説明する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN161J			
中国語（初級）Ⅰb（統一） 【聴取・表現】			
遠藤 絢・王学群・蔡娟・花井みわ・李旭・阿部沙織・劉素英			
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 中国語未習の1年次の学生に中国語の初級レベルの教育を行う。 発音のしかた、中国語の音節構造、ピンインの読み方・書き方、聴解、会話表現、作文力、簡体字の習得をめざす。 <到達目標> 中国語を正しく発音できる、ピンインを正しく読め、聞いて書ける、初級レベルの短い会話を暗誦し、簡体字を習得して漢字で書けることを目標とする。			
2. 授業内容 1年次春学期の授業は、1コマ100分×約14週で、おおよそ約23時間の学習時間となる。この時間で中国語の発音のしかた、文字表記のシステム、約500語の単語、基本的な文法事項について学ぶ。やさしいあいさつに始まり、有用な日常会話ができ、基礎的な文が読める能力を養成することをめざし、中国語（初級）Ⅰbは正しい発音の習得、ピンインを正しく書ける、課文を暗誦する、表現したい内容を中国語で言えて書ける能力の養成に重点をおく。 (1) 第一段階（4・5月）：中国語の発音のしかたを学び、正しい発音の習得をめざす。漢字の読み方を記すローマ字の綴り方・読み方を練習し、正しく読めて書けるようする。さまざまなあいさつ、自己紹介のしかた、中国・日本の人名・地名を中国語でどう言うかを学ぶ。“是”述語文、“有”述語文、動詞述語文について聞いて書ける力を養成する。 (2) 第二段階（6・7月）：中国語の基本構造である各種のフレーズについて学ぶ。動詞と目的語、形容詞述語文、量詞、助動詞、および各種の疑問文について聞いて書ける力を養成する。 両段階を通じ発音の習得、ピンイン（＝ローマ字表記）の習熟、簡体字、ヒアリングとスピーキングの反復練習、単語力の増強をはかる。また辞典や参考書の活用法についても習得する。			
3. 履修上の注意 必修科目なので単位修得は必須義務である。一定回数以上の出席が必要である。実力を養成するために積極的な授業への参加が求められる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の前に教科書付属の音源を活用して発音練習をする。本文篇に入ってから課文を暗誦し、文字を見ないで漢字・ピンインで書けるようにする。練習問題の答えを口頭で言えるようにしておく。			
5. 教科書 詳細は、明大サポートで公開される一覧表を参照のこと			
6. 参考書 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は：『中日辞典第2版』小学館または『中日辞典第3版』講談社を推奨する。 ネットの、「Weblio中日辞典」は、便利である。 また「オンラインで使える中国語音節表」など、ネット上には便利な参考資料がある。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 時に課題を提示し、提出物に対して添削やコメントを行う。			
8. 成績評価の方法 基本的には、春学期最終授業時に実施される筆記試験の点数により成績評価を行う。その他、随時発音テスト・小テストが行われる。比率は筆記試験80%、発音・小テストが20%。欠席・遅刻は減点の対象になり得る。出席点はない。授業出席が前提である。評価方法は年により異なることがある。詳細は授業内で説明する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN161J			
中国語（初級）Ⅱb（統一） 【聴取・表現】			
遠藤 絢・王学群・蔡娟・花井みわ・李旭・阿部沙織・劉素英			
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 中国語未習の1年次の学生に中国語の初級レベルの教育を行う。 発音のしかた、中国語の音節構造、ピンインの読み方・書き方、聴解、会話表現、作文力、簡体字の習得をめざす。 <到達目標> 中国語を正しく発音できる、ピンインを正しく読め、聞いて書ける、初級レベルの短い会話を暗誦し、簡体字を習得して漢字で書けることを目標とする。			
2. 授業内容 1年次秋学期の授業は、春学期に引き続き、中国語の正しい発音を習得し、基本的に有用な日常会話力を養成する。中国語（初級）Ⅱbは、初級レベル後半段階の中国語の課文を暗誦し口頭で言える、表現したい内容を中国語で言えて書ける能力の養成に重点をおく。 (1) 第一段階（9・10・11月）：中国語の重要な文法事項の中でも日本人学習者にとって難度の高いアスペクト、補語について読めて聞いて話せて書けるトレーニングを行う。 (2) 第二段階（12・1月）：受身文、使役文、処置文、比較文を習得し、これらの文法項目を含む中国語を読めて聞いて話せて書けるトレーニングを行う。 両段階を通じ、発音の習得、ピンイン（＝ローマ字表記）および簡体字の習熟、ヒアリングとスピーキングの反復練習、単語力の増強を行う。			
3. 履修上の注意 必修科目なので単位修得は必須義務である。一定回数以上の出席が必要である。実力を養成するために積極的な授業への参加が求められる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の前に教科書付属の音源を活用して発音練習をする。本文篇に入ってから課文を暗誦し、文字を見ないで漢字・ピンインで書けるようにする。練習問題の答えを口頭で言えるようにしておく。			
5. 教科書 詳細は、明大サポートで公開される一覧表を参照のこと			
6. 参考書 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は：『中日辞典第2版』小学館または『中日辞典第3版』講談社を推奨する。 ネットの、「Weblio中日辞典」は、便利である。 また「オンラインで使える中国語音節表」など、ネット上には便利な参考資料がある。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 時に課題を提示し、提出物に対して添削やコメントを行う。			
8. 成績評価の方法 基本的には、秋学期最終授業時に実施される筆記試験の点数により成績評価を行う。その他、随時発音テスト・小テストが行われる。比率は筆記試験80%、発音・小テストが20%。欠席・遅刻は減点の対象になり得る。出席点はない。授業出席が前提である。評価方法は年により異なることがある。詳細は授業内で説明する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN261J			
中国語（中級）A 指定（統一） 【指定クラス】			
福満正博・石野智大・遠藤絢・小林光考・蔡娟・花井みわ・平井徹・李旭			
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 中級レベルの中国語の語彙・文法項目を含むさまざまな中国語を聞けて話せて書ける能力を養成するための教育を行う。 <到達目標> 中級レベルの中国語を聞けて話せて書ける能力を習得し、各種検定試験の3級レベル合格に相当する実力の習得をめざす。			
2. 授業内容 1年次の授業で学んだ重要事項の復習と定着、中級レベルの読解能力の向上をはかる。その目的のために、中級レベルに必要な文型・語彙・文法を学び、同時に言語と不可分の関係にある現代中国の文化・社会などについても学ぶ。 (1) 第一段階（4～5月）：一年次の学習内容を復習したうえで、教科書の本文（会話文）を利用して、会話文の音読と内容理解を進め、あわせて練習問題に取り組んでゆく。 (2) 第二段階（6～7月）：第一段階の内容を継続しつつ、さらなる文法理解の定着を図る。			
3. 履修上の注意 語学の習得には日々の継続的な学習が重要な意味を持つ。そのため、受講生は必ず予習・復習を行って授業に臨むこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 (予習) 教科書の音源などを活用して、各課の本文を複数回音読する。また、新出単語の字形・発音・意味を覚えてくること。 (復習) 授業で習った文法事項や新出単語を見直し、理解を定着させる。			
5. 教科書 詳細は、明大サポートで公開される一覧表を参照のこと			
6. 参考書 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は：『中日辞典第2版』小学館または『中日辞典第3版』講談社を推奨する。 ネットの、「Weblio中日辞典」は、便利である。 また「オンラインで使える中国語音節表」など、ネット上には便利な参考資料がある。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 時に課題を提示し、提出物に対して添削やコメントを行う。			
8. 成績評価の方法 基本的には、春学期最終授業時に実施される試験の点数により成績評価を行う。その他、随時発音テスト・小テストが行われる。比率は試験80%。平常点が20パーセント。授業出席が前提である。評価方法は年により異なることがある。詳細は授業内で説明する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN261J			
中国語（中級）B 指定（統一） 【指定クラス】			
福満正博・石野智大・遠藤絢・小林光考・蔡娟・花井みわ・平井徹・李旭			
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 中級レベルの中国語の語彙・文法項目を含むさまざまな中国語を聞けて話せて書ける能力を養成するための教育を行う。 <到達目標> 中級レベルの中国語を聞けて話せて書ける能力を習得し、各種検定試験の3級レベル合格に相当する実力の習得をめざす。			
2. 授業内容 1年次の授業で学んだ重要事項の復習と定着、中級レベルの読解能力の向上をはかる。その目的のために、中級レベルに必要な文型・語彙・文法を学び、同時に言語と不可分の関係にある現代中国の文化・社会などについても学ぶ。 (1) 第一段階（9～11月）：春学期の学習成果を基礎として、引き続き中国語の実践的能力の習得をめざす。 (2) 第二段階（12～1月）：第一段階の内容を継続しつつ、さらなるレベルアップを図る。また、中級レベルの学習の総仕上げとして、中国語で電子メールが書けるなどの表現力を養う。			
3. 履修上の注意 語学の習得には日々の継続的な学習が重要な意味を持つ。そのため、受講生は必ず予習・復習を行って授業に臨むこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 (予習) 教科書付属の音源などを活用して、各課の本文を複数回音読する。また、新出単語の字形・発音・意味を覚えてくること。 (復習) 授業で習った文法事項や新出単語を見直し、理解を定着させる。			
5. 教科書 詳細は、明大サポートで公開される一覧表を参照のこと			
6. 参考書 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は：『中日辞典第2版』小学館または『中日辞典第3版』講談社を推奨する。 ネットの、「Weblio中日辞典」は、便利である。 また「オンラインで使える中国語音節表」など、ネット上には便利な参考資料がある。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 時に課題を提示し、提出物に対して添削やコメントを行う。			
8. 成績評価の方法 基本的には、秋学期最終授業時に実施される試験の点数により成績評価を行う。その他、随時発音テスト・小テストが行われる。比率は試験80%、発音・小テストが20%。欠席・遅刻は減点の対象になり得る。出席点はない。授業出席が前提である。評価方法は年により異なることがある。詳細は授業内で説明する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN261J			
中国語（中級） A 【選択クラス】			福満正博
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 中級レベルの中国語の語彙・文法項目を含むさまざまな中国語を聞いて話せて書ける能力を養成するための教育を行う。 〈到達目標〉 中級レベルの中国語を聞いて話せて書ける能力を習得し、各種検定試験の3級レベル合格に相当する実力の習得をめざす。			
2. 授業内容 1年次の授業で学んだ重要事項の復習と定着、中級レベルの読解能力の向上をはかる。その目的のために中級レベルに必要な文型、語彙、文法を学び、同時に言語と不可分の関係にある現代中国の文化・社会などについても学ぶ。 第1回：イントロダクション 第2回～第4回：第1課 第5回～第7回：第2課 第8回～第10回：第3課 第11回～第13回：第4課 第14回：まとめ			
3. 履修上の注意 必修科目なので単位修得は必須義務です。一定回数以上の出席が必要です。実力を養成するために積極的な授業への参加が求められます。 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引き」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の前に教科書付属の音源を活用して発音練習をしたり、本文篇に入ってから辞典を活用して課文および文法要点の例文の意味を調べておいたり、練習問題の答えをノートに書いておいたりしてみてください。			
5. 教科書 「詳細は、明大サポートで公開される一覧表を参照のこと」			
6. 参考書 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は、適当なものを授業中に推奨する。 ネットの、「Weblio中日辞典」は、便利である。 また「オンラインで使える中国語音節表」など、ネット上には便利な参考資料がある。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 適宜評価する			
8. 成績評価の方法 基本的には、春学期最終授業時に実施される試験の点数により成績評価を行う。その他、随時発音テスト・小テストが行われる。比率は試験80%。平常点が20パーセント。授業出席が前提である。			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA) LAN261J			
中国語（中級） B 【選択クラス】			福満正博
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 中級レベルの中国語の語彙・文法項目を含むさまざまな中国語を聞いて話せて書ける能力を養成するための教育を行う。 〈到達目標〉 中級レベルの中国語を聞いて話せて書ける能力を習得し、各種検定試験の3級レベル合格に相当する実力の習得をめざす。			
2. 授業内容 中級レベルの読解能力の向上をはかる。その目的のために中級レベルに必要な文型、語彙、文法を学び、同時に言語と不可分の関係にある現代中国の文化・社会などについても学ぶ。 第1回：春学期の復習 第2回～第4回：第5課 第5回～第7回：第6課 第8回～第10回：第7課 第11回～第13回：第8課 第14回：まとめ			
3. 履修上の注意 必修科目なので単位修得は必須義務です。一定回数以上の出席が必要です。実力を養成するために積極的な授業への参加が求められます。 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引き」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の前に教科書付属の音源を活用して発音練習をしたり、本文篇に入ってから辞典を活用して課文および文法要点の例文の意味を調べておいたり、練習問題の答えをノートに書いておいたりしてみてください。			
5. 教科書 「詳細は、明大サポートで公開される一覧表を参照のこと」			
6. 参考書 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は、適当なものを授業中に推奨する。 ネットの、「Weblio中日辞典」は、便利である。 また「オンラインで使える中国語音節表」など、ネット上には便利な参考資料がある。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 適宜評価する			
8. 成績評価の方法 基本的には、秋学期最終授業時に実施される試験の点数により成績評価を行う。その他、随時発音テスト・小テストが行われる。比率は試験80%。平常点が20パーセント。授業出席が前提である。			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA) LAN261J			
中国語（中級）A 【選択クラス】		王 学 群	
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 本授業は、中国文化と生活に関する中国語のスキルを磨き、中国語によるコミュニケーションの能力を高めることを目的とする。 1978年代以後、中国では、改革開放政策の実施によって目覚ましい経済発展を遂げている。また、最近の就職事情からみれば、中国語だけでなく、中国における固有文化やビジネス文化も理解できる人材が求められている。特に中国語検定の資格を持つことだけで有利になる場合もある。 このような状況の中で、現在、日本で中国語検定試験がいくつか実施されている。本授業では、学習の成果を結果に結びつけるように、受講者に中国語検定を受けるように勧める。そのため、模擬テストも授業中で実施したり、宿題としてやってもらったりする場合もある。 到達目標は次の通りである。 1. 中国語と中国文化に対しての理解を深める。 2. 日中文化の繋がりを理解し、新しい視点で日中間のことを積極的に考える。 3. 中国語の様々な表現を中級に近いレベルまでマスターする。 4. 中国語実力アップによって中国語検定試験4～3級に確実に合格することを目指す。			
2. 授業内容 第1回 本授業の説明と中国語検定についての説明（場合によっては第1課の学習もする） 第2回 第1課(教科書)“留学”の単語と会話の学習 第3回 第1課“留学”の語法と練習の学習 第4回 第2課“考试”の単語と会話の学習 第5回 第2課“考试”の会話と語法の学習 第6回 第2課“考试”の語法と練習の学習、第3課“旅游”の単語の学習 第7回 第3課“旅游”の会話と語法の学習 第8回 第3課“旅游”の語法と練習の学習 第9回 第4課“登山”の単語と会話の学習 第10回 第4課“登山”の会話と語法の学習 第11回 第4課“登山”の練習の学習、第5課“回老家”の単語の学習 第12回 第5課“回老家”の会話と語法の学習 第13回 第5課“回老家”の語法と練習の学習 第14回 今までの学習のまとめと確認			
3. 履修上の注意 受講者にやや中級レベルの中国語語法をしっかりと学習してもらう。重要な部分について教員から説明を加える。勿論、学習内容について、受講者に質問し、答えてもらう。 中国語の発音は、このような学習を通じて、より正確かつ綺麗に発音できるようにする。 また、受講者に中国における固有文化と生活を理解してもらうため、上記スケジュールのように、それについても学習する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【事前学習】 次回の学習内容（本文・語法・練習）に目を通し、新しい表現方法、理解しにくい箇所を確認する。また新出単語と、本文の会話をスムーズに読めるように練習し、語法の例文づくりをしておくこと。大体90分やってほしい。 【事後学習】 学習した内容（新出単語・本文の会話、語法の例文）を流暢に読めるように練習する。また習った単語の暗記、語法の理解、中国語での例文づくりなどができるように復習すること。大体90分やってほしい。			
5. 教科書 『資格を目指す実践中級中国語』 王学群ほか(著)、白帝社 ￥2500円			
6. 参考書 『ライセンス中国語検定3級・4級』趙秀敏・富田昇 白帝社 『中検4級問題集2024年版』白帝社 『中検3級問題集2024年版』白帝社 『中検2級問題集2024年版』白帝社			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meijiシステムを利用しての課ごとの宿題を提出してもらう。			
8. 成績評価の方法 基本的には、春学期最終授業時に実施される試験の点数により成績評価を行う。比率は試験70 %。平常点が30パーセント。授業出席が前提である。			
9. その他 外国語の上達は日々の少しずつの努力によるもので、ぜひ毎日少しずつ中国語の知識を覚えていこう。			

科目ナンバー：(BA) LAN261J			
中国語（中級）B 【選択クラス】		王 学 群	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 本授業は、中国文化と生活に関する中国語のスキルを磨き、中国語によるコミュニケーションの能力を高めることを目的とする。 1978年代以後、中国では、改革開放政策の実施によって目覚ましい経済発展を遂げている。 また、最近の就職事情からみれば、中国語だけでなく、中国における固有文化やビジネス文化も理解できる人材が求められている。特に中国語検定の資格を持つことだけで有利になる場合もある。 このような状況の中で、現在、日本で中国語検定試験がいくつか実施されている。本授業では、学習の成果を結果に結びつけるように、受講者に中国語検定を受けるように勧める。そのため、模擬テストも授業中で実施したり、宿題としてやってもらったりする場合もある。 到達目標は次の通りである。 1. 中国語と中国文化に対しての理解を深める。 2. 日中文化の繋がりを理解し、新しい視点で日中間のことを積極的に考える。 3. 中国語の様々な表現を中級に近いレベルまでマスターする。 4. 中国語実力アップによって中国語検定試験3級に合格することを目指す。			
2. 授業内容 第1回 本授業の説明と第6課の学習 第2回 第6課(教科書)“助人为乐”の会話と語法の学習 第3回 第6課“助人为乐”の練習、第7課“后悔药”の単語の学習 第4回 第7課“后悔药”の会話と語法の学習 第5回 第7課“后悔药”の練習、第8課“租房”の単語の学習 第6回 第8課“租房”の会話と語法の学習 第7回 第8課“租房”の練習、第9課“公共自行车”の単語の学習 第8回 第9課“公共自行车”の会話と語法の学習 第9回 第9課“公共自行车”の語法と練習の学習 第11回 第10課“乒乓球”の単語の学習 第12回 第10課“乒乓球”の会話と語法の学習 第13回 第10課“乒乓球”の語法と練習の学習 第14回 今までの学習のまとめと確認			
3. 履修上の注意 受講者にやや中級レベルの中国語語法をしっかりと学習してもらう。重要な部分について教員から説明を加える。勿論、学習内容について、受講者に質問し、答えてもらう。 中国語の発音は、このような学習を通じて、より正確かつ綺麗に発音できるようにする。 また、受講者に中国における固有文化と生活を理解してもらうため、上記スケジュールのように、それについても学習する。そして、毎回できるだけ新しい中国情報をプリントにして受講者全員に配分する。 授業中において、中国語作文の演習を必要に応じて行う。それについても指導する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【事前学習】 次回の学習内容（本文・語法・練習）に目を通し、新しい表現方法、理解しにくい箇所を確認する。また新出単語と、本文の会話をスムーズに読めるように練習し、語法の例文づくりをしておくこと。大体90分やってほしい。 【事後学習】 学習した内容（新出単語・本文の会話、語法の例文）を流暢に読めるように練習する。また習った単語の暗記、語法の理解、中国語での例文づくりなどができるように復習すること。大体90分やってほしい。			
5. 教科書 『資格を目指す実践中級中国語』 王学群ほか(著)、白帝社、¥2500円			
6. 参考書 『ライセンス中国語検定3級・4級』趙秀敏・富田昇 白帝社 『中検4級問題集2024年版』白帝社 『中検3級問題集2024年版』白帝社 『中検2級問題集2024年版』白帝社			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meijiシステムを利用しての課ごとの宿題を提出してもらう。			
8. 成績評価の方法 基本的には、春学期最終授業時に実施される試験の点数により成績評価を行う。比率は試験70 %。平常点が30パーセント。授業出席が前提である。			
9. その他 常に積極的に中国語で教員に話しかけたり、中国のことを聞いたりしてほしい。勿論日本語でも構わない。			

科目ナンバー：(BA) LAN261J			
中国語（中級）A 【選択クラス】		大西陽子	
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 長文読解を通して中国語の読解能力を習得し、かつ文法理解と表現力を高めることを目標とします。授業はテキストに従って進行し、概ね3回の授業で2課分のペースで進行する予定です。 各課の内容は中国の基本知識から文化事情や時事問題・文化事情などなどをテーマにした長文に加え、文法ポイントや練習問題も付録されています。 日常会話においても使用頻度の高い語彙や表現が豊富に盛り込まれていますので、文章の読解力向上はもちろん、会話力アップにもつながっていくと思います。 〈到達目標〉 中国語検定試験3級、HSK 3級レベル合格相当の文法知識と読解力をつけることを目標とします。			
2. 授業内容 第1回 ガイダンスおよび初級文法のおさらい 第2回 第1課 「地図から見る中国」課文および文法のポイント 第3回 第1課 「地図から見る中国」課文および文法のポイントの続き・練習問題 第2課 「紙幣から見る中国」課文および文法のポイント 第4回 第2課 「紙幣から見る中国」課文および文法のポイントの続き・練習問題 第5回 第3課 「少数民族」課文および・文法のポイント 第6回 第3課 「少数民族」課文および・文法のポイントの続き・練習問題 第4課 「都市と農村」課文および・文法のポイント 第7回 第4課 「都市と農村」課文および文法のポイントの続き・練習問題 第8回 第5課 「ファッション」課文および・文法のポイント 第9回 第5課 「ファッション」課文および文法のポイントの続き・練習問題 第6課 「グルメ」課文および・文法のポイント・練習問題 第10回 第6課 「グルメ」課文および・文法のポイントの続き・練習問題 第11回 第7課 「住宅事情」課文および・文法のポイント 第12回 第7課 「住宅事情」課文および・文法のポイントの続き・練習問題 第8課 「交通事情」課文および・文法のポイント 第13回 第8課 「交通事情」課文および・文法のポイントの続き・練習問題 第14回 a: まとめ b: 試験			
3. 履修上の注意 ※座席は固定席にしますので、自分の席に座ること。 ※やむを得ない場合を除いて全体の4分の3以上は出席することが前提。 ※正当な理由がない遅刻は3回で欠席1回分と見なします。30分以上の遅刻は欠席と同等の扱いとします。 ※授業時には中日辞典（電子辞書でも可）を持参すること。但し携帯アプリの辞書は不可。 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引き」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 〈予習〉 ・必ず授業進度分の予習をして授業に臨むこと。 ・予習内容は以下のとおりです（詳細については授業時に指示します） ①音読練習（かならず最低でも1回以上は本文の音読練習をしておくこと） ②単語の意味確認（知らない単語や表現などは辞書をひいて確認すること） ③本文の内容把握（自分なりに訳出して内容を把握しておくこと） ④ポイント練習問題の予習など 〈復習〉 ・授業で履修した箇所の内容、文法などがきちんと理解できたかを復習して確認すること。 ・学習した文章を繰り返し音読練習すること。			
5. 教科書 『16テーマで読む現代中国』 及川淳子・朱力 白水社 ISBN978-4-560-06947-9 C3087 ￥2300+税			
6. 参考書 ・相原茂他『WHY？にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社） ・守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』（東方書店） ・小川郁夫『中国語文法・完成マニュアル』（白帝社） 詳細は授業時に指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 ワークシートや練習問題を提出したのに対して添削して返却します。 質問等があればその都度できるかぎり丁寧に回答します。 Oh-o!Meijiを活用し相互の連絡が可能な体系を設定します。			
8. 成績評価の方法 定期試験の成績（70％）および授業への参加度・提出課題等の平常点（30％）を基準として総合評価します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN261J			
中国語（中級）B 【選択クラス】		大西陽子	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 春学期に引き続き、長文読解を通して中国語の読解能力を習得し、かつ文法理解と表現力を高めることを目標とします。授業はテキスト後半部分をテキストに従って進行し、概ね3回の授業で2課分のペースで進行する予定です。 各課の内容は中国の基本知識から文化事情や時事問題・文化事情などなどをテーマにした長文に加え、文法ポイントや練習問題も付録されています。 日常会話においても使用頻度の高い語彙や表現が豊富に盛り込まれていますので、文章の読解力向上はもちろん、会話力アップにもつながっていくと思います。 〈到達目標〉 中国語検定試験3級、HSK 3級レベル合格相当の文法知識と読解力をつけることを目標とします。			
2. 授業内容 第1回 第9課 「大学生活」課文および文法のポイント 第2回 第9課 「大学生活」課文および文法のポイントの続き・練習問題 第10課 「就職・労働事情」課文および文法のポイント 第3回 第10課 「就職・労働事情」課文および文法のポイントの続き・練習問題 第4回 第11課 「スマホと日常生活」課文および・文法のポイント 第5回 第11課 「スマホと日常生活」課文および・文法のポイントの続き・練習問題 第12課 「サブカルチャー」課文および・文法のポイント 第6回 第12課 「サブカルチャー」課文および文法のポイントの続き・練習問題 第7回 第13課 「春節の今と昔」課文および・文法のポイント 第8回 第13課 「春節の今と昔」課文および文法のポイントの続き・練習問題 第14課 「経済のトレンド」課文および・文法のポイント・練習問題 第9回 第14課 「経済のトレンド」課文および・文法のポイントの続き・練習問題 第10回 第15課 「晩婚化と少子化」課文および・文法のポイント 第11回 第15課 「晩婚化と少子化」課文および・文法のポイントの続き・練習問題 第16課 「中国から見る日本」課文および・文法のポイント 第12回 第16課 「中国から見る日本」課文および・文法のポイントの続き・練習問題 第13回 総復習			
3. 履修上の注意 ※座席は固定席にしますので、自分の席に座ること。 ※やむを得ない場合を除いて全体の4分の3以上は出席することが前提。 ※正当な理由がない遅刻は3回で欠席1回分と見なします。30分以上の遅刻は欠席と同等の扱いとします。 ※授業時には中日辞典（電子辞書でも可）を持参すること。但し携帯アプリの辞書は不可。 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引き」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 〈予習〉 ・必ず授業進度分の予習をして授業に臨むこと。 ・予習内容は以下のとおりです（詳細については授業時に指示します） ①音読練習（かならず最低でも1回以上は本文の音読練習をしておくこと） ②単語の意味確認（知らない単語や表現などは辞書をひいて確認すること） ③本文の内容把握（自分なりに訳出して内容を把握しておくこと） ④ポイント練習問題の予習など 〈復習〉 ・授業で履修した箇所の内容、文法などがきちんと理解できたかを復習して確認すること。			
5. 教科書 『16テーマで読む現代中国』 及川淳子・朱力 白水社 ISBN978-4-560-06947-9 C3087 ￥2300E			
6. 参考書 ・相原茂他『WHY？にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社） ・守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』（東方書店） ・小川郁夫『中国語文法・完成マニュアル』（白帝社）ほか 詳細は授業時に指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 ワークシートや練習問題を提出したのに対して添削して返却します。 質問等があればその都度できるかぎり丁寧に回答します。 Oh-o!Meijiを活用し相互の連絡が可能な体系を設定します。			
8. 成績評価の方法 定期試験の成績（70％）および授業への参加度・提出課題等の平常点（30％）を基準として総合評価します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN261J			
中国語（中級） A 【選択クラス】			工 藤 早 恵
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> まず一年次に習った初級レベルの文法と語彙を復習し、基礎力を固める。その上で、中級レベルの会話文に含まれる文法、語彙、言い回し等を勉強し、相手の言葉を理解し（＝読む・聞く）、自分の言葉を相手に通じさせる（＝話す・書く）能力を養うように、繰り返し練習する。具体的には、実用的な日常会話文を扱う教科書や対話の動画を教材として、単語確認や文法解説等を勉強した後に、翻訳練習、作文練習、聞き取り練習などを行う。また毎回の内容のポイントになる文等について、暗唱したり、内容確認の課題を提出したりしてもらう。 <到達目標> 日常でよく使う中級レベルの会話文を正確に訳せて・聞けて・話せて・書ける能力の習得を目指す。			
2. 授業内容 この授業は以下の内容ですめる。 第1回 イントロダクション・自己紹介の表現 第2回 第1課 副詞の復習と二重目的語をとる動詞・会話文（学部・専攻・電話番号について）の音読 第3回 第1課 テキストの対話の動画視聴・ワードバンク・ドリル・会話文の暗唱 第4回 第2課 前置詞の復習と会話文（バイト、趣味について）の音読 第5回 第2課 テキストの対話の動画視聴・ワードバンク・ドリル・会話文の暗唱 第6回 第3課 経験を表す言い方と選択疑問文の復習・会話文（レストランにて）の音読 第7回 第3課 テキストの対話の動画視聴・ワードバンク・ドリル・会話文の暗唱 第8回 a試験 b試験と正答解説 第8回 第4課 助動詞の使い方と「～したらすぐ」の言い方・会話文（カラオケに行く）の音読 第9回 第4課 テキストの対話の動画視聴・ワードバンク・ドリル・会話文の暗唱 第10回 第5課 結果補語と様態補語・会話文（カラオケ店にて）の音読 第11回 第5課 テキストの対話の動画視聴・ワードバンク・ドリル・会話文の暗唱 第12回 第6課 是～的構文・会話文（家族写真について）の音読 第13回 第6課 テキストの対話の動画視聴・ワードバンク・ドリル・会話文の暗唱 第14回 a試験 b試験と正答解説			
3. 履修上の注意 毎回の授業の最後には、二人組になって会話文の音読確認や暗誦を行う。また簡体字やピンインを確実に覚える為の練習プリントや文法ポイントに関する問題のプリントの提出を毎回の課題とする。 本授業は1クラスあたりの受講人数制限がある。そのため、履修に際しては事前登録が必要である。詳細は、「経営学部履修の手引き」を参照すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習として、毎回配布するプリントの練習問題などを見直しておくこと。			
5. 教科書 「詳細は、Oh-o! meijiシステムで公開される一覧表を参照のこと」			
6. 参考書 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』、守屋宏則著、東方書店			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出の課題プリントは、毎回確認し次の週に教室で返却する。期末試験等については、正答の確認と解説の時間を設ける。			
8. 成績評価の方法 ・中間試験・期末試験、提出課題、練習課題、暗唱等の点数により成績評価を行う。 ・比率は筆記試験、提出課題、練習課題80％、平常点（暗唱・授業への参加度）20％。 ・中間・期末試験と提出課題・練習課題の点数の合計で、必ず全体の50％以上の点を取る。 ・欠席・遅刻や授業中の私語等は減点の対象になる。 ・総合して60点未満は不合格になる。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN261J			
中国語（中級） B 【選択クラス】			工 藤 早 恵
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 中級レベルの会話文に含まれる文法、語彙、言い回し等を勉強し、相手の言葉を理解し（＝読む・聞く）、自分の言葉を相手に通じさせる（＝話す・書く）能力を養うように、繰り返し練習する。具体的には、実用的な日常会話文を扱う教科書や動画を教材として、単語確認や文法解説等を勉強した後に、翻訳練習、作文練習、聞き取り練習などを行う。また毎回の内容のポイントになる文等について、暗唱したり、内容確認の課題を提出したりしてもらう。 <到達目標> 中級レベルの中国語の会話文を正確に読めて・聞けて・話せて・書ける能力を習得することを目指す。			
2. 授業内容 この授業は以下の内容ですめる。 第1回 春学期の内容の復習 第2回 第7課 単純方向補語と「少し～」の言い方・会話文（洋品店にて）の音読 第3回 第7課 テキストの対話の動画視聴・ワードバンク・ドリル・会話文の暗唱 第4回 第8課 把構文と複合方向補語・会話文（誕生会にて）の音読 第5回 第8課 テキストの対話の動画視聴・ワードバンク・ドリル・会話文の暗唱 第6回 第9課 程度補語と可能補語・会話文（DVD鑑賞）の音読 第7回 第9課 テキストの対話の動画視聴ワードバンク・ドリル・会話文の暗唱 第8回 a試験 b試験と正答解説 第9回 第10課 duo＋形容詞と不定疑問文・会話文（夏休みについて）の音読 第10回 第10課 テキストの対話の動画視聴ワードバンク・ドリル・会話文の暗唱 第11回 第11課 隔たりを表す言い方と持続・会話文（学園祭について）の音読 第12回 第11課 テキストの対話の動画視聴ワードバンク・ドリル・会話文の暗唱 第13回 第12課 存現文と・会話文（スキー場にて）の音読 第14回 a試験 b試験と正答解説			
3. 履修上の注意 毎回の授業の最後には、二人組になって会話文の音読確認や暗誦を行う。また簡体字やピンインを確実に覚える為の練習プリントや文法ポイントに関する問題のプリントの提出を毎回の課題とする。 本授業は1クラスあたりの受講人数制限がある。そのため、履修に際しては事前登録が必要である。詳細は、「経営学部履修の手引き」を参照すること。 本授業は1クラスあたりの受講人数制限がある。そのため、履修に際しては事前登録が必要である。詳細は、「経営学部履修の手引き」を参照のこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、暗誦文や学習資料を見直しておくこと。			
5. 教科書 「詳細は、Oh-o! meijiシステムで公開される一覧表を参照のこと」			
6. 参考書 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』、守屋宏則著、東方書店			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出の課題プリントは、毎回確認し次の週に教室で返却する。期末試験等については、正答の確認と解説の時間を設ける。			
8. 成績評価の方法 ・中間試験・期末試験、提出課題、練習課題、暗唱等の点数により成績評価を行う。 ・比率は筆記試験、提出課題、練習課題80％、平常点（暗唱・授業への参加度）20％。 ・中間・期末試験と提出課題・練習課題の点数の合計で、必ず全体の50％以上の点を取る。 ・欠席・遅刻、授業中の私語等は減点の対象になる。 ・総合して60点未満は不合格になる。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN261J			
中国語（中級）A 【選択クラス】			蔡 娟
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 一年次に習得した中国語の基礎をもとに、新しい語彙や表現を徐々に加え、必要な文法事項について重点的に解説し、中級レベルの中国語の読解力と表現力を身につけることをめざす。 <到達目標> 中級レベルの中国語のコミュニケーション能力を習得し、各種検定試験の3級レベル合格に相当する実力の習得をめざす。			
2. 授業内容 目・耳・口を使って繰り返し練習し、充実したコミュニケーションができるよう授業を進めていく。春学期は第1課～第4課を学ぶ予定である。授業内容の目安については以下の通り。 第1回 インTRODakション 第2回～第4回：第1課「留学」 第5回～第7回：第2課「試験」 第8回～第10回：第3課「旅行」 第11回～第13回：第4課「登山」 第14回：まとめ			
3. 履修上の注意 ネイティブの中国語に慣れるために、可能な限り中国語で授業を行う。講義形式を主体にするが、本文を読んでもらったり、日本語に訳してもらったり、質疑応答を行ったりし、生徒と教師とのやりとりを重視する。授業内容が理解できているかを確認するために、小テストを行うこともある。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 語学は予習と復習がとても大事である。そのため、単語・本文を朗読し、覚える必要がある。発音練習のために、テキストの音源を常に聞くように要求する。			
5. 教科書 『資格を目指す実践中級中国語』、王学群ほか、白帝社、2500円＋税 ISBN978-4-86398-580-3			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 原則として、期末試験70％、平常点30％で評価する。積極的な授業参加や随時行う小テスト等を平常点として加点していく。欠席が全体の1/3を超えた場合、成績評価の対象外とする。欠席・遅刻は減点の対象になる。出席点はない。授業出席が前提である。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN261J			
中国語（中級）B 【選択クラス】			蔡 娟
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 一年次に習得した中国語の基礎をもとに、新しい語彙や表現を徐々に加え、必要な文法事項について重点的に解説し、中級レベルの中国語の読解力と表現力を身につけることをめざす。 <到達目標> 中級レベルの中国語のコミュニケーション能力を習得し、各種検定試験の3級レベル合格に相当する実力の習得をめざす。			
2. 授業内容 目・耳・口を使って繰り返し練習し、充実したコミュニケーションができるよう授業を進めていく。春学期に続いて秋学期では第5課～第8課を学ぶ予定である。授業内容の目安については以下の通り。 第1回 春学期のまとめと秋学期授業予定の説明 第2回～第4回：第5課「実家に帰る」 第5回～第7回：第6課「他人を助けることを喜びとする」 第8回～第10回：第7課「後悔に付ける薬」 第11回～第13回：第8課「部屋を借りる」 第14回：まとめ			
3. 履修上の注意 ネイティブの中国語に慣れるために、可能な限り中国語で授業を行う。講義形式を主体にするが、本文を読んでもらったり、日本語に訳してもらったり、質疑応答を行ったりし、生徒と教師とのやりとりを重視する。授業内容が理解できているかを確認するために、小テストを行うこともある。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 語学は予習と復習がとても大事である。そのため、単語・本文を朗読し、覚える必要がある。発音練習のために、テキストの録音を常に聞くように要求する。			
5. 教科書 『資格を目指す実践中級中国語』、王学群ほか、白帝社、2500円＋税 ISBN978-4-86398-580-3			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 原則として、期末試験70％、平常点30％で評価する。積極的な授業参加や随時行う小テスト等を平常点として加点していく。欠席が全体の1/3を超えた場合、成績評価の対象外とする。欠席・遅刻は減点の対象になる。出席点はない。授業出席が前提である。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN261J			
中国語（中級） A 【選択クラス】		笹 倉 一 広	
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> ・長文読解を通して中国語の読解能力を習得し、かつ文法理解と表現力を高めることを目標とします。 ・概ね2回弱の授業で1課分を進行する予定で、テキスト全16課の1～8課を講義する予定です。 9～16課は秋学期に後継授業で講義する予定です。 ・使用するテキストは本文と語釈、語法のポイント・練習問題から構成されています。 ・読解力のアップが授業の目標であることはもちろんですが、課文では中国の社会や中国人の思考様式の理解も目標にします。 ・下の教科書欄にあるURLで、内容レベルを確認して受講登録をしてください。 <到達目標> 中国語検定試験3級、HS K3級レベル合格の文法知識と読解力をつけることを目標とします。			
2. 授業内容 ・1年生のほとんどの教科書は対話体の会話の課文だったと思いますが、中国語は日本語以上に書き言葉と話し言葉の差がある言語です。文章を読むことを通じて、基本文法の復習に加え中級の語法を学び、読解能力の向上を目標とします。 ・授業では、発音練習にも重点を置いて進めていきます。読む練習もしましょう。 【授業進行予定】 第1回 ガイダンスおよび初級文法のおさらい 第2回 第1課 「地図から見る中国」課文および文法のポイント 第3回 第1課 「地図から見る中国」課文および文法のポイントの続き・練習問題 第2課 「紙幣から見る中国」課文および文法のポイント 第4回 第2課 「紙幣から見る中国」課文および文法のポイントの続き・練習問題 第5回 第3課 「少数民族」課文および・文法のポイント 第6回 第3課 「少数民族」課文および・文法のポイントの続き・練習問題 第4課 「都市と農村」課文および・文法のポイント 第7回 第4課 「都市と農村」課文および文法のポイントの続き・練習問題 第8回 第5課 「ファッション」課文および・文法のポイント 第9回 第5課 「ファッション」課文および文法のポイントの続き・練習問題 第6課 「グルメ」課文および・文法のポイント・練習問題 第10回 第6課 「グルメ」課文および・文法のポイントの続き・練習問題 第11回 第7課 「住宅事情」課文および・文法のポイント 第12回 第7課 「住宅事情」課文および・文法のポイントの続き・練習問題 第8課 「交通事情」課文および・文法のポイント 第13回 第8課 「交通事情」課文および・文法のポイントの続き・練習問題 第14回 a: まとめ b: 試験			
3. 履修上の注意 ・語学の授業は、毎回の授業の積み重ねが大切です。必ず出席して下さい。 ・欠席は4回までは許容します。5回以上は単位を出しません。欠席には体育会の活動に関わる欠席も含まれます。 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引き」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習】 ・必ず授業進度分の予習をしてください。 ①音読練習（音声を聴く、何回か本文を音読してみる） ②単語の意味確認（知らない単語は辞書をひく） ③本文・ポイント例文の予習 ※ノートもつくり、教科書にちよいちよいと書き込んで済ませている者が多いですが、おざりな勉強は身につきません。 本文や例文・問題文を筆写して、訳文などを自分で書き込み、授業で訂正してゆくことは手間ですが、それだけの見返りはあります。 地道な努力を惜しまないで下さい。 【復習】 ・授業で履修した箇所の内容、文法など理解できたか、疑問点がないか確認。 ・声に出して読む練習。			
5. 教科書 『16テーマで読む現代中国』 及川淳子・朱力 白水社 ISBN978-4-560-06947-9 ¥2300 https://www.hakusuisha.co.jp/book/b653636.html サンプルページを見て受講を判断してください。			
6. 参考書 ・守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』（東方書店） ・相原茂他『WHY？にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同人社） ・小川郁夫『中国語文法・完成マニュアル』（白帝社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 ・定期試験50％、平常点を50％とする。平常点には小テストの成績も含まれます。 ・筆記がAレベルでも、読みがそれに伴わない場合はAはつけません。読みは平常授業中に評価します。 ・欠席は4回までは許容します。5回以上は単位を出しません。欠席には体育会の活動等に関わる欠席も含まれます。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN261J			
中国語（中級） B 【選択クラス】		笹 倉 一 広	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> ・長文読解を通して中国語の読解能力を習得し、かつ文法理解と表現力を高めることを目標とします。 ・概ね2回弱の授業で1課分を進行する予定で、テキスト全16課の1～8課を春学期に講義し、残りの9～16課を秋学期にこの後継授業で講義する予定です。 ・使用するテキストは本文と語釈、語法のポイント・練習問題から構成されています。 ・読解力のアップが授業の目標であることはもちろんですが、課文では中国の社会や中国人の思考様式の理解も目標にします。 ・下の教科書欄にあるURLで、内容レベルを確認して受講登録をしてください。 <到達目標> 中国語検定試験3級、HS K3級レベル合格の文法知識と読解力をつけることを目標とします。			
2. 授業内容 ・1年生のほとんどの教科書は対話体の会話の課文だったと思いますが、中国語は日本語以上に書き言葉と話し言葉の差がある言語です。文章を読むことを通じて、基本文法の復習に加え中級の語法を学び、読解能力の向上を目標とします。 ・授業では、発音練習にも重点を置いて進めていきます。読む練習もしましょう。 【授業進行予定】 第1回 第9課 「大学生生活」課文および文法のポイント 第2回 第9課 「大学生生活」課文および文法のポイントの続き・練習問題 第10課 「就職・労働事情」課文および文法のポイント 第3回 第10課 「就職・労働事情」課文および文法のポイントの続き・練習問題 第4回 第11課 「スマホと日常生活」課文および・文法のポイント 第5回 第11課 「スマホと日常生活」課文および・文法のポイントの続き・練習問題 第12課 「サブカルチャー」課文および・文法のポイント 第6回 第12課 「サブカルチャー」課文および文法のポイントの続き・練習問題 第7回 第13課 「春節の今と昔」課文および・文法のポイント 第8回 第13課 「春節の今と昔」課文および文法のポイントの続き・練習問題 第14課 「経済のトレンド」課文および・文法のポイント・練習問題 第9回 第14課 「経済のトレンド」課文および・文法のポイントの続き・練習問題 第10回 第15課 「晩婚化と少子化」課文および・文法のポイント 第11回 第15課 「晩婚化と少子化」課文および・文法のポイントの続き・練習問題 第16課 「中国から見る日本」課文および・文法のポイント 第12回 第16課 「中国から見る日本」課文および・文法のポイントの続き・練習問題 第13回 総復習			
3. 履修上の注意 ・語学の授業は、毎回の授業の積み重ねが大切です。必ず出席して下さい。 ・欠席は4回までは許容します。5回以上は単位を出しません。欠席には体育会の活動に関わる欠席も含まれます。 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引き」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習】 ・必ず授業進度分の予習をしてください。 ①音読練習（音声を聴く、何回か本文を音読してみる） ②単語の意味確認（知らない単語は辞書をひく） ③本文・ポイント例文の予習 ※ノートもつくり、教科書にちよいちよいと書き込んで済ませている者が多いですが、おざりな勉強は身につきません。 本文や例文・問題文を筆写して、訳文などを自分で書き込み、授業で訂正してゆくことは手間ですが、それだけの見返りはあります。 地道な努力を惜しまないで下さい。 【復習】 ・授業で履修した箇所の内容、文法など理解できたか、疑問点がないか確認。 ・声に出して読む練習。			
5. 教科書 『16テーマで読む現代中国』 及川淳子・朱力 白水社 ISBN978-4-560-06947-9 ¥2300 https://www.hakusuisha.co.jp/book/b653636.html サンプルページを見て受講を判断してください。			
6. 参考書 ・守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』（東方書店） ・相原茂他『WHY？にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同人社） ・小川郁夫『中国語文法・完成マニュアル』（白帝社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 ・定期試験50％、平常点を50％とする。平常点には小テストの成績も含まれます。 ・筆記がAレベルでも、読みがそれに伴わない場合はAはつけません。読みは平常授業中に評価します。 ・欠席は4回までは許容します。5回以上は単位を出しません。欠席には体育会の活動等に関わる欠席も含まれます。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN261J			
中国語（中級） A 【選択クラス】			高 橋 美 千 子
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 基礎的な表現や文法事項を復習しつつ、応用的な表現能力と読解能力をバランス良く身につける。授業では、総合的な能力の養成に重点をおく。 基礎的な会話ができ、まとまった文章を読解できるレベルに到達することを旨とする。			
2. 授業内容 1 1 年の復習 疑問詞疑問文を復習します。 2 第1課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 是・ ・的の構文 3 第1課 練習 練習問題を通じた理解 4 第2課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 可能 の助動詞 5 第2課 練習 練習問題を通じた理解 前置詞 6 第3課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 文末 の了 7 第3課 練習 練習問題を通じた理解 8 第4課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 比較 の表現 9 第4課 練習 練習問題を通じた理解 10 第5課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 疑問 詞の不定用法 11 第5課 練習 練習問題を通じた理解 12 第6課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 可能 補語 様態補語 13 第6課 練習 練習問題を通じた理解 14 今学期の内容のまとめ 期末テスト			
3. 履修上の注意 授業中の私語は厳禁であるが、グループワークの際は、積極的に取り組むこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 語句の意味は教科書に記載されているが、もし本文で知らない単語があるなら、予め調べておきましょう。 練習問題にはピンインがついていない箇所があるのでの音読で困らないように発音できるように準備しておくこと。			
5. 教科書 『2年目の伝える中国語 自分のこと日本のこと』 及川淳子著 白水社			
6. 参考書 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著（アスク出版 2010） 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著（東方書店 1995） 辞典は：『中日辞典第2版』（小学館）または『中日辞典第3版』（講談社）を推奨する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-olMeijiに解答例を掲示するとともに、授業時に解説。提出物は、訂正して返却する。			
8. 成績評価の方法 試験 50% 平常点50% 授業中にその日の内容で適宜小テストをする。小テストを平常点とする。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN261J			
中国語（中級） B 【選択クラス】			高 橋 美 千 子
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 基礎的な表現や文法事項を復習しつつ、応用的な表現能力と読解能力をバランス良く身につける。授業では、総合的な能力の養成に重点をおく。 基礎的な会話ができ、まとまった文章を読解できるレベルに到達することを旨とする。			
2. 授業内容 1 春学期の復習 2 第7課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 3 第7課 練習問題を通しての理解 4 第8課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 5 第8課 練習問題を通しての理解 6 第9課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 7 第9課 練習問題を通しての理解 8 第10課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 9 第10課 練習問題を通しての理解 10 第11課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 11 第11課 練習問題を通しての理解 12 第12課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 13 第12課 練習問題を通しての理解 14 秋学期の総復習 期末テスト			
3. 履修上の注意 授業中の私語は厳禁であるが、グループワークの際は、積極的に取り組むこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 語句の意味は教科書に記載されているが、もし本文で知らない単語があるなら、予め調べておきましょう。 練習問題にはピンインがついていない箇所があるのでの音読で困らないように発音できるように準備しておくこと。			
5. 教科書 『2年目の伝える中国語 自分のこと日本のこと』 及川淳子著 白水社			
6. 参考書 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著（アスク出版 2010） 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著（東方書店 1995） 辞典は：『中日辞典第2版』（小学館）または『中日辞典第3版』（講談社）を推奨する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-olMeijiに解答例を掲示するとともに、授業時に解説。提出物は、訂正して返却する。			
8. 成績評価の方法 試験 50% 平常点50% 授業中にその日の内容で適宜小テストをする。小テストを平常点とする。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN261J			
中国語（中級） A 【選択クラス】			費 燕
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 [授業概要] 中国語を1年間勉強してきた学生を対象としている。今までに学んだ語法知識を復習しながら、リスニングの向上を中心に授業を進める。授業は学んだ内容を復習しながら、新しい単語、文法、表現を無理なく段階を踏んで学習していく。 [到達目標] ・初級レベルよりも幅広くより深い中国語のコミュニケーション能力とリスニング力の向上を目指す。 ・課文に出た話題は、日中の異文化コミュニケーションを巡っての違いやズレ、衝突を描いているため、言葉だけではなく、日中異文化理解も深める。 ・中国語検定試験で4級に合格することを目標とする。			
2. 授業内容 1 回目 イントロダクション、初級で把握しておきたい文法復習 2 回目 第1課リスニング練習、第1課文法説明、練習 3 回目 第2課リスニング練習、第2課文法説明、練習 4 回目 第3課リスニング練習、第3課文法説明、練習 5 回目 第4課リスニング練習、第4課文法説明、練習 6 回目 第5課リスニング練習、第5課文法説明、練習 7 回目 第6課リスニング練習、第6課文法説明、練習 8 回目 第7課リスニング練習、第7課文法説明、練習 9 回目 第8課リスニング練習、第8課文法説明、練習 10 回目 第9課リスニング練習、第9課文法説明、練習 11 回目 第10課リスニング練習、第10課文法説明、練習 12 回目 中国語検定試験4級② 13 回目 中国語検定試験4級②解釈・これまでの学修内容について総まとめ 14 回目 これまでの学修内容について理解度を確認するための考察テスト ※授業の進度は、学習者の状況により変更する場合があります。担当者の指示に従ってください。			
3. 履修上の注意 ・授業外の予習・復習を各自必ず行うこと。それを前提として授業を進める。 ・授業中は積極的な授業参加が求められる。 ・中国語はネイティブスピーカー並みの学生には履修を勧めない。 ・やむを得ない場合を除いて全体の3分の2以上は出席することが前提。 ※正当な理由のない遅刻は3回で欠席1回と見なす。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 一課入る前、その課の単語を覚える必要がある。 教科書の付属の音源を聞き、本文の音読を練習し、正確な発音で読み、暗唱できるようにする。			
5. 教科書 『マンガ日中いぶこみ劇場』 相原茂等著（朝日出版社）			
6. 参考書 ・『WHY？にこたえるはじめての中国語の文法書』 相原茂他（同学社） ・『知りたいことがしっかりわかる実践中国語文法』 三瀧正道著（朝日出版社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストや課題・宿題、期末テストに対し、基本授業中で解説の時間を設ける。			
8. 成績評価の方法 期末試験（60％）と平常点（40％）を目安とする。 平常点の内訳：授業への参加状況及び課題・宿題などの提出物は（20％）で、小テストは（20％）である。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN261J			
中国語（中級） B 【選択クラス】			費 燕
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 [授業概要] 中国語を1年間勉強してきた学生を対象としている。今までに学んだ語法知識を復習しながら、リスニングの向上を中心に授業を進める。授業は学んだ内容を復習しながら、新しい単語、文法、表現を無理なく段階を踏んで学習していく。 [到達目標] ・初級レベルよりも幅広くより深い中国語のコミュニケーション能力とリスニング力の向上を目指す。 ・課文に出た話題は、日中の異文化コミュニケーションを巡っての違いやズレ、衝突を描いているため、言葉だけではなく、日中異文化理解も深める。 ・中国語検定試験で4級～3級に合格することを目標とする。			
2. 授業内容 1 回目 イントロダクション、第11課リスニング練習 2 回目 第11課文法説明、練習、第12課リスニング練習 3 回目 第12課文法説明、練習、第13課リスニング練習 4 回目 第13課文法説明、練習、第14課リスニング練習 5 回目 第14課文法説明、練習、第15課リスニング練習 6 回目 第15課文法説明、練習、第16課リスニング練習 7 回目 第16課文法説明、練習、第17課リスニング練習 8 回目 第17課文法説明、練習、第18課リスニング練習 9 回目 第18課文法説明、練習、第19課リスニング練習 10 回目 第19課文法説明、練習、第20課リスニング練習 11 回目 第20課文法説明、練習、第21課リスニング練習 12 回目 第21課文法説明、練習、中国語検定試験3級② 13 回目 中国語検定試験3級②解釈・これまでの学修内容について総まとめ 14 回目 これまでの学修内容について理解度を確認するための考察テスト			
3. 履修上の注意 ・授業外の予習・復習を各自必ず行うこと。それを前提として授業を進める。 ・授業中は積極的な授業参加が求められる。 ・中国語はネイティブスピーカー並みの学生には履修を勧めない。 ・やむを得ない場合を除いて全体の3分の2以上は出席することが前提。 ※正当な理由のない遅刻は3回で欠席1回と見なす。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 一課入る前、その課の単語を覚える必要がある。 教科書の付属の音源を聞き、本文の音読を練習し、正確な発音で読み、暗唱できるようにする。			
5. 教科書 『マンガ日中いぶこみ劇場』 相原茂等著（朝日出版社）			
6. 参考書 ・『WHY？にこたえるはじめての中国語の文法書』 相原茂他（同学社） ・『知りたいことがしっかりわかる実践中国語文法』 三瀧正道著（朝日出版社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストや課題・宿題、期末テストに対し、基本授業中で解説の時間を設ける。			
8. 成績評価の方法 期末試験（60％）と平常点（40％）を目安とする。 平常点の内訳：授業への参加状況及び課題・宿題などの提出物は（20％）で、小テストは（20％）である。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN261J			
中国語（中級） A 【選択クラス】		劉 素 英	
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、いままで習得した中国語の基礎知識をふまえて、簡単な文章読解と実用的な会話を勉強する。授業での練習を通じて、必要な表現と文法を勉強し、中国語の基礎力を身につける。また、中国語を学びながら背景知識となる中国の現代事情を学び、国際的視野を広げ国際感覚を身につける。 中国語能力においては次の目標を目指す。 簡単な意思表示を中国語で伝えるような能力を身につけ、いざという時（旅行、仕事など）に役に立つようにする。初級から中級程度の中国語を勉強し、この授業のA/Bを習得した段階で検定試験4級以上の語学力を身につけるようにする。			
2. 授業内容 第1回 第一課 自己紹介(学習内容：「從…到…」、動詞修飾語、会話練習) 第2回 第一課 自己紹介(学習内容：様態補語、二重目的語構文、練習問題) 第3回 第二課 私たちの大学(学習内容：動詞+「在」+場所詞、副詞“只”、会話練習) 第4回 第二課 私たちの大学(学習内容：逆接表現、数量補語、練習問題) 第5回 第三課 私の家族(学習内容：「愛+動詞」、相手を表す前置詞“給”、会話練習) 第6回 第三課 私の家族(学習内容：“一…就…”、“就要…了”、練習問題) 第7回 第四課 私の家は四国にある(学習内容：形容詞修飾語、伝聞表現、会話練習) 第8回 第四課 私の家は四国にある(学習内容：假定表現、“有”の連述文、練習問題) 第9回 第五課 日曜日(学習内容：副詞“才”、副詞“就”、結果補語、会話練習) 第10回 第五課 日曜日(学習内容：可能補語「動詞+“得/不”+補語」、練習問題) 第11回 第六課 私の趣味(学習内容：“把”構文、前置詞“通過”、会話練習) 第12回 第六課 私の趣味(学習内容：因果関係を表す構文、“除了…(以外)”、練習問題) 第13回 習得した内容の復習 第14回 授業内テストと総括			
3. 履修上の注意 真面目に授業に参加し、真剣に取り組むこと。 授業中発表する時、大きな声で発言すること。 課題が出されたら期限までに完成すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習：授業内容を予習しておくこと。本文も会話も意味を調べた上、CDを聞きながら声を出して読む練習をする。また、ポイントを事前に予習しておく。必要時間：週2時間以上。 復習学習：授業で説明したポイント内容を再度確認した上、本文を読み書きできるようにし、本文と会話を暗記できるように練習する。さらに練習課題をしっかりと完成する。必要時間：週2時間以上			
5. 教科書 『学ぶ中国語・初中級編』王亜新（朝日出版社）			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 テストや課題など実施後に、添削した上、正解を公表し、解説を行います。読みや暗唱課題は発表する時に発音指導などをします。			
8. 成績評価の方法 授業に取り組む姿勢10%、課題（練習問題、読み、暗唱など）の完成状況20%、授業内期末試験70%で成績評価を出します。			
9. その他 何かありましたら、メールで連絡してください。 先生のメールアドレスは以下の通りです。 suyingliu.jp@gmail.com			

科目ナンバー：(BA) LAN261J			
中国語（中級） B 【選択クラス】		劉 素 英	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、いままで習得した中国語の基礎知識をふまえて、簡単な文章読解と実用的な会話を勉強する。授業での練習を通じて、必要な表現と文法を勉強し、中国語の基礎力を身につける。また、中国語を学びながら背景知識となる中国の現代事情を学び、国際的視野を広げ国際感覚を身につける。 中国語能力においては次の目標を目指す。 簡単な意思表示を中国語で伝えるような能力を身につけ、いざという時（旅行、仕事など）に役に立つようにする。初級から中級程度の中国語を勉強し、この授業のA/Bを習得した段階で検定試験4級以上の語学力を身につけるようにする。			
2. 授業内容 第1回 第7課 旅行(学習内容：“是…的”文、“～しながら～する”表現、会話練習) 第2回 第7課 旅行(学習内容：動詞+着+動詞句、副詞“再”、練習問題) 第3回 第8課 アルバイト(学習内容：動詞句の“是”構文、副詞“只好”、会話練習) 第4回 第8課 アルバイト(学習内容：使役表現、“不仅…而且…”、練習問題) 第5回 第9課 買い物(学習内容：「疑問詞+都/也+動詞句」、「只有～」、会話練習) 第6回 第9課 買い物(学習内容：“要不然”、“…是…，就是/不過…”、練習問題) 第7回 第10課 テレビを見る(学習内容：副詞“甚至”、“只要…就…”、会話練習) 第8回 第10課 テレビを見る(学習内容：“对…来说”、助動詞“应该”、練習問題) 第9回 第11課 携帯電話(学習内容：“不論(是)…还是…”、受身表現、会話練習) 第10回 第11課 携帯電話(学習内容：副詞“刚”、反語表現“不是…吗？”、練習問題) 第11回 第12課 留学(学習内容：前置詞“向”、引用を表す表現、会話練習) 第12回 第12課 留学(学習内容：動詞“争取”、“動詞+了+数量詞+了”、練習問題) 第13回 習得した内容の復習 第14回 授業内テストと総括			
3. 履修上の注意 真面目に授業に参加し、真剣に取り組むこと。 授業中発表する時、大きな声で発言すること。 課題が出されたら期限までに完成すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習：授業内容を予習しておくこと。本文も会話も意味を調べた上、CDを聞きながら声を出して読む練習をする。また、ポイントを事前に予習しておく。必要時間：週2時間以上。 復習学習：授業で説明したポイント内容を再度確認した上、本文を読み書きできるようにし、本文と会話を暗記できるように練習する。さらに練習課題をしっかりと完成する。必要時間：週2時間以上			
5. 教科書 『学ぶ中国語・初中級編』王亜新（朝日出版社）			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 テストや課題など実施後に、添削した上、正解を公表し、解説を行います。読みや暗唱課題は発表する時に発音指導などをします。			
8. 成績評価の方法 授業に取り組む姿勢10%、課題（練習問題、読み、暗唱など）の完成状況20%、授業内期末試験70%で成績評価を出します			
9. その他 何かありましたら、メールで連絡してください。 先生のメールアドレスは以下の通りです。 suyingliu.jp@gmail.com			

科目ナンバー：(BA)LAN151J			
ロシア語（初級）Ⅰ			恩田 義徳
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この授業はロシア語を初めて学ぶ人を対象とします。 初めにロシア語のアルファベットの読み方、発音のルールを学びます。 そのあとは教科書に従って文法事項を学習します。 〈到達目標〉 ロシア語の文字を正しく読める。 正しいイントネーションで簡単な文を音読できるようになる。			
2. 授業内容 第1回 アルファベットと発音（1） 第2回 アルファベットと発音（2） 第3回 発音の規則 第4回 1課 第5回 2課 第6回 3課 第7回 4課 第8回 5課 第9回 6課 第10回 7課 第11回 8課 第12回 9課 第13回 10課～11課 第14回 a.まとめ b.発音試験 なお、授業の内容は受講者の様子で多少変更になることがあります。 春学期で概ね10-11課までを学習します。			
3. 履修上の注意 この授業は月曜日3限のロシア語の授業と関連して授業を進めます。 同時履修を原則としますが、かなわない場合には各自でカバーする必要があります。 毎回出席することが基本になります。やむを得ず休む場合はなるべく事前に連絡をし、授業内容をキャッチアップしてください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の付属のCDを聴き、本文の音読の練習をしてください。その際、カタカナのルビを読まないように気を付けてください。 文法については予習よりも復習に重点を置くよう心がけてください。 練習問題は事前に問題を解いて授業に臨んでください。			
5. 教科書 匹田剛監修『ゼロからスタートロシア語』Jリサーチ出版（1400円＋税）			
6. 参考書 辞書については授業中に指示します。それまでは購入を控えてください。 電子辞書・スマホアプリについては学習の妨げになるので使用禁止とします。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 試験（50％）、授業参加の姿勢（50％） ただし、無断欠席が続いた場合、成績評価の対象としません。			
9. その他 連絡先は以下のアドレスを使ってください。 なお件名は必ず「金3ロシア語（要件）」としてください。 ondayoshinori[AT]gmail.com			

科目ナンバー：(BA)LAN151J			
ロシア語（初級）Ⅱ			恩田 義徳
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 春学期開講の授業の続きとなります。 教科書の例文の音読の練習をし、練習問題で文法を定着させることを中心に行います。 〈到達目標〉 ロシア語の基本的な文法を習得し、ロシア語の文章をスムーズに発音できるようになることを目標とします。			
2. 授業内容 第1回 前期の復習 第2回 前期の復習 第3回 12課 第4回 13課 第5回 14課 第6回 15課 第7回 16課 第8回 17課 第9回 18課 第10回 19課 第11回 20-21課 第12回 22-23課 第13回 24-25課 第14回 a.まとめ b.試験 なお、授業内容は春学期の進度、受講者の様子によって多少前後することが考えられます。 教科書を最後まで終わらせませす。			
3. 履修上の注意 授業の開始までに各自春学期の内容を復習し、スムーズに秋学期が始められるように準備してください。 なお、秋学期から参加する場合、事前に教員に連絡を取り、春学期の内容を把握しておいてください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の付属のCDを聴き、本文の音読の練習をしてください。文法については予習よりも復習に重点を置くよう心がけてください。 練習問題は事前に問題を解いて授業に臨んでください。			
5. 教科書 匹田剛監修『ゼロからスタートロシア語』Jリサーチ出版（¥1400）			
6. 参考書 授業中に指示します。辞書を持っていない場合は指示があるまで購入は控えてください。 なお、学習の妨げになるので電子辞書。スマホアプリの使用は禁止します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 試験（50％）、授業への参加態度（50％） ただし、無断欠席が続いた場合、成績評価の対象としません。			
9. その他 連絡先は以下のアドレスを使ってください。 なお件名は必ず「金3ロシア語（要件）」としてください。 ondayoshinori[AT]gmail.com			

科目ナンバー：(BA)LAN151J			
ロシア語（初級）Ⅰ			井伊 裕子
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 概要：ロシア語を始めて学ぶ方のための講座です。まずはロシア語のアルファベットの読み方、発音を学び、音読を苦としないようになることを目指します。教科書を使って例文や文法事項の練習を繰り返していきます。 到達目標：キリル文字を読める、発音を身に着けること。			
2. 授業内容 受講生の学習状況で授業内容や進度は変更する可能性があります。また適宜授業内で小テストを実施します。 第1回 アルファベットと発音(1)、挨拶 第2回 アルファベットと発音(2)、名前&愛称 第3回 発音の規則 (1) 母音字 第4回 発音の規則 (2) 子音字 第5回 1課 基本的な文の作り方(1) (AはBです) 第6回 2課 基本的な文の作り方(2) (AはBではない) 第7回 3課 名詞の性と数 第8回 4課 正書法の規則、疑問詞のある疑問文 第9回 5課 人称代名詞 第10回 6課 形容詞の変化 第11回 7課 指示代名詞、所有代名詞の変化 第12回 8課 第1変化動詞の現在形 第13回 9課 第2変化動詞の現在形 第14回 a.まとめ b.試験			
3. 履修上の注意 この授業は金曜3限のロシア語の授業と関連して進行します。同時に履修することが望ましいですが、できない場合には自力でフォローする必要があります。 授業内では積極的に授業に参加することが期待されます。語学は継続した学習が必要となるため、授業を欠席した場合は次の授業までに欠席分をカバーしておく必要があります。さらに欠席する場合は事前に連絡してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として授業内容範囲の教科書を読んでおき、問題演習を通して復習をしてください。			
5. 教科書 『ゼロからスタート ロシア語 文法編』匹田剛（監修）、佐山豪太、光井明日香、後藤雄介、宮内拓也、ツオイ・エカテリーナ、ヴァフロマーエフ・アナトリー（著）(Jリサーチ出版)			
6. 参考書 授業内で必要な参考書や辞書について指示します。たとえ辞書が入っていてもスマートフォンの使用は禁止します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 練習問題、小テストについては授業内で解説、採点します。期末テストは希望者に答案を返却します。			
8. 成績評価の方法 試験（50%）、授業参加（25%）、小テスト（25%）			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN151J			
ロシア語（初級）Ⅱ			井伊 裕子
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 概要：春学期の続きとなります。格変化を学び、簡単なロシア語の文章を理解できるようになることを目指します。教科書を使い例文や文法事項の練習を繰り返していきます。 到達目標：簡単なロシア語の文章を発音し理解できる。			
2. 授業内容 受講生の学習状況で授業内容や進度は変更する可能性があります。また適宜授業内で小テストを実施します。 第1回 10課 特殊変化動詞 第2回 11課 単数前置格 第3回 12課 形容詞の単数前置格と動詞の過去形 第4回 13課 単数生格 第5回 14課 単数生格の続きと所有の構文 第6回 15課 複数生格と数詞(1) 第7回 16課 о в а т ь 動詞と а в а т ь 動詞 第8回 17課 時間の表現と複数生格の続き 第9回 18課 単数・複数対格 第10回 19課 数詞(2) 第11回 20課 動詞の体 第12回 21課 数詞(3) 第13回 22課 単数与格 第14回 a.まとめ b.試験			
3. 履修上の注意 この授業は金曜3限のロシア語の授業と関連して進行します。同時に履修することが望ましいですが、できない場合には自力でフォローする必要があります。 授業内では積極的に授業に参加することが期待されます。語学は継続した学習が必要となるため、授業を欠席した場合は次の授業までに欠席分をカバーしておく必要があります。さらに欠席する場合は事前に連絡してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として授業内容範囲の教科書を読んでおき、問題演習を通して復習をしてください。			
5. 教科書 『ゼロからスタート ロシア語 文法編』匹田剛（監修）、佐山豪太、光井明日香、後藤雄介、宮内拓也、ツオイ・エカテリーナ、ヴァフロマーエフ・アナトリー（著）(Jリサーチ出版)			
6. 参考書 辞書については授業中に指示します。それまでは購入を控えてください。電子辞書・スマホアプリについては学習の妨げになるので使用禁止とします。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 練習問題、小テストについては授業内で解説、採点します。期末テストは希望者に答案を返却します。			
8. 成績評価の方法 試験（50%）、授業参加（25%）、小テスト（25%）			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN251J			
ロシア語（中級）A			恩田 義徳
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 概要 ロシア語の基礎を終えた人を対象とする授業です。 一年次で学んだことを復習しながら、文法の知識を補完します。 目標 ロシア語の基礎的な文法をしっかりと定着させ、ロシア語の表現の幅を広げることを目標とします。 また、日常会話でよく使われる表現をスムーズに発音できるようにします。			
2. 授業内容 第1回 イン트로、授業の進め方の説明、発音の復習 第2回 一年時の復習 第3回 名前の尋ね方・答え方（1） 第4回 名前の尋ね方・答え方（2） 第5回 場所の表現（1） 第6回 場所の表現（2） 第7回 時間の表現（1） 第8回 目的語の表現 第9回 時間の表現（2） 第10回 理由の表現 第11回 比較級 第12回 最上級 第13回 移動の動詞 第14課 a.まとめ b.試験 なお、授業内容は受講者の様子によって変更になる場合があります。			
3. 履修上の注意 ロシア語の基礎を終えた学生を対象とします。授業開始までにそれまでに学習した内容を復習し、スムーズに授業が始められるように各自準備をしておいてください。 初回の授業で進め方などの説明をするので欠席しないでください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前にプリントの練習問題を予習しておいてください。 また、単語を覚える作業は授業時間内には行えないので、各自進めておいてください。			
5. 教科書 プリントを配布			
6. 参考書 博友社「ロシア語辞典」 辞書については授業内で説明をするので急いで買う必要はありません。 学習の妨げになるので、電子辞書、スマホアプリの使用は禁止します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 試験（50%）、授業への参加態度（50%） ただし無断欠席が続いた場合、成績評価の対象としません。			
9. その他 連絡先は以下のアドレスを使ってください。 なお件名は必ず「金4ロシア語（要件）」としてください。 ondayoshinori[AT]gmail.com			

科目ナンバー：(BA)LAN251J			
ロシア語（中級）B			恩田 義徳
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 概要 春学期開講のロシア語（中級）Aの続きになります。プリントに従い学習を続けます。 目標 ロシア語の高度な文法もある程度理解でき、ロシア語の辞書を使い自分でテキストを調べられるようにします。 また、簡単な日常会話を行えるようにします。			
2. 授業内容 第1回 ガイダンス 第2回 春学期の復習 第3回 接頭辞付き移動動詞 第4回 関係代名詞（1） 第5回 関係代名詞（2） 第6回 関係副詞（3） 第7回 副動詞（1） 第8回 副動詞（2） 第9回 形動詞（1） 第10回 形動詞（2） 第11回 形動詞（3） 第12回 受け身の表現 第13回 仮定法 第14課 a.まとめ b.試験 なお、授業内容は受講者の様子によって変更になる場合があります。			
3. 履修上の注意 春学期からの継続の授業となります。 秋から参加する学生は事前に教員に連絡を取り、春学期の内容を確認してください。 初回の授業で進め方などの説明をするので欠席しないでください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 プリントの練習問題を予習しておいてください。 単語の意味も調べ、例文を訳せる様に準備してください。			
5. 教科書 プリントを配布			
6. 参考書 授業中に指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 試験（50%）、授業への参加態度（50%） ただし無断欠席が続いた場合、成績評価の対象としません。			
9. その他 連絡先は以下のアドレスを使ってください。 なお件名は必ず「金4ロシア語（要件）」としてください。 ondayoshinori[AT]gmail.com			

科目ナンバー：(BA) LAN251J			
ロシア語（中級） A			井 伊 裕 子
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 概要：この授業はロシア語の基礎を学んだ人を対象としています。一年時の内容をさらに発展させ、学習していきます。 到達目標：正しいイントネーションで簡単な文を音読、理解できるようになる。簡単な会話ができるようになる。			
2. 授業内容 受講生の学習状況で授業内容や進度は変更する可能性があります。また適宜授業内で小テストを実施します。 第1回 一年時の復習 第2回 名詞、代名詞 第3回 形容詞 第4回 動詞（1） 第5回 動詞（2） 第6回 動詞（3） 第7回 所有の表現 第8回 動詞（4） 第9回 過去、未来 第10回 生格 第11回 与格 第12回 造格 第13回 完了・不完了 第14回 a.まとめ b.試験			
3. 履修上の注意 ロシア語の基礎を学んだ人を対象としています。 初回の授業までに一年時の内容を復習しておきましょう。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として授業内容範囲の教科書を読んでおき、問題演習を通して復習をしてください。			
5. 教科書 プリント配布 参考書 博友社「ロシア語辞典」			
6. 参考書 授業内で必要な参考書や辞書について指示します。たとえ辞書が入っていてもスマートフォンの使用は禁止します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 練習問題、小テストについては授業内で解説、採点します。期末テストは希望者に答案を返却します。			
8. 成績評価の方法 試験（50%）、授業参加（25%）、小テスト（25%）			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN251J			
ロシア語（中級） B			井 伊 裕 子
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 概要：この授業はロシア語の基礎を学んだ人を対象としています。春学期の内容をさらに発展させ、学習していきます。 到達目標：正しいイントネーションで簡単な文を音読、理解できるようになる。簡単な会話ができるようになる。			
2. 授業内容 受講生の学習状況で授業内容や進度は変更する可能性があります。また適宜授業内で小テストを実施します。 第1回 春学期の復習 第2回 移動動詞（1） 第3回 移動動詞（2） 第4回 命令形（1） 第5回 命令形（2） 第6回 形容詞短語尾 第7回 比較級（1） 第8回 比較級（2） 第9回 不定人称文、無人称文 第10回 生格 第11回 与格 第12回 造格 第13回 関係代名詞 第14回 a.まとめ b.試験			
3. 履修上の注意 春学期の授業の続きとなります。 初回の授業までに春学期の内容を復習しておきましょう。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として授業内容範囲の教科書を読んでおき、問題演習を通して復習をしてください。			
5. 教科書 プリント配布 参考書 博友社「ロシア語辞典」			
6. 参考書 授業内で必要な参考書や辞書について指示します。たとえ辞書が入っていてもスマートフォンの使用は禁止します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 練習問題、小テストについては授業内で解説、採点します。期末テストは希望者に答案を返却します。			
8. 成績評価の方法 試験（50%）、授業参加（25%）、小テスト（25%）			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN171J			
韓国語（初級）Ⅰ			安 垠 姫
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 初めて韓国語を学ぶ学生を対象とし、文字、発音、文法の基礎的知識を学習します。また、場面に応じた基本的な口語表現を学び、会話の練習を行います。韓国文化に関する DVD などを鑑賞し、言語と文化への理解を深めます。 〈到達目標〉 文字ハングルの読み書きと発音の仕方を学び、あいさつ表現など簡単な会話表現を学習します。ハングル能力検定試験5級レベルの実力を身につけることを目標にします。			
2. 授業内容 1. 授業ガイダンス、ハングルの仕組み 2. 文字と発音①（基本母音） 3. 文字と発音②（基本子音） 4. 文字と発音③（激音、濃音など） 5. 文字と発音④（二重母音） 6. 文字と発音⑤（パッチム） 7. 文字と発音⑥（発音のルール） 8. 私はクマモトマキです。 9. 中間テスト・文化の理解 10. これは何ですか。 11. いつありますか。 12. 誰の歌が好きですか。 13. コーヒーを飲みません。 14. a：まとめ，b：期末テスト			
3. 履修上の注意 外国語の習得には地道な努力を積み重ねるしかありません。予習・復習を怠らないこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前回までの復習を十分に行う。発音練習に教材の CD を有効に活用する。			
5. 教科書 『グループで楽しく学ぼう！韓国語1（2025年度新刊）』朴美子・崔相振著，朝日出版社			
6. 参考書 授業の際に適宜紹介する。 NAVERネット辞書 http://jpdic.naver.com/ ネット版「標準国語大辞典」 https://stdict.korean.go.kr/main/main.do			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題や小テストなどを実施した際には、その答え合わせと解説を行い、学生の質問やコメントに対応しフィードバックします。			
8. 成績評価の方法 定期試験70%，平常点30%（出席率，授業態度・参加度，課題，小テストなど）			
9. その他 連絡先：安垠姫（アンウニ）witheh@hotmail.com			

科目ナンバー：(BA)LAN171J			
韓国語（初級）Ⅱ			安 垠 姫
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 春学期に学んだ事項を復習し、さらに初級レベルの文法，語彙，表現などを学習します。場面に応じた会話表現を学び，打ち解けた言い方(ヨ体)や数字の表現，希望・願望，逆接，過去形など様々な意思表現を覚えて行きます。日本語との違いや韓国文化にもふれつつ，言語と文化への理解を深めます。 〈到達目標〉 基本的な文章の読み書き，多様な文末語尾，日常会話の慣用的な表現を学習します。ハングル能力検定試験5級レベルの実力を身につけることを目標にします。			
2. 授業内容 1. 基本文法の復習 2. 誕生日はいつですか。 3. 漢数字の表現 4. 郵便局とコーヒーショップがあります。 5. ヨ体、位置名詞 6. 3個1万ウォンです。 7. 固有数字の表現 8. 中間テスト、文化の理解 9. 韓国語の授業は何曜日ですか。 10. 時間・時刻を表す表現 11. 週末に何をしましたか。 12. 過去形、ロ変則 13. 週末に映画を見に行きましようか。 14. a：まとめ，b：期末テスト			
3. 履修上の注意 外国語の習得には地道な努力を積み重ねるしかありません。予習・復習を怠らないこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前回までの復習を十分に行う。発音練習に教材の CD を有効に活用する。			
5. 教科書 『グループで楽しく学ぼう！韓国語1（2025年度新刊）』朴美子・崔相振著，朝日出版社			
6. 参考書 授業の際に適宜紹介する。 NAVERネット辞書 http://jpdic.naver.com/ ネット版「標準国語大辞典」 https://stdict.korean.go.kr/main/main.do			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題や小テストなどを実施した際には、その答え合わせと解説を行い、学生の質問やコメントに対応しフィードバックします。			
8. 成績評価の方法 定期試験70%，平常点30%（出席率，授業態度・参加度，課題，小テストなど）			
9. その他 連絡先：安垠姫（アンウニ）witheh@hotmail.com			

科目ナンバー：(BA)LAN171J			
韓国語（初級）Ⅰ			金孝珍
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 本授業は初めて韓国語を学ぶ学生を対象とします。前半は表音文字であるハングルの仕組みと発音のルールを習得し、文字の読み書き、正確な発音ができるように練習します。後半は基礎文法・文型を踏まえ初歩的な表現を学びます。会話力をつけるためには単語や語句、基本文型はとても重要です。教科書に出てくる語彙やフレーズなどは丸暗記できるように声を出して繰り返し発音し、自然に言えるように練習します。確実に身につけるためにその都度語彙とフレーズ、文法問題を用意し、きちんと覚えられているのかチェックしながら進めていきます。 〈到達目標〉 確実に韓国の文字が読み、簡単な挨拶および自己紹介ができることを目標とします。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション、朝鮮語・朝鮮半島についての紹介 第2回 文字編 第1課 基本母音 第3回 文字編 第2課 子音（1） 第4回 文字編 第3課 子音（2）激音と濃音 第5回 文字編 第4課 複合母音 第6回 文字編 第5課 終声（パッチム） 第7回 文字編 第6課 発音の変化 第8回 第1課 名詞文（1）、助詞「は」 第9回 第1課 ～と申します、自己紹介表現を学ぶ 第10回 第2課 名詞文（2）、助詞「が」 第11回 第2課 名詞文の否定形 第12回 第3課 指示詞と方向位置を表す表現を学ぶ 第13回 文化に触れるコーナー 第14回 a：講義 b：期末試験			
3. 履修上の注意 学習の遅れにつながりますので欠席しないでください。やむを得ず欠席する場合は前もって届けを出し、授業内容と課題を学習して遅れをとらないようにしてください。全講義数の3分の1以上を欠席した学生は、評価対象になりません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、復習を行ってください。授業で習ったことを復習してから必要に応じて小テストを行います。			
5. 教科書 北原スマ子監修、金孝珍著『即！実践 楽しもう韓国語』（白帝社）			
6. 参考書 『実用日韓・韓日辞典』（成美堂） 朝鮮語だけではなく朝鮮半島の社会・文化に関する参考書を随時紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 定期試験60％、平常点40％（授業への参加度、小テスト、課題を含む）			
9. その他 韓国の文化や習慣、リアルタイムの情報などにも耳を傾けて、韓国社会全般の理解を深めていきましょう。			

科目ナンバー：(BA)LAN171J			
韓国語（初級）Ⅱ			金孝珍
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 初級Ⅰ（a）で学習した基礎を土台として、より豊かな会話表現、文法事項を学習します。習った文法や表現を使って作文をしたり、またはペアワークやグループワークを通じてコミュニケーションを楽しんでみましょう。確実に身につけるためにその都度語彙とフレーズ、文法問題を用意し、きちんと覚えられているのかチェックしながら進めていきます。 〈到達目標〉 基本的な文の読み書きと簡単な日常会話が出来ることを目標とします。			
2. 授業内容 第1回 第4課 用言文のハムニダ体 第2回 第4課 助詞のまとめ 第3回 第4課 用言文のヘヨ体 第4回 第5課 ハムニダ体とヘヨ体のまとめ 第5回 第5課 用言文の否定形 第6回 第6課 助詞「～で」「～から～まで」「～より」 第7回 第6課 漢数詞 第8回 第7課 漢数詞を使って会話練習 第9回 第7課 固有数詞 第10回 第8課 固有数詞を使って会話練習 第11回 第8課 過去形 第12回 第9課 過去形を用いて作文練習 第13回 文化に触れるコーナー 第14回 a：講義 b：期末試験			
3. 履修上の注意 学習の遅れにつながりますので欠席しないでください。やむを得ず欠席する場合は前もって届けを出し、授業内容と課題を学習して遅れをとらないようにしてください。全講義数の3分の1以上を欠席した学生は、評価対象になりません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、復習を行ってください。授業で習ったことを復習してから必要に応じて小テストを行います。			
5. 教科書 北原スマ子監修、金孝珍著『即！実践 楽しもう韓国語』（白帝社）			
6. 参考書 『実用日韓・韓日辞典』（成美堂） 朝鮮語だけではなく朝鮮半島の社会・文化に関する参考書を随時紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 定期試験60％、平常点40％（授業への参加度、小テスト、課題を含む）			
9. その他 韓国の文化や習慣、リアルタイムの情報などにも耳を傾けて、韓国社会全般の理解を深めていきましょう。			

科目ナンバー：(BA)LAN271J			
韓国語（中級）A 【会話】			安 垠 姫
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 「韓国語（初級）Ⅰ・Ⅱ」の履修を終えた学生を対象にします。 既習の学習内容を復習し、さらに発展的な文法事項、会話表現を学びます。 社会・文化的背景や価値観によるコミュニケーションスタイルの違いを理解し、円滑なコミュニケーションを図ることができます。 韓国文化に関する DVD などを鑑賞し、言語と文化への理解を深めます。 <到達目標> 中級前半レベルの読解力・文章力・会話力を向上させ、韓国語らしい表現を身につけることを目指します。ハングル能力検定試験 5 級～4 級レベルの知識を身につけることができます。			
2. 授業内容 1. 授業ガイダンス、初級文法の復習 2. フランスから来ました。(過去形, 進行形, 仮定形, 願望) ① 3. フランスから来ました。(過去形, 進行形, 仮定形, 願望) ② 4. 自己紹介の作文、発表 5. ご家族は何名でいらっしゃいますか。(尊敬形, 並列, 感嘆) ① 6. ご家族は何名でいらっしゃいますか。(尊敬形, 並列, 感嘆) ② 7. 中間テスト, 文化の理解 8. 金ミンスさんのお宅でしょうか。(尊敬形(ヨ体), 確認, 婉曲) ① 9. 金ミンスさんのお宅でしょうか。(尊敬形(ヨ体), 確認, 婉曲) ② 10. 野菜が多くて体にも良いです。(否定形, ㄹ 변則, 理由, 選択意志) ① 11. 野菜が多くて体にも良いです。(否定形, ㄹ 변則, 理由, 選択意志) ② 12. 夏休みの時に何をするつもりですか。(予定, 意志・推量, 現在連体形, 目的) ① 13. 夏休みの時に何をするつもりですか。(予定, 意志・推量, 現在連体形, 目的) ② 14. a: まとめ, b: 期末テスト			
3. 履修上の注意 外国語の習得には地道な努力を積み重ねるしかありません。予習・復習を怠らないこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前回までの復習を十分に行う。発音練習に教材の CD を有効に活用する。			
5. 教科書 『おはよう韓国語 2（2024年度第二版）』崔柄珠著, 朝日出版社 適宜プリントを配布。			
6. 参考書 授業の際に適宜紹介する。 NAVERネット辞書 http://jpdic.naver.com/ ネット版「標準国語大辞典」 https://stdict.korean.go.kr/main/main.do			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題や小テストなどを実施した際には、その答え合わせと解説を行い、学生の質問やコメントに対応しフィードバックします。			
8. 成績評価の方法 定期試験70%, 平常点30% (出席率, 授業態度・参加度, 課題, 小テストなど)			
9. その他 連絡先: 安垠姫 (アンウニ) witheh@hotmail.com			

科目ナンバー：(BA)LAN271J			
韓国語（中級）B 【会話】			安 垠 姫
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 「韓国語（初級）Ⅰ・Ⅱ」の履修を終えた学生を対象にします。 既習の学習内容を復習し、さらに発展的な文法事項、会話表現を学びます。 社会・文化的背景や価値観によるコミュニケーションスタイルの違いを理解し、円滑なコミュニケーションを図ることができます。 韓国文化に関する DVD などを鑑賞し、言語と文化への理解を深めます。 <到達目標> 中級レベルの読解力・文章力・会話力を向上させ、韓国語らしい表現を身につけることを目指します。ハングル能力検定試験 4 級レベルの知識を身につけることができます。			
2. 授業内容 1. 既習事項の復習 2. どのように行けばいいですか。(許可, 変則, 尊敬形の過去形, 理由) ① 3. どのように行けばいいですか。(許可, 変則, 尊敬形の過去形, 理由) ② 4. 写真添付しますよ。(可能形, 過去連体形, 約束意志) ① 5. 写真添付しますよ。(可能形, 過去連体形, 約束意志) ② 6. 連体形(現在・過去)のまとめ・練習 7. メール・手紙の書き方 8. 中間テスト, 文化の理解 9. みんな一緒に歌いましょう! (意図, 決まり, 未来連体形, 変則) ① 10. みんな一緒に歌いましょう! (意図, 決まり, 未来連体形, 変則) ② 11. どんなアルバイトをしていますか。(義務, 未来の推測, 変則, 許可) ① 12. どんなアルバイトをしていますか。(義務, 未来の推測, 変則, 許可) ② 13. どんなアルバイトをしていますか。(義務, 未来の推測, 変則, 許可) ③ 14. a: まとめ, b: 期末テスト			
3. 履修上の注意 前回までの復習を十分に行う。発音練習に教材の CD を有効に活用する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 外国語の習得には地道な努力を積み重ねるしかありません。予習・復習を怠らないこと。			
5. 教科書 『おはよう韓国語 2（2024年度第二版）』崔柄珠著, 朝日出版社 適宜プリントを配布。			
6. 参考書 授業の際に適宜紹介する。 NAVERネット辞書 http://jpdic.naver.com/ ネット版「標準国語大辞典」 https://stdict.korean.go.kr/main/main.do			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題や小テストなどを実施した際には、その答え合わせと解説を行い、学生の質問やコメントに対応しフィードバックします。			
8. 成績評価の方法 定期試験70%, 平常点30% (出席率, 授業態度・参加度, 課題, 小テストなど)			
9. その他 連絡先: 安垠姫 (アンウニ) witheh@hotmail.com			

科目ナンバー：(BA) LAN271J			
韓国語（中級） A 【文法】		金孝珍	
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 初級レベルの学習内容を復習しつつ、より複雑な表現・文法を増やして無理なくレベルアップができるように目指します。基礎になる文法をしっかり身につけ、語彙を増やし、それを応用できるようにしましょう。確実に身につけるために1つの課が終わると語彙とフレーズ、文法の問題を用意し、きちんと覚えられているのかチェックしながら進めていきます。 <到達目標> 中級レベルの文章力、会話力の取得を目標とします。			
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション、1年次学習内容の復習（1） 第2回 1年次学習内容の復習（1） 第3回 第1課 -아/어 주세요/주시겠어요?（～てください/いただきますか 依頼）、-（으）르세요（～ます、～よ・から 意志・約束）、-고 있다（～ている 動作の進行）の文法内容と練習問題 第4回 第1課 会話文と復習plus 第5回 第2課 -아/어서（～て、～ので、動作の先行、原因・理由）、으不規則活用、못 - / -지 못하다（～できな・（ら）れない不可能）の文法内容と練習問題 第6回 第2課 会話文と復習plus 第7回 第3課 -아/어 보다（～てみる 試み・経験）、-네요（～ですね、ますね 感嘆・驚き）、-기로 하다（～ことにする 約束・決定・決心）の文法内容と練習問題 第8回 第3課 会話文と復習plus 第9回 第4課 動詞の連体形、存在詞の現在連体形、-（으）ㄴ 적이 있다/없다（～たことがある/ない 経験の有無）の文法内容と練習問題 第10回 第4課 会話文と復習plus、みんなでBINGOゲーム（1） 第11回 第5課 形容詞、指定詞の現在連体形、-（으）ㄴ 거예요（?）（～つもりです（か）、～でしょう 意志・推量）、-（으）ㄴ 때、-았/었을 때（～時、～た時）の文法内容と練習問題 第12回 第5課 会話文と復習plus、◆連体形のまとめ 第13回 韓国文化コーナー（韓国ドラマやKpop、ニュースの聞き取り） 第14回 a：講義 b：期末試験			
3. 履修上の注意 学習の遅れにつながりますので欠席しないでください。やむを得ず欠席する場合は前もって届けを出し、授業内容と課題を学習して遅れをとらないようにしてください。全講義数の3分の1以上を欠席した学生は、評価対象になりません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、復習を行ってください。授業で習ったことを復習してから必要に応じて小テストを行います。			
5. 教科書 金孝珍・李英珠・北原スマ子著『もっとレベルアップ 楽しもう韓国語』（白帝社、2022年3月） ※2021年度版ではなく、2022年度版を用意してください。			
6. 参考書 『実用日韓・韓日辞典』（成美堂） 朝鮮語だけではなく朝鮮半島の社会・文化に関する参考書を随時紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 定期試験60％、平常点40％（授業への参加度、小テスト、課題を含む）			
9. その他 韓国の文化や習慣、リアルタイムの情報などにも耳を傾けて、韓国社会全般の理解を深めていきましょう。			

科目ナンバー：(BA) LAN271J			
韓国語（中級） B 【文法】		金孝珍	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 中級レベルの文法、会話表現、構文を学習します。しっかり文型を練習した上で、その学習を効果的に行うために会話や読解、作文などを練習します。授業では毎回語彙とフレーズの簡単な問題を用意し、確実に覚えられているのか確認しながら進めていきます。 <到達目標> 中級レベルの文章力、会話力の取得を目標とします。			
2. 授業内容 第1回 第6課 -(으)니까（～だから、～ので 理由・原因）、ㄹ [비] 음] 不規則活用、-기 쉽다/어렵다（～やすい、～のが簡単だ/～にくい、～のが難しい）の文法内容と練習問題 第2回 第6課 会話文と復習plus 第3回 第7課 動詞、存在詞、形容詞、指定詞の連体形+것 같다（～ようだ 推測）、-아/어 있다（～ている 状態の継続）、-는/（으）ㄴ 편이다（～なほうだ 傾向）の文法内容と練習問題 第4回 第7課 会話文と復習plus、総合練習（1） 第5回 第8課 -는/（으）ㄴ 데（～だが、～けど、～から、～のに）、-다가（～ている途中で、～ているうちに、～ていて）、-아/어도 되다（～てもいい 許可）の文法内容と練習問題 第6回 第8課 会話文と復習plus 第7回 第9課 ㄴ [디] 不規則活用、-（으）면서（～ながら）、-지 말다（～しない、～のをやめる 禁止）の文法内容と練習問題 第8回 第9課 会話文と復習plus 第9回 第10課 ㄴ不規則活用 第10回 第10課 会話文と復習plus 第11回 第11課 ㄴ不規則活用、-거든요（～んですよ、～ですから 根拠や状況の説明）、-（으）르래요（?）（～ます（か）意志）の文法内容と練習問題 第12回 第11課 会話文と復習plus 第13回 韓国文化コーナー（韓国ドラマやKpop、ニュースの聞き取り） 第14回 a：講義 b：期末試験			
3. 履修上の注意 学習の遅れにつながりますので欠席しないでください。やむを得ず欠席する場合は前もって届けを出し、授業内容と課題を学習して遅れをとらないようにしてください。全講義数の3分の1以上を欠席した学生は、評価対象になりません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、復習を行ってください。授業で習ったことを復習してから必要に応じて小テストを行います。			
5. 教科書 金孝珍・李英珠・北原スマ子著『もっとレベルアップ 楽しもう韓国語』（白帝社、2022年3月） ※2021年度版ではなく、2022年度版を用意してください。			
6. 参考書 『実用日韓・韓日辞典』（成美堂） 朝鮮語だけではなく朝鮮半島の社会・文化に関する参考書を随時紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 定期試験60％、平常点40％（授業への参加度、小テスト、課題を含む）			
9. その他 韓国の文化や習慣、リアルタイムの情報などにも耳を傾けて、韓国社会全般の理解を深めていきましょう。			

科目ナンバー：(BA)LAN111E			
TOEFL Reading		山高美和	
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> Course Outline: The TOEFL Reading course is designed to engage students with various academic reading passages and comprehension questions covering a range of subjects, from art to science. This course is ideal for students planning to pursue undergraduate or graduate studies at English-speaking universities. Additionally, it is open to anyone looking to improve their English language skills in an academic context. <到達目標> Course Objectives: ※To be well-prepared for TOEFL reading tasks. ※To boost confidence in reading comprehension skills for introductory academic subjects.			
2. 授業内容 Course Content: The course will be taught in English. 第1回：【対面授業】 Introduction to TOEFL Reading 第2回：【対面授業】 TOEFL Question Types (part 1) 第3回：【対面授業】 TOEFL Question Types (part 2) 第4回：【対面授業】 Reading: Practice Test 1 (passage A) 第5回：【対面授業】 Reading: Practice Test 1 (passage B) 第6回：【対面授業】 Reading: Practice Test 2 (passage A) 第7回：【対面授業】 Reading: Practice Test 2 (passage B) 第8回：【オンライン授業 (リアルタイム型)】 Reading: Practice Test 3 (passage A) 第9回：【オンライン授業 (リアルタイム型)】 Reading: Practice Test 3 (passage B) 第10回：【オンライン授業 (リアルタイム型)】 Reading: Practice Test 4 (passage A) 第11回：【オンライン授業 (リアルタイム型)】 Reading: Practice Test 4 (passage B) 第12回：【オンライン授業 (リアルタイム型)】 Reading from an external source (passage A) 第13回：【オンライン授業 (リアルタイム型)】 Reading from an external source (passage B) 第14回：【オンライン授業 (リアルタイム型)】 aのみ：Course Review			
3. 履修上の注意 履修上の注意 This course includes both in-person sessions and live-streamed classes on Zoom. 本コースは、春学期の前半は対面授業で、後半はZoomによるリアルタイム型オンライン授業を実施します。 オンライン授業については、以下の方法で実施します： Zoom招待状の配信 原則として、オンライン授業の前日までに、Oh-o! Meijiのクラスウェブを通じてZoom招待状を配信します。授業はリアルタイム配信型（100分）で行います。 春学期最終授業の特例 春学期の最終Zoomリアルタイム型授業のみ、授業時間は50分とします。 授業の進行 リアルタイム授業では、出席確認を授業中にします。Zoomのプロフィール名は、必ずフルネーム（実名）で英語と日本語を併記してください（例：Hanako Meiji 明治花子）。 意見交換と質問の場合 Oh-o! Meijiのクラスウェブや、年度限定のクラス用SNSグループを活用して意見交換の場を設けます。教員への質問や相談については、専用メールアドレスおよびSNSアカウントを初回授業でお知らせします。 オンライン授業の履修条件 学習環境 安定したネット接続環境があり、静かで学習に集中できる環境（例：自宅またはキャンパス内で指定された教室）で受講してください。 騒音の多い商業施設での受講は禁止します。また、交通機関を利用した移動中のZoom参加は出席として認めません。 使用デバイス 個人で使用可能なノートPCまたはタブレットを推奨します。ヘッドセットやマイクなども必要です。 スマートフォンでの受講は推奨しません（画面が小さく、Zoom操作が制限されるため）。ただし、PDF資料の閲覧など補助的に使用する場合があります。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ※You should bring your e-textbook, notebook, and all relevant class worksheets that are uploaded as PDF files on Oh-o! Meiji to class. ※Online assignments will be regularly uploaded onto Oh-o! Meiji to assess comprehension of course topics.			
5. 教科書 eBook:The Official Guide to the TOEFL iBT(R) Test, 7th Edition 【新形式対応】2023年7月26日以降のテストに含まれるWriting for an Academic Discussion taskの対策問題も追加され、新形式テストに対応しています。 https://www.officialtestprep.jp/c/ibt/TO12e			
6. 参考書 During the course, additional worksheets in PDF format will be available for download on Oh-o! Meiji.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Individual feedback will be provided to all the students through Oh-o! Meiji. オンライン課題のフィードバックは、提出期限後に、Oh-o! Meiji システムを通じて配信する。			
8. 成績評価の方法 成績評価の方法 評価割合 授業への貢献度：50％ 課題：50％ 試験 対面形式での試験は実施しません。 単位取得条件 単位を取得するには、授業への貢献だけでなく、全ての課題を期限内に提出する必要があります。 出席に関する規定 ※合計4回の欠席（公的機関発行の証明書を提出できない場合）は単位取得不可となります。 ※合計3回までの欠席や病欠以外の欠席は認められますが、授業への貢献度評価は他の出席している学生より低くなる可能性があるため、注意してください。 ※公欠や病欠を申請する場合は、公的機関が発行した証明書を提示する必要があります。 退席 退席3回で欠席1回分として扱います。 授業参加の注意点 ※本コースは、教材を購入しない限り、課題に取り組むことができます。 ※教材を持参しない場合や、授業貢献度が著しく低い場合は、評価が下がります。			
9. その他 To the class members: I grew up and worked in London, UK, while being Japanese. This unique background has given me a distinct perspective on both cultures, which I look forward to sharing with you. This course aims to provide students with a comprehensive understanding of TOEFL Reading and to build a strong foundation in the subject. However, it may not be suitable for those who prefer a fast-paced learning environment, as I will be teaching the reading materials by breaking them down into smaller parts for clarity. Students with TOEIC scores between 550 and 650 in Listening and Reading typically possess the foundational skills necessary to benefit from a TOEFL course. This score range generally corresponds to an intermediate level (CEFR B1), which is often regarded as the minimum requirement for starting TOEFL preparation. This course is not recommended for beginners in English. I am excited to meet you and look forward to sharing an enjoyable and enriching learning experience together. Best wishes, Miwa Yamataka			

科目ナンバー：(BA)LAN111E			
TOEFL Listening			デュプリス, ジョン
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This TOEFL listening course is designed for students to become trained in typical listening tasks on a variety of topics that draw on campus-based situations, and a variety of academic subjects ranging from art to science (based on university lectures). We will use TOEFL practice tests and other materials in class to build listening strategies. Students will be required to do out-of-class listening tasks, as well as maintain a listening log/vocabulary notebook. <objectives> To become well equipped with the nature of TOEFL listening tasks and to enhance English listening proficiency. In addition, students will develop their academic vocabulary			
2. 授業内容 Week 1. Introduction to the course and TOEFL Listening Section, practice pre-test Week 2. Preparations and strategies for TOEFL Listening Section Week 3. Listening Question Type 1: Comprehension questions (gist, content, detail) Week 4. Listening Question Type 1: Comprehension questions (gist, content, detail) Week 5. Listening Question Type 2: Pragmatic questions (function, attitude) Week 6. Listening Question Type 3: Connecting information questions Week 7. "Mid-term" mock practice test Week 8. Review of question types and practice Week 9. Listening Practice Test 1 / Class review Week 10. Listening Practice Test 2 / Class review Week 11. Listening Practice Test 3 / Class review Week 12. Listening Practice Test 4 / Class review Week 13. Student review on learning Week 14. a. Final Test b. Course wrap-up			
3. 履修上の注意 The TOEIC level necessary for registering for this course is around 600.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Each week, students will do short reading and listening assignments in English. Students will share summaries of the listening and reading texts they have looked at with other students in the class. Students will also be able to develop their vocabulary through doing these homework assignments. Students may also be required to do some TOEFL test questions as part of their outside-of-class test preparation.			
5. 教科書 A notebook for vocabulary and note taking. Educational Testing Service. (2024). Official Guide to the TOEFL iBT Test, Seventh Edition (Official Guide to the TOEFL Test) (7th ed.). McGraw-Hill Education. ISBN: 978-1265477318			
6. 参考書 Educational Testing Service. (2024). Official Guide to the TOEFL iBT Test, Seventh Edition (Official Guide to the TOEFL Test) (7th ed.). McGraw-Hill Education. ISBN: 978-1265477318			
7. 課題に対するフィードバックの方法 The final exam will be held on the last day of class, but this exam is focused for practice purposes for you to assess your improvement throughout the course.			
8. 成績評価の方法 Participation (including attendance) and quality of performance in assigned class activities 50% Outside of class activities (e.g., listening and vocabulary logs done for homework) 30% Midterm test 10% Final test 10%			
9. その他 The TOEFL iBT test is designed for students who want to pursue undergraduate or graduate study in English-speaking universities. However, the course is open to any student who is interested to learn and improve the English language skills necessary to succeed in an academic setting across the world. There will be weekly opportunities to participate in pair or group work to build confidence in speaking skills.			

科目ナンバー：(BA) LAN111E			
TOEFL Speaking		山高美和	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> Course Outline: The TOEFL Speaking course is designed to help students develop skills in typical speaking tasks across a variety of topics. The topics include personal experiences, campus-related situations, and a range of academic subjects such as art and science. This course is ideal for students planning to pursue undergraduate or graduate studies at English-speaking universities. Additionally, it is open to anyone looking to improve their English language skills in an academic context. <到達目標> Course Objectives: ※To develop a thorough understanding of TOEFL speaking tasks. ※To improve English speaking proficiency.			
2. 授業内容 Course Content: The course will be taught in English. 第1回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Introduction to TOEFL Speaking. 第2回：【オンライン授業（リアルタイム型）】TOEFL Question Types (part 1.) 第3回：【オンライン授業（リアルタイム型）】TOEFL Question 1: The Independent Task (Selecting your preference). 第4回：【オンライン授業（リアルタイム型）】TOEFL Question 1: The Independent Task (Giving your opinion). 第5回：【オンライン授業（リアルタイム型）】TOEFL Question 1: The Independent Task Activity. 第6回：【オンライン授業（リアルタイム型）】TOEFL Question 2: The Integrated Tasks (Part 1) 第7回：【オンライン授業（リアルタイム型）】TOEFL Question 2: The Integrated Tasks (Part 2) 第8回：【対面授業】TOEFL Question 3: General/Specific (Part 1) 第9回：【対面授業】TOEFL Question 3: General/Specific (Part 2) 第10回：【対面授業】TOEFL Question 3: General/Specific (Part 3) 第11回：【対面授業】TOEFL Question 4: Summary (Part 1) 第12回：【対面授業】TOEFL Question 4: Summary (Part 2) 第13回：【対面授業】TOEFL Question 4: Summary (Part 3) 第14回：【対面授業】aのみ：Course Review			
3. 履修上の注意 履修上の注意 This course includes both in-person sessions and live-streamed classes on Zoom. 本コースは、秋学期の前半はZoomによるリアルタイム型オンライン授業で、後半は対面授業を実施します。 オンライン授業については、以下の方法で実施されます： Zoom招待状の配信 原則として、オンライン授業の前日までに、Oh-o! Meijiのクラスウェブを通じてZoom招待状を配信します。授業はリアルタイム配信型（100分）で行います。 秋学期最終授業の特例 秋学期の最終Zoomリアルタイム型授業のみ、授業時間は50分とします。 授業の進行 リアルタイム型授業では、出席確認を授業中に行います。Zoomのプロフィール名は、必ずフルネーム（実名）で英語と日本語を併記してください。（例：Hanako Meiji 明治花子）。 意見交換と質問の場 Oh-o! Meijiのクラスウェブや、年度限定のクラス用SNSグループを活用して意見交換の場を設けます。教員への質問や相談については、専用メールアドレスおよびSNSアカウントを初回授業でお知らせします。 オンライン授業の履修条件 学習環境 安定したネット接続環境があり、静かで学習に集中できる環境（例：自宅またはキャンパス内で指定された教室）で受講してください。 騒音の多い商業施設での受講は禁止します。また、交通機関を利用した移動中のZoom参加は出席として認めません。 使用デバイス 個人で使用可能なノートPCまたはタブレットを推奨します。ヘッドセットやマイクなども必要です。スマートフォンでの受講は推奨しません（画面が小さく、Zoom操作が制限されるため）。ただし、PDF資料の閲覧など補助的に使用する場合があります。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ※You should bring your e-textbook, notebook, and all relevant class worksheets that are uploaded as PDF files on Oh-o! Meiji to class. ※Online assignments will be regularly uploaded onto Oh-o! Meiji to assess comprehension of course topics.			
5. 教科書 eBook:The Official Guide to the TOEFL iBT(R) Test, 7th Edition 【新形式対応】2023年7月26日以降のテストに含まれるWriting for an Academic Discussion taskの対策問題も追加され、新形式テストに対応しています。 https://www.officialtestprep.jp/c/tbt/T012e			
6. 参考書 During the course, additional worksheets in PDF format will be available for download on Oh-o! Meiji.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Individual feedback will be provided to all the students through Oh-o! Meiji. オンライン課題のフィードバックは、提出期限後に、Oh-o! Meiji システムを通じて配信する。			
8. 成績評価の方法 成績評価の方法 評価割合 授業への貢献度：50% 課題：50% 試験 対面形式での試験は実施しません。 単位取得条件 単位を取得するには、授業への貢献だけでなく、全ての課題を期限内に提出する必要があります。 出席に関する規定 ※合計4回の欠席（公的機関発行の証明書を提出できない場合）は単位取得不可となります。 ※合計3回までの公欠や病欠以外の欠席は認められますが、授業への貢献度評価は他の出席している学生より低くなる可能性があるため、注意してください。 ※公欠や病欠を申請する場合は、公的機関が発行した証明書を提示する必要があります。 遅刻 遅刻3回で欠席1回分として扱います。 授業参加の注意 ※本コースは、教材を購入しない限り、オーディオ付き課題に取り組むことができません。 ※教材を持参しない場合や、授業貢献度が著しく低い場合は、評価が下がります。			
9. その他 To the class members: I grew up and worked in London, UK, while being Japanese. This unique background has given me a distinct perspective on both cultures, which I look forward to sharing with you. This course aims to provide students with a comprehensive understanding of TOEFL Speaking and to build a strong foundation in the subject. Students with TOEIC scores between 550 and 650 in Listening and Reading typically possess the foundational skills necessary to benefit from a TOEFL course. This score range generally corresponds to an intermediate level (CEFR B1), which is often regarded as the minimum requirement for starting TOEFL preparation. This course is not recommended for beginners in English. I am excited to meet you and look forward to sharing an enjoyable and enriching learning experience together. Best wishes, Miwa Yamataka			

科目ナンバー：(BA) LAN111E			
TOEFL Writing		キアナン, パトリック	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course is to prepare students for the writing section of the TOEFL Test. The test format changed in July 2023 to include an Academic Discussion writing task together with the integrated writing task. This course will focus on developing the skills needed to complete both the new task and the integrated one. To begin with, the course will focus on analyzing the test and model answers in order to understand what is required to write successful answers. Practice activities to develop the skills needed will include classroom tasks working and communicating with other students; homework assignments to build the necessary listening, reading, writing, and discussion skills; and practice with the TOEFL writing tasks. The main text for this course is a collection of seven practice writing tests that will be supplemented with other materials in order to enable you to perform effectively on these tasks. Even though this is a course focused on writing, the integrated task means that there will be extended practice in reading and listening. In addition, to help develop the skills for the written discussion section, we will also practice having verbal discussions of the topics. Therefore, this course will be an effective way to develop communicative academic skills in English above and beyond the specific requirements of the writing section of the TOEFL test. Course aims (1) To become familiar with the structure and content of the writing section of TOEFL (2) To develop effective test taking strategies for the writing section of TOEFL (3) To develop the general academic skills needed to succeed in TOEFL (4) To improve the English academic skills needed for study at an overseas university			
2. 授業内容 Week 1 Course introduction Week 2 History PT1 - Integrated Week 3 History PT12- Academic Discussion Week 4 Astronomy PT2- Integrated Week 5 Political Science PT9- Academic Discussion Week 6 Education PT3- Integrated Week 7 Sociology PT10/PT14- Academic Discussion Week 8 Review / Practice Test 1 Week 9 Anthropology PT4- Integrated Week 10 Psychology PT11- Academic Discussion Week 11 Health PT5- Integrated Week 12 Economics PT13- Academic Discussion Week 13 History PT7 - Integrated Week 14 Review / Practice Test 2			
3. 履修上の注意 This course is open to all students with an interest in learning to take or improve scores academic tests such as TOEFL. Students should be comfortable with taking a course taught in English and be prepared to use English during class. Students on the GREAT program can take this course as one of the required electives for GREAT.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students should preview and review the content of all classes and will also be given other assignments to complete at home during the course.			
5. 教科書 Montayre, R. J. G. (2023) TOEFL Writing Practice Test 2023-2024.			
6. 参考書 Practice tests available online at: https://www.ets.org/pdfs/toefl/toefl-ibt-writing-practice-sets.pdf Other resources will be shared through Oh-o! Meiji during the course			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Weekly classwork and assignments will be either submitted during class or through Oh-o! Meiji and feedback will be given in class or on Oh-o! Meiji according to the submission method.			
8. 成績評価の方法 40% Participation and classwork 20% Assignments 20% MT Test 20% Final Test			
9. その他 Stick with the course and try to make what you learn your own so that you can become confident in writing these short timed essays in accordance with the exam format.			

科目ナンバー：(BA)LAN111E			
TOEFL Preparation A			山下佳江
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course focuses on the Reading Section of TOEFL iBT and is designed for advanced students who want to achieve 20 or more in the Reading Section. The various question types found in the Reading Section will be introduced and students will practice each question type. Also, students will learn different types of texts and vocabulary specific to the academic subject areas. There will be a final exam at the end of the term.			
2. 授業内容 WEEK 1: Introduction, Preview test WEEK 2: Chapter 1 Fact Questions WEEK 3: Chapter 2 Negative Fact Questions WEEK 4: Chapter 3 Inference Questions WEEK 5: Chapter 4 Rhetorical Purpose Questions Vocabulary Review WEEK 6: Mini Test 1, Review WEEK 7: Chapter 5 Vocabulary Questions WEEK 8: Chapter 6 Reference Questions WEEK 9: Chapter 7 Sentence Simplification Questions WEEK 10: Chapter 8 Text Insertion Questions, Vocabulary Review, Mini Test 2 WEEK 11: Chapter 9 Prose Summary Questions WEEK 12: Chapter 10 Table/Chart Questions WEEK 13: Vocabulary Review 3, Review WEEK 14: Course review + Final Test			
3. 履修上の注意 『履修のための英語要件』の基準点を満たさない場合、本科目の履修はできません。 Students who do not meet the English requirement for this course (TOEIC 600) cannot register. *This course is open to all students with an interest in learning to take or improve scores academic tests such as TOEFL. Students should be comfortable with taking a course taught in English and be prepared to use English during class. Students on the GREAT program can take this course as one of the required electives for GREAT.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please have a good learner dictionary. This may be either electronic or paper-based.			
5. 教科書 Building Skills for the TOEFL iBT, 3rd edition, Reading by Paul Edmunds, Nancie McKinnon, Jeff Zeter Compass Publishing, ISBN: 978-1-68591-348-9			
6. 参考書 Handouts, the Internet, O-oh Meiji! system			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be given through grades or comments, or both.			
8. 成績評価の方法 Class participation and attendance: 40% Homework/Quizzes: 10% Final examination: 50%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN111E			
TOEFL Preparation B			山下佳江
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course focuses on the Writing Section of the updated TOEFL iBT and is designed for advanced students who want to obtain 20 or more in the section. There are two parts in the Writing Section: Integrated Task and Academic Discussion. Students will learn how to approach one by one and practice with the questions included in the textbook and also from other materials provided in the class. There will be a final exam at the end of the term.			
2. 授業内容 Week 1 Course introduction Week 2 Chapter 1 About the new TOEFL writing section Week 3 Chapter 2 About the integrated task Week 4 Chapter 3 Integrated writing practice questions (1) Week 5 Chapter 3 Integrated writing practice questions (2) Week 6 Chapter 3 Integrated writing practice questions (3) Week 7 Chapter 3 Integrated writing practice questions (4) Week 8 Review / Practice Test 1 Week 9 Chapter 4 About the writing for an academic discussion task (1) Week 10 Chapter 5 About the writing for an academic discussion task (2) Week 11 Chapter 5 About the writing for an academic discussion task (3) Week 12 Chapter 5 Common grammar and language use errors Week 13 Chapter 6 Review/Practice Test 2 Week 14 Review / Final Exam			
3. 履修上の注意 『履修のための英語要件』の基準点を満たさない場合、本科目の履修はできません。 Students who do not meet the English requirement for this course (TOEIC 600) cannot register. *This course is open to all students with an interest in learning to take or improve scores academic tests such as TOEFL. Students should be comfortable with taking a course taught in English and be prepared to use English during class. Students on the GREAT program can take this course as one of the required electives for GREAT.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please have a good learner dictionary. This may be either electronic/web or paper-based.			
5. 教科書 The Test Resources Guide to the New TOEFL iBT® Writing Section By Michael Goodine, 2023/8/23, ISBN : 979-8858651208			
6. 参考書 Handouts, the Internet, Oh-o! Meiji system			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be given through grades or comments, or both.			
8. 成績評価の方法 Participation and classwork 40% Practice Tests 20% Final Test 40%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN111E			
English Exams A			キアナン, パトリック
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course is to prepare students taking English academic exams such as IELTS. Accordingly, it will focus on introducing the question types found in IELTS as well as the strategies needed to perform well on these tests. The main textbook for this course is a general English based on the IELTS test but this will be used in conjunction with the IELTS practice material that will be provide in class or for homework. Both IELTS (and similar tests such as TOEFL) are designed to ensure that the English ability of students studying on English-based programs is adequate. This includes having sufficient academic vocabulary and communication skills to follow lectures, complete reading and writing assignments, and participate in campus life using English. The class will therefore be taught in English with these overall aims in terms of English communication in mind. Each week will focus on a common test topic and specific strategies and skills needed to be successful in such tests as well as academic vocabulary. Practice tests or textbook materials will be provided for extra practice to develop these skills. By the end of the course, students should have a familiarity with both IELTS have acquired effective strategies for taking it and have improved knowledge of the vocabulary and skills targeted by these tests. Although the focus of the course will be on texts the classroom method with focus on communicative activities. (1) To become familiar with the structure and content of academic English exams, particularly IELTS (2) To develop effective test taking strategies (3) To develop a good vocabulary of academic English (4) To improve the practical English skills targeted by the tests and needed for study abroad			
2. 授業内容 Week 1 Course introduction Week 2 The man-made environment Week 3 The man-made environment Week 4 The man-made environment Week 5 Leisure and education Week 6 Leisure and education Week 7 Leisure and education + MT test Week 8 News and media Week 9 News and Media Week 10 News and Media Week 11 Travel and Transport Week 12 Travel and Transport Week 13 Travel and Transport Week 14 Review and final test			
3. 履修上の注意 This course is open to all students with an interest in learning to take or improve scores academic tests such as IELTS and TOEFL. Students should be comfortable with taking a course taught in English and be prepared to use English during class. Students on the GREAT program can take this course as one of the required electives for GREAT.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students should review all classwork. Other assignments will be given as homework to be completed at home depending on the pace of the class and specific goals of the students taking the class. For example, although the main focus of classwork will be on examples from IELTS, those with a main interest in taking TOEFL will have the option to focus on TOEFL rather than IELTS examples.			
5. 教科書 Mindset for IELTS with updated digital pack: Level 2 Student's Book with Digital Pack) (March 2023) Cambridge University Press. ISBN: 9781009280303			
6. 参考書 Other class materials, resources, or suggestions for further reading will be shared in class and through Oh-o! Meiji.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback on assignments will be given during class or through Oh-o! Meiji. Written tasks should be submitted to Oh-o! Meiji and feedback, including corrections and suggestions will be provided. Speaking tasks will be followed up with individual oral feedback. Listening and reading tasks will be reviewed in class with advice on specific issues faced by students. Students will receive individual feedback on the mid-term and final tests via Oh-o! Meiji.			
8. 成績評価の方法 Classwork and participation: 40% Homework: 20% Test practice: 40%			
9. その他 Do your best and keep practicing so that you can get the best possible score when you take IELTS TOEFL or other academic tests and improve your confidence and skill in using English at the same time!			

科目ナンバー：(BA)LAN111E			
English Exams B			キアナン, パトリック
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Summary This course is to prepare students taking English academic exams such as TOEFL and IELTS. The main textbook for this course is based on the IELTS test so it is ideally suited to students considering taking the IELTS test. It is, however, also a challenging course to help you push up your English skills. Achieving success in IELTS should show that you have sufficient academic vocabulary and communication skills to follow lectures, complete reading and writing assignments, and participate in campus life using English. The class will therefore be taught in English with these overall aims in terms of English communication in mind. Each week will focus on specific strategies and skills needed to be successful in such tests as well as academic vocabulary. Practice tests or textbook materials will be used to practice and develop these skills. By the end of the course, students should have a familiarity with IELTS, have acquired effective strategies for taking academic tests and improved the kind of vocabulary and skills targeted by these tests. As these tests are used to confirm the English ability of students applying for study abroad on exchange programs, I welcome questions or advice on study abroad. Although the focus of the course will be on texts the classroom method with focus on communicative activities. Objectives (1) To become familiar with the structure and content of academic English exams, particularly IELTS (2) To develop effective test taking strategies (3) To develop a good vocabulary of academic English (4) To improve the practical English skills targeted by the tests and needed for study abroad			
2. 授業内容 Week 1 Course introduction (Travel) Week 2 Business and Work - Reading Week 3 Business and Work - Writing/Speaking Week 4 Business and Work - Listening Week 5 The Natural Environment Reading Week 6 The Natural Environment Writing/Speaking Week 7 The Natural Environment Listening Week 8 Review / Practice Test 1 Week 9 Educational Systems Reading Week 10 Educational Systems Writing/Speaking Week 11 Educational Systems Listening Week 12 Festivals and Traditions Reading Week 13 Festivals and traditions Writing/Speaking Week 14 Review / Practice Test 2			
3. 履修上の注意 This course is open to all students with an interest in learning to take or improve scores academic tests such as IELTS and TOEFL. Students should be comfortable with taking a course taught in English and be prepared to use English during class. Students on the GREAT program can take this course as one of the required electives for GREAT.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students should review all classwork. Other assignments will be given as homework to be completed at home depending on the pace of the class and specific goals of the students taking the class. For example, although the main focus of classwork will be on examples from IELTS, those with a main interest in taking TOEFL will have the option to focus on TOEFL rather than IELTS examples.			
5. 教科書 Mindset for IELTS with updated digital pack: Level 2 Student's Book with Digital Pack) (March 2023) Cambridge University Press. ISBN: 9781009280303			
6. 参考書 Other resources or suggestions for further reading will be shared in class and through Oh-o! Meiji			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback on assignments will be given during class or through Oh-o! Meiji. Written tasks should be submitted to Oh-o! Meiji and feedback, including corrections and suggestions will be provided. Speaking tasks will be followed up with individual oral feedback. Listening and reading tasks will be reviewed in class with advice on specific issues faced by students. Students will receive individual feedback on the two practice tests via Oh-o! Meiji.			
8. 成績評価の方法 Class participation 40% Homework: 20% Test practice (20% x2): 40%.			
9. その他 Do your best and keep practicing so that you can get the best possible score when you take IELTS TOEFL or other academic tests.			

科目ナンバー : (BA) LAN111E			
Genres of Writing			キアナン, パトリック
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Summary This is an English reading and writing elective course which focuses on practical English writing through exploring the features of different kinds of writing. These different kinds of writing are called "genres". The course will focus on reading, analyzing, and imitating some business and other common genres of writing such as business and casual email, social media posts, product/service reviews, and business reports. This will help you acquire and use these writing genres for communication in everyday life and teach you how to recognize and imitate features of other genres that you may encounter in the future. Learning about genre helps overcome the common problem that student writers have with confusing different genres. Confusing genres is common when students do not realize that ways of speaking and writing in one situation are not appropriate in other situations. During the course, you will learn conventional expressions which are frequently used in the genres. Objectives (1) To be able to write clearly in some business and other common genres of English writing (2) To be familiar with common expressions used in some common genres of English writing (3) To be able to identify features of a writing genre (4) To become familiar with the three kinds of meaning involved in communication and how they shape genre			
2. 授業内容 1. Course introduction and overview: What is genre writing and why is it important? 2. Comparing a business and casual email 3. Writing business email 4. Writing Formal and informal email 5. Email - customer-supplier sequence 6. Informal email exchange 7. Preparing a blog and self-introduction 8. Coffee shop comparison 9. Writing a product/service comparison 10. Customer reviews 11. Event reviews 12. Personal narrative 13. Blog rants and farewell blog 14. Review and final test			
3. 履修上の注意 Students should be comfortable with taking a class taught in English and using Word to write assignments. English requirement : TOEIC 600～			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Each class will focus on either reading and analyzing examples of particular business writing genres or preparing a written example of the genre. Therefore, homework will generally consist of preparing the readings in advance or completing the writing tasks. Other supplementary readings to help with better understanding the concept of genre may also be assigned.			
5. 教科書 All materials for this class will be provided in class and posted on Oh-o! Meiji.			
6. 参考書 All reference materials for this class will be provided during class and made available on Oh-o! Meiji.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Weekly in class writing assignments will be posted on Oh-o! Meiji and students will submit assignments and receive feedback through Oh-o! Meiji.			
8. 成績評価の方法 attendance/participation: 30% general writing tasks (20%) email tasks (20%) blog tasks (20%) Review quiz: 10%.			
9. その他 This is a practical English writing course open to students of all levels of English ability and accordingly includes tasks that are adaptable to the student's ability. You can learn practical English skills that may be useful to you at work in and gain a deeper understanding of language and communication. This class is not concerned with testing your English ability but rather with developing it in cooperation with other students.			

科目ナンバー：(BA)LAN111E			
Speech and Debate			モロー、ロバート J
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <summary> In this course, students will prepare and deliver an informative speech, as well as a persuasive speech. Also, students will learn basic debating skills such as constructing effective arguments, and giving refutations. We will cover ways of effectively organizing speeches and debates. In preparing the materials for this class, the students' discussion, research, and public speaking skills will be developed. Students will actively listen to debates and speeches, make notes, and write summaries and reflection on what they have learned. <objectives> The main objective of this course is to develop students' ability to prepare and deliver effective, academic speeches and debates in English. Students will be able to prepare effective visual aids, and speak from well-organized, key point outlines. An additional objective of the course is the development of students' basic research skills, and ability to make notes in English from written and spoken texts.			
2. 授業内容 Week 1. Introduction to the class, general concepts on public speaking, impromptu speeches Week 2. Impromptu speeches, informative speech, general concepts and preparation Week 3. Informative speeches, preparation and practice Week 4. Informative speech presentations and peer review Week 5. Informative speech presentations and peer review, introduction to persuasive speech Week 6. Persuasive speech general ideas and preparation Week 7. Persuasive Speech preparation and practice Week 8. Persuasive speech presentations and peer review Week 9. Persuasive speech presentations and peer review, introduction to debate Week 10. Debate: general structure and introduction speeches Week 11. Debate: refutations Week 12. Debate: conclusions and practice Week 13. Final debate and peer review Week 14. a. Final debates and peer review b. Class wrap-up			
3. 履修上の注意 The TOEIC level necessary for registering for this course is around 600.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students will need to do some research outside of class in order to prepare for their speeches and debates. They will also be expected to review any concepts related to speech and debate preparation covered in the class. Students will need to practice their speeches for homework as well.			
5. 教科書 There is no textbook. Materials will be provided as handouts during class or links on Oh-o! Meiji. You should keep a file for handouts and all the other study materials for this course. Students will also be required to do their own online searches for information.			
6. 参考書 None			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback for the speeches and debates will be provided in the class. Student papers, notes, outlines, and other materials worked on will be handed in through Oh-o Meiji. General comments on assignments will be published on the Oh-o! Meiji system.			
8. 成績評価の方法 Class participation (notes, discussions, homework, reflections) 25% Informative Speech 25% Persuasive Speech 25% Debate 25% Grades will be based on content, organization, and the overall effectiveness of speeches and debates. Students will submit notes, summaries, self-reflections and other writings about the projects as required. The class participation is based on the effort that people make in class, completion of homework tasks, and having a positive attitude towards the course.			
9. その他 None			

科目ナンバー：(BA)LAN116J			
英語スペシャルスタディ A〔M〕			辻 昌 宏
1 単位	1 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 メディア授業です。 <概要> シェイクスピアの時代や彼の書いた作品の言語的表現、演劇的表現、映画表現を複合的な視点から学んでいく。 <到達目標> シェイクスピアの生きた時代の政治や宗教に対する考えを理解し、英語表現と演劇的表現を味わえるようにする。			
2. 授業内容 メディア授業です。 第1回 イン트로ダクション 第2回 『ジュリアス・シーザー』その1 第3回 『ジュリアス・シーザー』その2 第4回 『ジュリアス・シーザー』その3 第5回 『ジュリアス・シーザー』その4 第6回 『ジュリアス・シーザー』その5 第7回 『ジュリアス・シーザー』その6 第8回 『十二夜』その1 第9回 『十二夜』その2 第10回 『十二夜』その3 第11回 『十二夜』その4 第12回 『十二夜』その5 第13回 『十二夜』その6 第14回 まとめ 上記予定は、進具合などにより変更される場合がある。			
3. 履修上の注意 メディア授業です。オンデマンドを中心とし、初回と期末試験のみオンライン授業となります。 リアルタイム配信となるのは、 4月16日の第1回と学期末試験（日程は後日発表）のみです。 授業内容や進め方、進度に変更が生じることがあります。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 シェイクスピアの時代の政治や文化について、ウィキペディア（日本語版、英語版）や文学辞典、歴史書を参照して確認すること。 古代ローマの歴史やユリウス・カエサル（＝ジュリアス・シーザー）の事績について、歴史書やウィキペディアで確認すること。 授業中に紹介する英語表現や台詞を朗読すること。			
5. 教科書 プリントを Oh!Meiji で配布する予定。			
6. 参考書 藤谷道夫『全ての叡智はローマから始まった』（さくら舎） 塩野七生『ローマ人の物語』（8）～（13）（新潮文庫）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh!Meiji の機能を利用してコメントを付す。			
8. 成績評価の方法 オンデマンド授業を各動画を最初から最後まで視聴しての小テストを受ける（複数回）70％ Oh!Meiji のディスカッションを通じ質問・意見表明10％ 学期末試験（リアルタイム配信で実施）20％			
9. その他 オンデマンド授業は、各回の動画を最初から最後まで見て小テストをうけてはじめて出席扱いとなることに注意。パノプトには、各回について、授業参加者が何分見たかが記録されます。			

科目ナンバー：(BA)LAN116J			
英語スペシャルスタディ B〔M〕			辻 昌 宏
1 単位	1 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 オンライン授業です。 <概要> シェイクスピア作品に基づいたDVDや関連する映画を観つつ、言語表現、演出、映画表現について、多角的に学んでいく。 言語表現については、適宜、原文を抜粋しながら学んでいく。 <到達目標> シェイクスピアにおける英語表現と演劇的構造を理解し、味わい、批評的に語れるようにする。			
2. 授業内容 メディア授業です。原則オンデマンドですが、第1回授業と学期末試験はリアルタイム配信です。 第1回 イン트로ダクション 第2回 『ヘンリー5世』その1 第3回 『ヘンリー5世』その2 第4回 『ヘンリー5世』その3 第5回 『ヘンリー5世』その4 第6回 『ヘンリー5世』その5 第7回 ハムレット その1 第8回 ハムレット その2 第9回 ハムレット その3 第10回 ハムレット その4 第11回 ハムレット その5 第12回 ハムレット その6 第13回 ハムレット その7 第14回 試験 上記予定は、進具合などにより変更される場合がある。			
3. 履修上の注意 原則オンデマンド授業であるが、第1回授業と学期末試験はリアルタイム配信を実施する。 動画配信は、最初から最後まで見て、小テストに答えること。パノプトは、各回、学生が視聴した時間が記録される。 シェイクスピア時代の英語の文法や言い回し、単語の意味に最大限の注意を払い慣れていくこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ストーリーについて、インターネットや文学辞典をもちいて確認すること。 授業中紹介する英語表現や台詞を朗読すること。 シェイクスピア時代の英語の文法や言い回しに慣れること。			
5. 教科書 プリント配布			
6. 参考書 河合祥一郎『シェイクスピア人生劇場の達人』（中公新書） 森祐希子『映画で読むシェイクスピア』（紀伊国屋書店）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh!Meiji の機能を利用してコメントを付す。			
8. 成績評価の方法 オンデマンドの視聴および小テスト70％、Oh!Meiji のディスカッションを通じての質問や意見表明10％ 学期末試験（対面で実施）20％			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN111J			
英語表現論			辻 昌 宏
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 オスカー・ワイルドやジェイン・オースティンその他の劇作品を読み、またそれが映画化されたものをDVDやブルーレイで観て、その表現の特徴を味わい理解する。 〈到達目標〉 ワイルドやオースティンらの台詞を読み、声に出して読み、数行を暗唱できるようにする。また、戯曲の構造や技法を理解し、ワイルドやオースティン以外の作品を読んだり観たりするときにも深く味わえる能力を獲得する。			
2. 授業内容 オスカー・ワイルドやジェイン・オースティンの劇作品の原文を精読することと、映画化されたビデオを観ることを並行して行う。名台詞を読み、実際に声に出して朗読する。英語のリズムやレトリックを学びながら、英語表現の工夫を少しずつ身につけていく。セリフの抑揚や作品の流れを確認する。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第3回 ワイルドとその時代 第4回～第8回 『まじめが大切』 第9回～第14回 『高慢と偏見』			
3. 履修上の注意 基本的には対面授業であるが、オンライン授業となる場合、授業内容や進め方、進度に変更が生じることがありうる。 『高慢と偏見』(1813)や『まじめが大切』(1895)は、時々古めかしい英語表現が出てくるが、19世紀の英語に関する知識は問わない。授業中に丁寧に説明します。判らないところは積極的に質問しましょう。また、作品自体や作品内容に対するコメントを積極的に発表するようにしましょう。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に板書するワイルドやオースティンの言葉を、意味を理解するだけでなく、形や表現形態、比喩やレトリックに関心を持って読み、何度も朗読すること。			
5. 教科書 プリントの予定。			
6. 参考書 宮崎かすみ著『オスカー・ワイルド』（中公新書）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh!Meiji の機能を利用してコメントを付す。			
8. 成績評価の方法 平常点および授業参加 70% 期末試験 30%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN111J			
英語コミュニケーション初級A		戸田 博之	
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 今日のビジネス世界では、Eメールがコミュニケーション手段として重要なものとなり、一方で世界共通語としての英語の普及が著しい。このような環境下で、将来国際的ビジネス舞台で活躍を目指す者には、英語でビジネスEメールを書く力をつけることが強く望まれる。この力には、単に言語としての英語の運用力だけではなく、相手を動かし仕事を前に進めるためのさまざまな戦略を用いる力も含まれる。本コースでは、当初は身近な話題を使って、後半では次第に実際のビジネス現場で見られるような場面を想定し実際にEメールを多く書くことを通して、学習者が、英文ビジネスEメールライティングの基礎を築くことを目指す。コースの運営に当たっては、英文ビジネスEメールライティングに限らず、長年金融業界でビジネス実務に携わってきた講師の知識、経験、ノウハウを、学生諸君の求めに応じて提供していく所存である。 <達成目標> 1. 英文Eメールライティングの原則的なルールが説明できる。 2. どのようなEメールが仕事を実際に前に進めることのできる機能的なEメールであるかを説明できる。 3. さまざまな場面に柔軟に対応しつつ、英文でビジネスEメールを書くことに抵抗がない。 4. ビジネス現場にいる者のマインドセットを理解できる。			
2. 授業内容 Week 1 Course orientation, Introducing yourself (コースガイダンス, 自己紹介) Week 2 Writing about work experience Week 3 Arranging meetings Week 4 Comparing formal and informal writing styles Week 5 Writing about plans Week 6 Making a polite request Week 7 Mid-term review Week 8 Asking for recommendations Week 9 Recommending Week 10 Inviting Week 11 Accepting invitation Week 12 Making an inquiry Week 13 Responding to an inquiry Week 14 a: Final exam b: Review, reflection, and discussions Eメールライティングの題材については、適宜上記以外のものを採り上げる可能性がある。			
3. 履修上の注意 本科目は受講人数に制限があり、履修に際しては事前登録が必要となるので、「経営学部履修の手引き」を参照すること。 This is an English writing course. The class will be conducted in English. Note that there is a limit to the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本コースの達成目標実現のためには、実際に多くの英文ビジネスEメールを書くことが肝要となる。多くの課題としてのライティングにも積極的に取り組むことで、大きな効果が期待できるため、クラス内外の課題を着実にこなすことがまず求められる。したがって、クラスに出席し、宿題を期限内の提出を着実に行うことが、評価の最大ポイントとなる。 さらに、ライティング能力を引き上げるために、他の学習者が書いたものを見て評価するという活動が極めて効果的であるため、クラス内で、これを行う相互評価活動や発表に積極的に参加し、発言することも期待する。			
5. 教科書 英文ビジネスEメールがサクサク書ける ――自律的ライティングのすすめ 戸田博之著 研究社			
6. 参考書 適宜指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Attendance : 10% In-class writing and class participation : 40% Homework submission : 40% Final exam : 10%			
9. その他 The class is taught in English with occasional Japanese use where deemed necessary. Bring your own PC to the class.			

科目ナンバー：(BA)LAN111J			
英語コミュニケーション初級B		戸田 博之	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 今日のビジネス世界では、Eメールがコミュニケーション手段として重要なものとなり、一方で世界共通語としての英語の普及が著しい。このような環境下で、将来国際的ビジネス舞台で活躍を目指す者には、英語でビジネスEメールを書く力をつけることが強く望まれる。この力には、単に言語としての英語の運用力だけではなく、相手を動かし仕事を前に進めるためのさまざまな戦略を用いる力も含まれる。本コースでは、当初は身近な話題を使って、後半では次第に実際のビジネス現場で見られるような場面を想定し実際にEメールを多く書くことを通して、学習者が、英文ビジネスEメールライティングの基礎を築くことを目指す。コースの運営に当たっては、英文ビジネスEメールライティングに限らず、長年金融業界でビジネス実務に携わってきた講師の知識、経験、ノウハウを、学生諸君の求めに応じて提供していく所存である。 <達成目標> 1. 英文Eメールライティングの原則的なルールが説明できる。 2. どのようなEメールが仕事を実際に前に進めることのできる機能的なEメールであるかを説明できる。 3. さまざまな場面に柔軟に対応しつつ、英文でビジネスEメールを書くことに抵抗がない。 4. ビジネス現場にいる者のマインドセットを理解できる。			
2. 授業内容 Week 1 Course orientation, Introducing yourself (コースガイダンス, 自己紹介) Week 2 Writing about work experience Week 3 Arranging meetings Week 4 Comparing formal and informal writing styles Week 5 Writing about plans Week 6 Making a polite request Week 7 Mid-term review Week 8 Asking for recommendations Week 9 Recommending Week 10 Inviting Week 11 Accepting invitation Week 12 Making an inquiry Week 13 Responding to an inquiry Week 14 a: Final exam b: Review, reflection, and discussions Eメールライティングの題材については、適宜上記以外のものを採り上げる可能性がある。			
3. 履修上の注意 本科目は受講人数に制限があり、履修に際しては事前登録が必要となるので、「経営学部履修の手引き」を参照すること。 This is an English writing course. The class will be conducted in English. Note that there is a limit to the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本コースの達成目標実現のためには、実際に多くの英文ビジネスEメールを書くことが肝要となる。多くの課題としてのライティングにも積極的に取り組むことで、大きな効果が期待できるため、クラス内外の課題を着実にこなすことがまず求められる。したがって、クラスに出席し、宿題を期限内の提出を着実に行うことが、評価の最大ポイントとなる。 さらに、ライティング能力を引き上げるために、他の学習者が書いたものを見て評価するという活動が極めて効果的であるため、クラス内で、これを行う相互評価活動や発表に積極的に参加し、発言することも期待する。			
5. 教科書 英文ビジネスEメールがサクサク書ける ――自律的ライティングのすすめ 戸田博之著 研究社			
6. 参考書 適宜指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Attendance : 10% In-class writing and class participation : 40% Homework submission : 40% Final exam : 10%			
9. その他 The class is taught in English with occasional Japanese use where deemed necessary. Bring your own PC to the class.			

科目ナンバー：(BA)LAN211J			
英語コミュニケーション中級A		古川 恵 美	
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 優れたプレゼンテーションを扱ったTED TalksのDVD教材を使用して、英語のリスニングとスピーキングの力を実践的に鍛えるための授業です。各ユニットのテーマに沿って、語彙や文法事項の確認、リスニングおよびスピーキングの練習を行います。最後にテーマに関連したTED Talksを見て、プレゼンテーションスキルを学ぶとともに、内容について意見を交換したり、発表したりします。授業内での意見交換がより円滑に進むよう、適宜配布プリントを使用してコミュニケーションに役立つ語彙や表現を実際に使ってみる機会を設けます。授業全体を通してペアワークやグループワーク活動を多く取り入れる予定です。 <到達目標> 話し手が伝えようとしていることを的確に聞き取って理解する力をつけるとともに、自らも与えられたトピックについて自信を持って話せるようになることを目指します。リスニングとスピーキングに重点をおいて授業を進めますが、語彙力の強化・文法事項の確認・異文化理解の知識なども取り入れながら総合的に英語力を鍛えます。			
2. 授業内容 第1回：Introduction 第2回：Unit 1 Protectors ① 第3回：Unit 1 Protectors ② 第4回：Unit 1 Protectors ③ 第5回：Unit 2 Family Connections ① 第6回：Unit 2 Family Connections ② 第7回：Unit 2 Family Connections ③ 第8回：Unit 3 Global Stories ① 第9回：Unit 3 Global Stories ② 第10回：Unit 3 Global Stories ③ 第11回：Unit 4 Music ① 第12回：Unit 4 Music ② 第13回：Unit 4 Music ③ 第14回：Review ※上記予定は進捗度合いなどにより変更される場合があります。			
3. 履修上の注意 - 「英語コミュニケーション」という授業の特性上、とりわけ授業への出席および参加を重視します。 - 授業には毎回出席し、英語を聴いたり話したりする活動に積極的に取り組むことで、実践的な英語コミュニケーションスキルの向上を目指してください。 - また、TED Talksを通して世界の人々が提起している社会や文化に関する問題に関心を持って授業に臨んでください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <事前学習> - 指定された予習範囲に取り組み、分からない語彙や表現の意味は調べておきましょう。 <事後学習> - 授業で扱った範囲を復習し、学んだ表現を次の授業で使えるようにするとともに小テストに備えましょう。 - 授業で配布するプリントやクラスウェブで提示される課題に取り組み、期限を守って提出してください。			
5. 教科書 『Keynote 2』(Cengage)			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出物に対する全体講評は適宜授業時に行います。 小テストについては返却後に正解をお知らせするとともに必要に応じて解説を行います。			
8. 成績評価の方法 平常点(授業への参加・貢献度) 30%，課題(提出物・発表) 30%，小テスト30%，学期末レポート10%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN211J			
英語コミュニケーション中級B		古川 恵 美	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 優れたプレゼンテーションを扱ったTED TalksのDVD教材を使用して、英語のリスニングとスピーキングの力を実践的に鍛えるための授業です。各ユニットのテーマに沿って、語彙や文法事項の確認、リスニングおよびスピーキングの練習を行います。最後にテーマに関連したTED Talksを見て、プレゼンテーションスキルを学ぶとともに、内容について意見を交換したり、発表したりします。授業内での意見交換がより円滑に進むよう、適宜配布プリントを使用してコミュニケーションに役立つ語彙や表現を実際に使ってみる機会を設けます。授業全体を通してペアワークやグループワーク活動を多く取り入れる予定です。 <到達目標> 話し手が伝えようとしていることを的確に聞き取って理解する力をつけるとともに、自らも与えられたトピックについて自信を持って話せるようになることを目指します。リスニングとスピーキングに重点をおいて授業を進めますが、語彙力の強化・文法事項の確認・異文化理解の知識なども取り入れながら総合的に英語力を鍛えます。			
2. 授業内容 第1回：Introduction 第2回：Unit 5 Good Design ① 第3回：Unit 5 Good Design ② 第4回：Unit 5 Good Design ③ 第5回：Unit 6 Inspiration ① 第6回：Unit 6 Inspiration ② 第7回：Unit 6 Inspiration ③ 第8回：Unit 7 Ethical Choices ① 第9回：Unit 7 Ethical Choices ② 第10回：Unit 7 Ethical Choices ③ 第11回：Unit 8 Better Cities ① 第12回：Unit 8 Better Cities ② 第13回：Unit 8 Better Cities ③ 第14回：Review ※上記予定は進捗度合いなどにより変更される場合があります。			
3. 履修上の注意 - 「英語コミュニケーション」という授業の特性上、とりわけ授業への出席および参加を重視します。 - 授業には毎回出席し、英語を聴いたり話したりする活動に積極的に取り組むことで、実践的な英語コミュニケーションスキルの向上を目指してください。 - また、TED Talksを通して世界の人々が提起している社会や文化に関する問題に関心を持って授業に臨んでください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <事前学習> - 指定された予習範囲に取り組み、分からない語彙や表現の意味は調べておきましょう。 <事後学習> - 授業で扱った範囲を復習し、学んだ表現を次の授業で使えるようにするとともに小テストに備えましょう。 - 授業で配布するプリントやクラスウェブで提示される課題に取り組み、期限を守って提出してください。			
5. 教科書 『Keynote 2』(Cengage)			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出物に対する全体講評は適宜授業時に行います。 小テストについては返却後に正解をお知らせするとともに必要に応じて解説を行います。			
8. 成績評価の方法 平常点(授業への参加・貢献度) 30%，課題(提出物・発表) 30%，小テスト30%，学期末レポート10%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN311J			
英語コミュニケーション上級A		山高美和	
1 単位	1 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> Course Outline: This course is designed to help students build confidence in expressing themselves effectively in social contexts. Through structured speaking exercises and discussions guided by original PDF worksheets, students will explore a range of relatable and thought-provoking topics. Relevant online articles and videos will also be introduced from time to time to enrich the learning experience. The spring semester focuses on developing self-expression skills, encouraging students to share their ideas, experiences, and perspectives in English. <到達目標> Course Objectives: By the end of this course, students will: ※Enhance their ability to express themselves clearly and confidently in English. ※Develop practical communication skills through targeted activities and exercises. ※Broaden their horizons by engaging with relevant materials, fostering intercultural understanding.			
2. 授業内容 Course Content: The course will primarily be conducted in English, with Japanese used when necessary for clarification. 第1回：【対面授業】Introduction to Effective Communication Skills 第2回：【対面授業】Ice-breaking Activities 第3回：【対面授業】Expressing Yourself: Self-Introductions 第4回：【対面授業】Expressing Yourself: Talking About Your Upbringing 第5回：【対面授業】Expressing Yourself: Your University Life 第6回：【対面授業】Expressing Yourself: Your Passions 第7回：【対面授業】Expressing Yourself: Your Likes and Dislikes 第8回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Expressing Yourself: Well-Being (Sports, Healthy Lifestyle, etc.) 第9回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Expressing Yourself: Your Favourite Food 第10回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Expressing Yourself: Your Favourite Entertainment 第11回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Expressing Yourself: Your Travel Preferences 第12回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Expressing Yourself: Your Future Lifestyle 第13回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Expressing Yourself: Your Strengths and Weaknesses 第14回：【オンライン授業（リアルタイム型）】aのみ：Course Review			
3. 履修上の注意 履修上の注意 This course includes both in-person sessions and live-streamed classes on Zoom. 本コースは、春学期の前半は対面授業で、後半はZoomによるリアルタイム型オンライン授業を実施します。 オンライン授業については、以下の方法で実施されます： Zoom招待状の配信 原則として、オンライン授業の前日までに、Oh-ol Meijiのクラスウェブを通じてZoom招待状を配信します。授業はリアルタイム配信型（100分）で行います。 春学期最終授業の特例 春学期の最終Zoomリアルタイム型授業のみ、授業時間は50分とします。 授業の進行 リアルタイム型授業では、出席確認を授業中に行います。また、ブレイクアウトルームを使用したグループ・アクティビティを取り入れて進行します。Zoomのプロフィール名は、必ずフルネーム（実名）で英語と日本語を併記してください（例：Hanako Meiji 明治花子）。 意見交換と質問の場 Oh-ol Meijiのクラスウェブや、年度限定のクラス用SNSグループを活用して意見交換の場を設けます。教員への質問や相談については、専用メールアドレスおよびSNSアカウントを初回授業でお知らせします。 オンライン授業の履修条件 学習環境 安定したネット接続環境があり、静かで学習に集中できる環境（例：自宅またはキャンパス内で指定された教室）で受講してください。 騒音の多い商業施設での受講は禁止します。また、交通機関を利用した移動中のZoom参加は出席として認めません。 使用デバイス 個人で使用可能なノートPCまたはタブレットを推奨します。ヘッドセットやマイクなども必要です。スマートフォンでの受講は推奨しません（画面が小さく、Zoom操作が制限されるため）。ただし、ロールプレイやPDF資料の閲覧など補助的に使用する場合があります。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習（予習・復習等）の内容 予習 Oh-ol Meijiのクラスウェブに定期的に投稿されるPDF資料に目を通し、授業内のグループアクティビティに備えてください。 復習 授業後は、教材およびPDF資料を復習し、理解を深めてください。 課題 オンライン課題はクラスウェブに提示されますので、指定された期限までに提出してください。			
5. 教科書 本コースでは、クラスウェブに定期的に投稿されるPDF資料を使用して学習します。			
6. 参考書 Oh-ol Meijiのクラスウェブに、授業で学習した内容に関連するPDF資料が定期的に投稿されます。これらを参考資料として活用してください。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 オンライン課題のフィードバックは、提出期限後にOh-ol Meijiシステムを通じて配信します。			
8. 成績評価の方法 成績評価の方法 評価割合 授業への貢献度：50％ 課題：50％ 試験 対面形式での試験は実施しません。 単位取得条件 単位を取得するには、授業への貢献だけでなく、全ての課題を期限内に提出する必要があります。 出席に関する規定 ※合計4回の欠席（公的機関発行の証明書を提出できない場合）は単位取得不可となります。 ※合計3回までの公欠や病欠以外の欠席は認められますが、授業への貢献度評価は他の出席している学生より低くなる可能性があるため、注意してください。 ※公欠や病欠を申請する場合は、公的機関が発行した証明書を提示する必要があります。 遅刻 遅刻3回で欠席1回分として扱います。 授業参加の注意点 授業貢献度が著しく低い場合は、評価が下がります。			
9. その他 To the Class Members: I grew up and worked in London, UK, while being Japanese. This unique background has given me a distinct perspective on both cultures, which I look forward to sharing with you. This class is limited to 20 students, creating a friendly and supportive atmosphere that encourages communication through engaging activities. You will have my full support throughout the learning process. To register for this course, please attend the first introductory class. I am excited to meet you and look forward to sharing an enjoyable and enriching learning experience together. Best regards, Miwa Yamataka			

科目ナンバー：(BA) LAN311J			
英語コミュニケーション上級B		山高美和	
1 単位	1 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> Course Outline: This course is designed to help students build confidence in communicating effectively in social contexts. Through structured speaking exercises and discussions guided by original PDF worksheets, students will explore a range of relatable and thought-provoking topics. Relevant online articles and videos will also be introduced from time to time to enrich the learning experience. The spring semester focuses on developing self-expression skills, helping students articulate their ideas, experiences, and perspectives clearly. In contrast, the autumn semester emphasises interactive communication, encouraging students to actively exchange thoughts and engage in meaningful discussions with others in English. <到達目標> Course Objectives: By the end of this course, students will: ※Enhance their ability to express themselves and interact effectively in English. ※Develop practical communication skills through targeted activities and exercises. ※Foster intercultural understanding by sharing and exchanging diverse perspectives.			
2. 授業内容 Course Content: The course will primarily be conducted in English, with Japanese used when necessary for clarification. 第1回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Introduction to Effective Communication Skills 第2回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Ice-breaking Activities 第3回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Getting to Know Each Other 第4回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Seasonal Cultural Activity 1 第5回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Using Conversation Fillers to Enhance Listening Skills 第6回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Asking People How They Are 第7回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Useful Small Talk Topics 第8回：【対面授業】How to Speak Politely 第9回：【対面授業】How to Show Understanding and Empathy 第10回：【対面授業】How to Express Gratitude and Write a Thank You Note 第11回：【対面授業】Seasonal Cultural Activity 2 第12回：【対面授業】Communicating at a Restaurant 第13回：【対面授業】Networking in a Business Setting 第14回：【対面授業】aのみ：Course Review			
3. 履修上の注意 履修上の注意 This course includes both in-person sessions and live-streamed classes on Zoom. 本コースは秋学期の前半はZoomによるリアルタイム型オンライン授業で、後半は対面授業を実施します。 オンライン授業については、以下の方法で実施されます： Zoom招待状の配信 原則として、オンライン授業の前日までに、Oh-ol Meijiのクラスウェブを通じてZoom招待状を配信します。授業はリアルタイム配信型（100分）で行います。 秋学期最終授業の特例 秋学期秋学期対面授業対面授業のみ、授業時間は50分とします。 授業の進行 リアルタイム型授業では、出席確認を授業中に行います。また、ブレイクアウトルームを使用したグループ・アクティビティを取り入れて進行します。Zoomのプロフィール名は、必ずフルネーム（実名）で英語と日本語を併記してください（例：Hanako Meiji 明治花子）。 意見交換と質問の場 Oh-ol Meijiのクラスウェブや、年度限定のクラス用SNSグループを活用して意見交換の場を設けます。教員への質問や相談については、専用メールアドレスおよびSNSアカウントを初回授業でお知らせします。 オンライン授業の履修条件 学習環境 安定したネット接続環境があり、静かで学習に集中できる環境（例：自宅またはキャンパス内で指定された教室）で受講してください。 騒音の多い商業施設での受講は禁止します。また、交通機関を利用した移動中のZoom参加は出席として認めません。 使用デバイス 個人で使用可能なノートPCまたはタブレットを推奨します。ヘッドセットやマイクなども必要です。スマートフォンでの受講は推奨しません（画面が小さく、Zoom操作が制限されるため）。ただし、ロールプレイやPDF資料の閲覧など補助的に使用する場合があります。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習（予習・復習等）の内容 予習 Oh-ol Meijiのクラスウェブに定期的に投稿されるPDF資料に目を通し、授業内のグループアクティビティに備えてください。 復習 授業後は、教材およびPDF資料を復習し、理解を深めてください。 課題 オンライン課題はクラスウェブに提示されますので、指定された期限までに提出してください。			
5. 教科書 本コースでは、クラスウェブに定期的に投稿されるPDF資料を使用して学習します。			
6. 参考書 Oh-ol Meijiのクラスウェブに、授業で学習した内容に関連するPDF資料が定期的に投稿されます。これらを参考資料として活用してください。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 オンライン課題のフィードバックは、提出期限後にOh-ol Meijiシステムを通じて配信します。			
8. 成績評価の方法 成績評価の方法 評価割合 授業への貢献度：50％ 課題：50％ 試験 対面形式での試験は実施しません。 単位取得条件 単位を取得するには、授業への貢献だけでなく、全ての課題を期限内に提出する必要があります。 出席に関する規定 ※合計4回の欠席（公的機関発行の証明書を提出できない場合）は単位取得不可となります。 ※合計3回までの公欠や病欠以外の欠席は認められますが、授業への貢献度評価は他の出席している学生より低くなる可能性があるため、注意してください。 ※公欠や病欠を申請する場合は、公的機関が発行した証明書を提示する必要があります。 遅刻 遅刻3回で欠席1回分として扱います。 授業参加の注意点 授業貢献度が著しく低い場合は、評価が下がります。			
9. その他 To the Class Members: I grew up and worked in London, UK, while being Japanese. This unique background has given me a distinct perspective on both cultures, which I look forward to sharing with you. This class is limited to 20 students, creating a friendly and supportive atmosphere that encourages communication through engaging activities. You will have my full support throughout the learning process. To register for this course, please attend the first introductory class. I am excited to meet you and look forward to sharing an enjoyable and enriching learning experience together. Best regards, Miwa Yamataka			

科目ナンバー：(BA)LAN121J			
ドイツ語コミュニケーション初級A			大 類 京 子
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 ドイツ語を使いながら様々なペアワーク・グループワークと個人ワークを行い、ドイツ語を習得します。 【到達目標】 まずは基本的な挨拶と自分のことをドイツ語で表現できることを目指します。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション・ドイツ語の挨拶 第2回：スペルと発音のルールをみつけよう 第3回：自己紹介（1） 第4回：自己紹介（2） 第5回：自己紹介（3） 第6回：人と知り合う（1） 第7回：人と知り合う（2） 第8回：人を紹介する（1） 第9回：人を紹介する（2） 第10回：好きなことについて語る（1） 第11回：好きなことについて語る（2） 第12回：好きなことについて語る（3） 第14回：a: まとめ b: 学期末の課題			
3. 履修上の注意 特にありません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 適宜、授業外の課題が出ます。 指示は授業内に行いますので、各自それに取り組んでください。 （次回授業前までに提出の必要があるものは、クラスウェブの「レポート」に提示します）			
5. 教科書 テキスト等はこちらで用意します。			
6. 参考書 授業中に指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 授業への積極的な参加35%、毎回の課題達成度25%、期末課題40% ＊理由は問わず、出席が授業回数の3分の2未満の場合は、「授業への積極的な参加」について評価の対象となりません。 ＊遅刻は「授業への積極的な参加」において、減点となります。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN121J			
ドイツ語コミュニケーション初級B			大 類 京 子
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 ドイツ語を使いながら様々なペアワーク・グループワークと個人ワークを行い、ドイツ語を習得します。 【到達目標】 ドイツ語コミュニケーションAに引き続き、自分のことをドイツ語で表現できることを目指します。			
2. 授業内容 第1回：a: イントロダクション b: 春学期の復習 第2回：持ち物について（1） 第3回：持ち物について（2） 第4回：値段を尋ねる（1） 第5回：値段を尋ねる（2） 第6回：カフェでのやりとり（1） 第7回：カフェでのやりとり（2） 第8回：カフェでのやりとり（3） 第9回：ここまでの復習 第10回：ショッピング（1） 第11回：ショッピング（2） 第12回：ショッピング(3) 第14回：a: まとめ b: 学期末課題			
3. 履修上の注意 特にありません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 適宜、授業外の課題が出ます。 指示は授業内に行いますので、各自それに取り組んでください。 （次回授業前までに提出の必要があるものは、クラスウェブの「レポート」に提示します）			
5. 教科書 テキスト等はこちらで用意します。			
6. 参考書 授業中に指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 授業への積極的な参加35%、毎回の課題達成度25%、期末課題40% ＊理由は問わず、出席が3分の2未満の場合は、「授業への積極的な参加」について評価の対象となりません。 ＊遅刻は「授業への積極的な参加」において、減点となります。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN221J			
ドイツ語コミュニケーション中級A			竹内拓史
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 2学期程度のドイツ語既習者を対象に、少人数制という利点を生かし、活発なペアワークやグループワークによって、日常のコミュニケーションに必要なドイツ語とコミュニケーション能力の習得をめざします。 <到達目標> クラス修了時の目標は、いくつかの日常的なテーマについてドイツ語で簡単な会話ややりとりができることです。あわせて、ドイツ語圏の社会への理解も深めていきたいと思います。			
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション b：自己紹介の復習 第2回 挨拶・数の復習 第3回 食べ物・趣味についての復習 第4回 家族・道案内の復習 第5回 物についての復習 第6回 気に入ったものについて (1) 第7回 気に入ったものについて (2) 第8回 贈り物をする (1) 第9回 贈り物をする (2) 第10回 ネットショッピング (1) 第11回 ネットショッピング (2) 第12回 ドイツの料理について (1) 第13回 ドイツの料理について (2) 第14回 a：まとめ b：発表 〔ただし上記のスケジュールは、授業の進度によっては変更されることもあります。また、受講者の人数や状況に応じて、変更もあり得ます。〕			
3. 履修上の注意 秋学期開講の「ドイツ語コミュニケーション中級B」とあわせて受講することが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各課が終わるごとに、その課で習得したドイツ語を使って数人のグループで自分たちで作った会話を発表してもらいます。授業内だけで準備が終わらない場合は、授業外の時間を使って準備をしてもらいます。			
5. 教科書 『ドイツ語アルファ改訂版』生駒美喜（他）（朝日出版社）			
6. 参考書 適宜授業中に紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 平常点（授業参加）【24%】、授業内の発表及び楽器末の発表【76%】をあわせて評価します。 （発表は授業時の練習の延長と考えてください。詳しくは授業内に説明します） 全授業の3分の1以上を欠席した場合は、単位は付与できません。また各回の3分の1以上の遅刻（35分以上の遅刻）は、欠席とみなします。			
9. その他 ・「ドイツ語コミュニケーション初級A・B」を履修していなくても、2学期程度のドイツ語既習者なら誰でも受講できます。 ・この授業では昨年度学習したドイツ語力の基礎を確認しつつ、コミュニケーション能力全般の向上を目指します。そのために、反復練習やグループ作業でも積極的自己表現をすることを意識し、ドイツ語での日常生活に必要な表現とより高度なコミュニケーション能力を獲得していきましょう。			

科目ナンバー：(BA) LAN221J			
ドイツ語コミュニケーション中級B			竹内拓史
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 2学期程度のドイツ語既習者を対象に、少人数制という利点を生かし、活発なペアワークやグループワークによって、日常のコミュニケーションに必要なドイツ語とコミュニケーション能力の習得をめざします。 <到達目標> クラス修了時の目標は、いくつかの日常的なテーマについてドイツ語で簡単な会話ややりとりができることです。あわせて、ドイツ語圏の社会への理解も深めていきたいと思います。			
2. 授業内容 第1回 春学期の復習 第2回 過去のことについて話す (1) 第3回 過去のことについて話す (2) 第4回 過去のことについて話す (3) 第5回 休暇中のことについて話す (1) 第6回 休暇中のことについて話す (2) 第7回 休暇中のことについて話す (3) 第8回 行先と交通手段 (1) 第9回 行先と交通手段 (2) 第10回 行先と交通手段 (3) 第11回 1日の行動について話す (1) 第12回 1日の行動について話す (2) 第13回 1日の行動について話す (3) 第14回 a：まとめ b：発表 〔ただし上記のスケジュールは、授業の進度によっては変更されることもあります。また、受講者の人数や状況に応じて、変更もあり得ます。〕			
3. 履修上の注意 春学期開講の「ドイツ語コミュニケーション中級A」とあわせて受講することが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各課が終わるごとに、その課で習得したドイツ語を使って数人のグループで自分たちで作った会話を発表してもらいます。授業内だけで準備が終わらない場合は、授業外の時間を使って準備をしてもらいます。			
5. 教科書 『ドイツ語アルファ改訂版』生駒美喜（他）（朝日出版社）			
6. 参考書 適宜授業中に紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 平常点（授業参加）【24%】、授業内の発表及び楽器末の発表【76%】をあわせて評価します。 （発表は授業時の練習の延長と考えてください。詳しくは授業内に説明します） 全授業の3分の1以上を欠席した場合は、単位は付与できません。また各回の3分の1以上の遅刻（35分以上の遅刻）は、欠席とみなします。			
9. その他 ・「ドイツ語コミュニケーション初級A・B」を履修していなくても、2学期程度のドイツ語既習者なら誰でも受講できます。 ・この授業では昨年度学習したドイツ語力の基礎を確認しつつ、コミュニケーション能力全般の向上を目指します。そのために、反復練習やグループ作業でも積極的自己表現をすることを意識し、ドイツ語での日常生活に必要な表現とより高度なコミュニケーション能力を獲得していきましょう。			

科目ナンバー：(BA) LAN321J			
ドイツ語コミュニケーション上級A			畑 一 成
1 単位	1 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 ドイツ語圏の日常生活において幅広い要件をこなす運用能力を身につけるため、映像資料を使いながら実践的なトレーニングを行います。特に、ドイツ語を使って行動し、人と意思疎通することができるようになるため、コミュニケーション能力の養成に重点を置きます。文法の説明を受けて、それを訓練する方法ではなく、まず言語使用を体験して、そこから言語の仕組みを予測・発見するアクティブラーニングの授業を行います。また、コミュニケーションの重要な要素であるのにもかかわらず、ほとんど教わることのない「振舞」や「所作」など身体言語についても学びます。 これまでの「ドイツ語コミュニケーション」の授業を受講していなくても問題なく履修できる。 〈到達目標〉 ヨーロッパ言語共通参照枠のA 2に相当するドイツ語の基礎的コミュニケーション能力を獲得する。限られた領域であれば、簡単な質疑を行うことができる。欧州における国際人としてふさわしい振る舞いができる。			
2. 授業内容 第1回 授業方法、成績評価基準、ドイツ語学習の意義を解説する。 第2回 将来の予定に関する表現 第3回 お金に関する表現 第4回 銀行で使う表現 第5回 家族に関する表現 第6回 性格に関する表現 第7回 住居に関する表現 第8回 隣人に関する表現 第9回 ホテルで使う表現 第10回 公共交通機関で使う表現 第11回 レジャーに関する表現 第12回 休暇に関する表現 第13回 社会活動に関する表現 第14回 a. テスト b. 解説とフィードバック			
3. 履修上の注意 ・秋学期開講の「ドイツ語コミュニケーション上級B」と合わせて受講することが望ましい。 ・「使用する」ことで言語を習得するアプローチの授業のため、積極的に受講者同士で対話し、学び合う姿勢が求められる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習不要。ただし復習が必須なので、学習した項目を繰り返し発音したり、音声データを何度も聞き返したりして、反復練習を行うこと。また、授業ごとに復習問題を課す。			
5. 教科書 オンライン教材：A2 Nicos Weg (Deutsche WelleのHP、又はアプリ「DW Learn German」)			
6. 参考書 ドイツ語ラジオ：DLF (Deutschlandfunk) オンラインサイト：A2 Nicos Weg (Deutsche Welle)、easygerman.org アプリ：DW Learn German、Seedlang: Learn German Faster			
7. 課題に対するフィードバックの方法 第14回のbモジュールで、試験の解説とフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 期末試験：60%（「到達目標」の記載内容を測る試験を行う） 授業への参加：40%（課題、発表、ペアワーク、グループワーク等の参加度や達成度を測る） ※授業への参加状況や態度によって減点する場合がある。 ※授業を3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN321J			
ドイツ語コミュニケーション上級B			畑 一 成
1 単位	1 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 ドイツ語圏の日常生活において幅広い要件をこなす運用能力を身につけるため、映像資料を使いながら実践的なトレーニングを行います。特に、ドイツ語を使って行動し、人と意思疎通することができるようになるため、コミュニケーション能力の養成に重点を置きます。文法の説明を受けて、それを訓練する方法ではなく、まず言語使用を体験して、そこから言語の仕組みを予測・発見するアクティブラーニングの授業を行います。また、コミュニケーションの重要な要素であるのにもかかわらず、ほとんど教わることのない「振舞」や「所作」など身体言語についても学びます。 これまでの「ドイツ語コミュニケーション」の授業を受講していなくても問題なく履修できます。 〈到達目標〉 ヨーロッパ言語共通参照枠のA 2に相当するドイツ語の基礎的コミュニケーション能力を獲得する。限られた領域であれば、簡単な質疑を行うことができる。欧州における国際人としてふさわしい振る舞いができる。			
2. 授業内容 第1回 授業方法、成績評価基準、ドイツ語学習の意義を解説する。 第2回 ネットショッピングに関する表現 第3回 返品など問題を伝える表現 第4回 レストランで使う表現 第5回 注文時に使う表現 第6回 パーティ時の表現 第7回 友人との会話表現 第8回 自国のことを伝える表現 第9回 住居の引っ越し時の表現 第10回 昔のことに表現 第11回 ジェンダーに関する表現 第12回 就職に関する表現 第13回 面接時の表現 第14回 a. テスト b. 解説とフィードバック			
3. 履修上の注意 「使用する」ことで言語を習得するアプローチの授業のため、積極的に受講者同士で対話し、学び合う姿勢が求められる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習不要。ただし復習が必須なので、学習した項目を繰り返し発音したり、音声データを何度も聞き返したりして、反復練習を行うこと。また、授業ごとに復習問題を課す。			
5. 教科書 オンライン教材：A2 Nicos Weg (Deutsche WelleのHP、又はアプリ「DW Learn German」)			
6. 参考書 ドイツ語ラジオ：DLF (Deutschlandfunk) オンラインサイト：A2 Nicos Weg (Deutsche Welle)、easygerman.org アプリ：DW Learn German、Seedlang: Learn German Faster			
7. 課題に対するフィードバックの方法 第14回のbモジュールで、試験の解説とフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 期末試験：60%（「到達目標」の記載内容を測る試験を行う） 授業への参加：40%（課題、発表、ペアワーク、グループワーク等の参加度や達成度を測る） ※授業への参加状況や態度によって減点する場合がある。 ※授業を3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN131J			
フランス語コミュニケーション初級A		レット, フランソワ	
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Bonjour à tous, この授業の目的は、フランス語とフランス語圏の異文化理解をし、日常会話に使えるフランス語を習得することです。 そのために、コミュニケーションに必要なすべての能力（聞く・読む・話す・書く）を、文法や語彙を勉強しながら、またはグループワークやロールプレイをしながら、身に付けます。 ネイティブスピーカの教員と、本場のフランス語と文化を味わい、楽しくフランス語を勉強しましょう!!!			
2. 授業内容 実践的な会話練習を通して実際にフランス語が話せる力を養成します。円滑なコミュニケーションにより自己表現できることを目指します。将来の留学や仕事に備えた、フランス語会話力を磨きます。 1. 授業紹介・簡単な自己紹介 2. 挨拶やカフェの言葉 3. ロールプレイ・初対面の会話 4. 第三者の紹介 5. ロールプレイ・自分が好きな有名人について話す 6. 好き・嫌いの表現 7. ロールプレイ・あなたは何を好き？ 8. 月・曜日の表現 9. ロールプレイ・誕生日はいつ？ 10. 人物を描写する 11. ロールプレイ・○○さんは、どんな人？ 12. 試験に向けてまとめ（1） 13. 試験に向けてまとめ（2） 14. 試験			
3. 履修上の注意 DELF A1-A2 レベルを目指す。 フランス語で自由に表現できるように語彙を増やし書く能力も身につけていきます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に積極的に参加すること、つまり、発言すること！ また、宿題などがある場合、それらをちゃんとして来ることや、毎回授業の前に、前回の授業内容を復習して置くこと。			
5. 教科書 教科書を使用しない。			
6. 参考書 参考書は特に指定しません。必要に応じて随時紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストが返すと、それらに関する解説を設ける。 また、最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける			
8. 成績評価の方法 授業への参加態度と積極性の有無（ロールプレイの発表を含む）：40% 小テスト（全4回）：40% 期末試験（面接試験）：20%			
9. その他 授業形態：対面形式			

科目ナンバー：(BA)LAN131J			
フランス語コミュニケーション初級B		レット, フランソワ	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Bonjour à tous, この授業の目的は、フランス語とフランス語圏の異文化理解をし、日常会話に使えるフランス語を習得することです。 そのために、コミュニケーションに必要なすべての能力（聞く・読む・話す・書く）を、文法や語彙を勉強しながら、またはグループワークやロールプレイをしながら、身に付けます。 ネイティブスピーカの教員と、本場のフランス語と文化を味わい、楽しくフランス語を勉強しましょう!!!			
2. 授業内容 実践的な会話練習を通して実際にフランス語が話せる力を養成します。円滑なコミュニケーションにより自己表現できることを目指します。将来の留学や仕事に備えた、フランス語会話力を磨きます。 1. 前期の復習 2. 食べ物の語彙 3. 分量表現・フランス語圏について（1） 4. フランス語圏について（2） 5. ロールプレイ・買い物 6. 時間の表現 7. 自分の一日を語る 8. 過去のことを語る 9. ロールプレイ・夏休み中何をしたの？ 10. 試験に向けて・DELFの読解 11. 試験に向けて・DELFの聴解 12. 試験に向けて・DELFの作文 13. 試験に向けて・DELFの面接 14. 試験			
3. 履修上の注意 DELF A1-A2 レベルを目指す。 フランス語で自由に表現できるように語彙を増やし書く能力も身につけていきます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に積極的に参加すること、つまり、発言すること！ また、宿題などがある場合、それらをちゃんとして来ることや、毎回授業の前に、前回の授業内容を復習して置くこと。			
5. 教科書 教科書を使用しない。			
6. 参考書 参考書は特に指定しません。必要に応じて随時紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストが返すと、それらに関する解説を設ける。 また、最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける			
8. 成績評価の方法 授業への参加態度と積極性の有無（ロールプレイの発表を含む）：40% 小テスト（全3回）：30% 期末試験：30%			
9. その他 授業形態：対面形式			

科目ナンバー：(BA) LAN231J			
フランス語コミュニケーション中級A		ベルテ、ディディエ	
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course Summary (授業の概要) フランス語を楽しみながら聞き、話しましょう。 各回日常会話を通して学びます。スピーチ・アクトや様々な単語を操りながら、効果的な方法でコミュニケーション・スキルを上げます。 コミュニケーションを通して、文化的なことも学びます。フランス文化に関するエンターテインメント的性格を持ったアクティビティ(映画、音楽、流行など)を扱うこともあります。 このクラスのために特別に用意した教材を使用します。 Objectives (到達目標) コースの内容はDELFのA2や仏検3級を目指す学習レベルに相当します。 この授業の主要目的は、自分に関連することについて話しながら、フランスについて発見をしていくことです。			
2. 授業内容 第1回 前年度の復習・自己紹介 第2回 家族について話す 第3回 人を描写する 第4回 毎日の習慣について話す 第5回 科目・勉強について話す 第6回 時間の表現を使いながら話す 第7回 仕事や希望する職業を言う 第8回 就きたい職業を説明する 第9回 住んでいる所・街について話す 第10回 過去の出来事について話す 第11回 休みの間にしたことについて話す 第12回 経験したことについて話す 第13回 まとめと試験準備 第14回 a 期末試験, b 解説			
3. 履修上の注意			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習は必要ありません。次週のクラスまでに必ず復習をしてください。			
5. 教科書 プリントを渡します。			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 学年末試験 40%, 小テスト 40%, グループワークにおける貢献度 10%, 授業への参加度10% 7割以上の出席を必須とします。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN231J			
フランス語コミュニケーション中級B		ベルテ、ディディエ	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course Summary (授業の概要) フランス語を楽しみながら聞き、話しましょう。 各回日常会話を通して学びます。スピーチ・アクトや様々な単語を操りながら、効果的な方法でコミュニケーション・スキルを上げます。 コミュニケーションを通して、文化的なことも学びます。フランス文化に関するエンターテインメント的性格を持ったアクティビティ(映画、音楽、流行など)を扱うこともあります。 このクラスのために特別に用意した教材を使用します。 Objectives (到達目標) コースの内容はDELFのA2や仏検3級を目指す学習レベルに相当します。 この授業の主要目的は、自分に関連することについて話しながら、フランスについて発見をしていくことです。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 過去の習慣について話す 第3回 過去の状況について話す 第4回 食べ物について話す 第5回 レストランで注文する 第6回 未来・するつもりのことについて話す 第7回 計画・近い未来について話す 第8回 未来について話す・仮定する 第9回 助言を求める 第10回 助言を言う 第11回 意見を求める 第12回 意見を言う 第13回 まとめと試験準備 第14回 a 期末試験, b 解説			
3. 履修上の注意			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習は必要ありません。次週のクラスまでに必ず復習をしてください。			
5. 教科書 プリントを渡します。			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 学年末試験 40%, 小テスト 40%, グループワークにおける貢献度 10%, 授業への参加度10% 7割以上の出席を必須とします。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN331J			
フランス語コミュニケーション上級A			折方のぞみ
1 単位	1 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 【概要】 原則としてフランス語を最低2年間程度学習した人のための少人数クラスの授業です。「上級」と書かれていますが、2年生の必修フランス語の単位が取れている学生であればどなたでも問題なく受講できます。フランス語力をますますブラッシュアップしたいひとはもちろん、そこまで自信はなくてもフランス語をもう少し続けたいと思うひと全てに授業は開かれています。 駿河台キャンパス開講ですので、3年生以上でフランス語の会話表現の上達に興味がある人に特に適しています。秋学期に開設されている「フランス語コミュニケーション上級B」と一対で行われ、「フランス語コミュニケーション上級A」はその基礎編として位置付けられます。 【到達目標】 各自がそれなりの努力目標をもって学習し、その到達目標（仏検合格、旅行会話の習得、映画を字幕なしで観る、留学準備など）に少しでも近づければよいと考えています。			
2. 授業内容 この授業では、様々なシチュエーショントレーニングを通して文法と語彙力を身につけ、適切にアウトプットする能力を磨きます。習ったことをアウトプットする機会が多いので、実践的な力を磨くことができます。フランスに関する豆知識をつけながらの学習、会話スキットを通したトレーニングや短い文章を読んでまとめるトレーニングなど、多様なコンテンツが用いられるので、飽きることなく学習に取り組むことができるでしょう。授業の大まかな構成は以下の通りです。 第1回 オリエンテーション 第0課 自己紹介 第2回 第1課 否定疑問に答える (1) 第3回 第1課 否定疑問に答える (2) 第4回 第2課 描写する 第5回 第2課 感動・感嘆を伝える 第6回 第3課 必要を伝える 第7回 第3課 希望・欲求を伝える 第8回 第4課 未来について話す 第9回 第4課 仮定について話す 第10回 第5課 人や物についての印象を伝える (1) 第11回 第5課 人や物についての印象を伝える (2) 第12回 第6課 アートやアーティストについて話す 第13回 第6課 アクティビティ 第14回 まとめ、学期末課題提出			
3. 履修上の注意 辞書は必ず一冊（仏和・和仏）準備するようにしてください。電子辞書・アプリ可。 コミュニケーションの授業なので出席が非常に重視されます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 基本的には復習メインの学習スタイルとなります。宿題、課題はきちんとやりましょう。 自分の「好き」や「興味」について発表する機会が多いので、興味のある分野について関連するフランス語を調べてみたりするのもよいかと思えます。			
5. 教科書 特に指定しません。教材プリント配布で対応します。			
6. 参考書 特に指定しません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて添削、模範解答の提示など。			
8. 成績評価の方法 平常点（出席、参加） 50% 各種授業内発表&課題 30% 学期末到達度確認問題 20% 上記は目安です。			
9. その他 フランスに行けるその日を夢見ながら、フランス人と交流している自分を思い浮かべてイメージトレーニングをするといいかと思います！			

科目ナンバー：(BA)LAN331J			
フランス語コミュニケーション上級B			折方のぞみ
1 単位	1 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 【概要】 原則としてフランス語を最低2年間程度学習した人のための少人数クラスの授業です。「上級」と書かれていますが、2年生の必修フランス語の単位が取れている学生であればどなたでも問題なく受講できます。フランス語力をますますブラッシュアップしたいひとはもちろん、そこまで自信はなくてもフランス語をもう少し続けたいと思うひと全てに授業は開かれています。 駿河台キャンパス開講ですので、3年生以上でフランス語の会話表現の上達に興味がある人に特に適しています。春学期に開設されている「フランス語コミュニケーション上級A」と一対で行われ、「フランス語コミュニケーション上級B」はその発展編として位置付けられます。 【到達目標】 各自がそれなりの努力目標をもって学習し、その到達目標（仏検合格、旅行会話の習得、映画を字幕なしで観る、留学準備など）に少しでも近づければよいと考えています。			
2. 授業内容 この授業では、様々なシチュエーショントレーニングを通して文法と語彙力を身につけ、適切にアウトプットする能力を磨きます。習ったことをアウトプットする機会が多いので、実践的な力を磨くことができます。フランスに関する豆知識をつけながらの学習、会話スキットを通したトレーニングや短い文章を読んでまとめるトレーニングなど、多様なコンテンツが用いられるので、飽きることなく学習に取り組むことができるでしょう。授業の大まかな構成は以下の通りです。 第1回 春学期の復習 第2回 第7課 感情を伝える (1) 第3回 第7課 感情を伝える (2) 第4回 第8課 説明する・指示を与える (1) 第5回 第8課 説明する・指示を与える (2) 第6回 第9課 土地・場所について説明する (1) 第7回 第9課 土地・場所について説明する (2) 第8回 第10課 婉曲に表現する 第9回 第10課 事実に反する仮定をする 第10回 第11課 相手を非難する 第11回 第11課 強調して伝える 第12回 第12課 フランスの本土と海外領土について学ぶ 第13回 第12課 アクティビティ 第14回 まとめ、学期末課題提出			
3. 履修上の注意 辞書は必ずきちんとしたものを一冊（仏和・和仏）準備するようにしてください。電子辞書、アプリ可。 また、コミュニケーションの授業なので出席が重視されます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 基本的には復習メインの学習スタイルとなります。宿題、課題はきちんとやりましょう。 自分の「好き」や「興味」について発表する機会が多いので、興味のある分野について関連するフランス語を調べてみたりするのもよいかと思えます。			
5. 教科書 特に指定しません。授業内でプリントを配布します。			
6. 参考書 特に指定しません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて添削、模範解答の提示など			
8. 成績評価の方法 平常点（出席、参加） 50% 各種授業内発表&課題 30% 学期末到達度確認問題 20% 上記は目安です。			
9. その他 フランスに行けるその日を夢見ながら、フランス人と交流している自分を思い浮かべてイメージトレーニングをするといいかと思います！			

科目ナンバー：(BA)LAN161J			
中国語コミュニケーション初級A			遠藤 絢
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 中級レベルの中国語の語彙・文法項目を含むさまざまな中国語を聞けて話せて書ける能力を養成するための教育を行う。 <到達目標> 中級レベルの中国語を聞けて話せて書ける能力を習得し、各種検定試験の3級レベル合格に相当する実力の習得をめざす。			
2. 授業内容 1年次の授業で学んだ重要事項の復習と定着、中級レベルの読解能力の向上をはかる。その目的のために中級レベルに必要な文型、語彙、文法を学び、同時に言語と不可分の関係にある現代中国の文化・社会などについても学ぶ。 (1) 第一段階（4月）：主として初級で学んだ重要語彙・表現・文法項目を復習し、定着を確認する。辞典を活用するためのトレーニングも行う。 (2) 第二段階（5月）：中級レベルの文法項目、語彙を含む課文を暗誦し、聞けて書けるようにする。豊富な練習により実践的能力を養う。 (3) 第三段階（6月）：基本的には第二段階と同様。さらなるレベルアップをはかる。 (4) 第四段階（7月）：基本的には第三段階と同様。さらなるレベルアップをはかる。			
3. 履修上の注意 <履修上の注意> 一定回数以上の出席が必要である。実力を養成するために積極的な授業への参加が求められる。 <準備学習> 授業の前に教科書付属の音源を活用して発音練習をする。本文篇に入ってから辞典を活用して課文および文法要点の例文の意味を調べておく。練習問題の答えをノートに書いておく。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の前に教科書付属の音源を活用して発音練習をする。本文篇に入ってから辞典を活用して課文および文法要点の例文の意味を調べておく。練習問題の答えをノートに書いておく。			
5. 教科書 「詳細は、Oh-o! Meiji システムで公開される一覧表を参照のこと」			
6. 参考書 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は：『中日辞典第2版』小学館または『中日辞典第3版』講談社を推奨する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 基本的には、秋学期最終授業時に実施される試験の点数により成績評価を行う。その他、随時発音テスト・小テストが行われる。比率は試験80％、発音・小テストが20％。欠席・遅刻は減点の対象になり得る。出席点はない。授業出席が前提である。			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA)LAN161J			
中国語コミュニケーション初級B			遠藤 絢
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 中級レベルの中国語の語彙・文法項目を含むさまざまな中国語を聞けて話せて書ける能力を養成するための教育を行う。 <到達目標> 中級レベルの中国語を聞けて話せて書ける能力を習得し、各種検定試験の3級レベル合格に相当する実力の習得をめざす。			
2. 授業内容 1年次の授業で学んだ重要事項の復習と定着、中級レベルの読解能力の向上をはかる。その目的のために中級レベルに必要な文型、語彙、文法を学び、同時に言語と不可分の関係にある現代中国の文化・社会などについても学ぶ。 (1) 第一段階（9・10月）：春学期の学習成果を基礎として引き続き中国語の実践的能力の習得をめざす。 (2) 第二段階（11月）：基本的には第一段階と同様。さらなるレベルアップをはかる。 (3) 第三段階（12月）：基本的には第二段階と同様。さらなるレベルアップをはかる。 (4) 第四段階（1月）：基本的には第三段階と同様。さらなるレベルアップをはかる。中級レベルの学習の総仕上げとして、中国語で電子メールが書ける表現力を養う。			
3. 履修上の注意 一定回数以上の出席が必要である。実力を養成するために積極的な授業への参加が求められる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の前に教科書付属の音源を活用して発音練習をする。本文篇に入ってから辞典を活用して課文および文法要点の例文の意味を調べておく。練習問題の答えをノートに書いておく。			
5. 教科書 「詳細は、Oh-o! Meiji システムで公開される一覧表を参照のこと」			
6. 参考書 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は：『中日辞典第2版』小学館または『中日辞典第3版』講談社を推奨する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 基本的には、秋学期最終授業時に実施される試験の点数により成績評価を行う。その他、随時発音テスト・小テストが行われる。比率は試験80％、発音・小テストが20％。欠席・遅刻は減点の対象になり得る。出席点はない。授業出席が前提である。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) LAN261J			
中国語コミュニケーション中級A			野田 寛 達
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 会話で常用される中級程度の語彙や表現を学び、使いこなす練習を行います。教科書の1課を2回にわけて学習し、前半6課を学び終えます。授業中に練習を行い、内容への理解を定着させます。また、言語学的な観点から中国語や日本語の興味深い現象の解説なども行います。言語に関して多角的な視点を持つことで言語学習のモチベーションを高めてもらいます。 <到達目標> 中国語会話に常用される基礎的な語彙や表現を学び、限られた知識を使って相手に情報を効果的に伝える工夫ができるようになること。多角的な視点で言語を分析できるようになること。			
2. 授業内容 第1週 授業の進め方、評価方法、グループ分け、第1課『自我介绍』の単語、家族の詳しい呼称、常用会話表現（“是～的”，“刚～”，“很会VP”，“为～VP”，“A还是B”），練習 第2週 会話小テスト、第1課本文訳、聞き取り&会話練習（家族や自己紹介） 第3週 会話小テスト、第2課『我们大学』の単語、常用時間表現・地名、常用会話表現（“～，其中～”，“除了～以外”，“从～到～”，“既～又～”，“从～开始～”），練習 第4週 会話小テスト、第2課本文訳、聞き取り&会話練習（キャンパスの紹介） 第5週 会話小テスト、第3課『学生』の単語、常用会話表現（“离”，“有时～有时～”，“不是～就是～”，“为了”，“虽然～但是～”），練習 第6週 会話小テスト、第3課本文訳、聞き取り&会話練習（1日の生活の紹介） 第7週 会話小テスト、第4課『好朋友』の単語、常用会話表現（“A比B～”，“差不多”，“（可，但）还是～”，“形容词+得+不得了”，“快～了”），練習 第8週 会話小テスト、第4課本文訳、聞き取り&会話練習（私の友達） 第9週 会話小テスト、第5課『我的爱好』の単語、常用会話表現（“通过～”，“动词+了+時量補語”，“多+形容词”，“如果～就～”，“动词+得（不）了”），練習 第10週 発表原稿提出日、会話小テスト、第5課本文訳、聞き取り&会話練習（私の旅行経験） 第11週 発表用原稿返却、会話小テスト、第6課『留学计划』の単語、常用会話表現（“怎么也+否定”，“对～感兴趣”，“越来越～”，“越～越～”，“还不到～”，“一点儿也+否定”），練習 第12週 会話小テスト、第6課本文訳、聞き取り&会話練習（中国学習経験） 第13週 動画発表日、発表後フィードバック 第14週 a：まとめ b：期末テスト			
3. 履修上の注意 初中級程度の中国語（ピンイン・声調が読めて、中国語の基本文型を理解し、500語程度の基本語彙）を習得していること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 小テストのための復習			
5. 教科書 『中国語中級テキスト听说説』 洪潔清・劉郷英（白帝社）			
6. 参考書 講談社『中日辞典第三版』、『やさしくくわしい中国語文法の基礎』 守屋宏則（東方書店）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 時に課題を提示し、提出物に対して添削やコメントを行う。			
8. 成績評価の方法 平常点（小テスト、授業態度等）50%、定期テスト50%			
9. その他 なし			

科目ナンバー：(BA) LAN261J			
中国語コミュニケーション中級B			野田 寛 達
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 会話で常用される中級程度の語彙や表現を学び、使いこなす練習を行います。教科書の1課を2回にわけて学習し、後半6課を学び終えます。授業中に練習を行い、内容への理解を定着させます。また、言語学的な観点から中国語や日本語の興味深い現象の解説なども行います。言語に関して多角的な視点を持つことで言語学習のモチベーションを高めてもらいます。 <到達目標> 中国語会話に常用される基礎的な語彙や表現を学び、限られた知識を使って相手に情報を効果的に伝える工夫ができるようになること。多角的な視点で言語を分析できるようになること。			
2. 授業内容 第1週 授業の進め方、評価方法、第7課『晨练』の単語、常用会話表現（“有～在～”，“有的～有的～”，“可+形容词+了”，“然而（却）”，“对～来说”），練習 第2週 会話小テスト、第7課本文訳、聞き取り&会話練習（晨练について） 第3週 会話小テスト、第8課『中国的饭菜』の単語、常用会話表現（“根据～不同，（也）不一样”，“以～为主”，“形容词+得多”，“動詞1+来+動詞2+去”，“能～吗？”），練習 第4週 会話小テスト、第8課本文訳、聞き取り&会話練習（レストランでの注文） 第5週 会話小テスト、第9課『选购生日礼物』の単語、常用会話表現（“不知道～好”，“无论是～还是～，都～”，“場所+動詞+着～”，“让+人+動詞”，“会～的”），練習 第6週 会話小テスト、第9課本文訳、聞き取り&会話練習（買い物に関する会話） 第7週 会話小テスト、第10課『节日』の単語、常用会話表現（“这才～”，“正值～”，“听说～”，“其实～”，“只有～才”），練習 第8週 会話小テスト、第10課本文訳、聞き取り&会話練習（日本の祝祭日） 第9週 会話小テスト、第11課『方言』の単語、常用会話表現（“以为”，“特别是”，“好+動詞”，“难+動詞”，“～A是A～”），練習 第10週 発表原稿提出日、会話小テスト、第11課本文訳、聞き取り&会話練習（道を尋ねる） 第11週 発表用原稿返却、会話小テスト、第12課『内蒙古之行』の単語、常用会話表現（“从来+否定”，“正如～那样”，“靠～”，“不但～而且”，“能～了”），練習 第12週 会話小テスト、第12課本文訳、聞き取り&会話練習（ペアで旅行の会話） 第13週 動画発表日、発表後フィードバック 第14週 a：まとめ b：期末テスト			
3. 履修上の注意 中級程度の中国語（ピンイン・声調が読めて、中国語の基本文型を理解し、500語程度の基本語彙）を習得していること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 小テストのための復習を行うこと			
5. 教科書 『中国語中級テキスト听说説』 洪潔清・劉郷英（白帝社）			
6. 参考書 講談社『中日辞典第三版』、『やさしくくわしい中国語文法の基礎』 守屋宏則（東方書店）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 時に課題を提示し、提出物に対して添削やコメントを行う。			
8. 成績評価の方法 平常点（小テスト、授業態度等）50%、期末テスト50%			
9. その他 なし			

科目ナンバー：(BA)LAN361J			
中国語コミュニケーション上級A			遠藤 絢
1 単位	1 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 上級レベルの中国語コミュニケーション能力の養成をはかる。 〈到達目標〉 授業を通して、リスニング力、スピーキング力を身につける。			
2. 授業内容 教材に沿って、様々な場面での会話の基礎練習を積み上げていく中で、読む、聞く、話す能力の向上に努め、中国語における基本文型、語彙を定着させる。併せて各分野の基礎知識を把握させる。 春学期 第1回 ガイダンス 第2回～第3回 短期留学 第4回～第5回 空港での出迎え 第6回～第7回 時間割 第8回～第9回 キャンパス探検 第10回～第11回 湖畔の早朝練習 第12回～第13回 復習 第14回 期末試験			
3. 履修上の注意 中国語を聞く話すのが好きという学生、好き嫌いにに関わりなく将来を見据えて中国語を身につけるための努力を惜しまないという学生の受講を希望する。授業中は積極的な授業参加が求められる。当然のことながら正当な理由のない無断欠席は認められない。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の予習、復習を欠かさず、学習した内容を確認する。			
5. 教科書 プリント配布			
6. 参考書 「中国語通訳講座 基礎編」 塚本 尋・張 弘 共著 三修社			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 平常点60％，定期試験40％			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN361J			
中国語コミュニケーション上級B			遠藤 絢
1 単位	1 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 上級レベルの中国語コミュニケーション能力の養成をはかる。 〈到達目標〉 授業を通して、リスニング力、スピーキング力を身につける。			
2. 授業内容 教材に沿って、様々な場面での会話の基礎練習を積み上げていく中で、読む、聞く、話す能力の向上に努め、中国語における基本文型、語彙を定着させる。併せて各分野の基礎知識を把握させる。 第1回 復習 第2回～第3回 腹痛 第4回～第5回 万里の長城 第6回～第7回 天安門広場 第8回～第9回 値切ってみよう 第10回～第11回 お別れ 第12回～第13回 復習 第14回 期末試験			
3. 履修上の注意 中国語を聞く話すのが好きという学生、好き嫌いにに関わりなく将来を見据えて中国語を身につけるための努力を惜しまないという学生の受講を希望する。当然のことながら正当な理由のない無断欠席は認められない。授業中は積極的な授業参加が求められる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の予習、復習を欠かさず、学習した内容を確認する。			
5. 教科書 プリント配布			
6. 参考書 「中国語通訳講座 基礎編」 塚本 尋・張 弘 共著 三修社			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 定期試験80％，平常点20％			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAN911E			
International Business Program (語学研修) A		モロー, ロバート J	
1 単位	1 年次	春学期集中	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course aims to provide an opportunity for students to learn English and experience college life overseas through selected short-term language/business programs at Portland State University (PSU). Students will study English intensively in customized English language courses and through interaction with other students and their homestay families. Visits to companies, cultural and outdoor activities, time with the homestay families, and free time will give students opportunities to practice language skills and experience different aspects of overseas university life. The class will meet three times before and twice after the overseas program. The teachers will supervise students' work during the program, and assess their overall performance at the end. Students who successfully complete this course will: • Be able to communicate successfully with native English speakers • Be able to function successfully in a U.S. university setting • Have a familiarity with U.S. culture and daily life			
2. 授業内容 The IBP program consists of 3 parts as follows Part 1: Three class sessions for group building, defining the themes for student journal reflections, and other preparations. (I) Introductions and keys to successful study abroad. (II) Journal writing and themes for reflection letters to host families. (III) Final preparations and pointers for life overseas Part 2: Three weeks of overseas study including subjects such as Business English, Intercultural Communication, and English Conversation and Writing. Also includes homestay, company visits, and other activities. (Details in program syllabus). Part 3: (I) reporting back and preparations for final presentations. (II) final presentations and program feedback.			
3. 履修上の注意 Students participating in the IBP Course must have a strong desire to improve their English abilities. They must also have a TOEIC score of 400 or more or equivalent. A total of 20 students can participate in the IBP A Program. In addition to course work, students will keep a journal, in English, in which to note their experiences and reflections throughout the IBP process. The journals will be used in preparing the final presentations.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Regular journal writing Preparation of program evaluation report Preparation of final presentation Other tasks specified by the host institution			
5. 教科書 Textbooks will be supplied by the host institution overseas			
6. 参考書 None			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback to students will be given in class. General comments on assignments will be published on the Oh-o! Meiji system, after assignments have been handed in.			
8. 成績評価の方法 The grade will be determined by attendance and participation in the class sessions before the overseas study (10%); by the assessment done in the overseas program (70%); and by the final presentation and journal (20%).			
9. その他 In addition to the class sessions, students will need to attend orientation sessions and make other preparations for overseas study such as attending visa interviews where required.			

科目ナンバー：(BA)MAN991E			
International Business Program (実習) A		モロー, ロバート J	
2 単位	1 年次	春学期集中	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course aims to provide an opportunity for students to learn English and experience college life overseas through selected short-term language/business programs at Portland State University (PSU). Students will study English intensively in customized English language courses and through interaction with other students and their homestay families. Visits to companies, cultural and outdoor activities, time with the homestay families, and free time will give students opportunities to practice language skills and experience different aspects of overseas university life. The class will meet three times before and twice after the overseas program. The teachers will supervise students' work during the program, and assess their overall performance at the end. Students who successfully complete this course will: • Be able to communicate successfully with native English speakers • Be able to function successfully in a U.S. university setting • Have a familiarity with U.S. culture and daily life			
2. 授業内容 The IBP program consists of 3 parts as follows Part 1: Three class sessions for group building, defining the themes for student journal reflections, and other preparations. (I) Introductions and keys to successful study abroad. (II) Journal writing and themes for reflection letters to host families. (III) Final preparations and pointers for life overseas Part 2: Four weeks of overseas study including subjects such as Business English, Intercultural Communication, and English Conversation and Writing. Also includes homestay, company visits, and other activities. (Details in program syllabus). Part 3: (I) reporting back and preparations for final presentations. (II) final presentations and program feedback.			
3. 履修上の注意 Students participating in the IBP Course must have a strong desire to improve their English abilities. They must also have a TOEIC score of 400 or more or equivalent. A total of 20 students can participate in the IBP A Program. In addition to course work, students will keep a journal, in English, in which to note their experiences and reflections throughout the IBP process. The journals will be used in preparing the final presentations.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Regular journal writing Preparation of program evaluation report Preparation of final presentation Other tasks specified by the host institution			
5. 教科書 Textbooks will be supplied by the host institution overseas			
6. 参考書 None			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be given in class. General comments on assignments handed in will be published on the Oh-o! Meiji system.			
8. 成績評価の方法 The grade will be determined by attendance and participation in the class sessions before the overseas study (10%); by the assessment done in the overseas program (70%); and by the final presentation and journal (20%).			
9. その他 In addition to the class sessions, students will need to attend orientation sessions and make other preparations for overseas study such as attending visa interviews where required.			

科目ナンバー：(BA) LAN911E			
International Business Program (語学研修) B 【4年次履修不可】		デュプリス, ジョン	
1 単位	1 年次	秋学期集中	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This is a practical course which provides students with the opportunity to study English and to experience university life and homestay in the USA. Students will study general and business English on a 4-week program at San Jose State University (SJSU). They will also visit local companies and participate in cultural activities. Students will have opportunity to practice their English in authentic settings with other students and their homestay family. The class will meet a total of five times: three times before the study abroad program to prepare students for their time in the USA, and two times for de-briefing and final presentations after the program abroad. Participation will be monitored throughout the program and a final grade will be given after final presentations. Objectives Students who successfully complete this course will: • be able to communicate more effectively with native English speakers • have a basic understanding of U.S. business practices and language • be familiar with U.S. university life and study • have a better understanding of life and culture in the USA			
2. 授業内容 The IBP course has three parts: Part One: Three class meetings to prepare for studying abroad 1) Introductions and orientation to study abroad and U.S. university life 2) The Homestay Experience/Information about final presentation task 3) Life in the USA - host town opportunities and cultural adjustment Part Two: Four weeks of study in the USA. Classes include general and business English. While in the USA, students are required to write Oh-o! Meiji internet posts about their experiences. Part Three: 1) Group discussions about experiences and preparation for final presentations 2) Final presentations			
3. 履修上の注意 Students participating in the IBP course must have a strong desire to improve their English abilities. They must also have a TOEIC score of 400 or more equivalent.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 In addition to coursework, students will keep a journal (in English) in which they will note their experiences and reflections throughout the IBP process. The journals will be used in preparing the final presentations. Grading and Evaluation The grade will be determined by attendance and participation in the class sessions before the overseas study (10%); by the assessment carried out in the overseas program (70%); and by the journal and final presentation (20%).			
5. 教科書 Materials will be provided during class. Course website.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Students must complete tasks specified by the host institution. Feedback will be provided in person and through Oh-o! Meiji.			
8. 成績評価の方法 The grade will be determined by attendance and participation in the class sessions before the overseas study (10%); by the assessment carried out in the overseas program (70%); and by the journal and final presentation (20%).			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) MAN991E			
International Business Program (実習) B 【4年次履修不可】		デュプリス, ジョン	
2 単位	1 年次	秋学期集中	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This is a practical course which provides students with the opportunity to study English and to experience university life and homestay in the USA. Students will study general and business English on a 4-week program at San Jose State University (SJSU). They will also visit local companies and participate in cultural activities. Students will have opportunity to practice their English in authentic settings with other students and their homestay family. The class will meet a total of five times: three times before the study abroad program to prepare students for their time in the USA, and two times for de-briefing and final presentations after the program abroad. Participation will be monitored throughout the program and a final grade will be given after final presentations.			
2. 授業内容 <Objectives> Students who successfully complete this course will: • be able to communicate more effectively with native English speakers • have a basic understanding of U.S. business practices and language • be familiar with U.S. university life and study • have a better understanding of life and culture in the USA The IBP course has three parts: Part One: Three class meetings to prepare for studying abroad 1) Introductions and orientation to study abroad and U.S. university life 2) The homestay experience/Information about final presentation task 3) Life in the USA ? host town opportunities and cultural adjustment 4) Part Two: Four weeks of study in the USA. Classes include general and business English. While in the USA, students are required to write an internet journal about their experiences. Part Three: 1) Group discussions about experiences and preparation for final presentations 2) Final presentations			
3. 履修上の注意 Students participating in the IBP course must have a strong desire to improve their English abilities. They must also have a TOEIC score of 400 or more equivalent. A total of 20 students can participate in the SJSU IBP A program.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 In addition to coursework, students write journals (in English) in which they will note their experiences and reflections throughout the IBP program. These reflections will be used in preparing the final presentations. Students must complete tasks specified by the host institution.			
5. 教科書 Materials will be provided during class. Course website.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be provided in person and via Oh-o! Meiji system.			
8. 成績評価の方法 The grade will be determined by attendance and participation in the class sessions before the overseas study (10%); by the assessment carried out in the overseas program (70%); and by the journal and final presentation (20%).			
9. その他			

4 体育实技科目

科目ナンバー：(BA)HES143J			
体育実技 A（統一）			
一之瀬真志・田中充洋・吉松梓・後藤肇・後藤洋一・佐藤伸一郎・佐藤満・高梨美奈・針ヶ谷雅子・渡邊新一郎			
1 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 体育実技Aは、学生の身体諸機能の向上ならびに体力の増進をはかり、将来の社会生活の活動基盤となる体力および生涯スポーツ実践のための方法や技術、身体運動に関する科学的知識等について実践を通して身につけることを目的としています。また、先生やクラス仲間とのコミュニケーションを深めることも同時にねらいとしています。 〈到達目標〉 技術力の高低や得意不得意、好き嫌いにとらわれず、自分の持っている技術力をいかして、スポーツそのものを楽しめる能力を身につけるとともに、文化や科学としてのスポーツを自分自身で享受できる能力を養うことを目標とします。			
2. 授業内容 実施種目は、使用する施設に応じたスポーツ・レクリエーション活動を実施します。 （例）利用施設：グラウンド 実施種目：ソフトボール、サッカーなどの屋外球技 第1回：イントロダクション（更衣室など利用施設の説明など） 第2～4回：ソフトボール（基礎スキルの習得） 第5～7回：ソフトボール（チーム戦術の習得とゲーム） 第8～10回：サッカー（基礎スキルの習得） 第11～13回：サッカー（チーム戦術の習得とゲーム） 第14回：他球技の紹介と授業の振り返り ※毎時間準備運動として、敏捷性・柔軟性・バランス感覚などを養うトレーニングを行います。			
3. 履修上の注意 体育実技は、1 年次必修科目で、指定された曜日・時限に各クラス単位で授業を行ないます。 最初の授業時間に各クラスの実技担当教員による詳細なオリエンテーションが実施されるので、初回の授業にかならず出席すること。 なお、運動を禁止されている者、障害者などについては、そのための授業クラスを用意してありますので、入学時の学習指導の時に申し出てください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 4 月の学習指導時に実施される学内の健康診断を必ず受診すること。 事故やけがの予防のためにも、前日に十分な睡眠をとり、授業時の準備運動をしっかりと行うようにして下さい。			
5. 教科書 特定のテキストは用いない。			
6. 参考書 最新スポーツルール百科 大修館書店			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業終了後、全体的な講評・模範例などを紹介する。			
8. 成績評価の方法 授業回数の 2 / 3 以上出席し、担当教員の認定を得なければ所定の単位を修得することができません。成績は総合的な観点から評価されます（取り組む姿勢等の授業への貢献度85%，レポート15%）			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)HES143J			
体育実技 B（統一）			
一之瀬真志・田中充洋・吉松梓・後藤肇・後藤洋一・佐藤伸一郎・佐藤満・高梨美奈・針ヶ谷雅子・渡邊新一郎			
1 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 体育実技Bは、学生の身体諸機能の向上ならびに体力の増進をはかり、将来の社会生活の活動基盤となる体力および生涯スポーツ実践のための方法や技術・身体運動に関する科学的知識等について実践を通して身につけることを目的としています。また、先生やクラス仲間とのコミュニケーションを深めることも同時にねらいとしています。 〈到達目標〉 技術力の高低や得意不得意、好き嫌いにとらわれず、自分の持っている技術力をいかして、スポーツそのものを楽しめる能力を身につけるとともに、文化や科学としてのスポーツを自分自身で享受できる能力を養うことを目標とします。			
2. 授業内容 実施種目は、使用する施設に応じたスポーツ・レクリエーション活動を実施します。 （例）利用施設：体育館3F メインホール 実施種目：バレーボール、バスケットボールなどの室内球技 第1回：イントロダクション（更衣室など利用施設の説明など） 第2～4回：バレーボール（基礎スキルの習得） 第5～7回：バレーボール（チーム戦術の習得とゲーム） 第8～10回：バスケットボール（基礎スキルの習得） 第11～13回：バスケットボール（チーム戦術の習得とゲーム） 第14回：他球技の紹介と授業の振り返り ※毎時間準備運動として、敏捷性・柔軟性・バランス感覚などを養うトレーニングを行なう。			
3. 履修上の注意 体育実技は、1 年次必修科目で、指定された曜日、時限に各クラス単位で授業を行ないます。 最初の授業時間に各クラスの実技担当教員による詳細なオリエンテーションが実施されるので、初回の授業にかならず出席すること。 なお、運動を禁止されている者、障害者などについては、そのための授業クラスを用意してありますので、入学時の学習指導の時に申し出てください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 4 月の学習指導時に実施される学内の健康診断を必ず受診すること。 事故やけがの予防のためにも、前日に十分な睡眠をとり、授業時の準備運動をしっかりと行うようにして下さい			
5. 教科書 特定のテキストは用いない。			
6. 参考書 最新スポーツルール百科 大修館書店			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業終了後、全体的な講評・模範例などを紹介する。			
8. 成績評価の方法 授業回数の 2 / 3 以上出席し、担当教員の認定を得なければ所定の単位を修得することができません。成績は総合的な観点から評価されます。（取り組む姿勢等の授業への貢献度85%，レポート15%）			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)HES243J			
選択体育実技A 【バスケットボール】		後 藤 肇	
1 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 選択体育実技は、1年次の体育実技A・B（必修2単位）を修得した者（2,3,4年次）のみを対象に開講されています。 学生の身体諸機能の向上ならびに体力の増進を図り、将来の社会生活の活動基盤となる体力および生涯スポーツ実践のための方法や技術、身体運動に関する科学的知識等について実践を通して身につけることを目的としています。 また同時に、受講生同士のコミュニケーションを深めることもねらいとしています。 尚、各回の実技は「ウォーミングアップ→スキルアップ練習→ゲーム」を基本とします。 〈到達目標〉 バスケットボールという素晴らしいスポーツの力を借りることを通して、個人スキル、チームスキルを向上させていくだけではなく、皆で力を合わせて練習課題やゲームに真剣に取り組む姿勢と、ルールや規範を遵守した上で楽しさを追求する態度を体得していきます。スポーツ環境の中で、他者の存在を尊重しながらスポーツ環境や集団をマネジメントしていくことの大切さとその方法論を学んでいきます。			
2. 授業内容 第1回：授業を通した約束事項と動的→静的→動的ストレッチの学習&実践 チーム分け（体育館講義室にて実施予定） 第2回：ゴールへの固執 フリースペースへの移動→ミート→シューティング 第3回：コーリング（キャッチポイズ）とヒアリングの徹底&ルーティン練習の学習 第4回：「Look→Decision→Action!」をベースにプレー！ 第5回：チェンジ・オブ・ペースを使ってボールタッチ！（HALFコート 3 on 3） 第6回：左右自在なドリブルワークでハンドリング向上！（両側性転移の促進） 第7回：「パス&ラン」でフロントコートに攻め込む！（ALLコート 5 on 5） 第8回：「切れる」「あがる」の習慣化と「合せる」の重要性 第9回：スクリーンやピック&ロールで組織オフENSEに挑戦！ 第10回：アウトナンバー（数的優位）をつくる！生かす！ 第11回：「出し」「入れ」活用！ポストプレーと内外の攻撃スペース（インサイド・アウト） 第12回：ボールの獲得（リバウンド）と支配（ポゼッション） 第13回：Transition（攻守の切り替え）での覚醒 第14回：ターンオーバーの削減とゲームのペースメイク 〜まとめ〜			
3. 履修上の注意 この選択体育実技は、2年生以降（2～4年生）の履修が可能な科目です（1年生は受講できません）。受講を認められた者は、直前でのキャンセルがないように十分注意して下さい。 初回のガイダンス授業に必ず出席して下さい。 本授業には受講人数制限があります。そのため、経営学部生は履修に際してWebによる事前受付を実施します。 詳細については「経営学部履修の手引」を参照して下さい。 バスケットボールは、他のスポーツ種目にもれることなく、常にルールと規範を遵守するとともに、安全の確保と危険の回避に留意することが不可欠な身体活動です。初回のガイダンス授業での約束を守り、スポーツ環境の維持に全面的に協力できることを前提として履修して下さい。尚、授業である以上、身勝手な行動は許されないこと、サークル等の自由な活動とは異なるということ、教員の注意や指示を受け入れること等を十分認識して履修して欲しいと思います。 各回とも、前日からの睡眠確保等の自己体調管理に努め、体調に違和感のある場合は必ず教員に申し出して下さい。 実技に際しては、スポーツシューズ(屋内専用)、スポーツに適した服装（ウェア等）を事前に準備し、必ず着用して下さい。 尚、楽しいスポーツ環境には、気持ちの良い挨拶というコミュニケーションの基盤が必要です。実技のスタートに際して自発的に挨拶を交わすことができます。また、率先して準備や片付けに関わることができるよう、心の準備をしておきましょう。 履修上の留意点 ・初回のガイダンスの内容を十分に把握し、担当教員の注意事項を守って実技・講義に参加できることを履修条件とする。 ・実技に際しては、担当教員の声掛けに快く反応し、特に危険回避のための注意を受け入れること（無反応を装う等の行為は絶対にやめて下さい）。 ・従来の実技ではマスクの着用を推奨していないが、自己の判断を尊重するので、マスク着用の場合は、呼吸器や循環器に過度の負担を感じる前に、マスクを外して呼吸を整えるように努めること。 ・身体の不調や身体的基礎疾患(既往症)、精神的疾患、傷害等がある場合は、必ず事前に担当教員に報告・連絡・相談すること。実技中・実技終了後の体調不良等についても、担当教員への伝達を絶対に怠らないこと。当日の運動が危険であると判断できる際は、授業マネジメントに努めることで出席とする。 ・運動中は、他者を傷つける可能性のある装飾品等を絶対に外すこと。 ・各自、ベクトルボール等を準備し、こまめに適度な水分（塩分）補給に努めるなど、自らリスク回避に努めること。 ・他者を避けるような行動や態度は、履修生の円滑な対人関係や授業進行の妨げになるので絶対に慎むこと。尚、一部の仲の良い関係性だけを許容した授業展開はせず、履修者の皆が分け隔てなく相互に関わることを原則とする。 ・運動後は、一時的に体力が著しく低下するので、クーリングダウンの時間が保てない場合は、できるだけ早い段階で自分の健康を守るためのケアを行い、帰宅後も入浴等で心身の疲労回復に努めること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本授業のシラバス（講義要項）を熟読するとともに、初回ガイダンス授業（体育館講義室を予定）で配布する資料の内容を十分に把握した上で実技授業に参加するようにして下さい。 第二回目からの実技授業では実践性の高い練習やゲームに入っていくので、自分の身体を事前に動かして、怪我や事故を起こさないよう心身の準備をするように努めてください。また、他の受講学生や授業進行に迷惑をかけることのないよう、円滑かつ安全に集団行動をするためのルールや規律を高く認識しておくことが必要となります。			
5. 教科書 特定のテキストは用いない（ガイダンス授業で配布する資料、およびOh-o! Meiji 内の授業資料を参照のこと）。			
6. 参考書 「健康・スポーツの心理学」 青木 高 大田壽城 監修 落合 優 編著 建帛社			
7. 課題に対するフィードバックの方法 運動技術の習得、運動技能の向上の過程においては、他の教科とは異なり、分習法と全習法を織り交ぜながら、繰り返し反復して練習をする必要があります。提示する運動課題の困難度が徐々に高くなってくると、個人差も生まれやすくなります。 バスケットボールの熟練者以外の受講生に対しては個別指導を行い、運動技術の習得段階からスキルアップの過程において、本時と次回授業に向けてのフィードバックを行います。 主にキーワード法を中心とした言語的指導と板書による記述形式の指導を行い、課題に対する意識を高めていく工夫を行います。			
8. 成績評価の方法 授業回数の2/3以上出席し、担当教員の認定を得なければ所定の単位を修得することができません。成績は、授業への参加度60％、授業への関与姿勢・貢献度・社会性等30％、技能向上10％を基本として総合的な観点から評価されます。			
9. その他 経営学部生以外の学部の学生は、定員に余裕がある場合のみ履修可能です。 抽選方法は、3月末にOh-o!Meijiでお知らせします。			

科目ナンバー：(BA)HES243J			
選択体育実技B 【バスケットボール】		後 藤 肇	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 選択体育実技は、1年次の体育実技A・B（必修2単位）を修得した者（2,3,4年次）のみを対象に開講されています。 学生の身体諸機能の向上ならびに体力の増進を図り、将来の社会生活の活動基盤となる体力および生涯スポーツ実践のための方法や技術、身体運動に関する科学的知識等について実践を通して身につけることを目的としています。 また同時に、受講生同士のコミュニケーションを深めることもねらいとしています。 尚、各回の実技は「ウォーミングアップ→スキルアップ練習→ゲーム」を基本とします。 〈到達目標〉 バスケットボールという素晴らしいスポーツの力を借りることを通して、春学期からの履修者、秋学期からの履修者という小さな枠にとどまることなく、環境や集団をマネジメントしていく実践力を身につけていくことを目標とします。また、本授業を通じて、社会においても通用する「真のコミュニケーション能力」を体得していきながら、仲間との結束力を高めていくことの楽しさを学んで欲しいと思います。			
2. 授業内容 第1回：春学期授業を通した約束事項と動的→静的→動的ストレッチの再確認&実践 チーム分け（体育館講義室にて実施） 第2回：クリスクロスからの3 on 2（HALFコート）& ルーティン練習の再確認・実践 第3回：コートバランスを保つ&崩す（HALFコート 5 on 5） 第4回：Transition覚醒の3 on 3～3 on 2（ALLコート） 第5回：Transitionからの組み立て 5 on 5（ALLコート1.5往復） 第6回：ルーティン&シークエンスの重視 第7回：組織ディフェンスの決定とポジション役割 第8回：自主的マネジメント①（リスク・マネジメント） 第9回：自主的マネジメント②（タイム・マネジメント） 第10回：自主的マネジメント③（プログラム・マネジメント） 第11回：自主的マネジメント④（チーム・ビルディング&マネジメント） 第12回：自主的マネジメント⑤（ゲーム・マネジメント） 第13回：自主的マネジメント⑥（トータル・マネジメント） 第14回：スポーツ環境の運営とバスケットボールを楽しむこと（総括）			
3. 履修上の注意 この選択体育実技は、2年生以降（2～4年生）の履修が可能な科目です（1年生は受講できません）。受講を認められた者は、直前でのキャンセルがないように十分注意して下さい。 初回のガイダンス授業に必ず出席して下さい（チーム分けも実施します）。 本授業には受講人数制限があります。そのため、経営学部生は履修に際してWebによる事前受付を実施します。詳細については「経営学部履修の手引」を参照して下さい。 バスケットボールは、他のスポーツ種目にもれることなく、常にルールと規範を遵守するとともに、安全の確保と危険の回避に留意することが不可欠な身体活動です。初回のガイダンス授業での約束を守り、スポーツ環境の維持に全面的に協力できることを前提として履修して下さい。尚、授業である以上、身勝手な行動は許されないこと、サークル等の自由な活動とは異なるということ、教員の注意や指示を受け入れること等を十分認識して履修して欲しいと思います。 各回とも、前日からの睡眠確保等の自己体調管理に努め、体調に違和感のある場合は必ず教員に申し出して下さい。実技に際しては、スポーツシューズ(屋内専用)、スポーツに適した服装（ウェア等）を事前に準備し、必ず着用して下さい。 尚、楽しいスポーツ環境には、気持ちの良い挨拶というコミュニケーションの基盤が必要です。実技のスタートに際して自発的に挨拶を交わすことができます。また、率先して準備や片付けに関わることができるよう、心の準備をしておきましょう。 ＜その他履修上の留意点＞ ・初回のガイダンスの内容を十分に把握し、担当教員の注意事項を守って実技・講義に参加できることを履修条件とする。 ・実技に際しては、担当教員の声掛けに快く反応し、特に危険回避のための注意を受け入れること（無反応を装う等の行為は絶対にやめて下さい）。 ・従来の実技ではマスクの着用を推奨していないが、自己の判断を尊重するので、マスク着用の場合は、呼吸器や循環器に過度の負担を感じる前に、マスクを外して呼吸を整えるように努めること。 ・身体の不調や身体的基礎疾患(既往症)、精神的疾患、傷害等がある場合は、必ず事前に担当教員に報告・連絡・相談すること。実技中・実技終了後の体調不良等についても、担当教員への伝達を絶対に怠らないこと。当日の運動が危険であると判断できる際は、授業マネジメントに努めることで出席とする。 ・運動中は、他者を傷つける可能性のある装飾品等を絶対に外すこと。 ・各自、ベクトルボール等を準備し、こまめに適度な水分（塩分）補給に努めるなど、自らリスク回避に努めること。 ・他者を避けるような行動や態度は、履修生の円滑な対人関係や授業進行の妨げになるので絶対に慎むこと。尚、一部の仲の良い関係性だけを許容した授業展開はせず、履修者の皆が分け隔てなく相互に関わることを原則とする。 ・運動後は、一時的に体力が著しく低下するので、クーリングダウンの時間が保てない場合は、できるだけ早い段階で自分の健康を守るためのケアを行い、帰宅後も入浴等で心身の疲労回復に努めること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 春学期からの継続履修者、秋学期からの新規履修者の違いに関わらず、本授業のシラバス（講義要項）を熟読するとともに、初回ガイダンス授業（体育館講義室を予定）で配布する資料の内容を十分に把握した上で実技授業に参加するようにして下さい。 第二回目からの実技授業では実践性の高い練習やゲームに入っていくので、自分の身体を事前に動かして、怪我や事故を起こさないよう心身の準備をするように努めてください。また、他の受講学生や授業進行に迷惑をかけることのないよう、円滑かつ安全に集団行動をするためのルールや規律を高く認識しておくことが必要となります。			
5. 教科書 特定のテキストは用いない（ガイダンス授業で配布する資料、およびOh-o! Meiji 内の授業資料を参照のこと）。			
6. 参考書 「健康・スポーツの心理学」 青木 高 大田壽城 監修 落合 優 編著 建帛社			
7. 課題に対するフィードバックの方法 運動技術の習得、運動技能の向上の過程においては、他の教科とは異なり、分習法と全習法を織り交ぜながら、繰り返し反復して練習をする必要があります。提示する運動課題の困難度が徐々に高くなってくると、個人差も生まれやすくなります。 バスケットボールの熟練者以外の受講生に対しては個別指導を行い、運動技術の習得段階からスキルアップの過程において、本時と次回授業に向けてのフィードバックを行います。 主にキーワード法を中心とした言語的指導と板書による記述形式の指導を行い、課題に対する意識を高めていく工夫を行います。			
8. 成績評価の方法 授業回数の2/3以上出席し、担当教員の認定を得なければ所定の単位を修得することができません。成績は、授業への参加度60％、授業への関与姿勢・貢献度・社会性等30％、技能向上10％を基本として総合的な観点から評価されます。			
9. その他 経営学部生以外の学部の学生は、定員に余裕がある場合のみ履修可能です。 抽選方法は、3月末にOh-o!Meijiでお知らせします。			

科目ナンバー：(BA)HES243J			
学外選択体育実技 A			吉 松 梓
1 単位	2 年次	春学期集中	
1. 授業の概要・到達目標 夏期学外集中授業【キャンプ（ベーシックコース）2期】 <授業の概要> この授業では、自然環境の中でテント泊と野外炊事をベースにした生活を送りながら、キャンプを楽しむための知識・技術・マナー、野外でのリスクマネジメントや環境への配慮、集団で生活するための組織運営や役割分担の方法について学ぶ。また、こうしたアウトドアライフを基礎にして、サイクリング、トレッキング、カヌー等のアウトドアスポーツを体験する。それによって、将来的に野外活動を安全に楽しむための基礎知識と態度、技術を身につける。煩雑な都会での日常生活を離れ、自然の中でシンプルな生活を送ることで、自然や仲間、そして自分自身について新しい発見をする機会を得ることができる。 <到達目標> 1. 夏期における多様な野外活動を体験し、基本的な知識と技術、安全に活動する方法を習得する。 2. 野外活動におけるフィールドの特性を理解し、自然環境に配慮した行動をすることができる。 3. グループでの活動を通して、自己理解・他者理解を深めることができる。 4. 体験学習サイクルに基づいて、体験をふりかえり、言語化することができる。			
2. 授業内容 <実施場所> 静岡県立朝霧野外活動センター キャンプ場 <実施期間> 2024年9月9日（火）～12日（金） 3泊4日 < 定員 > 42名（政経学部21名まで） < 指導者 > 6名 < 経 費 > 22,000円程度（キャンプ場利用料、食料費、保険料、交通費など） <事前授業> 5月中旬、7月上旬 計2回 <実習内容> 1日目（午後）：現地集合、開講式、野外生活の環境整備、野外炊事、ふりかえり 2日目（午前）：野外炊事、イニシアティブゲーム 2日目（午後）：選択プログラム（クラフト、ニュースポーツなど）、野外炊事、ふりかえり 3日目（全日）：アウトドアスポーツ（ハイキング、サイクリングなど）、野外パーティー、ふりかえり 4日目（午前）：撤収、実習ふりかえり・まとめ、閉講式、現地解散 <宿泊形態> テント泊 ※天候等の影響により授業内容を変更する場合がある。			
3. 履修上の注意 1. 事前授業および現地実習（3泊4日）に全日程に参加できることを履修の条件とする。 2. 受講希望者はOh-o!Meijiのアンケート機能から、事前受付期間（4月初旬）に申し込むこと。定員超過の場合は抽選となる。 3. 事前受付期間（4月初旬）の昼休みの時間帯に、対面でのガイダンスを実施予定。抽選となった場合は、対面ガイダンス出席者を優先する。 4. 受講を認められた学生は、特別な理由がない限りキャンセル（履修削除）はできない。 5. 4月に実施される学内の健康診断を必ず受診すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 1. 日頃から自分の心身の状態に気を配り、実習当日は心身のコンディションを整えた上で参加すること。 2. 生活環境周辺の草花や四季の変化、天候の変化など、身近な自然に気づく視点を持つこと。 3. 日常生活の中で環境に配慮した行動（ゴミの削減、資源の有効活用、環境負荷の低い製品の購入など）に心掛けること。			
5. 教科書 特定の教科書は使用しない。			
6. 参考書 『野外教育入門シリーズ第1巻』星野敏男・金子和正監修（杏林書院）2011.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎日の実習日誌に、コメントをフィードバックする。			
8. 成績評価の方法 事前授業および現地実習（3泊4日）に全日程に参加できることを単位修得の条件とする。 その上で、事前授業と実習中の取り組み状況60％（主体性と実行力、協働する力）、実習日誌20％、レポート20％により総合的に評価する。			
9. その他			

5 実習関連科目

実習授業の運営について（注意事項）

社会情勢・災害・感染症拡大等の理由により、安全性が確保できないと学部が判断した場合は、実習を中止します。

実習を中止する場合は、履修取消を行うことがあります。中止の場合の渡航費等キャンセル料について、自己負担が生じる可能性があります。

科目ナンバー：(BA)MAN975J			
グローバル・サービスラーニングA			小 関 隆 志
2 単位	1 年次	春学期集中	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：ビジネスマインドと社会貢献マインドを併せ持つグローバル人材の育成のために開発途上国を含む海外の様々なコミュニティを拠点に実施されるボランティア実習プログラムに参加し、専門家や教員の指導を受けつつ、主体的に具体的な社会課題を解決するための社会貢献活動を行います。 到達目標：経済状況や文化・生活習慣も異なる海外の現場でボランティアを体験することで、社会貢献マインドを醸成し、現地住民・学生との交流やチームワークを通じて語学力やコミュニケーション能力、主体的な課題解決能力を強化します。			
2. 授業内容 (1) 事前学習 派遣先の国・地域（インドネシア共和国）の事情を理解し、現地での活動計画を立てるために、事前学習を実施します。 (2) 現地研修 インドネシア共和国・バリ島にて、孤児院での実態調査・教育活動、現地大学で同世代の人たちとの交流・意識調査、日本語学校（社会人対象）で生徒への日本語指導、バリ島の特徴を知るための調査（文化・歴史・食事など）を行う。時期は8～9月中の約2週間を予定しています。 (3) 事後研修 実習成果報告会に参加し発表を行います。			
3. 履修上の注意 日程及び活動内容の詳細、応募方法については、募集説明会にて示す予定です。 履修者の上限は15名とします。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前学習に参加し、派遣先の国・地域の事情、活動の意義と内容を理解するとともに、現地での活動計画を立てます。			
5. 教科書 なし			
6. 参考書 なし			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! MeijiシステムやLINEを利用してフィードバックを行います。			
8. 成績評価の方法 事前学習の参加状況（20%）、現地研修の状況（60%）、実習成果報告会（20%）を総合して評価します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN975J			
グローバル・サービスラーニングB			小 関 隆 志
2 単位	1 年次	秋学期集中	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：ビジネスマインドと社会貢献マインドを併せ持つグローバル人材の育成のために開発途上国を含む海外の様々なコミュニティを拠点に実施されるボランティア実習プログラムに参加し、専門家や教員の指導を受けつつ、主体的に具体的な社会課題を解決するための社会貢献活動を行います。 到達目標：経済状況や文化・生活習慣も異なる海外の現場でボランティアを体験することで、社会貢献マインドを醸成し、現地住民・学生との交流やチームワークを通じて語学力やコミュニケーション能力、主体的な課題解決能力を強化します。			
2. 授業内容 (1) 事前学習 派遣先の国・地域（フィリピン共和国）の事情を理解し、現地での活動計画を立てるために、事前学習を実施します。 (2) 現地研修 フィリピン共和国・セブ島にて、孤児院での支援活動、ストリートチルドレンへの給食配給活動などを行います。時期は2～3月中の約2週間を予定しています。 (3) 事後研修 実習成果報告会に参加し発表を行います。			
3. 履修上の注意 日程及び活動内容の詳細、応募方法については、募集説明会にて示す予定です。 履修者の上限は15名とします。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前学習に参加し、派遣先の国・地域の事情、活動の意義と内容を理解するとともに、現地での活動計画を立てます。			
5. 教科書 なし			
6. 参考書 なし			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! MeijiシステムやLINEを利用してフィードバックを行います。			
8. 成績評価の方法 事前学習の参加状況（20%）、現地研修の状況（60%）、実習成果報告会（20%）を総合して評価します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ACD316J			
リサーチ・リテラシーA〔M〕			加藤千恵子
2 単位	1 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標			
〈概要〉 情報化社会の進展により、膨大なデータがやりとりされる昨今では、データの収集、分析、活用に関わるデータサイエンスがより一層、重要性を増してきている。このような社会に生きる私たちには、データの利活用に関わるリテラシーを学ぶとともに、データの収集・分析のための実践的な技術を獲得することが求められているといえる。 本講義では、多様なデータ収集の手段となる、量的・質的な調査の実施に必要な知識とスキルの獲得を目指す。講義を通じた知識獲得に加えて、ExcelやSPSS等のソフトウェアを利用した演習課題により、量的・質的なデータ分析等のスキルの獲得を図る。 特に、定量的調査におけるデータ収集・分析手法については、ExcelやSPSS等を用いた分析の方法を映像付きで解説する。そのため、映像を繰り返し視聴しながら、自らソフトウェアを操作して分析のスキルを身に付けることができる。また、講義内容に関しても分からないことがある場合等は、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を利用して担当教員への質問、相談ができるようにする。 〈到達目標〉 量的調査・質的調査に関わる基礎知識や、調査のプロセスと手法、データ収集・分析の手法等、実際に調査を行うために必要な知識・スキルを獲得することを目指す。具体的には、社会調査の考え方や各種理論、調査の企画から報告書作成までのプロセス等を学び、様々な形式での調査の実施、データの収集、量的・質的なデータ分析と評価のスキルの獲得を目指す。知識・スキルの獲得状況については、各回の課題と、授業期間内に4回出題される演習課題（①Excel・SPSSによる基本統計量の計算、②Excel・SPSSによる量的データの統計解析、③ライブヒストリー法・ケーススタディによる質的データの分析、④Excel・SPSSによる質的データの統計解析）を通じて評価する。			
2. 授業内容			
第1回：社会調査とは、文献調査、調査の企画、データの性質、標本抽出〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回：量的調査と質的調査〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：量的調査の企画と設計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：量的調査のプロセスと手法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：Excel・SPSSによる基本統計量の計算〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：Excelによる統計解析①（t検定・相関分析）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：SPSSによる統計解析①（t検定・相関分析）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回：質的調査の企画と設計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：質的調査のプロセスと手法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：インタビュー法、面接法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：観察法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：ライブヒストリー法・ケーススタディ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：質的調査における統計的手法の適用/SPSSによる統計解析（カイ二乗検定）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意			
この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画をOh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。講義動画は原則毎週水曜日に Oh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。 なお、毎回の講義動画に対して、講義内容に関連した小課題への回答を求め、出席確認及び理解度確認を行う。また、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換および講義に関する質問・相談の場を設ける。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
ガイダンスにおいて授業予定が示されるので、授業の前後に当該の項目を学習すること。課題に対しては、参考書やWEBなども参考にしながら、完全に理解した上で回答を行うことを望む。			
5. 教科書			
・加藤千恵子、喜岡恵子、渋谷英雄、杉本富利、田中暢子、田村三智子、鳥谷部達、「失敗しない社会調査法のすべて」、インデックス出版、(2010年)			
6. 参考書			
・石村友二郎、加藤千恵子、劉晨、「SPSSでやさしく学ぶアンケート処理 第5版」、東京図書、(2020年) ・石村貞夫、加藤千恵子、石村友二郎、「SPSSによる臨床心理・精神医学のための統計処理 第2版」、東京図書、(2015年) ・石村友二郎、加藤千恵子、劉晨、「Excelでやさしく学ぶ アンケート調査の統計処理2019」、東京図書、(2019年)			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
課題についての解説は、翌週の授業までに Oh-o! Meiji システムを通じて配信する。			
8. 成績評価の方法			
各回の小課題（50%）に加えて、講義内で4回の課題（50%）を出題する。これらの課題の提出状況および内容を踏まえて、成績評価を行う。			
9. その他			
授業で学ぶ量的・質的調査法は、マーケティングリサーチなどで使われる実践的知識であるので、多くの学生にとって有用な授業内容であると思われる。			

科目ナンバー：(BA)ACD316J			
リサーチ・リテラシーA〔M〕		加藤千恵子	
2 単位	1 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標			
<概要> 情報化社会の進展により、膨大なデータがやりとりされる昨今では、データの収集、分析、活用に関わるデータサイエンスがより一層、重要性を増してきている。このような社会に生きる私たちには、データの利活用に関わるリテラシーを学ぶとともに、データの収集・分析のための実践的な技術を獲得することが求められているといえる。 本講義では、多様なデータ収集の手段となる、量的・質的な調査の実施に必要な知識とスキルの獲得を目指す。講義を通じた知識獲得に加えて、ExcelやSPSS等のソフトウェアを利用した演習課題により、量的・質的なデータ分析等のスキルの獲得を図る。 特に、定量的調査におけるデータ収集・分析手法については、ExcelやSPSS等を用いた分析の方法を映像付きで解説する。そのため、映像を繰り返し視聴しながら、自らソフトウェアを操作して分析のスキルを身に付けることができる。また、講義内容に関して分からないことがある場合等は、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を利用して担当教員への質問、相談ができるようにする。 <到達目標> 量的調査・質的調査に関わる基礎知識や、調査のプロセスと手法、データ収集・分析の手法等、実際に調査を行うために必要な知識・スキルを獲得することを目標とする。具体的には、社会調査の考え方や各種理論、調査の企画から報告書作成までのプロセス等を学び、様々な形式での調査の実施、データの収集、量的・質的なデータ分析と評価のスキルの獲得を目指す。知識・スキルの獲得状況については、各回の課題と、授業期間内に4回出題される演習課題（①Excel・SPSSによる基本統計量の計算、②Excel・SPSSによる量的データの統計解析、③ライブヒストリー法・ケーススタディによる質的データの分析、④Excel・SPSSによる質的データの統計解析）を通じて評価する。			
2. 授業内容			
第1回：社会調査とは、文献調査、調査の企画、データの性質、標本抽出〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回：量的調査と質的調査〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：量的調査の企画と設計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：量的調査のプロセスと手法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：Excel・SPSSによる基本統計量の計算〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：Excelによる統計解析①（t検定・相関分析）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：SPSSによる統計解析①（t検定・相関分析）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回：質的調査の企画と設計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：質的調査のプロセスと手法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：インタビュー法、面接法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：観察法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：ライブヒストリー法・ケーススタディ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：質的調査における統計的手法の適用/SPSSによる統計解析（カイ二乗検定）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意			
この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画をOh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。講義動画は原則毎週水曜日に Oh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。 なお、毎回の講義動画に対して、講義内容に関連した小課題への回答を求め、出席確認及び理解度確認を行う。また、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換および講義に関する質問・相談の場を設ける。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
ガイダンスにおいて授業予定が示されるので、授業の前後に当該の項目を学習すること。課題に対しては、参考書やWEBなども参考にしながら、完全に理解した上で回答を行うことを望む。			
5. 教科書			
・加藤千恵子、喜岡恵子、渋谷英雄、杉本富利、田中暢子、田村三智子、鳥谷部達、"失敗しない社会調査法のすべて"、インデックス出版、(2010年)			
6. 参考書			
・石村友二郎、加藤千恵子、劉晨、"SPSSでやさしく学ぶアンケート処理 第5版"、東京図書、(2020年) ・石村貞夫、加藤千恵子、石村友二郎、"SPSSによる臨床心理・精神医学のための統計処理 第2版"、東京図書、(2015年) ・石村友二郎、加藤千恵子、劉晨、"Excelでやさしく学ぶ アンケート調査の統計処理2019"、東京図書、(2019年)			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
課題についての解説は、翌週の授業までに Oh-o! Meiji システムを通じて配信する。			
8. 成績評価の方法			
各回の小課題（50%）に加えて、講義内で4回の課題（50%）を出題する。これらの課題の提出状況および内容を踏まえて、成績評価を行う。			
9. その他			
授業で学ぶ量的・質的調査法は、マーケティングリサーチなどで使われる実践的知識であるので、多くの学生にとって有用な授業内容であると思われる。			

科目ナンバー：(BA)MAN295J			
フィールドスタディ A／B 【全体概要】			
2 単位	1 年次		和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標			
〈概要〉 フィールドスタディは、フィールドワーク（現地実習）を通じて一次資料の収集と、それに基づくレポートの作成やプレゼンテーションの実施を核とする実習科目である。A・Bでは、一次資料の収集、とりわけ現地・現場の観察・体験に重点が置かれる。			
〈到達目標〉 ①調査対象に即した課題設定ができるようになること。 ②その課題に対する問題意識を深めるために文献等を検索して読めるようになること。 ③フィールドワークを通じて一次資料を収集し、それを分析できること。 ④独自の考察を加えたレポート・プレゼンテーションを作成できること。			
2. 授業内容			
事前学習、フィールドワーク、事後学習の3つのプロセスからなる。事前学習は、フィールドワークを効果的なものにするために必須である。事後学習においては必ず成果物を提出しなければならない。 フィールドワーク（現地実習・調査、講義・演習）は概略、次のように行われる。 実習日程：各学期の授業開始日から授業終了日までの間に1－7日間。複数回の実習が行われることもある。なお、特別な事情により休業期間に実施されること、7日間を超えることもある。 実習場所：主として国内。海外の場合もある。 募集人員：最大25名（最少開講人数4名）。 参加費用：交通費・宿泊費等。学部実習費から一部補助が申請した参加者に支給される。 募集方法：WEB（抽選）またはレポート。 科目の性格上、授業内容、授業運営方法について、担当者による多様性が大きいので、担当者の説明をよく聞くこと。			
3. 履修上の注意			
フィールドワークは集団で行うので、事前学習、事後学習も含め、規律を守り、他の履修者に迷惑をかけること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
担当教員による。			
5. 教科書			
担当教員による。			
6. 参考書			
担当教員による。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
各フィールドクラス内で個別、全体いずれかで講評が実施される。			
8. 成績評価の方法			
事前学習、フィールドワーク、事後学習の全過程を通じて評価が行われる。			
9. その他			
4月にフィールドスタディ履修希望者向けのガイダンスを実施するので、受講を考えている者は必ず出席すること。履修登録方法については、ガイダンス資料及び「経営学部履修の手引」を参照すること。 社会情勢・災害・感染症拡大等の理由により、安全が確保できないと学部が判断した場合は、実習を中止する。実習を中止する場合は、「履修取消」を行うことがある。中止の場合の渡航費等キャンセル料について、自己負担が生じる可能性がある。			

科目ナンバー：(BA)MAN295J			
フィールドスタディ A		菊地端夫	
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：人と場所をつなぎ、まちをデザインする取り組みの実践を学ぶ：岡山市奉選町の事例から 本講義では、岡山県岡山市の中心商店街で展開されているまちづくりを題材に、フィールドワークを通じた知見や資料の収集と、それに基づくレポートの作成という一連のプロセスを経験する。岡山市内の奉選町を拠点に人と人、人と場所をつなぎ、まちをデザインする取り組みを実践している組織（本学卒業生も中心にかかわっている企業）を訪問し、その取り組みや考え方について学ぶ予定である。 講義内容は大きく分けて「事前学習」、「調査実習」、「事後報告・まとめ」に分かれる。「事前学習」では、テーマ毎にグループに分かれ、フィールドワーク先の下調べを実施し、グループ毎の報告により実習先の理解を深め、質問項目を設定する。「実習」は、岡山市への訪問である。「事後報告」はグループ毎に実習先での学習内容をまとめて報告するとともに、実習先へレポートを提出する。 本講義により、受講生が事前学習と現地実習、事後のまとめを通じて体験的に理解することを到達目標とする。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：訪問先の選定 第3回：事前学習 第4回：事前学習 第5回：事前学習 第6回：事前学習 第7回：現地調査 第8回：現地調査 第9回：現地調査 第10回：現地調査 第11回：報告まとめ 第12回：報告まとめ 第13回：報告まとめ 第14回：報告会 実習日程：5月下旬に3泊4日で実施予定 実習場所：岡山県岡山市および周辺 募集人数：12名以内（最少催行人数4名） 参加費用：約5万円（内訳：交通費・宿泊費）。（学部から実習終了後に旅費助成あり） 募集方法：レポートによる選考。Oh-o!Meij「アンケート」にレポート提出の頁を設ける。「本FSの志望動機」を800字程度でまとめ、期日までに提出すること。提出時期、場所等の詳細は履修希望者ガイダンスで説明するので必ず出席・視聴すること。			
3. 履修上の注意 フィールドワークを初めて経験してみたい1・2年生の履修を勧める。調査先では、明治大学経営学部学生の代表として礼儀正しく接すること。東京と実習地の間の移動は全員、同じ新幹線を利用する（一括手配、支払いは各自）。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回講義で配布する資料や新聞記事等を精読し、復習を行うこと。不明な点があれば講義前後に質問をすること。			
5. 教科書 特に定めない。			
6. 参考書 特に定めない。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終授業日に講評を行う。			
8. 成績評価の方法 講義への貢献50％、レポート50％。現地調査へ参加することが単位取得の条件となる。			
9. その他 4月にフィールドスタディ履修希望者向けのガイダンスを実施する。担当教員が履修希望学生の募集方法を含め詳細を説明するので、受講を考えている者は必ず出席・視聴すること。履修登録方法については、ガイダンス資料及び「経営学部履修の手引」を参照すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN295J			
フィールドスタディ B			原 田 将
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 (概要) インドネシアにおける日本企業のマーケティング戦略を調査する。 (目標) インドネシア市場における日本企業の課題を理解すること。また、自ら調査設計することを通じて、社会人として、そしてグローバル人材として不可欠である自主性を身に着けること。			
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨシ 第2-3回 訪問先の決定 第4-7回 事前研究 第8-13回 現地調査 第14回 最終報告会 実習日程：2月下旬 実習場所：インドネシア・ジャカルタ等 募集人数：20名以内（最小催行人数4名） 参加費用：25万円程度 募集方法：レポート選考。800字程度の「志望動機」を提出すること（詳細は履修希望者ガイダンスで説明する）。			
3. 履修上の注意 観光が目的ではない。事前研究や現地調査を通じて、日本企業の現状について明らかにすることが目的である。また、自分たちで調査を設計・実行するので、主体性が求められる。同時に協調性も必要となる。特に、集団で海外に行くため、自分勝手な行動は認めない。 海外調査は想定外のトラブルがつきものである。そうした場合に柔軟に対応できることが必要である。また、そのことを各自、十分自覚し、大学が用意した「大学ならびに担当教員の免責条項」に署名・捺印（未成年の場合は保護者も）する必要がある。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 調査対象企業について、各グループで事前に調べる。また、インドネシア市場、および東南アジア市場についても調べておくこと。			
5. 教科書 特になし。			
6. 参考書 特になし。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 主体的な取り組み30％，事前研究30％，研究報告書40％。			
9. その他 無断欠席は認めない。また、繰り返しになるが、自分勝手な行動も認めない。全員で協力しながら、主体的に取り組むこと。 4月にフィールドスタディ履修希望者向けのガイダンスを実施するので、受講を考えている者は必ず出席すること。履修登録方法については、ガイダンス資料及び「経営学部履修の手引」を参照すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN295J			
フィールドスタディ B			中 澤 高 志
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：自らなりわいを創る <概要> フィールドスタディは、フィールドワークを通じた一次資料の収集と、それに基づくレポートの作成やプレゼンテーションの実施を核とする実習科目である。具体的には、企業、自治体、NPO、特定地域の住民などの具体的な対象に即して調査課題を設定し、二次資料の収集・分析、フィールドワークを通じた一次資料の収集・分析、諸資料に基づく実証的なレポート作成といった一連の作業を、学生が主体的に実施するものである。 <到達目標> 1. 調査対象に即した課題設定ができるようになること 2. その課題に対する問題意識を深めるために文献等を検索して読むこと 3. 統計などの二次資料を分析する技術を身につけること 4. フィールドワークを通じて一次資料を収集し、それを分析する手法を学ぶこと 5. 独自の考察を加えたレポート・プレゼンテーションを作成すること 今回は、フィールドスタディBとしたので、1年生も積極的に履修し、少人数教育の機会を得てほしいと思う。			
2. 授業内容 自らなりわいを創る 「田舎暮らしは魅力的だが、仕事はどうする？」と考えるとき、どうしても「雇われて働く」という選択肢にとらわれがちである。しかし、地方都市でも、雇われるのではなく、自らなりわいを創り出すことで、日々自分らしく暮らしている人々が現れ始めている。今回のフィールドスタディでは、行政の取り組みに加え、創業者の方々へのインタビュー調査を試み、フィールドワークの面白さを味わってもらうことを目的とする。創業者たちのバイタリティ溢れる生きざまに接することで、オルタナティブな生活の可能性について考えてみたい。 事前学習の予定 第1回 インTRODクシヨシ 第2～3回 対象地域に関する基礎文献講読 第4～6回 地域分析 第7回 現地実習の準備 実習日程：1月末 実習場所：長野県上田市または大分県別府市 募集人数：20人以内（最少催行人数4名） 参加費用：大学からの補助を差し引くと1万円程度 募集方法：レポートによる選考。Oh-olMeiji「アンケート」にレポート提出の項を設ける。詳細は履修希望者ガイダンスで説明する。 事前学習及びレポート：おおむね隔週で実施する。事前学習では、エクセルを使った地域分析に加え、統計データを地図化する手法について学ぶのが特徴である。事後にレポートの提出を求める。大学から実習費の補助を受けるため、レポートの提出は必須である。			
3. 履修上の注意 担当教員は地理学を専門にしているので、場所や地域に関わる諸課題・諸問題について調査・研究する技術を身につけたいと考えている受講者を希望する。とくに、大教室の講義では得られない学びの場を希望する人の積極的な参加を期待している。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 この講義では、ほぼ毎回のよう作業や発表が科せられるし、講義時間外にフィールドワークに行く必要があることを認識すること。			
5. 教科書 指定しない。			
6. 参考書 指定しない。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義の中で行います。			
8. 成績評価の方法 フィールドワーク50％，レポート50％。なお、特段の事情がない限り、事前学習に毎回出席し、課題をこなすことが、フィールドワーク参加の前提となる。			
9. その他 4月にフィールドスタディ履修希望者向けのガイダンスを実施するので、受講を考えている者は出席すること。履修登録方法については、ガイダンス資料及び「経営学部履修の手引」を参照すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN295J			
フィールドスタディ B			森田直美
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 メインターマ：産業観光の可能性（富山県高岡市） サブテーマ：公共文化施設による地域振興（石川県金沢市） 〈概要〉 フィールドスタディは、フィールドワーク（現地実習）を通じた一次資料の収集と、それに基づくレポートの作成やプレゼンテーションの実施を核とする実習科目である。 本授業では、富山県高岡市と石川県金沢市を訪問する。 高岡市は江戸時代以降、鋳物や漆器を主要産業として栄えてきた。近年では、その伝統産業を軸とした「産業観光」で着実な成果を挙げている。また、現代の生活に馴染む商品作りや、国内だけでなく海外をも視野に入れた販路の拡大を意欲的に図っている点も注目に値する。 また、石川県金沢市が2004年に「新しいまちの賑わいの創出」を目指して設立した21世紀美術館は、市立美術館にもかかわらず、国内外から多くの観光客を呼び込むとともに、地元の人々に対してもさまざまなメリットをもたらしている。公共文化施設による地域振興の最先端を学ぶことができる好例である。 事前・事後学習と実地見聞を通して、伝統産業・文化・アートによるまちづくり・ものづくりの例を学ぶことが本フィールドワークの主要な目的・目標である。 〈到達目標〉 ①調査対象に即した課題設定ができるようになること。 ②その課題に対する問題意識を深めるために文献等を検索して読めるようになること。 ③フィールドワークを通じて一次資料を収集し、それを分析できること。 ④独自の考察を加えたレポート・プレゼンテーションを作成できること。			
2. 授業内容 概ね以下の内容で進めるが、進行の過程で各回の内容を入れ替える場合がある。 第1回 今後の授業の進め方について 第2回 高岡市、金沢市について 第3回 事前学習の担当分担 第4、5回 担当ごとに事前調査 第6回 事前学習発表会、現地でのスケジュール確認 第7～10回 フィールドワーク（現地での講義やディスカッションを含む） 第11、12回 事後学習発表会準備 第13回 事後学習発表会 第14回 半期のまとめ 実習日程：10月下旬～11月上旬頃に2泊で実施（具体的な日程は訪問先との調整による） 実習場所：富山県高岡市、石川県金沢市 募集人数：7～10名程度（最少催行人数4名） 参加費用：4～5万円程度（交通費・宿泊費・現地での活動費など（実施後に学部の補助（2万円）あり）） 募集方法：レポートによる選考。Oh-olMeiji「アンケート」にレポート提出の頁を設ける。詳細は履修希望者ガイダンスで説明する。 注意事項：履修希望者は4月のフィールドスタディーガイダンスに必ず参加すること。			
3. 履修上の注意 事前学習から成果報告まで学生主体で進めるため、特段の理由がない限り欠席せず、他の受講生と協力し、責任をもって行動することが求められる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：フィールドスタディに向けて、事前学習やアポイント取得などを行う 復習：調査内容をまとめ、成果発表資料の作成を行う			
5. 教科書 適宜プリントを配布する。			
6. 参考書 日本遺産・高岡 公式サイト https://shibori-kaikan.com/arimatsu-isan/ 金沢21世紀美術館 公式サイト https://www.kanazawa21.jp/ その他、授業時に紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 適宜、受講生の取り組みに対してアドバイスやサポートを行う。			
8. 成績評価の方法 事前学習、フィールドワーク、事後学習への貢献度70％ 期末レポート30％ 特段の理由がない限り遅刻や欠席をせずに事前・事後学習に貢献し、フィールドワークに参加することが単位取得に必須となる。			
9. その他 4月にフィールドスタディ履修希望者向けのガイダンスを実施する。担当教員が詳細を説明するので、受講を考えている場合は出席すること。履修登録方法については、ガイダンス資料及び「経営学部履修の手引」を参照すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN295J			
フィールドスタディ B			高 巖
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈テーマ〉 稲盛哲学を学ぶ 〈概要〉 本講義では、京セラを創業した稲盛和夫氏の経営哲学、人生哲学、社会哲学などを学ぶ。氏は、京セラ創業のみならず、KDDIの創業、日本航空の再生にも尽力され、日本における「経営の神様」と呼ばれてきた。氏の近著『経営：稲盛和夫、原点を語る』（ダイヤモンド社）を読み込み、その仕上げとして、12月を目途に、京都の「稲盛ライブラリー」を訪問する。 〈到達目標〉 これから大学にて経営学を学ぶ者として、またやがて社会人として世に出ていく者として、あるべき心構えを学ぶことが本講義の目的である。			
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨン 第2回 学生による報告 解説と講義 第3回 学生による報告 解説と講義 第4回 学生による報告 解説と講義 第5回 学生による報告 解説と講義 第6回 学生による報告 解説と講義 第7回 学生による報告 解説と講義 第8回 学生による報告 解説と講義 第9回 学生による報告 解説と講義 第10回 学生による報告 解説と講義 第11回 京都、稲盛ライブラリーの見学 第12回 学生による報告 解説と講義 第13回 学生による報告 解説と講義 第14回 学生による報告 解説と講義 実習場所：稲盛ライブラリー（1回実施） 募集人数：4名 実習先までの交通費等は大学のルールに従う 募集方法：WEB履修登録（抽選）			
3. 履修上の注意 学生は事前準備に多くの時間を費やさなければならない。そのことを理解した上で履修すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表を担当する学生は、該当箇所に関するレジュメを作成し発表を行う。 参加者も、必ず、発表箇所をしっかりと読み込んで出席すること。			
5. 教科書 『経営：稲盛和夫、原点を語る』（ダイヤモンド社）2600円（＋税）			
6. 参考書 高巖他著『日本航空の破綻と再生』ミネルヴァ書房, 3800円（＋税）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各学生が行うに発表に対し、担当教員が授業中にコメントを行う			
8. 成績評価の方法 発表内容 50%、最終レポート50% 学期末には、稲盛哲学で学んだことを最終レポート（約4000字）として提出すること。これらを評価し、これをコミットメントの点数とする。			
9. その他 履修希望者は、初回オリエンテーションに必ず出席すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN395J			
フィールドスタディC／D 【全体概要】			
2 単位	2 年次		
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 フィールドスタディは、フィールドワーク（現地実習）を通じた一次資料の収集と、それに基づくレポートの作成やプレゼンテーションの実施を核とする実習科目である。C・Dでは、学生の主体的な企画・運営と、成果物の作成に重点が置かれる。 〈到達目標〉 ①調査対象に即した課題設定ができるようになること。 ②その課題に対する問題意識を深めるために文献等を検索して読めるようになること。 ③フィールド「ワークを通じて一次資料を収集し、それを分析できること。 ④独自の考察を加えたレポート・プレゼンテーションを作成できること。			
2. 授業内容 事前学習、フィールドワーク、事後学習の3つのプロセスからなる。事前学習は、フィールドワークを効果的なものにするために必須である。事後学習においては必ず成果物を提出しなければならない。 フィールドワーク（現地実習・調査、講義・演習）は概略、次のように行われる。 実習日程：各学期の授業開始日から授業終了日までの間に1－7日間。複数回の実習が行われることもある。なお、特別な事情により休業期間に実施されること、7日間を超えることもある。 実習場所：国内外 募集人員：最大25名（最少開講人数4名）。 参加費用：交通費・宿泊費等。学部実習費から一部補助が申請した参加者に支給される。 募集方法：WEB（抽選）またはレポート。 科目の性格上、授業内容、授業運営方法について、担当者による多様性が大きいので、担当者の説明をよく聞くこと。			
3. 履修上の注意 フィールドワークは集団で行うので、事前学習、事後学習も含め、規律を守り、他の履修者に迷惑をかけないこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 担当教員による。			
5. 教科書 担当教員による。			
6. 参考書 担当教員による。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各フィールドクラス内で個別、全体いずれかで講評が実施される。			
8. 成績評価の方法 事前学習、フィールドワーク、事後学習の全過程を通じて評価が行われる。			
9. その他 4月にフィールドスタディ履修希望者向けのガイダンスを実施するので、受講を考えている者は必ず出席すること。履修登録方法については、ガイダンス資料及び「経営学部履修の手引」を参照すること。 社会情勢・災害・感染症拡大等の理由により、安全が確保できないと学部が判断した場合は、実習を中止する。実習を中止する場合は、「履修取消」を行うことがある。中止の場合の渡航費等キャンセル料について、自己負担が生じる可能性がある。			

科目ナンバー：(BA)MAN395J			
フィールドスタディC		佐々木 聡	
2 単位	2 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：京都企業の歴史と現在 <概要> この授業では、日本の各地域の有力企業（製造業やサービス業）を訪ねし、聞き取り調査や現場の見学を実施する。 <到達目標> ① 経営者や従業員への聞き取り調査の方法を、実際に学ぶ。 ② 経営者の経営理念や従業員の仕事の理念やモットーを、聞き手として概念的に再構築する。 ③ 経営者や従業員の企業家的資質（アントルプレナールシップ）を理解する。 ④ 経営者や従業員の理念や企業家的資質を自らの将来設計の基盤の一部とする。			
2. 授業内容 コロナ禍を経験し、AIの活用とDXが進展する現在、大企業も中小企業も事業展開の見直しが進められている。そうしたなかで、従来の事業の強みと特長を活かしながら、日本の伝統や文化を国際的に広く発信したり、新しい構想や技術によって積極的なサービスを提供する企業が増えているといえよう。この授業では、そうした多くの企業のなかでも、京都企業に注目し、本社や製造現場やその関係部署（史料館ほか）を訪問し、事業展開の歩みや現在の経営方針、製造現場の特長などについて学ぶ。その際、経営者や現場の主たる従業員への質問を行うことによって、より理解を深める。当該企業の経営発展の歩みと現状を理解することで、企業の来し方の延長線上にある近未来像も展望したい。 【事前・事後学習】 （各100分、ZOOMによるオンライン・リアルタイム型授業） 第1回 今年度の予定と準備について 第2回 訪問先の経営史と現状① 第3回 訪問先の経営史と現状② 第4回 訪問先の経営史と現状③ 第5回 事前学習のまとめ 第6回 事後学習（学習の概括と討論） 【実地調査＋講義・演習】 （実習：240分×3日、講義・演習：200分×2日） 実習・現地講義日程：2025年7月3日から5日予定 実習場所（予定：変更の可能性もあり）：京都府（川島織物、オムロン京都太陽【障害者雇用製造現場】、オムロン草津工場） 募集人数：14名以内（最少催行人数4名） 参加費用：補助額（経営学部から補助あり）と自己負担についてオンライン事前学習時に説明の予定 募集方法：レポートによる選考。Oh-o!Meiji「アンケート」レポート提出の頁を設ける詳細は履修希望者ガイダンスで説明する。			
3. 履修上の注意 現地調査の前には、相当な事前学習が必要であり、グループの一員として責任ある学習姿勢が求められる。事前学習のプレゼンテーションと、調査後の課題レポートは必要条件である。履修登録方法については、ガイダンス資料及び「経営学部履修の手引」を参照すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前学習では、訪問先についてのグループ学習とその準備と発表が必要である。講義時間以外にも学習時間が必要である。準備の事前授業は、ZOOMによるリアルタイム型で実施する予定である。			
5. 教科書 特に指定しないが、調査対象企業の『会社史』などは事前に調べておくこと。			
6. 参考書 特になし。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内あるいはOh-o!Meijiを通じてフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 事前学習＋平常点（20%）、調査実習（60%）、事後の課題レポート（20%）として総合的に判定する。 したがって、実習に参加できなかった場合は、単位取得不可となる。			
9. その他 4月の初旬にフィールドスタディ履修希望者向けオンラインのガイダンスを実施するので、受講を考えている者は必ず内容を確認すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN395J			
フィールドスタディC			新 宅 純 二 郎
2 単位	2 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：ものづくり現場の観察 〈概要〉 フィールドスタディは、フィールドワークを通じた一次資料の収集と、それに基づくレポートの作成やプレゼンテーションの実施を核とする実習科目である。フィールドスタディCでは、教員が2か所の製造業系企業の現場（工場とは限らない）をアレンジするので、見学先の産業や企業について、事前に調査して、どのような観点で現場を見学すればよいかなど、課題設定する。また、現場の見学時には、現場で得られる情報を正確に記録し、事後的にそれらを分析したレポートを作成する。 〈到達目標〉 1. 調査対象について、事前調査のために、適切な文献・資料などを収集整理する能力を身に付けること。 2. 収集した文献・資料をもとに、現場観察につながる課題設定ができること。 3. 現場で聞いたこと、見たことなどを、フィールドノートとして詳細かつ正確な記録を残すこと。 4. 事前学習とフィールドノートをもとにして、適切なレポートを作成できること。			
2. 授業内容 製造業のものづくり現場では、各産業、各企業が置かれた状況のなかで、様々な問題解決が日々実施されている。その問題は、設計、部品材料調達、コスト、品質、納期、労働、環境など様々である。現場で、どのような問題にどのように対処しているかについて、現場観察を通じて学んでいく。2回の異なる現場観察を前提にして、以下のような構成の学習を2ラウンドまわす予定である。実際に訪問する企業は授業開始時に発表する予定である。 第1回 ガイダンス 第2回 基礎講義 第3回 調査先企業Aの事前調査 第4回 調査先企業Aの事前調査 第5回 調査先企業Aの事前調査 第6回 企業Aの現場調査 第7回 企業A調査のディスカッション 第8回 企業A調査の報告 第9回 調査先企業Bの事前調査 第10回 調査先企業Bの事前調査 第11回 調査先企業Bの事前調査 第12回 企業Bの現場調査 第13回 企業B調査のディスカッション 第14回 企業B調査の報告 募集人数：16名程度（最少催行人数 4 名） 参加費用：授業開始時に指示。 募集方法：WEB（抽選）			
3. 履修上の注意 製造業に対する問題意識や関心が強いこと、現場でのフィールドノート作成に意欲があることが求められる。現場訪問は学期中の平日（できる限り本授業と同じ曜日）の平日か終日を使うことになるので、その日は必ず現場訪問に参加すること。現場訪問ができなかった場合は、評価の対象から外れることになる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 生産マネジメントの基礎について学んでおくことが望ましい。			
5. 教科書 とくになし。			
6. 参考書 藤本隆宏『生産マネジメント入門』日本経済新聞社 その他、必要に応じて指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内でフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 事前学習（20%）、調査実習とフィールドノート（60%）、事後のレポートと発表（20%）として総合的に判定する。			
9. その他 4月にフィールドスタディ履修希望者向けのガイダンスを実施するので、受講を考えている者は必ず出席すること。履修登録方法については、ガイダンス資料及び「経営学部履修の手引」を参照すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN395J			
フィールドスタディC			中 澤 高 志
2 単位	2 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：地方都市の現場 〈概要〉 フィールドスタディは、フィールドワークを通じた一次資料の収集と、それに基づくレポートの作成やプレゼンテーションの実施を核とする実習科目である。フィールドスタディCでは、企業、自治体、NPO、特定地域の住民などの具体的な対象に即して調査課題を設定し、二次資料の収集・分析、フィールドワークを通じた一次資料の収集・分析、諸資料に基づく実証的なレポート作成といった一連の作業を、学生が主体的に実施するものである。 〈到達目標〉 1. 調査対象に即した課題設定ができるようになること 2. その課題に対する問題意識を深めるために文献等を検索して読むこと 3. 統計などの二次資料を分析する技術を身に付けること 4. フィールドワークを通じて一次資料を収集し、それを分析する手法を学ぶこと 5. 独自の考察を加えたレポート・プレゼンテーションを作成すること			
2. 授業内容 全体を通じてのテーマは、「地方創生」の現場を見ること。 別府市でのテーマ：「地方都市のグローバル化」 別府市は、立命館アジア太平洋大学（APU）が立地したことにより、多様なバックグラウンドをもつ多数の留学生在が暮らす街となっている。また、古くから温泉観光地として知られた別府市は、今日ではインバウンド観光の誘致に力を入れている。こうして地方都市でありながら、グローバル化の洗礼を受けた別府市において、大学や市役所、地域社会はどのような対応をしているのであろうか。それを通じて、多文化共生社会とは何かについて考えてみたい。 佐伯市でのテーマ：「自らなりわいを創る」 「田舎暮らしは魅力的だが、仕事はどうする？」と考えるとき、どうしても「雇われて働く」という選択肢にとらわれがちである。しかし、佐伯市のような地方小都市でも、雇われるのではなく、自らなりわいを創り出すことで、日々自分らしく暮らしている人々が現れ始めている。そういう人たちのバイタリティ溢れる生きざまに接することで、オルタナティブな生活の可能性について考えてみたい。 事前学習の予定 第1回 イントロダクション 第2～3回 対象地域に関する基礎文献講読 第4～6回 地域分析 第7回 現地実習の準備 実習日程：（予定）8月上旬（3泊4日） 実習場所：大分県（別府市・佐伯市） 募集人数：20名以内（最少催行人数 4 名） 参加費用：大学からの補助を差し引くと3～4万円程度（学部から実習終了後に旅費助成あり） 募集方法：レポートによる選考。Oh-olMeiji「アンケート」にレポート提出の頁を設ける。詳細は履修希望者ガイダンスで説明する。 事前学習及びレポート：おおむね隔週で実施する。事前学習では、広く地域分析や地図化の手法の習得を目指す。事後にレポートの提出を求める。大学から実習費の補助を受けるため、レポートの提出は必須である。			
3. 履修上の注意 担当教員は地理学を専門にしているので、場所や地域に関わる諸課題・諸問題について調査・研究する技術を身につけたいと考えている受講者を希望する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 この講義では、ほぼ毎回のように作業や発表が科せられるし、講義時間外にフィールドワークに行く必要があることを認識すること。			
5. 教科書 指定しない。			
6. 参考書 指定しない。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義の中で行います。			
8. 成績評価の方法 フィールドワーク50%、レポート50%。なお、特段の事情がない限り、事前学習に毎回出席し、課題をこなすことが、フィールドワーク参加の前提となる。			
9. その他 4月にフィールドスタディ履修希望者向けのガイダンスを実施するので、受講を考えている者は出席すること。履修登録方法については、ガイダンス資料及び「経営学部履修の手引」を参照すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN395J			
フィールドスタディC			原田 将
2 単位	2 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ 日本の自動車産業の現在と未来 (概要) 日本のリーディング産業である自動車産業は、現在、100年に一度の大変革期を迎えているとされている。Connected (コネクティッド), Autonomous/Automated (自動化), Shared (シェアリング), Electric (電動化) といった「CASE」と呼ばれる新しい領域で技術革新が進む中、日本の自動車企業はどのように対応しようとしているのか。 本講義では、日本の自動車産業の歴史とともに、現在、日本の自動車企業が取り組んでいる課題について学ぶ。そのため、まず、事前調査として、日本の自動車産業の歴史、現在の市場状況などを二次資料で調査する。そこで得た知見をもとに、日本の自動車企業を訪問し、それをレポートとしてまとめる。 (目標) 事前研究、実地調査、報告書作成を通じて、日本の自動車産業の歴史、ならびに自動車企業の現代的問題について理解すること。また、自ら調査設計することを通じて、社会人として不可欠である自主性を身に着けること。			
2. 授業内容 ・事前研修 4月-6月中旬 調査対象企業のプレゼンとアポ取り ・実地調査 7月、もしくは8月末 ・報告書作成 (動画作成) 実地調査後すぐ 実習場所：トヨタ産業技術記念館 募集人数：20名以内 (最小催行人数4名) 参加費用：トヨタ産業技術記念館は1泊2日の予定である。それにかかる交通費・宿泊費がそれぞれ数万円程度必要となる。一部、学部からの補助あり。 募集方法：レポートによる選考。Oh-olMeiji「アンケート」にレポート提出の頁を設ける。レポート (1000字程度の「志望動機」) を提出すること (詳細は履修希望者ガイダンスで説明する)。			
3. 履修上の注意 第1回目のガイダンスには必ず出席すること。出席していない場合、履修を認めないことがある。出席できない場合は、必ず事前に連絡すること。また、「マーケティング基礎論」、「マーケティング・マネジメントA・B」のいずれかを受講していること、もしくはマーケティングに関する知識を既に有していること。 自分たちで調査を設計・実行するので、主体性が求められる。同時に協調性も必要となる。特に、集団で行動するため自分勝手な行動は認めない。			
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 調査対象企業について、各グループで事前に調べる。また、グローバル・マーケティングや国際経営についても勉強しておくこと。			
5. 教科書 特になし。			
6. 参考書 特になし。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内でフィードバックする。			
8. 成績評価の方法 主体的な取り組み30%, 事前研究30%, 研究報告書40%。			
9. その他 無断欠席は認めない。また、繰り返しになるが、自分勝手な行動も認めない。全員で協力しながら、主体的に取り組むこと。 4月にフィールドスタディ履修希望者向けのガイダンスを実施するので、受講を考えている者は必ず出席すること。履修登録方法については、ガイダンス資料及び「経営学部履修の手引」を参照すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN395J			
フィールドスタディC			古川 裕康
2 単位	2 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：スペインと日本の文化差異に関する実態調査 <概要> 世界で最も健康な人が多いとされるのがスペインである。その背景には働き方や食の特徴など文化的な側面があるとされている。本授業では企業経営において理解と把握が大変重要な「文化」という側面に焦点を絞り、その差異について実際に現地に赴き体感しながら学ぶプログラムである。本講義では実際に協力頂ける企業を探しながらヒアリングも実施し、経営活動における文化の影響を調査し、日本との差異についても学ぶ。価値観、生活様式、商習慣、消費者行動の文化的差異を理解する事は、国際的な経営活動において大変重要である。 <到達目標> 海外の現場に赴き、自身の眼や肌で世界の動向について感じてもらう。日本企業や、自治体が実施している努力や課題そして特徴について、海外の動向を調査する事で相対的に理解する。			
2. 授業内容 第1回 インTRODクション 第2～3回 訪問先の提案と担当班分け 第4～6回 視察先アポイントメントとマクロデータの収集・分析 第7～8回 事前研究報告 第9回 出発前、最終確認 第10～13回 現地調査 (約6日間) 第14回 最終報告会 実習日程 (予定)：9月上旬 (約6日間) 参加人数：募集人数15名以内 (最小催行人数：4名) 参加費用：約25万円 (円安や物価高の進展度合いによって増減する。学部から実習終了後に旅費助成あり)。 募集方法：WEB (抽選)			
3. 履修上の注意 本科目は海外調査を実施する。海外調査は国内調査以上に想定外の問題が発生しやすく大きなリスクを抱える。この点を十分に認識・理解し、大学が用意した「大学ならびに担当教員の免責条項」に署名・捺印 (未成年の場合は保護者のサイン) をすること。 出発前に6か月超有効のパスポート、ならびに査証 (ビザ) が必須。 参加者一人一人が十分に貢献しながら創り上げるフィールドスタディである。すべての授業について無断遅刻、無断欠席は認めない。積極的に協働すること。			
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 フィールドスタディの充実度合いは事前準備で決まる。そのため訪問都市に関するマクロデータ、そして展開企業に関するミクロデータの双方について徹底的に事前研究を実施し、仮説を持って海外調査に移る事。事前に構築した疑問点 (もしくは仮説) を定性調査によって検証し、最終報告会で報告する事。			
5. 教科書 なし。			
6. 参考書 なし。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 メールや下記URL (専用のフォーム) を用いてコミュニケーション & フィードバックを行う。 https://forms.gle/PQgpr5vS1Kxfj2656			
8. 成績評価の方法 平常点30%, 貢献度30%, 最終報告40%			
9. その他 4月にフィールドスタディ履修希望者向けのガイダンスを実施するので、受講を考えている者は出席する事。履修登録方法について、ガイダンス資料、および「経営学部履修の手引」を参照する事。			

科目ナンバー：(BA)MAN395J			
フィールドスタディD			石津 寿恵
2 単位	2 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ「様々な組織体によるCSR活動」 〈概要〉 学生が主体的・能動的に授業に参加し、「自分で考え、適切に行動し、仲間と協力し合う」という、実社会で必要不可欠な能力を身に付けることを目的とする。 具体的手法としては、特定の企業・組織を選択し、事業活動・CSR・財務状況などを調べまとめて、当該企業・組織を訪問してプレゼンテーションを行う。さらに訪問後には報告書を取りまとめる。 グループ学習になりますので、メンバーと協力し合って進めることになります。近年「協働」の機会は減ってきていると思いますが、協力し合う経験は面倒なことではなく、大きな達成感が得られる貴重な機会となり、将来必ず役に立つと思います。 ※参考 前回は下記のように実施しました(訪問先の都合で2回に分けました)。 ○9/1 神奈川県川崎市 センコー株式会社(トラック業界の課題解決ー連結トラックの可能性ー) ○10/17-10/19、広島県東広島市 安芸の山里農園はなふ(オーガニック食品の普及・発展) 愛媛県松山市 愛媛県観光物産協会(愛媛県の観光振興方策ーDMOの推進ー) 〈到達目標〉 下記①から⑤のin-putとout-putの方法を実践することにより、社会で役立つ力を身に付ける。 ①図書館、インターネット、直接質問など様々な情報収集の手段を取得する。 ②プレゼンテーション資料・報告書作成手法を習得する。 ③企業人の前でプレゼンテーションする。 ④学部プレゼンテーション大会に参加する。 ⑤報告書を作成する。 ★ただし、社会情勢等により現地訪問が実施できない可能性もある。その場合は、Zoomの活用の可能性も念頭に置くが、状況により可変的であることに留意してほしい。			
2. 授業内容 第1回 フィールドスタディの進め方、事前学習のグループ分け 第2回 訪問先企業・組織の事前学習 第3回 訪問先企業・組織の事前学習 第4回 スケジュール確認と諸手続き 第5回 事前研究報告 第6回 実地訪問(社会情勢等により現地に行かれない場合はZoom) 第7回 事後学習、報告書作成 第8回 報告書作成 実習日程：10月末から12月中旬までの中の2泊3日程度予定。 実習場所：関西方面予定 募集人数：15名以内(最少催行人数4名) 参加費用：第1回目の授業で説明します。 募集方法：レポートによる選考。詳細は4月の「当授業の紹介」で説明するので視聴すること。 (なお、ガイダンスがどのように実施されるかは、学部からのお知らせを良く確認してください)			
3. 履修上の注意 履修希望者は4月の「当授業の紹介」を必ず視聴すること。 (ガイダンスがどのように実施されるかは、学部からのお知らせを良く確認してください) 授業は秋学期ですが、秋学期が始まってすぐに具体的な活動ができるように、秋学期前にテーマや訪問先を決定します。 訪問希望企業・組織については、事前に自己事前学習をしておくこと。 履修希望者は、4月の履修登録前に必ず石津宛メールをください。 メールアドレスはtishizu@meiji.ac.jpです。 メールの件名は【FSについて】とし、本文には必ず年組番号氏名を記載してください。 メールがない場合、履修することはできません。			
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 4月の「当授業の紹介」を必ず視聴すること。 (ガイダンスがどのように実施されるかは、学部からのお知らせを良く確認してください) 訪問希望地域、企業について検討しておくようにしてください。			
5. 教科書 適宜伝達する。			
6. 参考書 適宜伝達する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 事前学習40点、フィールドスタディ訪問への貢献度40点、事後レポート20点(報告書を作成します)。			
9. その他 4月の「当授業の紹介」を必ず視聴すること。履修登録方法については、ガイダンス資料及び「経営学部履修の手引」を参照すること。 (ガイダンスがどのように実施されるかは、学部からのお知らせを良く確認してください)			

科目ナンバー：(BA)MAN395J			
フィールドスタディD			新宅 純二郎
2 単位	2 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：製造業現場のフィールドワーク 〈概要〉 フィールドスタディは、フィールドワークを通じた一次資料の収集と、それに基づくレポートの作成やプレゼンテーションの実施を核とする実習科目である。フィールドスタディDでは、2か所のフィールドワークを前提にして、見学先の産業や企業について、事前に調査して、どのような観点で現場を見学すればよいかなど、課題設定する。また、現場の見学時には、現場で得られる情報を正確に記録し、事後的にそれらを分析したレポートを作成する。訪問先は、製造業を考えているが、他の産業なども検討中である。 〈到達目標〉 1. 調査対象について、事前調査のために、適切な文献・資料などを収集整理する能力を身に付けること。 2. 収集した文献・資料をもとに、現場観察につながる課題設定ができること。 3. 現場で聞いたこと、見たことなどを、フィールドノートとして詳細かつ正確な記録を残すこと。 4. 事前学習とフィールドノートをもとにして、適切なレポートを作成できること。			
2. 授業内容 現場で、どのような問題にどのように対処しているかについて、現場観察を通じて学んでいく。2回の異なる現場観察を前提にして、以下のような構成の学習を2ラウンドまわす予定である。実際に訪問する企業は授業開始時に発表する予定である。 第1回 ガイダンス 第2回 基礎講義 第3回 調査先企業Aの事前調査 第4回 調査先企業Aの事前調査 第5回 調査先企業Aの事前調査 第6回 企業Aの現場調査 第7回 企業A調査のディスカッション 第8回 企業A調査の報告 第9回 調査先企業Bの事前調査 第10回 調査先企業Bの事前調査 第11回 調査先企業Bの事前調査 第12回 企業Bの現場調査 第13回 企業B調査のディスカッション 第14回 企業B調査の報告 募集人数：16名程度(最少催行人数4名) 参加費用：授業開始時に指示。 募集方法：WEB(抽選)			
3. 履修上の注意 企業経営に対する問題意識や関心が強いこと、現場でのフィールドノート作成に意欲があることが求められる。現場訪問は学期中の平日(できる限り本授業と同じ曜日)の半日か終日を使うことになるので、その日は必ず現場訪問に参加すること。現場訪問ができなかった場合は、評価の対象から外れることになる。			
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 経営学に関する基礎知識をきちんと理解していること、また、日頃から経営の現場に強い関心をもっていることが求められる。			
5. 教科書 とくになし。			
6. 参考書 必要に応じて指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内でフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 事前学習(20%)、調査実習とフィールドノート(60%)、事後のレポートと発表(20%)として総合的に判定する。			
9. その他 4月にフィールドスタディ履修希望者向けのガイダンスを実施するので、受講を考えている者は必ず出席すること。履修登録方法については、ガイダンス資料及び「経営学部履修の手引」を参照すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN395J			
フィールドスタディD		古川 裕 康	
2 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：アジアにおける製造業・サービス業調査（シンガポール） ＜概要＞ 歴史的にも貿易のハブとなってきたシンガポール。現在でも東南アジア地域の経済的な要衝となっている都市である。なぜこの地域が経済的な中心地として発展してきたのか、現在どのような形で貿易や経済が営まれているのか、近隣国や地域とどの様に関係性を維持しているのかについて学ぶプログラムである。本講義では実際に協力頂ける企業を探しながらヒアリングも実施し、アジア地域における経営活動の動向を調査し、日本との差異についても学ぶ。 ＜到達目標＞ 世界の現場に赴き、自身の眼や肌で世界の動向について感じてもらう。企業や自治体が実施している努力や課題そして特徴について、海外の動向を調査する事で理解する。			
2. 授業内容 第1回 インTRODakション 第2～3回 訪問先の提案と担当班分け 第4～6回 視察先アポイントメントとマクロデータの収集・分析 第7～8回 事前研究報告 第9回 出発前、最終確認 第10～13回 現地調査（約6日間） 第14回 最終報告会 実習日程（予定）：2月下旬～3月上旬（約6日間） 参加人数：募集人15名以内（最小催行人数：4名） 参加費用：約15万円（国際情勢の変化によって増減する。学部から実習終了後に旅費助成あり）。 募集方法：WEB（抽選）			
3. 履修上の注意 本科目は海外調査を実施する。海外調査は国内調査以上に想定外の問題が発生しやすく大きなリスクを抱える。この点を十分に認識・理解し、大学が用意した「大学ならびに担当教員の免責条項」に署名・捺印（未成年の場合は保護者のサイン）をすること。 出発前に6か月超有効のパスポート、ならびに査証（ビザ）が必須。 参加者一人一人が十分に貢献しながら創り上げるフィールドスタディである。すべての授業について無断遅刻、無断欠席は認めない。積極的に協働すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 フィールドスタディの充実度合いは事前準備で決まる。そのため訪問都市に関するマクロデータ、そして展開企業に関するマイクロデータの双方について徹底的に事前研究を実施し、仮説を持って海外調査に移る事。事前に構築した疑問点（もしくは仮説）を定性調査によって検証し、最終報告会で報告する事。			
5. 教科書 なし。			
6. 参考書 なし。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 メールや下記URL（専用のフォーム）を用いてコミュニケーション＆フィードバックを行う。 https://forms.gle/PQgpr5vS1Kxjf2656			
8. 成績評価の方法 平常点30％、授業への貢献度30％、プレゼンテーション40％			
9. その他 4月にフィールドスタディ履修希望者向けのガイダンスを実施するので、受講を考えている者は出席する事。履修登録方法について、ガイダンス資料、および「経営学部履修の手引」を参照する事。			

科目ナンバー：(BA)MAN152J			
DIGIT入門演習Ⅰ			歌代豊・鶴田靖人 高澤陽太郎
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ DIGIT入門演習Ⅰは、経営学部 of デジタル経営人材開発トラック (DIGIT) の必修科目 (入門科目群) である。 本科目では、データ分析の一連の流れを、演習を通して経験することによって、データ分析の基礎を学ぶ。演習では、1. 表計算ソフトを用いたデータ分析 (基本集計・クロス集計・データの可視化) 2. 統計や機械学習を用いたデータ分析の基礎 を学習する。また、これらの学習の際にはデータを用いた実践的な課題に取り組み、個人・グループでのプレゼンテーションを複数回行う。 ＜到達目標＞ 以下の3点が本演習の到達目標である。 1. 表計算ソフトに慣れ、データの集計・可視化を行えるようになる。 2. データサイエンスの基礎知識 (統計・機械学習等) を習得する。 3. 分析内容を自分の言葉でプレゼンテーションすることに慣れる。			
2. 授業内容 第1回：導入 (背景と動向・DIGIT概要) 第2回：表計算ソフトの基本操作 (統計量・情報集約) 第3回：データ分析個人演習 (1) 第4回：表計算ソフトの応用操作 (クロス集計・可視化等) 第5回：データ分析個人演習 (2) 第6回：データサイエンス基礎 第7回：データ分析個人演習 (3) 第8回：データサイエンス基礎 第9回：データ分析個人演習 (4) 第10回：データサイエンス応用 (応用手法の紹介) 第11回：データ分析グループ演習 (1) 第12回：データ分析グループ演習 (2) 第13回：データ分析グループ演習 (3) 第14回：総括			
3. 履修上の注意 本科目は共通シラバスを用いるが複数名の教員が担当する。担当教員により内容・進捗が多少異なる。科目ごとの内容については、第1回：導入 (背景と動向・DIGIT概要) で説明する。			
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 予習は必要ないが、演習内で扱った内容を習得した前提で次の演習に進むため、各回で習った内容は次回までには使いこなせるよう復習を必要とする。また、演習の時間内で個人・グループ演習が終わらなかった場合は、時間外にて分析・課題発表等の準備が必要となる。			
5. 教科書 無し			
6. 参考書 授業の中で適宜紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 個人演習・グループ演習については授業等で適宜レビューを行う。			
8. 成績評価の方法 授業取組 (30%)、個人演習レポート (40%)、グループ演習レポート (30%) により総合的に評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN152J			
DIGIT入門演習Ⅱ			歌代豊
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ DIGIT入門演習Ⅱは、経営学部 of デジタル経営人材開発トラック (DIGIT) の必修科目 (入門科目群) である。 「マーケティング施策検討のためのデータ分析」をテーマとした、データ・エビデンスに基づく課題解決型学習 (PBL) を行う。 まず、データ分析ツールとして用いるSPSSの演習によりデータ分析スキルを履修者個々人が習得する。 次にそれを基礎として、マーケティング施策検討の応用演習を行う。 具体的には、特定の商品企画チームに加わった状況を想定し、現状分析、施策仮説検討、調査設計、実査、基本集計、データ分析、施策提案という一連のプロセスをグループ演習として実施する。その中で、因子分析、クラスター分析を用いた市場セグメンテーション、クロス集計、平均値差分分析によるセグメント特徴分析等を試みる。 ＜到達目標＞ 下記の知識獲得と応用実践力開発を目標とする。 ・マーケティング施策仮説創出 ・調査設計 ・データ分析 ・分析結果の解釈に基づく施策立案			
2. 授業内容 01. イントロダクション 02. 課題提示 03. 2次情報調査・仮説設定 04. アンケート調査設計・調査票作成(1) 05. アンケート調査設計・調査票作成(2) 06. 分析手法・ツール基礎演習 (アンケート調査実施) 07. 分析 (基礎分析と傾向の確認1) 08. 分析 (基礎分析と傾向の確認2) 09. 分析 (セグメント特徴分析1) 10. 分析 (セグメント特徴分析2) 11. 中間報告 12. 分析結果に基づく提案検討(1) 13. 分析結果に基づく提案検討(2) 14. 最終プレゼンテーションとまとめ			
3. 履修上の注意 (1) 以下を履修条件とする ・DIGIT入門演習Ⅰを履修済みであること ・Excel の操作 (グラフ作成等) が可能なこと ・「確率や統計」の基礎を理解していること (2) 個人演習、グループ演習では分析ツールとしてSPSSを用いる。 (3) 積上型学習のため、またグループ演習を行うため、全ての回に出席することを前提とする。			
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 教科書の事前学習、二次情報の事前調査をした上で、授業で個人演習、グループ演習を行う。			
5. 教科書 無し			
6. 参考書 伊藤公一朗 (2017) 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』 光文社新書。 中室牧子・津川友介 (2017) 『「原因と結果」の経済学——データから真実を見抜く思考法』 ダイアモンド社。 中野崇 (2018) 『マーケティングリサーチとデータ分析の基本』 ずばる舎。 恩蔵直人・富田健司 (2022) 『1からのマーケティング分析 (第2版)』 碩学舎。 ※その他授業で適宜紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 個人演習・グループ演習については授業等で適宜レビューを行う。			
8. 成績評価の方法 授業取組 (30%)、個人演習レポート (40%)、グループ演習レポート (30%) により総合的に評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN152J			
DIGIT入門演習Ⅱ			高澤陽太郎
2単位	1年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> DIGIT入門演習Ⅱでは、経営の科学であるオペレーションズ・リサーチ（OR）の実践をテーマに、少人数の課題解決型学習（PBL: Project-Based Learning）を行う。 OR関連の書籍やケーススタディを題材に、各週担当者がゼミ形式で発表を行い、参加者全員で議論を深める。 データ分析ツールとして使用するソフトウェアは、受講生のレベルや興味に応じて決定する。候補例: Python、Excel など <目標> * 数理モデル的思考の習得 * データ分析の基礎力の向上 * プレゼンテーションスキルの向上 * 基本的なPCスキルの習得			
2. 授業内容 1. 導入 2. Pythonの基本操作 3. データ分析個人演習（1） 4. Pythonの応用操作 5. データ分析個人演習（2） 6. データサイエンス基礎 7. データ分析個人演習（3） 8. データサイエンス基礎 9. データ分析個人演習（4） 10. データサイエンス応用 11. データ分析グループ演習（1） 12. データ分析グループ演習（2） 13. データ分析グループ演習（3） 14. 総括			
3. 履修上の注意 担当の場合、ゼミの発表準備は十分に行うこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表担当の場合、ゼミの発表準備はグループでディスカッションし準備すること。			
5. 教科書 1.『Excelで学ぶOR』藤澤克樹・後藤順・安井雄一郎（オーム社） 2.『Pythonではじめる数理最適化 ―ケーススタディでモデリングのスキルを身につけよう―』岩永二郎・石原響太・西村直樹・田中一樹（オーム社）			
6. 参考書 なし			
7. 課題に対するフィードバックの方法 発表時に直接フィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 発表 70% 平常点（質疑応答等） 30%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN352J			
DIGIT実践演習			歌代 豊
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> DIGIT実践演習は、経営学部デジタル経営人材開発トラック (DIGIT) の必修科目 (応用科目群) である。 「マーケティング施策検討のためのデータ分析」をテーマとした、データ・エビデンスに基づく課題解決型学習 (PBL) を行う。 まず、データ分析ツールとして用いるSPSSの演習によりデータ分析スキルを履修者個々が習得する。 次にそれを基礎として、マーケティング施策検討の応用演習を行う。 具体的には、特定の商品企画チームに加わった状況を想定し、現状分析、施策仮説検討、調査設計、実査、基本集計、データ分析、施策提案という一連のプロセスをグループ演習として実施する。その中で、因子分析、クラスター分析を用いた市場セグメンテーション、クロス集計、平均値差分析によるセグメント特徴分析等を試みる。 <到達目標> 下記の知識獲得と応用実践力開発を目標とする。 ・マーケティング施策仮説創出 ・調査設計 ・データ分析 ・分析結果の解釈に基づく施策立案			
2. 授業内容 01. イントロダクション 02. 課題提示 03. 2次情報調査・仮説設定 04. アンケート調査設計・調査票作成(1) 05. アンケート調査設計・調査票作成(2) 06. 分析手法・ツール基礎演習 (アンケート調査実施) 07. 分析 (基礎分析と傾向の確認1) 08. 分析 (基礎分析と傾向の確認2) 09. 分析 (セグメント特徴分析1) 10. 分析 (セグメント特徴分析2) 11. 中間報告 12. 分析結果に基づく提案検討(1) 13. 分析結果に基づく提案検討(2) 14. 最終プレゼンテーションとまとめ			
3. 履修上の注意 (1) 以下を履修条件とする ・DIGIT入門演習 I /IIを履修済みであること ・Excel の操作 (グラフ作成等) が可能なこと ・「確率や統計」の基礎を理解していること (2) 個人演習、グループ演習では分析ツールとしてSPSSを用いる。 (3) 積上型学習のため、またグループ演習を行うため、全ての回に出席することを前提とする。			
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 教科書の事前学習、二次情報の事前調査をした上で、授業で個人演習、グループ演習を行う。			
5. 教科書 無し			
6. 参考書 伊藤公一朗 (2017) 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』 光文社新書。 中室牧子・津川友介 (2017) 『「原因と結果」の経済学——データから真実を見抜く思考法』 ダイヤモンド社。 中野崇 (2018) 『マーケティングリサーチとデータ分析の基本』 ずばる舎。 恩蔵直人・富田健司 (2022) 『1からのマーケティング分析 (第2版)』 碩学舎。 ※その他授業で適宜紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 個人演習・グループ演習については授業等で適宜レビューを行う。			
8. 成績評価の方法 授業取組 (30%)、個人演習レポート (40%)、グループ演習レポート (30%) により総合的に評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN352J			
DIGIT実践演習			高澤陽太朗
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> DIGIT実践演習では、経営の科学であるオペレーションズ・リサーチ (OR) の実践をテーマに、少人数の課題解決型学習 (PBL: Project-Based Learning) を行う。 OR関連のテーマを設定し、最終的に個人・グループにて具体的な成果物や実践的な提言をまとめることを目指す。 データ分析ツールとして使用するソフトウェアは各自が自由に設定可能である。 候補例: Python、Excel など <目標> - 応用的なデータ分析力の習得 - プレゼンテーションスキルの向上 - 実践的な問題解決能力の養成 - 計画遂行能力の向上 <注意> 受講には高澤のDIGIT 入門演習IIの単位取得済みである必要がある。			
2. 授業内容 1. 導入 2. Pythonの基本操作 3. データ分析個人演習 (1) 4. Pythonの応用操作 5. データ分析個人演習 (2) 6. データサイエンス基礎 7. データ分析個人演習 (3) 8. データサイエンス基礎 9. データ分析個人演習 (4) 10. データサイエンス応用 11. データ分析グループ演習 (1) 12. データ分析グループ演習 (2) 13. データ分析グループ演習 (3) 14. 総括			
3. 履修上の注意 担当の場合、ゼミの発表準備は十分に行うこと。			
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 発表担当の場合、ゼミの発表準備はグループでディスカッションし準備すること。			
5. 教科書 1. 『Excelで学ぶOR』 藤澤克樹・後藤順・安井雄一郎 (オーム社) 2. 『Pythonではじめる数理最適化 —ケーススタディでモデリングのスキルを身につけよう—』 岩永二郎・石原響太・西村直樹・田中一樹 (オーム社)			
6. 参考書 なし			
7. 課題に対するフィードバックの方法 発表時に直接フィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 発表 70% 平常点 (質疑応答等) 30%			
9. その他			

6 ICTリテラシー科目

各科目のシラバスは、情報関係シラバスを参照してください。

7 演習科目

履修開始年次	科目名
2 年次	演習 I
3 年次	演習 II A 演習 II B
4 年次	演習 III A 演習 III B

それぞれの演習のシラバスについては、Oh-o! Meijiシステムクラスウェブを参照してください。また、2 年次に実施される「専門演習入室選考試験」については、Oh-o! Meijiシステムのお知らせを参照してください。

8 全学共通総合講座

各科目のシラバスは、「全学共通総合講座シラバス」を参照してください。

9 経営学科
会計学科
公共経営学科

基礎専門科目

科目ナンバー：(BA)ACC111J			
簿記論Ⅰ（統一）			
浅野千鶴・大塚浩記・大野智弘・ 渋谷謙作・山浦裕幸・尹志煌			
2単位	1年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 簿記は企業の経済活動を貨幣数値によって組織的に記録，計算，報告する技術である。簿記を用いることにより，企業の状況を日常的に把握できるばかりでなく，損益計算書や貸借対照表などの財務諸表により，企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。そのため，簿記に関する知識は，組織の管理や活動を担う者にとって不可欠であり，経営学部の学生は，簿記に関する基本的な知識を確実に修得しておく必要がある。 〈到達目標〉 商店や商業を営む中小企業における簿記上の処理について，日商簿記検定3級レベル（一部2級レベルの内容を含む）の基本的な知識とスキルを身につけることを目標とする。			
2. 授業内容 簿記論はある程度確立した学問領域であるので，担当教員による授業内容および進行順序の違いはあまりない。授業はほぼ次のような内容と進度で進められる。 第1回 イントロダクション 第2回 簿記の目的と種類 第3回 簿記の基礎概念 第4回 仕訳と転記 第5回 決算 第6回 損益計算書と貸借対照表 第7回 現金，預金 第8回 現金過不足，小口現金 第9回 商品の売買 第10回 商品の払出単価 第11回 商品の棚卸と評価 第12回 売掛金と買掛金 第13回 その他の債権と債務 第14回 まとめ			
3. 履修上の注意 簿記の学習は積み重ねが大切である。授業には毎回必ず出席し，授業内容を確実に理解し身につけていくことに努めてもらいたい。また，学習に遅れが生じたら，「学習支援室」等を活用して速やかに遅れを取り戻すよう心がけて欲しい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論の授業では，それ以前に修得した知識とスキルを前提にして新たな内容が取り上げられていく。したがって，復習が重要であり，前回までの授業内容に不明な点がないかを，毎回の授業前に確認しておくことこそが予習となる。			
5. 教科書 担当者が指示する。			
6. 参考書 担当者が適宜推薦する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 担当者が指示する。			
8. 成績評価の方法 基本的には定期試験の成績により評価する。ただし，担当教員により，出席，小テスト，宿題・課題なども評価対象として加味される。その場合，原則として，定期試験80％，平常点20％で評価する。定期試験は，すべてのクラスについて，統一問題により同一日時に実施する。授業回数の1/3以上を欠席した場合は「T」評価とする。			
9. その他 授業には必ず電卓を持参すること。			

科目ナンバー：(BA)ACC111J			
簿記論Ⅱ（統一）			
浅野千鶴・大塚浩記・大野智弘・ 渋谷謙作・山浦裕幸・尹志煌			
2単位	1年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標			
〈概要〉 簿記に関する知識や理解は組織の管理や活動を担う者にとって不可欠のものである。そのため、経営学部の学生は学科を問わず簿記の基礎的な知識を備えていなければならない。簿記論Ⅱでは、簿記論Ⅰを踏まえてより複雑な取引を取り上げ、その簿記上の処理について学習する。また、財務諸表の概要についても学ぶ。			
〈到達目標〉 簿記論Ⅰに引き続き、商店や商業を営む中小企業における簿記上の処理について、日商簿記検定3級レベル（一部2級レベルの内容を含む）の基本的な知識とスキルを身につける。また、それとともに、損益計算書と貸借対照表の内容が理解できるようになることを目標とする。			
2. 授業内容			
簿記論はある程度確立した学問領域であるので、担当教員による授業内容および進行順序の違いはあまりない。授業はほぼ次のような内容と進度で進められる。 第1回 手形の振出、受入、取立、支払、手形記入帳 第2回 電子記録債権・電子記録債務、債権の譲渡 第3回 有形固定資産の取得と売却 第4回 有形固定資産の減価償却 第5回 有価証券の種類と期末評価 第6回 収益と費用の前受け・前払い・未収・未払い 第7回 貸倒損失と貸倒引当金、各種の引当金 第8回 資本金 第9回 利益剰余金、剰余金の配当 第10回 税金 第11回 伝票会計 第12回 決算修正と8桁精算表 第13回 財務諸表 第14回 まとめ			
3. 履修上の注意			
簿記論の授業では、それ以前に修得した知識とスキルを前提にして新たな内容が取り上げられていく。したがって、復習が重要であり、簿記論Ⅰの授業内容も含めて前回までの授業内容に不明な点がないかを、毎回の授業前に確認しておくことこそが予習となる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
担当者が指示する。			
5. 教科書			
担当者が指示する。			
6. 参考書			
担当者が適宜推薦する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
担当者が指示する。			
8. 成績評価の方法			
基本的には定期試験の成績により評価する。ただし、担当教員により、出席、小テスト、宿題・課題なども評価対象として加味される。その場合、原則として、定期試験80％、平常点20％で評価する。定期試験は、すべてのクラスについて、統一問題により同一日時に実施する。授業回数の1/3以上を欠席した場合は「T」評価とする。			
9. その他			
授業には必ず電卓を持参すること。			

科目ナンバー：(BA)ACC116J			
簿記論Ⅰ〔M〕 【メディア授業科目クラス】			浅野 千鶴
2 単位	1 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 簿記は企業の経済活動を貨幣数値によって組織的に記録、計算、報告する技術である。簿記を用いることにより、企業の状況を日常的に把握できるばかりでなく、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。そのため、簿記に関する知識は、組織の管理や活動を担う者にとって不可欠であり、経営学部の子生は、簿記に関する基本的な知識を確実に修得しておく必要がある。 <到達目標> 商店や商業を営む中小企業における簿記上の処理について、日商簿記検定3級レベル（一部2級レベルの内容を含む）の基本的な知識とスキルを身につけることを目標とする。			
2. 授業内容 授業はほぼ次のような内容と進度で進められる。 第1回 イントロダクション〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回 簿記の目的と種類〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 簿記の基礎概念〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 仕訳と転記〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 決算〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 損益計算書と貸借対照表〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 現金、預金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回 現金過不足、小口現金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 商品の売買〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回 商品の払出単価〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 商品の棚卸と評価〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 売掛金と買掛金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回 その他の債権と債務〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画を Oh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。 講義動画は原則毎週金曜日に Oh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して、小テストの実施やコメントシートの提出を求め、出席確認及び理解度確認を行う。 簿記の学習は積み重ねが大切である。講義動画は毎回必ず視聴し、授業内容を確実に理解し身に付けていくことに努めてもらいたい。また、学習に遅れが生じたら、「学習支援室」等を活用して速やかに遅れを取り戻すよう心がけて欲しい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論の授業では、それ以前に修得した知識とスキルを前提にして新たな内容が取り上げられていく。したがって、復習が重要であり、前回までの授業内容に不明な点がないかを、毎回の授業前に確認しておくことこそが予習となる。			
5. 教科書 担当者が指示する。			
6. 参考書 担当者が推薦する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 平常点と定期試験の内容を総合して評価する。具体的には平常点20%、定期試験80%の比率で評価する。定期試験は、すべてのクラスについて、統一問題により同一日に実施する。 なお、未視聴回数および小テストの未回答回数が3分の1を超える場合（第2回以降の講義において未視聴回数および小テストの未回答回数が5回以上の場合）には総合点の点数にかかわらず単位は付与しない。			
9. その他 受講にあたっては電卓を用意すること。			

科目ナンバー：(BA)ACC116J			
簿記論Ⅱ〔M〕 【メディア授業科目クラス】			浅野 千鶴
2 単位	1 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 簿記に関する知識や理解は組織の管理や活動を担う者にとって不可欠のものである。そのため、経営学部の子生は学科を問わず簿記の基礎的な知識を備えていなければならない。簿記論Ⅱでは、簿記論Ⅰを踏まえてより複雑な取引を取り上げ、その簿記上の処理について学習する。また、財務諸表の概要についても学ぶ。 <到達目標> 簿記論Ⅰに引き続き、商店や商業を営む中小企業における簿記上の処理について、日商簿記検定3級レベル（一部2級レベルの内容を含む）の基本的な知識とスキルを身につける。また、それとともに、損益計算書と貸借対照表の内容が理解できるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 授業はほぼ次のような内容と進度で進められる。 第1回 手形の振出、受入、取立、支払、手形記入帳〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回 電子記録債権・電子記録債務、債権の譲渡〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 有形固定資産の取得と売却〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 有形固定資産の減価償却〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 有価証券の種類・期末評価〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 収益と費用の前受け・前払い・未収・未払い〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 貸倒損失と貸倒引当金、各種の引当金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回 資本金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 利益剰余金、剰余金の配当〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回 税金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 伝票会計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 決算修正と8桁精算表〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回 財務諸表〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画を Oh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。 講義動画は原則毎週金曜日に Oh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して、小テストの実施やコメントシートの提出を求め、出席確認及び理解度確認を行う。 簿記の学習は積み重ねが大切である。講義動画は毎回必ず視聴し、授業内容を確実に理解し身に付けていくことに努めてもらいたい。また、学習に遅れが生じたら、「学習支援室」等を活用して速やかに遅れを取り戻すよう心がけて欲しい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論の授業では、それ以前に修得した知識とスキルを前提にして新たな内容が取り上げられていく。したがって、復習が重要であり、簿記論Ⅰの授業内容も含めて前回までの授業内容に不明な点がないかを、毎回の授業前に確認しておくことこそが予習となる。			
5. 教科書 担当者が指示する。			
6. 参考書 担当者が適宜推薦する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 担当者が指示する。			
8. 成績評価の方法 平常点と定期試験の内容を総合して評価する。具体的には平常点20%、定期試験80%の比率で評価する。定期試験は、すべてのクラスについて、統一問題により同一日に実施する。 なお、未視聴回数および小テストの未回答回数が3分の1を超える場合（第2回以降の講義において未視聴回数および小テストの未回答回数が5回以上の場合）には総合点の点数にかかわらず単位は付与しない。			
9. その他 受講にあたっては必ず電卓を用意すること。			

科目ナンバー：(BA)ACC111J			
簿記論Ⅰ〔M〕 【CAP限定初級クラス】			森田 広 大
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 簿記は企業の経済活動を貨幣数値によって組織的に記録、計算、報告する技術である。簿記を用いることにより、企業の状況を日常的に把握できるばかりでなく、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。そのため、簿記に関する知識は、将来の経済社会で活躍するために不可欠のものであり、会計プロフェッションとして活躍できる程度の簿記に関する知識を確実に修得しておく必要がある。 〈到達目標〉 日商簿記検定3級の知識とスキルを身につけ、簿記の基本的な処理を行えるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 授業はほぼ次のような内容と進度で進められる。 第1回 イントロダクション、企業会計の役割〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回 取引と仕訳〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 現金預金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 商品売買〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 簿記一巡の手続〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 売掛金と買掛金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 その他の債権債務〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回 手形〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 固定資産〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回 収益費用〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 税金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 資本金、利益剰余金、剰余金の配当〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回 伝票〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 決算〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画を Oh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。 講義動画は原則毎週月曜日に Oh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して、小テストの実施やコメントシートの提出を求め、出席確認及び理解度確認を行う。また、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設ける。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。 簿記の学習は積み重ねが大切である。講義動画は毎回必ず視聴し、授業内容を確実に理解し身に付けていくことに努めてもらいたい。また、学習に遅れが生じたら、「学習支援室」等を活用して速やかに遅れを取り戻すよう心がけて欲しい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論の授業では、それ以前に修得した知識とスキルを前提にして新たな内容が取り上げられていく。したがって、復習が重要であり、前回までの授業内容に不明な点がないかを、毎回の授業前に確認しておくことが予習となる。			
5. 教科書 説明ではレジュメを用います。復習用の教材として、次の問題集を用意してください。 『合格トレーニング日商簿記3級 ver. 15.0』			
6. 参考書 適宜推薦する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 担当者が指示する。			
8. 成績評価の方法 毎回の小テスト60％、期末レポート40％により、総合的に評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ACC111J			
簿記論Ⅱ〔M〕 【CAP限定初級クラス】			森田 広 大
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 簿記・会計に関する知識や理解は組織の管理や活動を担う者にとって不可欠であり、それらは将来必ず必要とされる。簿記論Ⅱでは、簿記論Ⅰを踏まえてより複雑な取引を取り上げ、その簿記上の処理について学習する。 〈到達目標〉 日商簿記検定2級（商業簿記）の知識とスキルを身につけ、企業の経営活動を適切に把握し処理できるとともに、財務諸表から企業の経営内容を読み取れるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 授業はほぼ次のような内容と進度で進められる。 第1回 イントロダクション、現金預金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回 手形の更改・不渡〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 手形・電子記録債権の裏書譲渡・割引〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 有価証券〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 固定資産〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 商品売買〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 引当金、収益・費用〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回 会社の純資産（資本）、税金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 リース会計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回 外貨建取引〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 決算〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 本支店会計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回 連結会計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画を Oh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。 講義動画は原則毎週月曜日に Oh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して、小テストの実施やコメントシートの提出を求め、出席確認及び理解度確認を行う。また、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設ける。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。 簿記の学習は積み重ねが大切である。講義動画は毎回必ず視聴し、授業内容を確実に理解し身に付けていくことに努めてもらいたい。また、学習に遅れが生じたら、「学習支援室」等を活用して速やかに遅れを取り戻すよう心がけて欲しい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論の授業では、それ以前に修得した知識とスキルを前提にして新たな内容が取り上げられていく。したがって、復習が重要であり、前回までの授業内容に不明な点がないかを、毎回の授業前に確認しておくことが予習となる。			
5. 教科書 説明ではレジュメを用います。復習用の教材として、次の問題集を用意してください。 『合格トレーニング日商簿記2級商業簿記 ver. 17.0』			
6. 参考書 適宜推薦する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 担当者が指示する。			
8. 成績評価の方法 毎回の小テスト60％、期末レポート40％により、総合的に評価する。			
9. その他 受講にあたっては必ず電卓を用意すること。			

科目ナンバー：(BA)ACC116J			
簿記論Ⅰ〔M〕 【CAP限定上級クラス】			小 俣 光 文
2 単位	1 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 簿記は企業の経済活動を貨幣数値によって組織的に記録、計算、報告する技術である。簿記を用いることにより、企業の状況を日常的に把握できるばかりでなく、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。そのため、簿記に関する知識は、将来の経済社会で活躍するためには不可欠であり、会計プロフェッションとして活躍できる程度の簿記に関する知識を確実に修得しておく必要がある。 〈到達目標〉 日商簿記検定2級程度の知識を身につけ、実際に企業の財務諸表が読めるだけの知識を習得することを目指す。			
2. 授業内容 第1回：簿記1巡の復習〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回：貸借対照表と損益計算書の作成〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：財務諸表の見方〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：税効果会計1〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：税効果会計2〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：現金預金の会計処理〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：銀行勘定調整表〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回：債権債務の会計処理〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：有価証券の会計処理1〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：有価証券の会計処理2〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：有形固定資産の会計処理〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：リース取引の会計処理〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：株式の発行、剰余金の配当と処分〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 a のみ：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画をOh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。講義動画は原則毎週金曜日にOh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して、小テストを実施し出席確認及び理解度確認を行う。また、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設ける。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論の授業では、それ以前に修得した知識とスキルを前提にして新たな内容が取り上げられていく。したがって、復習が重要であり、前回までの授業内容に不明な点がないかを、毎回の授業前に確認しておくことこそが予習となる。			
5. 教科書 毎回レジュメを配布する。			
6. 参考書 適宜推薦する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh！Meijiをとおしてコメントするとともに配信する動画において講評を行う。			
8. 成績評価の方法 毎回の小テストの成績によって評価する。 ※対面形式での試験は行わない。			
9. その他 毎回の問題を実際に解くこと。			

科目ナンバー：(BA)ACC116J			
簿記論Ⅱ〔M〕 【CAP限定上級クラス】			小 俣 光 文
2 単位	1 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 簿記・会計に関する知識や理解は組織の管理や活動を担う者にとって不可欠であり、それらは将来必ず必要とされる。簿記論Ⅱでは、簿記論Ⅰを踏まえて、企業集団の財務諸表である連結財務諸表を作成するための簿記上の処理について学習する。 〈到達目標〉 簿記論Ⅰに引き続き、日商簿記検定2級から1級程度の知識を身につけ、実際に問題が解けるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 第1回：簿記一巡の復習〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回：税効果会計の復習〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：精算表と財務諸表の作成〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：連結会計の基礎〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：投資と資本の相殺消去1〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：投資と資本の相殺消去2〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：投資と資本の相殺消去3〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回：未実現利益の消去1〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：未実現利益の消去2〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：未実現利益の消去3（税効果）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：連結キャッシュフロー計算書〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：M&Aの会計処理1（株式交換）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：M&Aの会計処理2（株式移転・事業分離）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 a のみ：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画をOh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。講義動画は原則毎週金曜日にOh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して、小テストを実施し出席確認及び理解度確認を行う。また、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設ける。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論の授業では、それ以前に修得した知識とスキルを前提にして新たな内容が取り上げられていく。したがって、復習が重要であり、簿記論Ⅰの授業内容も含めて前回までの授業内容に不明な点がないかを、毎回の授業前に確認しておくことこそが予習となる。			
5. 教科書 毎回レジュメを配布する。			
6. 参考書 適宜紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 毎回の小テストに基づいて評価する。 ※対面形式での試験は行わない。			
9. その他 毎回の問題を実際に解くこと。			

科目ナンバー：(BA)ACC111J			
簿記論Ⅰ〔M〕 【特設】			森 光 高 大
2 単位	1 年次	春学期集中	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 簿記は企業の経済活動を貨幣数値によって組織的に記録、計算、報告する技術である。簿記を用いることにより、企業の状況を日常的に把握できるばかりでなく、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。そのために、簿記に関する知識は、組織の管理や活動を担う者にとって、不可欠であり、経営学部の学生は簿記に関する基本的な知識を確実に習得しておく必要がある。 〈到達目標〉 商店や商業を営む中小企業における簿記上の処理について、日商簿記検定3級レベル（一部2級レベルの内容を含む）の基本的な知識とスキルを身につけることを目標とする。			
2. 授業内容 授業はほぼ次のような内容と進度で進めることを予定している。 第1回 簿記の意義と基礎、貸借対照表〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回 損益計算書、貸借対照表と損益計算書の関係〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 勘定、取引、仕訳と転記〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 仕訳帳と元帳〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 決算の意義と手続、6桁精算書〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 現金と現金過不足〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 当座預金と当座借越、その他の預金、小口現金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回 3分法のあらまし、諸掛と返品〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 仕入帳と売上帳、商品有高帳〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回 売掛金と買掛金、売掛金元帳と買掛金元帳〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 売掛金明細書と買掛金明細書、クレジット売掛金、前払金と前受金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 貸付金・借入金、未収入金・未払金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回 立替金・預り金、仮払金・仮受金、受取商品券、差入保証金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 授業の総括〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 ※本講義は夏季休業期間中（8月）に実施される。詳細はガイダンスや履修の手引きを確認すること。 簿記の学習は積み重ねが大切である。授業には必ず出席し、毎回、授業内容を確実に理解し身につけていくことに努めてもらいたい。また、学習で遅れが生じたら、「学習支援室」等を活用して速やかに後れを取り戻すよう心掛けてほしい。 毎回、講義内で設問を用意します。この設問への解答は平常点に反映します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論の授業では、毎回、前回までに習得した知識スキルを前提にして新たな内容が説明されていく。したがって、復習が重要であり、前回までの授業内容に不明な点がないかを、毎回の授業前に確認しておくことが予習となる。			
5. 教科書 本講義では、下記の教科書と、理解を深める目的で問題を多く解いてもらうために、下記のワークブックを使用します。講義を視聴する際には必ず2冊を用意してください。また、最新版のものを購入してください。 教科書：『検定簿記講義／3級商業簿記』渡部裕恒、片山 覚、北村敬子編著（中央経済社） ワークブック：『検定簿記ワークブック／3級商業簿記』渡部裕恒、片山 覚、北村敬子編著（中央経済社）			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義内での設問は基本的に講義内で解説を行います。補足説明等を適宜Oh-olmeiji経由で公開することもありますので、各自確認してください。			
8. 成績評価の方法 講義内の設問、課題などの平常点40%、各回講義終了後の理解確認テスト60%によって総合評価する。			
9. その他 講義を視聴する際には必ず電卓を用意すること。			

科目ナンバー：(BA)ACC111J			
簿記論Ⅱ〔M〕 【特設】			森 光 高 大
2 単位	1 年次	春学期集中	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 簿記に関する知識や理解は組織の管理や活動を担う者にとって不可欠なものである。そのため、経営学部の学生は学科を問わず簿記の基礎的な知識を備えていなければならない。簿記論Ⅱでは、簿記論Ⅰを踏まえてより複雑な取引を取り上げ、その簿記上の処理について学習する。また、財務諸表の概要についても学ぶ。 〈到達目標〉 簿記論Ⅰに引き続き、商店や商業を営む中小企業における簿記上の処理について、日商簿記検定3級レベル（一部2級レベルの内容を含む）の基本的な知識とスキルを身につける。また、それとともに、損益計算書と貸借対照表の内容が理解できるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 授業は次のような内容と進度で進めることを予定している。 第1回 手形の振出し・受入れ、手形の取立て・支払い〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回 受取手形記入帳と支払手形記入帳、手形貸付金と手形借入金、電子記録債権と電子記録債務〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 有形固定資産の取得と売却〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 有形固定資産の減価償却〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 有価証券〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 資本金と引出金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 収益と費用の繰延〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回 収益と費用の見越〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 税 金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回 伝 票〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 貸倒損失と貸倒引当金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 決算修正と8桁精算表〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回 財務諸表〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 授業の総括〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 ※本講義は夏季休業期間中（8月）に実施される。詳細はガイダンスや履修の手引きを確認すること。 簿記の学習は積み重ねが大切である。授業には必ず出席し、毎回、授業内容を確実に理解し身につけていくことに努めてもらいたい。また、学習で遅れが生じたら、「学習支援室」等を活用して速やかに後れを取り戻すよう心掛けてほしい。 毎回、講義内で設問を用意します。この設問への解答は平常点に反映します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論の授業では、毎回、前回以前に習得した知識とスキルを前提にして新たな内容が説明されていく。したがって、復習が重要であり、前回までの授業内容に不明な点がないかを、毎回の授業前に確認しておくことが予習となる。			
5. 教科書 本講義では、下記の教科書と、理解を深める目的で問題を多く解いてもらうために、下記のワークブックを使用します。講義を視聴する際は、必ず2冊を用意してください。最新版を購入してください。 教科書：『検定簿記講義／3級商業簿記』渡部裕恒、片山 覚、北村敬子編著（中央経済社） ワークブック：『検定簿記ワークブック／3級商業簿記』渡部裕恒、片山 覚、北村敬子編著（中央経済社）			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義内での設問は基本的に講義内で解説を行うが、補足説明等を適宜Oh-olmeiji経由で公開することもありますので、各自確認してください。			
8. 成績評価の方法 原則として、講義中の設問および課題等の平常点40%、各回講義終了後の理解度確認テスト60%で総合評価する。			
9. その他 講義を視聴する際には必ず電卓を用意すること。			

科目ナンバー：(BA)ACC111J			
簿記論Ⅰ 【特設】			千葉貴律
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 簿記は企業の経済活動を貨幣数値によって組織的に記録、計算、報告する技術である。簿記を用いることにより、企業の状況を日常的に把握できるばかりでなく、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。そのため、簿記に関する知識は、組織の管理や活動を担う者にとって不可欠であり、経営学部の子生は、簿記に関する基本的な知識を確実に修得しておく必要がある。 <到達目標> 商店や商業を営む中小企業における簿記上の処理について、日商簿記検定3級レベル（一部2級レベルの内容を含む）の基本的な知識とスキルを身につけることを目標とする。			
2. 授業内容 簿記論は標準的な学習体系が構築されているので、担当教員による授業内容および進行順序の違いはあまりない。 授業はほぼ次のような内容と進度で進められる。 第1回 イントロダクション 第2回 簿記の意義としくみ 第3回 簿記の基礎概念 第4回 仕訳と転記 第5回 仕訳帳と元帳 第6回 決算―簿記一巡の手続き 第7回 現金、預金（1）：通貨及び通貨代用証券 第8回 現金、預金（2）：当座預金 第9回 現金過不足、小口現金 第10回 商品売買 第11回 売上原価の算定 第12回 商品有り高帳 第13回 売掛金と買掛金 第14回 a. 試験 b. 試験内容の解説			
3. 履修上の注意 簿記の学習は積み重ねが大切なので、授業には毎回必ず出席し、授業内容を確実に理解し身につけるようにすること。 学習に遅れが生じたら、「学習支援室」等を活用して速やかに遅れを取り戻すよう心がけてください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論の学習は、語学の学習と同様に、毎回の授業で学習した知識やスキルをもとに、新しい事柄が少しずつ積み上げられていきます。したがって、前回までの授業内容をきちんと理解していないと、次の授業の理解に支障が出ます。復習に重点を置いて、学習してください。			
5. 教科書 渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著、『検定簿記講義 3級商業簿記』、中央経済社、最新版。			
6. 参考書 簿記に関する書籍は数多く出版されているので、自分の使いやすいようなものを実際に手に取って確かめてから参照すること。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業で行う小テストについては、授業の中で解説・コメントします。期末試験については、試験終了後に必要な解説を行います。			
8. 成績評価の方法 対面式授業であるので、全講義時間14回のうち、10回以上の出席があることを評価の前提とします。 そのうえで、毎回の授業で行う小テスト・課題（50％）と、定期試験（50％）で評価します。 なお、定期試験では、電卓以外の資料その他の持ち込みは不可とします。 また、日商簿記検定試験の合格を理由に単位認定を求めてくる学生がいますが、ここでいう成績評価はこの授業における評価であるので、簿記検定試験の結果を考慮することはありません。			
9. その他 授業には電卓を持参すること。			

科目ナンバー：(BA)ACC111J			
簿記論Ⅱ 【特設】			千葉貴律
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 簿記は企業の経済活動を貨幣数値によって組織的に記録、計算、報告する技術である。簿記を用いることにより、企業の状況を日常的に把握できるばかりでなく、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。そのため、簿記に関する知識は、組織の管理や活動を担う者にとって不可欠であり、経営学部の子生は、簿記に関する基本的な知識を確実に修得しておく必要がある。 <到達目標> 商店や商業を営む中小企業における簿記上の処理について、日商簿記検定3級レベル（一部2級レベルの内容を含む）の基本的な知識とスキルを身につけることを目標とする。			
2. 授業内容 簿記論は標準的な学習体系が構築されているので、担当教員による授業内容および進行順序の違いはあまりない。 授業はほぼ次のような内容と進度で進められる。 第1回 その他の債権債務 第2回 受取手形と支払手形 第3回 手形記入帳と電子記録債権 第4回 有価証券 第5回 有形固定資産 第6回 減価償却と固定資産台帳 第7回 貸倒損失と貸倒引当金 第8回 資本 第9回 収益と費用 第10回 税金 第11回 伝票 第12回 決算修正と8桁精算表 第13回 財務諸表 第14回 a. 試験 b. 試験内容の解説			
3. 履修上の注意 簿記の学習は積み重ねが大切なので、授業には毎回必ず出席し、授業内容を確実に理解し身につけるようにすること。 学習に遅れが生じたら、「学習支援室」等を活用して速やかに遅れを取り戻すよう心がけてください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論の学習は、語学の学習と同様に、毎回の授業で学習した知識やスキルをもとに、新しい事柄が少しずつ積み上げられていきます。したがって、前回までの授業内容をきちんと理解していないと、次の授業の理解に支障が出ます。復習に重点を置いて、学習してください。			
5. 教科書 渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著、『検定簿記講義 3級商業簿記』、中央経済社、最新版。			
6. 参考書 簿記に関する書籍は数多く出版されているので、自分の使いやすいようなものを実際に手に取って確かめてから参照すること。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業で行う小テストについては、授業の中でコメントします。期末試験については、試験終了後に必要な解説を行います。			
8. 成績評価の方法 対面式授業であるので、全講義時間14回のうち、10回以上の出席があることを評価の前提とします。 そのうえで、毎回の授業で行う小テスト・課題（50％）と、定期試験（50％）で評価します。 なお、定期試験では、電卓以外の資料その他の持ち込みは不可とします。 また、日商簿記検定試験の合格を理由に単位認定を求めてくる学生がいますが、ここでいう成績評価はこの授業における評価であるので、簿記検定試験の結果を考慮することはありません。			
9. その他 授業には電卓を持参すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Business Presentation A・B			
2 単位	3 年次		駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course aims to equip students with practical business communication skills including giving business presentations. The course offers a variety of discussion topics, interviews with business people, authentic articles on contemporary topics on newspapers and books on business management. Students will develop essential business communication skills such as giving presentations, dealing with questions, taking an active part in meetings, negotiating, networking, as well as using English for a variety of business writing tasks. Students are given opportunities to use those skills in realistic context in case studies. Presentations associated with written reports are the main productions of the course. Goals: 1. To develop practical communication skills for business and management students 2. To develop critical thinking skills through studying business issues and topics 3. To develop collaborative, cooperative, and open study skills			
2. 授業内容 Please refer to each syllabus.			
3. 履修上の注意 Please refer to each syllabus.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please refer to each syllabus.			
5. 教科書 Please refer to each syllabus.			
6. 参考書 Please refer to each syllabus.			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Please refer to each syllabus.			
9. その他 Classroom language is English.			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Business Presentation A		アズィーズ, ハキーム	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course goals: This course focuses on honing learners business presentation skills using real-world examples of business practices from major corporations. By the end of this course, learners will be able to: Plan presentations being mindful of their audiences' needs Create clear-cut objectives for the presentation Assess factors to construct presentations to deliver key ideas Keep audience attention to have an enhanced introduction with attention-grabber techniques Develop efficient slides, visual aids, and handouts. Skill objectives – By the end of this course, learners will be expected to be able to: demonstrate inspired presentation skills create and deliver effective presentations communicate confidently and competently with all types of audiences explore the optimum use of voice and gesture to create a lasting impression as well as a variety of presentation styles, ranging from a formal speech to a casual meeting or contentious conversation			
2. 授業内容 Week 1: Introduction Course orientation. Discussion Activities: What makes a presentation good or bad? Week 2: Building a Brand 1. Discussion activities on building a brand strategies. 2. Group activities on building original brands. Week 3: Building a Brand 1. Group presentations. 2. Questions and Feed back session. Week 4: Product Marketing 1. Finding Channels. 2. Discuss marketing options. 3. Group activities on product marketing. Week 5: Product Marketing 1. Group presentations. 2. Questions and Feed back session. Week 6: Product Procurement 1. Discuss ordering goods and product order. 2. Confirming product delivery and asking for advice. 3. Group activities on product procurement. Week 7: Product Procurement 1. Presentations. 2. Questions and Feed back session. Week 8: Mid Semester Quiz Mini-Presentation (Topic to be decided later) Week 9: Sales Presentation 1. Discuss sales meetings 2. Reporting results 3. Group activities on Sales presentation. Week 10: Sales Presentation 1. Group presentations. 2. Questions and Feed back session. Week 11: Business Goals 1. Discussing market surveys. 2. Examining market survey results. 3. Group activities on Market surveys. Week 12: Business Goals 1. Group presentations. 2. Questions and Feed back session. Week 13: Final Test Final In-class Presentation Week 14: Feedback and Review 1. Semester Review Activities. 2. Semester Feed back session.			
3. 履修上の注意 As decided by the faculty.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 There will be group or individual presentations every two weeks. Students are expected to prepare very well for these.			
5. 教科書 WORK ADVANTAGE 3 by Joseph Henley (Published by Cengage Learning)			
6. 参考書 WORK ADVANTAGE 3 by Joseph Henley (Published by Cengage Learning)			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedbacks are provided after every activity on group and individual basis.			
8. 成績評価の方法 - Participation and Attendance: 20% - Assignments: 20% - Quizzes/Tests: 30% - Final exam: 30% - Total 100%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Business Presentation B		アズィーズ, ハキーム	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course goals: This course focuses on honing learners business presentation skills using real-world examples of business practices from major corporations. By the end of this course, learners will be able to: Plan presentations being mindful of their audiences' needs Create clear-cut objectives for the presentation Assess factors to construct presentations to deliver key ideas Keep audience attention to have an enhanced introduction with attention-grabber techniques Develop efficient slides, visual aids, and handouts. Skill objectives – By the end of this course, learners will be expected to be able to: demonstrate inspired presentation skills create and deliver effective presentations communicate confidently and competently with all types of audiences explore the optimum use of voice and gesture to create a lasting impression as well as a variety of presentation styles, ranging from a formal speech to a casual meeting or contentious conversation			
2. 授業内容 Week 1: Analyze different video presentations. 1. Watch a TED video. 2. Analyze and Discuss the video. 3. Feedback Session on the video. Week 2: Company Basics 1. Discuss various local and international corporate structures. 2. Discuss corporate restructuring. 3. Group activities on corporate structures. Week 3: Company Basics 1. Group presentations. 2. Questions and Feed back session. Week 4: Company Performance 1. Discuss alternative sources of revenue. 2. Discuss ways of improving profits. 3. Group activities on company performance. Week 5: Company Performance 1. Group presentations. 2. Questions and Feed back session. Week 6: Business Ethics 1. Discuss Corporate Social Responsibility. 2. What are different CSR objectives? 3. Group activities on CSR. Week 7: Business Ethics 1. Group presentations. 2. Questions and Feed back session. Week 8: Mid Semester Quiz Mini-Presentation (Topic to be decided later) Week 9: Company Location 1. Discuss Location of a business. 2. Relocation Issues. 3. Group activities on company location. Week 10: Company Location 1. Group presentations. 2. Questions and Feed back session. Week 11: Corporate Spirit 1. Discuss various local and international company cultures. 2. Team-building activities. 3. Group activities on corporate spirit. Week 12: Corporate Spirit 1. Group presentations. 2. Questions and Feed back session. Week 13: Final Test Final In-class Presentation Week 14: Feedback and Review 1. Semester Review Activities. 2. Semester Feed back session.			
3. 履修上の注意 As stipulated by the faculty.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 There will be group or individual presentations every two weeks. Students are expected to prepare properly for these.			
5. 教科書 WORK ADVANTAGE 3 by Joseph Henley (Published by Cengage Learning)			
6. 参考書 WORK ADVANTAGE 3 by Joseph Henley (Published by Cengage Learning)			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedbacks are provided after every activity on group and individual basis.			
8. 成績評価の方法 - Participation and Attendance: 20% - Assignments: 20% - Quizzes/Tests: 30% - Final exam: 30% - Total 100%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Business Presentation A		ヴォーン, ロバート	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course is a business presentation course designed to develop communication skills in English. This course will develop students' preparation and performance of presentations. Students will learn what they need to put into presentations and what should be left out of presentations. Students will be exposed to a range of dynamic presentation techniques and will have chances to try these techniques in class. Course Goals: Students will be able to: Prepare presentations. Effectively open and close presentations. Employ a smooth structure in presentations. Develop voice power. Create and use effective visual aids. Present facts and figures. Develop appropriate body language in presentations.			
2. 授業内容 Week 1. Preparing to present (45 minutes) Module 1 A (Opening and closing) Week 2. Student Presentations from Module part 1 A; Feedback and analysis. Module part 1 B (Opening and closing) Week 3. Students give presentations from Module part 1 B; Feedback and analysis. Module part 2 A (Smooth structure) Week 4. Students give presentations from Module part 2 A; Feedback and analysis. Module part 2 B (Smooth structure) Week 5. Students give presentations from Module part 2 B; Feedback and analysis. Module part 3 A (Voice power) Week 6. Students give presentations from Module part 3 A; Feedback and analysis. Module part 3 B (Voice power) Week 7. Mid-term Student Presentations Week 8. Students give presentations from Module part 3 B; Feedback and analysis. Module part 4 A (Visual aids) Week 9. Students give presentations from Module part 4 A; Feedback and analysis. Module part 4 B (Visual aids) Week 10. Students give presentations from Module part 4 B; Feedback and analysis. Module part 5 A (Facts and figures) Week 11. Students give presentations from Module part 5 A; Feedback and analysis. Module part 5 B (Facts and figures) Week 12. Students give presentations from Module part 5 B; Feedback and analysis. Module part 6 A (Body language) Week 13. Students give presentations from Module part 6 A; Feedback and analysis. Preparation for final presentations. Week 14. Final Student Presentations			
3. 履修上の注意 Students who do not meet the English requirement (TOEIC 500) cannot take this course. Note that there is a limit of the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are expected to prepare presentations ahead of each class. Students are expected to incorporate skills studied in previous classes in their presentations			
5. 教科書 Textbook-- Dynamic Presentations Student's Book with Audio CDs, by Mark Powell, Cambridge University Press (ISBN 9780521150040).			
6. 参考書 None.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback and grading of the midterm and final presentations will be provided in writing. Feedback and grading on weekly short presentations will be provided in class and in writing.			
8. 成績評価の方法 Active Participation in class activities 20% Mid-term Presentation 20% Short presentations and class assignments 40% Final Presentation 20%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Business Presentation B		ヴォーン, ロバート	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline This course is a business presentation course designed to develop communication skills in English. This course will develop students' preparation and performance of presentations. Students will learn what they need to put into presentations and what should be left out of presentations. Students will be exposed to a range of dynamic presentation techniques and will have chances to try these techniques in class. Course Goals: Students will be able to: Build rapport. Effectively use various impact techniques in presentations (rhetorical questions, repetition of sounds, groups of three plus one, repetition of words, contrasts and opposites). Effectively use storytelling techniques in presentations. Conduct Question & Answer sessions. Develop appropriate body language in presentations.			
2. 授業内容 Week 1. Preparing to present (45 minutes) Module 7 A (Rapport building) Week 2. Student Presentations from Module part 7 A; Feedback and analysis. Module part 7 B (Rapport building) Week 3. Students give presentations from Module part 7 B; Feedback and analysis. Module part 8 A (Impact techniques) Week 4. Students give presentations from Module part 8 A; Feedback and analysis. Module part 8 B (Impact techniques) Week 5. Students give presentations from Module part 8 B; Feedback and analysis. Module part 8 C (Impact techniques) Week 6. Students give presentations from Module part 8 C; Feedback and analysis. Module part 8 D (Impact techniques) Week 7. Mid-term Student Presentations Week 8. Students give presentations from Module part 8 D; Feedback and analysis. Module part 9 A (Storytelling) Week 9. Students give presentations from Module part 9 A; Feedback and analysis. Module part 9 B (Storytelling) Week 10. Students give presentations from Module part 9 B; Feedback and analysis. Module part 10 A (Q&A sessions) Week 11. Students give presentations from Module part 10 A; Feedback and analysis. Module part 10 B (Q&A sessions) Week 12. Students give presentations from Module part 10 B; Feedback and analysis. Module part 6 B (Body language) Week 13. Students give presentations based on part 16B; Feedback and analysis. Preparation for final presentations. Week 14. Final Student Presentations			
3. 履修上の注意 ※「履修のための英語要件」の基準点を満たさない場合、本科目の履修はできません。また、本科目は受講人数に制限があり、履修に際しては事前登録が必要となるので、「経営学部履修の手引き」を参照すること。 Students who do not meet the English requirement (TOEIC 500) cannot take this course. Note that there is a limit of the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are expected to prepare presentations ahead of each class. Students are expected to incorporate skills studied in previous classes in their presentations			
5. 教科書 5. Textbook-- Dynamic Presentations Student's Book with Audio CDs, by Mark Powell, Cambridge University Press (ISBN 9780521150040).			
6. 参考書 None.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback and grading of the midterm and final presentations will be provided in writing. Feedback and grading on weekly short presentations will be provided in class and in writing.			
8. 成績評価の方法 Active Participation in class activities 20% Mid-term Presentation 20% Short presentations and class assignments 40% Final Presentation 20%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Business Presentation A		リンズクーグ, アレン	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course is designed to focus on the analysis and discussion of current international business practices, issues and conflicts throughout the world, for example technological advancements and the impact on the world economy, the cause of poverty and corruption in business or any other issue you would like to focus on related to business. During the course you will have an opportunity to work on two research projects and present them to your classmates. Throughout the course you will be asked to do in-depth research, which can be done using the internet, through field work, surveys and interviews. Additionally, through the use of pair work and small group discussions you will be able to explore in details your specific issue. After the completion of your preparation you will then you will be asked to give initial presentations in small groups to both demonstrate your knowledge of the topic as well as to inform your listeners of the issue. And finally we will implement presentation style in which you will do an overall presentation in both an informative and engaging manner.			
2. 授業内容 Class 1. Introductions (course and personal) Class 2. How to present and preparation process Class 3. Choosing a topic of interest and brainstorming Class 4. Researching, interviews and surveys Class 5. In class small group discussion on your topic Class 6. Notetaking (summarizing and paraphrasing) Class 7. In class discussion on the topic, research and notes Class 8. Writing a speaking outline and presentation preparation Class 9. In-class informal presentation practice Class 10. Presentation style introduction Class 11. Presentation style practice Class 12. Post-presentation Q and A (Question and Answer) introduction and practice Class 13. In-class formal presentation Class 14. Semester class survey and semester reflection			
3. 履修上の注意 ※「履修のための英語要件」の基準点を満たさない場合、本科目の履修はできません。また、本科目は受講人数に制限があり、履修に際しては事前登録が必要となるので、「経営学部履修の手引き」を参照すること。 Students who do not meet the English requirement (TOEIC 500) cannot take this course. Note that there is a limit of the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・ Attend 80% or more of the classes and arrive on time. ・ Prepare outside of class each week 1 - 3 hours. ・ Participate actively in class each week. ・ Help each other with English and other activities in class. ・ Complete all assignments on time. ・ Prepare and present (2) formal presentations per semester			
5. 教科書 No textbook will be used in the course. Online worksheets and reading material will be provided.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Attendance: 15% In class participation: 15% Weekly activities: 10% Mid-term and final: 20% (2) presentation: 40%			
9. その他 If you need to contact me at anytime please send me (Allen Lindskoog) an e-mail in English - skoog5600@gmail.com and put "Business Presentation" in the subject header. And also please make sure you put your first and last name in English in the e-mail message as well. A website link for our class blog site will be given out the first day of class.			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Business Presentation B		リンズクーグ, アレン	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course is designed to focus on the analysis and discussion of current international business practices, issues and conflicts throughout the world, for example the technological advancement and its impact on the world economy, the cause of poverty and corruption in business or any other issue you would like to focus on related to business. During the course you will have an opportunity to work on two research projects and present them to your classmates. Throughout the course you will be asked to do in-depth research, which can be done using the internet, through field work, surveys and interviews. Additionally, through the use of pair work and small group discussions you will be able to explore in details your specific issue. After the completion of your preparation you will then you will be asked to give initial presentations in small groups to both demonstrate your knowledge of the topic as well as to inform your listeners of the issue. And finally we will implement presentation style in which you will do an overall presentation in both an informative and engaging manner.			
2. 授業内容 Class 1. Introductions (course and personal) Class 2. How to present and preparation process Class 3. Choosing a topic of interest and brainstorming Class 4. Researching, interviews and surveys Class 5. In class small group discussion on your topic Class 6. Notetaking (summarizing and paraphrasing) Class 7. In class discussion on the topic, research and notes Class 8. Writing a speaking outline and presentation preparation Class 9. In-class informal presentation practice Class 10. Presentation style introduction Class 11. Presentation style practice Class 12. Post-presentation Q and A (Question and Answer) introduction and practice Class 13. In-class formal presentation Class 14. Semester class survey and semester reflection			
3. 履修上の注意 ※「履修のための英語要件」の基準点を満たさない場合、本科目の履修はできません。また、本科目は受講人数に制限があり、履修に際しては事前登録が必要となるので、「経営学部履修の手引き」を参照すること。 Students who do not meet the English requirement (TOEIC 500) cannot take this course. Note that there is a limit of the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・ Attend 80% or more of the classes and arrive on time. ・ Prepare outside of class each week 1 - 3 hours. ・ Participate actively in class each week. ・ Help each other with English and other activities in class. ・ Complete all assignments on time. ・ Prepare and present (2) formal presentations per semester			
5. 教科書 No textbook will be used in the course. Online worksheets and reading material will be provided.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Attendance: 15% In class participation: 15% Weekly activities: 10% Mid-term and final: 20% (1) presentation: 40%			
9. その他 If you need to contact me at anytime please send me (Allen Lindskoog) an e-mail in English - skoog5600@gmail.com and put "Business Presentation" in the subject header. And also please make sure you put your first and last name in English in the e-mail message as well. A website link for our class blog site will be given out the first day of class.			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Business English A			金子敦子
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline This course aims to equip students with practical communication skills essential for management studies and their application. These skills will be developed through written and oral presentations, accompanied by in-class feedback. Students will analyze and evaluate issues, developing recommendations based on their understanding of key concepts in management studies. Goals: To explore advanced business communication issues and topics. To develop advanced practical communication skills for business and management studies. To cultivate collaborative, cooperative, and open study skills. Main Deliverables in the 14-Week Session: Presentations: Two formal written presentations accompanied by visual aids and/or reports. Students must video-record their presentations and submit the recordings along with their visual aids for grading.			
2. 授業内容 Week 1 First Impressions in Presentations (First Impressions) Week 2 Movers and Shakers: Networking: (Case 1) Week 3 Career and Training (Training) Week 4 Training at Carter and Randall: A Planning Meeting (Case 2) Week 5 Clean Energy (Energy) Week 6 Energy Saving at Tumalet Software: A Decision-making Meeting (Case 3) Week 7 Revisions A; Student presentations (1) Week 8 Customer Relationship Management (Marketing) Week 9 Relaunching Home2u: A New Marketing Campaign (Case 4) Week 10 Future of Work (Employment Trends) Week 11 Delaney Call-center absenteeism: Resolving Conflict (Case 5) Week 12 Corporate Responsibility (Ethics) Week 13 Dilemmas at Daybreak (Case 6) Week 14 Student presentations (2)			
3. 履修上の注意 [u]※「履修のための英語要件」の基準点を満たさない場合、本科目の履修はできません。また、本科目は受講人数に制限があり、履修に際しては事前登録が必要となるので、「経営学部履修の手引き」を参照すること。[/u] Students who do not meet the English requirement cannot take this course. Note that there is a limit of the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Each week you are given an assigned homework. Students are expected to read before each class the parts of the textbook assigned by instructors and do relevant exercises. As a review of the class, read aloud the parts you learned in your class to reinforce your understanding and internalize the vocabulary you learned.			
5. 教科書 I.Dubicka and M. O'Keeffe. (2012). Advanced Market Leader 3rd Edition Extra. Pearson			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Provide feedback through Oh-o! Meiji (LMS) discussions as well as in-class discussions.			
8. 成績評価の方法 Grading Policy: Reports and Presentations (2): 40% Assignments and Quizzes: 40% Contribution to Class: 20% Attendance Policy: Students who miss more than three (3) classes during the 14-week course will receive a failing grade. Three (3) instances of tardiness will be considered equivalent to one (1) absence.			
9. その他 Classroom language is English.			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Business English B			金子敦子
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Your course outline is clear and well-structured, but I made minor adjustments to improve grammar, flow, and consistency. Here's the revised version: Course Outline This course aims to equip students with practical communication skills essential for management studies and their application. These skills will be developed through written and oral presentations, along with in-class feedback. Students will analyze and evaluate issues and develop recommendations based on their understanding of key concepts in management studies. Goals: To explore advanced business communication issues and topics. To develop advanced practical communication skills for business and management studies. To cultivate collaborative, cooperative, and open study skills. Main Deliverables in the 14-Week Session: Presentations: Two formal written presentations accompanied by visual aids and/or reports. Students must video-record their presentations and submit the recordings along with their visual aids for grading.			
2. 授業内容 Production per 14-week session: 2 written formal reports and presentations. Formal presentations will be recorded for review and grading. Course Content Week 1 Sustainable Banking (Finance) Week 2 Angel investors: Dragons and Angels (Case 7) Week 3 Operations Consulting (Consultants) Week 4 New market opportunities (Case 8) Week 5 Strategy, Goals, and Values (Strategy) Week 6 Stella International Airways: Strategies for the Skies (Case 9) Week 7 Revision: Reports and Presentations (1) Week 8 Developments in Online Business (Online Business) Week 9 The Fashion Screen: An Online Tailored-clothing (Case 10) Week 10 Advice for Start-ups (New Business) Week 11 Healthy growth for OTC Tech (Case 11) Week 12 Issues in Project Management (Project Management) Week 13 Creating a world-class port (Case 12) Week 14 Review and Reflection; Reports and Presentations (2)			
3. 履修上の注意 [u]※「履修のための英語要件」の基準点を満たさない場合、本科目の履修はできません。また、本科目は受講人数に制限があり、履修に際しては事前登録が必要となるので、「経営学部履修の手引き」を参照すること。[/u] Students who do not meet the English requirement cannot take this course. Note that there is a limit of the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Each week you are given an assigned homework. Students are expected to read before each class the parts of the textbook assigned by instructors and do relevant exercises. As a review of the class, read aloud the parts you learned in your class to reinforce your understanding and internalize the vocabulary you learned.			
5. 教科書 I.Dubicka and M. O'Keeffe. (2012) Advanced Market Leader 3rd Edition Extra. Pearson			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Provide feedback through Oh-o! Meiji (LMS) discussions as well as in-class discussions.			
8. 成績評価の方法 Grading Policy: Reports and Presentations (2): 40% Assignments and Quizzes: 40% Contribution to Class: 20% Attendance Policy: Students who miss more than three (3) classes during the 14-week course will receive a failing grade. Three (3) instances of tardiness will be considered equivalent to one (1) absence.			
9. その他 Classroom language is English.			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Business English A			ヴォーン, ロバート
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course Summary: This Business English course develops the communication skills students will need to succeed in business and enlarges students' knowledge of the business world. Participation in the course will enable students to become more fluent and confident using business language in preparation for their careers. Course Goals: students will be able to: Take part in discussions on international business issues Develop listening skills in a business context Develop reading skills in a business context Develop language and the vocabulary for business Develop business skills Develop business writing			
2. 授業内容 Week 1. Course overview and Unit 1 Brands (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 2. Unit 1 Brands (Skills: taking part in meetings) Week 3. Unit 2 Travel (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 4. Unit 2 (Skills: telephoning and making arrangements,) Week 5. Unit 3 Change (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 6. Unit 3 Change continued Skills: managing meetings, writing action minutes) Week 7. Mid-term Exam Week 8. Unit 4 Organization (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 9. Unit 4 Organization (Skills: socialising, introductions and networking) Week 10. Unit 5 Advertising (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 11. Unit 5 Advertising (Skills: starting in structuring a presentation, writing a summary) Week 12. Unit 6 Money (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 13. Unit 6 Money (Skills: with figures, writing an e-mail) Week 14. Final Exam			
3. 履修上の注意 Students who do not meet the minimum English requirement (TOEIC 400) cannot take this course. Note there is a limit to the number of students per class. To register for this class, refer to the "Rishuno Tebiki."			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are expected to prepare for each class by reading the textbook and completing assignments ahead of class for homework. As we are studying textbooks units in order, students should review units covered.			
5. 教科書 Textbook--MARKET LEADER (Intermediate), 3rd Edition Extra, by David Cotton, David Falvey, and Simon Kent, Pearson Publishing (ISBN: 9781292361130).			
6. 参考書 None.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback and grading of the midterm and final exams will be provided on the day of the exams . Feedback and grading on any other assignments will be provided in writing by the lecturer.			
8. 成績評価の方法 Active Participation in class activities 20% Mid-term exam 30% Quizzes, assignments, presentations 20% Final exam 30%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Business English B			ヴォーン, ロバート
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course Summary: This Business English course develops the communication skills students will need to succeed in business and enlarges students' knowledge of the business world. Participation in the course will enable students to become more fluent and confident using business language in preparation for their careers. Course Goals: students will be able to: Take part in discussions on international business issues Develop listening skills in a business context Develop reading skills in a business context Develop language and the vocabulary for business Develop business skills Develop business writing			
2. 授業内容 Week 1. Course overview and Unit 7 Cultures (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 2. Unit 7 (Skills: social English, writing a report) Week 3. Unit 8 Human Resources (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 4. Unit 8 Human Resources Week 5. Unit 9 International Markets (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 6. Unit 9 International Markets (Skills: negotiating,) Week 7. Mid-term Exam Week 8. Unit 10 Ethics (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 9. Unit 10 Ethics (Skills: considering options, writing a report) Week 10. Unit 11 Leadership (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 11. Unit 11 Leadership (Skills: presenting) Week 12. Unit 12 Competition (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 13. Unit 12 Competition (Skills: negotiating, writing an e-mail) Week 14. Final Exam			
3. 履修上の注意 Students who do not meet the minimum English requirement (TOEIC 400) cannot take this course. Note there is a limit to the number of students per class. To register for this class, refer to the "Rishuno Tebiki."			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are expected to prepare for each class by reading the textbook and completing assignments ahead of class for homework. As we are studying textbooks units in order, students should review units covered.			
5. 教科書 Textbook--MARKET LEADER (Intermediate), 3rd Edition Extra, by David Cotton, David Falvey, and Simon Kent, Pearson Publishing (ISBN: 9781292361130).			
6. 参考書 None.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback and grading of the midterm and final exams will be provided on the day of the exams through software. Feedback and grading on any other assignments will be provided in writing by the lecturer and published on Oh-o! Meiji system.			
8. 成績評価の方法 Active Participation in class activities 20% Mid-term exam 30% Quizzes, assignments, presentations 20% Final exam 30%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Business English A		増山 隆	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <Outline> The goal of this intermediate class is to assist students to freely utilize both written and oral English. The students will learn how to grab various business models or cases, how to organize their own ideas toward those models or cases in English, and how to deliver their speech effectively in English. The teacher will provide the students with knowledge and skills how to analyze each of those models or cases in a number of real world business settings. Actual presentations may be videotaped or taped, and the students will receive feedbacks from the teacher. <Objectives> The students will be able to judge the assigned business situations, analyze and organize their ideas in English and make impressive reports and/or presentations by utilizing PC software.			
2. 授業内容 1. Introduction 2. Getting started~Listening/Dictation~ 3. Understanding background information ~Luxury brand marketing/Mens & ladies cosmetics & fashion industry business case study~ 4. Analyzing a basic business model ~Marketing basics~ 5. Developing and delivering students' own ideas 6. Group work 7. Presentation preparation 8. Presentation practice 9. Feedbacks and improvements 10. Analyzing an advanced business model 11. Developing and delivering students' own ideas 12. PowerPoint~a PC software for visual presentation 13. Presentation preparation & practice 14. Feedbacks and improvements Please note that the above schedule is subject to minor change or change in order.			
3. 履修上の注意 Students who do not meet the English requirement may not take this course. Note that there is a limit of the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki. English requirement : TOEIC 400~			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Assignments are provided every week, and students should prepare those tasks. In addition, students have to review all provided materials after class. At least 100 minute preparation and 100 minute individual review study are required. Students have to purchase the textbook, because both preparation and review process requires the textbook. From time to time, class study will be conducted by utilizing the ZOOM software, therefore students must install Zoom on your PC in advance.			
5. 教科書 In the first class, the teacher will give you instructions on how to purchase a textbook. Please wait to buy, until the teacher gives you instructions. (Sold out) David Cotton and others, Intermediate Market Leader 3rd Edition, Extra with DVD, Pearson			
6. 参考書 Anne Freitag, Lawrence, Business Presentations, Longman			
7. 課題に対するフィードバックの方法 In the next class phisically, studnts will be feedbacked directky from the teacher.			
8. 成績評価の方法 (1) Attendance and class participation: 30%, (2) Presentation performance: 40% , (3) Written assignments: 30% No credits will be given for absences of 1/3 or more classes for any reason without exceptions. If the score of either (1), (2), or (3) is below 60% of each category, then, no credits will be given.			
9. その他 Students are recommended to have basic PC software skills, such as Microsoft Word and/or PowerPoint. However this type of skill is not required to register.			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Business English B		増山 隆	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <Outline> The goal of this intermediate class is to assist students to freely utilize both written and oral English. The students will learn how to grab various business models or cases, how to organize their own ideas toward those models or cases in English, and how to deliver their speech effectively in English. The teacher will provide the students with knowledge and skills how to analyze each of those models or cases in a number of real world business settings. Actual student presentations may be taped or videotaped, and the students will receive feedbacks from the teacher. <Objectives> The students will be able to judge the assigned business situations, analyze and organize their ideas in English and report and/or present other people accurately, clearly, and persuasively as much as possible using professional English within given various circumstances and time frames. Also, the student will be able to use presentation software and develop effective visual aids.			
2. 授業内容 1. Introduction 2. Presentation expressions? 3. Understanding and analyzing business situations (1) ~USA TV show business case study~ 4. Analyzing a basic business model ~A televised music singer audifion~ 4. Developing and delivering students' own ideas (1) 5. Presentation practice (1) 6. Feedbacks and improvements (1) 7. Presentation expressions (2) 8. Understanding and analyzing business situations (2) 9. Developing and delivering students' own ideas (2) 10. Presentation practice (2) 11. Feedbacks and improvements (2) 12. Presentation expressions (3) 13. Understanding and analyzing business situation, and developing students' own ideas (3) 14. Presentation practice (3) & feedbacks and improvements (3) Please note that the above schedule is subject to minor change or change in order.			
3. 履修上の注意 Students who do not meet the English requirement may not take this course. Note that there is a limit of the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki. English requirement : TOEIC 400~			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Assignments are provided every week, and students should prepare those tasks. In addition, students have to review all provided materials after class. At least 100 minute preparation and 100 minute individual review study are required. Students have to purchase the textbook, because both preparation and review process requires the textbook. From time to time, class study will be conducted by utilizing the ZOOM software, therefore students must install Zoom on your PC in advance.			
5. 教科書 In the first class, the teacher will give you instructions on how to purchase a textbook. Please wait to buy, until the teacher gives you instructions. (Sold out) David Cotton and others, Intermediate Market Leader 3rd Edition, Extra with DVD, Pearson			
6. 参考書 Anne Freitag, Lawrence, Business Presentations, Longman			
7. 課題に対するフィードバックの方法 In the next class phisically, studnts will be feedbacked directky from the teacher.			
8. 成績評価の方法 (1) Attendance and class participation: 30%, (2) Presentation performance: 40% , (3) Written assignments: 30% No credits will be given for absences of 1/3 or more classes for any reason without exceptions. If the score of either (1), (2), or (3) is below 60% of each category, then, no credits will be given.			
9. その他 Students are recommended to have basic PC software skills, such as Microsoft Word and/or PowerPoint. However this type of skill is not required to register.			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Business English A			宮田 理奈子
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <Outline> This course introduces advanced business English skills as well as business concepts. <Objectives> This course aims to acquire advanced business English skills needed for effective and persuasive English business communication.			
2. 授業内容 This course involves discussion and group work on business case studies. Week 1 Introduction, First Impressions Week 2 First Impressions, networking Week 2-3 Training, Clarifying and confirming Week 4-6 Energy, Decision-making Week 7-8 Marketing, Customer relationship, making an impact in presentations Week 9-11 Employment Trends, Resolving conflict Week 12-13 Ethics, problem-solving Week 14-Final Presentation or exam			
3. 履修上の注意 Students who do not meet the English requirement (TOEIC 730) cannot take this course. Note that there is a limit to the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Preparation for discussions is required.			
5. 教科書 <i>Market Leader Advanced</i> , 3rd Edition, Pearson.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Class participation 40%, Final Exam (written exam or individual presentation) 50%, Homework 10%.			
9. その他 Positive participation preferred.			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Business English B			宮田 理奈子
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <Outline> This course introduces advanced business English skills and concepts needed for effective and persuasive English business communication. <Objectives> This course aims to acquire advanced business English skills.			
2. 授業内容 This course involves discussion, negotiation, group work on business case studies, and an individual business presentation. Week 1 Introduction, Review of Business English A, Finance Week 2-3 Finance, managing questions Week 4-5 Consulting, Negotiating Week 6-7 Strategy, Brainstorming and Creativity Week 8-9 Online Business, New Business Week 10-12 New Business, Project Management Week 13-14-Final Presentations, Questions and Answers			
3. 履修上の注意 Students who do not meet the English requirement (TOEIC 730) cannot take this course. Note that there is a limit to the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Preparation for presentations required.			
5. 教科書 <i>Market Leader Advanced</i> , 3rd edition, Pearson.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Class participation 40%, Presentation 50% Homework 10%			
9. その他 Positive participation preferred.			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Business English A		山高美和	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> Course Outline: This course is designed to enhance workplace listening and speaking skills through engaging weekly activities such as role-playing and group discussions. Students will build confidence in using English effectively in workplace settings while enjoying a supportive and interactive learning environment. <到達目標> Course Objectives: By the end of this course, students will: ※ Improve their ability to communicate confidently in workplace settings. ※ Develop intercultural workplace etiquette and teamwork skills. ※ Gain practical experience in handling everyday workplace interactions.			
2. 授業内容 Course Content: The course will primarily be conducted in English, with Japanese used when necessary for clarification. 第1回：【対面授業】Introduction to Business English. 第2回：【対面授業】Unit 1: Welcome to the company! - Introducing a colleague. 第3回：【対面授業】Conversation topics / Small Talk / Making introductions. 第4回：【対面授業】Unit 3: What's on the agenda? - Running meetings. 第5回：【対面授業】Unit 4: That's a great idea! - Agreeing and disagreeing. 第6回：【対面授業】Useful meeting phrases. 第7回：【対面授業】Redecorating the office. 第8回：【オンライン授業 (リアルタイム型)】Unit 5: I'll call you back - Leaving messages. 第9回：【オンライン授業 (リアルタイム型)】Telephoning - Using voicemail / Taking and leaving messages. 第10回：【オンライン授業 (リアルタイム型)】Telephoning Activity 第11回：【オンライン授業 (リアルタイム型)】Unit 6: Can I get there on foot? - Checking in. 第12回：【オンライン授業 (リアルタイム型)】Hotel activity 第13回：【オンライン授業 (リアルタイム型)】Asking for information / Giving directions 第14回：【オンライン授業 (リアルタイム型)】aのみ：Course Review			
3. 履修上の注意 履修上の注意 This course includes both in-person sessions and live-streamed classes on Zoom. 本コースは、春学期の前半は対面授業で、後半はZoomによるリアルタイム型オンライン授業を実施します。 オンライン授業については、以下の方法で実施されます： Zoom招待状の配信 原則として、オンライン授業の前日までに、Oh-o! Meijiのクラスウェブを通じてZoom招待状を配信します。 授業はリアルタイム配信型（100分）で行います。 春学期最終授業の特例 春学期の最終Zoomリアルタイム型授業のみ、授業時間は50分とします。 授業の進行 リアルタイム型授業では、出席確認を授業中に行います。また、ブレイクアウトルームを使用したグループ・アクティビティを取り入れて進みます。Zoomのプロフィール名は、必ずフルネーム（実名）で英語と日本語を併記してください（例：Hanako Meiji 明治花子）。 意見交換と質問の場 Oh-o! Meijiのクラスウェブや、年度限定のクラス用SNSグループを活用して意見交換の場を設けます。教員への質問や相談については、専用メールアドレスおよびSNSアカウントを初回授業でお知らせします。 オンライン授業の履修条件 学習環境 安定したネット接続環境があり、静かで学習に集中できる環境（例：自宅またはキャンパス内で指定された教室）で受講してください。 騒音の多い商業施設での受講は禁止します。また、交通機関を利用した移動中のZoom参加は出席として認めません。 使用デバイス 個人で使用するノートPCまたはタブレットを推奨します。ヘッドセットやマイクなども必要です。 スマートフォンでの受講は推奨しません（画面が小さく、Zoom操作が制限されるため）。ただし、ロールプレイやPDF資料の閲覧など補助的に使用する場合があります。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習（予習・復習等）の内容 予習 Oh-o! Meijiのクラスウェブに定期的に投稿されるPDF資料に目を通し、授業内のグループアクティビティに備えてください。 復習 授業後は、教材およびPDF資料を復習し、理解を深めてください。 課題 オンライン課題はクラスウェブに提示されますので、指定された期限までに提出してください。			
5. 教科書 Get Ready for International Business: English for the Workplace with Extra Practice for the TOEIC Exam (B1) - Student's Book 2 著者: Andrew Vaughan & Dorothy E. Zemach 出版社: Macmillan ISBN: 9780230447912			
6. 参考書 Oh-o! Meijiのクラスウェブに、教材で学習した内容に関連するPDF資料が定期的に投稿されます。これらを参考資料として活用してください。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 オンライン課題のフィードバックは、提出期限後にOh-o! Meijiシステムを通じて配信します。			
8. 成績評価の方法 成績評価の方法 評価割合 授業への貢献度：50% 課題：50% 試験 対面形式での試験は実施しません。 単位取得条件 単位を取得するには、授業への貢献だけでなく、全ての課題を期限内に提出する必要があります。 出席に関する規定 ※合計4回の欠席（公的機関発行の証明書を提出できない場合）は単位取得不可となります。 ※合計3回までの公欠や病欠以外の欠席は認められますが、授業への貢献度評価は他の出席している学生より低くなる可能性があるため、注意してください。 ※公欠や病欠を申請する場合は、公的機関が発行した証明書を提示する必要があります。 遅刻 遅刻3回で欠席1回分として扱います。 授業参加の注意点 教材を持参しない場合や、授業貢献度が著しく低い場合は、評価が下がります。			
9. その他 To the class members: I grew up and worked in London, UK, while being Japanese. This unique background has given me a distinct perspective on both cultures, which I look forward to sharing with you. Through our weekly interactive group activities, I hope you will gain the confidence and mindset needed to use English effectively in your future workplace. These activities are also designed to enhance your understanding of business etiquette, helping you navigate intercultural environments with ease. Please note that spots for this course are limited, so make sure to register before the course begins. I am excited to meet you and look forward to sharing an enjoyable and enriching learning experience together. Best wishes, Miwa Yamataka			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Business English B		山高美和	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> Course Outline: This course is designed to enhance workplace listening and speaking skills through engaging weekly activities such as role-playing and group discussions. Students will build confidence in using English effectively in workplace settings while enjoying a supportive and interactive learning environment. <到達目標> Course Objectives: By the end of this course, students will: ※ Improve their ability to communicate confidently in workplace settings. ※ Develop intercultural workplace etiquette and teamwork skills. ※ Gain practical experience in handling everyday workplace interactions.			
2. 授業内容 Course Content: The course will primarily be conducted in English, with Japanese used when necessary for clarification. 第1回：【オンライン授業 (リアルタイム型)】Ice-breaking activity 第2回：【オンライン授業 (リアルタイム型)】Unit 7: Best wishes, Thomas Kale - Understanding emails 第3回：【オンライン授業 (リアルタイム型)】Writing emails / Email vocabulary 第4回：【オンライン授業 (リアルタイム型)】Unit 9: What was his major? - Discussing job applications 第5回：【オンライン授業 (リアルタイム型)】Reading and writing a CV - Supporting opinions / Describing experience. 第6回：【オンライン授業 (リアルタイム型)】Unit 10: Tell me about yourself - Giving key information. 第7回：【オンライン授業 (リアルタイム型)】Being interviewed - Describing your background. 第8回：【オンライン授業】Being interviewed - Talking about your future. 第9回：【対面授業】Being interviewed - Talking about your strength. 第10回：【対面授業】Job interview activity. 第11回：【対面授業】Unit 2: An important visitor - starting a presentation / Openings / Introductions 第12回：【対面授業】Unit 8: That's a good question - Delivery (eye contact / voice) / Presenting information / Endings / conclusions. 第13回：【対面授業】Group presentation activity 第14回：【対面授業】aのみ：Course Review			
3. 履修上の注意 履修上の注意 This course includes both in-person sessions and live-streamed classes on Zoom. 本コースは、秋学期の前半はZoomによるリアルタイム型オンライン授業で、後半は対面授業を実施します。 オンライン授業については、以下の方法で実施されます： Zoom招待状の配信 原則として、オンライン授業の前日までに、Oh-o! Meijiのクラスウェブを通じてZoom招待状を配信します。 授業はリアルタイム配信型（100分）で行います。 秋学期最終授業の特例 秋学期の最終対面授業のみ、授業時間は50分とします。 授業の進行 リアルタイム型授業では、出席確認を授業中に行います。また、ブレイクアウトルームを使用したグループ・アクティビティを取り入れて進みます。Zoomのプロフィール名は、必ずフルネーム（実名）で英語と日本語を併記してください（例：Hanako Meiji 明治花子）。 意見交換と質問の場 Oh-o! Meijiのクラスウェブや、年度限定のクラス用SNSグループを活用して意見交換の場を設けます。教員への質問や相談については、専用メールアドレスおよびSNSアカウントを初回授業でお知らせします。 オンライン授業の履修条件 学習環境 安定したネット接続環境があり、静かで学習に集中できる環境（例：自宅またはキャンパス内で指定された教室）で受講してください。 騒音の多い商業施設での受講は禁止します。また、交通機関を利用した移動中のZoom参加は出席として認めません。 使用デバイス 個人で使用するノートPCまたはタブレットを推奨します。ヘッドセットやマイクなども必要です。 スマートフォンでの受講は推奨しません（画面が小さく、Zoom操作が制限されるため）。ただし、ロールプレイやPDF資料の閲覧など補助的に使用する場合があります。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習（予習・復習等）の内容 予習 Oh-o! Meijiのクラスウェブに定期的に投稿されるPDF資料に目を通し、授業内のグループアクティビティに備えてください。 復習 授業後は、教材およびPDF資料を復習し、理解を深めてください。 課題 オンライン課題はクラスウェブに提示されますので、指定された期限までに提出してください。			
5. 教科書 Get Ready for International Business: English for the Workplace with Extra Practice for the TOEIC Exam (B1) - Student's Book 2 著者: Andrew Vaughan & Dorothy E. Zemach 出版社: Macmillan ISBN: 9780230447912			
6. 参考書 Oh-o! Meijiのクラスウェブに、教材で学習した内容に関連するPDF資料が定期的に投稿されます。これらを参考資料として活用してください。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 オンライン課題のフィードバックは、提出期限後にOh-o! Meijiシステムを通じて配信します。			
8. 成績評価の方法 成績評価の方法 評価割合 授業への貢献度：50% 課題：50% 試験 対面形式での試験は実施しません。 単位取得条件 単位を取得するには、授業への貢献だけでなく、全ての課題を期限内に提出する必要があります。 出席に関する規定 ※合計4回の欠席（公的機関発行の証明書を提出できない場合）は単位取得不可となります。 ※合計3回までの公欠や病欠以外の欠席は認められますが、授業への貢献度評価は他の出席している学生より低くなる可能性があるため、注意してください。 ※公欠や病欠を申請する場合は、公的機関が発行した証明書を提示する必要があります。 遅刻 遅刻3回で欠席1回分として扱います。 授業参加の注意点 教材を持参しない場合や、授業貢献度が著しく低い場合は、評価が下がります。			
9. その他 To the class members: I grew up and worked in London, UK, while being Japanese. This unique background has given me a distinct perspective on both cultures, which I look forward to sharing with you. Through our weekly interactive group activities, I hope you will gain the confidence and mindset needed to use English effectively in your future workplace. These activities are also designed to enhance your understanding of business etiquette, helping you navigate intercultural environments with ease. Please note that spots for this course are limited, so make sure to register before the course begins. I am excited to meet you and look forward to sharing an enjoyable and enriching learning experience together. Best wishes, Miwa Yamataka			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Business English A		リンズクーグ, アレン	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course is designed to focus on the research and discussion of current international business practices throughout the world. For example the impact of AI on jobs in the future, technology and globalization. During the course you will have an opportunity to work on two research projects and present them to your classmates. Throughout the course you will be asked to do research and take notes as well as work on other business related topics such as emailing and product pitches. Additionally, through the use of pair work and small group discussions you will be able to explore in details your specific issue and expand your vocabulary and improve your Business English speaking ability. After the completion of your preparation you will then you will be asked to give presentations in small groups to both demonstrate your knowledge of the topic as well as to inform your listeners of the issue.			
2. 授業内容 Class 1. Introductions (course and personal) Class 2. How to present and preparation process Class 3. Choosing a topic of interest and brainstorming Class 4. Researching, interviews and surveys Class 5. In class small group discussion on your topic Class 6. Notetaking (summarizing and paraphrasing) Class 7. In class discussion on the topic, research and notes Class 8. Writing a speaking outline and presentation preparation Class 9. In-class informal presentation practice Class 10. Presentation style introduction Class 11. Presentation style practice Class 12. Post-presentation Q and A (Question and Answer) introduction and practice Class 13. In-class formal presentation Class 14. Semester class survey and semester reflection			
3. 履修上の注意 - Attend 80% or more of the classes and arrive on time. - Prepare outside of class each week 1 - 3 hours. - Participate actively in class each week. - Help each other with English and other activities in class. - Complete all assignments on time. - Prepare and present (1) informal presentation per semester English requirement : TOEIC 400～			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 For this course you will need: 1. Be ready to participate in pair and group discussions. 2. Enthusiasm: take advantage of this chance to learn new skills and ideas. 3. Communication: share your ideas, questions, and opinions with the class. 4. Preparation: before each class you need to read and critically think about issues related to business.			
5. 教科書 Market Leader Extra - Upper intermediate, David Cotton, Cavid Falvey and Simon Kent / Pearson			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Attendance: 15% In class participation: 15% Weekly activities: 10% Mid-term and final: 40% (1) Presentation: 20%			
9. その他 If you need to contact me at anytime please send me (Allen Lindskoog) an e-mail in English - skoog5600@gmail.com and put "Meiji Business English" in the subject header. And also please make sure you put your first and last name in English in the e-mail message as well. A website link for our class blog site will be given out the first day of class.			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Business English B		リンズクーグ, アレン	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course is designed to focus on the research and discussion of current international business practices throughout the world. For example the impact of AI on jobs in the future, technology and globalization. During the course you will have an opportunity to work on two research projects and present them to your classmates. Throughout the course you will be asked to do research and take notes as well as work on other business related topics such as emailing and product pitches. Additionally, through the use of pair work and small group discussions you will be able to explore in details your specific issue and expand your vocabulary and improve your business English speaking ability. After the completion of your preparation you will then you will be asked to give presentations in small groups to both demonstrate your knowledge of the topic as well as to inform your listeners of the issue.			
2. 授業内容 Class 1. Introductions (course and personal) Class 2. How to present and preparation process Class 3. Choosing a topic of interest and brainstorming Class 4. Researching, interviews and surveys Class 5. In class small group discussion on your topic Class 6. Notetaking (summarizing and paraphrasing) Class 7. In class discussion on the topic, research and notes Class 8. Writing a speaking outline and presentation preparation Class 9. In-class informal presentation practice Class 10. Presentation style introduction Class 11. Presentation style practice Class 12. Post-presentation Q and A (Question and Answer) introduction and practice Class 13. In-class formal presentation Class 14. Semester class survey and semester reflection			
3. 履修上の注意 - Attend 80% or more of the classes and arrive on time. - Prepare outside of class each week 1 - 3 hours. - Participate actively in class each week. - Help each other with English and other activities in class. - Complete all assignments on time. - Prepare and present (1) formal presentation per semester English requirement : TOEIC 400～			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 For this course you will need: 1. Be ready to participate in pair and group discussions. 2. Enthusiasm: take advantage of this chance to learn new skills and ideas. 3. Communication: share your ideas, questions, and opinions with the class. 4. Preparation: before each class you need to read and critically think about issues related to business.			
5. 教科書 Market Leader Extra - Upper intermediate, David Cotton, Cavid Falvey and Simon Kent / Pearson			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Attendance: 15% In class participation: 15% Weekly activities: 10% Mid-term and final: 40% (1) Presentation: 20%			
9. その他 If you need to contact me at anytime please send me (Allen Lindskoog) an e-mail in English - skoog5600@gmail.com and put "Business English" in the subject header. And also please make sure you put your first and last name in English in the e-mail message as well. A website link for our class blog site will be given out the first day of class.			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Business English A		山高美和	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> Course Outline: This course is designed to enhance workplace listening and speaking skills through engaging weekly activities such as role-playing and group discussions. Students will build confidence in using English effectively in workplace settings while enjoying a supportive and interactive learning environment. <到達目標> Course Objectives: By the end of this course, students will: ※ Improve their ability to communicate confidently in workplace settings. ※ Develop intercultural workplace etiquette and teamwork skills. ※ Gain practical experience in handling everyday workplace interactions.			
2. 授業内容 Course Content: The course will primarily be conducted in English, with Japanese used when necessary for clarification. 第1回：【対面授業】Introduction to Business English. 第2回：【対面授業】Unit 1: Welcome to the company! - Introducing a colleague. 第3回：【対面授業】Conversation topics / Small Talk / Making introductions. 第4回：【対面授業】Unit 3: What's on the agenda? - Running meetings. 第5回：【対面授業】Unit 4: That's a great idea! - Agreeing and disagreeing. 第6回：【対面授業】Useful meeting phrases. 第7回：【対面授業】Redecorating the office. 第8回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 5: I'll call you back - Leaving messages. 第9回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Telephoning - Using voicemail / Taking and leaving messages. 第10回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Telephoning Activity 第11回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 6: Can I get there on foot? - Checking in. 第12回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Hotel activity 第13回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Asking for information / Giving directions 第14回：【オンライン授業（リアルタイム型）】aのみ：Course Review			
3. 履修上の注意 履修上の注意 This course includes both in-person sessions and live-streamed classes on Zoom. 本コースは、春学期の前半は対面授業で、後半はZoomによるリアルタイム型オンライン授業を実施します。 オンライン授業については、以下の方法で実施されます： Zoom招待状の配信 原則として、オンライン授業の前日までに、Oh-o! Meijiのクラスウェブを通じてZoom招待状を配信します。 授業はリアルタイム配信型（100分）で行います。 春学期最終授業の特例 春学期の最終Zoomリアルタイム型授業のみ、授業時間は50分とします。 授業の進行 リアルタイム型授業では、出席確認を授業中に行います。また、ブレイクアウトルームを使用したグループ・アクティビティを取り入れて進みます。Zoomのプロフィール名は、必ずフルネーム（実名）で英語と日本語を併記してください（例：Hanako Meiji 明治花子）。 意見交換と質問の場 Oh-o! Meijiのクラスウェブや、年度限定のクラス用SNSグループを活用して意見交換の場を設けます。教員への質問や相談については、専用メールアドレスおよびSNSアカウントを初回授業でお知らせします。 オンライン授業の履修条件 学習環境 安定したネット接続環境があり、静かで学習に集中できる環境（例：自宅またはキャンパス内で指定された教室）で受講してください。 騒音の多い商業施設での受講は禁止します。また、交通機関を利用した移動中のZoom参加は出席として認めません。 使用デバイス 個人で使用するノートPCまたはタブレットを推奨します。ヘッドセットやマイクなども必要です。 スマートフォンでの受講は推奨しません（画面が小さく、Zoom操作が制限されるため）。ただし、ロールプレイやPDF資料の閲覧など補助的に使用する場合があります。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習（予習・復習等）の内容 予習 Oh-o! Meijiのクラスウェブに定期的に投稿されるPDF資料に目を通し、授業内のグループアクティビティに備えてください。 復習 授業後は、教材およびPDF資料を復習し、理解を深めてください。 課題 オンライン課題はクラスウェブに提示されますので、指定された期限までに提出してください。			
5. 教科書 Get Ready for International Business: English for the Workplace with Extra Practice for the TOEIC Exam (B1) - Student's Book 2 著者: Andrew Vaughan & Dorothy E. Zemach 出版社: Macmillan ISBN: 9780230447912			
6. 参考書 Oh-o! Meijiのクラスウェブに、教材で学習した内容に関連するPDF資料が定期的に投稿されます。これらを参考資料として活用してください。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 オンライン課題のフィードバックは、提出期限後にOh-o! Meijiシステムを通じて配信します。			
8. 成績評価の方法 成績評価の方法 評価割合 授業への貢献度：50％ 課題：50％ 試験 対面形式での試験は実施しません。 単位取得条件 単位を取得するには、授業への貢献だけでなく、全ての課題を期限内に提出する必要があります。 出席に関する規定 ※合計4回の欠席（公的機関発行の証明書を提出できない場合）は単位取得不可となります。 ※合計3回までの公欠や病欠以外の欠席は認められますが、授業への貢献度評価は他の出席している学生より低くなる可能性があるため、注意してください。 ※公欠や病欠を申請する場合は、公的機関が発行した証明書を提示する必要があります。 遅刻 遅刻3回で欠席1回分として扱います。 授業参加の注意点 教材を持参しない場合や、授業貢献度が著しく低い場合は、評価が下がります。			
9. その他 To the class members: I grew up and worked in London, UK, while being Japanese. This unique background has given me a distinct perspective on both cultures, which I look forward to sharing with you. Through our weekly interactive group activities, I hope you will gain the confidence and mindset needed to use English effectively in your future workplace. These activities are also designed to enhance your understanding of business etiquette, helping you navigate intercultural environments with ease. Please note that spots for this course are limited, so make sure to register before the course begins. I am excited to meet you and look forward to sharing an enjoyable and enriching learning experience together. Best wishes, Miwa Yamataka			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Business English B		山高美和	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> Course Outline: This course is designed to enhance workplace listening and speaking skills through engaging weekly activities such as role-playing and group discussions. Students will build confidence in using English effectively in workplace settings while enjoying a supportive and interactive learning environment. <到達目標> Course Objectives: By the end of this course, students will: ※ Improve their ability to communicate confidently in workplace settings. ※ Develop intercultural workplace etiquette and teamwork skills. ※ Gain practical experience in handling everyday workplace interactions.			
2. 授業内容 Course Content: The course will primarily be conducted in English, with Japanese used when necessary for clarification. 第1回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Ice-breaking activity 第2回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 7: Best wishes, Thomas Kale - Understanding emails 第3回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Writing emails / Email vocabulary 第4回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 9: What was his major? - Discussing job applications 第5回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Reading and writing a CV - Supporting opinions / Describing experience. 第6回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 10: Tell me about yourself - Giving key information. 第7回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Being interviewed - Describing your background. 第8回：【オンライン授業】Being interviewed - Talking about your future. 第9回：【対面授業】Being interviewed - Talking about your strength. 第10回：【対面授業】Job interview activity. 第11回：【対面授業】Unit 2: An important visitor - starting a presentation / Openings / Introductions 第12回：【対面授業】Unit 8: That's a good question - Delivery (eye contact / voice) / Presenting information / Endings / conclusions. 第13回：【対面授業】Group presentation activity 第14回：【対面授業】aのみ：Course Review			
3. 履修上の注意 履修上の注意 This course includes both in-person sessions and live-streamed classes on Zoom. 本コースは、秋学期の前半はZoomによるリアルタイム型オンライン授業で、後半は対面授業を実施します。 オンライン授業については、以下の方法で実施されます： Zoom招待状の配信 原則として、オンライン授業の前日までに、Oh-o! Meijiのクラスウェブを通じてZoom招待状を配信します。 授業はリアルタイム配信型（100分）で行います。 秋学期最終授業の特例 秋学期の最終対面授業のみ、授業時間は50分とします。 授業の進行 リアルタイム型授業では、出席確認を授業中に行います。また、ブレイクアウトルームを使用したグループ・アクティビティを取り入れて進みます。Zoomのプロフィール名は、必ずフルネーム（実名）で英語と日本語を併記してください（例：Hanako Meiji 明治花子）。 意見交換と質問の場 Oh-o! Meijiのクラスウェブや、年度限定のクラス用SNSグループを活用して意見交換の場を設けます。教員への質問や相談については、専用メールアドレスおよびSNSアカウントを初回授業でお知らせします。 オンライン授業の履修条件 学習環境 安定したネット接続環境があり、静かで学習に集中できる環境（例：自宅またはキャンパス内で指定された教室）で受講してください。 騒音の多い商業施設での受講は禁止します。また、交通機関を利用した移動中のZoom参加は出席として認めません。 使用デバイス 個人で使用するノートPCまたはタブレットを推奨します。ヘッドセットやマイクなども必要です。 スマートフォンでの受講は推奨しません（画面が小さく、Zoom操作が制限されるため）。ただし、ロールプレイやPDF資料の閲覧など補助的に使用する場合があります。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習（予習・復習等）の内容 予習 Oh-o! Meijiのクラスウェブに定期的に投稿されるPDF資料に目を通し、授業内のグループアクティビティに備えてください。 復習 授業後は、教材およびPDF資料を復習し、理解を深めてください。 課題 オンライン課題はクラスウェブに提示されますので、指定された期限までに提出してください。			
5. 教科書 Get Ready for International Business: English for the Workplace with Extra Practice for the TOEIC Exam (B1) - Student's Book 2 著者: Andrew Vaughan & Dorothy E. Zemach 出版社: Macmillan ISBN: 9780230447912			
6. 参考書 Oh-o! Meijiのクラスウェブに、教材で学習した内容に関連するPDF資料が定期的に投稿されます。これらを参考資料として活用してください。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 オンライン課題のフィードバックは、提出期限後にOh-o! Meijiシステムを通じて配信します。			
8. 成績評価の方法 成績評価の方法 評価割合 授業への貢献度：50％ 課題：50％ 試験 対面形式での試験は実施しません。 単位取得条件 単位を取得するには、授業への貢献だけでなく、全ての課題を期限内に提出する必要があります。 出席に関する規定 ※合計4回の欠席（公的機関発行の証明書を提出できない場合）は単位取得不可となります。 ※合計3回までの公欠や病欠以外の欠席は認められますが、授業への貢献度評価は他の出席している学生より低くなる可能性があるため、注意してください。 ※公欠や病欠を申請する場合は、公的機関が発行した証明書を提示する必要があります。 遅刻 遅刻3回で欠席1回分として扱います。 授業参加の注意点 教材を持参しない場合や、授業貢献度が著しく低い場合は、評価が下がります。			
9. その他 To the class members: I grew up and worked in London, UK, while being Japanese. This unique background has given me a distinct perspective on both cultures, which I look forward to sharing with you. Through our weekly interactive group activities, I hope you will gain the confidence and mindset needed to use English effectively in your future workplace. These activities are also designed to enhance your understanding of business etiquette, helping you navigate intercultural environments with ease. Please note that spots for this course are limited, so make sure to register before the course begins. I am excited to meet you and look forward to sharing an enjoyable and enriching learning experience together. Best wishes, Miwa Yamataka			

科目ナンバー：(BA)MAN291E			
Fundamentals of Management A [2018年度以前入学者 「Introduction to Management A」]			鷲見 淳
2 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline and Objectives: This course serves as a general introduction to Management, utilizing a popular English textbook commonly used in undergraduate business programs at United States universities. The primary goal is to comprehend fundamental concepts and approaches in Management, including the business mindset, business ethics, corporate social responsibility, ownership, issues of corporate governance, and management roles and functions. The course is specifically designed for students in the business program who have successfully completed the General Management (経営総論) course in Japanese during the spring semester of their freshman year. In addition, it is desirable that participants have successfully completed Fundamentals of Management A/B during the 2nd year. Lectures are conducted in English. The course is designed to facilitate students understanding of the selected topics by elaborating key issues instead of superficially covering the wide range of topics in business management. Each session includes team presentations by participants, followed by group discussions on the topics featured in the textbook. Goals of the Course: 1 Gain an understanding of the basic concepts and approaches in Management in English. 2 Develop a foundational business mindset to prepare for future global business careers.			
2. 授業内容 Course Content: 1 st Week Course Introduction and assignment of students' presentations 2 nd Week Developing a Business Mindset 1 3 rd Week Developing a Business Mindset 2 4 th Week Developing a Business Mindset 3 (Discussion) 5 th Week Economics, Money, and Banking 1 6 th Week Economics, Money, and Banking 2(Discussion) 7 th Week The Global Marketplace 1 8 th Week The Global Marketplace 2 9 th Week The Global Marketplace 3 (Discussion) 10th Week Business Ethics and Corporate Social Responsibility 1 11th Week Business Ethics and Corporate Social Responsibility 2 12th Week Business Ethics and Corporate Social Responsibility 3 (Discussion) 13th Week TEAM PRESENTATION 1 14th Week TEAM PRESENTATION 2			
3. 履修上の注意 Registration Requirements Minimum TOEIC score: around 730 Students who wish to enroll in this course must attend the first class on course introduction/guidance.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Course Preparations (IMPORTANT) 1. Students are required to answer 10 quizzes in Oh-o! Meiji's class web in between classes. 2. All participants are required to read the designated part of the textbook carefully in advance and prepare for presentations and group discussions.			
5. 教科書 Textbook (s) Courtland L. Bovee, John V. Thill (2023) Business in Action, Global Edition. Pearson Education Limited: 10th edition.			
6. 参考書 Reference Book (s) References are introduced, if necessary.			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Assessment: (1) 10 Quizzes 40% (2) Participation to the class (including team presentations and group discussions) : 30%. (3) Case Study Question Assignment: 30%. *Case Study Question: TBA			
9. その他 You are always inspired to share openly ideas and insights during classroom meetings as well as ask freely any number of questions for understanding better the contents covered in this course. The course facilitator is reachable at 2025classes.sumi@gmail.com.			

科目ナンバー：(BA)MAN291E			
Fundamentals of Management B [2018年度以前入学者 「Introduction to Management B」]			鷲見 淳
2 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline and Objectives: This course serves as a general introduction to Management, utilizing an English textbook popular in undergraduate business programs at universities in the United States. The primary goal is to understand the basic concepts and approaches in Management, covering areas such as production systems, employee motivation, human resources management. The course is specifically designed for students in the business program who have successfully completed the General Management (経営総論) course in Japanese during the spring semester of their freshman year. In addition, it is desirable that participants have successfully completed Fundamentals of Management A/B during the 2nd year. Lectures are conducted in English. The course is designed to facilitate students understanding of the selected topics by elaborating key issues instead of superficially covering the wide range of topics in business management. Each session includes team presentations by participants, followed by group discussions on the topics featured in the textbook. Goals of the Course: 1 Understand the basic concepts and approaches in Management in English. 2 Develop a foundational business mindset to be ready for future global business careers.			
2. 授業内容 1 st Week Course Introduction & Assignment of Team Presentation 2 nd Week Production Systems 1 3 rd Week Production Systems 2 4 th Week Production Systems 3 (Discussion) 5 th Week Employee Motivation 1 6 th Week Employee Motivation 2 7 th Week Employee Motivation 3 8 th Week Employee Motivation 4 (Discussion) 9 th Week Human Resource Management 1 10th Week Human Resource Management 2 11th Week Human Resource Management 3 12th Week Human Resource Management 4 (Discussion) 13th Week TEAM PRESENTATION 1 14th Week TEAM PRESENTATION 2			
3. 履修上の注意 Minimum TOEIC score: around 730 Students who wish to enroll in this course must attend the first class on course introduction/ guidance.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Course Preparations (IMPORTANT) 1. Students are required to answer 10 quizzes in Oh-o! Meiji's class web in between classes. 2. All participants are required to read the designated part of the textbook carefully in advance and prepare for presentations and group discussions.			
5. 教科書 Courtland L. Bovee, John V. Thill (2023) Business in Action, Global Edition, Pearson Education Limited: 10th edition.			
6. 参考書 References are instructed, if necessary.			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Assessment : (1) 10 Quizzes 40% (2) Participation to the class (including team presentations and group discussions) : 30%. (3) Mini Case Study Report Assignment: 30%.			
9. その他 You are always inspired to share openly ideas and insights during classroom meetings as well as ask freely any number of questions for understanding better the contents covered in this course. The course facilitator is reachable at 2025classes.sumi@gmail.com.			

科目ナンバー：(BA)MAN291E			
Fundamentals of Management C			鷲見 淳
2 単位	2 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline and Objectives: This course serves as a general introduction to Management, utilizing a popular English textbook commonly used in undergraduate business programs at United States universities. The primary goal is to comprehend fundamental concepts and approaches in Management, including the business mindset, business ethics, corporate social responsibility, ownership, issues of corporate governance, and management roles and functions. The course is specifically designed for students in the business program who have successfully completed the General Management (経営総論) course in Japanese during the spring semester of their freshman year. In addition, it is desirable that participants have successfully completed Fundamentals of Management A/B during the 2nd year. Lectures are conducted in English. The course is designed to facilitate students understanding of the selected topics by elaborating key issues instead of superficially covering the wide range of topics in business management. Each session includes team presentations by participants, followed by group discussions on the topics featured in the textbook. Goals of the Course: 1 Gain an understanding of the basic concepts and approaches in Management in English. 2 Develop an understanding of the functional areas of Business Management. 3 Develop a foundational business mindset to be ready for future global business careers.			
2. 授業内容 1 st Week Course Introduction & Assignment of Team Presentation 2 th Week Forms of Ownership 1 3 rd Week Forms of Ownership 2 4 th Week Entrepreneurship and Small-Business Ownership 1 5 th Week Entrepreneurship and Small-Business Ownership 2 6 th Week Entrepreneurship and Small-Business Ownership 3 (Discussion) 7 th Week Management Roles, Functions and Skills 1 8 th Week Management Roles, Functions and Skills 2 9 th Week Management Roles, Functions and Skills 3 (Discussion) 10th Week Organization and Teamwork 1 11th Week Organization and Teamwork 2 12th Week Organization and Teamwork 3 (Discussion) 13th Week TEAM PRESENTATION 1 14th Week TEAM PRESENTATION 2			
3. 履修上の注意 Registration Requirements Minimum TOEIC score: around 730 Students who wish to enroll in this course must attend the first class on course introduction/guidance.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Course Preparations (IMPORTANT) 1. Students are required to answer 10 quizzes in Oh-o! Meiji's class web in between classes. 2. All participants are required to read the designated part of the textbook carefully in advance and prepare for presentations and group discussions.			
5. 教科書 Textbook Courtland L. Bovee, John V. Thill (2023) Business in Action, Global Edition. Pearson Education Limited: 10th edition.			
6. 参考書 References are introduced, if necessary.			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Assessment: (1) 10 Quizzes 40% (2) Participation to the class (including team presentations and group discussions) : 30%. (3) Case Study Question Assignment: 30%. *Case Study Question: TBA			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN291E			
Fundamentals of Management D			鷲見 淳
2 単位	2 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline and Objectives: This course serves as a general introduction to Management, utilizing a popular English textbook commonly used in undergraduate business programs at United States universities. The primary goal is to comprehend fundamental concepts and approaches in Management, including the business mindset, business ethics, corporate social responsibility, ownership, issues of corporate governance, and management roles and functions. The course is specifically designed for students in the business program who have successfully completed the General Management (経営総論) course in Japanese during the spring semester of their freshman year. In addition, it is desirable that participants have successfully completed Fundamentals of Management A/B during the 2nd year. Lectures are conducted in English. The course is designed to facilitate students understanding of the selected topics by elaborating key issues instead of superficially covering the wide range of topics in business management. Each session includes team presentations by participants, followed by group discussions on the topics featured in the textbook. Goals of the Course: 1 Gain an understanding of the basic concepts and approaches in Management in English. 2 Develop an understanding of the functional areas of Business Management. 3 Develop a foundational business mindset to be ready for future global business careers.			
2. 授業内容 Course Content 1 st Week Course Introduction & Assignment of Team Presentation 2 th Week The Art and Science of Marketing 1 3 rd Week The Art and Science of Marketing 2 4 th Week The Art and Science of Marketing 3 5 th Week The Art and Science of Marketing 4 (Discussion) 6 th Week Product Management and Pricing Strategies 1 7 th Week Product Management and Pricing Strategies 2 8 th Week Product Management and Pricing Strategies 3 (Discussion) 9 th Week Customer Communication and Product Distribution 1 10th Week Customer Communication and Product Distribution 2 11th Week Customer Communication and Product Distribution 3 12th Week Customer Communication and Product Distribution 2 (Discussion) 13th Week TEAM PRESENTATION 1 14th Week TEAM PRESENTATION 2			
3. 履修上の注意 Registration Requirements Minimum TOEIC score: around 730 Students who wish to enroll in this course must attend the first class on course introduction/guidance.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Course Preparations (IMPORTANT) 1. Students are required to answer 10 quizzes in Oh-o! Meiji's class web in between classes. 2. All participants are required to read the designated part of the textbook carefully in advance and prepare for presentations and group discussions.			
5. 教科書 Textbook Courtland L. Bovee, John V. Thill (2023) Business in Action, Global Edition. Pearson Education Limited: 10th edition.			
6. 参考書 References are introduced, if necessary.			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Assessment : (1) 10 Quizzes 40% (2) Participation to the class (including team presentations and group discussions) : 30%. (3) Mini Case Study Report Assignment: 30%.			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN291E			
Transcultural Business Communication A		金子 敦子	
2 単位	2 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Given the globalization of business and increasing diversity within the workforce of many industries and organizations, more and more managers and professionals are required to work effectively across borders and cultures. This course offers opportunities to practice skills as well as a broad view of theories, models, and ideas on global strategic positioning, cross-cultural understanding, and management. Course objectives: 1. To develop an understanding of how to work with people from different cultural backgrounds. 2. To develop an awareness of how to incorporate ethical principles, personal and organizational values, and socially responsible practices in global management. 3. To develop collaborative, cooperative, and open study skills. Main Deliverables in the 14-Week Session: Presentations: Two formal written presentations accompanied by visual aids and/or reports. Students must video-record their presentations and submit the recordings along with their visual aids for grading.			
2. 授業内容 Week 1 Describing culture Week 2 Flexible thinking model Week 3 Handling first meetings with new professional contacts Week 4 Building relationships with a range of small talk styles Week 5 Communicating messages sensitively Week 6 Interacting across cultures Week 7 Student presentations (1) Week 8 Outlining a decision-making process Week 9 Managing different types of communicators Week 10 Clarifying messages Week 11 Analysing why we listen to other people Week 12 Customizing presentations to different international audiences Week 13 Student presentations (2-1) Week 14 Student presentations (2-2)			
3. 履修上の注意 ※「履修のための英語要件の基準点（以下のいずれか）」を満たさない場合、本科目の履修はできません。 Students who do not meet the English requirement for this course (TOEIC 730, TOEFL ITP 500, TOEFL iBT 64, or IELTS 5.5) cannot take this course.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are expected to preview the book, prepare response to questions for class discussion. Students submit activity reports based on preview and class discussion every week. Quizzes are designed to help students understand the concepts introduced in the book.			
5. 教科書 Bob Dignen. (2011). Communicating Across Cultures. Cambridge University Press			
6. 参考書 H. Deresky, International Management: Managing Across Borders and Cultures. 9th edition, Global Edition. Pearson.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Provide feedback through Oh-o! Meiji (LMS) discussions as well as in-class discussions.			
8. 成績評価の方法 Grading Policy: Reports and Presentations (2): 40% Assignments and Quizzes: 40% Contribution to Class: 20% Attendance Policy: Students who miss more than three (3) classes during the 14-week course will receive a failing grade. Three (3) instances of tardiness will be considered equivalent to one (1) absence.			
9. その他 Classroom language is English.			

科目ナンバー：(BA)MAN291E			
Strategic Business Communication A			金子敦子
2 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Successful leaders are highly effective communicators. This course develops an understanding of the theory of human communication so that a student can apply it in the organizational setting. The course content will include principles of relationship-building such as personal credibility, emotional intelligence and listening and their application to productive business communication. It involves developing and enhancing your competencies in collaborating in teams, writing effective business messages, developing influential messages, and speaking and presenting in workplace settings. Learning Objectives: - Understand and build credibility as a manager - Learn and apply the theory and principles of interpersonal business communication - Understand and describe characteristics of cultural intelligence, its importance for global business leaders, and approaches to developing it - Develop and deliver compelling messages - Develop critical thinking, collaboration, and productivity in work relationships Main Deliverables in the 14-Week Session: Presentations: Two formal written presentations accompanied by visual aids and/or reports. Students must video-record their presentations and submit the recordings along with their visual aids for grading.			
2. 授業内容 Week 1 (4/16) Introduction; Establishing Credibility: Competence, Caring, Character Week 2 (4/23) Interpersonal Communication Week 3 (4/30) Team Communication Week 4 (5/7) Inclusion in a Diverse Workplace Week 5 (5/14) Global Communication Week 6 (5/21) Student Presentations Week 7 (5/28) Creating Effective Business Messages Week 8 (6/4) Improving Readability with Style and Design Week 9 (6/11) Email and Other Traditional Tools for Business Week 10 (6/18) Collaboration Tools and Social Media for Business Communication Week 11 (6/25) Routine Business Messages Week 12 (7/2) Persuasive Messages Week 13 (7/9) Student Presentations Week 14 (7/16) Student Presentations			
3. 履修上の注意 ※「履修のための英語要件の基準点（以下のいずれか）」を満たさない場合、本科目の履修はできません。 Students who do not meet the English requirement for this course (TOEIC 730, TOEFL ITP 500, TOEFLiBT 64, or IELTS 5.5) cannot take this course.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are expected to preview the book, respond to questions for discussion, prepare for quizzes, and develop reports. Students submit activity reports based on preview and class discussion every week. Quizzes are designed to help students understand the concepts introduced in the book.			
5. 教科書 Peter Cardon (2024). Business Communication: Developing Leaders for a Networked World 5th Edition McGraw-Hill ISBN 978-1-266-15821-6			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Provide feedback through Oh-o! Meiji (LMS) discussions as well as in-class discussions.			
8. 成績評価の方法 Reports and presentations (2) 40%; quizzes and assignments 40%; contribution to class: 20% Attendance: If students miss more than 3 of the 14 classes, they will not receive credits. 3 late arrivals equal 1 absence.			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN291E			
Strategic Business Communication B			金子敦子
2 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Successful leaders are highly effective communicators. This course focuses on developing an understanding of business communication theory and its application in organizational settings. It aims to enhance your competencies in team collaboration, writing effective business messages, developing influential reports, selecting appropriate communication channels, and speaking and presenting in workplace environments. This semester, we will emphasize developing and delivering business reports and presentations. Learning Objectives: Understand and build credibility as a communicator Learn and apply the theories and principles of business communication Develop and deliver compelling business reports and presentations Cultivate critical thinking, collaboration, and productivity in professional relationships Main Deliverables in the 14-Week Session: Presentations: Two formal written presentations accompanied by visual aids and/or reports. Students must video-record their presentations and submit the recordings along with their visual aids for grading.			
2. 授業内容 Week 1 (9/24) Introduction; Establishing Credibility Week 2 (10/1) Creating Team Charter; Research Objectives and Simple Survey Questions Week 3 (10/8) Creating Effective Charts Week 4 (10/15) Developing Proposals Week 5 (10/22) Student presentations Week 6 (11/5) Business Report with Secondary Research Week 7 (11/12) Business Report with Primary Research Week 8 (11/19) Planning a Presentation: PREP method Week 9 (11/26) Evaluating an Electronic Slide Presentation Week 10 (12/3) Delivering Presentations: SOFTEN model Week 11 (12/10) Evaluating a Corporate Presentation Week 12 (12/17) Evaluating a Corporate Presentation Week 13 (1/10) Student presentations Week 14 (1/21) Student presentations			
3. 履修上の注意 ※「履修のための英語要件の基準点（以下のいずれか）」を満たさない場合、本科目の履修はできません。 Students who do not meet the English requirement for this course (TOEIC 730, TOEFL ITP 500, TOEFLiBT 64, or IELTS 5.5) cannot take this course.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are expected to preview the book, respond to questions for discussion, prepare for quizzes, and develop reports. Students submit activity reports based on preview and class discussion every time they attend. Quizzes are designed to help students understand the concepts introduced in the book.			
5. 教科書 Peter Cardon (2024). Business Communication: Developing Leaders for a Networked World 5th Edition McGraw-Hill ISBN 978-1-266-15821-6			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Provide feedback through Oh-o! Meiji (LMS) discussions as well as in-class discussions.			
8. 成績評価の方法 Reports and presentations (2) 30%; quizzes 30%; homework 30%; contribution to class: 10% Attendance: If students miss more than 3 of the 14 classes, they will not receive credits. 3 late arrivals equal 1 absence.			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN291E			
Strategic Business Communication A			宮田 理 奈 子
2 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course is a general introduction to the practice of Strategic Communication. Strategic Communication is the systematic planning and realization of information flow, communication, media development and image care in order to achieve a strategic goal. During the Spring semester, a variety of topics related to business will be introduced to understand the basic methods of how organizations and individuals communicate to a targeted audience. Moreover, principles of interpersonal communication such as strategies for presentations, meetings, negotiations and conversations will be introduced.			
2. 授業内容 Week 1 . Introduction Week 2 . What is Strategic Communication and why is it important? The Nature of Communication Week 3 . Communicating in and beyond Organizations Week 4 . Communication in a Diverse Society Week 5 . Cultural Differences in International Business Week 6 . Cultural Awareness Week 7 . Strategic Case Week 8 . Listening strategies Week 9 . Verbal and Non-verbal Messages, Interpersonal Strategies Week10. Managing conflict Week11. Strategic Case Week12. Communicating in Teams Week13. Practice, Review Week14. a: Review b: Final Exam.			
3. 履修上の注意 Students need to meet the English requirement (TOEIC 730) for this course. 履修のための英語要件の基準点を満たさない場合、本科目の履修はできません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Positive attitude and preparation for discussions are required.			
5. 教科書 Communicating at Work, 12th edition , McGraw Hill			
6. 参考書 To be introduced in class.			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Class Participation 30 % Homework, Papers, 30% Final Exam 40%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN291E			
Strategic Business Communication B			宮田 理 奈 子
2 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course is a general introduction to the practice of Strategic Communication. Strategic Communication is the systematic planning and realization of information flow, communication, media development, and image care to achieve a strategic goal. During the Fall semester, topics related to business will be introduced to understand the basic methods of how organizations and individuals communicate with a targeted audience. Moreover, students will practice strategic communication skills.			
2. 授業内容 Week 1 Introduction, Review of Spring Semester Week 2 Communicating in Teams Week 3 Effective Meetings Week 3 Virtual Meetings Week 4 Conducting Meetings Week 5 Case Week 6 Case Week 7 Strategic Presentations Week 8 Types of Presentations Week 9 Functions of the Introduction, Functions of the Conclusion Week10 Informative Presentations Week11 Persuasive Presentations Week12 Research, Review Week13 Presentations Week14 Presentations			
3. 履修上の注意 Students need to meet the English requirement (TOEIC 730) for this course. 履修のための英語要件の基準点を満たさない場合、本科目の履修はできません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Preparation for discussions and presentations are required.			
5. 教科書 Communicating at Work, 12th edition. McGraw- Hill.			
6. 参考書 To be announced in class.			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Participation 30% Homework, Papers 30% Final Presentation 40%			
9. その他 Positive attitude preferred.			

科目ナンバー：(BA)MAN291E			
Strategic Business Communication A		リンズクーグ, アレン	
2 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course is a general introduction to the practice of Strategic Communication. Strategic Communication is the systematic planning and realization of information flow, communication, media development and image care in order to achieve a strategic goal. During the Spring semester, you will be introduced to a variety of topics related to business. Students will understand the basic methods of how organizations communicate to a targeted audience in order to change/strengthen attitudes and behaviors. Students will also be exposed to the principles of interpersonal communication, such as how to persuade/convince the target through presentations, meetings, negotiations and day-to-day conversations from topics chosen that are related to business or industries. This will be achieved in a workshop-like environment in which you will create your own companies from start to finish.			
2. 授業内容 Week 1 : Introduction Week 2 : What is strategic communication (and why is it important)? Week 3 : Companies: Facts, How to do group presentations. Week 4 : Choosing a company. Research Week 5 : Contacts: Group presentations begin Week 6 : Products and Services: Describing a company's products and services. Group presentations continue Week 7 : Welcoming visitors: Company structures. Group presentations continue Week 8 : Customer service: Dealing with customers. Week 9 : Employment: Employment procedures, job interview. Week 10 : Presentation production: How to present (Style and content) Week 11 : Travel: Asking for directions, making reservations. Individual presentations begin Week 12 : Orders: Order processes, payments and terms. Individual presentations continue Week 13 : Individual presentations finish. Final exam review and preparation. Week 14 : Final exam.Semester review and Reflections (What did we learn?)			
3. 履修上の注意 ※「履修のための英語要件の基準点 (以下のいずれか)」を満たさない場合、本科目の履修はできません。 Students who do not meet the English requirement for this course (TOEIC 730, TOEFL ITP 500, TOEFLiBT 64, or IELTS 5.5) cannot take this course.			
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 For this course you will need: 1. Be ready to participate in pair and group discussions. 2. Enthusiasm: take advantage of this chance to learn new skills and ideas. 3. Communication: share your ideas, questions, and opinions with the class. 4. Preparation: before each class you need to read and critically think about issues related to business.			
5. 教科書 No textbook will be used in the course. Online worksheets and reading material provided.			
6. 参考書 Other references and resources will be provided as hand-outs during class along with access to our blog site which we will be using weekly.			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 ・ In-class participation 25% ・ (2) presentations - 50% ・ homework 25%			
9. その他 I will work hard to make this course as valuable as possible for you now and for your future. Classroom learning is You will need to work hard and participate in class and with your classmates. What do you need to do to be successful in this course and prepare for your future? ・ Attend all the classes and arrive on time. ・ Prepare outside of class each week 1 - 2 hours. ・ Participate actively in class each week. ・ Help each other in class. ・ Complete all assignments on time. ・ Prepare and do both group and individual presentations If you need to contact me at anytime please send me (Allen Lindskoog) an e-mail in English - skoog5600@gmail.com and put "Meiji Strategic Communication" in the subject header. And also please make sure you put your first and last name in English in the e-mail message as well. A website link for our class blog site will be given out the first day of class.			

科目ナンバー：(BA)MAN291E			
Strategic Business Communication B		リンズクーグ, アレン	
2 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 This course is a general introduction and continuation on the practice of Strategic Communication. Strategic Communication is the systematic planning and realization of information flow, communication, media development and image care in order to achieve a strategic goal. During the Fall semester, you will be introduced to a variety of topics related to business. Students will understand the basic methods of how organizations communicate to a targeted audience in order to change/strengthen attitudes and behaviors. Students will also be exposed to the principles of interpersonal communication, such as how to persuade/convince the target through presentations, meetings, negotiations and day-to-day conversations from topics chosen that are related to business or industries. This will be achieved in a workshop-like environment where you will form groups, decide upon a company idea and create the company from start to finish and presenting it to your classmates.			
2. 授業内容 Week 1 : Personal objectives and 2 nd semester introductions Week 2 : Selling: Advertising, discussions and meetings Week 3 : Facilitating a meeting: Agenda, leading Q and A. (Make groups for meetings) Week 4 : Facilitating a meeting continued: What makes for an interesting meeting? Plan your group meeting. Week 5 : Environment: Corporate responsibility Week 6 : Entertaining: Hospitality, invitations and offers. First group meeting. Week 7 : Performance: Talking about performance. Group meetings continue. Week 8 : Performance continues: Fine tuning your individual presentations with style. Group meetings continue. Week 9 : Time: Managing your time. Group meetings continue and individual presentations begin. Week 10 : Training: Personal development and training. Final group meetings. Individual presentations continue. Week 11 : Training: Personal development and training continued. Giving advice, and feedback. Individual presentations continue. Week 12 : Email writing: How to write a formal email, introduction and practice. Individual presentations continue. Week 13 : Individual presentations. Week 14 : Semester review and Reflections (What did we learn?)			
3. 履修上の注意 ※「履修のための英語要件の基準点 (以下のいずれか)」を満たさない場合、本科目の履修はできません。 Students who do not meet the English requirement for this course (TOEIC 730, TOEFL ITP 500, TOEFLiBT 64, or IELTS 5.5) cannot take this course.			
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 For this course you will need: 1. Be ready to participate in pair and group discussions. 2. Enthusiasm: take advantage of this chance to learn new skills and ideas. 3. Communication: share your ideas, questions, and opinions with the class. 4. Preparation: before each class you need to read and critically think about issues related to business.			
5. 教科書 No textbook will be used in the course. Online worksheets and reading material provided.			
6. 参考書 Other references and resources will be provided as hand-outs during class and access to our blog site which will be used weekly throughout the semester.			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 ・ In-class participation 25% ・ (2) presentations - 50% ・ homework 25%			
9. その他 You will need to work hard and participate in class and with your classmates. What do you need to do to be successful in this course and prepare for your future? ・ Attend all the classes and arrive on time. ・ Prepare outside of class each week 1 - 2 hours. ・ Participate actively in class each week. ・ Help each other use English in class. ・ Complete all assignments on time. ・ Prepare and do both group and individual presentations If you need to contact me at anytime please send me (Allen Lindskoog) an e-mail in English - skoog5600@gmail.com and put "Business Presentation" in the subject header. And also please make sure you put your first and last name in English in the e-mail message as well. A website link for our class blog site will be given out the first day of class.			

科目ナンバー：(BA)ECN221J			
経済原論A		今井 拓	
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <授業概要> この授業では、マルクス『資本論』(K.Marx,1867,Das Kapital)の経済分析の方法と基本的な内容を解説するとともに、現代資本制社会の分析に有用な内容を補充していきます。特に、利潤率の低下法則について、前提条件が異なる為に、近代と現代においてまったく異なるメカニズムで不況が生じて来たこと、そこから、利潤率の回復の為に、近代末期においてはケ恩斯政策が、現代の1970年代以降においては、新自由主義政策とグローバリゼーションが展開されてきた事を明らかにします。また、ローンや不動産の証券化など、現代の銀行資本や不動産資本の利潤獲得の方法や矛盾についても解説します。さらに、バブル経済とその崩壊以降の日本経済の動向と日本の資本制社会の変質（グローバル化と金融資本化）について説明します。 <到達目標> 本講の到達目標は、資本主義の基本的なしくみや社会の構造を理解し、資本家の利潤追求の基本的な戦略とそれが引き起こす矛盾（労働者階級の状態悪化や格差社会の形成、繰り返される不況や利潤率の低下等）について説明できるようになること。また、産業資本、商業資本、銀行資本、不動産資本など異なる資本の役割や機能について理解し、バブル経済期以降の日本経済の動向と今日の日本の資本主義の変質（グローバル化と金融資本化）について説明できるようになることです。			
2. 授業内容 第1講 aのみ：イントロダクション マルクス経済学の特徴・成果と現代的課題：本講の立場 第2講 商品の使用価値と価値、価格—経済社会が豊かさを実現する基本的メカニズムを理解する— 第3講 労働力商品とその基幹的矛盾—資本主義における労働者階級の状態、及び今日の格差社会発生の原因を理解する— 第4講 資本による剰余価値生産—企業の利潤獲得メカニズムを理解し、資本制社会における階級的利害対立の原因を理解する— 第5講 資本主義経済の発展（資本構成の高度化）と利潤率の低下—近代と現代の不況発生メカニズムの違いを理解する— 第6講 a: 資本の単純再生産と拡大再生産, b: 資本の本源的蓄積—グローバル化により世界中で生じていることを理解する— 第7講 貨幣と為替相場—不換制への転換と変動相場制への移行の意義を理解する— 第8講 産業資本と商業資本—資本回転数の上昇による利潤率の上昇にも触れて— 第9講 銀行資本と証券資本—金融資本の機能と資本主義を変化させるその役割を理解する— 第10講 土地商品と不動産資本—都市化のメカニズムとそれによる資本主義の変化を理解する— 第11講 今日の日本の資本主義を理解するⅠ. バブル経済とその崩壊—株価・地価上昇の原因とその意味を中心に— 第12講 今日の日本の資本主義を理解するⅡ. ミニバブルの発生と崩壊—ローン証券化・不動産証券化のしくみと機能を中心に— 第13講 今日の日本の資本主義を理解するⅢ. アベノミクスバブルの発生と崩壊—アベノミクスの狙いと効果を中心に— 第14講 今日の日本の資本主義を理解するⅣ. まとめ。バブル崩壊以降の資本主義の変容—グローバル化と金融資本化を中心に—			
3. 履修上の注意 Power Point 資料を用い、講義形式で行います。授業は基礎的な内容から順々にすすめていきます。以前の内容が理解できていなければ、その授業の内容は、決して難しく無い筈です。毎回の授業の内容について復習し、よく理解した上で、次の授業に臨むようにして下さい。疑問が残った場合、リアクションペーパーで質問するようにして下さい。次の授業の前には応答するようにします。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 リアクションペーパー（①授業で大事だと思ったポイント、②①への貴方のコメント、③質問、疑問、意見、④要望、等）を毎回提出すること。			
5. 教科書 いわゆる教科書は使用しない。毎回、レジュメと資料をクラスウェブ上に掲載するので、各自ダウンロード、印刷して持参して下さい。以下は、参考文献。 谷田庄三・野田正雄・久留間健編（1992）『現代金融の制度と理論』大月書店 カール・マルクス（1997）『資本論』新日本出版社 久留間健（1999）『貨幣・信用論と現代—不換制の理論—』大月書店 久留間健（2003）『資本主義は存続できるか—成長至上主義の破綻—』大月書店 区画整理・再開発対策全国連絡会議（2008）『都市再生—熱狂から暗転へ—』自治体研究社 今井 拓（2008）「大手ディベロッパーの蓄積戦略の変化とJ-REIT」『政経研究』第91号 今井 拓（2009）「大手ディベロッパーの蓄積戦略とその破たん」『経済』第163号			
6. 参考書 小西一雄（2014）『資本主義の成熟と転換』桜井書店 田上孝一（2018）『マルクス哲学入門』社会評論社 小西一雄（2020）『資本主義の成熟と終焉』桜井書店 Guglielmo Carchedi,1991, Frontiers of Political Economy, Verso Guglielmo Carchedi,2011, Behind the Crisis: Marx's Dialectics of Value and Knowledge, Haymarket Books Michael Roberts 2016, The Long Depression: How it Happened why it Happened, and What Happened next, Haymarket Books Guglielmo Carchedi and Michael Roberts,2023, Capitalism in the Twenty-first Century: Through the Prism of Value, Pluto Press			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業後、期限内にリアクションペーパーを提出して下さい。担当者のコメントを付し、受講生全体に共有します。			
8. 成績評価の方法 期末試験70点と小テスト30点を総合して評価する			
9. その他 本講では主流派経済学とは異なるマルクス経済学の特徴や優位性を重視して説明をします。受講生はミクロ経済学など他の講義の内容と対比しつつ、資本制社会についての理解を深めていくください。			

科目ナンバー：(BA)ECN221J			
経済原論B		今井 拓	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <講義の概要> この授業では、マルクスの経済理論をベースに、現代資本制社会の新しい特徴と課題について説明し、検討していきます。現代資本制社会は、近代末期の危機を克服して生じてきました。危機への第1の対応は、大不況をもたらしたマクロ経済の条件（有効需要不足）を克服することでした。それは、福祉国家ないしは福祉資本主義の形成につながりました（授業の第1のテーマ）。そして、福祉資本主義の確立による豊かな社会の形成により、経済のサービス化が進展し、資本主義は、大きく変貌を遂げることになったのです。この変貌の根本には、モノ商品とサービス商品の性質の違いがあり、分析はここから始め、サービス産業資本や企業サービス資本および社会サービスの特徴へとすすめていく必要があります（授業の第2のテーマ）。一方、近代末期の危機への第2の対応として個々の企業レベルに着目すると、広告宣伝や研究開発による独占価格や独占利潤の追求が行われました。広告宣伝や研究開発の機能や役割、さらには、プラットフォーム資本主義を分析する為にも、情報・知識・文化の性質やそれらの商品化、及び、これらを活用して利潤を追求する資本の性質を明らかにすることが必要になります（授業の第3のテーマ）。最後に、有効需要の創出により、近代末期の危機を克服した現代資本主義は、1970年代に標準利潤率の低下とスタグフレーションという危機に直面することになりました。この現代資本主義の危機への対応として追求されたのが、グローバリゼーションです。その結果、今日、資本主義は、根本的に変化した、グローバル資本主義となったと考えられます。そこで、グローバル資本主義の特徴や課題について考察します（授業の第4のテーマ）。 到達目標 本講の到達目標は、福祉資本主義化、サービス化、情報化・知識化による資本主義の変化について説明することができるようになること。グローバル資本主義の特徴や課題について考察できるようになることです。			
2. 授業内容 第1講 aのみ：イントロダクション 近代資本主義の矛盾と福祉資本主義の確立—現代資本制社会の誕生 第2講 福祉資本主義の4つの世界—Esping-Andersenの福祉資本主義論とその発展— 第3講 労働力商品の現代的変質—賃金の労働力商品の価値からの乖離と剰余価値の新しい概念— 第4講 サービス労働論争—サービス労働は価値を生むか— 第5講 サービス商品の価値論的特徴とサービス産業資本の範疇—資本主義におけるサービス化の生み出す新たな矛盾— 第6講 サービス経済の3部門の発展と資本主義経済の変容 第7講 a: 前半のまとめ：独占資本主義の構造 b: 前半のまとめの小テスト、ないしはレポート課題提示 第8講 情報・知識・文化商品の価値論的特徴 第9講 情報・知識・文化資本の範疇—広告宣伝、ブランド化戦略と研究開発活動を中心に— 第10講 プラットフォームキャピタリズムと知的独占・知的所有権 第11講 a. 社会投資型福祉国家論 b. ベーシック・インカム論へのコメント 第12講 a. グローバル資本主義論 b. ネグリーハート『帝国』へのコメント 第13講 現代資本主義の基幹的矛盾とプラットフォーム資本主義・グローバル資本主義 第14講 a: 後半のまとめ：現代資本主義の基幹的課題 b: 期末試験、ないしはレポート課題提示			
3. 履修上の注意 経済原論Aが履修済であることを前提とします。Power Point 資料を用い、講義形式で行います。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 リアクションペーパー（①授業で大事だと思ったポイント、② ①への貴方のコメント、③ 質問、疑問、意見、④ 要望 等）を毎回提出して下さい。			
5. 教科書 いわゆる教科書は使用しません。レジュメ・資料を毎回、クラスウェブ上に掲載するので、各自ダウンロード、印刷して持参してください。以下は参考文献。 カール・マルクス（1997）『資本論』新日本出版社 Gosta Esping-Andersen,1990,Three Worlds of Welfare Capitalism, PRINCETON UNIVERSITY PRESS William Robinson,2004, A Theory of Global Capitalism: Production, Class, and State in a Transnational World, Johns Hopkins University Press Nathalie Morel et al., ed., 2012, Towards a Social Investment Welfare State? POLITY PRESS			
6. 参考書 参考文献 続き 今井 拓（2007）「サービス商品の概念とサービス産業資本の範疇の規定の為に」『立教経済学研究』第61巻2号 今井 拓（2008）「サービス商品の価値論的特徴について」『経済理論』第45巻3号 今井 拓（2013）「医療・福祉の民営化・市場化の研究—社会ファンドの縮減による看護労働・介護労働の変質—」高崎健康福祉大学大学院健康福祉学研究科 博士号論文 今井 拓（2018）「労働力商品の価値論的分析—労働力価値の析出と剰余価値の新しい概念—」『政経研究』第111号 Eran Fisher and Christian Fuchs, ed.,2015, Reconsidering Value and Labour in the Digital Age, Palgrave Macmillan Shoshana Zuboff, 2019, The Age of Surveillance Capitalism, PublicAffairs Cecilia Ripak, 2021, Capitalism, power and Innovation: Intellectual Monopoly Capitalism Uncovered, Routledge Carchedi and Roberts,2023,Capitalism in the Twenty-first century: through the Prism of Value, Pluto Press			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業後、一定期間内にリアクションペーパーを提出します。リアクションペーパーは、質問に対して応答する等、担当者のコメントを付し、受講生全体に共有します。			
8. 成績評価の方法 期末試験70点と小テスト30点を総合して評価します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ECN316J			
ビジネス・エコノミクスA〔M〕			三上真寛
2単位	3年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標			
〈概要〉 この授業は、営利・非営利を問わず経営実践に携わることになる経営学部生を対象として、現実の経済動向の理解や経営意思決定に資する経済学の知識を提供する。 Aは「ミクロ編」であり、ミクロ経済学の知識を応用して、現実の市場の構造と経済主体の行動を理解することを目標とする。授業では、市場の全体像を捉えるための理論的枠組みを確認した上で、市場構造と消費者・企業の行動様式をさまざまなグラフによって可視化しながら学んでいく。 〈到達目標〉 (1) ミクロ経済行動の把握のために必要な、ミクロ経済学の概念と理論を正確に理解する。 (2) ミクロ経済学のモデルに基づいて、市場の構造および消費者・企業の行動様式を理解する。 (3) 消費者や企業について顕示されている情報を用いて、自らの力でミクロ経済行動を説明できるようになる。			
2. 授業内容			
第1回	イントロダクション〔メディア授業（オンデマンド型）〕		
第2回	市場のモデル化〔メディア授業（オンデマンド型）〕		
第3回	需要と消費者行動（1）：1財モデル〔メディア授業（オンデマンド型）〕		
第4回	需要と消費者行動（2）：2財モデル〔メディア授業（オンデマンド型）〕		
第5回	供給と企業行動（1）：1財モデル〔メディア授業（オンデマンド型）〕		
第6回	供給と企業行動（2）：1財2要素モデル〔メディア授業（オンデマンド型）〕		
第7回	中間まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕		
第8回	参入と退出〔メディア授業（オンデマンド型）〕		
第9回	独占と独占的競争〔メディア授業（オンデマンド型）〕		
第10回	寡占（数量競争）〔メディア授業（オンデマンド型）〕		
第11回	寡占（価格競争）〔メディア授業（オンデマンド型）〕		
第12回	価格戦略〔メディア授業（オンデマンド型）〕		
第13回	製品戦略〔メディア授業（オンデマンド型）〕		
第14回	まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕		
3. 履修上の注意			
この講義はメディア授業科目として開講され、授業はすべて、授業動画をOh-o!Meijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行う。授業動画は授業実施日（水曜日とする）の前日までに公開し、当該学期中の視聴を可能とする。なお、授業動画についてウェブ上での課題提出を求め、受講および理解度の確認を行う。また、クラスウェブを活用して履修者からの質問や意見を共有し、意見交換を促す。教員への質問・相談窓口のリンクをクラスウェブに掲載する。 本科目の内容はミクロ経済学の応用であるため、学部必修科目「近代経済学A」の修得を前提とするが、必要な基礎知識についても適宜確認しながら進行する。 消費者や企業の行動様式を経済学の観点から理解したい者、ミクロ経済学の体系的な理解を深めたい者に履修を推奨する。科目の性質上、日本企業の個別具体的な事例の詳細に踏み込むものではないので注意されたい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
ウェブ上の課題には必ず取り組み、各回の授業後は教科書や講義資料を十分に予習・復習して次の授業に臨むこと。経済学は体系的性が要の学問であるので、修得するには知識や思考の積み上げが不可欠である。			
5. 教科書			
『市場競争のためのビジネス・エコノミクス』三上真寛著（学文社）、2022年。			
6. 参考書			
『ミクロ経済学：基礎へのアプローチ』三上真寛著（学文社）、2020年。 その他、「ミクロ経済学」、「ビジネス・エコノミクス」、「経営経済学」、「産業組織論」に関する文献を渉猟するとよい。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
クラスウェブを活用して、適宜、ウェブ上の課題に関するフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法			
ウェブ上の課題（40%）、期末のオンライン試験（60%）により評価する。 ※対面形式での試験は行わない。			
9. その他			
履修予定者はOh-o!Meijiシステムの「授業検索」から本科目を検索の上、「仮参加」登録をして、課題等を確認すること。 三上演習の学生はこの授業科目を履修することを特に推奨する。			

科目ナンバー：(BA)ECN316J			
ビジネス・エコノミクスB〔M〕			三上真寛
2単位	3年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標			
〈概要〉 この授業は、営利・非営利を問わず経営実践に携わることになる経営学部生を対象として、現実の経済動向の理解や経営意思決定に資する経済学の知識を提供する。 Bは「マクロ編」であり、マクロ経済学の知識を応用して、現実の日本経済の動向を理解することを目標とする。授業では、マクロ経済の全体像を捉えるための理論的枠組みを確認した上で、日本経済の諸側面をさまざまな経済指標によって可視化しながら学んでいく。			
〈到達目標〉 (1) マクロ経済状況の把握のために必要な、マクロ経済学の概念と理論を正確に理解する。 (2) マクロ経済学のモデルに基づいて、現在の日本のマクロ経済状況およびマクロ経済政策を理解する。 (3) 政府等が提供している経済統計を用いて、自らの力でマクロ経済状況を説明できるようになる。			
2. 授業内容			
第1回 イントロダクション〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回 経済活動の測定〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 景気循環と景気動向〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 消費と貯蓄の動向〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 生産と投資の動向〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 労働と雇用の動向〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 中間まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回 日本政府と財政政策の行方〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 日本銀行と金融政策の行方〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回 インフレ・デフレと物価の動向〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 バブル経済と資産価格の動向〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 国際収支と為替相場の動向〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回 経済成長と成長戦略の行方〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意			
この講義はメディア授業科目として開講され、授業はすべて、授業動画をOh-o!Meijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行う。授業動画は授業実施日（水曜日とする）の前日までに公開し、当該学期中の視聴を可能とする。なお、授業動画についてウェブ上での課題提出を求め、受講および理解度の確認を行う。また、クラスウェブを活用して履修者からの質問や意見を共有し、意見交換を促す。教員への質問・相談窓口のリンクをクラスウェブに掲載する。 本科目の内容はマクロ経済学の応用であるため、学部必修科目「近代経済学B」の修得を前提とするが、必要な基礎知識についても適宜確認しながら進行する。 日本経済の最新の状況について知る術を身につけたい者、マクロ経済学の体系的な理解を深めたい者に履修を推奨する。科目の性質上、日本経済の個別具体的な事象の詳細に踏み込むものではないので注意されたい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
ウェブ上の課題には必ず取り組み、各回の授業後は教科書や講義資料を十分に予習・復習して次の授業に臨むこと。経済学は体系的性が要の学問であるので、修得するには知識や思考の積み上げが不可欠である。			
5. 教科書			
『景気把握のためのビジネス・エコノミクス』三上真寛著（学文社）、2022年。			
6. 参考書			
『日本経済学：基礎へのアプローチ』三上真寛著（学文社）、2020年。 その他、「マクロ経済学」、「日本経済論」、「経済政策論」、「経済指標」に関する文献を渉猟するとよい。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
クラスウェブを活用して、適宜、ウェブ上の課題に関するフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法			
ウェブ上の課題（40%）、期末のオンライン試験（60%）により評価する。 ※対面形式での試験は行わない。			
9. その他			
履修予定者はOh-o!Meijiシステムの「授業検索」から本科目を検索の上、「仮参加」登録をして、課題等を確認すること。 三上演習の学生はこの授業科目を履修することを特に推奨する。			

科目ナンバー：(BA)ECN291E			
Japanese Economy			永 野 寛
2 単位	1 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <Outline> This course is aimed at providing opportunities to understand the characteristics of Japanese economy both in the short- and long-run. Based on publications issued by public organizations, a variety of topics will be discussed. Also, it will be hypothesized where Japanese economy goes from here. Historically, Japan has experienced various changes to affect the maturity of its socio-economic system such as Rapid Economic Growth, Bubble Economy, Lost Decades, and so on. Such changes would reveal relevant factors to create the real world both on demand and supply sides. Recently, new industries have emerged to revitalize Japanese economy; particularly, the development of Information and Communication Technology would open up a new frontier of the economy such as "Digital Economy". ICT also guided existing industries into a new direction with structural changes to overcome inefficiencies. Learning from the history of socio-economic system in Japan, and taking into account of newly emerged factors, such as "Cool Japan" and other local pop cultures, this course will be approaching toward the future of Japanese economy from different perspectives. <Objectives> There are three objectives being accomplished in this course, as below: (1) Understanding the framework of Japanese economy, (2) Finding the factual causation behind actual economic events, and (3) Hypothesizing the future of Japanese economy.			
2. 授業内容 (1) A Gentle Course Introduction: Current Situation of Japanese Economy (2) Overview I: Macroeconomic Profile (3) Overview II: Historical Economic Phenomenon (4) Wrap-up I (5) Macroeconomic Profile I: Demand Side (6) Macroeconomic Profile II: Supply Side (7) Wrap-up II (8) Historical Economic Phenomenon A: Rapid Economic Growth (1950s - 1970s) (9) Historical Economic Phenomenon B: Bubble Economy (1980s - 1990s) (10) Historical Economic Phenomenon C: Lost Decades (1990s - Today) (11) Wrap-up III (12) Outlook I: Industrial Change by Information and Communication Technology (13) Outlook II: Emergence of New Industry (14) Wrap-up IV			
3. 履修上の注意 The TOEIC level necessary for registering for this course is around 600. Do not hesitate to ask further questions about the course requirements.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Check the scope of the next class and list up discussion issues. Look back and summarize important topics in previous class sessions, in order to prepare for the Final Assignment, which consists of Presentation and Essay. Students will need to actively brush up English capability for reading, speaking, and writing about Japanese economy and other related topics. Students will prepare, at least, one topic for each of the class sessions. It is highly recommended to write even a few sentences as a TIDBIT, a short essay, every single day. Keep on writing TIDBIT will be a big help for Final Assignment. A student will be on the right track, as far as he/she tries to find fun topics being shared with friends in the course.			
5. 教科書 None specified.			
6. 参考書 Reading materials such as white papers, research papers, statistical databooks, and others, will be read, in accordance with the discussion in each of the class sessions.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Basically, general comments on reaction papers will be published weekly on Oh-o! Meiji system.			
8. 成績評価の方法 Contribution to the Course (30%); Presentation (30%); Final Essay (40%)			
9. その他 Plagiarism will never be accepted in any cases.			

科目ナンバー：(BA)ECN281J			
経済史A			新川 徳彦
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 現代の資本主義社会はどのように形成されてきたのでしょうか。世界経済は商業や流通を通じてどのように結びついてきたのでしょうか。なぜ世界には豊かな国と貧しい国があるのでしょうか。この講義では、現代経済の仕組みがどのように作り上げられてきたのか、またその原形はどのようなものであったのかについて、15世紀から現代までの欧米の経済発展を手掛かりとして考えます。 現代社会が抱える諸問題を、歴史的な視点から考えることが出来るようになることが到達目標です。 経済史Aでは、主にイギリス産業革命と先進工業国の歴史的展開を扱います。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクションーなぜ豊かな国と貧しい国があるのか 第2回：大いなる分岐ー豊かな国と貧しい国のルーツを辿る 第3回：西洋の勃興ー最初のグローバル化 第4回：ヨーロッパの海外進出 第5回：産業革命ーなぜイギリスで始まったのか 第6回：イギリス綿業 第7回：ヨーロッパにおける陶磁器 第8回：蒸気機関と鉄道 第9回：インフラストラクチャーの革新がもたらしたもの 第10回：工業化の標準モデル 第11回：イギリスと砂糖 第12回：インドの工業化の挫折 第13回：南北アメリカの格差ー北米の植民地経済 第14回：南北アメリカの格差ーラテンアメリカの植民地経済／まとめ			
3. 履修上の注意 経済史Bを継続して受講することが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義内容を振り返り、不明な用語、事項は講義で指示する参考書や歴史用語辞典等で確認しておくこと。			
5. 教科書 指定しない。レジメを配布する。			
6. 参考書 ロバート・C・アレン『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』NTT出版、2012年。 ロバート・C・アレン『世界史の中の産業革命』名古屋大学出版会、2017年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義に関する質問と回答は次の回の授業で共有する。			
8. 成績評価の方法 小レポート：30%。 期末試験：70%。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ECN281J			
経済史B			新川 徳彦
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 現代の資本主義社会はどのように形成されてきたのでしょうか。世界経済は商業や流通を通じてどのように結びついてきたのでしょうか。なぜ世界には豊かな国と貧しい国があるのでしょうか。この講義では、現代経済の仕組みがどのように作り上げられてきたのか、またその原形はどのようなものであったのかについて、15世紀から現代までの欧米の経済発展を手掛かりとして考えます。 現代社会が抱える諸問題を、歴史的な視点から考えることが出来るようになることが到達目標です。 経済史Bでは、主に後発工業国の歴史的展開を扱います。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション／アメリカ合衆国の独立 第2回：ラテンアメリカの独立 第3回：アフリカーなぜ貧しいままなのか 第4回：歴史的視点から見た現代の貧困 第5回：茶の世界史 第6回：後発国と標準モデルー帝政ロシア 第7回：近代日本の経済発展（1） 第8回：近代日本の経済発展（2） 第9回：大量生産システムの発展 第10回：後発国と標準モデルーラテンアメリカ 第11回：ビッグプッシュ型工業化ーソウィエトの経済発展 第12回：戦後日本の経済発展（1） 第13回：戦後日本の経済発展（2） 第14回：エピローグ／まとめ			
3. 履修上の注意 経済史Aを受講していることが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義内容を振り返り、不明な用語、事項は講義で指示する参考書や歴史用語辞典等で確認しておくこと。			
5. 教科書 指定しない。レジメを配布する。			
6. 参考書 ロバート・C・アレン『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』NTT出版、2012年。 ロバート・C・アレン『世界史の中の産業革命』名古屋大学出版会、2017年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義に関する質問と回答は次の回の授業で共有する。			
8. 成績評価の方法 小レポート：30%。 期末試験：70%。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ECN281J			
日本経済史A			大島久幸
2単位	1年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 現代社会を取り巻く環境は不確実である。だからこそ変化に対する長期的視点からの因果関係に基づく分析が不可欠であるといえよう。日本経済史Aでは、近代日本の経済の展開について歴史的に分析していく。具体的には、幕末の開港から明治末期にかけての日本資本主義経済システムの形成・確立過程を国際的な動向との関係も考慮しながら検討する。 〈到達目標〉 近代日本の経済の発展について、一応の見通しを得ることを目標とする。			
2. 授業内容 この授業は以下のような内容で進められる。 1 近代日本の経済発展（イントロダクション） 2 幕末開港 3 殖産興業政策 4 地租改正と秩禄処分 5 松方財政 6 産業革命 1 7 産業革命 2 8 産業発展とインフラストラクチャー 9 国際経済関係 10 産業化の光と影 11 財閥資本の形成 12 企業統治 13 専門経営者の登場 14 講義のまとめ			
3. 履修上の注意 昨年度は対面以外にオンラインも併用しましたが今年度の授業ではオンライン授業の実施は確約できませんのでご注意ください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で紹介する参考文献を基礎に準備学習を進めること。			
5. 教科書 使用しない。配布レジュメを基礎に講義を行う。			
6. 参考書 武田晴人『日本経済史』有斐閣、2019年 中西聡編『日本経済の歴史』名古屋大学出版会、2013年 沢井実・谷本雅之『日本経済史』有斐閣、2016年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業で適宜質問をお受けするとともにOh-o Meiji上でも質問できるようにする予定です。			
8. 成績評価の方法 毎回の授業の小テスト（50％）と期末の定期試験（50％）			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA)ECN281J			
日本経済史B			大島久幸
2単位	1年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 現代社会を取り巻く環境は不確実である。だからこそ変化に対する長期的視点からの因果関係に基づく分析が不可欠であるといえよう。日本経済史Bでは、欧米へのキャッチアップを目指した近代社会の形成の時期を終えて現代社会へと変容する時期を扱う。具体的には、第一次大戦期から第二次大戦後の高度経済成長期までの日本経済の推移を展望する。 〈到達目標〉 近代日本の経済の発展について、一応の見通しを得ることを目標とする。			
2. 授業内容 この授業は以下のような内容で進められる。 1 現代日本の経済発展（イントロダクション） 2 第一次大戦ブームと破綻 3 第一次大戦後の経済と社会 4 労働市場の構造と教育体系の整備 5 金融恐慌 6 昭和恐慌 7 1920年から30年代の対外関係 8 高橋財政 9 戦時経済 10 戦後改革と占領政策 11 労使関係の変化と日本型雇用システムの成立 12 国際関係 13 高度経済成長 14 講義のまとめ			
3. 履修上の注意 日本経済史Aの内容を前提とすることが多いので注意すること。また昨年度は対面以外にオンラインも併用しましたが今年度の授業ではオンライン授業の実施は確約できませんのでご注意ください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で紹介する参考文献を基礎に準備学習を進めること。			
5. 教科書 使用しない。配布レジュメを基礎に講義を行う。			
6. 参考書 武田晴人『日本経済史』有斐閣、2019年 中西聡編『日本経済の歴史』名古屋大学出版会、2013年 沢井実・谷本雅之『日本経済史』有斐閣、2016年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業で適宜質問をお受けするとともにOh-o Meiji上でも質問できるようにする予定です。			
8. 成績評価の方法 毎回の授業の小テスト（50％）と期末のオンライン試験もしくは定期試験（50％）			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA)MAN281J			
経営史A		宮田 憲一	
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 経営史の研究は、経済史や経営学に加えて、経済学、社会学や政治学など社会科学の諸分野との関係を通じて学際的に発展しながら、企業者活動ないし企業の経営活動の変化、そして社会や経済発展におけるそれら役割について様々な視点から展開されている。そこでは、経営者や企業の主体的側面をより重視しながら、近現代社会に影響を与えた経営事象、企業行動の生成プロセスやメカニズムの分析を通じて、経営的側面から、私たちのいる現代社会についてより深い理解を与えてくれる。さらに、当時の生産技術と経済的可能性によって設定された経営環境において、企業家、経営者あるいはミドルマネジャー等の人々が直面する挑戦と機会への個々人の反応や意思決定を考えながら、「経営とは何か?」、「企業とは何か?」、「ビジネスとは何か?」を考える基礎を提供している。最近では、経済のグローバル化やITなどの技術革新による経営環境の大きな変化を背景にして、大企業の変化やベンチャー企業の台頭と、その基盤にある制度との関係が大きなテーマの一つとして注目されている。 本講義では、「ビジネス・システムの経営史」と題して、日本を含め各国の企業に影響を与えてきたアメリカ企業を中心に取り上げ、その19世紀から現在に至る経営活動の変化を理解していく。そして、ある時代の社会的・経済的な条件の下で、なぜその経営者はその意思決定を下したのかを考えながら、ビジネス・システムの変化の方向と企業経営の今日的課題を考察していく。経営史Aでは、19世紀から20世紀中頃までの現代的な企業システムの形成期・発展期を対象として、大企業の生み出した優位性だけでなく、それが社会や戦争に与えた影響を検討する。 〈到達目標〉 ・現代ビジネス・システムの中核を担っている大企業の形成と発展のメカニズムについて理解した上で、社会における大企業の役割について自ら考察できるようになる。 ・経営学や経営管理論など他科目で学ぶ知識を活用して、特定の経営環境の中で企業家や経営者が独自のビジネスや意思決定にいたる因果関係を総合的に考える力を身につける。 ・専門科目である日本経営史、国際経営史、比較経営論（アメリカ）を履修する上での基礎知識を身につける。			
2. 授業内容 【イントロダクション】 第01回a：現代企業とは何か?：経営史Aで学ぶこと（授業の進め方、評価方法など） 【現代企業システムの基礎】 第02回：19世紀ベンチャービジネス：ブラウンの総合貿易ビジネス、捕鯨業 第03回：企業家活動のスペシャリゼーション：テューダーの水貿易、コットン取引 第04回：19世紀の「ハイテク」ビジネス：紡織のレイスターとローウェル、小銃のコロルト 【現代企業の形成】 第05回：現代的経営の始まりと鉄道：最初のビッグビジネスとJ・E・トムソン 第06回：大企業のフィクサーと金融ビジネスの発展：J・P・モルガンという存在 第07回：大企業の経済性の源泉：カーネギーとロックフェラー 【現代企業の発展①：生産と組織】 第08回：大量生産という革命：フォードの工程革新 第09回：現代企業組織の完成：デュボンの経営管理イノベーション 第10回：マーケティングと市場細分化の誕生：GMとスローンの企業改革 【現代企業の発展②：流通と組織】 第11回：大量販売という革命：A&Pとサーズ 第12回：ブランド・マネジメントの創出：P&Gとマッケロイの組織再編 【現代企業と社会】 第13回：非常事態と大企業のパワー：デュボンのネオブレン開発、クラウスレイ 【各学期の総括】 第14回a：モダン企業システムの成立と中小企業：チャンドラーモデルとスクラントン批判 b：アメリカの経済発展と経済政策：「最小の政府」から「大きな政府」へ ※講義の進行具合に応じて一部講義内容や順番の変更がある。			
3. 履修上の注意 ・初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。 ・経営史Bを合わせて履修することを勧める。 ・また、経済史Aや自然科学思想史Bを履修することで、歴史的な背景知識を得ることができる。 ・本年度は、6月下旬に国際学会参加のため出張する可能性がある。その場合は、メディア授業で授業実施あるいは補講を実施する。参加が決定した場合は、授業内で連絡する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 □予習（3時間） ・テキストの指定された部分、配布された資料を事前に読み、示された質問に対する自分なりの回答を考えておく。 □復習（2時間） ・授業で示された追加資料や議論をもとに、予習で理解が不十分だった点を復習すること。 ・各回の講義で中心に議論された企業や経営者の行動の因果関係やビジネス・システムを図式化してまとめる。			
5. 教科書 『ケースブック アメリカ経営史 新版』安部悦生ほか著（有斐閣）2020年。 ※テキスト第01-11章が学習範囲となる。			
6. 参考書 〈和文獻〉 『グラフィック経営史』佐々木聡編（新世社）2022年。 『入門アメリカ経済Q&A100』坂出健ほか編（中央経済社）2019年。 『経営史』鈴木良隆ほか著（有斐閣）1987年。 『欲望を生み出す社会』スーザン・ストラッサー著（東洋経済新報社）2011年。 〈洋文獻〉 <i>American Business since 1920</i> , McCraw, Thomas and William Childs著（Wiley Blackwell）, 2018. <i>The Rise of Big Business: 1860-1920</i> , Poter, Glenn著（Wiley Blackwell）, 2005. <i>American Business History</i> , Walter, Friedman著（Oxford University Press）, 2020. その他参考書については適宜講義内で紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の対面授業で各課題に対するフィードバックをおこなう。			
8. 成績評価の方法 授業内課題（20%）、期末試験（80%）により評価する。			
9. その他 □質問等の面談希望者は、講義の終了後に直接相談するか、もしくは教員HPトップページにある「Office hour reservation」からアポイントメントを取ることもできる。 □本講義は、歴史的な内容を扱うが、大学受験での歴史科目のような暗記ではなく、企業経営の変化を経済や社会との関係を踏まえながら時間的な経過の中で考えていく。この講義を通じて、必修科目である「経営学A・B」あるいは「経営総論」「経営学」で学ぶ様々な知識は、どのような背景の中で生み出されてきたのかを知ってもらうとともに、それら知識は、実際の企業活動のなかでどのようにリクしているのかを考えてもらう機会を提供していく。 □また、講義の進行程度にもよるが、関連する他国のケースを取り上げるほか、雑誌や新聞記事などから各回の内容に関連した最近の経営・経済関連のトピックを紹介しながら過去と現在の違いや類似点をみていく予定である。 □なお、3・4年次履修できる企業内教育論、生産管理論B、人事労務管理Aなどの講義と内容が一部関連する。			

科目ナンバー：(BA)MAN281J			
経営史B		宮田 憲一	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 経営史の研究は、経済史や経営学に加えて、経済学、社会学や政治学など社会科学の諸分野との関係を通じて学際的に発展しながら、企業者活動ないし企業の経営活動の変化、そして社会や経済発展におけるそれら役割について様々な視点から展開されている。そこでは、経営者や企業の主体的側面をより重視しながら、近現代社会に影響を与えた経営事象、企業行動の生成プロセスやメカニズムの分析を通じて、経営的側面から、私たちのいる現代社会についてより深い理解を与えてくれる。さらに、当時の生産技術と経済的可能性によって設定された経営環境において、企業家、経営者あるいはミドルマネジャー等の人々が直面する挑戦と機会への個々人の反応や意思決定を考えながら、「経営とは何か?」、「企業とは何か?」、「ビジネスとは何か?」を考える基礎を提供している。最近では、経済のグローバル化やITなどの技術革新による経営環境の大きな変化を背景にして、大企業の変化やベンチャー企業の台頭と、その基盤にある制度との関係が大きなテーマの一つとして注目されている。 本講義では、「ビジネス・システムの経営史」と題して、日本を含め多くの国の企業に影響を与えてきたアメリカ企業を中心に取り上げ、その19世紀から現在に至る変化を理解していく。そして、ある時代の社会的・経済的な条件の下で、なぜその経営者はその意思決定を下したのかを考えながら、ビジネス・システムの変化の方向と企業経営の今日的課題を考察していく。経営史Bでは、第二次世界大戦後から現在までの現代企業システムの変容期を対象とし、大企業の浸透や変化だけでなく、技術や社会の変化とともに出現している企業経営の新たな展開を検討する。 〈到達目標〉 ・現代ビジネス・システムの中心的存在である産業企業の変容と新興企業の発展プロセスを理解した上で、今後の企業経営の動向を展望する洞察力を養うことを目標とする。 ・経営学や企業論など他科目で学ぶ知識を活用して、社会が求める企業の役割に対して企業家や経営者がとった行動や変化を、長期的な視点で位置付けながら考える力を身につける。 ・専門科目である日本経営史、国際経営史、比較経営論（アメリカ）を履修する上での基礎知識を身につける。			
2. 授業内容 【イントロダクション】 第01回a：現代企業の新たな展開とは?：経営史Bで学ぶこと（授業の進め方、評価方法など） 【現代企業システムの発展と普及】 第02回：反トラスト政策と産業コングロマリットの興隆：LTVとWH 第03回：フランチャイズ・システムの発展：コークとマック 第04回：量販店の成長と競争：ウォルマート 【既存産業での新たなビジネス・システム】 第05回：投資銀行の変貌：「ウォール街の帝王」と「ジャンク・ボンド王」 第06回：事業の「選択と集中」と本社改革：GE 【新興産業での新たなビジネス・システム】 第07回：シリコンバレーの発展とイノベーション・マネジメント 第08回：水平分業とIT企業：IBMとウィンテル 【グローバル経済下での新たなビジネス機会】 第09回：グローバルなアウトソーシング：シティバンクとDell 第10回：規制緩和とメディア・コングロマリットの誕生：ニュース・コーポレーション 【二つのバブルと新しいビッグ・ビジネスの形成】 第11回：インターネット・ビジネスの成長：アマゾンとGoogle 第12回：金融の肥大化と金融危機：リーマンブラザーズ 第13回：プラットフォームビジネスの台頭と反トラスト政策：アップル 【秋学期の総括】 第14回a：「モダン」から「ネオモダン」への変容と新たなビジネスの息吹：AIビジネスの急成長 b：政府の役割の変化：「大きな政府」から「小さな政府」へ? ※講義の進行具合に応じて一部講義内容や順番の変更がある。			
3. 履修上の注意 ・経営史Aの知識を前提に講義は進行するため、経営史Aを合わせて履修することを勧める。 ・初回の講義に出席し、授業内容や受講のルールについて確認すること。 ・また、経済史Bを並行して履修することで、歴史的な背景知識を得ることができる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 □予習（3時間） ・テキストの指定された部分、配布された資料を事前に読み、示された質問に対する自分なりの回答を考えておく。 □復習（2時間） ・授業で示された追加資料や議論をもとに、予習で理解が不十分だった点を復習すること。 ・各回の講義で中心に議論された企業や経営者の行動の因果関係やビジネス・システムを図式化してまとめる。			
5. 教科書 『ケースブック アメリカ経営史 新版』安部悦生ほか著（有斐閣）2020年。 ※テキスト第10章および第12-16章が学習範囲となる。			
6. 参考書 〈和文獻〉 『グラフィック経営史』佐々木聡編（新世社）2022年。 『プラットフォームビジネス』M・A・クスマノ他著（有斐閣）2020年。 『現代アメリカ政治経済入門』川崎信樹ほか著（ミネルヴァ書房）2021年。 〈洋文獻〉 <i>American Business since 1920</i> , McCraw, Thomas and William Childs著（Wiley Blackwell）, 2018. <i>Changing Fortunes</i> , Nohria, Nitin et al.著（John Wiley & Sons）, 2002. <i>Opening Strategy</i> , Whittington, Richard著（Oxford University Press）, 2019. その他参考書については適宜講義内で紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の対面授業で各課題に対するフィードバックをおこなう。			
8. 成績評価の方法 授業内課題（20%）、期末試験（80%）により評価する。			
9. その他 □質問等の面談希望者は、講義の終了後に直接相談するか、もしくは教員HPトップページにある「Office hour reservation」からアポイントメントを取ることもできる。 □本講義は、歴史的な内容を扱うが、大学受験での歴史科目のような暗記ではなく、企業経営の変化を経済や社会との関係を踏まえながら時間的な経過の中で考えていく。この講義を通じて、必修科目である「経営学A・B」あるいは「経営総論」「経営学」などで学ぶ様々な知識は、実際の企業活動のなかでどのように関連し合っているのかを考えてもらう機会を提供していく。 □講義の進行程度にもよるが、関連する他国のケースを取り上げるほか、新聞雑誌記事やテレビ番組などから各回の内容に関連した最近の経営・経済関連のトピックを紹介する予定である。 □なお、3・4年次に履修できる技術戦略論、経営文化論B、現代コーポレートファイナンス論などの講義と内容が一部関連する。			

科目ナンバー：(BA)MAN351J			
経営統計学A			鶴田 靖人
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 実データを用いた実証分析研究では、回帰分析を用いる研究は非常に多くみられる。経営統計学Aでは、回帰分析の統計理論を学ぶことで、回帰分析の有効性と限界を理解した上で回帰分析を行えるようになることを目指す。また、因果関係の解明を目指した研究も近年多くあるため、相関関係と因果関係の違いを考察する。さらに、通常の回帰分析手法が適用困難な場合でも使用できるノンパラメトリック回帰を学ぶ。統計ソフトRを用いた実データ分析を行うことで、データの加工・分析方法を習得する。 <到達目標> 1. 回帰分析の有効性と限界を説明できる。 2. 相関関係と因果関係の違いを説明できる。 3. Rを用いて回帰分析を適切に行うことができる。			
2. 授業内容 第1回 回帰分析の目的 第2回 統計の基礎知識 第3回 確率論の基礎（1）確率変数、独立性、期待値 第4回 確率論の基礎（2）中心極限定理、信頼区間、繰り返し期待値の法則 第5回 回帰分析の基礎（1）単回帰 第6回 回帰分析の基礎（2）重回帰 第7回 推測統計の基礎（1）平均値の検定 第8回 推測統計の基礎（2）回帰係数の推定 第9回 相関と因果関係（1）見かけの相関 第10回 相関と因果関係（2）ルービンの因果モデル 第11回 外生変数と内生変数（1）外生変数と内生変数 第12回 外生変数と内生変数（2）因果分析としての回帰分析 第13回 ノンパラメトリック回帰（1）理論 第14回 ノンパラメトリック回帰（2）演習			
3. 履修上の注意 毎回、Rを用いてデータ分析を行うため、PCを持参すること。Rのダウンロードについては適宜授業で指示する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、毎回、教科書の該当部分を読み、専門用語の意味を確認した上で自分なりの疑問点、問題点を整理すること。 復習として、講義資料や教科書を読み直して分析手法の特徴や分析のポイントを確認し、分析結果を適切に解釈できるようにすること。			
5. 教科書 『Rによる実証分析 第2版』星野匡郎、田中久稔、北川梨津著（オーム社）			
6. 参考書 『計量経済学』西山慶彦、新谷元嗣、川口大司、奥井亮（有斐閣） 『実証分析のための計量経済学』山本勲（中央経済社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meijiを利用してフィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 期末試験（60%）、課題（40%）			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN351J			
経営統計学B			鶴田 靖人
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 回帰分析を応用した因果分析手法の理論と実例を学ぶことで因果分析の基礎的な知識を身に着けることを目指す。因果分析の中で代表的な手法としてランダム化実験が挙げられる。ランダム化実験は、無作為に処置群と対照群に割り当てて分析する手法であるため、単純で有用な手法である。しかし、社会学系の実証分析では、無作為に割り当てが難しい場合も多くある。ランダム化実験が適用困難な場合にも有効となる因果手法をいくつか学ぶ。統計ソフトRを用いて因果分析に関する実データの演習を行う。 <到達目標> 1.ランダム化比較実験の有効性と限界を説明することができる。 2. 因果分析手法の特性を理解した上で適切に分析を行うことができる。 3. ノンパラメトリック手法を適切に用いて分析を行うことができる。			
2. 授業内容 第1回 因果分析の基礎 第2回 ランダム化実験（1）セレクションバイアスの除去 第3回 ランダム化実験（2）ランダム化実験の演習 第4回 ランダム化実験の限界 第5回 マッチング法（1）理論 第6回 マッチング法（2）演習 第7回 不連続回帰デザイン（1）理論 第8回 不連続回帰デザイン（2）演習 第9回 操作変数法（1）理論 第10回 操作変数法（2）演習 第11回 パネルデータ分析（1）固定効果モデル、差の差分分析 第12回 パネルデータ分析（2）演習 第13回 ロジステック回帰（1）理論 第14回 ロジステック回帰（2）演習			
3. 履修上の注意 毎回、Rを用いてデータ分析を行うため、PCを持参すること。Rのダウンロードについては適宜授業で指示する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、毎回、教科書の該当部分を読み、専門用語の意味を確認した上で自分なりの疑問点、問題点を整理すること。			
5. 教科書 『Rによる実証分析 第2版』星野匡郎、田中久稔、北川梨津著（オーム社）			
6. 参考書 『計量経済学』西山慶彦、新谷元嗣、川口大司、奥井亮（有斐閣） 『実証分析のための計量経済学』山本勲（中央経済社） 『Rによる多変量解析入門』川端一光、岩間徳兼、鈴木雅之（オーム社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meijiを利用してフィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 期末試験（60%）、課題（40%）			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN251J			
経営基礎数学A			高澤陽太朗
2単位	1年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 経営上の意思決定問題を数理モデルとして扱うオペレーションズリサーチの基礎をケーススタディを通して学ぶ。経営数学Bと比較して、経営数学Aでは数理最適化のモデリング部分を集中して学ぶ。 <到達目標> さまざまな意思決定問題を最適化問題としてモデリングする力を習得することを目標とする。			
2. 授業内容 1. イントロダクション：数理最適化入門 2. モデリングと定式化 (1) 3. モデリングと定式化 (2) 4. シミュレーション 5. 都市・交通のデザインとネットワーク理論 (1) 6. 都市・交通のデザインとネットワーク理論 (2) 7. 計画、運用のためのモデルとサプライチェーン最適化 (1) 8. 計画、運用のためのモデルとサプライチェーン最適化 (2) 9. 予測・検証・発見のための最適化モデルとデータマイニング (1) 10. 予測・検証・発見のための最適化モデルとデータマイニング (2) 11. 不確実性下の意思決定とファイナンス理論 (1) 12. 不確実性下の意思決定とファイナンス理論 (2) 13. 最終発表準備 14. 最終発表			
3. 履修上の注意 数学A・Bを受講していることが望ましい。 Excelを利用するため、可能であればExcelがインストールされているノートPCを講義室に持参していただきたい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習の必要はないが、復習として各回の演習課題に取り組むこと。また、最終発表時にはグループ同士の学生で議論して発表をまとめること。			
5. 教科書 『Excelで学ぶOR』藤澤克樹・後藤順・安井雄一郎（オーム社）			
6. 参考書 なし			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各課題の解答解説は次の回に行う。また、最終回に発表会を実施し、教員からフィードバックを直接行う。			
8. 成績評価の方法 小レポート50%、演習・最終発表50% 4回以上の欠席は成績評価対象外になります。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN251J			
経営基礎数学B			高澤陽太朗
2単位	1年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 経営上の意思決定問題を数理モデルとして扱うオペレーションズリサーチの基礎をケーススタディを通して学ぶ。経営数学Aと比較して、経営基礎数学Bでは様々な数理モデルを学ぶ。 <到達目標> サプライチェーンマネジメントの基礎を習得することを目標とする。			
2. 授業内容 1. イントロダクション 2. 需要予測 3. 需要が決定的な場合の在庫管理 4. 演習 5. 需要が決定的な場合の在庫管理 6. 演習 7. 動的計画法 8. 不確実な需要に対する在庫＋発注ルールに関する演習 9. 発注ルールに関する演習 10. 不確実な需要に対する在庫の演習 11. 演習 12. 在庫費用がかからない場合の最適仕入れの方法 13. 需要が不確実な場合の最適仕入れの方法 14. まとめ			
3. 履修上の注意 数学A・Bを受講していることが望ましいが、必須ではない。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習の必要はないが、復習として各回の演習課題に取り組むこと。また、演習時にはグループ同士の学生で議論して発表をまとめること。			
5. 教科書 Snyder, Lawrence V., and Zuo-Jun Max Shen. Fundamentals of supply chain theory. John Wiley & Sons, 2019.			
6. 参考書 なし			
7. 課題に対するフィードバックの方法 発表会を実施し、教員からフィードバックを直接行う。			
8. 成績評価の方法 小レポート50%、講義内の発表50% 4回以上の欠席者は成績評価対象外になります。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)SOC291J			
社会調査法			下村 恭 広
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> この授業では、社会調査の初歩について、特に社会学における知見に基づいて学びます。学校に通うとか食事をとるといった日々のふるまいから、就職するとか子どもを育てるといった人生の選択に至るまで、私たちの普段の生活は様々な意思決定と行為によってできあがっています。これらは、一見すると個人的で些細なことに思えます。しかし自覚していないだけで、それらの行為は、その人が所属する集団や、その人をとりまく社会関係や制度のありかたに大きな影響を受けています。社会学はこのような人々の行為の社会的要因について明らかにしようと、社会の現実を成り立たせている因果関係を説明するための様々な手法を開発してきました。 まずは現代社会を理解するための問題の捉え方・論じ方の基本的な手順を踏まえ、そこで求められる社会調査の技法について、具体的な研究事例を通じて学びます。最初に取り上げるのは現代日本社会における進学や中退です。こうした場面で、人々がどのように自分の道を選んでいくのか。これに関する研究や社会調査の結果を見てゆきながら、様々な調査手法やデータが存在し、研究目的に応じてそれらを使い分けていくことについて理解を深めます。同時に、社会調査が直面する固有の倫理的問題があることについても考えます。 <到達目標> (1) 社会科学の一般的な研究手順において、社会調査がどのような役割を果たしているか説明できるようになる。 (2) 社会調査の方法について整理し、それぞれの特徴について述べることができる。 (3) 社会調査を進める時に会う固有の倫理的問題について説明できるようになる。			
2. 授業内容 第1回 コースガイダンス：講義の進め方、取り扱うトピックの概要、成績評価の方法 第2回 社会問題とそこでの調査の実例：社会階層と教育 (1) 第3回 社会問題とそこでの調査の実例：社会階層と教育 (2) 第4回 社会問題とそこでの調査の実例：社会階層と教育 (3) 第5回 社会科学における説明 (1)：相関関係と因果関係 第6回 社会科学における説明 (2)：自然科学との違い 第7回 社会調査の技法とその種類：量的調査と質的調査 第8回 中間試験 第9回 アンケートの手法 (1)：その質問は何を測っているか 第10回 アンケートの手法 (2)：標本抽出 第11回 アンケートの手法 (3)：データ分析 第12回 インタビューの手法 (1)：問題の構造化としての調査 第13回 インタビューの手法 (2)：調査対象との関係づくり 第14回 何のために社会の現実を知るのか：社会調査の倫理			
3. 履修上の注意 <準備学習> 授業期間内に複数回、予習のための課題を課します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 指定した文献に関する論述問題を出します。			
5. 教科書 使用しません。			
6. 参考書 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 2016『質的社会調査の方法』有斐閣 高根正昭 1979『創造の方法学』講談社 森岡清志 2007『ガイドブック社会調査』第2版 日本評論社			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 授業内課題20％，中間試験40％，期末試験40％で評価します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN396J			
経営社会学〔M〕			山下 充
2 単位	3 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標			
【授業の概要】 この授業は現代社会における企業組織と働くことについて社会学の観点から考察します。学生時代に、将来の就職に全く不安を感じない人はあまりいないでしょう。大学に入学して間もなくインターンシップの機会があり、3年生になると本格的な就職活動がはじまります。アルバイトに多くの時間を費やす人も少なくありませんし、就職すれば人生の大半の時間が仕事で埋められてしまいます。 みなさんがアルバイトや就職後に経験することや悩みの多くは、純粋に個人的なものというよりも、資本主義のタイプ、雇用システムの構造、職場の相互行為のパターンなどに深く関わっています。この授業では、現代社会の労働場面について「社会的想像力」を使って、みなさんが将来感じる職場の様々な問題を解き明かし、みなさん自身が職業生活を生きていく上で有用な指針を持てるようになることを目指します。			
【到達目標】 この授業では、大きなテーマに即して、①基礎的なデータを通して概況を理解できること、②概念を理解し現象を的確に捉える事、③問題の所在を多面的に理解し、④エビデンスに依拠しながら自分の意見を構築できることを目指します。 本授業の大きなテーマは以下の通りです。【日本の雇用システム】（2～5回）、【職探しと社会的ネットワーク】（6～7回）、【産業の変化と雇用多様化】（8～9回）、【働き方とジェンダー・家族】（10～12回）、【社会の変化と働き方の未来】（13～14回）			
2. 授業内容			
全回メディア授業（オンデマンド型）で実施 第1回 イントロダクション 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ——日本の雇用システム—— 第2回 産業社会を考察する社会学のアプローチとは？ 働くことの意味とは？〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 昇進とトーナメントモデル 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 昇進と賃金。年功賃金は日本だけの特徴か？ 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 資本主義の多様性と昇進・賃金制度の変化 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ——職探しと社会的ネットワーク—— 第6回 離職と失業の基本構造 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 失業者の意識、良い転職と社会的ネットワーク 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ——産業の変化と雇用多様化—— 第8回 なぜ雇用多様化が拡大したか？ 産業社会の変化と対人サービスの特殊性。〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ——働き方とジェンダー・家族—— 第9回 雇用多様化と家族の関係 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回 ジェンダーと性別職域分離 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 性別役割分業の理論 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 女性の職業選択と男女平等の可能性 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ——社会の変化と働き方の未来—— 第13回 人口減少と家族意識 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 これからの働き方 〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意			
経営社会学は毎週水曜日を授業日として、11:00までに動画・授業資料をアップします。課題提出は全てパソコンを使用してOh!-Meijiを通じて提出していただきます。スマートフォンを使用すること、またブラウザの「戻るボタン」を使用することで、Oh!-Meijiへの課題提出にエラーが生じる場合がありますが、公平性の観点から提出期限を過ぎた提出は一切認められません。毎回課題がありますので、評価の対象となる課題提出の方法を十分理解した上で履修するようにしてください。提出期限に余裕をもって提出するようお願いいたします。詳細は初回授業で示します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
予習・復習も皆さんの好みや都合に合わせて自由に組み合わせることができます。この授業は、①授業ノート、②動画、③資料（毎回ではない）、の3つが提供されます。基本的にこの全てを活用することで学習が完結することになっています。最初に授業ノートを読んでから、動画を見てても良いですし、動画を見た後で、授業ノートと資料を読んでもOKです。授業を数回受ければ、自分のやり方が分かるとと思いますので、自分の方法で準備学習をおこなってください。			
5. 教科書			
小川慎一・金野美奈子・山下充・山田信行著『働くこと』を社会学する産業・労働社会学』有斐閣（2015）。大学で購入できない場合には、オンライン書店で各自購入するか、丸善の電子ブックサービスを利用して下さい（ https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/GuestLogin?1 ）のリンクをクリックして、明治大学の自分のIDでログインするとパソコンなどからオンラインで閲覧できます。詳細は第1回の授業ノートをご覧ください。			
6. 参考書			
なお各テーマに応じた資料を随時紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
各授業内もしくはOh-o!Meijiクラスウェブを通じてフィードバックを行う			
8. 成績評価の方法			
毎回2題程度出題する理解度確認テスト（1問2点で半期合計48点）と、毎回の授業内容に関する記述式課題（13回分を52点換算）としますので、この授業は定期試験はおこないません。【なお、Oh-o! Meijiのテスト機能などを通して、テスト・記述課題の方式を授業開始までに変更することがあります。シラバスの補足、授業ノートを確認して下さい。定期試験をおこなわないことについては、変更はありません。】			
9. その他			
課題に対する履修者の回答を、匿名で翌回の授業ノートに掲載することで、授業内容をさらに深めていきます。課題は毎回ありますが、取り組みやすさを重視し、内容理解を促進できるものとします。			

科目ナンバー：(BA)MAN396J			
経営社会学〔M〕			山下 充
2 単位	3 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標			
【授業の概要】 この授業は現代社会における企業組織と働くことについて社会学の観点から考察します。学生時代に、将来の就職に全く不安を感じない人はあまりいないでしょう。大学に入学して間もなくインターンシップの機会があり、3年生になると本格的な就職活動がはじまります。アルバイトに多くの時間を費やす人も少なくありませんし、就職すれば人生の大半の時間が仕事で埋められてしまいます。 みなさんがアルバイトや就職後に経験することや悩みの多くは、純粋に個人的なものというよりも、資本主義のタイプ、雇用システムの構造、職場の相互行為のパターンなどに深く関わっています。この授業では、現代社会の労働場面について「社会的想像力」を使って、みなさんが将来感じる職場の様々な問題を解き明かし、みなさん自身が職業生活を生きていく上で有用な指針を持てるようになることを目指します。 【到達目標】 この授業では、大きなテーマに即して、①基礎的なデータを通して概況を理解できること、②概念を理解し現象を的確に捉える事、③問題の所在を多面的に理解し、④エビデンスに依拠しながら自分の意見を構築できることを目指します。 本授業の大きなテーマは以下の通りです。【日本の雇用システム】（2～5回）、【職探しと社会的ネットワーク】（6～7回）、【産業の変化と雇用多様化】（8～9回）、【働き方とジェンダー・家族】（10～12回）、【社会の変化と働き方の未来】（13～14回）			
2. 授業内容			
第1回 イントロダクション 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ——日本の雇用システム—— 第2回 産業社会を考察する社会学のアプローチとは？ 働くことの意味とは？ 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 昇進とトーナメントモデル 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 昇進と賃金。年功賃金は日本だけの特徴か？ 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 資本主義の多様性と昇進・賃金制度の変化 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ——職探しと社会的ネットワーク—— 第6回 離職と失業の基本構造 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 失業者の意識、良い転職と社会的ネットワーク 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ——産業の変化と雇用多様化—— 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回 なぜ雇用多様化が拡大したか？ 産業社会の変化と対人サービスの特殊性。 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 雇用多様化と家族の関係 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ——働き方とジェンダー・家族—— 第10回 ジェンダーと性別職域分離 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 性別役割分業の理論 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 女性の職業選択と男女平等の可能性 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ——社会の変化と働き方の未来—— 第13回 人口減少と家族意識 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 これからの働き方 〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意			
経営社会学は毎週水曜日を授業日として、11:00までに動画・授業資料をアップします。課題提出は全てパソコンを使用してOh!-Meijiを通じて提出していただきます。スマートフォンを使用すること、またブラウザの「戻るボタン」を使用することで、Oh!-Meijiへの課題提出にエラーが生じる場合がありますが、公平性の観点から提出期限を過ぎた提出は一切認められません。毎回課題がありますので、評価の対象となる課題提出の方法を十分理解した上で履修するようにしてください。提出期限に余裕をもって提出するようお願いいたします。詳細は初回授業で示します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
Oh!-Meijiで配付予定の授業ノート・資料で必要な復習をおこなってください。			
5. 教科書			
小川慎一・金野美奈子・山下充・山田信行著『働くこと』を社会学する産業・労働社会学』有斐閣（2015）。大学で購入できない場合には、オンライン書店で各自購入するか、丸善の電子ブックサービスを利用して下さい（ https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/GuestLogin?1 ）のリンクをクリックして、明治大学の自分のIDでログインするとパソコンなどからオンラインで閲覧できます。詳細は第1回の授業ノートをご覧ください。			
6. 参考書			
なお各テーマに応じた資料を随時紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
各授業内もしくはOh-o!Meijiクラスウェブを通じてフィードバックを行う			
8. 成績評価の方法			
毎回2題程度出題する理解度確認テスト（1問2点で半期合計48点）と、毎回の授業内容に関する記述式課題（13回分を52点換算）としますので、この授業は定期試験はおこないません。【なお、Oh-o! Meijiのテスト機能などを通して、テスト・記述課題の方式を授業開始までに変更することがあります。Oh-o! Meijiの初回授業を確認してください。定期試験をおこなわないことについては、変更はありません。】			
9. その他			
課題に対する履修者の回答を、匿名で翌回の授業ノートに掲載することで、授業内容をさらに深めていきます。課題は毎回ありますが、取り組みやすさを重視し、内容理解を促進できるものとします。			

科目ナンバー：(BA)MAN236J			
経営心理学〔M〕			中西 晶
2 単位	2 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 経営心理学は、経営学と心理学の学際的な結合により、『経営における人間心理』をテーマに理解を深めるものである。経営と関連する分野としては、経営管理論、経営組織論、組織行動論、人的資源管理論、マーケティング論、消費者行動論など多岐にわたる。本講義は、経営学部生として幅広い専門知識を身につけるとともに、企業とは何か、経営とは何かについてのアウトラインを理解することを目的とした講義とする。できるだけ身近な事例なども交えながら授業を進める。 <到達目標> 従業員や管理者、消費者など経営に関連する人間心理のメカニズムや諸現象についての知識を獲得するとともに、学生生活における身近な活動とのつながりを認識し、獲得した知識を活用していくことを目的とする。			
2. 授業内容 以下のような内容を予定している。 授業の進行状況や時事的な話題の提供等で若干前後することがある。 全回メディア授業（オンデマンド型）で実施する。 第1回：産業社会と人間心理〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回：働く人のモチベーション〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：リーダーシップ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：チームマネジメント〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：ストレスとメンタルヘルス〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：安全とセキュリティ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：意思決定とその問題〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回：組織文化と組織社会化〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：学習と人材育成〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：キャリア開発と人事管理〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：コンフリクトと交渉〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：流行と消費者行動〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：ステークホルダーとの信頼形成〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 フルオンデマンドで実施する予定なので、十分な情報通信環境を準備すること。 授業資料・課題は毎週金曜日にOh-o!Meijiにアップする。 Oh-o!Meijiに提出された毎回のワークの結果は、個人情報情報を削除して、次回以降の授業で提示する場合がある。 心理学や社会学、経営社会学等もあわせて学ぶとより理解が深まるだろう。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 特に必要としないが、日常生活において常に問題意識を持ち、情報を探索・収集して、自分なりの考えをまとめていく姿勢が求められる。			
5. 教科書 中西晶著、『マネジメントの心理学【第2版】』，日科技連出版社，2014年			
6. 参考書 授業内で適宜指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meijiに提出された毎回のワークの結果は、個人情報情報を削除してとりまとめ、次回以降の授業で総合的なコメントする。 個別の質問・相談にはアンケート機能を利用する。 最終の全体を通した理解度確認テストにおいては、小テスト機能において解答や解説を行う。			
8. 成績評価の方法 毎回の授業に応じたワークの成果（Oh-O!Meijiのアンケート機能を使用予定）各回5点×13回＝65点 最終回での全体の理解度確認テスト（Oh-O!Meijiの小テスト機能を使用予定）35点 合計100点満点で評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN331J			
産業生理学A			一之瀬 真 志
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 現代社会では、産業と個人の生活・健康は密接に関係しています。自分の体についての知識を身につけるとともに、労働環境や各種の作業による身体的・精神的ストレスが体の機能にどのような影響を及ぼすかを知ることとは健康で充実した人生をおくるために非常に重要です。産業生理学Aでは、労働者の健康と深く関係する、循環器の生理と疾患、たばこの害、アルコールの功罪、体温調節のしくみと熱中症予防について解説します。さらに、国や企業が各種の問題に対してどのような取り組みを行っているかを紹介します。 <到達目標> 本講座の目的は、健康の維持・増進に必要な生理学的基礎知識を身につけること、また、産業に関連した環境要因・身体活動・精神ストレスなどが生理機能に及ぼす影響を理解することです。			
2. 授業内容 第1回 aのみ：イントロダクション 第2回 循環器の生理と疾患1（血圧の調節，高血圧） 第3回 循環器の生理と疾患2（高血圧の原因，高血圧の予防・改善） 第4回 循環器の生理と疾患3（血管の働き，動脈硬化） 第5回 循環器の生理と疾患4（心臓の構造と機能） 第6回 循環器の生理と疾患5（虚血性心疾患とその予防） 第7回 循環器の生理と疾患6（脳卒中とその後遺症，脳卒中の予防） 第8回 循環器の生理と疾患7（腎臓の働き，慢性腎臓病の予防） 第9回 たばこの害1（喫煙の状況，喫煙の害，受動喫煙の害） 第10回 たばこの害2（禁煙の必要性，ニコチンの依存性と禁煙） 第11回 アルコールと健康（飲酒と健康，アルコールの代謝，二日酔い） 第12回 体温調節のしくみ（代謝性熱産生，身体と環境間の熱移動） 第13回 職場での熱中症予防と対策1（熱中症発生の現状，熱中症のしくみ） 第14回 職場での熱中症予防と対策2（熱中症予防，暑熱順化，応急処置）			
3. 履修上の注意 内容については基本的な事項から説明しますが，解剖学や化学などの専門用語も含まれます。 産業生理学AとBは独立した内容で構成していますが，産業生理学Aを履修した後にBを履修することでより理解が深まります。A，Bの順番で履修することを推奨します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第1回イントロダクションにおいて授業予定が示されるので，各授業の前に参考図書や配布資料などを用いて予習してください。授業後には配布資料などの該当箇所を振り返り復習をし，不明な点があれば授業で質問してください。			
5. 教科書 教科書は特に定めません。授業中に資料を配布します。			
6. 参考書 シンプル生理学（貴邑富久子 他，南江堂）， 新訂 目でみるからだのメカニズム（境 章，医学書院） 標準生理学（本郷利憲 他，医学書院） カラー図解人体の正常構造と機能[全10巻縮刷版]（坂井建雄・河原克雅，日本医事新報社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間中に小テストやレポート等を課す場合には，課題提出締め切り後にOh!-Meijiを通じて解説を配信します。			
8. 成績評価の方法 平常点（20％）と期末試験（80％）により評価します。			
9. その他 本講義では，ストレス社会に生きる現代人に必要な健康管理に関する基礎知識を分かりやすく解説します。この講義を通して，現代社会における産業と健康の関連性を理解し，健やかに生きるための知識を獲得してもらいたいと思います。			

科目ナンバー：(BA)MAN331J			
産業生理学B			一之瀬 真 志
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 現代社会では、産業と個人の生活・健康は密接に関係しています。自分の体についての知識を身につけるとともに、労働環境や各種の作業による身体的・精神的ストレスが体の機能にどのような影響を及ぼすかを知ることとは健康で充実した人生をおくるために非常に重要です。産業生理学Bでは、労働者の健康と深く関係する、代謝の生理、肥満と肥満症、糖尿病、メタボリックシンドローム、生活習慣病予防のための身体活動、精神疾患について解説します。さらに、国や企業が各種の問題に対してどのような取り組みを行っているかを紹介します。 <到達目標> 本講座の目的は、健康の維持・増進に必要な生理学的基礎知識を身につけること、また、産業に関連した環境要因・身体活動・精神ストレスなどが生理機能に及ぼす影響を理解することです。			
2. 授業内容 第1回 aのみ：イントロダクション 第2回 代謝の生理と疾患1（食物のエネルギー，エネルギー供給系） 第3回 代謝の生理と疾患2（基礎代謝，推定エネルギー必要量） 第4回 肥満・肥満症1（肥満の現状，肥満の判定，BMI，隠れ肥満） 第5回 肥満・肥満症2（肥満症の定義，内臓脂肪型肥満，食事療法） 第6回 肥満・肥満症3（肥満症の運動療法，運動処方） 第7回 肥満・肥満症4（肥満症の行動療法，食行動質問表，グラフ化体重日記） 第8回 糖尿病1（インスリン，糖尿病の現状，合併症，2型糖尿病） 第9回 糖尿病2（2型糖尿病の環境要因） 第10回 糖尿病3（2型糖尿病の遺伝要因，糖尿病の検査法，妊娠糖尿病） 第11回 メタボリックシンドローム（診断基準，現状，予防法） 第12回 生活習慣病予防のための身体活動（健康と身体活動，身体活動量の目標値，健康維持に必要な体力） 第13回 こころの健康1（こころの健康の現状，過労自殺，職場のメンタルヘルス） 第14回 こころの健康2（うつ病の基礎知識，ストレスマネジメント）			
3. 履修上の注意 内容については基本的な事項から説明しますが，解剖学や化学などの専門用語も含まれます。 産業生理学AとBは独立した内容で構成していますが，産業生理学Aを履修した後にBを履修することでより理解が深まります。A，Bの順番で履修することを推奨します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第1回イントロダクションにおいて授業予定が示されるので，各授業の前に参考図書や配布資料などを用いて予習してください。授業後には配布資料などの該当箇所を振り返り復習をし，不明な点があれば授業で質問してください。			
5. 教科書 教科書は特に定めません。授業中に資料を配布します。			
6. 参考書 シンプル生理学（貴邑富久子 他，南江堂）， 新訂 目でみるからだのメカニズム（境 章，医学書院） 標準生理学（本郷利憲 他，医学書院） カラー図解人体の正常構造と機能[全10巻縮刷版]（坂井建雄・河原克雅，日本医事新報社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間中に小テストやレポート等を課す場合には，課題提出締め切り後にOh!-Meijiを通じて解説を配信します。			
8. 成績評価の方法 平常点（20％）と期末試験（80％）により評価します。			
9. その他 本講義では，ストレス社会に生きる現代人に必要な健康管理に関する基礎知識を分かりやすく解説します。この講義を通して，現代社会における産業と健康の関連性を理解し，健やかに生きるための知識を獲得してもらいたいと思います。			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営と環境A			松野 裕
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> ・環境問題と経済社会・企業活動の関係を水俣病、大気汚染問題、気候変動問題、廃棄物問題などの具体的な問題に即して検討する。 <到達目標> ・環境問題と経済との関係に関する基本的な知識と考え方の獲得を目標とする。			
2. 授業内容 第1講 環境と経済社会・企業活動の基本的な関係 第2講 環境問題の歴史（日本、世界） 第3～4講 水俣病 第5～6講 大気汚染問題 第7～8講 廃棄物問題・循環型社会 第9～11講 気候変動問題 第12～13講 エネルギー問題 第14講 まとめ			
3. 履修上の注意 ・経営と環境 B と共に履修することが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・環境問題に関する書籍や新聞・雑誌の記事を積極的に読むことが望ましい。			
5. 教科書 ・特定の教科書は用いず、プリントを配布して授業を行う。			
6. 参考書 『環境経済・政策学の基礎知識』、有斐閣、環境経済・政策学会編 『環境経済学』、岩波書店、植田和弘著 『環境社会学』、岩波書店、飯島伸子編			
7. 課題に対するフィードバックの方法 ・授業でコメントする。			
8. 成績評価の方法 ・成績は、出席点（14点）とレポート点（42点）、期末試験点（44点）の合計により評価する。 ・出席点は授業で質問用紙に質問を記入することで授業1回につき1点が与えられる（大幅な遅刻は0.5点）。ただし、就職活動（インターンを含む）や体育会の試合、病気や怪我等、やむを得ない理由で欠席する場合、それを証明する書類を写真に撮るなどして提出すれば不利にならぬように配慮する（クラスウェブを通じてファイルで提出すること）。授業動画は対面授業終了後に履修者全員に対し公開され、欠席者も見ることができる。 ・レポート点は各授業のレポートを翌週水曜午後11時までに提出した場合、1回につき3点が与えられる。上記期限以降に提出した場合は2.4点が与えられる。 ・レポートはワード等で作成したものを、クラスウェブを通じてファイルで提出すること。（昨季まで要求していた「手書き」は不要。） ・レポートは、授業の内容に対する感想・意見・考察を300字以上、書くこと。（昨季まで要求していた「授業の内容のまとめ300字以上」は不要。） ・レポートの字数を学生本人が数え、レポートに記入すること。			
9. その他 ・不明な点は、 yu.matsuno@gmail.com に問い合わせられたい。			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営と環境B			松野 裕
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> ・企業・経済活動が直面する環境政策をその目標と手段という枠組みでとらえ、その理論と現実を検討する。経営と環境 A と比較すると、こちらの B の方が、理論面に重点をおいた授業である。 <到達目標> ・企業・経済活動が直面する環境政策に関する基本的知識と考え方の獲得を目標とする。			
2. 授業内容 第1講 環境問題と経済社会の関係 第2～3講 環境政策の目標の理論 最適汚染 第4講 環境政策の目標の現実 1 人の健康に直接関わる目標 第5講 環境政策の目標の現実 2 人の健康に直接関わらない目標 第6講 環境の貨幣評価 第7講 環境政策手段 導入 第8講 環境政策手段 直接規制 第9～10講 環境政策手段 経済的手段（税、排出権取引、補助的措置） 第11～12講 環境政策手段 情報提供手段、自発的アプローチ 第13～14講 環境規制と企業活動の相互依存関係			
3. 履修上の注意 ・経営と環境 A と共に履修することが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・環境問題に関する書籍や新聞・雑誌の記事を積極的に読むことが望ましい。			
5. 教科書 特定の教科書は用いず、プリントを配布して授業を行う。			
6. 参考書 『環境経済・政策学の基礎知識』、有斐閣、環境経済・政策学会編 『環境経済学』、岩波書店、植田和弘著 『環境社会学』、岩波書店、飯島伸子編			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業内もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じてフィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 ・成績は、出席点（14点）とレポート点（42点）、期末試験点（44点）の合計により評価する。 ・出席点は授業で質問用紙に質問を記入することで授業1回につき1点が与えられる（大幅な遅刻は0.5点）。ただし、就職活動（インターンを含む）や体育会の試合、病気や怪我等、やむを得ない理由で欠席する場合、それを証明する書類を写真に撮るなどして提出すれば不利にならぬように配慮する（クラスウェブを通じてファイルで提出すること）。授業動画は対面授業終了後に履修者全員に対し公開され、欠席者も見ることができる。 ・レポート点は各授業のレポートを翌週水曜午後11時までに提出した場合、1回につき3点が与えられる。上記期限以降に提出した場合は2.4点が与えられる。 ・レポートはワード等で作成したものを、クラスウェブを通じてファイルで提出すること。（昨季まで要求していた「手書き」は不要。） ・レポートは、授業の内容に対する感想・意見・考察を300字以上、書くこと。（昨季まで要求していた「授業の内容のまとめ300字以上」は不要。） ・レポートの字数を学生本人が数え、レポートに記入すること。			
9. その他 ・不明な点は、 yu.matsuno@gmail.com に問い合わせられたい。			

科目ナンバー：(BA) GEO311J			
経済地理学 A			中澤 高 志
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 経済地理学の基礎的な体系である立地論の基礎を学びます。立地論では、地形条件や交通条件の違いを考慮しない均質な空間において、主体が合理的な行動をとることを想定して、演繹的に理論の構築が試みられます。その結果として、私たちが生きているような不均等な空間を前提としていなくても、移動にかかる「距離の摩擦」のみによって、空間が差異化されることが導かれます。 立地論といえば、経済地理学の基礎理論というのが通り相場であり、立地論を学ぶ意義は、現実の経済地理の説明に役立つからと考えられてきました。しかし、この講義では、立地論の原典の丹念な読み込みを踏まえ、それとは全く異なる立場から、立地論について考えていきます。その結果として、「経済地理学とは何か」という根源的な問いに対する答えに一步でも近づくことを目指したいです。 もちろん、農業立地論、工業立地論、中心地理論、空間的相互作用などに関する基本的な内容についても身に付けることができます。 <到達目標> 私は、大学で学習する「地理学」が、中学・高校における「地理」とは別物であることを、受講する皆さんに実感してもらうことを目標として、経済地理学の講義を行うつもりです。中学・高校における「地理」は、依然として「暗記モノ」の側面が強いのです。しかし、地理学者の多くは、地理学とは、なぜ、それが、そこに、そのような形で存在するのか、すなわち立地や分布を説明する学問であると考えています。とりわけ、日本で使われている家電やパソコンの多くが中国などの工場で組み立てられているのに、ビールや缶コーヒーのほとんどが国内の工場で生産されているのはなぜかといった疑問や、コンビニエンスストアの分布はどのような条件によっているのかといった疑問のように、経済活動の立地や分布を説明するのが、経済地理学であると考えられてきました。 問題は、その説明をどのような方法によってするのかです。日本の経済地理学では、立地や分布の説明は、限られた時代の限られた場所にだけ当てはまるものではなく、一般性をもった法則を追求すべきだと考えられてきました。そのため、現実の分析から取りかかるとはではなく、いくつかの前提から得られる仮想的なモデルである立地論が重視されてきました。この講義では、そのことについて、批判的に検討します。			
2. 授業内容 テキスト『経済地理学とは何か：批判的立地論入門』に基づいて展開する。 第1回 第1章 経済地理学の自分探し① 第2回 第1章 経済地理学の自分探し② 第3回 第2章 立地論の導入：演繹的に考えるということ 第4回 第3章 チューネンの農業立地論：A= $\sqrt{ap}$ への歩み① 第5回 第3章 チューネンの農業立地論：A= $\sqrt{ap}$ への歩み② 第6回 第4章 ウェーバーの工業立地論：ある挫折の記録① 第7回 第4章 ウェーバーの工業立地論：ある挫折の記録② 第8回 第5章 クリスタラーの中心地理論：逸脱の軌跡① 第9回 第5章 クリスタラーの中心地理論：逸脱の軌跡② 第10回 第6章 空間的相互作用と人口移動① 第11回 第6章 空間的相互作用と人口移動② 第12回 第7章 立地論を超えて① 第13回 第7章 立地論を超えて② 第14回 ポスト資本主義の経済地理学① 第15回 ポスト資本主義の経済地理学②			
3. 履修上の注意 教科書に加え。パワーポイント、板書と配布資料に基づいて、講義を進めます。この講義は、理論的な内容の比率が高いですが、なるべく現実の空間とのかつながらが見出せるように工夫します。理論といっても単純なものがほとんどですので、数学的な知識は必要ありませんし、高校で地理A・Bを受講した経験があるかないかは、理解度にはほとんど関係しないでしょう。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 参考書を並行して独習すれば、理解が深まります。また、この講義を履修した後に、後期に開講する経済地理学Bを履修すると、理解が深まります。			
5. 教科書 中澤高志（2021）：『経済地理学とは何か―批判的立地論入門』旬報社。			
6. 参考書 『現代の立地論』、古今書院、松原宏編著。『改訂版 立地ウォーズ―企業・地域の成長戦略と「場所のチカラ」』、新評論、川端基夫著。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義の中で行います。			
8. 成績評価の方法 レポート3回（400～800字程度）×20点＋定期試験もしくは最終レポート40点。			
9. その他 2011年度以前入学者は「教養科目」として履修します。			

科目ナンバー：(BA) GEO311J			
経済地理学 B			中澤 高 志
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 経済地理学とは、さまざまな経済活動が、なぜ、そこで、そのような形で行われているのかを説明する学問であり、立地論を基礎的な体系として発展してきました。立地論の根幹を支えているのは、「距離の摩擦」です。「距離の摩擦」とは、遠くに物を運ぼうとすればするほど、あるいは遠くまで移動しようとするほど、より時間や労力がかかることを意味し、それをお金に換算したものが「輸送費」です。 インターネットに代表されるように、情報通信技術が発達すると、情報のやりとりについては「距離の摩擦」がなくなり、音楽やゲーム、動画といった商品については、輸送費がかからない状態が生まれます。情報のやりとり（コミュニケーション）や商品としての情報の生産、流通、消費は、「距離の摩擦」に依拠した従来の経済地理学の枠組みでは扱えないのです。この講義では、広い意味での情報を扱うことのできる、新しい経済地理学の枠組みについて論じます。 <到達目標> 「情報の経済地理学」とでもいうべき、新しい経済地理学に触れることで、情報通信技術の発達が私たちの生活をどう変えていくかを考える力を身につけることを目標とします。			
2. 授業内容 第1講 イントロダクション：情報の経済地理学にむけて 第2講 電話の地理学 1 第3講 電話の地理学 2 第4講 電話の地理学 3 第5講 新聞の地理学 第6講 雑誌の地域記述 第7講 地図：地理情報のメディア 1 第8講 地図：地理情報のメディア 2 第9講 インターネットの地理学と地域格差としてのデジタル・デバイド 第10講 テレワークは働き方を変えるか 第11講 情報通信産業の立地 第12講 コンテンツ産業：日本のアニメーション産業とビデオゲーム産業 第13講 情報通信技術と監視 第14講 a：試験，b：解説			
3. 履修上の注意 パワーポイント、板書と配布資料に基づいて、講義を進めます。高校で地理A・Bを受講した経験があるかないかは、この講義の理解度にはほとんど関係しません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 日常の経験をこの広義で学んだことと結びつけて考えることにより、より深い理解を得られるでしょう。特別な知識は必要ありませんが、前期に開講する経済地理学Aを履修していた方が、明らかに理解は深まります。また、この講義に先立って、私が開講している地理学A、Bを履修することをお勧めします。余力があれば、他学部で開講されている地理学関連科目も受講してみてください。			
5. 教科書 特に指定しません。			
6. 参考書 特に指定しません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義の中で行います。			
8. 成績評価の方法 レポート3回（800字程度）×20点＋最終レポート40点。			
9. その他 2011年度以前入学者は「教養科目」として履修します。			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
企業の社会的責任論			高 巖
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 経営者は、事業運営にあたり、かつてとは比較にならないほど多くの事項や利害関係者のことを考慮しなければならなくなっている。効率的な経営のみならず、新規事業の立ち上げも、2020年代に入り、強く要請されている。社会責任、環境責任、説明責任（会計関連、開示関連）を果たすことも事業経営の大前提だ。これらに加え、企業は、地球温暖化、人権、腐敗防止などのグローバル課題に対処することも求められている。そうした課題を理解するとともに、企業がこれらの課題にどのように対応しようとしているかを見ていく。 〈到達目標〉 「企業には社会的責任がある」とする理由を理解した上で、現代の企業には、ESGに関しどのような実践が求められるのかを学ぶ。CSRやサステナビリティに関する一般的な知識の習得だけではなく、様々な業界の具体的なケースを取り上げ、そこにおける本質的な課題を読み解いていく。履修者は、これらの学習を通して「事業経営の将来を読む力」を身に付けていく。			
2. 授業内容 第1講 イン트로ダクション 第2講 なぜ企業は社会的責任を求められるのか 第3講 取締役の信託義務 第4講 企業不祥事とコーポレートガバナンス 第5講 監査役会設置会社（買収防衛策） 第6講 事例 Ia（日本航空） 第7講 事例 Ib（日本航空） 第8講 指名委員会等設置会社（物流センター投資） 第9講 事例 II（日興コーディアルグループ） 第10講 環境・企業セクターを巡る動き 第11講 環境・金融セクターを巡る動き 第12講 環境・開示セクターを巡る動き 第13講 人権・労働を巡る動き 第14講 腐敗防止を巡る動き			
3. 履修上の注意 会社法、ファイナンス、会計などの知識があれば、望ましい			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 配付する資料を事前に読んでおくこと 講義内容に関し復習を行うこと			
5. 教科書 教科書はなし。講義に先立って資料を配布する			
6. 参考書 授業時に指示する			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回、学生は授業に関し短いレポートを執筆し提出する。講師は毎回、このレポートに評価点を付ける。仮に学生が講義に関する質問をこのレポートに記載すれば、翌週以降の授業で質問に回答する。			
8. 成績評価の方法 評価は以下の2点を合計して行う。 レポートの点数（50点）と出席点（50点）。 レポートの点数に関しては、最初のオリエンテーションで詳しく解説する。			
9. その他 履修希望者は、初回オリエンテーションに必ず出席すること。			

科目ナンバー：(BA)CMM212J			
マーケティング基礎論		唐澤龍也	
2 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 本講義はマーケティングの基本概念、歴史的な発展プロセスを理解し、社会における役割について学ぶことを目的としている。特に、デジタル化とグローバル化の影響に関しては視聴覚教材を活用し紹介する。基本的なマーケティングの概念から具体的な戦略や課題に至るまで、具体的な事例を取り上げてわかりやすい内容を提供する。 〈到達目標〉 期待される学習成果 (ELOs) として、本講義の受講後には、マーケティングに関する主要な理論を理解し、議論ができるようになることを目標としている。将来、多様なビジネス環境に対応できる人材になるために、マーケティングを学ぶことを通して社会システムに対する視座を得ることを目指す。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション（マーケティングを学ぶ前に） 本講義の全体構成、成績評価の方法やポリシーについてガイダンスを行う。 マーケティングが社会的・経済的効果を生み出す存在であること、またマーケティングにおけるデジタル化やグローバル化を通して社会が変化していくのかを議論する。 第2回 マーケティングとは何か ・マーケティングの定義と基本概念 ・マーケットとは何か ・マーケティングの役割と重要性 ・マーケティングリサーチの基本 第3回 マーケティング戦略（STP） ・市場の細分化（セグメンテーション） ・対象市場の設定（ターゲティング） ・競合との差別化（ポジショニング） 第4回 マーケティングミックス（4Ps）その1 ・製品戦略（プロダクト）・プロダクトライフサイクル ・価格戦略（プライス） ・事例 第5回 マーケティングミックス（4Ps）その2 ・流通戦略（プレイス） ・販売促進・広告戦略（プロモーション） ・事例 第6回 ブランドマネジメント ・ブランドの重要性と構築 ・ブランドエクイティ（資産としてのブランド） ・ブランド価値 ・ブランドエクステンション 第7回 マーケティングとデザイン ・デザイン的重要性 ・顧客価値とデザイン ・事例（星のや・アマンリゾート） 第8回 国際マーケティング ・国際マーケティングの定義と基本概念 ・CAGEフレームワーク ・事例 インドネシアのフマキラー（殺虫剤）・中国のビジョン（哺乳瓶） 第9回 グローバル・マーケティング ・グローバル・マーケティングの定義と基本概念 ・グローバルビジネス環境 ・事例 ネスレとテスラ 第10回 サービスマーケティング ・サービスの特徴とマーケティング戦略 ・サービス品質とカスタマーエクスペリエンス（CX） ・顧客との価値共創（Co Value Creation） ・事例 スノーピーク（アウトドアブランド） 第11回 マーケティング倫理と社会的責任 ・倫理的なマーケティング行動（ESG） ・持続可能なマーケティング（SDGs） ・ステークホルダーとの関係構築 ・事例：Whole Foods Market（米国） 第12回 マーケティングにおける多様性（ダイバーシティ） ・ジェンダーに関する課題 ・マイノリティ（LGBTQ）への対応 ・事例 第13回 デジタルマーケティング ・オンライン広告とソーシャルメディア ・シェアリング・エコノミー データドリブン・マーケティング 事例：Uber/Airbnb/トライアル（流通） 第14回 新しいマーケティングの潮流（まとめ） ・第4次産業革命（Industrial Revolution 4.0） ・DX（デジタル・トランスフォーメーション） ・新しい見方・価値の再定義（本講義の総括）			
3. 履修上の注意 (1) 授業開始後10分以上の遅刻者は入室を遠慮してもらおう (正当な理由や交通機関の遅延証明書などがある場合は除く) (2) 授業中の私語は周囲の迷惑になるため厳禁とする (3) 質問、要望、教員への連絡事項があれば、講義後またはメールにて対応する			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習に関しては各回のテーマについて事前に調べ、質問や意見などを準備しておく。 テキストの該当する部分を一読しておいて欲しい。 復習に関しては配布資料の内容について理解しておくことが望ましい。 レジュメの該当箇所を振り返り、不明な点があれば質問をして欲しい。			
5. 教科書 『マーケティング零』大石芳裕編著（白桃書房） 各回の講義レジュメはOh-Meiji経由でPDFを配布する。			
6. 参考書 『グローバル・マーケティング零』大石芳裕編著（白桃書房）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題（リアクションペーパー・期末レポート）の提出・フィードバックはOh-Meijiのレポート機能を活用して行なう。 提出後、翌週の授業までに各自採点・コメントをフィードバックする。			
8. 成績評価の方法 本講義は以下の(1)・(2)を総合的に評価する。 (1)リアクション・ペーパー（5回程度実施する予定） Oh-Meijiを使ってリアクション・ペーパーを提出する。 翌週の授業までに各個人へフィードバック（採点）をして返却する (2)期末レポート 授業への参加度および理解度を示すリアクション・ペーパー50％、期末レポート50％			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)CMM212J			
マーケティング基礎論		唐澤龍也	
2 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 本講義はマーケティングの基本概念、歴史的な発展プロセスを理解し、社会における役割について学ぶことを目的としている。特に、デジタル化とグローバル化の影響に関しては視聴覚教材を活用し紹介する。基本的なマーケティングの概念から具体的な戦略や課題に至るまで、具体的な事例を取り上げてわかりやすい内容を提供する。 〈到達目標〉 期待される学習成果 (ELOs) として、本講義の受講後には、マーケティングに関する主要な理論を理解し、議論ができるようになることを目標としている。将来、多様なビジネス環境に対応できる人材になるために、マーケティングを学ぶことを通して社会システムに対する視座を得ることを目指す。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション（マーケティングを学ぶ前に） 本講義の全体構成、成績評価の方法やポリシーについてガイダンスを行う。 マーケティングが社会的・経済的効果を生み出す存在であること、またマーケティングにおけるデジタル化やグローバル化を通して社会が変化していくのかを議論する。 第2回 マーケティングとは何か ・マーケティングの定義と基本概念 ・マーケットとは何か ・マーケティングの役割と重要性 ・マーケティングリサーチの基本 第3回 マーケティング戦略（STP） ・市場の細分化（セグメンテーション） ・対象市場の設定（ターゲティング） ・競合との差別化（ポジショニング） 第4回 マーケティングミックス（4Ps）その1 ・製品戦略（プロダクト）・プロダクトライフサイクル ・価格戦略（プライス） ・事例 第5回 マーケティングミックス（4Ps）その2 ・流通戦略（プレイス） ・販売促進・広告戦略（プロモーション） ・事例 第6回 ブランドマネジメント ・ブランドの重要性と構築 ・ブランドエクイティ（資産としてのブランド） ・ブランド価値 ・ブランドエクステンション 第7回 マーケティングとデザイン ・デザイン的重要性 ・顧客価値とデザイン ・事例（星のや・アマンリゾート） 第8回 国際マーケティング ・国際マーケティングの定義と基本概念 ・CAGEフレームワーク ・事例 インドネシアのフマキラー（殺虫剤）・中国のビジョン（哺乳瓶） 第9回 グローバル・マーケティング ・グローバル・マーケティングの定義と基本概念 ・グローバルビジネス環境 ・事例 ネスレとテスラ 第10回 サービスマーケティング ・サービスの特徴とマーケティング戦略 ・サービス品質とカスタマーエクスペリエンス（CX） ・顧客との価値共創（Co Value Creation） ・事例 スノーピーク（アウトドアブランド） 第11回 マーケティング倫理と社会的責任 ・倫理的なマーケティング行動（ESG） ・持続可能なマーケティング（SDGs） ・ステークホルダーとの関係構築 ・事例：Whole Foods Market（米国） 第12回 マーケティングにおける多様性（ダイバーシティ） ・ジェンダーに関する課題 ・マイノリティ（LGBTQ）への対応 ・事例 第13回 デジタルマーケティング ・オンライン広告とソーシャルメディア ・シェアリング・エコノミー データドリブン・マーケティング 事例：Uber/Airbnb/トライアル（流通） 第14回 新しいマーケティングの潮流（まとめ） ・第4次産業革命（Industrial Revolution 4.0） ・DX（デジタル・トランスフォーメーション） ・新しい見方・価値の再定義（本講義の総括）			
3. 履修上の注意 (1) 授業開始後10分以上の遅刻者は入室を遠慮してもらおう (正当な理由や交通機関の遅延証明書などがある場合は除く) (2) 授業中の私語は周囲の迷惑になるため厳禁とする (3) 質問、要望、教員への連絡事項があれば、講義後またはメールにて対応する			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習に関しては各回のテーマについて事前に調べ、質問や意見などを準備しておく。 テキストの該当する部分を一読しておいて欲しい。 復習に関しては配布資料の内容について理解しておくことが望ましい。 レジュメの該当箇所を振り返り、不明な点があれば質問をして欲しい。			
5. 教科書 『マーケティング零』大石芳裕編著（白桃書房） 各回の講義レジュメはOh-Meiji経由でPDFを配布する。			
6. 参考書 『グローバル・マーケティング零』大石芳裕編著（白桃書房）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題（リアクションペーパー・期末レポート）の提出・フィードバックはOh-Meijiのレポート機能を活用して行なう。 提出後、翌週の授業までにフィードバック（採点+コメント）を各自に行なう。			
8. 成績評価の方法 本講義は以下の(1)・(2)を総合的に評価する。 (1)リアクション・ペーパー（5回程度実施する予定） Oh-Meijiを使ってリアクション・ペーパーを提出する。 翌週の授業までに各個人へフィードバック（採点）をして返却する (2)期末レポート 授業への参加度を示すリアクション・ペーパー50％、期末レポート50％			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN371E			
Corporate Social Responsibility			高 巖
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <Course Outline> Corporate directors and officers have to consider broader matters and stakeholders than ever in their management. In this decade, not only efficient business management but also launch of new businesses is strongly expected. Fulfilling environmental responsibility (E), social responsibility (S), and corporate accountability (G) is also a premise of business management. In addition, corporations are also required to address global challenges such as global warming, human rights and corruption. In this class, we will understand those issues and learn how corporations have been dealing with those issues. <Objectives> After understanding why a corporation has to fulfill social responsibilities (Lecture 2), we will learn what kinds of ESG practices are required for business to implement (Lecture 3 to 14). While studying CSR and sustainability in general, we will take up cases from various industries, and understand issues seen in those cases. Students are expected to acquire "the ability to see into the future of business management."			
2. 授業内容 Lecture 1 Introduction Lecture 2 Why are Companies required to take Social Responsibility? Lecture 3 Fiduciary Duties of Directors Lecture 4 Corporate Scandals and Corporate Governance Lecture 5 Traditional Type Governance (Takeover Defense Measure) Lecture 6 Case Ia (Japan Airlines) Lecture 7 Case Ib (Japan Airlines) Lecture 8 American Type Governance (Investment in a Distribution Center) Lecture 9 Case II (Nikko Cordial Group) Lecture 10 CSR Movement (1 a) Environment Lecture 11 CSR Movement (1 b) Environment Lecture 12 CSR Movement (1 c) Environment Lecture 13 CSR Movement (2 a) Society (Human Rights and Labor) Lecture 14 CSR Movement (2 b) Society (Corruption)			
3. 履修上の注意 It is desirable to have knowledge of Corporation Law, Finance, and Accounting.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Read the materials to be distributed in advance. I will provide each material about one week before the class, via Oh-o! Meiji Review the content of the lecture. All the materials are copyrighted, so please do not put it on the internet and leak it to the outside.			
5. 教科書 None. Materials are distributed.			
6. 参考書 None			
7. 課題に対するフィードバックの方法 In each lecture, at the end of the class, each of you is required to submit the feedback by (1) listing a few of points that especially impressed you and (2) explaining why those points are impressive. In your feedback, if necessary, you may raise questions about the lecture. I will answer those questions at the following classes. I will not return your feedback evaluations one by one. However, at the midpoint of the semester, I will show mid-term evaluations to each of the students who wishes to know their scores. I will also give a warning to all the student whose grades are particularly problematic.			
8. 成績評価の方法 The evaluation is made by summing up the following two scores. (1) Feedback evaluation (50 points) and (2) attendance (50 points). At the first orientation class, I will explain in detail how to evaluate your feedback. This is so important that all of you have to attend the first class.			
9. その他 You are required to bring your own PC to the classroom with you. Your feedback has to be typed on your PC, not hand-written, converted to a PDF file, and submitted as an attachment to my email address.			

科目ナンバー：(BA)MAN291J			
情報化社会論 A			鈴木みゆき
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 インターネットなどの普及により、高度に情報化された社会においては、従来考えられなかった様々な状況が発生している。情報化の進展に伴い、どのように社会が移り変わっているのかを理解することは重要である。 〈到達目標〉 あふれる情報を役立てる方法を身につけ、情報の本質を考察することを通じて、人間相互のコミュニケーションあるいは、機械とマシンインターフェースの現状を分析しつつ現代社会を考える。			
2. 授業内容 第1講—第2講 家庭・個人における情報化の現状 第3講—第4講 企業における情報化の現状 第5講 情報の本質 第6講 情報の質と量 第7講 経済と情報 第8講 情報伝達の科学 第9講 マーケティングと情報化 第10講 情報化社会の問題 第11講 製造業と情報化 第12講 サービスと情報化 第13講 統計でみる情報化 第14講 人間と情報、情報化社会の未来			
3. 履修上の注意 欠席をしないこと			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に関連する事柄をインターネットで検索する。			
5. 教科書 なし			
6. 参考書 必要に応じて提示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 平常点（出席、授業時提出物）、試験をそれぞれ50%、50%の割合で総合的に評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN291J			
情報化社会論 B			鈴木みゆき
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 データ通信とコンピュータテクノロジーの結合による情報通信技術の現状を分析することにより、ネットワーク社会について論究する。個人のプライバシー、コンピュータウィルスなどのネットワーク社会における諸問題について考察する。 〈到達目標〉 現代の利便性が内包する非合理性がどのように存在し、如何に解決すべきかについて考察する。高度情報化社会の現状とその未来について論ずる。			
2. 授業内容 第1講—第2講 インターネットの技術 第3講 インターネットの実際 第4講 広告とインターネット 第5講 個人情報とインターネット 第6講—第7講 情報通信技術の発展 第8講 ネットワーク社会の技術的側面 第9講 ソフトウェアとしてのネットワーク社会 第10講 コンピュータウィルスの科学 第11講 プライバシーとネットワーク 第12講 メディアと情報化 第13講 現代情報化社会と人間 第14講 未来社会と情報			
3. 履修上の注意 欠席をしないこと			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に関連する事柄をインターネットで検索する。			
5. 教科書 なし			
6. 参考書 必要に応じて提示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 平常点（出席、授業時提出物）、試験をそれぞれ50%、50%の割合で総合的に評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Internet Business A			高橋 徹
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <Outline> The rise of advanced digital technology and big data is transforming our society and business landscape. In this course, we will explore the latest trends and developments in internet business, with a focus on case studies of successful internet companies. Students will learn about the business models, strategies, and challenges of these companies, as well as the implications for the global economy. The course will be taught by an experienced instructor with extensive work experience in the global media division of an advertising company. The instructor will use a variety of teaching methods, including lectures, case studies, and group discussions. https://meiji-univ.ap.panopto.com/Panopto/Pages/Viewer.aspx?id=fd77f991-ec27-4f9a-bc4f-b0fa0020342d <Objectives> By the end of this course, students will be able to: • Understand the basic concepts of internet business • Analyze the business models of successful internet companies • Identify the challenges and opportunities facing internet businesses • Develop the communication skills needed for a career in global business			
2. 授業内容 1. Introduction - The global war for digitally skilled talent is heating up. 2. History of Internet Business 3. Business Model by Internet 4. Internet and Traditional Media 5. Web 2.0 - Long Tail Principle 6. Web 3.0 - The Advent of a New Internet Society 7. Internet Advertising - Evolution of Ad Technology 8. Big Data and Marketing 9. Internet Business and M&A 10. Social Media Network 11. Evolution of Video Streaming 12. Mobile Centric - Evolution of Internet Device 13. Latest Trend of Internet Business 14. Course Review- How to adapt to the digital age and thrive in the future. In this course, in addition to the content mentioned above, we'll share practical and up-to-date knowledge about cutting-edge generative AI that's revolutionizing the business world. As we explore the possibilities and challenges of rapidly evolving AI technology, you'll develop skills directly relevant to your future career. During our classes, we'll dive deep into proper AI usage, ethical considerations, and potential risks. You'll also learn powerful ways to boost your job hunt, such as using AI for company research, creating impressive resumes (entry sheets), and preparing for interviews. By the end of this course, you'll have gained essential skills and knowledge to become a competitive candidate ready to lead in the AI era.			
3. 履修上の注意 ※The TOEIC level necessary for registering for this course is around 700, but welcome students who strongly want to improve their English skills even if they do not exceed 700.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are required to download the lecture handout, which will be uploaded to "Oh-o! Meiji" by the day before each class, and to review its contents prior to the lecture. Additionally, students must complete a questionnaire on the cloud survey site after each weekly lecture.			
5. 教科書 No specific textbook will be assigned for this course. Students are expected to review the lecture handouts prior to class and prepare potential questions in advance.			
6. 参考書 No specific reference will be assigned for this course.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Students who wish to receive feedback on their final reports will receive it via email.			
8. 成績評価の方法 Contribution to class (including questionnaire responses after each class) 60% Final report 40%			
9. その他 * Prerequisite Course - No programming or advanced Excel skills are required to take this course. This course is for those who are interested in the potentials and risks of internet technology for future businesses. *To make the most out of this course: - Attend all classes and arrive on time - Participate in group discussions and presentations - Proactively read/search current issues in this class ※The Rise of Digital Transformation: Equipping Yourself for the Future ※DX (digital transformation), which represents a corporate transformation using big data and digital technology, is accelerating as the COVID-19 pandemic spreads around the world. On the other hand, in Japan, human resource development to promote DX has become a management issue. In this course, you can learn the basic concepts for understanding DX and insights to survive the DX era based on abundant case studies that are occurring in the global market.			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Internet Business B			高橋 徹
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <Outline> This course introduces the latest issues and trends in internet business, with a focus on case studies of successful internet companies. Students will learn about the business models, strategies, and challenges of these companies, as well as the implications for the global economy. The course will be taught by an experienced instructor with extensive work experience in the global media department of an advertising company. The instructor will use a variety of teaching methods, including lectures, case studies, and group discussions. https://meiji-univ.ap.panopto.com/Panopto/Pages/Viewer.aspx?id=fd77f991-ec27-4f9a-bc4f-b0fa0020342d <Objectives> By the end of this course, students will be able to: • Understand the basic concepts of internet business • Analyze the business models of successful internet companies • Identify the challenges and opportunities facing internet businesses • Develop the communication skills needed for a career in global business			
2. 授業内容 1. Introduction - Analytical Method of Case Studies 2. Omnichannel Commerce 3. The Evolution of E-Commerce 4. Electronic Payment / The Evolution of Cryptocurrency 5. The Mechanism and Prospect of Artificial Intelligence 6. [Case Study] Google 7. [Case Study] Apple 8. [Case Study] Facebook (Meta) 9. [Case Study] Amazon 10. [Case Study] The Rise of the Next Generation of Global Tech Giants 11. Cyber Security - The History and Latest Trends of Cyber Attacks 12. Ethics & Law of Internet Business 13. Future of Internet Business / Internet Democracy 14. Course Review - How to Transform Yourself for Your Career Development In this course, in addition to the content mentioned above, we'll share practical and up-to-date knowledge about cutting-edge generative AI that's revolutionizing the business world. As we explore the possibilities and challenges of rapidly evolving AI technology, you'll develop skills directly relevant to your future career. During our classes, we'll dive deep into proper AI usage, ethical considerations, and potential risks. You'll also learn powerful ways to boost your job hunt, such as using AI for company research, creating impressive resumes (entry sheets), and preparing for interviews. By the end of this course, you'll have gained essential skills and knowledge to become a competitive candidate ready to lead in the AI era.			
3. 履修上の注意 ※The TOEIC level necessary for registering for this course is around 700, but welcome students who strongly want to improve their English skills even if they do not exceed 700. ※ Students who have not taken "Internet Business A" in the spring semester can also take this course.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are required to download the lecture handout, which will be uploaded to "Oh-o! Meiji" by the day before each class, and to review its contents prior to the lecture. Additionally, students must complete a questionnaire on the cloud survey site after each weekly lecture.			
5. 教科書 No specific textbook will be assigned for this course. Students are expected to review the lecture handouts prior to class and prepare potential questions in advance.			
6. 参考書 No specific reference will be assigned for this course.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Students who wish to receive feedback on their final reports will receive it via email.			
8. 成績評価の方法 Contribution to class (including questionnaire responses after each class) 60% Final report 40%			
9. その他 * Prerequisite Course - No programming or advanced Excel skills are required to take this course. This course is for those who are interested in the potential and risk of internet technology for future businesses. - "Internet Business A" (Spring Semester) is not a requirement. *To make the most out of this course: - Attend all classes and arrive on time - Participate in group discussions and presentations - Proactively read/search current issues in this class ※The Rise of Digital Transformation: Equipping Yourself for the Future As COVID-19 reshapes our world, companies worldwide are embracing digital transformation (DX) - using big data and technology to reinvent themselves. Yet, Japan faces a crucial challenge: how to upskill its workforce to thrive in this digital age. This course empowers you to tackle this head-on. Delve into the core concepts of DX, unlock insights from real-world global case studies, and equip yourself with the knowledge and skills to not just survive, but lead in the era of digital transformation.			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Contents Business A			中谷 安男
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈Outline〉 The aim of this course help students to learn the features of the content industry, and discuss how representative companies utilize the content to improve their brand and expand their customer base. The class also examines how content businesses have developed since early days to obtain implications for exploring future business model. By discussing business case studies in small groups, students can understand how different parts of the content business should connect to improve current business contexts. 〈Objectives〉 Students can have a broad understanding of the content industry, with a perspective on how individual content can be connected in digital platforms. They can improve their negotiation skills in English.			
2. 授業内容 1 Introduction 2 Development of content: History repeats 3 Creating business icons for content 4 Technology driven content 5 The power of Anime: Case study in Vietnam 6 Adopting content in different counties: K-pop and J-pop 7 Implicit or Explicit (1) Japanese culture or Western Culture 8 Implicit or Explicit (2) Negotiating with global clients 9 Creating content for joint-marketing: Case of Dentsu 10 Adoptive Content Theory: Utilizing multiple media 11 Copyright and content business 12 Digital platformer: iTunes 13 Digital platformer: YouTube 14 Review: Content business and digital technologies			
3. 履修上の注意 English capabilities required. Classes will be fully conducted in English, and students will be required to present ideas in English. English requirement : TOEIC 600～			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are expected to read news on a daily basis to keep up with new technologies and trends in the content industry.			
5. 教科書 • Global Leadership: Case Studies of Business Leaders in Japan. by Nakatani.Y and Smithers. R. Kinseido. • Using web-based materials and handouts			
6. 参考書 Content Machine: Use Content Marketing to Build a 7-figure Business With Zero Advertising Dan Norris. CreateSpace Independent Publishing Platform.			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Class contribution for discussion and assignments:70%. Final report:30%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391E			
Contents Business B			中谷 安男
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈Outline〉 In this course students clearly understand the features of the content industry and present how representative companies should utilize the content to improve their brand and expand customer base. Through case study methods, students discuss how different parts of the content business should connect to explore the future business model. 〈Objectives〉 Students can have a clear understanding of the content industry, with a perspective on how individual content can be connected in digital platforms. They can improve negotiation skills in upper-level English.			
2. 授業内容 1 Introduction 2 Digital platformers: FaceBook and Instagram 3 Digital platformer: Twitter 4 Cutting-edge content and technology from U.S. 5 Content for sports marketing: Morinaga case 6 Adaptive content theory 1 : Coca-Cola case 7 Adaptive content theory 2 : MIJI case 8 Adaptive content theory 3 : Shiseido 9 Customer-oriented content 10 Japanese traditional culture for new content 11 Content for Counter Innovator's Dilemma 12 CSR and content business 13 Future content with SDGs 14 Review: Developing your content business			
3. 履修上の注意 English capabilities required. Classes will be fully conducted in English, and students will be required to present ideas in English. English requirement : TOEIC 600～			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are expected to read news on a daily basis to keep up with new technologies and trends in the content industry.			
5. 教科書 Business Case Studies of Global Leaders 成美堂 Nakatani, Y. & Smithers, R. Seibido. • Using web-based materials and handouts			
6. 参考書 Content Machine: Use Content Marketing to Build a 7-figure Business With Zero Advertising Dan Norris. CreateSpace Independent Publishing Platform.			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Class contribution for discussion and assignments: 70%. Final report:30%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAW271J			
ビジネス法			柿崎環
2単位	1年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 学問としての法律学の初学者が多いことから、法とは何か・法体系等から学び始め、近代社会・現代社会における企業取引法（ビジネス法）の意義を理解したうえで、この現代経済社会を支える企業（会社）の経済活動の根拠となり、かつそれを規制する法律としての民法・商法・会社法の基礎を学ぶ。 <到達目標> 法律全体におけるビジネス法の意義および企業取引に関わる民法・商法・会社法等の基礎を理解することを目指す。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 私法体系における取引法の位置づけ 第3回 取引法としての民法と商法 第4回 市場経済社会における「法律行為」とは？ 第5回 商法が適用される世界の鳥瞰図 第6回 商人となるには？ 第7回 商人の名称「商号」 第8回 軌道に乗った商売を広げるには？—商行為の代理と委任 第9回 他人の労力を利用する—商業使用人制度・補助商 第10回 商業登記・商業帳簿制度—公示制度の意味 第11回 営業の切り離しは何のため？—営業譲渡 第12回 商行為法の特色とは？ 第13回 商事契約の特則 第14回 具体的な商事売買にみる民法との違い			
3. 履修上の注意 法律の授業は段階的に進められる。途中で欠席すると自学自習で補うことが難しくなるため、授業は休みなく出席することが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、授業の内容となるテキストの該当箇所を読んでおくこと。			
5. 教科書 中村信男・和田宗久『ビジネス法入門（第3版）』中央経済社			
6. 参考書 近藤光男『商法総則・商行為法（最新版）』有斐閣 北居功・高田晴仁編『民法とつながる商法総則・商行為法』商事法務			
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験の総評を「授業のお知らせ」機能を使って配信する。			
8. 成績評価の方法 定期試験（またはレポート課題）によって評価する。			
9. その他 ビジネス法の基礎を学ぶことを目的とするが、ビジネス法の中心である「株式会社法」をこの授業で全部網羅することは、この授業では難しい。この授業でも、一部、株式会社法についても取り上げるが、企業社会を規律する法に興味のある者は、あわせて「株式会社法」を学ぶ科目を履修することが望ましい。			

科目ナンバー：(BA)LAW361J			
会社法A			根 本 伸 一
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、会社法について講義する。会社法とは、株式会社や合同会社などの会社の組織・運営に関するルールである。現代社会において、会社は経済活動のインフラとして重要な役割を果たしている。例えば、われわれは日々会社から様々な商品・サービスの提供を受け、また会社に従業員として雇われ、給料を受け取っている。さらに、起業をする際に自分で会社を作ってそれを使って事業を行うこともできる。会社法とは、このような会社が、社会において活動するための基本的なルールである。それゆえ、会社法を学ぶということは、最終的には一国の経済社会のあり方としてどのようなものが望ましいかというテーマにアプローチすることでもある。そこで本講義では、会社法の基本的な仕組みを説き起こすことを通して、経済活動のインフラとしての会社の仕組みを明らかにしたい。 本講義の到達目標は、受講生が会社法の基本的な仕組みとその使われ方について理解できるようになることである。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：企業と会社 第3回：会社の法的性質 第4回：会社の設立1 第5回：会社の設立2 第6回：株式1 第7回：株式2 第8回：機関総論、株主総会1 第9回：株主総会2 第10回：取締役、取締役会、代表取締役 第11回：監査役、会計監査人、会計参与 第12回：指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社 第13回：業務執行の適性確保 第14回：総括 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。			
3. 履修上の注意 特に他の法律科目を履修しておくべきということはない。 むしろ企業活動に関する関心や会計学や経営学の知識があった方が、理解が進むと思われる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、授業の終了時に、次回の範囲、参考文献および注意事項等を告知する。			
5. 教科書 三枝一雄ほか『最新 基本会社法（第2版）』（中央経済社、2021年） また、Oh-o! Meiji上でレジュメ等を配布する。			
6. 参考書 田中亘『会社法[第4版]』（東京大学出版会、2023年） 伊藤靖史ほか『会社法[第5版]（LEGAL QUEST）』（有斐閣、2021年） 神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第4版〕』（有斐閣、2021年）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートや試験の実施後にOh-o! Meiji上で解答例を掲載するとともに、Oh-o! Meijiのアンケート機能を使って質問を受け付ける。			
8. 成績評価の方法 中間レポートの提出を前提として定期試験により成績評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAW361J			
会社法B			根 本 伸 一
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、会社法について講義する。会社法とは、株式会社や合同会社などの会社の組織・運営に関するルールである。現代社会において、会社は経済活動のインフラとして重要な役割を果たしている。例えば、われわれは日々会社から様々な商品・サービスの提供を受け、また会社に従業員として雇われ、給料を受け取っている。さらに、起業をする際に自分で会社を作ってそれを使って事業を行うこともできる。会社法とは、このような会社が、社会において活動するための基本的なルールである。それゆえ、会社法を学ぶということは、最終的には一国の経済社会のあり方としてどのようなものが望ましいかというテーマにアプローチすることでもある。そこで本講義では、会社法の基本的な仕組みを説き起こすことを通して、経済活動のインフラとしての会社の仕組みを明らかにしたい。 本講義の到達目標は、受講生が会社法の基本的な仕組みとその使われ方について理解できるようになることである。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：役員等の損害賠償責任1 第3回：役員等の損害賠償責任2 第4回：株主代表訴訟 第5回：会社の計算1 第6回：会社の計算2 第7回：企業の資金調達、募集株式の発行等1 第8回：募集株式の発行等2 第9回：新株予約権 第10回：社債 第11回：事業譲渡、合併 第12回：株式交換、株式移転 第13回：会社分割 第14回：総括 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。			
3. 履修上の注意 特に他の法律科目を履修しておくべきということはない。 むしろ企業活動に関する関心や会計学や経営学の知識があった方が、理解が進むと思われる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、授業の終了時に、次回の範囲、参考文献および注意事項等を告知する。			
5. 教科書 三枝一雄ほか『最新 基本会社法（第2版）』（中央経済社、2021年） また、Oh-o! Meiji上でレジュメ等を配布する。			
6. 参考書 田中亘『会社法[第4版]』（東京大学出版会、2023年） 伊藤靖史ほか『会社法[第5版]（LEGAL QUEST）』（有斐閣、2021年） 神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第4版〕』（有斐閣、2021年）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートや試験の実施後にOh-o! Meiji上で解答例を掲載するとともに、Oh-o! Meijiのアンケート機能を使って質問を受け付ける。			
8. 成績評価の方法 中間レポートの提出を前提として定期試験により成績評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAW341J			
手形法・小切手法		高木正則	
2単位	3年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 手形・小切手は、商取引において支払の用具、信用の用具、送金・取立の用具として大きな役割を担ってきたが、近時においては電子決済システム（具体的には電子記録債権）への移行の動きなどから利用が減少しているし、政府の方針としても約束手形の利用廃止が示されている。しかし、手形・小切手法を学ぶことは新しい学問分野としての支払決済システムに関する法を学ぶ上で極めて重要である（落合誠一・神田秀樹編『手形小切手判例百選（第6版）』（有斐閣、2004年）2-3頁）。とりわけ、電子記録債権法を理解するためには手形法の理解が前提となる。そこで、本講義では手形・小切手の意義とその役割を概観した後、振出から支払に至る一連の流れについて説明する。なお、現在使われている手形の多くが約束手形であることに鑑み、本講義では約束手形についての基本的な法律関係を明らかにし、替手形および小切手については約束手形と異なる部分について触れるにとどめる。また、講義の中で手形に代わる新しい支払決済システムである電子記録債権について触れる予定である。その際、適宜、いわゆる「でんさいネット」のWeb上の資料等をプロジェクターで示しながら解説するつもりである。 〈授業の到達目標〉 一般的に法学部の授業の場合は、法律科目については判例・学説の詳細な検討に立ち入るのが常であるが、この授業の受講生は法学部の学生ではないので、そこまでは立ち入らずあくまでも手形法・小切手法に関する基本的な理解を得てもらうことを目標にする。			
2. 授業内容 概ね、下記の順序で講義を進める予定である。 第1回 aのみ：イントロダクション 第2回 手形・小切手の意義と機能、電子記録債権 第3回 手形行為の意義 第4回 手形の振出（1）手形要件、電子記録債権の発生要件 第5回 手形の振出（2）手形上の意思表示、電子記録債権にかかる意思表示 第6回 他人による手形行為 第7回 手形の偽造、変造 第8回 手形の裏書（1）譲渡裏書、電子記録債権の譲渡 第9回 手形の裏書（2）特殊の裏書 第10回 手形の善意取得、電子記録債権の善意取得 第11回 手形抗弁、電子記録債権における抗弁事由、人的抗弁の切断 第12回 白地手形 第13回 支払、電子記録債権の支払 第14回 その他 ※講義内容は必要に応じて変更することがある。			
3. 履修上の注意 本科目ではその性質上民法の財産法（総則・物権・債権）との比較を行うことが多いので、受講生は民法の概論のような授業があれば履修済みであるかまたは履修中であることが大変望ましい。なお、小型のものでよいので必ず令和7年版の六法を入手して授業時に持参すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習に関しては、手形・小切手法に関する概説書にざっと目を通しておくことをすすめる。復習に関しては、授業で説明したことを配布したプリントと照らし合わせて確認しながら、手形・小切手に関する基本的な概念や法律上の制度のあらましを説明できるようにまとめておくとういと思う。			
5. 教科書 特に指定しないが、自分で最も読みやすいと思う手形・小切手法の概説書を手当てして読むことを勧める。比較的に新しい概説書としては、手形法・小切手法以外の分野も含む支払決済に関する法分野を扱うものとして、小塚莊一郎・森田果共著『支払決済法（第3版）』（商事法務、2018年）があるほか、法学部以外の学生にとっては少し難しく感じられるかもしれないが、弥永真生著『リーガルマインド手形法・小切手法（第3版）』（有斐閣、2018年）が挙げられる（ただし同書は品薄との情報がある）。なお、授業で適宜プリントを配布する予定である。			
6. 参考書 神田秀樹・神作裕之編『手形小切手判例百選（第7版）』（有斐閣、2014年）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間中に適宜、知識確認のための簡単なアンケートをOh-o! Meijiを使って実施し、その結果について授業内で簡潔に講評を含めてコメントすることを考えている。			
8. 成績評価の方法 定期試験によって評価する予定である。			
9. その他 手形や小切手は日常生活においては馴染みのないものであるが、これらに関する基本的な法的知識を得ておくことは将来皆さんが社会に出て仕事をやる上で決して損ではないと思われる。すなわち、電子記録債権が手形に代わるツールとしてより普及していくことが想定されるが、電子記録債権の仕組みを理解するには手形に関する知識が前提とされることから、手形法小切手法を勉強しておく意味は十分にある。とくに、銀行など民間企業に就職することを志す人には、手形や小切手に関する法的知識はかなり役立つであろう。			

科目ナンバー：(BA)LAW361J			
財産法		神田英明	
2単位	3年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 民法は、日常生活関係を規律する法律であり、私法全体の最も基本的な法律です。物の売買や不動産の賃貸借、借金、契約違反、交通事故など、私たち市民を取り巻く日常生活に関するルールを民法は定めています。 本講義は、民法財産法、すなわち、民法総則、物権法、及び、債権法と呼ばれる法領域（民法第1～3編）をその考察対象とします。民法の基礎理論および解釈論上問題となっている各種の重要論点について、民法の基本原則を明らかにしながら、問題点の所在とその要点を整理し、法的考察を加えていきます。 〈授業の到達目標〉 民法財産法が定める各種の制度の存在意義を一つずつ解明し、民法における「ものの見方・考え方」を修得することを目標とします。民法全体の体系的な理解、及び、法的問題に対処できる法的思考力を身に付けることが、本講義の到達目標です。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション「民法財産法」を学ぶにあたって〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第2回：民法の仕組みー私法の四大原則・法人格 第3回：民法総則の諸制度（1）制限能力者の保護〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第4回：民法総則の諸制度（2）意思表示と法律行為〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第5回：民法総則の諸制度（3）代理・時効 第6回：物権法の諸制度（1）物権の意義 第7回：物権法の諸制度（2）登記制度（物権変動と公示）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第8回：物権法の諸制度（3）即時取得制度 第9回：担保物権法の諸制度（1）担保の意義 第10回：担保物権法の諸制度（2）抵当権・その他の担保物権〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第11回：債権法の諸制度（1）債権の効力 第12回：債権法の諸制度（2）契約総論（解除） 第13回：債権法の諸制度（3）契約各論（売買・賃貸借）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第14回：債権法の諸制度（4）不法行為・まとめ ※授業内容、及び、リアルタイムZoom型の順序は必要に応じて変更することがあります。			
3. 履修上の注意 原則は対面実施ですが、感染予防、及び、学習効率の向上を狙って14回の半期授業のうち6回ほどを対面講義ではなくリアルタイムZoomオンライン授業として開催することがあります。 なお、毎回コメントシートの提出を求め、出席確認及び理解度確認を行います。また、Oh-o! Meiji クラスウェブ機能を活用し、意見交換の場を設けます。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知します。 意見・質問・感想などを求める受講カード（出席カードとしての機能はありません）を提出してもらい、講義に対話性を持たせることを予定しています。強い問題意識と知的好奇心を持って、積極的に授業に参加することを求めます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習の内容 事前に教科書および資料等に目を通して、最低限の知識を得て授業に臨むことが強く望まれます。 復習すべき内容 学習したテーマについて、正確に理解し、しっかりとその成果をまとめておいて下さい。			
5. 教科書 田中嗣久ほか『民法がわかった 最新版』（法学書院）。 なお、必要に応じてレジュメを配布します。			
6. 参考書 各人が使用しているもので結構です。特に参考書その他文献について指示する必要があるときは、授業の際に改めて指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各自が予め検討していた当該課題に対する解説、さらには課題に対する質問や感想に対するコメント返しを、翌週の講義にて毎回行う。			
8. 成績評価の方法 ①学期末試験（70%）、及び、②授業時間中に不定期に複数回実施する簡単な小テスト（30%）にて評価します。定期試験の答案作成にあたっては、基本的な理解が出来ているかどうか、説得力ある論理を自分の考えとして展開しているかどうかを基準に判断します。			
9. その他 講義では、具体例を多用しながら、分かりやすく解説していきます。民法は私たちの実生活に直結しているため知的好奇心を大いに満たしてくれます。法律学は単に知識の詰め込みや、教科書や条文の暗記ではないことを一早く知り、法律学の本当の面白さ、すなわち、法律における「考える楽しみ」を是非この講義にて堪能して下さい。 参考のため、過去の授業アンケートを紹介します。「気がつけば1番好きな授業になっていました」、「学習することがこんなに面白いものだと思える授業です」、「先生の授業は本当に分かり易くて、毎回とても楽しみにしていました!」、「大学でこんなに熱心に教えて頂けたことが凄く嬉しかった」、「神田先生ほど学生のことを考えて授業をしてくれる先生はいないのではないかと感じました。」「司法試験第1位の合格者を送り出した神田先生の講義を受けられるなんて嬉しく思います」。 知的好奇心を満たす満足度の高い授業を行いたいと思っています。			

科目ナンバー：(BA)LAW361J			
税法			加藤友佳
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この講義では、日常生活に深く関わりのある税金について定めている租税法について学び、私たちが納付している税金がどのような法律に基づいて課税されているのかを学びます。課税する側の視点としては不正な課税逃れを見逃さないこと、納付する側からの視点としては余分な税金を納めないこと、この双方の観点を学び、賢い納税者になりましょう。 法律を学んだことない学生を対象として、受講生の理解度を確認しながら講義を進めていきます。 〈到達目標〉 所得税法や租税争訟法を実践的に理解し、その知識を普段の生活に役立てるようになることを目標とします。 (1) 租税法と憲法・私法との関係を理解できるようになる。 (2) 納税者の義務と共に権利を理解できるようになる。 (3) 所得税法と租税手続きの概観を把握し、納税申告書を作成できるようになる。			
2. 授業内容 第1回：国民の生活と租税法 第2回：租税の意義と基本原則 第3回：租税法と私法 第4回：脱税・租税回避・節税 第5回：納税義務と課税単位 第6回：所得概念 第7回：事業所得と給与所得 第8回：譲渡所得 第9回：一時所得と雑所得 第10回：必要経費 第11回：所得控除と税額控除 第12回：相続税法（1） 第13回：相続税法（2） 第14回：a 講義全体のふりかえり b 試験			
3. 履修上の注意 私語厳禁。法律の前提知識がなくてもわかりやすいように、日常生活に結び付けながら租税法を学習していきますが、法的思考を学ぶ姿勢を求めます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 水野忠恒編『テキストブック租税法〔第3版〕』（中央経済社、2022年）の該当箇所を予め一読しておき、前回までの授業内容との関連性を把握しておく。			
5. 教科書 水野忠恒編『テキストブック租税法〔第3版〕』（中央経済社、2022年）			
6. 参考書 中里実他編『租税判例百選〔第7版〕』（有斐閣、2021年）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間テストの結果については次回授業の中でコメントする。			
8. 成績評価の方法 中間テスト、期末テストの成績により評価します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)LAW341J			
労働法			小林大祐
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 ○授業の概要 労働法は、労働者に人間らしい労働条件を保障し、それによって人間らしい生活を実現するために、古典的な市民法を修正して誕生した。 今日、労働法は3つの領域から構成される。すなわち、①労働者保護の観点から、個々の労働者と使用者との労働契約関係を規律する「雇用関係法（個別的労働法）」、②労働者の広義の団結権を保障する観点から、労働者団結と使用者との集団的な対向関係を規律する「労使関係法（集団的労働法）」、③労働市場における労働力の需給調整を介して、労働者の雇用の保障をめざす「労働市場法（雇用保障法）」である。 この授業では、雇用関係法を中心に検討し、働く人（労働者）、働かせる人（使用者）あるいは行政機関で労働問題に取り組む者などの様々な立場において重要な労働法の基礎的かつ体系的な知識を正確に身につけることによって、現実の社会にある労働問題を発見し、これを法的に分析し、解決する力を養うことを目的とする。 ○到達目標 - 働くうえで基本的な法ルールを身につける。 - 労働法の特徴と構造を理解する。 - 現実の社会において発生している労働問題を発見し、正確に法的分析・検討をしたうえで、この問題を解決する力を身につける。			
2. 授業内容 第1回 インTRODakション（労働法の意義と体系） 第2回 労働法における労働者と使用者 第3回 労働契約上の権利と義務 第4回 労働協約と就業規則 第5回 賃金に関する法規制 第6回 労働時間に関する法規制 第7回 労働災害の予防と補償 第8回 雇用における平等と労働者の人権・人格の保護 第9回 労働契約の成立をめぐる法的問題 第10回 人事制度をめぐる法的問題 第11回 服務規律、懲戒制度をめぐる法的問題 第12回 労働契約の終了をめぐる法的問題 第13回 非典型雇用 第14回 a：期末テスト b：期末テストの解説			
3. 履修上の注意			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業前に2時間程度、各回のテーマに関連する教科書や新聞を読むことが望ましい。 授業後に2時間程度、レジュメを見返したり、関連する裁判例や文献を読むなどして、授業内容の理解に努めることが望ましい。			
5. 教科書 『就活生のための労働法入門』青野寛編著（中央経済社）2024年			
6. 参考書 【入門書】 『ベーシック労働法（第9版）』浜村彰他著（有斐閣）2023年 『ファーストステップ労働法』藤本茂他編著（エイデル研究所）2020年 【体系書】 『労働法（第5版）』荒木尚志（有斐閣）2022年 『労働法（第3版）』西谷敏（日本評論社）2020年 『労働法（第12版）』菅野和夫（弘文堂）2019年 『労働組合法（第3版）』西谷敏（有斐閣）2012年 【判例集】 『労働判例百選（第10版）』村中孝史・荒木尚志編（有斐閣）2022年 【六法】 ・『労働関係法規集』労働政策研究・研修機構 ・『労働六法』旬報社			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題は予定していない。			
8. 成績評価の方法 期末テスト 100%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ARS321J			
イギリス文化論			宇野 毅
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 どういう訳か旧植民地 (!) のアメリカと比べると、比較的情報量が少ないように思えるイギリス社会や文化を理解することが、この授業の唯一の目的である。講義の対象は、イギリス社会・イギリス人・イギリスの言語である。イギリスは、2020年12月31日にEU離脱を完了し、2022年9月8日には在位70年のエリザベス女王が崩御して輝かしい一時代が終わったが、そのような現代イギリス社会の本当の姿を中心に解説して行きたい。 〈到達目標〉 英語ができたとしても、その背後にある広義の意味に於ける文化や社会の包括的な理解なくしては、英語を習得したとは言い難いであろう。時間の許す限り、The Times (インターネット版) や BBC NEWS を用いて、イギリスを取り巻く最新の時事問題等も取り扱う予定である。			
2. 授業内容 前半では、基本的な内容の講義・解説を行なうが、後半では、具体的な個々の文化事象を取り上げて考察する。 第01回 イギリス概論 (1) 第02回 イギリス概論 (2) 第03回 イギリスにふれる (1)；イギリス概説 第04回 イギリスにふれる (2)；20世紀前半の王室・戦後の王室 等 第05回 イギリス生活ことはじめ (1)；住宅事情・銀行/金融事情・買い物事情 等 第06回 イギリス生活ことはじめ (2)；郵便/通信事情・治安事情・ライフスタイル 等 第07回 イギリスを楽しむ (1)；芸術・紅茶 等 第08回 イギリスを楽しむ (2)；パブ・食事 等 第09回 イギリスに学ぶ (1)；教育制度・動物愛護(動物権) 等 第10回 イギリスに学ぶ (2)；環境/自然保護・社会生活 等 第11回 イギリスを考える (1)；日本事情・道路/交通事情 等 第12回 イギリスを考える (2)；鉄道/航空事情 等 第13回 スコットランドの独立問題を考える (1)；2014年の独立国民投票 等 第14回 スコットランドの独立問題を考える (2)；地方分権への歩み まとめ & 定期試験 上記予定は、状況によっては変更されることがあり得る。			
3. 履修上の注意 (アメリカではなく！これが重要ポイント) イギリスに強い関心や興味があることが必要である。一般的に、興味がある事柄は自ら没頭して調べ、熱中できるものである。 授業には教科書を必ず持参して、きちんと毎回出席することが最低限の条件である。授業開講時までに、指定教科書(最新の増補版)を三省堂から入手して準備しておくように。			
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 次の範囲を予習のこと。			
5. 教科書 『【増補版】現代イギリスの社会と文化 ゆとりと思いやりの国』(彩流社 2015；【増補版】)に限る。増補版の紙媒体を用意すること。			
6. 参考書 先ず始めは、プリント等を配布して講義を進める。授業開始時迄に、指定教科書を必ず用意しておくこと。 以下の書籍も参考になるであろう： 『食文化からイギリスを知るための55章』(宇野毅編著；明石書店 2023) ・ https://www.akashi.co.jp/book/b619164.html 『田園のイングランド 歴史と文学でめぐる四八景』(宇野毅編著；彩流社 2018) ・ https://www.sairyusha.co.jp/book/b10015311.html 『イギリス文学を旅する60章』(宇野毅共著；明石書店 2018) ・ https://www.akashi.co.jp/book/b373692.html 『イギリスの四季 ケンブリッジの暮らしと想い出』(宇野毅編著；彩流社 2012) ・ https://www.sairyusha.co.jp/book/b10014636.html 『ロンドンを旅する60章』(宇野毅共著；明石書店 2012) ・ https://www.akashi.co.jp/book/b102412.html			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 試験やレポート (60%) と平常点 (40%) 等を基本として、総合評価がなされる予定である。出席は重要なので、きちんとしなくてはならない。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ARS311J			
中国文化論			野田 寛達
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 本講義は中国や中華圏のことば、習慣、文化、社会構造など複数のテーマに関して基礎的な知識を日本語で解説する (中国語を理解する能力は不要)。内容は初学者にも理解しやすいように平易に構成しており、特に日本と関連の深いテーマを選んで講義する。講義を通して、履修生が様々な視点から異文化及び自国文化を見つめ直し、自身の身の回りの現象に置き換えて思考する能力を養うことを目標とする。			
2. 授業内容 本講義は、まず、中国や中華圏のことば、習慣、文化、社会構造などに関して講義を行う。講義資料は教員が準備するため、教科書などの購入は不要である。それから、学生個人にテーマを与えるか自由選択させ、それに関して自身で調べたものを発表してもらう (zoomにより動画を作成してもらい、授業中に視聴する予定。作成方法は講義中に指示する。)。最終講義では講義の理解度を図るため選択問題と小レポートを中心とした期末テストを行う。参考のため、以下現時点で予定している講義テーマを示すが、進度や状況に応じて変更する可能性はある。 W1：導入 (授業概要、成績評価など) W2：ことばについて 1 (日本語と中国語の比較) W3：ことばについて 2 (日中英の構造比較) W4：中国の習慣について 1 W5：中国の習慣について 2 W6：チャイナタウンについて 1 W7：チャイナタウンについて 2 W8：中国の社会について 1 W9：中国の社会について 2 W10：台湾の社会について W11：外部講師による特別回 W12：学生発表 1 W13：学生発表 2 W14：期末テスト			
3. 履修上の注意 特になし。			
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 日頃から中国関連のニュースに注意を向ける。講義で学んだ知識の復習。			
5. 教科書 特になし。			
6. 参考書 家近亮子など 2016 『新版 5 分野から読み解く現代中国』晃洋書房 季増民 2018 『中国地理概論』ナカニシヤ出版			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出されたものにコメントなどの方法で教員からフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 平常点 (20%)、発表 (50%)、期末テスト (30%)			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN261J			
海外経営事情 A			伊 藤 信 悟
2 単位	1 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 本授業では、日本と深い歴史的、経済的つながりを持つ台湾の事例を取り上げながら、アジアの経済・産業発展についての理解を深める。授業の前半（2-5回）では、教科書を用いて、アジアの産業・企業を理解するうえで鍵となる概念や分析枠組みについても解説する。続いて、世界のハイテク産業のなかでユニークな地位を占め、日本の産業・企業のよき協業・競争相手としても注目を集める台湾に焦点をあて、その歴史、政治動向、産業発展過程の特徴を考察する（6-10回）。また日本と台湾の産業・企業連携の可能性を探り、日本企業のグローバル化の課題、国際情勢がグローバル経営に与える影響について考える。最後に、受講者による研究発表（11-13回）を交えて、アジアの産業・企業のグローバル化とその日本企業へのインパクトを考察する。 〈到達目標〉 アジアにおける経済グローバル化の実態、産業・企業発展の特徴についての理解を深める。台湾の事例分析を通じて、東アジアの政治経済発展についての多面的な知識を深める。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：アジアの経済・経営を学ぶことの意義 第2回：アジアの経済発展1：変貌するアジア 第3回：アジアの経済発展2：中国が変えるアジア 第4回：アジアの経済発展3：産業内分業の発展ダイナミズム 第5回：アジアの経済発展4：アジアのイノベーション 第6回：台湾の政治と経済1：国民党による権威主義体制下の経済発展 第7回：台湾の政治と経済2：民主化、本土化と対中関係の展開 第8回：台湾の産業発展と日本1：パソコン産業 第9回：台湾の産業発展と日本2：フラットパネルディスプレイ産業 第10回：台湾の産業発展と日本3：日本企業の「台湾活用型対中投資」 第11回：受講生による研究報告 第12回：受講生による研究報告 第13回：受講生による研究報告 第14回：a まとめ b 試験			
3. 履修上の注意 授業には必ず出席すること。 受講生による研究報告は、1人1回（15分程度）、日本企業とアジア企業の提携・協力事例に関する報告とする。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新聞を読み、台湾についての記事、日本と東アジア企業の競争・提携関係、アジアの国際情勢についての記事を注意深く読むこと。また、適宜、授業内容に関する資料を案内するので、授業の予習・復習に活用すること。			
5. 教科書 ・遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太編『現代アジア経済論——「アジアの世紀」を学ぶ』（有斐閣）2018年。			
6. 参考書 ・薛化元編、永山英樹訳『詳説台湾の歴史 台湾高校歴史教科書』（雄山閣）、2020年。 ・川島真・清水麗・松田康博・楊永明『日台関係史 1945-2020増補版』（東京大学出版会）、2020年。 ・赤松美和子・若松大祐編著『台湾を知るための72章【第2版】』（明石書店）、2022年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーについては次回授業で講評する。授業中の研究報告については、報告後に講評する。定期試験については、他の課題に対する評価と合わせた評点としてフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 定期試験40％、授業中の研究報告20％、平常点40％（授業中のリアクションペーパー）。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN261J			
海外経営事情 B			藤 田 麻 衣
2 単位	1 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 本授業は、近年、急速な経済成長と経済構造の転換を遂げ、日本との間にも多面的かつ緊密な経済関係が形成されているベトナムを取り上げ、同国の経済、産業・企業についての理解を深めることを目的とする。 まず、ベトナムの歴史・社会、政治・経済体制、国際関係を概観する（第2回～第4回）。次いで、ベトナムがドイモイと呼ばれる改革路線を採択した1980年代後半以降、企業をめぐる法制度がどのように整備され、企業セクター全体の構造がどのように変化してきたかを、個別企業の事例を交えつつ考察する（第5回～第6回）。また、いくつかの産業の事例を取り上げ、産業全体の構造、および主要企業の戦略や発展プロセスを考察する（第7回～第8回、第10回～第13回）。 〈到達目標〉 ベトナムの経済、産業・企業の特徴や発展過程について、多面的な理解を深める。ベトナムの事例を学ぶことを通じて国際経済への関心を高め、現地事情を理解する視野を養う。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション〔対面授業〕 第2回：歴史と社会のなりたち〔メディア授業〔対面授業〕〕 第3回：ドイモイ下の政治・経済体制〔対面授業〕 第4回：対外開放から国際経済参入へ〔対面授業〕 第5回：国有企業、民間企業〔対面授業〕 第6回：外資企業〔対面授業〕 第7回：輸出産業〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回：内需産業：輸送機械産業〔対面授業〕 第9回：履修生による授業内発表〔対面授業〕 第10回：履修生による授業内発表／サービス業〔対面授業〕 第11回：履修生による授業内発表／デジタル経済〔対面授業〕 第12回：エネルギー〔対面授業〕 第13回：農業・農産物加工〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：まとめ〔対面授業〕 注：第9回-第11回に履修生による授業内発表を予定している。			
3. 履修上の注意 この授業は、対面授業とメディア授業を組み合わせる形式で開講される。メディア授業はすべて、講義動画を Oh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。メディア授業の講義動画は、原則毎週木曜日に Oh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。毎回の講義動画視聴後、アンケート機能を用いて設問（記述式）への回答を求める。これによって出席と理解度の確認を行うとともに、講師から総括および個別のフィードバックを行う。 対面授業のうち第9～11回では、履修生による授業内発表（プレゼンテーション）を予定している。 対面授業およびメディア授業に関する質問やコメント、意見などは、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を通じて随時受け付け、議論の場として活用する。また、教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 日頃から新聞や雑誌を読み、ベトナムに関する記事に目を通しておくこと。各回の授業に関連する資料を紹介するので、それらを活用しつつ復習を行うことが望ましい。			
5. 教科書 教科書は特に用いない。			
6. 参考書 今井昭夫・岩井美佐紀編著『現代ベトナムを知るための60章』明石書店、2012年。 トラン・ヴァン・トゥ『ベトナム経済発展論』勁草書房、2010年。 藤田麻衣編『ベトナム「発展と幸福」への模索—第13回党大会にみる発展の方向性と課題—』アジア経済研究所、2022年。 その他の資料は授業中に紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートはOh-o! Meiji システムを通じて、プレゼンテーションは当該授業において、講評を行う。			
8. 成績評価の方法 平常点（授業に対するコメント）30％、レポート30％、授業内のプレゼンテーション40％で評価する。 ※対面形式での試験は行わない。			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA)MAN261J			
海外経営事情C			齋藤 純
2 単位	1 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 【概要】 中東地域に対する一般的なイメージは、砂漠、暑い気候、紛争やテロ、直近のイスラエル・ガザ戦争、イスラームといったものだろうか。実際、日本で報道される中東に関するニュースの多くは、紛争やテロやイスラーム主義についてのものである。経済の分野では、石油が重要である。ただ、石油が輸出される以前は、バハレーンの真珠に代表されるように、真珠の採取業が重要なビジネスとして経済基盤になっていた。また、アラブ首長国連邦（UAE）のドバイも、元々は交易業で反映してきた都市である。同じくUAEのアブダビでは、マスダール・シティと言われる研究エリアを設けて、再生可能エネルギーの開発などを進めている。このように近年は、「石油依存経済」という一般的な見方とは異なる変容を見せつつある。その結果、中東地域の経済は2000年代に高成長を記録し、新興経済圏の一つとして捉えられるようになった。日系企業をはじめとした海外企業にとっては、ビジネスの場としての中東地域への関心が高まっている。現在の中東諸国は地域情勢の不安定化や石油価格の変動に直面しているが、その経済と企業経営、ビジネス環境はどのような状況にあり、どのような展望を描けるだろうか。この授業では、中東諸国の経済と現地で活動する国内・海外企業について、国およびトピック別に取り上げ、その状況と特性を検討する。 <参考>「中東を学ぶ——研究者が語る経験と魅力：中東のビジネス」 <リンク（ https://web.sekaishisoshajp/posts/8461 ）> 【到達目標】 中東諸国の経済と現地での企業活動について、曖昧なイメージではなく、事実とデータに基づいて具体的に理解することを目指す。			
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション b：新興経済圏としての中東地域 第2回 中東地域概観 第3回 中東諸国の経済1：石油輸出 第4回 中東諸国の経済2：石油輸入 第5回 人口と労働：出稼ぎ労働と若年層の失業 第6回 石油産業：原油・天然ガスの生産と輸出 第7回 金融部門の発展：中東諸国の金融システム 第8回 イスラーム経済：イスラームと経済活動 第9回 消費市場としての中東諸国 第10回 中東地域での企業活動1：現地企業の発展 第11回 中東地域での企業活動2：日系企業の進出 第12回 中東地域での企業活動3：外資系企業の展開 第13回 中東経済の将来展望 第14回 a：まとめ b：期末試験			
3. 履修上の注意 ■レポートと課題のテーマと提出期限、および成績評価の詳細については、第1回イントロダクションで説明します（必ず出席してください）。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ■各回の授業内容に関連する参考文献・資料は事前に案内しますので、各自で読んで授業に臨んでください。 ■授業で使用するレジュメは事前にOh-Meiji! クラスウェブに掲載しますので、目を通しておいてください。			
5. 教科書 ■特に指定しない。			
6. 参考書 ■酒井啓子『〈中東〉の考え方』講談社現代新書 2010年 ■池内恵『シーア派とスンニ派』新潮選書 2018年 ■末近浩太『中東政治入門』ちくま新書 2020年 ■土屋一樹編『中東アラブ企業の海外進出』岩波書店 2013年 ■松尾昌樹『湾岸産油国：レンティア国家のゆくえ』講談社 2010年 ■末近浩太・松尾昌樹編『中東を学ぶ人のために』世界思想社 2024年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 ■リアクションペーパーのに対する講評は、毎回講義冒頭で行う。 ■最終授業日に期末試験を実施し、解説をOh-o! Meiji で公開する。			
8. 成績評価の方法 ■定期試験40%、課題レポート30%、平常点（授業中の出欠およびリアクションペーパー）30%で評価する。			
9. その他 ■授業内容に関する質問は授業中に受け付けます。その他の質問は、授業後に受け付けます。			

科目ナンバー：(BA)MAN261J			
海外経営事情D			濱田 美紀
2 単位	1 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 近年、日本企業の有望な投資先として注目されるインドネシアの経済について、投資先としてのインドネシアの魅力や課題を理解するために、インドネシア経済の構造や現状を学ぶことを目的とする。まず、新興国市場としてのインドネシアの全体像を把握し、経済発展の軌跡を確認した上で、インドネシア経済の特徴および産業について知識を深める。 〈到達目標〉 インドネシアを理解することを通じて、海外の経済への関心を高める。日本経済や日本企業を取り巻く国際経済の動きを理解するためには、対象国を様々な視点から理解することが重要であることを学び、広い視野で世界経済を観察することを身につける。			
2. 授業内容 第1回 ガイダンスおよびアジア新興国市場としてのインドネシア 第2回 インドネシア経済概要 第3回 インドネシアの競争力-日系企業の投資 第4回 インドネシアの政治・社会 第5回 インドネシアの社会・文化 第6回 インドネシア経済の特徴（人口大国） 第7回 インドネシア経済の特徴（資源大国） 第8回 インドネシアの企業グループ 第9回 インドネシアの金融部門とイスラム金融 第10回 受講生による研究報告 第11回 受講生による研究報告 第12回 受講生による研究報告 第13回 インドネシアの産業・政策 第14回 まとめ			
3. 履修上の注意 ・授業のうち、第10回～第12回は、受講生による研究発表を行い、（その内1回は外部講師による講義になる場合もある）インドネシア経済や産業に関して受講生全員で議論し理解を深める。 ・授業には必ず出席すること。 ・就職活動や公的行事により出席できない場合は、必ず事前にメールで連絡すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 普段から新聞やニュースに目を通して、インドネシアに関する記事（インドネシアの政治経済や日系企業の動きなど）、ASEANに関するニュースに留意しながら、インドネシアを含めたアジアが現在どのように動いているかを把握しておく。			
5. 教科書 教科書はとくに用いない。			
6. 参考書 講義中で使用するものではないが、参考資料として。 『経済大国インドネシア』佐藤百合（中公新書）、2011年 『現代インドネシアを知るための60章』村井吉敬他（明石書店）、2013年 “Indonesia Economic Prospects”, World Bankウェブサイトよりダウンロード可。 https://www.worldbank.org/en/country/indonesia/publication/indonesia-economic-prospect			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meijiを通じて、適宜、レポート課題などに関するフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 課題レポート（中間課題20%、期末課題30%）、研究報告20%、平常点（授業参加度、受講態度等）30%の割合で評価する。			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営文献研究A			趙 ト ウ 基
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 企業は継続的にイノベーションを創出し、顧客に対して新たな価値を提供している。ニーズの多様化に応えるために、組織の枠を超えるオープン・イノベーションが求められるようになる。一方、イノベーションは成長の源泉として期待されるとともに、産業競争力の変化をもたらす要因として議論される。本講義では、「イノベーションのジレンマ」の事例を通して、産業の変革に応じ、企業がどのような取り組みを実施すべきかについて考察する。 <到達目標> 企業のイノベーション活動の内容と重要性を理解することを本授業の到達目標とする。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 なぜ優良企業が失敗するのか：ハードディスク産業の事例 第3回 バリュー・ネットワークとイノベーションへの刺激 第4回 破壊的イノベーション：掘削機産業の事例 第5回 上位市場への移動：ディスク・ドライブ産業の事例 第6回 破壊的技術への企業対応 第7回 組織の規模と市場の規模 第8回 新しい成長市場を見いだす 第9回 組織能力と評価方法 第10回 製品の性能とライフサイクル 第11回 破壊的イノベーションのマネジメント 第12回 イノベーションのジレンマ 第13回 受講生による報告 第14回 総括			
3. 履修上の注意 単位取得の前提として、4回以上欠席しないこと。 履修の人数によって講義の進め方を調整するため、初回授業に出席すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <予習> 教科書を使って各回の学習内容を熟読し、関連の新聞記事などを調べること。 <復習> 講義資料などを用いながら、各回の学習内容についての理解を深めること。			
5. 教科書 クリステンセン・M・クレイトン『イノベーションのジレンマ:技術革新が巨大企業を滅ぼすとき 増補改訂版』クリステンセン・M・クレイトン著,玉田俊平太監修,伊豆原弓訳,(翔泳社)2001年。			
6. 参考書 適宜講義内で紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回授業で前回のリアクションペーパーの全体講評を行う。			
8. 成績評価の方法 平常点20%、リアクションペーパーの提出20%、レポート60%			
9. その他 経営文献研究Bも合わせて履修することを勧める。			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営文献研究B			熊田 知 晃
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：文化政策における行政経営を巡る文献研究 (1) 概要 様々な政策領域の内、文化政策を所管する行政組織が文化行政である。近年では、クールジャパン、オリンピック文化プログラム等の実施組織として注目されている。そこで、この授業では、文化政策を所管する文化行政とはどのような行政組織であるのかを概括的に論じていく。 (2) 到達目標 「文化」は経済、福祉等の様々な領域を横断する分野であり、「文化」に関する政策を所管する文化行政への理解を深めることで、文化行政のような横断的な思考を身につける。			
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2～13回 テキスト輪読と内容に関する議論①～⑫ 第14回 総括			
3. 履修上の注意 プロジェクターに資料を投影した授業を行う。出席者の意見を求める場合がある。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に必要な資料は事前にクラスウェブに掲載するので、準備・閲覧すること。			
5. 教科書 熊田知晃（2024）『自治体文化行政の専門性』、東海大学出版会。			
6. 参考書 講義中に紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 質問など必要がある場合、Oh-o! Meijiを通じてフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 授業への参画度：60%、レポート：40%。詳しくは第1回授業時に説明する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営文献研究B			趙 ト ウ 基
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 企業は継続的にイノベーションを創出し、顧客に対して新たな価値を提供している。一方、イノベーションは成長の源泉として期待されるとともに、産業競争力の変化をもたらす要因として議論される。本講義では、イノベーションそのものをどのように捉えるべきか、どのように継続的に生み出していくか、どのように競争力向上につながるかについて、アーキテクチャ論の文献を通して考察する。 <到達目標> イノベーションに関わる諸理論を理解するとともに、企業のイノベーションマネジメントの内容と重要性を理解することを本授業の到達目標とする。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：「統合型ものづくり戦略論」と「アーキテクチャのポジショニング戦略」 第3回：「ITと組織能力の相性」と「製品開発能力と顧客知識の活用」 第4回：「ものづくり発想のブランド戦略」と「先行技術開発」 第5回：「設計情報から見たものづくり」と「階層的なものづくり競争力論」 第6回：「ホンダウェイ」と「家電産業のものづくり」 第7回：「光ディスク産業」と「機能性化学品のものづくり」 第8回：「アサヒビールのものづくり」と「ものづくり知の次世代移転」 第9回：アジアのものづくり①：アジアものづくりの比較優位説と韓国 第10回：アジアのものづくり②：中国 第11回：アジアのものづくり③：台湾、タイ、トルコ、豪州、インド 第12回：日本型ものづくりと国際経営 第13回：受講生による報告 第14回：総括			
3. 履修上の注意 単位取得の前提として、4回以上欠席しないこと。 履修の人数によって講義の進め方を調整するため、初回授業に出席すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <予習> 教科書を使って各回の学習内容を熟読し、関連の新聞記事などを調べること。 <復習> 講義資料などを用いながら、各回の学習内容についての理解を深めること。			
5. 教科書 『ものづくり経営学 製造業を超える生産思想』東京大学21世紀COEものづくり経営研究センター著、藤本隆宏著（光文社新書）2007年。			
6. 参考書 適宜講義内で紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回授業で前回のリアクションペーパーの全体講評を行う。			
8. 成績評価の方法 平常点20%、リアクションペーパーの提出20%、レポート60%			
9. その他 経営文献研究Aも合わせて履修することを勧める。			

科目ナンバー：(BA)MAN292J			
基礎専門演習 A			早川 佐知子
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：経営学とWell-Being 【講義の概要】 ・「人間にとっての幸せな生とは何か?」「経営学は、人間の幸福にどのように貢献できるのか?」一見、大きく、答えが見えないこのような問いについて議論し、共に考える演習とする。 ・前半は、「人生を分けるもの」をキーワードに、グループワークとプレゼンテーションを行う。そして、そのために経営がなうることとは何かを追究する。 ・後半では、「ネガティブな出来事がもたらすもの」をキーワードに、さまざまな角度から考える。病気、失業、大切な人との別離など、人生にはさまざまな困難が起こりうる。これらを乗り越えるために経営学が貢献できることとは何か、文献資料を読み、ディスカッションする。 【到達目標】 自分なりの「Well-Being」の答えを見つける。 そのために経営学が貢献できることを探し出し、実践の方法を考える。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：人間とWell-Being 第2回：幸せと不幸って複雑だ (1) 第3回：幸せと不幸って複雑だ (2) 第4回：グループワーク 「人の人生を分けるもの」 第5回：グループワーク 「人の人生を分けるもの」 第6回：グループワーク 「人の人生を分けるもの」 第7回：グループワーク：プレゼンテーション 第8回：人間関係が楽になる?ワーク 第9回：「悲しみの力」(1) 第10回：「悲しみの力」(2) 第11回：「悲しみの力」(3) 第12回：「悲しみの力」(4) 第13回：「悲しみの力」(5) 第14回：まとめ			
3. 履修上の注意 ・履修を希望する学生は、必ず第1回のオリエンテーションに参加すること。履修者数の上限のある科目なので、履修意欲の高い学生を優先したい。 ・この基礎専門演習では、身近な「人生で起こる辛いこと」「そこから希望を持つこと」などについて考えてゆく。重い内容も多々あるので留意すること。単純にポジティブでハッピーな内容ではない。 ・演習科目なので、教員による講義ではなく、受講生のワークやディスカッションが中心となる。「受け身で聞いていれば単位がもらえる科目」ではなく、「メンバーとコミュニケーションをしながら一緒に考えたり学んだりしたい」と希望する人のための科目と捉えてほしい。 ・テキストを読み、そこから発展させて考え、ディスカッションする授業が多くある。本を読みたくないという人は履修しないでほしい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 回によっては、感想文の提出を求める。その上で次週までの1週間、学んだテーマについて自分なりに考え、より深い思考ができるように前進すること。			
5. 教科書 スーザン・ケイン著『悲しみの力』（ディスカバー・トゥエンティワン）			
6. 参考書 スティーブン・M・サウスウィックほか著『レジリエンス:人生の危機を乗り越えるための科学と10の処方箋』（岩崎学術出版社） 玄田有史著『希望のつくり方』（岩波新書） 坂口幸弘著『喪失学 ロス後をどう生きるか』（光文社新書）			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 感想文（50%）：毎回、授業の最後を書く時間を設ける ディスカッション、プレゼンテーションへの貢献度（50%）			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN292J			
基礎専門演習 A			古川 裕康
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：新商品開発 〈概要〉 新しい商品はどうのように創られていくのだろうか。本演習では「デザイン志向（Design Thinking）」という考え方を使いながら、実際に新商品開発のプロセスを体験してもらう。新商品開発には必ずしも新しい技術や特許を必要としない。文系でなければできない新しい生の生み方が存在し、その要諦はデザイン志向の考え方の中にある。 新しいさは過去に存在する要素の掛け合わせで生まれる。スマートフォン、家電製品や自動車、そして音楽をはじめとした芸術作品もそうやって発展してきた。また商品だけでなく、新事業やビジネスモデルといったレベルでも同様である。 掛け合わせのためには、どのような要素を、どのようなプロセスで結びつけることが必要なのか。そして出来上がったアイデアの卵をどのように磨いていくのか。本演習ではこのような点を取り扱う。新しさを生み出すことで、社会を一步前へ発展させることができる。 〈到達目標〉 本演習を通して下記の能力を養成することを目標とする。 ・新しいアイデアの創出・構築法を理解し自らの生活にも還元することができる。 ・商品開発の考え方を踏まえ、マーケティングの重要性について説明することができる。 ・他の受講生と協働しながら、各自のアイデアや個人の能力を発展させることができる。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 デザイン志向とは 第3回 Empathize 第4回 定義1 第5回 定義2 第6回 アイデア創出1 第7回 アイデア創出2 第8回 プロトタイプの作成1 第9回 アイデアの共有 第10回 World cafe 1 第11回 World cafe 2 第12回 アイデア創出3 第13回 プロトタイプの作成2 第14回 最終プレゼンテーション			
3. 履修上の注意 無断遅刻、無断欠席は認めない。なお演習ではグループワークを基本とするため、積極的に協働すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回において、アイデア出しや必要な情報収集を実施してもらう。授業は事前準備の内容を持ち寄って議論する場とする。			
5. 教科書 なし。			
6. 参考書 Brown, T. (2019), Change by Design, Revised and Updated: How Design Thinking Transforms Organizations and Inspires Innovation, Harper Business.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meijiシステムや下記URL（専用のフォーム）を用いてコミュニケーション&フィードバックを行う。 https://forms.gle/PQgpr5vS1Kxjf2656			
8. 成績評価の方法 平常点30%, 授業への貢献度30%, プレゼンテーション40%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN292J			
基礎専門演習 A			三 上 真 寛
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：ミクロ経済学 〈概要〉 ミクロ経済学は、市場価格を参照する消費者と生産者の行動から、市場において需要と供給が均衡し、希少資源が効率的に配分されるメカニズムを分析する学問分野であり、国内外を問わず経済・経営分野において必要不可欠な知識体系、グローバルスタンダードと見做されている。この演習では、その基礎知識をグローバル社会において応用可能な形で修得するため、英語文献を用いてミクロ経済学を学んでいく。 〈到達目標〉 英語文献の講読を通じて、ミクロ経済学の基本的な視座と概念を修得し、市場経済の仕組みを英語で理解・説明できるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 第1回 ミクロ経済学とは／What and why of microeconomics 第2回 消費者／Consumers (1) 第3回 消費者／Consumers (2) 第4回 生産者／Producers (1) 第5回 生産者／Producers (2) 第6回 市場／Markets (1) 第7回 市場／Markets (2) 第8回 市場／Markets (3) 第9回 市場の失敗と政策の失敗／Market and policy failures (1) 第10回 市場の失敗と政策の失敗／Market and policy failures (2) 第11回 市場の失敗と政策の失敗／Market and policy failures (3) 第12回 制度と組織／Institutions and organizations (1) 第13回 制度と組織／Institutions and organizations (2) 第14回 まとめ／What works?			
3. 履修上の注意 この演習はいわゆる「外国書講読」の形式をとるが、その目的は英文読解や英文和訳そのものではない。専門書の理解には英語力だけでなく、抽象度の高い文章を読み解く論理的思考力、専門分野に固有のものの方・考え方が求められる。教科書は英語で書かれたミクロ経済学の入門書のうち最もコンパクトな部類に入るが、1・2年次の学生にとっては決して簡単ではない。明確な目的をもって履修すること。 この演習が扱う内容は、学部必修科目「近代経済学 A」と補完的關係にある。1年次に履修すれば近代経済学 A の理解が促されるし、2年次に履修すれば近代経済学 A の内容を別な角度・言語で学ぶことができるため、相乗効果が期待される。 特に次の者に履修を推奨する。(1) 海外留学を予定しており、留学先での発展的な学習に備えて、英語でミクロ経済学の基礎知識を修得したい者。(2) 経済・経営分野における専門科目の発展的な学習に備えて、グローバルスタンダードとなっているミクロ経済学の基礎知識を修得したい者。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、学習予定の範囲（1回分10～20ページ）を通読した上で参加することが前提となる。テキストを全訳してくる必要はないが、受講者は概要の発表を求められる。予習により理解できた点と理解できなかった点を確認し、議論に参加できるようにしておくこと。			
5. 教科書 <i>Microeconomics: A Very Short Introduction</i> , Avinash Dixit (Oxford University Press), 2014.			
6. 参考書 『ミクロ経済学：基礎へのアプローチ』三上真寛著（学文社）、2020年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 議論への積極的な参加・発言（60％）と発表・課題への取り組み（40％）によって評価する。			
9. その他 ※履修希望者は、第1回目授業に必ず出席すること。 本授業は、受講人数制限があるため、履修に際しては、WEBによる事前受付を実施する。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN292J			
基礎専門演習 A			森 田 広 大
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：中小事業者の会計実務 〈授業の概要〉 我が国において、中小事業者の数は多く、その会計実務について理解しておくことは重要である。中小事業者の会計処理を行う上では、企業会計の知識のみならず、関連する諸法令（特に税法）についても考慮する必要がある。また、会計実務といえば株式会社を代表とする法人に焦点が当てられがちであるが、たとえば法人の役員が個人で不動産投資を行って収入を得ている場合も考えられる。この場合、この法人役員については、個人事業者として当該不動産に関連する取引の会計処理を行うことが必要となるため、個人事業者の会計実務に関する知識も重要である。 そこで、本授業は中小事業者の会計実務について、グループワークを交えながら考察を試みることにする。 〈到達目標〉 中小事業者の基礎的な会計処理を行うことができる。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 個人事業者の会計実務①（開業～期中取引の処理） 第3回 個人事業者の会計実務②（決算・青色決算書の作成） 第4回 個人事業者の会計実務③（不動産からの収入がある場合） 第5回 個人事業者の会計実務④（個人事業者特有の会計処理） 第6回 中小法人の会計実務の概要 第7回 個別論点の検討①（現金預金） 第8回 個別論点の検討②（棚卸資産） 第9回 個別論点の検討③（固定資産） 第10回 個別論点の検討④（負債） 第11回 個別論点の検討⑤（純資産） 第12回 個別論点の検討⑥（消費税） 第13回 個別論点の検討⑦（法人税） 第14回 個別論点の検討⑧（収益・費用）、総まとめ			
3. 履修上の注意 ・簿記論I・IIの内容（または日本商工会議所主催簿記検定試験3級レベルの内容）を理解しておくこと。また、授業では計算する機会があるので電卓を持参すること。 ・授業では個人での発表のほか、授業内でグループに分かれて、議論・報告を行うことを予定している。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：授業前に事前に提示された事例について簿記書や実務書を調べ、会計上どのような取り扱いになるか自分の考えをまとめる。 復習：授業で扱った内容について振り返り、関連する論点についても専門書で調べる。			
5. 教科書 教科書は特に指定しない。授業内容をまとめたレジュメを配布する。			
6. 参考書 『体系複式簿記（改定版）』百瀬房徳著（森山書店） その他、開講時に紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 報告時に提出された資料について、授業内でコメントする。			
8. 成績評価の方法 授業内での報告・発言80％、期末課題20％により、総合的に評価する。			
9. その他 履修者は第1回の授業に必ず出席し、受講のルールについて確認すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN292J			
基礎専門演習 A			趙 ト ウ 基
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ 近年、企業を取り巻く外部環境が複雑化・多様化し、技術革新も目覚ましく進歩している。こうした背景に、企業にとって付加価値の獲得だけではなく、競争優位性の構築において製品開発の役割はますます大きくなっている。 本演習では、企業が激化する市場競争で勝ち残るために、どのように製品開発を行なっていくのかについて事例を取り上げて学習する。具体的に、第1回から第10回までの演習において、講義形式により製品開発の活動や組織構造との関係性などについて基本的な知識を学習する。第11回から第13回までの演習において、製品開発に関する課題を提示し、グループでディスカッションとプレゼンテーションを行う。 ＜到達目標＞ 本講義は、学生が企業の製品開発活動についての理解を深めるとともに、競争力強化に向けて製品開発の重要性を認識することを目標としている。			
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2回 製品開発の本質 第3回 製品開発とイノベーション 第4回 製品戦略（1）―製品戦略の基礎と製品技術戦略― 第5回 製品戦略（2）―製品市場戦略と製品展開戦略― 第6回 製品開発のプロセス 第7回 製品開発組織のデザイン 第8回 製品プロセスのマネジメント 第9回 企業間関係のマネジメント 第10回 持続的な製品開発能力の構築 第11～13回 グループワーク 第14回 総括			
3. 履修上の注意 単位取得の前提として、4回以上欠席しないこと。 履修の人数によって講義の進め方を調整するため、初回授業に出席すること。 グループワークを実施するため、積極的に参加することが望ましい。発表内容に関するレポートおよび他の報告者に対するリアクションペーパーを提出する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習（3時間）：講義前に提示された資料を読んで、疑問点があれば講義の時に質問してください。 復習（2時間）：講義内容を整理し、専門用語や取り上げた業界と企業について調べる。			
5. 教科書 『製品開発の知識』延岡健太郎（日本経済新聞社）2002年。			
6. 参考書 適宜に指定する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 グループワークによるプレゼンテーションの後にフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 リアクションペーパー20%、プレゼンテーションへの貢献度30%、レポート50%			
9. その他 「基礎専門演習A」と「基礎専門演習B」を合わせて受講することが望ましい。			

科目ナンバー：(BA)MAN292J			
基礎専門演習 B			趙 ト ウ 基
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ 本演習では、技術革新にもとづく競争戦略について学習する。その際に、アーキテクチャという概念を用いて企業の組織能力や意思決定について考察する。 具体的に、第1回から第9回までの演習において、アーキテクチャ論に関する基礎的な知識を学び、そして、事例を通して理解を深める。第10回から第13回までの演習において、課題と発表内容についてグループでディスカッションとプレゼンテーションを行う。 ＜到達目標＞ 本演習は、学生が戦略とイノベーションの重要性に関する認識を深めるとともに、関心のある産業について調査を行い、自分の考えを説明することができるようになることを目標としている。			
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2回 技術革新にもとづく競争戦略 第3回 経営学におけるアーキテクチャ論 第4回 アーキテクチャと組織能力 第5回 アーキテクチャにもとづく競争戦略①：モジュール化 第6回 アーキテクチャにもとづく競争戦略②：オープン・アーキテクチャ 第7回 ケーススタディ①：自動車の事例 第8回 ケーススタディ②：スマートフォンの事例 第9回 ケーススタディ③：ルームエアコンの事例 第10～13回 グループワーク 第14回 総括			
3. 履修上の注意 単位取得の前提として、4回以上欠席しないこと。 履修の人数によって講義の進め方を調整するため、初回授業に出席すること。 グループワークを実施するため、積極的に参加することが望ましい。発表内容に関するレポートおよび他の報告者に対するリアクションペーパーを提出する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習（3時間）：講義前に提示された資料を読んで、疑問点があれば講義の時に質問してください。 復習（2時間）：講義内容を整理し、専門用語や取り上げた業界と企業について調べる。			
5. 教科書 特に指定しない。			
6. 参考書 『戦略とイノベーション（リーディング日本の企業システム第Ⅱ期第3巻）』伊丹敬之・藤本隆宏・岡崎哲二・伊藤秀史・沼上幹編（有斐閣）2005年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 グループワークによるプレゼンテーションの後にフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 リアクションペーパー20%、プレゼンテーションへの貢献度30%、レポート50%			
9. その他 「基礎専門演習A」と「基礎専門演習B」を合わせて受講することが望ましい。			

科目ナンバー：(BA)MAN292J			
基礎専門演習 A			新 宅 純 二 郎
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：国際経営の基礎理論・概念とケース 〈概要〉 経済のグローバル化によって、国際経営は重要な経営課題になっている。本演習では、国際経営のさまざまな側面について、具体的なケースを中心に学ぶことで、国際経営に関する関心を高めることを目的にしている。また、同時に、広く社会経済に関する問題に主体的に問題関心をもち、それについての自分の意見を主張できるようにする。 〈到達目標〉 1. 社会経済、国際経営に関して主体的な関心をもてるようにすること。 2. テキストを読んで、その内容を理解し、報告できること。 3. 国際経営の基礎的な理論と概念を理解すること。 4. 自分の意見を説得的に表明できること。 5. 演習でのディスカッションで積極的に発言できること。 履修者は20名以内とする。			
2. 授業内容 各回の前半は、担当の学生が自分が関心を持つ社会経済問題を取りあげて、その問題の紹介と自分の意見表明をプレゼンテーションする「私の主張」セッション。後半はテキストの輪読セッションとする。輪読は担当者がその章のレジュメを作成して発表する。 第1回 ガイダンス 第2回 国際経営とは：味の素のケース 第3回 国際経営戦略：トヨタ自動車 第4回 国際経営組織：アクセンチュア 第5回 国際マーケティング：資生堂 第6回 海外生産：シーゲートテクノロジー 第7回 国際研究開発とイノベーション：IBM, ネスレ 第8回 国際経営の人的資源管理：シーメンス 第9回 国際経営財務：ソニー 第10回 自動車産業：現代自動車とトヨタ 第11回 エレクトロニクス：レノボグループ, ノキア, サムスン 第12回 IT：グーグルとIBM 第13回 流通：ウォルマート, カルフール, イオン 第14回 生活文化財産：P&G, ユニリーバ, 花王			
3. 履修上の注意 輪読、発表、ディスカッションに積極的に取り組むこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新聞、テレビ、雑誌、ネットなどで、社会経済に関するニュースを日頃から主体的に読んで関心を持つ習慣をもつこと。			
5. 教科書 吉原ほか『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣、2013年。			
6. 参考書 必要に応じて指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内でフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 授業への貢献など平常点（20％）、私の主張発表（40％）、輪読発表（40％）として総合的に判定する。			
9. その他 参加者は20名程度。			

科目ナンバー：(BA)MAN292J			
基礎専門演習 B			新 宅 純 二 郎
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：生産管理の基礎理論・概念とケース 〈概要〉 製造業は日本が世界をリードする優位な産業であり、その優位性の中心となる生産管理を学ぶことは、文系の学生にとってもきわめて重要なことである。本演習では、生産管理のさまざまな側面について、具体的なケースを中心に学ぶことで、製造業に関する関心を高めることを目的にしている。また、同時に、広く社会経済に関する問題に主体的に問題関心をもち、それについての自分の意見を主張できるようにする。 〈到達目標〉 1. 社会経済に関して主体的な関心をもてるようにすること。 2. テキストを読んで、その内容を理解し、報告できること。 3. 製造業と生産管理の基礎的な理論と概念を理解すること。 4. 自分の意見を説得的に表明できること。 5. 演習でのディスカッションで積極的に発言できること。 履修者は20名以内とする。			
2. 授業内容 各回の前半は、担当の学生が自分が関心を持つ社会経済問題を取りあげて、その問題の紹介と自分の意見表明をプレゼンテーションする「私の主張」セッション。後半はテキストの輪読セッションとする。輪読は担当者がその章のレジュメを作成して発表する。 第1回 ガイダンス 第2回 生産管理とは：フォード 第3回 品質管理：アサヒビール 第4回 原価管理：NEC 第5回 納期管理：Zaraとユニクロ 第6回 設備管理：鉄鋼 第7回 労務管理：パナソニック 第8回 プラットフォームエコシステムにおける生産計画：ASUS 第9回 グローバル納期管理：トヨタ 第10回 海外生産：現代自動車 第11回 生産委託：ユニクロ 第12回 災害マネジメント：アイシン、リケン 第13回 生産技術：造船 第14回 スマートファクトリー：富士電機			
3. 履修上の注意 輪読、発表、ディスカッションに積極的に取り組むこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新聞、テレビ、雑誌、ネットなどで、社会経済に関するニュースを日頃から主体的に読んで関心を持つ習慣をもつこと。			
5. 教科書 新宅ほか『ケースに学ぶ生産管理』有斐閣、2024年。			
6. 参考書 必要に応じて指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内でフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 授業への貢献など平常点（20％）、私の主張発表（40％）、輪読発表（40％）として総合的に判定する。			
9. その他 参加者は20名程度。			

科目ナンバー：(BA)MAN291E			
Core Subjects Seminar C			永井 裕久
2 単位	1 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 THEME: Introduction to Research Methods This course provides fundamental knowledge and practical tools to address managerial issues. It follows the PPDAC (Problem-Plan-Data-Analysis-Conclusion) cycle as a framework for solving real-world problems, composed of the following five steps: Problem: What is the key issue that should be investigated? Plan: How should the research be conducted? Data: Who is the target, and how should the information be gathered? Analyze: Which statistical methods should be used to identify evidence? Conclusions: Summarize the research findings. Objectives of the Course The overarching goal of this course is to develop students' ability to use data to solve real-world problems. After completing this course, students should be able to: Use PPDAC to undertake a research project that solves a problem using numerical evidence. Use SPSS as a statistical tool to analyze data using scientific methods. Propose sound solution plans to address the identified problem. Course Contents			
2. 授業内容 1. Introduction: What is business research? 2. <Problem>: Identify the research topic you would like to explore. 3. <Plan>: Design a blueprint to carry out the research. 4. Develop a "Research Plan." 5. What is statistics? How do we use these tools? 6. <Data>: Methods to collect data scientifically. 7. Interim presentation for the team project. 8. How to use SPSS (introduction). 9. How to use SPSS (basic statistics). 10. How to use SPSS (t-test, ANOVA). 11. How to use SPSS (Correlation, Regression). 12. Qualitative Analysis: Text Mining to analyze qualitative data (e.g., interviews). 13. <Conclusion>: Summarize the results and prepare for presentation. 14. Final Team Presentation. Team Project A self-managed team will conduct a field survey on a research topic chosen based on the members' interests. Through this action learning approach, students will experience a research project from start to finish.			
3. 履修上の注意 The language of instruction and class discussion is English.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Reading and other assignments will be announced in class. Assignments should be submitted via the designated sections on Oh-o! Meiji.			
5. 教科書 There is no required textbook. Lecture materials will be uploaded to Oh-o! Meiji or distributed in class.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Activities and exercises will be reviewed and returned either in class or via Oh-o! Meiji.			
8. 成績評価の方法 Active participation in class discussions and activities: 50% Interim Team Presentation (team): 20% Final Team Presentation (team): 30%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN291E			
Core Subjects Seminar D			永井 裕久
2 単位	1 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Business case study is a learning method for managers to make strategic decisions in relation with business operations developed at Harvard Business School. It requires multiple skills such as, finding the key issues, analyzing the causes, developing solution plans, and decide the best choice to the situation through interactive discussion. This course applies essentials of case method to undergraduate business major students to develop advanced business knowledge as well as decision making skills. Short cases (3-5 pages long) related to the global business will be studied in the following three steps: 1. Individual Preparation (read and analyze the case BEFORE class starts), 2. Small Group Discussion (In-Class) 3. Class Discussion (In-Class).			
2. 授業内容 1: Introduction: What is case method and how to learn with cases? 2-3: Experience case method with mini cases. 4-6: Harvard Business Review Short Cases (3-4 pages) 7: Role Playing (Case Analysis) 8: Feedback on Midterm 9-11: Harvard Business Review Short Cases (3-4 pages) Session 12: Team Presentation (Global Business and Sustainability) Session 13: Serious Lego Play Session 14: Feedback session			
3. 履修上の注意 It is mandatory to use oral and written English the whole class through.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Reading and other assignments will be announced in class. Assignments should be submitted to the designated sections on Oh-o! Meiji.			
5. 教科書 There is no textbook. Lecture materials will be uploaded on Oh-o! Meiji or handed out in class.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedbacks of the other activities and exercises will be either handed out or returned by Oh-o! Meiji.			
8. 成績評価の方法 Active participation in class discussions and activities: 60% Role Playing: 20% Team presentation: 20%			
9. その他 Individual preparation for classes by reading and analyzing the cases essential. Outside of class team activities to prepare for a team presentation is required.			

科目ナンバー：(BA)MAN991J			
基礎専門特別講義 A			中村 昭 裕
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 【テーマ：グローバリゼーションを考える】 国際的なモノ・マネー・人の流れが拡大するグローバリゼーションの急速な進展は、経済社会に大きな恩恵をもたらす一方、富の格差をもたらし、社会の分断をもたらし、との懸念が高まっている。また、ウクライナや中東での紛争、米中対立など、国際的な協調体制の揺らぎも明らかになっている。 こうした状況を踏まえ、本授業では、グローバリゼーションが経済や国際政治に及ぼしている影響、解決が求められている世界的課題などについて学び、グローバリゼーションの本質についての理解を深めることとする。その際、担当教員の国家公務員としての行政経験も活かし、現実の政策動向も踏まえた考察を行う。 なお、この授業は、グループワークによるディスカッション、プレゼンテーション、ディベートを中心に行うので、履修生は原則全ての回に出席することを前提とする。 この授業を通じ、今起きているグローバルな課題の現状と問題の本質を理解し、将来グローバル社会で活躍していく上で不可欠な知見を得ることを目標とする。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：関心事項の共有と討議 第3回：グローバリゼーションの経済的影響（1）討議 第4回：グローバリゼーションの経済的影響（2）プレゼン 第5回：国際政治と国際紛争（1）討議 第6回：国際政治と国際紛争（2）プレゼン 第7回：食糧・エネルギー問題（1）討議 第8回：食糧・エネルギー問題（2）プレゼン 第9回：世界の分断（1）討議 第10回：世界の分断（2）プレゼン 第11回：ディベート（1）準備 第12回：ディベート（2）準備、ディベート① 第13回：ディベート（3）ディベート② 第14回：a. 総復習 b. 期末テスト (注) 上記は暫定的計画であり、履修生の数や関心に応じ変更・修正がありうる。			
3. 履修上の注意 1. 本授業は、履修生によるグループディスカッション、プレゼン、ディベートが中心となるので、原則全ての回に出席できることを条件とします。それが難しい場合、グループワークに支障が生じ、他のメンバーに迷惑をかけることになるので、履修はご遠慮下さい。やむを得ず欠席する場合は、他のグループメンバーに連絡し、グループワークに支障が生じないようにして下さい。 2. 授業の進め方、グループ分けなどについて第1回で説明します。履修希望者は必ず第1回に出席して下さい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：指示に従い、指示される事項について事前に調べ、提出する。 復習：指示に従い、リアクションペーパーを提出する。			
5. 教科書 特に定めない。			
6. 参考書 『グローバル・バリュー・チェーン 新・南北問題へのまなざし』 猪俣哲史（日本経済新聞出版社）2019年 『大不平等 エレファントカーブが予測する未来』 ブランコ・ミラノビッチ（みすず書房）2017年 『世界経済の大いなる収斂 ITがもたらす新次元のグローバリゼーション』 リチャード・ボールドウィン（日本経済新聞社）2018年 『国際政治学をつかむ（新版）』 村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（有斐閣）2017年 その他必要に応じて指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 次の授業の中で必要に応じてフィードバックする。			
8. 成績評価の方法 課題（予習課題、リアクションペーパー等）：25% 授業への参加度、プレゼン・ディベートの内容：50% 期末テスト：25% ただし、単位認定は以下の条件を全て満たすことを前提とする。 ・無断欠席がないこと。 ・出席回数が全体の2/3以上であること。 ・期末試験を受験すること。			
9. その他 専攻分野や予備知識に関わらず、グローバルな課題に関心のある全ての方の受講を歓迎します。 グループワークでは、皆さんが自ら問を設定し、調べ、プレゼンしていただくとともに、ディベートを行います。全て出席し、グループワークに責任をもって積極的に参加できる方、その意欲のある方の参加をお願いします。それが難しい方はご遠慮下さい。			

科目ナンバー：(BA)MAN996J			
基礎専門特別講義 B〔M〕			鳥居 陽 介
2 単位	1 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ 「金融リテラシーとライフデザイン」 〈概要〉 この授業では、金融に関する基礎的な知識や実際の知識を学びます。一生の収入はどの程度か、「人生の3大費用」とは何か（いくらかかるのか）、社会人になったら「資産形成」にすぐ着手した方がよい理由は何か、そしてその方法とはどのようなものか。こうしたことを学ぶとともに、経済や金融の基本的な仕組みについても学ぶことができます。今や、就職先によっては、社会人1日目から自分の企業年金の拠出金をどう分散して運用するのか（預金や株式、投資信託、海外資産など）、会社側から選択を迫られる時代です。経済や金融の流れ、今後の人生設計におけるお金の活かし方などを広く知ってもらい、社会人となってからの金融面のノウハウを身に付けてもらいます。皆さんの「生きる力」を高めるお手伝いをするのが、この講義の最大の狙いです。 テーマごとに、日本銀行はじめ銀行、証券、保険、フィナンシャルプランナーなど様々な専門分野の実務者や官庁の方々にご登壇頂き、それぞれの実務経験を活かしたお話を頂戴いたします。 〈到達目標〉 この講義では、生活設計におけるお金の活かし方、国民一人ひとりに求められる資産形成に関する認識、金融におけるリスクとリターン、これらに関連する金融や経済の基礎知識を身に付けてもらうことを目標としています。これらの知識をもとに、常にコストとメリットを意識しつつ経済合理的な判断を行う姿勢を身につけてもらうことも目標としています。			
2. 授業内容 この授業は、14回全てをメディア授業（オンデマンド型）で実施いたします。 第1回 金融経済教育の重要性（イントロダクション） 鳥居 陽介、金融庁 野村泰蔵〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回 人生とお金 金融経済教育推進機構（J-FLEC）清水秀昭〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 お金を稼ぐ 金融経済教育推進機構（J-FLEC）清水秀昭〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 お金と経済 金融経済教育推進機構（J-FLEC）清水秀昭〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 ライフプランを描く① 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 後藤文恵〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 お金を借りる① 全国銀行協会 窪田敦子〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 お金を借りる② 全国銀行協会 窪田敦子〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回 お金をふやす① 日本証券協会 高木典子〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 お金をふやす② 投資信託協会 上野尚美〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回 リスクに備える① 生命保険文化センター 土手隆彰〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 リスクに備える② 日本損害保険協会 山本真史〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 トラブルに強くなる 東京都金融広報中央委員会 奥原早苗〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回 ライフプランを描く② 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 後藤文恵〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 全体総括 鳥居陽介、金融経済教育推進機構（J-FLEC）清水秀昭〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ＊講演者は変更場合があります。 ＊本講義はメディア授業ですが、毎週水曜日2限に資料を更新いたします。			
3. 履修上の注意 この授業はメディア授業科目として開講されます。授業は全て、講義動画をOh-olMeijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行います。「授業内容」欄に記載の通り、講義動画は原則毎週水曜日2限にOh-olMeijiシステムを通じて配信し、授業動画は当該学期中のみの視聴が可能です。ただし、成績評価の前提として、各回のアンケート（感想・要望・質問に関するアンケート）に答えることを求めますので、講義動画は毎週必ず確認してください。教員への質問・相談は、この毎回のアンケートに記入してください。 また、補足資料として、eラーニング講座「マネビタ」を活用します。別途受講登録が必要です。Oh-Meijiにマニュアルが掲載されていますので、ご参照ください。 本授業を受けるうえで、特段の前提条件や前提知識などはありません。皆さんのこれからの人生に直結する実学的な知識が次々と出てきます。初めて聞く概念や用語も多数あるはずですが、多くの概念が講義前半（概念・概要説明）と後半（より踏み込んだ個別説明）で2回程度触れられますので、焦らずに、じっくりと吸収して取り組んでください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 金融リテラシーは幅広い概念であり、多分野にまたがる知識もありますので、配布される講義資料を使って毎回の復習をできるだけ掛けてください。中間レポートと定期試験に対応するうえでも、復習は重要です。また、「マネビタ」の動画再生時間は10～15分程度なので、講義内容の予習・復習にも役立ててください。			
5. 教科書 参考となるパンフレット等が配られる場合もありますが、基本となるのは毎回の講義資料・解説動画です。適宜、「マネビタ」の関連動画で補足して下さい。			
6. 参考書 参考となるパンフレット等が配られる場合もありますが、基本となるのは毎回の講義資料です。適宜、「マネビタ」の関連動画で補足して下さい。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の課題としてアンケートを実施いたしますが、感想を求めるものであるため、特段のフィードバックは行いません。 質問に対しては、アンケート締切から1～2週間後を目途に、「ディスカッション」欄にて回答いたします。			
8. 成績評価の方法 定期試験（択一式試験・80%）と中間レポート（20%）をもとに総合評価します。 ただし、定期試験を受験するための前提条件として、毎回感想の提出を求めます。全14回中10回以上のアンケート回答がない場合は成績評価の対象外とします。また、中間レポート未提出の場合も成績評価の対象外とします。定期試験は、対面ではなくオンラインで、定期試験実施期間中に実施します。試験日時は、7月上旬を目途にOh-olMeiji経由でのお知らせ配信を実施するとともに、シラバスの補足に記載いたしますので、忘れずに確認してください。			
9. その他 特にありません。			

科目ナンバー：(BA)MAN991J			
基礎専門特別講義C		宮田 憲一	
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 □大同生命保険株式会社寄付講座 スタートアップ起業家育成講座1 (MSET 1) □講義テーマ：「起業のメカニズムを体験する」 ＜概要＞ 今、活力ある「新しい企業」が求められている。21世紀に入り20年あまりが経過する中で、地球環境、日常生活、そして人々の意識が大きく変化し、持続可能な新たな社会の形や経済のあり方が模索されている。その実現や課題解決には、様々なイノベーションや新しいビジネスモデルが必要であり、それを牽引する存在として新たな価値観や考え方をもったアントレプレナー（起業家）によって創業される「新しい企業」に再び大きな注目が集まっている。それでは、どうすれば「自分のアイデア」を事業化した「新しい企業」をスタートアップ（起業）することができるのだろうか。 本講義は、学術コーディネーターである担当講師（宮田憲一）に加えて、実務コーディネーターとして川野正雄氏（東京コンピュータインキベーションセンター/TCIC）のご協力を仰ぎ、現役の起業家、投資家、アクセラレーター等スタートアップ業界の豊富な実務経験をもつゲスト講師の方々を迎えながら、「起業」プロセスをより実践的に学んでいく。例えば、起業支援の現場で様々な起業家と出会った経験からみる「起業」の魅力、アイデアのビジネスモデルへの落とし込み方、生み出したビジネスモデルを実際に事業化する考え方、資金調達するためのプレゼン方法、企業を作るために必要な登録登録等の手順など、起業からみた「実際のビジネス」をアクティブラーニングで学んでいく。現場でスタートアップに関わる様々なプロフェッショナルの方々に、起業の大変さと面白さ、一度就職した後の起業というキャリアアップランなどのお話を聞きながら、学生諸君に「起業する」、プロセスを疑似体験してもらう。更にAI、ブロックチェーンという最新のテクノロジーを専門家から学び、起業アイデアを考える機会を創出する。 大学にいながら、本格的なスタートアップの考え方実践を学べる貴重な講義内容となっている。在学中に起業を考えている学生や明治ビジネスチャレンジに参加希望する学生に加えて、卒業後一度就職したあとの選択肢を増やしたい学生、またビジネスのスキルやプレゼン能力を学びたい学生にも絶好の機会として活用してもらいたい。 ＜到達目標＞ ・起業に必要な実践的な知識・技能を身につける。 ・最新のテクノロジーと講義で学んだ知識を活かして、それらをビジネスモデル、事業計画、マーケティングとの関係から応用する能力を養う。 ・アイデアの出し方、プレゼンの仕方、資料の作り方などビジネススキルを身につける。 ・明治ビジネスチャレンジへの応募に向けた事業アイデアを打ち出す。			
2. 授業内容 【マインドセット】 第01回：「Programオリエンテーション：スタートアップとは？」 □ゲスト：大同生命保険株式会社代表者の方 第02回：「起業を知る①：起業家の話を聞く（文系からの起業）」 □ゲスト講師：創業手帳株式会社 代表取締役社長 大久保幸世氏（明大OB） 第03回：「起業を知る②：起業家の話を聞く（理系からの起業）」 □ゲスト講師：株式会社リフカム 代表取締役 清水巧氏（明大OB） 【アイデア創出】 第04回：「起業を目指す①：起業アイデア創出」 □ゲスト講師：株式会社ツクリエ 代表取締役 鈴木英樹氏 第05回：「起業を目指す②：公的創業支援施設訪問」 第06回：「最新テクノロジーを知る①：ブロックチェーン技術」 □ゲスト講師：ブロックチェーン推進協会 エヴァンジェリスト 奥 達男氏 第07回：「最新テクノロジーを知る②：AI技術」 □ゲスト講師：松井ペンチャーズ株式会社 代表取締役CTO 新井モノ氏 【ビジネスモデル構築】 第08回：「リーンキャンパスの作り方」 第09回：「ビジネスモデルの作り方①：ビジネスモデルとリーンキャンパス」 □ゲスト講師：株式会社ツクリエ 取締役 大藤彦彦氏 第10回：「ビジネスモデルの作り方②：投資対象としてのビジネスモデル」 □ゲスト講師：株式会社ティエースアイ 代表取締役 熊谷孝幸氏 第11回：「ビジネスモデルの発表①：CVC役員の視点から」 □ゲスト講師：松井ペンチャーズ株式会社 取締役常務執行役員 森川朋彦氏 第12回：「ビジネスモデルの発表②」 【ビジネスモデルから起業へのステップ】 第13回：「起業シミュレーション：会社登記を作る」 □ゲスト講師：合同事務所ジュリスター・インターナショナル 司法書士 山北悠介氏 第14回：「Programまとめ：事業計画発表と提出」 □ゲスト：大同生命保険株式会社代表者の方 ※毎回の授業は、実務コーディネーターや学術コーディネーターによって進行していきます。			
3. 履修上の注意 ・本講義履修には初回授業内で作成・提出する課題が必要となる。初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。 ・本講義は、「経営学」の単位を取得し（他学部での「経営学」相当科目の取得単位も可）、起業に興味関心がある学生の履修を推奨する。 ・履修希望者が多数に上った場合は、 初回授業で提出する課題の内容 、「経営学」の単位取得、ビジネスチャレンジの参加経験、起業への熱意などの基準から、履修者数を選抜する。 ・本講義は、その性格から、履修者の積極的かつ主体的な授業への取り組みが求められるため、その点を理解して履修すること。 ・ゲスト講演や課外授業など頻繁に実施するため、遅刻は特別な事情がない限り認めない。 ・課外授業実施時には、都内での公共交通機関を利用する予定である。その際の交通費を負担してもらうことになることを理解していただいていた。 ・本講義は、2023年度に「基礎専門特別講義B」として開講されたものである。同講義を履修したものは本講義を履修できないので注意すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 □予習（3時間） ・ビジネスモデルや事業計画に関する課題がある際は、授業での配布資料だけでなく、参考書などを読み、また自分のビジネスアイデアに関連する情報をできるだけ調査し、受講の準備をすること。 □復習（2時間） ・ゲスト講師や施設訪問の際には、授業で学んだことと、実際の話がどのようにつながるのかについて、ノートを作成しながら再確認してもらいたい。			
5. 教科書 教科書は特に指定せず、適宜資料を配布する。			
6. 参考書 ・「スタートアップの経済学」加藤雅俊著（有斐閣）、2022年。 ・「アントレプレナーシップ入門 新版」忽那憲治ほか著（有斐閣）、2022年。 ・「起業の科学：スタートアップサイエンス」田所雅之著（日経BP）、2017年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内でのコメントや講評を通じてフィードバックをおこなう。			
8. 成績評価の方法 授業への貢献度30%、各発表（プレゼン）30%、成果物（事業計画書）40%により評価する。			
9. その他 □1～4年生まで起業に興味がある学生、明治ビジネスチャレンジに応募を考えている明大生の履修を歓迎する。 □社会的状況により対面授業の実施が困難になった場合は、対面授業をリアルタイム配信に変更しての実施を予定している。その際は、Oh-o! Meijiのお知らせ機能から連絡するため、確認を忘れないように注意すること（転送設定を推奨）。 □本講義の単位を取得することと、3・4年次駿河台キャンパスで開講するスタートアップ起業家育成講座2 (MSET 2)「経営特別講義D：「スタートアップ経営のメカニズムを体験する」」の履修登録優先候補者となることができる。 □経営学部1・2年次から履修できるマーケティング基礎論、経営心理学、経営史A・B、ビジネス法、原価計算II、管理会計総論A・Bの講義は、起業する上で基礎的な知識を学ぶことができる。また、3・4年次履修できるベンチャービジネス論、中小企業論、経営戦略論A・B、イノベーション・マネジメントA・B、会社法A・B、経営分析論A・Bなどの講義は、起業に向けた様々な専門的知識を学習できる。			

科目ナンバー：(BA)MAN996J			
基礎専門特別講義D〔M〕		加藤 友佳	
2 単位	1 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：「税金」や税に関わる様々な仕事を理解して将来の選択肢を広げよう！ ＜授業の概要＞ この授業では、税務の世界で活躍されている様々な実務家を講師としてお招きし、租税が私たちの生活にどのように関わっているかについて理解を深める。具体的には、納税、徴収、投資等について、経営者、税理士、公認会計士、弁護士、国税局等、様々な立場から、租税の役割を学ぶ。 ＜到達目標＞ 講師の豊富な経験や考え方、最新の実務ケースを通じて、租税倫理を身につけることを目標とする。			
2. 授業内容 第1回 暮らしの中の税（イントロダクション）【メディア授業（オンデマンド型）】 明治大学経営学部 加藤友佳 第2回 会計を理解して将来の選択肢を広げよう！ 1 【メディア授業（オンデマンド型）】 公認会計士、アカウンティングワークス株式会社 代表取締役 花房幸範氏 第3回 会計を理解して将来の選択肢を広げよう！ 2 【メディア授業（オンデマンド型）】 公認会計士、アカウンティングワークス株式会社 代表取締役 花房幸範氏 第4回 会計を理解して将来の選択肢を広げよう！ 3 【メディア授業（オンデマンド型）】 公認会計士、アカウンティングワークス株式会社 代表取締役 花房幸範氏 第5回 世界経済と税の世界 【メディア授業（オンデマンド型）】 プレミア国際税務事務所 代表 赤塚孝江氏 第6回 税と仕事～経営者 【メディア授業（オンデマンド型）】 本城直季氏 第7回 日本経済の政策決定と公認会計士 【メディア授業（オンデマンド型）】 公認会計士 瀧澤裕也氏 第8回 国のお財布事情～公会計と行政評価 【メディア授業（オンデマンド型）】 総務省行政評価局元局長 讃岐建氏 第9回 スポーツと税～会計・税務の面からみたプロスポーツ 【メディア授業（オンデマンド型）】 税理士法人オフィス921 村田俊祐氏 第10回 税と仕事～税理士 【メディア授業（オンデマンド型）】 税理士法人山田&パートナーズ パートナー・アドバイザー元本部長 宇田川隆氏 第11回 税と仕事～弁護士 【メディア授業（オンデマンド型）】 弁護士法人Y&P法律事務所 代表弁護士 平良明久氏 第12回 納税者になったらどうする？～税金のトラブル 【メディア授業（オンデマンド型）】 元国税審判官、渋谷法律事務所 弁護士 吉田正毅氏 第13回 税と仕事～国税専門会 【メディア授業（オンデマンド型）】 東京国税局 人事専門官 笹木邦江氏 第14回 現代社会と税～国税専門官 【メディア授業（オンデマンド型）】 東京国税局 人事専門官 笹木邦江氏			
3. 履修上の注意 本授業は、メディア授業科目として開講される。この科目の履修者は「基礎専門特別講義 B〔M〕（金融リテラシーとライフデザイン）」とのセット履修を推奨する。授業はオンデマンド配信型で実施され、授業動画はOh-o! Meijiにアップロードされる。授業動画は原則、毎週火曜日までに公開し、そこから1週間視聴可能である。また、毎回の講義動画視聴後に課されるリアクションペーパーや小テスト等の課題をもとに、出席確認および理解度確認を行う。なお、リアクションペーパーについては必ず提示されたひな形を用いて提出すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習はとくに必要ないが、授業で取り上げた箇所の復習を1時間程度、丁寧に行うこと。			
5. 教科書 教科書の指定はない。各講師から指示がある。			
6. 参考書 適宜各講義で示されるもの。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各課題について講師からコメントがある場合には、適宜公表する。			
8. 成績評価の方法 成績については以下の基準に従って評価する。 平常点（参加状況、課題）：100％ ※対面形式での試験は行わない。 ※なお、3分の2以上の出席が確認できない履修者については評価の対象とならない。			
9. その他 本授業は原則としてオムニバス形式で開講される。講師は、弁護士、公認会計士、税理士、国税専門官等などバラエティに富んでいる。			

科目ナンバー：(BA)MAN991E			
Core Subjects Special Lectures B			高木 俊雄
2 単位	3 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Theme : "Project Based Learning: Industry-Academia Collaboration Class (English)" 〈Summary〉 The purpose of this class is (1)to develop students who can work globally, (2)to use the knowledge of the business management that learned in the basic classes in the university, and (3)to understand what is required in the real business. This class is conducted by practitioners and a professor to achieve the above three points. The task that students will struggle with are the real issues that the companies need to solve today. The practitioners in charge of this class lecture students on their own company management in English, and also students make presentations and discussions in English. This class is based on the group work. You will develop communication skills through the group work. 〈Goal〉 (1)to develop students who can work globally, (2)to use the knowledge of the business management that learned in the basic classes in the university, and (3)to understand what is required in the real business			
2. 授業内容 1 : Introduction (Purpose of the course) and mindset (Professor) 2 : Company 1: Lecture on the company and task (Practitioner) 3 : Company 1: Group work (Professor) 4 : Company 1: Group work (Professor) 5 : Company 1: Interim Presentation and Feedback (Practitioner) 6 : Company 1: Group work (Professor) 7 : Company 1: Final Presentation (Practitioner) 8 : Company 2: Lecture on the company and task (Practitioner) 9 : Company 2: Group work (Professor) 10: Company 2: Group work (Professor) 11: Company 2: Interim Presentation and Feedback (Practitioner) 12: Company 2: Group work (Professor) 13: Company 2: Final Presentation (Practitioner) 14: Final Report			
3. 履修上の注意 Students are required to commit actively to their groups and to participate in the meeting outside of the class hours.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Preparation and group work are required.			
5. 教科書 Textbooks are not specified. Practitioner and Professor will prepare materials as needed.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Since this class mainly consists of group work and presentations, grade evaluation is based on (1) participation in group work (40%), (2) presentation (30%), and (3) final report (30%).			
9. その他 本講義で使用する言語に関してですが、ゲスト講師は英語となりますが、担当教員（高木俊雄）が必要に応じて日本語で解説を行います。また学生のプレゼンテーションは英語となります。 なお、英語力は問いません。 担当教員：高木俊雄			

10 経営学科専門科目

科目ナンバー：(BA)MAN211J			
企業論A			牛丸元
2 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 企業論Aでは、企業とはどのようなものなのか、どのようにして生まれ、成長していくのか、成長していくためにどのような仕組みを構築しているのかについて学びます。 <到達目標> 企業のガバナンスに関する仕組みと、企業成長のための多角化や企業合併がどのようなものであるか、基本的知識を修得することを目標としています。			
2. 授業内容 1 回 イントロダクション 2 回 企業形態 3 回 株式会社と企業形態の変遷 4 回 会社の所有と支配 5 回 CSR（リモート授業） 6 回 コーポレートガバナンス 7 回 2回から6回小テスト1(リモート式) 8 回 企業家と経営者 9 回 ベンチャービジネス 10回 企業成長と多角化 11回 M&A 12回 企業結合と独占 13回 8回から12回小テスト2（リモート式） 14回 親子上場			
3. 履修上の注意 ○図表などについては教科書を参照しますので、教科書は毎回持参してください。 ○5月14日（水）第5回目CSRの授業はリモート授業とします。対面授業ではありません。Oh-Meijiの資料にビデオと資料をアップしておりますので、それで学習してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書に沿って展開しますので、まずは教科書を事前に読んでおくこと。また、不明な語句については調べておくこと。 理解できないものについては、授業終了後に質問時間を設けているので、質問すること。 <学習準備> 1回分の情報量が非常に多いので、理解不足になりがちです。教科書を中心に復習することを心がけてください。			
5. 教科書 ●牛丸元編著『スタンダード企業論 第三版』 同文館、2025年。（昨年までの教科書とは内容が変更されています）			
6. 参考書 適宜指示			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meijiを通じてフィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 ●小テスト（1回20点×2回）40点、定期試験60点、合計100点とし、本学が定める評価方法に従い評価する。			
9. その他 ●小テストでは、教科書の持ち込みを可とします。しかし、教科書のコピーは禁止します（著作権の問題）。 ○小テストはリモート形式で実施する。Oh-Meijiの「小テスト」にアクセスし、指定された日時と時間帯に解答すること。 ●定期試験では持ち込み不可です。 ○定期試験は通常の期間中試験に対面で実施する。 ●出席をとる場合もありますが、評価には含めません。 ○小テストの範囲には教科書第6講「親子上場」は含まれませんが、定期試験では、親子上場を含みます。 ●何らかの事由により授業に出席できない履修者は、ビデオ・オンデマンド形式の授業を視聴してください。			

科目ナンバー：(BA)MAN211J			
企業論B			牛丸元
2 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 企業論Bでは、企業の発展に必要な、ネットワーク化とグローバル化について学びます。 <到達目標> 企業集団や企業間関係の形成メカニズム、国際企業の行動原理などに関する基礎的知識を修得することを目標としています。			
2. 授業内容 1 回 イントロダクション 2 回 企業集団 3 回 産業集積 4 回 企業間関係 5 回 企業間ネットワーク 6 回 戦略的提携とネットワーク 7 回 小テスト1（2回から6回） 8 回 国際化と日本企業 9 回 企業国際化の基礎理論 10回 国際化と組織構造 11回 国際企業モデル（1） 12回 国際企業モデル（2） 13回 日本企業グローバル化の課題 14回 小テスト2（8回から12回）			
3. 履修上の注意 図表などについては教科書を参照しますので、教科書は毎回持参してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書に沿って展開しますので、まずは教科書を事前に読んでおくこと。また、不明な語句については調べておくこと。 理解できないものについては、授業終了後に質問時間を設けているので、質問すること。 <学習準備> 企業論Bは、Aよりも高度な内容となっていますので、予習に時間をかけるようにしてください。			
5. 教科書 牛丸元編著『スタンダード企業論 第3版』 同文館、2025年。			
6. 参考書 適宜指示			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meijiを通じてフィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 ●小テスト（1回20点×2回）40点、定期試験60点、合計100点とし、本学が定める評価方法に従い評価する。			
9. その他 ●小テストでは、教科書の持ち込みを可とします。しかし、教科書のコピーは禁止します（著作権の問題）。 ○小テストは、リモート形式で実施します。Oh-Meijiの「小テスト」にアクセスし、指定された日時、時間帯で解答してください。 ●定期試験では持ち込み不可です。 ●出席をとる場合もありますが、評価には含めません。 ●何らかの事由により授業に出席できない履修者は、ビデオ・オンデマンド形式の授業を視聴してください。			

科目ナンバー：(BA)MAN211J			
企業論A			鳥居陽介
2単位	2年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 経営学の対象となる「企業」とは何かを検討する。春学期では、企業にはどのような形態があるのか、企業はどのように発展していくのか、企業はどのような仕組みとなっているのか、企業の中でも特に株式会社の所有構造の変遷について解説する。 <到達目標> 企業の形態や仕組み、成長のためにどのような手法が取られるのかといった、基本的概念と理論を修得することを目標とする。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 企業形態—合名会社、合資会社、合同会社、株式会社 第3回 株主総会の役割／取締役と委員会 第4回 会社の所有と支配 第5回 英米のコーポレート・ガバナンス 第6回 日本のコーポレート・ガバナンス 第7回 中間試験 第8回 経営者報酬／ファミリービジネス 第9回 企業と労働力市場、商品・サービス市場 第10回 企業と資本市場 第11回 独占・寡占価格、系列 第12回 業務提携・資本提携／経営統合と持株会社 第13回 M&A 第14回 まとめ ＊担当教員の校務の関係で、変更となる場合あり（その際は授業中に周知する）。			
3. 履修上の注意 テキストを毎回持参すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストの該当箇所を中心に予習をした上で授業に臨むこと。ただ講義を聞くだけでなく、事前学習によって得た知識や自身の意見と講義内容を照らし合わせることで、内容の深い本質的な理解を実現させる。			
5. 教科書 鳥居陽介編著『テキスト現代企業論（第5版）』、同文館出版、2024年。			
6. 参考書 鳥居陽介『株式所有構造の変遷と経営財務』、中央経済社、2017年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内に出題する課題に対してのフィードバックは、授業中に実施する。			
8. 成績評価の方法 授業内課題20%、中間試験30%、定期試験50%の割合で総合的に評価する。			
9. その他 中間試験・定期試験ともに持ち込み可とする。			

科目ナンバー：(BA)MAN211J			
企業論B			鳥居陽介
2単位	2年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 春学期に引き続き、経営学の対象となる「企業」とは何かを検討する。秋学期では、中小企業やベンチャー企業、NPOまで範囲を広げ、これら企業や組織における課題やその解決策等について議論する。 <到達目標> 中小企業・ベンチャー企業の特徴や違い、企業の様々なステークホルダーとの関わり方についての変化や、現在の企業、特に中小企業の在り方を理解することを目標とする。			
2. 授業内容 1回 イントロダクション 2回 企業間関係・企業間ネットワーク 3回 企業とESG、SDGs 4回 株主価値経営から共通価値経営へ 5回 外部講師による講演（ディスカッション） 6回 NPOからソーシャルビジネスへ 7回 ベンチャー企業のビジネスプラン 8回 中間試験 9回 企業と地域経済・中小企業の再考 10回 中小企業と第2・第3創業／中小企業の新たな地域内の産学官連携 11回 中小企業の経営戦略・海外展開 12回 中小企業に対する地域金融機関の今後の役割 13回 企業の知的財産・人的資本経営 14回 まとめ ＊担当教員の校務の関係で、変更となる場合あり（その際は授業中に周知する）。			
3. 履修上の注意 テキストを毎回持参すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストの該当箇所を中心に予習をした上で授業に臨むこと。ただ講義を聞くだけでなく、事前学習によって得た知識や自身の意見と講義内容を照らし合わせることで、内容の深い本質的な理解を実現させる。			
5. 教科書 鳥居陽介編著『テキスト現代企業論（第5版）』、同文館出版、2024年。（＊春学期からの継続）			
6. 参考書 林幸治編、日本中小企業・ベンチャー ビジネスコンソーシアム 著『新中小企業論』、文真堂、2021年。 鳥居陽介『株式所有構造の変遷と経営財務』、中央経済社、2017年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内に出題する課題に対してのフィードバックは、授業中に実施する。			
8. 成績評価の方法 授業内課題20%、中間試験30%、定期試験50%の割合で総合的に評価する。			
9. その他 中間試験・定期試験ともに持ち込み可とする。			

科目ナンバー：(BA)MAN221J			
経営管理論 A			青木克生
2 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 本講義の狙いはテラー、メイヨー、バーナードといった経営管理についての諸理論を紹介することのみにあるのではない。むしろそれら理論家たちがわれわれに示唆してくれることを現代的な経営管理の実践とのかかわりから検討し、概説することにある。 経営管理は企業活動や諸組織に不可欠な活動であり、これを「ヒト、モノ、カネ、情報」という観点から理解することが大切である。講義では、具体的な事例を多く用いて、現代的な視点から経営管理の理論を見ていく。そのため講義において、まずは特定事例を用いて現代企業において生じている問題をリアルに体感してもらう。それに引き続き、経営管理についての理論を紹介していく。 理論とは古典を意味するわけではない。物事を理解するうえでの指針となる考え方を意味する。また管理についてのアメリカの理論のみならず、管理方式の日本人的特徴についても紹介していく。 <到達目標> 経営管理論の基礎をマスターし、企業実践の理解へと応用できるようにすること。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 管理論の歴史1: 成り行き管理と科学的管理 第3回 管理論の歴史2: 人間関係論 第4回 トップマネジメントの役割: バーナードの組織と個人その1 第5回 経営管理のプロセスと意思決定 第6回 経営管理と知識・学習: 計画と実践のギャップ 第7回 環境変化と経営戦略 第8回 経営戦略1: 戦略的意思決定と多角化 第9回 経営戦略2: PPMと競争戦略 第10回 情報化と経営管理: デファクトスタンダードとアウトソーシング 第11回 日本企業の戦略1: コアコンピタンス 第12回 日本企業の戦略2: 企業集団 第13回 日本企業の戦略3: 企業系列 第14回 総まとめ			
3. 履修上の注意 授業はプリントをベースに行う。プリントの配布は行わない。Oh-Meijiから印刷して各自持参すること http://oh-o.meiji.ac.jp/index.htm 授業最初で行うビデオを用いたケース紹介の後にアンケートを実施する アンケートはOho Meijiを通して行うので、授業にはパソコン、i pad, スマートフォンなどの端末の持参が必要となる またアンケート結果は成績にも反映するので、毎回遅刻なく出席することが受講生には求められる			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で配布したプリントに紹介してある参考書を読み、しっかりと復習すること 試験は持ちなしで実施するので授業で紹介した重要な用語や理論は何も見ずにしっかりと説明できるようにならなければ試験をパスするのは厳しいと考えてください			
5. 教科書 特に使用しない。プリントをベースに授業を進める			
6. 参考書 プリントを通して適宜紹介する			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 定期試験の結果で成績を評価する。持ち込みなしで、用語説明と論述問題を出題する アンケートの結果や小テストあるいはレポートなども成績に反映させる			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN221J			
経営管理論 B			青木克生
2 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 本講義の狙いは経営管理の基礎となる組織行動や組織構造についての諸理論を紹介することにある。リーダーシップやモチベーションなどの組織行動、事業部制やマトリックス組織などの組織構造について現代企業の実践という観点から理解を促し、これを目的としている。 講義では、具体的な事例を多く用いて、現代的な視点から経営管理の理論を見ていく。そのため講義において、まずは特定事例を用いて現代企業において生じている問題をリアルに体感してもらう。それに引き続き、経営管理についての理論を紹介していく。 また経営管理と組織についての理論を説明するのみならず、トヨタ生産方式、日本の経営といった経営管理・組織の日本人的特徴についても紹介していく。 <到達目標> 経営管理論の基礎をマスターし、企業実践の理解へと応用できるようにすること。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 モチベーション: 欲求5段階説; 内発的動機づけ 第3回 リーダーシップ1: 行動科学的アプローチ 第4回 リーダーシップ2: シンボリックリーダーと変革 第5回 組織化1: 職能部制と事業部制組織 第6回 組織化2: ポスト事業部制組織 第7回 環境変化と経営組織 第8回 組織と環境1: コンティンジェンシー理論 第9回 組織と環境2: 情報処理モデル 第10回 経営と文化: 組織文化論; 国際比較 第11回 日本の経営1: トヨタはなぜ強いのか? 第12回 日本の経営2: 日本人的資源管理 第13回 日本の経営3: 今後の日本の経営 第14回 総まとめ			
3. 履修上の注意 授業はプリントをベースに行う。プリントの配布は行わない。Oh-Meijiから印刷して各自持参すること http://oh-o.meiji.ac.jp/index.htm 授業最初で行うビデオを用いたケース紹介の後にアンケートを実施する アンケートはOho Meijiを通して行うので、授業にはパソコン、i pad, スマートフォンなどの端末の持参が必要となる またアンケート結果は成績にも反映するので、毎回遅刻なく出席することが受講生には求められる			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で配布したプリントに紹介してある参考書を読み、しっかりと復習すること 試験は持ちなしで実施するので授業で紹介した重要な用語や理論は何も見ずにしっかりと説明できるようにならなければ試験をパスするのは厳しいと考えてください			
5. 教科書 プリントをベースに講義を行う。			
6. 参考書 講義プリントを通して適宜紹介する			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 定期試験の結果で成績を評価する。持ち込みなしで、用語説明と論述問題を出題する アンケートの結果や小テストあるいはレポートなども成績に反映させる			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN221J			
経営管理論 A			福原 康 司
2 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 あらゆる組織を経営する際、その妥当性や正当性は、個人（従業員）の立場で考える場合と組織（管理者や経営者）のような立場から捉える場合とでは大きく異なる。例えば、給与が高くなると個人としては嬉しいけれども、人件費が増大するので企業の財務状況は悪くなり、株主から批判され経営者は頭を悩ませてしまう事例からも、このことは明らかである。前者を「個人の視点」、後者を「組織の視点」と呼ぶことにしよう。このように経営には、「個人の視点」と「組織の視点」とに絶えず葛藤がある。しかしながら、持続発展的な経営を熟慮すると、この個人と組織の複眼的視点で眺めることが不可欠となる。 本授業では、両視点のうち、とりわけ「個人の視点」から経営を眺める時に考慮しなければならない要素を主に取り上げ、古典的理論を振り返りながらその現代的な意味を考えていく。 〈到達目標〉 経営学における諸理論の歴史的な成長・発展の軌跡を理解すると同時に、それらの理論が現代の経営に対してどのように適用できるかについて考える洞察力を養うことを達成目標とする。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：科学的管理法と成果主義（グループワーク） 第3回：科学的管理法と成果主義（理論編） 第4回：管理過程論と管理者行動（グループワーク） 第5回：管理過程論と管理者行動（理論編） 第6回：人間関係論と動機づけ（グループワーク） 第7回：人間関係論と動機づけ（理論編） 第8回：グループ・プロセス（グループワーク） 第9回：グループ・プロセス（理論編） 第10回：グループ・プロセス（実践編） 第11回：リーダーシップ（グループワーク） 第12回：リーダーシップ（理論編） 第13回：ソーシャルキャピタル（人脈作り）の意義（理論編） 第14回：まとめ			
3. 履修上の注意 授業はパワーポイントを用いて、適宜タブレットPCや板書に書き込みを行う。パワーポイントのスライドの重要な箇所を空所にした講義ノートを授業内で配布し、スライドを見ながら空所補充してもらうスタイルを採用する。また、講義内容に関連するトピックスについて、定期的にグループワークを行ってもらう。したがって、アクティブラーニングを採用するので、受け身で講義に参加すると単位が危ぶまれるのでご注意ください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に配布した講義ノートを基に、教科書の内容と照合して予習や復習を行って欲しい。また、グループワークでは事前に予備知識を持ち寄らないとアイデアが思いつかないトピックスもあり、そうした回はグループワークの内容を事前に提示するので、図書館のデータベースを利用して事前学習をしてもらうことになる。			
5. 教科書 馬場杉夫・蔡仁錫・福原康司他著（2015）『マネジメントの航海図』中央経済社			
6. 参考書 佐々木利廣・福原康司編著（2022）『自分事化の組織論』学文社			
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期的に行うグループワークの内容を電子掲示板にアップロードしてもらうので、その内容についてコメントの付記や口頭でフィードバックを行う。また、素晴らしいアイデアを投稿したグループには加点点評価を行う。			
8. 成績評価の方法 授業貢献度（グループワーク）：30～40点 期末試験：60～70点 注）期末試験の平均点によって授業貢献度（グループワーク）の評価割合が変わる			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN221J			
経営管理論 B			福原 康 司
2 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 あらゆる組織を経営する際、その妥当性や正当性は、個人（従業員）の立場で考える場合と組織（管理者や経営者）のような立場から捉える場合とでは大きく異なる。例えば、給与が高くなると個人としては嬉しいけれども、人件費が増大するので企業の財務状況は悪くなり、株主から批判され経営者は頭を悩ませてしまう事例からも、このことは明らかである。前者を「個人の視点」、後者を「組織の視点」と呼ぶことにしよう。このように経営には、「個人の視点」と「組織の視点」とに絶えず葛藤がある。しかしながら、持続発展的な経営を熟慮すると、この個人と組織の複眼的視点で眺めることが不可欠となる。 本授業では、両視点のうち、とりわけ「組織の視点」から経営を眺める時に考慮しなければならない要素を主に取り上げ、古典的理論を振り返りながらその現代的な意味を考えていく。 〈到達目標〉 経営学における諸理論の歴史的な成長・発展の軌跡を理解すると同時に、それらの理論が現代の経営に対してどのように適用できるかについて考える洞察力を養うことを達成目標とする。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：近代経営学の生成と組織近郊（グループワーク） 第3回：近代経営学の生成と組織近郊（理論編） 第4回：意思決定論とやり過ぎの効能（グループワーク） 第5回：意思決定論とやり過ぎの効能（理論編） 第6回：環境適応(コンティンジェンシー)理論（グループワーク） 第7回：環境適応(コンティンジェンシー)理論（理論編） 第8回：経営戦略論の系譜（グループワーク） 第9回：経営戦略論の系譜（理論編） 第10回：経営戦略のポジショニング・アプローチ（グループワーク） 第11回：経営戦略のポジショニング・アプローチ（理論編） 第12回：経営戦略の資源アプローチ（グループワーク） 第13回：経営戦略の資源アプローチ（理論編） 第14回：まとめ			
3. 履修上の注意 授業はパワーポイントを用いて、適宜タブレットPCや板書に書き込みを行う。パワーポイントのスライドの重要な箇所を空所にした講義ノートを授業内で配布し、スライドを見ながら空所補充してもらうスタイルを採用する。また、講義内容に関連するトピックスについて、定期的にグループワークを行ってもらう。したがって、アクティブラーニングを採用するので、受け身で講義に参加すると単位が危ぶまれるのでご注意ください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に配布した講義ノートを基に、教科書の内容と照合して予習や復習を行って欲しい。また、グループワークでは事前に予備知識を持ち寄らないとアイデアが思いつかないトピックスもあり、そうした回はグループワークの内容を事前に提示するので、図書館のデータベースを利用して事前学習をしてもらうことになる。			
5. 教科書 馬場杉夫・蔡仁錫・福原康司他著（2015）『マネジメントの航海図』中央経済社			
6. 参考書 佐々木利廣・福原康司編著（2022）『自分事化の組織論』学文社			
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期的に行うグループワークの内容を電子掲示板にアップロードしてもらうので、その内容についてコメントの付記や口頭でフィードバックを行う。また、素晴らしいアイデアを投稿したグループには加点点評価を行う。			
8. 成績評価の方法 授業貢献度（グループワーク）：30～40点 期末試験：60～70点 注）期末試験の平均点によって授業貢献度（グループワーク）の評価割合が変わる			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営哲学A		佐藤 聡彦	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 「授業の概要」 経営活動のグローバル化、A I（人工知能）の発達など科学技術の高度化に伴い、経営を「哲学する」ことは、極めて重要な行為となっている。そこで本講は、経営体として取り扱う経営哲学の諸研究を中心に据えていく。なかでも、企業・経営・事業の経営体3要素の枠組みに基づき、企業・経営・事業の各要素について考察していく。さらに3要素に基づき問題の所在が複雑化、複合化しつつある現代の経営について批判的に検討をめざすものである。本講の出発点として経営学のもつ二側面と経営哲学の意義を検討したのち、「学理としての経営学」の根源を古典的理論に求め、3つの科学化（作業の科学化、管理の科学化、組織の科学化）の歴史とし、経営哲学の諸研究を下敷きに批判的に検討する。さらに「経営という実践（および存在）」を「哲学する」にあたり、経営者哲学、社会的責任論を手掛かりとしつつ、現代の経営体の倫理的、価値的、道徳的側面について事例を踏まえながら受講者とともに考えることとしたい。「到達目標」 そもそも哲学とは、論理的な思考に基づき、物事や事象を「疑ってみること」と「本質を問うこと」といえる。その対象として本講では、主に「学理としての経営学」と「経営という実践（および存在）」を取り扱う。そこでは、経営体は協働「生活」体であり、「活きて生きる」協働システムであるという前提のもと、あくまで倫理性は自律的、内生的に立ち上がるべきものとして捉える。これら2つの視点を受講者各位が「腑に落ちる」ものとして身に付けることを本講の到達目標とする。			
2. 授業内容 第1回：プロローグ、経営哲学とは 第2回：経営学を哲学する①古典的系譜と課題：科学的管理法と作業の科学化、意思決定と管理の科学化、官僚制と組織の科学化、個と全体の融和等について解説する。 第3回：経営学を哲学する②古典的系譜：科学的管理法と作業の科学化、意思決定と管理の科学化、官僚制と組織の科学化、個と全体の融和等について解説する。 第4回：経営学を哲学する③古典的系譜：科学的管理法と作業の科学化、意思決定と管理の科学化、官僚制と組織の科学化、個と全体の融和等について解説する。 第5回：経営者哲学①事業経営の理念：渋沢栄一、岩崎弥太郎など産業黎明期においてわが国を代表する経営者の事業に対する理念・思想を考える。 第6回：経営者哲学②事業経営の理念：松下幸之助、小林一三など戦前・戦後代表する経営者の事業に対する理念・思想を考える。 第7回：経営者哲学③事業経営の理念：盛田昭夫、本田宗一郎など戦後を代表する経営者の事業に対する理念・思想を考える。 第8回：経営者哲学④事業経営の理念：稲盛和夫、小倉昌男など20世紀を代表する経営者の事業に対する理念・思想を考える。 第9回：経営者哲学⑤事業経営の理念：孫正義、柳井正など現代を代表するベンチャーから大企業に成長させた経営者の事業に対する理念・思想を考える。 第10回：経営哲学の方法①科学哲学におけるパラダイムの議論、経営哲学の方法論について概説する。 第11回：経営哲学の方法②科学哲学におけるパラダイムの議論、経営哲学の方法論について概説する。 第12回：経営哲学の方法③科学哲学におけるパラダイムの議論、経営哲学の方法論について概説する。 第13回：学理と実践：C S R 論①企業の社会的責任論、フィランソロフィー論などを踏まえて検討する。 第14回：学理と実践：C S R 論②企業の社会的責任論、フィランソロフィー論などを踏まえて検討する。			
3. 履修上の注意 この講義は、対面型授業により開講する。事前学習、及び開講時Q & Aの際に広く求める受講者とのディスカッションによって主に構成されるので、受講者のプロアクティブな関わりを期待する（適宜、外部講師を招く場合もあり得る）。また本講は抽象概念を扱うため、現象面への興味のある向きには退屈かもしれない。同時に受動的にレクチャーを受けようという考えにも馴染まない。なお、資料配布は各回の講義時のみである。事後配布はいかなる理由があろうとも行わないので注意されたい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習として、1時間程度、日本経済新聞の経営及び経営者に関する記事（企業不祥事などのコメントも可能）を取り上げ、現代の経営に関する課題を抽出しておくこと。さらに、講義で簡潔に（3分以内で）報告できるよう自らの考えを示しておくこと。講義資料をもとに講義で提示する参考書などによる復習を必要とする（1時間程度）。			
5. 教科書 特定の教科書は用いない。随時、配布資料等により講義を進める。			
6. 参考書 三戸公（1973）『官僚制』未来社、村田晴夫（1984）『管理の哲学』文眞堂、小笠原英司（2004）『経営哲学研究序説：経営学的経営哲学の構想』文眞堂、ほか適宜、講義時に示す。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出された課題については、随時、講義中のコメント等をもって受講者へのフィードバックとする計画である。			
8. 成績評価の方法 不定期（対面授業時）あるいは定期に実施する小レポート、および平常時の授業への参加（40％）、期末レポート（60％）の合計点により総合的に評価する。「平常時の授業への参加」とは、対面講義時に出席者に問いを発することがあるので、その際に自己の考えを説得的に述べた場合、随時、加点されることを意味する。※対面形式での試験は行わない。			
9. その他 問い合わせなどの連絡先はOh-oi Meijiクラスウェブで公開する。			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営哲学B		佐藤 聡彦	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 「授業の概要」 本講は春学期に実施した経営哲学Aを基礎とするものであり、その受講を前提とする。経営活動のグローバル化、A I（人工知能）の発達など科学技術の高度化に伴い、経営を「哲学する」ことは、極めて重要な行為となっている。そこで本講は、経営体として取り扱う経営哲学の諸研究を中心に据えていく。なかでも、企業・経営・事業の経営体3要素の枠組みに基づき、企業・経営・事業の各要素について考察していく。さらに3要素に基づき問題の所在が複雑化、複合化しつつある現代の経営について批判的に検討をめざすものである。本講の出発点として経営哲学Aで履修した内容（3つの科学化（作業の科学化、管理の科学化、組織の科学化）の歴史、経営者哲学、方法論、社会的責任論）を手掛かりとしつつ、現代の経営体の倫理的、価値的、道徳的側面について、地球環境問題を考察の対象とし、環境思想、環境経営、環境経営の具現化の方法等について事例を踏まえながら受講者とともに考える。このため本講は、「経営という実践（および存在）」を「哲学する」ことに比重をおく。「到達目標」 そもそも哲学とは、論理的な思考に基づき、物事や事象を「疑ってみること」と「本質を問うこと」といえる。その対象として本講では、主に「学理としての経営学」と「経営という実践（および存在）」を取り扱う。そこでは、経営体は協働「生活」体であり、「活きて生きる」協働システムであるという前提のもと、あくまで倫理性は自律的、内生的に立ち上がるべきものとして捉える。これら2つの視点を受講者各位が「腑に落ちる」ものとして身に付けることを本講の到達目標とする。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション：経営哲学とは 第2回 学理と実践・環境思想①：哲学、歴史学、文化人類学、社会学等の幅広い分野での自然と人間に関する所説をもとに現代の地球環境問題の本質を考える。 第3回 学理と実践・環境思想②：哲学、歴史学、文化人類学、社会学等の幅広い分野での自然と人間に関する所説をもとに現代の地球環境問題の本質を考える。 第4回 社会における実践・環境法論：「規制産業」と言われる環境経営の基礎としての国内法令について概説する。 第5回 学理と実践・環境経営論①：経営学、経済学、社会学等で議論されるようになった環境経営について理論と企業の実践としての方向性を示す。 第6回 学理と実践・環境経営論②：経営学、経済学、社会学等で議論されるようになった環境経営について理論と企業の実践としての方向性を示す。 第7回 環境経営の実践・事業レベル①：地球温暖化対策、資源循環の2つの柱から企業の実践としての環境経営を事業レベルで事例を踏まえながら考える。 第8回 環境経営の実践・事業レベル②：地球温暖化対策、資源循環の2つの柱から企業の実践としての環境経営を事業レベルで事例を踏まえながら考える。 第9回 環境経営の実践・製品レベル①：地球温暖化対策、資源循環の2つの柱から企業の実践としての環境経営を製品レベルで事例を踏まえながら考える。 第10回 環境経営の実践・製品レベル②：地球温暖化対策、資源循環の2つの柱から企業の実践としての環境経営を製品レベルで事例を踏まえながら考える。 第11回 環境経営の実践・拠点レベル①：地球温暖化対策、資源循環の2つの柱から企業の実践としての環境経営を拠点レベルで事例を踏まえながら考える。 第12回 環境経営の実践・拠点レベル②：地球温暖化対策、資源循環の2つの柱から企業の実践としての環境経営を拠点レベルで事例を踏まえながら考える。 第13回 地域社会と環境①：地球温暖化対策、資源循環の2つの柱をもとに、地域社会における実践としての環境保全活動について事例を踏まえながら考える。 第14回 地域社会と環境②：地球温暖化対策、資源循環の2つの柱をもとに、地域社会における実践としての環境保全活動について事例を踏まえながら考える。			
3. 履修上の注意 この講義は、対面型授業により開講する。事前学習、及び開講時Q & Aの際に広く求める受講者とのディスカッションによって主に構成されるので、受講者のプロアクティブな関わりを期待する（適宜、外部講師を招く場合もあり得る）。また本講は抽象概念を扱うため、現象面への興味のある向きには退屈かもしれない。同時に受動的にレクチャーを受けようという考えにも馴染まない。なお、資料配布は各回の講義時のみである。事後配布はいかなる理由があろうとも行わないので注意されたい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習として、1時間程度、日本経済新聞の環境経営及び環境経営に関する経営者の記事を取り上げ、現代の経営に関する課題を抽出しておくこと。さらに、講義で簡潔に（3分以内で）報告できるよう自らの考えを示しておくこと。講義資料をもとに講義で提示する参考書などによる復習を必要とする（1時間程度）。			
5. 教科書 特定の教科書は用いない。随時、配布資料等により講義を進める。			
6. 参考書 三戸公（1973）『官僚制』未来社、村田晴夫（1984）『管理の哲学』文眞堂、小笠原英司（2004）『経営哲学研究序説：経営学的経営哲学の構想』文眞堂、ほか適宜、講義時に示す。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出された課題については、随時、講義中のコメント等をもって受講者へのフィードバックとする計画である。			
8. 成績評価の方法 不定期（対面授業時）あるいは定期に実施する小レポート、および平常時の授業への参加（40％）、期末レポート（60％）の合計点により総合的に評価する。「平常時の授業への参加」とは、対面講義時に出席者に問いを発することがあるので、その際に自己の考えを説得的に述べた場合、随時、加点されることを意味する。※対面形式での試験は行わない。			
9. その他 問い合わせなどの連絡先はOh-oi Meijiクラスウェブで公開する。			

科目ナンバー：(BA)MAN321J			
経営戦略論A 【経営学科・会計学科共同設置】			歌代 豊
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 経営戦略論Aは、「戦略論の系譜と戦略策定の基礎理論」をサブテーマに経営戦略の基本概念や主要な理論を把握する。 <到達目標> 経営戦略の定義、企業戦略策定、ポジショニングアプローチに基づく事業戦略策定、事業システム、水平戦略等に係わる基本概念・理論を理解することを目的とする。			
2. 授業内容 # 1～2. 経営戦略とは イントロダクション 戦略の定義/戦略の階層と構成要素/ 戦略策定のプロセス、等 # 3～5. 企業戦略の策定 ミッション/ドメイン 成長と多角化の戦略/PPM、等 # 6～10. 事業戦略の策定 事業戦略の基礎理論：規模の経済/経験曲線、 PLC/セグメンテーション/ターゲティング/ ポジショニング、等 基本戦略：コストリーダーシップ/差別化/集中 外部環境分析：SCPモデル、業界構造分析（5つの力）、等 内部資源分析：価値連鎖分析、等 # 11～13. 企業戦略と事業戦略の境界領域 事業システム、等 水平戦略、等 補完製品戦略、アーキテクチャ戦略、等 # 14. 演習とまとめ			
3. 履修上の注意 経営戦略論Bとあわせて履修することが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、次回テーマに関して予習をすること。			
5. 教科書 吉村孝司編著『経営戦略』学文社、2006年。			
6. 参考書 ・グロービス・マネジメント・インスティテュート編『MBA経営戦略』ダイヤモンド社、1999年。 ・マイケル・ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985年。 ・ヘンリー・ミンツバーグ『戦略サファリ』東洋経済新報社、1999年。 ・ジェイ・バーニー『企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド社、2003年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 定期試験（60％）、レポート（30％）、小テスト・ミニ演習・授業貢献等（10％）により総合的に評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN321J			
経営戦略論B 【経営学科・会計学科共同設置】			歌代 豊
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 経営戦略論Bは、「戦略の策定とマネジメントの実践」をサブテーマに経営戦略の実践・応用面に焦点をあてる。まず、戦略と組織・プロセスとの関係を議論する。加えて、戦略を適切に創造・管理するためのシステムとして着目されているバランススコアカードの概要と可能性を検討する。 <到達目標> 経営戦略論Aで学んだフレームワーク/手法を事例・演習等をとおして理解を深め、環境分析と戦略思考の能力育成を図る。			
2. 授業内容 # 1. イントロダクション 戦略の策定とマネジメントの概要 # 2～5. 戦略策定プロセスの実践的側面 ロジカルシンキング 外部環境分析 内部資源分析 SWOT分析 # 6～10. 戦略マネジメントとバランススコアカード 戦略のセオリーと体系化 マネジメントシステムの課題とバランススコアカード（BSC） 戦略マップ 戦略の組織展開とカスケード BSCの運用（モニタリングと戦略学習ループ）と発展段階、等 # 11～14. 戦略と組織の関係、および新たな戦略論 プロセス型戦略論：創発戦略、等 リソースベースビュー：見えざる資産/ VRIO分析/コアコンピタンス、等 ゲームアプローチ：コミットメント/オプション、等			
3. 履修上の注意 経営戦略論Aを履修していることが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、次回テーマに関して予習をすること。			
5. 教科書			
6. 参考書 ・小原重信・浅田孝幸・鈴木研一編、『プロジェクト・バランス・スコアカード』、生産性出版、2004年。 ・バランススコアカードフォーラム編『バランス・スコアカード経営実践マニュアル―効果が上がるBSCプロジェクトの進め方』中央経済社、2004年。 ・M・トレーシー& F・ウィアセマ、『ナンバーワン企業の法則』、日経ビジネス人文庫、2003年。 ・ゲイリー・ハメル& C・K・ブラハラード、『コアコンピダンス経営』、日経ビジネス文庫、2001年。 ・ジェイ・バーニー『企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 定期試験（60％）、レポート（30％）、小テスト・ミニ演習・授業貢献等（10％）を総合的に評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN321E			
Innovation Strategy in Japan A			近 藤 光
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <Course Summary> In this course, students will learn about the historical development of management and economic development in Japan from the Edo period to the present. The class will cover many aspects, including the environment surrounding each company, entrepreneurs, personnel, and connections with the government and business organizations. The focus of the analysis will be on entrepreneurship and innovation. This course aims to deepen students' understanding of Japanese companies by studying the chronological development of Japanese management centered on the innovative activities of entrepreneurs. By examining the activities of corporations and entrepreneurs in detail, students will acquire the ability to think based on basic knowledge of business administration and the thinking skills required of business people. <Objectives> The objectives of this class are as follows 1. To understand the history of the development of Japanese companies. 2. To understand and be able to explain the innovative activities of entrepreneurs. 3. To be able to consider issues faced by modern Japanese companies.			
2. 授業内容 Part 1: Introduction Part 2: Entrepreneurs in the Edo Period Part 3: Management Innovation by Mitsui Takatoshi and Nakai Genzaemon Part 4: Entrepreneurs from the end of the Edo period to the Russo-Japanese War Part 5: Innovative Actions by Professional Managers and Investors Part 6: Overview from World War I to the 1980s Part 7: Creation of New Industries by Ichizo Kobayashi Part 8: Management innovation by Yasuzaemon Matsunaga Part 9: Sazo Idemitsu and Yataro Nishiyama Part 10: Kiichiro Toyoda and Soichiro Honda Part 11: Innovation in the Home Appliance Industry Part 12: Entrepreneurial activities after the War Part 13: Convenience Store Innovation by Toshifumi Suzuki Part 14: Representative Entrepreneurs of Today and Future Japanese Companies *The content of the study may be changed according to the student's level of understanding and other factors.			
3. 履修上の注意 Entry time limit 15 minutes after opening lecture. Each class will have assignments related to the course content.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students must download the study material from "Class Web" on "Oh-o! Meiji" and check the contents before the lecture. Review the handouts for each session to deepen your understanding and organize what you have learned.			
5. 教科書 Handout data is delivered from "Oh-o! Meiji" website.			
6. 参考書 Kikkawa, T. (2019) Inobeshon no Rekishi [History of Innovation] Tokyo: Yuhikaku.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be provided at the next class.			
8. 成績評価の方法 The evaluation will be based on the assignments conducted each time (50%) and the confirmation test conducted at the end of the term (50%).			
9. その他 All the lessons are in English. Students are required to bring Note-PC, smartphone, or tablet with telecommunication capability. This class will use "Oh-o! Meiji" for attendance registration.			

科目ナンバー：(BA)MAN321E			
Innovation Strategy in Japan B			近 藤 光
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <Course Summary> In Innovation Strategy in Japan A, we studied the innovation activities of entrepreneurs historically from the past to the present. In Innovation Strategy in Japan B, we will focus on contemporary Japanese companies and learn about innovation mechanisms using corporate innovation and product/service development cases. Although the innovation activities of Japanese companies have stagnated in recent years, some Japanese companies are leading innovative activities in various industries. In this class, students will understand the basic concepts of innovation and acquire practical thinking through case studies of such Japanese companies. <Objectives> The objectives of this class are as follows 1. To understand innovation activities by Japanese companies in recent years. 2. To understand the theory of innovation and to be able to explain it in one's own words. 3. To understand the challenges faced by modern Japanese companies and to be able to consider solutions to these challenges.			
2. 授業内容 Part 1: Introduction / Theory of Innovation Part 2: Innovation in the Electronics Industry 1: Organizational Change Part 3: Innovation in the Electronics Industry 2: Organizational Change Part 4: Innovation in the Beauty Industry 1: New Market Development Part 5: Innovation in the Beauty Industry 2: New Market Development Part 6: Innovation in the Construction Equipment Industry 1: Global Strategy Part 7: Innovation in the Construction Equipment Industry 2: Global Strategy Part 8: Innovation in the Retail Industry 1: Creating an E-Commerce Business Part 9: Innovation in the Retail Industry 2: Globalization and Culture Part 10: Innovation in the Creative Industry 1: The Case of the Animation Business Part 11: Innovation in the Creative Industry 2: The Case of the Animation Business Part 12: Innovation in the Creative Industry 3: The Case of the Video Game Business Part 13: Innovation in the Creative Industry 4: The Case of the Video Game Business Part 14: Summary (Innovation Activities of Japanese Firms) *The content of the study may be changed according to the student's level of understanding and other factors.			
3. 履修上の注意 Entry time limit 15 minutes after opening lecture. Each class will have assignments related to the course content.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students must download the study material from "Class Web" on "Oh-o! Meiji" and check the contents before the lecture. Review the handouts for each session to deepen your understanding and organize what you have learned.			
5. 教科書 Handout data is delivered from "Oh-o! Meiji" website.			
6. 参考書 References will be introduced in each class according to the content.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be provided at the next class.			
8. 成績評価の方法 The evaluation will be based on the assignments conducted each time (50%) and the confirmation test conducted at the end of the term (50%).			
9. その他 All the lessons are in English. Students are required to bring Note-PC, smartphone, or tablet with telecommunication capability. This class will use "Oh-o! Meiji" for attendance registration.			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
イノベーション・マネジメントA		新 宅 純 二 郎	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 今日、ITや通信技術の進歩、半導体、AIなどの技術革新の進展を背景にして、様々な産業でイノベーションが進行しつつある。企業経営としてそうしたイノベーションをいかに先導するのか、イノベーションの進行に対していかに対応するのかが問われている。その際、イノベーションを遂行するために、どのように戦略と組織をマネジメントするか、また、外部の企業とどのような連携をとっていくか、どのようなエコシステムを構築していくかなど、多様な経営問題がある。本講義では、このような新たな企業経営の課題に応えるイノベーション・マネジメントに関して、事例研究と理論研究の両視点から総合的に論じる。 <到達目標> イノベーション・マネジメントに関わる諸理論の意義と限界を理解すること、および、企業の具体的現場の問題をイノベーション・マネジメントの諸理論を応用して自ら分析できるようにすることを到達目標とする。			
2. 授業内容 テキストに即しながら、以下のような構成で進めます。 初回 ガイダンス 第1回 イノベーション・マネジメントとは（1章） 第2回 イノベーションの歴史（2章） 第3回 イノベーションと企業の栄枯盛衰（3章） 第4回 産業とイノベーション（4章） 第5回 イノベーションの測定（5章） 第6回 イノベーションとアントレプレナーシップ（6章） 第7回 イノベーションを実現する資源動員と知識創造（7章） 第8回 新製品開発のマネジメント（8章） 第9回 イノベーションと企業戦略（9章） 第10回 イノベーションと企業間システム（10章） 第11回 イノベーションと政策・制度（11，12章） 第12回 イノベーション創出のための知的財産権マネジメント（13，14章） 第13回 イノベーションと規制・制度 第14回 a：試験 b：まとめと試験問題の解説			
3. 履修上の注意 本授業に関連する背景的知識・基礎的知識を有すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回でとりあげるテキストの該当章を事前に読み、基本的な内容についての理解をしたらうで授業に出席すること。テキストで不明な点について、教室で質問するように、質問をいくつか用意してきてください。授業中に質疑の時間を設けて、対応します。			
5. 教科書 『イノベーションマネジメント入門 新装版』一橋大学イノベーション研究センター（日本経済新聞社）			
6. 参考書 授業中に各種の文献や論文などを紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストについては、授業中にテスト問題の解説を行う。また、最終テストについても、実施後に解説する。			
8. 成績評価の方法 成績評価は、平常点（50％）と最終試験（50％）で行います。平常点は、毎回の質問カードの提出と授業中の小テスト（1～2回）。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
イノベーション・マネジメントB		新 宅 純 二 郎	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 今日、イノベーションをいかに先導するのか、イノベーションの進行に対していかに対応するのかが問われている。その際、イノベーションを遂行するために、どのように戦略と組織をマネジメントするか、また、外部の企業とどのような連携をとっていくか、どのようなエコシステムを構築していくかなど、多様な経営問題が問われている。本講義では、このような新たな企業経営の課題に応えるイノベーション・マネジメントに関して、重要なトピックとそれに対応する事例を取り上げながら、プロアクティブな学習を進めていく。 <到達目標> イノベーション・マネジメントの諸理論を具体的な問題に適用して、自ら分析してマネジメントとして有益な提案ができるようになることを到達目標とする。			
2. 授業内容 第1回 ガイダンス 第2回 チーム研究のチーム編成 第3回 脱成熟【講義】&チーム討議 第4回 新興国市場戦略【講義】&チーム討議 第5回 破壊的イノベーション（1）【講義】&チーム討議 第6回 チーム研究 中間発表（1） 第7回 チーム研究 中間発表（2） 第8回 破壊的イノベーション（2）【講義】&チーム討議 第9回 オープン&クローズ戦略（1）【講義】&チーム討議 第10回 オープン&クローズ戦略（2）【講義】&チーム討議 第11回 知財戦略【講義】&チーム討議 第12回 チーム研究発表準備 第13回 チーム研究 最終発表（1） 第14回 チーム研究 最終発表（2）			
3. 履修上の注意 本講義に関連する背景的知識・基礎的知識を有すること。特に、イノベーション・マネジメントAの講義を履修済みであることが強く望まれる。未履修の学生はイノベーションAの教科書についてのレポート提出することが履修要件である。講義と学生によるチームによる研究とで構成するので、チームとして取り上げた課題について、自分たちで調べて発表をすることが求められる。チーム研究は5～8名程度で構成し、特定の産業を取り上げて、その中でのイノベーションについて、イノベーションが求められる背景、イノベーションの内容、イノベーションが普及するためのボトルネックとその解決方法などについてまとめる。昨年度は、自動車、鉄鋼、食品、物流、半導体、化粧品などが取り上げられた。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中の課題について、自分で調べて分析し、課題を提出し、授業中に発表する。			
5. 教科書 特に指定しない。			
6. 参考書 天野倫文・新宅純二郎・中川功一・大木清弘（2015）『新興国市場戦略論』有斐閣。 新宅 純二郎（1994）『日本企業の競争戦略—成熟産業の技術転換と企業行動—』有斐閣。 小川紘一（2015）『オープン & クローズ戦略』翔泳社。 Christensen, C. M. (2012) 『イノベーションのジレンマ』翔泳社。 新宅純二郎・田中辰雄・柳川範之（2003）『ゲーム産業の経済分析』東洋経済新報社。 その他、授業中に各種の文献や論文などを紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については、授業中に解説を行う。			
8. 成績評価の方法 成績は、授業中の課題提出とチーム研究の発表で評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)CMM311J			
マーケティング・マネジメントA			原 田 将
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 日本企業は高い技術力を持っているのにも関わらず欧米企業より利益率が低いことが指摘されている。その原因の一つとしてマーケティングの問題がある。優れた製品開発力などのものづくりにおける優位性だけでなく、それらをいかに収益に結びつけていくのかといったマーケティングにおける優位性が企業の競争優位獲得において重要である。 そこで本講義では、マーケティング・マネジメントの基本概念と現代的問題について講義する。マーケティング・マネジメントに関する問題は幅広い内容、講義内容は多岐にわたる。とりわけ、デジタル技術やAIの発展など、マーケティングを取り巻く環境は大きく変化している。そうした、最新の動向も踏まえながら、マーケティング・マネジメントの基本的概念や現代的問題について事例を交えながら説明する。 〈到達目標〉 マーケティング・マネジメントの基礎概念を習得すると同時に、マーケティングの現代的問題についても理解できるようになる。さらには、個人がマーケティング志向（マーケティング・マインド）の重要性をしっかりと認識することも本講義の目標である。 2. 授業内容 本授業ではマーケティングの現代的問題や新しい概念を中心に説明する。 第1回 イントロダクション（講義の進め方、マーケティングを学ぶ意義） 第2回 マーケティングの現代的問題 第3回 競争対応とマーケティング 第4回 近年の消費行動とマーケティング 第5回 資源配分とマーケティング 第6回 市場調査・STPの現代的問題 第7回 製品政策の現代的問題 第8回 価格政策の現代的問題 第9回 流通政策の現代的問題 第10回 販売促進政策の現代的問題 第11回 企業の社会的責任とマーケティング 第12回 DXとマーケティング 第13回 マーケティング研究における新しいコンセプト 第14回 総括 3. 履修上の注意 遅刻は厳禁である。授業中、私語は認めない。 4. 準備学習（予習・復習等）の内容 日ごろから日本経済新聞や日経ビジネスなどを読むこと。 5. 教科書 毎回、資料を配布する。 6. 参考書 適宜紹介する。 7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にフィードバックする。 8. 成績評価の方法 出席（20点）、課題レポート（30点×2回）、授業中のリアクションペーパー（20点）で評価。 9. その他 受講に際して最低限のマナーは厳守すること。特に、講義中のスマートフォンの使用、私語は認めない。また、10分以上の遅刻も認めない。やむを得ない事情によって欠席する場合、事前連絡があったのみ考慮する。			

科目ナンバー：(BA)CMM311J			
マーケティング・マネジメントB			原 田 将
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 マーケティング・マネジメントにおける中心的課題として、ブランド構築がある。ブランドが構築されれば、企業は価格競争を回避でき、安定した収益を確保することができる。しかしながら、ブランド構築は容易ではない。ブランド構築のためには、適切な戦略だけでなく適正な組織づくりも必要になる。そこで、本授業では、ブランド構築における戦略から組織に関わる問題まで、幅広い視点でブランド管理の現代的特徴について講義する。 本授業は、大きく2つのパートからなっている。第1パートは「ブランド・エクイティ」、「ブランド・アイデンティティ」といったブランド管理の基本概念的パートである。第2パートはブランド管理の組織問題（管理内容および組織形態）である。毎回、先駆的な事例を交えながら説明する。 〈到達目標〉 ブランド管理の基礎概念を理解すると同時に、ブランド管理の現代的問題についても理解できるようになること。 2. 授業内容 第1回 イントロダクション（講義の進め方、ブランドの重要性） 第2回 消費者から見るブランド（ブランド・エクイティ） 第3回 企業から見るブランド（ブランド・アイデンティティ） 第4回 ブランド・アイデンティティとブランド・エクイティの関係 第5回 ブランドポートフォリオ（ブランド要素&ブランド体系） 第6回 ブランド管理の歴史的展開 第7回 ブランド管理の現代的特徴 第8回 ブランド志向組織とインターナル・ブランディング 第9回 グローバル企業のブランド管理 第10回 ゲスト講座 第11回 ブランド管理の現代的問題：ブランド管理における慣性の問題 第12回 ブランド管理の現代的問題：グローバル・ブランド管理における優先市場の問題 第13回 ブランド管理の現代的問題：ブランド価値経営の特徴と課題 第14回 総括 3. 履修上の注意 遅刻は厳禁である。授業中、私語は認めない。 4. 準備学習（予習・復習等）の内容 日ごろから日本経済新聞や日経ビジネスなどを読むこと。 5. 教科書 毎回、資料を配布する。 6. 参考書 ケビン・レーン・ケラー（2010）『戦略的ブランド・マネジメント（第3版）』東急エージェンシー。 デービッドA・アーカー（2014）『ブランド論』ダイヤモンド社。 7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内でフィードバックする。 8. 成績評価の方法 出席（20点）、課題レポート（30点×2回）、授業中のリアクションペーパー（20点）から評価する。 9. その他 受講に際して最低限のマナーは厳守すること。特に、講義中のスマートフォンの使用、私語は認めない。また、10分以上の遅刻も認めない。やむを得ない事情によって欠席する場合、事前連絡があったのみ考慮する。			

科目ナンバー：(BA)CMM311J			
グローバル・マーケティング論A		古川 裕 康	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 本講義は、グローバル・マーケティングの専門的な知識を養成することを目的とする。本講義では特にグローバル・マーケティングの基礎、そして展開プロセスに焦点を当てる。現在、ヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源を国内市場のみから調達することは難しく、海外の消費者と触れ合う機会も多いのが現状である。この点を踏まえ本講義では ・なぜ企業経営にグローバル・マーケティングの考え方が必要なのか ・いつ、どのように企業はグローバル・マーケティングへと足を踏み入れるのか ・どのようなプロセスを経てグローバル・マーケティングは展開されていくのか というテーマを基に関連する事例やフレームワークを用いて解説する。 本講義ではまず、グローバル・マーケティングとは何か、それはマーケティング・マネジメントとどのように繋がっているのか、日本企業の多くに共通するグローバル・マーケティング上の課題は何かといった点を学習する。その後、海外市場参入のパターンや参入プロセスについての考え方について学ぶ。またケーススタディを通して実際に企業が抱えるグローバル・マーケティング上の課題に触れながら、最終的に各人なりの解決策が提示できるようにすることを目標とする。 〈到達目標〉 この学びを通して、経営学部ディプロマ・ポリシーに掲げられている「歴史的・地理的・文化的背景から多様な人間の特性を理解して協働する能力」、「経営に関する理論・知識を理解し、実践する能力」、「多様な環境において課題を発見し、解決する能力」の養成を目指す。 更に本講義では以下の具体的な能力を身に付けることを目指す。 1. 身近な企業の事例をグローバル・マーケティングの視点から説明することができる。 2. 日本企業の実施しているグローバル・マーケティングの傾向と課題を説明することができる。 3. グローバル・マーケティングとブランド構築の関係を説明することができる。 4. グローバル・マーケティングの一般的な発展プロセスを説明することができる。 5. グローバル・マーケティングの観点から市場参入のパターンについて説明することができる。			
2. 授業内容 第1回 (a) イントロダクション： 本講義の特徴ならびにルールについて説明する。 (b) グローバル・マーケティングとは： グローバル・マーケティングの定義、歴史、発展形態について解説する。 第2回 グローバル・マーケティングの分析枠組み： グローバル・マーケティングの発展段階について解説し、なぜ、そしてどのように企業が国際化するのかについて解説する。 第3回 日本企業が抱える課題： 過剰品質問題の観点から日本企業が抱えるグローバル・マーケティング上の課題について明らかにし、それを克服するための考え方について解説する。 第4回 【Case】最新技術とニーズ、どちらを重視すべきか： 技術を要する技術者と市場環境を重視するマーケティングの対立をケースとして、第3回で取り扱った内容について議論する。 第5回 EPRCプロファイル： 経営者の意思決定についてのモデルを解説し、グローバル・マーケティングの意思決定プロセスについて明らかにする。 第6回 標準化－適応化フレームワーク： 標準化－適応化フレームワークについて解説し、経営者の意思と本フレームワークの関係性について明らかにする。 第7回 ブランド・コンセプトとグローバル・マーケティング構築： コア・コンセプト、サブ・コンセプトから構成されるブランド・コンセプトを基に、どのようにグローバル・マーケティングを構築するかについての考え方を解説する。 第8回 グローバル製品展開： モジュラー型・インテグラル型のアーキテクチャー別製品開発をグローバル・マーケティングの観点から展開する際の課題について解説する。 第9回 グローバル価格展開： グローバルの観点から価格マネジメントにおいて考慮しなければならない要素について解説し、シェアリングやダイナミックプライシングの登場による新しいグローバル価格展開の考え方について解説する。 第10回 【Case】セカンドブランドの開発： 商品を各国市場に浸透させるために「低価格なセカンドブランド」を構築すべきか否かについて第8回、第9回の内容を踏まえて議論する。 第11回 新興市場でのイノベーション： 消費市場としては未成熟であっても、イノベーション創出の場として機能する新興市場について解説し、コスト／グロウドイナフ／フルーガル／リパース・イノベーションについて説明する。 第12回 国際市場細分化： 海外市場をどのようなパターンで細分化できるのかについて解説し、市場細分化とブルーオーシャン戦略との関係性について検討する。 第13回 市場参入フレームワーク： 第11回と第12回の内容を踏まえ、新市場へ参入を検討する際の企業のモチベーションと市場参入のプロセスについて解説する。 第14回 グローバル・マーケティングの策定プロセス： これまで解説してきた各概念が、どのように関連し合い、最終的にグローバル・マーケティング策定プロセスに影響をもたらすのかについて解説し、本講義の内容を総括する。			
3. 履修上の注意 受講学生は単に講義の内容を頭の中に入れるだけでなく、グローバル・マーケティングの論理・フレームワークや企業の抱える諸問題を踏まえ、「自分ならどうするのか」について常に考えながら参加すること。 またケーススタディの際には、事前に配布した資料を熟読し、自らの考えや意見を持った状態でなければ参加できない。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で取り扱った事例について、関連する新聞記事や日経ビジネス等の雑誌記事を各自で調べておくこと。			
5. 教科書 古川裕康（2021）『グローバル・マーケティング論』、文真堂。			
6. 参考書 大石芳裕編著（2017）『グローバル・マーケティング零』、白桃書房。 井上良里編著（2020）『グラフィック グローバル・ビジネス』、新世社。 古川裕康（2016）『グローバル・ブランド・イメージ戦略：異なる文化圏ごとにマーケティングの最適化を探る』、白桃書房。 Ghemawat, P. (2009), 『コークの味は国ごとに違うべきか』、文藝春秋。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meijiシステムや下記URL（専用のフォーム）を用いてコミュニケーション＆フィードバックを行う。 https://forms.gle/PQgpr5vS1Kxfj2656			
8. 成績評価の方法 平常点20％、小テスト30％、最終試験50％			
9. その他 本講義を履修するにあたっては、マーケティング分野の基礎的な知識を有していることが望ましい。そのためマーケティング基礎論、マーケティング・マネジメントの関連講義を併せて受講することを勧める。			

科目ナンバー：(BA)CMM311J			
グローバル・マーケティング論B		古川 裕 康	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 本講義は、グローバル・マーケティングの専門的な知識を養成することを目的とする。本講義では特にグローバル・マーケティングと市場環境の関係性に焦点を当てる。展開する国が異なれば、当然のことながら文化的背景・制度・気候・経済状況が大きく異なり、各国の市場間をマネジメントするのは容易ではない。本講義では ・何が各国・各地域の差異を決定づけているのか ・なぜ海外市場への適応だけでは成果が得られないのか というテーマを基に関連する事例やフレームワークを用いて解説する。 本講義ではまずMade in ○○といった原産国情報や、カントリー・バイアス、世界に遍在する文化の傾向といった点から、各国・各地域の差異について検討するフレームワークを学習する。その後、これらの差異を考慮しグローバル・マーケティングを展開するための考え方について議論していく。またケーススタディを通して実際に企業が抱えるグローバル・マーケティング上の課題に触れながら、最終的に各人なりの解決策が提示できるようにすることを目標とする。 〈到達目標〉 この学びを通して、経営学部のディプロマ・ポリシーに掲げられている「歴史的・地理的・文化的背景から多様な人間の特性を理解して協働する能力」、「経営に関する理論・知識を理解し、実践する能力」、「多様な環境において課題を発見し、解決する能力」の養成を目指す。 更に本講義では以下の具体的な能力を身に付けることを目指す。 1. 身近な企業の事例をグローバル・マーケティングの視点から説明することができる。 2. 原産国情報やカントリー・バイアスがグローバル・マーケティングに与える影響について説明することができる。 3. 文化の枠組みとグローバル・マーケティングを関係づけることができる。 4. 市場環境とグローバル・マーケティングの相互作用について説明することができる。 5. グローバル・マーケティングにおけるチャネルの重要性を自らの言葉で表現することができる。			
2. 授業内容 第1回 (a) イントロダクション： 本講義の特徴ならびにルールについて説明する。 (b) グローバル・マーケティングとは： グローバル・マーケティングの定義、歴史、発展形態について解説する。 第2回 カントリー・オブ・オリジン： 手掛かり情報としての原産国（カントリー・オブ・オリジン）がグローバル・マーケティングのプログラム策定にどう影響をもたらすのかについて解説する。 第3回 カントリー・バイアス： 自国で作られた商品をお好む消費者と、特定の国で作られた商品を嫌悪する消費者の存在、そして外国製品に対する肯定的な態度について解説する。 第4回 グローバル・マーケティング・リサーチ： グローバル・マーケティングにおけるリサーチの考え方やプロセスについて解説し、各市場の特徴をどのように測定し市場間の差異と共通性を管理するかについて解説する。 第5回 CAGEフレームワーク： 文化、制度、地理、経済の観点から母国市場と展開先市場の差を考えるCAGEについて解説し、各要素を持つグローバル・マーケティングへの影響を明らかにする。 第6回 【Case】世界標準化プロモーション： 某化粧品メーカーの世界的プロモーションをケースとして、標準化プロモーションの是非について議論する。 第7回 グローバル・プロモーション： 国際的な広告の標準化－適応化について解説し、ポスト・マスメディア時代のグローバル・プロモーションについて説明する。 第8回 文化研究の歴史： グローバル・マーケティングに関連する既存の文化研究がこれまでどのように発展してきたのかについて解説する。 第9回 グローバル・チャネル展開： 延期・投機理論について解説し、ブランド・コンセプトに応じて国際的に構築する流通チャネルの形態が異なることを明らかにする。 第10回 グローバル・サプライチェーン・マネジメント： 世界最大のクロスボーダー戦略である裁定戦略について解説し、世界的なバリューチェーンを構築することの意義と課題について解説する。 第11回 コンテンツを用いたグローバル・マーケティング： アニメ、映画、音楽といったコンテンツは、日本の強みであると共に、製造業主体のグローバル・マーケティングとは様相が異なる。形の無いコンテンツ展開についてグローバル・マーケティングの観点から解説する。 第12回 【Case】キャラクターを用いた製品の海外展開： キャクターを展開する某企業の事例をケースに、ライセンス管理とグローバル・マーケティングの関係性について議論する。 第13回 サービス業の国際化： サービス業においては製造業とは異なるグローバル・マーケティングの考え方が必要となる。サービス業や小売業の国際化を事例としながら、国際的な知識転移とサービス・マーケティングの課題について解説する。 第14回 グローバル・マーケティング： 本講義の内容を総括しながら、グローバル・マーケティングの役割と現代的な意義・課題について解説する。			
3. 履修上の注意 受講学生は単に講義の内容を頭の中に入れるだけでなく、グローバル・マーケティングの論理・フレームワークや企業の抱える諸問題を踏まえ、「自分ならどうするのか」について常に考えながら参加すること。 またケーススタディの際には、事前に配布した資料を熟読し、自らの考えや意見を持った状態でなければ参加できない。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で取り扱った事例について、関連する新聞記事や日経ビジネス等の雑誌記事を各自で調べておくこと。			
5. 教科書 古川裕康（2021）『グローバル・マーケティング論』、文真堂。			
6. 参考書 大石芳裕編著（2017）『グローバル・マーケティング零』、白桃書房。 井上良里編著（2020）『グラフィック グローバル・ビジネス』、新世社。 古川裕康（2016）『グローバル・ブランド・イメージ戦略：異なる文化圏ごとにマーケティングの最適化を探る』、白桃書房。 Ghemawat, P. (2009), 『コークの味は国ごとに違うべきか』、文藝春秋。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meijiシステムや下記URL（専用のフォーム）を用いてコミュニケーション＆フィードバックを行う。 https://forms.gle/PQgpr5vS1Kxfj2656			
8. 成績評価の方法 平常点20％、小テスト30％、最終試験50％			
9. その他 本講義を履修するにあたっては、マーケティング分野の基礎的な知識を有していることが望ましい。そのためマーケティング基礎論、マーケティング・マネジメントの関連講義を併せて受講することを勧める。			

科目ナンバー：(BA)CMM311E			
Strategic Marketing A			松 浦 良 高
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <Course Outline> The heart of every successful business lies in marketing. Most aspects of any business depends on successful marketing. Welcome to Strategic Marketing A! This interactive class is taught by a marketing executive who is engaged in real business, and aim to give you a good understanding of basic marketing concepts in English. 本授業では、戦略マーケティングに関する講義・ディスカッションを英語で行います。日本にいながら、欧米の授業スタイルを取り入れ、多くの留学生とともに海外留学の疑似体験をしながら、マーケティングについて学ぶことができます。講師は、20年以上広告会社でマーケティング職として勤務している実務者です。 <Objectives> The goal for students is to acquire basic and practical knowledge of strategic marketing, including trends and issues related to marketing. Students can also improve English presentation skills through individual presentations and group discussions. 本授業の目的は、基本的かつ実践的な戦略マーケティングの知識や最新の潮流を学ぶことです。 学生は、個人プレゼンやグループディスカッションを通じて、英語のプレゼンスキルなどを向上させることができます。			
2. 授業内容 Each class would be designed to have two major sections: lecture (a) and group discussion (b). First half of the class provide the basic knowledge of marketing. Based on the knowledge, students will discuss and share certain topics in the second half of the class. We would have 2 - 3 guest lectures to broaden your view towards marketing. Week 1 Course Introduction Week 2 Definition of Marketing (a) Group Discussion (b) Week 3 Developing Marketing Strategies and Plans (a) Group Discussion (b) Week 4 Gathering Information and Scanning the Environment (a) Group Discussion (b) Week 5 Conducting Marketing Research (a) Group Discussion (b) Week 6 Individual Presentation: Town Watching (a) Group Discussion (b) Week 7 Individual Presentation: Town Watching (a) Group Discussion (b) Week 8 Analyzing Consumer Markets (a) Group Discussion (b) Week 9 Identifying Market Segments and Targets (a) Group Discussion (b) Week 10 Creating powerful ideas (a) Group Discussion (b) Week 11 Digital Marketing (a) Group Discussion (b) Week 12 Dealing with Competition (a) Group Discussion (b) Week 13 Case Study: Students Presentation Week 14 Case Study: Students Presentation			
3. 履修上の注意 Course preparations: This course will be interactive, so active participation is required.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本科目の履修に必要な英語力の目安はTOEIC 700点程度であるが、たとえ未達であっても積極的に英語に取り組みたい学生の履修は歓迎する。 The TOEIC level necessary for registering for this course is around 700, but even if you are not above 700, I welcome students who strongly want to improve their English skills.			
5. 教科書 None. Handouts are given every time.			
6. 参考書 Kotler, P. and Keller, K.L. () Marketing Management, Pearson International Edition 「マーケティング英語の教科書」、松浦良高、宣伝会議 (For Japanese, non-native English speakers)			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 30% group discussion, 30% case study presentation, 40% individual report			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)CMM311E			
Strategic Marketing B			松 浦 良 高
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <Course Outline> The heart of every successful business lies in marketing. Most aspects of any business depends on successful marketing. Welcome to Strategic Marketing B! This interactive class is taught by a marketing executive who is engaged in real business, and aim to give you a good understanding of basic marketing concepts in English. 本授業では、戦略マーケティングに関する講義・ディスカッションを英語で行います。日本にいながら、欧米の授業スタイルを取り入れ、多くの留学生とともに海外留学の疑似体験をしながら、マーケティングについて学ぶことができます。講師は、20年以上広告会社でマーケティング職として勤務している実務者です。 <Objectives> The goal for students is to acquire basic and practical knowledge of marketing, including trends and issues related to marketing communications, promotion, PR, advertising, digital, etc. Students can also improve English presentation skills through individual presentations and group discussions. 本授業の目的は、基本的かつ実践的な戦略マーケティングの知識や最新の潮流を学ぶことです。 学生は、個人プレゼンやグループディスカッションを通じて、英語のプレゼンスキルなどを向上させることができます。			
2. 授業内容 Each class would be designed to have two major sections: lecture (a) and group discussion (b). First half of the class provide the basic knowledge of marketing. Based on the knowledge, students will discuss and share certain topics in the second half of the class. We would have 1 - 2 guest lecture to broaden your view towards marketing. Week 1 Course Introduction Week 2 Understanding about Marketing Communications (a) Group Discussion (b) Week 3 Identifying consumer insights (a) Group Discussion (b) Week 4 Individual Presentation (a) Group Discussion (b) Week 5 Creating a communication brief (a) Group Discussion (b) Week 6 Communication brief casestudy (a) Group Discussion (b) Week 7 Designing and Managing Integrated Marketing Communications (a) Group Discussion (b) Week 8 Managing Mass Media (a) Group Discussion (b) Week 9 Individual Presentation (a) Group Discussion (b) Week 10 Individual Presentation (a) Group Discussion (b) Week 11 Tapping into Global Markets (a) Group Discussion (b) Week 12 Marketing Contributing to Society (a) Group Discussion (b) Week 13 Case Study: Students Presentation Week 14 Case Study: Students Presentation			
3. 履修上の注意 Course preparations: This course will be interactive, so active participation is required.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本科目の履修に必要な英語力の目安はTOEIC 700点程度であるが、たとえ未達であっても積極的に英語に取り組みたい学生の履修は歓迎する。 The TOEIC level necessary for registering for this course is around 700, but even if you are not above 700, I welcome students who strongly want to improve their English skills.			
5. 教科書 None. Handouts are given every time.			
6. 参考書 Kotler, P. and Keller, K.L. () Marketing Management, Pearson International Edition 「マーケティング英語の教科書」、松浦良高、宣伝会議 (For Japanese, non-native English speakers)			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 30% group discussion, 30% case study presentation, 40% individual report			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN331J			
雇用関係論			石 塚 史 樹
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 企業の競争力を決める経営資源のうち最も重要なものは、「ヒト」、つまり従業員である。そのため、企業は一人一人の従業員をよりよくマネジメントし、働く意欲と満足を高める努力をしている。このような活動は具体的な労務管理手法を通じて行われるが、その前提として、実際の雇用の場となる組織における雇用関係を成立させるための労使間の・非公式の合意が必要となる。このような合意はどのような前提条件で支えられているのかを理論的に正確に理解し、そのうえでいかにして具体的な雇用関係を構築すればよいのかを考えるための基礎を習得することが、本授業の課題である。この授業内では組織論や内部労働市場論に始まる理論的な説明を基礎として、具体的な事例を踏まえつつ、現実に沿った議論を展開することに努める。この上で、持続性のある雇用社会のありかたを参加者とともに考える。 〈到達目標〉 1. 雇用関係という側面から、組織がいかなる関係によって構成され、機能しているのかを理論的に理解する。 2. この上で、企業組織で人が働く際の条件を、具体的に考えられるようにする 3. 勤務生活を送るうえでの、雇用関係の意味と重要性を理解する。			
2. 授業内容 第一回：講義概要：雇用の場としての組織を成立させる条件 第二回：雇用関係の歴史①：科学的管理法 第三回：雇用関係の歴史②：人間関係論 第四回：雇用関係の歴史③：管理過程論 第五回：生産管理と雇用関係：リーン生産方式① 第六回：生産管理と雇用関係：リーン生産方式と雇用関係で求められる「効率的な働き方」 第七回：企業の競争力と雇用関係 第八回：雇用の場としての組織と個人の関係：組織論に基づき① 第九回：雇用の場としての組織と個人の関係：組織論に基づき②（公式組織の定義） 第十回：雇用の場としての組織と個人の関係：組織論に基づき③（意思決定理論） 第十一回：雇用組織の存続条件①：組織論に基づき（対内的均衡） 第十二回：雇用組織の存続条件②：組織論に基づき（対外的均衡、あるいは企業組織と外部環境との関係） 第十三回：雇用組織の形成①：新制度派経済学に基づき 第十四回：雇用組織の形成②：階層組織か外部市場か			
3. 履修上の注意 経営学に関する基礎科目を履修していることが望ましい。また、この講義で学んだ理論的基礎を用いると、秋学期に開講される、労使関係論をよりよく理解できるため、履修を強く勧める。さらに、人事労務管理論を並行的に履修または履修済みであると、講義への理解がより進むと考えられる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、授業の終了前に予告する次の授業内容に関するキーワードについて、参考書やその他の紹介された文献を通じて調べ、授業の内容をできるだけ把握し得た知識を構造化して簡潔なノート（様式は任意）にまとめて授業に臨むこと。復習として、授業で説明された内容を踏まえ、上記のノートに加筆しつつ理解を深めること。			
5. 教科書 特定の教科書を特に定めず、主には下記の参考書に依拠しつつ（つまり、下記以外にも含めて）、講義内容に関する文献を指示する。			
6. 参考書 今野浩一郎・佐藤博樹（2009）『人事管理入門（第二版）』日本経済新聞出版社。 上林憲雄、逗子直之、森田雅也（2013）『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。 桑田耕太郎・田尾雅夫著（2010）『組織論（補訂版）』有斐閣アルマ。 久本憲夫（2015）『日本の社会政策（改訂版）』ナカニシヤ出版。 ラジャー、エドワード・P.、樋口美雄・清家篤訳（1998）『人事と組織の経済学』日本経済新聞社。 マースデン、D.、宮本光晴・久保克行訳（2007年）『雇用システムの理論』NTT出版。 他、授業内で必要に応じ、その都度言及する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 質問があれば個別に対応する。			
8. 成績評価の方法 定期試験100%。			
9. その他 当該講義の内容は理論が中心であり、大変難度が高い。そのため、単位取得のためには、クラスウェブに講義終了後にアップロードされる講義コンテンツを日常的に徹底的に勉強し、長い時間をかけて定期試験に臨む必要があることに注意すること。 また、授業における説明内容が極めて多いため、一つ一つのテーマについて時間をとることが多い。そのため、状況に応じて、上記の授業内容で挙げたテーマの数を調整することもあるので注意すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN331J			
労使関係論			石 塚 史 樹
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 従来の「労使関係」論の講義において支配的であった、マクロレベルでの集团的労使関係における当事者（使用者・被用者の利益代表）の交渉過程に関わる歴史的現実の展開に関するエピソードの紹介・一部労組の活動状況の報告・『日本の労使関係』あるいは『日本の雇用関係』あるいは『日本の雇用システム』の特殊性の強調、それぞれを自己目的とする講義の構築方針を、今年度に関しては試験的に放棄する。そのうえで、前学期における「雇用関係論」の方針を継承し、ミクロレベルでの雇用関係を支える様々な構成要素（例えば労働契約、個人業績評価システム、上司による部下のマネジメント、モチベーション管理、被用者の組織への統合、雇用関係の編成原理に関する国別の差異を決める要素etc.）を支える理論的な枠組みを中心に講義を進めたい。 この際、雇用関係を取り扱った社会科学における定量的・定性的な実証研究の作業仮説を組み立てる際に依拠される頻度が多い、世界的に標準的な学説・理論・概念を中心に解説する。 これにより、卒業論文などで雇用・労働に関わる何らかの実証研究を計画している参加者が、本講義内で習った知見に基づいたアイデアに基づき、理論モデルを踏まえた、学術論文としての体裁を持った研究成果をまとめられる可能性を少しでも高めることにつなげたい。 労使関係は雇用関係という全体の側面であるとの認識から、「集团的労使関係」に拘らず雇用関係、および雇用システム全体に注目し、これがいかなる複合的な関係によって構成され、機能しているのかを理論的に追及する。 この上で（つまり、現実を分析する上で不可欠な理論的な枠組みを習得したうえで）、企業組織で個々人が働く際の条件を、具体的に考えられるようにする。 そして、勤務生活を送るうえでの、雇用関係の意味と重要性を理解する。将来的には、ここで学んだことを基礎として、雇用社会全体を改善する方策を考えられるようにする。			
2. 授業内容 第一回：講義概要：従来の「労使関係論」研究の問題点を踏まえつつ 第二回：不完備契約としての雇用契約とその含意 第三回：マネージャーはなぜ雇われるのか－知識マネジメントの観点からの説明－ 第四回：組織とモチベーションの理論① 第五回：組織とモチベーションの理論② 第六回：組織とモチベーションの理論③ 第七回：組織と従業員のコミットメント 第八回：高好業績サイクルモデルと人的資源管理？ 第九回：「組織人」モデル以外のキャリアの可能性 第十回：雇用システムの国際比較の理論① 第十一回：雇用システムの国際比較の理論② 第十二回：雇用システムの国際比較の理論③ 第十三回：現代企業の雇用システムの変化：日独比較 第十四回：Work Life Balance (WLB) の現状－ドイツから見えるもの－			
3. 履修上の注意 経営学に関する基礎科目を履修していることが望ましい。また、この講義をよりよく理解するための理論的前提を説明することになる、春学期に開講される雇用関係論を併せて受講することを勧める。さらに、人事労務管理論を並行的に履修または履修済みであると、講義への理解がより進むと考えられる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、授業の終了前に予告する次の授業内容に関するキーワードについて、参考書やその他の紹介された文献を通じて調べ、授業の内容をできるだけ把握し得た知識を構造化して簡潔なノート（様式は任意）にまとめて授業に臨むこと。復習として、授業で説明された内容を踏まえ、上記のノートに加筆しつつ理解を深めること。			
5. 教科書 特定の教科書を特に定めず、主には下記の参考書に依拠しつつ（つまり、下記以外にも含めて）、講義内容に関する文献を指示する。			
6. 参考書 石塚史樹（2008）『現代ドイツ企業の管理層職員の形成と変容』明石書店。 今野浩一郎・佐藤博樹（2009）『人事管理入門（第二版）』日本経済新聞出版社。 佐藤博樹・佐藤厚編（2012）『仕事の社会学（改訂版）』有斐閣ブックス。 首藤若菜（2017）『グローバル化の中の労使関係－自動車産業の国際的再編への戦略－』ミネルヴァ書房。 仁田道夫・中村圭介・野川忍（2021）『労働組合の基礎：働く人の未来をつくる』日本評論社。 久本憲夫（2015）『日本の社会政策（改訂版）』ナカニシヤ出版。 ゴードン、アンドリュー（著）、二村一夫（翻訳）（2012）『日本労使関係史1853-2010』岩波書店。 ジャコビエ、サンフォード・M.著、荒又重雄・木下順・平尾武久・森泉訳（1989）『雇用官俸制』北海道大学図書刊行会。 Dunlop, J.T. (1958) Industrial Relations Systems, Southern Illinois University Press, London and Amsterdam.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 質問は個別に対応する。			
8. 成績評価の方法 定期試験100%。			
9. その他 当該講義の内容は理論が中心であり、大変難度が高い。そのため、単位取得のためには、クラスウェブに講義終了後にアップロードされる講義コンテンツを日常的に徹底的に勉強し、長い時間をかけて定期試験に臨む必要があることに注意すること。 また、授業における説明内容が極めて多いため、一つ一つのテーマについて時間をとることが多い。そのため、状況に応じて、上記の授業内容で挙げたテーマの数を調整することもあるので注意すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN331J			
企業内教育論			島内高太
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この講義では、企業経営において教育訓練が果たす役割と課題について解説する。講義は2つのパートに分かれている。 第1のパートは、日米熟練工養成制度の学習である。熟練工養成は、企業の競争力の重要な要素であると同時に、一国の産業基盤を支えるものである。企業が熟練工養成を内部化していく過程を学び、企業内教育の役割や課題を検討する。 第2のパートは、現代日本企業における企業内教育制度の学習である。日本的雇用慣行と一体化して展開されてきた企業内教育のあり方や近年におけるその変化を学び、日本企業の実践的特徴と課題を検討する。 〈到達目標〉 企業が自ら人材育成に取り組むことの意義と課題を日米企業の歴史と現状に即して理解し説明できるようになること、これからの企業内教育訓練のあり方について自らの見解を述べられるようになること、の2点を目標とする。			
2. 授業内容 第1回 企業経営と企業内教育訓練のかかわり 第2回 アメリカにおける企業内教育の成立①（互換性生産と内部請負制） 第3回 アメリカにおける企業内教育の成立②（科学的管理法とフォード・システム） 第4回 アメリカにおける企業内教育の成立③（工場徒弟制の確立と労使共同運営への転換） 第5回 日本における企業内教育の成立①（明治期の万能工と親方請負制） 第6回 日本における企業内教育の成立②（重化学工業の発達と養成工制度） 第7回 日本における企業内教育の成立③（戦後量産体制の確立と監督者訓練制度） 第8回 日本における企業内教育の成立④（トヨタ生産方式と「多能工」育成） 第9回 現代日本企業の実践①（現代企業における教育訓練の全体像と現状） 第10回 現代日本企業の実践②（日本型雇用慣行） 第11回 現代日本企業の実践③（メンバーシップ型・ジョブ型雇用） 第12回 現代日本企業の実践④（キャリア自律とエンプロイアビリティ） 第13回 現代日本企業の実践⑤（人的資本経営とリスクリテラシー） 第14回 総まとめ			
3. 履修上の注意 ・経営学の基本的科目を学んだ者が、人事労務管理論、雇用関係論、労使関係論、経営管理論あるいは生産管理論と合わせて履修すると学習効果が高まる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・シラバスや講義資料を参考に、今回の授業のキーワードを下調べして理解しておくこと。 ・講義後は、講義資料とメモを整理し、疑問点を明らかにしておくこと。 ・また、企業・経済にかかわる報道をチェックする場合、製造業の動向や技術革新のあり方についても関心をもって欲しい。			
5. 教科書 ・教科書は使用しません。適宜、講義資料（概要や資料を掲載したもの）を配布します。			
6. 参考書 ①佐藤厚著『日本の人材育成とキャリア形成－日英独の比較』中央経済社、2022年。 ②平沼高・佐々木英一・田中萬年編著『熟練工養成の国際比較－先進工業国における現代の徒弟制度』ミネルヴァ書房、2007年。 ③榎一江・小野塚知二編著『労務管理の生成と終焉』日本経済評論社、2014年。 ④明治大学企業内教育研究会編『人材活用と企業内教育』日本経済評論社、2000年。 ⑤島内高太著『企業内訓練校の教育システム－連携と共有による中核技能者育成』晃洋書房、2022年。 ⑥海老原嗣生著『人事の組み立て－脱日本型雇用のトリセツ』日経BP、2021年。 ⑦小林祐児著『リスクリテラシーは経営課題－日本企業の「学びとキャリア」考』光文社、2023年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 ・講義内で課す感想文等の内容の一部を紹介するなどして、講義内容を理解するためのポイントを提示するとともに受講生の多様な考え方に触れてもらう機会をつくる。			
8. 成績評価の方法 ・期末試験（80%）、平常点（20%） ・なお、本講義において平常点とは、講義内で課す感想文等の提出による。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN331J			
能力開発論			島内高太
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この講義では、日本における職業能力開発の制度、実態そして課題について多角的に学ぶ。目まぐるしい社会の変化のなかで、私たちは常に学習していかなければならない。企業も、意欲的に学ぶ者を採用して自社の中核人材として育成し競争力を構築しなければならない。また、そうした職業能力開発のあり方は国によって、時代によって異なっている。私たちの社会を支える職業能力開発を学ぶことで、日本の産業社会のこれからを考える。 〈到達目標〉 日本の職業能力開発の制度、実態、課題について説明できるようになること、そして、今日の社会情勢を踏まえた能力開発のあり方について自らの見解を述べられるようになること、の2点を目標とする。			
2. 授業内容 第1回 職業能力開発の意義 第2回 日本と世界の労働市場・職業能力開発のあり方 第3回 日本の職業能力開発の全体像（企業内教育、公共職業訓練、民間プロバイダー） 第4回 企業の実践①（OJTの制度と実態） 第5回 企業の実践②（OJTを支える経験学習論） 第6回 企業の実践③（Off-JTの制度と実践） 第7回 企業の実践④（Off-JTを支える研修理論） 第8回 企業の実践⑤（越境学習への取り組み） 第9回 企業の実践⑥（グローバル人材育成） 第10回 職業能力開発と雇用形態の多様化 第11回 職業能力開発と人材の多様化①（女性の活躍） 第12回 職業能力開発と人材の多様化②（高齢者の活躍） 第13回 公共職業訓練の制度・実態・課題 第14回 総まとめ			
3. 履修上の注意 ・経営学の基本的科目を学んだ者が、人事労務管理論、雇用関係論、労使関係論などと合わせて履修すると学習効果が高まる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・シラバスや講義資料を参考に、今回の授業のキーワードを下調べして理解しておくこと。 ・講義後は、講義資料とメモを整理し、疑問点を明らかにしておくこと。 ・また、経営学部生が日常的にチェックしている企業・経済にかかわる報道に加えて、学校教育や生涯学習等に関する情報にも関心をもって欲しい。			
5. 教科書 ・教科書は使用しません。適宜、講義資料（概要や資料を掲載したもの）を配布します。			
6. 参考書 ①松本雄一著『ベーシックテキスト人材開発論Lite』同文館出版、2023年。 ②中原淳著『経営学習論（増補新装版）－人材育成を科学する』東京大学出版会、2021年。 ③中原淳著『職場学習論（新装版）－仕事の学びを科学する』東京大学出版会、2021年。 ④佐藤厚著『組織のなかで人を育てる』有斐閣、2016年。 ⑤平沼高・新井吾朗編著『大学だけじゃないもうひとつのキャリア形成－日本と世界の職業教育』職業訓練教材研究会、2008年。 ⑥田中萬年・大木栄一編著『働く人の「学習」論－生涯職業能力開発論』学文社、2005年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 ・講義内で課す感想文等の内容の一部を紹介するなどして、講義内容を理解するためのポイントを提示するとともに受講生の多様な考え方に触れてもらう機会をつくる。			
8. 成績評価の方法 ・期末試験（80%）、平常点（20%） ・なお、本講義において平常点とは、講義内で課す感想文等の提出による。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN311J			
中小企業論 【経営学科・公共経営学科共同設置】			岡田 浩一
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 「中小企業とは何か？」 この問いに答えることは難しい。この問いこそが、中小企業論の出発点であり、到達点であるともいわれている。さらに、この問いは、なぜ中小企業を定義しなければならないのかという、とへもつながっている。 これまで中小企業といえば、経済的に弱い存在であり、何事につけても大企業のほうが有利であるという見方をする人が多かったと思う。しかしに、下請中小企業の多くは、大企業の厳しい要求に耐え続け、常に厳しい経営を余儀なくされてきていたように思われる。そして、特にバブル崩壊後の長期的景気低迷のなかで、中小企業経営は厳しさを増してきている。 ところが、その厳しい現実とは裏腹に、中小企業への期待は高まる一方である。そうした期待を実現しようと様々な動きが見られるが、その一つとして、新規創業の活性化支援や、ベンチャービジネス支援など中小企業の新しい側面が注目されてきているようである。 しかし、中小企業の経営を考えると、大企業のそれとは大きな違いを感じる人が多いと思われる。なにが大企業と異なるのか、その理由は何なのか。単に企業規模の差が経営の差として現れるのかといった疑問も出てくるであろうし、中小企業を研究対象とすることによって様々な疑問が生じるはずである。 それらの疑問と向き合うことによって、日常的な経営経済の動向について、その根底にある問題点などが明らかになってくることもある。そして一つのことが明らかになると、また次の疑問へと興味に移っていくはずである。そしてこのことは、経営経済への興味関心をいっそう高めるものであると思われる。 <到達目標> 当授業では、中小企業という研究対象を通じて広く経営経済への興味関心を高めることを目的としており、その関心から生まれる実践力を発揮できるようにしていきます。			
2. 授業内容 以下の進行予定に従って、広く中小企業に関心を持ってもらうように講義を進めていこうと思います。 第1回 導入（最近の中小企業の動向） 第2回 中小企業の定義 第3回 中小企業の残存論 第4回 事業承継問題 第5回 中小企業の存立形態 第6回 中小企業政策 第7回 中小企業問題史 第8回 下請・系列問題 1 第9回 下請・系列問題 2 第10回 中小小売業と商店街の活性化 第11回 国際化と中小企業 第12回 情報化と中小企業 第13回 中小企業の経営支援 第14回 まとめとテスト 原則的には上記予定に基づいて講義を進めていきますが、状況に応じて順序を入れ替える場合もあります。また、出来るだけ多くの事例も紹介するとともに、中小企業経営者や支援者から中小企業の実態についてお話しいただく機会を設けたいと思います。			
3. 履修上の注意 春学期、ベンチャービジネス論との同時履修をお勧めします。 秋学期、火曜 4 限の経営学特別講義Bで、中小企業診断士による実践的講義をあわせて履修することをお勧めします。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新聞や経済雑誌などに掲載される中小企業関係の情報をしっかりとつかみ、情報整理をしておくこと。			
5. 教科書 特に指定しません。			
6. 参考書 岡田編著『中小企業のIT経営論』同友館 岡田・石川編著『ケースで学ぶまちづくり』創成社 関智宏編集『よくわかる中小企業』ミネルヴァ書房			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対しての解説などは、主にOh-Meijiを使って通知する。			
8. 成績評価の方法 第14回に実施する論述形式での試験のみで評価します（試験100%）。			
9. その他 特になし			

科目ナンバー：(BA)MAN311J			
ベンチャービジネス論 【経営学科・公共経営学科共同設置】			岡田 浩一
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 中小企業経営が、厳しい現実にとらされている一方、経済活性化に向けて中小企業への期待は高まるっている。そうした期待を実現しようと様々な動きが見られるが、その一つとして新規創業の活性化支援やベンチャービジネス支援など、中小企業の新しい側面が注目されてきているようである。 とりわけベンチャービジネスという言葉がよく使われるようになり、あたかもベンチャービジネスが日本経済の景気回復における救世主であるかのように見られることもあるようだが果たしてそうであろうか。 これまでの中小企業研究の立場から、ベンチャービジネスというブームをあらためて見直していくとともに、中小企業が日本経済に果たしてきた、あるいは、果たしている役割について検証していこうと思う。 「ベンチャービジネスとは何か」という問いかけを常に意識しながら講義を進めていきます。 <到達目標> 将来の起業などに際しての最低限の経営学的知識を身につけていくことを目指します。			
2. 授業内容 以下の項目で授業を進めていきます。 第1回 導入（近年のベンチャービジネスの動向について） 第2回 ベンチャービジネスの定義 第3回 積極的企業観に基づく新たなタイプの企業の登場 第4回 中堅企業と二重構造論 第5回 近代化政策との関係性 第6回 ベンチャービジネス論の登場 第7回 起業家の事例 起業家とは 1 第8回 起業家の事例 起業家とは 2 第9回 ベンチャーブーム 第10回 ベンチャービジネスを巡る金融環境 第11回 起業家・支援者の事例 第12回 ベンチャービジネスを巡る政策 第13回 ベンチャービジネスの経営課題 第14回 まとめとテスト 原則的には上記予定に基づいて講義を進めていきますが、状況に応じて順序を入れ替える場合もあります。また、出来るだけ多くの事例も紹介するとともに、起業家や支援者によるお話をいただく機会を設けたいと思います。			
3. 履修上の注意 春学期、中小企業論との同時履修をお勧めします。 秋学期、火曜 4 限の経営学特別講義Bで、中小企業診断士による実践的講義をあわせて履修することをお勧めします。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新聞、経済雑誌から必要な情報を日常的に収集しておくこと。 身近に存在する成長企業について、成長要因がどこにあるのかを探索し、ケーススタディを積み重ねていくこと。			
5. 教科書 特に指定しません。			
6. 参考書 山田敏夫『ものがたりのあるものづくり』日経BP社 松田修一『ベンチャー企業』日経文庫 浜田康行『新版 日本のベンチャーキャピタル』日本経済新聞社 関智宏編集『よくわかる中小企業』ミネルヴァ書房			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対しての解説などは、主にOh-Meijiを使って通知する。			
8. 成績評価の方法 第14回に実施する論述形式での試験のみで評価します（試験100%）。			
9. その他 特になし			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学史A			磯山 優
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 経営学史は、経営学の歴史を学ぶための科目です。経営学の歴史を築いてきた先人がどのような学説を唱えてきたのか、そして、その学説はどのような背景を持って生まれてきたのか、などを中心に講義していきます。経営学史Aでは、経営学の誕生から1950年代まで、主にアメリカでの経営学説について講義します。 <到達目標> 経営学の各学説がどのように生成されてきたのか、そして、それはどのような社会的背景の中で生成されてきたのかを理解することを目的とします。			
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション この授業の特徴および成績のつけ方等についてお話しします。 b：本講義で考える経営学の特徴について講義します。 第2回 経営学史の特徴について講義します。 第3回 アメリカでの経営学誕生前について講義します。 第4回 F. Taylorの科学的管理法を中心に講義します。 第5回 M. Weberの官僚制に関する議論を中心に講義します。 第6回 H. Fordの「管理無用論」を中心に講義します。 第7回 a：中間試験を行います。 b：中間試験の解説および学期前半部分を復習します。 第8回 E. Mayoらの人間関係論を中心に講義します。 第9回 A. Berle and G. Meansの経営者支配説を中心に講義します。 第10回 C. I. Barnardの組織理論を中心に講義します。 第11回 H. Fayolの管理過程論及び管理過程学派について講義します。 第12回 A. MaslowやF. Herzbergら経営心理学の理論を中心に講義します。 第13回 まとめとして、春学期全体を振り返ります。 第14回 期末試験を行います。			
3. 履修上の注意 出席したら、厳に私語を慎んでください。他人に迷惑をかける学生は退席させます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <予習> 各回の最後に次の回の授業のキーワードを発表しますので、それについて自分で調べてみてください。 <復習> 毎回配布するプリントを再度読んでください。			
5. 教科書 磯山優（2009）『現代組織の構造と戦略』、創成社、を使用します。また、毎回プリントを配布します。			
6. 参考書 上で挙げた研究者の各著書。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 1. 毎回授業後にオンラインで小テストを行います。（5点×10回） 2. 中間試験（50点）と期末試験（100点）を行います。 3. 合計して200点になるので、所定の点数を超えていれば合格とします。 4. なお、出席は加点の対象とします。			
9. その他 外部講師を招いて受講生に健康に関する講演をしたり、アンケート調査に協力をお願いすることがあります。			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学史B			磯山 優
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 経営学史は、経営学の歴史を学ぶための科目です。経営学の歴史を築いてきた先人がどのような学説を唱えてきたのか、そして、その学説はどのような背景を持って生まれてきたのか、などを中心に講義していきます。経営学史Bでは、1940年代から1980年代に至るまで、主にアメリカでの経営学説について講義します。 <到達目標> 経営学の各学説がどのように生成されてきたのか、そして、それはどのような社会的背景の中で生成されてきたのかを理解することを目的とします。			
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション この授業の特徴および成績のつけ方等についてお話しします。 b：1960年代までの経営学史について振り返ります。 第2回 H.A.Simonの意思決定論を中心に講義します。 第3回 J. WoodwardおよびAston Groupなどイギリスのコンティンジェンシー理論を中心に講義します。 第4回 P. Lawrence and J. Lorschのコンティンジェンシー理論を中心に講義します。 第5回 C.Perrow、L.Greinerらの組織デザイン論を中心に講義します。 第6回 H. Ansoffの経営戦略論を中心に講義します。（その1） 第7回 H. Ansoffの経営戦略論を中心に講義します。（その2） 第8回 a：中間試験を行います。 b：中間試験の解説および学期前半部分を復習します。 第9回 J. Pfefferらの資源依存理論を中心に講義します。 第10回 O. Williamsonの取引コスト論を中心に講義します。 第11回 M. Porterの競争戦略論を中心に講義します。（その1） 第12回 M. Porterの競争戦略論を中心に講義します。（その2） 第13回 1980年代までの経営学史を総括し、経営学に対する経営学者の貢献と課題について講義します。 第14回 期末試験を行います。			
3. 履修上の注意 出席したら、厳に私語を慎んでください。他人に迷惑をかける学生は退席させます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <予習> 各回の最後に次の回の授業のキーワードを発表しますので、それについて自分で調べてみてください。 <復習> 毎回配布するプリントを再度読んでください。			
5. 教科書 磯山優（2009）『現代組織の構造と戦略』、創成社、を使用します。また、毎回プリントを配布します。			
6. 参考書 上で挙げた研究者の各著書。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 1. 毎回授業後にオンラインで小テストを行います。（5点×10回） 2. 中間試験（50点）と期末試験（100点）を行います。 3. 合計して200点になるので、所定の点数を超えていれば合格とします。 4. なお、出席は加点の対象とします。			
9. その他 外部講師を招いて受講生に健康に関する講演をしたり、アンケート調査に協力をお願いすることがあります。			

科目ナンバー：(BA)MAN361E			
International Management A 【経営学科・会計学科共同設置】		鷲見 淳	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline and Objectives: Globalization has become a buzzword in the world today even during the times of it passing through a pandemic the end of which is believed to be in sight. From a broader perspective, this globalization can be seen as a vital and critical force that shapes managing multinational enterprises (MNEs) operating in various host countries. MNEs are known to be taking unique approaches to manage their business and operations whilst taking well into consideration historical, social, cultural, environmental, legal, political, and geopolitical factors in their host countries. This course is designed in such a way to provide students with a platform to be knowledgeable of basics of international management with special reference to national differences and the broader environment of international business. At the end of the course, students will be able to: (a) know the uniqueness of managing MNEs when it is compared with the case of home-grown companies (operating in a single country). (b) understand basic concepts, principles, and theories of managing business in international context. (c) apply these concepts, principles, theories to analyze various routine and non-routine issues as managing international business. Learning and teaching methods of this course include largely lectures and interactive discussions. Students from other schools as well as foreign exchange students are also cordially welcome to take this course. The course facilitator envisages employing face-to-face (in-person) interactions as the primary instruction type for delivering this course. Nevertheless, there is a high possibility of Zoom Video conferencing technology in the case of holding the Guest Speaking Session by a practicing manager from the industry.			
2. 授業内容 Course Content 1 st Week Multinational Enterprises (MNEs), international management (IM), and international managers 2 nd Week Globalization: Lens for understanding the rationale and significance of IM 3 rd Week Environmental Context of MNEs 1 4 th Week Environmental Context of MNEs 2 5 th Week Culture, differences in culture, and managing across cultures 1 6 th Week Culture, differences in culture, and managing across cultures 2 7 th Week Ethics, corporate social responsibility, and sustainability (with environmental, social, and governance [ESG] framework) 1 8 th Week Ethics, corporate social responsibility, and sustainability (with environmental, social, and governance [ESG] framework) 2 9 th Week Foreign Direct Investment (FDI) 1 10th Week Foreign Direct Investment (FDI) 2 11th Week Guest Speaking Session TBA 12th Week Regional Economic Integration 1 13th Week Regional Economic Integration 2 14th Week Reflections and course wrap up			
3. 履修上の注意 Registration Requirements There is no pre-requisite course(s) for International Management A. The course will be delivered in English. It offers students opportunities for improving continuously and confidently their communication skills (speaking, reading, listening, and writing) in English. The test of English for International Communication (TOEIC) level necessary for registering for this course is around 730 points.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Course Preparations (IMPORTANT) 1. Students are required to answer 10 quizzes in Oh-o! Meiji's class web in between classes. 2. Active participation and engagement in classroom meetings are vital for students to derive maximum benefits from taking this course. Students are also motivated to read at leisure the relevant chapter(s) of the course textbook prior to attending classroom meetings. More details of these chapters will be communicated as delivering of this course progresses through.			
5. 教科書 Textbook (s) Hill.C. W. L. (2021). International business: Competing in the global marketplace (13th ed.) . McGraw-Hill Education. Students can access online this textbook on ProQuest Ebook Central platform of the library of Meiji University. For doing so, they are required to use their Meiji University ID number and Password.			
6. 参考書 American Psychological Association (2020) Publication manual of the American psychological association (7th edition). https://psycnet.apa.org/doi/10.1037/0000165-000 Luthans, F. and Doh, J. P. (2018) International management: Culture, strategy, and behavior (10th ed.). McGraw-Hill Education. Students are also encouraged to associate themselves with the following business magazines as they disseminate the latest information and knowledge of, among others, developments in global business and management: Fortune, Forbes, The Economist, The Wall Street Journal, The Japan Times.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 How to provide Feedback to assignments Regarding the quizzes, in general, students will be provided with post quiz constructive feedback session during the classroom meetings. This is an addition to viewing correct answers by themselves after the submission period for each quiz. Furthermore, students are welcome to contact the course facilitator by utilizing either "Discussions" platform on the Class Web or regular email for raising their concerns of assignments.			
8. 成績評価の方法 Assessment Course assessment comprises three components: (1) 10 Quizzes 40% (2) CASE STUDY REPORT ASSIGNMENT 50% (ONE PAGE ANSWER The word limit will be 400-500 words that excludes the list of references). *CASE STUDY QUESTION:TBA (3) Participation and engagement in class discussions 10% No final written examination at the end of the semester.			
9. その他 You are always inspired to share openly ideas and insights during classroom meetings as well as ask freely any number of questions for understanding better the contents covered in this course. The course facilitator is reachable at 2025classes.sumi@gmail.com.			

科目ナンバー：(BA)MAN361E			
International Management B 【経営学科・会計学科共同設置】		鷲見 淳	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline and Objectives: Globalization has become a buzzword in the world today even during the times of it passing through a pandemic the end of which is believed to be in sight. From a broader perspective, this globalization can be seen as a vital and critical force that shapes managing multinational enterprises (MNEs) operating in various host countries. MNEs are known to be taking unique approaches to manage their business and operations whilst taking well into consideration historical, social, cultural, environmental, legal, political, and geopolitical factors in their host countries. The major foci of this course are on the nature and scope of international management, the strategy and structure of international business, and functional areas of international management such as global production (operations) and supply chain management, global marketing, and global human resource management. At the end of the course, students will be able to: (a) explain why MNEs need to be unique and sensitive in managing their business across borders by paying special attention to their adaptation needs on the "global" and "local" levels. (b) apply these concepts, principles, theories to analyze various routine and non-routine issues as managing international business. (c) identify some key considerations of planning to pursue a managerial career in MNEs or entrepreneurial career I international context. Learning and teaching methods of this course include largely lectures and interactive discussions. Students from other schools as well as foreign exchange students are also cordially welcome to take this course. The course facilitator envisages employing face-to-face (in-person) interactions as the primary instruction type for delivering this course. Nevertheless, there is a high possibility of Zoom Video conferencing technology in the case of holding the Guest Speaking Session by a practicing manager from the industry.			
2. 授業内容 Course Content: 1st Week Multinational Enterprises (MNEs), international management (IM), and international managers 2nd Week Globalization: Lens for understanding the rationale and significance of IM 3rd Week The strategy of international business 1 4th Week The strategy of international business 2 5th Week The organization of International business 1 6th Week The organization of international business 2 7th Week Global Production and supply chain management 1 8th Week Global production and supply chain management 2 9th Week Global Marketing and business analytics 1 10th Week Global Marketing and business analytics 2 11th Week Guest Speaking Session TBA 12th Week Global Human Resource Management 1 13th Week Global Human Resource Management 2 14th Week Reflections and course wrap up			
3. 履修上の注意 Registration Requirements There is no pre-requisite course(s) for International Management B. Nevertheless, students are advised to be knowledgeable of what is covered in International Management A as its scope entails fundamentals of the subject. The course will be delivered in English. It offers students opportunities for improving continuously and confidently their communication skills (speaking, reading, listening, and writing) in English. The test of English for International Communication (TOEIC) level necessary for registering for this course is around 730 points.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Course Preparations (IMPORTANT) 1. Students are required to answer 10 quizzes in Oh-o! Meiji's class web in between classes. 2. Active participation and engagement in classroom meetings are vital for students to derive maximum benefits from taking this course. Students are also motivated to read at leisure the relevant chapter(s) of the course textbook prior to attending classroom meetings. More details of these chapters will be communicated as delivering of this course progresses through.			
5. 教科書 Textbook (s) Hill.C. W. L. (2021). International business: Competing in the global marketplace (13th ed.) . McGraw-Hill Education. Students can access online this textbook on ProQuest Ebook Central platform of the library of Meiji University. For doing so, they are required to use their Meiji University ID number and Password.			
6. 参考書 American Psychological Association (2020) Publication manual of the American psychological association (7th edition). https://psycnet.apa.org/doi/10.1037/0000165-000 Luthans, F. and Doh, J. P. (2018) International management: Culture, strategy, and behavior (10th ed.). McGraw-Hill Education. Students are also encouraged to associate themselves with the following business magazines as they disseminate the latest information and knowledge of, among others, developments in global business and management: Fortune, Forbes, The Economist, The Wall Street Journal, The Japan Times.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 How to provide Feedback to assignments Regarding the quizzes, in general, students will be provided with post quiz constructive feedback session during the classroom meetings. This is an addition to viewing correct answers by themselves after the submission period for each quiz. Furthermore, students are welcome to contact the course facilitator by utilizing either "Discussions" platform on the Class Web or regular email for raising their concerns of assignments.			
8. 成績評価の方法 Assessment Course assessment comprises three components: (1) 10 Quizzes 40% (2) CASE STUDY REPORT ASSIGNMENT 50% (ONE PAGE ANSWER The word limit will be 400-500 words that excludes the list of references). *CASE STUDY QUESTION:TBA (3) Participation and engagement in class discussions 10% No final written examination at the end of the semester.			
9. その他 You are always inspired to share openly ideas and insights during classroom meetings as well as ask freely any number of questions for understanding better the contents covered in this course. The course facilitator is reachable at 2025classes.sumi@gmail.com.			

科目ナンバー：(BA)MAN321J			
経営組織論			遠藤寛士
2単位	3年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 組織は社会の中で活動しており、その内部では集団・チームが存在し、さらにその中では個人が活動している。組織の活動は社会にインパクトを与える一方で、周囲の環境（社会）からの影響を受ける。この相互関係は、組織と集団、あるいは集団と個人の関係にも当てはまる。したがって、現実には観察される組織現象は、これらの複雑な相互関係の結果として生じていると考えるのが妥当である。言い換えれば、組織の効果的なマネジメントを考える際には、こうした多層的な視点と、それぞれのレベルに応じた知識が必要となる。本講義では、個人、集団・チーム、組織、社会の各レベルに分けて、組織現象に関する概念や理論を学ぶ。 〈到達目標〉 本講義の目標は、組織の中の個人というミクロな視点から、社会の中の組織というマクロな視点に至るまで、組織に関する基本的な概念や理論を理解し、それらに基づいて組織現象を的確に読み解く力を身につけることである。			
2. 授業内容 〈イントロダクション〉 第1回 イントロダクション 〈組織の中の個人と集団〉 第2回 個人と他者、集団（1） 第3回 個人と他者、集団（2） 第4回 フレーミング 第5回 意思決定 第6回 パワー 第7回 集団のパフォーマンス 〈組織の構造とダイナミクス〉 第8回 組織形態の基本 第9回 組織デザイン 第10回 組織学習 第11回 組織文化 〈組織を取り巻く環境への適応〉 第12回 コンティンジェンシー理論 第13回 組織変革 第14回 a：まとめと振り返り			
3. 履修上の注意 教科書は特に指定せず、各講義は配布するプリントあるいはスライド資料に基づいて行う。シラバスに記載されていないその他の参考書・資料等については、各講義で適宜紹介する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習としては、事前に講義資料に目を通し、自分なりに理解をしたうえで講義に臨むこと。復習は、授業内容を振り返りながら、扱った概念や理論を使って身の回りの現象を分析してみる。			
5. 教科書 特に指定しない。			
6. 参考書 『経営組織』金井壽宏、日本経済新聞出版社、1999。 『組織デザイン』沼上幹、日本経済新聞出版社、2004。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 フィードバックは基本的に授業内で行う。リアクションペーパーについては、優れた内容のものがあれば、講義内で紹介する予定である。			
8. 成績評価の方法 小テスト（複数回実施）20%、リアクションペーパー10%、期末試験70%を原則として評価する。 小テストならびにリアクションペーパーは事前予告なしで実施する。			
9. その他 講義計画は予定である。学生の理解度や進捗状況に応じて適宜調整を行う場合がある。			

科目ナンバー：(BA)MAN321J			
組織行動論			遠藤寛士
2単位	3年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 組織のパフォーマンスは、そのなかで活動する個人や集団の行動、さらには組織全体の振る舞いに大きく左右される。そのため、組織の効果的な運営を考えるうえでは、各レベルにおける行動の特性を理解することが重要である。例えば、個人はどのようにモチベーションを高めることができるのか、集団はどのような要因によって行動が促されるのかを理解することは、組織の目標達成に向けて個人や集団をどのように適切に方向付けるかを考えるための基盤となる。本講義では、個人、集団・チーム、組織の3つのレベルに分けて、組織行動に関する主要な概念や理論を学ぶ。経営学に加え、心理学などの異なる学問領域の知見も取り上げながら、組織行動に関する理解を深めることを目的とする。 〈到達目標〉 基本的な概念や理論を理解し、それらをもとに組織行動に関する現象を読み解く力を身につけることが目標である。			
2. 授業内容 〈イントロダクション〉 第1回 イントロダクション 〈組織の中の個人〉 第2回 個人の行動の基礎 第3回 パーソナリティ 第4回 動機づけ 第5回 動機づけの応用 第6回 個人の意思決定（1） 第7回 個人の意思決定（2） 〈組織の中の集団と組織のシステム〉 第8回 集団行動の基礎 第9回 チームワーク 第10回 コミュニケーション 第11回 リーダーシップ 第12回 コンフリクト 第13回 人材管理 第14回 a：まとめと振り返り			
3. 履修上の注意 教科書は特に指定せず、各講義は配布するプリントあるいはスライド資料に基づいて行う。シラバスに記載されていないその他の参考書・資料等については、各講義で適宜紹介する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習としては、事前に講義資料に目を通し、自分なりに理解をしたうえで講義に臨むこと。復習は、授業内容を振り返りながら、扱った概念や理論を使って身の回りの現象を分析してみる。			
5. 教科書 特に指定しない。			
6. 参考書 『組織行動のマネジメントー入門から実践へ』スティーブン・P・ロビンズ（高木晴夫訳）、ダイヤモンド社、2009。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 フィードバックは基本的に授業内で行う。リアクションペーパーについては、優れた内容のものがあれば、講義内で紹介する予定である。			
8. 成績評価の方法 小テスト（複数回実施）20%、リアクションペーパー10%、期末試験70%を原則として評価する。 小テストならびにリアクションペーパーは事前予告なしで実施する。			
9. その他 講義計画は予定である。学生の理解度や進捗状況に応じて適宜調整を行う場合がある。			

科目ナンバー：(BA)MAN341J			
財務管理論 【経営学科・会計学科共同設置】			鳥居陽介
2単位	3年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> なぜ財務管理論を学ぶのか。その背景には、主に以下の要因が挙げられる。 ①今日の株式市場を取り巻く環境の変化 株式会社は資金調達のために株式を発行する。投資家は選択肢の1つとして、株式市場を介して株式を購入し、企業の経営に関与する「議決権」を取得する。このように、株式市場は投資家と企業を結びつける場であり、企業の資金調達の場として認識されているが、企業にとっての株式市場は、「資金調達の場」から、「機関投資家から評価される場」へと変化している。 ②株式所有構造の変化、機関投資家の台頭 株式会社においては、議決権を多数保有する株主が企業に多大な影響を与える。日本企業がどのような経営を行っているか、なぜそのような経営が行われているのかを知るためには、日本企業の主要株主が誰か、それら株主がどのような方針で企業と関わっているのかを知る必要がある。 ③情報革命による産業構造の変化 ITの発展やDXの進展により、金融機関や証券会社を通じて行われるという概念自体が覆されようとしている。人工知能やロボット等によって代替可能とされる金融や経理といった職業・業界はもちろん、企業はこの急激な変化にどのように対応していくべきか。 これらの変化に伴い、現代の企業経営はどこを向いているのか、どこに向かっていくのかを「財務」の観点から考察するのが、本講義の目的である。 <到達目標> 企業経営に必要な資金調達方法の変化を知ること（上記①）、企業に影響を与える主要株主を知ること（上記②）、産業構造の変化が与える影響を考察すること（上記③）によって企業経営・企業財務の理解を深めていき、財務管理の基本的知識を身につけていくことを目標とする。			
2. 授業内容 第1回 なぜ財務管理論を学ぶのか（イントロダクション） 第2回 株式所有構造の変遷と主要株主 第3回 株式持ち合いの財務的役割の変化 第4回 なぜROEの向上が求められるのか、ROE向上策の検討 第5回 資本コストとはどのような概念か 第6回 会計数字から会社の将来性を読み解く 第7回 中間試験 第8回 借入金、社債による資金調達 第9回 現金収支を把握する資金繰り表 第10回 直接原価計算による損益計算書の作成／運転資本・設備資本管理／ディスクロージャー 第11回 財務管理で求められるキャッシュ・フローとは何か 第12回 資金を有効に活用するための投資の意思決定 第13回 M&Aの成功と失敗 第14回 フィンテックは金融業界をどう変えるのか（秋学期「現代コーポレートファイナンス論」の導入） ＊担当教員の校務の関係で、変更となる場合あり（その際は授業中に周知する）。			
3. 履修上の注意 テキストを毎回持参すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストの該当箇所を中心に予習をした上で授業に臨むこと。ただ講義を聞くだけでなく、事前学習によって得た知識や自身の意見と講義内容を照らし合わせることで、内容の深い本質的な理解を実現させる。			
5. 教科書 鳥居陽介編、現代財務管理論研究会著『テキスト財務管理論（第6版）』、中央経済社、2022年。			
6. 参考書 坂本恒夫・鳥居陽介編著、『企業財務と証券市場の研究』、中央経済社、2018年。 鳥居陽介『株式所有構造の変遷と経営財務』、中央経済社、2017年。 若杉敬明著『【新版】入門ファイナンス』、中央経済社、2011年。 榊原茂樹・岡田克彦著『1からのファイナンス』、碩学舎、2012年。 小松章著『経営分析・企業評価』、中央経済社、2009年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内に出席する課題については、当該授業中に解説を行う。			
8. 成績評価の方法 授業内課題20%、中間試験30%、定期試験50%の割合で総合的に評価する。			
9. その他 中間試験・定期試験ともに持ち込み可とする。			

科目ナンバー：(BA)MAN341J			
現代コーポレートファイナンス論 【経営学科・会計学科共同設置】			鳥居陽介
2単位	3年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 春学期に実施する財務管理論の応用編として位置づけられるのが、本講義である。春学期「財務管理論」で言及したように、株式市場の変化、株式所有構造の変化、産業構造の変化といった、今日の企業を取り巻く環境が変化し、企業財務の在り方も変革を余儀なくされている。例えばフィンテックは「お金は銀行や証券会社を通じて行われる」という概念自体が覆される可能性を秘めており、クラウドファンディングは個人が世界から資金を調達することを可能にしている。一方で、上場企業の利益剰余金（内部留保）は2023年度には600兆9,857億円と過去最高を記録し、必ずしも銀行を必要としない企業が増加している。このような変化が経営財務や銀行経営にどのような影響を及ぼすのかを理解するのが本講義の目的である。 <到達目標> より深い議論を行い、財務管理の応用的な内容、最新の動向を理解できるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 第1回 企業を取り巻く環境変化と財務管理（イントロダクション） 第2回 株式市場の歴史と企業の資金調達／株式発行市場・流通市場の役割 第3回 バブル崩壊はなぜ起こったのか 第4回 リーマンショックはなぜ起こったのか 第5回 コロナ禍の金融緩和と金融市場 第6回 サステナブルファイナンスの推進と株式所有構造 第7回 中間試験 第8回 上場企業の株主名簿に記載されている「信託口」とは何か 第9回 公的機関投資家の台頭が株式市場にどのような影響を与えるのか 第10回 日銀のETF保有が日本企業や株式市場に与える影響 第11回 東京証券取引所による低PBR改善要請と日経平均株価 第12回 金融機関に依存しない中小企業経営—少数私株募集とは何か 第13回 クラウドファンディングはどのように活用されているのか 第14回 これからの財務管理に求められるもの ＊担当教員の校務の関係で、変更となる場合あり（その際は授業中に周知する）。			
3. 履修上の注意 春学期の「財務管理論」を履修していることが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストの該当箇所を中心に予習をした上で授業に臨むこと。ただ講義を聞くだけでなく、事前学習によって得た知識や自身の意見と講義内容を照らし合わせることで、内容の深い本質的な理解を実現させる。			
5. 教科書 鳥居陽介編、現代財務管理論研究会著『テキスト財務管理論（第6版）』、中央経済社、2022年。（＊春学期からの継続）			
6. 参考書 坂本恒夫・鳥居陽介編著『企業財務と証券市場の研究』、中央経済社、2018年。 鳥居陽介『株式所有構造の変遷と経営財務』、中央経済社、2017年。 リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ、フランクリン・アレン著、藤井眞理子、國枝繁樹監訳『コーポレート・ファイナンス（第10版）上・下』、日経BP社、2014年。 マッキンゼー・アンド・カンパニー著『企業価値経営』、ダイヤモンド社、2012年。 若杉敬明著『【新版】入門ファイナンス』、中央経済社、2011年。 榊原茂樹・岡田克彦著『1からのファイナンス』、碩学舎、2012年。 小松章著『経営分析・企業評価』、中央経済社、2009年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内に出席する課題については、当該授業中に解説を行う。			
8. 成績評価の方法 授業内課題20%、中間試験30%、定期試験50%の割合で総合的に評価する。			
9. その他 中間試験・定期試験ともに持ち込み可とする。			

科目ナンバー：(BA)MAN331J			
人事労務管理論A			山 崎 憲
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 経営において必要な資源である「ヒト」「モノ」「カネ」のうち、「ヒト」に注目したものが人事労務管理や人的資源管理である。企業や行政機関、NPOなどの組織は、ほかの組織との競争に勝つことや、さまざまな環境の変化に対応しながら長期的に存在し続けるために「ヒト」を最大限に活用するというのが大きな目的の一つである。働く側にとってみれば、仕事を通じて生きがいを感じ、家族を養うための糧を得るということになる。 人事労務管理論Aはアメリカで発展した人事労務管理の生成と発展、変化、そして現状について学ぶなかで必要な用語や人事労務管理の構造といった基礎的な理解を深める。 <到達目標> 到達目標は、人事労務管理論Bを受講するための基礎固めとともに、人事労務管理論に登場する基本的な概念や用語を理解することにある。			
2. 授業内容 第1講 イン트로ダクション：人事労務管理概観 第2講 産業革命とテラーシステム① 第3講 産業革命とテラーシステム② 第4講 ウェルフェアマネジメント 第5講 人間関係管理 第6講 フォード生産システム 第7講 フォード生産システムと労務管理 第8講 ニューディール体制と人事労務管理① 第9講 ニューディール体制と人事労務管理② 第10講 経営環境と人事労務管理の変化① 第11講 経営環境と人事労務管理の変化② 第12講 人事労務管理と人的資源管理 第13講 企業の国際化の進展と人事労務管理 第14講 企業経営と人事労務管理の社会的役割			
3. 履修上の注意 人事労務管理論Bを併せて受講することが望まれる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 リアクションペーパーに感想、質問を書けるように毎回の講義後に復習をしておくこと。			
5. 教科書 ・特に定めない			
6. 参考書 ・岡田行正『アメリカ人事管理、人的資源管理史』同文館出版 2008年 ・黒田兼一・山崎憲『フレキシブル人事の失敗』旬報社 2012年 ・山崎憲『デトロイトウェイの破綻』旬報社 2010年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 成績評価に加えて、講義内で課題に求められている内容について説明するほか、疑問点等があれば個別に対応する。			
8. 成績評価の方法 レポート40％，期末試験60％。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN331J			
人事労務管理論B			山 崎 憲
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 将来、企業や行政機関、NPOなどで働いたり、誰かを雇ったり管理する立場に立つことを考えたときに、いま日本企業の人事労務管理にはどのような課題があるのか、そのなかでどのように生きがいを見つけていけばよいのか。日本企業の人事労務管理は、産業構造の転換、経済のグローバル化とAI、IoTといった新しい科学技術の進展のなかで変化の途上にある。 経営資源の一つである「ヒト」において日本企業が競争力を高めるうえでどのようなことをやってきたのかということに焦点をあてたうえで、日本企業が国際市場競争力を高めてきた背後で抱えてきたさまざまな課題を考察する。 <到達目標> 本講義の到達目標は、働かせる側、働く側双方の視点で働くことにまつまる課題を考察するための基盤をつくることである。			
2. 授業内容 第1講 イン트로ダクション：一人ひとりの視点で「働く」を考えてみる 第2講 日本企業の競争力①（日本の経営と人事労務管理、労働組合） 第3講 日本企業の競争力②（デミングと生産性運動） 第4講 労働市場・採用 第5講 報酬と年功賃金 第6講 能力育成、評価、処遇 第7講 福利厚生と社会保障 第8講 日本企業の人事労務管理の課題①（非正規労働と長時間労働、ハラスメント） 第9講 日本企業の人事労務管理の課題②（女性と高齢者、ワークファミリーバランス） 第10講 日本企業の人事労務管理の課題③（中小企業） 第11講 日本企業の人事労務管理の変化①（企業の海外進出と『新時代の日本的経営』） 第12講 日本企業の人事労務管理の変化②（技術革新「AI、IoT」） 第13講 労働行政と人事労務管理（労働基準、安全衛生、紛争解決） 第14講 これからの人事労務管理に求められること（持続可能な経済成長）			
3. 履修上の注意 人事労務管理論Aを受講していることが望まれる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 リアクションペーパーに感想、質問を書けるように毎回の講義後に復習をしておくこと。			
5. 教科書 ・特に定めない			
6. 参考書 ・山崎憲『「働くこと」を問い直す』岩波書店 2014年 ・黒田兼一・山崎憲『フレキシブル人事の失敗』旬報社 2012年 ・山崎憲『デトロイトウェイの破綻』旬報社 2010年 ・サンフォード・M. ジャコービ『日本の人事部・アメリカの人事部』東洋経済新報社 2005年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 成績評価に加えて、講義内で課題に求められている内容について説明するほか、疑問点等があれば個別に対応する。			
8. 成績評価の方法 レポート40％，期末試験60％。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN326J			
ナレッジ・マネジメント論〔M〕			中西 晶
2 単位	3 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 現代は、知識社会・情報社会と呼ばれる。だからこそ、現代の経営の基盤をなすものとして、知識すなわちナレッジが注目されている。ナレッジ・マネジメントには、人間的側面と技術的側面がある。本講義では、主として、ナレッジ・マネジメントに関するアップ・トゥ・デイトな話題を中心に紹介する。できるだけ現実の企業事例を交えながら授業を進めていく。授業では、プレゼンテーションソフトやインターネットを活用する。本学のナレッジ・マネジメントシステムともいえる『Oh-o! Meiji』を活用する予定である。 <到達目標> 「ナレッジ」の視点から見たときに、現在ビジネスにおいてどのような現象が起きているかを理解することが目標であるが、あわせて3・4年生として社会に出ていく際に持つておかなければならない基礎知識を獲得することも狙いである。			
2. 授業内容 以下のような内容を予定している。 授業の進行状況や時事的な話題の提供等で若干前後することがある。 全回メディア授業（オンデマンド型）で実施する。 1 ナレッジマネジメントの成立〔メディア授業（オンデマンド型）〕 2 ナレッジ・マネジメントの基本(1) 知識社会論〔メディア授業（オンデマンド型）〕 3 ナレッジ・マネジメントの基本(2) 組織的知識創造理論〔メディア授業（オンデマンド型）〕 4 ナレッジ・マネジメントの基本(3) 情報通信技術〔メディア授業（オンデマンド型）〕 5 ナレッジ・マネジメントの2つの側面：事例を見る視点〔メディア授業（オンデマンド型）〕 6 ナレッジ・マネジメントの企業事例(1)〔メディア授業（オンデマンド型）〕 7 ナレッジ・マネジメントの企業事例(2)〔メディア授業（オンデマンド型）〕 8 ナレッジ・マネジメントの企業事例(3)〔メディア授業（オンデマンド型）〕 9 ナレッジ・マネジメントの企業事例(4)〔メディア授業（オンデマンド型）〕 10 ナレッジ・マネジメントと組織学習(1)ストーリーテリングとコミュニティ・オブ・プラクティス〔メディア授業（オンデマンド型）〕 11 ナレッジ・マネジメントと組織学習(2)学習する組織〔メディア授業（オンデマンド型）〕 12 ナレッジ・マネジメントの新たな課題(1)技術的側面〔メディア授業（オンデマンド型）〕 13 ナレッジ・マネジメントの新たな課題(2)人間的側面〔メディア授業（オンデマンド型）〕 14 ナレッジ・マネジメントの将来展望〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 フルオンデマンドで実施するので、十分な情報通信環境を準備すること。 授業資料・課題は毎週金曜日にOh-o!Meijiにアップする。 Oh-o!Meijiに提出された毎回のワークの結果は、個人情報削除して、次回以降の授業で提示する場合がある。 経営戦略論や技術戦略論、戦略経営情報システム論なども合わせて学ぶとより理解が深まるだろう。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 1, 2年で学ぶ経営学に関する基礎概念を理解しておくこと。 日頃から、問題意識を持って、ニュースやネットを調べておくこと。			
5. 教科書 特に指定しない。			
6. 参考書 関連する文献・サイトを授業内で紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meijiに提出された毎回のワークの結果は、個人情報を削除してとりまとめ、次回以降の授業で総合的なコメントする。 個別の質問・相談にはアンケート機能を利用する。 最終の全体を通した理解度確認テストにおいては、小テスト機能において解答や解説を行う。			
8. 成績評価の方法 毎回の授業に応じたワークの成果（Oh-O!Meijiのアンケート機能を使用予定）各回5点×13回＝65点 最終回での全体の理解度確認テスト（Oh-O!Meijiの小テスト機能を使用予定）35点 合計100点満点で評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN321J			
経営技術論			近 藤 光
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 【概要】 技術と経営をめぐる研究は、あらゆる技術をマネジメントする上で必要な経営的知識を探究していく、いわば経営と技術についての外在的な研究といえる技術経営論の領域と、ビジネスに関わる各技術の特性を踏まえてマネジメントするために必要な技術的知識を追求していく、内在的な研究領域である経営技術論という二つに大きく分けることができる。前者の研究では、新製品開発やイノベーション創出に向けて、R&Dなどにおけるコミュニケーション促進や組織設計、あるいはインターフェースや企業間提携のある方など、経営組織的視点により重きをおいた知識が積み重ねられている。一方で後者では、新製品開発やイノベーション創出のために必要な技術的性格の経営的な理解に向けて、ネットワーク外部性が生じる際やドミナント・デザインが形成・変化する際の技術的要件、またはニーズを満たす技術的選択とそのマネジメントのあり方など、技術論的視点を重視した知見が蓄積されている。技術的イノベーションを考えていく上では、この二つの側面から理解していく必要がある。 本講義では、科学・技術の歴史的發展を踏まえながら、技術と経営に対して内在的なアプローチから、技術マネジメントをめぐるイノベーションのプロセスとパターンに関する理論を具体的事例とともに理解していく。そして、企業の競争優位性の獲得における技術的要因は何なのかイノベーションが生じる際には、技術的にどのような点が問題となり、それをどのように経営的に解決していくのかといった技術マネジメントについて考察していく。 【到達目標】 ・技術マネジメントに関する基本的な議論と理論を理解する。 ・企業の競争優位性の獲得やイノベーションの創出における技術的要因の機能と役割について、学び自ら考察できるようになることを目的とする。			
2. 授業内容 【経営技術と諸概念】 第1回 企業の競争優位性と技術的要因 第2回 イノベーションと技術発展：科学活動、技術活動、ビジネス活動 第3回 シーズとニーズの相互関係：テクノロジー・プッシュとディマンド・プル 第4回 システムとしての製品：ネットワーク外部性と相互補完性 【イノベーションのプロセス】 第5回 イノベーション・プロセスのモデル：リニアモデルと連鎖モデル 第6回 イノベーション・プロセスの3つの関門：魔の川、死の谷、ダーウィンの海 第7回 イノベーションの普及プロセスと技術発展のS字カーブ 第8回 イノベーションの普及プロセスとキャズムの克服 【イノベーションのパターン】 第9回 A-Uモデル(1)市場形成期と製品イノベーション：スマートフォンの成立 第10回 A-Uモデル(2)ドミナント・デザインの成立と技術要因：PC産業の発展 第11回 A-Uモデル(3)市場成熟期と工程イノベーション：ホンダの二輪車と新興国市場 第12回 A-Uモデル(4)脱成熟とラディカル・イノベーション：テスラ・モーターの革新 第13回 技術革新のタイプとマネジメント：アーキテクチャ的な革新 【総括】 第14回 技術経営における技術的要素の機能			
3. 履修上の注意 初回の講義に出席し、授業内容や受講のルールについて確認すること。日頃から、世界の経済や企業活動、社会情勢に関するニュースや新聞記事などに目を通すことが重要である。 本講義ではOh-o! Meijiシステムを頻繁に利用するので、Oh-o! Meijiのお知らせ転送機能を設定しておくこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：毎回、次の講義で扱う内容について説明しますので、各自関連する項目を調べるなど予習を行ってください。必要に応じて文献を紹介します。 復習：知識定着のため、配布資料を見直すなど復習を重視してください。疑問点・分らなかった点はそのままにせず、積極的に質問してください。 ※予習・復習は各120分以上を想定しています。			
5. 教科書 教科書は特に指定せず、必要に応じてプリントを配布します。			
6. 参考書 J. M. アッターバック (1998)『イノベーション・ダイナミクス：事例から学ぶ技術戦略』有斐閣。 一橋大学イノベーション研究センター編(2022)『イノベーション・マネジメント入門(新装版)』日本経済新聞社。 丹羽清 (2006)『技術経営論』東京大学出版会。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 授業への貢献度・授業内レポート・小テストなど「平常点：40点」と「定期試験：60点」の合計によって評価します。 授業内レポートに対しては、授業内およびOh-o! Meijiシステムを活用してフィードバックを行います。			
9. その他 ・「イノベーション・マネジメントA・B」を同時に履修することで、経営と技術をめぐる経営組織論な知識についてより包括的な理解が得られる。			

科目ナンバー：(BA)MAN321J			
技術戦略論			近 藤 光
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 【概要】 技術と経営をめぐる研究は、あらゆる技術をマネジメントする上で必要な経営的知識を探究していく、いわば経営と技術についての外在的な研究といえる技術経営論の領域と、ビジネスに関わる各技術の特性を踏まえてマネジメントするために必要な技術的知識を追求していく、内在的な研究領域である経営技術論という二つに大きく分けることができる。前者の研究では、新製品開発やイノベーション創出に向けて、R&Dなどにおけるコミュニケーション促進や組織設計、あるいはインターフェースや企業間提携のあり方など、経営組織的視点により重きをおいた知識が積み重ねられている。一方で後者では、新製品開発やイノベーション創出のために必要な技術的性格の経営的な理解に向けて、ネットワーク外部性が生じる際やドミナント・デザインが形成・変化する際の技術的要件、またはニーズを満たす技術的選択とそのマネジメントのあり方など、技術論的視点を重視した知見が蓄積されている。技術的イノベーションを考えていく上では、この二つの側面から理解していく必要がある。 本講義では、技術と経営に対して内在的なアプローチの視点から、技術選択とイノベーションのマネジメントをめぐる理論モデルを具体的事例とともに理解していく。そして、企業の競争優位性の獲得に向けた技術選択を考える上で何を考慮すべきなのか、技術戦略の成功と失敗の要因はどのようなものに起因するのか、新技術と社会の受容はどのように関係するのかといった技術に関する戦略的マネジメントについて考察していく。 【到達目標】 ・技術戦略に関する基本的な議論と理論モデルを理解する。 ・企業の競争優位性の獲得に向けた技術選択のあり方について、学び自ら考察できるようになる。			
2. 授業内容 【技術戦略の基本的考え方】 第1回 経営戦略と技術戦略 第2回 研究・技術開発のロードマップ 第3回 技術戦略における先駆者と後発者：マイクロン・テクノロジーの成長 【製品のモジュラー化と技術戦略】 第4回 製品アーキテクチャ論(1)自動車とPC製品の経営技術的比較 第5回 製品アーキテクチャ論(2)MacとWindows 第6回 製品アーキテクチャ論(3)iPhoneとPixel 第7回 オープンイノベーション論(1)富士フイルムの事業転換 第8回 オープンイノベーション論(2)4つの戦略類型 【製品のシステム性と技術戦略】 第9回 バリューネットワーク論(1)急進的イノベーションと大企業 第10回 バリューネットワーク論(2)価値基準、プロセス、資源 第11回 バリューネットワーク論(3)家庭用ゲーム機における製品競争 第12回 エコシステム・ディスラプション：アップルとSpotify 第13回 プラットフォーム・リーダーシップ：インテルからアップルへ 【総括】 第14回 生成AIと技術戦略			
3. 履修上の注意 初回の講義に出席し、授業内容や受講のルールについて確認すること。日頃から、世界の経済や企業活動、社会情勢に関するニュースや新聞記事などに目を通すことも重要である。 本講義ではOh-o! Meijiシステムを頻繁に利用するので、Oh-o! Meijiのお知らせ転送機能を設定しておくこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：毎回、次の講義で扱う内容について説明しますので、各自関連する項目を調べるなど予習を行ってください。必要に応じて文献を紹介します。 復習：知識定着のため、配布資料を見直すなど復習を重視してください。疑問点・分らなかった点はそのままにせず、積極的に質問してください。 ※予習・復習は各120分以上を想定しています。			
5. 教科書 教科書は特に指定せず、必要に応じてプリントを配布します。			
6. 参考書 クレイトン・クリステンセン (2001)『イノベーションのジレンマ 増補改訂版』翔 泳社。 藤本隆宏編 (2013)『「人工物」複雑化の時代：設計立国日本の産業競争力』有斐閣。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 授業への貢献度・授業内レポート・小テストなど「平常点：40点」と「定期試験：60点」の合計によって評価します。 授業内レポートに対しては、授業内およびOh-o! Meijiシステムを活用してフィードバックを行います。			
9. その他 ・「経営技術論」を履修していることが望ましい。			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営文化論 A			中 畑 充 弘
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 人間が営む組織の経営的側面をひろく文化的価値観に照らして理解する視座を養う。諸外国の様々な経営組織の通文化性や文化的多様性を認識し、それらの比較をつうじて、そこに通底するイデオロギーを抽出し、当該経営社会の行動様式や価値体系の考察を深めることにある。ここでいう文化とは人間が後天的に獲得した知識・信仰・技芸・道徳・法律・慣習その他あらゆる能力の複合的総体である。経営文化論 A では、「経営文化」について理論的に検討を加え、諸学説を紹介しながら理解を深める。 <到達目標> 大別して①経営文化の研究（宗教・神話等も含まれる）②組織行動・組織文化の研究③人間関係の研究に関する知識・理論・方法・技術を習得し、社風・企業風土、CI（コーポレート・アイデンティティ）について理解する。企業は「利益共同体」であるとともに「生活共同体」であることを理解する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：経営文化とは何か？〔対面授業〕 第2回：「経営」とは何か？「文化」とは何か― 社会学・史学・文化人類学・宗教学の援用〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：経営文化に関する知識・理論・方法・技術 ― 比較の視点と解釈学、経営人類学〕〔対面授業〕 第4回：文化論（言語論的転回・論理哲学論考・構造機能主義・ポストモダニズム他）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：合理性モデル ― 利益追求・資本運用・合理効率性〔対面授業〕 第6回：企業目的・企業目標・企業組織〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：官僚制モデル（bureaucracy, corporacy）〔対面授業〕 第8回：組織文化（新制度派組織論）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：組織における非合理性―倫理・良心・真実・正義〔対面授業〕 第10回：宗教とビジネス倫理（キリスト教・イスラム教・儒教・仏教）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：企業の組織類型 ― チャンドラー、安部の論考を中心に〔対面授業〕 第12回：「会社神話」（創業者神話・ブランド神話・英雄伝説）と「会社儀礼」（社葬・「洗礼」）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：「信用」「信頼」と「リスク」「クライシス」―「非条理」の条理、ビジネス・エシックス〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：まとめ（「価値」とは何か、「交換」とは何か、を視点に）〔対面授業〕			
3. 履修上の注意 この授業は対面授業科目として開講されるが、授業は「対面授業」と「メディア授業」を隔週で交互に実施する。なお、メディア授業はその講義動画を Oh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。講義動画は原則毎週水曜日に Oh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は翌日までの視聴を可能とする。なお、メディア授業の講義動画に対して、感想・コメント・意見・質問等の提出を求め、出席確認および理解度確認を行う。提出は、Oh-o! Meiji クラスウェブの「アンケート」に設けることとする。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。 経営文化論は、学際的・総合的・横断的な学問領域であるので、社会学・文化人類学・宗教学・心理学・歴史学ほか、複眼的視点をもって臨むこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・予習する必要はないが授業の内容をしっかりと復習すること。随時、経営文化に関する身近な事例のコメントや意見、建設的かつ双方向的な議論を求めることもある（全くもって難解なものではない）。日頃からあらゆる社会事象、経営事象に対して自問自答し思考を連続させること。 ・適宜、板書・パワーポイントと視聴覚資料を図示、併用しながら授業を進めていく。 ・日頃から、新聞（一般紙）の経済面の記事を読み、社風・商慣習・C Iなどの諸問題について考えを巡らせておくことよい。			
5. 教科書 『文化と営利―比較経営文化論』安部 悦生（有斐閣）、2019			
6. 参考書 『経済史―いまを知り、未来を生きるために』小野塚 知二（有斐閣） 『制度と文化―組織を動かす見えない力』佐藤郁哉・山田真茂留（日本経済新聞出版社）2014 『多文化世界』第3版、ホフステード（有斐閣）2013 『Confianza―Trust』(西語) フランシス・フクヤマ (Atlantida) 1996 『テキスト経営人類学』中牧 弘允・日置 弘一郎・竹内恵行（東方出版）2019			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内容に関して感想・コメント・意見・質問などを求める場合、oh-o meijiの「クラスウェブ」の「アンケート」に提出すること。 これを受けて「フィードバックコメント」を返信する。			
8. 成績評価の方法 定期試験50％、レポート20％、授業への意欲的参加・貢献度30％ ※対面形式での試験は行わない。			
9. その他 キーワード： 合理性／非合理性、社会／宗教、制度、組織、慣習、価値			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営文化論 B			中 畑 充 弘
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 人間が営む組織の経営的側面をひろく文化的価値観に照らして理解する視座を養う。諸外国の様々な経営組織の通文化性や文化的多様性を認識し、それらの比較をつうじて、そこに通底するイデオロギーを抽出し、当該経営社会の行動様式や価値体系の考察を深めることにある。ここでいう文化とは人間が後天的に獲得した知識・信仰・技芸・道徳・法律・慣習その他あらゆる能力の複合的総体である。経営文化論 B では、マクロの視点で経営文化について検討し、特に諸外国の事例を挙げながら国際比較の観点から講義する。 <到達目標> 本講義を通して、経営文化の国際的相違と類似性、および企業文化や企業風土を形成する組織内部の文化的特性と、それを取り巻き外在する環境、制度ないしシステムとの関係について理解する。具体的には、英・米・中・伊・独・日の経営文化の構造的特質を捉え比較考察する。企業は、全て経済的合理性や利潤のみに動機づけられているわけではないことが「文化」の多様性から判読できる。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：経営文化とは何か？〔対面授業〕 第2回：経営文化の構造〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：イギリスの経営文化〔対面授業〕 第4回：アメリカの経営文化①〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：アメリカの経営文化②〔対面授業〕 第6回：中国の経営文化〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：イタリアの経営文化〔対面授業〕 第8回：ドイツの経営文化〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：日本の経営文化①〔対面授業〕 第10回：日本の経営文化②〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：経営文化の国際比較〔対面授業〕 第12回：文化衝突・グローバル化・「文化と営利」の共進化〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：経営人類学の系譜と宗教のもつ意味〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：まとめ―経営文化論の展望〔対面授業〕			
3. 履修上の注意 この授業は対面授業科目として開講されるが、授業は「対面授業」と「メディア授業」を隔週で交互に実施する。 なお、メディア授業は、その講義動画を原則毎週水曜日に Oh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は翌日までの視聴を可能とする。なお、メディア授業の講義動画に対して、感想・コメント・意見・質問等の提出を求め、出席確認および理解度確認を行う。提出は、Oh-o! Meiji クラスウェブの「アンケート」に設けることとする。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。 経営文化論は、学際的・総合的・横断的な学問領域であるので、社会学・文化人類学・宗教学・心理学・歴史学ほか、複眼的視点をもって臨むこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・予習する必要はないが授業の内容をしっかりと復習すること。随時、経営文化に関する身近な事例のコメントや意見、建設的かつ双方向的な議論を求めることもある（全くもって難解なものではない）。日頃からあらゆる社会事象、経営事象に対して自問自答し思考を連続させること。 ・適宜、板書・パワーポイントと視聴覚資料を図示、併用しながら授業を進めていく。 ・自身の生活を設計していこうとする「生活経営」（life management）を念頭に置いて思索する。世界史をさらっておくと理解が深まる。 ・日頃から、新聞（一般紙）の経済面の記事を読み、社風・商慣習・C Iなどの諸問題について考えを巡らせておくことよい。			
5. 教科書 『文化と営利―比較経営文化論』安部 悦生（有斐閣）、2019			
6. 参考書 『経済史―いまを知り、未来を生きるために』小野塚 知二（有斐閣） 『制度と文化―組織を動かす見えない力』佐藤郁哉・山田真茂留（日本経済新聞出版社）2014 『多文化世界』第3版、ホフステード（有斐閣）2013 『Confianza―Trust』(西語) フランシス・フクヤマ (Atlantida) 1996 『テキスト経営人類学』中牧 弘允・日置 弘一郎・竹内恵行（東方出版）2019			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内容に関して感想・コメント・意見・質問などを求める場合、oh-o meijiの「クラスウェブ」の「アンケート」に提出すること。 これを受けて「フィードバックコメント」を返信する。			
8. 成績評価の方法 定期試験50％、レポート20％、授業への意欲的参加・貢献度30％ ※対面形式での試験は行わない			
9. その他 キーワード： 合理性／非合理性、社会／宗教、制度、組織、慣習、価値			

科目ナンバー：(BA)MAN381J			
国際経営史 A			近 藤 光
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 本講義では、過去2世紀の間に、どのようにしてグローバル資本主義が進展してきたのかを、多国籍企業活動に焦点をあてて検討する。資本主義は世界経済を支える主柱としてグローバル化を果たした。その資本主義が各国で確立する過程において、多国籍企業は重要な役割を担った。グローバリゼーションの本質を理解するためには、多国籍企業の歴史的進化過程への理解を深める必要がある。 国際経営史Aでは、グローバル資本主義のなかで多国籍企業の果たす役割と歴史的文脈を確認する。そして、主に天然資源産業と製造業において、各企業がいかに国境を越えて投資を展開し、市場機会を見出し、価値創造を行ってきたのかを検討する。 <到達目標> 多国籍企業の歴史的進化過程に対する理解を深めることを通じて、グローバリゼーションの本質と動態を見定める視点を養い、今後の世界経済の動向を自ら考察できるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション (講義の概要／グローバリゼーションに関する議論の整理) 第2回：多国籍企業概念と理論 第3回：多国籍企業とグローバリゼーション（1）グローバル経済の形成と発展 第4回：多国籍企業とグローバリゼーション（2）第1次グローバル経済期の多国籍企業 第5回：多国籍企業とグローバリゼーション（3）第1次グローバル経済の終焉 第6回：グローバル経済への復興過程と新グローバル経済 第7回：天然資源と多国籍企業（1）起源と成長 第8回：天然資源と多国籍企業（2）国際的共謀 第9回：天然資源と多国籍企業（3）統合の成長と衰退 第10回：製造業と多国籍企業（1）起源と成長 第11回：製造業と多国籍企業（2）カルテルと成長要因 第12回：製造業と多国籍企業（3）再生と成長 第13回：製造業と多国籍企業（4）グローバルネットワーク 第14回：多国籍企業活動の要点整理 ※講義の進行具合に応じて一部講義内容や順番を変更する場合がある。			
3. 履修上の注意 初回の講義に出席し、授業内容や受講のルールについて確認すること。日頃から、世界の経済や企業活動、社会情勢に関するニュースや新聞記事などに目を通すことが重要である。 本講義ではOh-o! Meijiシステムを頻繁に利用するので、Oh-o! Meijiのお知らせ転送機能を設定しておくこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：毎回、次の講義で扱う内容について説明しますので、各自関連する項目を調べるなど予習を行ってください。必要に応じて文献を紹介します。（目安：60分以上） 復習：知識定着のため、配布資料を見直すなど、復習を重視してください。疑問点、分からなかった点はそのままにせず、積極的に質問してください。（目安：60分以上）			
5. 教科書 講義の教科書は特に指定しないが、参考図書にあるジェフリー・ジョーンズによる『国際経営講義』は本授業の理解を深める上で重要なので、可能な限り目を通して置くこと。			
6. 参考書 ジェフリー・ジョーンズ著、安室憲一・梅野巨利訳（2007）『国際経営講義』有斐閣。 ジェフリー・ジョーンズ著、坂本恒夫・鳥居陽介・正田繁監訳（2018）『多国籍企業の歴史』中央経済社。 ロバート・フィッツジェラルド著、川邊信雄・小林啓志・竹之内玲子・竹内竜介訳（2020）『多国籍企業の世界史』早稲田大学出版部。 奥村皓一・夏目啓二・上田慧（2006）『テキスト多国籍企業論』ミネルヴァ書房。 経営史学会編（2005）『外国経営史の基礎知識』有斐閣。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については次の授業で解説を行います。			
8. 成績評価の方法 平常点および理解度確認テスト（20%）、課題図書レポート（30%）、定期試験（50%）を合算し成績を評価する。単位を取得するためには課題図書レポートを期日内に提出し、定期試験を受験する必要がある。			
9. その他 授業の進行程度にもよるが、時間に余裕がある場合には、内容に関連する企業のケースを取り上げるほか、雑誌や新聞記事などから経営・経済関連のトピックを紹介する予定である。			

科目ナンバー：(BA)MAN381J			
国際経営史 B			近 藤 光
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 本講義のねらいは、グローバリゼーションの核心をなす多国籍企業の歴史的進化過程への理解を深めることにある。国際経営史Aでは、グローバル資本主義のなかで多国籍企業の果たす役割と歴史的な文脈を確認し、天然資源産業と製造業において、多国籍企業がいかに国境を越えて投資を展開し、市場機会を見出し、価値創造を行ってきたのか、そのやり方を検討した。 国際経営史Bでは、国際経営史Aでは取り扱わなかった産業における取り組みを詳細に検討する。さらに、多国籍企業の組織特性や政府との関わりについて学び、多国籍企業の経済的・社会的・政治的な影響力はどれほどのものであったのかといった点についても検討を行う。 <到達目標> 長期的視点から多国籍企業の活動について学ぶことで、グローバリゼーションの歴史過程への理解を深め、激動の時代といえる今日を、自ら見定める視座を得ることを目標とする。			
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション (講義の概要／グローバリゼーションに関する議論の整理) 第2回：多国籍企業とサービス産業：起源と成長 第3回：政府介入のインパクト：規制環境下の所有・非所有戦略 第4回：サービス産業と第2次グローバル経済 第5回：新たなサービス産業：多国籍銀行業と多国籍小売業 第6回：組織の構築（1）：市場参入と退出 第7回：組織の構築（2）：提携と企業集団化 第8回：多国籍企業の経営（1）：第1次グローバル経済における階層 第9回：多国籍企業の経営（2）：第2次グローバル経済の進展と組織 第10回：多国籍企業の経営（3）：知識の創造と活用 第11回：政府との関わり（1）：受入れ国政府と本国政府 第12回：政府との関わり（2）：多国間規制とロビー活動 第13回：多国籍企業の影響力 第14回：まとめ：多国籍企業は成長のエンジンか？ ※講義の進行具合に応じて一部講義内容や順番を変更する場合がある。			
3. 履修上の注意 初回の講義に出席し、授業内容や受講のルールについて確認すること。日頃から、世界の経済や企業活動、社会情勢に関するニュースや新聞記事などに目を通すことが重要である。 本講義ではOh-o! Meijiシステムを頻繁に利用するので、Oh-o! Meijiのお知らせ転送機能を設定しておくこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：毎回、次の講義で扱う内容について説明しますので、各自関連する項目を調べるなど予習を行ってください。必要に応じて文献を紹介します。（目安：60分以上） 復習：知識定着のため、配布資料を見直すなど、復習を重視してください。疑問点、分からなかった点はそのままにせず、積極的に質問してください。（目安：60分以上）			
5. 教科書 講義の教科書は特に指定しないが、参考図書にあるジェフリー・ジョーンズによる『国際経営講義』は本授業の理解を深める上で重要なので、可能な限り目を通して置くこと。			
6. 参考書 ジェフリー・ジョーンズ著、安室憲一・梅野巨利訳（2007）『国際経営講義』有斐閣。 ジェフリー・ジョーンズ著、坂本恒夫・鳥居陽介・正田繁監訳（2018）『多国籍企業の歴史』中央経済社。 ロバート・フィッツジェラルド著、川邊信雄・小林啓志・竹之内玲子・竹内竜介訳（2020）『多国籍企業の世界史』早稲田大学出版部。 奥村皓一・夏目啓二・上田慧（2006）『テキスト多国籍企業論』ミネルヴァ書房。 経営史学会編（2005）『外国経営史の基礎知識』有斐閣。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については次の授業で解説を行います。			
8. 成績評価の方法 平常点および理解度確認テスト（20%）、課題図書レポート（30%）、定期試験（50%）を合算し成績を評価する。単位を取得するためには課題図書レポートを期日内に提出し、定期試験を受験する必要がある。			
9. その他 授業の進行程度にもよるが、時間に余裕がある場合には、内容に関連する企業のケースを取り上げるほか、雑誌や新聞記事などから経営・経済関連のトピックを紹介する予定である。			

科目ナンバー：(BA)MAN321J			
日本経営論A			長谷部弘道
2単位	3年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 日本企業のありようを問う研究の多くには、その普遍性よりも特殊性に注目したもの、なによりその問題性、あるいは優位性を強調するものが多い。もちろんそれぞれの研究には多くの学びがあるわけだが、日本企業の国際競争力の停滞が顕著となりつつある現在、一体日本企業の何が問題で、何が優れているのか、あるいは別の観点からすれば、何が特殊で、何が普遍的なのかという点を、改めて考えるということが肝要である。 本講義では、「日本企業の特殊性、問題性と普遍性」と題して、日本を含め各国の企業史の研究成果も参照しながら、このテーマに対して考えていく。また、これらの確認作業を通じて、現在の日本企業のありようを事実ベースで捉えつつ、その特殊性と問題性、普遍性について、学生の皆さんとともに考えてみたい。 なお、春学期は、特に企業側の「特殊性」に焦点をあてて、これを考えてみたい。 <到達目標> ・現代日本社会において強大な影響力をもつ大企業の諸特徴と、その成立メカニズムについて理解したうえで、日本企業の特殊性、問題性と普遍性について自ら考察できるようになる。 ・経営学や経営管理論、組織論、日本経済史、社会学など、他科目で学ぶ知識を動員して、日本企業が持つ特殊性と問題性がいかなる時代的コンテキストの中で生じ、今日の我々の社会に影響を持つに至っているかを総合的に考える力を身につける。 ・日本経営史や国際経営史、比較経営論等、他の専門科目との横の連関を意識し、大局的な知識習得を目指す。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション：本授業の問題意識、分析視角、到達点 第2回 経営主体（トップマネジメント）の「かつて」と「現在」 第3回 日本企業の事業構造 第4回 資金調達①：メインバンクシステムの成立 第5回 資金調達②：メインバンクシステムの衰退 第6回 資金調達③：メインバンクシステムの日独比較 第7回 コーポレート・ガバナンスのあり方の歴史①：従業員主権の成立過程 第8回 コーポレート・ガバナンスのあり方の歴史②：株主主権の浸透と制度化 第9回 コーポレート・ガバナンスのあり方の歴史③：日米独比較 第10回 企業間関係①：その特色と優位性 第11回 企業間関係②：日米独の比較 第12回 日本企業のものづくり①：生産技術の発展と普及 第13回 日本企業のものづくり②：日本企業の研究開発と技術者 第14回 春学期の総括：企業側からみた日本企業の特殊性、問題性と普遍性			
3. 履修上の注意 ・初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。 ・日本経営論Bをあわせて履修することを勧める。 ・また、経済史Aや経営史Aを履修することで、歴史的な背景知識をより深く得ることが可能となる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ◇予習（3時間） ・テキストの指定された部分、配布された資料を事前に読み、示された質問に対する自分なりの回答を考えておく。 ◇復習（2時間） ・授業で示された追加資料や議論をもとに、予習で理解が不十分だった点を復習すること。 ・各回の講義で中心に議論された事項の因果関係や時系列的な流れについて、図式化してノートを作成する。			
5. 教科書 『日本経営論』金容度（博英社）、2023年。			
6. 参考書 『グラフィック経営史』佐々木聡（新世社）、2022年。 『ものづくり日本経営史』粕谷誠（名古屋大学出版会）、2012年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の対面授業で各課題に対するフィードバックをおこなう。			
8. 成績評価の方法 授業内課題（20%）、期末試験（80%）により評価する。			
9. その他 質問等の面談希望者は、講義終了後に直接相談するか、もしくはhasebe.hiromichi@nihon-u.ac.jp まで連絡すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN321J			
日本経営論B			長谷部弘道
2単位	3年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 日本企業のありようを問う研究の多くには、その普遍性よりも特殊性に注目したもの、なによりその問題性、あるいは優位性を強調するものが多い。もちろんそれぞれの研究には多くの学びがあるわけだが、日本企業の国際競争力の停滞が顕著となりつつある現在、一体日本企業の何が問題で、何が優れているのか、あるいは別の観点からすれば、何が特殊で、何が普遍的なのかという点を、改めて考えるということが肝要である。 本講義では、「日本企業の特殊性、問題性と普遍性」と題して、日本を含め各国の企業史の研究成果も参照しながら、このテーマに対して考えていく。また、これらの確認作業を通じて、現在の日本企業のありようを事実ベースで捉えつつ、その特殊性と問題性、普遍性について、学生の皆さんとともに考えてみたい。 なお、秋学期は、特に労働者側、そして地域社会の側に焦点をあて、これを考えてみたい。 <到達目標> ・現代日本社会において強大な影響力をもつ大企業の諸特徴と、その成立メカニズムについて理解したうえで、日本企業の特殊性、問題性と普遍性について自ら考察できるようになる。 ・経営学や経営管理論、組織論、日本経済史、社会学など、他科目で学ぶ知識を動員して、日本企業が持つ特殊性と問題性がいかなる時代的コンテキストの中で生じ、今日の我々の社会に影響を持つに至っているかを総合的に考える力を身につける。 ・日本経営史や国際経営史、比較経営論等、他の専門科目との横の連関を意識し、大局的な知識習得を目指す。			
2. 授業内容 第1講 イントロダクション：本授業の問題意識、分析視角、到達点 第2講 「日本的経営」と「共同性」 第3講 労使関係①：日本の労働運動の変遷 第4講 労使関係②：各国労働運動との比較 第5講 内部昇進システムの歴史①：戦後直後から1980年代まで 第6講 内部昇進システムの歴史②：1990年代から現代まで 第7講 職場と共同性①：生産労働者のキャリアと生活 第8講 職場と共同性②：技術者のキャリアと生活 第9講 職場と共同性③：女性のキャリアと生活 第10講 福利厚生①：戦前から戦後の連続と断絶 第11講 福利厚生②：戦後直後から現代まで 第12講 地域社会との関係①：企業内の共同性と地域 第13講 地域社会との関係②：地域からグローバルへ 第14講 秋学期の総括：労働者・地域側からみた日本企業の特殊性、問題性と普遍性			
3. 履修上の注意 ・初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。 ・日本経営論Aをあわせて履修することを勧める。 ・また、経済史Bや経営史Bを履修することで、歴史的な背景知識をより深く得ることが可能となる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ◇予習（3時間） ・テキストの指定された部分、配布された資料を事前に読み、示された質問に対する自分なりの回答を考えておく。 ◇復習（2時間） ・授業で示された追加資料や議論をもとに、予習で理解が不十分だった点を復習すること。 ・各回の講義で中心に議論された事項の因果関係や時系列的な流れについて、図式化してノートを作成する。			
5. 教科書 『日本経営論』金容度（博英社）、2023年。			
6. 参考書 『グラフィック経営史』佐々木聡（新世社）、2022年。 『日本的雇用システムをつくる 1945-1995』梅崎修・南雲智映・島西智輝（東京大学出版会）、2023年。 『日本的雇用システム』仁田道夫・久本憲夫（ナカニシヤ出版）、2008年。 『＜サラリーマン＞の文化史 あるいは「家族」と「安定」の近現代史』鈴木貴宇（青弓社）、2022年。 『学歴と格差の経営史 新しい歴史像を求めて』若林幸男（日本経済評論社）、2018年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の対面授業で各課題に対するフィードバックをおこなう。			
8. 成績評価の方法 授業内課題（20%）、期末試験（80%）により評価する。			
9. その他 質問等の面談希望者は、講義終了後に直接相談するか、もしくはhasebe.hiromichi@nihon-u.ac.jpまで連絡すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN381J			
日本経営史			佐々木 聡
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 江戸時代から現在にいたる日本の企業経営の展開を、企業間結合の変遷、経営構想と戦略の策定、戦略と組織、財務・生産・販売・購買のシステム、人事・労務、研究開発、政府と財界団体の機能などの諸側面に分けて、多面的に検討することにした。また国際比較史・国際関係史的な検証も進めたい。 〈到達目標〉 日本の経営発展の諸側面を学ぶことによって、現代日本の企業システムの生成過程についての理解を深めるとともに、その近未来のあり方を展望する洞察力を培うことを目的とする。			
2. 授業内容 Ⅰ 江戸期の商家経営（9～10月） 第1回 a：行商から「定住商」へ、b：商家の所有と経営（三井の事例）〔対面授業〕 第2回 a：呉服商にみる経営革新、b：両替商の業務と内国為替〔対面授業〕 第3回 a：奉公人制度、b：江戸時代に創業した企業〔メディア授業（リアルタイム型）〕 Ⅱ 会社制度の普及と近代企業の生成（10～11月） 第4回 a：会社知識の導入と普及、b：会社制度の制定と企業の対応〔対面授業〕 第5回 a：国立銀行の設立と普及、b：工業化のスタートと技術導入〔対面授業〕 第6回 a：金解禁と金輸出再禁止、b：大戦景気から統制経済へ（1914～1937）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 Ⅲ 大企業体制の生成と展開（11～12月） 第7回 a：「財閥」の定義とその形成、b：コンツェルン体制への展開〔対面授業〕 第8回 a：新興事業と新興コンツェルンの発展、b：財界団体の形成〔対面授業〕 第9回 a：金解禁と金輸出再禁止、b：大戦景気から統制経済へ（1914～1937）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 Ⅳ 戦後の企業発展と今日的課題（12～1月） 第10回 a：財閥の転向と改組、b：戦時中の財閥〔対面授業〕 第11回 a：財閥解体、b：集中排除〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第12回 a：戦後復興と企業グループの再編、b：戦時経済から復興経済（1937～1954）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第13回 a：高度成長と「戦後型」企業、b：3大メガ・バンク体制〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第14回 a：高度成長の時代（1955～1973）、b：試験の予定（定期試験期間中の可能性もあり）〔対面授業〕			
3. 履修上の注意 教室の事情によっては、履修者数制限を実施する。履修者選抜方法と成績評価の方法については、第1回の授業時に説明するので、受講希望者は初回授業に必ず出席すること。小テストや課題レポートなどの重要な通知は、授業中に行うので注意すること。これを知らなかったというのは、理由として受け付けない。課題レポートを所定の書式と内容で指示通りに提出しなかった場合は、理由のいかににかかわらず、単位取得は不可とする。必要と認めた場合、出欠状況を確認する。 メディア授業はZOOMによるオンラインのリアルタイム型で実施する。その受講に際しては、必ず画面に氏名が表示されるようにし、必ず顔を見せて受講すること。対面授業とオンライン・リアルタイム型授業の日程については、授業の進行の都合上、変更することもあるので、授業中やOh-o!Meijiのクラスウェブでの通知に注意すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業予定の内容を事前の配布資料（クラスウェブにアップの予定です）と『グラフィック経営史』と『マテリアル日本経営史』で十分に予習しておくこと。			
5. 教科書 佐々木聡編『グラフィック経営史』（新世社、2022年）、宇田川勝・中村青志編『マテリアル日本経営史』（有斐閣、1999年） ※授業時の説明で、毎回、使用するので、受講者は必ず購入してください。 佐々木聡『産業経営史シリーズ10 石鹸・洗剤産業』（日本経営史研究所、2016年）※課題レポート＋小テストで使用します。必ず授業に出席して、テキストと課題レポート＋小テストの実施要領を確認すること。欠席していて知らなかったために受けられなかったといういひわけは受け付けない。			
6. 参考書 佐々木聡編『日本の企業家群像』（丸善、2001年）、佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅱ』（丸善、2003年）、佐々木聡編『日本の戦後企業家史』（有斐閣、2001年）、宮本又郎他『日本経営史〔新版〕』（有斐閣、2007年）、森川英正『トップマネジメントの経営史』（有斐閣、1996年）、佐々木聡・藤井信幸編『情報と経営革新』（同文館、1997年）、宇田川勝・佐々木聡・四宮正親編『失敗と再生の経営史』（有斐閣、2005年）、佐々木聡『科学的管理法の日本的展開』（有斐閣、1998年）、佐々木聡『日本的流通の経営史』（有斐閣、2007年）、佐々木聡『日本の企業家9 丸田芳郎』（PHP研究所、2017年）、橘川武郎『ゼロからわかる日本経営史』（日経文庫、2018年）、粕谷誠『コア・テキスト経営史』（新世社、2019年）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内あるいはOh-o!Meijiを通じてフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 小テスト＋課題レポート（50％：いずれか1つを実施の場合も双方実施の場合も全体の50％、すなわち双方実施の場合はそれぞれで25％（計50％）、期末試験（50％）とする。なお、小テスト＋課題レポートは必要条件とするので、小テストを受けなかった場合あるいは課題レポートを期限までに提出しない場合は、前記の評価基準にかかわらず、自動的に単位取得は不可とする。			
9. その他 自習による補足が必要とされるので、意欲的かつ自主的な学習姿勢が求められよう。			

科目ナンバー：(BA)MAN381J			
日本企業者史			佐々木 聡
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 日本企業者史では、日本の経営革新の担い手となった企業家に焦点をあてて、企業家としての資質形成、人的ネットワークの形成、「革新」を生み出すにいたるプロセスとその波及効果を検証する。その際、企業家の資質形成などの主体的側面はもとより、経営環境（当時の教育制度、国内外の政治・経済の動きなど）すなわち客体的条件も併せて考察することによって、評価の客観性・歴史性に配慮することにした。また必要に応じて、海外の企業家の事例も比較史的に紹介することにした。 〈到達目標〉 日本の経営風土のなかで生まれた企業家の特徴を理解できる能力を身につけることを目標とする。			
2. 授業内容 Ⅰ 企業者史学の方法と課題（4月） 第1回 a：経営史学の生成 b：企業者史学の生成〔対面授業〕 第2回 a：企業者の客体的条件と主体的条件 b：企業家を観る見方〔対面授業〕 Ⅱ 幕末・維新期の企業者機会（4月）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第3回 安田善次郎・浅野総一郎・大倉喜八郎 第4回 渋沢栄一と岩崎弥太郎・弥之助（三菱）〔対面授業〕 Ⅲ 明治～昭和戦前期の新規事業（5～6月） 第5回 初代長瀬富郎（花王）と2代鈴木三郎助（味の素）〔対面授業〕 第6回 福原有信（資生堂）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第7回 鮎川義介（日産）と豊田喜一郎（トヨタ）〔対面授業〕 第8回 小林一三（阪急・東宝）と堤康次郎（西武）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 Ⅳ 戦後の企業家群像（6～7月） 第9回 本田宗一郎と藤沢武夫（ホンダ）〔対面授業〕 第10回 盛田昭夫と井深大（ソニー）〔対面授業〕 第11回 飯田亮（セコム）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第12回 小林宏治（NEC）と丸田芳郎（花王）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第13回 中内功（ダイエー）と鈴木敏文（セブン・イレブン）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第14回 a：まとめ、b：試験の予定（定期試験期間中の可能性もあり）〔対面授業〕			
3. 履修上の注意 履修者数制限を実施する可能性もある。履修者選抜方法と成績評価の方法については、第1回の授業時に説明するので受講希望者は必ず初回の授業に出席すること。秋学期の「日本経営史」とあわせて受講することが望ましい。重要な通知は、授業中に行うので注意すること。これを知らなかったことは、理由として受け付けない。 メディア授業はZOOMによるオンラインのリアルタイム型で実施する。その受講に際しては、必ず画面に氏名が表示されるようにし、必ず顔を見せて受講すること。対面授業とオンライン・リアルタイム型授業の日程については、授業の進行の都合上、変更することもあるので、授業中やOh-o!Meijiのクラスウェブでの通知に注意すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業予定の内容を指定テキストで予習することが望ましい。			
5. 教科書 佐々木聡編『日本の企業家群像』（丸善、2001年）、佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅱ』（丸善、2003年）、佐々木聡編『日本の戦後企業家史』（有斐閣、2001年）、佐々木聡『暮らしを変えた美容と衛生―福原有信（資生堂）・小林富次郎（ライオン）・長瀬富郎（花王）』（芙蓉書房、2009年）、佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅲ』（丸善、2011年）、佐々木聡『日本の企業家9 丸田芳郎』（PHP研究所、2017年）			
6. 参考書 宮本又郎他編『日本経営史〔新版〕』（有斐閣、2007年）、森川英正『トップマネジメントの経営史』（有斐閣、1996年）、佐々木聡・藤井信幸編『情報と経営革新』（同文館、1997年）、宇田川勝・中村青志編『マテリアル日本経営史』（有斐閣、1999年）、佐々木聡『科学的管理法の日本的展開』（有斐閣、1998年）、月刊「ABC」編集部編『彼の人に学ぶ』（富山房インターナショナル、2005年）、佐々木聡『日本的流通の経営史』（有斐閣、2007年）、佐々木聡『地域卸売企業ダイカの展開』（ミネルヴァ書房、2015年）、佐々木聡『産業経営史シリーズ10 石鹸・洗剤産業』（日本経営史研究所、2016年）、橘川武郎『イノベーションの歴史』（有斐閣、2019年）、佐々木聡監修『すごい実業家のアカン話』（ナツメ社、2022年）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内あるいはOh-o!Meijiを通じてフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 小テスト＋課題レポート（50％）、期末試験（50％）とする。なお、小テストの受験と課題レポートの提出は必要条件とするので、小テストを受けなかった場合や課題レポートを期限までに提出しなかった場合は、前記の評価基準や理由のいかににかかわらず、自動的に不可とする。			
9. その他 自習による補足が必要とされるので、意欲的かつ自主的な学習姿勢が求められよう。			

科目ナンバー：(BA)MAN321J			
比較経営論（アメリカ）A		宮田 憲一	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 アメリカ企業は、日本企業とともに、様々なマネジメント手法を生み出しながら、全体として成長を続け、経営学領域に対しても様々な知見をもたらしている。特に1990年代以降、日本企業がバブル崩壊後に停滞を続けている一方で、アメリカ企業は、ITバブル崩壊や世界金融危機を引き起こしながらも、プラットフォーム企業に代表されるような新たな高成長企業を生み出している。こうした日米企業の違いの要因は何なのであろうか。アメリカ企業の優位性の源泉はどこからくるのだろうか。そして、アメリカ企業の経営から何を学ぶことができるのだろうか。 本講義では、アメリカ企業を、経営管理と企業制度の両面から理解しつつ、日本企業との類似点や相違点の検討を通じて、企業経営の今日的課題を考察していく。比較経営論（アメリカ）Aでは、アメリカ企業の経営管理にみられる特徴や行動様式を対象として、成長を続けるアメリカ企業を支える経営資源やマネジメントの在り方を中心に検討する。 〈到達目標〉 ・現代ビジネスの中心的存在であるアメリカ企業の経営活動について、その特徴や行動様式を理解した上で、日本企業との類似点や相違点について自ら考察できるようになることを目標とする。 ・1,2年生で学習した知識を踏まえて、アメリカ企業という特定の企業組織の中でどのようにそうした知識が確認されるのかを考察できる力を身につける。 ・アメリカ企業との比較から、これからの日本の企業経営を展望する洞察力を養う。			
2. 授業内容 【イントロダクション：日米企業の経営パフォーマンス】 〈Week 1〉 動画50分、対面100分 第1回：イントロダクション メディア授業① 経営管理論の基礎知識レビュー（フルオンデマンド型） 対面授業1 企業業績の日米比較 【経営資源のマネジメント】 〈Week 2〉 動画100分、対面100分 第2－3回：アメリカ企業の「モノ」のマネジメント メディア授業② 生産管理（フルオンデマンド型） メディア授業③ マーケティング（フルオンデマンド型） 対面授業2 モノのマネジメントの日米比較 〈Week 3〉 動画100分、対面100分 第4－5回：アメリカ企業の「ヒト」のマネジメント メディア授業④ 人事管理（フルオンデマンド型） メディア授業⑤ 経営教育（フルオンデマンド型） 対面授業3 ヒトのマネジメントの日米比較 〈Week 4〉 動画150分、対面100分 第6－7回：アメリカ企業の「カネ」のマネジメント メディア授業⑥ 資金調達（フルオンデマンド型） メディア授業⑦ 企業統治（フルオンデマンド型） 対面授業4 カネのマネジメントの日米比較 第8回：アメリカ企業の「経営資源」のマネジメント メディア授業⑧ ヒト・モノ・カネの変化（フルオンデマンド型） 【戦略と組織のマネジメント】 〈Week 5〉 動画100分、対面100分 第9－10回：アメリカ企業の「戦略」のマネジメント メディア授業⑨ 企業戦略（フルオンデマンド型） メディア授業⑩ 技術戦略（フルオンデマンド型） 対面授業5 戦略のマネジメントの日米比較 〈Week 6〉 動画150分、対面100分 第11－12回：アメリカ企業の「組織」のマネジメント メディア授業⑪ 組織構造（フルオンデマンド型） メディア授業⑫ 経営文化（フルオンデマンド型） 対面授業6 組織のマネジメントの日米比較 第13回：アメリカ企業の「戦略と組織」のマネジメント メディア授業⑬ 戦略と組織の変化（フルオンデマンド型） 【アメリカの経営、日本の経営】 〈Week 7〉 メディア授業なし、対面100分 第14回：総括と期末試験 対面授業7 a: 授業内試験 b: 比較経営論（アメリカ）Aの総括 ※講義の進行具合に応じて一部講義内容や順番の変更があります。			
3. 履修上の注意 ・本講義は、メディア授業と対面授業を組み合わせたクォーター科目（S1）として実施される。通常のセメスター科目よりも、毎週の学習時間が多く求められる点に注意すること。 ・メディア授業の講義動画は、原則毎週金曜日に Oh-o! Meijiシステムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して、課題の提出を求め、出席確認および理解度確認を行なう。 ・初回の講義に出席し、授業内容や受講ルールについて必ず確認すること。 ・本講義ではOh-o! Meijiシステムを頻繁に利用するので、都度クラスウェアを確認すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 □予習（7時間） ・授業動画を視聴し、課題を提出したうえで、毎回の対面授業に参加すること。 ・授業前に講義資料や補足資料が配信される場合は、必ず資料を読んで授業に臨むこと。 □復習（3時間） ・対面授業の議論を踏まえて、理解が不十分だった点を授業動画で復習すること。 ・授業で示された参考文献を読み、各トピックの理解を深めること。			
5. 教科書 教科書は特に指定せず、適宜資料を配布する。			
6. 参考書 『日米企業の利益率格差』伊丹敬之著（有斐）2006年。 『アメリカの経営・日本の経営』伊藤健生ほか編（ミネルヴァ書房）2010年。 『フェナラル・バーバース・テクノロジーのイノベーション』清水洋著（有斐閣）2016年。 『よくわかるアメリカ文化史』異孝之ほか編（ミネルヴァ書房）2020年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の対面授業で各課題に対するフィードバックをおこなう。			
8. 成績評価の方法 毎回の課題と発言などの平常点（40%）、期末試験（60%）により評価する。			
9. その他 ・質問等の面談希望者は、講義の終了後に直接相談するか、もしくは教員の個人HPトップページにある「Office hour reservation」からアポイントメントを取ることもできる。 ・社会的状況により対面授業の実施が困難になった場合は、対面授業をリアルタイム配信に変更しての実施を予定している。その際は、Oh-o! Meijiのお知らせ機能から連絡するため、確認を忘れない（転送設定しておく）ように注意すること。 ・比較経営論（アメリカ）Bを合わせて履修することを勧める。 ・また、アメリカ文化論/American cultureを並行して履修することで、背景知識を得ることができる。			

科目ナンバー：(BA)MAN321J			
比較経営論（アメリカ）B		宮田 憲一	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 アメリカ企業は、日本企業とともに、様々なマネジメント手法を生み出しながら、全体として成長を続け、経営学領域に対しても様々な知見をもたらしている。特に1990年代以降、日本企業がバブル崩壊後に停滞を続けている一方で、アメリカ企業は、ITバブル崩壊や世界金融危機を引き起こしながらも、プラットフォーム企業に代表されるような新たな高成長企業を生み出している。こうした日米企業の違いの要因は何なのであろうか。アメリカ企業の優位性の源泉はどこからくるのだろうか。そして、アメリカ企業の経営から何を学ぶことができるのだろうか。 本講義では、アメリカ企業を、経営管理と企業制度の両面から理解しつつ、日本企業との類似点や相違点の検討を通じて、企業経営の今日的課題を考察していく。比較経営論（アメリカ）Bでは、アメリカの企業制度にみられる独自の優位性や限界、特殊性を対象として、新たな高成長企業を生み出すアメリカの仕組みや考え方を中心に検討する。 〈到達目標〉 ・現代ビジネスの中心的存在であるアメリカの企業について、その優位性や限界、また特殊性を理解した上で、日本企業との類似点や相違点について自ら考察できるようになることを目標とする。 ・1,2年生で学習した知識を踏まえて、アメリカ企業という特定の企業組織の中でどのようにそうした知識が確認されるのかを考察できる力を身につける。 ・アメリカ企業との比較から、これからの日本の企業経営を展望する洞察力を養う。			
2. 授業内容 【イントロダクション：日米企業の強い産業】 〈Week 1〉 動画50分、対面100分 第1回：イントロダクション メディア授業① 企業論の基礎知識レビュー（フルオンデマンド型） 対面授業1 産業構造の日米比較 【アメリカの企業家と中小企業】 〈Week 2〉 動画100分、対面100分 第2－3回：アメリカの企業家とスタートアップ企業 メディア授業② 企業家と産業集積（フルオンデマンド型） メディア授業③ベンチャー・キャピタル（フルオンデマンド型） 対面授業2 スタートアップ企業の日米比較 〈Week 3〉 動画150分、対面100分 第4－5回：アメリカの中小企業 メディア授業④ 三重構造（フルオンデマンド型） メディア授業⑤ 中小企業政策（フルオンデマンド型） 対面授業3 中小企業の日米比較 第6回：アメリカの企業家と中小企業 メディア授業⑥ 企業家と中小企業の進化（フルオンデマンド型） 【アメリカの大企業と多国籍企業】 〈Week 4〉 動画100分、対面100分 第7－8回：アメリカの大企業 メディア授業⑦ 成長企業の変化（フルオンデマンド型） メディア授業⑧ 大企業システムの変容（フルオンデマンド型） 対面授業4 大企業の日米比較 〈Week 5〉 動画150分、対面100分 第9－10回：アメリカの多国籍企業 メディア授業⑨ 国際戦略と組織（フルオンデマンド型） メディア授業⑩ アメリカ企業の制約（フルオンデマンド型） 対面授業5 多国籍企業の日米比較 第11回：アメリカの大企業と多国籍企業 メディア授業⑪ 大企業と多国籍企業の進化（フルオンデマンド型） 【アメリカの企業倫理、経営倫理】 〈Week 6〉 動画100分、対面100分 第12－13回：アメリカの企業倫理 メディア授業⑫ 企業倫理（フルオンデマンド型） メディア授業⑬ CSR活動（フルオンデマンド型） 対面授業6 企業倫理の日米比較 【アメリカの企業、日本の企業】 〈Week 7〉 メディア授業なし、対面100分 第14回：総括と期末試験 対面授業7 a: 授業内試験 b: 比較経営論（アメリカ）Bの総括 ※講義の進行具合に応じて一部講義内容や順番の変更があります。			
3. 履修上の注意 ・本講義は、メディア授業と対面授業を組み合わせたクォーター科目（S2）として実施される。通常のセメスター科目よりも、毎週の学習時間が多く求められる点に注意すること。 ・メディア授業の講義動画は、原則毎週金曜日に Oh-o! Meijiシステムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して、課題の提出を求め、出席確認および理解度確認を行なう。 ・初回の講義に出席し、授業内容や受講ルールについて必ず確認すること。 ・本講義ではOh-o! Meijiシステムを頻繁に利用するので、都度クラスウェアを確認すること。 ・本講義は、6月下旬に国際学会参加のため出張する可能性がある。その場合は、メディア授業で授業実施あるいは補講を実施する。参加が決まった場合は、授業内で連絡する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 □予習（7時間） ・授業動画を視聴し、課題を提出したうえで、毎回の対面授業に参加すること。 ・授業前に講義資料や補足資料が配信される場合は、必ず資料を読んで授業に臨むこと。 □復習（3時間） ・対面授業の議論を踏まえて、理解が不十分だった点を授業動画で復習すること。 ・授業で示された参考文献を読み、各トピックの理解を深めること。			
5. 教科書 教科書は特に指定せず、適宜資料を配布する。			
6. 参考書 『日米企業の利益率格差』伊丹敬之著（有斐閣）2006年。 『日米企業のグローバル競争戦略』塩見治人ほか編（名古屋大学出版会）2008年。 『現代アメリカ経済史』谷口明丈ほか編（有斐閣）2017年。 『よくわかるアメリカ文化史』異孝之ほか編（ミネルヴァ書房）2020年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の対面授業で各課題に対するフィードバックをおこなう。			
8. 成績評価の方法 毎回の課題と発言などの平常点（40%）、期末試験（60%）により評価する。			
9. その他 ・可能であれば、外部講師をお招きした特別講義の実施を検討している。実施する場合は、授業内でアナウンスする。 ・質問等の面談希望者は、講義の終了後に直接相談するか、もしくは教員の個人HPトップページにある「Office hour reservation」からアポイントメントを取ることもできる。 ・社会的状況により対面授業の実施が困難になった場合は、対面授業をリアルタイム配信に変更しての実施を予定している。その際は、Oh-o! Meijiのお知らせ機能から連絡するため、確認を忘れない（転送設定しておく）ように注意すること。 ・比較経営論（アメリカ）Aを合わせて履修することを勧める。 ・また、アメリカ文化論/American cultureを並行して履修することで、背景知識を得ることができる。			

科目ナンバー：(BA)MAN321J			
比較経営論（西欧）A			林 薫 子
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <授業の概要> 今期の比較経営論（西欧）は、特にフランスの企業、経営を中心に取り上げる。なかでも、フランスのスタートアップ支援政策「フレンチテック」を中心に、フランスの大企業、特にラグジュアリー産業がどのようにスタートアップと関わっているかについて具体的に講義する。なお講師が在日フランス大使館に17年勤務し、その後、日仏通訳の株式会社を起業していることから、日仏間での実務体験や起業体験についても紹介する。またゲスト講師を招くこともある。履修者には、テーマについてのリサーチやプレゼンに積極的に参加することをのぞむ。 <到達目標> フランスの企業経営の理解を通して、ビジネスの多面的な見方、分析力、実行力を身につけ、かつ、日本とフランスのみならず、日本とヨーロッパ、さらにグローバルなビジネスへ挑戦できるような可能性を習得する。そのスキルとしてのプレゼン力も身につける。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション：講師紹介（留学・大使館勤務・起業経験）とヨーロッパ企業、フランス企業のイメージ調査 第2回 欧州企業の特徴：イメージと現実、今後の課題 第3回 フランスとスタートアップ：スタートアップ支援政策「フレンチテック」とは？ 第4回 企業研究 - LVMH 1：ラグジュアリーではなくイノベーション企業 第5回 企業研究 - LVMH 2：スタートアップとオープンイノベーション 第6回 企業研究 - LVMH 3：LVMHと協業する日本のスタートアップ 第7回 フランス・ラグジュアリー企業比較；LVMH-リシュモン-ケリング 第8回 フランスとイタリアのラグジュアリー産業比較 第9回 欧州のオープンイノベーション展示会「VIVATECHNOLOGY」最新報告 第10回 LVMHイノベーションアワードへの挑戦（起業シミュレーション） 第11回 企業研究 - ドイツ編（受講者からの発表を中心に） 第12回 企業研究 - イタリア・スペイン編（受講者からの発表を中心に） 第13回 企業研究 - 北欧編（受講者からの発表を中心に） 第14回 まとめ - 欧州企業と日本とのビジネス：異文化での働き方 以上はあくまでも進行予定であり、受講メンバーの希望・興味によって進度・内容を調整する予定である。			
3. 履修上の注意 フランスおよびヨーロッパの社会、企業に興味をもっていること、さらに座学だけではなく、欧州企業のリサーチやプレゼンテーションなどに積極的に参加する学生の履修をのぞむ。期末試験は実施せず、講義中のプレゼンやレポートを中心に評価するので出席することが履修の前提となる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ヨーロッパやフランスに関する新聞記事やニュース等に注目しておくこと。また講義中にリサーチやグループワークを実施するので、内容によっては予習やフォローアップが必要となる。			
5. 教科書 特に定めない。			
6. 参考書 『フレンチテック：伝統からイノベーションへ。変化するフランスとスタートアップ』林薫子監修・著（一般社団法人金融財政事情研究会）2024年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内に出席する課題に対してのフィードバックは、授業中に実施する。			
8. 成績評価の方法 期末試験は実施せず、講義では毎回30分程度のアクティブラーニングを行う。具体的にはディスカッション、レポートの提出およびプレゼンテーションを実施し、その点数（60％）と授業への参加度（40％）で総合的に評価する。			
9. その他 授業に関する質問は講義中のみ受け付ける。ヨーロッパ、フランスのみならず、起業やスタートアップに興味があり、講義に積極的に参加する履修者を望む。			

科目ナンバー：(BA)MAN321J			
比較経営論（西欧）B			林 薫 子
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <授業の概要> 今期の比較経営論（西欧）では、特にフランスの企業、経営、エコシステムを中心に取り上げる。本講義では、フランスやヨーロッパ企業の特徴を踏まえ、日本における「欧州企業」として、日本でビジネスを展開するフランスや欧州の大企業、スタートアップの事例から、日本と欧州のハイブリッドな異文化経営、その中での企業、経営の課題について理解する。なお講師が在日フランス大使館に17年勤務し、その後、日仏通訳の株式会社を起業していることから、日仏間の実務体験や起業体験についても紹介する。またゲスト講師を招くこともある。履修者には、テーマについてのリサーチやプレゼンに積極的に参加することをのぞむ。 <到達目標> フランスの企業経営の理解を通して、ビジネスの多面的な見方、分析力、実行力を身につけ、かつ、日本とフランスのみならず、日本とヨーロッパ、さらにグローバルなビジネスへ挑戦できるような可能性を習得する。そのスキルとしてのプレゼン力も身につける。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション：異文化で働くことー講師の実務体験から 第2回 大阪・関西万博出展の欧州国・企業にみるトレンドと日本戦略 第3回 欧州企業の新潮流：Tech for Goodとサステナビリティ 第4回 日欧老舗企業の交流：エノキアン商会とは？ 第5回 日本におけるフランス企業のビジネスと異文化コミュニケーション 第6回 日本における欧州企業のビジネスと異文化コミュニケーション 第7回 日本からフランスに挑戦するスタートアップの事例紹介 : ユナイテッドシルク社 第8回 フランスから日本に挑戦するスタートアップの事例紹介 : ファシリティジャパン社 第9回 日本における欧州企業のリサーチ 1：準備、リサーチ 第10回 日本における欧州企業のリサーチ 2：実践、インタビュー 第11回 日本における欧州企業のリサーチ 3：レポート作成 第12回 日本における欧州企業のリサーチ 4：報告会 第13回 日欧アントレプレナーシップと起業家の本音 第14回 まとめ：欧州企業と日本企業の比較と協業の将来展望 以上はあくまでも進行予定であり、受講メンバーの希望・興味によって進度・内容を調整する予定である。			
3. 履修上の注意 フランスおよびヨーロッパの社会、企業に興味をもっていること、さらに座学だけではなく、欧州企業のリサーチやプレゼンテーションなどに積極的に参加する学生の履修をのぞむ。期末試験は実施せず、講義中のプレゼンやレポートを中心に評価するので出席することが履修の前提となる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ヨーロッパやフランスに関する新聞記事やニュース等に注目しておくこと。また講義中にリサーチやグループワークを実施するので、内容によっては予習やフォローアップが必要となる。			
5. 教科書 特に定めない。			
6. 参考書 『フレンチテック：伝統からイノベーションへ。変化するフランスとスタートアップ』林薫子監修・著（一般社団法人金融財政事情研究会）2024年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内に出席する課題に対してのフィードバックは、授業中に実施する。			
8. 成績評価の方法 期末試験は実施せず、講義では毎回30分程度のアクティブラーニングを行う。具体的にはディスカッション、レポートの提出およびプレゼンテーションを実施し、その点数（60％）と授業への参加度（40％）で総合的に評価する。			
9. その他 授業に関する質問は講義中のみ受け付ける。ヨーロッパ、フランスのみならず、起業やスタートアップに興味があり、講義に積極的に参加する履修者を望む。			

科目ナンバー：(BA)MAN321J			
比較経営論（ロシア・東欧）A			加藤志津子
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 ロシア・東欧の企業経営について比較経営論の観点から考える。とくにロシアを中心として考察する。 〈到達目標〉 ①比較経営の方法について理解する。 ②ロシアの企業経営の特徴を理解する。 ③ロシアの企業経営の特徴を環境・文化・制度・歴史から理解する。			
2. 授業内容 第1回 インTRODakション 第2回 比較経営の方法 第3回 世界の中でのロシア 第4回 ロシア企業概観 第5回 ロシアの歴史 第6回 ソ連社会主義企業システム 第7回 ソ連企業システムのパフォーマンス 第8回 ゴルバチョフ時代のソ連企業 第9回 エリツィン時代のソ連企業 第10回 第1次プーチン時代のロシア企業 第11回 メドヴェージェフ時代のロシア企業 第12回 第2次プーチン時代のロシア企業 第13回 ロシア企業のいま 第14回 ロシアの企業経営から学ぶもの			
3. 履修上の注意 ロシアは日本人にとってやや縁遠い感じのする国なので、異質なもののから学ぼうとする姿勢を持つことが重要。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新聞、テレビ等でロシア関係の報道に注目しておくこと。			
5. 教科書 なし。			
6. 参考書 加藤志津子『市場経済移行期のロシア企業』文眞堂、2006年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題は主として授業内アンケート等になる予定であり、フィードバックは授業内で行われる。			
8. 成績評価の方法 平常点：授業内でのアンケート等（50点）。1回のみ自由レポートを提出できる（10点）。 定期試験：持ち込みすべて可（50点）。			
9. その他 授業に関する質問は講義中に受け付ける。個人的に質問したい場合は、講義後の時間か、あるいは研究室（TEL/FAX 03-3296-2048）宛てに連絡すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN321J			
比較経営論（ロシア・東欧）B			加藤志津子
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 ロシア・東欧の企業経営について比較経営論の観点から考える。とくにロシア、カザフスタン、リトアニア、ポーランドを中心として考察する。 〈到達目標〉 ①比較経営の方法について理解する。 ②ロシア等4か国の企業経営の特徴を理解する。 ③ロシア等4か国の企業経営の特徴を環境・文化・制度・歴史から理解する。 ④4か国の企業経営の異同、その背景にある諸要因について理解する。			
2. 授業内容 第1回 インTRODakション 第2回 比較経営論とロシア・東欧諸国の企業 第3回 ロシア・東欧諸国の企業概観 第4回 ロシアの企業（1） 第5回 ロシアの企業（2） 第6回 ポーランドの企業（1） 第7回 ポーランドの企業（2） 第8回 リトアニアの企業（1） 第9回 リトアニアの企業（2） 第10回 カザフスタンの企業（1） 第11回 カザフスタンの企業（2） 第12回 ロシア・東欧諸国の労働・組織の文化 第13回 ロシア・東欧諸国の企業に、いま注目する 第14回 ロシア・東欧諸国の企業経営から学ぶもの			
3. 履修上の注意 ロシア・東欧諸国は日本人にとってやや縁遠い感じのする国なので、異質なもののから学ぼうとする姿勢を持つことが重要。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新聞、テレビ等でロシア・東欧関係の報道に注目しておくこと。			
5. 教科書 なし			
6. 参考書 加藤志津子『市場経済移行期のロシア企業』文眞堂、2006年。その他、講義中に紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題は主として授業内アンケート等になる予定であり、フィードバックは授業内で行われる。			
8. 成績評価の方法 平常点：授業内でのアンケート等（50点）。1回のみ自由レポートを提出できる（10点）。 定期試験：持ち込みすべて可（50点）。			
9. その他 授業に関する質問は講義中に受け付ける。個人的に質問したい場合は、講義後の時間か、あるいは研究室（TEL/FAX 03-3296-2048）宛てに連絡すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN321J			
比較経営論（中国）A			カク燕書
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 中国経済と企業は、多くの懸念材料を抱えながらも近年成長している。中国はかつて社会主義計画経済体制をとっており徐々に市場経済に移行しつつある。この点は典型的な資本主義や市場経済とは異なる。本講義は、中国の独自の歴史や特徴を踏まえて、成長する中国を対象に、様々な経済と経営活動を歴史的に考察すると同時に、現在と今後の中国経済と企業に投げかける諸問題を検討し、中国経済と企業の諸特質を理解することを目的としている。 〈到達目標〉 中国経済と企業は急ピッチで成長し、かつ絶えざる構造変化をつづけている。中国の経済は今後も持続するのか。超大国に向かって歩む中で、中国の経済は国内にどのような軋みを抱え、国内外にいくらかのインパクトを及ぼしているか。中国経済と企業の構造的諸特質に関する様々な見方を検討し、事例研究を通して中国経済に特有の不確実性とダイナミズムに注目し分析する。それによって、諸君の歴史の視野と国際感覚を培うことを目標とする。			
2. 授業内容 (1) 講義概要の説明 中国経済・企業・経営に関する諸視点 (2) 中国の政治と経済 中国の政治システムは経済にどう影響するのか、他の共産主義国の失敗から何を学んだか。 (3) 農業と土地と地方経済 人民公社の解体が1980年代の中国の成長につながったのはなぜか。1980年代と1990年代前半に、郷鎮企業は中国の経済発展でどんな役割を果たしたか。 (4) 工業と輸出経済の興隆 なぜ中国が巨大な工業国・輸出国になったのか。中国の産業開発戦略はどのようなものか。鄧小平の産業政策はどのようなものだったか。 (5) 都市化とインフラ どのくらいの速度で中国は都市化してきたか。都市化は経済成長とどう関係しているか。なぜ中国人は都市化が「部分的だ」と言うのか。 (6) 企業制度 国有企業と民間企業ではどちらがより重要か。国有企業改革では何を目指し、どのような形で運営されているか。国有企業集団はどのような構造になっているか。 (7) 財政システムと中央・地方政府の関係 地方政府は、どのくらいの力を持ち、分権化された政府は経済発展にどのような影響を及ぼし、今日の財政システムの最大の問題は何か。 (8) 金融システム 銀行の役割はどう変わってきたか。中国が金融危機に陥るリスクはあるのか。「影の銀行」をどれほど警戒すべきか。中国はどのようにして金利を自由化したのか。 (9) エネルギーと環境 中国はどのくらいのエネルギーを使っているのか。中国はどのようなエネルギーを使い、その構成はどう変化しているか。 (10) 人工構成と労働市場 「人口ボーナス」とは。どんな影響を及ぼし、中国の「人口転換」はどう進むのか。国民の高齢化は労働力と経済成長にどんな影響を与えるか。 (11) 興隆する消費者経済 中国の成長は「不均衡」か、中国経済の個人消費の割合がそれほど低いのはなぜか。中国の「セーフティネット」はどのくらい整備されているか。 (12) 格差と腐敗 中国の格差はどの程度ひどいのか。格差の拡大が社会の混乱につながっていないのはなぜか。所得格差が縮む可能性はあるか。中国の汚職問題はどのくらいひどいのか。 (13) 成長モデルを変える なぜ「中国は成長モデルを変えなければならない」と言われるのか。なぜ資本からのリターンが減少しているのか。経済改革の目標とはどのようなものか。 (14) 中国と世界 中国経済が世界最大になったら何が起ころか。中国の経済面での強みは、政治的な影響力にどう結びつくか。アジア諸国はどう対応すべきか。			
3. 履修上の注意 積極的な発表と発言を求め、双方向で授業を進め活発の議論を行い問題の理解を深める。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、教科書の該当箇所を読み、今回の授業内容に関する専門用語について辞典などで調べること。復習として教科書および参考書の該当箇所を読むこと。			
5. 教科書 Arthur・R・Kroeber著 東方雅美〔訳〕 吉崎達彦〔解説〕 『チャイナ・エコノミー（China's Economy）』白桃書房、2018年2月			
6. 参考書 授業中に適宜指示する			
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間レポートの解説については、Oh-o!Meijiを通じて配信するため、確認すること。			
8. 成績評価の方法 授業参加（30%）、ミニレポート（20%）、最終テスト（50%）の配分で評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN321J			
比較経営論（中国）B			カク燕書
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 世界の工場から世界の市場への変化の中に、中国に進出する日本企業の経営管理は、進化しつつつてきた。本講義では中国に進出する日本企業の経営管理に焦点を当て、事例研究を中心に、日系企業の中国での経営管理理論と実践を分析・把握することを目的とする。 〈到達目標〉 多国籍企業論、経営資源移転論、経営管理論、人材育成論等を勉強しながら、実際に中国に進出するに日系企業の事例を取り上げ、日系企業の中国での経営管理現場の実態を考察し、経営管理における競争優位の形成、組織の作り方、人材マネジメント等の事実の検討を通じて、多角的視点から日本企業の中国での事業展開についての見識を深め、その特質を理解しようとする。			
2. 授業内容 (1) 中国に進出する外資系企業の分析諸視点 (2) ハイブリッド型人材マネジメントシステム (3) 中国労働市場の特徴と離職問題 (4) 余剰人員の整理と対策 雇用管理の諸システム (5) 企業内教育訓練 新入社員教育 職能別教育 OJT 自己啓発 (6) 多能工の育成と課題 日中多能工の比較と異同点 (7) 日本的の現場力と改善活動の日系企業への移転 (8) 内部昇進制度 社内公募制度 中核社員の育成と人材形成 (9) 評価制度 業績評価 態度評価 補足評価 意義と目的 (10) 技術集約的職場の労務管理—自動車メーカーの製造現場の事例— (11) 女子労働者の雇用システム—大手電機メーカーの製造職場の事例— (12) 中小企業の技能形成—中小電機メーカーの日中比較— (13) 女子従業員の人事管理—大手電機メーカーのホワイトカラー職場の事例— (14) 「複線型人事労務管理」の課題と展望			
3. 履修上の注意 積極的な発表と発言を求め、双方向で授業を進め活発の議論を行い問題の理解を深める。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、教科書の該当箇所を読み、今回の授業内容に関する専門用語について辞典などで調べること。復習として教科書および参考書の該当箇所を読むこと。			
5. 教科書 李捷生等『日系企業の人事・労務管理—人材マネジメントの事例を中心に』白桃書房 2015年11月6日発行			
6. 参考書 授業中に適宜指示する			
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間レポートの解説については、Oh-o!Meijiを通じて配信するため、確認すること。			
8. 成績評価の方法 授業参加（30%）、ミニレポート（20%）、最終テスト（50%）の配分で評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN321E			
Transcultural Management A			永井 裕久
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course Description This course is designed to provide an understanding of the basic theories of "Transcultural Management" and their practical applications in business activities that transcend cultural boundaries. Students will practice making managerial decisions related to global business issues. The course includes individual presentations that introduce the business customs of one's own culture, analyzed using these theories, as well as team presentations to examine critical incidents in global context. Active learning methods, such as interactive discussions, in-class activities, simulations, and group presentations, are central to this course and aim to cultivate practical management skills.			
Objectives of the Course 1. Learn how to apply basic Transcultural Management theories in practice. 2. Develop skills in interactive discussion, oral presentation, and team collaboration. 3. Acquire managerial decision-making competency in addressing global business challenges.			
2. 授業内容 1. Introduction: What is Transcultural Management? 2. What Is Culture? Where Does It Come From? 3. Cultural Context (Hall) 4. The Culture Map (Meyer) 5. Hofstede's Cultural Dimensions Model (Hofstede) 6. Individual Presentation A 7. Individual Presentation B 8. Team Formation and Feedback 9. The Role of a Global Manager 10. The Global Manager as a Decision Maker 11. The Global Manager as a Negotiator 12. The Global Manager as a Leader 13. Team Presentation: Cross-Cultural Problem-Solving Simulation 14. Conclusion: Career Opportunities as a Global Manager			
3. 履修上の注意 English Language Requirement This course employs active learning in English. Therefore, students must possess the ability to engage in impromptu discussions, speeches, and presentations in English without relying on tools such as smartphones. Proficiency in active English communication skills is essential. Students are selected based on language proficiency tests (TOEFL iBT, IELTS, TOEIC).			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Reading and other assignments will be announced in class. Assignments should be submitted to the designated sections on Oh-o! Meiji.			
5. 教科書 There is no textbook. Lecture materials will be uploaded on Oh-o! Meiji or handed out in class.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 First half of the academic progress will be reviewed at the feedback session. Feedbacks of the other activities and exercises will be either handed out or returned through Oh-o! Meiji.			
8. 成績評価の方法 Active participation in class discussions and activities: 60% Team presentation: 20% Individual presentation: 20%			
9. その他 In keeping with the nature of active learning and the qualities required of future global leaders, a minimum attendance of 70% (10 out of 14 sessions) is required to receive credit for this course. Tardiness without a valid original certificate (photocopies or photos taken with a phone will not be accepted) will result in grade deductions.			

科目ナンバー：(BA)MAN321E			
Transcultural Management B			永井 裕久
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course Description This course aims to study comprehensive savvy and practical skills in transcultural management for next generation of the global leaders. It focuses on the current issues as well as the future challenges from global manager's perspectives. Based on the basic theories and knowledge studied in Transcultural Management (A), this course is intended to develop the student's advanced transcultural management skills through activities and exercises. A team interview project will be conducted to study the mindset and competencies are required for the global leaders. Class will be divided into teams to conduct an interview to real international businessperson who has working experience in abroad (the target person has to be arranged by the team.) Project will be conducted based on the following 3 steps. a. Interview and find out the cross-cultural issue(s) was experienced by the interviewee. b. Analyze the causes of the main issue based on the theory studied in the lecture. c. Propose the solution plans to the issue as a team.			
Objectives of the Course 1. Understand practical managerial skills required for future global managers. 2. Learn how to conduct interview survey. 3. Experience a process of team building through the team project.			
2. 授業内容 1. Introduction: Abilities Required for Global Managers 2. Global Mindset: Understand the differences and complexities among various cultures. 3. Global Competency: Ability to achieve goals effectively. 4. Single-loop learning vs. Double-loop learning for solving cross-cultural issues. 5. Global Leadership 6. Interview Method: How to conduct a successful interview survey 7. Active Listening: Key techniques to receive complete message from speaker. 8. Feedback session to review the progress 9. Interim Presentation for Team Project. 10. Building Trust and Rapport with International Coworkers 11. Managing Group Dynamics of Transcultural Team 12. Coaching to Grow People in Your Team 13. Final Presentation for Team Project 14. Discussion and Conclusion			
3. 履修上の注意 English Language Requirement This course employs active learning in English. Therefore, students must possess the ability to engage in impromptu discussions, speeches, and presentations in English without relying on tools such as smartphones. Proficiency in active English communication skills is essential. Students are selected based on language proficiency tests (TOEFL iBT, IELTS, TOEIC).			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Reading and other assignments will be announced in class. Assignments should be submitted to the designated sections on Oh-o! Meiji.			
5. 教科書 There is no textbook. Lecture materials will be uploaded on Oh-o! Meiji or handed out in class.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 First half of the academic progress will be reviewed at the feedback session. Feedbacks of the other activities and exercises will be either handed out or returned through Oh-o! Meiji.			
8. 成績評価の方法 Active Participation in Class Discussion: 60% Interim Presentation: 10% Final Presentation and discussion :30%			
9. その他 In keeping with the nature of active learning and the qualities required of future global leaders, a minimum attendance of 70% (10 out of 14 sessions) is required to receive credit for this course. Tardiness without a valid original certificate (photocopies or photos taken with a phone will not be accepted) will result in grade deductions.			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学外国語講読A 【使用言語：中国語】			カク燕書
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 日本と中国の経済関係がますます強まっている時代に応じて、今現在の中国に関するビジネス事情——政治、経済、経営、文化、中国人の生活と考え方などを中国語で理解していただきたい。また、就職活動に役に立つだけでなく、社会人になってからも仕事で使える中国語を身につけることを目的にする。 〈到達目標〉 読解と作文の力をしっかりと身につけながら、現代中国の社会・文化、中国人の考え方・人情など中国のビジネス文化を理解してもらいたい。また、実用的な中国語も覚え、流暢かつ自然に中国語で内容のある会話ができることを目標とする。			
2. 授業内容 第1回 概要説明 中国人 中国文化 商务中国語 第2回 中国文化的特点 (1) 凝聚性 第3回 中国文化的特点 (2) 包容性 第4回 中国文化的特点 (3) 多样性 第5回 中国人的特点体现 (1) 中国人的谦虚 第6回 中国人的特点体现 (2) 注重和谐和中庸 第7回 中国人的特点体现 (3) 集体主义 第8回 商务会谈 (1) 时间／姓名／称谓 第9回 商务会谈 (2) 介绍／名片／握手 第10回 商务会谈 (3) 着装／寒暄 第11回 建立业务关系 (1) 宴请／饮酒 第12回 建立业务关系 (2) 筷子／吸烟／送礼 第13回 跨文化交流 (1) 书信／电话 第14回 跨文化交流 (2) 体态语言 第15回 总结和考试			
3. 履修上の注意 1, 2年次の中国語の履修経験者を限定とし、中国語の基礎知識が必要である。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・予習復習必須、課毎に重点的な所を指定し暗唱を課する ・中国語検定試験、漢語水平考試（HSK）が望ましい。			
5. 教科書 授業の時に指示する			
6. 参考書 授業の時に指定する			
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間レポートと作文の解説については、Oh-o!Meijiを通じて配信するため、確認すること。			
8. 成績評価の方法 小テスト：40％ 筆記試験：40％ 授業参加：20％			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学外国語講読B 【使用言語：中国語】			カク燕書
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 日本と中国の経済関係がますます強まっている時代に応じて、今現在の中国に関するビジネス事情——政治、経済、経営、文化、中国人の生活と考え方などを中国語で理解していただきたい。また、就職活動に役に立つだけでなく、社会人になってからも仕事で使える中国語を身につけることを目的にする。 〈到達目標〉 読解と作文の力をしっかりと身につけながら、現代中国の社会・文化、中国人の考え方・人情など中国のビジネス文化を理解してもらいたい。また、実用的な中国語も覚え、流暢かつ自然に中国語で内容のある会話ができることを目標とする。			
2. 授業内容 第1回 人际关系 (1) 人情 第2回 人际关系 (2) 面子 第3回 人际关系 (3) 上下级关系 第4回 人际关系 (4) 同事关系 第5回 人际关系 (5) 商务关系 第6回 人际关系 (6) 与政府的关系 第7回 期中考试 中国电影欣赏 第8回 谈判 (1) 人选 第9回 谈判 (2) 价格 第10回 谈判 (3) 合同 第11回 管理 (1) 部門的權利和地位 第12回 管理 (2) 職員管理 第13回 管理 (3) 激励 第14回 管理 (4) 年齢 第15回 中国商务文化 发表 期末考试			
3. 履修上の注意 1, 2年次の中国語の履修経験者を限定とし、中国語の基礎知識が必要です。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・予習復習必須、課毎に重点的な所を指定し暗唱を課する ・中国語検定試験、漢語水平考試（HSK）が望ましい。			
5. 教科書 授業の時に指示する			
6. 参考書 授業の時に指定する			
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間レポートのと作文の解説については、Oh-o!Meijiを通じて配信するため、確認すること。			
8. 成績評価の方法 小テスト：40％ 筆記試験：40％ 授業参加：20％			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学外国語講読A 【使用言語：ロシア語】			加藤志津子
2単位	3年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> ロシア語を使ってリアルなロシア経営を多面的に理解する。 <到達目標> ①ロシア語をある程度、使えるようにする。 ②ロシア語を使って、リアルなロシア経営を多面的に理解する。 ③外国の経営を理解しようとする際、日本語、英語でもある程度可能であるが、現地語を用いることによってさらに深く理解できることを知ってもらう。			
2. 授業内容 履修者の関心・語学能力に応じて選択されたロシア語テキストを読みつつ、ロシアの企業経営について考察する。 第1回 イントロダクション 第2―5回 ロシアの文化、社会 ロシア語テキストを読みつつ、ロシアの文化、社会について理解する。 第6―10講 ロシアの経済 ロシア語テキストを読みつつ、ロシアの経済について理解する。 第11―14講 ロシアの企業経営 ロシア語テキストを読みつつ、ロシアの企業経営について理解する。			
3. 履修上の注意 本授業は1クラスあたりの受講人数制限がある。そのため、履修に際しては事前登録が必要である。詳細は『経営学部履修の手引』を参照すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ロシア語を学習しておくことが望ましいが、未修でも可。予習は必要。			
5. 教科書 未定。開講後、履修者の関心・語学力に応じて選択する。			
6. 参考書 加藤志津子『市場経済移行期のロシア企業』文眞堂、2006年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題は多くの場合、テキストの予習なので、授業内で発表してもらい、フィードバックする。			
8. 成績評価の方法 平常点：授業時の発表で評価する（50点）。1回のみ自由レポートを提出できる（10点）。 定期試験：持ち込みすべて可（50点）。			
9. その他 授業に関する質問は講義中に受け付ける。個人的に質問したい場合は、講義後の時間か、あるいは研究室（TEL/FAX 03-3296-2048）宛てに連絡すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学外国語講読B 【使用言語：ロシア語】			加藤志津子
2単位	3年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> ロシア語を使ってリアルなロシア経営を多面的に理解する。 <到達目標> ①ロシア語をある程度、使えるようにする。 ②ロシア語を使って、リアルなロシア経営を多面的に理解する。 ③外国の経営を理解しようとする際、日本語、英語でもある程度可能であるが、現地語を用いることによってさらに深く理解できることを知ってもらう。			
2. 授業内容 履修者の関心・語学能力に応じて選択されたロシア語テキストを読みつつ、ロシアの企業経営について考察する。 第1回 イントロダクション 第2―5回 ロシアの文化、社会 ロシア語テキストを読みつつ、ロシアの文化、社会について理解する。 第6―10講 ロシアの経済 ロシア語テキストを読みつつ、ロシアの経済について理解する。 第11―14講 ロシアの企業経営 ロシア語テキストを読みつつ、ロシアの企業経営について理解する。			
3. 履修上の注意 本授業は1クラスあたりの受講人数制限がある。そのため、履修に際しては事前登録が必要である。詳細は『経営学部履修の手引』を参照すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ロシア語を学習しておくことが望ましいが、未修でも可。予習は必要。			
5. 教科書 未定。開講後、履修者の関心・語学力に応じて選択する。			
6. 参考書 加藤志津子『市場経済移行期のロシア企業』文眞堂、2006年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題は多くの場合、テキストの予習なので、授業内で発表してもらい、フィードバックする。			
8. 成績評価の方法 平常点：授業時の発表で評価する（50点）。1回のみ自由レポートを提出できる（10点）。 定期試験：持ち込みすべて可（50点）。			
9. その他 授業に関する質問は講義中に受け付ける。個人的に質問したい場合は、講義後の時間か、あるいは研究室（TEL/FAX 03-3296-2048）宛てに連絡すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学外国語講読A 【使用言語：英語】			徐 玉 琴
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 昨今、大手企業が大型M&Aに乗り出す動きが相次いでいる。例えば、2019年1月8日に報道された武田薬品工業が6兆8000億円でシャイアーを買収する案件があった。なぜ企業が大きな金額を払ってまでM&Aを行うのか。大型M&Aに踏み切った理由の一つとして、グローバル競争に勝つための研究開発能力を獲得することが挙げられる。一方、企業が必ずしもM&Aで獲得した研究開発能力を有効に活用できていないことが指摘されている。多くの企業は、研究開発力を向上することによって、競争優位を築き利益を上げていく。本講義では、研究開発能力を高めるために、企業はケイパビリティをどのように構築しているのかを学ぶ。 〈到達目標〉 ・英語文献の読解力を養い、著者の本意を理解すること。 ・ダイナミックケイパビリティの重要性を理解すること。			
2. 授業内容 講義は、指定教科書の講読・訳出、そしてトピックに対応した事例の紹介と絡めながら進める。具体的には、履修者の学籍番号に割当、指定範囲（1～2センテンス）を音読し、訳出してもらう。発表後、その訳や内容について説明を加える。 第1回：イントロダクション 第2～6回：講読と訳出 第7回：中間試験 第8～13回：講読と訳出 第14回 a：まとめ b：試験			
3. 履修上の注意 ・講義を1/3以上欠席しないこと。 ・本授業は1クラスあたりの受講人数制限があるため、履修に際しては事前登録が必要となる。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・配布された資料を事前に読んでおくこと。また、不明な単語は事前に必ず調べておくこと。専門用語などについても確認しておくこと。 ・事前に指定した範囲を和訳し、授業開始前にOh-o ! Meijiから提出しておくこと。			
5. 教科書 Teece, D. J. (2007) "Explicating Dynamic Capabilities: The Nature and Microfoundations of (Sustainable) Enterprise Performance", Strategic Management Journal, 28 (13): 1319-1350. (授業資料はOh-o ! Meijiにアップロードする)			
6. 参考書 適宜紹介する			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内に解説する			
8. 成績評価の方法 発表30%、中間試験30%、期末試験40%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学外国語講読B 【使用言語：英語】			徐 玉 琴
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈授業概要〉 M&Aでグローバル化・多角化を図る企業が多い。M&Aのシナジーとしては事業の統合、マーケットシェアやブランドの獲得によって、売上高の増加や競争優位の向上が挙げられる。しかし組織統合の結果によって、M&Aのシナジー効果が変わってくる。したがって、買収側企業にとって、買収後の組織はいかに統合していくかが重要な課題となる。 「外国語講読B」では、M&A後の統合ケイパビリティなどについての英語論文を講読していきながら、経営学の知見を学習する。 〈到達目標〉 ・英語文献の読解力を養い、著者の本意を理解する。 ・ビジネススクール、コンサルタントおよびメディアの特徴と関係を理解する。			
2. 授業内容 講義では、履修者の学籍番号に割当、指定範囲（1～2センテンス）を音読し、訳出してもらう。発表後、その訳や内容について説明を加える。 第1回：イントロダクション 第2～6回：講読と訳出 第7回：中間試験 第8～13回：講読と訳出 第14回 a：まとめ b：試験			
3. 履修上の注意 ・講義を1/3以上欠席しないこと。 ・本授業は1クラスあたりの受講人数制限があるため、履修に際しては事前登録が必要となる。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・配布された資料を事前に読んでおくこと。また、不明な単語は事前に必ず調べておくこと。専門用語などについても確認しておくこと。 ・事前に指定した範囲を和訳し、授業開始前にOh-o!Meijiから提出しておくこと。			
5. 教科書 Teece, D. J. (2007) "Explicating Dynamic Capabilities: The Nature and Microfoundations of (Sustainable) Enterprise Performance", Strategic Management Journal, 28 (13): 1319-1350. (授業資料はOh-o!Meijiにアップロードする)			
6. 参考書 適宜紹介する			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内に解説する			
8. 成績評価の方法 発表30%、中間試験30%、期末試験40%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学外国語講読A 【使用言語：ドイツ語】		石 塚 史 樹	
2 単位		春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 本講義はドイツの経済・経営・政治にかかわる題材を中心に、参加者による輪読形式を軸とするドイツ語による文献講読を行う。取り上げる題材は、ドイツの全体的な経済的な枠組みにかかわる政策である。主には、現在のドイツの雑誌の記事を教材として、文法上の構造および構文構造の正確な把握、経済・経営にかかわるドイツ語語彙の正確な理解、ドイツの視点に基づく文脈の把握ができるようになることを到達目標とする。 すでに第二外国語その他でドイツ語の基礎的な知識をある程度身につけていることが参加者には求められるので、注意すること。 また、授業の実際の進度は教室内の現実に応じてその都度決定する。このため、必ずしも「授業内容」で挙げた進度を強行することはないので、希望者は安心して参加すること。 記事は、参加者の都合を考え、できるだけ短いものを選ぶ予定である。			
2. 授業内容 第1講 イントロダクション・履修条件の説明 第2講 ドイツの経済成長にかかわる記事 第3講 ドイツの金融政策にかかわる記事 第4講 ドイツとEUにかかわる記事 第5講 ドイツの移民政策にかかわる記事 第6講 ドイツの農業政策にかかわる記事 第7講 ドイツの住宅事情にかかわる記事 第8講 ドイツの法律にかかわる記事① 第9講 ドイツの法律にかかわる記事 第10講 ドイツのエネルギー政策にかかわる記事 第11講 ドイツの安全保障にかかわる記事 第12講 ドイツの教育政策にかかわる記事 第13講 ドイツの環境政策にかかわる記事 第14講 ドイツの外交政策にかかわる記事			
3. 履修上の注意 第二学年終了時までに第二外国語などでドイツ語の基礎知識をある程度身につけていることを参加条件とするので注意すること。 ・基本的に、無断欠席を三回繰り返した場合、単位認定は行わない。 ・公欠や就活などなど正当化できる欠席でも、必ず事前に連絡すること。 この場合、証拠書類の提出を求めるので注意すること。 ・病欠は一回までは認めるが、それ以降は病欠した授業日に通院を署名できる証拠書類（通院のレシートなど）の提出を求めるので注意すること。 ・交通事情などで遅刻する場合もその旨連絡すること。 本講義は、1クラス当たりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては、Webによる事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引き」を参照すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 履修者は、配布した資料の指示した範囲をあらかじめ精読し、その概要を把握しておくこと。そのうえで、不明な箇所をリストアップし、把握した内容とともに授業内で報告すること。また、Web翻訳機能を使って和訳を作り参加してもほとんど学習意義はないので、愚直にアナログに辞書を使って調べて教材に書かれていることの意味を把握し、出来の良し悪しにかかわらず準備した内容を報告し、フィードバックを求めること。 この際、どんなに考えても分からない箇所があれば丁寧に説明するので、臆することなく質問すること。			
5. 教科書 必要な教材は、「Der Spiegel」である。教材として使用する記事は、当方で準備するので当該雑誌を購入する必要はない。			
6. 参考書 必要に従い、授業時にその都度指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義内でその都度実施する。			
8. 成績評価の方法 授業への貢献度（50%）、報告内容（50%）。本講義において出席は絶対であるため、「履修上の注意」を参照すること。			
9. その他 当授業は、ドイツの大学への留学やドイツ経済・印欧諸語の研究など、目的をもってドイツ語の学習を希望する参加者には極めて意義の多い授業である。また、上記に挙げたテーマ以外でも取り上げてほしい文献があればいくらかでも対応するので、希望者はその旨申し出ること。 ドイツの大学への留学希望者には、留学生活にかかわるドイツの国内事情も詳しく説明する予定である。			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学外国語講読B 【使用言語：ドイツ語】		石 塚 史 樹	
2 単位		秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 本講義はドイツの経済・経営にかかわる題材を中心に、参加者による輪読形式を軸とするドイツ語による文献講読を行う。取り上げる題材は、ドイツの産業と企業である。主には、現在のドイツの雑誌の記事を教材として、文法上の構造および構文構造の正確な把握、経済・経営にかかわるドイツ語語彙の正確な理解、ドイツの視点に基づく文脈の把握ができるようになることを到達目標とする。すでに第二外国語その他でドイツ語の基礎的な知識をある程度身につけていることが参加者には求められるので、注意すること。 また、授業の実際の進度は教室内の現実に応じてその都度決定する。このため、必ずしも「授業内容」で挙げた進度を強行することはないので、希望者は安心して参加すること。 記事は、参加者の都合を考え、できるだけ短いものを選ぶ予定である。			
2. 授業内容 第1講 イントロダクション・履修条件の説明 第2講 ドイツの自動車産業にかかわる記事① 第3講 ドイツの自動車産業にかかわる記事② 第4講 ドイツの化学産業にかかわる記事① 第5講 ドイツの化学産業にかかわる記事② 第6講 ドイツの工作機械産業にかかわる記事① 第7講 ドイツの工作機械産業にかかわる記事② 第8講 ドイツの銀行業界にかかわる記事① 第9講 ドイツの銀行業界にかかわる記事② 第10講 ドイツの小売業界にかかわる記事① 第11講 ドイツの小売業界にかかわる記事② 第12講 ドイツのデジタル産業にかかわる記事① 第13講 ドイツのデジタル産業にかかわる記事② 第14講 ドイツの中小零細企業に関する記事			
3. 履修上の注意 第二学年終了時までに第二外国語などでドイツ語の基礎知識をある程度身につけていることを参加条件とするので注意すること。 ・基本的に、無断欠席を三回繰り返した場合、単位認定は行わない。 ・公欠や就活などなど正当化できる欠席でも、必ず事前に連絡すること。 この場合、証拠書類の提出を求めるので注意すること。 ・病欠は一回までは認めるが、それ以降は病欠した授業日に通院を署名できる証拠書類（通院のレシートなど）の提出を求めるので注意すること。 ・交通事情などで遅刻する場合もその旨連絡すること。 本講義は、1クラス当たりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては、Webによる事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引き」を参照すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 履修者は、配布した資料の指示した範囲をあらかじめ精読し、その概要を把握しておくこと。そのうえで、不明な箇所をリストアップし、把握した内容とともに授業内で報告すること。また、Web翻訳機能を使って和訳を作り参加してもほとんど学習意義はないので、愚直にアナログに辞書を使って調べて教材に書かれていることの意味を把握し、出来の良し悪しにかかわらず準備した内容を報告し、フィードバックを求めること。 この際、どんなに考えても分からない箇所があれば、臆することなく質問すること。			
5. 教科書 必要な教材は、「Der Spiegel」である。教材として使用する記事は、当方で準備するので当該雑誌を購入する必要はない。			
6. 参考書 必要に従い、授業時にその都度指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義内でその都度実施する。			
8. 成績評価の方法 授業への貢献度（50%）、報告内容（50%）。本講義において出席は絶対であるため、「履修上の注意」を参照すること。			
9. その他 当授業は、ドイツの大学への留学やドイツ経済・印欧諸語の研究など、目的をもってドイツ語の学習を希望する参加者には極めて意義の多い授業である。また、上記に挙げたテーマ以外でも取り上げてほしい文献があればいくらかでも対応するので、希望者はその旨申し出ること。 また、ドイツの大学への留学希望者に対しては、留学生活にかかわるドイツの国内事情も説明する予定である。			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学外国語講読A 【使用言語：フランス語】			関 家 ち さ と
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 同時通訳アプリや翻訳アプリ、海外とのオンライン会議が普及・発展し、言語を取り巻く環境はここ数年で様変わりしました。これによって異なる言語の人ともずいぶん簡単にコミュニケーションが取れるようになりました。しかし国や文化によって心地良いと感じるコミュニケーション方法は異なります。講師自身、日本とフランスで長年インタビュー調査を行っており、日本人とフランス人ではインタビュー方法にかなり異なる工夫が求められます。 本授業では、日本とフランスを例にとりながら、日々進化する言語ツールも駆使して海外の人と関わっていく方法を皆さんと模索したいと考えています。 生成AIの誕生によって、人と人工知能の境界がどんどん曖昧になっている現代において、生身の人と直接言葉を交わし、関わる力が益々求められています。OECD等、国際機関のテキストを中心に、クラス内でのディスカッションを通して、このような現代で私たち人間にどのような能力が求められているかについても考え、将来のキャリアプランに繋げてもらいたいと考えています。 フランス語を一度でも習ったことがある方、海外経験のある方、海外に興味のある方を歓迎します。 <到達目標> ・人の話を引き出す力（インタビュー力）を習得する。 ・異なる価値観や考えを聞くことを通して、自分の価値観や大切にしていることに気づく。 ・AIによる技術革新が加速する現代において、どのようなスキルが求められているかを考え、キャリアに活かす視点を持つ。			
2. 授業内容 OECD等の国際機関のテキストを中心に、グループディスカッションを行います 第1回 イン트로ダクション 第2回 国際比較の面白さと意義 第3～14回 インタビューの意義、現代の言語を取巻く環境、インタビューで心掛けること コミュニケーションを円滑にするフランス語 フランス語を通してフランスという国を理解する 生成AIがもたらす変化、これからの労働者に求められるスキル等			
3. 履修上の注意 通年で履修すること			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 クラス外でインタビューしてもらう予定です（日本語）			
5. 教科書 なし、授業内で配布します			
6. 参考書 なし			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題レポート等へのフィードバックは、Oh-o!Meijiを通して行います			
8. 成績評価の方法 ・平常点20%（欠席は3回まで） ・授業への貢献度（ディスカッションへの参加度合い、コメントペーパーの提出） 40% ・課題レポート40% ＊コロナやインフル等の感染症による欠席は考慮します。 ＊就活やゼミ活動等の学生活動での欠席は2回までとし、代替課題の提出によって出席扱いとします。 ＊コメントペーパーは、3回未提出で1回欠席扱いとします。			
9. その他 なし。			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学外国語講読B 【使用言語：フランス語】			関 家 ち さ と
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 本授業では、フランスと日本の働き方について学びます。フランス人、日本人はどんな働き方やキャリア形成の仕方をしているのでしょうか？講師自身がフランス企業と日本企業に行ったインタビュー調査によると、フランスは働き方やキャリア形成の方法において、日本企業と異なる点が多いです。 したがって両国を比較することで、多様な働き方を知るとともに、国際比較の視点を得ることが期待されます。様々な働き方を知ること、受講生の皆さんが自分自身のキャリアプランを描くためのアイディアを得られるのではないかと考えています。 さらに情報が溢れる現代において、イメージで語られることの多い国の違いを、正しい情報に基づいて知る力は、今後ますます重要となってきます。したがって日仏の働き方に関するテキストをもとにディスカッションしたり、身近な人にインタビューすることで、少しでもそうした視点を習得してもらいたいと考えています。 フランス語を一度でも学んだことがある方、海外経験のある方、海外に興味のある方を歓迎します。 <到達目標> ・フランスと日本の比較を通して、国際比較の視点をもつこと。 ・両国の働き方の特徴について理解を深めること。 ・自律的にキャリアを築いていく視点を得ること。			
2. 授業内容 日本とフランスの働き方やキャリアに関する最新記事やデータを日本語で輪読したのち、ディスカッションします。その後、講師から国際比較データの紹介や解説を行います。 第1回 イン트로ダクション、前期振り返り 第2回～14回 日仏の働き方に関する日本語テキストの輪読とディスカッション。 テキストに関連した国際比較データの紹介や解説。			
3. 履修上の注意 通年で履修すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 なし。			
5. 教科書 なし。授業内で配布します。			
6. 参考書 関家ちさと（2021）『日本型人材育成の有効性を評価する：企業内養成訓練の日仏比較』中央経済社（該当ページを授業内で配布予定）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題レポート等へのフィードバックは、Oh-o!Meijiを通して行います。			
8. 成績評価の方法 ・平常点20%（欠席は3回まで） ・授業への貢献度（ディスカッションへの参加度合い、コメントペーパーの提出） 40% ・課題レポート40% ＊コロナやインフル等の感染症による欠席は考慮します。 ＊就活やゼミ活動等の学生活動での欠席は2回までとし、代替課題の提出によって出席扱いとします。 ＊コメントペーパーは、3回未提出で1回欠席扱いとします。			
9. その他 なし。			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学外国書講読A 【使用言語：英語】			多田 稔
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 前年度に引き続き Aravind Yelery氏による『between state capitalism and economic statecraft China INC』を使用します。本書は国家資本主義体制としての中国において、国有企業の果たすその役割および内部の矛盾を解き明かす内容となっています。本講義においては、その中でも国家資本主義体制としての中国および国有企業の系譜を扱った章を講読していきます。 アジアにおける移行国は中国およびベトナムがその代表国ということになりますが、いずれも旧体制となりつつある社会主義体制下での様々なシステムをある意味“スターター”として活用することで目覚ましい経済発展を実現し、世界経済にあって米国に対峙する大国としての地位を獲得するに至っています。 本講義では、アジア移行国の代表たる中国について、その移行過程たる“改革・開放”政策、とりわけ株式制を中心とする国有企業改革を経てもなお、同国の経済発展において主要な役割を担い続ける同企業の存在意義を主たる課題として考えていきます。 <到達目標> 上記テキストの講読を通して語学力の向上を図ると同時に、アジア移行国の代表としての中国に対する見識を深め、経営学の研究能力向上に資することをその目的とします。			
2. 授業内容 講義は前週に予習箇所を指定の上、毎回ランダムに指名して音読、翻訳をして頂きます（下記カリキュラム参照）。その際、担当箇所から専門用語あるいは関連事項についての質問をします。その後、翻訳の修正、担当箇所の内容および関連事項についての解説、という流れで進めていきます。 第1回：イントロダクション（講義の進め方等） 第2回～第13回：The Rise of State Capitalism in China（p.7-29） Why Did China Not Collapse（p.30-50） 第14回：講義のまとめ 第15回：期間前試験 なお、音読および翻訳については、受講生指名機会に偏りが発生しないよう配慮します。			
3. 履修上の注意 広く「アジア」、少なくとも「中国」に何かしらの関心を持っている方の受講が望ましい。 補助的に参考資料を翻訳する場合があります。 <準備学習> 中国経済に関する入門書ないしは概説書を一読しておくことが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義時に示した全訳および用語解説に関するPPTを振り返り、疑問点等あれば翌週講義時に質問してください。また、講義時はランダムに指名していきますので、翌週範囲については、必ず日本語訳等、予習を行った上で講義に参加してください。			
5. 教科書 Aravind Yelery『between state capitalism and economic statecraft China INC』Pentagon Press LLP, 2021年の原書はわが国でも入手可能ですが、必要箇所のコピーを準備する予定です。			
6. 参考書 『現代中国の経済改革』、呉敬璉 著、青木昌彦、日野正子 訳、NTT 出版 『中国の経済発展と制度変化』、嚴成男 著、京都大学出版会 『中国経済学入門』、加藤弘之 著、名古屋大学出版会			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義受講者全員、次週講義範囲について日本語訳の予習を行った上で講義に参加してください。講義時に予習範囲に関する日本語訳等の解説を進める形でフィードバックを行います。			
8. 成績評価の方法 春学期末に実施する試験、授業時の翻訳点、平常点を加算して100点満点とし評価します。それぞれの点数配分は以下の通りです。 ①春学期末試験：70点 ②翻訳点：20点（質問に対する回答点＋翻訳点） ③平常点：10点（受講態度等） なお、出席率が70%未満の場合は、春学期末試験の受験資格を喪失するものとします。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学外国書講読B 【使用言語：英語】			多田 稔
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 前年度に引き続き Aravind Yelery氏による『between state capitalism and economic statecraft China INC』を使用します。本書は国家資本主義体制としての中国において、国有企業の果たすその役割および内部の矛盾を解き明かす内容となっています。本講義においては、その中でも国家資本主義体制としての中国および国有企業の系譜を扱った章を講読していきます。 アジアにおける移行国は中国およびベトナムがその代表国ということになりますが、いずれも旧体制となりつつある社会主義体制下での様々なシステムをある意味“スターター”として活用することで目覚ましい経済発展を実現し、世界経済にあって米国に対峙する大国としての地位を獲得するに至っています。 本講義では、アジア移行国の代表たる中国について、その移行過程たる“改革・開放”政策、とりわけ株式制を中心とする国有企業改革を経てもなお、同国の経済発展において主要な役割を担い続ける同企業の存在意義を主たる課題として考えていきます。 <到達目標> 上記テキストの講読を通して語学力の向上を図ると同時に、アジア移行国の代表としての中国に対する見識を深め、経営学の研究能力向上に資することをその目的とします。			
2. 授業内容 講義は前週に予習箇所を指定の上、毎回ランダムに指名して音読、翻訳をして頂きます（下記カリキュラム参照）。その際、担当箇所から専門用語あるいは関連事項についての質問をします。その後、翻訳の修正、担当箇所の内容および関連事項についての解説、という流れで進めていきます。 第1回：イントロダクション（講義の進め方等） 第2回～第13回：Why Did China Not Collapse（p.30-50） Almanac of China's State-owned Enterprises（p.51-84） 第14回：講義のまとめ 第15回：期間前試験 なお、音読および翻訳については、受講生指名機会に偏りが発生しないよう配慮します。			
3. 履修上の注意 広く「アジア」、少なくとも「中国」に何かしらの関心を持っている方の受講が望ましい。 補助的に参考資料を翻訳する場合があります。 <準備学習> 中国経済に関する入門書ないしは概説書を一読しておくことが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義時に示した全訳および用語解説に関するPPTを振り返り、疑問点等あれば翌週講義時に質問してください。また、講義時はランダムに指名していきますので、翌週範囲については、必ず日本語訳等、予習を行った上で講義に参加してください。			
5. 教科書 Aravind Yelery『between state capitalism and economic statecraft China INC』Pentagon Press LLP, 2021年の原書はわが国でも入手可能ですが、必要箇所のコピーを準備する予定です。			
6. 参考書 『現代中国の経済改革』、呉敬璉 著、青木昌彦、日野正子 訳、NTT 出版 『中国の経済発展と制度変化』、嚴成男 著、京都大学出版会 『中国経済学入門』、加藤弘之 著、名古屋大学出版会			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義受講者全員、次週講義範囲について日本語訳の予習を行った上で講義に参加してください。講義時に予習範囲に関する日本語訳等の解説を進める形でフィードバックを行います。			
8. 成績評価の方法 秋学期末に実施する試験、授業時の翻訳点、平常点を加算して100点満点とし評価します。それぞれの点数配分は以下の通りです。 ①秋学期末試験：70点 ②翻訳点：20点（質問に対する回答点＋翻訳点） ③平常点：10点（受講態度等） なお、出席率が70%未満の場合は、秋学期末試験の受験資格を喪失するものとします。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学外国書講読A 【使用言語：英語】			原 木 英 一
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 本講義では、グローバル・マーケティングに関わる英語の論文・著書を取り扱う。Kotabe, M and Helsen, K. (2020)を中心としつつ、トピックごとに指定する論文・著書（一部）を読み解き、グローバル・マーケティングへの理解を深めることを目的とする。本講義は、生産販売拠点を複数国に配置し規模の経済と現地適応のバランスをはかる多国籍企業で行われているグローバル・マーケティングを対象とする。社会文化・所得水準の異なる各地域の顧客が求める真のニーズを探索し、合致した製品と価値を創造し、なおかつ受け入れられる価格で提供することによりグローバル市場で競争優位を確立するマーケティングの考え方や戦略の展開について教授し、さらに競争優位の持続化に向けて取り組まなければならない課題について考察する。 本講義では、グローバル・マーケティングの基礎について事例を通して学ぶ。近年、企業のグローバル化は一層進展しているものの、海外市場の開拓については多くの課題がある。国内市場の開拓以上に困難である海外市場の開拓には、経済発展段階の違いを背景とした所得の違いや、文化が異なることによる消費行動の違い等、差異を踏まえて展開するグローバル・マーケティングの知識が不可欠である。本講義では、グローバル・マーケティングの基本的な概念や理論、現状を学修する。 <到達目標> グローバル・マーケティングの基本的な概念や理論を英語の文献（原典）から理解すること。そして具体的な企業の事例からそれを説明することができること。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2-3回：Globalization and National Differences (Economy) 第4-5回：Globalization and National Differences (Culture and Norm) 第6-7回：Global STP 第8-9回：International Market Entry Strategy 第10-11回：Standardization versus Adaptation of International Marketing 第12-13回：Global Brand Strategy 第14回 a：試験 第14回 b：解説 ※受講生の習熟度により内容や進度は変更になる場合がある。			
3. 履修上の注意 ・受講生の報告・発表及びディスカッションを中心として進める（受講生の人数によって方法は変更となる場合がある）。 ・講義を1/3以上欠席しないこと。 ・外国書講読Bとセットで履修することが望まれる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 受講生は配布した資料の指示した範囲を予め精読し、概要を理解すること。また、不明な点を明確にしておき、学生同士のディスカッションの準備をすること。発表担当者は要点をまとめ、口頭発表の準備を行うこと。 ※まとめる形式はレジュメ、PowerPointを用いたスライドのいずれも可。			
5. 教科書 必要な箇所は履修者に配布予定。			
6. 参考書 ・Kotabe, M. and Helsen, K. (2020), Global Marketing Management 8th edition, Wiley. ・Leonidou, L.C., Katsikeas, C.S., Samiee, S., and Aykol, B. (Eds.) (2017), Advances in Global Marketing: Research Anthology, Springer. ・Hill, C. W. L. (2022), ISE International Business: Competing in the Global Marketplace 14th edition, McGraw-Hill Education.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 平常時のディスカッションに関しては時間内にフィードバックを行い、期末試験については最終授業日に実施し、答案回収後に解説の時間を設ける。			
8. 成績評価の方法 ディスカッションへの貢献度（30%）、翻訳等の発表（30%）、期末試験（40%）を総合的に判断する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学外国書講読B 【使用言語：英語】			原 木 英 一
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 春学期に引き続き、本講義ではグローバル・マーケティングに関わる英語の論文・著書を取り扱う。Kotabe, M and Helsen, K. (2020)を中心としつつ、トピックごとに指定する論文・著書（一部）を読み解き、グローバル・マーケティングへの理解を深めることを目的とする。本講義は、生産販売拠点を複数国に配置し規模の経済と現地適応のバランスをはかる多国籍企業で行われているグローバル・マーケティングを対象とする。社会文化・所得水準の異なる各地域の顧客が求める真のニーズを探索し、合致した製品と価値を創造し、なおかつ受け入れられる価格で提供することによりグローバル市場で競争優位を確立するマーケティングの考え方や戦略の展開について教授し、さらに競争優位の持続化に向けて取り組まなければならない課題について考察する。 本講義では、グローバル・マーケティングの基礎について事例を通して学ぶ。近年、企業のグローバル化は一層進展しているものの、海外市場の開拓については多くの課題がある。国内市場の開拓以上に困難である海外市場の開拓には、経済発展段階の違いを背景とした所得の違いや、文化が異なることによる消費行動の違い等、差異を踏まえて展開するグローバル・マーケティングの知識が不可欠である。本講義では、グローバル・マーケティングの基本的な概念や理論、現状を学修する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2-3回：Global Marketing and Organization 第4-5回：Global Marketing and Knowledge Transfer / Creation 第6-7回：Global Marketing and Innovation 第8-9回：Marketing in Emerging Countries 第10-11回：Marketing in Base of the Pyramid market 第12-13回：Global Marketing and Information Technology 第14回 a：試験 第14回 b：解説 ※受講生の習熟度により内容や進度は変更になる場合があります。			
3. 履修上の注意 ・受講生の報告・発表及びディスカッションを中心として進める（受講生の人数によって方法は変更となる場合がある）。 ・講義を1/3以上欠席しないこと。 ・「外国書講読A」で学習した内容を前提とするため、セットで履修することが望まれる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 受講生は配布した資料の指示した範囲を予め精読し、概要を理解すること。また、不明な点を明確にしておき、学生同士のディスカッションの準備をすること。発表担当者は要点をまとめ、口頭発表の準備を行うこと。 ※まとめる形式はレジュメ、PowerPointを用いたスライドのいずれも可。			
5. 教科書 必要な箇所は履修者に配布予定。			
6. 参考書 ・Kotabe, M. and Helsen, K. (2020), Global Marketing Management 8th edition, Wiley. ・Leonidou, L.C., Katsikeas, C.S., Samiee, S., and Aykol, B. (Eds.) (2017), Advances in Global Marketing: Research Anthology, Springer. ・Hill, C. W. L. (2022), ISE International Business: Competing in the Global Marketplace 14th edition, McGraw-Hill Education.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 平常時のディスカッションに関しては時間内にフィードバックを行い、期末試験については最終授業日に実施し、答案回収後に解説の時間を設ける。			
8. 成績評価の方法 ディスカッションへの貢献度（30%）、翻訳等の発表（30%）、期末試験（40%）を総合的に判断する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学外国書講読A 【使用言語：英語】			古川 裕 康
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 ※履修条件（Requirement）について、初めに必ず「履修上の注意」を確認してください。 <概要> 本講義では、ブランド研究に関わる英語の論文・著書を取り扱う。ここでは代表的なAaker, David A. のブランド研究を取り上げる。 私たちが一般的に想定している「ブランド」と、学術的な「ブランド」の考え方は実は少し異なる。私たちの多くはブランドを、ラグジュアリーであり高級なステータス性を象徴する存在だと認識している。それでは学術的に捉えられているブランドの定義とは一体何であるのか。またなぜ現代の企業経営においてブランドの管理が重要になってきているのか。それはマーケティングとどのように関係しているのか。このような点をブランド研究の原典にあたりながら理解を進める。 講義は基本的に、文献の読解（翻訳）、そしてそれに対応する企業事例の説明を絡めながら進める。そして各トピックに対応した他の企業の事例について適宜考えてもらう。このような流れでAaker, David A. の著書からブランド研究を深く理解してもらおう。 <到達目標> 学術的なブランドの概念や、その構築・管理に関する基本的なポイントを英語の文献（原典）から理解すること。そして具体的な企業の事例からそれを説明できるようになること。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 Recognize that brands are assets 第3回 Brand assets have real value 第4回 A brand identity (vision) 第5回 A brand personality 第6回 Beyond functional benefits 第7回 Experiential and symbolic benefits 第8回 "Must Haves" rendering competitors irrelevant 第9回 From positioning the brand to framing the subcategory 第10回 Brand-Building ideas 第11回 Focus on customer's sweet spots 第12回 Internal branding 第13回 Brand portfolio strategy 第14回 a：まとめ 第14回 b：試験			
3. 履修上の注意 ・本講義の履修には下記の全てを充足している事が必要となる。 → <u>基礎専門演習AならびにBの単位を既に修得しており、TOEIC800以上の英語能力を有しているか、もしくは担当教員の演習を現在履修していることが必要である。</u> ・英語の論文から専門性の高い内容を学ぶため、現状でTOEICで800のスコアを超えていない者については、第1回目に与えられた英語論文を基にした試験を受け、全ての設問について正答する事が必要となります。 ・本授業で取り扱う英文内容のレベルはTOEIC換算で800点以上が目安です。 ・すべての回において出欠を取ります。講義を 1/3 以上欠席しないこと。 ・本講義は 1 クラスあたりの受講人数制限があります。そのため、履修に際してはWebによる事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・配布された資料（指示した範囲）を予め読んで概要を理解し、翻訳を作成しておくこと。そのうえで、不明な単語を調べておくこと。 ・それぞれに当てはまる事例について調べておくこと。			
5. 教科書 進行状況に従ってコピーを配布します。			
6. 参考書 Aaker, David A. (1991), Managing Brand Equity: Capitalizing on the Value of a Brand Name, Free Press. Aaker, David A. (1995), Building Strong Brands, Free Press. Aaker, David A. (2004), Brand Portfolio Strategy, Free Press.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-ol! Meijiシステムや下記URL（専用のフォーム）を用いてコミュニケーション＆フィードバックを行う。 https://forms.gle/PQgpr5vS1Kxf2656			
8. 成績評価の方法 平常点（40％）、翻訳等の発表（30％）、期末試験の結果（30％）を総合的に判断する。			
9. その他 ブランドはマーケティングによって構築されるものです。そのため履修の際は、マーケティング分野の基礎的な知識を有していることが望ましい。マーケティング分野の講義を併せて受講することを薦める。			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学外国書講読B 【使用言語：英語】			古川 裕 康
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 ※履修条件（Requirement）について、初めに必ず「履修上の注意」を確認してください。 <概要> 外国書講読Aに引き続き、本講義ではブランド研究に関わる英語の論文・著書を読解する。ここでは春学期で取りあげたAaker, David A. と並ぶ代表的なブランド研究者であるKeller, Kevin L. の文献を基本的に取り上げる。本講義では毎回、具体的なブランドの事例を取り上げながら、どのようにブランドが構築されてきたのかについて考える。 具体的な事例と、ブランドの学術的な研究の繋がりを英語で理解することが本講義の目的である。そのため秋学期では毎週いくつかの事例を取り扱う。取り扱う事例は、Coca Cola, Harley-Davidson, Apple, Disney, Starbucks, Marriott hotels, Rolex, Burberry等を予定している（変更になることもあり）。 講義の方法は前半に事例の背景となる概念の説明を教員がおこない、それを踏まえて与えられた文献を速読する形で進める。いかに迅速に必要な情報を文献内から発見できるかを重要視する。 <到達目標> 前期で学習した概念と事例の繋がりを英語で理解ができるようになること。ブランドを構築するために必要な要素や、その管理・維持の基本的な考え方を英語の文献（原典）から理解すること。そして具体的な企業の事例からそれを説明できるようになること。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 Global branding dynamics 第3回 Standardized branding 第4回 Building brand community 第5回 Emotional branding 第6回 Internal branding 第7回 Mixing external and internal branding strategy 第8回 Status branding 第9回 Veblen, snob, and bandwagon effect 第10回 Brand portfolio strategy 第11回 Service management 第12回 Basics of brand Image Strategy 第13回 Global brand image management 第14回 a：Customer-based brand equity（まとめ） 第14回 b：試験			
3. 履修上の注意 ・本講義の履修には下記の全てを充足している事が必要となる。 → <u>基礎専門演習AならびにBの単位を既に修得しており、TOEIC800以上の英語能力を有しているか、もしくは担当教員の演習を現在履修していることが必要である。</u> ・英語の論文から専門性の高い内容を学ぶため、現状でTOEICで800のスコアを超えていない者については、第1回目に与えられた英語論文を基にした試験を受け、全ての設問について正答する事が必要となります。 ・本授業で取り扱う英文内容のレベルはTOEIC換算で800点以上が目安です。 ・すべての回において出欠を取ります。講義を 1/3 以上欠席しないこと。 ・本講義は 1 クラスあたりの受講人数制限があります。そのため、履修に際してはWebによる事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・配布された資料（指示した範囲）を予め読んで概要を理解しておくこと。そのうえで、不明な単語を調べておくこと。 ・それぞれに当てはまる事例について調べておくこと。			
5. 教科書 進行状況に従ってコピーを配布します。			
6. 参考書 Aaker, David A. (2014), Aaker on Branding, Morgan James Publishing. Keller, Kevin L. (1993), "Conceptualizing, Measuring, and Managing Customer-Based Brand Equity", Journal of Marketing, Vol. 57, No. 1, pp.1-22.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-ol! Meijiシステムや下記URL（専用のフォーム）を用いてコミュニケーション＆フィードバックを行う。 https://forms.gle/PQgpr5vS1Kxf2656			
8. 成績評価の方法 平常点（40％）、翻訳等の発表（30％）、レポート（30％）を総合的に判断する。			
9. その他 ブランドはマーケティングによって構築されるものです。そのため履修の際は、マーケティング分野の基礎的な知識を有していることが望ましい。マーケティング分野の講義を併せて受講することを薦める。			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学外国語講読A 【使用言語：英語】			山下 智 佳
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 高齢化などの社会構造の変化によって、近年より困難の度合いを増している社会保障の問題の中から、医療を取り上げます。医療機関は医療費の抑制のため効率的な経営を求められるとともに、とすると効率性と両立が難しい医療資源の公平な分配や、患者満足度を高めるよう、より手厚いサービス提供の努力が求められていて、大変苦しい立場にあるといえます。本授業では医療産業での経営戦略をテーマとした文献を取り上げ、どのような戦略が必要であるかを考えます。医療機関の経営は医療政策と関わりが深いため、国、政策が異なるとその経営への理解の仕方も異なることになります。そのため、背景となる医療政策を組み立てる基本的な考え方も同時に学習していきます。 〈到達目標〉 テキストの講読を通じて、語学としての英語文献の読解力を身につけます。目標は卒業論文等に英語の文献を活用できる程度です。同時に、内容の理解を通じて、社会政策と企業経営の関係といった、規制産業の経営を考える際に必要な視点を身につけます。			
2. 授業内容 進捗状況や受講生の発言時間などによって調整しますが、以下を基本にテキストの講読とまとめを繰り返しながら進めます。 第1回 a イントロダクション b 担当者の決定と背景知識の解説 第2回～第4回 テキストの講読（和訳の発表）と解説 第5回 a テキストの講読（和訳の発表）と解説 b まとめ 第6回～第8回 テキストの講読（和訳の発表）と解説 第9回 a テキストの講読（和訳の発表）と解説 b まとめ 第10回～第12回 テキストの講読（和訳の発表）と解説 第13回 a テキストの講読（和訳の発表）と解説 b まとめ 第14回 a 試験 b 試験の解説			
3. 履修上の注意 遅刻、欠席が所定回数以上になると期末試験を受験できないことを確認した上で履修して下さい。 医療制度についての基礎知識があるとテキストの理解が格段に深まります。普段から医療等の社会保障に関心を持って臨むようにしてください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、担当者でなくとも次回以降のテキストの音読、和訳を行ってください。段落ごとに内容を要約すること、疑問点をメモすることを具体的な目標としてください。 復習は、予習でわからなかった部分や誤訳した部分の確認を行ってください。			
5. 教科書 授業開始時に配布します。			
6. 参考書 特にありません。授業中に受講生の関心に合わせて紹介していきます。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 テキストの報告担当者には、事前に報告準備レポートを課題として提出していただきます。授業の報告ではそのレポートをもとに質疑応答を交えたフィードバックを行いながら、テキストを講読していきます。			
8. 成績評価の方法 期末試験40％、平常点（受講態度、授業への参加度等）30％、課題、発表30％の割合で総合的に評価します。なお、期末試験の受験には3分の2以上の出席が前提となります。			
9. その他 慣れるまでは発表は緊張を伴います。学習、発表しやすい環境を保てるよう、学生同士で尊重、協力しあうことを望みます。			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学外国語講読B 【使用言語：英語】			山下 智 佳
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 高齢化などの社会構造の変化によって、近年より困難の度合いを増している社会保障の問題の中から、医療を取り上げます。医療機関は医療費の抑制のため効率的な経営と、同時に医療資源の公平な分配が求められています。そのために、医療機関は単体ではなく、地域内でネットワークを形成することで難しい課題に取り組むことが求められるようになっていきます。本授業ではアメリカでの医療ネットワーク形成の経験について学習し、日本への示唆を考えます。医療機関の経営は医療政策と関わりが深いため、国、政策が異なるとその経営への理解の仕方も異なることになります。そのため、背景となる医療政策を組み立てる基本的な考え方も同時に学習していきます。 〈到達目標〉 テキストの講読を通じて、語学としての英語文献の読解力を身につけます。目標は卒業論文等に英語の文献を活用できる程度です。同時に、内容の理解を通じて、社会政策と企業経営の関係といった、規制産業の経営を考える際に必要な視点を身につけます。			
2. 授業内容 進捗状況や受講生の発言時間などによって調整しますが、以下を基本にテキストの講読とまとめを繰り返しながら進めます。 第1回 a イントロダクション b 担当者の決定と背景知識の解説 第2回～第4回 テキストの講読（和訳の発表）と解説 第5回 a テキストの講読（和訳の発表）と解説 b まとめ 第6回～第8回 テキストの講読（和訳の発表）と解説 第9回 a テキストの講読（和訳の発表）と解説 b まとめ 第10回～第12回 テキストの講読（和訳の発表）と解説 第13回 a テキストの講読（和訳の発表）と解説 b まとめ 第14回 a 試験 b 試験の解説			
3. 履修上の注意 遅刻、欠席が所定回数以上になると期末試験を受験できないことを確認した上で履修して下さい。 医療制度についての基礎知識があるとテキストの理解が格段に深まります。普段から医療等の社会保障に関心を持って臨むようにしてください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、担当者でなくとも次回以降のテキストの音読、和訳を行ってください。段落ごとに内容を要約すること、疑問点をメモすることを具体的な目標としてください。 復習は、予習でわからなかった部分や誤訳した部分の確認を行ってください。			
5. 教科書 授業開始時に配布します。			
6. 参考書 特にありません。授業中に受講生の関心に合わせて紹介していきます。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 テキストの報告担当者には、事前に報告準備レポートを課題として提出していただきます。授業の報告ではそのレポートをもとに質疑応答を交えたフィードバックを行いながら、テキストを講読していきます。			
8. 成績評価の方法 期末試験40％、平常点（受講態度、授業への参加度等）30％、課題、発表30％の割合で総合的に評価します。なお、期末試験の受験には3分の2以上の出席が前提となります。			
9. その他 慣れるまでは発表は緊張を伴います。学習、発表しやすい環境を保てるよう、学生同士で尊重、協力しあうことを望みます。			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学外国書講読A 【使用言語：英語】			李 熙 明
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 「テーマ」 ラグジュアリーブランド 「授業の概要」 Bain & Companyの調査によると、1996年～2019年までのラグジュアリー産業の年間平均成長率は6%に達している。リーマンショックやコロナ禍の影響による一時的な市場規模の減少が見られるものの、その後は急速に回復を果たしている。同社によると、2022年にはコロナ前と同じ水準に回復すると予測されている。 一方、原材料価格の高騰で、ラグジュアリー産業においても値上げが相次いでいる。HermesやChanelなどは続々と価格改定されており、多くのブランドの値上率は10%～25%に達している。ところが強気な値上げでも人気に陰りが見えない。若年層（ミレニアル世代、Z世代）の支持と購買により、今後のラグジュアリー産業はさらなる成長が見込まれる。 製品の価格が上がり続けているのに、なぜ人気は衰えないのか。本講義ではラグジュアリー・ブランドに関する文献の講読を通じて、「高くても売れる仕組み」を解明していく。 「到達目標」 英語の読解力の向上を目指すと同時に、ラグジュアリー・ブランドのブランド戦略に対する理解を深めていくことが望ましい。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2～10回：ラグジュアリー産業の特徴 (Chapter 2) 第10～13回：主なラグジュアリーセクター（既製服、香水、コスメ、レザーグッズ）(Chapter 3A) 第14回：定期試験			
3. 履修上の注意 欠席回数上限などのルールが設けられている。詳細は初回のガイダンスで説明する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ラグジュアリーブランドやファッションブランドに関心も持っている方の受講が望ましい。			
5. 教科書 こちらでテキストを用意する。			
6. 参考書 必要に応じて授業中に紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回発表した内容に対するフィードバックを行い、関連知識についての解説を行う。			
8. 成績評価の方法 定期試験50%、授業への貢献度50%			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
経営学外国書講読B 【使用言語：英語】			李 熙 明
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 「テーマ」 ラグジュアリーブランド 「授業の概要」 Bain & Companyの調査によると、1996年～2019年までのラグジュアリー産業の年間平均成長率は6%に達している。リーマンショックやコロナ禍の影響による一時的な市場規模の減少が見られるものの、その後は急速に回復を果たしている。同社によると、2022年にはコロナ前と同じ水準に回復すると予測されている。 一方、原材料価格の高騰で、ラグジュアリー産業においても値上げが相次いでいる。HermesやChanelなどは続々と価格改定されており、多くのブランドの値上率は10%～25%に達している。ところが強気な値上げでも人気に陰りが見えない。若年層（ミレニアル世代、Z世代）の支持と購買により、今後のラグジュアリー産業はさらなる成長が見込まれる。 製品の価格が上がり続けているのに、なぜ人気は衰えないのか。本講義ではラグジュアリー・ブランドに関する文献の講読を通じて、「高くても売れる仕組み」を解明していく。 「到達目標」 英語の読解力の向上を目指すと同時に、ラグジュアリー・ブランドのブランド戦略に対する理解を深めていくことが望ましい。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2～9回：主なラグジュアリーセクター（既製服、香水、コスメ、レザーグッズ）(Chapter 3A) 第10～13回：ラグジュアリーブランドの消費者（Chapter 4） 第14回：定期試験			
3. 履修上の注意 欠席回数上限などのルールが設けられている。詳細は初回のガイダンスで説明する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ラグジュアリーブランドやファッションブランドに関心も持っている方の受講が望ましい。			
5. 教科書 こちらでテキストを用意する。			
6. 参考書 必要に応じて授業中に紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回発表した内容に対するフィードバックを行い、関連知識についての解説を行う。			
8. 成績評価の方法 定期試験50%、授業への貢献度50%			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA)MAN991J			
経営学特別講義 A			金 野 索 一
2 単位	1 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ： AI革命 / Web3.0時代の起業戦略 〈概要〉 今やビジネスにおけるAI・IT革命とは、IT産業だけではなく、全ての産業・業種に及ぶ「××業種とIT」＝「DX（デジタルトランスフォーメーション）革命」のことである。パーソナルコンピュータが登場して50年以上、インターネットが普及を始めて30年以上、そしてChatGPT等の生成AIが登場して2年以上、AI・ITというツールを的確に使いこなさずして、ビジネスの隆盛は成し得ず、ブロックチェーン技術やビッグデータ等のキーワードを知っていても、起業や経営にどのように活かすかの知見なくして、企業のイノベーションや自身のビジネス・キャリアの深化は困難である。そして今、世界は、AI革命本番となり、Web3.0時代を迎えている。本科目は、現代のビジネスに不可欠な、業種、職種の枠を超えて、ビジネスセクター全体の「最新のAI・ITビジネス原理と先端戦略の視点・ノウハウ＝デジタルトランスフォーメーション（DX）とWeb3.0」を俯瞰し、体系化したものを学ぶ。そして、自身の目の就活やキャリア、仕事の創造や戦略の明確化を図り、AI・ITを駆使した事業イノベーションを実現できる理論と実践の知見を獲得する。 〈到達目標〉 新規事業創出で拓く自己キャリアの新たな地平～AI・ITを活用したビジネスの新規事業をプランニングし、最終的にその事業計画の提案を行い、その結果によっては、実際の起業に繋げる。まさに、日本のDX革命とWeb3.0における最先端の理論と実践を往来し、自分自身のイノベーションを推進することを到達目標とする。なお、先端ビジネス分野は、既知のものがすぐに陳腐化してしまう高速変化が常であるので、最先端の学びのために、このシラバスの内容を一部変更して、実際の講義を行うことがあるので、了承いただきたい。			
2. 授業内容 第1回：AI革命後の社会とビジネス原理とは何か 第2回：新規事業、デジタルトランスフォーメーション、アントレプレナーシップ、Web3.0 その本質 第3回：IT/AIを活用した新規ビジネス事業計画をつくる 第4回：インターネットソリューション基本類型・原理 第5回：先端技術学習I 人工知能、ブロックチェーン技術 第6回：先端技術学習II ドローン、ロボティクス、メタバース 第7回：生成AI、Web3.0とは何か 第8回：X-Tech Timemachine（クロステック・タイムマシン）I 第9回：X-Tech Timemachine（クロステック・タイムマシン）II 第10回：事業計画案中間指導 第1回 第11回：事業計画案中間指導 第2回 第12回：破壊的な世界・日本の最先端スタートアップ企業のケーススタディ 第13回：新規事業計画 最終プレゼンテーション 第1回 第14回：新規事業計画 最終プレゼンテーション 第2回			
3. 履修上の注意 ノートPCを持参してください。（※お持ちでない方は、同グループの方と共有するか、タブレット、スマホを持参してください。）			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 自分自身が実現したい新規ビジネスを構想し、その市場や競合をリサーチすること			
5. 教科書 1)『普通の君でも起業できる』大前研一とアタッカーズビジネススクール（編著：金野索一）（ダイヤモンド社）購入は任意とする。購入を希望しない者は、必要内容を資料にて配布する。			
6. 参考書 ①『課題解決の新技術』炭谷俊樹（PHP） ②WEB「Forbes Japan」連載『テックで資本主義をアップデートする』（金野索一著） https://forbesjapan.com/author/detail/1810 ③WEB日経ITプロ連載『出でよ！Peace Techイノベーター』（金野索一著/日経BP社） https://tech.nikkeibp.co.jp/it/atcl/column/17/0302000062/ ④WEB日経ビジネス・カンパネラ連載『トライセクター・リーダーの時代』（金野索一著/日経BP社） http://business.nikkeibp.co.jp/atclcmp/15/071700001/			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 最後に提出する新規事業計画50％、各自1回担当する講義テーマリサーチ25％、授業への参加度25％			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN991J			
経営学特別講義 B			岡 田 浩 一
2 単位	1 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：中小企業支援と実践 〈概要〉 本講座は、中小企業診断士の資格をもつ明治大学卒業生によって組織される「中小企業診断士紫紺会」の協力によって実施する講座です。 日常的に中小企業に接し、中小企業の経営支援を実践している中小企業診断士によるオムニバス形式で、特にポイントとなるテーマをピックアップして事例を交えた実践的講義をおこなっていきます。 〈到達目標〉 中小企業診断士制度の概要や、中小企業診断士の活動を知ることによって、変化する経営環境のもとで常に厳しい経営を迫られている中小企業にたいする支援の在り方を学んでいきます。そのうえで、中小企業診断士の資格に関心をもった学生にたいして資格取得に向けてアドバイスもしていきます。			
2. 授業内容 以下の順で、それぞれのテーマを特に専門として活躍している中小企業診断士の先生による授業をおこないます。 第1回 イントロダクション 本講義全体の説明 経営学部教授 岡田 浩一 第2回 中小企業診断士の意義について KCGコンサルティング(株) 代表取締役 柳 義久 第3回 中小企業の経営理念と経営戦略について 中郡久雄中小企業診断事務所代表 中郡 久雄 第4回 中小企業の事業計画書とその支援について 東京商工会議所 文京支部 専門相談員 小暮 美喜 第5回 中小企業デジタル化相談の事例紹介 東京都よろず支援拠点 コーディネーター 土田 哲 第6回 製造業の運営管理について 創発研究所代表 加藤 茂 第7回 流通業の運営管理について (株)トーハン経理部マネージャー 三上 友美恵 第8回 サービス業の運営管理について (株)アミューゼクスアライアンス 代表取締役 田守 順 第9回 中小企業のデジタルマーケティング 株アイコンテンツ 代表取締役 吉野 太佳子 第10回 中小企業の海外進出について 三好グローバル・コンサルティング代表 三好康司 第11回 創業と事業承継について 関口経営コンサルタント事務所 代表 関口 恒 第12回 中小企業の組織・人事について 中小企業診断士、社会保険労務士事務所代表 星 昌宏 第13回 中小企業施策と地域商店街支援について (株)エリア・パブリック・コンサルティング 代表取締役 鶴頭 誠 第14回 本講義全体のまとめ 経営学部教授 岡田 浩一			
3. 履修上の注意 日常的に中小企業経営や中小企業支援に興味関心を持ち、新聞や経済雑誌はもとより、経済産業省、中小企業庁、各種行政機関から提供される中小企業支援施策の情報を自ら収集しておくようにすること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 『中小企業白書』に目を通しておくこと。経済産業省、中小企業庁など行政機関の中小企業政策の情報を常に注意してみておくようにしてもらいたい。			
5. 教科書 指定教科書はありません。			
6. 参考書 当該年版の『中小企業白書』 そのほか、各講師が随時紹介します			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対しての解説などは、主にOh-Meijiを使って通知する。			
8. 成績評価の方法 試験は行わず、授業への参加度とレポート評価での評価とします。 授業参加度60％ レポート評価40％			
9. その他 特になし			

科目ナンバー：(BA)MAN991J			
経営学特別講義D		宮 田 憲 一	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 □大同生命保険株式会社寄付講座 スタートアップ起業家育成講座2（MSET2） □講義テーマ：「スタートアップ経営のメカニズムを体験する」 ＜概要＞ 今、活力ある「新しい企業」が求められている。21世紀に入り20年あまりが経過する中で、地球環境、日常生活、そして人々の意識が大きく変化し、持続可能な新たな社会の形や経済のあり方が模索されている。その実現や課題解決には、様々なイノベーションや新しいビジネスモデルが必要であり、それを牽引する存在として新たな価値観や考え方をもったアントレプレナー（起業家）によって創業される「新しい企業」に再び大きな注目が集まっている。それでは、どうすれば「自分のアイデア」を事業化して「新しい企業」を起業し、あるいは継承した事業を「新しい企業」として再起業と位置づけて、スタートアップ企業として経営していけばよいのだろうか。 本講義は、「基礎専門特別講義：起業のメカニズムを体験する（和泉キャンパス）」の続編となる講義となる。「起業のメカニズム」では「どのようにすれば起業できるのか？」というテーマのもとで実際の起業プロセスを疑似体験してもらい、起業の仕組みや会社の作り方について実践的に学んでもらった。本講義では、学術コーディネーターである担当講師（宮田憲一）に加えて、引き続き、実務コーディネーターとして川野正雄氏（東京コンテンツインキュベーションセンター/TCIC）のご協力を仰ぎ、現役の起業家、投資家、アクセラレーター等スタートアップ業界の豊富な実務経験をもつゲスト講師の方々を迎えながら、「起業」プロセスをより実践的に学んでいく。「起業後どう事業を運営すればよいのか？」という起業後の「スタートアップ経営」プロセスを学んでいく。具体的には、起業時のスキームから起業後の戦略、ナレッジなどを学びながら、実践的なプログラムも盛り込み、起業後の成長過程と課題を学ぶプログラムとなる。 大学にいながら、本格的なスタートアップ経営の考え方を実践的に学べる貴重な講義内容となっている。在学中に起業を考えている学生、明治ビジネスチャレンジに応募を考えている学生に加えて、卒業後一度就職したあとの選択肢を増やしたい学生、キャリア選択として起業を検討している学生、またビジネスのスキルやプレゼン能力を学びたい学生にも絶好の機会として活用してもらいたい。 ＜到達目標＞ ・起業後に直面する経営的課題への対応に必要な実践的な知識・技能を身につける。 ・これまで得た知識を活かして、それらをスタートアップ経営との関係から応用する能力を養う。 ・事業設計書、会社登記書類・定款の作り方など起業に関わるビジネススキルを理解する。			
2. 授業内容 【マインドセット】 第01回：「Programオリエンテーション：スタートアップ経営とは？」 □ゲスト：大同生命保険株式会社代表者の方 第02回：「スタートアップ経営の実践①：マネジメント視点からの起業」 □ゲスト講師：株式会社ノーヴォ 代表取締役 宇田英明氏 第03回：「スタートアップ経営の実践②：起業からピボット展開まで」 □ゲスト講師：株式会社リフカム 代表取締役 清水巧氏（明大OB） 【ビジネスモデルの構築】 第04回：「事業設計考え方」 第05回：「事業設計を策定する」 □ゲスト講師：株式会社ツクリエ 代表取締役 鈴木英樹氏 【会社設計、資金調達、マーケティングのマネジメント】 第06回：「起業時の会社設計と定款の策定」 □ゲスト講師：合同事務所ジュリスター・インターナショナル 司法書士 山北悠介氏 第07回：「スタートアップの資金調達：デットとエクイティ、公的融資」 □ゲスト講師：日本政策金融公庫 上席所長代理/情報経営イノベーション専門職大学 客員教授 佐藤俊太氏 第08回：「起業のゴール設計：上場とパイアウト」 □ゲスト講師：松竹ベンチャーズ株式会社 取締役常務執行役員 森川朋彦氏 第09回：「ブランディングと市場：マーケティング視点から見る成長戦略」 □ゲスト講師：株式会社サニーサイドアップ 代表取締役社長 リュウ・シーチャウ氏 【IP、ヒト、法務、会計のマネジメント】 第10回：「スタートアップのIP戦略：知財管理の視点から見る成長戦略」 □ゲスト講師：ボンガウー特許商標事務所 弁理士 堀越総明氏 第11回：「組織運営とHR：人材マネジメントから見る経営戦略」 □ゲスト講師：パレットグループ株式会社 取締役CHRO 後藤衛氏 第12回：「契約とリスクマネジメント：法務から見る経営」 □ゲスト講師：奥野総合法律事務所 弁護士 小林明日香氏 第13回：「決算や会計管理を知る：数値から見る経営指標」 □ゲスト講師：アクタス税理士法人 税理士 鈴木佑介氏 第14回：「スタートアップ経営について総括：事業設計の提出」 □ゲスト：大同生命保険株式会社代表者の方 ※毎回の授業は、実務コーディネーターや学術コーディネーターによって進行していきます。			
3. 履修上の注意 ・本講義は、「基礎専門特別講義：起業のメカニズムを体験する」の単位を取得し、起業に興味関心がある3、4年生の履修を推奨する。 ・履修登録期間中（4月初旬）に、事前にオンライン課題を提出してもらうため、クラスウェブの情報を適宜確認すること。 ・履修希望者が多数に上った場合は、上記科目の単位取得の有無、事前提出課題の内容、ビジネスチャレンジの参加経験、起業への熱意などの基準から、履修者を選抜する。 ・本講義は、その性格から、履修者の積極的かつ主体的な授業への取り組みが求められるため、その点を理解して履修すること。 ・初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。 ・ゲスト講師による講義や課題発表などを頻繁に実施するため、遅刻は特別な事情がない限り認めない。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 □予習（3時間） ・ビジネスモデルや事業設計に関する課題がある際は、授業での配布資料だけでなく、参考書などを読み、また自分のビジネスアイデアに関連する情報をできるだけ調査し、受講の準備をすること。 □復習（2時間） ・ゲスト講師の回では、それまでの授業で学んだことと、実際の話がどのようにつながるのかについて、ノートを作成しながら再確認してもらいたい。			
5. 教科書 教科書は特に指定せず、適宜資料を配布する。			
6. 参考書 『中小企業・スタートアップを読み解く』加藤厚海ほか著（有斐閣）、2023年。 『起業の失敗大全』トム・アイゼンマン著（ダイヤモンド社）、2022年。 『イノベーション』清水洋著（有斐閣）、2022年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中でのコメントおよびクラスウェブを通じたフィードバックをおこなう。			
8. 成績評価の方法 授業への貢献度30%、各発表(プレゼン)30%、成果物(事業設計書)40%により評価する。			
9. その他 □経営学部に限らず、全学部3・4年生で起業に興味がある学生、明治ビジネスチャレンジに応募を考えている明大生の履修を歓迎する。 □社会的状況により対面授業の実施が困難になった場合は、対面授業をリアルタイム配信に変更しての実施を予定している。その際は、On-ol Meijiのお知らせ機能から連絡するため、確認を忘れないように注意すること（転送設定を推奨）。 □関連科目としては次のようなものがある。経営学特別講義B「中小企業支援と実践」では経営支援者側について学ぶことができる。また、経営学部3・4年次履修できるベンチャービジネス論、経営戦略論A・B、イノベーション・マネジメントA・B、会社法A・B、経営分析論A・Bなどの講義は、起業に関係した様々な専門的知識を学習できる。			

科目ナンバー：(BA)MAN991E			
Special Lectures on Business Management C			永井 裕久
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 THEME: Organizational Behavior to Manage People Organizational Behavior (OB) is a field of study that investigates the dynamics of interactions among individuals, groups, and structures within an organization. The purpose of this course is to acquire essential knowledge in OB to benefit both individuals (e.g., job satisfaction, performance) and organizations (e.g., efficiency, productivity), and to prepare students to become future global leaders. Various active learning methods—such as self-assessment, group simulations, and media analyses—will be used to facilitate action-based learning. Team Project Students will conduct two (2) team project presentations that applies the theories learned in class to real-world situations. Students will form teams, identify an organizational behavior issue in their surroundings, perform a theoretical analysis, and propose solutions. Objectives of the course Acquire essential theories in organizational behavior. Develop practical knowledge and skills for future managerial roles. Enhance interpersonal and communication skills within organizational settings.			
2. 授業内容 1. Introduction: What is Organizational Behavior? 2. Basic Human Behavior 3. Personality and Values (MBTI Type Indicator) 4. Attitude and Job Satisfaction 5. Emotional Intelligence 6. Individual Decision Making 7. Motivation 8. Team Presentation 1 9. Group Behavior (Simulation) 10. Work Teams 11. Communication 12. Leadership 13. Power and Politics (Wage Negotiation Game) 14. Team Presentation 2			
3. 履修上の注意 Participants are required to use both oral and written English throughout the class. A TOEFL iBT score of 70 or above level is required to complete this course. Students are selected based on language proficiency tests (TOEFL iBT, IELTS, TOEIC).			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Reading and other assignments will be announced in class. All assignments should be submitted through the designated sections on Oh-o! Meiji.			
5. 教科書 There is no textbook for this course. Lecture materials will be uploaded to Oh-o! Meiji or distributed in class.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback on other activities and exercises will be provided either in class or via Oh-o! Meiji.			
8. 成績評価の方法 Active participation in class activities: 60% Team Presentation 20% x 2 times: 40%			
9. その他 In keeping with the nature of active learning and the qualities required of future global leaders, a minimum attendance of 70% (10 out of 14 sessions) is required to receive credit for this course. Tardiness without a valid original certificate (photocopies or photos taken with a phone will not be accepted) will result in grade deductions.			

科目ナンバー：(BA)MAN991E			
Special Lectures on Business Management D			永井 裕久
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course Description This course is designed provide the essential knowledge and skills necessary to manage team and people as the future professional manager. You'll experience various active training methods to become a skilled manager through hands-on activities including as follows. Skit project Teams will use drama, a popular method in U.S. business education, to work on real HR challenges. Your team will create scenarios, suggest solutions, film a video, and present product in class. You'll also individually develop your professional skills as future global manager. Elevator Pitch A great way to quickly introduce yourself in business or social situations. It helps people effectively communicate their strengths and value, capturing interest in short interactions like networking or professional opportunities. Impromptu Speech Improves the ability to respond to unexpected situations or topics in conversations. This skill builds flexibility and immediate communication skills, increasing confidence in different situations like work, academics, and social interactions." The goal is to boost problem-solving skills, confidence in working with diverse people, and overall employability.			
2. 授業内容 1. Introduction: My vision as a professional manager 2. RIASEC to plan your future career 3. Career Anchor to identify your ability, talents, motives 4. Leadership styles 5. "Wheel of Life" to plan your WLB 6. Build good working relationship 7. Interim Feedback 8. Skit Project Presentation 9. Business Communication for Managers 10. Elevator Pitch 11. Imprompts Speech 12. Introduction to Business Model You 13. Business Model You (Presentation) 14. Business Model You (Group Discussion)			
3. 履修上の注意 English Language Requirement This course employs active learning in English. Therefore, students must possess the ability to engage in impromptu discussions, speeches, and presentations in English without relying on tools such as smartphones. Proficiency in active English communication skills is essential. Students are selected based on language proficiency tests (TOEFL iBT, IELTS, TOEIC).			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Reading and other assignments will be announced in class. Assignments should be submitted to the designated sections on Oh-o! Meiji.			
5. 教科書 There is no textbook for this course. Lecture materials will be uploaded to Oh-o! Meiji or distributed in class.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 First half of the academic progress will be reviewed at the feedback session. Feedbacks of the other activities and exercises will be either handed out or returned through Oh-o! Meiji.			
8. 成績評価の方法 Active participation in class discussions and activities: 60% Skit Project: 20% Individual presentations: 20%			
9. その他 In keeping with the nature of active learning and the qualities required of future global leaders, a minimum attendance of 70% (10 out of 14 sessions) is required to receive credit for this course. Tardiness without a valid original certificate (photocopies or photos taken with a phone will not be accepted) will result in grade deductions.			

科目ナンバー：(BA)MAN596E			
Information Ethics A [M] 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】			ADAMS, ANDREW
Credits: 2	Year: 3	Spring Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 Information ethics is the study of the social impact of information flow enabled by technological computer and communication devices. A brief overview of ethical approaches will be given, together with studies of some of the key thinkers on these issues: Zittrain, Lessig, Castells, Bynum and Rogerson, Wiener. This is one of two modules on this issue which together provide a broad and deep examination of the subject.			
2. 授業内容 This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform. 1 : Introduction: Information Ethics 2 : Ethical Theory for Information Ethics 3 : Copyrights 4 : Information Wants to be Free, People Want to be Paid 5 : Data Formats 6 : Digital Education 7 : Freedom of Expression 8 : Freedom to Tinker 9 : Freedom of Information 10 : Unwanted Electronic Attentions I: Spam 11 : Unwanted Electronic Attentions II: Harassment 12 : Unwanted Electronic Attentions III: Fraud in the Digital World 13 : Science Fiction and Information Ethics From 1984 to Ghost in the Shell 14 : Conclusions			
3. 履修上の注意 The course will be given in English. Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week's topic is provided on the Oh-o! Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session. Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning. The lecturer will then present details on the issue of the week. The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module. These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.			
5. 教科書 Pandora's Box: Social and professional Issues of the Information Age. Andrew A. Adams and Rachel J. McCrindle.			
6. 参考書 See the module handout for a list of reference materials for each session.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email. Written feedback on essays will be provided by email.			
8. 成績評価の方法 90% : S 80% : A 70% : B 60% : C Below 59% : Fail Presentations (2): 50% Post-Presentation Essays (2): 50%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN596E			
Information Ethics B [M] 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】			ADAMS, ANDREW
Credits: 2	Year: 3	Fall Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 Information ethics is the study of the social impact of information flow enabled by technological computer and communication devices. A brief overview of ethical approaches will be given, together with studies of some of the key thinkers on these issues: Zittrain, Lessig, Castells, Bynum and Rogerson, Wiener. This is one of two modules on this issue which together provide a broad and deep examination of the subject.			
2. 授業内容 This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform. 1 : Introduction: Information Ethics 2 : Ethical Theory for Information Ethics 3 : Privacy and Data Protection 4 : DNA 5 : Digital Health 6 : Information, Sex and Technology 7 : Online Crime 8 : Cyber-Warfare 9 : Artificial Intelligence 10 : (Anti-) Social Media 11 : Digital Entertainment 12 : Working in the Wired World 13 : Living in a Networked World 14 : Conclusions			
3. 履修上の注意 The course will be given in English. Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week's topic is provided on the Oh-o! Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session. Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning. The lecturer will then present details on the issue of the week. The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module. These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.			
5. 教科書 Pandora's Box: Social and Professional Issues of the Information Age. Andrew A. Adams and Rachel J. McCrindle.			
6. 参考書 See the module handout for a list of reference materials for each session.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email. Written feedback on essays will be provided by email.			
8. 成績評価の方法 90% : S 80% : A 70% : B 60% : C Below 59% : Fail Presentations (2): 50% Post-Presentation Reports (2): 50%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN596E			
Information Science A [M] 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】			ADAMS, ANDREW
Credits: 2	Year: 3	Spring Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 The Knowledge Economy is a key element of modern business. Information processing is the core technology which underpins the knowledge economy. Key concepts of information processing as part of a modern business will be presented in this course, together with links to the work of key thinkers in the role of information and knowledge in modern businesses. This is one of two courses which may be taken independently, but which together will add up to a broad understanding of the role of information and information technology in business. In this course the focus is on information within the organisation and the links between information technology, organisational structures and internal business processes. The lectures are arranged into three themes: Technology, Security, People.			
2. 授業内容 This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform. 1 : Introduction: Information, Technology and Business Organisation 2 : Key Ideas: Place, Network, Interaction, Leverage 3 : Technology 1: Database Theory 4 : Technology 2: Information, Data, Knowledge 5 : Technology 3: Knowledge Management Theory 6 : Security 1: Information Security Concepts 7 : Security 2: Internal Information Security Policies 8 : People 1: Data Protection 9 : People 2: The Individual and the Role 10 : Security 3: Communication Technology and Strategy 11 : Technology 4: Communication Tools 12 : People 3: International Team-Working 13 : Principles of HCI Design 14 : Conclusions: The Information Revolution and the Knowledge Economy			
3. 履修上の注意 The course will be given in English. Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week's topic is provided on the Oh-o! Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session. Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning. The lecturer will then present details on the issue of the week. The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module. These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.			
5. 教科書 See the module handout for a list of reference materials for each session.			
6. 参考書 See the module handout for a list of reference materials for each session.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email. Written feedback on essays will be provided by email.			
8. 成績評価の方法 90% : S 80% : A 70% : B 60% : C Below 59% : Fail Presentations (2): 50% Post-Presentation Essays (2): 50%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN596E			
Information Science B [M] 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】			ADAMS, ANDREW
Credits: 2	Year: 3	Fall Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 The Knowledge Economy is a key element of modern business. Information processing is the core technology which underpins the knowledge economy. Key concepts of information processing as part of a modern business will be presented in this course, together with links to the work of key thinkers in the role of information and knowledge in modern businesses. This is one of two courses which may be taken independently, but which together will add up to a broad understanding of the role of information and information technology in business. In this course the focus is on information flows into and out of the organisation, including legal requirements to provide information to regulators, customer and public relations, and inter-organisational information flow. The lectures are arranged into three themes: Technology, Security, People.			
2. 授業内容 This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform. 1 : Introduction: Information, Technology and Business Organisation 2 : Key Ideas: Place, Network, Interaction, Leverage 3 : Technology 1: External Communications: From the Letter to the Web Order 4 : Technology 2: The Internet and the Web 5 : Technology 3: Interfaces 6 : Security 1: Information Security Concepts 7 : Security 2: External Information Security Policies 8 : People 1: Game Theory 9 : People 2: Competition 10 : People 3: Cooperation 11 : Security 3: Mashup Corporations 12 : Security 4: Legal Requirements on Information 13 : Security 5: Social Engineering Tricks and Counter-Measures 14 : People 5: Mobile HCI Design			
3. 履修上の注意 The course will be given in English. Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week's topic is provided on the Oh-o! Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session. Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning. The lecturer will then present details on the issue of the week. The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module. These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.			
5. 教科書 See the module handout for a list of reference materials for each session.			
6. 参考書 See the module handout for a list of reference materials for each session.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email. Written feedback on essays will be provided by email.			
8. 成績評価の方法 90% : S 80% : A 70% : B 60% : C Below 59% : Fail Presentations (2): 50% Post-Presentation Reports (2): 50%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN516E			
E Commerce A [M] 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】			ADAMS, ANDREW
Credits: 2	Year: 3	Spring Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 ECommerce is often represented as a new way of doing business. Commerce has been conducted electronically since the introduction of the telegraph system in the mid-19th century, however. Legal issues such as contracts, regulatory issues such as advertising control, and a broad range of other concepts have all gradually evolved as more and different modes of electronic commerce have become available. In this module, the development and implications of ecommerce involving general customers/consumers is presented, covering both business to customer (B2C) and customer to customer (C2C) ecommerce issues.			
2. 授業内容 This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform. 1 : Introduction to ECommerce 2 : Theories of ECommerce 3 : B2C Basics 4 : Infrastructure 1: Front Ends 5 : Infrastructure 2: Payment Systems 6 : Infrastructure 3: Fulfilment 7 : B2C Etail 8 : B2C Services 9 : Social Platforms and ECommerce 10 : C2C Basics 11 : Infrastructure 4: Reputation 12 : Case Study: Amazon 13 : Case Study: Rakuten 14 : Conclusions			
3. 履修上の注意 The course will be given in English. Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week's topic is provided on the Oh-o! Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session. Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning. The lecturer will then present details on the issue of the week. The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module. These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.			
5. 教科書 E-commerce: Business Technology, Society (17th Edition). Laudon Traver. Pearson. 2021			
6. 参考書 See the module handout for a list of reference materials for each session.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email. Written feedback on essays will be provided by email.			
8. 成績評価の方法 90% : S 80% : A 70% : B 60% : C Below 59% : Fail Presentations (2): 50% Post-Presentation Reports (2): 50%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN516E			
E Commerce B [M] 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】			ADAMS, ANDREW
Credits: 2	Year: 3	Fall Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 ECommerce is often represented as a new way of doing business. Commerce has been conducted electronically since the introduction of the telegraph system in the mid-19th century, however. Legal issues such as contracts, regulatory issues such as advertising control, and a broad range of other concepts have all gradually evolved as more and different modes of electronic commerce have become available. In this module, the development and implications of ecommerce involving businesses and government is presented, covering both business to business (B2B) and business to government (B2G) and government to business (G2B) ecommerce issues.			
2. 授業内容 This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform. 1 : Introduction to ECommerce 2 : Theories of ECommerce 3 : B2B Basics 4 : B2B Infrastructure 5 : B2B Fulfilment 6 : B2G Services 7 : B2B Case Study: Go2Paper 8 : B2B Case Study: Toyota Production System: Just in Time 9 : B2B Case Study: Shutterstock 10 : B2G Basics 11 : B2G Case Study: e-procurement and anti-corruption 12 : G2B Basics 13 : G2B Case Study: NIC Inc. 14 : Conclusions			
3. 履修上の注意 The course will be given in English. Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week's topic is provided on the Oh-o! Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session. Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning. The lecturer will then present details on the issue of the week. The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module. These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.			
5. 教科書 E-commerce: Business Technology, Society (17th Edition). Laudon & Traver. Pearson. 2021.			
6. 参考書 See the module handout for a list of reference materials for each session.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email. Written feedback on essays will be provided by email.			
8. 成績評価の方法 90% : S 80% : A 70% : B 60% : C Below 59% : Fail Presentations (2): 50% Post-Presentation Reports (2): 50%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN516E			
The Future of E Business A [M] 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】			ADAMS, ANDREW
Credits: 2	Year: 3	Spring Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 Digitisation has been happening in businesses for more than fifty years. The pace of change of technology and its impact on both society at large and businesses' processes, business models, employment practices, markets, and (sometimes lack of) profitability are not letting up and may even be increasing. This module presents current technologies which are allowing or forcing businesses to change their approaches as well as updating, new and emerging technologies which will allow/force further change in the future. Technologies/issues covered include Artificial Intelligence; Virtual, Extended and Augmented Reality; Collaborative Robots (robots sharing space with human beings and physically working alongside them); mobile, wearable and implantable technologies; social impact of a growing further digitisation of the economy. This is one of two modules covering this topic which may be taken separately or in either order to give a broad and deep understanding of the Future of Business, which in most cases will involve adoption of EBusiness elements. This module focusses on non-industrial businesses, including office-work, the entertainment industry, the health sector, the finance sector and agriculture.			
2. 授業内容 This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform. 1 : Introduction 2 : The History and Present of IT in Business 3 : Virtual/Extended/Augmented Reality 4 : Remote Working 5 : Networking: Social Networking, Social Media, Professional Networking 6 : Entertainment: Static, music, books, video, fiction and fact 7 : Entertainment: Interactive fantasy (games) and reality (tourism) 8 : Healthcare 9 : Financial Markets 10 : Data: Privacy, Confidentiality and Security 11 : Agriculture 4.0 12 : Agriculture 5.0 13 : Knowledge Work 14 : Society 5.0			
3. 履修上の注意 The course will be given in English. Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week's topic is provided on the Oh-o! Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session. Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning. The lecturer will then present details on the issue of the week. The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module. These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.			
5. 教科書 Future Skills by Bernard Marr, Wiley, 2022			
6. 参考書 See the course handout for detailed references for each session.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email. Written feedback on essays will be provided by email.			
8. 成績評価の方法 90% : S 80% : A 70% : B 60% : C Below 59% : Fail Presentations (2): 50% Post-Presentation Essays (2): 50%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN516E			
The Future of E Business B [M] 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】			ADAMS, ANDREW
Credits: 2	Year: 3	Fall Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 Digitisation has been happening in businesses for more than fifty years. The pace of change of technology and its impact on both society at large and businesses' processes, business models, employment practices, markets, and (sometimes lack of) profitability are not letting up and may even be increasing. This module presents current technologies which are allowing or forcing businesses to change their approaches as well as updating, new and emerging technologies which will allow/force further change in the future. Technologies/issues covered include Artificial Intelligence; Virtual, Extended and Augmented Reality; Collaborative Robots (robots sharing space with human beings and physically working alongside them); mobile, wearable and implantable technologies; social impact of a growing further digitisation of the economy. This is one of two modules covering this topic which may be taken separately or in either order to give a broad and deep understanding of the Future of Business, which in most cases will involve adoption of EBusiness elements. This module focusses on the future of industrial activity, particularly large scale manufacturing, considering the current drive to implement Industry 4.0 and the discussions about what Industry 5.0 will look like.			
2. 授業内容 This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform. 1 : Introduction 2 : The History and Present of IT in Business 3 : Autonomous/Cooperative Robots and Cobots (IoT 1) 4 : Industrial IoT (IoT 2) 5 : Big Data and Analytics (Data-Driven Manufacturing 1) 6 : AI for Manufacturing (Data-Driven Manufacturing 2) 7 : Digital Twins (Data-Driven Manufacturing 3) 8 : VR/AR/RX (New Workplaces 1) 9 : 3-D Printing (New Workplaces 2) 10 : Cloud Computing (Data-Driven Manufacturing 4/Structural Issues 1) 11 : Horizontal/Vertical Integration (Structural Issues 2) 12 : Cybersecurity (Structural Issues 3) 13 : Energy and Climate (Structural Issues 4) 14 : Social and Economic Implications (Structural Issues 5)			
3. 履修上の注意 The course will be given in English. Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week's topic is provided on the Oh-o! Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session. Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning. The lecturer will then present details on the issue of the week. The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module. These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.			
5. 教科書 Business Trends in Practice by Bernard Marr, Wiley 2021			
6. 参考書 See the module handout for detailed references for each session.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email. Written feedback on essays will be provided by email.			
8. 成績評価の方法 90% : S 80% : A 70% : B 60% : C Below 59% : Fail Presentations (2): 50% Post-Presentation Essays (2): 50%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN526E			
Organizational Behavior A [M] 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】		DASSANAYAKE, MUDIYANSELAGE	
Credits: 2	Year: 3	Spring Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 Human behavior in an organization is a critical determinant of a) its profitability, growth, and survival as well as b) performance and holistic well-being of its employees. This micro Organizational Behavior course aims to provide learning partners (students) with an opportunity to undertake an in-depth examination of individual and group/team behavior in organizations with related concepts, principles, theories, and practices. Furthermore, it builds a platform for these learning partners to appreciate an interdisciplinary behavioral science approach to understanding, predicting, and managing individual and group behavior in organizational settings. Consequently, this appreciation would enable them to view micro Organizational Behavior as the foundation for managing human resource (human resource management) in an organization. At the end of this course, learning partners will be able to: a) define broadly concepts of individual and group behavior in organizations b) understand theories related to explaining individual and group behavior in organizations c) apply conceptual and theoretical knowledge to describe a wide array of behavioral phenomena occurring in real world organizations. The learning environment this course will create may require and motivate learning partners to improve persistently their reading, listening, speaking, and writing skills in English by interacting with all others in the class with ambition and passion.			
2. 授業内容 The mode of delivery of this course will be in the form of a media-based course. Thus, some sessions will be delivered in person (face-to-face). More details on this will be announced in the first class meeting. <i>The first class meeting of this course will be conducted online (by using Zoom Video-conferencing Technology).</i> Session 1 The nature of human beings and human behavior in organizations: A cursory glance through fundamentals 1 Session 2 The nature of human beings and human behavior in organizations: A cursory glance through fundamentals 2 Session 3 Individual behavior, personality, and values Session 4 Perceiving ourselves and others in organizations Session 5 Workplace emotions, attitudes, and stress Session 6 Case study analysis 1: Oral presentations Session 7 Foundations of employee motivation Session 8 Case study analysis 2: Oral presentations Session 9 Team dynamics Session 10 Communicating in teams and organizations Session 11 Guest speaking (online) by a practicing manager from the industry (<i>tentative</i>) or a lecture on a relevant topic by the course facilitator (<i>alternative</i>) Session 12 Case study analysis 3: Oral presentations Session 13 Leadership in organizational settings Session 14 Case study analysis 4: Written assignment and oral presentations (and reflections and course wrap up)			
3. 履修上の注意 There is no pre-requisite course/s. Learning partners could select freely this course, depending on their learning needs and interests. They are welcome to contributing considerably to offering this course by participating and engaging actively in classroom meetings. Learning and teaching methods: Short lectures, interactive conversations, chapter reading-based presentations by learning partners, case study analysis and presentations by learning partners, and guest speaking by a practicing manager from the industry (<i>tentative</i>) Note: Chapter reading-based presentations and case study analysis and presentations in combination offers learning partners considerable opportunities for improving continuously their oral communication and public speaking skills with ambition and passion.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Each learning partner is required to read relevant chapters in the course textbook as a preparatory exercise prior to attending each classroom meeting. Similarly, they are also encouraged to associate themselves with reputable journals (indexed in Social Sciences Citation Index (SSCI)) on Organizational Behavior/Organization Studies for understanding current issues of topics covered in this course.			
5. 教科書 Course textbook: McShane, S. L., & Von Glinow, M. A. (2021). <i>Organizational behavior: Emerging knowledge. Global reality</i> (9th ed.). McGraw-Hill Education.			
6. 参考書 Learning partners are motivated to read other relevant books too (the latest edition available) and journals on Organizational Behavior for broadening and deepening their knowledge and understanding of micro Organizational Behavior. Journals (suggestive): Journal of Organizational Behavior, Organizational Dynamics, Academy of Management Perspectives			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Learning partners will be provided with a constructive feedback on their multiple presentations (oral and written) made in the class during the particular class meeting itself. This response intends to positively reinforce their reflective learning whilst maintaining a <i>Kaizen</i> -oriented mindset. They are also motivated to communicate frequently with the course facilitator and about their concerns on this constructive feedback by using "Discussions" platform on the Class Web or email.			
8. 成績評価の方法 a) Active participation and engagement in classroom meetings—70% b) Case study analysis, i.e. written assignment and oral presentations—30% No final written examination given at the end of the semester			
9. その他 Let us learn together about human beings and their behavior in organizations. Your suggestions and insights are always welcome for improving continuously the quality and the relevance of this course as we progress through. This faculty member is reachable at msamand62@meiji.ac.jp			

科目ナンバー：(BA)MAN526E			
Organizational Behavior B [M] 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】		DASSANAYAKE, MUDIYANSELAGE	
Credits: 2	Year: 3	秋学期集中	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 This course is ideally a continuation of Organizational Behavior A. It will be delivered as an intensive course on two consecutive Saturdays and Sundays (four days in total). It provides learning partners (students) with a learning environment for broadening and deepening their knowledge and understanding of individual and group behavior in organizational settings. Predominantly, the emphasis is placed on: a) analyzing case studies and b) reviewing research-based literature, i.e. journal articles. This b) will help learning partners develop an in-depth understanding of the ongoing debates on topics of micro Organizational Behavior and how they can be connected with realities of human behavior in present day organizations. In general, both a) and b) in combination creates a platform for learning partners to reflect on and share their work-related knowledge and experience in various organizations with other learning partners and the course facilitator (lecturer). In addition, these learning partners could gather many tools that may be beneficial for managing human resource (human resource management) whilst aligning constructively it with the nature of business of the organization. At the end of this course, learning partners will be able to: a) know deeply practical issues/phenomena/scenarios of understanding, predicting, and managing human behavior in organizations b) identify whether theories already in existence explain sufficiently micro Organizational Behavior-related phenomena occurring in real world organizations c) recognize the relationship between micro Organizational Behavior and Human Resource Management as the former is regarded as the foundation for the latter.			
2. 授業内容 All sessions of this intensive course will be delivered in person (face-to-face) and at the Universiti Teknologi Malaysia (UTM), Kuala Lumpur, Malaysia. Notably, the Zoom Video-conferencing Technology will be used only for holding the online Guest Speaking Session. Those who are interested in taking this course are required to be prepared to attend all class meetings to be held over two consecutive weekends (both Saturday and Sunday) and at the UTM, Kuala Lumpur, Malaysia. Session 1 What micro Organizational Behavior is all about: A cursory glance through fundamentals Session 2 Short lectures (and chapter reading-based presentations) on selected topics: Round 1 Session 3 Short lectures (and chapter reading-based presentations) on selected topics: Round 2 Session 4 Case study analysis 1: Oral presentations Session 5 Short lectures (and chapter reading-based presentations) on selected topics: Round 3 Session 6 Case study analysis 2: Oral presentations Session 7 Reading and discussing journal articles: Round 1 Session 8 Reading and discussing journal articles: Round 2 Session 9 Reading and discussing journal articles: Round 3 Session 10 Case study analysis 3: Oral presentations Session 11 Guest speaking (online) by a practicing manager from the industry (<i>tentative</i>) or a lecture on a relevant topic by the course facilitator (<i>alternative</i>) Session 12 Case study analysis 4: Oral presentations Session 13 Case study analysis 5: Written assignment and oral presentations Session 14 Reflections and course wrap up			
3. 履修上の注意 There is no pre-requisite course/s. Learning partners could select freely this course, depending on their learning needs and interests. All prospective learning partners are advised to be aware of what is covered in Organizational Behavior A course offered in the spring semester. They are welcome to contributing considerably to offering this course by participating and engaging actively in classroom meetings as well as two online meetings to be held prior to commencing on delivering it. Learning and teaching methods: Short lectures (and chapter reading-based presentations by learning partners), interactive conversations, case study analysis and presentations by learning partners, analysis of video-based behavioral scenarios in organizations, role-playing exercise, presentations by learning partners based on reading and discussing journal articles, and guest speaking by a practicing manager from the industry (<i>tentative</i>) Note: Chapter reading-based presentations, case study analysis and presentations, and presentations based on reading and discussing journal articles in combination offers learning partners considerable opportunities for improving continuously their oral communication and public speaking skills in a friendly environment.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Course facilitator will arrange two online meetings at two different times well in advance of commencing on delivering this course. Of them, the <i>preparatory meeting</i> purports to discuss in depth the <i>modus operandi</i> of running this intensive course whilst inviting potential learning partners to share their insights and thoughts for making this course delivery a value creating/enhancing learning experience for them. The second meeting will take the form of a <i>follow-up meeting</i> where prospective learning partners can show their knowledge and understanding of this <i>modus operandi</i> of running the course and raise further concerns they may have for doing proactively preparations required for taking the course.			
5. 教科書 Course textbook: McShane, S. L., & Von Glinow, M. A. (2021). <i>Organizational behavior: Emerging knowledge. Global reality</i> (9th ed.). McGraw-Hill Education.			
6. 参考書 Luthans, F., Luthans, B. C., & Luthans, K. W. (2015). <i>Organizational behavior: An evidence-based approach</i> (13th ed.). Information Age Publishing, Inc. Note: Other books (the latest edition available) on micro Organizational Behavior are also recommended Journals (suggestive): Journal of Organizational Behavior, Organizational Dynamics, Academy of Management Perspectives, Academy of Management Review, Academy of Management Journal			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Learning partners will be provided with a constructive feedback on their multiple presentations (oral and written) made in the class during the particular class meeting itself. This response intends to positively reinforce their reflective learning whilst maintaining a <i>Kaizen</i> -oriented mindset. They are also motivated to communicate frequently with the course facilitator and about their concerns on this constructive feedback by using "Discussions" platform on the Class Web or email.			
8. 成績評価の方法 a) Active participation and engagement in classroom meetings—70% b) Case study analysis, i.e. written assignment and oral presentations—30% No final written examination given at the end of the semester			
9. その他 Let us learn together about human beings and their behavior in organizations. Your suggestions and insights are always welcome for improving continuously the quality and the relevance of this course as we progress through. This faculty member is reachable at msamand62@meiji.ac.jp			

科目ナンバー：(BA)MAN526E			
Strategic Management A [M] 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】		DASSANAYAKE, MUDIYANSELAGE	
Credits: 2	Year: 3	Spring Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 This course, in the broadest sense, is about analyzing external and internal environments, strategy making, and strategy implementing in organizations operating in a competitive business environment. It aims to provide learning partners (students) with an overview of basic concepts, principles, tools, and related theories needed for understanding the process of analyzing environments for making business strategies and putting them into action. Furthermore, Volatility, Uncertainty, Complexity, and Ambiguity (VUCA) that characterize collectively the nature of broader external environment has compelled business organizations and their strategic leaders to reflect broadly and deeply on what implications that extends for short-, medium-, and long-term profitability, growth, and survival of their organizations. The nature and scale of these implications vary across business organizations, so their resilience depends on, among others, choices these strategic leaders make in strategy formulation and execution. Thus, this course also purports to build a platform for learning partners to discuss and understand issues of managing strategy in business organizations in the context of implications of this "VUCA world". At the end of this course, learning partners will be able to: - understand the overall process of how business organizations formulate strategies and execute them - identify practical issues of strategy formulation and strategy execution in business organizations - analyze various business situations and visualize appropriate strategies for dealing with them. The learning environment this course will create may require and motivate learning partners to improve persistently their reading, listening, speaking, and writing skills in English by interacting with all others in the class whilst appreciating a friendly and relaxing ambience.			
2. 授業内容 The mode of delivery of this course will be in the form of a media-based course. Thus, some sessions will be delivered in person (face-to-face). More details on this will be announced in the first class meeting. <i>The first class meeting of this course will be conducted online (by using Zoom Video-conferencing Technology).</i> Session 1 What strategic management and the role of strategic leadership are all about: The nature and scope 1 Session 2 What strategic management and the role of strategic leadership are all about: The nature and scope 2 Session 3 External analysis: Industry structure, competitive forces, and strategic groups Session 4 Internal analysis: Resources, capabilities, and core competencies Session 5 Business strategy: Differentiation, cost leadership, innovation, entrepreneurship, and platforms Session 6 Corporate strategy: Vertical integration and diversification 1 Session 7 Corporate strategy: Mergers and acquisitions 2 Session 8 Analysis and presentation of minicase 1 Session 9 Global strategy: Competing around the world Session 10 Analysis and presentation of minicase 2 Session 11 Guest speaking (online) by a practicing manager from the industry (<i>tentative</i>) or a lecture on Blue ocean strategy by the course facilitator (<i>alternative</i>) Session 12 Corporate governance and business ethics Session 13 Case (full-length case) study analysis: Written assignment and oral presentations Session 14 Reflections and course wrap up			
3. 履修上の注意 There is no pre-requisite course/s. Learning partners could select freely this course, depending on their learning needs and interests. They are always welcome to contributing significantly to offering this course by participating and engaging actively in classroom meetings. Learning and teaching methods: Short lectures, interactive conversations, chapter reading-based presentations by learning partners, analysis and presentation of minicases (and a full-length case) by learning partners, and guest speaking by a practicing manager from the industry (<i>tentative</i>) Note: Chapter reading-based presentations and analysis and presentation of minicases (and a full-length case) in combination offers learning partners considerable opportunities for improving continuously their oral communication and public speaking skills with ambition and passion.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Each learning partner is required to read relevant chapters in the major course textbook as a preparatory exercise prior to attending each classroom meeting.			
5. 教科書 Course textbook: Rothaermel, F. T. (2021). <i>Strategic management</i> (5th ed.). McGraw-Hill Education. Additional reading: Hitt, M. A., Ireland, R. D., & Hoskisson, R. E. (2017). <i>Strategic management: Competitiveness & globalization: Concepts and cases</i> (12th ed.). Cengage Learning.			
6. 参考書 Learning partners are motivated to read and associate with other relevant books (the latest edition available), journals on Strategic Management, business magazines, and web sites, to name a few, for broadening and deepening their knowledge and understanding. These journals need to be reputable ones which are indexed in Social Sciences Citation Index (SSCI). Journals (suggestive): Strategic Management Journal, Harvard Business Review, Management Decision, MIT Sloan Management Review, California Management Review, Academy of Management Perspectives Business magazines (suggestive): NIKKEI Asia, The Economist, Forbes Web sites (suggestive): THE ASAN FORUM, EAST ASIA FORUM			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Learning partners will be provided with a constructive feedback on their multiple presentations (oral and written) made in the class during the particular class meeting itself. This response intends to positively reinforce their reflective learning whilst maintaining a <i>Kaizen</i>-oriented mindset. They are also motivated to communicate frequently with the course facilitator and about their concerns on this constructive feedback by using "Discussions" platform on the Class Web or email.			
8. 成績評価の方法 - Active participation and engagement in classroom meetings—70% - Case study analysis, i.e. written assignment and oral presentations—30% No final written examination given at the end of the semester			
9. その他 Let us learn together Strategic Management for developing a bird's-eye view of a business organization. Your suggestions and insights are always welcome for improving continuously the quality and the relevance of this course as we progress through. This faculty member is reachable at msamand62@meiji.ac.jp			

科目ナンバー：(BA)MAN526E			
Strategic Management B [M] 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】		DASSANAYAKE, MUDIYANSELAGE	
Credits: 2	Year: 3	Fall Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 This is a continuation of Strategic Management A. The aim of this course is to provide learning partners (students) with a learning environment for broadening and deepening their knowledge and understanding of strategy formulation and execution in business organizations functioning in a competitive environment. Predominantly, the emphasis is given to discussing research-based literature, i.e. journal articles, so learning partners can develop an in-depth understanding of the ongoing debates on topics of Strategic Management. The analysis and presentation of minicases and a full-length case will complement this. Volatility, Uncertainty, Complexity, and Ambiguity (VUCA) that characterize collectively the nature of broader external environment has changed the competitive landscape of business organizations and the role carried out by their strategic leaders. Its implications for short-, medium-, and long-term profitability, growth, and survival of these organizations are worth studying in depth. Thus, this course also purports to build a platform for learning partners to discuss and understand issues of managing strategy in organizations in a "VUCA world". At the end of this course, learning partners will be able to: - know deeply practical issues/phenomena/scenarios of the process of strategy formulation and execution in business organizations - identify major influences on and challenges of strategy formulation and execution in present day business organizations - recognize the significance of strategic management as a discipline and practice that draws upon all functional areas of management whilst integrating them for developing a bird's-eye view of a business organization. The learning environment of this course will motivate learning partners to interact with each other in the class whilst appreciating a friendly and relaxing ambience.			
2. 授業内容 The mode of delivery of this course will be in the form of a media-based course. Thus, some sessions will be delivered in person (face-to-face). More details on this will be announced in the first class meeting. <i>The first class meeting of this course will be conducted online (by using Zoom Video-conferencing Technology).</i> Session 1 What strategic management and the role of strategic leaders are all about: A cursory glance through fundamentals 1 Session 2 What strategic management and the role of strategic leaders are all about: A cursory glance through fundamentals 2 Session 3 Chapter reading-based discussion on a selected topic 1 Session 4 Chapter reading-based discussion on a selected topic 2 Session 5 Chapter reading-based discussion on a selected topic 3 Session 6 Analysis and presentation of minicase 1 Session 7 Reading and discussing a journal article 1 Session 8 Reading and discussing a journal article 2 Session 9 Chapter reading-based discussion on a selected topic 4 Session 10 Reading and discussing a journal article 3 Session 11 Guest speaking (online) by a practicing manager from the industry (<i>tentative</i>) or a lecture on Blue ocean strategy by the course facilitator (<i>alternative</i>) Session 12 Analysis and presentation of minicase 2 Session 13 Case study (full-length case) analysis: Written assignment and oral presentations Session 14 Reflections and course wrap up			
3. 履修上の注意 There is no pre-requisite course/s. Learning partners could select freely this course, depending on their learning needs and interests. All prospective learning partners are advised to be aware of what is covered in Strategic Management A course offered in the spring semester. They are welcome to contributing significantly to offering this course by participating and engaging actively in classroom meetings. Learning and teaching methods: Short lectures, interactive conversations, chapter reading-based discussions by learning partners, journal article reading-based presentations by learning partners, analysis and presentation of minicases and a full-length case by learning partners, and guest speaking by a practicing manager from the industry (<i>tentative</i>) Note: Chapter reading-based discussions, journal article-based presentations, and analysis and presentation of minicases and a full-length case in combination offers learning partners considerable opportunities for improving continuously their oral communication and public speaking skills with ambition and passion.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Course facilitator (lecturer) will communicate to learning partners during the first classroom meeting itself about minicases, full-length case, and journal articles chosen, so they will be able to prepare themselves well for respective discussions and presentations.			
5. 教科書 Course textbook: Rothaermel, F. T. (2021). <i>Strategic management</i> (5th ed.). McGraw-Hill Education. Additional reading: Hitt, M. A., Ireland, R. D., & Hoskisson, R. E. (2017). <i>Strategic management: Competitiveness & globalization: Concepts and cases</i> (12th ed.). Cengage Learning.			
6. 参考書 Learning partners are motivated to read and associate with other relevant books (the latest edition available), journals on Strategic Management, business magazines, and web sites, to name a few, for broadening and deepening their knowledge and understanding. These journals need to be reputable ones which are indexed in Social Sciences Citation Index (SSCI). Journals (suggestive): Strategic Management Journal, Harvard Business Review, Management Decision, Long Range Planning, International Business Review, Journal of Management Studies, Academy of Management Perspectives, MIT Sloan Management Review, California Management Review Business magazines (suggestive): NIKKEI Asia, The Economist, Forbes Web sites (suggestive): THE ASAN FORUM, EAST ASIA FORUM			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Learning partners will be provided with a constructive feedback on their multiple presentations (oral and written) made in the class during the particular class meeting itself. This response intends to positively reinforce their reflective learning whilst maintaining a <i>Kaizen</i>-oriented mindset. They are also motivated to communicate frequently with the course facilitator and about their concerns on this constructive feedback by using "Discussions" platform on the Class Web or email.			
8. 成績評価の方法 - Active participation and engagement in classroom meetings—70% - Case study analysis, i.e. written assignment and oral presentations—30% No final written examination given at the end of the semester			
9. その他 Let us learn together Strategic Management for developing a bird's-eye view of a business organization. Your suggestions and insights are always welcome for improving continuously the quality and the relevance of this course as we progress through. This faculty member is reachable at msamand62@meiji.ac.jp			

科目ナンバー：(BA)MAN561E			
Transnational Management A 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】			SUMI ATSUSHI
Credits: 2	Year: 3	Spring Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 Outline: The globalization of a nation's socio-economy exerts significant influence on corporations. A prominent characteristics of this phenomenon is the rise in cross-border trade and foreign direct investment. This trend is, particularly evident in the recent strategic shift of many corporations. Previously focused on export-oriented, multi-domestic strategies targeting the internationalization of selected divisions, these corporations are now adopting a more globalized approach. This strategy emphasizes establishing profit centers worldwide. The complexity of global competition has increased, driven by the emergence of newly industrialized nations, such as the BRICs, alongside a growing focus on regionalization and regional economic alliances. These developments require corporations to adapt their managerial practices to navigate turbulent global environments effectively. In response to the shifting dynamics of today's international political economy, Japanese corporations face the imperative to develop international human resources capable of addressing pressing global challenges. In contrast, foreign-affiliated companies in Japan have been recognized for their success in localizing their management practices. This course addresses these emerging challenges and issues in international management. It provides a comprehensive perspective on the subject, with a focus on theories of international management at a level beyond that of undergraduate studies. The course will feature English lectures and student presentations to enhance engagement and understanding. Objectives: Through the use of the English as a medium of instruction, students will develop a comprehensive understanding of globalization, international environments, and their impact on companies operating abroad. This course aims to equip students with the knowledge and skills necessary to navigate the complexities of global business effectively.			
2. 授業内容 Course Outline 1. Introduction • 1a. Course Introduction • 1b. What is International Management? 2. Globalization • 2. Globalization I • 3a. Globalization II • 3b. Discussion 3. National Differences in Political Economy • 4-5. National Differences in Political Economy I • 6a. National Differences in Political Economy II • 6b. Discussion 4. Political Economy and Economic Development • 7. Political Economy and Economic Development I • 8a. Political Economy and Economic Development II • 8b. Discussion 5. Cultural Differences • 9-11. Differences in Culture I • 12a. Differences in Culture II • 12b. Discussion 6. Ethics, Corporate Social Responsibility, and Sustainability • 13. Ethics, Corporate Social Responsibility, and Sustainability I • 14. Ethics, Corporate Social Responsibility, and Sustainability II			
3. 履修上の注意 Enrollment Requirements: Students interested in enrolling in this course must attend the first class, which covers the course introduction. A TOEIC score of approximately 730 is recommended for registration.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Course Delivery: The course facilitator (lecturer) intends to deliver this course primarily through face-to-face (in-person) classes. However, all participants are advised to regularly check the Oh-o! Meiji System for updates regarding any changes in instructional delivery, as mandated by the university for all schools and graduate programs.			
5. 教科書 Course Textbook: International Business: Competing in the Global Marketplace (14th Edition, 2022) by Charles W. L. Hill, McGraw-Hill Education. • ISBN-13: 978-1265038540 Students can access this textbook online via the ProQuest Ebook Central platform provided by the Meiji University library. To do so, they must use their Meiji University ID number and password.			
6. 参考書 Additional Materials: Supplementary materials will be introduced in class as needed.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Communication: The course facilitator will communicate with students via email regarding class presentations, paper topics, and the evaluation of research papers.			
8. 成績評価の方法 Course Evaluation: Student performance will be assessed based on the following criteria: 1. Oral Presentations (50%) • Each student will deliver 5 to 6 oral reports on assigned textbook sections throughout the semester. • Presentations should be accompanied by a brief summary. 2. Case Report (40%) • Submit an English report (A4 size, 8-10 pages, 3200-4000 words). 3. Overall Class Participation (10%) • Includes active engagement in group discussions and class activities.			
9. その他 Engagement and Communication: Students are encouraged to openly share ideas and insights during classroom discussions and to ask any questions to enhance their understanding of the course content. The course facilitator can be reached at 2025spring.classes.sumi@gmail.com for any inquiries or assistance.			

科目ナンバー：(BA)MAN561E			
Transnational Management B 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】			SUMI ATSUSHI
Credits: 2	Year: 3	Fall Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 Outline: The globalization of a nation's socio-economy exerts significant influence on corporations. A prominent characteristic of this phenomenon is the rise in cross-border trade and foreign direct investment. This trend is particularly evident in the recent strategic shift of many corporations. Previously focused on export-oriented, multi-domestic strategies targeting the internationalization of selected divisions, these corporations are now adopting a more globalized approach. This strategy emphasizes establishing profit centers worldwide. The complexity of global competition has increased, driven by the emergence of newly industrialized nations, such as the BRICs, alongside a growing focus on regionalization and regional economic alliances. These developments require corporations to adapt their managerial practices to navigate turbulent global environments effectively. In response to the shifting dynamics of today's international political economy, Japanese corporations face the imperative to develop international human resources capable of addressing pressing global challenges. In contrast, foreign-affiliated companies in Japan have been recognized for their success in localizing management practices. This course addresses these emerging challenges and issues in international management. It provides a comprehensive perspective on the subject, with a focus on theories of international management at a level beyond that of undergraduate studies. The course will feature English lectures and student presentations to enhance engagement and understanding. Objectives: Using the English language, students will gain a solid understanding of the fundamental theoretical issues in International Business.			
2. 授業内容 Course Outline 1. Introduction • 1a. Introduction • 1b. What is International Management? 2. Foreign Direct Investment • 2. Foreign Direct Investment 3. The Strategy of International Business • 3-4. The Strategy of International Business • 5a. The Strategy of International Business • 5b. Discussion 4. Entering Foreign Markets • 6. Entering Foreign Markets • 7a. Entering Foreign Markets • 7b. Discussion 5. Global Production, Outsourcing, and Logistics • 8. Global Production, Outsourcing, and Logistics • 9a. Global Production, Outsourcing, and Logistics • 9b. Discussion 6. Global Marketing and R&D • 10. Global Marketing and R&D 7. Global Human Resource Management • 11-12. Global Human Resource Management 8. Individual Presentations • 13. Individual Presentation (1) • 14. Individual Presentation (2)			
3. 履修上の注意 Enrollment Requirements: Students interested in enrolling in this course must attend the first class, which covers the course introduction. A TOEIC score of approximately 730 is recommended for registration.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Course Delivery: The course facilitator (lecturer) intends to deliver this course primarily through face-to-face (in-person) classes. However, all participants are advised to regularly check the Oh-o! Meiji System for updates regarding any changes in instructional delivery, as mandated by the university for all schools and graduate programs.			
5. 教科書 Course Textbook: International Business: Competing in the Global Marketplace (14th Edition, 2022) by Charles W. L. Hill, McGraw-Hill Education. • ISBN-13: 978-1265038540 Students can access this textbook online via the ProQuest Ebook Central platform provided by the Meiji University library. To do so, they must use their Meiji University ID number and password.			
6. 参考書 Additional Materials: Supplementary materials will be introduced in class as needed.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Communication: The course facilitator will communicate with students via email regarding class presentations, paper topics, and the evaluation of research papers.			
8. 成績評価の方法 Course Evaluation: Student performance will be assessed based on the following criteria: 1. Oral Presentations (50%) • Each student will deliver 5 to 6 oral reports on assigned textbook sections throughout the semester. • Presentations should be accompanied by a brief summary. 2. Case Report (40%) • Submit an English report (A4 size, 4-5 pages, 1200-1600 words). 3. Overall Class Participation (10%) • Includes active engagement in group discussions and class activities.			
9. その他 Engagement and Communication: Students are encouraged to openly share ideas and insights during classroom discussions and to ask any questions to enhance their understanding of the course content. The course facilitator can be reached at 2025fall.classes.sumi@gmail.com for any inquiries or assistance.			

科目ナンバー：(GB)MAN566E			
Human Resource Management B〔M〕 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】		許 佑 旭	
Credits: 2	Year: 3	Spring Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 International Human Resource Management is a module which provides students with insights into how an economic organisation's competitive advantages can be yielded from and maintained by the effective management of a firm's human resources in the international context. Key issues and contemporary problems associated with international HRM will be explored and discussed by using case studies since this postgraduate module targets students who have had several years of working experience or who have had a position in management. Case studies are deemed to be an effective method to employ as they not only serve as a platform for mutual learning amongst students in an educational setting, but they also enable students to apply theories/models learnt from the module and equip them with sound analytical skills which will have a significant impact on their future career. Course ILOs : 1. Understand the basic concept and theories in the field of international HRM. 2. Demonstrate the challenges associated with international HRM encountered by MNEs and offer sound advice. 3. Critically evaluate the advantages and disadvantages of HRM practices in different nations.			
2. 授業内容 1 & 2 Introduction to the module HRM in the global context: a brief review 3 & 4 The cultural context of IHRM The development of culture; the impact of culture on HRM; standardization and localization of HRM practices; the path to global status; control mechanisms. 5 & 6 Sourcing human resources for global markets: staffing, recruitment and selection. Approaches to staffing; transferring staff for international business activities; the roles of an expatriate; the roles of in-patriates; recruitment and selection of international managers; expatriate failure and success. 7 & 8 Group Presentation 9 & 10 International training, development and careers Pre-departure training programs; trends in international training and development; re-entry and career issues; the repatriation process. 11 & 12 International compensation/International industrial relations and the global institutional context Approaches to international compensation of expatriates; key issues in international industrial relations; trade unions and international industrial relations; the response of trade unions to MNEs; regional integration such as the EU. 13 & 14 International HRM and business ethics How does business ethics affect the practice of IHRM? 15 Final Presentation			
3. 履修上の注意 Participating in class discussions is crucial.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students should read the material and cases assigned.			
5. 教科書 Dowling, P. J., Festing, M. and Engle, A. D. (2013) International Human Resource Management, 6th edition. Hampshire: Cengage Learning EMEA.			
6. 参考書 Bailey, C., Mankin, D., Kelliher, C. and Garavan, T. (2018) Strategic Human Resource Management, 2nd edition. Oxford: Oxford University Press. Triana, M. (2017) Managing Diversity in Organizations: A Global Perspective. New York: Routledge. Further readings will also be announced in-class.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be offered either verbally or in a written form depending on the style of assignments.			
8. 成績評価の方法 In class participation: 30% Group project presentation: 20% Final presentation: 10% Final report: 40%			
9. その他			

科目ナンバー：(GB)MAN566E			
Family Business A〔M〕 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】		許 佑 旭	
Credits: 2	Year: 3	Spring Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 Family Businesses have been perceived as one of the vital players in the contemporary global market. These businesses are not restricted to small and medium-sized enterprises as the majority tends to assume. Today, approximately 40 percent of the large publicly traded businesses in the world are categorised as family-controlled firms. Moreover, many of them are renowned multinational companies. In this module, the focus is upon certain essential issues including the definition of the family business, the models of the family business, the major characteristics of the family business, family firms and CSR, and the challenges family firms may encounter. Multiple cases will be used. Course ILOs : 1. Understand the essential concepts and theories of family firms. 2. Critically evaluate the challenges faced by owners of family firms. 3. Identify the problems associated with family firms and offer sound advice.			
2. 授業内容 1 Introduction 2 & 3 Defining the family business The distinction between family and non-family firms; family control; circle models of family influence; advantages of circle models; disadvantages of circle models; family firm identity. 4 & 5 Prevalence and economic contribution of family firms/Strengths and weaknesses of family firms Economic contribution of family firms. Institutional setting and the prevalence of family firms; typical strengths and weaknesses of family firms. 6 & 7 Governance in the family business Traditional governance mechanisms in family firms; typical governance constellations in family firms. 8 & 9 Group project presentation 10 & 11 Key theory: a brief review Socioemotional wealth (SEW) ; the agency perspective; the resource-based perspective. 12 & 13 Succession in the family business Succession options. Intra-family succession; planning the transition of responsibilities. 14 & 15 Relationship and conflict in the family business/ Final Presentation The social structure of the family; types of conflict; conflict management styles.			
3. 履修上の注意			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students should read the material and cases assigned.			
5. 教科書 Zellweger, T. (2017) Managing the Family Business: Theory and Practice. Edward Elgar Publishing (e-book)			
6. 参考書 Colli, A. (2003) The History of Family Business, 1850-2000. Cambridge: Cambridge University Press. Poza, E.J. (2009) Family Business, 3rd edition. Ohio: South-Western College Publisher. Kenyon-Rouvinez, D. and Ward, J. (2005) Family Business Key Issues. Hampshire/New York: Palgrave MacMillan. Further reading will be announced in-class.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be offered either verbally or in a written form depending upon the style of assignments.			
8. 成績評価の方法 In-class participation: 40% Presentation: 10% Group project presentation: 10% Final report: 40%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)CMM516E			
International Marketing A [M] 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】		CHANG CHIAO-YUN	
Credits: 2	Year: 3	Spring Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 This course is designed to explore key issues and current debates in the field of International Marketing. The main purpose of the module is to reflect both the theory and the application of the subject studied through the use of textbooks, case studies and journal articles. The module is structured as follows: (i) Theoretical concepts in the discipline of international marketing and the importance of how to think globally in business will be discussed. (ii) The impact of political, legal, economic and cultural factors on marketing activities across countries will be investigated. (iii) Students will learn to analyze marketing plans and consumer product strategy at the global level via case studies. To complete the module successfully, attendance at all classes is advised. Students are also expected to work independently, undertake any required background reading or practice exercises, and actively participate in discussions or small group work. Upon completion of this International Marketing module, students will be able to: • Understand how the basic principles of marketing are applied in a variety of diverse cultural, political, legal and economic environments. • Be able to analyze foreign markets to determine their overall export potential. • Be able to explain the various methods of entering foreign markets, the degree of commitment required and the associated levels of risk. • Understand the concepts of product life cycle and the classification of goods and their importance for foreign market acceptance, product adaptation and overall marketing strategy decision making. • Apply basic and advanced marketing concepts to develop integrated marketing plans in global markets.			
2. 授業内容 ***Please note that this course is provided as an online Media-based course. All the courses will be delivered via Zoom and students are required to attend the class every week.*** Session 1 Introduction of the module Preview: syllabus Session 2 Globalization Preview: Chapter 1. Review: Chapter 1. Session 3 Economic Environment Preview: Chapter 2. Review: Chapter 2. Session 4 Financial Environment Preview: Chapter 3. Review: Chapter 3. Session 5 Global Cultural Environment and Buying Behavior I Preview: Chapter 4. Review: Preparing for Individual Presentation Session 6 Global Cultural Environment and Buying Behavior II Preview: Chapter 4. Review: Prepare for Individual Presentation Session 7 Political and Legal Environment Preview: Chapter 5. Review: Chapter 5 Session 8 Mid-term Presentation Session 9 Global Segmentation and Positioning Preview: Chapter 7. Review: Chapter 7. Session 10 Global Marketing Strategies Preview: Chapter 8. Session 11 Global Market Entry Strategies Preview: Chapter 9. Review: Chapter 9. Session 12 Case Study Preview: Case Review: Assignment Session 13 Case Study Preview: Case Review: Assignment Session 14 Final Presentation			
3. 履修上の注意 English is the language used in this module. All activities, including lectures, seminars, tutorials, presentations, essays and examinations, are carried out in the medium of English.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Passive learning is to be avoided in the module. Students are encouraged to preview and review material before and after each lecture in order to prepare themselves for class discussions. The aim is not only to equip students with a good degree of understanding of the subject, but also to help them to establish certain skills that can be applied to their future careers.			
5. 教科書 Kotabe, Masaaki and Helsen, Kristiaan (2023), Global Marketing Management, 9th Edition, New York: John Wiley and Sons. *Students are able to download the ebook from our library.			
6. 参考書 1. Jagdish, Bhagwati (2005), "The Globalization Guru," Finance & Development, 42, September 2005: 4-7 (Available at http://www.imf.org/external/pubs/ft/fandd/2005/09/people.htm) 2. Gwynne, Peter (2003), "The Myth of Globalization?" Sloan Management Review, 44: 11 (Available at https://sloanreview.mit.edu/article/global-business-the-myth-of-globalization/) 3. van Iersum, Koert, and Wong, Nancy (2010), "The Lexus or the Olive Tree? Trading off between Global Convergence and Local Divergence," International Journal of Research in Marketing, 27(2), pp. 107-118. 4. Hofstede, Geert (2011), "Dimensionalizing Cultures: The Hofstede Model in Context," Online Readings in Psychology and Culture, 2(1), https://doi.org/10.9707/2307-0919.1014 5. Hofstede, Geert, Jan and Minkov, Michael (2010), Cultures and Organizations: Intercultural Cooperation and Its Importance for Survival, New York, McGraw-Hill, (Available at http://testrain.info/download/Software%20of%20mind.pdf) 6. V. Kumar (2014), "Understanding Cultural Differences in Innovation: A Conceptual Framework and Future Research Directions," Journal of International Marketing, 22(3), pp. 1-29. 7. Schwartz, Shalom H. (2012), "An Overview of the Schwartz Theory of Basic Values," Online Readings in Psychology and Culture, 2(1), https://doi.org/10.9707/2307-0919.1116 8. Dentsu Conducts Sustainable Lifestyle Receptivity Survey in 14 Countries, Finds "Sustainablists" "People Inclined to Sustainable Lifestyles- Emerging in Growing Markets (Available at http://www.dentsu.com/news/release/pdf-cms/2011064-0607.pdf) 9. Laurent, Andr�� (1990), "A Cultural View of Organizational Change," In: Evans P., Doz Y., Laurent A. (Eds), Human Resource Management in International Firms. Palgrave Macmillan, London. https://doi.org/10.1007/978-1-349-11255-5_5			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be provided via a verbal or written form. Students may be expected to have a face-to-face meeting after class.			
8. 成績評価の方法 Class Discussion (30%) Presentation X2 (30%) Case Study X2 (40%)			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)CMM516E			
International Marketing B [M] 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】		CHANG CHIAO-YUN	
Credits: 2	Year: 3	Fall Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 This course is designed to explore key issues and current debates in the field of International Marketing. The main purpose of the module is to reflect both the theory and the application of the subject studied through the use of textbooks, case studies and journal articles. The module is structured as follows: (i) Theoretical concepts in the discipline of international marketing and the importance of how to think globally in business will be discussed. (ii) The impact of political, legal, economic and cultural factors on marketing activities across countries will be investigated. (iii) Students will learn to analyze marketing plans and consumer product strategy at the global level via case studies. To complete the module successfully, attendance at all classes is advised. Students are also expected to work independently, undertake any required background reading or practice exercises, and actively participate in discussions or small group work. Upon completion of this International Marketing module, students will be able to: • Understand how the basic principles of marketing are applied in a variety of diverse cultural, political, legal and economic environments. • Be able to analyze foreign markets to determine their overall export potential. • Be able to explain the various methods of entering foreign markets, the degree of commitment required and the associated levels of risk. • Understand the concepts of product life cycle and the classification of goods and their importance for foreign market acceptance, product adaptation and overall marketing strategy decision making. • Apply basic and advanced marketing concepts to develop integrated marketing plans in global markets.			
2. 授業内容 ***Please note that this course is provided as an online Media-based course. All the courses will be delivered via Zoom and students are required to attend the class every week.*** Session 1 Global Marketing Strategy Preview: Mini case Session 2 Global Market Entry Strategies Preview: Chapter 9. Session 3 Case Study Preview: Case Review: Assignment Session 4 Global Product Policy Decisions Preview: Chapter 10. Review: Chapter 10. Session 5 Global Pricing Preview: Chapter 12. Review: Chapter 12. Session 6 Case Study Preview: Case Review: Assignment Session 7 Communicating with the World Consumer Preview: Chapter 13. Review: Preparing for Individual Presentation Session 8 Mid-term Presentation Session 9 Global Logistics and Distribution Preview: Data collection: Ever Given Review: Chapter 15. Session 10 Individual Presentation Session 11 Export/Import Management Preview: Incoterms 2010 Review: Chapter 16. Session 12 Planning Organization, and Control of Global Marketing Operations Preview: Chapter 17. Review: Chapter 17. Session 13 Marketing in Emerging Markets Preview: Chapter 18. Review: Chapter 18. Session 14 Global Marketing and the Internet Preview: Chapter 19. Review: Chapter 19.			
3. 履修上の注意 English is the language used in this module. All activities, including lectures, seminars, tutorials, presentations, essays and examinations, are carried out in the medium of English.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Passive learning is to be avoided in the module. Students are encouraged to preview and review material before and after each lecture in order to prepare themselves for class discussions. The aim is not only to equip students with a good degree of understanding of the subject, but also to help them to establish certain skills that can be applied to their future careers.			
5. 教科書 Kotabe, Masaaki and Helsen, Kristiaan (2023), Global Marketing Management, 9th Edition, New York: John Wiley and Sons.			
6. 参考書 1. Craig, C. Samuel and Douglas, Susan P. (2005), International Marketing Research, 3rd Edition, Chichester, John Wiley and Sons. (Available at https://eclasaueb.gr/modules/document/file.php/ME231/Books/C. %20Samuel %20Craig. %20Susan %20P. %20Douglas %20International %20Marketing%20Research.pdf) 2. Hassant, Salan and Katsanis, Lea Prevel (1991), "Identification of Global Consumer Segments: A Behavioral Framework," Journal of International Consumer Marketing, 3(2), pp. 11-28. (Available at https://www.researchgate.net/publication/292831911_Identification_of_Global_Consumer_Segments_A_Behavioral_Framework_Journal_of_International_Consumer_Marketing_Vol_3_No_2_1991_pp_11-28_with_L_Katsanis) 3. Kale, Sudhir H. (1995), "Grouping Euroconsumers: A Culture-Based Clustering Approach," Journal of International Marketing, 3(3), pp. 35-48 4. Oburati, Prathap and Baker, Michael (2005), "International Marketing Strategies in India: An Application of Mixed Method Investigation," Vikalpa The Journal for Decision Makers, 30(4), pp. 11-23. 5. The Global Marketing Handbook (Available at http://read.prclt.com/percolate-global-marketing-strategy-handbook.pdf) 6. Lasserre, Philippe (1995), "Corporate Strategies for the Asia Pacific Region," Long Range Planning, 28(1), pp. 18-30. 7. Schutte, Hellmut (1995), "Henkel's Strategy for Asia Pacific," Long Range Planning, 28(1), pp. 95-103. 8. Tihanyi, Laszlo, Griffith, David A. and Russell, Craig J. (2005), "The Effect of Cultural Distance on Entry Mode Choice, International Diversification and MNE Performance: A Meta-Analysis," Journal of International Business Studies, 36(3), pp. 270-283.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be provide in either a verbal or written form.			
8. 成績評価の方法 Class Discussion (30%) Presentation (30%) Case Study X2 (40%)			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)CMM516E			
Service Marketing A〔M〕 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】		CHANG CHIAO-YUN	
Credits: 2	Year: 3	Spring Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 The rapid growth of the service industry has generated a significant number of job opportunities. As many graduates may seek jobs in the service industry, it is vital for students to acquire knowledge of this new field in addition to the traditional product-based models of marketing. Indeed, services marketing, which was once a small academic field, has become a thriving area of activity with equally flourishing research effort in both academia and business. This module aims, via attendance at lectures and case analysis seminars, to enable students to examine theoretical concepts surrounding service marketing and to be able to apply those concepts to a variety of service marketing situations. The unique nature of service marketing will be investigated with particular emphasis given to the service industry where customers are present at the site of production. To complete the module successfully, attendance at all classes is advised. Students are also expected to work independently, undertaken any required background reading or practice exercises, and actively participate in discussions or small group work. Learning Goals Upon completion of this Services Marketing module, students will be able to: • how customer behavior and expectations play a role in the service environment • key considerations in selling and marketing services • branding, promoting and positioning of services • the complexities of managing demand and capacity in service organizations • distribution and pricing considerations • how to build customer loyalty and assess customer lifetime value • the importance of workforce development and organizational culture in delivering quality • customer research and survey design methods			
2. 授業内容 ***Please note that this course is provided as an online Media-based course. All the courses will be delivered via Zoom and students are required to attend the class every week.*** Session 1 Introduction of the module Preview: syllabus Session 2 Introduction to Services Preview: Chapter 1. Review: Chapter 1. Session 3 The Gap Model of Service Quality I Preview: Chapter 2. Review: Chapter 2. Session 4 The Gap Model of Service Quality II Preview: Chapter 2. Session 5 Customer Expectations of Service Preview: Chapter 3. Review: Chapter 3. Session 6 Case Study Preview: Case Review: Assignment Session 7 Customer Perception of Service Preview: Chapter 4. Review: Chapter 4. Session 8 Listening to Customers through Research Preview: Chapter 5. Session 9 Individual Presentation Session 10 Build Customer Relationships Preview: Chapter 6. Review: Chapter 6. Session 11 Case Study Preview: Case Review: Assignment Session 12 Service Recovery Preview: Chapter 7. Review: Chapter 7. Session 13 Case Study Preview: Case Review: Assignment Session 14 Wrap-up and Quiz			
3. 履修上の注意 English is the language used in this module. All activities, including lectures, seminars, tutorials, presentations, essays and examinations, are carried out in the medium of English.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Passive learning is to be avoided in the module. Students are encouraged to preview and review material before and after each lecture in order to prepare themselves for class discussions. The aim is not only to equip students with a good degree of understanding of the subject, but also to help them to establish certain skills that can be applied to their future careers.			
5. 教科書 Zeithaml, Valarie A., Bitner Mary Jo and Gremler, Dwayne D. (2023), Services Marketing: Integrating Customer Focus Across the Firm, 8th Edition, McGraw-Hill.			
6. 参考書 1. Levitt, T., (1981), "Marketing Intangible Products and Product Intangibles", Harvard Business Review, May/June, pp. 94-102. 2. Lovelock, C.H., (1983), "Classifying Services to Gain Strategic Marketing Insights", Journal of Marketing, Vol. 47, Summer, pp. 9-20. 3. Shostack, L.G., (1977), "Breaking Free from Product Marketing", Journal of Marketing, Vol. 41, April, pp. 73-80. 4. Zeithaml, V.A., Parasuraman, A. and Berry, L., (1985), "Problems and Strategies in Services Marketing", Journal of Marketing, Vol. 49, Spring, pp. 33-46. 5. Evert Gummesson, 'Lip Service - A Neglected Area in Services Marketing', Journal of Services Marketing, No. 1, 1987, p. 22 6. Javier Reynoso, 'The Evolution of Services Management in Developing Countries: Insights from Latin America', in Tony Meenaghan (ed.), New and Evolving Paradigms: The Emerging Future of Marketing, Dublin: American Marketing Association and University College Dublin, 1997, pp. 112-21 (published on CD-ROM). 7. Light in the Shadows: So Nothing is Uncertain except Death and Taxes? Look at the Growth of the Underground Economy and Think Again about Taxes', The Economist, 3 May 1997. 8. Regis McKenna, Real Time, Boston: Harvard Business School Press, 1997.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be provide in either a verbal or written form.			
8. 成績評価の方法 Class Discussion (20%) Presentation (20%) Case Study X3 (60%)			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)CMM516E			
Service Marketing B〔M〕 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】		CHANG CHIAO-YUN	
Credits: 2	Year: 3	Fall Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 The rapid growth of the service industry has generated a significant number of job opportunities. As many graduates may seek jobs in the service industry, it is vital for students to acquire knowledge of this new field in addition to the traditional product-based models of marketing. Indeed, services marketing, which was once a small academic field, has become a thriving area of activity with equally flourishing research effort in both academia and business. This module aims, via attendance at lectures and case analysis seminars, to enable students to examine theoretical concepts surrounding service marketing and to be able to apply those concepts to a variety of service marketing situations. The unique nature of service marketing will be investigated with particular emphasis given to the service industry where customers are present at the site of production. To complete the module successfully, attendance at all classes is advised. Students are also expected to work independently, undertaken any required background reading or practice exercises, and actively participate in discussions or small group work. Learning Goals Upon completion of this Services Marketing module, students will be able to: • how customer behavior and expectations play a role in the service environment • key considerations in selling and marketing services • branding, promoting and positioning of services • the complexities of managing demand and capacity in service organizations • distribution and pricing considerations • how to build customer loyalty and assess customer lifetime value • the importance of workforce development and organizational culture in delivering quality • customer research and survey design methods			
2. 授業内容 ***Please note that this course is provided as an online Media-based course. All the courses will be delivered via Zoom and students are required to attend the class every week.*** Session 1 Introduction of the module Preview: syllabus Session 2 Case Study Preview: Case Review: Assignment Session 3 Service Innovation and Design Preview: Chapter 8. Review: Chapter 8. Session 4 Customer-Defined Service Standards Preview: Chapter 9. Review: Chapter 9. Session 5 Physical Evidence and the Servicescape Preview: Chapter 10. Review: Chapter 10. Session 6 Employees' Role in Service Delivery Preview: Chapter 11. Review: Chapter 11. Session 7 Customers' Role in Service Delivery Preview: Chapter 12. Review: Chapter 12. Session 8 Delivering Service Through Intermediaries and Electronic Channels Preview: Handouts Session 9 Managing Demand and Capacity Preview: Chapter 13. Review: Chapter 13. Session 10 Integrated Services Marketing Communications Preview: Chapter 14. Review: Chapter 14. Session 11 Pricing of Services Preview: Chapter 15. Review: Chapter 15. Session 12 The Financial and Economic Impact of Service Preview: Chapter 16. Review: Chapter 16. Session 13 Case Study Preview: Case Review: Assignment Session 14 Wrap-up and Final Evaluation			
3. 履修上の注意 English is the language used in this module. All activities, including lectures, seminars, tutorials, presentations, essays and examinations, are carried out in the medium of English.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Passive learning is to be avoided in the module. Students are encouraged to preview and review material before and after each lecture in order to prepare themselves for class discussions. The aim is not only to equip students with a good degree of understanding of the subject, but also to help them to establish certain skills that can be applied to their future careers.			
5. 教科書 Zeithaml, Valarie A., Bitner Mary Jo and Gremler, Dwayne D. (2023), Services Marketing: Integrating Customer Focus Across the Firm, 8th Edition, McGraw-Hill.			
6. 参考書 1. Leonard I. Berry, 'Services Marketing is Different', Business, May-June 1980. 2. W. Earl Sasser, R. Paul Olsen and D. Daryl Wyckoff, Management of Service Operations: Text, Cases, and Readings, Boston: Allyn & Bacon, 1978. 3. G. Lynn Shostack, 'Breaking Free from Product Marketing', Journal of Marketing, April 1977. 4. Bonnie Farber Canziani, 'Leveraging Customer Competency in Service Firms,' International Journal of Service Industry Management, Vol. 8, No. 1, 1997, pp. 5-25. 5. Curtis P. McLaughlin, 'Why Variation Reduction is Not Everything: A New Paradigm for Service Operations', International Journal of Service Industry Management, Vol. 7, No. 3, 1996, pp. 17-31. 6. This section is based on Valarie A. Zeithaml, 'How Consumer Evaluation Processes Differ between Goods and Services', in J.A. Donnelly and W.R. George, Marketing of Services, Chicago: American Marketing Association, 1981, pp. 186-90. 7. Christian Gronroos, 'From scientific management to service management', International Journal of Service Industry Management, Vol. 5, pp5-90. 8. The 4Ps classification of marketing decision variables was created by E. Jerome McCarthy, Basic Marketing: A Managerial Approach, Homewood, IL: Richard D. Irwin, Inc., 1960.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be provided in either a verbal or written form.			
8. 成績評価の方法 Class Discussion (30%) Final Evaluation (Presentation) (30%) Case Study X2 (40%)			
9. その他			

11 会計学科専門科目

科目ナンバー：(BA)ACC231J			
財務会計総論 A			石 津 寿 恵
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 授業形態は対面ですが、社会情勢による大学方針によりメディア授業で行う可能性もあります。 また、公務等の都合によりやむを得ずメディア授業を採り入れることもあり得ます。 <概要> 会計専門職を目指す者のみならず、社会人になるすべての人にとって、財務会計のスキルを身につけることは不可欠です。本講では財務会計の基礎的概念を多角的に学習するとともに、主要な財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書）の概要と構成要素のうち「流動資産」までについて学習します。 ★初学者を対象にした授業です。日商簿記2級以上を取得した学生は一定程度進んだ内容の別授業(メディア授業)を受講することが出来ます。希望者は、メディア授業のクラスウェブのアンケート機能にある「証明書類」のところから合格証を送ってください。期限は「履修本登録期間」です。期限が過ぎるとメディア授業の登録はできません。 <到達目標> 初学者が会計の基礎を学ぶことにより、後年次で学習する財務諸表論、国際会計論、会計基準論、会計監査論、税務会計論などの財務会計科目の基礎を習得することを目的とする。			
2. 授業内容 具体的な講義展開は下記のように予定しています。 (1) ガイダンスー財務会計を学ぶにあたって (2) 会計と会計理論 (3) 企業会計原則 (1) (4) 企業会計原則 (2) (5) 貸借対照表の概要 (6) 損益計算書の概要 (7) 財務諸表分析 (8) 中間まとめ (9) キャッシュ・フロー計算書の概要 (10) 流動資産①有価証券 (11) 流動資産②棚卸資産 (12) 流動資産③固定資産 (13) 減損 (14) まとめー春学期授業の振り返り ★項目は状況により変更することがあります。併せて、クラスウェブ「授業内容資料」欄の「タイムライン等」で確認してください。			
3. 履修上の注意 初学者を対象とした内容ですが、履修者は、日商簿記検定 3 級程度を理解していることが望ましいです。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論ⅠⅡや日商簿記検定 3 級などおさらいしておいてください。 授業はパワーポイントのスライドを用いて行います。テキストはありませんが、下記参考文献を読むことにより理解が容易になると思います。			
5. 教科書 特定のテキストは用いません。パワーポイントのスライドを用いて授業を行います、下記参考文献を読むことにより理解が容易になると思います。			
6. 参考書 平井克彦、石津寿恵 (2013)『損益計算と情報開示 (八訂版)』白桃書房。 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社。(2023年に24版が出ていますが、更に最新版が出ましたらそちらをご覧ください) 田中健二『財務会計入門』中央経済社。2021年に6版が出ていますが、更に最新版が出ましたらそちらをご覧ください 藤井秀樹『入門財務会計』中央経済社。2021年に4版が出ていますが、更に最新版が出ましたらそちらをご覧ください このほか、『会計法規集』(中央経済社)、『企業会計小六法』(中央経済社) いずれも最新版。 財務会計では、絶えず会計のルール(編注、規則、基準など)を確認しながら学習する姿勢を身に付ける姿勢が重要です。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業では、毎回クイズを取り入れます。答え合わせ・解説をしますので、内容理解の確認ができます。			
8. 成績評価の方法 平常点（授業中のクイズへの解答など）50％、授業時間内作成レポート15％、中間小テスト15％、最終テスト(クイズ)20％。 ※期末試験中のテストはありません。最終テストとは最終回に行うクイズ形式(クラスウェブ利用)のテストです。 社会情勢等により評価配分などが変更になることがあり得ます。変更があった場合は、早急にシラバスの補足でお知らせしますので、必ず確認してください。			
9. その他 上記授業内容は、履修生の理解程度等により変更することがあります。 また、社会情勢の変化による大学方針により、授業の進め方等に変更が生じる可能性もあります。変更点はクラスウェブでお知らせしますので、必ずチェックしてください。			

科目ナンバー：(BA)ACC236J			
財務会計総論 A〔M〕 【CAPクラス】			石 津 寿 恵
2 単位	1 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 ★日商簿記2級以上を取得した学生が、一定程度進んだ内容の授業を受講するためのものです。希望者は、クラスウェブのアンケート機能にある「証明書類」のところから合格証を送ってください。期限は「履修本登録期間」です。期限が過ぎるとこのメディア授業の登録はできません。対面授業による財務会計総論を履修するようにしてください。 授業はメディアで行います。 <概要> 会計専門職を目指す者には勿論のこと、企業人になろうとするすべての人にとって、財務会計のスキルを身につけることは不可欠です。本講では財務会計の基礎的概念を多角的に学習するとともに、主要な財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書）の概要と構成要素のうち「流動資産」までについて学習します。 この授業は日商 2 級以上を取得した学生が履修します。したがって基礎的内容ですが、例題等は日商 2 級程度の内容を含みます。 <到達目標> 本講は後年次で学習する財務諸表論、国際会計論、会計基準論、会計監査論、税務会計論などの財務会計科目の基礎を習得することを目的とする。			
2. 授業内容 具体的な講義展開は下記のとおりである。 (1) 財務会計を学ぶにあたって〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (2) 財務会計の目的、方法論〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (3) 企業会計と関係法規〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (4) 企業会計原則（真実性の原則から明瞭性の原則）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (5) 企業会計原則（継続性の原則から単一性の原則）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (6) レポート作成・提出〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (7) 貸借対照表の概要〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (8) 損益計算書の概要〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (9) キャッシュ・フロー計算書の概要〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (10) 流動資産①営業債権〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (11) 流動資産②棚卸資産〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (12) 流動資産③金融商品〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 日商簿記検定2級以上に合格した学生が履修する授業です。クラスウェブのアンケート機能にある「証明書類」のところから合格証を送ってください。期限は「履修本登録期間」です。期限が過ぎるとこのメディア授業の登録はできません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 日商簿記検定2級レベルを復習しておいてください。 テキストは指定しません。授業はパワーポイントのスライドで行います。ただし、下記の参考書是非併せて学習してください。理解が深まります。			
5. 教科書 指定しません。授業はパワーポイントのスライドで行います。ただし、下記の参考書是非併せて学習してください。理解が深まります。			
6. 参考書 平井克彦、石津寿恵 (2013)『損益計算と情報開示 (八訂版)』白桃書房。 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社。(2023年に24版が出ていますが、更に最新版が出ましたらそちらをご覧ください) 田中健二『財務会計入門』中央経済社。2021年に6版が出ていますが、更に最新版が出ましたらそちらをご覧ください 藤井秀樹『入門財務会計』中央経済社。2021年に4版が出ていますが、更に最新版が出ましたらそちらをご覧ください このほか、『会計法規集』(中央経済社)、『企業会計小六法』(中央経済社) いずれも最新版。 財務会計では、絶えず会計のルール(編注、規則、基準など)を確認しながら学習する姿勢を身に付ける姿勢が重要です。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回小テスト機能によるクイズを行います。解答を公開しますので、理解度を確かめながら受講することが出来ます。			
8. 成績評価の方法 毎回の、コンテンツ終了時の小テスト50％ 授業時間内に作成するレポート30％ 最終回のまとめのクイズ20％ ★期末テストは行いません。 社会情勢等により変更が生じた場合は、早急にシラバスの補足でお知らせしますので、必ず確認してください。			
9. その他 上記「授業内容」は、履修生の理解程度等(小テストの正解具合など)により変更することがあります。 また、社会情勢により、授業の進め方等に変更が生じる可能性もあります。変更点はクラスウェブでお知らせしますので、必ずチェックしてください。			

科目ナンバー：(BA)ACC231J			
財務会計総論B			石 津 寿 恵
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 授業形態は対面ですが、社会情勢による大学方針によりメディア授業で行う可能性もあります。 また、公務等の都合によりやむを得ずメディア授業を採り入れることもあり得ます。 〈概要〉 会計専門職を目指す者のみならず、社会人になるすべての人にとって、財務会計のスキルを身につけることは不可欠です。本講では財務会計の基礎的概念を多角的に学習するとともに、主要な財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書）の概要と構成要素のうち「流動資産」までについて学習します。 ★初学者を対象にした授業です。日商簿記2級以上を取得した学生は一定程度進んだ内容の別授業(メディア授業)を受講することが出来ます。希望者は、メディア授業のクラスウェブのアンケート機能にある「証明書類」のところから合格証を送ってください。期限は「履修本登録期間」です。期限が過ぎるとメディア授業の登録はできません。 〈到達目標〉 初学者が会計の基礎を学ぶことにより、後年次で学習する財務諸表論、国際会計論、会計基準論、会計監査論、税務会計論などの財務会計科目の基礎を習得することを目的とする。			
2. 授業内容 具体的な講義展開は下記のとおりである。 (1) 固定資産①有形固定資産 (2) 固定資産②減損会計 (3) 固定資産③無形固定資産 (4) 繰延資産 (5) 負債 (6) 引当金 (7) 中間テスト (8) 純資産 (9) 収益の認識方法 (10) 費用の認識方法 (11) 連結会計（連結貸借対照表） (12) 連結会計（連結損益計算書） (13) 税務会計、税効果会計 (14) 外貨換算会計			
3. 履修上の注意 初学者を対象とした内容ですが、履修者は、日商簿記検定3級程度を理解していることが望ましいです。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論Ⅱや日商簿記検定3級などおさらいしておいてください。 授業はパワーポイントのスライドを用いて行います。テキストはありませんが、下記参考文献を読むことにより理解が容易になると思います。			
5. 教科書 特定のテキストは用いません。パワーポイントのスライドを用いて授業を行います。下記参考文献を読むことにより理解が容易になると思います。			
6. 参考書 平井克彦、石津寿恵（2013）『損益計算と情報開示（八訂版）』白桃書房。 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社。（2023年に24版が出ていますが、更に最新版が出ましたらそちらをご覧ください） 田中健二『財務会計入門』中央経済社。2021年に6版が出ていますが、更に最新版が出ましたらそちらをご覧ください 藤井秀樹『入門財務会計』中央経済社。2021年に4版が出ていますが、更に最新版が出ましたらそちらをご覧ください このほか、『会計法規集』（中央経済社）、『企業会計小六法』（中央経済社）いずれも最新版。 財務会計では、絶えず会計のルール(堀津、規則、基準など)を確認しながら学習する姿勢を身に付ける姿勢が重要です。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中のクイズは、解答・解説を行いますので、各自理解度を確認することが出来ます。			
8. 成績評価の方法 平常点（授業中のクイズへの解答など）50％、授業時間内作成レポート15％、中間小テスト15％、最終テスト(クイズ)20％。 ※期末試験中のテストはありません。最終テストとは最終回に行うクイズ形式(クラスウェブ利用)のテストです。 社会情勢等により評価配分などが変更になることがあり得ます。変更があった場合は、早急にシラバスの補足でお知らせしますので、必ず確認してください。			
9. その他 変更点は、適宜「シラバスの捕捉」でお知らせします。			

科目ナンバー：(BA)ACC236J			
財務会計総論B〔M〕 【CAPクラス】			石 津 寿 恵
2 単位	1 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 ★日商簿記2級以上を取得した学生が、一定程度進んだ内容の授業を受講するためのものです。希望者は、クラスウェブのアンケート機能にある「証明書類」のところから合格証を送ってください。期限は「履修本登録期間」です。期限が過ぎるとこのメディア授業の登録はできません。対面授業による財務会計総論を履修するようにしてください。 授業はメディアで行います。 〈概要〉 会計専門職を目指す者には勿論のこと、企業人になろうとするすべての人にとって、財務会計のスキルを身につけることは不可欠です。本講では財務会計の基礎的概念を多角的に学習するとともに、主要な財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書）の概要と構成要素のうち「流動資産」までについて学習します。 この授業は日商2級以上を取得した学生が履修します。したがって基礎的内容ですが、例題等は日商2級程度の内容を含みます。 〈到達目標〉 本講は後年次で学習する財務諸表論、国際会計論、会計基準論、会計監査論、税務会計論などの財務会計科目の基礎を習得することを目的とする。			
2. 授業内容 具体的な講義展開は下記のとおりである。 (1) 固定資産①有形固定資産〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (2) 固定資産②減損会計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (3) 固定資産③無形固定資産〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (4) 繰延資産〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (5) 負債〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (6) 引当金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (7) 中間テスト〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (8) 純資産〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (9) 収益の認識方法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (10) 費用の認識方法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (11) 連結会計（連結貸借対照表）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (12) 連結会計（連結損益計算書）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (13) 税務会計、税効果会計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 (14) 外貨換算会計〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 日商簿記検定2級以上に合格した学生が履修する授業です。クラスウェブのアンケート機能にある「証明書類」のところから合格証を送ってください。期限は「履修本登録期間」です。期限が過ぎるとこのメディア授業の登録はできません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 日商簿記検定2級レベルを復習しておいてください。 テキストは指定しません。授業はパワーポイントのスライドで行います。ただし、下記の参考書是非併せて学習してください。理解が深まります。			
5. 教科書 指定しません。授業はパワーポイントのスライドで行います。ただし、下記の参考書是非併せて学習してください。理解が深まります。			
6. 参考書 平井克彦、石津寿恵（2013）『損益計算と情報開示（八訂版）』白桃書房。 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社。（2023年に24版が出ていますが、更に最新版が出ましたらそちらをご覧ください） 田中健二『財務会計入門』中央経済社。2021年に6版が出ていますが、更に最新版が出ましたらそちらをご覧ください 藤井秀樹『入門財務会計』中央経済社。2021年に4版が出ていますが、更に最新版が出ましたらそちらをご覧ください このほか、『会計法規集』（中央経済社）、『企業会計小六法』（中央経済社）いずれも最新版。 財務会計では、絶えず会計のルール(堀津、規則、基準など)を確認しながら学習する姿勢を身に付ける姿勢が重要です。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回小テスト機能によるクイズを行います。解答を公開しますので、理解度を確かめながら受講することが出来ます。			
8. 成績評価の方法 毎回の、コンテンツ終了時の小テスト50％ 授業時間内に作成するレポート30％ 最終回のまとめのクイズ20％ ★期末テストは行いません。 社会情勢等により変更が生じた場合は、早急にシラバスの補足でお知らせしますので、必ず確認してください。			
9. その他 社会情勢等により変更が生じた場合は、早急にシラバスの補足でお知らせしますので、必ず確認してください。			

科目ナンバー：(BA)ACC246J			
管理会計総論 A〔M〕		大槻 晴海	
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この授業では、管理会計の基礎的な概念や仕組みなどを学びます。 管理会計は、企業（またはその他の組織体）を経営・管理する経営管理者が、意思決定や業績管理、業務管理などを行う際に役立つ財務的・非財務的情報を提供することを目的とする会計です。 現代では、いかなる組織のメンバーにも、組織内部で用いられる言語としての管理会計情報を理解でき、それにより業務上の様々な問題を特定でき、その問題を解決でき、そして関係者同士でコミュニケーションできる能力が求められています。 将来、企業人として活躍するにせよ、会計専門職（公認会計士や税理士など）やコンサルタントとして活躍するにせよ、あるいは非営利組織（学校、病院、行政機関、NPOやNGOなど）の職員として活躍するにせよ、組織体の運営に携わる者またはその一員にとって、管理会計に関する知識やその実践能力を身につけることは、いまや必須とされてきています。 この授業では、管理会計の中でも、組織体（主として企業）において日々繰り返される業務の管理とその業績の把握にかかわる「業績管理会計」についての理解を深めていきます。 〈到達目標〉 次のような管理会計に関する基礎的な知識や基本的な考え方の修得が目標です。 ・利益計画、予算管理、原価管理について学び、そこで用いられる「業績管理会計」情報を組織内部の言語として理解し利用できる。 ・必要とあれば自らそのような管理会計情報を適切な技法により作成し活用できる。 ・将来の管理会計の発展・変化にも柔軟に対応できる。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション〔対面授業〕 第2回：管理会計の特徴と体系〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：利益管理の意義〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：経営分析のグループワーク〔対面授業〕 第5回：短期利益計画（1）：CVP分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：短期利益計画（2）：直接原価計算〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：短期利益計画のグループワーク〔対面授業〕 第8回：予算管理（1）：予算編成〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：予算管理（2）：予算統制〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：予算管理のグループワーク〔対面授業〕 第11回：原価管理（1）：原価標準の設定〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：原価管理（2）：原価差異分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：原価管理のグループワーク〔対面授業〕 第14回：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ※ 授業の進捗状況等により変更が生じる場合があります。			
3. 履修上の注意 ・この授業はメディア授業科目として開講されます。ただし、授業は講義動画をOh-o!Meijiシステムを通じて配信するオンデマンド型の講義回とグループに分かれて課題に取り組む対面型のグループワーク回からなります。 ・Oh-o!Meijiクラスウェブに、お知らせ、授業資料、講義動画、小レポート（「振り返りシート」）、小テスト（「確認テスト」）、アンケート（「グループワークの評価」）などを掲載しますので、必ず確認してください。 ・講義回では原則として水曜日にOh-o!Meijiシステムを通じて講義動画を配信し、当該学期中の視聴を可能とします。なお、講義動画について、「振り返りシート」の提出と「確認テスト」の実施を求め、出席確認と理解度確認を行います。 ・グループワーク回では出席が必要です（ノートPCを持参できることが望ましい）。また、場合により、授業時間外にグループで課題などに取り組む必要が生じることがあります。 なお、グループワークについて、「振り返りシート」および「グループワークの評価」の提出と「グループワーク成果発表動画」の制作・提出を求め、出席確認と理解度確認を行います。 ・Oh-o!Meijiクラスウェブのディスカッション機能または対面授業を活用し、学生同士および教員との意見交換の場を設けます。また、教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知します。 ※ 詳細は第1回のイントロダクション〔対面授業〕で説明しますので必ず出席してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・授業前に授業資料・テキスト・参考書を読んで、管理会計に関する自らの知識・スキルおよび疑問点を明確にしておいてください。 ・授業後に「振り返りシート」の作成と「確認テスト」への解答または「グループワーク成果発表動画」の制作に取り組み、授業内容の理解度を確認してください。			
5. 教科書 『原価・管理会計の基礎』山田庫平・吉村聡・飯島康道・大槻晴海編著（中央経済社）			
6. 参考書 ・『管理会計（マネジメント・アカウンティング）―業績管理会計と意思決定会計』崎 章浩 編著（学文社） ・『会計による経営管理』村田直樹・相川奈美編著（税務経理協会） ・『花王の経理パーソンになる』吉田栄介・花王株式会社会計財務部門（中央経済社） ・『基本原価計算用語辞典』山田庫平編著（白桃書房） ・『経営管理会計ハンドブック』山田庫平・崎 章浩・吉村 聡編著（東京経済情報出版）※図書館に所蔵 その他必要に応じて授業の中で紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meijiクラスウェブでフィードバックします。			
8. 成績評価の方法 「振り返りシート」（20%）、「確認テスト」または「グループワークの評価」・「グループワーク成果発表動画」（20%）、定期試験（60%） ※ 対面形式の定期試験を行います。			
9. その他 管理会計は企業などの組織体の経営活動と密接に関連しています。理論を具体的に理解できるように、日頃から経営・経済関連のTV番組、ニュース、新聞記事、雑誌記事、書籍などに目を通すよう心掛けてください。 また、日常生活に潜む「管理会計的なもの」を見つけて出す癖をつけてください。			

科目ナンバー：(BA)ACC246J			
管理会計総論 A〔M〕 【CAPクラス】		大槻 晴海	
2 単位	1 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この授業では、管理会計の基礎的な概念や仕組みなどを学びます。 管理会計は、企業（またはその他の組織体）を経営・管理する経営管理者が、意思決定や業績管理、業務管理などを行う際に役立つ財務的・非財務的情報を提供することを目的とする会計です。 現代では、いかなる組織のメンバーにも、組織内部で用いられる言語としての管理会計情報を理解でき、それにより業務上の様々な問題を特定でき、その問題を解決でき、そして関係者同士でコミュニケーションできる能力が求められています。 将来、企業人として活躍するにせよ、会計専門職（公認会計士や税理士など）やコンサルタントとして活躍するにせよ、あるいは非営利組織（学校、病院、行政機関、NPOやNGOなど）の職員として活躍するにせよ、組織体の運営に携わる者またはその一員にとって、管理会計に関する知識やその実践能力を身につけることは、いまや必須とされてきています。 この授業では、管理会計の中でも、組織体（主として企業）において日々繰り返される業務の管理とその業績の把握にかかわる「業績管理会計」についての理解を深めていきます。 〈到達目標〉 次のような管理会計に関する基礎的な知識や基本的な考え方の修得が目標です。 ・利益計画、予算管理、原価管理について学び、そこで用いられる「業績管理会計」情報を組織内部の言語として理解し利用できる。 ・必要とあれば自らそのような管理会計情報を適切な技法により作成し活用できる。 ・将来の管理会計の発展・変化にも柔軟に対応できる。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回：管理会計の特徴と体系〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：利益管理の意義〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：経営分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：短期利益計画（1）：CVP分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：短期利益計画（2）：直接原価計算〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：短期利益計画（3）：短期利益計画の実際と課題〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回：予算管理（1）：予算編成〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：予算管理（2）：予算統制〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：予算管理（3）：予算管理の実際と課題〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：原価管理（1）：原価標準の設定〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：原価管理（2）：原価差異分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：原価管理（3）：原価管理の実際と課題〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ※ 授業の進捗状況等により変更が生じる場合があります。			
3. 履修上の注意 ・日商簿記検定2級以上に合格した学生が履修する授業です。クラスウェブのアンケート機能にある「証明書類」のところから合格証を送ってください。期限は「履修本登録期間」です。期限が過ぎるとこのメディア授業の登録はできません。 この授業はメディア授業科目として開講されます。授業はすべて、講義動画をOh-o!Meijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行います。 ・Oh-o!Meijiクラスウェブに、お知らせ、授業資料、講義動画、小レポート（「振り返りシート」）、小テスト（「確認テスト」）、アンケートなどを掲載しますので、必ず確認してください。 ・講義動画は原則毎週水曜日にOh-o!Meijiシステムを通じて配信し、当該学期中の視聴を可能とします。なお、毎回の講義動画について、「振り返りシート」の提出と「確認テスト」の実施を求め、出席確認と理解度確認を行います。 ・Oh-o!Meijiクラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設けます。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知します。 ※ 詳細は第1回のイントロダクションで説明しますので必ず視聴してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・授業前に授業資料・テキスト・参考書を読んで、管理会計に関する自らの知識・スキルおよび疑問点を明確にしておいてください。 ・授業後に「振り返りシート」の作成と「確認テスト」への解答に取り組み、授業内容の理解度を確認してください。			
5. 教科書 『原価・管理会計の基礎』山田庫平・吉村聡・飯島康道・大槻晴海編著（中央経済社）			
6. 参考書 ・『管理会計（マネジメント・アカウンティング）―業績管理会計と意思決定会計』崎 章浩 編著（学文社） ・『会計による経営管理』村田直樹・相川奈美編著（税務経理協会） ・『花王の経理パーソンになる』吉田栄介・花王株式会社会計財務部門（中央経済社） ・『基本原価計算用語辞典』山田庫平編著（白桃書房） ・『経営管理会計ハンドブック』山田庫平・崎 章浩・吉村 聡編著（東京経済情報出版）※図書館に所蔵 その他必要に応じて授業の中で紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meijiクラスウェブでフィードバックします。			
8. 成績評価の方法 「振り返りシート」（20%）、「確認テスト」（40%）、レポート（40%）			
9. その他 管理会計は企業などの組織体の経営活動と密接に関連しています。理論を具体的に理解できるように、日頃から経営・経済関連のTV番組、ニュース、新聞記事、雑誌記事、書籍などに目を通すよう心掛けてください。 また、日常生活に潜む「管理会計的なもの」を見つけて出す癖をつけてください。			

科目ナンバー：(BA)ACC246J			
管理会計総論B〔M〕		大槻 晴海	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ この授業では、管理会計の基礎的な概念や仕組みなどを学びます。 管理会計は、企業（またはその他の組織体）を経営・管理する経営管理者が、意思決定や業績管理、業務管理などを行う際に役立つ財務的・非財務的情報を提供することを目的とする会計です。 現代では、いかなる組織のメンバーにも、組織内部で用いられる言語としての管理会計情報を理解でき、それにより業務上の様々な問題を特定でき、その問題を解決でき、そして関係者同士でコミュニケーションできる能力が求められています。 将来、企業人として活躍するにせよ、会計専門職（公認会計士や税理士など）やコンサルタントとして活躍するにせよ、あるいは非営利組織（学校、病院、行政機関、NPOやNGOなど）の職員として活躍するにせよ、組織体の運営に携わる者またはその一員にとって、管理会計に関する知識やその実践能力を身につけることは、いまや必須とされてきています。 この授業では、組織体（主として企業）にとっての重要な局面でその都度行われる判断や決断にかかわる「意思決定会計」および経営戦略の形成・実現にかかわる「戦略管理会計」についての理解を深めていきます。 ＜到達目標＞ 次のような管理会計に関する基礎的な知識と基本的な考え方の修得が目標です。 ・意思決定会計について学び、そこで用いられる「意思決定会計」情報を組織内部の言語として理解し利用できる。 ・戦略管理会計について学び、そこで用いられる各種手法を理解し適用できる。 ・必要とあれば自ら管理会計情報を適切な技法により作成し活用できる。 ・将来の管理会計の発展・変化にも柔軟に対応できる。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション／経営管理の機能と管理会計〔対面授業〕 第2回：意思決定会計（1）：業務執行の意思決定〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：意思決定会計（2）：戦略的意思決定〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：企業環境の変化と戦略管理会計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：事業環境分析（1）：3C分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：事業環境分析（2）：ABC/ABM〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：事業環境分析のグループワーク〔対面授業〕 第8回：事業戦略の形成と実現：BSC〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：BSCのグループワーク（1）：ビジョンの設定と戦略の策定〔対面授業〕 第10回：BSCのグループワーク（2）：戦略マップとスコアカードの作成〔対面授業〕 第11回：戦略的成本・マネジメント：原価企画〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：原価企画のグループワーク（1）：商品コンセプトの作成と機能定義〔対面授業〕 第13回：原価企画のグループワーク（2）：価値の評価〔対面授業〕 第14回：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ※ 授業の進捗状況等により変更が生じる場合があります。			
3. 履修上の注意 ・この授業はメディア授業科目として開講されます。ただし、授業は講義動画をOh-o!Meijiシステムを通じて配信するオンデマンド型の講義回とグループに分かれて課題に取り組む対面型のグループワーク回からなります。 ・Oh-o!Meijiクラスウェブに、お知らせ、授業資料、講義動画、小レポート（「振り返りシート」）、小テスト（「確認テスト」）、アンケート（「グループワークの評価」）などを掲載しますので、必ず確認してください。 ・講義回では原則として水曜日にOh-o!Meijiシステムを通じて講義動画を配信し、当該学期中の視聴を可能とします。なお、講義動画について、「振り返りシート」の提出と「確認テスト」の実施を求め、出席確認と理解度確認を行います。 ・グループワーク回では出席が必要です（ノートPCを持参できることが望ましい）。また、場合により、授業時間外にグループで課題などに取り組む必要が生じることがあります。なお、グループワークについて、「振り返りシート」および「グループワークの評価」の提出と「グループワーク成果発表動画」の制作・提出を求め、出席確認と理解度確認を行います。 ・Oh-o!Meijiクラスウェブのディスカッション機能または対面授業を活用し、学生同士および教員との意見交換の場を設けます。また、教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知します。 ※ 詳細は第1回のイントロダクション〔対面授業〕で説明しますので必ず出席してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・授業前に授業資料・テキスト・参考書を読んで、管理会計に関する自らの知識・スキルおよび疑問点を明確にしておいてください。 ・授業後に「振り返りシート」の作成と「確認テスト」への解答または「グループワーク成果発表動画」の制作に取り組み、授業内容の理解度を確認してください。			
5. 教科書 『原価・管理会計の基礎』山田庫平・吉村聡・飯島康道・大槻晴海編著（中央経済社）			
6. 参考書 ・『管理会計（マネジメント・アカウンティング）―業績管理会計と意思決定会計』崎 章浩 編著（学文社） ・『会計による経営管理』村田直樹・相川奈美編著（税務経理協会） ・『花王の経理パーソンになる』吉田栄介・花王株式会社会計財務部門（中央経済社） ・『基本原価計算用語辞典』山田庫平編著（白桃書房） ・『経営管理会計ハンドブック』山田庫平・崎 章浩・吉村 聡編著（東京経済情報出版）※図書館に所蔵 その他必要に応じて授業の中で紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meijiクラスウェブでフィードバックします。			
8. 成績評価の方法 「振り返りシート」（20%）、「確認テスト」または「グループワークの評価」・「グループワーク成果発表動画」（20%）、定期試験（60%） ※ 対面形式の定期試験を行います。			
9. その他 管理会計は企業などの組織体の経営活動と密接に関連しています。理論を具体的に理解できるように、日頃から経営・経済関連のTV番組、ニュース、新聞記事、雑誌記事、書籍などに目を通すよう心掛けてください。 また、日常生活に潜む「管理会計的なもの」を見つけ出す癖をつけてください。			

科目ナンバー：(BA)ACC246J			
管理会計総論B〔M〕 【CAPクラス】		大槻 晴海	
2 単位	1 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ この授業では、管理会計の基礎的な概念や仕組みなどを学びます。 管理会計は、企業（またはその他の組織体）を経営・管理する経営管理者が、意思決定や業績管理、業務管理などを行う際に役立つ財務的・非財務的情報を提供することを目的とする会計です。 現代では、いかなる組織のメンバーにも、組織内部で用いられる言語としての管理会計情報を理解でき、それにより業務上の様々な問題を特定でき、その問題を解決でき、そして関係者同士でコミュニケーションできる能力が求められています。 将来、企業人として活躍するにせよ、会計専門職（公認会計士や税理士など）やコンサルタントとして活躍するにせよ、あるいは非営利組織（学校、病院、行政機関、NPOやNGOなど）の職員として活躍するにせよ、組織体の運営に携わる者またはその一員にとって、管理会計に関する知識やその実践能力を身につけることは、いまや必須とされてきています。 この授業では、管理会計の中でも、組織体（主として企業）にとっての重要な局面でその都度行われる判断や決断にかかわる「意思決定会計」（個別問題に対して将来とるべき行動を選択・決定するための会計）および経営戦略の形成・実現にかかわる「戦略管理会計」（戦略経営のための会計）についての理解を深めていきます。 ＜到達目標＞ 次のような管理会計に関する基礎的な知識と基本的な考え方の修得が目標です。 ・意思決定会計について学び、そこで用いられる「意思決定会計」情報を組織内部の言語として理解し利用できる。 ・戦略管理会計について学び、そこで用いられる各種手法を理解し適用できる。 ・必要とあれば自ら管理会計情報を適切な技法により作成し活用できる。 ・将来の管理会計の発展・変化にも柔軟に対応できる。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション／経営管理の機能と管理会計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回：意思決定会計（1）：業務執行の意思決定〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：意思決定会計（2）：戦略的意思決定〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：企業環境の変化と戦略管理会計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：事業環境分析（1）：3C分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：事業環境分析（2）：ABC/ABM〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：事業環境分析（3）：競合他社分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回：事業戦略の形成と実現（1）：SWOT分析とPPM〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：事業戦略の形成と実現（2）：戦略マップ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：事業戦略の形成と実現（3）：BSC〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：戦略的成本・マネジメント（1）：原価企画〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：戦略的成本・マネジメント（2）：品質原価計算〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：戦略的成本・マネジメント（3）：環境管理会計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ※ 授業の進捗状況等により変更が生じる場合があります。			
3. 履修上の注意 ・日簿簿記検定2級以上に合格した学生が履修する授業です。クラスウェブのアンケート機能にある「証明書類」のどこからか合格証を送ってください。期限は「履修本登録期間」です。期限が過ぎるとこのメディア授業の登録はできません。 ・この授業はメディア授業科目として開講されます。授業はすべて、講義動画をOh-o!Meijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行います。 ・Oh-o!Meijiクラスウェブに、お知らせ、授業資料、講義動画、小レポート（「振り返りシート」）、小テスト（「確認テスト」）、アンケートなどを掲載しますので、必ず確認してください。 ・講義動画は原則毎週水曜日にOh-o!Meijiシステムを通じて配信し、当該学期中の視聴を可能とします。なお、毎回の講義動画について、「振り返りシート」の提出と「確認テスト」の実施を求め、出席確認と理解度確認を行います。 ・Oh-o!Meijiクラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設けます。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知します。 ※ 詳細は第1回のイントロダクションで説明しますので必ず視聴してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・授業前に授業資料・テキスト・参考書を読んで、管理会計に関する自らの知識・スキルおよび疑問点を明確にしておいてください。 ・授業後に「振り返りシート」の作成と「確認テスト」への解答に取り組み、授業内容の理解度を確認してください。			
5. 教科書 『原価・管理会計の基礎』山田庫平・吉村聡・飯島康道・大槻晴海編著（中央経済社）			
6. 参考書 ・『管理会計（マネジメント・アカウンティング）―業績管理会計と意思決定会計』崎 章浩 編著（学文社） ・『会計による経営管理』村田直樹・相川奈美編著（税務経理協会） ・『花王の経理パーソンになる』吉田栄介・花王株式会社会計財務部門（中央経済社） ・『基本原価計算用語辞典』山田庫平編著（白桃書房） ・『経営管理会計ハンドブック』山田庫平・崎 章浩・吉村 聡編著（東京経済情報出版）※図書館に所蔵 その他必要に応じて授業の中で紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meijiクラスウェブでフィードバックします。			
8. 成績評価の方法 「振り返りシート」（20%）、「確認テスト」（40%）、レポート（40%）			
9. その他 管理会計は企業などの組織体の経営活動と密接に関連しています。理論を具体的に理解できるように、日頃から経営・経済関連のTV番組、ニュース、新聞記事、雑誌記事、書籍などに目を通すよう心掛けてください。また、日常生活に潜む「管理会計的なもの」を見つけ出す癖をつけてください。			

科目ナンバー：(BA)ACC211J			
中級簿記論			大塚浩記
2単位	2年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 企業は様々な経済活動を行っている。その経済活動を記録し、報告することが簿記の役割である。本講義では、初級簿記論で学んだ企業の経済活動についての記録と報告を基礎として、いわゆる日本商工会議所簿記検定 商業簿記2級の範囲の一部を講義する。 <到達目標> 簿記論Ⅰ・Ⅱで学んだ範囲よりさらに多くの取引を理解し、記帳できるようになることを目標とする。また、授業内容は、取引の理解と仕訳が中心になるが、その結果として作成される財務諸表についても理解が深まるようになることも大切である。			
2. 授業内容 第1回 銀行勘定調整表 第2回 手形・電子記録債権債務 第3回 有価証券（基礎・端数利息） 第4回 有価証券（期末評価） 第5回 商品売買（売上原価対立法・履行義務） 第6回 商品売買（期末評価） 第7回 有形固定資産（割賦購入・買替等） 第8回 有形固定資産（減価償却） 第9回 引当金 第10回 純資産（株式発行・剰余金の処分） 第11回 純資産（株主資本等変動計算書） 第12回 決算（決算整理事項・精算表） 第13回 決算（損益計算書・貸借対照表の作成） 第14回 総復習 ※ 上記は目安であり、適宜、前後したり、内容を変えたりする。			
3. 履修上の注意 上記の授業内はテキストに沿って網羅的に示したが、時間的な制約などから論点を制限して取り扱うことがあることに留意されたい。 また、簿記は繰り返し学習することが大切であるため、復習する姿勢を大切にしてほしい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で予定している内容について、簿記論Ⅰ・Ⅱで学んだ範囲（日商簿記検定3級の範囲）を復習してくること。 授業後には、新たに学んだ内容について、テキスト（やワークブック）の練習問題を解答するなど複数の演習を行うこと。			
5. 教科書 渡部裕巨他『検定簿記講義2級商業簿記』中央経済社。 なお、毎年改訂されるので、講義開始時点での最新版を用意すること。			
6. 参考書 必要に応じて紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 定められた出席回数を満たしていることを前提に、原則として定期試験（100％）で評価する。 ただし、授業の進行上、課題を課すことがあった場合には、定期試験（80％）と課題（20％）で評価する。 評価の趣旨は、第1回目の授業の際にお話する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ACC311J			
上級簿記論			大塚浩記
2単位	2年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 企業は様々な経済活動を行っている。その経済活動を記録し、報告することが簿記の役割である。本講義では、初級簿記論で学んだ企業の経済活動についての記録と報告を基礎として、いわゆる日本商工会議所簿記検定 商業簿記2級の範囲の一部を講義する。 <到達目標> 簿記論Ⅰ・Ⅱ、中級簿記論で学んだ範囲よりさらに多くの取引を理解し、記帳できるようになることを目標とする。また、決算整理についても、連結財務諸表を含む財務諸表について理解し、作成できるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 第1回 リース会計 第2回 外貨換算会計 第3回 税効果会計 第4回 決算・財務諸表 第5回 財務諸表の作成演習 第6回 株主資本等変動計算書 第7回 本支店会計（取引の仕訳） 第8回 本支店会計（財務諸表の作成） 第9回 連結会計（資本連結） 第10回 連結会計（内部取引の相殺消去） 第11回 連結会計（連結精算表） 第12回 連結会計（連結財務諸表） 第13回 連結会計（段階取得・持分法など） 第14回 まとめ ※なお、上記は目安であり、授業の便宜上、内容が前後したり、変更されたりする。			
3. 履修上の注意 上記の授業内容はテキストに沿って網羅的に示したが、時間的な制約などから論点を限定して取り扱う予定であることに留意されたい。 なお、簿記論Ⅰ・Ⅱおよび中級簿記論の内容を習得していること。 簿記は繰り返し学習することが大切であるため、復習する姿勢を大切にしてほしい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で予定している内容について、あらかじめテキストを一読してくること。 授業後には、新たに学んだ内容について、テキスト（やワークブック）の練習問題を解答するなどの演習を行うこと。			
5. 教科書 渡部裕巨他『検定簿記講義2級商業簿記』中央経済社。 なお、毎年改訂されるので、講義開始時点での最新版を用意すること。			
6. 参考書 必要に応じて紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 定められた出席回数を満たしていることを前提に、原則として定期試験（100％）で評価する。 ただし、授業の進行上、課題を課すことがあった場合には、定期試験（80％）と課題（20％）で評価する。 評価の趣旨は、第1回目の授業でお話する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ACC331J			
財務諸表論 A			大 倉 学
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概 要〉 財務諸表は、企業の経営活動の内容および結果やそれに係る様々な事象を会計的表現（勘定科目と金額）をもって企業外部の利害関係者に報告する書類であり、財務会計制度を支えるルールに基づいて作成されたうえで一定の様式に従って公表される。 財務諸表論Aは、情報開示（ディスクロージャー）の意義、会計情報開示の意義、制度における財務諸表の位置づけ等の解説をとおり、財務諸表が制度会計においてどのような役割を果たしているのかを学習する。 〈到達目標〉 わが国の財務諸表に係る制度的・体系的知識を習得すること。			
2. 授業内容 第1回 会計学にみる諸アプローチ 第2回 情報開示（ディスクロージャー）：情報の非対称性と、それに起因する諸問題 第3回 情報開示（ディスクロージャー）：上記諸問題に対する対応策 第4回 会計情報開示の諸類型：会社法および金融商品取引法における情報作成・開示要請 第5回 会計情報開示の諸類型：証券取引所規程、IR等における情報作成・開示要請 第6回 ケース・スタディ、ディスカッション（1） 第7回 財務諸表の体系と構造（1）：ストック情報 第8回 財務諸表の体系と構造（2）：フロー情報 第9回 会計行為：認識・測定・記録・表示 第10回 会計主体論・会計公準論 第11回 会計基準：基準作成における諸アプローチ 第12回 会計基準：「企業会計原則」と各種「会計基準」 第13回 ケース・スタディ、ディスカッション（2） 第14回 春学期のまとめ			
3. 履修上の注意 講義では具体的事例を用いた説明をおこなうので、簿記の復習をされたい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各講義において次のポイントを指摘するので関連事項・専門用語の整理・確認をしておくこと。 また、各講義において前回の要点整理をするので継続的な復習を必要とする。			
5. 教科書 特に定めない。レジュメ・資料を配布する。			
6. 参考書 『財務会計講義（最新版）』桜井久勝著（中央経済社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクション・ペーパー、課題レポートについては、Oh-o！Meijiシステムで全体講評および個別コメントにて対応する。			
8. 成績評価の方法 平常点（20%）、レポート1回（10%）、定期試験（70%） 講義内容に即した数回に1回のリアクション・ペーパー提出およびディスカッションにおける積極的姿勢を平常点の評価対象とする。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ACC331J			
財務諸表論 B			大 倉 学
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概 要〉 財務諸表は、企業の経営活動の内容および結果やそれに係る様々な事象を会計的表現（勘定科目と金額）をもって企業外部の利害関係者に報告する書類であり、財務会計制度を支えるルールに基づいて作成されたうえで一定の様式に従って公表される。 財務諸表論Bは、財務諸表作成・開示に係る基礎概念、会計基準、財務諸表項目に焦点をあてて解説する。ここでは、財務諸表の具体的な仕組と内容を理解することが求められる。 〈到達目標〉 わが国の財務諸表に係る具体的な仕組と内容を理解・習得すること。			
2. 授業内容 第1回 会計の5要素と会計行為の関係 第2回 資産の会計（1）：認識論 第3回 資産の会計（2）：伝統的な測定論 第4回 資産の会計（3）：近時の測定論 第5回 資産の会計（4）：重層的測定論 第6回 負債の会計：認識論・測定論 第7回 純資産の会計：認識論・測定論 第8回 貸借対照表の表示 第9回 収益・費用の会計：認識論・測定論 第10回 損益計算書の表示およびキャッシュ・フロー計算書：表示形式と内容 第11回 財務諸表を読む：A社の事例（ディスカッションを含む） 第12回 財務諸表を読む：B社の事例（ディスカッションを含む） 第13回 財務諸表の限界と情報開示の展望（統合報告書） 第14回 秋学期のまとめ			
3. 履修上の注意 講義では具体的事例を用いた説明をおこなうので、簿記の復習をされたい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各講義において次のポイントを指摘するので関連事項・専門用語の整理・確認をしておくこと。 また、各講義において前回の要点整理をするので継続的な復習を必要とする。			
5. 教科書 特に定めない。レジュメ・資料を配布する。			
6. 参考書 『財務会計講義（最新版）』桜井久勝著（中央経済社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクション・ペーパー、課題レポートについては、Oh-o！Meijiシステムで全体講評および個別コメントにて対応する。			
8. 成績評価の方法 平常点（20%）、レポート1回（10%）、定期試験（70%） 講義内容に即した数回に1回のリアクション・ペーパー提出およびディスカッションにおける積極的姿勢を平常点の評価対象とする。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ACC331J			
現代会計基準論A			浅野 千鶴
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 本講義では、会計制度や、これまでに設定・公表されてきた会計基準の根底にある基礎概念に焦点をあてて学習する。 〈到達目標〉 会計基準の基礎概念を学習することにより、会計基準そのものや基準の改訂・新設が行われた理由をより深く理解するための基礎的な知識を得ることを目標としている。			
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2回 財務会計の機能と目的 第3回 会計制度と会計基準 第4回 会計公準と会計主体 第5回 利益の役割と損益計算 第6回 利益観と業績観 第7回 資産評価の基本原則 第8回 企業のディスクロージャー（1） 第9回 企業のディスクロージャー（2） 第10回 概念フレームワーク（1）財務報告の目的 第11回 概念フレームワーク（2）会計情報の質的特性 第12回 概念フレームワーク（3）財務諸表の構成要素 第13回 概念フレームワーク（4）財務諸表における認識と測定 第14回 まとめ			
3. 履修上の注意 簿記・会計学の基礎的な知識を要する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 財務諸表論の入門書を用意し、その内容を把握しておくこと。			
5. 教科書 毎回レジュメを配布するため、教科書は使用しない。			
6. 参考書 初回の講義で指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回行う小テストについてはその次の回の講義内で解説する。			
8. 成績評価の方法 定期試験および小テストの成績、授業中の態度等を総合的に判断して評価する。 目安としては、平常点30％、定期テスト70％。 小テスト用紙は授業開始時に配布するので、遅刻しないように注意すること。			
9. その他 レジュメと小テスト問題をOh-o! meijiで公開するので、やむをえない理由で授業を欠席した場合には、メールで事情説明文・欠席した理由を証明できる文書を提出するとともにOh-o!Meijiで小テストの解答を提出すること。提出がない場合にはいかなる理由であってもその回の平常点はゼロとなるので注意すること。			

科目ナンバー：(BA)ACC331J			
現代会計基準論B			浅野 千鶴
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 本講義では、近年に改訂・新設された基準およびASBJ等で審議中の論点を題材に、「なぜそのような改訂がなされたのか」「なぜ新しい基準が必要となったのか」という視点から、社会的な背景や具体的な事象を交えて学習する。 〈到達目標〉 基準の改訂・新設にあたり、その内容をより深く理解し、現行基準の問題点を抽出できるようになることを目標としている。			
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2回 産業構造の変化と会計理論の変遷 第3回 公正価値会計 第4回 金融商品会計 第5回 デリバティブとヘッジ会計 第6回 退職給付会計 第7回 リース会計 第8回 連結会計 第9回 企業結合会計 第10回 事業分離会計 第11回～第13回 業種別会計や、ASBJ等で公表された論点整理・公開草案等を題材に最新のテーマについて改正点や論点などを学習する。 第14回 まとめ			
3. 履修上の注意 簿記・会計学の基礎的な知識を要する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 財務諸表論の入門書を用意し、その内容を把握しておくこと。			
5. 教科書 毎回レジュメを配布するため、教科書は使用しない。			
6. 参考書 初回の講義で指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回行う小テストについてはその次の回の講義内で解説する。			
8. 成績評価の方法 定期試験および毎回実施する小テストの成績、授業中の態度等を総合的に判断して評価する。 目安としては、平常点30％、定期テスト70％。 小テスト用紙は授業開始時に配布するので、遅刻しないように注意すること。			
9. その他 レジュメと小テスト問題をOh-o! meijiで公開するので、やむをえない理由で授業を欠席した場合には、メールで事情説明文・欠席した理由を証明できる文書を提出するとともにOh-o!Meijiで小テストの解答を提出すること。提出がない場合には、いかなる理由であってもその回の平常点はゼロとなるので注意すること。			

科目ナンバー：(BA)ACC361J			
監査論A			小俣 光 文
2017年度以前入学者 会 計 監 査 論 A			駿河台キャンパス
2 単位	3 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標			
〈概要〉 現代の経済社会の中心的な担い手となっているのは、広く一般の投資家から資金を調達する株式会社である。株式会社は、資金を提供する投資家等に対して、資金が適切に利用されていることを示すために、財務報告を行う必要がある。しかしながら、会社の経営者が行った財務報告は、会社に都合の良い情報しか示されていない可能性があり、そのままでは信用されないため、会社が示した情報が適切なものであるかどうかを判断できるようにするのが監査の役割である。そこで、本講義では、なぜ監査という行為が行われるのか、どのように監査が行われるのかについて学び、株式会社が財務報告に利用する財務諸表の監査についての基礎を学ぶ。そのため、監査に関する基本テキストの該当箇所を予習するとともに、平日頃から会計・監査に関する新聞記事やテレビニュースに関心を持って見ることも必要である。			
〈到達目標〉 監査が現代の経済社会に、監査に対する社会的期待が非常に高まるとともに、各種の情報公開が進むにつれて監査に対するニーズも非常に大きくなっている。監査に対するニーズが高まるとともに、新聞やテレビのニュースで監査が扱われる事例が増えている。まず、監査についての基本的な理論を習得することによって、こうした監査に対するニーズが高まっている理由を理解できる能力を身につける。そして、監査に関する基礎知識を習得することによって、こうした新聞記事やニュースの内容を理解できる能力を身につけることを目標とする。			
2. 授業内容 第1回：監査論の考え方 第2回：ディスクロージャー制度と株式会社 第3回：コーポレートガバナンス 第4回：日本企業のガバナンス 第5回：財務諸表の見方 第6回：監査の経済的機能 第7回：監査のフレームワーク 第8回：監査規範と監査人の適格性 第9回：監査人の独立性 第10回：金融商品取引法監査 第11回：公認会計士の責任 第12回：不正・違法行為 第13回：保証業務 第14回aのみ：まとめ			
3. 履修上の注意 直接仕訳等をするわけではないが、会計に関する知識があることを前提に講義をするので会計関連科目を履修しておくこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、該当する監査基準・実務指針等を読んでおくこと。			
5. 教科書 毎回レジュメを配布する			
6. 参考書 適宜指示する ・監査基準 ・監査基準委員会報告書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 毎回講義内でミニテストを行い、まとめの回に復習テストを行いこの2つの要素を基礎に成績を決定する。 (配点割合は概ね次のとおり) ①毎回のミニテスト (60%) ②復習テスト期末試験の成績 (40%)			
9. その他 監査は経済社会にとって必要不可欠な機能であるといわれます。監査を取り巻く様々な背景を学ぶことは、企業人としても投資家としても将来きっと役に立ってくれるでしょう。			

科目ナンバー：(BA)ACC361J			
監査論B			小俣 光 文
2017年度以前入学者 会 計 監 査 論 B			
2 単位	3 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標			
＜概要＞ 監査は、一つの社会的なコントロールシステムとして古代エジプトやメソポタミアでも行われていた。監査の中心である、財務諸表監査は、いまや、企業の健全な社会的発展を図るために必要不可欠な要具となっている。しかしながらエンロン事件のように経営破綻した企業が、それまで経営の不振を隠蔽するために不正な財務報告を行っていたことが明らかになることがある。このような事態が生じると監査に対する批判が高まり、その批判に答える形で、監査の実施方法も大きく変わることがある。そこで、本講義では、監査に対する批判が高まる原因となる不正な財務報告の事例等を概観しながら、財務諸表監査の基本となる監査基準がどのように監査を規定しているかを中心にして、企業の財務諸表監査が具体的にどのように行われているのかについて学ぶ。そのため、監査に関する基本テキストの該当箇所を予習するとともに、平日頃から会計・監査に関する新聞記事やテレビニュースに関心を持って見ることも必要である。			
＜到達目標＞ 現代は監査に対するニーズが高まっており、公認会計士にならずとも多くの人が監査に関わる機会が増えている。こうした状況のなかで、監査がどのように行われているのか、また監査の結果がどのように利用者に伝達されるのかについて学び、自らが監査に関わる立場になったときに必要な知識を習得することを目標とする。 さらに、公認会計士になった場合はもちろんのこと、実際に内部監査部門に配属されたり、監査を受ける立場になったり、監査報告書を読む場合に必要な知識も身につけることを目標とする。			
2. 授業内容			
第1回：監査実施プロセスの全体像 第2回：リスクアプローチの概要 第3回：内部統制1 第4回：内部統制2 第5回：監査計画と監査要点 第6回：監査証拠 第7回：監査リスクと重要性 第8回：リスク評価 第9回：リスク対応手続と内部統制 第10回：監査報告 第11回：監査報告書 第12回：追記情報とその他の記載内容 第13回：G C問題 第14回aのみ：まとめ試査			
3. 履修上の注意			
直接仕訳等をするわけではないが、会計に関する知識があることを前提に講義をするので会計関連科目を履修しておくこと。また、監査論Aを履修しておくことが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
事前に参考書の該当箇所、該当する監査基準・実務指針等を読んでおくこと。			
5. 教科書			
毎回レジュメを配布する			
6. 参考書			
適宜指示する ・監査基準 ・監査基準委員会報告書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法			
毎回講義内でミニテストを行い、まとめの回に復習テストを行いこの2つの要素を基礎に成績を決定する。 (配点割合は概ね次のとおり) ①毎回のミニテスト (60%) ②復習テスト期末試験の成績 (40%)			
9. その他			
公認会計士になって監査業務を行わなくとも、監査に関わる可能性が高くなっています。また、投資情報としての有価証券報告書を読む際に監査報告書は非常に有用です。企業人としても投資家としても監査論を勉強しておくことは将来きっと役に立ってくれるでしょう			

科目ナンバー：(BA) ACC371J			
国際財務報告論 A			石田万由里
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 国際財務報告基準（IFRS）とは、国際会計基準審議会（IASB）およびIASBの前身である国際会計基準委員会（IASC）により設定された会計基準およびその他解釈指針の総称である。本授業では、国際財務報告基準とわが国の会計基準の違いを中心に引き上げながら、国際的な財務報告のあり方について修得することを目的とする。 〈到達目標〉 本授業の到達目標は、国際財務報告の基礎知識を習得したうえで、国際的な財務報告のありかたや諸論点について各自が所見を提示できるようになることである。またアクティブラーニングを通じて、所見をプレゼンテーションし、活発な意見交換の場を設けることによって、論理的思考力や、幅広い視野などを身につけることも目的としている。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 国際財務報告とIFRSのアドプション 第3回 国際的な資金調達の動向と国際財務報告 第4回 わが国の会計制度 第5回 ASBJと金融庁の役割 第6回 米国の会計制度 第7回 FASBとSECの役割 第8回 IFRSの会計制度 第9回 IASBと各国の証券市場監督の役割 第10回 ケースを使ったアクティブラーニング（1） 第11回 ケースを使ったアクティブラーニング（2） 第12回 ケースを使ったアクティブラーニング（3） 第13回 ケースを使ったアクティブラーニング（4） 第14回 国際財務報告論Aのまとめ			
3. 履修上の注意 日商簿記検定3級レベルが必須である。また、事前にあるいは同時に財務諸表論や現代会計基準論を履修することが望ましい。加えて、本授業はアクティブラーニングを取り入れる。また、国際財務報告論Aにおいて履修者に要求する内容は、国際財務報告論Bにおいても同様である。なお、国際財務報告論ではグループごとのディスカッションやプレゼンテーションを組み入れたアクティブラーニングを取り入れている。履修者の積極的な参加とチームワークが成績評価の対象となることに注意してもらいたい。なお、使用する教室は備付のPCがないため、グループワークやプレゼンテーションのさいにはノートPCやタブレット端末などがあると望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習はとくに必要ないが、授業で取り上げた箇所の復習や専門用語の確認や整理を継続的に行うこと。			
5. 教科書 教科書の指定はない。授業内にてレジュメ・資料等を配布する。授業で使った資料についてはOh-o! Meijiにアップロードする。			
6. 参考書 International Financial Reporting Standards (IFRS) 2024, (International Accounting Standards Board) Intermediate Accounting, 5th Edition, Donald E. Kieso, Jerry J. Weygandt, Terry D. Warfield 秋葉賢一著『エッセンシャルIFRS（最新版）』中央経済社 国際会計基準審議会（IASB）・米国財務会計基準審議会（FASB）・企業会計基準委員会（ASBJ）から公表された会計基準・公開草案・論点整理など			
7. 課題に対するフィードバックの方法 適宜、授業内で行う。			
8. 成績評価の方法 ① 平常点（グループワークの参加状況・相対評価、プレゼンテーションおよびディスカッションの内容など）：30％ ② レポート：30％ ③ 期末試験：40％ ※3分の2以上の出席が確認できない履修者については評価の対象とならない。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) ACC371J			
国際財務報告論 B			石田万由里
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 国際財務報告基準（IFRS）とは、国際会計基準審議会（IASB）およびIASBの前身である国際会計基準委員会（IASC）により設定された会計基準およびその他解釈指針の総称である。本授業では、国際財務報告基準とわが国の会計基準の違いを中心に引き上げながら、国際的な財務報告のあり方について修得することを目的とする。 〈到達目標〉 本授業の到達目標は、国際財務報告の基礎知識を習得したうえで、国際的な財務報告のありかたや諸論点について各自が所見を提示できるようになることである。またアクティブラーニングを通じて、所見をプレゼンテーションし、活発な意見交換の場を設けることによって、論理的思考力や、幅広い視野などを身につけることも目的としている。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 国際財務報告制度の実態 第3回 わが国の財務諸表、IFRSの基礎知識 第4回 IFRS概念フレームワークとその他の主要な概念 第5回 IFRSにもとづく財務諸表 第6回 収益認識 第7回 企業結合 第8回 無形資産 第9回 金融商品 第10回 包括利益 第11回 リサイクリング 第12回 IFRSにもとづく財務諸表の分析 第13回 IFRS財務諸表のプレゼンテーション 第14回 国際財務報告論Bのまとめ			
3. 履修上の注意 日商簿記検定3級レベルが必須である。また、事前にあるいは同時に財務諸表論や現代会計基準論を履修することが望ましい。加えて、本授業はアクティブラーニングを取り入れる。また、国際財務報告論Aにおいて履修者に要求する内容は、国際財務報告論Bにおいても同様である。なお、国際財務報告論ではグループごとのディスカッションやプレゼンテーションを組み入れたアクティブラーニングを取り入れている。履修者の積極的な参加とチームワークが成績評価の対象となることに注意してもらいたい。なお、使用する教室は備付のPCがないため、グループワークやプレゼンテーションのさいにはノートPCやタブレット端末などがあると望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習はとくに必要ないが、授業で取り上げた箇所の復習や専門用語の確認や整理を継続的に行うこと。			
5. 教科書 教科書の指定はない。授業内にてレジュメ・資料等を配布する。授業で使った資料についてはOh-o! Meijiにアップロードする。			
6. 参考書 International Financial Reporting Standards (IFRS) 2024, (International Accounting Standards Board) Intermediate Accounting, 5th Edition, Donald E. Kieso, Jerry J. Weygandt, Terry D. Warfield 秋葉賢一著『エッセンシャルIFRS（最新版）』中央経済社 国際会計基準審議会（IASB）・米国財務会計基準審議会（FASB）・企業会計基準委員会（ASBJ）から公表された会計基準・公開草案・論点整理など			
7. 課題に対するフィードバックの方法 適宜、授業内で行う。			
8. 成績評価の方法 ① 平常点（グループワークの参加状況・相対評価、プレゼンテーションおよびディスカッションの内容など）：30％ ② レポート：30％ ③ 期末試験：40％ ※3分の2以上の出席が確認できない履修者については評価の対象とならない。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ACC291E			
Basic Accounting A			中 島 真 澄
2016年度以前入学者 Basic Accounting			和泉キャンパス
2 単位	1 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標			
〈Outline〉 This course provides an introduction to the concepts and principles underlining financial accounting and reporting in English. The course covers fundamental financial accounting such as accounting cycles, adjusting entries, inventories, asset valuation, current liabilities, long-term liabilities, and the preparation and an analysis of financial statements.			
〈Objectives〉 Students can develop: the knowledge of the principles of accounting, an understanding the procedures and terminology of accounting, and the applying the techniques to accounting problems in English.			
2. 授業内容			
1. Introduction: Accounting in Action [Media-based class (Real-time delivery type)]			
2. The Recording Process[Face-to-face class]			
3. Adjusting the Accounts[Face-to-face class]			
4. Completing the Accounting Cycle[Face-to-face class]			
5. Accounting for Merchandising Operations[Face-to-face class]			
6. Mid-Term Exam [Media-based class (Real-time delivery type)]			
7. Database Learning [Media-based class (Real-time delivery type)]			
8. Inventories[Face-to-face class]			
9. Accounting for Information Systems[Face-to-face class]			
10. Fraud, Internal Controls, and Cash[Face-to-face class]			
11. Accounting for Receivables[Face-to-face class]			
12. Plant Assets, Natural Resources, and Intangible Assets[Face-to-face class]			
13. Review [Media-based class (Real-time delivery type)]			
14. Final Exam [Media-based class (Real-time delivery type)]			
3. 履修上の注意			
N/A			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
The students should read each of the assigned chapter prior to class.			
5. 教科書			
Jerry J. Weygandt, Paul D. Kimmel, Donald E. Kieso Accounting Principles 15edition, International Student Version Wiley 2024 eBook is available through library website(Maruzen eBook Library)			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
Assignments are conducted in class as part of active learning, so feedback are given in class or via email at a later date.			
8. 成績評価の方法			
Class Contribution 15%			
Assignments 15%			
Midterm Exam 30%			
Final Exam 40%			
9. その他			
Accounting is referred as the language of business. Therefore, the students who want to pursue a career in business should obtain the knowledge of accounting and develop a skill and techniques for basic accounting. But, it is very important to enjoy the study of accounting always through the process. Let's enjoy BASIC ACCOUNTING together!			

科目ナンバー：(BA)ACC291E			
Basic Accounting B			中 島 真 澄
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <Outline> This course provides an introduction to the concepts and principles underlining financial accounting and reporting in English. The course covers fundamental financial accounting such as Stockholder's Equity, Earnings Per Share and Share-Based Payment, Investments, Revenue Recognition and the analysis of financial statements. <Objectives> Students can develop: the knowledge of the principles of accounting, an understanding the procedures and terminology of accounting, and the applying the techniques to accounting problems in English.			
2. 授業内容 1. Intangible Assets [Media-based class (Real-time delivery type)] 2. Current Liabilities and Payroll Accounting[Face-to-face class] 3. Long-Term Liabilities[Face-to-face class] 4. Corporations: Organization and Capital Stock Transactions [Face-to-face class] 5. Data Learning [Media-based class (Real-time delivery type)] 6. Revenue recognition [Face-to-face class] 7. Mid-Term Exam [Media-based class (Real-time delivery type)] 8. Corporations: Dividends, Retained Earnings, and Income Reporting[Face-to-face class]Investments[Face-to-face class] 9. Investments [Face-to-face class] 10. Statement of Cash Flows[Face-to-face class] 11. Full Disclosure in Financial Reporting [Face-to-face class] 12. Financial Analysis 2 [Face-to-face class] 13. Fraud in Japan [Media-based class (Real-time delivery type)] 14. Final Exam [Media-based class (Real-time delivery type)]			
3. 履修上の注意 N/A			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 The students should read each of the assigned chapter prior to class.			
5. 教科書 Jerry J. Weygandt, Paul D. Kimmel, Donald E. Kieso Accounting Principles 15th ed, International Student Version Wiley 2024 eBook is available through library website(Maruzen eBook Library)			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Assignments are conducted in class as part of active learning, so feedback are given in class or via email at a later date.			
8. 成績評価の方法 Class Contribution 15% Assignments 15% Midterm Exam 30% Final Exam 40%			
9. その他 Accounting is referred as the language of business. Therefore, the students who want to pursue a career in business should obtain the knowledge of accounting and develop a skill and techniques for basic accounting. But, it is very important to enjoy the study of accounting always through the process. Let's enjoy BASIC ACCOUNTING together!			

科目ナンバー：(BA)ACC331E			
Financial Accounting A			中 島 真 澄
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <Outline> This course provides a comprehensive knowledge of financial accounting and reporting. For each topic covered, the theory and technical details of the U.S. Generally Accepted Accounting Principles (GAAP) are presented and after that, we discuss the differences between the U.S. GAAP and the International Financial reporting (IFRS). This course also provides the knowledges for analyzing a firm's financial performance by the financial statements information. <Objectives> The objectives are to enable students to develop: to acquire an in-depth understanding of financial accounting and reporting as accounting profession, and to obtain the knowledge for evaluating a firm's performance.			
2. 授業内容 1. Introduction: Financial Accounting and Accounting Standards [Media-based class (Real-time delivery type)] 2. Conceptual Framework for Financial Reporting[Face-to-face class] 3. The Accounting Information System[Face-to-face class] 4. Income Statement and Related Information[Face-to-face class] 5. Balance Sheet and Statement of Cash Flows[Face-to-face class] 6. Mid-Term Exam [Media-based class (Real-time delivery type)] 7. Database Learning [Media-based class (Real-time delivery type)] 8. Cash and Receivables[Face-to-face class] 9. Valuation of Inventories: A Cost-Basis Approach[Face-to-face class] 10. Inventories: Additional Valuation Issues[Face-to-face class] 11. Acquisition and Disposition of Property, Plant, and Equipment [Face-to-face class] 12. Depreciation, Impairments, and Depletion[Face-to-face class] 13. Review [Media-based class (Real-time delivery type)] 14. Final Exam [Media-based class (Real-time delivery type)]			
3. 履修上の注意 ※「履修のための英語要件」の基準点を満たさない場合、本科目の履修はできません。 Students who do not meet the English requirement for this course (at least TOEIC 550) cannot take this course.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please read the chapter before each class.			
5. 教科書 Donald E. Kieso, Jerry J. Weygandt, Terry D. Warfield. Intermediate Accounting, 18th Edition, ISBN: 978-1-119-77889-9, eBook is available through library website(Maruzen eBook Library), 2022.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Assignments are conducted in class as part of active learning, so feedback are given in class or via email at a later date.			
8. 成績評価の方法 Class Contribution 15% Assignments 15% Mid-term Exam 30% Final Exam 40%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ACC331E			
Financial Accounting B			中 島 真 澄
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <Outline> This course extends a comprehensive knowledge of financial accounting to intermediate topics. For each topic covered, the differences in the theory and concepts of the U.S.GAAP and IFRS should be discussed. This course also provides the theory of accounting fraud and the basic knowledge of forensic accounting. This course also provides a comprehensive framework for business analysis and valuation by using financial statement information. Students can learn not only the concepts and principles for evaluating a firm's financial performance and predicting its future economic condition but also tools for the financial statements analysis. Topics are covered: Strategy Analysis, Accounting Analysis, Financial Analysis, and Prospective Analysis. <Objectives> The objectives are to enable students to develop: to acquire intermediate level of knowledges in financial accounting and reporting, to obtain the skills for interpreting financial information, and to understand the basic principles of fundamental analysis and to obtain skills and techniques to analyze the financial statements and determine the fundamental value.			
2. 授業内容 1. Intangible Assets [Media-based class (Real-time delivery type)] 2. Current Liabilities and Contingencies[Face-to-face class] 3. Long-Term Liabilities[Face-to-face class] 4. Stockholders' Equity[Face-to-face class] 5. Data Learning[Media-based class (Real-time delivery type)] 6. Revenue Recognition[Face-to-face class] 7. Mid-Term Exam[Media-based class (Real-time delivery type)] 8. Accounting for Income Taxes[Face-to-face class] 9. Accounting for Pensions and Postretirement Benefits[Face-to-face class] 10. Statement of Cash Flows[Face-to-face class] 11. Accounting for Leases[Face-to-face class] 12. Full Disclosure in Financial Reporting[Face-to-face class] 13. Review[Media-based class (Real-time delivery type)] 14. Final exam[Media-based class (Real-time delivery type)]			
3. 履修上の注意 ※「履修のための英語要件」の基準点を満たさない場合、本科目の履修はできません。 Students who do not meet the English requirement for this course (at least TOEIC 550) cannot take this course.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 The students should read each of the assigned chapter prior to class.			
5. 教科書 Donald E. Kieso, Jerry J. Weygandt, Terry D. Warfield. Intermediate Accounting, 18th Edition. ISBN: 978-1-119-77889-9 February 2022. eBook is available through library website (Maruzen eBook Library)			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Assignments are conducted in class as part of active learning, so feedback are given in class or via email at a later date.			
8. 成績評価の方法 Class Contribution 15% Assignments 15% Midterm Exam 30% Final Exam 40%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ACC321J			
原価計算論Ⅰ			長野史麻
2単位	1年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 原価計算とは、企業活動から発生する原価、利益などの財務的データを、企業給付とのかかわりから認識・測定・分類し、要約・解説する理論と技術です。これは、経営管理者にたいして企業活動の計画と統制および意思決定に必要な経済的情報を提供するためになされます。授業では、単に技術の解説にとどまるのではなく、そのような技術が生まれた背景から原価計算方法を考察していきます。さらに、実際原価計算が企業経営において果たする役割や限界についても考えていきます。 〈到達目標〉 この授業では、原価計算の基礎知識を整理したうえで、原価計算方法の要である実際原価計算を取り上げます。具体的な方法として、費目別原価計算、部門別原価計算、個別原価計算、総合原価計算を説明し、履修者が実際原価の計算を理解するだけでなく、自ら計算できるようになることを目標としています。			
2. 授業内容 第1回 a. ガイダンス b. 原価計算の基礎 第2回 工業経営と工業簿記 第3回 材料費の計算 第4回 労務費の計算 第5回 経費の計算 第6回 製造間接費の計算 第7回 製造間接費の配賦差異の分析 第8回 a. 中間試験 b. 部門別原価計算（1） 第9回 部門別原価計算（2） 第10回 個別原価計算（1） 第11回 個別原価計算（2） 第12回 単純総合原価計算（1） 第13回 単純総合原価計算（2） 第14回 a. まとめ b. 期末試験 ＊履修者の学習をより深めるため、2回ほど、オンデマンドの週を設けます。			
3. 履修上の注意 原価計算論ⅠとⅡをセットで履修することが望ましいです。計算練習を行うので、電卓を持参してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業は、講義と計算から構成されます。授業のなかで履修者自らが計算し、確認する作業を繰り返すことは、単に原価計算方法を修得するだけでなく、原価計算により提供される情報の経営管理上の意義や限界を理解するのに役立つと期待されます。			
5. 教科書 上埜 進（編著）『工業簿記・原価計算の基礎—理論と計算—〔第4版〕』税務経理協会、2017年			
6. 参考書 廣本敏郎・挽 文子『原価計算論〔第3版〕』中央経済社、2015年 櫻井 通晴『原価計算』同文館出版、2014年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にフィードバックを行います。			
8. 成績評価の方法 授業中の課題（30％）、中間試験（35％）、期末試験（35％）により総合的に評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ACC321J			
原価計算論Ⅱ			長野史麻
2単位	1年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 原価計算の基本的な枠組みを理解したうえで、経営管理のための原価計算を主に扱っていきます。経営管理のための原価計算は、企業環境の変化とともに発展してきたものです。原価管理や利益管理、意思決定のための原価計算として、標準原価計算や原価予測、損益分岐点分析、営業費計算、直接原価計算、差額原価収益分析を取り上げます。また、原価計算における新しい流れについても考えていきます。 〈到達目標〉 原価計算の基本的な枠組みを理解するとともに、経営管理のための原価計算として、標準原価計算や直接原価計算、CVP分析を理解し、自ら計算できるようになることを目標としています。			
2. 授業内容 第1回 a. ガイダンス b. 原価計算の基礎の確認 第2回 工程別総合原価計算 第3回 組別総合原価計算 第4回 等級別総合原価計算 第5回 工業経営における財務諸表 第6回 本社・工場会計 第7回 a. 中間試験 b. 標準原価計算（1） 第8回 標準原価計算（2） 第9回 標準原価計算（3） 第10回 直接原価計算（1） 第11回 直接原価計算（2） 第12回 CVP分析（1） 第13回 CVP分析（2） 第14回 a. まとめ b. 期末試験			
3. 履修上の注意 原価計算論ⅠとⅡをセットで履修することが望ましいです。計算練習を行うので、電卓を持参してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業は、講義と計算から構成されます。授業のなかで履修者自らが計算し、確認する作業を繰り返すことは、単に原価計算方法を修得するだけでなく、原価計算により提供される情報の経営管理上の意義や限界を理解するのに役立つと期待されます。			
5. 教科書 上埜 進（編著）『工業簿記・原価計算の基礎—理論と計算—〔第4版〕』税務経理協会、2017年			
6. 参考書 廣本敏郎・挽 文子『原価計算論〔第3版〕』中央経済社、2015年 櫻井 通晴『原価計算』同文館出版、2014年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にフィードバックを行います。			
8. 成績評価の方法 授業中の課題（30％）、中間試験（35％）、期末試験（35％）により総合的に評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ACC326J			
原価計算論Ⅰ〔M〕 【CAPクラス】			長 野 史 麻
2 単位	1 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 <CAPクラスの授業の概要> 原価計算とは、企業活動から発生する原価、利益などの財務的データを、企業給付とのかかわりから認識・測定・分類し、要約・解説する理論と技術です。これは、経営管理者にたいして企業活動の計画、コントロールおよび意思決定に必要な経済的情報を提供するためになされます。単に技術の解説にとどまるのではなく、そのような技術が生まれた背景から原価計算方法を考察するとともに、実際原価計算が企業経営において果たする役割や限界についても考えていきます。 <到達目標> この授業では、原価計算の基礎知識を整理したうえで、原価計算方法の要である実際原価計算を取り上げます。具体的な方法として、費目別原価計算、部門別原価計算、個別原価計算、総合原価計算を説明し、履修者が実際原価の計算方法を理解するだけではなく、実際に計算できるようになることを目標としています。			
2. 授業内容 この授業は全回メディア授業（オンデマンド型）となります。毎回、講義動画を視聴し、小テストを受け、課題を提出してください。 第1回 a. ガイダンス b. 原価計算の意義と目的〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回 原価計算総論（制度としての原価計算、工業簿記の勘定体系と勘定連絡図）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 材料費の計算〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 労務費と経費の計算〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 製造間接費の計算（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 製造間接費の計算（2）、配賦差異の分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 部門別原価計算（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回 部門別原価計算（2）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 個別原価計算（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回 個別原価計算（2）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 総合原価計算（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 総合原価計算（2）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回 理論問題（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 活動基準原価計算〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 この授業はすべてメディア授業（オンデマンド型）です。 授業動画は毎週月曜日の午前9：00に配信されます。 毎回、講義動画を視聴後に小テストを受け、課題を提出するようにしてください。履修生は各自、オンライン授業を受講するための環境を整えてください。 授業に関する質問・問合せ・トラブルなどは、授業用のメールアドレス（「シラバスの補足」で開示します）に連絡してください。 詳細については、初回の授業ならびに「シラバスの補足」で説明します。 この授業は、原価計算論ⅠとⅡをセットで履修することが望ましいです。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業は、講義と計算から構成されます。授業のなかで履修者自らが計算し、確認する作業を繰り返すことは、単に原価計算方法を修得するだけではなく、原価計算により提供される情報の経営管理上の意義や限界を理解するのに役立つと期待されます。			
5. 教科書 上 埜 進（編著）『工業簿記・原価計算演習－理論と計算－〔第4版〕』税務経理協会、2015			
6. 参考書 櫻井 通晴『原価計算』同文館出版、2014年 廣本敏郎・挽 文子『原価計算論〔第3版〕』中央経済社、2015年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meijiを使ってフィードバックします。			
8. 成績評価の方法 毎週の小テスト（40％）と課題（40％）、小テストと課題への取り組み状況（20％）により総合的に評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ACC326J			
原価計算論Ⅱ〔M〕 【CAPクラス】			長 野 史 麻
2 単位	1 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 <CAPクラスの授業の概要> 原価計算の基本的な枠組みを理解したうえで、経営管理のための原価計算を扱っていきます。経営管理のための原価計算は、企業環境の変化とともに発展してきたものです。原価管理や利益管理、意思決定のための原価計算として、標準原価計算や原価予測、CVP分析、直接原価計算、営業費計算、意思決定会計を取り上げます。また、原価計算における新しい流れについても考察していきます。 <到達目標> 経営管理のための原価計算として、標準原価計算や原価予測、CVP分析、直接原価計算、営業費計算、意思決定会計を理解できるようになることを目標としています。			
2. 授業内容 この授業は全回メディア授業（オンデマンド型）となります。毎回、講義動画を視聴し、小テストを受け、課題を提出してください。 第1回 a. ガイダンス b. 原価計算の基礎の確認〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回 工程別総合原価計算〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 総合原価計算（減損・仕損・副産物・連産品）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 標準原価計算（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 標準原価計算（2）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 標準原価計算（3）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 製造業の会計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回 工場会計の独立〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 原価予測の方法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回 CVP分析（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 CVP分析（2）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 直接原価計算〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回 直接標準原価計算〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 営業費計算〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 この授業はすべてメディア授業（オンデマンド型）です。 授業動画は毎週月曜日の午前9：00に配信されます。毎回、講義動画を視聴後に小テストを受け、課題を提出するようにしてください。履修生は各自、オンライン授業を受講するための環境を整えてください。 メディア授業ですが、期末試験は全員が受験できる日時に和泉校舎で対面で行う予定です。 授業に関する質問・問合せ・トラブルなどは、授業用のメールアドレス（「シラバスの補足」で開示します）に連絡してください。 詳細については、初回の授業ならびに「シラバスの補足」で説明します。 この授業は、原価計算論ⅠとⅡをセットで履修することが望ましいです。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業は、講義と計算から構成されます。授業のなかで履修者自らが計算し、確認する作業を繰り返すことは、単に原価計算方法を修得するだけではなく、原価計算により提供される情報の経営管理上の意義や限界を理解するのに役立つと期待されます。			
5. 教科書 上 埜 進（編著）『工業簿記・原価計算演習－理論と計算－〔第4版〕』税務経理協会、2015年			
6. 参考書 廣本敏郎・挽 文子『原価計算論〔第3版〕』中央経済社、2015年 櫻井 通晴『原価計算』同文館出版、2014年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meijiを使ってフィードバックします。			
8. 成績評価の方法 毎週の小テスト（40％）と課題（40％）、小テストと課題への取り組み状況（20％）により総合的に評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ACC341J			
原価管理論A			森 光 高 大
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 【概要】 企業にとって利益とは、単体で発生する数字ではなく、あくまで収益から原価を控除して求められる計算結果である。そのため、利益獲得の確実性を高めるために、企業活動において原価管理は重要な意義を持つ。本講義ではこの原価管理について理解するために、まず会計の基本的な構造と様々な原価概念について講義を行う。またそれらを理解したうえで、伝統的な原価管理の方法について詳述する。 【到達目標】 基本的な会計の流れと財務諸表の仕組みを理解したうえで、原価管理、利益管理の伝統的な形態である標準原価管理やCVP分析、ABCの活用方法について適切に理解することを目標とする。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション：原価を管理することの意義 第2回 会計の基本①：財務諸表の基本的な構造 第3回 会計の基本②：原価の諸概念 第4回 コスト・ドライバー 第5回 短期利益計画とCVP分析 第6回 CVP分析の応用 第7回 小テスト 第8回 原価の測定 第9回 標準原価管理①：標準原価とは 第10回 標準原価管理②：直接材料費、直接労務費の差異分析 第11回 標準原価管理③：製造間接費の差異分析 第12回 活動基準原価計算(ABC)①： 第13回 活動基準原価計算(ABC)②： 第14回 全体の総括			
3. 履修上の注意 毎回、内容についての理解を促進するために講義内で設問に解答していただきます。こうした設問には計算問題も含まれますので、電卓を持参することを推奨します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業後は次の授業までに内容を復習し、講義内で扱った設問等もしっかり理解しておいてください。			
5. 教科書 講義でレジュメを配布するため、テキスト指定はなし。			
6. 参考書 谷武幸編著『エッセンシャル管理会計(第4版)』中央経済社			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義内での設問は基本的に講義内で解説の時間を設けますが、別途、Oh-o! Meijiを用いて解説を公開する場合もあります。			
8. 成績評価の方法 小テスト（20％）、講義内の設問やレポート等の平常点（20％）、定期試験（60％）によって評価を行います。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ACC341J			
原価管理論B			森 光 高 大
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 【概要】 企業にとって利益とは、単体で発生する数字ではなく、あくまで収益から原価を控除して求められる計算結果である。そのため、利益獲得の確実性を高めるために、企業活動において原価管理は重要な意義を持つ。本講義では原価のみならず、収益獲得の確実性を高める意思決定や戦略的な原価管理の在り方について講義する。また、原価や利益のみならず、資金管理の重要性についても詳述する。 【到達目標】 原価の測定に基づく原価管理だけでなく、原価管理に影響する各種意思決定および在庫管理、戦略的原価管理の各種手法の活用方法について適切に理解することを目標とする。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション：原価管理と収益管理の意義 第2回 資金管理とキャッシュフロー：経営活動における資金の重要性 第3回 業務的意思決定と原価管理①：差額原価、差額収益 第4回 業務的意思決定と原価管理②：埋没原価 第5回 設備投資の経済性計算①：資金の時間価値、複利計算、割引計算 第6回 設備投資の経済性計算②：回収期間法、正味現在価値法 第7回 設備投資の経済性計算③：内部利益率法、収益性指数法 第8回 小テスト 第9回 在庫管理と原価管理①：制約理論 第10回 在庫管理と原価管理②：ジャスト・イン・タイム 第11回 在庫管理と原価管理③：スループット 第12回 原価企画①：原価企画の基本的な思考 第13回 原価企画②：推進ツールとしてのVE 第14回 全体の総括			
3. 履修上の注意 毎回、内容についての理解を促進するために講義内で設問に解答していただきます。こうした設問には計算問題も含まれますので、電卓を持参することを推奨します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業後は次の授業までに内容を復習し、講義内で扱った設問等もしっかり理解しておいてください。			
5. 教科書 毎回講義でレジュメを配布するため、テキスト指定はなし。			
6. 参考書 谷武幸編著『エッセンシャル管理会計(第4版)』中央経済社 櫻井通晴『管理会計〔第七版〕』同文館出版 エリヤフ・ゴールドラット、三本木亮記『ゴールドラット博士のコストに縛られるな!』ダイヤモンド社			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義内での設問や課題は基本的に講義内で解説の時間を設けますが、別途、Oh-o! Meijiを用いて解説を公開する場合もあります。			
8. 成績評価の方法 小テスト（20％）、講義内の設問やレポート等の平常点（20％）、定期試験（60％）によって評価を行います。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ACC346E			
Management Accounting A〔M〕			長 野 史 麻
2 単位	3 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 Managerial accounting provides information to managers for use within the organization. It helps managers perform three vital activities – planning, controlling and decision making. Planning involves establishing goals and specifying how to achieve them. Controlling involves gathering feedback to ensure that the plan is being properly executed or modified as circumstances change. Decision making involves selecting a course of action from competing alternatives. Management Accounting A and B introduce the building blocks of management accounting. This includes managerial applications of technical and behavioral aspects of managerial accounting for budget planning, sensitivity analysis, performance management. Taking this course offers students an opportunity to develop their analytical skills and to learn essential management tools for the above-mentioned activities. Management Accounting A focuses on understanding the basic difference between financial and management accounting and the cost.			
2. 授業内容 Session 1 Course Introduction and Overview of Management Accounting A1.1 [Media-based class (On-demand type)] Session 2 Overview of Management Accounting A1.2[Media-based class (On-demand type)] Session 3 Overview of Management Accounting A1.3 [Media-based class (On-demand type)] Session 4 Overview of Management Accounting A1.4 [Media-based class (On-demand type)] Session 5 Cost Term and Concept A2.1[Media-based class (On-demand type)] Session 6 Cost Term and Concept A2.2 [Media-based class (On-demand type)] Session 7 Cost Term and Concept A2.3 [Media-based class (On-demand type)] Session 8 Cost Term and Concept A2.4 [Media-based class (On-demand type)] Session 9 Cost Behavior, cost drivers and cost estimation A3.1[Media-based class (On-demand type)] Session 10 Cost Behavior, cost drivers and cost estimation A3.2 [Media-based class (On-demand type)] Session 11 Cost Behavior, cost drivers and cost estimation A3.3 [Media-based class (On-demand type)] Session 12 Cost Behavior, cost drivers and cost estimation A3.4[Media-based class (On-demand type)] Session 13 Cost Behavior, cost drivers and cost estimation A3.5 [Media-based class (On-demand type)] Session 14 Revision [Media-based class (On-demand type)]			
3. 履修上の注意 Registration Requirement: Students are required to have completed foundation level Financial Accounting courses. The pre-recorded lecture videos will become available before Friday of the relevant week.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Pre-recorded lectures and the lecture slides are available for this course. They will become available via the course website. Students are expected to go through those materials during the relevant week. The sample solutions for the workshop questions will also become available so students are strongly encouraged to attempt those questions. In addition, students are welcome to make queries to the lecturer via email (rg00002@meiji.ac.jp).			
5. 教科書 NA.			
6. 参考書 Journal articles, Management Accounting: Information for Creating and Managing Value (ISBN: 0070997608)			
7. 課題に対するフィードバックの方法 By email and other online tools.			
8. 成績評価の方法 Weekly assessment piece/s (50%) and exam/s (50%). Detailed information on the assessment pieces and the exam will be provided by the lecturer on the first week of the semester.			
9. その他 NA			

科目ナンバー：(BA)ACC346E			
Management Accounting B〔M〕			長 野 史 麻
2 単位	3 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 Managerial accounting provides information to managers for use within the organization. It helps managers perform three vital activities – planning, controlling and decision making. Planning involves establishing goals and specifying how to achieve them. Controlling involves gathering feedback to ensure that the plan is being properly executed or modified as circumstances change. Decision making involves selecting a course of action from competing alternatives. Management Accounting A and B introduce the building blocks of management accounting. This includes managerial applications of technical and behavioral aspects of managerial accounting for budget planning, sensitivity analysis, performance management. Taking this course offers students an opportunity to develop their analytical skills and to learn essential management tools for the above-mentioned activities. Management Accounting B introduces budgeting to students.			
2. 授業内容 Session 1 Course Introduction and Reviewing Management Accounting A Session 2 Job Order Costing and Process Costing B1.1[Media-based class (On-demand type)] Session 3 Job Order Costing and Process Costing B1.1[Media-based class (On-demand type)] Session 4 Job Order Costing and Process Costing B1.1[Media-based class (On-demand type)] Session 5 Job Order Costing and Process Costing B1.1 [Media-based class (On-demand type)] Session 6 Operating Budget B2.1[Media-based class (On-demand type)] Session 7 Operating Budget B2.2 [Media-based class (On-demand type)] Session 8 Operating Budget B2.3 [Media-based class (On-demand type)] Session 9 Operating Budget B2.4 [Media-based class (On-demand type)] Session 10 Flexible Budget and Variance Analysis B3.1 [Media-based class (On-demand type)] Session 11 Flexible Budget and Variance Analysis B3.2 [Media-based class (On-demand type)] Session 12 Flexible Budget and Variance Analysis B3.3 [Media-based class (On-demand type)] Session 13 Flexible Budget and Variance Analysis B3.4 [Media-based class (On-demand type)] Session 14 Revision [Media-based class (On-demand type)]			
3. 履修上の注意 Registration Requirement: Students are required to have completed foundation courses for Financial Accounting and knowledge that has been acquired in Management Accounting A. The pre-recorded lecture videos will become available before Friday of the relevant week.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Pre-recorded lectures and the lecture slides are available for this course. They will become available via the course website. Students are expected to go through those materials during the relevant week. The sample solutions for the workshop questions will also become available so students are strongly encouraged to attempt those questions. In addition, students are welcome to make queries to the lecturer via email (rg00002@meiji.ac.jp).			
5. 教科書 NA.			
6. 参考書 Journal articles, Management Accounting: Information for Creating and Managing Value (ISBN: 0070997608)			
7. 課題に対するフィードバックの方法 By email and other online tools.			
8. 成績評価の方法 Weekly assessment piece/s (50%) and exam/s (50%). Detailed information on the assessment pieces and the exam will be provided by the lecturer on the first week of the semester.			
9. その他 NA			

科目ナンバー：(BA)ACC391J			
会計情報システム論A			本 橋 正 美
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 会計情報システム（AIS）は、データベースやネットワーク・システムなどの情報技術を基礎として、財務会計と管理会計を中心とした企業の全社的な経営管理システムの構成要素（モジュール）である。AISは、現実の企業でいくつかの役割ないし機能を果たすために利用されている。授業では、AISの基礎的な内容に焦点を合わせて、理論と実践（企業の事例）を取り上げる。 〈到達目標〉 会計情報システムの理論と実践に関する基礎知識が身に付けられるようにする。			
2. 授業内容 (1) 会計情報システムの概念と機能 (1) (2) 会計情報システムの概念と機能 (2) (3) 会計情報システムの一般的具備要件 (1) (4) 会計情報システムの一般的具備要件 (2) (5) (1)～(4) 回までの小テストとまとめ (6) 電子帳簿/財務報告とXBRL (1) (7) 電子帳簿/財務報告とXBRL (2) (8) 会計情報基準 (1) (9) 会計情報基準 (2) (10) (6)～(9) 回までの小テストとまとめ (11) 企業の戦略・組織とMCS (1) (12) 企業の戦略・組織とMCS (2) (13) 会計情報システムの内部統制 (1) (14) 会計情報システムの内部統制 (2)			
3. 履修上の注意 財務会計、管理会計、および情報システムに関する基礎知識を事前に習得しておくこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に配付するレジュメやプリントの該当箇所について必ず復習を行うこと。			
5. 教科書 レジュメとプリントを配付する。			
6. 参考書 本橋正美, 他編著『要説 管理会計事典』清文社, 2016年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の質疑およびOh-o! Meijiのクラスウェブ機能によってフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 小テスト2回（各25%）、定期試験（50%）の配分で評価する。			
9. その他 止むを得ない理由で授業を欠席する場合は、欠席を証明する書類を提出すること。			

科目ナンバー：(BA)ACC391J			
会計情報システム論B			本 橋 正 美
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 会計情報システム（AIS）は、データベースやネットワーク・システムなどの情報技術を基礎として、財務会計と管理会計を中心とした企業の全社的な経営管理システムの構成要素（モジュール）である。AISは、現実の企業でいくつかの役割ないし機能を果たすために利用されている。授業では、AISの各論的な内容に焦点を合わせて、理論と実践（企業の事例）を取り上げる。 〈到達目標〉 会計情報システムの理論と実践に関する基礎知識が身に付けられるようにする。			
2. 授業内容 (1) IT管理とERP (1) (2) IT管理とERP (2) (3) ERPと会計情報システム (1) (4) ERPと会計情報システム (2) (5) (1)～(4) 回までの小テストとまとめ (6) 財務会計システムの概要 (1) (7) 財務会計システムの概要 (2) (8) 多次元情報分析 (1) (9) 多次元情報分析 (2) (10) (6)～(9) 回までの小テストとまとめ (11) 管理会計システムの概要 (1) (12) 管理会計システムの概要 (2) (13) 会計情報システムの評価 (1) (14) 会計情報システムの評価 (2)			
3. 履修上の注意 財務会計、管理会計、および情報システムに関する基礎知識を事前に習得しておくこと。「会計情報システム論A」を履修していること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に配付するレジュメやプリントの該当箇所について必ず復習を行うこと。			
5. 教科書 レジュメとプリントを配付する。			
6. 参考書 本橋正美, 他編著『要説 管理会計事典』清文社, 2016年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の質疑およびOh-o! Meijiのクラスウェブ機能によってフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 小テスト2回（各25%）、定期試験（50%）の配分で評価する。			
9. その他 止むを得ない理由で授業を欠席する場合は、欠席を証明する書類を提出すること。			

科目ナンバー：(BA)ACC391J			
環境会計論 A			千葉貴律
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 環境会計は、企業等が行う環境保全活動に関する会計情報を、認識・測定・伝達するもので、その機能は、大きく内部機能と外部機能に分けられます。この授業では、環境会計の外部機能に焦点を当てて、関連する会計技法について講義することとします。具体的には、環境省『環境会計ガイドライン』にもとづいて、環境会計の概念、環境保全コスト、環境保全効果、環境保全対策に伴う経済効果などのトピックスについて取り上げていきます。また、新しい実務上の動向を反映させるケーススタディを用いながら、理論と実践の両面から検討を進めていきたいと思います。 <到達目標> 環境会計の基本的仕組み・機能、企業の実践に関する基礎知識の修得を目標とします。			
2. 授業内容 第1回 序論—環境会計とは何か：環境と会計の接点 第2回 環境報告の意義と態様 第3回 環境報告の概念的基礎 第4回 サステナビリティ関連情報のコア・コンテンツ (1)：ガバナンス 第5回 サステナビリティ関連情報のコア・コンテンツ (2)：戦略 第6回 サステナビリティ関連情報のコア・コンテンツ (3)：リスク管理 第7回 サステナビリティ関連情報のコア・コンテンツ (4)：指標及び目標 第8回 サステナビリティ関連の財務情報 第9回 TCFDの概要 第10回 第三者保証の基礎 第11回 第三者保証の実務 第12回 Carbon Pricing (1)：環境税と排出量取引 第13回 Carbon Pricing (2)：カーボンプレジットとカーボンオフセット 第14回 まとめ			
3. 履修上の注意 環境問題に対しては、会計によるアプローチよりも先に、科学技術開発や社会イノベーション、経済理論・経済政策、社会制度や国内外の法規制・国際的スキームなどが試行され、先行して取り組まれています。会計はそれらの後追的な側面もあるので、まずは環境問題への取り組みについて関心を持ってください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業だけで環境問題のすべての内容を紹介・解説することは困難です。環境関連の課題や取組事項、概念等を事前・事後に文献等で調べてください。特に、気候変動枠組み条約等を巡る国際的な動向は、しばしばニュース報道されていますから、それらについてもチェックをしてください。参考となりそうなニュース記事や資料等については、Oh-o! Meijiを通じて紹介します。			
5. 教科書 特に指定しません。 授業で参照する資料については、その都度配布します。			
6. 参考書 ① 環境省『環境報告ガイドライン2018年版』。 ② 環境省『環境会計ガイドライン2005年版』。 ③ 河野正男他編著（2013）、『サステナビリティ社会のための生態会計入門』森山書店。 ④ IIRC (2021), International<IR> Framework。 ⑤ TCFD (2022), "Final Report Recommendations of the Task Force on Climate related Financial Disclosures" ⑥ USEPA (1995), An Introduction to Environmental Accounting- As A Business Management Tool: An Introduction to Environmental Accounting As A Business Management Tool: Key Concepts And Terms ⑦ ISO14051：2011 Material flow cost accounting — General framework ⑧ ISO14052：2017 Material flow cost accounting — Guidance for practical implementation in a supply chain ⑨ ISO14053：2021 Material flow cost accounting — Guidance for phased implementation in organizations など			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に行う小テストについては、次回授業で答え合わせやコメントを行います。 定期試験については、授業終了後となるので、Oh-o! Meiji 等を通じた講評となります。			
8. 成績評価の方法 対面式授業であるので、全講義時間14回のうち、10回以上の出席があることを評価の前提とします。 そのうえで、毎回の授業で行う小テスト・課題（50％）と、定期試験（50％）で評価します。 なお、定期試験では、電卓以外の資料その他の持ち込みは不可とします。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ACC391J			
環境会計論 B			千葉貴律
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 環境会計論の発展形態として、企業内部に導入されている環境管理会計の手法について、わが国のみならず諸外国の動向も踏まえながら授業を進めていきます。具体的には、伝統的企業会計と環境会計の体系の相違を確認したうえで、循環型社会と環境経営との関連性、さらに環境管理会計として提案されている主な管理方法について、実践的な観点から検討していきます。 <到達目標> 環境管理会計の基礎となる概念と具体的な手法を修得することを目標とします。			
2. 授業内容 第1回 序論：環境マネジメント会計入門 第2回 環境会計の歩み (Part1)：社会責任会計の展開 第3回 環境会計の歩み (Part1)：事例研究・水俣病 第4回 環境会計の歩み (Part2)：環境マネジメントと環境監査 第5回 環境会計の歩み (Part2)：WBCFDと国際標準化 第6回 環境会計の歩み (Part3)：USEPAのアプローチ 第7回 環境会計の歩み (Part3)：ライフサイクル思考 第8回 環境省環境会計ガイドラインのフレームワーク 第9回 環境省環境会計ガイドラインの演習 第10回 マテリアルフローコスト会計 (1)：原理と基本要素 第11回 マテリアルフローコスト会計 (2)：ケーススタディ 第12回 環境効率・ファクター指標 第13回 環境品質原価計算の基礎 第14回 まとめ			
3. 履修上の注意 環境問題に対しては、会計によるアプローチよりも先に、科学技術開発や社会イノベーション、経済理論・経済政策、社会制度や国内外の法規制・国際的スキームなどが試行され、先行して取り組まれています。会計はそれらの後追的な側面もあるので、まずは環境問題への取り組みについて関心を持ってください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業だけで環境問題のすべての内容を紹介・解説することは困難です。環境関連の課題や取組事項、概念等を事前・事後に文献等で調べてください。特に、気候変動枠組み条約等を巡る国際的な動向は、しばしばニュース報道されていますから、それらについてもチェックをしてください。参考となりそうなニュース記事や資料等については、Oh-o! Meijiを通じて紹介します。			
5. 教科書 特に指定しません。 授業で参照する資料については、その都度配布します。			
6. 参考書 ① 環境省『環境報告ガイドライン2018年版』。 ② 環境省『環境会計ガイドライン2005年版』。 ③ 河野正男他編著（2013）、『サステナビリティ社会のための生態会計入門』森山書店。 ④ IIRC (2021), International<IR> Framework。 ⑤ TCFD (2022), "Final Report Recommendations of the Task Force on Climate related Financial Disclosures" ⑥ USEPA (1995), An Introduction to Environmental Accounting- As A Business Management Tool: An Introduction to Environmental Accounting As A Business Management Tool: Key Concepts And Terms ⑦ ISO14051：2011 Material flow cost accounting — General framework ⑧ ISO14052：2017 Material flow cost accounting — Guidance for practical implementation in a supply chain ⑨ ISO14053：2021 Material flow cost accounting — Guidance for phased implementation in organizations など			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に行う小テストについては、次回授業で答え合わせやコメントを行います。 定期試験については、授業終了後となるので、Oh-o! Meiji 等を通じた講評となります。			
8. 成績評価の方法 対面式授業であるので、全講義時間14回のうち、10回以上の出席があることを評価の前提とします。 そのうえで、毎回の授業で行う小テスト・課題（50％）と、定期試験（50％）で評価します。 なお、定期試験では、電卓以外の資料その他の持ち込みは不可とします。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) ACC381J			
税務会計論 A			金子友裕
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 法人税法における課税所得計算は、確定決算主義に基づき企業会計の利益計算に基づくことから税務会計と呼ぶことがある。税務会計論基礎及び税務会計論応用を通じて、法人税法における課税所得計算の各項目を学習し、基本的な申告書の作成練習を行うことで、税務会計の理論的内容の理解及び実践的技術の習得を目的とする。 税務会計論基礎では、日本の税法を概観し、法人税における課税所得計算の基礎的な内容を学習する。 なお、法人税法に従った処理は、経理業務において必須のスキルとなると考えられるので、金融業界や経理職等への進路を考えている学生はしっかりと学習してもらいたい。 〈到達目標〉 1. 税務会計の概要について理解し、説明できる。 2. 日本の税法の種類と特徴を理解し、説明できる。 3. 法人税法における税務調整項目を理解し、正しく処理することができる。			
2. 授業内容 第1回 税務会計の概要及びイントロダクション 第2回 所得税法の概要 第3回 相続税法の概要 第4回 納税義務者、事業年度等 第5回 確定決算主義、青色申告制度等 第6回 法人税法における課税所得計算の概要 第7回 益金の額及び損金の額 第8回 交際費等 第9回 寄附金（一般寄附金） 第10回 寄附金（指定寄附金等） 第11回 同族会社 第12回 役員給与 第13回 課税所得計算の確認 第14回 別表四及び別表一の作成・期末試験 ※学生の要望や進捗等により変更する場合がある。			
3. 履修上の注意 内容の理解には、初歩的な簿記の知識（簡単な仕訳程度）が必要である。また、計算処理もあるため電卓を持参すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストの該当部分を予め読んでおくことを推奨するが、基本的に事後学習により講義内容を再確認してもらいたい。 事前学習及び事後学習の取組時間の目安は合わせて60分程度である。			
5. 教科書 金子友裕『法人税法入門講義』第9版、中央経済社（2025年3月頃に出版予定、2,700円程度）			
6. 参考書 全国経理教育協会『法人税法能力検定試験2級 最新過去問題集』（例年7月頃発刊予定、1,300円程度）			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 平常点（リアクションペーパー・小テスト・レポート等）：30%程度 期末試験：70%程度			
9. その他			

科目ナンバー：(BA) ACC381J			
税務会計論 B			金子友裕
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 法人税法における課税所得計算は、確定決算主義に基づき企業会計の利益計算を基礎とすることから税務会計と呼ぶことがある。法人税法における課税所得計算の各項目を学習し、基本的な申告書の作成練習を行うことで、税務会計の理論的内容の理解及び実践的技術の習得を目的とする。 税務会計論Bでは、法人税における課税所得計算のプロセスを学習し、基本的な内容の申告書の作成を行う。 〈到達目標〉 1. 税務会計の概要について理解し、説明できる。 2. 法人税法における税務調整項目を理解し、正しく処理できる。 3. 法人税法における課税所得算定のプロセスを理解し、基本的な内容の申告書が作成できる。			
2. 授業内容 第1回 税務会計の概要及びイントロダクション 第2回 消費税法の概要 第3回 別表四・別表一の作成 第4回 租税公課 第5回 受取配当等の益金不算入、所得税額控除 第6回 有価証券 第7回 棚卸資産 第8回 減価償却（基礎的な計算） 第9回 減価償却（繰越償却超過額等の計算） 第10回 圧縮記帳 第11回 繰延資産 第12回 貸倒損失、貸倒引当金 第13回 その他の税務調整 第14回 法人税の申告書の作成・期末試験 ※学生の要望や進捗等により変更する場合がある。			
3. 履修上の注意 内容の理解には、初歩的な簿記の知識が必要である。また、税務会計論Aから引き続く内容である。本講義は、基本的に講義形式で行う。最終的に試験を行う予定であるが、進捗によっては中間にレポートまたは小テストを行い理解度の確認を行う可能性がある。本講義では、理論的学習のみならず、法人税法の申告書の作成に関する内容も含め、計算処理も含まれるため電卓を持参すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストの該当部分を予め読んでおくことを推奨するが、基本的に事後学習により講義内容を再確認してもらいたい。 事前学習及び事後学習の取組時間の目安は合わせて60分程度である。			
5. 教科書 金子友裕『法人税法入門講義』第9版、中央経済社（2025年3月頃に出版予定、2,700円程度）			
6. 参考書 全国経理教育協会『法人税法能力検定試験2級 最新過去問題集』（例年7月頃発刊予定、1,300円程度）			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 平常点（リアクションペーパー・小テスト・レポート等）：30%程度 期末試験：70%程度			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ACC391J			
公会計論 【会計学科・公共経営学科共同設置】			東 信 男
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 公会計とは、公的部門の会計のことである。本授業では、我が国における公会計の全体像を把握できるように、国及び地方公共団体に加え、国の政策実施機関である独立行政法人と、地方公共団体が経営する地方公営企業を取り上げる。国及び地方公共団体の公会計制度は、現金主義・単式簿記を採用しているが、説明責任の履行、財政活動の効率化等を図るうえで課題があることから、近年、公会計改革が行われ、発生主義等の企業会計の手法が導入された。一方、独立行政法人及び地方公営企業の公会計制度は、発生主義・複式簿記を採用しているが、企業会計とは異なる会計処理が行われている。 本授業では、国及び地方公共団体について、公会計の現行制度について解説するとともに、公会計改革の背景にある現行制度の課題を論じる。そして、国及び地方公共団体で行われた公会計改革を取り上げ、新たに作成されるようになった財務書類について解説するとともに、発生主義会計情報の活用事例を紹介する。また、独立行政法人及び地方公営企業について、制度設計とともに、それを反映させた公会計の現行制度について解説する。〈到達目標〉 我が国の公会計制度、国及び地方公共団体の公会計改革について専門的知識を体系的に習得すること。また、発生主義会計情報を用いた財政分析を行い、実践的な問題発見・解決能力を習得すること。			
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション b：国の財政状況 第2回 公会計の枠組み 第3回 国の予算・決算制度 第4回 国の財産管理制度 第5回 国の政策評価制度 第6回 国の公会計改革（1） 第7回 国の公会計改革（2） 第8回 独立行政法人の公会計制度 第9回 地方公共団体の予算・決算制度と財産管理制度 第10回 地方公共団体の公会計改革（1） 第11回 地方公共団体の公会計改革（2） 第12回 地方公営企業の公会計制度 第13回 課題（財政分析）の発表と討論 第14回 a：期末試験 b：正答解説			
3. 履修上の注意 本授業は、対話型及び問題発見・解決型教育の手法を採用するので、受講生への質問、発表及び討論を実施する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第2回以降の授業は、テキストに沿って行うので、授業中の質疑応答に参加できるように、予習として該当章を読了するとともに、当該章末にある演習の解答を作成すること。授業では、各章の内容を具体的に説明したり、演習の解答を解説したりするので、ノートを取り、復習として演習とノートを照らし合わせながら試験対策を行うこと。			
5. 教科書 担当教員が作成したテキスト「公会計の理論と制度－公会計制度と国際公会計基準（IPSAS）－」を使用する。Oh-o! Meijiのクラスウェブにテキストをアップロードするので、ダウンロードして授業に持参すること。テキスト以外の資料も全てクラスウェブにアップロードするので、ダウンロードして授業に持参すること。			
6. 参考書 テキストの参考文献を参照すること。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については、授業中に受講生の発表に対して講評を行うので、講評内容を反映させた最終報告を提出すること。期末試験については、第14回のbモジュールで正答解説と講評を行う。			
8. 成績評価の方法 授業への貢献度（20％）、課題（20％）及び期末試験（60％）により評価する。			
9. その他 この授業は、担当教員の実務経験を活かした実践的な内容になっている。			

科目ナンバー：(BA)ACC391J			
NPO会計論 【会計学科・公共経営学科共同設置】			石 津 寿 恵
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 授業は対面で行いますが、社会状況等によりメディア授業となることもあります。また、公務等の関係で数度メディア授業を採り入れることもあり得ます。いずれの場合もクラスウェブでお知らせしますのでご確認をお願いします。 〈概要〉 「新しい資本主義」ということが言われていますが、様々な社会的課題解決のために民が取組む公益サービスは益々重要度を増しています。とりわけ非営利組織体の活動への期待は一層高まっています。非営利組織（NPO）は、営利組織（株式会社等）とは異なり利益の獲得を主たる目的とする組織体ではありません。しかし、NPOも組織である以上、資金を適切に管理するとともに、資金提供者に対して説明責任を果たしていく必要があります。そのためのツールが会計となります。当講義では、NPOの活動をお金の面から理解するようにします。NPOにはプライベートセクター（公益法人、学校法人、医療法人、特定非営利活動法人など）と、パブリックセクター（地方自治体など）がありますが、本講義はこのうちプライベートセクターを取り上げ、セクターの機能、会計の目的、会計基準などについて検討します。検討に当たっては、実際に存在する組織の情報をを用いていきます。また、アメリカにおけるNPO会計なども比較考量していきます。〈到達目標〉 様々なNPOの会計の基礎を修得することにより、NPOの活動を会計の面から理解する。			
2. 授業内容 第1回：講義の概要 第2回：情報開示と資金調達 第3回：公益法人制度・会計（概要） 第4回：公益法人会計（事例） 第5回：NPO法人制度・会計（概要） 第6回：NPO会計(事例) 第7回：授業時間内レポート作成 第8回：非営利法人の税務 第9回：学校法人制度・会計（概要） 第10回：学校法人会計(事例) 第11回：授業時間内レポート作成 第12回：社会福祉法人制度・会計（概要） 第13回：非営利組織会計の国際的動向 第14回：授業のまとめ			
3. 履修上の注意 NPO会計の理解を深めるため、2回のグループワークによるレポート作成を行います。グループでレポートを作成するので積極的に参加していただきたいと思います（ただし、教室での作成が基本ですが申請により個人による自宅作成も認めます）。 会計学科・公共経営学科、両学科の学科専門科目ですので、履修登録時は登録する科目区分に注意してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 NPO（公益法人、学校法人、社会福祉法人、特定非営利活動法人など）がどのような活動をしているのかについてイメージを持っておく、授業にスムーズに入ることが出来ます。			
5. 教科書 石津寿恵他（2023）『非営利組織会計の基礎知識-寄付等の支援先を選ぶために-』（白桃書房）。			
6. 参考書 日本公認会計士協会編『非営利法人会計小六法』中央経済社 石崎忠司・黒川和美編著『公共性志向の会計学』中央経済社			
7. 課題に対するフィードバックの方法 クイズを取り入れますので、ご自分の理解度を確認しながら授業に取り組むことが出来ます。			
8. 成績評価の方法 平常点（40％）、授業時間内レポート作成（2回）（各30％）による。期末試験はありません。			
9. その他 初回時に「授業の進め方」のプリントを配布するので熟読すること。授業の進め方等に変更がある場合は、クラスウェブでお知らせしますので、確認をお願いします。			

科目ナンバー：(BA)ACC391J			
会計史A			森田 広 大
2 単位	1 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 簿記（複式簿記）は、概ね13世紀～14世紀頃、中世イタリア社会において商人たちによって生み出されたといわれている。中世イタリア社会を起源とする簿記システムは、商業の発展とともに世界各地へと伝播し、その地域の社会的特徴（産業、法制度など）を反映しながら発達してきた。各地で発達した簿記システムは、英米型（イギリスおよびアメリカで発達したもの）と大陸型（ヨーロッパ大陸で発達したもの）の2つに大別することができる。 会計史Aの授業では、主として英米型簿記システムの展開について、中世イタリアを出発点として、ネーデルラント、イギリスおよびアメリカを経て、我が国へ簿記システムがもたらされ、定着していく過程を講義する。 〈到達目標〉 中世イタリアにおいて誕生した簿記システムが、ネーデルラント、イギリスおよびアメリカを経て、我が国へもたらされるまでの過程について説明することができる。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション、重要用語の解説、英米ルートの概説 第2回 複式簿記の成立要件 第3回 中世イタリアにおける簿記 第4回 16世紀～17世紀のネーデルラントにおける簿記の展開 第5回 イギリスにおける簿記の摂取 ―16世紀および17世紀前半のイギリス簿記書― 第6回 イギリスにおける簿記の展開（1）―17世紀後半のイギリス簿記書― 第7回 イギリスにおける荘園会計の展開 第8回 イギリスにおける簿記の展開（2）―18世紀イギリス簿記書― 第9回 イギリスにおける簿記の展開（3）―18世紀における単式簿記の展開― 第10回 アメリカにおける簿記の展開（1）―19世紀前半の簿記書― 第11回 アメリカにおける簿記の展開（2）―19世紀後半の簿記書― 第12回 我が国における英米型簿記システムの摂取 第13回 我が国における英米型簿記システムの展開（1）―19世紀後半～20世紀前半の簿記書― 第14回 我が国における英米型簿記システムの展開（2）―20世紀後半の簿記書―			
3. 履修上の注意 簿記、財務会計および管理会計に関する基礎知識を身につけたうえで履修すること。また、授業内では計算する機会があるので、電卓を持参すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：事前に各回の授業内容のポイント（前提となる簿記、財務会計および管理会計の基礎知識ならびに歴史的背景）を説明するので、その内容を確認する。 復習：各回で配布されるレジュメを読み直し、内容をまとめる。			
5. 教科書 教科書は特に指定しない。授業内容をまとめたレジュメを配布する。			
6. 参考書 『アメリカ簿記史―アメリカ会計史序説―』久野光朗（同文館出版） 『近代会計入門 〔第2版〕』中野常男・清水泰洋編著（同文館出版） 『イギリス簿記史論 ―17世紀イングランド簿記書の研究―』森田 広大（森山書店）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメントに関する総括を次の授業の冒頭で行う。			
8. 成績評価の方法 期末試験80%、リアクション・ペーパーの内容20%により、総合的に評価する。			
9. その他 受講に際して、商業史や経済史の知識があると授業内容の理解が深まる。			

科目ナンバー：(BA)ACC391J			
会計史B			森田 広 大
2 単位	1 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 簿記（複式簿記）は、概ね13世紀～14世紀頃、中世イタリア社会において商人たちによって生み出されたといわれている。中世イタリア社会を起源とする簿記システムは、商業の発展とともに世界各地へと伝播し、その地域の社会的特徴（産業、法制度など）を反映しながら発達してきた。各地で発達した簿記システムは、英米型（イギリスおよびアメリカで発達したもの）と大陸型（ヨーロッパ大陸で発達したもの）の2つに大別することができる。 会計史Bの授業では、主として大陸型簿記システムの展開について、中世イタリアを出発点として、ネーデルラント、フランスおよびドイツを経て、我が国へ簿記システムおよび商法がもたらされ、定着していく過程を講義する。 〈到達目標〉 中世イタリアにおいて誕生した簿記システムが、ネーデルラント、フランスおよびドイツを経て、我が国へもたらされるまでの過程について説明することができる。			
2. 授業内容 第1回 オリエンテーション、重要用語の解説、大陸ルートの概説 第2回 16世紀～17世紀のフランスにおける簿記の展開 第3回 フランス商事王令とサヴァリーによる解説書 第4回 プロイセン一般国法成立前のドイツにおける簿記の展開（1）―マーゲルセンによる簿記書― 第5回 プロイセン一般国法成立前のドイツにおける簿記の展開（2）―ブッシュによる簿記書― 第6回 プロイセン一般国法の形成過程 第7回 プロイセン一般国法「商人の法」における会計規定 第8回 プロイセン一般国法成立後のドイツにおける簿記（単式簿記）の展開（1） ―ストリッカーによる単式簿記― 第9回 プロイセン一般国法成立後のドイツにおける簿記（単式簿記）の展開（2） ―ジョーンズのイギリス式簿記に対する批判とその後の展開― 第10回 プロイセン一般国法成立後のドイツにおける簿記（複式簿記）の展開（1） ―ゲアハルト、ヒングステッドおよびブーゼによる簿記書を中心に― 第11回 プロイセン一般国法成立後のドイツにおける簿記（複式簿記）の展開（2） ―ロイヒスによる簿記書― 第12回 ドイツ商法と我が国における商法の導入 第13回 我が国における大陸型簿記システムの摂取 第14回 第二次世界大戦後の我が国における会計制度の展開			
3. 履修上の注意 簿記、財務会計および管理会計に関する基礎知識を身につけたうえで履修すること。また、授業内では計算する機会があるので、電卓を持参すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：事前に各回の授業内容のポイント（前提となる簿記、財務会計および管理会計の基礎知識ならびに歴史的背景）を説明するので、その内容を確認する。 復習：各回で配布されるレジュメを読み直し、内容をまとめる。			
5. 教科書 教科書は特に指定しない。授業内容をまとめたレジュメを配布する。			
6. 参考書 岸悦三（1975）『会計生成史―フランス商事王令会計規定研究―』同文館出版 百瀬房徳（1998）『貸借対照表法の生成史』森山書店			
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメントに関する総括を次の授業の冒頭で行う。			
8. 成績評価の方法 期末試験80%、リアクション・ペーパーの内容20%により、総合的に評価する。			
9. その他 受講に際して、商業史や経済史の知識があると授業内容の理解が深まる。			

科目ナンバー：(BA)ACC381J			
法人税法A			加藤友佳
2単位	3年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 租税は日常生活に深くかかわっていることから、その根拠法となる租税法は会計士や税理士等の専門職を目指す学生だけでなく、すべての納税者に必要な知識である。この講義では、法人税法について時事問題と関連する具体的事例を交えながら、法人税の基礎的概念を多角的に学習する。 〈到達目標〉 本講義は、法人税法を企業側と課税庁側の双方の視点から学び、課税の法的理論を修得することを目標とする。			
2. 授業内容 第1回：国民の生活と租税 第2回：法人税と所得税 第3回：法人税の納税義務者 第4回：法人税法と企業会計 第5回：益金（1）有償譲渡と無償譲渡 第6回：益金（2）低額譲渡と別段の定め 第7回：損金（1）交際費 第8回：損金（2）役員給与 第9回：税理士セミナー 第10回：法人税額の計算 第11回：企業組織再編 第12回：同族会社と租税回避 第13回：事業体課税と信託 第14回：a 講義全体のふりかえり b 試験			
3. 履修上の注意 私語厳禁。法律の前提知識がなくてもわかりやすいように、日常生活に結び付けながら法人税法を学習していきますが、法的思考を学ぶ姿勢を求めます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 水野忠恒編『テキストブック租税法〔第3版〕』（中央経済社、2022年）の該当箇所を予め一読しておき、前回までの授業内容との関連性を把握しておく。			
5. 教科書 水野忠恒編『テキストブック租税法〔第3版〕』（中央経済社、2022年）			
6. 参考書 中里実他編『租税判例百選〔第7版〕』（有斐閣、2021年）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間テストの結果については次回授業中にコメントする。			
8. 成績評価の方法 中間テスト、期末テスト、税理士ゲスト講座でのリアクションペーパーの成績によって評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ACC381J			
法人税法B			加藤友佳
2単位	3年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 経済のグローバル化やデジタル化に伴い、法人税法は最新の国際的取引への対応を求められており、有名企業に対する課税処分が新聞等で報道されることも少なくない。本講義では、租税法の花形といわれる法人の国際課税について、最新の話題を交えながら学習する。 〈到達目標〉 国際的な経済取引について法人税法の観点から理解し、時事問題と法人税の関係を考察できるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 第1回：国際的な租税競争 第2回：租税の基本原則 第3回：実質所得者課税の原則 第4回：納税手続き 第5回：租税条約―国内ルールだけでは足りない？ 第6回：中間テスト 第7回：国内源泉所得 第8回：投資所得と源泉徴収―特許権に対する課税 第9回：国外事業所得―知らないうちに海外へネット注文！？ 第10回：タックスヘイブン対策税制 第11回：移転価格税制 第12回：課税権の確保 第13回：国際的企業再編 第14回：a 講義全体のふりかえり b 試験			
3. 履修上の注意 私語厳禁。法律の知識がなくてもわかりやすいように、日常生活に結び付けながら法人税法を学習していきますが、税法、法人税法Aの履修を前提とします。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 水野忠恒編『テキストブック租税法〔第3版〕』（中央経済社、2022年）の該当箇所を予め一読しておき、前回までの授業内容との関連性を把握しておく。			
5. 教科書 水野忠恒編『テキストブック租税法〔第3版〕』（中央経済社、2022年）			
6. 参考書 中里実他編『租税判例百選〔第7版〕』（有斐閣、2021年）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間テストの結果については次回授業中にコメントする。			
8. 成績評価の方法 中間テスト、期末テストの成績により評価します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
会計学外国書講読A 【使用言語：英語】			千葉貴律
2単位	3年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <授業の概要> 国際標準化機構（ISO）において国際規格（International Standard）として開発された「マテリアルフローコスト会計（MFCA）規格」（ISO14050s）を題材に、MFCAの手法の概要について習得するとともに、会計手法が国際規格化されるということがどのようなことなのかについて、考察します。 <到達目標> MFCAの概要についてマスターすることと、国際規格化を進めるプロセスについて理解することを目標とします。			
2. 授業内容 第1回 環境マネジメント国際規格の体系と経緯 第2回 MFCAの基本構造 第3回 Quick Reference to MFCA 第4回 MFCA規格：Scope, Terms and Definitions 第5回 MFCA規格：Objective and Principles 第6回 MFCA規格：Fundamental Elements 第7回 MFCA規格：Implementation Steps 第8回 Phased implementation in organizations (1) calculation phases 第9回 Phased implementation in organizations (2) MFCA summary sheet 第10回 Phased implementation in organizations (3) MFCA analysis 第11回 Case Examples [1]: SME Food company 第12回 Case Examples [2]: SME agri-food sector 第13回 Case Examples [3]: NPO cost 第14回 まとめ			
3. 履修上の注意 MFCAについての事例紹介や実務解説は既に数多く公表されていますから、それらと国際規格との異同や実践することによって生じた成果に着目すると、国際規格を開発・策定する際のポイントに気づくことができます。 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があるので、履修に際しては事前登録が必要です。 詳細は、「経営学部履修の手引」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ISO規格の多くは、日本の国内規格（JIS）に採用され、国内規格としても適用されています。それゆえ、用語の訳語や使い方も統一されている点に留意してください。通常とは異なる定義や意味合いで用いられている場合もあります。			
5. 教科書 ① ISO14051：2011 Environmental Management - Material flow cost accounting — General framework ② ISO14052：2017 Environmental Management - Material flow cost accounting — Guidance for practical implementation in a supply chain ③ ISO14053：2021 Environmental Management - Material flow cost accounting — Guidance for phased implementation in organizations			
6. 参考書 MFCAに関する日本語文献はたくさん出版されており、事例紹介も少なくないので、特に指定はしません。 規格原文だけでわからないところは、それらを参照するのも学習の手助けになると思います。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業で行う小テストについては、次回授業で答え合わせやコメントを行います。			
8. 成績評価の方法 対面式授業であるので、全講義時間14回のうち、10回以上の出席があることを評価の前提とします。 そのうえで、毎回の授業で行う小テスト・課題（50％）と、定期試験（50％）で評価します。 なお、定期試験では、電卓以外の資料その他の持ち込みは不可とします。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
会計学外国書講読B 【使用言語：英語】			千葉貴律
2単位	3年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <授業の概要> 国際標準化機構（ISO）において国際規格（International Standard）として開発された「マテリアルフローコスト会計（MFCA）規格」（ISO14051:2011）を題材に、MFCAのケーススタディを検討するとともに、それらの手法を運用するための環境マネジメント規格群（ISO14000s）の国際的動向について、考察します。 <到達目標> MFCAに関するケーススタディを掘り下げて理解することと、環境マネジメントの国際的な動向について、その方向性と手法について理解することを目標とします。			
2. 授業内容 第1回 MFCAの事例研究 第2回 MFCA規格：MCA and Conventional Cost Accounting 第3回 MFCA規格：Cost calculation and allocation 第4回 MFCA規格：Material and efficiency in supply chain 第5回 MFCA規格：Information-sharing on MFCA analysis 第6回 MFCA規格：Steps for implementation of MFCA in a supply chain (1) 第7回 MFCA規格：Steps for implementation of MFCA in a supply chain (2) 第8回 Case Examples [1]: lens manufacturing factory 第9回 Case Examples [2]: furniture manufacturing factory 第10回 Case Examples [3]: coffee bean manufacturing factory 第11回 Case Examples [4]: pharmaceutical industry 第12回 Case Examples [5]: peanut snack producer 第13回 EU環境戦略 第14回 まとめ			
3. 履修上の注意 MFCAやEMSについての事例紹介や実務解説は既に数多く公表されていますから、それらと国際規格との異同や、運用事例相互の違いに留意してもらえると、より深い理解につながると考えます。 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があるので、履修に際しては事前登録が必要です。 詳細は、「経営学部履修の手引」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ISO規格の多くは、日本の国内規格（JIS）に採用され、国内規格としても適用されています。それゆえ、用語の訳語や使い方も統一されている点に留意してください。通常とは異なる定義や意味合いで用いられている場合もあります。			
5. 教科書 ① ISO14051：2011 Environmental Management - Material flow cost accounting — General framework ② ISO14052：2017 Environmental Management - Material flow cost accounting — Guidance for practical implementation in a supply chain ③ ISO14053：2021 Environmental Management - Material flow cost accounting — Guidance for phased implementation in organizations			
6. 参考書 MFCAに関する日本語文献はたくさん出版されており、事例紹介も少なくないので、特に指定はしません。 規格原文だけでわからないところは、それらを参照するのも学習の手助けになると思います。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業で行う小テストについては、次回授業で答え合わせやコメントを行います。			
8. 成績評価の方法 対面式授業であるので、全講義時間14回のうち、10回以上の出席があることを評価の前提とします。 そのうえで、毎回の授業で行う小テスト・課題（50％）と、定期試験（50％）で評価します。 なお、定期試験では、電卓以外の資料その他の持ち込みは不可とします。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
会計学外国書講読A 【使用言語：英語】			森田 広 大
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 複式簿記は、中世イタリア社会で考案され、世界各地へと伝播した。複式簿記は、誕生から現代に至るまで、「取引の複式記録」という基本的な原理を貫いているものの、帳簿組織や記帳手続きについては改良が加えられている。 我が国は、明治期に西洋より簿記システムを導入した。当時の西洋における簿記教科書で解説された帳簿組織や記帳手続きについても現代日本における簿記教科書の記述とは異なる点が多数存在する。そこで、外国書講読Aでは、我が国における複式簿記の導入に関係する英語文献のうち、『帳合之法』の原文である“Bryant And Stratton's Common School Book-keeping Embracing Single And Double Entry”を精読し、現代簿記との比較を行う。また、明治期より約150年の間で、我が国（現代）で展開される複式簿記に加えられた改良点についても言及する。 〈到達目標〉 外国文献を翻訳し、その内容を理解したうえで、帳簿組織や記帳手続きについて、過去と現代の異同を説明できる。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション、講読対象となる文献が出版された時代背景の説明 第2回 複式簿記の用語 第3回 複式簿記の解説 第4回 記帳事例（SET I）の訳出 第5回 記帳事例（SET I）の考察 第6回 記帳事例（SET II）の訳出 第7回 記帳事例（SET II）の考察 第8回 記帳事例（SET III）の訳出 第9回 記帳事例（SET III）の考察 ―帳簿組織の考察を中心として― 第10回 記帳事例（SET III）の考察 ―簿記処理および諸表の考察を中心として― 第11回 記帳事例（SET IV）の訳出 第12回 記帳事例（SET IV）の考察 第13回 現代簿記との比較 第14回 a：試験 b：総まとめ			
3. 履修上の注意 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があるので、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：指定された英文を和訳する。 復習：授業で扱った内容について現代日本の簿記テキストと比較し、その内容をまとめる。			
5. 教科書 “Bryant And Stratton's Common School Book-keeping Embracing Single And Double Entry” by H.B.Bryant, H.D.Stratton and S.S.Packard (Iverson,Blakeman,Taylor & Company) ※授業で取り上げる箇所のコピーを配布する。			
6. 参考書 『アメリカ簿記史ーアメリカ会計史序説ー』久野光朗（同文館出版）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出された和訳について、授業内でコメントする。			
8. 成績評価の方法 試験50%、課題（翻訳）の取り組み50%により、総合的に評価する。			
9. その他 履修者は第1回の授業に必ず出席し、受講のルールについて確認すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
会計学外国書講読B 【使用言語：英語】			森田 広 大
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 単式簿記から複式簿記へ展開したと認識されている傾向にあるが、歴史的には複式簿記が先行して生み出され、その簡略版として単式簿記が考案された。したがって、単式簿記は、簡便簿記（簡略化された複式簿記）として位置づけられる。現代の会計実務では、複式簿記による取引記録が主流であるものの、「簡易帳簿による記帳」として、単式簿記を採用している事業者もみられる。単式簿記による取引記録は様々な方法が想定されるため、この記録システムの基本的な考え方を理解しておくことが必要となる。また、単式簿記が複式簿記から派生したものであるため、単式簿記の仕組みを理解することは複式簿記の仕組みを理解するうえでも重要である。 そこで、我が国においては、明治期に西洋から複式簿記と同時に単式簿記の導入を試みている。この授業では、我が国における単式簿記の導入に関係する英語文献のうち、『帳合之法』の原文である“Bryant And Stratton's Common School Book-keeping Embracing Single And Double Entry”を精読し、複式簿記と比較しつつ、単式簿記について検討を行うこととする。 〈到達目標〉 外国文献を翻訳し、その内容を理解したうえで、単式簿記の意義およびその記帳体系の多様性について説明することができる。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション、講読対象となる文献が出版された時代背景の説明 第2回 序文の訳出 第3回 序文の解説 第4回 記帳事例（SET I）の訳出 第5回 記帳事例（SET I）の考察 第6回 記帳事例（SET II）の訳出 第7回 記帳事例（SET II）の考察 第8回 記帳事例（SET III）の訳出 第9回 記帳事例（SET III）の考察 第10回 記帳事例（SET IV）の訳出 第11回 記帳事例（SET IV）の考察 第12回 単式簿記の多様性 第13回 単式簿記と複式簿記の比較 第14回 a：試験 b：総まとめ			
3. 履修上の注意 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があるので、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：指定された英文を和訳する。 復習：授業で扱った内容を踏まえて、単式簿記と複式簿記の相違点をまとめる。			
5. 教科書 “Bryant And Stratton's Common School Book-keeping Embracing Single And Double Entry”by H.B.Bryant,H.D.Stratton and S.S.Packard (Iverson,Blakeman,Taylor & Company) ※授業で取り上げる箇所のコピーを配布する。			
6. 参考書 『アメリカ簿記史ーアメリカ会計史序説ー』久野光朗（同文館出版）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出された和訳について、授業内でコメントする。			
8. 成績評価の方法 試験50%、課題（翻訳）の取り組み50%により、総合的に評価する。			
9. その他 履修者は第1回の授業に必ず出席し、受講のルールについて確認すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
会計学外国書講読A 【使用言語：英語】			森 光 高 大
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 「概要」 本講義では管理会計についての英語の文献を購読します。内容としては基礎的な入門書ですが、ただ読んで翻訳するだけでなく、内容についての考察やディスカッションなどを通じた学習も併せて行います。 「到達目標」 管理会計に関する専門知識をある程度理解したうえで、基礎的な英文をスムーズに日本語訳できることを目標とします。			
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2回 英文(1)の読解 第3回 英文(1)の考察と内容解説 第4回 英文(1)に関するディスカッション 第5回 英文(2)の読解 第6回 英文(2)の考察と内容解説 第7回 英文(2)に関するディスカッション 第8回 英文(3)の読解 第9回 英文(3)の考察と内容解説 第10回 英文(3)に関するディスカッション 第11回 英文(4)の読解 第12回 英文(4)の考察と内容解説 第13回 英文(4)に関するディスカッション 第14回 総まとめ			
3. 履修上の注意 講義内で課題等を提示することもあります。また、講義内で内容に関する設問を出題します。 本授業は1 クラスあたりの受講人数制限があるので、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に資料を配付いたしますので、あらかじめ次週の範囲の専門用語の意味等を調べてください。			
5. 教科書 英文は主にHormgren et al. (2022) Introduction to Management Accounting, Global Edition のものを使用しますが、該当部分をコピーして講義内で配布いたします。			
6. 参考書 特に指定しません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業で提示する設問については、次の講義で解説やコメントを行います。また、oh!meijiを使用したフィードバックを行う場合もあります。			
8. 成績評価の方法 対面形式の講義ですので、一定以上の出席を単位認定の前提とします。 定期試験は実施しませんが、講義内での課題への取り組み40%、ディスカッションへの参加30%、設問への解答30%をもって、総合的に成績評価(100%)を行います。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
会計学外国書講読B 【使用言語：英語】			森 光 高 大
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 本講義では管理会計についての英語の文献を購読します。内容としては基礎的な入門書ですが、ただ読んで翻訳するだけでなく、輪読や、内容についてのディスカッションなどを通じた学習を行います。 「到達目標」 管理会計に関する専門知識をある程度理解したうえで、基礎的な英文をスムーズに日本語訳できることを目標とします。			
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2回 英文(5)の読解 第3回 英文(5)の考察と設問解答 第4回 英文(5)の解説 第5回 英文(5)に関するディスカッション 第6回 英文(6)の読解 第7回 英文(6)の考察と設問解答 第8回 英文(6)の解説 第9回 英文(6)に関するディスカッション 第10回 英文(7)の読解 第11回 英文(7)の考察と設問解答 第12回 英文(7)の解説 第13回 英文(7)に関するディスカッション 第14回 総まとめ			
3. 履修上の注意 講義内で課題等を提示することもあります。また、講義内で内容に関する設問を出題します。 本授業は1 クラスあたりの受講人数制限があるので、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に資料を配布いたしますので、次回講義までに該当範囲の専門用語の意味等を調べてください。			
5. 教科書 英文は主にHorngren et al. (2022) Introduction to Management Accounting, Global Edition のものを使用しますが、該当部分をコピーして配布いたします。			
6. 参考書 特に指定しません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題や講義中の設問については次回講義で解説を行います。また、oh!meijiを使用したフィードバックを行うこともあります。			
8. 成績評価の方法 一定以上の出席があることを単位認定の要件とします。 期末試験は実施しませんが、課題への取り組み(40%)、ディスカッションへの参加(30%)、設問への解答(30%)をもって、総合的に成績評価(100%)を行います。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)ACC991J			
会計プロセミナーA			浅見透
2 単位	1 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：職業会計人を指す人のための法人税法の基礎の基礎 〈講義の概要〉 本授業は、税理士や公認会計士又は経理部長や経理部員などの職業会計人に興味のある人が、税務会計に必要な不可欠な法人税法の基礎の基礎を学ぶ入門的な授業内容です。 職業会計人は、会計、税務、経営その他の幅広い分野において知識を身につけ、その知識を企業経営の実務で実践していく必要があります。 また、企業は、毎期の利益目標を達成をするだけでなく、将来の設備投資や人材確保を考慮した中長期的な資金計画を確保しなければなりません。そのためには、税務、特に法人税の知識が必要不可欠になります。 しかし、法人税の計算はとても複雑でし、毎年の税制改正の対応が難しい、といわれています。 授業は、講師が本授業のために執筆した「はじめての法人税」をテキストにして、この難解な法人税について初学者でもわかるように、基礎の基礎から進めていきます。 現職の開業税理士である講師の経験を活かし、実務現場での具体的な事例を示しながら、法人税の各条文が、何を目的として、いつどのように制定されたのかという立法趣旨や立法時の時代背景などを含めて、リアルに解説していきます。 授業は、テキストの第1章から最終章の第16章までを、最新の税務トピックスを交えて詳細に解説していきます。 また、毎回の授業後に配布する授業内容をまとめたミニ課題を解くことによって授業内容の理解が深まります。 (到達目標) 本授業の到達目標は、職業会計人にとって必要な法人税法の基礎知識を習得すること及び実務的な税務判断の基礎を理解することです。			
2. 授業内容 第1回 日本の租税の概要、公認会計士・税理士の違い 第2回 法人税の法体系、法人税等の分類 第3回 法人税の課税標準 第4回 法人税申告書と申告調整 第5回 法人税法の総則 第6回 収益認識の新基準と法人税の対応 第7回 益金の額の税務と収益の認識基準 第8回 受取配当等の益金不算入の税務 第9回 役員給与の税務 第10回 租税公課の税務・手続規定 第11回 寄附金の税務 第12回 交際費等の税務 第13回 税額控除と法人と税額計算 第14回 期末課題と授業のまとめ			
3. 履修上の注意 税法をはじめて学習する履修者を対象として、法人税の基礎の基礎から詳細に解説を行います。 ただし、日商簿記3級程度の簿記・会計学の知識を必要とします。 本授業用に講師が執筆したテキストを使って授業を進めますので、テキストの購入が必要です。 テキストの重要箇所にはマーカー等の色塗りをしますので、電子書籍でなく紙の書籍を購入してください。 ミニ課題は、毎回の授業終了時に配布し、原則として、翌々授業時に回収します。 テキストに沿って進められる授業内容が理解できれば、ミニ課題は、必ず解答できます。 ミニ課題の提出により出欠の有無を、管理します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業前に、最初の授業時に配布する「講義進行予定表」に記載されたテキストの範囲について、目を通しておくこと。 各授業の終了後に配布するミニ課題を解いて、原則として、翌々授業までに提出すること。 なお、ミニ課題は、各授業終了後に「oh-o!Meiji」にも掲載します。			
5. 教科書 『はじめての法人税』 税理士 浅見透 著 （日本法令） 講師作成のレジュメ			
6. 参考書 なし			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業終了後に配布（oh-o!Meijiにも掲載）するミニ課題を解いて、原則として、翌々授業までに提出すること。 その後、模範解答を添えて一定期間ごとに採点した上で、返却します。			
8. 成績評価の方法 出席を前提に、各講義の終了後に配布するミニ課題（85%）、期末課題（15%）によって評価します。			
9. その他 なし			

科目ナンバー：(BA)ACC996J			
会計プロセミナーC〔M〕			小俣光文
2 単位	1 年次	春学期集中	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：監査制度 〈授業の概要〉 本講は、わが国における公認会計士による監査制度について正しく理解することを目的とする。そのために、監査基準や実務指針に関する概説書の講読だけでなく、株式会社が財務報告に利用する財務諸表の監査についての基礎についても学ぶ。さらに、公認会計士監査制度に関する国家試験の問題を用いた演習も行う。 〈到達目標〉 わが国の金融商品取引法の下における監査制度について正しく理解し、公認会計士試験の短答式問題を解答できる知識を習得する。			
2. 授業内容 第1回：監査基準〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回：監査人の適格性〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：監査人の責任〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：重要な虚偽の表示〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：監査リスク〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：監査計画〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：不正リスク対応基準〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回：内部統制〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：監査手続〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：監査要点〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：意見表明の基礎〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：監査報告書〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：内部統制監査〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回aのみ：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画をOh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。講義動画は原則毎週金曜日にOh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して、小テストを実施し出席確認及び理解度確認を行う。また、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設ける。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。 また、直接仕訳等をするわけではないが、会計に関する知識があることを前提に講義をするので会計関連科目を履修しておくこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 〈事前学習〉 事前に各単元の範囲の監査基準・実務指針に目を通して概要を把握しておくこと。 〈事後学習〉 今回受講した内容をまとめて復習し、関連する問題を解くこと。			
5. 教科書 各回レジュメを配布する			
6. 参考書 金融庁公表の以下の基準 ・監査基準 ・内部統制基準 日本公認会計士協会公表の以下の実務指針 ・監査基準委員会報告書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh ! Meijiをとおしてコメントするとともに配信する動画において講評を行う。			
8. 成績評価の方法 毎回講義内でミニテストを実施し、毎回のミニテストの成績によって評価する。			
9. その他 監査基準の改訂等の状況に応じて各回のテーマを変更する場合があります。			

科目ナンバー：(BA)ACC991J			
会計学特別講義A			苅 米 裕
2 単位	1 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：税理士、公認会計士、税務職員、企業の財務経理担当等の職業に興味がある者に対する税法の基礎知識			
2. 授業内容 第1回 税理士になるには、税理士会の組織、税理士の使命、税理士業務と税法の知識を生かす業務 第2回 租税法の基礎知識 第3回 消費税法1 消費税法の概要 第4回 消費税法2 消費税法に関する身近な実務の話題 第5回 消費税法3 消費税法に関する裁判例等の検討 第6回 法人税法1 法人税法の概要（中間課題） 第7回 法人税法2 法人税法に関する身近な実務の話題 第8回 法人税法3 法人税法に関する裁判例等の検討 第9回 所得税法1 所得税法の概要 第10回 所得税法2 所得税法に関する身近な実務の話題 第11回 所得税法3 所得税法に関する裁判例等の検討 第12回 相続税法1 相続税法の概要（期末課題） 第13回 相続税法2 相続税法に関する身近な実務の話題 第14回 相続税法3 相続税法に関する裁判例等の検討			
3. 履修上の注意 税法をはじめて学習する履修者向けに解説を行う。簿記及び会計学の知識がなくても理解はできるが、ある程度の知識があると法人税法および消費税法の理解が深まる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習は、授業で指定する教科書の該当ページに目を通しておくこと。授業のテーマによっては、次回の授業に対して事前の指示や資料の配布を行う。復習は、教科書、配布資料をよく読んで講義内容を理解すること。学習内容や自分の考えをまとめておくこと。			
5. 教科書 講師作成のレジュメ 国税庁「税大講本」 https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/index.htm ※「税大講本」は、税目ごとに国税庁ホームページから入手することができる。			
6. 参考書 『租税法 第24版』金子宏〔2021〕弘文堂 『租税判例百選 第7版』中里実ほか〔2021〕有斐閣・別冊ジュリストNo.253 ※入手の要否は、講師の指示にしたがうこと。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 第6回に中間課題、第12回に期末課題を提示する。解答解説は、授業中に行う。			
8. 成績評価の方法 授業への貢献度（40%）、中間課題レポート（30%）、期末課題レポート（30%）			
9. その他 オフィスアワーを希望する履修者は、講師と相談の上実施の有無を検討する。			

科目ナンバー：(BA)ACC991J			
会計学特別講義D			大 倉 学
2 単位	1 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：会計ルールを「読む」 〈概 要〉 本講義は、制度会計としての「財務会計」を支える我が国の各種の「ルール」について、その構造的性質の理解を通して各種資格試験における理論問題に備えた基礎知識を学ぶものである。 〈到達目標〉 ルールの単なる「暗記」で各種資格試験勉強とするのではなく、そのルールの背景と基礎とする理論に基づいた知識をもって規定の解釈ができることを目標とする。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：法と基準：強制力と準強制力 第3回：ルール設定主体の性質とルールのあり方 第4回：ルールに関する基礎知識（1）：演繹法と帰納法等 第5回：ルールに関する基礎知識（2）：原則主義と細則主義等 第6回：現行会計基準の構成と特徴 第7回：会社法についての基礎知識 第8回：金融商品取引法についての基礎知識 第9回：企業会計原則についての基礎知識 第10回：現行会計基準についての基礎知識 第11回：具体的検討（1）（ディスカッションを含む） 第12回：具体的検討（2）（ディスカッションを含む） 第13回：具体的検討（3）（ディスカッションを含む） 第14回：ルール変更の功罪			
3. 履修上の注意 第11回から第13回のテーマは 履修生の皆さんと検討する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各講義において次回のポイントを指摘するので関連事項・専門用語の整理・確認をしておくこと。 また、各講義において前回の要点整理をするので継続的な復習を必要とする。			
5. 教科書 特に定めない。レジュメを配布する。			
6. 参考書 『会計基準の読み方Q&A』秋葉賢一著（中央経済社） その他適宜提示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクション・ペーパー、課題レポートについては、Oh-o ! Meiji システムで全体講評および個別コメントにて対応する。			
8. 成績評価の方法 平常点（20%）、レポート（10%）、定期試験（70%） 平常点は数回に1度のリアクション・ペーパー提出およびディスカッションにおける積極的姿勢を対象とする。			
9. その他 特に無し。			

科目ナンバー：(BA)ACC536E			
Advanced Financial Accounting A [M] 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】			NAKASHIMA MASUMI
Credits: 2	Year: 3	Spring Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 Forensic accounting is an accounting technique that assists companies in resolving disputes by investigating, calculating, analyzing, and reporting financial data before and after the dispute is brought to court. With the recent increase in litigation in organizations, more accounting expertise and credibility is required to calculate the amount of damage, etc. Forensic accountants investigate general accounting irregularities, whether civil or criminal, conduct investigations from a third-party perspective, and submit an investigation report after the investigation. If the subject of the investigation leads to litigation, the forensic accountant may testify in court as a witness. In addition, the forensic accountant learns how to speak persuasively in court as a key witness in a case and learns the relevant techniques in court.			
2. 授業内容 Class 1: Guidance: Basics of Accounting, Financial Statements of For-Profit Corporations (Media Class Realtime Live) Class 2: Financial Statements of Public Accounting and Nonprofit Corporation Accounting (Media Class Realtime Live) Class 3: Financial Statement Fraud in Commercial Enterprises (Media Class Realtime Live) Class 4: Accounting Fraud Detection Techniques (Financial Statement Data and Textual Information) (Media Class Realtime Live) Class 5: History and Survey of Forensic Accounting in the U.S. (Media Class Realtime Live) Class 6: IT Audit Systems (Media Class Realtime Live) Class 7: Accounting Books and Transaction Documents (Media Class Realtime Live) Class 8: Investigation and Disclosure of Fraud (Media Class Realtime Live) Class 9: Management's Responsibility for Fraud Prevention and Response (Media Class Realtime Live) Class 10: Prior Period Adjustments, Correction Reports and Shareholders' Meetings (Media Class Realtime Live) Class 11: Design of Procedures for Investigating Accounting Fraud and Forensic Work (Media Class Realtime Live) Class 12: Digital Forensics (Media Class Realtime Live) Class 13: Accounting Fraud Detection Methodology (Machine Learning) (Media Class Realtime Live) Class 14: Summary (Media Class Realtime Live)			
3. 履修上の注意 N/A			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please read the content of each chapter before the class following the syllabus. After lecture, please work on the assignments for each chapter as the review.			
5. 教科書 Forensic Accounting by Masumi Nakashima and Tomohiro Katayama, 2023.			
6. 参考書 N/A			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Assignments are conducted in class as part of active learning, so feedback are given in class or via email at a later date.			
8. 成績評価の方法 Class Contribution 15% Assignments 35% Final Exam 60% No face-to-face testing is conducted.			
9. その他 This course is offered as a media class course. All classes are conducted live in real time, and the ZOOM LINK and PW are delivered from Oh-o! Meiji. Class materials and assignments are uploaded from Oh-o! Meiji.			

科目ナンバー：(BA)ACC536E			
Advanced Financial Accounting B [M] 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】			NAKASHIMA MASUMI
Credits: 2	Year: 3	Fall Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 Forensic accounting is an accounting technique that assists companies in resolving disputes by investigating, calculating, analyzing, and reporting financial data before and after the dispute is brought to court. With the recent increase in litigation in organizations, more accounting expertise and credibility is required to calculate the amount of damage, etc. Forensic accountants investigate general accounting irregularities, whether civil or criminal, conduct investigations from a third-party perspective, and submit an investigation report after the investigation. If the subject of the investigation leads to litigation, the forensic accountant may testify in court as a witness. In addition, the forensic accountant learns how to speak persuasively in court as a key witness in a case and learns the relevant techniques in court.			
2. 授業内容 Class 1: Guidance: Litigation Services (Media Class Realtime Live) Class 2: Civil Liability (Media Class Realtime Live) Class 3: Overview of Litigation System (Litigation, Non-Litigation, Mediation) (Media Class Realtime Live) Class 4: Subject of Proof (Media Class Realtime Live) Class 5: Criminal Liability and Other Responsibilities (Media Class Realtime Live) Class 6: Rules of Evidence 1 (Free-Mindedness Principle, Rules of Admissibility) (Media Class Realtime Live) Class 7: Rules of Evidence 2 (Empirical and Fact-Finding Rules) (Media Class Realtime Live) Class 8: Matters Specific to Accounting Fraud (Media Class Realtime Live) Class 9: Collection and Application of Evidence (Media Class Realtime Live) Class 10: Accountant's Involvement in Litigation (Media Class Realtime Live) Class 11: Overview of damages (Media Class Realtime Live) Class 12: Business Damage 1 (Media Class Realtime Live) Class 13: Business Damage 2 (Media Class Realtime Live) Class 14: Summary (Media Class Realtime Live) (Media Class Realtime Live)			
3. 履修上の注意 N/A			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please read the content of each chapter following the syllabus. After class please work on the assignment for each chapter as a review.			
5. 教科書 Forensic Accounting by Masumi Nakashima and Tomohiro Katayama, 2024			
6. 参考書 N/A			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Assignments are conducted in class as part of active learning, so feedback are given in class or via email at a later date.			
8. 成績評価の方法 Class Contribution 15% Assignments 35% Final Exam 60% No face-to-face testing is conducted.			
9. その他 This course is offered as a media class course. All classes are conducted live in real time, and the ZOOM LINK and PW are delivered from Oh-o! Meiji. Class materials and assignments are uploaded from Oh-o! Meiji.			

科目ナンバー：(BA)MAN556E			
Financial Statement Analysis A (M) 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】		NAKASHIMA MASUMI	
Credits: 2	Year: 3	Spring Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 This course provides a comprehensive framework for business analysis and valuation by using financial statement information. Students can learn not only the concepts and principles for evaluating a firm's financial performance and predicting its future economic condition but also tools for the financial statements analysis. Topics are covered: Strategy Analysis, Accounting Analysis, Financial Analysis, and Prospective Analysis. The goal is to understand the basic principles of fundamental analysis and to obtain skills and techniques to analyze the financial statements and determine the fundamental value.			
2. 授業内容 Class 1 : Introduction: Framework for Business Analysis and Valuation (Media Class Realtime Live) Class 2 : Strategic Analysis (Media Class Realtime Live) Class 3 : Database Learning (1) (Media Class Realtime Live) Class 4 : Database Learning (2) (Media Class Realtime Live) Class 5 : Accounting Analysis (1) (Media Class Realtime Live) Class 6 : Accounting Analysis (2) (Media Class Realtime Live) Class 7 : Financial Analysis: Ratio Analysis (Media Class Realtime Live) Class 8 : Financial Analysis: Cash Flow Analysis (Media Class Realtime Live) Class 9 : Prospective Analysis: Forecasting (Media Class Realtime Live) Class 10 : Prospective Analysis: Valuation Theory and Concepts (Media Class Realtime Live) Class 11 : Earnings quality: Accruals Management (Media Class Realtime Live) Class 12 : Earnings quality: Real Management (Media Class Realtime Live) Class 13 : Paper Presentation (1) (Media Class Realtime Live) Class 14 : Paper Presentation (2) (Media Class Realtime Live)			
3. 履修上の注意 Since every class proceeds using Power Point Slides.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please read the content of each chapter following the syllabus. After class, please work on the assignments for each chapter as a review.			
5. 教科書 Business Analysis Valuation: Using Financial Statements, Krishna G. Palepu and Paul M. Healy 5th edition, 2013. South-Western College Publishing (ISBN-10: 1111972303 ISBN-13: 978-1111972302). Earnings Management and Earnings Quality: Evidence from Japan, Masumi Nakashima, 2015, Hakuto Shobo Publishing (ISBN: 9784561362104)			
6. 参考書 N/A			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Assignments are conducted in class as part of active learning, so feedback are given in class or via email at a later date.			
8. 成績評価の方法 Contribution to class: 15%, Assignment: 15%, Presentation: 20%, and Paper: 50%. No face-to-face testing is conducted.			
9. その他 This course is offered as a media class course. All classes are conducted live in real time, and the ZOOM LINK and PW are delivered from Oh-o! Meiji. Class materials and assignments are uploaded from Oh-o! Meiji.			

科目ナンバー：(BA)MAN556E			
Financial Statement Analysis B (M) 【大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)】		NAKASHIMA MASUMI	
Credits: 2	Year: 3	Fall Semester	Surugadai
1. 授業の概要・到達目標 This course provides a comprehensive framework for business analysis and valuation by using financial statement information. Students can learn not only the concepts and principles for evaluating a firm's financial performance and predicting its future economic condition but also tools for the financial statements analysis. Topics are covered: Strategy Analysis, Accounting Analysis, Financial Analysis, and Prospective Analysis. The goal is to understand the basic principles of fundamental analysis and to obtain skills and techniques to analyze the financial statements and determine the fundamental value.			
2. 授業内容 Class 1 : Prospective analysis: Valuation Implementation (Media Class Realtime Live) Class 2 : Database Learning (1) (Media Class Realtime Live) Class 3 : Database Learning (2) (Media Class Realtime Live) Class 4 : Equity Security Analysis (Media Class Realtime Live) Class 5 : Credit Analysis and Distress Prediction (1) (Media Class Realtime Live) Class 6 : Credit Analysis and Distress Prediction (2) (Media Class Realtime Live) Class 7 : Merger and Acquisitions (1) (Media Class Realtime Live) Class 8 : Merger and Acquisitions (2) (Media Class Realtime Live) Class 9 : Communication and Governance (1) (Media Class Realtime Live) Class 10 : Communication and Governance (2) (Media Class Realtime Live) Class 11 : Case Study (1) (Media Class Realtime Live) Class 12 : Case Study (2) (Media Class Realtime Live) Class 13 : Paper Presentation (1) (Media Class Realtime Live) Class 14 : Paper Presentation (2) (Media Class Realtime Live)			
3. 履修上の注意 Since every class proceeds using Power Point Slides.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please read the content of each chapter following the syllabus. After class, please work on the assignment for each chapter as a review.			
5. 教科書 Business Analysis Valuation: Using Financial Statements, Krishna G. Palepu and Paul M. Healy 5th edition, 2013. South-Western College Publishing (ISBN-10: 1111972303 ISBN-13: 978-1111972301). Earnings Management and Earnings Quality: Evidence from Japan, Masumi Nakashima, 2015, Hakuto Shobo Publishing (ISBN: 9784561362104)			
6. 参考書 N/A			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Assignments are conducted in class as part of active learning, so feedback are given in class or via email at a later date.			
8. 成績評価の方法 Contribution to class: 15%, Assignment: 15%, Presentation: 20%, and Paper: 50%. No face-to-face testing is conducted.			
9. その他 This course is offered as a media class course. All classes are conducted live in real time, and the ZOOM LINK and PW are delivered from Oh-o! Meiji. Class materials and assignments are uploaded from Oh-o! Meiji.			

12 公共経営学科専門科目

科目ナンバー：(BA)MAN271J			
行政経営論 【2021年度以降入学者対象】			菊 地 端 夫
2 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 かつて、行政の活動とは民間企業の経営とは異なる原理で行われるものであるとし、行政の管理と民間の経営管理は厳密に区別をされ運用されてきました。しかし20世紀後半から、行政も積極的に民間の経営手法を摂取していこうという考え方が登場し、また「公共的なもの」がこれまでの政府や行政の独占物ではなく、民間企業やNPO、そして市民個人々々による参加と協働によって形成されるものであるという理念が広まるようになりました。今日、行政経営と民間企業経営の手法の垣根は、相対化しつつあります。 この授業では、まずは学習の対象となる行政がどういった構造や制度で運営されているかを把握した後、行政経営の歴史的発展経緯やその原理を把握し、行政経営論の考え方がどのように具現化されているのかを考察していきます。 〈到達目標〉 行政の制度を理解したうえで、行政経営の原理と考え方、実践例を把握することを到達目標とします。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：行政経営の基礎理論：何を経営するのか・民間企業・非営利組織の経営との相違とは 第3回：行政経営の基礎理論：行政の守備範囲（行政の発達と概念） 第4回：行政経営の基礎理論：政治と行政の接点領域 第5回：行政経営の基礎理論：行政と市場の関係、New Public Management他 第6回：行政の構造・制度：国際行政組織、中央省庁、独立行政法人、国営・国営企業他 第7回：行政の構造・制度：地方自治の制度・運営 第8回：行政の構造・制度：地方分権の歴史①分権改革 第9回：行政の構造・制度：地方分権の歴史②市町村合併 第10回：行政の構造・制度：財政・税制の仕組み 第11回：行政の構造・制度：公務員制度とHR 第12回：行政の構造・制度：公共政策の仕組み 第13回：行政の構造・制度：市民参加の理論と実践 第14回：講義全体の振り返り			
3. 履修上の注意 特になし。公共経営学科の学生のみならず、経営学科、会計学科、さらに他学部の学生で行政や幅広い公共のマネジメントに興味のある学生の履修をお勧めします。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回講義で配布する資料や新聞記事等を精読し、復習を行うこと。不明な点があれば講義前後に質問をすること。			
5. 教科書 特に定めない。			
6. 参考書 特に定めない。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間レポートは学期中に講評を行う。			
8. 成績評価の方法 講義への貢献度30％、レポート課題30％、期末試験40％			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN271J			
行政経営戦略論			菊 地 端 夫
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 かつて、行政の活動とは民間企業の経営とは異なる原理で行われるものであるとし、行政の管理と民間の経営管理は厳密に区別をされ運用されてきました。しかし20世紀後半から、行政も積極的に民間の経営手法を摂取していこうという考え方が登場し、また「公共的なもの」がこれまでの政府や行政の独占物ではなく、民間企業やNPO、そして市民個人々々による参加と協働によって形成されるものであるという理念が広まるようになりました。今日、行政経営と民間企業経営の手法の垣根は、相対化しつつあります。 この授業では、こういった行政経営の歴史的発展経緯やその原理を把握した後、個々の実践例をみていくことにより、行政経営論の考え方がどのように具現化されているのかを考察していきます。なお、実際に行政経営改革に取り組んでいる方をゲストとしてお呼びし、行政経営の醍醐味と難しさなどについてもお話いただく予定です。 〈到達目標〉 行政経営の各原理を理解し、具体的な実践例を把握・分析する能力を身に付けることを到達目標とする。			
2. 授業内容 第1講：イントロダクション 第2講：行政経営の理論とは何か 第3講：行政経営：マーケティングの理論 第4講：行政経営：マーケティングの実践 第5講：行政経営：行政における経営品質、戦略とは① 第6講：行政経営：行政における経営品質、戦略とは② 第7講：行政経営：法務マネジメント① 第8講：行政経営：法務マネジメント②（都市計画、景観） 第9講：行政経営：サービス戦略（民営化）① 第10講：行政経営：サービス戦略（PFI、指定管理者制度、アウトソーシング）② 第11講：行政経営に携わる民間組織：その市場規模と将来 第12講：行政経営：業績マネジメント、行政におけるパフォーマンスとは 第13講：行政経営：ゲスト講義（予定） 第14講：まとめ講義			
3. 履修上の注意 本講義は「行政経営論」の応用科目の位置づけですが、「行政経営論」の履修の有無に関係なく、どなたでも履修することができます。公共経営学科の学生のみならず、経営学科、会計学科、他学部の学生で行政や幅広い公共のマネジメントに興味のある学生の履修をお勧めします。また、「行政経営論」、「行政経営戦略論」の内容を英語で学ぶ「Introduction to Public Management」（秋学期水曜3時限目）の履修もお勧めします。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回講義で配布する資料や新聞記事等を精読し、復習を行うこと。不明な点があれば講義前後に質問をすること。「公務員」がテーマや主人公である小説、映画は意外に身近です。こういったものがあるか、探してみてください。			
5. 教科書 特に定めない。			
6. 参考書 特に定めない。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間レポートは学期中に講評を行う。			
8. 成績評価の方法 講義への貢献度30％、レポート課題30％、期末試験40％			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN271E			
Introduction to Public Management		菊地 端夫	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <Outline> This course introduces students to the basic principles, issues and practices involved in the management of public organizations. The course is structured roughly into two modules. In the first module, the course focuses on topics related to the basics of public management and governance issues. In the second module, students are required to have group work on the comparative study of public management issues across countries, considering diversified students background. The course therefore draws heavily on student participation, toward the goal of building student capacity to prevent, diagnose, and remedy managerial challenges in complex organizational, social, economic, and political environments. <Objectives> By the end of this course, students should be able to have deep understanding of basic principles, issues, and practical knowledge involved in the management of public organizations. <Message for International Exchange Students> Your active participation in the class, and interaction with Meiji students are highly appreciated.			
2. 授業内容 Week 1 : Course Introduction Week 2 : Understanding Public Management and Governance Week 3 : Models of Public Administration and Management Week 4 : Models of Central Local Relations Week 5 : Public Participation and Involvement Week 6 : Financial Management in Public Sector Organizations Week 7 : Marketing and Quality Management in Public Sector Week 8 : Group Work: Team Building Week 9 : Group Work and Mentoring Week 10 : Group Work and Mentoring Week 11 : Group Work and Mentoring Week 12 : Group Work and Mentoring Week 13 : Group Work Presentation Week 14 : Group Work Presentation and Overview of the Course *Course contents and class order may change.			
3. 履修上の注意 ※本科目の履修に必要な英語力の目安は、TOEIC 500程度である。 The TOEIC level necessary for registering for this course is around 500.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are required to make group presentations out of the classes. Active participation both in and out of classes is highly encouraged.			
5. 教科書 There is no required text book.			
6. 参考書 List of books and papers for references for further learning will be provided in the classes.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback from the instructor is given in the group working motoring sessions, and in the presentation QA session.			
8. 成績評価の方法 Active Class Participation: 30%, Group Work Presentation:30%, Term Paper: 40%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
公共思想論			枝村 祥平
2 単位	2 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 公共の場における個人にあるべき行動規範や、どのような公共の場を設定・提供していけばいいのかについて、さまざまな思索がこらされています。本講義では、過去の偉大な思想家たちの議論を参考にし、また現代の具体的な問題にも触れながら、行動規範などについて考えていきます。 <到達目標> 1. 増税・死刑・治療中止など現代の重要な問題について、具体的な事件や問題となる概念枠組みを理解した上で、自分の意見を形成する。 2. プラトン、アリストテレス、カント、ミルなど重要な思想家が書いた古典で、倫理にまつわるどのような議論が示されているのか、それらがなぜ現代に生きる私たちと関係があるのかを理解する。			
2. 授業内容 第1回 ガイダンス 第2回 功利主義 I 快楽主義の祖であるエピクロスの思想、功利主義の祖であるベンサムを学ぶ。 第3回 功利主義 II 功利主義を折衷的に発展させたジョン・スチュアート・ミルの思想を、彼の表現の自由の基礎づけとともに学ぶ。 第4回 カントと義務論 I 結果を重視して行為を正当化する考え方や動機を重視して行為を正当化する考え方を対比して学び、そして後者の考え方を示した代表的な哲学者であるカントの思想も学ぶ。 第5回 カントと義務論 II 人格の尊厳、そしてルールの普遍的妥当性という観点から公共社会のあり方を考えたカントの思想を学ぶ。 第6回 リバタリアニズム 義務論のなかでもカント倫理学よりも広範な個人の「自由」を認めたリバタリアニズムを学ぶ。 第7回 アリストテレスと徳の倫理学 徳の倫理学をバーナード・ウィリアムズやアラスデア・マッキンタイヤーなどに言及しつつ学び、その思想的な縁源であるアリストテレスの哲学をも学ぶ。 第8回 平等と公平 アリストテレスやロールズを手がかりにあるべき平等な社会、公平な社会を模索する。 第9回 消費税 前回の平等や公平に関する議論を踏まえて日本における税制をどう評価するかを具体的に考える。 第10回 死刑の是非 I 西洋において過去に多数説であった死刑存置論を様々な思想的背景に基づいて学ぶとともに、日本の死刑存置論はどのような観点で主張されているのかも学ぶ。 第11回 死刑の是非 II 現代においてヨーロッパの多数説である死刑廃止論をその思想的背景に基づいて学び、さらに日本ではどのような観点から主張されているのかも学ぶ。 第12回 同性婚 同性婚の法律での認可に関して、婚姻の定義や個人の尊厳や自由、また宗教的伝統において同性愛がどうとらえられていたかなどを視野に入れて考察する。 第13回 治療中止 医療倫理が抱えるジレンマを踏まえて、治療中止の問題を学ぶ。 第14回 積極的安楽死 治療中止とは区別される積極的安楽死の問題を学ぶ。			
3. 履修上の注意 リアクションペーパーが講義各回にあるので、出席は重要です。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 電子媒体なりで配布した資料に、速読でいいので目を通しておいください。			
5. 教科書 使用しません。資料は必要に応じ電子データを配布します。			
6. 参考書 講義中に適宜紹介していきます。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーを読んだ結果得た知見を、講義でお話します。			
8. 成績評価の方法 ・リアクションペーパー 3 x 14 = 42% ・期末テスト 58% ・ボーナスポイント課題あり			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
公共歴史論			薩摩 秀登
2 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 公共性という概念について、歴史的観点から考察する。 公共という漠然と「皆に共通のもの」といったイメージが思い浮かぶかもしれない。しかし「いかにして共通点を求めるか」は単純な問題ではない。「すべての人々の利益や意見の集約点」をいかにして作り出すかについて、人間はさまざまな試みを繰り返してきた。 人間は、いつ頃から公共性の概念を持って生活するようになったのか。個人を離れた「公共の領域」があるとするならば、それはどのように作られ、誰が管理し、誰がそれについて責任を負うのか。「全体の意思」はどのように決定されるのか。国家の権力はそれとどのようにかわるのか。国家はいつ頃から、どのようにして公共性の概念をとりこんでいったのか。こうした問題点を、歴史のなかに現れた公共性という概念をたどりながら検証していく。 <到達目標> 現代の公共性の概念の成り立ちを、歴史にさかのぼって理解する。			
2. 授業内容 公共性という概念に関する問題は歴史のなかに広く散在しており、体系的な議論として扱うことは非常に難しい。授業では、歴史のなかから公共性にかかわる問題を適宜とりあげながら、人間は公共性という概念をどのように考えつつ歴史をたどってきたのかを考えていくことになる。なるべく広範囲の歴史を考察の対象としたいが、論点を明確にするために、日本とヨーロッパに限定して議論を進める。 第1回 公共という概念について 第2回 日本の古代国家形成と、「おおやけ」の概念 第3回 律令国家の変遷と「おおやけ」の概念 第4回 中世社会の変遷と自治的世界の登場 第5回 中世社会の変遷と自治的世界の変化 第6回 江戸幕府の成立と「公儀」などの概念 第7回 江戸時代における「公共」についての議論 第8回 明治維新と「公共」についての議論 第9回 明治期から昭和初期にかけての「公共」についての議論 第10回 古代地中海世界におけるpublicという概念の形成 第11回 ヨーロッパ中世における自治的世界 第12回 宗教紛争期における「公共」の概念 第13回 絶対王政期の公共性概念 ―イギリス― 第14回 絶対王政期の公共性概念 ―フランス― 受講者は、こうした考察を通して、現代における公共性とは何かという問題を考えるヒントをつかんでほしい。			
3. 履修上の注意 現代における公共性の問題に留意しつつ、歴史から学び取ろうとする態度が重要である。 また、日本史について、古代から現代まで全般にわたる基礎的知識は必要である。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 特に日本史について、基礎知識を得るためには、下記の参考文献などを参照しておくこと。			
5. 教科書 指定しない。			
6. 参考書 宮地正人編『日本史』山川出版社、2008年 五味文彦、島海靖編『もういちど読む山川日本史』山川出版社、2009年 木村茂光他編『大学でまなぶ日本の歴史』吉川弘文館、2016年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 その次の回の授業において行う。			
8. 成績評価の方法 授業で出される課題：70% 期末試験あるいは期末レポート：30%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
公共表現行為論			畑 中 基 紀
2 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 「公共」とは、どういう意味でしょう。たとえば公共事業といえ、政府や自治体が行うことのように思えます。でも、公共マナーという、すべての私人ひとりひとりの行為に関わることです。比較的耳慣れたことばであるのに、いざその意味を説明しようとすると難しい。少なくとも、個人や一定の集団を包み込む世界での、私または私たちと他者との関係の取り方をめぐる何かであるようです。本講ではこの「公共（性）」とはいったいどういう意味なのかという問題を、具体的な表現の分析を通して考えていきます。なぜなら、「表現」というコミュニケーション行為のなかでは、私たち自身が、私と他者との関係をどうにか定めているはずだからです。表現されたものの中にそれを探ることで、私たちが、「公共（性）」をどう意味づけているかも見えてくるでしょう。 「表現」を私から他者に対する呼びかけとするなら、表現行為には私と他者がいる世界が前提となっていることになりますが、この私と他者とで構成される世界とはまさに、「公共」が成立する場ですね。では、その「私」とは何者でしょうか。これを明らかにするには、けっきょく「私とは～である」という形の言葉で他者に向けて「表現」するしかありません。ということは、そもそも「私」自身が存在することや、あるいは、「私」がふだん、「私」というものをどうとらえているかという問題のなかにも、「公共（性）」が潜んでいそうです。こうしたことが、この授業を進めていく上での、基本的な問題意識となります。 テレビCMが視聴者に何かを買わせることを目的とし、実際にそれが達成されているなら、CMはその表現のなかに「私」を提示し、他のみんなも買っているその商品を生活のなかに取り入れることで、いまの「世界」から取り残されないようにしなさいと、観ている「私」にうたっていると思われます。つまり、成功したCMは、「私」にとっての、「私」と「世界」をうまく映しだす鏡として機能するのです。この鏡に映された「私」を探ることで、「公共（性）」の問題を考えていきます。 <到達目標> 自分自身が普段、話し、聞き、読み、書いている表現を通して、公共性について考えることができること。			
2. 授業内容 身近な分析対象の一例としてテレビCMを分析し、グループ・ワークも含んだ精しい考察や討論を行いながら私たちが日常生活のなかでふれている表現において、「公共性」がどのように意味づけられているかを考えていきます。そのことを通じて、コミュニケーション論の基本や、私たちをとりこむ「世間」とは何かといった問題にも目を配りながら、「公共性」とはいったい何なのか、さまざまな場面でそれを実現するには何が必要なのかを考えていきます。キーワードは「みんな」です。私たちが日常使う「みんな」という語は、いったい誰を指し、また同時に、誰を排除しているのでしょうか。 予定されるトピック 第1回 イントロダクション 第2回 放送の公共性 第3回 公共と個人をめぐる問題 第4回 家（イエ・ウチ）の外と内 第5回 公の倫理的強制力 第6回 世間を生きる私 第7回 世間の表象 第8回 <みんな>のイメージ 第9回 <みんな>はどこにいるのか 第10回 広告としてのテレビCM 第11回 テレビCMの表現形式 第12回 テレビCMの意味表出機構 第13回 コミュニケーション・メディアとしてのCM 第14回 公共性を問いつけること (状況により変更、入れ替えを行うこともあります)			
3. 履修上の注意 きわめて具体的、日常的な事例と、その背後にある、世界を構成する抽象的で見えない関係性との間を往還しながら考察を重ねていきます。したがって、ねばり強く考えることの出来ない、または苦手な人にとっては、受講をしても時間の無駄にしかならないでしょう。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教室で紹介する参考文献などを積極的に読み込み、不明な部分があれば授業で質問してください。また、次の回の内容についての参考書を提示する場合は、あらかじめ目を通しておくこと。			
5. 教科書 なし。			
6. 参考書 阿部謹也『「教養」とは何か』講談社現代新書。 その他、教室で随時紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 教室でねまたはOh-o! Meijiを利用して。			
8. 成績評価の方法 平常点（30%。授業中に課す小レポート、グループ・ワークや討論への参加度）＋期末レポート（70%）			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
生活文化論			森 田 直 美
2 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 日本各地の特徴的な歴史文化や伝統産業を活かした地域振興・まちづくり・ものづくりに注目し、各回に個別のテーマを設けて講義します。特に、文化庁の日本遺産や農林水産省の歴史的風致維持向上計画に認定されている都市を多く取り上げる予定です。 日本各地の歴史文化や伝統産業の多くは、生活様式の変化や後継者不足によって存続が危ぶまれています。しかしこれらは、対内的にはシビックプライドや郷土への愛着形成のために有益であり、対外的には観光資源や地域の魅力発信に活用することも可能です。特に、訪日外国人の増加が著しい昨今、産官学が連携して各地の独自の歴史文化・伝統産業の保護・継承・活性化に努める必要があると考えられます。 本授業では、さまざまな地域の歴史文化・産業・企業に光を当て、「地域の歴史文化や伝統産業を保護・継承する意義は何か」、あるいは「どうしたら現状を少しでも改善できるのか」という点について、受講生の皆さんと考えていきたいと思います。 <到達目標> ・ 日本各地の歴史的・文化的特性をいかしたまちづくり・ものづくり・地域振興の試みや課題について考える。 ・ 地域文化・伝統産業を現代においてどう活用できるのか、自分なりの意見や考えを述べられる。			
2. 授業内容 概ね以下の内容で進めますが、各回のテーマを入れ替える可能性があります。 第1回：a：歴史文化・伝統産業と地域振興 第2回：長野県松本市の手仕事 第3回：日本遺産とは 山形県の紅花 第4回：手仕事文化徳島県の藍 第5回：徳島の藍と倉敷デニム 第6回：愛知県名古屋市の絞染 第7回：和服文化の継承と革新 第8回：富山県高岡市の鋳物産業 第9回：高岡市の産業観光 第10回：和菓子文化による産学連携PBL 島根県松江市 第11回：和菓子文化における新しい後継育成の形 京都府 第12回：静岡市のクラフトマンサポート事業 第13回：静岡市の産官連携による地域文化保護 第14回：期末テスト			
3. 履修上の注意 毎回授業終了時に、小課題を提出してもらいます。 小課題の内容は成績評価に反映されます。そのことを念頭に置き、集中して受講すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回の予習：次回扱う内容について、WEBや書籍で下調べしておく。 各回の復習：ノートやプリントを整理し直し、不明な箇所は教員に質問するなどして明らかにする。			
5. 教科書 特定のテキストは使用しません。授業時に適宜資料を配布します。			
6. 参考書 富本真理子『固有価値の地域観光論』（水曜社、2011年） 文化庁 日本遺産ポータルサイト https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/ 上記の他、適宜授業時に紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業冒頭で、前回の小課題に対する総評を伝えます。			
8. 成績評価の方法 授業への参加態度（毎回提出する小課題の内容を含む）50%、期末テスト（持ち込み可の論述形式）50% 上記を目安として総合的に判断します。			
9. その他 ・ 授業中の私語・居眠り・遅刻・途中退出・携帯電話やスマートフォン等の使用、その他授業環境を悪くする行為は厳に慎むこと。 ・ 迷惑行為が目に見える場合は氏名を確認した上で退室していただき、その回は欠席扱いとします。 ・ 30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ・ 各回授業で指定した課題が未提出の場合、その回は欠席扱いとします。 ・ 履修登録期間前に他の授業を履修し、その後に本授業の履修を決めた場合にも、それまでの回は欠席扱いとなります。 ・ 半期の3分の1を超えて欠席した場合（遅刻は3分の1欠席扱い）、成績評価の対象としません（T評価）。			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
地域公共論			飯塚智規
2 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この講義では地域の様々な課題（例えば地方の衰退と創生，防災，サードプレイス，観光，NIMBY（迷惑施設））をテーマとし，座学及びワークショップ形式で受講者と考えていく。 社会に出て活躍するためには，大学生活4年間で，「学ぶ」→「気づく」→「調べる」→「実践する」の4つの力を養う必要がある（研究者を目指す者は，さらに「探求する」能力が求められる）。この講義では，最初のステップである「学ぶ」力と，第2のステップである「気づく」力を身につけることを目的とする。 受講者は座学とワークショップ（グループディスカッションやグループワーク），及び成果発表を通じて，コミュニケーションスキルや論理的思考力を身につけることができる。また，ワークショップを通じて，チームワークやリーダーシップを磨いていく。その結果，経営学部のカリキュラム・ポリシーである，多様なビジネス環境に対応できる人材や豊かな人間性が育まれる。 〈到達目標〉 本講義を通じて，地域の問題に対して，受講者が自ら積極的に学ぶ意識や姿勢を持ち，自分を取り巻く社会問題に気づく力を養うことを目標とする。			
2. 授業内容 以下の内容を座学とグループワークで進めていく。 4月 第1回：イントロダクション（講義の進め方），公共と政策・ガバナンス 第2回：女性の社会進出と家族のあり方の変化 第3回：人口減少社会と衰退する地方 5月 第4回：地方創生と地域活性化 第5回：観光と観光公害（オーバーツーリズム） 第6回：都市計画とまちづくり 6月 第7回：地域の中の居場所としてのサードプレイス 第8回：地域防災 第9回：地域保健（公衆衛生） 第10回：閉じられるコミュニティとNIMBY（迷惑施設） 7月 第11回：空き家とゴミ屋敷 第12回：ワークショップ：ブレインストーミングとKJ法1 第13回：ワークショップ：ブレインストーミングとKJ法2 第14回：ワークショップの成果発表			
3. 履修上の注意 履修を希望する学生は，必ず初回のイントロダクションで説明を受けてから履修の判断をすること。特に3,4年生の履修希望者は，必ずイントロダクションを受けに来ること。講義スケジュールについては，順番が前後したり，グループワークの進捗状況により内容が一部変更になったりする可能性がある。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義の際に次のテーマに関する準備学習を指示する。例えば，防災がテーマの回であれば，自分の住まいの市町村のハザードマップや防災パンフレット入手し，目を通すことが指示される。またワークショップを行うにあたり，課題として資料収集・作成の事前準備を課すこともあるし，自分達で次のワークショップまでに必要な作業を検討・準備してもらうこともある。			
5. 教科書 特に指定しない。			
6. 参考書 特に指定しない。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 第2回から第11回までは授業時間中に課題に取り組んでもらう（詳しくは「成績評価の方法を参照」）。課題については班でディスカッションを行い（相互評価），その結果を発表してもらう。発表に対してコメントをすることでフィードバックとするが，課題に対して個別のフィードバックが欲しい学生には，個別対応を行うので申し出ること。			
8. 成績評価の方法 第11回までは講義形式の座学を50分，その後にグループディスカッションを50分行い，成果物を提出してもらう。その内容を評価する（各回10点（10%）×10回）。第11回からのグループワークでは，第14回のプレゼン内容と提出されたワークショップの成果物の内容を評価し，第11回まで積み上げた点数に加点（ワークショップへの参加が見られない場合には，減点することもある）する。試験は行わない。			
9. その他 重要事項は全て初回の講義で指示する。必ず初回の講義に出て受講するかどうかを決めること。			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
現代健康論			鈴井正敏
2 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 現代社会における健康をはやっている病気の理解をとおして考えていきます。わたしたちのライフスタイルがどのように疾病に結びついているのか解説します。 がん，心臓病，脳血管障害をはじめ，晩婚化にともなう妊娠・出産障害ほか，糖尿病，高血圧症，動脈硬化症，うつ病，認知症，性感染症（HIV/エイズ）などについて解説します。また，新型コロナウイルスについても説明し，ヒトとウイルスや細菌の関係と免疫のはたらきについて理解します。病気はなにを起源としているのか，現代社会における病気を勉強することで，リスクとなる要素や要素間の関係，加齢による作用，ライフスタイルにおけるリスク及びライフスタイルによる予防法などについて考えていきます。各疾病について基本的に1時間ずつ解説します。また，学期末には，授業で扱わなかった病気について各自一つ選んでプレゼンテーションを行います。毎回，授業の最後か，宿題として小レポートを作成します。 ライフスタイルに潜む病気のリスクを理解し，対処法について考えられるようになることを目標とします。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクションと新型コロナウイルス感染について 第2回：病気と健康（総論） 第3回：がん 第4回：動脈硬化症 第5回：心臓病 第6回：脳血管障害 第7回：妊娠・出産障害 第8回：高血圧症 第9回：糖尿病 第10回：うつ病 第11回：認知症 第12回：性感染症 第13回：プレゼンテーション 第14回：まとめ，期末試験			
3. 履修上の注意 授業毎に簡単なレポートを作成します。 第13回に実施するプレゼンテーションはパワーポイントを使用します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o! Meijiに資料をアップしますので，授業前にダウンロードしてください。 ニュースや新聞で取り上げられた健康関連の話題に注意を払って下さい。専門用語は重要ですので，分からないところは質問したり，調べたりして理解するようにしてください。			
5. 教科書 使用しません			
6. 参考書 とくに定めません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 前の授業の課題について授業のはじめにコメントします。			
8. 成績評価の方法 レポート（60%）と期末試験（40%）により評価します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
住まいと仕事の地理学			中澤 高 志
2 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 公共経営を深く学ぶためには、人々の生活の実態について知り、どうしたらよりよい生活が可能になるかについて考える姿勢が必要です。この講義では、生活の基盤である住まいと仕事に焦点を当て、日本における人々の暮らしの変化と地域構造・都市構造の変容の関連性について、過去から現在までの時間軸に沿って説明していきます。 〈到達目標〉 資本主義の下では、私たちの住まいと仕事は、住宅や労働力として商品化され、住宅市場や労働市場で取引されています。しかし、住宅を建てるには自然の一部である土地が必要であり、労働力は人間の肉体的・精神的能力にほかならないというように、住宅や労働力は非常に特殊な商品です。その特殊性から、住宅や労働力が商品化されると、様々な社会問題が発生します。 発生する社会問題に対処するため、人間は社会政策を発展させてきました。この講義では社会政策の歴史についてもお話しますが、政策や制度を事細かに覚えることよりも、社会問題を人々の生活の経験として理解し、政策や制度の結果として、人々の生活がどのように変化したかを理解することに力を置きます。人々の経験の側から、社会問題や社会政策を見ていくということです。 この講義の最大の目標は、住まい・仕事と地理との密接な結びつきを理解することです。資本主義を特徴づける社会的分業は、必ず空間的分業の形態をとります。都市の内部では、作り出すことも動かすこともできない土地の利用をめぐるさまざまな主体が競合し、複雑な都市構造が作り出されます。歴史とともに変化する地理（歴史—地理）の中でとらえることによって、はじめて住まいと仕事を十分に理解することができ、よりよい生活への展望も開けてくるのではないのでしょうか。 今後皆さんは、住まいや仕事に関する個人的な問題について、いやでも考えさせられることになるでしょう。しかしそれを歴史—地理と関連づけて、大局的にとらえてみる機会はありませんか。この講義が、広い視野を持って住まいや仕事について考えるきっかけになれば幸いです。			
2. 授業内容 第1講 すまいと仕事の地理学へ 第2講 住所の歴史学 第3講 都市から都市圏へ 第4講 新中間層と理想のすまい 第5講 住宅政策の始まり 第6講 戦後住宅政策の3本柱 第7講 集団就職の時代 第8講 多産少死世代のライフコースと郊外化 第9講 農村工業化とその帰結 第10講 戦後住宅政策の変質 第11講 間接雇用がもたらすリスク 第12講 変わりゆく都市社会地理 第13講 地方創生の政治経済学 第14講 若者は海外を目指す			
3. 履修上の注意 テキストと補足資料に基づいて、講義を進めます。高校で地理A・Bを受講した経験があるかないかは、この講義の理解度にはほとんど関係ないでしょう。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 必須ではありませんが、地理学A、Bを受講しておくといでしょう。地理学に興味を持った方は、経済地理学A、Bも受講してみてください。余力があれば、他学部で開講されている地理学関連科目も受講してみてください。			
5. 教科書 中澤高志2019『住まいと仕事の地理学』旬報社。			
6. 参考書 適宜指定します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義の中で行います。			
8. 成績評価の方法 レポート3回（800字程度）×20点＋最終レポート40点。			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
公共セクター経済論			松野 裕
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 ・市場経済における政府の必要性およびその役割の理論と現実を検討する。 〈到達目標〉 ・上記概要に関連する経済学の諸概念の分析的および直感的な理解の両方を獲得することを目標とする。			
2. 授業内容 第1講：イントロダクション。 第2講：市場経済の効率性、理論と実際。 第3講：外部性。理論。 第4講：外部性。実際。 第5講：公共財。理論。 第6講：公共財。実際。 第7講：独占。理論・実際。 第8講：情報の非対称性。理論・実際。 第9講：情報の非対称性。理論・実際。 第10講：再分配。理論。 第11講：再分配。実際。 第12講：集合的意思決定。理論・実際。 第13講：政府の失敗。理論。 第14講：政府の失敗。実際。			
3. 履修上の注意 ・特になし。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・授業に関連した事柄について書籍や新聞・雑誌の記事を積極的に読むことが望ましい。 ・必修科目の「近代経済学」をよく復習することが望ましい。			
5. 教科書 特定の教科書は用いず、プリントを配布して授業を行う。			
6. 参考書 ・授業において随時言及する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 ・授業でコメントする。			
8. 成績評価の方法 ・成績は、出席点（14点）とレポート点（42点）、期末試験点（44点）の合計により評価する。 ・出席点は授業で質問用紙に質問を記入することで授業1回につき1点が与えられる（大幅な遅刻は0.5点）。ただし、就職活動（インターンを含む）や体育会の試合、病気や怪我など、やむを得ない理由で欠席する場合、それを証明する書類を写真に撮るなどして提出すれば不利にならぬように配慮する（クラスウェブを通じてファイルで提出すること）。授業動画は対面授業終了後に履修者全員に対し公開され、欠席者も見ることができる。 ・レポート点は各授業のレポートを授業日の次の日曜の午後11時までに提出した場合、1回につき3点が与えられる。上記期限以降に提出した場合は2.4点が与えられる。 ・レポートはワード等で作成したものを、クラスウェブを通じてファイルで提出すること。（昨季まで要求していた「手書き」は不要。） ・レポートは、授業の内容に対する感想・意見・考察を300字以上、書くこと。（昨季まで要求していた「授業の内容のまとめ300字以上」は不要。） ・レポートの字数を学生本人が数え、レポートに記入すること。			
9. その他 ・不明な点は、 yu.matsuno@gmail.com に問い合わせられたい。			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
公共マーケティング論			小 関 隆 志
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：公共マーケティングとは、営利企業が行っているマーケティングの手法を公共のために活用することを意味します。たとえば、環境保護や貧困撲滅をテーマとした公共広告は、商品宣伝広告の手法を取り入れながら、公共目的の宣伝を行っています。また、自治体が住民へのサービスを改善して満足度を高めることも、公共マーケティングのひとつと言えます。 本講義は、公共マーケティングの基本的な特徴を整理したうえで、自治体や博物館、図書館、医療機関、教育機関、企業などで行われている多様な公共マーケティングの具体的な方法論を幅広く取り上げます。 到達目標：公共マーケティングの基礎を理解するとともに、自らの意見を述べるができる。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション、公共マーケティングの基礎 第2・3回 マーケティング計画 第4回 マーケティング・ミックス 第5・6回 ソーシャル・マーケティング 第7回 博物館のマーケティング 第8・9回 公共機関のマーケティング 第10回 大学のマーケティング 第11回 マーケティング倫理 第12回 環境マーケティング 第13回 コーズ・リレイティッド・マーケティング 第14回 地域マーケティング、まとめ (順序が若干入れ替わる可能性があります)			
3. 履修上の注意 本講義の履修にあたって特定の予備知識は不要で、試験に際しては知識の暗記も特に要求しません。ただし、自分でよく考え、調べることが求められます。 出席はとりませんが、グループ・ディスカッションで議論し、フィードバック（授業の質問・感想）やミニレポートを提出するなど、積極的に授業に参加してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回の授業資料や参考書に目を通しておいください。			
5. 教科書 講義の際に資料を配布します。			
6. 参考書 フィリップ・コトラー、ナンシー・リー著／スカイライトコンサルティング訳『社会が変わるマーケティング：民間企業の知恵を公共サービスに活かす』英治出版、2020年 世良耕一著『コーズ・リレーテッド・マーケティング：社会貢献をマーケティングに活かす戦略』北樹出版、2014年 矢吹雄平著『地域マーケティング論：地域経営の新地平』有斐閣、2010年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meijiシステムを利用してフィードバックを行います。			
8. 成績評価の方法 定期試験（32％）、レポート（32％）、グループ・ディスカッション（36％）の合計で成績評価します。定期試験を受験することが単位認定の前提となります。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
社会会計論			櫻 本 健
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 国民経済計算を中心にマクロの会計フレームを演習形式で学び、データの特性に応じた分析能力を身に着ける。演習形式の授業をこなすことで、専門と同時にExcelの主な利用も学ぶことができる。			
2. 授業内容 第1回：公的統計制度と統計の種類 第2回：生産統計の概念 第3回：経済統計における分類 第4回：企業の財務比率の比較 第5回：国内総生産（GDP）の概念と利用方法 第6回：OECDデータベースに見る国内総生産の分布 第7回：物価統計とデフレーター 第8回：国民経済計算に見るマクロの主要指標の調べ方 第9回：公的統計・ビッグデータの利活用 第10回：移動平均法、季節調整 第11回：成長会計 第12回：国際収支・付加価値貿易統計 第13回：経済波及効果分析 第14回：a試験、b試験の正答解説			
3. 履修上の注意 9回目授業では可能であれば、e-Statへのアカウント登録をします。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業では演習形式で課題が多く出ます。授業1回に付き、復習を中心に1-2時間の勉強が求められます。			
5. 教科書 必要な情報は教員が配布します。			
6. 参考書 『入門GDP 統計と経済波及効果分析』李潔著（大学教育出版）、2023年、第3版 『経済系のための情報リテラシー—統計データで学ぶ』櫻本健編著(実教出版) 2025年 『経済系のための情報活用2—Office2019対応』櫻本健編著(実教出版) 2020年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業には定期的に課題が課されます。課題は正答率が低いため、解く努力を試みていることを評価していきます。多くの課題では解答がありますので、解答を示し、分かりにくいポイントがあれば授業で取り上げます。			
8. 成績評価の方法 平常点70％、試験30％で評価します。平常点は授業内提出物（WordやExcelでの課題）に基づきます。			
9. その他 この授業は演習で授業を進めます。もし質問があれば、授業前後で聞いていただくか、メールでお寄せいただければと思います。アドレシは新年度に各自に案内いたします。			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
社会的企業論			中 島 智 人
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 ますます多様化、複雑化する現代における社会課題に対して、営利と非営利との両者の性質を併せ持つ社会的企業は、従来にはない課題解決の主体として期待されている。しかしながら、社会的目的を達成するという本来的な特徴から、経済性と社会性との両立の困難に直面する社会的企業が、持続性を獲得することは容易ではない。この授業では、社会的企業の理解を通じて、事例を交えながら持続可能なビジネスモデルについて考察する。また、社会的企業を支える制度や政策を国際比較の点から考える。 社会的企業の特徴を、営利組織・非営利組織との関係から理解すること、社会的企業の持続可能性についてビジネスモデルの観点から考察できること、社会的企業を支える政策や制度のあり方について理解することを到達目標とする。			
2. 授業内容 第1回：社会的企業の理解 第2回：社会的企業と営利組織・非営利組織 第3回：ハイブリッド組織としての社会的企業 第4回：日本の社会的企業制度と政策 第5回：イギリスの社会的企業政策と制度（コミュニティ利益会社） 第6回：イギリスの社会的企業政策と制度（協同組合理想的社会的企業） 第7回：アメリカの社会的企業と制度 第8回：韓国の社会的企業と制度 第9回：社会的企業のビジネスモデル 第10回：サービス提供型社会的企業 第11回：労働統合型社会的企業 第12回：「まちづくり」と社会的企業 第13回：社会的企業と社会的インパクト評価 第14回：社会的企業の発展に向けて			
3. 履修上の注意 講義に加えて、受講同士のディスカッションを行う。また、授業後のフィードバックにもとづいた受講生と教員との質疑応答の時間も設けるため、受講生の授業への積極的な参加を期待する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめ提供される授業資料や参考図書を事前に確認し、授業に備えること。また、授業後は、授業中に配布資料を振り返り、内容を確認すること。不明な点があれば内容を整理し、質問すること。各回100分。 なお、各回の授業資料は、Oh-o! Meijiのクラスウェブに提供する。			
5. 教科書 特に定めない。			
6. 参考書 『社会的企業：雇用・福祉のEUサードセクター』C. ボルザガ, J. ドゥフルニ編 内山哲郎, 石塚秀雄, 柳沢敏勝訳（日本経済評論社） 『社会的企業の主流化』OECD編 連合総合生活研究所訳（明石書店） 『闘う社会的企業』藤井敦史, 原田晃樹, 大高研道編（勤草書房）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業に対する受講生からのコメントや質問など、リアクションペーパーの内容に関するフィードバックを次の授業の冒頭で行う。また、レポートに対する解説を授業内で行う。			
8. 成績評価の方法 定期試験50%、レポート20%、授業への貢献度（授業への参加、リアクションペーパーの内容等）30%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
N P O経営戦略論			小 関 隆 志
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：本講義は、非営利組織（Non-profit Organization: NPO）の経営課題を考察します。NPOは自らの社会的使命（ミッション）を達成するために、限られた資源を有効に活用することが求められます。NPOは営利企業と異なり、社会課題の解決を主目的としていること、有給職員だけでなくボランティアの協力に依存していること、事業収入だけでなく寄付金や補助金などの収入源を組み合わせていることなどから、独自の経営課題を抱えています。本講義では、NPOの経営に関する多様なテーマを取り上げ、事例をもとに検討します。 到達目標：NPO経営の特質を理解するとともに、自らの意見を述べるができる。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション、NPO経営の基礎 第2回 NPOの経営戦略 第3回 組織運営 第4回 人材育成 第5・6回 資金調達 第7回 アドヴォカシー 第8回 行政との協働 第9回 企業との協働 第10回 広報戦略 第11回 ブランド戦略 第12回 事業評価 第13回 情報公開と社会責任 第14回 中間支援組織の役割、まとめ （順序が若干入れ替わる可能性があります）			
3. 履修上の注意 本講義の履修にあたって特定の予備知識は不要で、試験に際しては知識の暗記も特に要求しません。ただし、自分でよく考え、調べることが求められます。 出席はとりませんが、グループ・ディスカッションで議論し、フィードバック（授業の質問・感想）やミニレポートを提出するなど、積極的に授業に参加してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回の授業資料や参考書に目を通しておいください。			
5. 教科書 講義の際に資料を配布します。			
6. 参考書 リチャード・P.チェイト、ウィリアム・P.ライアン、バーバラ・E.テイラー著／山本美生、一般社団法人WIT訳『非営利組織のガバナンス：3つのモードを使いこなす理事会』英治出版、2020年 長浜洋二『NPOのためのマーケティング講座』学芸出版社、2017年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meijiシステムを利用してフィードバックを行います。			
8. 成績評価の方法 定期試験（32％）、レポート（32％）、グループ・ディスカッション（36％）の合計で成績評価します。定期試験を受験することが単位認定の前提となります。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
ソーシャル・ファイナンス論			小 関 隆 志
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：皆さんは金融に対してどんなイメージを懐いているでしょうか。もしかすると、専門的で難しそうとか、冷酷に利益を計算して儲けているとか、自分は数字が苦手だから近寄りたいとか、なじみがないといったネガティブなイメージかもしれません。しかし、金融は私たちの日常生活に非常に身近な存在であり、なくてはならないものですね。 金融は地域経済の中で循環する血液のような、公益性の高い要素でもあります。また、有効な環境対策を打ち、SDGsに対応するためにも、金融の側面支援が重要なのです。 私的な利益追求のためだけの金融ではなく、社会や環境にプラスになる金融。それがソーシャル・ファイナンスであり、日本に限らず世界中で取り組みが広がっています。受講にあたって、金融に関する基礎知識は全く不要ですので、他学部の方も含め、気軽に受講してみてください。 到達目標：ソーシャル・ファイナンスの基礎を理解するとともに、自らの意見を述べるができる。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション、ソーシャル・ファイナンスの基礎 第2回 日本のソーシャル・ファイナンス（1）歴史 第3回 日本のソーシャル・ファイナンス（2）事業者の金融包摂 第4回 日本のソーシャル・ファイナンス（3）消費者の金融包摂 第5回 日本のソーシャル・ファイナンス（4）サステナブル投資 第6回 日本のソーシャル・ファイナンス（5）クラウドファンディング 第7回 ヨーロッパのソーシャル・ファイナンス（1）歴史 第8回 ヨーロッパのソーシャル・ファイナンス（2）金融包摂 第9回 ヨーロッパのソーシャル・ファイナンス（3）ソーシャル・バンク 第10回 ヨーロッパのソーシャル・ファイナンス（4）インパクト投資 第11・12回 アメリカのソーシャル・ファイナンス 第13回 途上国のソーシャル・ファイナンス（1）金融包摂 第14回 途上国のソーシャル・ファイナンス（2）インパクト投資／まとめ （順序が若干入れ替わる可能性があります）			
3. 履修上の注意 本講義の履修にあたって特定の予備知識は不要で、試験に際しては知識の暗記も特に要求しません。ただし、自分でよく考え、調べることが求められます。 出席はとりませんが、グループ・ディスカッションで議論し、フィードバック（授業の質問・感想）やミニレポートを提出するなど、積極的に授業に参加してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回の授業資料や参考書に目を通しておいください。			
5. 教科書 講義の際に資料を配布します。			
6. 参考書 小関隆志『金融によるコミュニティ・エンパワーメント』（ミネルヴァ書房）、2011年 新田信行・江上広行『誇りある金融：バリュー・ベース・バンキングの核心』近代セールス社、2020年 林公則『新・贈与論：お金との付き合い方で社会が変わる』コモンズ、2017年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meijiシステムを利用してフィードバックを行います。			
8. 成績評価の方法 定期試験（32％）、レポート（32％）、グループ・ディスカッション（36％）の合計で成績評価します。定期試験を受験することが単位認定の前提となります。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
協同組合学		大 高 研 道	
4 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 今日、世界的な金融・財政危機、環境問題、少子高齢化、不安定雇用、地域紛争など、私たちの経済・社会生活はその根幹をゆるがすさまざまな課題に直面している。いまこそ、地域における協同と連帯によってこれらの問題を解決することが求められている。19世紀前半に英国において誕生した協同組合の取り組みは、その後、日本を含む世界中の国々に広がっていった。近年では、国連による国際協同組合年宣言（2012年）、ユネスコ無形文化遺産登録（2016年）、そして2025年には2度目の国連国際協同組合年が宣言されるなど、その存在意義と果たす役割への期待は高まっている。また、2020年には42年ぶりの協同組合関連法である「労働者協同組合法」が成立し、2022年10月に施行された。本講義では、社会的な事業体としての協同組合の歴史・現状・課題の考察を通して、新たな社会経済システム構築に果たす協同組合の役割と可能性について共に考えたい。 《到達目標》 商業的世界が日常生活の隅々を支配している今日、私たちは「消費者」として他者と接する場面が多い。身近な地域の暮らしの現実の中で生成するさまざまな問題（現代的課題）に対応している協同組合は、商品・サービスを媒介としながらも、単なる「消費者」を超えた「生活当事者」としての視点に立った事業・運動に取り組んできた。本講義では、地域社会を基盤とした協同組合の位置と役割について理解することを第一義的な目的とするが、その学びの先には、「閉じられた関係性」のなかに生きる現代人の生活や労働のあり方を含めた自らの生き方そのものについて、一定程度のビジョンを提示できるようになることをも目指している。			
2. 授業内容 本講義は「協同組合とは何か（基礎編）」（第1回～10回）、「協同組合実践論」（第11回～18回）、「現代社会経済システムと非営利・協同論」（第19～28回）の三部構成からなる。 第1回目 協同組合とは何か 第2回目 現代協同組合論の射程 第3回目 協同組合の歴史と思想（1） 第4回目 協同組合の歴史と思想（2） 第5回目 協同組合の国際的展開（1） 第6回目 協同組合の国際的展開（2） 第7回目 世界の協同組合の新潮流（1） 第8回目 世界の協同組合の新潮流（2） 第9回目 わが国の協同組合の歴史（1） 第10回目 わが国の協同組合の歴史（2） 第11回目 生産者協同組合の実践（1） 第12回目 生産者協同組合の実践（2） 第13回目 利用者協同組合の実践（1） 第14回目 利用者協同組合の実践（2） 第15回目 労働者協同組合の実践（1） 第16回目 労働者協同組合の実践（2） 第17回目 協同労働と協同組合（1） 第18回目 協同労働と協同組合（2） 第19回目 経済のグローバル化と非営利・協同経済 第20回目 福祉国家再編下における非営利・協同組織 第21回目 NPOの歴史と制度 第22回目 NPOから社会的企業へ 第23回目 社会的排除問題と社会的企業（1） 第24回目 社会的排除問題と社会的企業（2） 第25回目 変容するコミュニティと社会的企業（1） 第26回目 変容するコミュニティと社会的企業（2） 第27回目 社会的経済・連帯経済論と協同組合 第28回目 まとめ			
3. 履修上の注意 ・本講義ではグループ討論・報告を実施する。討論への参加姿勢も成績評価に含まれる。 ・講義資料は事前にクラスウェブにアップしておくので、各自印刷しておくこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 《予習》 ・毎回の講義の最後に、次回講義のテーマおよびキーワードについて触れるので、最低限の言葉の意味と背景について調べておくこと。 《復習》 ・毎回の講義終了後、①「学んだこと」、②「疑問に思ったこと・さらに学びたいこと」の2点を整理しておくこと。これらについては、3部構成の各部の終わりに質疑応答・意見交換の時間を設ける。			
5. 教科書 特になし。			
6. 参考書 ・中川雄一郎（2018）『協同組合のコモン・センス』日本経済評論社 ・中川雄一郎・杉本貴志編著/全労済協会監修（2012）『協同組合を学ぶ』日本経済評論社 ・藤井敦史・原田晃樹・大高研道編著（2013）『闘う社会的企業』勁草書房			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の講義冒頭、前週講義に対する質問・疑問点等について解説および意見交換を行う。			
8. 成績評価の方法 試験80％、平常点20％（毎回の出席が前提となる。それゆえ、出席したからといって加点されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる）。			
9. その他 対話型の講義を重視する。グループ討議や質問・発言などを通して積極的に参加してほしい。			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
公益事業論		大 野 泰 資	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 《概要》 本講義では、電力・ガス・電気通信・公共交通等のサービスについて、公共経済学的な観点から、なぜ一定の政府規制の下での事業展開や料金政策が必要とされるのか、という点について理解を深める。次に、これらの公益事業が、公共性を担保しつつ効率的な事業経営を行うために必要な事業環境や、公益事業を評価する際の視点を学ぶ。また、公益事業をめぐる近年の規制改革や競争自由化、民営化は、どのような根拠に基づいて実施されてきたのか、また、その成果をどのような評価軸で評価すべきなのかを把握する。さらに、感染症対策に伴うコスト増、テレワークの普及や急速に進む少子高齢化、技術革新の進展により、公益事業は今後どのように変化していくのかを考察する。担当講師は実務家であるため、講義の中では伝統的な経済理論の解説に留まらず、現実の公益事業の現場で生じているトピックスを積極的に取り上げる予定である。 《到達目標》 日常的に利用している公益事業について、サービスの量・質と料金水準の関係や、事業運営の効率性を評価するための判断基準を養えるようにすることを目標とする。			
2. 授業内容 《概論》 第1回：aのみーイントロダクション（公益事業の特性と政策的対応の必要性） 第2回：公益事業の費用構造 第3回：公益事業の価格決定 第4回：公益事業の料金政策とインセンティブ 《事業別各論》 第5回：電力（その1）－自由化とエネルギー政策－ 第6回：電力（その2）－自由化とエネルギー政策－ 第7回：公共交通（その1）－航空、鉄道、バス、タクシーなど－ 第8回：公共交通（その2）－航空、鉄道、バス、タクシーなど－ 第9回：公共交通（その3）－今後の公共交通の在り方－需要縮小と技術革新－ 第10回：水道 第11回：情報通信－固定電話、移動体通信－ 《公益事業の改革》 第12回：公営企業の民営化－国鉄、郵政、道路公団－ 第13回：民が担う新しい公共－社会的起業、NPO－ 第14回：総復習とまとめ			
3. 履修上の注意 初級レベルのミクロ経済学の知識を持っていることが望ましい。知識が無くても理解できるように説明するが、受講生は、初級のミクロ経済学のテキストを参照できる状態にはしておくこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回の授業では、冒頭で前回の復習、続いて本論、終了前に当日の復習を行う。毎回のサイクルを繰り返すので、授業の中だけでも復習ができるようにする。なお、適宜、参考文献を紹介するので、予復習に活用してもらいたい。			
5. 教科書 特に定めない			
6. 参考書 塩見英治編『現代公益事業』有斐閣ブックス、2011年 木船久雄・西村陽・野村宗訓『エネルギー政策の新展開』晃洋書房、2017年 橘川武郎『電力改革』講談社現代新書、2012年 竹内健蔵『交通経済学入門』有斐閣ブックス、2008年 公益事業学会編『公益事業の変容』関西学院大学出版会、2020年 公益事業学会関西若手研究会編『公益事業の再構築』関西学院大学出版会、2023年 など 毎回の講義ノートの中で、適宜、官公庁や審議会の資料を紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各回授業の冒頭で、前の回の授業で出題した「小テスト」および「ディスカッション」に対する担当講師からの解説および講評を行う。			
8. 成績評価の方法 定期試験70％、平常点として①授業へのディスカッションへの参加の程度15％、②各回の小テスト15％の割合で評価する。			
9. その他 われわれは光熱水道や公共交通網を日常的に利用しているので、提供されるサービスに対して「便利である、不便である」「高い、安い」という感覚を持ち合わせているはずである。その感覚を取っ掛かりとして、これら公益事業のサービスと料金が提供される背後にある産業組織の構造を関連づけて考えてみよう。 【e-mail】taishi@murc.jp			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
公共ガバナンス論A		石 渡 幹 夫	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 概要 公共セクターが対処すべき社会課題は、グローバル化、デジタル化、気候変動等の影響により、かつてない速度で複雑化・多様化している。従来の政府主導による垂直的な統治システム（ガバメント）では、こうした課題に十分な対応が困難となっている。特に、環境問題、社会保障、地域活性化などの分野では、多様な関係者の関与と利害調整と協力が不可欠となっている。政府・地方自治体・市民社会・民間企業・NPOなど、多様な主体の協働による新しい統治形態としての「ガバナンス」が注目されている。トップダウン型の意思決定から、ネットワーク型の協調的な政策形成・実施へと、公共課題への対処方法を転換するものである。本講義では、ガバナンスの理論的基礎から実践的な課題まで、体系的な理解を目指す。特に、水資源管理を主要な事例として取り上げ、環境保全と社会的ニーズの調和、多様なステークホルダーの合意形成、科学的知見の活用など、現代的な課題解決の実践を検討する。水資源管理は、上水道整備、治水、利水、環境保全など、多面的な要素を含む複合的な政策領域であり、ガバナンスの課題と可能性を考察する上で適した題材となる。さらに、気候変動への適応策としての「グリーンインフラ」や、流域全体での統合的な水管理など、新しい概念や手法についても学ぶ。国内事例の詳細な検討に加え、先進的な取り組みを行う海外の事例も取り上げ、グローバルな視点からガバナンスの在り方を考察する。理論的課題と事例分析を組み合わせることで、実践的な問題解決能力の向上を図る。 到達目標 ガバナンスの基礎理論と歴史的展開を理解し、説明できる 多様なステークホルダーの役割と、協働の意義を理解できる 水資源管理についての事例分析を通じて、ガバナンスの課題と可能性を考察できる グローバルな視点から公共課題の解決方法を構想できる			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション：ガバナンスとは何か？ ガバナンス論をめぐる概観や分析枠組みを理解する 第2回 公共政策の基礎：なぜ政府の介入が必要なのか？ 外部性、コモンスの悲劇、市場の失敗の概念などから政府の役割を学ぶ 第3回 ガバメントからガバナンスへ：ガバナンス論が誕生した理由は？ ・ガバナンス論が登場した背景を「国家の失敗」から理解する。 ・階級制ヒエラルヒーからネットワーク・パートナーシップ型への動きを学ぶ。 第4回 公共サービスの改革さ：改善するための取組みとは？ 以下について学び、理解を深める ・ニューパブリック・マネジメント（NPM）やエージェンシーの基礎理論 ・NPOの参加・協働の背景 ・民間活力（外部委託、指定管理者制度、PFI/PPP）の利点、課題について 第5回 日本におけるガバナンス変革：過去の改革は成功したのか？ ・地方分権の流れ：機関委任業務や国直轄事業、中央と地方の税財政関係（補助金と直轄負担金、地方交付税の改革） ・独立行政法人制度など政府系機関の改革について 第6回 政策や事業の評価：成果を評価し政策を改善していく方法は？ 事業評価制度や政策評価制度についてその背景、目的、仕組み、情報公開について理解する。 第7回 水資源管理の歴史的変遷：現在の水の管理の仕組みはどのように出来上ってきたのか？ ・律令時代から江戸時代、近代国家、戦後、と経済社会の変遷とともに変化してきた水管理システム、水利権やマネジメントの仕組みを学ぶ 第8回 かんがい用水の管理：農業用水の歴史的な管理方法は？ かんがい用水の管理について歴史的な変遷を学ぶことで、現在の体制を理解する。 第9回統合水資源管理：複数の分野を管理する方法は？ 統合水資源管理の概念、淀川・琵琶湖や海外での事例を理解し、統合的な管理について説明できるようにする。 第10回 ダムや河口堰への反対：なぜ反対運動が巻き起こったのか？ ダムなど大規模開発をめぐる反対運動がおこった背景と、その後の政策変革について、長良川河口堰、ハッ場ダムなどを事例に理解する。 第11回 水ガバナンスの改革：どのように改革されたのか？ 住民参加を位置付けた河川法改正や流域協議会について学び、淀川や多摩川を事例として実施における課題を理解する。 第12回 総合治水から流域治水：多様な主体が流域全体で治水に取組むとは？ 都市洪水対策としての鶴見川での取組や、気候変動適応策としての流域治水について理解できる 第13回 グリーンインフラの可能性：自然の機能を使った手法とは？ 福岡県上西郷川、世田谷区二子玉川などの事例からグリーンインフラの機能や便益、協働による可能性を理解する 第14回 振り返りとまとめ：今後のあり方は 定期試験と、試験内容の解説と全体の振り返り			
3. 履修上の注意 履修生の人数により定期試験を期間中試験に変更することがある。 授業の内容に関する課題を出します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前にキーワードなどを自分で調べること 課題の提出 授業と関連した事柄について書籍や新聞・雑誌の記事から情報収集する			
5. 教科書 講義資料はオンラインで提供する			
6. 参考書 『公共政策学の基礎』 秋吉 貴雄、伊藤 修一郎、北山 俊哉 2020 有斐閣 『日本の水資源管理の経験』 2022 国際協力機構			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題について授業のはじめに全体講評する。 期末試験については、答案回収後に解説の時間を設ける。 受講生からの質疑を踏まえ、授業で補足説明や追加資料を提供する。			
8. 成績評価の方法 平常点、授業への貢献（30％） 課題（40％） 期末試験（30％）			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
公共ガバナンス論B		石 渡 幹 夫	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 概要 環境・防災・天然資源管理における公共ガバナンスについて、国内外の具体的事例を通じて体系的に学習する。ガバナンスの整備においては、各地域固有の地形や自然条件、社会文化的背景が大きく影響するため、画一的な解決策は存在しない。持続可能な社会の実現に向けては、地域の特性を活かした柔軟なガバナンスの構築が不可欠である。 近年、気候変動の影響により自然災害が激甚化・頻発化する中で、従来の行政主導による対応では十分な効果を上げることが困難になってきている。特に、都市化の進展に伴い、水害や土砂災害のリスクが高まっている。復興においては、迅速な対応と地域社会の持続可能性の確保の両立が求められる。森林や水産資源などの天然資源管理においても課題が顕在化している。人口減少や高齢化により、地域社会による伝統的な資源管理システムの維持が困難になりつつある一方で、環境保全や生物多様性の保全に対する社会的要請は高まっている。行政、市民社会、民間企業など多様な主体の協働による新たなガバナンスの構築が世界各地で模索されている。各地で発展してきた伝統的な管理システムの特徴を理解した上で、近代化の過程でこれらがどのように制度化され、現代においてどのような変容を遂げているかを学ぶ。 到達目標 世界各地の防災・環境ガバナンスの特徴と課題を理解し、説明できる 地域性や社会文化がガバナンス整備に与える影響を分析できる 具体的な事例に学ぶ、効果的なガバナンス構築の方策を提案できる			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション：環境や天然資源管理におけるガバナンスとは何か 環境・天然資源をめぐるガバナンスについて、世界の議論や取組みを理解し、ガバナンスについて学ぶ。 第2回 水ガバナンス：国際的に何を議論しているのか？ 有効性、効率性、信頼と関与の3要素に基づくOECDによる12の原則を理解する 第3回 グローバル水ガバナンス：国際社会は水問題の解決にどのように取り組んでいるのか？ 国連や国際機関、国際会議での水問題解決に向けた動きを理解する。 第4回気候変動ガバナンス：国際的な枠組みとは？ 気候変動への対策として国際的なガバナンスについて理解する。 第5回 防災ガバナンス：歴史的にどのように発展してきたのか？ 地域社会が主体となる水防団の成立とその歴史、役割、変遷について学ぶ 第6回 防災庁：災害対策の司令塔の在り方は？ 災害対策の組織・ガバナンス整備について日本ではどのような発展を遂げ、現在、議論がなされているのか、説明できる。 第7回 海外の防災ガバナンス：海外ではどのような防災体制がとられているのか？ アメリカ、アジア諸国の災害体制について学ぶ 第8回 土砂災害対策：土砂災害を防ぐ取組みは？ 土砂災害を軽減する協働体制について、神戸市の六甲山の砂防事業を事例に理解する。 第9回東日本大震災からの復興：復興はどう進められたか 迅速な復旧に向けた支援体制や、復興の枠組み、ジェンダー・多様性に関わるガバナンスについて議論する。 第10回 インド洋大津波からの復興：大津波からどのように復興したのか？ 20万人以上の犠牲者を出した津波災害からのインドネシアやスリランカなどで復興におけるガバナンスについて学ぶ 第11回 公害対策：どのように公害対策は進められてきたのか？ 高度成長の歪みとして発生した公害病の対策や、汚染規制について議論する 第12回 森林管理：森林管理の現状は？ 環境管理に重要な役割を果たす国内外の森林の現状、マネジメントの改革について学ぶ 第13回 水産資源管理：水産資源はどのように管理されているのか？ 水産資源の国内外での現状と課題について学び、取組について議論する 第14回 振り返りとまとめ：今後のあり方は 定期試験と、その解説			
3. 履修上の注意 履修生の人数により定期試験を期間中試験に変更することがある。 授業の内容に関する課題を出します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前にキーワードなどを自分で調べること 課題の提出 授業と関連した事柄について書籍や新聞・雑誌の記事から情報収集する。			
5. 教科書 毎回、教材を配布する			
6. 参考書 OECD『水ガバナンスに関するOECD 指標と枠組み』 OECD(2015) 『日本の防災、世界の災害：日本の経験と知恵を世界の防災に生かす』石渡幹夫（2016）鹿島出版会			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については次の講義で概説します。 定期試験は答案の回収後、解説します。 受講生からの質疑を踏まえ、授業で補足説明をし、追加資料を提供する。			
8. 成績評価の方法 平常点（出席、授業への貢献）（30％） 課題（40％） 定期試験（30％）			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
地方財政論			星 野 泉
4 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 地方財政を論じる場合の「地方」とは、農政部、あるいはいわゆる田舎のことを意味するわけではない。駿河台のある東京中心部の千代田区を含む東京特別区や東京都、あるいはその他の都市部自治体をも含んだ概念であり（現在はその部分が圧倒的に大きい）、公共部門たる地方自治体を意味し、地方財政とはその財政活動のこととなる。 地方自治体は、予算、税制、財政調整、補助金、公債などで国との財政関係を強くもつ一方、公共サービスの供給及び地方税の課税主体として住民との財政関係をもつ。また、総体としての地方財政状況が、日本全国にある個別自治体の財政状況と同じでもない。市といっても、人口400万人近い横浜市から人口2,000人台の歌志内市まで様々。財政問題は全く異なる。本講義では、こうした二面性をおもに制度、歴史、国際比較の観点からみていく。 また、財政の国際化が進み、国際公共財や、財政や税制の国際調整が課題となるにつれ、地方財政の分野は大きく広がりがつつある。EU の観点から見れば、EUに属するヨーロッパの一国は一地方であり、各地域にEUからの交付金もある。世界あるいは国連中心主義から見れば、日本財政も地方財政の一部となる。したがって、国の財政も地方財政の範疇といえる。これまでおもに国との関係で地方財政や地方分権論を語ってきたものがより複雑化してきたのである。分権論は、国からばかりでなく、国を超えた主体からの分権も議論しなくてはならない。 本年度は、国税を含めた税制を中心に日本の地方分権の現状、感染症や災害等の危機対応、そしてイギリスやスウェーデンとの国際比較に時間を割く予定である。また、少子高齢化との関わりなど、その時々課題についても盛り込んでいく予定であり、授業予定は前後することもある。起きている事象に対して、問題意識をもちたい、その方法を知りたい、という学生の受講を希望する。			
2. 授業内容 第1回 bのみ 講義の概要 第2回 地方財政今そこにある危機、地方自治と地方財政 第3回 経済、財政、地方財政の国政比較 第4回 公共部門と民間部門 第5回 スウェーデンの地方財政 第6回 イギリスの地方財政 第7回 国民経済と地方財政 第8回 日本の地方財政概要 第9回 日本の地方財源 第10回 所得税と個人住民税 第11回 法人税と地方法人2税（事業税・法人住民税） 第12回 消費税と地方消費税 第13回 固定資産税 第14回 自主課税権、法定外税、環境税 第15回 地方交付税と地域格差 第16回 公共事業、教育、福祉と国庫支出金 第17回 地方債 第18回 経費の分類 第19回 少子高齢化と地方財政1 第20回 少子高齢化と地方財政2 第21回 地方分権改革の動向 第22回 住んでいる自治体の財政分析をしてみよう 第23回 都道府県財政 第24回 大都市財政（政令指定都市と東京特別区） 第25回 都市財政 第26回 小規模町村財政 第27回 地方財政の今日的課題 第28回 aのみ 講義の整理			
3. 履修上の注意 関連科目として財政学、財政政策。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキスト、参考文献を読んで参加すること。			
5. 教科書 兼村・星野・稲田『自治体財政を読み解く』（イマジン出版）2022年発行			
6. 参考書 拙著『財政のかたちは国のかたち』（朝陽会） 拙著『スウェーデン高い税金と豊かな生活』（イマジン出版）			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 授業への参加度30%、小試験30%、レポートおよび定期試験の成績40%による。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
地域活性化論（講義） A			熊田知晃
2 単位	2 年次	春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：興行による地域活性化 (1) 概要 興行（イベント）は、音楽の鑑賞、スポーツの観戦等を目的に集客するものである。会場では飲食物等が提供される場合もあり、音楽、スポーツ等の主たる目的に関連する効果だけでなく、経済的な効果も期待される。いずれにしても地域活性化に繋がる効果が生まれている。そこで、この授業では、具体的な事例を踏まえながら、地域の興行であるお祭り、クラシック音楽領域における興行である音楽祭による地域活性化を概括的に論じていく。 (2) 到達目標 興行は「打上花火」的に開催される場合があり、開催期間中に稼げるか、稼げないかといった経済的な指標でしか評価されない傾向にある。一方で、興行はシビックプライド、都市の魅力といった社会的側面等に対して様々な波及効果を生む。「知」の蓄積を読み解いていくことで、地域活性化を経済的側面以外の効果で説明できるような思考を身につける。 <ガイダンス資料> https://docs.google.com/presentation/d/1rfykDbfC31gTXlw0BWNv-s49VxXHllo1ek2UAFbXu-E/edit?usp=sharing			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション（地域活性化論（実習）Aの第1回と同日） 第2回 興行と地域活性化 第3回 興行のガバナンス 第4～12回 興行を支える組織①～⑧ 行政・議会、経済団体、金融機関、民間企業、大学 興行の波及効果と評価 第13～14回 演習（グループワーク）、総括 詳しい授業内容は以下のスプレッドシートに随時更新する。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1neyeFJmyv_5jClxTcJ6hSnHcSAeifUm3fQ00g-75Wqc/edit?usp=sharing			
3. 履修上の注意 プロジェクターに資料を投影した授業を行う。テーマに応じてゲストが同席する場合、出席者の意見を求める場合、ゲストの都合で授業予定が前後する場合がある。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に必要な資料は事前にクラスウェブに掲載するので、準備・閲覧すること。			
5. 教科書 使用しない。			
6. 参考書 講義中に紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 メール、SNSを活用する。			
8. 成績評価の方法 授業への参画度：60%、演習への参画度：40%。詳しくは第1回授業時に説明する。			
9. その他 「経営学部履修の手引」を確認の上、地域活性化論（実習）Aとセットで履修することが求められる。また、本科目の性質上、履修希望者は必ず「仮参加」登録した上で、第1回の授業に必ず出席すること。履修希望者は4月4～10日にアンケートへ回答すること。定員は16名とし、履修者は第1回の授業中に選抜する。定員枠に余りが出た場合、4月11日以降、シラバスに再募集方法を掲示することがある。履修者の選抜においては、①積極的な姿勢、②府中市近隣在住を考慮する。			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
地域活性化論（実習） A			熊田知晃
2 単位	2 年次	春学期集中	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：興行による地域活性化 (1) 概要 興行（イベント）は、音楽の鑑賞、スポーツの観戦等を目的に集客するものである。会場では飲食物等が提供される場合もあり、音楽、スポーツ等の主たる目的に関連する効果だけでなく、経済的な効果も期待される。いずれにしても地域活性化に繋がる効果が生まれている。そこで、この授業では、具体的な事例を踏まえながら、地域の興行であるお祭り、クラシック音楽領域における興行である音楽祭による地域活性化を実習していく。 (2) 到達目標 興行は「打上花火」的に開催される場合があり、開催期間中に稼げるか、稼げないかといった経済的な指標でしか評価されない傾向にある。一方で、興行はシビックプライド、都市の魅力といった社会的側面等に対して様々な波及効果を生む。「生」の興行に参加していくことで地域活性化を経済的側面以外の効果で説明できるような思考を身につける。 <ガイダンス資料> https://docs.google.com/presentation/d/1rfykDbfC31gTXlw0BWNv-s49VxXHllo1ek2UAFbXu-E/edit?usp=sharing			
2. 授業内容 第1回 視察・実習の方法（地域活性化論（講義）Aの第1回と同日） 第2～13回 興行の事例紹介・視察（予定） ・くらやみ祭 ・新居手筒花火 ・府中市商工まつり ・草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル 第14回 総括（2025年9月中旬） この授業は事前学習（準備）、現地視察（実習）、事後学習（報告）の構成で進める。現地視察では、実際に興行に関わることも想定している。また、現地視察（実習）にかかる交通費・宿泊費の一部は明治大学の学生用旅費助成が使用可能であり、参加する為の自己負担額を抑えることができる。詳しい授業内容は以下のスプレッドシートに随時更新する。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1neyeFJmyv_5jClxTcJ6hSnHcSAeifUm3fQ00g-75Wqc/edit?usp=sharing			
3. 履修上の注意 実習は、履修者の授業時間に被らない春学期の5・6限、夏季休業等の休日・休講日に実施する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 実習に必要な資料は事前にクラスウェブに掲載するので、準備・閲覧すること。関連文献・資料の調査、資料準備が必要になる場合もある。			
5. 教科書 使用しない。			
6. 参考書 講義中に紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 メール、SNSを活用する。			
8. 成績評価の方法 現地実習への参画度：60%、事前学習（準備）・現地視察（実習）・事後学習（報告）の各レポート：計40%、現地実習への参加した人のみを成績評価の対象とする。詳しくは第1回授業時に説明する。			
9. その他 「経営学部履修の手引」を確認の上、地域活性化論（講義）Aとセットで履修することが求められる。また、本科目の性質上、履修希望者は必ず「仮参加」登録した上で、第1回の授業に必ず出席すること。履修希望者は4月4～10日にアンケートへ回答すること。定員は16名とし、履修者は第1回の授業中に選抜する。定員枠に余りが出た場合、4月11日以降、シラバスに再募集方法を掲示することがある。履修者の選抜においては、①積極的な姿勢、②府中市近隣在住を考慮する。			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
地域活性化論（講義） B		志 波 早 苗	
2 単位	2 年次	秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 敗戦後の日本が経済復興する過程で大都市圏と地方の格差が拡大しました。そして現在、双方共により深刻な諸問題が表出しています。 少子・超高齢化による人口減少社会の進展、地方および地域経済の衰退、貧困格差の拡大と固定化、20年後30年後には都市部においても消滅都市が発生するという報告もあり、政府も地方公共団体も地方創生、地域活性化の政策を掲げています。住民（市民）によるまちづくり活動も行われていますが、一般になかなか有効な手立てがありません。しかし、中でも大消費地の経済力を活かした地域連携、地域資源の徹底的な発掘とネットワーク化、共感型経済圏の構築、近未来を見越したコミュニティ・ビジネスで成果を上げている地域も散見されます。 成否を分けるのは何か、実例を基に考えていきます。 《到達目標》 現代日本社会の諸問題はどんな変遷を経て（地域）社会へ表出しているのか。身近な問題から接近して多角的な知見を得て、自分なりの問いを立て、思考し、意見交換し、また自分の考えを深めていきます。 その繰り返しが主体的な学びの姿勢へ変化し、やがて実践へ通じ、知らず知らず力をつけていくことを期待し、目標とします。			
2. 授業内容 第1回：地域コミュニティとは何かを動画を基に意見交換する 第2回：基礎知識編①「敗戦後の日本人のくらしと社会・経済の変遷」 第3回：基礎知識編②「現代日本の社会問題とその背景」 第4回：今を考える①「貧困問題とグローバリゼーション」 第5回：今を考える②「社会的連帯経済と協同組合とSDGs」 第6回：育てるコミュニティ① コミュニティ問題の社会化とローカルパーティ 第7回：育てるコミュニティ② 特徴を活かした大都市での地域づくりと人づくり 第8回：地方経済の活性化① 過疎地で新しい働き方の創造 第9回：地方経済の活性化② 地域経済を支える信用金庫の挑戦 第10回：大地と共に心を耕せ① 無茶々園の歴史 第11回：大地と共に心を耕せ② 無茶々園と共感型経済 第12回：大地と共に心を耕せ③ 無茶々園と地域福祉 第13回：大地と共に心を耕せ④ 無茶々園は未来を描く 第14回：全体の振り返りとレポート課題 ※各回、前半を講義、後半をワークショップにします。 自分の問題意識と実習がつながるように設定していますので、積極的に参加してください。 ※ゲストスピーカーのスケジュールによって、授業内容を変更することがあります。			
3. 履修上の注意 地域活性化論（実習）Bとセットで履修します。講義も実習との兼ね合いでオンデマンドにすることもあります。 募集は10名です。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業時に参考論文の配布や参考文献を紹介します。積極的に読んでもらいたいと考えます。 また、授業の資料や課題レポートについては、O! meiji!のシステムを使って掲示します。 欠席の場合は、次の授業に続いているので、必ず資料を読むこと。			
5. 教科書 愛媛大学社会共創学部研究チーム『大地と共に心を耕せ』農山漁村文化協会（2018） ※2018年度出版ですが、無茶々園の骨格は変わっていないので、教科書にします。			
6. 参考書 木下斉「なぜ人口減少社会において、協同組合モデルが有効であるか」（協同組合研究誌『にじ』No.651）（JC総研） 『人新世の「資本論」』斎藤幸平（2020／集英社新書） 『社会的連帯経済』藤井敦史編著（2022／彩流社） 『われらの子ども 米国における機会格差の拡大』ロバート・D・パットナム（2017／創元社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 O! meiji !を利用して案内します。お知らせなどを適宜みるようにして下さい。			
8. 成績評価の方法 レポート（50%）、授業への参加度（50%）。 レポートは、無茶々園をよりよく理解し、体験実習が深まるような課題をテーマにします。 履修生自身が何よりも主体的に考え、自分なりの答えを見つけて出すことを重視します。			
9. その他 ワークショップや意見交換に際しては、相手の言うことを批判・否定せず、よく聴き議論してください。 授業で話す内容は実習で実感するように設計しています。両方必ず出席してください。			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
地域活性化論（実習） B		藤 木 千 草	
2 単位	2 年次	秋学期集中	
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 地域活性化といっても、それぞれの地域によって歴史も気候風土も文化も異なり、時代によっても状況が変化します。具体的な方策を考える上では、画一的な手法を当てはめるのではなく、それぞれの地域や時代状況を踏まえるとともに、文献情報だけでなく自らその地域に赴いて実践を通して考えることが有効です。 この授業では、地域活性化論（講義）Bと並行して、自分の身近にある課題について検討し、テーマを一つ選んで、どのようにその課題を解決するか、事業プランを考案します。できるだけ具体的なプランにするために、実際に地域のニーズに応える事業を行っている現場を訪問し、実践の方法やプランニングについて学びます。 また、メインの実習は春季休業中に実施する4泊5日の実習です。この実習地でも、地域にある課題解決に向けた事業プランを考えます。 2種類の事業プランは、すべての実習が終了後の2月に行う報告会で発表します。 体験・実習を通して、それぞれが考えてきた身近な課題の解決プランをより具体的なものにしていきます。 《到達目標》 実習を通して、主体的に行動し、地域活性化の具体策を考案する。			
2. 授業内容 実習は以下の3つに大別されます。 1）東京都内の実習3か所 実習①ワーカーズ・コレクティブなど訪問（西東京市） 高齢者の介護・保育・グループホーム・カフェ・食事サービスの分野で起業して事業を展開している人たちのお話を伺う。 実習②ワーカーズコープ及び「東京DEW」（新宿区） ワーカーズコープ関連の様々な事業所が同居している、自主的な学びと働きを融合させた施設をたずね、現状と今後の構想などをお聞きする。 実習③新宿ごはんぶらす（新宿区） 都庁の下で毎週土曜日に住まいを失ったり、収入が減ったりした人たちを支援する相談会と食事の提供を行っている現場を訪問し手伝いを行う。 訪問先については、訪問前の授業で概要を予習し、訪問後の授業で意見交換を行います。 それぞれが選んだテーマの事業プランづくりも同時に進めていきます。 2）無茶々園（愛媛県）での実習 春季休業中（2月）の訪問先は、愛媛県西予市明浜町で約40年前から、ミカンなど柑橘類の有機栽培に取り組んでいる株式会社地域法人無茶々園です。無茶々園は、農業だけでなく環境に配慮した真珠やちりめんなど海産物の生産、高齢者福祉、外国人実習生の人材育成、子どもの教育なども幅広く手がけ、地域の団体や住民とともに地域活性化に取り組んでいます。 無茶々園の概要や歴史を知り、農業の現場での柑橘類の摘果や選果作業、漁業との連携による海産物等の加工作業、高齢者の福祉施設、廃校になった小学校を拠点とするコミュニティの活性化事業を見学・体験することを通して、生産者や地域住民への聞き取り、意見交換などを行い、地域の活性化策に必要なことや手法について考察します。 3）報告会 無茶々園での実習終了後、大学キャンパス内で実習報告会（2月）を行い、活動内容及び学んだことを整理して報告するとともに、それぞれが取り上げた地域課題の対策に向けた具体的な事業プランを発表します。			
3. 履修上の注意 地域活性化論（講義）Bとセットで履修すること。実習の受入団体のキャパシティから定員10名。少人数なので必ず受講する方だけ登録してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 実習に行く前に、それぞれの団体について基本的なことを調べます。実習後は振り返りを行い、実習で学んだことを記録し、意見を出します。また、授業を通して考案する身近な課題を解決する事業プランに生かすことをふまえて、取り組んでください。			
5. 教科書			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 実習後のレポートや身近な課題を解決する事業プラン作成に関するワークシートなどの提出は、Oh-o! Meijiを通じて配信します。常に確認してください。			
8. 成績評価の方法 授業や実習の参加姿勢とレポートの提出（50%）と事業プランの内容と発表（50%）で成績評価します。			
9. その他 実習は受け入れ先のご協力により実施できるものです。前向きに取り組むことが、その厚意に応えることになります。積極的に参加してください。 実習にかかる費用は、交通費約4万円、宿泊費等約3万円がかかる見込みですが、学生旅費補助で3万円（上限）まで申請することができます。 質問等はメールで連絡してください。chigusaf@gmail.com			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
公共交通と地域社会			大塚良治
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 人口減少やモータリゼーションの進展に伴い、国内の多くの公共交通事業者の経営環境は厳しさを増しています。さらに、2020年には新型コロナウイルスの感染が拡大し、公共交通機関の利用が大きく落ち込みました。公共交通の持続的運営方策の立案・実行が急務といえます。本講義では、公共交通活性化および公共交通を基盤とした地域活性化に関するプランを企画・立案・説明できる能力を身につけることを到達目標とし、国内の地域公共交通の運営と活性化のあり方についてを学ぶとともに、公共交通事業者と地域社会がともに発展する道筋について理解を深めます。なお、当授業は「メディア授業科目」です。14回中6回を「オンデマンド授業」で実施します。 <到達目標> ・公共交通活性化プランを企画・立案・説明できる ・公共交通を基盤とした地域活性化プランを企画・立案・説明できる			
2. 授業内容 第1回：都市問題解決手法としての自動車を前提としたまちづくりの是非〔対面授業〕 第2回：エベネザー・ハワードの「田園都市」・ル・コルビュジエの「輝く都市」と公共交通〔対面授業〕 第3回：大手私鉄の沿線開発と地域社会①（総論・阪急・東急）〔対面授業〕 第4回：大手私鉄の沿線開発と地域社会②（西武鉄道の不採算路線問題）〔対面授業〕 第5回：JRの経営多角化と地域社会〔対面授業〕 第6回：地域住民による公共交通の運営①（川崎市麻生区他）〔対面授業〕 第7回：地域住民による公共交通の運営②（千葉ニュータウン地域）〔対面授業〕 第8回：鉄道事業者による着席通勤の取り組みとまちづくり〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：新幹線・有料特急通勤とまちづくり〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：地域鉄道の存続問題①（えちぜん鉄道他）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：地域鉄道の存続問題②（四日市あすなろ鉄道他）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：観光まちづくりと公共交通①〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：観光まちづくりと公共交通②〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：持続可能な地域づくりに向けた公共交通活性化の課題〔対面授業〕 ※受講生の理解や社会経済情勢の変化等によって内容を一部変更することがあります。			
3. 履修上の注意 特段の予備知識は不要です。ただし、一部の授業で交通事業者の財務諸表を利用することがあるため、会計学に関する基礎知識があると一層理解が深まります（会計学の知識は必須ではありません）。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：授業前の1週間に報道された公共交通に関するニュースに目を通す。 復習：授業で配布された資料に目を通す。			
5. 教科書 レジュメを配布します。			
6. 参考書 特に定めません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回出席確認のために実施する提出課題について、次回授業で講評を行います。小テストについては、Googleフォームの採点結果のフィードバック機能を活用して結果および解説を通知します。			
8. 成績評価の方法 授業内小テスト100% ※提出課題については、加点することがあります。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
観光事業論 A			中 島 恵
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 2003年に小泉政権は日本の主要産業を製造業から観光業へシフトさせる方針を固め、ビジット・ジャパン・キャンペーンを開始し、訪日外国人観光客年間1000万人を目指すとして発表した。2020年の東京オリンピック時に訪日外国人4000万人を目指していたが新型コロナウイルス流行で計画が大幅に変更された。観光事業は世界的な問題の影響を強く受ける脆弱性がある。観光事業は地域経済を活性化させ、地域雇用を生むため地域振興につながる。第3セクター形式も多い。本講義では各事業の概要を中心に、観光事業論Bではより詳細に学習する。 本講義には構造的な理論はない。実社会で具体的に起きている観光現象を中心に学習する。高校の現代社会に似ている。 担当者はディズニーランドやユニバーサルスタジオを中心にテーマパーク経営を研究している。本講義では日米のディズニーランドとユニバーサルスタジオをはじめ世界のテーマパークの経営を詳しく説明する。 後半では世界のミュージアム（美術館・博物館）経営と日本の地方ミュージアムと地域振興、エンターテインメント事業としてのミュージアム事業（ディズニー・ファミリー・ミュージアム等）を詳しく説明する。 <到達目標> 本授業では、ものづくり立国から観光立国への転換がどのように行われていくか、どのような問題があるのか、今後どう進むのかなどを学習し、理解する。また各種観光事業はどのように経営されているのか、経営学的に学習し、理解する。観光事業による地域振興、地域活性化を学習し、理解する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：観光事業とは何か 第2回：インバウンド観光とアウトバウンド観光とは何か 第3回：起業家ウォルト・ディズニーとアメリカのディズニーランド創業 第4回：ユダヤ人のメディア業界進出とユニバーサル・スタジオ創業 第5回：日本の高度成長とオリエンタルランドによるディズニーランド誘致 第6回：東京ディズニーランド大成功と東京ディズニーシー計画 第7回：東京ディズニーリゾートへの拡張とインバウンド 第8回：大阪市の第三セクターとしてのユニバーサル・スタジオ・ジャパン（USJ） 第9回：USJの低迷とV字回復とクール・ジャパン 第10回：世界の美術館経営とルブル美術館 第11回：エルミタージュ美術館と分館戦略 第12回：グッゲンハイム美術館と分館戦略 第12回：日本のミュージアムと地域振興 第13回：エンターテインメント施設としてのミュージアム事業 第14回：講義全体のまとめ			
3. 履修上の注意 経営学の基礎科目を履修済みであることが望ましい。履修していなくても可能。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、観光事業や地域振興に関するニュース、ビジネス雑誌、新聞を見る。復習として、本日の部分の教科書を読み直す。			
5. 教科書 中島 恵（2017）『なぜ日本だけディズニーランドとUSJが大成功したのか？』三恵社 中島 恵（2025）『ミュージアム経営論』三恵社			
6. 参考書 中島 恵（2022）『テーマパーク産業論 改訂版 日本編』三恵社 中島 恵（2022）『テーマパーク産業論 改訂版 アジア編』三恵社 中島 恵（2023）『テーマパーク産業論 改訂版 中国編』三恵社 中島 恵（2023）『テーマパーク産業論 改訂版 ヨーロッパ編』三恵社 中島 恵（2023）『テーマパーク産業論 改訂版 アメリカ編』三恵社 中島 恵（2023）『テーマパーク産業論 改訂版 ドバイ・中東編』三恵社			
7. 課題に対するフィードバックの方法 質問を受けたら、次の授業の最初に全体に向けて説明する。 個別相談ならメールから授業後などに時間を作って解説する。			
8. 成績評価の方法 出席点0%、授業への貢献度0%、期末レポート100%。 欠席は5回まで。 6回以上欠席したら単位が取れません。 期末レポートは2冊の教科書の中から出題します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
観光事業論 B			中 島 恵
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 2003年に小泉政権は日本の主要産業を製造業から観光業へシフトさせる方針を固め、ビジット・ジャパン・キャンペーンを開始し、訪日外国人観光客年間1000万人を目指すとして発表した。2020年の東京オリンピック時に訪日外国人4000万人を目指していたが、新型コロナウイルス流行で計画が大幅に変更された。観光事業は世界的な問題の影響を強く受ける脆弱性がある。観光事業は地域経済を活性化させ、地域雇用を生むため地域振興につながる。第3セクター形式も多い。本講義では観光事業論Aを受け、各事業についてより詳細に学習する。観光事業論Aを受講していなくても理解できるように説明する。 本講義の後半では日本のテーマパークにおけるコンテンツ・ツーリズムと推し活、および地域活性化について説明する。日本の知的財産（IP）を有効活用してテーマパークに集客し、地方振興につなげているケースを中心に説明する。 なお、本講義には構造的な理論はない。実社会で具体的に起きている観光現象を中心に学習する。高校の現代社会に似ている。 <到達目標> 本授業では、ものづくり立国から観光立国への転換がどのように行われていくか、どのような問題があるのか、今後どう進むのかなどを学習し、理解する。また各種観光事業はどのように経営されているのか、経営学的に学習し、理解する。観光事業による地域振興、地域活性化を学習し、理解する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：観光事業とは何か 第2回：日本のインバウンド観光の成長と観光立国 第3回：新型コロナウイルス流行と観光業のダメージ 第4回：日本の観光誘致 ～ものづくり立国から観光立国へ～ 第5回：鉄道事業とバス事業 第6回：空港事業とエアライン事業 第7回：宿泊事業（ホテル・旅館等） 第8回：サンリオピューロランドと2.5次元 第9回：Vtuber周防サンゴと志摩スペイン村 第10回：枚方パークと「ひらパー兄さん」 第11回：埼玉県の農協（JA）子会社に運営される農業体験パーク「むさしの村」 第12回：年金保養施設「グリーンピア三木」の経営破綻とネスタ神戸への転換 第13回：沖縄の新テーマパーク計画 第14回：講義全体のまとめ			
3. 履修上の注意 経営学の基礎科目を履修済みであることが望ましい。観光事業論Aを履修済みであることが望ましいが、履修していなくても理解できるように説明する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、観光事業や地域振興に関するニュース、ビジネス雑誌、新聞を見る。復習として、本日の部分の教科書を読み直す。			
5. 教科書 中島 恵（2025）『テーマパーク産業論 改訂版 日本編2』三恵社 ＊よく似た書籍『テーマパーク産業論 改訂版 日本編』（2022年）ではありません。			
6. 参考書 中島 恵（2022）『テーマパーク産業論 改訂版 日本編』三恵社 中島 恵（2022）『テーマパーク産業論 改訂版 アジア編』三恵社 中島 恵（2023）『テーマパーク産業論 改訂版 中国編』三恵社 中島 恵（2023）『テーマパーク産業論 改訂版 ヨーロッパ編』三恵社 中島 恵（2023）『テーマパーク産業論 改訂版 アメリカ編』三恵社 中島 恵（2024）『テーマパーク産業論 改訂版 ドバイ・中東編』三恵社			
7. 課題に対するフィードバックの方法 次の授業の最初に全体に向けて説明する。 個別指導が適しているなら、授業後などに時間をとって説明する。			
8. 成績評価の方法 授業への貢献度0%、出席点0%、期末レポート100%。 欠席回数は5回まで。 6回欠席したら単位が取れません。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
ツーリズム・マネジメントA			佐藤 郁
2 単位	2 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 観光は多くの人々にとって身近な活動であるとともに、様々な利害関係者が関わる複合的な分野であり、その国や地域の文化や社会のシステムを理解し、国や文化の違いを超えて交流・相互理解を推進する最も身近なツールのひとつです。本科目は、まず前半で、世界や日本の観光史、観光政策、観光資源を中心に基本的なツーリズムの知識を学びます。後半では、ツーリズムをマネジメントするとはどういうことかについて、ツーリズム・マネジメントを理解する際に重要な「ツーリズムの役割とジレンマ」というテーマを通じて考え、グローバルレベル、ローカルレベルのツーリズム・マネジメントの課題について広く理解することを目的とします。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 世界の観光史 第3回 日本の観光史 第4回 日本の観光事情(1) 観光政策と課題-1 第5回 日本の観光事情(2) 観光政策と課題-2 第6回 日本の観光事情(3) 自然観光資源 第7回 日本の観光事情(4) 人文観光資源 第8回 日本の観光事情(5) 複合型観光資源 第9回 日本の観光事情(6) MICE 第10回 グローバルツーリズムの潮流と世界観光機関 第11回 ツーリズムの役割とジレンマ(1) 環境 第12回 ツーリズムの役割とジレンマ(2) 経済社会 第13回 ツーリズムの役割とジレンマ(3) 文化 第14回 振り返りとまとめ			
3. 履修上の注意 ・AとBは対になっているので、連続して履修することが望ましい。第1回で授業の進め方や注意点について説明するので、履修を希望する学生は必ず出席すること。 ・授業は日本語で行うが、内容を説明した上で、英語の動画やDVDを使用することがある。 ・5回以上欠席した場合は試験の受験を認めない(受験資格を喪失するものとする)。特別な事情(病気・忌引等)がある場合は、事前に連絡をした上で証明書類を提出すること。 ・遅刻3回で欠席1回分とします。			
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 対象が広範囲に及ぶので、授業内で指示した参考資料は各自で目を通して、理解を深めるよう努力してください。			
5. 教科書 特に指定しない。必要に応じてその都度資料をアップロードする。			
6. 参考書 適宜授業内で提示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の冒頭で、前回のリアクションペーパーのコメントを共有しながら、全体へのフィードバックと振り返りを行う。			
8. 成績評価の方法 ・平常点(授業への参加度及びリアクションペーパー)：50% ・試験：50% ＊5回以上欠席した場合は試験の受験資格を喪失するものとする。遅刻3回で欠席1回分とします。			
9. その他 受講生の人数や進行状況等により、内容や順番を変更する場合があります。			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
ツーリズム・マネジメントB			佐藤 郁
2 単位	2 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 ツーリズム・マネジメントBでは、観光事業経営(ツーリズムビジネスマネジメント)、観光地域経営(ツーリズムデスティネーションマネジメント)の視点から、広く日本や世界各地におけるツーリズム・マネジメントについて学びます。 観光事業経営(ツーリズムビジネスマネジメント)では、世界と日本の旅行業、航空業、宿泊業について学びながら、世界や日本のツーリズムビジネスの現状と課題を理解することを目的とします。また、日本のツーリズムビジネスの独自性や共通性についても議論していきます。 観光地域経営(ツーリズムデスティネーションマネジメント)では、主に観光受け入れ地域側での、競争力を高めるためのマネジメントと、持続可能性を高めるためのマネジメントの2つに分けて学びます。観光受け入れ地域で、ツーリズムがもたらす利益や弊害をマネジメントするための仕組みや主体について理解することを目的とします。 最後に、これまでの視点を統合しながら、持続可能なツーリズムのために、観光に関わる様々な利害を調整する適切なマネジメントと主体の必要性を総合的に理解することを目指します。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 ツーリズムビジネスマネジメント(1) 世界の旅行業 第3回 ツーリズムビジネスマネジメント(2) 日本の旅行業 第4回 ツーリズムビジネスマネジメント(3) 世界の航空業 第5回 ツーリズムビジネスマネジメント(4) 日本の航空業 第6回 ツーリズムビジネスマネジメント(5) 日本の航空業 第7回 ツーリズムビジネスマネジメント(6) 世界の宿泊業 第8回 ツーリズムビジネスマネジメント(7) 日本の宿泊業 第9回 ツーリズムデスティネーションマネジメント(1) 競争力を高めるためのマネジメント 第10回 ツーリズムデスティネーションマネジメント(2) 世界と日本の観光地の取り組み 第11回 ツーリズムデスティネーションマネジメント(3) 持続可能性を高めるためのマネジメント 第12回 ツーリズムデスティネーションマネジメント(4) 世界の観光地の取り組み 第13回 ツーリズムデスティネーションマネジメント(5) 日本の観光地の取り組み 第14回 まとめ			
3. 履修上の注意 ・AとBは対になっているので、連続して履修することが望ましい。第1回で授業の進め方や注意点について説明するので、履修を希望する学生は必ず出席すること。 ・授業は日本語で行うが、内容を説明した上で、英語の動画やDVDを使用することがある。 ・5回以上欠席した場合は試験の受験を認めない(受験資格を喪失するものとする)。特別な事情(病気・忌引等)がある場合は、事前に連絡をした上で証明書類を提出すること。 ・遅刻3回で欠席1回分とします。			
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 対象が広範囲に及ぶので、授業内で指示した参考資料は各自で目を通して、理解を深めるよう努力してください。			
5. 教科書 特に指定しない。必要に応じてその都度資料をアップロードする。			
6. 参考書 適宜授業内で提示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の冒頭で、前回のリアクションペーパーのコメントを共有しながら、全体へのフィードバックと振り返りを行う。			
8. 成績評価の方法 ・平常点(授業への参加度及びリアクションペーパー)：50% ・試験：50% ＊5回以上欠席した場合は試験の受験資格を喪失するものとする。遅刻3回で欠席1回分とします。			
9. その他 受講生の人数や進行状況等により、内容や順番を変更する場合があります。			

科目ナンバー：(BA)MAN371E			
Tourism Management A			佐藤 郁
2 単位	2 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 Tourism is a sizable global industry and complex activity which involves various actors and stakeholders. Also, Tourism is one of the most familiar tools to understand diverse culture and social system of a country and to foster global cross-cultural communications between different countries and regions. In the first half of the course, I will provide an overview of tourism in the world and in Japan. It includes basic concepts, policies, history and key trends etc. The latter half focuses on the issues of tourism management at global, regional and local levels and discusses on "the role of tourism and dilemma caused by tourism". By the end of this course, students will have broadly understood the critical issues in tourism management today at various scales.			
2. 授業内容 Week 1 : Introduction Week 2 : History of tourism in the world Week 3 : History of tourism in Japan Week 4 : Understanding tourism in Japan (1) : Tourism policies and issues-1 Week 5 : Understanding tourism in Japan (2) : Tourism policies and issues-2 Week 6 : Understanding tourism in Japan (3) : Natural tourism resources Week 7 : Understanding tourism in Japan (4) : Cultural tourism resources Week 8 : Understanding tourism in Japan (5) : Mixed tourism resources Week 9 : Understanding tourism in Japan (6) : MICE Week 10 : UN Tourism and global tourism today Week 11 : The role of tourism and dilemma (1) : Environmental issues Week 12 : The role of tourism and dilemma (2) : Socio-economic issues Week 13 : The role of tourism and dilemma (3) : Cultural issues Week 14 : Course review & summary			
3. 履修上の注意 As Tourism Management A & B are closely related, it is highly recommended to take both courses as possible. Basic information of the course requirements will be explained in the first class. If absent 5 times or more, you receive a FAIL grade except for documented emergencies. If absent due to documented emergencies, you must contact in advance to the class and then submit the document. If late 3 times, it will be counted as 1 absence. No required TOEFL scores but students are required to study tourism-related vocabularies and technical terms in prior or after class by themselves. Occasionally, short video clips / DVDs in Japanese will be used after explaining the outline in English.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 This course covers a wide range of topics. Students are required to read reference books individually to foster better understanding.			
5. 教科書 No required textbook. (Hand-outs will be uploaded as needed.)			
6. 参考書 To be introduced in the classes			
7. 課題に対するフィードバックの方法 At the beginning of the class, some students' comments will be shared to summarize the previous lecture and give feedback.			
8. 成績評価の方法 Participation and Reaction papers: 50% Final test: 50% *If absent 5 times or more, you are not allowed to take the final test (you receive F grade). If late 3 times, it will be counted as 1 absence (3 lates=1 absence).			
9. その他 The schedule and plan are subject to change due to class size, progress or other factors.			

科目ナンバー：(BA)MAN371E			
Tourism Management B			佐藤 郁
2 単位	2 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 This course looks tourism management from two main perspectives: Tourism business management and Tourism destination management. By the end of this course, students will have understood the various mechanisms and actors in tourism business and destination management and how destinations can maximize benefits and minimize negative impacts by managing tourism appropriately in cooperation with tourism stakeholders. Each lecture will provide various concrete examples in Japan and in the world to deepen understanding tourism business and destination management issues.			
2. 授業内容 Week 1 : Introduction Week 2 : Tourism business management (1) : Travel industry in the world Week 3 : Tourism business management (2) : Travel industry in Japan Week 4 : Tourism business management (3) : Airline industry in the world Week 5 : Tourism business management (4) : Airline industry in Japan Week 6 : Tourism business management (5) : Airline industry in Japan Week 7 : Tourism business management (6) : Hotel industry in the world Week 8 : Tourism business management (7) : Hotel industry in Japan Week 9 : Tourism destination management (1) : Management to improve destination competitiveness Week 10 : Tourism destination management (2) : Cases in the world and in Japan Week 11 : Tourism destination management (3) : Management to improve destination sustainability Week 12 : Tourism destination management (4) : Cases in the world Week 13 : Tourism destination management (5) : Cases in Japan Week 14 : Course summary & review			
3. 履修上の注意 As Tourism Management A & B are closely related, it is highly recommended to take both courses as possible. Basic information of the course requirements will be explained in the first class. If absent 5 times or more, you receive a FAIL grade except for documented emergencies. If absent due to documented emergencies, you must contact in advance to the class and then submit the document. If late 3 times, it will be counted as 1 absence. No required TOEFL scores but students are required to study tourism-related vocabularies and technical terms in prior or after class by themselves. Occasionally, short video clips / DVDs in Japanese will be used after explaining the outline in English.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 This course covers a wide range of topics. Students are required to read reference books individually to foster better understanding.			
5. 教科書 No required textbook. (Hand-outs will be uploaded as needed.)			
6. 参考書 To be introduced in the classes			
7. 課題に対するフィードバックの方法 At the beginning of the class, some students' comments will be shared to summarize the previous lecture and give feedback.			
8. 成績評価の方法 Participation and Reaction papers: 50% Final test : 50% *If absent 5 times or more, you are not allowed to take the final test (you receive F grade). If late 3 times, it will be counted as 1 absence (3 lates=1 absence).			
9. その他 The schedule and plan are subject to change due to class size, progress or other factors.			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
国際開発論			高 柳 彰 夫
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 2015年に国連総会で採択された2030年までの世界の経済・社会・環境に関する目標であるSDGs（持続可能な開発目標）は、2025年は実施10年目となります。この科目ではSDGs時代の国際開発の諸問題とSDGs達成のための国際開発協力のあり方について検討し、国際開発が歴史的にどう考えられてきたのか、次いでSDGsを踏まえながら国際開発の課題を考え、最後の政府や市民社会による国際開発協力のあり方を検討します。 到達目標 ・SDGsについての理解を深める。 ・SDGsを踏まえながら、現代の国際開発の諸課題（貧困・教育・保健・ジェンダー・気候変動など）を理解する。 ・多様なアクター（主体）による国際開発協力について、アクター間の相互関係も含めて理解しつつ、自分の意見を持てるようになる。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 SDGsとは何か？（テキスト序章） 第3回 国際開発に関する考え方の変遷（1, 6, 10章） 第4回 開発と貧困・飢餓（2章） 第5回 開発と健康・保健（3章） 第6回 開発と教育（4章） 第7回 開発とジェンダー（5章） 第8回 開発と気候変動（11章） 第9回 ODA（政府開発援助）：世界の動向（15章） 第10回 日本のODAの特徴 第11回 NGO/CSO（市民社会組織）の国際協力活動（15章） 第12回 NGO/CSOの南北パートナーシップ 第13回 ODA機関とNGO/CSOのパートナーシップ 第14回 SDGsと国際開発協力の将来			
3. 履修上の注意 この科目では講義だけでなく、時々グループワークを行います。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・テキストの該当する章を読んでください。 ・できるだけ参考書に記載してあるSustainable Development Goals Reportの該当箇所も、英語ですが、目を通してきてください。 ・国連の諸機関をはじめ関連するさまざまな組織のホームページを積極的に閲覧しましょう。			
5. 教科書 『入門SDGs』高柳彰夫・須藤智徳・小坂真理編、法律文化社、2024年			
6. 参考書 Sustainable Development Goals Report 2025（United Nations, 2025年7月出版予定）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 担当者が兼任講師のため、大学に出るのは授業日だけですが、連絡方法は初回の授業でお知らせします。			
8. 成績評価の方法 期末試験、40名未満の場合：レポート：100% 出欠状況に応じて加減点。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN371E			
International Development			高 柳 彰 夫
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 Course Summary This course focuses on issues around international development and development cooperation with the Sustainable Development Goals (SDGs) in mind. First, we will quickly overview the history of international development theories. Then, we will examine various issues in international development with the SDGs in mind. Finally, we will look into international development cooperation by different actors, governments, NGOs/civil society organizations, and partnership between different actors. As the number of students taking this course is not expected to be large compared to the parallel course taught in Japanese, this course will emphasize in-class discussion, IN ENGLISH. Goals - To deepen understandings on SDGs. - To understand the current challenges in different international development agenda and international development cooperation - To enhance students' capacity to discuss global issues, especially those related to SDGs, in English			
2. 授業内容 Session 1: Introduction Session 2: Understanding sustainable development and SDG s Session 3: A quick overview of international development theories since the end of the WW II Session 4: Poverty and Hunger Session 5: Health Session 6: Quality Education Session 7: Gender and Development Session 8: Climate crisis and international development Session 9: Official Development Assistance (ODA): Global trends Session 10: Japan's aid program Session 11: Roles of NGOs/CSOs in international development Session 12: Redefining the roles of Northern and International NGOs/CSOs Session 13: "Partnership" between governments and CSOs in international development cooperation Session 14: The future of development cooperation			
3. 履修上の注意 - Students are required to actively participate in discussions. - 日本人学生向けに英語と日本語の概念の違いなどを日本語で説明する時間を設けることもあります。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 - To read the relevant chapters of the Sustainable Development Goals Report 2025 (listed as a reference below) and other resources. - To access websites of UN agencies, OECD-DAC and other organizations working on international development			
5. 教科書 No textbook			
6. 参考書 Sustainable Development Goals Report 2025, To be published by the UN in July 2025 Introduction to International Development, P. Haslm et al. eds. (Oxford Univ. Press, 2021) Poverty and Development in the 21st Century (Third Edition), Tim Allen and Alan Thomas eds., Oxford Univ. Press, 2021. The Short Guide to International Development, Nick Sage, Polity, 2022. Foreign Aid, Phyllis Pomerantz, Routledge, 2024. For Japanese Students: 『入門SDGs』高柳彰夫他編、法律文化社、2024年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Will be announced at the first session			
8. 成績評価の方法 Final Essay 80%, In-class participation: 20%			
9. その他 期末レポートは英語・日本語どちらで提出してもよい。 Students can write their final essay either in English or Japanese. We will have breakouts in various sessions. Students are required to actively participate in them.			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
国際協力NGO論			重田 康 博
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 本授業では、グローバル市民社会の中でも重要な担い手である国際NGOについて学びます。国際協力NGOの意義・役割、定義、特徴、起源と歴史、発展の流れ、開発協力、参加型開発、緊急人道支援と平和構築、開発教育、キャンペーン、政策提言、NGOへのキャリア・パスについて論じ、国際NGOの基礎知識を学びます。本授業の到達目標は、国際協力NGOとは何か、なぜ必要なのか、どのような役割を果たしているのか、その基礎・実践・キャリア形成を学ぶことによってその全体像を把握し、グローバル・イシューとの相関関係、NGOの市民社会スペースについて考えます。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクションー国際協力NGOとは何か？ 第2回 国際協力NGOの定義・意義・役割・チャリティ 第3回 欧米のNGOの変遷①19世紀から第1次世界大戦までの国際NGO活動 第4回 欧米のNGOの変遷②第2次世界大戦前後における救援・復興活動 第5回 欧米のNGOの変遷③途上国への開発協力の開始 第6回 発展途上国（アジア）のNGOの変遷①貧困者への救済活動 第7回 発展途上国（アジア）のNGOの変遷②戦争・内戦などによる被災民・難民への救援活動 第8回 日本のNGOの変遷①第2次世界大戦前までのNGOの活動 第9回 日本のNGOの変遷②第2次世界大戦後から1990年代まで 第10回 国際協力NGOのネットワーク 第11回 NGOの開発協力・参加型開発 第12回 NGOの緊急人道支援・平和構築 第13回 NGOの政策提言・開発教育・キャンペーン 第14回 NGOへのキャリア・パス			
3. 履修上の注意 教科書、ビデオ、DVD鑑賞、Youtubeなど参加型学習の手法を取り入れて授業を行います。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、教科書重田康博『激動するグローバル市民社会ー慈善から公正へ』を読み、授業中に出された宿題にコメントすること。レポートの課題が出された場合提出すること。			
5. 教科書 重田康博（2017）『激動するグローバル市民社会ー「慈善」から「公正」への発展と展開』明石書店			
6. 参考書 西あい・湯本浩之編著（2017）『グローバル時代の「開発」を考える』明石書店 重田康博・真崎克彦・阪本公美子編著（2019）『SDGs時代のグローバル開発協力論』明石書店			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業のコメントは、毎回コメントシートに書いて授業終了後提出すること。課題レポート提出については、授業中に指示する。			
8. 成績評価の方法 出席・コメントシート提出10％、レポートの提出30％、定期試験60％			
9. その他 今後世界や日本において、国際協力NGOの役割が大きくなっていきます。是非国際協力NGOについて学習して下さい。			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
ライフスタイル・マネジメント論			鈴 井 正 敏
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 現代社会では生活習慣病やストレスが増加しています。これらは自分の性格や習慣、生活環境がリスクとなっており、個人の危機管理能力が求められています。つまり、自分自身のライフスタイルをマネジメントできることが社会人としての基本的な資質になることになります。それぞれのテーマに応じた測定や実際のデータ作成を行い、評価方法を学習します。 運動、栄養、休養とストレス、悪習慣などのライフスタイルの要素について、解説とディスカッションを行います。運動と栄養については簡単な測定実習を行います。また、血圧測定の実習を行い、そのデータを利用して調査報告の方法を学びます。授業の後半には各自テーマを選択し、資料を集め、尺度化、評価について検討します。その調査結果をプレゼンテーションし、討議します。 健康に関する知識は実行が伴わなければ意味がないことを理解し、自分のライフスタイルの評価と改善方法について考えられるようになることを到達目標とします。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：運動（健康のための運動について） 第3回：運動（運動強度と消費カロリーの計算） 第4回：運動（無酸素性作業閾値） 第5回：運動の実習（心拍数の測定とカロリー換算） 第6回：栄養（健康のための栄養について） 第7回：栄養の実習（摂取カロリーと栄養素バランス） 第8回：休養とストレス（ストレスマネジメント） 第9回：悪習慣（飲酒、喫煙と依存の理解） 第10回：調査テーマの選択と方法の決定 第11回：ライフステージ 第12回：測定実習（血圧の測定） 第13回：調査のプレゼンテーション 第14回：まとめ、期末試験			
3. 履修上の注意 授業毎に簡単なレポートを作成します。 授業ではエクセルを使ったデータ処理があります。自分のPCを持っていることが前提になります。 第13回に実施するプレゼンテーションはパワーポイントを使用します。 測定やプレゼンテーションは授業の最初からグループワークとなります。遅刻すると参加できなくなりますので、注意してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o! Meijiに資料をアップしますので、授業前にダウンロードしてください。 ニュースや新聞で取り上げられた健康関連の話題に注意を払って下さい。専門用語や計算方法は重要ですので、分からないところは質問したり、調べたりして理解するようにして下さい。			
5. 教科書 使用しません。資料はOh-o! Meijiにアップします。授業中に配布する場合もあります。			
6. 参考書 とくに定めません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 前の授業の課題について授業のはじめにコメントします。			
8. 成績評価の方法 レポート（60％）と期末試験（40％）により評価します。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
福祉マネジメント論			早川 佐知子
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 【講義の概要】 ・医療・年金・介護・福祉・労働の5つからなる社会保障制度のうち、最も早く誕生したのが福祉制度である。授業のイントロダクションとして、なぜ社会は他者を援助するための制度を作る必要があったのかということについて考えてもらおう。 ・講義の前半では、福祉に関わる諸制度と体系について学習する。 ・これに続いて講義の中盤では、児童福祉、障害者福祉、老人福祉、生活保護の4大分野について各論を学ぶ。応用として、これらの福祉制度とその他の社会保障制度との関わりについても視野に入れられるようにする。 ・これらを踏まえて後半では、福祉施設の内部のマネジメントについて、経営学をベースとして学習してゆく。 ・最後に、福祉マネジメントの現場から講師をお招きし、特別講義を実施する。多くの学生は、これまで福祉と深く関わった経験がなく、自分には縁のないものと考えているであろう。しかし、現場の話を聴くことで、福祉の意義を実感することができ、現実的な課題や矛盾について自らが実践できることは何かを考えるきっかけになるという狙いである。 【到達目標】 福祉制度、福祉施設の経営についての知識を習得する。 社会の中で福祉はどうあるべきかという自らの価値観を育てる。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：なぜ他者を援助する必要があるのか 第2回：社会福祉の意義と役割、制度と体系①：社会福祉の理念と概要、歴史の変遷 第3回：社会福祉の意義と役割、制度と体系②：社会福祉の法体系と制度、人権との関わり 第4回：社会福祉の意義と役割、制度と体系③：社会福祉行政、社会福祉の実施機関と専門職、社会福祉における相談援助と評価制度 第5回：社会福祉各論1：貧困と社会的排除、及びそのマネジメント 第6回：社会福祉各論1：高齢者福祉、及びそのマネジメント 第7回：社会福祉各論3：児童福祉、及びそのマネジメント 第8回：社会福祉各論4：障害者福祉、及びそのマネジメント 第9回：福祉と経営1：社会福祉経営の要件と基礎理論、質の管理 第10回：福祉と経営2：人材の育成とチームマネジメント、労務管理 第11回：ケーススタディとグループワーク：ケーススタディ1 アクティブ・ラーニング 第12回：ケーススタディとグループワーク：ケーススタディ2 アクティブ・ラーニング 第13回：ケーススタディとグループワーク：グループごとのプレゼンテーションとディスカッション 第14回：特別講義：外部有識者による特別講義			
3. 履修上の注意 グループワークを実施するため、協働作業に積極的な学生の履修を希望する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内で課した小レポートは次回にフィードバックし、さらなるディスカッションを行う。議論を深めるために、必ずテキスト及び配布資料を中心とした復習をしてくること。			
5. 教科書 『社会福祉概論（新・はじめて学ぶ社会福祉4）』（立花直樹・波田埜英治編著、ミネルヴァ書房）、『よくわかる社会福祉の「経営」』（小松理佐子編著、ミネルヴァ書房）			
6. 参考書 なし			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 小レポート（50％）：授業の中で、ワークシートや小テストを実施する。 学期末試験（50％）：代替レポートを課す。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
医療マネジメント論			早川 佐知子
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 【講義の概要】 ・医療機関は、人が生まれ死んでゆくという、唯一無二の場所である。そのため、長い歴史の中で、「人間の生死」に対する価値観が映し出されてきた場所であると言える。授業のイントロダクションとして、これまで人間や社会が医療をどのように捉えてきたのかを振り返り、自らと医療との関わりについて考えてもらおう。 ・医療機関の経営には、民間企業の経営にはないさまざまな法規制が存在する。また、ひとつの病院の中で完結することではなく、介護施設や福祉施設、行政など、広く地域社会とも連携が必要である。このような意味で、病院の経営を学ぶには、前提としてさまざまな社会制度を理解する必要があると考える。そのため、講義の前半では、医療に関わる諸制度を学習する。 ・これらを踏まえた上で、講義の後半では、医療機関の内部のマネジメントについて、経営学をベースとして学習してゆく。 ・最後に、医療マネジメントの現場から講師をお招きし、特別講義を実施する。大学生の年齢では、医療と深く関わった経験のある学生は少数派であると思う。しかし、現場の話を聴くことで、医療をわがこととして捉えることができ、課題が山積した日本の医療について自らが実践できることは何かを考えるきっかけになるという狙いである。特に、医療とは誰かに与えられるもの、変えようのないものという姿勢に、疑問を持って欲しいと考えている。 【到達目標】 医療制度、医療機関の経営についての知識を習得する。 社会の中で医療はどうあるべきかという自らの価値観を育てる。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：人間と医療のかかわり 第2回：医療と社会保障制度1：国民医療費と医療保険制度 第3回：医療と社会保障制度2：医療制度の概要、医療規制、医療提供体制 第4回：医療と社会保障制度3：医療制度の国際比較、その他の社会保障制度と医療 第5回：医療と経営1：医療経営の非営利性 第6回：医療と経営2：医療機関の人事管理と組織 第7回：医療と経営3：医療機関の財務管理と病院会計 第8回：医療と経営4：医療機関の物品管理と施設管理、リスクマネジメント、医療機関の情報管理 第9回：医療と経営5：医療機関の経営戦略とマーケティング 第10回：ケーススタディとグループワーク：ケーススタディ1 第11回：ケーススタディとグループワーク：ケーススタディ2 アクティブ・ラーニング 第12回：ケーススタディとグループワーク：グループごとのプレゼンテーションとディスカッション1 第13回：ケーススタディとグループワーク：グループごとのプレゼンテーションとディスカッション2 第14回：特別講義：外部有識者による特別講義			
3. 履修上の注意 グループワークを実施するため、協働作業に積極的な学生の履修を希望する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の中で、ワークシートや小テストを実施する。復習し、準備をしてくること。			
5. 教科書 テキストは特に指定しない。授業の際に配布する資料を使ってよく復習すること。			
6. 参考書 『はじめての社会保障 第15版』（椋野美智子・田中耕太郎著、有斐閣アルマ）、『病院の教科書』（今中雄一著、医学書院）を挙げる。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 小レポート（50％）：ワークシートと小テストを課す。 学期末試験（50％）：代替レポートを課す。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
自治体マネジメント論		石 渡 幹 夫	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 概要 地方自治体は住民に最も身近な行政主体として、多様な公共サービスの提供を担っている。現在、日本の自治体は複雑かつ重大な課題に直面している。少子高齢化による人口構造の変化は、税収減少や社会保障費の増大をもたらし、行政サービスの提供や維持を困難にしかねない。また、人口減少は地域経済の衰退や商店街の空洞化、公共交通の維持困難性など、地域の存続に関わる問題を引き起こしている。気候変動の影響による自然災害の激甚化は、防災の見直しを迫っている。加えて、デジタル化やグローバル化の進展は、行政サービスのあり方や地域産業の構造を大きく変えつつある。水資源管理、環境保全、気候変動対策、防災、災害復興などの具体的事例を通じて、地方自治体が直面する諸課題とその解決に向けたマネジメントの在り方を学ぶ。特に、先進的な取り組みを行う国内外の自治体の事例分析を通じて、政策立案と実施のための知識と視点を養う。理論的理解だけでなく、実務的な観点も重視し、政策課題とその解決プロセスについての理解を深める。 到達目標 日本の地方自治制度の歴史の変遷と現状、および中央政府との関係性を理解し説明できる 地方自治体が直面する課題について、具体的事例をもとに分析できる 自治体マネジメントの理論と実践について理解し、課題解決に向けた提案ができる			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション：何を学ぶか？ 講義の目的と構成、評価方法を理解し、地方自治体が直面する課題の概要を理解する 第2回 地域経営の主体としての地方自治体：自治体の役割とは何か？ 地方自治体の役割と機能と地域経営の基本概念、自治体マネジメントの特徴と課題を理解する。 第3回 過去の事例：どんなマネジメントがなされてきたか？ 夕張市の財政破綻と神戸市「山、海へいく」の事例から、自治体のマネジメントの意義と重要性について考える 第4回 地方自治制度の変遷：日本における自治制度の歴史と改革は？ 明治期から現代までの制度変遷と地方権改革の展開について理解する。 第5回 首長と地方議会の役割：首長と地方議会はどのように機能しているか？ 自治体における行政のリーダーシップと二元代表制を担う議会によるガバナンスとの関係性について考察する 第6回 自治体の財政のしくみ：財源の確保と支出のメカニズムは？ 地方財政制度や財源構成について学ぶ 第7回 中間とりまとめ：小テストと振り返り ・小テスト ・前半の講義内容の総括 第8回 気候変動への対応：自治体の気候変動への緩和策は？ 富山市のコンパクトシティやドイツの都市公社の取組み、自治体におけるゼロカーボン施策を説明できるようになる 第9回 水道事業：上下水道はどのように整備されてきたか？ 日本の水道・下水道整備の歴史、東京都を事例として、水道事業改革や持続可能性確保、官民連携について理解する。 第10回 海外の水道事業：海外の水道事業の課題は何か？ セネガルの地方給水の構築と、カンボジア・プノンペン市水道、シンガポールでの革新的な水道の課題と国際援助について理解する。 第11回 災害対策・気候変動適応：深刻化する災害への対策は？ 岡山県真備町での洪水被害、静岡県巴川での総合治水対策、東京都の水害対策、能登半島地震、東日本大震災からの復興を事例に、防災と気候変動対策の課題とアプローチについて学ぶ 第12回 海外での防災・復興・気候変動適応：海外での災害や気候変動への課題と対策は？ フィリピンやマダガスカル、南スーダン市を事例に災害対策や復興について学ぶ 第13回 環境保全：廃棄物管理の課題は何か？ 盛土や廃棄物について安全を確保するための規制について議論する。 第14回 振り返りとまとめ：期末テストと振り返り ・期末テスト ・テストの解説と講義全体の振り返り（これからの自治体マネジメントを考える）			
3. 履修上の注意 授業の内容に関する課題を出します。 履修生の人数により定期試験を期間中試験に変更することがある			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前にキーワードなどを自分で調べること 課題の提出 授業と関連した事柄について書籍や新聞・雑誌の記事から情報収集する			
5. 教科書 毎回、資料を配布する			
6. 参考書 『人口減少時代の都市・成熟型のまちづくりへ』 諸富徹 2018 中公新書 『地方自治入門』 馬場 健、南島 和久 2023 法律文化社			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については次の講義で概説する。 小テスト・定期試験は答案の回収後、解説する。 受講生からの質疑を踏まえ、授業で補足の説明や追加資料を提供する			
8. 成績評価の方法 平常点（出席と授業への貢献）30%、課題40%、小テストと定期試験（30%）			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
スポーツ・マネジメント論		田 中 充 洋	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 現在、わが国のスポーツ環境は大きな転換期を迎えている。スポーツ導入の担い手であった学校体育は、施設の維持・人材の確保・少子化・受験戦争の激化などの問題を抱え、思うような活動ができなくなっている。また、社員の士気高揚や広告・宣伝を主目的にしながら、長く日本のスポーツ界を支えてきた企業スポーツは、財政的問題に直面し、その多くが撤退の道を余儀なくされた。 しかし、これらの逆風は、むしろ既存のスポーツ環境や関連産業の再構築を促す機会を与え、住民とスポーツ組織が連携する地域貢献型の在り方を生み出した。 そこで本講では、わが国のスポーツの歴史・成長過程を振り返りながら、こうした社会的変化の中で成立する新しいスポーツ組織の効果的運営について考える。 〈到達目標〉 社会変動の中で必要とされるスポーツ組織の管理・運営法について習得する。			
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション（スポーツ・マネジメントとは） b：スポーツ・マネジメントの歴史 第2回～7回：スポーツ組織の歴史 ・学校：正課体育、部活動、少子化、指導者問題、 ・企業：士気高揚、社会貢献、福利厚生、選手雇用、複数企業支援 ・地域：スポーツ愛好者組織、地域活性化プログラム、NPO、 ・プロスポーツ：スポンサーシップ、ネットワーク、競技力向上 第8回：スポーツ組織の人材育成（コーチング、リーダーシップ、フォロワーシップ） 第9回：スポーツのリスクマネジメント 第10回：スポーツの制度（資格関連、行政、保険制度） 第11回：諸外国のスポーツ施策（競技力開発、ネットワーク、普及振興システム、スポーツセンター） 第12回：メガ・スポーツのマネジメント（オリンピック・W杯を中心に） 第13回：スポーツ・マネジメントの将来展望 第14回：a：試験 b：講義全体の振り返り			
3. 履修上の注意 授業には必ず出席し意見交換の際には積極的に発言すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第1回aで授業予定を指示するが、授業前に新聞やスポーツ関係誌で現状を把握しておくことが望ましい。 また、各回で配布する資料を振り返り、不明な部分があれば授業で質問すること。			
5. 教科書 特定のテキストは使用しない。毎回資料を配布する。			
6. 参考書 実践スポーツビジネスマネジメント（日本経済新聞出版社） スポーツ・マネジメント入門（東洋経済新報社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 次の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案・レポート等を紹介する。			
8. 成績評価の方法 期末試験（80％）を実施します。また、授業への貢献度（10％）に加え、その時々話題となるスポーツ問題に関するミニレポート（10％）を加え総合的に評価します。			
9. その他 スポーツ・健康関連分野に興味を持つ学生であること。			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
スポーツマーケティング論		大野 貴 司	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 本講義では、スポーツ領域におけるマーケティング活動であるスポーツマーケティングについて講義する。「スポーツ領域におけるマーケティング活動」と一口に言ってもプロスポーツクラブやスポーツ用品メーカー、フィットネスクラブ、スポーツイベント等多岐に渡る。本講義では、できるだけ多くのスポーツ組織の事例を取り上げながらスポーツならではのマーケティング活動についてその特徴、留意点、課題などを明らかにしていきたい。なお、本講義は受講者確定後「指定座席制」で「アクティブラーニング（AL）方式」で講義を行うので注意されたい。 <到達目標> ・スポーツを取り巻く現状や課題についてマーケティングの視点から分析できるようになること。 ・スポーツ組織を分析するための理論的なフレームワークを習得すること。 ・自分でスポーツ領域のビジネスプランを作成できるようになること。			
2. 授業内容 第1回：スポーツマーケティングとは（座学） 第2回：スポーツマーケティングの基本原理（座学） 第3回：スポーツ製品開発・スポーツ価格戦略（座学） 第4回：スポーツプロモーション（座学） 第5回：スポーツ組織における製品開発戦略（座学） 第6回：スポーツ組織における流通戦略（座学） 第7回：グループワーク＆プレゼン（マーケティングミックスの視点から自らのスポーツイベントプランを考える）（AL） 第8回：スポーツ消費者行動（座学） 第9回：CRM（座学） 第10回：グループワーク＆プレゼン（消費者行動理論を活用したプロスポーツクラブのマーケティングプランを考える）（AL） 第11回：学生スポーツ（大学体育会）のマーケティング戦略（座学）（AL） 第12回：グループワーク（スポーツマーケティングプランの作成）（AL） 第13回：グループワーク（スポーツマーケティングプランのアドリアのまとめ）（AL） 第14回：期末プレゼン（AL）			
3. 履修上の注意 講義のルールについては初回講義時に提示する。履修者確定後、指定座席とする。前列着席を希望する学生のみ事前に申告すること。単位の取得にあたっては総講義回数の3分の2（10回）以上の出席を求める。3回部の対外試合などの公欠で休んだ、あるいは休む予定の学生には単位の取得に当たっては6000字以上のスポーツマーケティングをテーマにした小論文の提出を求める（参考文献2冊以上で、最低一度は教員による研究指導を受けること、チャットGPTの使用、コピペが判明した場合は即失格とする）。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 （予習） 事前に提示した資料（本，論文）を読み，その内容についてワード1枚程度（1,200字程度）で要点と自分の意見をまとめておくこと。 （復習） 講義内容を生かし，自分自身のスポーツマーケティングプランを作成すること。			
5. 教科書 『スポーツビジネス論―理論と実態―』大野貴司・齋藤れい編著（三恵社）			
6. 参考書 『スポーツ経営学入門―理論とケース―（第4版）』大野貴司（三恵社） 『現代スポーツのマネジメント論―「経営学」としてのスポーツマネジメント序説―』大野貴司編著（三恵社） 『スポーツマーケティング入門―理論とケース―』大野貴司（三恵社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 第7、10、14回目の講義に学生によるプレゼンを実施し，同日に教員からのフィードバックの時間を設ける。			
8. 成績評価の方法 ・小テスト 40%（8回×5点） ・リアクションペーパー 30%（6回×5点） ・3回課すプレゼンテーション（授業中にテーマを提示。1回10点） 30% ※ 期末試験、レポートは実施しない。 ※ 成績は大学規定に準拠して認定する。 ※ 5回以上の欠席者は自動的に単位不認定とする（4年生は6回以上）。 ※ 3回公欠で欠席した学生、する予定の学生は6000字以上のスポーツマーケティングをテーマにした小論文を提出することを単位認定の要件とする（提出にあたっては最低一度教員による研究指導を受けること）。例外は認めない。			
9. その他 ・スポーツに興味のある人、スポーツに興味はないがグループワーク形式の授業に興味のある人の受講を歓迎します。 ・部の対外試合で数回欠席する予定の人は、それ以外で休まないようにしてください。本講義はグループワークも行いますので、あまり頻繁に休まれるとグループワークに支障が出て、他の受講者に迷惑となります。どうか本講義の趣旨をご理解いただき、慎重に受講するかどうかを決めてください。 ・スポーツマネジメント系の大学院進学を希望する人は授業時間外に指導を行うことは可能ですので、ご遠慮なくご相談ください。			

科目ナンバー：(BA)MAN371J			
アウトドア組織マネジメント論		吉 松 梓	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 <概要> 本授業は、まず自然体験活動・野外教育などの基本的な概念、アウトドアフィールドでの具体的なアクティビティについて学習する。その上で、学校教育や青少年教育施設等の社会教育、およびNPO団体等の組織において、社会的なニーズや課題といった背景を踏まえて、どのようなアウトドア事業が実施されているのか、その指導法やリスクマネジメントの方法と併せて理解する。最終的に、数人のグループで野外活動の企画（活動名、活動目的、対象、場所、プログラム、安全対策、指導者、予算、食料・装備・運輸計画、など）を作成し、プレゼンテーションを実施する。これによって、将来アウトドア関連組織で活躍するための実践的な知識を身に付ける。 <到達目標> 1. 自然体験活動・野外活動・野外教育の概念と具体的なアクティビティを説明できる。 2. 野外活動の組織や対象、指導およびリスクマネジメントの方法を理解できる。 3. 社会的なニーズや課題に則した実践的な野外活動の企画を作成することができる。			
2. 授業内容 第1回 aのみ：イントロダクション 第2回 自然体験活動・野外活動・野外教育とは？ 第3回 野外活動の組織と対象 第4回 アウトドアのフィールドとアクティビティ1（組織キャンプと野外生活スキル） 第5回 アウトドアのフィールドとアクティビティ2（冒険教育とアドベンチャープログラム） 第6回 アウトドアのフィールドとアクティビティ3（環境教育と自然を感じるプログラム） 第7回 野外活動のリスクマネジメント 第8回 アウトドアの事例紹介 第9回 野外活動の企画と運営1（理論） 第10回 野外活動の企画と運営2（演習：ビジョン・目的・対象） 第11回 野外活動の企画と運営3（演習：日程・フィールド・プログラム） 第12回 野外活動の企画と運営4（演習：予算・交通・リスクマネジメント） 第13回 野外活動の企画と運営5（演習：プレゼンテーション資料作成） 第14回 企画プレゼンテーション・全体のまとめ			
3. 履修上の注意 グループワークを用いたインタラクティブな手法を中心として授業を展開する。最終的にはグループで野外活動の企画およびプレゼンテーションを実施するため、主体的・協働的な姿勢で参加すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で配付する資料の予習・復習をすること。野外活動の企画作成およびプレゼンテーションにあたって、実際のフィールドやプログラム等について具体的に情報収集すること。			
5. 教科書 特定の教科書は使用しない。毎回の授業で資料を配付する。			
6. 参考書 『野外教育入門シリーズ第1巻～第5巻』星野敏男・金子和正監修（杏林書院）2011～2014. 『野外教育入門』星野敏男・川嶋直・平野吉直・佐藤初雄編著（小学館）2001.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業の冒頭に、リアクションシートの講評を行う。プレゼンテーションをコンテスト形式で実施し，学生相互審査の結果を集計してフィードバックする。			
8. 成績評価の方法 毎回の授業のリアクションシート（30%），プレゼンテーション（40%），レポート（30%）を総合的に評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
公共経営学外国書講読A 【使用言語：英語】			石 渡 幹 夫
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 概要 『水資源管理の理論と実践』 水資源管理という現代の重要課題について、最新の国際的な知見を学びながら、英語の専門文献を読解する力も養成する実践的な科目である。水資源は、農業、電力、飲み水、交通、災害、汚染、生態系など、様々な分野に関わっている。水資源の適切な管理は成長や発展には不可欠である。しかしながら、気候変動、都市化、産業構造の変化など、水を取り巻く環境は深刻化している。 国際機関が発行する最新の英語文献を教材として、グローバルな視点から水資源管理の課題とその解決策について学ぶ。単なる文献の翻訳にとどまらず、世界各地の事例分析、政策評価、技術革新の動向など、多角的な視点から水資源管理を考察する。 到達目標 水に関する国際的な課題を理解し、問題解決に向けた最新のアプローチを説明できるようになる。 外国文献から必要な情報を入手し、理解、分析、議論できるようになる。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション・ガイダンス 第2回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第3回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第4回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第5回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第6回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第7回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第8回 中間まとめ 後半の説明 第9回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第10回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第11回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第12回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第13回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第14回 振り返りとまとめ			
3. 履修上の注意 授業は履修者による文献の翻訳と、受講生の議論、担当教員による解説と質疑応答によって進める。 内容に関する設問を課題として出します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・履修生それぞれに割りあてられた章について、要約、論点整理、討論テーマを準備すること。 ・自分の担当でない部分も予習と復習が必要となる。指示した範囲を予め読んで概要を理解し、質問や意見を準備すること。 ・キーワードや不明な単語を調べ、関連する時事問題の情報収集をしておくこと。 ・授業に関する課題を提出すること			
5. 教科書 履修者や進捗に応じて決める。以下の文献等を使用する予定である。ネット上よりダウンロードできる。 "Sociocultural Dimensions in Water Resources Management: Policies, Practices, and Challenges" Mikio Ishiwatari, KE Seetha Ram, 2024. AsianAsian Development Bank Institute, Tokyo "Water for Shared Prosperity," Zhang, Fan, and Christian-Borja-Vega. 2024. World Bank, Washington, DC. "Gender equality and social inclusion in public water, sanitation, and hygiene facilities in developing Asia and the Pacific", Asian Development Bank, ADB: Mandaluyong.			
6. 参考書 関連する学術論文（授業内で適宜紹介） オンラインデータベース（授業内で使用方法を説明）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については、次回の講義で解説やコメントします。 ディスカッションに関しては時間内にフィードバックします。			
8. 成績評価の方法 発表（30%）、平常点（出席、議論への参加・貢献）（30%）、課題（40%）			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
公共経営学外国書講読B 【使用言語：英語】			石 渡 幹 夫
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 概要 『貧困削減と持続可能な開発』 グローバルな貧困削減と質の高い成長について、国際機関による最新の英語文献を教材として学習しながら、英語の専門文献を読解する力も養成する実践的な科目である。激動する国際社会において、貧困削減は依然として最重要課題のであり、その解決には複合的なアプローチが必要とされている。一部の国々は貧困から脱却することに成功し、中所得国や高所得国への「卒業」を果たした。その一方で、多くの国々が依然として貧困から抜け出せない状況にある。この差異が生まれる構造的要因について、実証的なデータから学ぶ。デジタルトランスフォーメーション（DX）による貧困削減への貢献可能性を考察する。 到達目標 開発問題における貧困問題やデジタルトランスフォーメーションの重要性を理解し、問題解決に向けたアプローチを説明できるようになる。 外国文献から必要な情報を入手し、理解、分析、議論できるようになる。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション・ガイダンス 第2回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第3回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第4回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第5回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第6回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第7回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第8回 中間まとめ 後半の説明 第9回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第10回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第11回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第12回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第13回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第14回 振り返りとまとめ			
3. 履修上の注意 授業は履修者による文献の翻訳と、受講生の議論、担当教員による解説と質疑応答によって進める。 内容に関する設問を課題として出します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・受講生それぞれに割りあてられた章について、要約、論点整理、討論テーマを準備すること。 ・自分の担当でない部分も予習と復習が必要となる。配布された資料（指示した範囲）を予め読んで概要を理解し、質問や意見を準備すること。 ・キーワードや不明な単語を調べ、関連する時事問題の情報収集をしておくこと。 ・授業に関する課題を提出すること			
5. 教科書 履修者や進捗に応じて決める。以下の文献等を使用する予定である。ネット上よりダウンロードできる。 "Chapter 4 Falling Graduation Prospects: Low-Income Countries in the 21st Century, In Global Economic Prospects", World Bank 2025, World Bank: Washington DC. (8区分) "Digital transformation for the sustainable development goals framework and road maps to drive prosperity, inclusion, resilience, and sustainability", Asian Development Bank 2024. ADB, Mandaluyong. (11区分)			
6. 参考書 関連する図書や学術論文（授業内で適宜紹介） オンラインデータベース（授業内で使用方法を説明）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については、次回の講義で解説やコメントします。 ディスカッションに関しては時間内にフィードバックします。			
8. 成績評価の方法 発表（30%）、平常点（出席、議論への参加・貢献）（30%）、課題（40%）			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
公共経営学外国書講読A 【使用言語：英語】			熊田 知 晃
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：文化政策における行政経営を巡る外国書講読 (1) 概要 近年、文化政策、文化行政、文化経済、文化産業、アート・マネジメントといった用語が使われ始めた。これらの用語の定義はいまだに定まっていない。それは、用語のルーツが日本ではなく、海外だからである。そこで、この授業では、文化政策、文化行政、文化経済、文化産業、アート・マネジメントを扱う基本的な英語文献を精読する。 (2) 到達目標 英語文献読解の基礎を固めつつ、国、地域等によっても異なる「文化」を巡る政策、行政、経済、産業、経営等の理解を深める。			
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2～13回 テキスト訳読と内容に関する議論①～⑫ 第14回 総括			
3. 履修上の注意 授業の進め方の詳細は第1回授業で説明する。授業で訳読・議論する箇所（ページ）は予め指定する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回の授業で訳読する箇所（ページ）でわからない単語等を調べておくこと。			
5. 教科書 履修者に応じて、第1回授業時に決める。以下の文献等を使用する予定である。 Baumol, W. J. and Bowen, W. G. (1966) PERFORMING ARTS: THE ECONOMIC DILEMMA – A Study of Problems Common to Theater, Opera, Music and Dance, New York, The MIT Press. McGuigan, J. (2004) Rethinking Cultural Policy, Berkshire, Open University Press. Throsby, D. (2010) The Economics of Cultural Policy, Cambridge, Cambridge University Press.			
6. 参考書 講義中に紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 質問など必要がある場合、Oh-o! Meijiを通じてフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 授業への参画度：80%、レポート：20%。詳しくは第1回授業時に説明する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
公共経営学外国書講読B 【使用言語：英語】			熊田 知 晃
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：文化政策における行政経営を巡る外国書講読 (1) 概要 近年、文化政策、文化行政、文化経済、文化産業、アート・マネジメントといった用語が使われ始めた。これらの用語の定義はいまだに定まっていない。それは、用語のルーツが日本ではなく、海外だからである。そこで、この授業では、文化政策、文化行政、文化経済、文化産業、アート・マネジメントを扱う基本的な英語文献を精読する。 (2) 到達目標 英語文献読解の基礎を固めつつ、国、地域等によっても異なる「文化」を巡る政策、行政、経済、産業、経営等の理解を深める。			
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2～13回 テキスト訳読と内容に関する議論①～⑫ 第14回 総括			
3. 履修上の注意 授業の進め方の詳細は第1回授業で説明する。授業で訳読・議論する箇所（ページ）は予め指定する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回の授業で訳読する箇所（ページ）でわからない単語等を調べておくこと。			
5. 教科書 履修者や公共経営学外国書講読Aの進捗状況に応じて、第1回授業時に決める。以下の文献等を使用する予定である。 Baumol, W. J. and Bowen, W. G. (1966) PERFORMING ARTS: THE ECONOMIC DILEMMA – A Study of Problems Common to Theater, Opera, Music and Dance, New York, The MIT Press. McGuigan, J. (2004) Rethinking Cultural Policy, Berkshire, Open University Press. Throsby, D. (2010) The Economics of Cultural Policy, Cambridge, Cambridge University Press.			
6. 参考書 講義中に紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 質問など必要がある場合、Oh-o! Meijiを通じてフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 授業への参画度：80%、レポート：20%。詳しくは第1回授業時に説明する。			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
公共経営学外国語講読A 【使用言語：英語】			高 巖
2 単位	3 年次	春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 Learning Inamori Philosophyの前半を読み、稲盛和夫氏の哲学を学ぶとともに、英語を読み込む力をつける。氏は、京セラを創業し、KDDIのビジネスを軌道に乗せ、破綻した日本航空を再生させた日本を代表する経営者である。その氏がよって立った社会哲学を、他の社会哲学との比較を通じて学ぶ。 〈到達目標〉 稲盛哲学を学ぶことと併せ、英語を読む力をつけることが本講義の目的である。そのため、文法を学ぶとともに、英文の論理構造が分かるよう、一文一文を読み解いていく。言い換えれば、大学生に求められる語彙や慣用表現を確実に増やしていくことが、本講義の目標となる。			
2. 授業内容 第1講 イン트로ダクション 第2講 学生による英文和訳・解説と講義 第3講 学生による英文和訳・解説と講義 第4講 学生による英文和訳・解説と講義 第5講 学生による英文和訳・解説と講義（第1回試験） 第6講 学生による英文和訳・解説と講義 第7講 学生による英文和訳・解説と講義 第8講 学生による英文和訳・解説と講義（第2回試験） 第9講 学生による英文和訳・解説と講義 第10講 学生による英文和訳・解説と講義 第11講 学生による英文和訳・解説と講義（第3回試験） 第12講 学生による英文和訳・解説と講義 第13講 学生による英文和訳・解説と講義 第14講 学生による英文和訳・解説と講義（第4回試験）			
3. 履修上の注意 実践的な表現力や会話力を身につけたいと考えている学生であること			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業参加者は報告該当箇所を精読しておくこと 試験に備え、しっかり単語や慣用句を学習・記憶すること			
5. 教科書 Iwao Taka, Learning Inamori Philosophy: Japan's most influential social philosophy 次のタイトルでネット上よりダウンロード可（無料） Learning Inamori Philosophy			
6. 参考書 授業時に指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各学生が行う翻訳に対し、授業中にコメントする。			
8. 成績評価の方法 授業へのコミットメント30%、試験の結果70% 授業へのコミットメントは出席と発表内容を見て評価する。なお、「DeepLやGoogle翻訳など機械翻訳ツールを用いて得た和文を読み上げる」のは、発表とは見えない。自分の力で文章の構造を理解し、読み解こうとした努力が見えるかどうかで各自の発表を評価する。 試験の結果は、4回の試験の総合点で行う。試験の点数が全体の70%を占めるため、毎回の試験に備え、事前準備をしっかりやること。			
9. その他 履修希望者は、最初のオリエンテーションに必ず出席すること。			

科目ナンバー：(BA)MAN391J			
公共経営学外国語講読B 【使用言語：英語】			高 巖
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 Learning Inamori Philosophyの後半を読み、稲盛和夫氏の哲学を学ぶとともに、英語を読み込む力をつける。氏は、京セラを創業し、KDDIのビジネスを軌道に乗せ、破綻した日本航空を再生させた日本を代表する経営者である。その氏が提唱した経営哲学と人生哲学を学んでいく。 〈到達目標〉 稲盛哲学を学ぶことと併せ、英語を読む力をつけることが本講義の目的である。そのため、文法を学ぶとともに、英文の論理構造が分かるよう、一文一文を読み解いていく。言い換えれば、大学生に求められる語彙や慣用表現を確実に増やしていくことが、本講義の目標となる。			
2. 授業内容 第1講 イン트로ダクション 第2講 学生による英文和訳・解説と講義 第3講 学生による英文和訳・解説と講義 第4講 学生による英文和訳・解説と講義 第5講 学生による英文和訳・解説と講義（第1回試験） 第6講 学生による英文和訳・解説と講義 第7講 学生による英文和訳・解説と講義 第8講 学生による英文和訳・解説と講義（第2回試験） 第9講 学生による英文和訳・解説と講義 第10講 学生による英文和訳・解説と講義 第11講 学生による英文和訳・解説と講義（第3回試験） 第12講 学生による英文和訳・解説と講義 第13講 学生による英文和訳・解説と講義 第14講 学生による英文和訳・解説と講義（第4回試験）			
3. 履修上の注意 実践的な表現力や会話力を身につけたいと考えている学生であること			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業参加者は報告該当箇所を精読しておくこと 試験に備え、しっかり単語や慣用句を学習・記憶すること			
5. 教科書 Iwao Taka, Learning Inamori Philosophy: Japan's most influential social philosophy 次のタイトルでネット上よりダウンロード可（無料） Learning Inamori Philosophy			
6. 参考書 授業時に指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各学生が行う翻訳に対し、授業中にコメントする。			
8. 成績評価の方法 授業へのコミットメント30%、試験の結果70% 授業へのコミットメントは出席と発表内容を見て評価する。なお、「DeepLやGoogle翻訳など機械翻訳ツールを用いて得た和文を読み上げる」のは、発表とは見えない。自分の力で文章の構造を理解し、読み解こうとした努力が見えるかどうかで各自の発表を評価する。試験の結果は、4回の試験の総合点で行う。試験の点数が全体の70%を占めるため、毎回の試験に備え、事前準備をしっかりやること。なお、欠席が4回を超えた場合、落第とする。			
9. その他 履修希望者は、最初のオリエンテーションに必ず出席すること			

科目ナンバー：(BA)MAN971J			
公共経営学特別講義D		小 関 隆 志	
2 単位	1 年次	秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：日本は社会課題先進国と言われ、SDGsの達成度も世界的にみて低く、他方で政府は多額の債務を抱えている。 協同組合は、会員制の共益組織であって、公益組織と区別して扱われてきた。しかし協同組合は社会課題を背景として生まれ、社会的弱者が集まって助けあうことを旨とし、営利を目的としない組織である。 協同組合はまた、単に会員間の相互利益を追求するのみならず、NPOや行政などと連携しながら、環境や平和、国際協力、食の安全、医療・福祉など、多様な社会課題に率先して取り組んできた。なかでも生協は、市民運動やNPOを生み出し、育てる重要な役割を果たしている。 明治時代以降、協同組合は日本社会に根付き、多様な発展をとげてきた。2024年6月時点で、協同組合の延べ組合員数は1億5千万人と、日本の総人口1億2千万人を超える。しかし近年、協同組合の社会的役割が注目されることはあまり多くない。また、協同組合が市場での競合や、独自のアイデンティティをめぐって課題に直面していることも確かだ。 多様な協同組合に焦点を当て、協同組合が日本の地域課題にどう向き合い、公益を発揮しているのか、いま求められていることは何かを、本講義を通じて明らかにする。 この特別講義では、国内の各種協同組合の連絡調整機関である日本協同組合連携機構(JCA)の協力を得て、協同組合の現場を知る実践家を講師に招き、実践的な教育を行う。 到達目標：協同組合が地域課題の解決に向けて果たす役割を理解し、自分の意見を述べることができる。			
2. 授業内容 第1回 インTRODクション 経営学部 専任教授 小関 隆志 第2回 概論 JCA日本協同組合連携機構 協同組合連携 2部 松尾 賢 第3回 エンカル消費視点のCO・OP商品の役割と可能性 日本生協連 ブランド戦略本部 サステナビリティ戦略室 松島 学 第4回 信用金庫による事業者支援・伴奏支援の取組み、地方創生の取組みについて 城南信用金庫 地域発展支援部長 卯月 雄一郎・事業承継支援部長 武藤 将彦・人事人財育成部長 早川 博隆 第5回 持続可能な地域づくりと生協の役割～大規模災害の教訓をふまえて～ 日本生協連 組織推進本部 社会・地域活動推進部 地域コミュニティグループマネージャー 前田 昌宏 第6回 労働金庫による金融包摂 全国労金協会 組織渉外部 柳 崇弘 第7回 東京農家が抱える課題と東京農業の魅力 J A 東京中央会 総合企画部 総務企画課 港 孔太 第8回 東京農業を取り巻く環境とJ A 東京グループの役割 J A 東京中央会 総合企画部 総務企画課 港 孔太 第9回 持続可能な地域社会に向けた森林組合の役割 全森連 組織部長 早瀬 悟史 第10回 JA共済連の概要と取組みの現状 J A 共済連 全国本部 経営企画部 事業連携・SDGs推進室 協同組合連携グループ課長 松浦 竜也 第11回 特定地域づくり事業協同組合について 全国中央会 政策推進部 副部長 矢田部 宏志 第12回 協同労働を用いた地域課題の解決 WNJ 代表 藤井恵里 第13回 協同組合連携 JCA日本協同組合連携機構 協同組合連携 2部 松尾 賢 第14回 まとめ 経営学部 専任教授 小関 隆志			
3. 履修上の注意 授業中は講師の話聞くだけでなく、ディスカッションに参加し、質問や感想を述べるなど、積極的に授業に参加してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業後は授業資料を再読し、質問・感想を書いて提出してください。			
5. 教科書 講義の際に資料を配信します。			
6. 参考書 中川雄一郎・杉本貴志編、全労済協会監修『協同組合を学ぶ』日本経済評論社、2012年 一般社団法人日本協同組合連携機構『1時間でよくわかるSDGsと協同組合』家の光協会、2019年 一般社団法人日本協同組合連携機構『協同組合間連携に学ぶ地域づくり』全国共同出版、2023年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートの採点結果とコメントを返します。 毎回の授業の内容に対する質問には後日Oh-o Meijiにて回答します。			
8. 成績評価の方法 レポート 64%/グループ・ディスカッション 36% 授業内容に対するフィードバック（意見・感想）の提出（7回以上）が単位認定の前提条件となります。 授業中の挙手質問、および優れた意見・感想には別途加点します。			
9. その他			

13 教職專門科目

科目ナンバー：(CC)HIS111J			
日本史概論			長 沼 秀 明
		春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 教職課程「教科に関する科目」（「共通講座」）として、日本史を教えるために必要な基礎的知識を実践的に学びます。 《授業の到達目標およびテーマ》 高等学校で「歴史総合」および「日本史探究」の授業を担当することを想定し、ある学校の授業例を参考にしつつ、日本の近現代史に関する基礎的な知識を学びます。中学校「社会」の授業を担当する際にも大いに役立つ内容です。			
2. 授業内容 第1回 ガイダンス、「日本史A」の目標および内容 第2回 動揺する江戸幕府―内憂外患への対応― 第3回 開国 第4回 明治維新 第5回 自由民権運動、大日本帝国憲法（その1） 第6回 自由民権運動、大日本帝国憲法（その2） 第7回 条約改正、日清戦争（その1） 第8回 条約改正、日清戦争（その2） 第9回 日露戦争 第10回 第一次世界大戦 第11回 大正・昭和初期の経済と対外関係 第12回 昭和恐慌から二・二六事件へ、戦争の時代 第13回 敗戦と占領・戦後改革、講和から高度経済成長時代へ 第14回 a. まとめ b. 試験 *授業内容は必要に応じて変更することがあります。			
3. 履修上の注意 1) 教職課程認定科目であることを十分に認識してください。 2) いわゆる出席点はありません。 3) 授業時間は最大限に使います。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、事前に指示した課題に真剣に取り組み、積極的に参加してください。			
5. 教科書 つぎの二冊が教科書です。二冊ともに毎回の授業で使用します。 (1) 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編』 (2) 『日本史A―現代からの歴史―』（高等学校地理歴史科用文部科学省検定済教科書 2―東書―日A308）（東京書籍、2024年）（本体価格705円） ※ 詳細は初回の授業で指示します。			
6. 参考書 毎回の授業のなかで紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内に授業の一環として伝えます。			
8. 成績評価の方法 定期試験の得点および毎回の授業で提出してもらう「解答票」を総合的に判定し、厳正に行ないます。具体的な割合は、試験の得点55％、毎回の授業の成果45％を原則とします。			
9. その他 「Oh-o! Meijiシステム」の積極的な活用をはかります。			

科目ナンバー：(CC)HIS111J			
日本史概論			清 水 光 明
		春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 近世日本における政治改革と出版統制の概要について、政治過程とメディア環境の双方に留意しながら通時的かつ多角的に考察する。この授業は、上記のテーマについて、具体的な史資料（論文や史料の一部）を通して検討することで、（1）史資料を自分で読み解く能力、（2）史資料から自分で問題をたてる能力、（3）その問題についてさらに自分で調べ考え抜く能力、（4）その調査や思索を他人にも共有可能な文章で的確に表現する能力を鍛えることを目的とする。 授業の運営方法については、おおよそ以下のように進める。〈基礎授業〉（1）主題の解説、（2）史資料の音読と簡単な質疑応答、（3）解説と講義。〈展開授業〉（1）主題の補足説明、（2）史資料の音読と簡単な質疑応答、（3）講義を聴き、史資料を読むなかで生じた自問自答をカード（700字程度）に書いて提出（なお、カードは教員が添削・採点した上で翌週の授業の際に返却する）。 （1）近世日本における政治改革と出版統制の概要について、基本的な知識や研究史、枠組み等を理解する。 （2）近世日本の政治史・思想史・文化史に関する史料の一部を実際に読んでみる機会を得る。 （3）近世日本の出版統制の変遷と機能を実証的に位置づけることを通して、新聞やニュース等で接する現代日本や世界の表現や検閲等に関する諸事象への認識を深める機会を得る。			
2. 授業内容 第1回：ガイダンス 第2回：主題1 基礎 政治と出版の歴史を考える（1）―日本近世史の研究動向から― 第3回：主題1 展開 政治と出版の歴史を考える（2）―中国史・フランス史の研究動向から― 第4回：主題2 基礎 享保改革と出版統制（1）―片島武矩と『赤穂義臣伝』― 第5回：主題2 展開 享保改革と出版統制（2）―並河誠所と『五畿内志』― 第6回：主題3 基礎 寛政改革と出版統制（1）―蔭屋重三郎と三俣中洲― 第7回：主題3 展開 寛政改革と出版統制（2）―幕府編纂事業の展開と林述斎・中井竹山― 第8回：主題4 基礎 天保改革と出版統制（1）―中西忠蔵活字版一件と古賀侗庵― 第9回：主題4 展開 天保改革と出版統制（2）―板倉勝明と『甘雨亭叢書』― 第10回：主題5 基礎 明治維新とメディア環境（1）―対外情報と風説留― 第11回：主題5 展開 明治維新とメディア環境（2）―公論と暴力― 第12回：主題6 基礎 比較史的考察（1）―中国史との対照― 第13回：主題6 展開 比較史的考察（2）―フランス史との対照― 第14回：まとめ			
3. 履修上の注意 剽窃・コピペ、ChatGPTの使用は厳禁です。コメントを提出しても無効になりますので、御注意ください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる。			
5. 教科書 プリント史資料が基本。それ以外は、授業の際に適宜紹介する。			
6. 参考書 上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美編『日本近世史入門――ようこそ研究の世界へ！』（勉誠社、2024年）を手にとると理解が深まるであろう。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 2回に1回提出してもらうカードに点数とコメントを付して返却する。			
8. 成績評価の方法 6つの主題の展開授業の際のカードの計6回の記述内容を、1回20点満点で評価する。合計95点以上S、80点以上A、70～79点B、60～69点C。50～59点の人には追加小レポートを課す。			
9. その他 配布する史資料には、現代日本語のみならず、候文等の和漢文や古文・漢文・漢文訓読体のものが含まれているので、事前に難語を辞書で調べ音読の予習をしっかりと行うこと。			

科目ナンバー：(CC)HIS111J			
日本史概論		伊 勢 弘 志	
		秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 《概要》 現在の日本社会の前提になっている近現代の国際環境・社会環境を講義する。 私たちの社会が世界の潮流と密接であることを理解するために、歴史学と国際政治学の両分野の視角から、近代～現代とはどのような時代であったのかを学習する。 現在の日本における社会問題・教育問題を自ら分析できるように日本近現代史を学習する。 《到達目標》 1. 近現代とはどのような時代であるのかを知り、その理解の上に現在の日本社会や東アジア情勢の前提が理解できる。 2. 現在の教育問題・歴史認識問題などについて多面的な分析ができる。 3. 「道具としての知識」を実社会や教育の現場で活用するために、「考える力」を訓練する。その上で、「なぜ勉強をするのか？」について応えることができる。 4. 2022年度より全国の高校で開始された「歴史総合」の課題と意義・留意点を理解できる。			
2. 授業内容 第1回：なぜ歴史を学ぶのか？ - 黒船来航から考える 第2回：近代を迎える日本とアジア - 岩倉使節団は何を見たのか？ 第3回：日清戦争とアジア情勢 - 日清戦争が世界に与えた影響とは何か？ 第4回：世界史の中の日露戦争 - 日本が変えた世界史とは何か？ 第5回：第一次世界大戦と国際連盟 - 「総力戦」から世界は何を学んだか？ 第6回：「ワシントン体制」とは何か？ - 「戦争違法化」の世界 第7回：満州事変と連盟脱退 世界秩序への挑戦 第8回：日本はなぜ侵略国になったのか？ 第9回：なぜ原爆は2発落とされたのか？ - 敗戦と聖断 第10回：東京裁判は何を裁いたか？ - 日本社会の戦争観 第11回：「戦後帝国主義」の登場 - 「55年体制」と「日米安保」とは何か？ 第12回：「近代化論」とは何か？ - 歴史小説で勉強してはダメなのか？ 第13回：新自由主義の世界 - 自己責任論とは何か？ 第14回：日本の社会と教育			
3. 履修上の注意 知識（内容知）を獲得するだけでなく、知るための調べ方・自身の関心や疑問を自ら解決するための知識（方法知）を獲得し、さらに「考える力」を訓練できるよう留意すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ① 教科書は必ず用意すること。 ② 毎時の講義内容について、次の講義までに教科書を読んで理解を深めておくこと。 ③ なぜ勉強をするのか？必死に考えること。			
5. 教科書 伊勢弘志『明日のための近代史 - 世界史と日本史が織りなす史実』（増補新版）（芙蓉書房出版、2023年）。 ＊「増補新版」を用意して下さい。誤って旧版を購入しないこと。買い直さねばなりません。			
6. 参考書 伊勢弘志『明日のための現代史』（上・下巻）（芙蓉書房出版、2021～2022年）。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間の前後に教室で対応する。			
8. 成績評価の方法 レポート100%（およびプラスアルファとしてのリアクションペーパーによる平常点）			
9. その他 初回の授業時に成績評定や単位認定についての詳細を説明します。必ずその内容を把握の上で履修すること。 本講義では日本の近代～現代を学習します。本講義の履修者で、他の時代を学習したい学生には以下の書籍をお薦めします。 『世界史リブレット』シリーズ（山川出版社）。 『大学の日本史』シリーズ・古代～近代（山川出版社）。 妹尾達彦『グローバル・ヒストリー』2刷修訂（中央大学出版部、2021年）。 津田資久・井ノ口哲也編著『教養の中国史』（ミネルヴァ書房、2018年）。 『市民のための世界史』大阪大学歴史教育研究会編（大阪大学出版会、2014年）。 川北稔『世界システム論講義：ヨーロッパと近代世界』（ちくま学芸文庫、2016年）。 『世界歴史大系 中国史』1～5（山川出版社、1997年～2003年）。 『中国の歴史』全12巻（講談社学術文庫）。 岸本美緒『中国の歴史』（ちくま学芸文庫、2015年）。 中西章也・増田知之編著『よくわかる中国史』（ミネルヴァ書房、2023年）。 岡本隆司『世界史とつなげて学ぶ中国全史』（東洋経済新報社、2019年）。 『日本近世史を見通す』全七巻（山川出版社）。 『シリーズ近世史』全5冊（岩波新書）。 『近世史講義』高埜利彦編（ちくま新書）。			

科目ナンバー：(CC)HIS121J			
東洋史概論			石 野 智 大
		春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 本授業では、時間的・空間的な広がりをもつ中国の政治と社会について、周辺地域との関係も視野に入れながら概観する。また、それらを通して、受講生各自が中国史に関する基本的な知識を習得することを目的とする。 長きにわたる中国の歴史を理解する際には、その大きな流れを捉えることが重要な意味を持つ。そのため、教職課程科目である本授業でも、その部分に力点を置いて講義を進める。とくに本授業では、人びとの生活環境の違い、文明の多元性、領域統治の方法、人的結合のあり方、統一王朝の形成・崩壊過程、諸民族の躍動と自立化、大規模な環境変化の影響、対内・対外政策の連動性、宗教・文化と政治とのかかわりなどに注目しながら、中国文明の誕生から清末までの前近代中国の歴史的推移を追っていく。			
2. 授業内容 第1回：中国文明の誕生 第2回：初期王朝の形成 第3回：春秋戦国時代の政治と文化 第4回：秦漢帝国の成立と崩壊（1） 秦～前漢前半 第5回：秦漢帝国の成立と崩壊（2） 前漢後半～後漢 第6回：魏晉南北朝時代の政治と諸民族の動向 第7回：隋唐王朝の形成と変容（1） 隋 第8回：隋唐王朝の形成と変容（2） 唐 第9回：五代・北宋の展開 第10回：南宋時代の政治と文化 第11回：モンゴル帝国と元朝の中国支配 第12回：明代の国内政治と対外政策 第13回：清代の政治的展開と皇帝制度の終焉 第14回：a本授業のまとめ b期末試験			
3. 履修上の注意 高校で「世界史」前近代部分を十分に履修しなかった方も歓迎します。 授業では中国史の大きな流れを理解するように心がけてください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 履修前の事前学習としては、高校世界史教科書の中国史関連部分を一読しておくとうよいと思います。 授業開始後は、授業外学習として下記の「参考書」を積極的に読まれることを希望します。 また、授業で学習した内容は毎回復習し、理解を定着させることが大切です。			
5. 教科書 指定しません。授業時に適宜プリントを配布します。			
6. 参考書 尾形勇・岸本美緒編『中国史』上・下（山川出版社、2019年） 津田資久・井ノ口哲也編『教養の中国史』（ミネルヴァ書房、2018年） より専門的な理解を深めるには、以下の概説書をおすすめします。 『世界歴史大系 中国史』1～5（山川出版社、1997年～2003年） 『中国の歴史』全12巻（講談社、2004年～2005年、講談社学術文庫版あり）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内に解説や講評などのフィードバックを行います。			
8. 成績評価の方法 平常点（授業への取り組み、リアクションペーパーなど）30％、期末試験70％			
9. その他 個別の質問・相談は随時対応いたしますので、授業後にお願いします。			

科目ナンバー：(CC)HIS121J			
東洋史概論			鈴 木 直 美
		春学期 秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本授業では高校の歴史総合・世界史探求、および中学社会科の授業を運営するに十分な基礎知識と新しい研究動向について講義する。具体的には7世紀から20世紀末までの中国史の流れを概観し、中国の政治・経済・社会の動向を世界史的背景から理解できるように説明する。中国史を講義の軸とするのは、農耕と遊牧という異質の社会システムや環境、生活・文化が接しながら新しい時代を育むという、日本にはない特色あるからである。 また、伝統的な華夷意識にもとづく「帝国」が、19世紀以降いかにして近代国家へと変革を遂げたかを学ぶことは、地域によって異なる「近代化」のプロセスを比較する材料となる。そして、現在の多民族国家としての中国が形成されてきた過程を長期的視野からとらえることで、中国社会やアジアが抱える諸問題を深く理解できるだろう。本授業を通じて、アジアという広い地域の特質を歴史的な視点で考えるその手法を学んでほしい。 《到達目標》 1. 中学・高校での授業を行うに十分な知識と教養を習得する。 2. 中国社会のあり方を歴史的背景から理解する。 3. 歴史学の思考方法を身につけ、様々な歴史的事象について多角的な視点から考察できる。			
2. 授業内容 各回の授業内容は以下の通り。 1. ガイダンス / 「中国」とは何か 2. 農耕社会と遊牧社会 3. 隋唐王朝と国際関係 4. 唐宋変革とは何か 5. モンゴル帝国とユーラシア 6. 明朝と大航海時代 / 小テスト 7. 清朝の平和 8. 清朝と近代世界 9. 中国ナショナリズムと辛亥革命 10. 第一次世界大戦と中国社会 11. 抗日戦争から中華人民共和国へ 12. 社会主義体制の構築 13. 現代中国の諸問題 14. 試験と解説 授業の進行状況によって内容を変更する場合がある。			
3. 履修上の注意 高校時代の世界史の内容を復習しておくこと。 世界史を履修していない、もしくは現代史など学習していない範囲がある場合は下記書籍を読んでおくのが望ましい。 「世界の歴史」編集委員会『もういちど読む山川世界史』（山川出版社、2009年）			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 クラスウェアから資料を配布するので内容を予習・復習すること。			
5. 教科書 クラスウェアから資料（PDF）を配布する。			
6. 参考書 岸本美緒『中国の歴史』（ちくま学芸文庫、筑摩書房、2015年）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要時応じてクラスウェアのコメント機能を使用する。			
8. 成績評価の方法 1. 小テスト（30％）・期末試験（70％）による。 （1）第6回授業で小テストを行う。 （2）期末試験は記述式で行う。単語の羅列や意味の不明な文章は解答とみなさず、単位を認定しない。 2. 出席回数が第2回から第13回の間に9回未満の場合には単位認定の対象としない。			
9. その他 1. クラスウェアの出欠確認機能と小テスト機能を使用するのでスマートフォン・パソコンなどを持参のこと。 2. 授業で使用する資料は事前にクラスウェアからPDFで配付する。感染防止のため授業時に紙媒体での配布をしないので授業前に自分でダウンロードや印刷をしておくこと。 3. 本授業を補完する書籍は以下の通り。 (1) 世界史全体にかかわる書籍 妹尾達彦『グローバル・ヒストリー』2刷訂訂（中央大学出版部、2021年） 『市民のための世界史』大阪大学歴史教育研究会編（大阪大学出版会、2014年） 川北絵『世界システム論講義：ヨーロッパと近代世界』（ちくま学芸文庫、2016年） 世界史リブレットシリーズ（山川出版社）※歴史学の様々なテーマについてわかりやすく解説している。 (2) 中国史についての概説書 津田資久・井ノ口哲也編著『教養の中国史』（ミネルヴァ書房、2018年）。 中西竜也・増田知之編著『よくわかる中国史』（ミネルヴァ書房、2023年）。 岡本隆司『世界史とつなげて学ぶ中国全史』（東洋経済新報社、2019年）。 『世界歴史大系 中国史』1～5（山川出版社、1997年～2003年）。 『中国の歴史』全12巻（講談社学術文庫）。 (3) 日本史にかかわる書籍 『大学の日本史』シリーズ（山川出版） 『日本近世史を見通す』（全7巻／山川） 高埜利彦編『近世史講義』（ちくま新書） 『シリーズ近世史』（全5冊／岩波新書）			

科目ナンバー：(CC)HIS131J			
西洋史概論		小野寺利行	
		春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 ヨーロッパの中世・近世の歴史を概観する。前近代ヨーロッパ史の流れや基本的な事項を、経済史の視点を通して学ぶことを目的とする。農業・手工業・商業がどのように展開していったのか、そしてそれによってヨーロッパ内外のさまざまな地域の結びつきがどのように変化していったのかをみていくことで、工業化や世界の一体化を実現する以前のヨーロッパの姿を理解したり、ヨーロッパ世界の歴史的な変化を考えたりするための手がかりつかむことを目指したい。			
2. 授業内容 以下のように授業を進めていく予定だが、状況に応じて変更することもある。 1. イントロダクション 2. 中世の社会 3. 中世の農村と農業 4. 中世の都市と手工業 5. 中世の都市と商業 6. 中世の商人と商業 7. 近世の社会 8. 近世の農業 9. 近世の手工業 10. 近世の商業 11. 近世のヨーロッパ経済 12. 近世の世界経済 13. 産業革命 14. (a) まとめ／(b) テスト			
3. 履修上の注意 高校世界史の教科書や参考書、後掲の参考書などに目を通して、ヨーロッパの中世から近代までの大まかな流れをおさえておくことが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習では、参考文献に目を通して次回授業の内容を大まかにつかみ、自分なりの疑問点・課題をもって授業に臨むこと。復習では、授業で配付した資料や参考文献を利用してノートのまとめ・整理・補足などを行ない、授業内容をまとめる課題や質問などを作成すること。			
5. 教科書 特定の教科書は使用せず、資料をOh-o! Meijiで配付する。			
6. 参考書 授業中に随時紹介するが、さしあたり基本的な文献を挙げておく。 ・『世界の歴史』編集委員会（編）『新 もういちど読む山川世界史』山川出版社、2017年 ・『もういちど読む山川世界史 PLUS ヨーロッパ・アメリカ編』木村靖二ほか（山川出版社） ・『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』服部良久ほか（ミネルヴァ書房） ・『大学で学ぶ西洋史 [近現代]』小山哲ほか（ミネルヴァ書房）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対するフィードバックは後日授業中に行なう。			
8. 成績評価の方法 ・学期末試験（70%） ・課題（30%）			
9. その他			

科目ナンバー：(CC)HIS131J			
西洋史概論		小野寺利行	
		秋学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 ヨーロッパの中世・近世の歴史を概観する。前近代ヨーロッパ史の流れや基本的な事項を、経済史の視点を通して学ぶことを目的とする。農業・手工業・商業がどのように展開していったのか、そしてそれによってヨーロッパ内外のさまざまな地域の結びつきがどのように変化していったのかをみていくことで、工業化や世界の一体化を実現する以前のヨーロッパの姿を理解したり、ヨーロッパ世界の歴史的な変化を考えたりするための手がかりつかむことを目指したい。			
2. 授業内容 以下のように授業を進めていく予定だが、状況に応じて変更することもある。 1. イントロダクション 2. 中世の社会 3. 中世の農村と農業 4. 中世の都市と手工業 5. 中世の都市と商業 6. 中世の商人と商業 7. 近世の社会 8. 近世の農業 9. 近世の手工業 10. 近世の商業 11. 近世のヨーロッパ経済 12. 近世の世界経済 13. 産業革命 14. (a) まとめ／(b) テスト			
3. 履修上の注意 高校世界史の教科書や参考書、後掲の参考書などに目を通して、ヨーロッパの中世から近代までの大まかな流れをおさえておくことが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習では、参考文献に目を通して次回授業の内容を大まかにつかみ、自分なりの疑問点・課題をもって授業に臨むこと。復習では、授業で配付した資料や参考文献を利用してノートのまとめ・整理・補足などを行ない、授業内容をまとめる課題や質問などを作成すること。			
5. 教科書 特定の教科書は使用せず、資料をOh-o! Meijiで配付する。			
6. 参考書 授業中に随時紹介するが、さしあたり基本的な文献を挙げておく。 ・『世界の歴史』編集委員会（編）『新 もういちど読む山川世界史』山川出版社、2017年 ・『もういちど読む山川世界史 PLUS ヨーロッパ・アメリカ編』木村靖二ほか（山川出版社） ・『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』服部良久ほか（ミネルヴァ書房） ・『大学で学ぶ西洋史 [近現代]』小山哲ほか（ミネルヴァ書房）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対するフィードバックは後日授業中に行なう。			
8. 成績評価の方法 ・学期末試験（70%） ・課題（30%）			
9. その他			

科目ナンバー：(CC)HIS131J			
西洋史概論			渡 辺 知
		春学期 秋学期	和泉キャンパス 駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 15世紀のポルトガル、スペインのヨーロッパ外への進出に始まる世界の一体化の過程を世界システム論の観点から概観し、ヨーロッパ近代の歩みが世界の諸地域に与えた影響について考えてみたいと思います。ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在の社会といかに関係するのか、あるいは、一地域の動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。			
2. 授業内容 以下の通り授業を進める予定ですが、進行具合によって若干の変更を加えることもあります。 第1回 世界の一体化 この講義のテーマについて説明します。 第2回 大航海時代以前のヨーロッパ 1 11～13世紀のヨーロッパの経済、社会について説明します。 第3回 大航海時代以前のヨーロッパ 2 14世紀以降ヨーロッパで危機的状況が深まっていく過程を説明します。 第4回 ポルトガルとアジア ポルトガルがアフリカ、アジアに進出していく過程とその影響について説明します。 第5回 スペインとアメリカ 1 スペインのアメリカ進出の過程とアメリカに与えた影響について説明します。 第6回 スペインとアメリカ 2 スペインのアメリカ進出がスペインと世界の一体化に与えた影響について説明します。 第7回 17世紀のヨーロッパ 「17世紀の危機」論争を紹介しつつ、西ヨーロッパ諸国の台頭を説明します。 第8回 第一次イギリス帝国の形成 イギリスがオランダ、フランスと対立しながらその帝国を形成する過程を説明します。 第9回 イギリス商業革命 イギリスの帝国形成がイギリスの経済、社会に与えた影響について説明します。 第10回 西インド諸島と砂糖 イギリスの植民地支配が西インド諸島に与えた影響について説明します。 第11回 アフリカと大西洋奴隷貿易 イギリスをはじめとするヨーロッパ諸国による大西洋奴隷貿易の展開とその影響について説明します。 第12回 フランス革命と環大西洋革命 1 フランス革命の展開について説明します。 第13回 フランス革命と環大西洋革命 2 フランス革命をその時期大西洋の両岸で起きた出来事と関連付けながらその意義を説明します。 第14回 a まとめ b 試験			
3. 履修上の注意 西洋の歴史に興味のある方はもちろん、これまで歴史になじみがなかった方の受講も歓迎します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で紹介した問題について参考文献等で調べてください。授業前に前回の授業ノート、参考文献を見返し、まとめておいてください。			
5. 教科書 特に定めません。			
6. 参考書 参考文献として以下の文献を紹介しておきます。授業で随時、紹介してきます。 川北稔『世界システム論講義：ヨーロッパと近代世界』（ちくま学芸文庫、2016年）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業でコメントします。			
8. 成績評価の方法 授業の区切りに授業内容のまとめや感想を書いて頂き、これを平常点とします。学期末には試験を行い、成績はこれらの総合評価とします（学期末試験80%、平常点20%）。			
9. その他 オフィスアワーは最初の授業でお知らせします。			

科目ナンバー：(CC)GEO131J			
地誌学概論			内 藤 芳 宏
2 単位		春学期 秋学期	和泉キャンパス 駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 教職課程におかれている「地誌学概論」であることを考慮し、中学・高等学校の教員に求められる地誌学の基礎・基本から専門領域に加えて、既存の概念から応用する授業事例も触れていきたい。地理は知らない土地の知らない人たちや自然に対する好奇心から成り立っている。とくに地誌学は特定地域における自然と人文の諸事象とその関係を考察し、地域的な特徴を究明すること、すなわち地域を知ることが目的とされる。地誌学の楽しみを得ることで、将来のあなたの教え子たちに還元するための糸口になることを目指したい。なお2022年度より高等学校で必修化される「地理総合」では地誌を扱わないが地図学習は入るため、それを意識した内容とした。また続く科目の「地理探究」で地誌的内容を扱うことを意識したい。			
2. 授業内容 第1回：オリエンテーション 地誌学を学ぶということ 第2回：地誌学の基礎①学校教育の地誌とは 第3回：地誌学の基礎②日本を扱う（都市近郊） 第4回：地誌学の基礎③日本を扱う（農山村部） 第5回：地誌学の展開①専門性を活かした地誌 地形図の活用（段彩図） 第6回：地誌学の展開②専門性を活かした地誌 地形図の活用（谷と尾根） 第7回：地誌学の展開③専門性を活かした地誌 地形図の活用（土地利用図） 第8回：地誌学の展開④専門性を活かした地誌 統計地図の活用 第9回：地誌学の展開⑤専門性を活かした地誌 フィールドワーク・校外学習 第10回：地誌の授業実践①旅をつくる 第11回：地誌の授業実践②空間認識と時差 第12回：地誌の授業実践③アルプス山脈の暮らしを事例とした授業展開例 第13回：地誌の授業実践④小さな国の環境大国 第14回：学期末試験 ※内容の順番を入れ替え場合があるが、			
3. 履修上の注意 授業にきちんと出席し、学ぶ姿勢を示すこと。また毎回授業に関する「リアクションペーパー」の提出を求める。教職を目指す履修者の皆さんに求められるマナーは誠実であること。受講者は教員を目指すからには、揺るごない自らに負けない真剣な姿勢を求めたい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習を大切にすること。とくに地誌は地理的位置関係および付随する情報が講義で扱われる。今日の授業で何を学んだのか、確実に理解すること。そのためにはノートの整理が肝要である。			
5. 教科書 教科書はとくに指定しない。映像資料やプリントを教科書代わりに使用する。ただし地理は地名や位置をその都度確認するためにも、高校時代に地理の授業で使った地図帳を用意しておくこと（高校時代に地理の授業を受けていない者は同等のものを用意しておくこと）。また5回目の講義から国土地理院発行の地形図（国土地理院発行1/25000地形図「赤穂」を各自で購入）を用いた作業も行う。作業の際は12色の色鉛筆（小中高時代に買ったもので十分）を一緒に用意すること。 ※地形図は予め各自で購入しておくこと。初回の授業を受け、履修を確定次第用意することが望ましい。なお各自で国土地理院サイトから最寄りの国土地理院発行地形図の販売書店を探し、時間的ゆとりをもって購入しておくこと。すぐに入手できるとは限らない。買い求めた地形図は折らずに、筒状にして輪ゴムなどで留めて持参するように。			
6. 参考書 地理・地誌に関わる入門書として以下を紹介する。 大野新・竹内裕一編『世界をつなぐ地理総合の授業』 地理教育研究会編『知るほど面白くなる日本地理』日本実業出版社 地理教育研究会編『授業のための世界地理・第5版』古今書院 今尾恵介『地図帳深読み』帝国書院 矢ヶ崎典隆ほか『地誌学概論（第2版）』朝倉書店			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内に指示する簡単な課題（例えば、自身の出身地を中高生の地理の授業で扱う場合のキーワード等）をその後の授業で紹介し、受講している学生諸君同士の参考にすべくフィードバックする。また地形図作業は終了後提出したものを評価し返却する。			
8. 成績評価の方法 毎回出席をとる。3分の1を休んだ者には単位は与えられない。成績評価は学期末試験60%、平常点（提出物および授業への貢献度）40%等を総合的に判断する。			
9. その他			

科目ナンバー：(CC)GEO131J			
人文地理学概論		高橋 珠州 彦	
	春学期	和泉キャンパス	
1. 授業の概要・到達目標			
人文地理学は人間活動の空間的諸相に関わる学問分野である。本授業科目は、人文地理学の見方・考え方を身につけてもらうことを狙いとする。今日、人文地理学の研究対象またはアプローチは多様性に満ちているが、本科目は地図の種類と活用法も学んだ上で、特に景観的視点、空間構造的視点を理解するために、人文地理学の知識体系及び地図やフィールドワーク、地理情報システムなどの地理学研究の基本的方法を講義する。 本授業を通して、受講者は人文地理学を構成する各々の研究分野の歴史や基本概念について、具体例をとって地理学がいかなる学問であるかを理解し、説明できるようになることを到達目標とする。また、人間の生活・活動・行動が展開する空間、場所、環境に対する深い認識と説明力を習得し、地理学の見方で身近な空間を理解できるようになることも求められる。			
2. 授業内容			
第1回	地理学・人文地理学とは何か ～講義概要等について確認・説明～		
第2回	地図の歴史と地理学1 ～世界図の歴史～		
第3回	地図の歴史と地理学2 ～日本の絵図と地図～		
第4回	現代地理学の定義 ～研究分野の分け方～		
第5回	現代地理学の理論1 ～中心概念：空間、場所、環境～		
第6回	現代地理学の理論2 ～「立地」の考え方～		
第7回	現代地理学の課題と人文社会 ～人文地理学の諸分野と研究対象～		
第8回	様々な事象を結びつけて分析する地理学 ～「生活文化」を地理学の視点で考える～		
第9回	地図の基本と応用 ～地図・地図の学習はなぜ必要か～		
第10回	フィールドワークとは ～地域を調査する意義と方法～		
第11回	地理情報システムの基本と利活用 ～空間情報・地理情報とは何か～		
第12回	地理学の視点で地域を考える（事例解説）1 ～東京大都市圏の現状と課題～		
第13回	地理学の視点で地域を考える（事例解説）2 ～近郊農業地域の現状と課題～		
第14回	課題レポートへの取り組み・全体の総括		
3. 履修上の注意			
中学校や高等学校で学んだ「社会科地理的分野」「地理歴史科地理分野」の学習内容を、本科目の予備知識として持っていることが望ましい。高等学校で地理科目を履修していない場合や、中学校・高等学校での学習内容が予備知識として備わっていない場合は、必ず事前に復習しておく必要がある。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
「2.授業内容」記載の内容や、毎回の授業で行う次回授業の予告を参考に、関連する内容について自主的に「6.参考書」掲載の書籍で予習を行う。また、高等学校までの学習内容も復習し、授業内容の理解に努める。授業終了後は、授業内で扱った事例や専門知識について、各自の理解度に応じて参考書等で内容を確認し、理解の定着を図る。			
5. 教科書			
特に定めない。			
6. 参考書			
高等学校で使用した、地理の教科書、地図帳を手元に用意し、必要に応じて参照する。 そのほか、以下の概説書に目を通し、理解を深めるよう努める。 『地理学入門〈改訂版〉』浮田典良、原書房。 『地理学概論（地理学基礎シリーズ1）』上野和彦ほか編、朝倉書店。 『自然地理学概論（地理学基礎シリーズ2）』矢ヶ崎典隆ほか編、朝倉書店。 『地誌学概論（地理学基礎シリーズ3）』高橋日出男ほか編、朝倉書店。 『ジオ・パルNEO—地理学・地域調査便利帖』野間晴雄・香川貴志ほか、海青社。 『人文地理学』竹内克行ほか編、ミネルヴァ書房。 『地理学への招待』中村和郎ほか編、古今書院。 『地域と景観』中村和郎ほか編、古今書院。 『文化地理学入門』高橋伸夫ほか、東洋書林。 『現代都市地理学』北川健次編、古今書院。 『新しい都市地理学』高橋伸夫ほか、東洋書林。 『生活文化の地理学』小口千明ほか編、古今書院。 『まちの地理学 まちの見方・考え方』牛垣雄矢、古今書院。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業終了時にリアクションペーパーを兼ねた小レポートの提出を求める。この小レポートに記載された内容から、受講者の理解度を確認し、質問等を受け付ける。翌週の授業では、小レポートで提示された質問や疑問に対して、全体にフィードバックを行う時間を設定する。質問や疑問などを共有することで、受講者間の学習の共有を図る。各自の学習成果として取り組む最終回の課題レポートについては、必要に応じて質問等に応じるが、全体へのフィードバックは行わない。			
8. 成績評価の方法			
最終の課題レポート：70% 毎回の小レポート：20% 授業への参画（授業内での活動やリアクションペーパー）：10% 最終の課題レポートの記述内容は、本科目の受講を通じた最終的な成果として重視する。			
9. その他			

科目ナンバー：(CC)GEO121J			
自然地理学概論			若 松 伸 彦
2 単位		秋学期	駿河台キャンパス 和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標			
自然地理学はその地域の気候，地形，水文，植生等の自然環境を総合的に捉える学問分野である。地理というと，社会科の一科目であり，事象の暗記科目と思われがちである。しかし自然地理学は，実際には私たちの身のまわりにある自然環境がどのようなものかを理解し，その仕組みや因果関係を学ぶことが非常に大切である。本講義は，自然環境に関する基礎的な知識を身につけ，総合的に自然環境を捉える能力を身につけることが目標である。このような能力を身につけることで，自然災害や地球環境問題に対しての正しい対処が可能にもなる。			
2. 授業内容			
第 1 回 a：自然地理学の見方・考え方（ガイダンス） b：自然地理学の基本			
第 2 回：惑星としての地球			
第 3 回：地震の仕組み			
第 4 回：火山			
第 5 回：岩石と地層			
第 6 回：地形の基本			
第 7 回：平野の地形			
第 8 回：山地の地形			
第 9 回：河川の地形			
第10回：氷河地形、周氷河地形と海岸の地形			
第11回：地球のエネルギー収支と大気大循環			
第12回：世界の気候と植生			
第13回：日本の気候と植生			
第14回 a：講義のまとめ b：試験			
3. 履修上の注意			
積極的な授業の参加を望む。授業内容はいわゆる理系の地学の領域を含むが，文系学生でも理解できる内容である。 自然地理の基本的な知識から最新の環境問題まで、講義では幅広く扱う。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
事前にwebシステムによってプリントを配布するので，必ず印刷をして持参すること。 プリントは図表及び板書を補助するためのプリントであり，復習や授業後の整理を行うことが望ましい。			
5. 教科書			
『新詳高等地図』（帝国書院）2019年 高校時代に地図帳を購入している者は代用しても良い。 他に教科書は定めないが，参考書があると授業の理解が進む。			
6. 参考書			
『みわたす・つなげる自然地理学』 小野映介・吉田圭一郎 編（古今書院）2021年 『自然地理学概論』高橋日出男・小泉武栄編著（朝倉書店）2008年 『上高地の自然誌』上高地自然史研究会編（東海大学出版会）2016年			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける			
8. 成績評価の方法			
講義態度10%，期末試験90％で評価する。			
9. その他			

科目ナンバー：(CC)LAW111J			
法律学概論			市川直子
		秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 《授業の到達目標及びテーマ》 日本で現在効力をもっている法律はかるく1,000を超えますが、それらは一定の秩序にしたがって体系化されています。 この授業では、日本のそうした法体系を検証するとともに、日本の国内法体系と国際法との関係についても理解することを目指します。 《授業の概要》 この授業では、各種法律の基本部分を説明しながら、それと国家の最高法である憲法との関係を確認していきます。ついで、国際関係を維持するための条約や国際慣習法に言及します。			
2. 授業内容 第1回：法とは 第2回：憲法と市民法（1）自然人 第3回：憲法と市民法（2）法人 第4回：憲法と市民法（3）法律行為 第5回：憲法と市民法（4）契約自由の原則 第6回：憲法と賠償法（1）契約不履行の賠償責任 第7回：憲法と賠償法（2）不法行為の賠償責任 第8回：憲法と賠償法（3）国家行為の賠償責任 第9回：憲法と社会法（1）個別的労働関係法 第10回：憲法と社会法（2）集团的労働関係法 第11回：憲法と刑事法（1）刑法総論 第12回：憲法と刑事法（2）刑事訴訟法 第13回：憲法と国際法（1）国際機構論 第14回：憲法と国際法（2）総括／試験 ＊講義内容・順序は必要に応じて変更することがあります。			
3. 履修上の注意 各種法律を日本国憲法と関連づけて説明していきますので、この授業を受ける前に、「日本国憲法」を受講済みであることが望ましいです。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、教科書の該当箇所または配布プリントを読み、次回の授業内容に関する専門用語について辞典等で調べておいて下さい。また、復習として、教科書及び参考書の該当箇所を読むようにして下さい。			
5. 教科書 穂山守夫・市川直子『新現代社会と法』和広出版			
6. 参考書 六法全書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題についてのフィードバックは、授業時もしくはOh-o!Meijiを通じて行います。			
8. 成績評価の方法 レポート（30％）および期末試験（70％）によります。			
9. その他 明治大学の各種施設、特に博物館（刑事部門）、平和教育登戸研究所資料館などを訪ねてみて下さい。			

科目ナンバー：(CC)LAW111J			
法律学概論			尾棹司
		春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、主に法学の初学者を対象に、法学の基本的な事項について講義を行います。 我々が生活する現代社会は、様々な利益を有する様々な人々によって作られる共同体であるため、ときにそれぞれの人の利益が対立し、法的な紛争が生じます。このような法的紛争を解決するためには、「そこで対立している利益とは何か」、「その対立を解消するためにどのような方法があり得るか」を整理し、説得的な解決方法を提示する能力を身につける必要があります。したがって、①法学の基本的な知識の習得に加え、②具体的な事例を与えられた際、習得した知識に基づいて事例を分析し、解決策を論理的に導けるようになること（論理的思考力）、そして、③その解決策を説得的な形で他者に説明できるようになること（法的コミュニケーション能力）を本講義の到達目標として掲げます。 本講義が法学の初学者を対象としていることから、参加者が無理なく法学の議論に入れるようにしたいと考えています。 具体的に、まずは「法とは何か」、「法の仕組み」そして「法学学習の方法」といったトピックから講義をスタートします。その後、憲法、刑法、民法といった、実定法と呼ばれる具体的な法律においてどのような問題が扱われるのか、それぞれの法律の特徴を前提に具体的な事例を検討する形で講義を進め、理解を深めていきます。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション——法とは何か？—— 第2回：国家と法(1)——日本国憲法の基本原理—— 第3回：国家と法(2)——基本的人権について—— 第4回：国家と法(3)——人権規定の「射程」—— 第5回：国家と法(4)——学校にいる人の権利を考える①—— 第6回：国家と法(5)——学校にいる人の権利を考える②—— 第7回：国家と法(6)——憲法13条と教育の自由—— 第8回：犯罪と法(1)——刑法の基本原理—— 第9回：犯罪と法(2)——犯罪認定論の役割—— 第10回：犯罪と法(3)——犯罪の成立を妨げる特殊な事情①—— 第11回：犯罪と法(4)——犯罪の成立を妨げる特殊な事情②—— 第12回：財産関係と法(1)——民法の基本概念—— 第13回：財産関係と法(2)——財産法—— 第14回：財産関係と法(3)——家族法——			
3. 履修上の注意 【講義の進め方】 教員が各回のレジュメを用意し、講義を行います。レジュメは各回の講義前にWeb上にアップする予定です。参加者は、講義中にレジュメを参照できるようにした上で参加して下さい。（予め印刷をして準備する、PCやタブレットにダウンロードするなど、いずれでも構いません。） 各回の講義で取り扱う内容は上記の通りですが、あくまでも予定であり、講義の進行状況や参加者の理解度によって内容を変更する場合があります。変更する場合は、教員が事前にアナウンスします。 講義内容に関する質問は、基本的に講義前又は講義後の時間で対応します。 【注意事項】 参加者が集中して学習できるように、講義中の私語は慎んで下さい。また、水分補給は認めますが、食事は禁止します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習の方法】 各回の講義に参加する前に、教科書の該当箇所を目を通した上で、理解が難しかった箇所についてマーカー等でチェックをして下さい。講義の際は、チェックした箇所について教員の解説を聞いた上で、改めて当該箇所の理解ができたか、確認ができるように準備をしておきましょう。 【復習の方法】 講義で使ったレジュメを参照しながら講義内容の復習を行って下さい。とくに、講義内で取り扱った事例については、①その事例の争点とは何か、②その争点を解決するための考え方はどのようなものがあったかを整理するなどして、よく確認をするようにしてください。 その後、③「その事例について、自分はどのように解決すべきであると考えるか」という課題を設定し、自分の主張とその根拠をまとめておくようにして下さい。			
5. 教科書 『エッセンシャル法学〔第7版〕』大谷實編著（成文堂、2019年）			
6. 参考書 以下の2冊は、法学の初学者に向けたものとして参考になります。 『ブレップ法学を学ぶ前に（第2版）』道垣内弘人（弘文堂、2017年） 『法を学ぶパートナー（第4版）』武藤真朗他（成文堂、2020年） なお、各回の講義内容に関係し、参加者の理解の助けになるとと思われる参考文献等については、各回のレジュメに記載する形で明示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義内で課題等があった場合には、リアクションペーパーを使用して回答してもらいます。その後、全体の講評を講義時間内に行います。 また、講義内容に関する質問については、基本的に、講義開始前、終了後の時間を利用して受け付けます。その他の方法については、講義内でアナウンスします。			
8. 成績評価の方法 期末試験（80％）と中間レポート（20％）で評価します。			
9. その他			

科目ナンバー：(CC)LAW111J			
法律学概論		石 居 圭	
		春学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 本講義ではまず、憲法・民法・刑法を中心として、法の基本的な事項を知ってもらいます。しかし、法学は「条文の丸暗記でよい」というような単純なものではありません。法律の文言は多くの事案に対応できるよう、意味に幅をもたせる形で表現されています。それゆえ、実際の事案では、異なる利害関係や価値観をもった者たちが条文の「解釈」をめぐって争うことになります。そこで、実際の判例をみながら、法律の運用のされ方やその解釈も学びます。 法学を学ぶ意義は、多様な考え方や価値観が対立する社会において、どのように秩序を与えるかを考えられるようになるという点にあり、本講義もそれを到達目標に掲げます。 具体的には、 ・公平なものの考え方（特定の者だけを優遇したり、不当な差別をすることなく、一定の基準に従って公平にものごとを処理する能力） ・論理的思考力（自分の考えを整理し、納得のいく根拠をもって、わかりやすく自身の見解を主張する能力） ・多面的な利益への視点（事件当事者だけでなく、将来の被害者や社会への影響など、様々な利益を考慮した上で自身の見解を形成する能力） といったものを得ることを到達目標とします。			
2. 授業内容 第1回：法とは何か、法の学び方 第2回：憲法の基本原理 第3回：平等権 第4回：精神的自由 第5回：経済的自由 第6回：人身の自由 第7回：社会権 第8回：国会 第9回：内閣 第10回：司法 第11回：財産と法 第12回：家族と法 第13回：犯罪と法（1）——犯罪の「成立」について 第14回：犯罪と法（2）——犯罪の「不成立」について			
3. 履修上の注意 毎回レジュメを配布します。授業には毎回出席し、教科書とレジュメを必ず持参してください。質問は授業中でも授業後でも受け付けます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 法学の学習は、ある程度暗記の形で用語をインプットする必要があります。そこで予習においては、教科書を読みつつ、参考書や六法を用いて、専門用語の意味内容を条文と学説を参照しながら確認しましょう。 そして復習の際には、講義で示された設例を通して、得た知識を文章で表現する練習をしましょう。とくに条文や制度、概念の内容・目的・異同については、入念に復習し、定期試験の論述問題に備えましょう。 ＊まだ教科書内で対応していない法改正や判例など、説明しておくべきことがいくつかあるので、教科書を読むだけでなく、必ず授業に出席してください。 また、中間と期末の出題では、教科書からだけでなく、授業中に説明した事項も範囲として含まれます。やはり、授業に必ず出席してください。			
5. 教科書 大谷實編著『エッセンシャル法学 [第7版]』（成文堂、2019年）			
6. 参考書 本講義では多くの法領域を取り扱うため、ここで一括して参考文献を示すことはできませんが、法学学習において有用なものとしては、 横田明美『カフェパウゼで法学を——対話で見つける〈学び方〉』（弘文堂、2018年） 田高寛貴ほか『リーガル・リサーチ&レポート 第2版』（有斐閣、2019年） 弥永真生『法律学習マニュアル 第4版』（有斐閣、2016年）等があります。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間課題の結果について、希望する方のみフィードバックします。授業内だけでなく、授業外でもメールなどで随時受け付けます。			
8. 成績評価の方法 期末試験50%、中間課題50%			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)PHL111J			
哲学概論		宇田川 尚人	
		春学期 秋学期	駿河台キャンパス 和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 この授業は、資格課程の授業ではあるが、(私の「倫理学概論」の方で扱うテーマの理論的バックグラウンドとなる)現代思想を紹介する授業でもある。 そこで取り上げられるのは、 1) 情報に翻弄され、自己のアイデンティティを見失い、それでも(いや、それだからこそ?)ネット上や他者に自らの評価を求め、必死に「皆」と繋がついている>ことを絶えず確認せざるを得ない人々(心の弱さ)や、 2) そもそも自己のアイデンティティの消失に気づかず、他者向けの「バーチャルな私(=盛った私)」を演じ続けるうちに、無意識レベルで(少しずつ、だが確実に)「他者の欲望」によって侵食され「空洞化」してゆく「私」の在り方と、それと並行して起こる「真の他者」の「喪失」という「交差現象」の解説や、 3) それらの背後にある現代社会の構造的矛盾が、ネット社会を形成する膨大な「欲望」というエネルギーによってさらなる矛盾(=個の「承認欲求」と没個性的な「皆」への「同調圧力」、「同一化」と「排除(または分断)」の論理が跋扈するネット社会等)を生み出し増幅=先鋭化してゆく様相の分析等である。 この授業では、これらの問題を「人格形成」をめぐる「心」の哲学の問題として、「自我論」「他者論」そして「欲望論」という切り口から紹介し解説する予定である。 《到達目標》 目標は、1) 受講者一人一人が、氾濫する情報と多様化する価値観の中で、(単なるトレンドに終わることのない)真の時代の要請や社会のニーズをみずから読み解く能力を獲得すること、2) いかなる状況においても、自己と世界との関係を冷静に分析する論理能力を習得することにある。 ただし半期という時間制約もあるので、実質的な目標は、現代思想の有効射程距離を検証するといく<思考訓練>を通して、各自がそれぞれの具体的な状況の中で「自己」と「社会」との関係を論理的に分析し考察する、いわば思索の<コツ>を身につけることとする。			
2. 授業内容 第1回目 哲学とは何か? --- 現代思想の問題提起 Heideggerの自我論 第2回目 交換可能な私? (私なんて、いてもいなくても世界は変わらない?) 第3回目 私 --- その非本来的自己と本来的自己 --- 第4回目 私の「唯一性」を保障するのは時間性か? Binswangerと精神分析 第5回目 時間性と心の病 第6回目 「自明性」の喪失(当たり前ってどういうこと、なぜ当たり前なの?) Levinasの他者論 第7回目 「同」の暴力(皆と同じ、皆に合わせなくちゃ! って、息ができない!) 第8回目 感情移入と同型性に基づく他者理解の限界 第9回目 自-他者の「非対称性」と真の他者への責任 Lacanの欲望論 第10回目 欲望とは他者の欲望である?(私はみんなが欲しいものが欲しい!) 第11回目 言葉は「もの」の殺害者である。「もの」の喪失と欲望における「対象a」の発生 心の在処を求めて…(すべては脳から始まるが、心は脳に還元できない?) 第12回目 無意識の欲望、欲望の「プロトタイプ」と文化(まだ足りない、もっと、もっと、もっと!) 第13回目 まとも 世界は欲望で動いている。でも誰の欲望?—「他者の欲望」と「私」と「世界」			
3. 履修上の注意 毎回出席し、集中して聴いていないとついてゆけなくなる可能性があるため、その旨注意すること。 その他の注意点は初回に述べる。			
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 配付資料はざっと読んだだけではわからないかもしれない。それでも必ず目を通し、 1) 自分の理解が正しいか自信のない箇所や、 2) 理解できていないと思われる箇所をあらかじめチェックしておくこと。 また、 3) 配付資料には書かれていないが授業内で理解の為に「重要」と説明された「概念」や「キーワード」は必ずメモを取り、 4) それらの「論理関係」を手掛かりとして、もう一度配布資料を復習の際に読み込むこと。			
5. 教科書 プリントを必要に応じて配布またはWeb (Oh-o! Meiji) 上にUPする。			
6. 参考書 千葉雅也 著「現代思想入門」講談社現代新書 竹田青嗣 著「ハイデガー入門」講談社選書メチエ 熊野純彦 著「レヴィナス入門」ちくま新書 片岡一竹 著「疾風怒濤 精神分析入門」誠信書房 斎藤環 著「生き延びるためのラカン」ちくま文庫 新宮一成 著「ラカンの精神分析」講談社現代新書 等 その他の参考文献は授業の中で紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対するフィードバック(質問への回答、間違いの指摘、優秀な考察例の紹介等)は、原則として翌週の授業内で行う。			
8. 成績評価の方法 この授業は、資格課程の授業ではあるが、(上述のごとく、私の「倫理学概論」の方で扱うテーマの理論的バックグラウンドとなる。)現代思想を主に紹介する授業でもある為、受講者が比較的少数であることが予想される。 このため、成績評価の方法は、学生との話し合いによって決めることにしているが、例年平常点のみでの成績評価となる可能性が高い。 但し、人数が多い場合は、(Oh-Meiji上での)課題提出(40%)と学期末レポート(60%)で成績を評価する。 詳細は初回の授業で報告する。			
9. その他 特になし。			

科目ナンバー：(BA)PHL121J			
倫理学概論		宇田川 尚人	
		春学期 秋学期	和泉キャンパス 駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 主に倫理学＋心理学＋哲学の立場から、 1) 授業では、まず学校及び社会一般で、いじめ乃至ハラスメントが生じるに至る心理的背景を考察し、併せてそれらがもたらす「人格形成」への影響を解説する。 その際特に注目するのは、「いじめ」と「排除の論理」の関係である。 2) 次に「情報化社会が突きつける諸問題」として、「同調圧力」や「承認欲求」の症例分析を通して、「同型性に基づく他者理解の本質とその限界」を明らかにする。ここでは、今の若者達が「いいね」(評価)を必死で求めて、本当の自己を失ってゆく姿が目撃されるだろう。 その際の中心テーマは、ネットの中で増殖する「バーチャルな私」と欲望によって「侵食される自己及び他者の心」である。 3) そして最後は「新たな教育論の現場から」と題して、従来型の倫理観が機能しなくなっている現状を示し、SNS時代における新しい「倫理」の役割と教育の在り方を、一つの試論として紹介する。 ここでの中心考察テーマは、理解像の外に位置する<他者そのもの>と私の<内部性＝心>と「ネット社会におけるCritical thinkingの崩壊とCritical emotion」及び「生成AIと倫理」である。 《到達目標》 この授業で学習した倫理的視点に基づき、今日の社会で起こっている様々な問題のいずれに対しても、自分なりの見解を持てるようになること。また授業での思考訓練を通して、具体的な状況の中で「自己」と「社会」との関係を倫理的に分析し考察する能力を身につけること。			
2. 授業内容 1) 問題提起 --- <道徳>はあるが<倫理>のない日本？ 倫理的<対話>の12原則 2) エゴイズムの変形としての「やさしさ」vs 真のやさしさ？ 3) 社会に蔓延する「思いやり」という名の「思考停止」システムについて 4) 「いじめ」と排除の論理 5) 自分は関係ない・中立だと思っている「傍観者」に潜む「悪」について 6) 情報化社会が突きつける諸問題 7) 同型性に基づく他者理解とその限界—あるいは「同調圧力」と「承認欲求」 8) 「いいね」(評価)を必死で求めて、本当の自己を失ってゆく人々 9) ネットの中で、SNSで、増殖する「バーチャルな私」と欲望によって「侵食される自己」 10) 新たな教育論の現場から 11) 理解像の外に位置する「他者そのもの」と私の「内部性＝心」 12) ネット社会におけるCritical thinkingの崩壊とCritical emotion 13) 同情とSympathyとMitleid(共苦)の差異 14) SNS時代における新しい「倫理」の役割と教育 — または生成AIと倫理 —			
3. 履修上の注意 毎回出席し、集中して聴いていないとついてゆけなくなる可能性があるのも、その旨注意すること。 その他の注意点は初回に述べる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 配付資料はざっと読んだだけではわからないかもしれない。それでも必ず目を通し、 1) 自分の理解が正しいか自信のない箇所や、 2) 理解できていないと思われる箇所をあらかじめチェックしておくこと。 また、 3) 配付資料には書かれていないが授業内で理解の為に「重要」と説明された「概念」や「キーワード」は必ずメモを取り、 4) それらの「論理関係」を手掛かりとして、もう一度配布資料を復習の際に読み込むこと。			
5. 教科書 プリントを必要に応じて、配布またはWeb (Oh-o! Meiji) 上にUPする。			
6. 参考書 PHP新書 中島義道「対話のない社会」 勁草書房 中島義道「悪への自由—カント倫理学の深層文法」 勁草書房 佐藤義之「レヴィナスの倫理」等 その他の参考文献は授業の中で紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対するフィードバック（質問への回答、間違いの指摘、優秀な考察例の紹介等）は、原則として翌週の授業内で行う。学期末レポートの返却は希望者に対してのみ行う。			
8. 成績評価の方法 毎回の課題（Oh-Meiji上に提出）（40％）と学期末のレポート（60％）で成績を評価する。 また最低三分の二以上の出席と課題の提出を学期末レポート提出の最低条件とする。 但し、駿河台校舎での授業は少人数を前提としている為、学生との話し合いによって平常点のみで評価する可能性がある。 詳細は初回の授業で報告する。			
9. その他 特になし			

科目ナンバー：(BA)PHL121J			
日本国憲法		金子幹夫	
		秋学期	生田キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 教職を目指すものとして、日本国憲法を歴史的及び社会的にとらえることで、より一層深く理解する。 《授業の到達目標およびテーマ》 ・日本国憲法の条文を適切に解釈し、他者に説明する力及び論じる力を身につける。 ・日本国憲法を軸に教育法規との関係を理解する。			
2. 授業内容 第1回：憲法をめぐる歴史 ～なぜ憲法を学ぶのか？～ 第2回：憲法規範の特質は何か？ 第3回：国民主権と参政権 第4回：基本的人権 ～自由に生きる権利と法・規範～ 第5回：基本的人権 ～平等に生きる権利と法・規範～ 第6回：基本的人権 ～自由を支える社会権～ 第7回：基本的人権の限界 第8回：国民の義務 第9回：平和主義 第10回：国会と内閣 第11回：裁判所 第12回：地方自治 第13回：教育と立法・行政・司法 第14回：まとめと省察			
3. 履修上の注意 新聞やニュースで憲法に関連する情報を注意深く入手してください。 どうして？なぜ？という問いを持ち、自分で調べてみようという心をもつように努力してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に提示された課題について調べてください。 授業中に配付した資料を再読し、講義内容の定着に努めてください。			
5. 教科書 日本国憲法全文が記載されているものを用意してください。 例）六法、高等学校で使用した教科書・資料集等 適宜プリント等を配付します。			
6. 参考書 西原博史・斉藤一久『教職課程のための憲法入門』弘文堂 2016年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に示した課題について次の授業で解説します。			
8. 成績評価の方法 毎回の授業で示すミニレポート・課題（60％） 小テスト（40％）			
9. その他			

科目ナンバー：(BA)PHL121J			
日本国憲法		市川直子	
		春学期	中野キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 《授業の到達目標及びテーマ》 国家の最高法である憲法は、個人の権利の保障を究極的目標としています。 この授業では、日本国憲法が担っている権利保障の意味を明らかにするとともに、教育にまつわる人権の理解を深めることを目指します。 《授業の概要》 この授業では、まず近代憲法とは何かに触れ、日本国憲法が近代憲法の諸原理を土台にしていることを確認します。その上で、各種人権の保障のあり方を検討していきます。			
2. 授業内容 第1回：立憲主義 第2回：国民主権 第3回：平和主義 第4回：個人の尊重 第5回：法の下での平等 第6回：人身の自由・手続き的保障 第7回：思想良心の自由 第8回：信教の自由 第9回：表現の自由 第10回：経済的自由 第11回：学問の自由・教育を受ける権利 第12回：社会権 第13回：統治機構 第14回：総括／試験 ＊講義内容・順序は必要に応じて変更することがあります。			
3. 履修上の注意 ただ授業に出席するのみではなく、積極的に憲法関係の講演会や展示会等に行ってみてください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、教科書の該当箇所または配布プリントを読み、今回の授業内容に関する専門用語について辞典等で調べておいて下さい。また、復習として、教科書及び参考書の該当箇所を読むようにして下さい。			
5. 教科書 亀山守夫・市川直子『新現代社会と法』和広出版			
6. 参考書 柏崎敏義・加藤一彦編『新憲法判例特選』敬文堂 六法全書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題についてのフィードバックは、授業時もしくはOh-o!Meijiを通じて行います。			
8. 成績評価の方法 レポート（30％）および期末試験（70％）によります。			
9. その他 私語は慎んで下さい。			

科目ナンバー：(BA)PHL121J			
日本国憲法		小出 幸 祐	
		春学期	和泉キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 日本国憲法の基本原理と構造を概説する。社会で話題になっているテーマについて憲法の観点から取り上げることで、社会制度を形作っている憲法への関心を高めて、その理解を深めることを目指す。 到達目標 履修者が憲法の基礎知識を身につけて、社会や日常生活における様々なケースで、憲法の視点から主体的に考える能力を養うことを目標にする			
2. 授業内容 [第1回] 地方自治 [第2回] 国会 [第3回] 内閣 [第4回] 国会議員と参政権 [第5回] 違憲審査と法の下の平等 [第6回] 思想良心の自由 [第7回] 信教の自由と政教分離 [第8回] 表現の自由 [第9回] 経済的自由権 [第10回] 生存権 [第11回] 教育を受ける権利 [第12回] 労働基本権 [第13回] 人権享有主体性と幸福追求権 [第14回] まとめ			
3. 履修上の注意 Oh-o! Meiji で授業資料を配信する（授業前日までに配信する）。授業内容は、履修者の関心や授業の進行に応じて変更する可能性がある。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回の準備学習時間は、60分程度を想定しています。各回で扱うテーマについて、授業資料に予め目を通しておくことをお勧めします。			
5. 教科書 第1希望として、『憲法五重奏』、大津浩＝大藤紀子＝高佐智美＝長谷川憲＝江藤英樹、2025、価格不明。 もし上記の本が、2025年2月末時点で出版されていなければ、以下の書籍を使います。 『新憲法四重奏〔第2版〕』、大津浩＝大藤紀子＝高佐智美＝長谷川憲、（有信堂）、2017、税抜3000円。			
6. 参考書 ①『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第7版）』、長谷部恭男＝石川健治＝穴戸常寿 編著、（有斐閣）、2019、定価2530円。 ②『図録 日本国憲法（第2版）』、斎藤一久＝堀口悟郎 編集、（弘文堂）、2021、定価2530円。 ③『リーガル・リサーチ&レポート（第2版）』、田高寛貴、＝秋山靖浩、＝原田昌和、（有斐閣）、2019、定価1870円。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にフィードバックを行います。			
8. 成績評価の方法 成績評価は、以下のA.とB.の合計点で評価をします。 A. 知識確認問題（20%） B. レポート（80%） A.知識確認問題は、Oh-meijiシステムを用いて、多肢択一式問題（正しい記述を選択肢の中から選ぶ問題）によって行います。なお、授業第1回から第3回までは知識確認問題の試験を行いません。 B.レポート成績の評価要素として、以下の2つの面を考慮して判定を行います。 1.形式面 ・体裁が整っているか ・誤字脱字がないか 2.実質面 ・法的知識の正確性 ・論旨または論理的思考の一貫性			
9. その他			

※担当者変更につき、詳細はOh-o!Meijiクラスウェブにて確認してください。

科目ナンバー：(CC)CST111J			
職業指導		阿 部 英 之 助	
		秋学期	駿河台キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、現代社会における職業教育の意義と課題を学ぶとともに職業教育の現状について理解を深めます。 具体的には、①青年期における進路選択問題、②高等学校における職業指導および職業教育の実践、③職業指導および職業選択の課題、以上の3点を通じて、青年期における職業教育を理解します。 この講義の到達目標は、①現代社会における職業の役割と労働構造の変化について把握する。②学校教育における職業教育の意義と歴史について理解する。③青年期における職業指導および職業選択について理解し、進路指導の方法を修得することです。具体的な事例を通じて現代社会および学校教育の現状と、様々な視点から職業指導および職業教育の在り様を理解していきます。また同時に、受講生のキャリア意識やキャリアガイダンスも併せながら授業を展開していきます。			
2. 授業内容 第1回：a：イントロダクション（講義のねらい、職業指導の意義） b：現代社会における職業（1）～現代社会の現状とその理解～ 第2回：現代社会における職業（2）～働くことの意義を考える～ 第3回：現代社会における職業（3）～労働構造問題と格差社会～ 第4回：現代社会における職業（4）～労働基準法と労働環境問題～ 第5回：青年期の進路と進路指導（1）～高校生の進路動向と進路保障～ 第6回：青年期の進路と進路指導（2）～高校生の就職状況と就職問題～ 第7回：高等学校における職業指導（1）～普通教育と専門教育～ 第8回：高等学校における職業指導（2）～商業高校の現状と高度専門化の対応～ 第9回：高等学校における職業指導（3）～高等教育における職業教育～ 第10回：高等学校における職業指導（4）～商業教育の課題と職業指導の実践～ 第11回：新たな職業指導の問題と課題～障がい者雇用の現状と実際～ 第12回：諸外国の職業指導の実態（1）～諸外国の職業教育の現状～ 第13回：諸外国の職業指導の実態（2）～ドイツ・イギリスの事例から～ 第14回：a：講義全体ふりかえり b：試験			
3. 履修上の注意 この講義は、基本的には教員免許取得（高校商業免許等）を目指している学生及び教職志望向きの資格科目である。それ以外でも、授業内容に興味・関心があれば、履修は妨げません。 最初に新聞・雑誌や調査データなどの具体的な事例の紹介を通して、現代社会における職業世界の姿を知り、その背景にある理論的位置づけなどを学んでいきます。また、授業毎に簡単な「コメント」や「ワークシート」を通して、自分の見解・意見をまとめる作業を行い、授業内容の定着を図りたいと思います。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に次の講義に使用する資料または内容によってはワークシートを配布しますので、事前に読み込んでおくか、関連事項のキーワード検索を行い、講義内容の理解を深めてください（必要時間としては30～1時間程度）。また、授業回数が半分を過ぎたら、中間まとめと中間チェック・テストを行いますので、配布した講義資料及びノートはしっかり復習しておいてください。			
5. 教科書 教科書は使用しませんが、教員が作成した講義資料を使用します。			
6. 参考書 『新時代のキャリア教育と職業指導』佐藤史人編（法律文化社）2018年 『職業教育・産業教育ハンドブック』日本産業教育学会編（大学教育出版）2013年 『日本と世界の職業教育』堀内達夫編（法律文化社）2013年 『キャリア教育のウソ』児美川孝一郎（筑摩書房）2013年 『夢があふれる社会に希望はあるのか』児美川孝一郎（ベストセラーズ）2016年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間まとめと中間チェック・テストの解説については、Oh -o! Meijiを通じて配信するため、確認すること。			
8. 成績評価の方法 成績評価は、平常点（授業への参加度・貢献度、発言など）15％、授業小レポート課題15％、学期末試験70％の合計100％によって総合的に評価をします。また、皆さんの積極的な関わりを期待しますが、授業に直接関係のない私語は厳禁とします。場合によっては、退席と評価対象外として処理させていただきます。			
9. その他			

14 カリキュラムの変更について

カリキュラムの変更について

入学年度によって、設置科目や科目名称が異なる場合があります。記載には十分注意してください。

1 読替・名称変更

科目区分	2017年度以前入学者対象科目名	2018年度以降入学者対象科目名	備 考
会計学科専門科目	会計監査論 A・B	監査論 A・B	
会計学科専門科目	予算管理論 A・B	マネジメント・コントロール A・B	

科目区分	2018年度以前入学者対象科目名	2019年度以降入学者対象科目名	備 考
各学科基礎専門科目	Introduction to Management A・B	Fundamentals of Management A・B	
全学共通総合講座	学部間共通総合講座 A・B・C・D	全学共通総合講座 A・B・C・D	

科目区分	2019年度以前入学者対象科目名	2020年度以降入学者対象科目名	備 考
会計学科専門科目	Financial Accounting A・B (GSBA)	Advanced Financial Accounting A・B (GSBA)	

科目区分	2021年度以前入学者対象科目名	2022年度以降入学者対象科目名	備 考
教養科目	心理学 A・B	心理学	※1
各学科基礎専門科目	経営心理学 A・B	経営心理学	※1

※1 2021年度以前入学者においては、A・Bの両方を修得済の場合は「心理学」「経営心理学」の履修不可。

2 2025年度新規設置・廃止科目

科目区分	科目名	備 考
教養科目	Social Thought	新規設置
教養科目	Religious Thought	新規設置
実習関連科目	キャリア形成入門	科目廃止
基礎専門科目	日本文化論	科目廃止
経営学科専門科目	イノベーション・システム A・B	新規設置
経営学科専門科目	スタートアップ企業論 A・B	新規設置
経営学科専門科目	The Future of E Business A (GSBA)	新規設置
公共経営学科専門科目	コミュニティ・ビジネス事情	科目廃止

3 学科間共同設置科目

(1) 経営学科・会計学科

科目名	科目区分
経営戦略論 A・B 国際経営論 A・B International Management A・B 財務管理論 現代コーポレートファイナンス論 Strategic Analysis of Japanese Companies A・B 比較経営論 (アメリカ) A・B	経営学科専門科目または会計学科専門科目

(2) 経営学科・公共経営学科

科目名	科目区分
中小企業論 ベンチャービジネス論	経営学科専門科目または公共経営学科専門科目

(3) 会計学科・公共経営学科

科目名	科目区分
公会計論 NPO会計論	会計学科専門科目または公共経営学科専門科目

15 カリキュラムマップ

【経営学部ディプロマ・ポリシー】											
共通DP (1) 高い倫理観とリーダーシップ											
共通DP (2) 歴史的・地理的・文化的背景や多様な人間の特性を理解して協働する能力											
共通DP (3) 英語・会計・ICTスキル											
共通DP (4) 経営に関する理論・知識を理解し，実践する能力											
共通DP (5) 多様な環境において課題を発見し，解決する能力											
経営DP (6) 経営に関わる諸理論の理解を踏まえ，経営主体・経営資源・経営環境に関する具体的知識・データに基づいて経営課題を発見・分析する能力											
経営DP (7) 経営主体・経営資源・経営環境に関してその多様性と普遍的構造を，歴史・地理・文化など多様な視点から理解し，企業の社会的使命の達成と経営課題の解決に向けて主体的・組織的に構想・実践する能力											
会計DP (6) 会計の専門用語とデータを適正に用いて，組織体とその事業活動にかかわる人々との円滑なコミュニケーションを図る能力											
会計DP (7) 組織体の状況や活動を会計データにもとづいて可視化し，その社会的価値の創造や評価を主導する能力											
公共経営DP (6) ローカルからグローバルにわたる社会課題を調査・分析し，営利・非営利，官民を含めた多様な主体の協働による解決策を提示する能力											
公共経営DP (7) 社会課題の解決に有効な公共サービスのマネジメントを理解する能力											

経営学部（○印は必修科目とする。）

経営学科・会計学科・公共経営学科共通

授業科目	単位数	共通DP （1）	共通DP （2）	共通DP （3）	共通DP （4）	共通DP （5）	経営DP （6）	経営DP （7）	会計DP （6）	会計DP （7）	公共DP （6）	公共DP （7）
学部必修科目												
○経営総論	2				○		○	○	○	○	○	○
○経営学	2						◎	◎				
○会计学	2	○		◎	◎	○			◎	◎		
○公共経営学	2										◎	○
○近代経済学A	2	○	◎									
○近代経済学B	2	○	◎									
教養科目												
言語思想A	2	○	◎			○						
言語思想B	2	○	◎			○						
社会思想	2	○	◎			○						
Social Thought	2	○	◎			○						
倫理思想A	2	○	◎			○						
倫理思想B	2	○	◎			○						
宗教思想	2	○	◎			○						
Religious Thought	2	○	◎			○						
哲学基礎論	2	○	◎			○						
哲学	2	○	◎			○						
数学A	2	○	◎			○						
数学B	2	○	◎			○						
統計学A	2	○	◎		○	○						
統計学B	2	○	◎		○	○						
生物学A	2	○	◎			○						
生物学B	2	○	◎			○						
物理学A	2	○	◎			○						
物理学B	2	○	◎			○						
化学A	2	○	◎			○						
化学B	2	○	◎			○						
自然科学思想史A	2	○	◎			○						
自然科学思想史B	2	○	◎			○						
自然人類学	2	○	◎			○						
文化人類学	2	○	◎			○						
生理学A	2	○	◎			○						
生理学B	2	○	◎			○						
健康科学A	2	○	◎			○						
健康科学B	2	○	◎			○						
スポーツ・レジャー・レクリエーション論	2	○	◎			○						
現代社会とスポーツ	2	○	◎			○						
トレーニングの科学	2	○	◎			○						
レポート・論文作成法	2	○	◎			○						
言語表現論	2	○	◎			○						
手話コミュニケーション（初級）Ⅰ	1	○	◎			○						
手話コミュニケーション（初級）Ⅱ	1	○	◎			○						
手話コミュニケーション（中級）Ⅰ	1	○	◎			○						
手話コミュニケーション（中級）Ⅱ	1	○	◎			○						
外国文学（英米）	2	○	◎			○						

授業科目	単位数	共通DP (1)	共通DP (2)	共通DP (3)	共通DP (4)	共通DP (5)	経営DP (6)	経営DP (7)	会計DP (6)	会計DP (7)	公共DP (6)	公共DP (7)
外国文学（ドイツ）	2	○	◎			○						
外国文学（フランス）	2	○	◎			○						
外国文学（中国）	2	○	◎			○						
日本語論A	2	○	◎			○						
日本語論B	2	○	◎			○						
日本文学A	2	○	◎			○						
日本文学B	2	○	◎			○						
日本文学（現代）	2	○	◎			○						
西洋史（総論）	2	○	◎			○						
西洋史（各論）	2	○	◎			○						
法学A	2	○	◎			○						
法学B	2	○	◎			○						
地理学A	2	○	◎			○						
地理学B	2	○	◎			○						
政治学A	2	○	◎			○						
政治学B	2	○	◎			○						
社会学A	2	○	◎			○						
社会学B	2	○	◎			○						
Global Issues A	2	○	○	◎		○						
Global Issues B	2	○	○	◎		○						
Global Issues C	2	○	○	◎		○						
Global Issues D	2	○	○	◎		○						
心理学	2	○	◎			○						
教養演習A	2	○	○			◎						
教養演習B	2	○	○			◎						
外国語教養演習A	2	○	○	◎		◎						
外国語教養演習B	2	○	○	◎		◎						
外国語教養演習C	2	○	○	◎		◎						
外国語教養演習D	2	○	○	◎		◎						
Liberal Arts Seminar in Foreign Languages A	2	○	○	◎		◎						
Liberal Arts Seminar in Foreign Languages B	2	○	○	◎		◎						
Liberal Arts Seminar in Foreign Languages C	2	○	○	◎		◎						
Liberal Arts Seminar in Foreign Languages D	2	○	○	◎		◎						
日本事情	2	○	◎			○						
経営総合講義A	2		○		○	◎						
経営総合講義B	2		○		○	◎						
Overseas Exchange Subjects (Liberal Arts Subject)	1	○	○	◎		○						
外国語科目												
○英語（初級）A	1	○	○	◎		○						
○英語（初級）B	1	○	○	◎		○						
英語（中級）A	1	○	○	◎		○						
英語（中級）B	1	○	○	◎		○						
○ドイツ語（初級）I	1	○	◎			○						
○ドイツ語（初級）II	1	○	◎			○						
○ドイツ語（中級）A	1	○	◎			○						
○ドイツ語（中級）B	1	○	◎			○						
○フランス語（初級）I	1	○	◎			○						
○フランス語（初級）II	1	○	◎			○						
○フランス語（中級）A	1	○	◎			○						
○フランス語（中級）B	1	○	◎			○						
○中国語（初級）I	1	○	◎			○						
○中国語（初級）II	1	○	◎			○						
○中国語（中級）A	1	○	◎			○						
○中国語（中級）B	1	○	◎			○						
○ロシア語（初級）I	1	○	◎			○						
○ロシア語（初級）II	1	○	◎			○						
○ロシア語（中級）A	1	○	◎			○						
○ロシア語（中級）B	1	○	◎			○						
○韓国語（初級）I	1	○	◎			○						
○韓国語（初級）II	1	○	◎			○						
○韓国語（中級）A	1	○	◎			○						
○韓国語（中級）B	1	○	◎			○						
○日本語（作文・読解）I	1	○	◎			○						
○日本語（作文・読解）II	1	○	◎			○						
○日本語（速読・精読）A	1	○	◎			○						
○日本語（速読・精読）B	1	○	◎			○						
TOEFL Reading	1	○	○	◎		○						

授業科目	単位数	共通DP (1)	共通DP (2)	共通DP (3)	共通DP (4)	共通DP (5)	経営DP (6)	経営DP (7)	会計DP (6)	会計DP (7)	公共DP (6)	公共DP (7)
TOEFL Listening	1	○	○	◎		○						
TOEFL Speaking	1	○	○	◎		○						
TOEFL Writing	1	○	○	◎		○						
TOEFL Preparation A	1	○	○	◎		○						
TOEFL Preparation B	1	○	○	◎		○						
English Exams A	1	○	○	◎		○						
English Exams B	1	○	○	◎		○						
Genres of Writing	1	○	○	◎		○						
Speech and Debate	1	○	○	◎		○						
英語スペシャルスタディ A	1	○	○	◎		○						
英語スペシャルスタディ B	1	○	○	◎		○						
英語表現論	1	○	○	◎		○						
英語コミュニケーション初級A	1	○	○	◎		○						
英語コミュニケーション初級B	1	○	○	◎		○						
英語コミュニケーション中級A	1	○	○	◎		○						
英語コミュニケーション中級B	1	○	○	◎		○						
英語コミュニケーション上級A	1	○	○	◎		○						
英語コミュニケーション上級B	1	○	○	◎		○						
ドイツ語コミュニケーション初級A	1	○	◎			○						
ドイツ語コミュニケーション初級B	1	○	◎			○						
ドイツ語コミュニケーション中級A	1	○	◎			○						
ドイツ語コミュニケーション中級B	1	○	◎			○						
ドイツ語コミュニケーション上級A	1	○	◎			○						
ドイツ語コミュニケーション上級B	1	○	◎			○						
フランス語コミュニケーション初級A	1	○	◎			○						
フランス語コミュニケーション初級B	1	○	◎			○						
フランス語コミュニケーション中級A	1	○	◎			○						
フランス語コミュニケーション中級B	1	○	◎			○						
フランス語コミュニケーション上級A	1	○	◎			○						
フランス語コミュニケーション上級B	1	○	◎			○						
中国語コミュニケーション初級A	1	○	◎			○						
中国語コミュニケーション初級B	1	○	◎			○						
中国語コミュニケーション中級A	1	○	◎			○						
中国語コミュニケーション中級B	1	○	◎			○						
中国語コミュニケーション上級A	1	○	◎			○						
中国語コミュニケーション上級B	1	○	◎			○						
International Business Program（語学研修）A	1	○	○	◎		○						
International Business Program（語学研修）B	1	○	○	◎		○						
認定科目（外国語科目）	1	○	○	◎		○						
Overseas Exchange Subjects (Foreign Languages Subjects)	1	○	○	◎		○						
体育実技科目												
○体育実技A	1	◎	○			○						
○体育実技B	1	◎	○			○						
選択体育実技A	1	◎	○			○						
選択体育実技B	1	◎	○			○						
学外選択体育実技A	1	◎	○			○						
学外選択体育実技B	1	◎	○			○						
実習関連科目												
International Business Program(実習)A	2	○	○	◎		○						
International Business Program(実習)B	2	○	○	◎		○						
グローバル・サービスラーニングA	2	○	○			◎						
グローバル・サービスラーニングB	2	○	○			◎						
リサーチ・リテラシーA	2			◎	○							
リサーチ・リテラシーB	2			◎	○							
フィールドスタディA	2	○	○			◎						
フィールドスタディB	2	○	○			◎						
フィールドスタディC	2	○	○			◎						
フィールドスタディD	2	○	○			◎						
DIGIT 入門演習Ⅰ	2			◎	○	○						
DIGIT 入門演習Ⅱ	2			◎	○	○						
DIGIT 実践演習	2			◎	○	○						
演習科目												
演習Ⅰ	2	○	○			◎	○	○	○	○	○	○
演習ⅡA	2	○	○			◎	○	○	○	○	○	○
演習ⅡB	2	○	○			◎	○	○	○	○	○	○
演習ⅢA	2	○	○			◎	○	○	○	○	○	○
演習ⅢB	2	○	○			◎	○	○	○	○	○	○

授業科目		単位数	共通DP (1)	共通DP (2)	共通DP (3)	共通DP (4)	共通DP (5)	経営DP (6)	経営DP (7)	会計DP (6)	会計DP (7)	公共DP (6)	公共DP (7)
経営学科													
基礎専門科目													
簿記論Ⅰ	2			◎	○								
簿記論Ⅱ	2			◎	○								
簿記技能	1			◎	○								
Business Presentation A	2	○		◎		○	○						
Business Presentation B	2	○		◎		○	○						
ビジネス英語A	2	○		◎		○	○						
ビジネス英語B	2	○		◎		○	○						
Business English A	2	○		◎		○	○						
Business English B	2	○		◎		○	○						
Fundamentals of Management A	2			○	◎								
Fundamentals of Management B	2			○	◎								
Fundamentals of Management C	2			○	◎								
Fundamentals of Management D	2			○	◎								
Transcultural Business Communication A	2		○	○		◎	○						
Transcultural Business Communication B	2		○	○		◎	○						
Strategic Business Communication A	2	○		◎		◎	○						
Strategic Business Communication B	2		○	◎		◎	○						
経済原論A	2	○	○				◎	○					
経済原論B	2	○	○				◎	○					
ビジネス・エコノミックスA	2	○	○				◎	○					
ビジネス・エコノミックスB	2	○	○				◎	○					
Japanese Economy	2	○	○				◎	○					
経済史A	2		○			○	○	◎					
経済史B	2		○			○	○	◎					
日本経済史A	2		○			○	○	◎					
日本経済史B	2		○			○	○	◎					
経営史A	2		○			○	○	◎					
経営史B	2		○			○	○	◎					
経営統計学A	2			○	○	○	◎	○					
経営統計学B	2			○	○	○	◎	○					
経営基礎数学A	2				○	○	◎	○					
経営基礎数学B	2				○	○	◎	○					
社会調査法	2				○	○	◎	○					
経営社会学	2	○	○				○	◎					
経営心理学	2	○	○			◎	○						
産業生理学A	2	○	○			◎	○						
産業生理学B	2	○	○			◎	○						
経営と環境A	2	○				◎	◎	○					
経営と環境B	2	○				◎	◎	○					
経済地理学A	2		○			○	○	◎					
経済地理学B	2		○			○	○	◎					
マーケティング基礎論	2				○	○	◎	○					
企業の社会的責任論	2	○			◎								
Corporate Social Responsibility	2	○		○	◎								
情報化社会論A	2		○			○	◎	○					
情報化社会論B	2		○			○	◎	○					
ネット・ビジネス論A	2			○	○	○	◎						
ネット・ビジネス論B	2			○	○	○	◎						
Internet Business A	2			○	○	○	◎						
Internet Business B	2			○	○	○	◎						
コンテンツ・ビジネス論A	2			○	○	○	◎						
コンテンツ・ビジネス論B	2			○	○	○	◎						
Contents Business A	2			○	○	○	◎						
Contents Business B	2			○	○	○	◎						
戦略経営情報システム論	2			○	○	○	◎						
ビジネス法	2	◎	○			○							
会社法A	2	◎	○			○							
会社法B	2	◎	○			○							
手形法・小切手法	2	◎	○			○							
財産法	2	◎	○			○							
税法	2	◎	○			○							
労働法	2	○	◎			○		○					
イギリス文化論	2	○	◎			○							
アメリカ文化論	2	○	◎			○							

授業科目		単位数	共通DP (1)	共通DP (2)	共通DP (3)	共通DP (4)	共通DP (5)	経営DP (6)	経営DP (7)	会計DP (6)	会計DP (7)	公共DP (6)	公共DP (7)
American Culture	2		○	◎	◎		○						
ドイツ文化論	2		○	◎			○						
中国文化論	2		○	◎			○						
東南アジア文化論	2		○	◎			○						
東欧文化論	2		○	◎			○						
フランス文化論	2		○	◎			○						
海外経営事情A	2			○			○	○	◎				
海外経営事情B	2			○			○	○	◎				
海外経営事情C	2			○			○	○	◎				
海外経営事情D	2			○			○	○	◎				
経営文献研究A	2			○	○	◎			○				
経営文献研究B	2			○	○	◎			○				
基礎専門演習A	2					○	◎						
基礎専門演習B	2					○	◎						
基礎専門演習C	2					○	◎						
基礎専門演習D	2					○	◎						
Core Subjects Seminar A	2					○	◎						
Core Subjects Seminar B	2					○	◎						
Core Subjects Seminar C	2					○	◎						
Core Subjects Seminar D	2					○	◎						
基礎専門特別講義A	2					○	◎						
基礎専門特別講義B	2					○	◎						
基礎専門特別講義C	2					○	◎						
基礎専門特別講義D	2					○	◎						
Core Subjects Specialized Lectures A	2					○	◎						
Core Subjects Specialized Lectures B	2					○	◎						
Core Subjects Specialized Lectures C	2					○	◎						
Core Subjects Specialized Lectures D	2					○	◎						
Overseas Exchange Subjects (Business Administration Core Subjects)	1							◎	◎				
学科専門科目													
企業論A	2					◎	○	○	○				
企業論B	2					◎	○	○	○				
経営管理論A	2					◎	○	○	○				
経営管理論B	2					◎	○	○	○				
経営哲学A	2		◎	◎			○		○				
経営哲学B	2		◎	◎			○		○				
経営戦略論A	2					○	○	◎	○				
経営戦略論B	2					○	○	◎	○				
Innovation Strategy in Japan A	2			○	○		○	◎					
Innovation Strategy in Japan B	2			○	○		○	◎					
イノベーション・マネジメントA	2					○	○	◎	○				
イノベーション・マネジメントB	2					○	○	◎	○				
イノベーション・システムA	2					○	○	◎	○				
イノベーション・システムB	2					○	○	◎	○				
マーケティング・マネジメントA	2					○	○	○	◎				
マーケティング・マネジメントB	2					○	○	○	◎				
グローバル・マーケティング論A	2			○			○	○	◎				
グローバル・マーケティング論B	2			○			○	○	◎				
Strategic Marketing A	2			○	○			○	◎				
Strategic Marketing B	2			○	○			○	◎				
雇用関係論	2			◎			○	○	○				
労使関係論	2			◎			○	○	○				
企業内教育論	2			◎	○		○		○				
能力開発論	2			◎	○		○		○				
中小企業論	2			○			◎	○	○				
ベンチャービジネス論	2			○			◎	○	○				
スタートアップ企業論A	2			○			◎	○	○				
スタートアップ企業論B	2			○			◎	○	○				
経営学史A	2		○	○		◎	○						
経営学史B	2		○	○		◎	○						
国際経営論A	2			○			○	○	◎				
国際経営論B	2			○			○	○	◎				
International Management A	2			○	○		○		◎				
International Management B	2			○	○		○		◎				
経営組織論	2					○	○	○	◎				
組織行動論	2					○	○	○	◎				
財務管理論	2				○	○	◎	○					

授業科目	単位数	共通DP (1)	共通DP (2)	共通DP (3)	共通DP (4)	共通DP (5)	経営DP (6)	経営DP (7)	会計DP (6)	会計DP (7)	公共DP (6)	公共DP (7)
現代コーポレートファイナンス論	2			○	○	◎	○					
生産管理論A	2			○	○	◎	○					
生産管理論B	2			○	○	◎	○					
人事労務管理論A	2	○	○			○		◎				
人事労務管理論B	2	○	○			○		◎				
ナレッジ・マネジメント論	2	○	○			○		◎				
経営技術論	2			○	○	○	◎					
技術戦略論	2			○	○	○	◎					
Strategic Analysis of Japanese Companies A	2			○	○	○	◎					
Strategic Analysis of Japanese Companies B	2			○	○	○	◎					
経営情報論	2			○	○	○	◎					
リスクマネジメント論	2			○	○	○	◎					
経営文化論A	2		○		○	○		◎				
経営文化論B	2		○		○	○		◎				
国際経営史A	2		○			○	○	◎				
国際経営史B	2		○			○	○	◎				
日本経営論A	2		○			○	○	◎				
日本経営論B	2		○			○	○	◎				
日本経営史	2		○			○	○	◎				
日本企業者史	2	◎	○			○		○				
Comparative Business Management A	2		○	○		○		◎				
Comparative Business Management B	2		○	○		○		◎				
比較経営論（アメリカ）A	2		○			○	○	◎				
比較経営論（アメリカ）B	2		○			○	○	◎				
比較経営論（西欧）A	2		○			○	○	◎				
比較経営論（西欧）B	2		○			○	○	◎				
比較経営論（ロシア・東欧）A	2		○			○	○	◎				
比較経営論（ロシア・東欧）B	2		○			○	○	◎				
比較経営論（中国）A	2		○			○	○	◎				
比較経営論（中国）B	2		○			○	○	◎				
Transcultural Management A	2		○	○		○		◎				
Transcultural Management B	2		○	○		○		◎				
経営学外国書講読A	2				◎		○	○				
経営学外国書講読B	2				◎		○	○				
経営学特別講義A	2		○		○	◎		○				
経営学特別講義B	2		○		○	◎		○				
経営学特別講義C	2		○		○	◎		○				
経営学特別講義D	2		○		○	◎		○				
Special Lectures on Business Management A	2			○	○	◎		○				
Special Lectures on Business Management B	2			○	○	◎		○				
Special Lectures on Business Management C	2			○	○	◎		○				
Special Lectures on Business Management D	2			○	○	◎		○				
Information Ethics A (GSBA)	2	◎		○		○		○				
Information Ethics B (GSBA)	2	◎		○		○		○				
Information Science A (GSBA)	2	◎		○		○		○				
Information Science B (GSBA)	2	◎		○		○		○				
E Commerce A (GSBA)	2			◎	○		○	○				
E Commerce B (GSBA)	2			◎	○		○	○				
The Future of E Business A (GSBA)	2			◎	○		○	○				
The Future of E Business B (GSBA)	2			◎	○		○	○				
Organizational Behavior A (GSBA)	2		○	○		◎	○					
Organizational Behavior B (GSBA)	2		○	○		◎	○					
Strategic Management A (GSBA)	2			○	○	○	◎					
Strategic Management B (GSBA)	2			○	○	○	◎					
Transnational Management A (GSBA)	2		○	○		◎		○				
Transnational Management B (GSBA)	2		○	○		◎		○				
Human Resource Management A (GSBA)	2		○	○		○	◎					
Human Resource Management B (GSBA)	2		○	○		○	◎					
Family Business A (GSBA)	2		○	○	○	◎						
Family Business B (GSBA)	2		○	○	○	◎						
International Marketing A (GSBA)	2		○	○			○	◎				
International Marketing B (GSBA)	2		○	○			○	◎				
Service Marketing A (GSBA)	2		○	○		◎	○					
Service Marketing B (GSBA)	2		○	○		◎	○					
Corporate Finance A (GSBA)	2		○	○		◎	○					
Corporate Finance B (GSBA)	2		○	○		◎	○					
Investments A (GSBA)	2		○	○		◎	○					

授業科目	単位数	共通DP (1)	共通DP (2)	共通DP (3)	共通DP (4)	共通DP (5)	経営DP (6)	経営DP (7)	会計DP (6)	会計DP (7)	公共DP (6)	公共DP (7)
Investments B (GSBA)	2		○	○		◎	○					
Overseas Exchange Subjects (Business Administration Specialized Subjects)	1						◎	◎				

会計学科

基礎専門科目												
簿記論Ⅰ	2			◎	○				○	○		
簿記論Ⅱ	2			◎	○				○	○		
簿記技能	1			◎	○				○	○		
Business Presentation A	2	○		◎		○						
Business Presentation B	2	○		◎		○						
ビジネス英語A	2	○		◎		○						
ビジネス英語B	2	○		◎		○						
Business English A	2	○		◎		○						
Business English B	2	○		◎		○						
Fundamentals of Management A	2			○	◎							
Fundamentals of Management B	2			○	◎							
Fundamentals of Management C	2			○	◎							
Fundamentals of Management D	2			○	◎							
Transcultural Business Communication A	2		○	○		◎						
Transcultural Business Communication B	2		○	○		◎						
Strategic Business Communication A	2	○		◎		◎						
Strategic Business Communication B	2		○	◎		◎						
経済原論A	2	○	○									
経済原論B	2	○	○									
ビジネス・エコノミックスA	2	○	○									
ビジネス・エコノミックスB	2	○	○									
Japanese Economy	2	○	○									
経済史A	2		○			○						
経済史B	2		○			○						
日本経済史A	2		○			○						
日本経済史B	2		○			○						
経営史A	2		○			○						
経営史B	2		○			○						
経営統計学A	2			○	○	○						
経営統計学B	2			○	○	○						
経営基礎数学A	2				○	○						
経営基礎数学B	2				○	○						
社会調査法	2				○	○						
経営社会学	2	○	○									
経営心理学	2	○	○			◎						
産業生理学A	2	○	○			◎						
産業生理学B	2	○	○			◎						
経営と環境A	2	○				◎						
経営と環境B	2	○				◎						
経済地理学A	2		○			○						
経済地理学B	2		○			○						
マーケティング基礎論	2				○	○						
企業の社会的責任論	2	○			◎							
Corporate Social Responsibility	2	○		○	◎							
情報化社会論A	2		○			○						
情報化社会論B	2		○			○						
ネット・ビジネス論A	2			○	○	○						
ネット・ビジネス論B	2			○	○	○						
Internet Business A	2			○	○	○						
Internet Business B	2			○	○	○						
コンテンツ・ビジネス論A	2			○	○	○						
コンテンツ・ビジネス論B	2			○	○	○						
Contents Business A	2			○	○	○						
Contents Business B	2			○	○	○						
戦略経営情報システム論	2			○	○	○						
ビジネス法	2	◎	○			○			○			
会社法A	2	◎	○			○			○			
会社法B	2	◎	○			○			○			
手形法・小切手法	2	◎	○			○			○			
財産法	2	◎	○			○			○			
税法	2	◎	○			○			○			
労働法	2	○	◎			○						

授業科目	単位数	共通DP (1)	共通DP (2)	共通DP (3)	共通DP (4)	共通DP (5)	経営DP (6)	経営DP (7)	会計DP (6)	会計DP (7)	公共DP (6)	公共DP (7)
イギリス文化論	2	○	◎			○						
アメリカ文化論	2	○	◎			○						
American Culture	2	○	◎	◎		○						
ドイツ文化論	2	○	◎			○						
中国文化論	2	○	◎			○						
東南アジア文化論	2	○	◎			○						
東欧文化論	2	○	◎			○						
フランス文化論	2	○	◎			○						
海外経営事情A	2		○			○						
海外経営事情B	2		○			○						
海外経営事情C	2		○			○						
海外経営事情D	2		○			○						
経営文献研究A	2		○	○	◎							
経営文献研究B	2		○	○	◎							
基礎専門演習A	2				○	◎						
基礎専門演習B	2				○	◎						
基礎専門演習C	2				○	◎						
基礎専門演習D	2				○	◎						
Core Subjects Seminar A	2				○	◎						
Core Subjects Seminar B	2				○	◎						
Core Subjects Seminar C	2				○	◎						
Core Subjects Seminar D	2				○	◎						
基礎専門特別講義A	2				○	◎						
基礎専門特別講義B	2				○	◎						
基礎専門特別講義C	2				○	◎						
基礎専門特別講義D	2				○	◎						
Core Subjects Specialized Lectures A	2				○	◎						
Core Subjects Specialized Lectures B	2				○	◎						
Core Subjects Specialized Lectures C	2				○	◎						
Core Subjects Specialized Lectures D	2				○	◎						
Overseas Exchange Subjects (Accounting Core Subjects)	1								◎	◎		
学科専門科目												
財務会計総論A	2			○	○				◎	◎		
財務会計総論B	2			○	○				◎	◎		
管理会計総論A	2			○		◎			○	◎		
管理会計総論B	2			○		◎			○	◎		
中級簿記論	2			◎	○				◎	○		
上級簿記論	2			◎	○				◎	○		
財務諸表論A	2			○	◎				◎	○		
財務諸表論B	2			○	◎				◎	○		
現代会計基準論A	2			○	◎				○	◎		
現代会計基準論B	2			○		◎			○	◎		
監査論A	2			○		◎			○	◎		
監査論B	2			○		◎			○	◎		
国際財務報告論A	2		○	○					○	◎		
国際財務報告論B	2		○	○					○	◎		
英文会計	2		○	◎					◎	○		
Basic Accounting A	2			○	◎				◎	○		
Basic Accounting B	2			○	◎				◎	○		
Financial Accounting A	2			○	◎				◎	○		
Financial Accounting B	2			○	◎				◎	○		
原価計算論Ⅰ	2			◎	○				○	◎		
原価計算論Ⅱ	2			◎	○				○	◎		
原価管理論A	2			○		◎			○	◎		
原価管理論B	2			○		◎			○	◎		
マネジメント・コントロールA	2			◎	○				○	◎		
マネジメント・コントロールB	2			○	○				○	◎		
Management Accounting A	2			○	○				○	◎		
Management Accounting B	2			○	○				○	◎		
経営分析論A	2			○	○				◎	○		
経営分析論B	2			○	○				◎	○		
会計情報システム論A	2			◎	○				◎	○		
会計情報システム論B	2			◎	○				◎	○		
環境会計論A	2			○		◎			◎	○		
環境会計論B	2			○		◎			◎	○		
税務会計論A	2			○		◎			◎	○		
税務会計論B	2			○		◎			◎	○		

授業科目	単位数	共通DP (1)	共通DP (2)	共通DP (3)	共通DP (4)	共通DP (5)	経営DP (6)	経営DP (7)	会計DP (6)	会計DP (7)	公共DP (6)	公共DP (7)
公会計論	2			○	○				◎	○		
NPO会計論	2			○		◎			◎	○		
会計史A	2		◎	○					○	○		
会計史B	2		◎	○					○	○		
法人税法A	2	◎		○					○	○		
法人税法B	2	◎		○					○	○		
会計学外国書講読A	2				○	◎			◎	○		
会計学外国書講読B	2				○	◎			◎	○		
会計プロセミナーA	2				◎	◎			○	○		
会計プロセミナーB	2			○	○				○	◎		
会計プロセミナーC	2			○		◎			◎	○		
会計プロセミナーD	2			○	○				◎	○		
会計学特別講義A	2				◎	◎			○	○		
会計学特別講義B	2			○	○				○	◎		
会計学特別講義C	2			○	○				◎	○		
会計学特別講義D	2			○	◎				◎	○		
経営戦略論A	2				○	○						
経営戦略論B	2				○	○						
国際経営論A	2		○			○						
国際経営論B	2		○			○						
International Management A	2		○	○		○						
International Management B	2		○	○		○						
財務管理論	2			○	○	◎						
現代コーポレートファイナンス論	2			○	○	◎						
Strategic Analysis of Japanese Companies A	2			○	○	○						
Strategic Analysis of Japanese Companies B	2			○	○	○						
比較経営論（アメリカ）A	2		○			○						
比較経営論（アメリカ）B	2		○			○						
Corporate Finance A（GSBA）	2		○	○		◎						
Corporate Finance B（GSBA）	2		○	○		◎						
Investments A（GSBA）	2		○	○		◎						
Investments B（GSBA）	2		○	○		◎						
Advanced Financial Accounting A（GSBA）	2			○	◎				◎	○		
Advanced Financial Accounting B（GSBA）	2			○	◎				◎	○		
Financial Statement Analysis A（GSBA）	2			○	◎				○	◎		
Financial Statement Analysis B（GSBA）	2			○	◎				○	◎		
Overseas Exchange Subjects（Accounting Specialized Subjects）	1		○	◎					○	○		

公共経営学科

基礎専門科目												
簿記論Ⅰ	2			◎	○							
簿記論Ⅱ	2			◎	○							
簿記技能	1			◎	○							
Business Presentation A	2	○		◎		○						
Business Presentation B	2	○		◎		○						
ビジネス英語A	2	○		◎		○						
ビジネス英語B	2	○		◎		○						
Business English A	2	○		◎		○						
Business English B	2	○		◎		○						
Fundamentals of Management A	2			○	◎							
Fundamentals of Management B	2			○	◎							
Fundamentals of Management C	2			○	◎							
Fundamentals of Management D	2			○	◎							
Transcultural Business Communication A	2		○	○		◎						
Transcultural Business Communication B	2		○	○		◎						
Strategic Business Communication A	2	○		◎		◎						
Strategic Business Communication B	2		○	◎		◎						
経済原論A	2	○	○									
経済原論B	2	○	○									
ビジネス・エコノミックスA	2	○	○									
ビジネス・エコノミックスB	2	○	○									
Japanese Economy	2	○	○									
経済史A	2		○			○						
経済史B	2		○			○						
日本経済史A	2		○			○						
日本経済史B	2		○			○						
経営史A	2		○			○						

授業科目	単位数	共通DP (1)	共通DP (2)	共通DP (3)	共通DP (4)	共通DP (5)	経営DP (6)	経営DP (7)	会計DP (6)	会計DP (7)	公共DP (6)	公共DP (7)
経営史B	2		○			○						
経営統計学A	2			○	○	○						
経営統計学B	2			○	○	○						
経営基礎数学A	2				○	○						
経営基礎数学B	2				○	○						
社会調査法	2				○	○						
経営社会学	2	○	○									
経営心理学	2	○	○			◎						
産業生理学A	2	○	○			◎						
産業生理学B	2	○	○			◎						
経営と環境A	2	○				◎						
経営と環境B	2	○				◎						
経済地理学A	2		○			○						
経済地理学B	2		○			○						
マーケティング基礎論	2				○	○						
企業の社会的責任論	2	○			◎							
Corporate Social Responsibility	2	○		○	◎							
情報化社会論A	2		○			○						
情報化社会論B	2		○			○						
ネット・ビジネス論A	2			○	○	○						
ネット・ビジネス論B	2			○	○	○						
Internet Business A	2			○	○	○						
Internet Business B	2			○	○	○						
コンテンツ・ビジネス論A	2			○	○	○						
コンテンツ・ビジネス論B	2			○	○	○						
Contents Business A	2			○	○	○						
Contents Business B	2			○	○	○						
戦略経営情報システム論	2			○	○	○						
ビジネス法	2	◎	○			○						
会社法A	2	◎	○			○						
会社法B	2	◎	○			○						
手形法・小切手法	2	◎	○			○						
財産法	2	◎	○			○						
税法	2	◎	○			○						
労働法	2	○	◎			○						
イギリス文化論	2	○	◎			○						
アメリカ文化論	2	○	◎			○						
American Culture	2	○	◎	◎		○						
ドイツ文化論	2	○	◎			○						
中国文化論	2	○	◎			○						
東南アジア文化論	2	○	◎			○						
東欧文化論	2	○	◎			○						
フランス文化論	2	○	◎			○						
海外経営事情A	2		○			○						
海外経営事情B	2		○			○						
海外経営事情C	2		○			○						
海外経営事情D	2		○			○						
経営文献研究A	2		○	○	◎							
経営文献研究B	2		○	○	◎							
基礎専門演習A	2				○	◎						
基礎専門演習B	2				○	◎						
基礎専門演習C	2				○	◎						
基礎専門演習D	2				○	◎						
Core Subjects Seminar A	2				○	◎						
Core Subjects Seminar B	2				○	◎						
Core Subjects Seminar C	2				○	◎						
Core Subjects Seminar D	2				○	◎						
基礎専門特別講義A	2				○	◎						
基礎専門特別講義B	2				○	◎						
基礎専門特別講義C	2				○	◎						
基礎専門特別講義D	2				○	◎						
Core Subjects Specialized Lectures A	2				○	◎						
Core Subjects Specialized Lectures B	2				○	◎						
Core Subjects Specialized Lectures C	2				○	◎						
Core Subjects Specialized Lectures D	2				○	◎						
Overseas Exchange Subjects (Public Management Core Subjects)	1											
学科専門科目												

授業科目	単位数	共通DP (1)	共通DP (2)	共通DP (3)	共通DP (4)	共通DP (5)	経営DP (6)	経営DP (7)	会計DP (6)	会計DP (7)	公共DP (6)	公共DP (7)
行政経営論	2										○	◎
行政経営戦略論	2										○	◎
Introduction to Public Management	2			○		○					◎	○
Social Impact Investment	2										◎	○
Business for Social Impact	2										◎	○
公共思想論	2	○	○								◎	○
公共歴史論	2		○								◎	○
公共表現行為論	2		○								◎	○
生活文化論	2		○								◎	○
地域公共論	2		○								◎	○
情報公共論	2		○								◎	○
現代健康論	2		○								◎	○
住まいと仕事の地理学	2		○								◎	○
公共セクター経済論	2										◎	○
公共マーケティング論	2										○	◎
社会会計論	2										◎	○
非営利組織論	2										◎	○
社会的企業論	2										◎	○
中小企業論	2		○			◎					◎	
ベンチャービジネス論	2		○			◎					◎	
NPO経営戦略論	2										○	◎
ソーシャル・ファイナンス論	2										○	◎
サステナブル投資論	2										○	◎
NPO会計論	2			○							○	◎
協同組合学	4										◎	○
公益事業論	2										◎	○
公共ガバナンス論A	2										◎	○
公共ガバナンス論B	2										◎	○
行政評価論	2										○	◎
自治体財政分析論	2										○	◎
地方財政論	4										○	◎
地域活性化論（講義）A	2				○	○					○	◎
地域活性化論（講義）B	2				○	○					○	◎
地域活性化論（実習）A	2				○	○					○	◎
地域活性化論（実習）B	2				○	○					○	◎
公共交通と地域社会	2										○	◎
観光事業論A	2										○	◎
観光事業論B	2										○	◎
ツーリズム・マネジメントA	2										○	◎
ツーリズム・マネジメントB	2										○	◎
Tourism Management A	2			○							○	◎
Tourism Management B	2			○							○	◎
公会計論	2			○							○	◎
国際開発論	2										○	◎
International Development	2			○							○	◎
国際協力NGO論	2										○	◎
ライフスタイル・マネジメント論	2										○	◎
福祉マネジメント論	2										○	◎
医療マネジメント論	2										○	◎
自治体マネジメント論	2										○	◎
スポーツ・マネジメント論	2										○	◎
スポーツマーケティング論	2										○	◎
アウトドア組織マネジメント論	2										○	◎
公共経営学外国書講読A	2			○	◎						○	○
公共経営学外国書講読B	2			○	◎						○	○
公共経営学特別講義A	2					○					◎	○
公共経営学特別講義B	2					○					◎	○
公共経営学特別講義C	2					○					◎	○
公共経営学特別講義D	2					○					◎	○
Overseas Exchange Subjects (Public Management Specialized Subjects)	1										◎	◎

授業科目名索引

「あ」		英語（初級）B（統一）	
アウトドア組織マネジメント論	372	【GREAT : English for Business Studies (EBS) IB】	98
Advanced Financial Accounting A〔M〕	346	英語（初級）A（統一）	
Advanced Financial Accounting B〔M〕	346	【GREAT:Academic Reading and Writing A】	99
「い」		英語（初級）B（統一）	
E Commerce A〔M〕	311	【GREAT:Academic Reading and Writing B】	99
E Commerce B〔M〕	311	英語スペシャルスタディ A〔M〕	163
イギリス文化論	251	英語スペシャルスタディ B〔M〕	163
イノベーション・マネジメント A	273	英語（中級）A	100～119
イノベーション・マネジメント B	273	英語（中級）B	100～119
医療マネジメント論	370	英語（中級）A（統一）	
English Exams A	161	【GREAT : English for Business Studies (EBS) II A】	120
English Exams B	161	英語（中級）B（統一）	
Innovation Strategy in Japan A	272	【GREAT : English for Business Studies (EBS) II B】	120
Innovation Strategy in Japan B	272	英語（中級）A（統一）【GREAT : Academic Writing II A】	121
International Development	368	英語（中級）B（統一）【GREAT : Academic Writing II B】	121
International Business Program（語学研修）A	177	英語表現論	164
International Business Program（語学研修）B	178	NPO会計論	338
International Business Program（実習）A	177	NPO経営戦略論	358
International Business Program（実習）B	178	「お」	
International Marketing A〔M〕	317	Organizational Behavior A〔M〕	313
International Marketing B〔M〕	317	Organizational Behavior B〔M〕	313
International Management A	281	「か」	
International Management B	281	海外経営事情 A	252
Internet Business A	245	海外経営事情 B	252
Internet Business B	245	海外経営事情 C	253
Introduction to Public Management	351	海外経営事情 D	253
Information Ethics A〔M〕	309	会计学（統一）	23
Information Ethics B〔M〕	309	会计学外国書講読 A	341～343
Information Science A〔M〕	310	会计学外国書講読 B	341～343
Information Science B〔M〕	310	会计学特別講義 A	345
「え」		会计学特別講義 D	345
英語コミュニケーション初級 A	165	会計史 A	339
英語コミュニケーション初級 B	165	会計史 B	339
英語コミュニケーション中級 A	166	会計情報システム論 A	335
英語コミュニケーション中級 B	166	会計情報システム論 B	335
英語コミュニケーション上級 A	167	会計プロセミナー A	344
英語コミュニケーション上級 B	167	会計プロセミナー C〔M〕	344
英語（初級）A	94～97	外国文学（英米）〔M〕	54
英語（初級）B	94～97	外国文学（ドイツ）	54
英語（初級）A（統一）	92～93	外国文学（フランス）	55
英語（初級）B（統一）	92～93	会社法 A	248
英語（初級）A（統一）		会社法 B	248
【GREAT : English for Business Studies (EBS) IA】	98	化学 A	38

化学B	38	グローバル・マーケティング論A	275
学外選択体育実技A	182	グローバル・マーケティング論B	275
環境会計論A	336		
環境会計論B	336	「け」	
観光事業論A	365	経営学（統一）	23
観光事業論B	365	経営学外国書講読A	296～305
韓国語（初級）Ⅰ	154～155	経営学外国書講読B	296～305
韓国語（初級）Ⅱ	154～155	経営学史A	280
韓国語（中級）A【会話】	156	経営学史B	280
韓国語（中級）B【会話】	156	経営学特別講義A	306
韓国語（中級）A【文法】	157	経営学特別講義B	306
韓国語（中級）B【文法】	157	経営学特別講義D	307
監査論A	327	経営管理論A	268～269
監査論B	327	経営管理論B	268～269
管理会計総論A〔M〕	322	経営技術論	286
管理会計総論B〔M〕	323	経営基礎数学A	234
管理会計総論A〔M〕【CAPクラス】	322	経営基礎数学B	234
管理会計総論B〔M〕【CAPクラス】	323	経営史A	232
		経営史B	232
「き」		経営社会学〔M〕	236
企業内教育論	278	経営心理学〔M〕	237
企業の社会的責任論	241	経営戦略論A【経営学科・会計学科共同設置】	271
企業論A	266～267	経営戦略論B【経営学科・会計学科共同設置】	271
企業論B	266～267	経営総合講義A	87～88
技術戦略論	286	経営総合講義B	89
基礎専門演習A	256～259	経営総論（統一）	22
基礎専門演習B	258～259	経営総論〔M〕	22
基礎専門特別講義A	261	経営組織論	282
基礎専門特別講義B〔M〕	261	経営哲学A	270
基礎専門特別講義C	262	経営哲学B	270
基礎専門特別講義D〔M〕	262	経営統計学A	233
行政経営戦略論	350	経営統計学B	233
行政経営論	350	経営と環境A	239
協同組合学	359	経営と環境B	239
教養演習A	73～78	経営文化論A	287
教養演習B	79～81	経営文化論B	287
近代経済学A（統一）	25	経営文献研究A	254
近代経済学B（統一）	25	経営文献研究B	255
近代経済学A〔M〕	26	経済原論A	227
近代経済学B〔M〕	26	経済原論B	227
		経済史A	230
「く」		経済史B	230
Global Issues A	67	経済地理学A	240
Global Issues B	67	経済地理学B	240
Global Issues A【GREAT】	68～70	原価管理論A	333
Global Issues B【GREAT】	68～70	原価管理論B	333
Global Issues C	71	原価計算論Ⅰ	331
Global Issues D	71	原価計算論Ⅱ	331
グローバル・サービスマーケティングA	184	原価計算論Ⅰ〔M〕【CAPクラス】	332
グローバル・サービスマーケティングB	184	原価計算論Ⅱ〔M〕【CAPクラス】	332

健康科学 A	42	財務諸表論 A	325
健康科学 B	42	財務諸表論 B	325
言語思想 A	28	The Future of E Business A [M]	312
言語思想 B	28	The Future of E Business B [M]	312
言語表現論	49～52	産業生理学 A	238
現代会計基準論 A	326	産業生理学 B	238
現代会計基準論 B	326		
現代健康論	354	「し」	
現代コーポレートファイナンス論【経営学科・会計学科共同設置】	283	自然科学思想史 A	39
		自然科学思想史 B	39
現代社会とスポーツ	43	自治体マネジメント論	371
		社会会計論	356
「こ」		社会学 A	65
Core Subjects Special Lectures B	263	社会学 B	65
Core Subjects Seminar C	260	社会学 A [M]	66
Core Subjects Seminar D	260	社会学 B [M]	66
公益事業論	359	社会調査法	235
公会計論【会計学科・公共経営学科共同設置】	338	社会的企業論	357
公共ガバナンス論 A	360	Japanese Economy	229
公共ガバナンス論 B	360	Genres of Writing	162
公共経営学（統一）	24	宗教思想	31
公共経営学外国書講読 A	373～375	手話コミュニケーション（初級）Ⅰ	53
公共経営学外国書講読 B	373～375	手話コミュニケーション（初級）Ⅱ	53
公共経営学特別講義 D	376	上級簿記論	324
公共交通と地域社会	364	情報化社会論 A	244
公共思想論	352	情報化社会論 B	244
公共セクター経済論	355	職業指導	390
公共表現行為論	353	人事労務管理論 A	284
公共マーケティング論	356	人事労務管理論 B	284
公共歴史論	352	人文地理学概論・自然地理学概論	383
Corporate Social Responsibility	243	心理学 [M]	72
国際開発論	368		
国際協力 N G O 論	369	「す」	
国際経営史 A	288	数学 A	33～34
国際経営史 B	288	数学 B	33～34
国際財務報告論 A	328	Strategic Business Communication A	224～226
国際財務報告論 B	328	Strategic Business Communication B	224～226
雇用関係論	277	Strategic Marketing A	276
Contents Business A	246	Strategic Marketing B	276
Contents Business B	246	Strategic Management A [M]	314
		Strategic Management B [M]	314
「さ」		Speech and Debate	162
Service Marketing A [M]	318	Special Lectures on Business Management C	308
Service Marketing B [M]	318	Special Lectures on Business Management D	308
財産法	249	スポーツマーケティング論	372
財務会計総論 A	320	スポーツ・マネジメント論	371
財務会計総論 B	321	スポーツ・レジャー・レクリエーション論	43
財務会計総論 A [M]	320	住まいと仕事の地理学	355
財務会計総論 B [M]	321		
財務管理論【経営学科・会計学科共同設置】	283		

「せ」		
生活文化論	353	
政治学 A	64	
政治学 B	64	
生物学 A	36	
生物学 B	36	
税法	250	
税務会計論 A	337	
税務会計論 B	337	
西洋史（各論）	61	
西洋史（総論）	61	
西洋史概論	381～382	
生理学 A	41	
生理学 B	41	
選択体育実技 A 【バスケットボール】	181	
選択体育実技 B 【バスケットボール】	181	
「そ」		
Social Thought	29	
ソーシャル・ファイナンス論	358	
組織行動論	282	
「た」		
体育実技 A（統一）	180	
体育実技 B（統一）	180	
「ち」		
地域活性化論（講義） A	362	
地域活性化論（講義） B	363	
地域活性化論（実習） A	362	
地域活性化論（実習） B	363	
地域公共論	354	
地方財政論	361	
中級簿記論	324	
中国語コミュニケーション初級 A	174	
中国語コミュニケーション初級 B	174	
中国語コミュニケーション中級 A	175	
中国語コミュニケーション中級 B	175	
中国語コミュニケーション上級 A	176	
中国語コミュニケーション上級 B	176	
中国語（初級） I a（統一）【文法・読解】	138	
中国語（初級） II a（統一）【文法・読解】	138	
中国語（初級） I b（統一）【聴取・表現】	139	
中国語（初級） II b（統一）【聴取・表現】	139	
中国語（中級） A 指定（統一）【指定クラス】	140	
中国語（中級） A 【選択クラス】	141～149	
中国語（中級） B 指定（統一）【指定クラス】	140	
中国語（中級） B 【選択クラス】	141～149	
中国文化論	251	
中小企業論【経営学科・公共経営学科共同設置】	279	
地理学 A	63	
地理学 B	63	
地誌学概論	382	
「つ」		
ツーリズム・マネジメント A	366	
ツーリズム・マネジメント B	366	
Tourism Management A	367	
Tourism Management B	367	
「て」		
手形法・小切手法	249	
DIGIT 入門演習 I	194	
DIGIT 入門演習 II	194～195	
DIGIT 実践演習	196	
哲学	32	
哲学概論	386	
哲学基礎論	31	
「と」		
ドイツ語コミュニケーション初級 A	168	
ドイツ語コミュニケーション初級 B	168	
ドイツ語コミュニケーション中級 A	169	
ドイツ語コミュニケーション中級 B	169	
ドイツ語コミュニケーション上級 A	170	
ドイツ語コミュニケーション上級 B	170	
ドイツ語（初級） I a（統一）	122	
ドイツ語（初級） II a（統一）	122	
ドイツ語（初級） I b（統一）	123	
ドイツ語（初級） II b（統一）	123	
ドイツ語（中級） A 指定（統一）【指定クラス】	124	
ドイツ語（中級） A 【選択クラス】	125～129	
ドイツ語（中級） B 指定（統一）【指定クラス】	124	
ドイツ語（中級） B 【選択クラス】	125～129	
統計学 A	35	
統計学 B	35	
東洋史概論	380	
TOEFL Speaking	159	
TOEFL Preparation A	160	
TOEFL Preparation B	160	
TOEFL Writing	159	
TOEFL Reading	158	
TOEFL Listening	158	
Transcultural Business Communication A	223	
Transcultural Management A	295	
Transcultural Management B	295	
Transnational Management A	315	
Transnational Management B	315	
トレーニングの科学	44	

「な」	
ナレッジ・マネジメント論〔M〕	285
「に」	
日本企業者史	290
日本経営史	290
日本経営論 A	289
日本経営論 B	289
日本経済史 A	231
日本経済史 B	231
日本国憲法	388～389
日本語論 A	56
日本語論 B	56
日本史概論	378～379
日本事情	85～86
日本文学 A	57～58
日本文学 B	59～60
日本文学（現代）	60
「の」	
能力開発論	278
「ひ」	
比較経営論（アメリカ） A	291
比較経営論（アメリカ） B	291
比較経営論（西欧） A	292
比較経営論（西欧） B	292
比較経営論（中国） A	294
比較経営論（中国） B	294
比較経営論（ロシア・東欧） A	293
比較経営論（ロシア・東欧） B	293
Business English A	214～220
Business English B	214～220
ビジネス・エコノミックス A〔M〕	228
ビジネス・エコノミックス B〔M〕	228
Business Presentation A・B	210
Business Presentation A	211～213
Business Presentation B	211～213
ビジネス法	247
Human Resource Management B〔M〕	316
「ふ」	
Family Business A〔M〕	316
Financial Accounting A	330
Financial Accounting B	330
Financial Statement Analysis A〔M〕	347
Financial Statement Analysis B〔M〕	347
Fundamentals of Management A	221
Fundamentals of Management B	221
Fundamentals of Management C	222

Fundamentals of Management D	222
フィールドスタディ A／B【全体概要】	186
フィールドスタディ A	186
フィールドスタディ B	187～188
フィールドスタディ C／D【全体概要】	189
フィールドスタディ C	189～191
フィールドスタディ D	192～193
福祉マネジメント論	370
物理学 A	37
物理学 B	37
フランス語コミュニケーション初級 A	171
フランス語コミュニケーション初級 B	171
フランス語コミュニケーション中級 A	172
フランス語コミュニケーション中級 B	172
フランス語コミュニケーション上級 A	173
フランス語コミュニケーション上級 B	173
フランス語（初級） I a（統一）【コミュニケーション】	130
フランス語（初級） II a（統一）【コミュニケーション】	130
フランス語（初級） I b（統一）【文法】	131
フランス語（初級） II b（統一）【文法】	131
フランス語（中級） A 指定（統一）【習熟度別指定クラス】	132
フランス語（中級） B 指定（統一）【習熟度別指定クラス】	132
フランス語（中級） A【選択クラス】	133～137
フランス語（中級） B【選択クラス】	133～137
文化人類学	40
「へ」	
Basic Accounting A	329
Basic Accounting B	329
ベンチャービジネス論【経営学科・公共経営学科共同設置】	279
「ほ」	
法学 A	62
法学 B	62
法人税法 A	340
法人税法 B	340
法律学概論	384～385
簿記論 I（統一）	204
簿記論 II（統一）	204
簿記論 I〔M〕【CAP限定上級クラス】	207
簿記論 II〔M〕【CAP限定上級クラス】	207
簿記論 I〔M〕【CAP限定初級クラス】	206
簿記論 II〔M〕【CAP限定初級クラス】	206
簿記論 I〔M〕【特設】	208
簿記論 II〔M〕【特設】	208
簿記論 I〔M〕【メディア授業科目クラス】	205
簿記論 II〔M〕【メディア授業科目クラス】	205
簿記論 I【特設】	209
簿記論 II【特設】	209

「ま」	
マーケティング基礎論	242
マーケティング・マネジメント A	274
マーケティング・マネジメント B	274
Management Accounting A〔M〕	334
Management Accounting B〔M〕	334

「ら」	
ライフスタイル・マネジメント論	369

「り」	
リサーチ・リテラシー A〔M〕	185
Liberal Arts Seminar in Foreign Languages A 統一	82
Liberal Arts Seminar in Foreign Languages B 統一	82
Liberal Arts Seminar in Foreign Languages C	83～84
Liberal Arts Seminar in Foreign Languages D	83～84
倫理学概論	387
倫理思想 A	30
倫理思想 B	30

「れ」	
レポート・論文作成法	45～48

「ろ」	
労使関係論	277
労働法	250
ロシア語（初級） I	150～151
ロシア語（初級） II	150～151
ロシア語（中級） A	152～153
ロシア語（中級） B	152～153